

スタートアップセミナー

Start Up Seminar for Collegiate Learning

学期 前期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **対象** 人文学部文化学科1年次生 **年次** 学部(学士課程): 1年次
選/必 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** PBL
担当教員 ○村上直樹、永谷健、吉田悦子、湯浅陽子、福田和展、森正人、田中綾乃、吉野由起
(全員人文学部)

授業の概要 クラスのテーマに沿った課題について調べ、問題を発見し、考え、答を形あるものにする。クラスごとに研究発表を行う。

学習の目的 文化学科における学問研究の基礎を学ぶ。

学習の到達目標 自主的学習態度を身につける。論理的思考方法、調査の仕方、説得力のあるまとめ方等を修得する。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 問題発見、分析能力、説明能力

Key Word(s) problem finding, analysis ability, explanation capability

学習内容

第1回: 全体授業

オリエンテーション、理事・副学長講話、クラス希望調査

第2回～第13回: 各クラスでの授業

*各クラスのテーマについての詳しい説明
(各クラスのテーマは、第1回目の全体授業で提示する)

*受講生による各クラスのテーマに関する研究発表

受講要件 第1回目の全体授業に必ず出席し、クラス希望届を提出すること。第2回からは、指定されたクラスで受講すること。

教科書

『三重大学「4つの力」スタートアップセミナー』(三重大学高等教育創造開発センター) ムイスリ出版

及び、各クラスで指定される文献

参考書 各クラスで指示

成績評価方法と基準 開講時に説明する。

オフィスアワー 各クラスの担当教員が指示する。

授業改善への工夫 授業全体の終わりに、アンケートをとり、その内容を次年度のセミナーに活かす。

*研究発表の準備

小グループの編成、発表日程の作成

図書館の使い方を学ぶ(図書館ツアー)

文献の読み方、情報の吟味の仕方を学ぶ

調査等の仕方を学ぶ

発表の仕方、レジュメの作成の仕方を学ぶ

討議の仕方を学ぶ

*研究発表をまとめる

レポートの書き方、論文の書き方を学ぶ

*合宿(合宿は各クラスごとに行う)

合同発表会の準備等を行う

第14～15回: 合同発表会

学習課題(予習・復習) 各クラスで指示する。

スタートアップセミナー

ASUS

学期 前期 開講時間 月 1, 2; 火 1, 2; 水 1, 2; 木 1, 2; 金 1, 2 単位 2 対象 人文学部法律経済学科1年生
年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の特徴 PBL
担当教員 人文学部法律経済学科教員

授業の概要 大学における研究・調査方法の習得

討論への参加を含む)
☑レポートの作成

学習の目的

大学における学習に対する姿勢については、高校までとは異なった主体的な学習態度が望まれ、単に教えられたことを正確に理解するだけでなく、自ら課題を発見し、調査・分析を行い、その結果を発表する能力を習得することが要請される。

スタートアップセミナーでは、学生が、これから大学で研究、調査を行うに当たって必要となるこれらの基本的能力を習得し、引き続いて開講される共通教育科目や専門科目等において、これらの能力を十分に発揮しながら主体的に学習していけるようにすることを目的とする。

学習の到達目標

1. 図書館の利用方法、情報機器の使用方法、情報倫理の基本的知識を習得すること
2. 学生が自ら選択した具体的問題について、以下の一連の作業を行えるようになること
 - ① 課題の発見・設定
 - ② 資料の収集
 - ③ レジューメ（報告原稿）の作成
 - ④ 発表
 - ⑤ 討論（他の学生が選択した問題についての

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

参考書 担当教員の指示に従うこと

成績評価方法と基準 レポートと平常点で行う。

オフィスアワー 担当教員が指定する。

その他

4月のガイダンスの際に、クラス指定が発表される。

2009年度以前入学生及び2011年度編入学生に対しては、専門教育のオリエンテーションセミナーとして開講される。2010年度から2014年度入学生に対して、および2012年度から2015年度編入学生に対しては専門科目の法律経済学科オリエンテーションセミナーとして開講される。

授業計画・学習の内容

キーワード 社会科学の基礎

第3回 情報リテラシー（情報機器の使用方法）
第4回 情報倫理

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 図書館ガイダンス

第5回以降 学生からの課題発表と討論

（注）教室の都合により、第2回と第3回の授業内容が入れ替わるクラスがあります。

スタートアップセミナー

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **単位** 2 **対象** 教育学部、医学部、工学部、生物資源学部を対象とする クラスは指定なので履修案内を参照すること 編入生のうち希望者は受講可能である なお、英語特別プログラム参加希望学生も第1回の授業は指定クラスで受講すること **年次** 学部(学士課程): 1年次

選択 必修 **授業の方法** 講義、演習 **授業の特徴** PBL、能動的要素を加えた授業、グループ学習の要素を加えた授業、Moodle

担当教員 長濱文与、下村智子、守山紗弥加（教養教育機構）

授業の概要 グループでプロジェクト活動を実践する中で、三重大の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法などを体験的に学習し、大学生生活へのスムーズな移行をはかる

学習の目的

- ・ 主体的学習者としての自己認識、さまざまなコミュニティの構成員としての自己認識をもつ
- ・ 感じる力、考える力、コミュニケーション力、それらの統合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解し、実践する
- ・ グループ活動を通して4つの力の素養を習得する

学習の到達目標

- ・ 大学の教育目標（4つの力）の理解と、自発的な学習目標の設定
- ・ 学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得
- ・ グループによるプロジェクトの遂行と達成

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的

授業計画・学習の内容

キーワード 「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s) Four Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

- 第1回：導入、大学での学び
- 第2回：グループ活動の基本
- 第3回：アイデアの発想
- 第4回：情報の種類と特徴
- 第5回：具体的問いの設定

思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 教養ワークショップ

教科書 授業内で配布する

参考書 適宜、紹介する

成績評価方法と基準

個人の活動40%（各ワークシート、中間・最終の提出物等）、グループの活動60%（プロジェクトの評価、各ワークシート、グループ活動への取り組み姿勢等）
減点対象：遅刻・欠席、取り組み姿勢、課題の提出遅れ、など

オフィスアワー 各教員により異なるので、第1回授業で伝達する

授業改善への工夫 PBL形式、Moodleを活用し、授業を進めていく

- 第6回：具体的問いの吟味と情報収集
- 第7回：プロジェクトのピアレビュー
- 第8回：計画の立て方
- 第9回：情報の収集と整理
- 第10回：情報の吟味
- 第11回：アウトラインの構成
- 第12回：発表の方法
- 第13回：プロジェクトの発表と評価①
- 第14回：プロジェクトの発表と評価②
- 第15回：プロジェクト・授業全体のふり返り
全回で講義、グループでの話し合いを実施する。

学習課題（予習・復習） 毎回、次回授業に向けての課題を設定する

スタートアップセミナー

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. All students are required to attend the Japanese language startup seminar during the first week of classes (this class is only open starting the 2nd week, after the results from the TOEIC test). この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。一回目の授業は日本語でのスタートアップセミナーを受けること。この授業は二回目から開講され受講可能となる。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle **担当教員** ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

In this class, you will learn the "4 key abilities" of Mie University's educational goals through conducting group projects and achieve proper study methods through practice, as well as transition to life as a college student.

グループでプロジェクト活動を実践する中で、三重大学の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法を体験的に学習し、大学生活へのスムーズな移行を図る。

学習の目的

- ・ To understand your identity and sense of self as an individual, and also as a member of a larger community.
- ・ Practice and understand the meaning and significance of living ability through integration ability, which consists of feeling ability, thinking ability, and communication ability.
- ・ Achieve these 4 key abilities through conducting group work.
- ・ 主体的学習者としての自己認識、様々なコミュニティの構成員としての自己認識。
- ・ 感じる力、考える力、コミュニケーション力、これらの総合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解し実践する。
- ・ グループ活動を通して4つの力の素養を習得する。

学習の到達目標

- ・ Grasp the educational goals of the university (the 4 key abilities), and thereby establish your own educational goals.
- ・ Realize these educational goals by acquiring necessary study skills and methods.
- ・ Achieve these goals through the execution of group projects as part of a team.
- ・ 大学の教育目的（4つの力）の理解と、自発

的な学習目標の設定。

- ・ 学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得。
- ・ グループによるプロジェクトの遂行と達成。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.
無し。

予め履修が望ましい科目

None.
無し。

発展科目

Education Workshop (English Program)
教養ワークショップ「特別英語プログラム」

教科書

To be distributed in class.
授業内で配布する。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

Individual work: 40% (worksheets, midterm and final reports, etc.)
Group work: 60% (project evaluation, worksheets, active participation and involvement in

group activities, etc.)

個人の活動40%（各ワークシート、中間・最終の提出物等）、グループの活動60%（プロジェクトの評価、各ワークシート、グループ活動への取り組み姿勢等）。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ること。

授業改善への工夫

The class will involve the utilization of Moodle and PBL.

PBL形式、Moodleを活用し、授業を進めていく。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード

「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s)

4 Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

(Note: This course begins from session 2. You are REQUIRED to attend Session 1 of the Japanese Startup Seminar)

Session 2: Basics of group work

Session 3: Expressing your ideas

Session 4: Kinds and characteristics of information

Session 5: Formulating concrete hypotheses

Session 6: Researching and evaluating concrete hypotheses

Session 7: Peer review for projects

Session 8: Planning and scheduling

Session 9: Gathering and organizing evidence

Session 10: Evaluating evidence

Session 11: Constructing outlines

Session 12: Giving a presentation

Session 13: Final Project Presentations 1

Session 14: Final Project Presentations 2

Session 15: Class summary and review

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する

スタートアップセミナー

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **開講時間** 火7, 8 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. All students are required to attend the Japanese language startup seminar during the first week of classes (this class is only open starting the 2nd week, after the results from the TOEIC test). この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。一回目の授業は日本語でのスタートアップセミナーを受けること。この授業は二回目から開講され受講可能となる。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle **担当教員** ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

In this class, you will learn the "4 key abilities" of Mie University's educational goals through conducting group projects and achieve proper study methods through practice, as well as transition to life as a college student. グループでプロジェクト活動を実践する中で、三重大学の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法を体験的に学習し、大学生活へのスムーズな移行を図る。

学習の目的

- ・ To understand your identity and sense of self as an individual, and also as a member of a larger community.
- ・ Practice and understand the meaning and significance of living ability through integration ability, which consists of feeling ability, thinking ability, and communication ability.
- ・ Achieve these 4 key abilities through conducting group work.
- ・ 主体的学習者としての自己認識、様々なコミュニティの構成員としての自己認識。
- ・ 感じる力、考える力、コミュニケーション力、これらの総合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解し実践する。
- ・ グループ活動を通して4つの力の素養を習得する。

学習の到達目標

- ・ Grasp the educational goals of the university (the 4 key abilities), and thereby establish your own educational goals.
- ・ Realize these educational goals by acquiring necessary study skills and methods.
- ・ Achieve these goals through the execution of group projects as part of a team.
- ・ 大学の教育目的（4つの力）の理解と、自発

的な学習目標の設定。

- ・ 学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得。
- ・ グループによるプロジェクトの遂行と達成。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.
無し。

予め履修が望ましい科目

None.
無し。

発展科目

Education Workshop (English Program)
教養ワークショップ「特別英語プログラム」

教科書

To be distributed in class.
授業内で配布する。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

Individual work: 40% (worksheets, midterm and final reports, etc.)
Group work: 60% (project evaluation, worksheets, active participation and involvement in

group activities, etc.)

個人の活動40%（各ワークシート、中間・最終の提出物等）、グループの活動60%（プロジェクトの評価、各ワークシート、グループ活動への取り組み姿勢等）。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ることに。

授業改善への工夫

The class will involve the utilization of Moodle and PBL.

PBL形式、Moodleを活用し、授業を進めていく。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード

「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s)

4 Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

(Note: This course begins from session 2. You are REQUIRED to attend Session 1 of the Japanese Startup Seminar)

Session 2: Basics of group work

Session 3: Expressing your ideas

Session 4: Kinds and characteristics of information

Session 5: Formulating concrete hypotheses

Session 6: Researching and evaluating concrete hypotheses

Session 7: Peer review for projects

Session 8: Planning and scheduling

Session 9: Gathering and organizing evidence

Session 10: Evaluating evidence

Session 11: Constructing outlines

Session 12: Giving a presentation

Session 13: Final Project Presentations 1

Session 14: Final Project Presentations 2

Session 15: Class summary and review

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する

スタートアップセミナー

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **開講時間** 火9, 10 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. All students are required to attend the Japanese language startup seminar during the first week of classes (this class is only open starting the 2nd week, after the results from the TOEIC test). この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。一回目の授業は日本語でのスタートアップセミナーを受けること。この授業は二回目から開講され受講可能となる。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle **担当教員** ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

In this class, you will learn the "4 key abilities" of Mie University's educational goals through conducting group projects and achieve proper study methods through practice, as well as transition to life as a college student.

グループでプロジェクト活動を実践する中で、三重大学の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法を体験的に学習し、大学生活へのスムーズな移行を図る。

学習の目的

- ・ To understand your identity and sense of self as an individual, and also as a member of a larger community.
- ・ Practice and understand the meaning and significance of living ability through integration ability, which consists of feeling ability, thinking ability, and communication ability.
- ・ Achieve these 4 key abilities through conducting group work.
- ・ 主体的学習者としての自己認識、様々なコミュニティの構成員としての自己認識。
- ・ 感じる力、考える力、コミュニケーション力、これらの総合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解し実践する。
- ・ グループ活動を通して4つの力の素養を習得する。

学習の到達目標

- ・ Grasp the educational goals of the university (the 4 key abilities), and thereby establish your own educational goals.
- ・ Realize these educational goals by acquiring necessary study skills and methods.
- ・ Achieve these goals through the execution of group projects as part of a team.
- ・ 大学の教育目的（4つの力）の理解と、自発

的な学習目標の設定。

- ・ 学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得。
- ・ グループによるプロジェクトの遂行と達成。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.
無し。

予め履修が望ましい科目

None.
無し。

発展科目

Education Workshop (English Program)
教養ワークショップ「特別英語プログラム」

教科書

To be distributed in class.
授業内で配布する。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

Individual work: 40% (worksheets, midterm and final reports, etc.)
Group work: 60% (project evaluation, worksheets, active participation and involvement in

group activities, etc.)

個人の活動40%（各ワークシート、中間・最終の提出物等）、グループの活動60%（プロジェクトの評価、各ワークシート、グループ活動への取り組み姿勢等）。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ることに。

授業改善への工夫

The class will involve the utilization of Moodle and PBL.

PBL形式、Moodleを活用し、授業を進めていく。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード

「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s)

4 Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

(Note: This course begins from session 2. You are REQUIRED to attend Session 1 of the Japanese Startup Seminar)

Session 2: Basics of group work

Session 3: Expressing your ideas

Session 4: Kinds and characteristics of information

Session 5: Formulating concrete hypotheses

Session 6: Researching and evaluating concrete hypotheses

Session 7: Peer review for projects

Session 8: Planning and scheduling

Session 9: Gathering and organizing evidence

Session 10: Evaluating evidence

Session 11: Constructing outlines

Session 12: Giving a presentation

Session 13: Final Project Presentations 1

Session 14: Final Project Presentations 2

Session 15: Class summary and review

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する

スタートアップセミナー 編入生・再履修生クラス

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **開講時間** 水 11, 12 **単位** 2 **対象** スタートアップセミナー（または「4つの力」スタートアップセミナー）が卒業要件科目である学生で、まだ単位を修得していない学生 希望すれば、1年生対象のスタートアップセミナーを受講可能である **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選必修** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 長濱 文与、下村 智子、守山 紗弥加（教養教育機構）

授業の概要 三重大学の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法などを学び、大学生活へのスムーズな移行をはかる

学習の目的

- ・主体的学習者としての自己認識、さまざまなコミュニティの構成員としての自己認識をもつ
- ・感じる力、考える力、コミュニケーション力、それらの統合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解する
- ・学習を通して4つの力の素養を習得する

学習の到達目標

- ・三重大学の教育目標「4つの力」の理解と、自発的な学習目標の設定
- ・学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的

思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 スタートアップセミナー（または「4つの力」スタートアップセミナー）が卒業要件科目である学生で、まだ単位を修得していない2年生以上の学生

教科書 授業内で配布する

参考書 適宜、紹介する

成績評価方法と基準 提出物60%、取り組み姿勢（提出物の期限、教員とのやり取りにおけるマナー、など）40%

オフィスアワー 第1回授業時に伝達する

その他 教育学部生で、分野を人文分野または自然分野で履修する学生は、事前に教養教育事務室に申し出ること。

授業計画・学習の内容

キーワード 「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s) Four Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

第1回：ガイダンス

第2回～第15回：課題作成に向けたグループ・個別指導

教養ワークショップ

workshop for liberal arts

学期 後期 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴

能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 各教員 (教養教育機構)

授業の概要 教員のファシリテーションの下、半期で新書(基本的に論説文)を一冊以上読んで、書評を書く。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、スタートアップセミナーで培ったグループ学習も取り入れる。1クラスは30名程度とし、5~6グループにわけられる。学生は読書シートを作成しつつ本を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレビューをグループで行う。

学習の目的 図書や文献を読むこと、文章を作成することは、情報収集、情報発信の一般的な形態、自律的・能動的学習力の基盤となる「読む」「書く」能力を育成することを目的とする。前期のスタートアップセミナーで培った「聞く」「話す」能力と統合し、知的コミュニケーション力の獲得を目指す。

学習の到達目標 新書を読み切り、内容を相手に伝えられる。内容をまとめ自分の意見を付加し、書評を書くことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総

合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー

教科書 書評を書くための新書(論説文)は、教員が推薦する課題図書のリスト(学生も新規に推薦可)の中から教員が指定、あるいは、学生間の協議・ビブリオバトルなどによって選択する。新書であっても、実用書(ハウツーもの)や自己啓発書は避ける。

参考書 適宜、紹介する。

成績評価方法と基準 グループ学習への参加・課題(読書シート・書評など)の提出60%、グループ学習への貢献度・提出物の内容など40%を総合的に評価する。書評の作成において剽窃、盗用などの不正があれば単位を認めない。

オフィスアワー 各教員により異なるので、第1回授業で伝達する。

その他 各回の順序、内容については、教員により一部異なることがあるので留意すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 読解、文書作成、論理的思考、情報リテラシー

Key Word(s) reading, writing, logical thinking, information literacy

学習内容

- 第1回: ガイダンス・班分け・自己紹介
- 第2回: 授業の背景、レポートの書き方
- 第3回: 書評とは、新書とは
- 第4回: 主題の把握
- 第5回: 要約の仕方
- 第6回: 批判的読解

第7回: 書評を書くための新書の選定

第8回: 読書計画の立案

第9回: 読みあわせと書評作成1

第10回: 読みあわせと書評作成2

第11回: 読みあわせと書評作成3

第12回: 書評の作成

第13回: 書評の校正

第14回: 書評の評価・査読

第15回: 総括・アンケート

学習課題(予習・復習) 各自が新書を読む際には、読書シートを記載する。毎回、次回授業に向けての課題を各教員が指定する。

教養ワークショップ「特別英語プログラム」

Education Workshop (English Program)

学期 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選必修** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

Students will read recent publications (essentially academic publications) and write reviews of those readings under the guidance of the instructor. In addition to reading comprehension, summaries, and related writing tasks, the class will also include group learning cultivated in the startup seminar from the spring semester. Students will fill in review sheets on assigned readings and carry out peer review of each other's review sheets through discussion. 教員のファシリテーションの下、半期で新書(基本的に論説文)を読んで、書評を書く。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、スタートアップセミナーで培ったグループ学習も取り入れる。学生は読書シートを作成しつつ新書を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレビューをグループで行う。

学習の目的

Students will improve their abilities in reading and writing through reading publications in English, writing in English, gathering information, and reviews of information founded on individual and self-motivated study. Students will also acquire abilities in intellectual discussion coupled with the synthesis of the listening and speaking abilities developed in the spring semester startup seminar.

英語で文献を読むこと、英語で文章を作成することは、情報収集、情報発言の一般的な形態、自律的・能動的学習力の基盤となる「読む」「書く」能力を育成する事を目的とする。前期のスタートアップセミナーで培った「聞く」「話す」能力と統合し、知的コミュニケーション力の獲得を目指す。

学習の到達目標

Upon completing a reading in English, you will be able to convey the content and nature of

that reading to others using English. You will also learn to discuss your own opinions and give commentary on your summaries, as well as write reviews of publications, all using the English language.

新書を読み切り、内容を相手に伝えられる。内容をまとめ自分の意見を付加し、書評を書くことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.

無し。

予め履修が望ましい科目

Startup Seminar

スタートアップセミナー

教科書

Recently published readings will be selected either from a list of suggested readings (students can also suggest readings) by the instructor, or by some other method such as bibliobattle. However, recent publications that are manuals (such as how-to instructions, etc.) will not be considered appropriate.

書評を書くための新書(論説文)は、推薦する新書(学生も新規に推薦可)の中から指定、或いはビブリオバトル等によって選択する。新書であっても、実用書(ハウツー物)や自己啓発書は避ける。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

- ・ Group participation and submission of assignments (reading sheets, peer evaluations, etc.): 60%
 - ・ Content and quality of contribution to group activities and submitted assignments: 40%
 - ・ However, no credit will be given for copying, plagiarism, or theft.
- グループ学習への参加・課題（読書シート・書評等）の提出：60%グループ学習への貢献度・提出物の内容等40%を総合的に評価す

授業計画・学習の内容

キーワード 読解、文書作成、論理的思考、情報リテラシー

Key Word(s) Reading, writing, logical thinking, information literacy

学習内容

Session 1: Introduction and Orientation
Session 2: Basics of writing reports
Session 3: Book reviews, readings
Session 4: Understanding main ideas
Session 5: Summaries
Session 6: Critical reading
Session 7: Selecting a reading for reviewing
Session 8: Reading schedule draft
Session 9: Reading and reviewing 1
Session 10: Reading and reviewing 2
Session 11: Reading and reviewing 3
Session 12: Writing your review
Session 13: Proofreading and editing
Session 14: Review evaluation and peer review
Session 15: Wrap-up and questionnaire
All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

る。書評の作成において剽窃、盗用等の不正があれば単位を認めない。

オフィスアワー

By appointment.
予約を取ること。

その他

Please bear in mind that some details of the course may change as needed/appropriate. Additionally, all readings and classroom instruction are conducted in English.
各回の順序、内容について修正が入ることがあるので留意すること。その上、読み物や講義中の活動は英語のみ。

第一回：ガイダンス・班分け・自己紹介

第二回：授業の背景、レポートの書き方

第三回：書評とは、新書とは

第四回：主題の把握

第五回：要約の仕方

第六回：批判的読解

第七回：書評を書くための新書の選定

第八回：読書計画の立案

第九回：読み合わせと書評作成1

第十回：読み合わせと書評作成2

第十一回：読み合わせと書評作成3

第十二回：書評の作成

第十三回：書評の校正

第十四回：書評の評価・査読

第十五回：総括・アンケート

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each student will record the readings they read on the reading sheet. Each session, homework due the following session will be assigned.
各自が新書を読む際には、読書シートを記載する。毎回、次回授業に向けての課題を指定する。

教養ワークショップ「特別英語プログラム」

Education Workshop (English Program)

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選必修** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

Students will read recent publications (essentially academic publications) and write reviews of those readings under the guidance of the instructor. In addition to reading comprehension, summaries, and related writing tasks, the class will also include group learning cultivated in the startup seminar from the spring semester. Students will fill in review sheets on assigned readings and carry out peer review of each other's review sheets through discussion. 教員のファシリテーションの下、半期で新書(基本的に論説文)を読んで、書評を書く。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、スタートアップセミナーで培ったグループ学習も取り入れる。学生は読書シートを作成しつつ新書を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレビューをグループで行う。

学習の目的

Students will improve their abilities in reading and writing through reading publications in English, writing in English, gathering information, and reviews of information founded on individual and self-motivated study. Students will also acquire abilities in intellectual discussion coupled with the synthesis of the listening and speaking abilities developed in the spring semester startup seminar.

英語で文献を読むこと、英語で文章を作成することは、情報収集、情報発言の一般的な形態、自律的・能動的学習力の基盤となる「読む」「書く」能力を育成する事を目的とする。前期のスタートアップセミナーで培った「聞く」「話す」能力と統合し、知的コミュニケーション力の獲得を目指す。

学習の到達目標

Upon completing a reading in English, you will be able to convey the content and nature of

that reading to others using English. You will also learn to discuss your own opinions and give commentary on your summaries, as well as write reviews of publications, all using the English language.

新書を読み切り、内容を相手に伝えられる。内容をまとめ自分の意見を付加し、書評を書くことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.

無し。

予め履修が望ましい科目

Startup Seminar

スタートアップセミナー

教科書

Recently published readings will be selected either from a list of suggested readings (students can also suggest readings) by the instructor, or by some other method such as bibliobattle. However, recent publications that are manuals (such as how-to instructions, etc.) will not be considered appropriate.

書評を書くための新書(論説文)は、推薦する新書(学生も新規に推薦可)の中から指定、或いはビブリオバトル等によって選択する。新書であっても、実用書(ハウツー物)や自己啓発書は避ける。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

・ Group participation and submission of assignments (reading sheets, peer evaluations, etc.): 60%

・ Content and quality of contribution to group activities and submitted assignments: 40%

・ However, no credit will be given for copying, plagiarism, or theft.

グループ学習への参加・課題（読書シート・書評等）の提出：60%グループ学習への貢献度・提出物の内容等40%を総合的に評価す

授業計画・学習の内容

キーワード 読解、文書作成、論理的思考、情報リテラシー

Key Word(s) Reading, writing, logical thinking, information literacy

学習内容

Session 1: Introduction and Orientation

Session 2: Basics of writing reports

Session 3: Book reviews, readings

Session 4: Understanding main ideas

Session 5: Summaries

Session 6: Critical reading

Session 7: Selecting a reading for reviewing

Session 8: Reading schedule draft

Session 9: Reading and reviewing 1

Session 10: Reading and reviewing 2

Session 11: Reading and reviewing 3

Session 12: Writing your review

Session 13: Proofreading and editing

Session 14: Review evaluation and peer review

Session 15: Wrap-up and questionnaire

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

る。書評の作成において剽窃、盗用等の不正があれば単位を認めない。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ることに。

その他

Please bear in mind that some details of the course may change as needed/appropriate. Additionally, all readings and classroom instruction are conducted in English.

各回の順序、内容について修正が入ることがあるので留意すること。その上、読み物や講義中の活動は英語のみ。

第一回：ガイダンス・班分け・自己紹介

第二回：授業の背景、レポートの書き方

第三回：書評とは、新書とは

第四回：主題の把握

第五回：要約の仕方

第六回：批判的読解

第七回：書評を書くための新書の選定

第八回：読書計画の立案

第九回：読み合わせと書評作成1

第十回：読み合わせと書評作成2

第十一回：読み合わせと書評作成3

第十二回：書評の作成

第十三回：書評の校正

第十四回：書評の評価・査読

第十五回：総括・アンケート

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each student will record the readings they read on the reading sheet. Each session, homework due the following session will be assigned.

各自が新書を読む際には、読書シートを記載する。毎回、次回授業に向けての課題を指定する。

英語I TOEIC

English I TOEIC

学期 前期 **開講時間** 火5, 6, 7, 8, 9, 10 **単位** 1 **対象** 1年生は、指定されたクラスにて受講してください。編入生および再履修が必要な2年生以上の学生は、再履修クラスにて受講してください。**年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づき習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 専用の教科書および語学e-learningシステムを用いて、TOEICにおいて高得点を取得できる英語力を身につけます。

学習の目的

[1] TOEICの各パートの練習問題に取り組み、問題の形式を理解し、必要な英語力を身につけます。

[2] TOEICの各パートにおける頻出の英語表現を確認し、理解・聴解の練習を重ね、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標

[1] TOEICにおいて、入学時よりも高い得点を取得するための英語力を身につけます。
(1年次の最低ラインは400点です。)

[2] TOEICにおいて高得点を目指すためにはどのパートを伸ばす必要があるか、把握できるようになります。

本学教育目標との関連 主体的学習力、実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

4月に行われるプレースメントテスト(TOEIC IPテスト)を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲

示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級

英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展ETOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。

中級クラス: Step-by-Step for the TOEIC Test (Step 2:Intermediate course) アルク

初級クラス: Step-by-Step for the TOEIC Test (Step 1:Basic course) アルク

成績評価方法と基準

授業の評価と7月末に受験するTOEICIPテストのスコアに基づいて、成績が決まります。

授業の評価基準

[1] 語学e-learningシステムに基づく小テスト50%

[2] 教科書に基づく期末テスト50%

計100% 合計が60%以上で「合格」となります。

授業で「合格」を取得し、かつ7月末に実施されるTOEIC IPテストで400点以上を取得することにより単位が認定されます。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容 具体的な進め方に関しては、初回の授業において各担当教員から説明があります。

学習課題(予習・復習)

毎授業において、「語学e-learningシステム」

に基づく小テストが実施されるので、「語学e-learningシステム」を用いて学習を行ってください。

各回の小テストの範囲は、初回の授業において配布される「英語I TOEIC 履修マニュアル」で確認しておいてください。

英語I TOEIC

English I TOEIC

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 **単位** 1 **対象** 1年生は、指定されたクラスにて受講してください。編入生および再履修が必要な2年生以上の学生は、再履修クラスにて受講してください。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づき習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 専用の教科書および語学e-learningシステムを用いて、TOEICにおいて高得点を取得できる英語力を身につけます。

学習の目的

[1] TOEICの各パートの練習問題に取り組み、問題の形式を理解し、必要な英語力を身につけます。

[2] TOEICの各パートにおける頻出の英語表現を確認し、理解・聴解の練習を重ね、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標

[1] TOEICにおいて、入学時よりも高い得点を取得するための英語力を身につけます。
(1年次の最低ラインは400点です。)

[2] TOEICにおいて高得点を目指すためにはどのパートを伸ばす必要があるか、把握できるようになります。

本学教育目標との関連 主体的学習力、実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲

示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級

英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展ETOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。

中級クラス： Step-by-Step for the TOEIC Test (Step 2:Intermediate course) アルク
初級クラス： Step-by-Step for the TOEIC Test (Step 1:Basic course) アルク

成績評価方法と基準

授業の評価と7月末に受験するTOEICIPテストのスコアに基づいて、成績が決まります。

授業の評価基準

[1] 語学e-learningシステムに基づく小テスト 50%

[2] 教科書に基づく期末テスト 50%

計100% 合計が60%以上で「合格」となります。

授業で「合格」を取得し、かつ7月末に実施されるTOEIC IPテストで400点以上を取得することにより単位が認定されます。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容 具体的な進め方に関しては、初回の授業において各担当教員から説明があります。

学習課題 (予習・復習)

毎授業において、「語学e-learningシステム」

に基づく小テストが実施されるので、「語学e-learningシステム」を用いて学習を行ってください。

各回の小テストの範囲は、初回の授業において配布される「英語 I TOEIC 履修マニュアル」で確認しておいてください。

英語 I 大学基礎

English I Reading

学期 前期 **開講時間** 月 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8; 水 1, 2, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **対象** 1年生は、指定されたクラスにて受講してください。編入生および再履修が必要な2年生以上の学生は、再履修クラスにて受講してください。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 大学レベルの英語文献を読むために必要となる読解力・文法力の基礎を身につけることを目的とします。習熟度別に編成された50人規模のクラスにおいて、英文を正確に理解する力を育てます。

学習の目的

- [1] 大学において専門的文献を英語で読む際に必要となる読解力を身につけます。
- [2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を確認し、それらを実際に使えるようになることを目指します。
- [3] TOEICのリーディングパートにおいて高得点を取る力を身につけます。

学習の到達目標

- [1] ある程度の長さの英文を、辞書なしでも理解できる力を身につけます。
- [2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を用いて、ある程度の長さの英文を書ける力を身につけます。
- [3] TOEICのリーディングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるための読解力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

授業計画・学習の内容

キーワード 英語リーディング・英文法

学習内容 初回の授業において各担当教員から説明があります。

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級
英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展ETOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。
中級クラス：Reading Fusion 2 (南雲堂)
初級クラス：Reading Fusion 1 (南雲堂)

成績評価方法と基準

授業で与えられた課題・小テスト・期末テストなどに基づき、総合的に評価します。具体的な基準は、各教員が初回の授業において説明します。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

学習課題 (予習・復習) 初回の授業において各担当教員から説明があります。

英語 I 大学基礎

English I Reading

学期 後期 **開講時間** 月 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8; 水 1, 2, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **対象** 1年生は、指定されたクラスにて受講してください。編入生および再履修が必要な2年生以上の学生は、再履修クラスにて受講してください。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 大学レベルの英語文献を読むために必要となる読解力・文法力の基礎を身につけることを目的とします。習熟度別に編成された50人規模のクラスにおいて、英文を正確に理解する力を育てます。

学習の目的

- [1] 大学において専門的文献を英語で読む際に必要となる読解力を身につけます。
- [2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を確認し、それらを実際に使えるようになることを目指します。
- [3] TOEICのリーディングパートにおいて高得点を取る力を身につけます。

学習の到達目標

- [1] ある程度の長さの英文を、辞書なしでも理解できる力を身につけます。
- [2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を用いて、ある程度の長さの英文を書ける力を身につけます。
- [3] TOEICのリーディングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるための読解力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

授業計画・学習の内容

キーワード 英語リーディング・英文法

学習内容 初回の授業において各担当教員から説明があります。

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級
英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展ETOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。
中級クラス: Reading Fusion 2 (南雲堂)
初級クラス: Reading Fusion 1 (南雲堂)

成績評価方法と基準

授業で与えられた課題・小テスト・期末テストなどに基づき、総合的に評価します。具体的な基準は、各教員が初回の授業において説明します。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

学習課題 (予習・復習) 初回の授業において各担当教員から説明があります。

英語I コミュニケーション

English I Communication

学期 前期 開講時間 水 1, 2, 3, 4; 金 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 英語を話す力・聞く力を中心に、英語のコミュニケーション能力をバランスよく養成することを目的とします。習熟度別に編成された35人規模のクラスにおいて、英語のスピーキング・リスニングの練習を行い、必要な表現を身につけます。

学習の目的

- [1] 英語での基本的な日常会話を行うことができるスピーキング力を身につけます。
- [2] 自然なスピードで話されている英語を正確に聞き取って理解することができるリスニング力を身につけます。
- [3] TOEICのリスニングパートにおいて高得点を取る力を身につけます。

学習の到達目標

- [1] 英語での基本的な日常会話に必要な英語表現に関する知識を身につけます。
- [2] 自然なスピードで話されている英語を聞き取り、主な内容を把握できるようになります。
- [3] TOEICのリスニングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるためのリスニング力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

授業計画・学習の内容

キーワード 英語によるコミュニケーション

学習内容 初回の授業において各担当教員から説明があります。

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級
英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展E TOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。
中級クラス： Interchange 3 (Cambridge)
初級クラス： Interchange 2 (Cambridge)

成績評価方法と基準

授業で与えられた課題・小テスト・期末テストなどに基づき、総合的に評価します。具体的な基準は、各教員が初回の授業において説明します。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

学習課題 (予習・復習) 初回の授業において各担当教員から説明があります。

英語I コミュニケーション

English I Communication

学期 後期 開講時間 水 1, 2, 3, 4; 金 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 英語を話す力・聞く力を中心に、英語のコミュニケーション能力をバランスよく養成することを目的とします。習熟度別に編成された35人規模のクラスにおいて、英語のスピーキング・リスニングの練習を行い、必要な表現を身につけます。

学習の目的

- [1] 英語での基本的な日常会話を行うことができるスピーキング力を身につけます。
- [2] 自然なスピードで話されている英語を正確に聞き取って理解することができるリスニング力を身につけます。
- [3] TOEICのリスニングパートにおいて高得点を取る力を身につけます。

学習の到達目標

- [1] 英語での基本的な日常会話に必要な英語表現に関する知識を身につけます。
- [2] 自然なスピードで話されている英語を聞き取り、主な内容を把握できるようになります。
- [3] TOEICのリスニングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるためのリスニング力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

授業計画・学習の内容

キーワード 英語によるコミュニケーション

学習内容 初回の授業において各担当教員から説明があります。

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級
英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展E TOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。
中級クラス: Interchange 3 (Cambridge)
初級クラス: Interchange 2 (Cambridge)

成績評価方法と基準

授業で与えられた課題・小テスト・期末テストなどに基づき、総合的に評価します。具体的な基準は、各教員が初回の授業において説明します。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

学習課題 (予習・復習) 初回の授業において各担当教員から説明があります。

英語 II 発展Aa

English II Advanced Aa

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course teaches basic principles and methods of presentations in English.

学習の目的 Students will learn to effectively present on a variety of topics in English

学習の到達目標 Students will develop English presentation skills, including presentation structure, eye contact and body language, and some basic rhetorical techniques.

本学教育目標との関連モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

教科書 Hood, Michael (2007).Dynamic Presentations.ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and presentations.

オフィスアワー By appointment

授業改善への工夫 All readings and classroom instruction are conducted in English

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English

授業計画・学習の内容

学習内容

Class Schedule:

[First Semester]

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation

Session 6-7: Transitions

Session 8-9: Audience Analysis

Session 10-11: Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons

Session 14-15: Final Presentations

学習課題（予習・復習） Students will prepare short presentations on various topics, focusing on different skills as they are covered in the course

英語 II 発展Aa

English II Advanced Aa

学期 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course teaches basic principles and methods of presentations in English

学習の目的 Students will learn to effectively present on a variety of topics in English

学習の到達目標 Students will develop English presentation skills, including presentation structure, eye contact and body language, and some basic rhetorical techniques.

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

教科書 Hood, Michael (2007). Dynamic Presentations. ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and presentations.

オフィスアワー By appointment

授業改善への工夫 All readings and classroom instruction are conducted in English

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English

授業計画・学習の内容

学習内容

Class Schedule:

[First Semester]

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation

Session 6-7: Transitions

Session 8-9: Audience Analysis

Session 10-11: Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons

Session 14-15: Final Presentations

学習課題（予習・復習） Students will prepare short presentations on various topics, focusing on different skills as they are covered in the course.

英語 II 発展Aa

English II Advanced Aa

学期 前期 **開講時間** 金 1, 2 **単位** 1 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher, or those who have 2 credits of TOEIC. この授業はTOEIC600点以上の学生、TOEICの2単位の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選択** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ジャスティン・ポッフマイア

授業の概要 You will learn to effectively present on a variety of topics in English, using various presentation skills and methods learned in class.

学習の目的

- effective eye contact and body language
- structure and organization
- understanding of the audience
- analysis of information and evidence
- integration of the above techniques into a cohesive and compelling presentation

学習の到達目標

- Gain confidence in English speaking ability
- Attain confidence for public speaking
- Develop a better understanding of others through audience analysis
- Acquire necessary skills for further improving presentations

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベー

授業計画・学習の内容

キーワード プレゼンテーション、英語、スピーキング、スピーチ

Key Word(s) presentations, English, speaking, speeches

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation and Transitions

Session 6-7: Audience Analysis

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

受講要件

For students who have attained a score of 600 or higher on the TOEIC, or those students with 2 credits of TOEIC.

TOEICで600点以上、TOEICの2単位の学生のみ。

教科書 Hood, Michael(2007).Dynamic Presentations.ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and in-class presentations.

オフィスアワー By appointment.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion and Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons, and Handling Questions

Session 14-15: Final Presentations

The schedule is subject to change depending on students' needs.

学習課題 (予習・復習) Each session, homework due the following session will be assigned.Short presentations will often be assigned.

英語 II 発展Ab

English II Advanced Ab

学期 後期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course teaches basic principles and methods of presentations in English.

学習の目的 Students will learn to effectively present on a variety of topics in English.

学習の到達目標 Students will develop English presentation skills, including presentation structure, eye contact and body language, and some basic rhetorical techniques.

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

教科書 Hood, Michael (2007). Dynamic Presentations. ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and presentations.

オフィスアワー By appointment

授業改善への工夫 All readings and classroom instruction are conducted in English.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

授業計画・学習の内容

学習内容

Class Schedule:

[Second Semester]

Session 1: Orientation

Session 2-3: Organization Patterns I and Using Examples

Session 4-5: Organization Patterns II and Evaluating Evidence

Session 6-7: Persuasion I

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion II

Session 12-13: Handling Questions and Impromptu Speaking

Session 14-15: Final Presentations

学習課題（予習・復習） Students will prepare short presentations on various topics, focusing on different skills as they are covered in the course.

英語 II 発展Ab

English II Advanced Ab

学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course teaches basic principles and methods of presentations in English.

学習の目的 Students will learn to effectively present on a variety of topics in English.

学習の到達目標 Students will develop English presentation skills, including presentation structure, eye contact and body language, and some basic rhetorical techniques.

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

教科書 Hood, Michael (2007). Dynamic Presentations. ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and presentations

オフィスアワー By appointment

授業改善への工夫 All readings and classroom instruction are conducted in English.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

授業計画・学習の内容

学習内容

Class Schedule:

[Second Semester]

Session 1: Orientation

Session 2-3: Organization Patterns I and Using Examples

Session 4-5: Organization Patterns II and Evaluating Evidence

Session 6-7: Persuasion I

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion II

Session 12-13: Handling Questions and Impromptu Speaking

Session 14-15: Final Presentations

学習課題（予習・復習） Students will prepare short presentations on various topics, focusing on different skills as they are covered in the course.

英語 II 発展Ab

English II Advanced Ab

学期 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 1 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher, or those who have 2 credits of TOEIC. この授業はTOEIC600点以上の学生、TOEICの2単位の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ジャスティン・ポッフマイア

授業の概要 You will learn to effectively present on a variety of topics in English, using various presentation skills and methods learned in class.

学習の目的

- effective eye contact and body language
- structure and organization
- understanding of the audience
- analysis of information and evidence
- integration of the above techniques into a cohesive and compelling presentation

学習の到達目標

- Gain confidence in English speaking ability
- Attain confidence for public speaking
- Develop a better understanding of others through audience analysis
- Acquire necessary skills for further improving presentations

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベー

授業計画・学習の内容

キーワード プレゼンテーション、英語、スピーキング、スピーチ

Key Word(s) presentations, English, speaking, speeches

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation and Transitions

Session 6-7: Audience Analysis

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

受講要件

For students who have attained a score of 600 or higher on the TOEIC, or those students with 2 credits of TOEIC.

TOEICで600点以上、TOEICの2単位の学生のみ。

教科書 Hood, Michael(2007).Dynamic Presentations.ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and in-class presentations.

オフィスアワー By appointment.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion and Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons, and Handling Questions

Session 14-15: Final Presentations

The schedule is subject to change depending on students' needs.

学習課題 (予習・復習) Each session, homework due the following session will be assigned.Short presentations will often be assigned.

英語 II 発展Ab

English II Advanced Ab

学期 後期 **開講時間** 金 1, 2 **単位** 1 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher, or those who have 2 credits of TOEIC. この授業はTOEIC600点以上の学生、TOEICの2単位の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選択** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ジャスティン・ポッフマイア

授業の概要 You will learn to effectively present on a variety of topics in English, using various presentation skills and methods learned in class.

学習の目的

- effective eye contact and body language
- structure and organization
- understanding of the audience
- analysis of information and evidence
- integration of the above techniques into a cohesive and compelling presentation

学習の到達目標

- Gain confidence in English speaking ability
- Attain confidence for public speaking
- Develop a better understanding of others through audience analysis
- Acquire necessary skills for further improving presentations

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベー

授業計画・学習の内容

キーワード プレゼンテーション、英語、スピーキング、スピーチ

Key Word(s) presentations, English, speaking, speeches

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation and Transitions

Session 6-7: Audience Analysis

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

受講要件

For students who have attained a score of 600 or higher on the TOEIC, or those students with 2 credits of TOEIC.

TOEICで600点以上、TOEICの2単位の学生のみ。

教科書 Hood, Michael(2007).Dynamic Presentations.ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and in-class presentations.

オフィスアワー By appointment.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion and Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons, and Handling Questions

Session 14-15: Final Presentations

The schedule is subject to change depending on students' needs.

学習課題 (予習・復習) Each session, homework due the following session will be assigned.Short presentations will often be assigned.

英語II発展B

English II Advanced B (Reading & Discussion)

学期 前期 **開講時間** 火5,6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 トーマス デール

授業の概要 In this course, students will learn how to improve their reading, listening, speaking and critical thinking skills. We will accomplish this by reading various types of text, listening to recorded materials and to each other (including lectures from the teacher), and by discussing our thoughts and opinions.

学習の目的 Being able to gain information from written text and aural/visual media, add your own thoughts to it and present these thoughts to a wider audience orally is not only a challenging and rewarding experience, but an important set of skills to possess. Therefore, it is the aim of this class to help you become better readers, listeners, speakers and thinkers in English.

学習の到達目標 Students will be given the chance to improve their reading, listening, speaking and thinking skills by practicing them extensively. The goal is to have students be ready to give their thoughts at a moments notice (impromptu speaking) and prepare to give thoughtful answers that are backed by facts when given more time (debate). Therefore, students will work both by themselves and with each other. Quizzes will cover reading and listening comprehension. There will also be two tests and a final exam which we will discuss in class.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 All students taking this course as a minimum should have passed Eiken Pre 2 or

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、読み、聞き、話、批判的思考 (クリティカル・シンキング)

Key Word(s) English, reading, listening,

have the following certifications/scores: CEFR B1, TOEIC 400, IELTS 4.0, TOEFL ITP 460, TOEFL IBT 86, or PET

教科書 Text Books: 1) Face the Issues: Intermediate Listening and Critical Thinking Skills, Third Edition (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199218-4); 2) Face the Issues: Intermediate Listening and Critical Thinking Skills, Third Edition, Answer Key and Audioscript (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199219-8) Audio CD: 1) Face the Issues, Third Edition, Audio CD (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199220-1)

参考書 Supplemental material will be provided by the teacher. *OPTIONAL: 1) An A - Z of Common English Errors for Japanese Learners (Japanese version, by David Barker, ISBN: 978-4990415150); 2) Critical Thinking Skills: Developing Effective Analysis and Argument (by Stella Cottrell, ISBN: 978-0230285293)

成績評価方法と基準 Class Participation (this includes class attendance): 25%; Individual Presentation: 10%; Group Presentation: 10%; Vocabulary, Reading and Listening Comprehension Quizzes: 30% (three quizzes, 10% each); Final Exam: 25%

オフィスアワー All meetings by appointment. At Mie University's campus on Tuesdays from 9:15 - 12:30, 16:15-20:00.

その他 It is vital that students be willing to speaking in class, both to others and in front of others. Willingness to do the readings and other assignments are a must! It also helps a great deal if you have a sense of humor!

speaking, critical thinking, discussing, impromptu, individual presentation, prepare, conversation, debate, group presentation,

communication

学習内容

Week 1: Introductions, syllabus review, course information, needs analysis, first reading and discussion practice

Weeks 2-6: Chapters 1 and 2, quiz on week 4, individual presentation/test on week 6

Weeks 7-12: Chapters 3, 7, and 8, quiz on week 9, group presentation/test on week 12

Weeks 13-15: Chapters 10, 11 and 12, last quiz on week 15

Week 16: Final exam

学習課題 (予習・復習) Course requirements (homework, quizzes, and tests) will

include: 1) Reading assigned chapters and other supplemental material; 2) Practicing impromptu skills outside of class; 3) Preparing for group presentations/debates; 4) Practicing vocabulary, reading and listening outside of class for quiz preparation; 5) Three vocabulary, reading and listening comprehension quizzes; 6) One individual presentation on a topic of your choice with the order of presentation decided by drawing lots; 7) One prepared group presentation/debate with the order of presentation decided by drawing lots; 8) One final exam that includes vocabulary, reading and listening comprehension; *NOTE: Writing notebooks, pencils and erasers are a must!

英語II発展B

English II Advanced B (Reading & Discussion)

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習
担当教員 トーマス デール

授業の概要 In this course, students will learn how to improve their reading, listening, speaking and critical thinking skills. We will accomplish this by reading various types of text, listening to recorded materials and to each other (including lectures from the teacher), and by discussing our thoughts and opinions.

学習の目的 Being able to gain information from written text and aural/visual media, add your own thoughts to it and present these thoughts to a wider audience orally is not only a challenging and rewarding experience, but an important set of skills to possess. Therefore, it is the aim of this class to help you become better readers, listeners, speakers and thinkers in English.

学習の到達目標 Students will be given the chance to improve their reading, listening, speaking and thinking skills by practicing them extensively. The goal is to have students be ready to give their thoughts at a moments notice (impromptu speaking) and prepare to give thoughtful answers that are backed by facts when given more time (debate). Therefore, students will work both by themselves and with each other. Quizzes will cover reading and listening comprehension and vocabulary. There will also be two presentation tests and a final exam, which we will discuss in class.

本学教育目標との関連 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 All students taking this course as a minimum should have passed Eiken Pre 2 or

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、読み、聞き、話、批判的思考 (クリティカル・シンキング)

Key Word(s) English, reading, listening,

have the following certifications/scores: CEFR B1, TOEIC 400, IELTS 4.0, TOEFL ITP 460, TOEFL IBT 86, or PET

教科書 Text Books: 1) Face the Issues: Intermediate Listening and Critical Thinking Skills, Third Edition (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199218-4); 2) Face the Issues: Intermediate Listening and Critical Thinking Skills, Third Edition, Answer Key and Audioscript (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199219-8) Audio CD: 1) Face the Issues, Third Edition, Audio CD (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199220-1)

参考書 Supplemental material will be provided by the teacher. *OPTIONAL: 1) An A - Z of Common English Errors for Japanese Learners (Japanese version, by David Barker, ISBN: 978-4990415150); 2) Critical Thinking Skills: Developing Effective Analysis and Argument (by Stella Cottrell, ISBN: 978-0230285293)

成績評価方法と基準 Class Participation (this includes class attendance): 25%; Individual Presentation: 10%; Group Presentation: 10%; Vocabulary, Reading and Listening Comprehension Quizzes: 30% (three quizzes, 10% each); Final Exam: 25%

オフィスアワー All meetings by appointment. At Mie University's campus on Tuesdays from 9:15 - 12:30, 16:15-20:00.

その他 It is vital that students be willing to speak in class, both to others and in front of others. Willingness to do the readings and other assignments are a must! It also helps a great deal if you have a sense of humor!

speaking, critical thinking, discussing, impromptu, individual presentation, prepare, conversation, debate, group presentation,

communication

学習内容

Week 1: Introductions, syllabus review, course information, needs analysis, first reading and discussion practice

Weeks 2-6: Chapters 1 and 2, quiz on week 4 , individual presentation/test on week 6

Weeks 7-12: Chapters 3, 7, and 8, quiz on week 9, group presentation/test on week 12

Weeks 13-15: Chapters 10, 11 and 12, last quiz on week 15

Week 16: Final exam

学習課題 (予習・復習) Course requirements (homework, quizzes, and tests) will

include: 1) Reading assigned chapters and other supplemental material; 2) Practicing impromptu skills outside of class; 3) Preparing for group presentations/debates; 4) Practicing vocabulary, reading and listening outside of class for quiz preparation; 5) Three vocabulary, reading and listening comprehension quizzes; 6) One individual presentation on a topic of your choice with the order of presentation decided by drawing lots; 7) One prepared group presentation/debate with the order of presentation decided by drawing lots; 8) One final exam that includes vocabulary, reading and listening comprehension; *NOTE: Writing notebooks, pencils and erasers are a must!

英語II発展B

English II AdvancedB (Reading & discussion)

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 Short readings and English (only) discussion.

学習の目的 I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.

学習の到達目標 At the end of the course, I intend that students will have learned more about *how* to read, rather than merely memorizing more vocabulary and grammar (although that is also somewhat important). Secondly, they will have greater confidence in expressing themselves in English. Finally, I hope that when students need to research or read for help in English, this class will help them feel stronger about doing so.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 There are no spe-

cific entry requirements for this course other than to have a sufficiently high level of English and a desire to improve. Students must be aware that this course is taught ENTIRELY in English. If you want to read some English, translate it to Japanese and then discuss it in Japanese, there are many other courses you can take. If you wish to improve both your English writing and speaking while lessening your dependence on Japanese, this could be a good course for you.

教科書 Reading for the Real World 1

成績評価方法と基準 Grading is based around in-class readings and assignments, classroom discussion and participation, attendance, and a short final exam.

オフィスアワー None, as I am a part time teacher. I can be contacted easily through e-mail or via social networks.

授業改善への工夫 There is a short final exam. Half is reading and comprehension questions, half is small group discussion.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) timed two page readings, group discussions, large variety of topics

学習内容

Week 1 - Overview and Class Introductions
Week 2 - American Superstitions (Reading #1), reading without a dictionary
Week 3 - Mysterious creatures (Reading #2)
Week 4 - History of the Internet (Reading #3)
Week 5 - Gamers: Image v. Reality (Reading #4)
Week 6 - Body mass and weight (Reading #5)
Week 7 - Studying headaches (Reading #6)
Week 8 - This week is reserved for supplemental readings and/or student presentations
Week 9 - This week is reserved for supplementen-

tal readings and/or students presentations
Week 10 - High School Dropout rates (Reading #7)
Week 11 - Single gender schooling (Reading #8)
Week 12 - Mass extinction (Reading #9)
Week 13 - Curbing greenhouse gases (Reading #10)
Week 14 - Death Penalty (Reading #11)
Week 15 - Bounty Hunters (Reading #12) and exam review.
Week 16 - Final exam
*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and

willingness to do the work necessary!

学習課題 (予習・復習) Course requirements

英語II発展B

English II AdvancedB (Reading & discussion)

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習
担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 Short readings and English (only) discussion.

学習の目的 I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.

学習の到達目標 At the end of the course, I intend that students will have learned more about *how* to read, rather than merely memorizing more vocabulary and grammar (although that is also somewhat important). Secondly, they will have greater confidence in expressing themselves in English. Finally, I hope that when students need to research or read for help in English, this class will help them feel stronger about doing so.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 There are no spe-

cific entry requirements for this course other than to have a sufficiently high level of English and a desire to improve. Students must be aware that this course is taught ENTIRELY in English. If you want to read some English, translate it to Japanese and then discuss it in Japanese, there are many other courses you can take. If you wish to improve both your English writing and speaking while lessening your dependence on Japanese, this could be a good course for you.

教科書 Reading for the Real World 1

成績評価方法と基準 Grading is based around in-class readings and assignments, classroom discussion and participation, attendance, and a short final exam.

オフィスアワー None, as I am a part time teacher. I can be contacted easily through e-mail or via social networks.

授業改善への工夫 There is a short final exam. Half is reading and comprehension questions, half is small group discussion.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) timed two page readings, group discussions, large variety of topics

学習内容

Week 1 - Overview and Class Introductions
Week 2 - Martin Luther King's great speech (Reading #1),
Week 3 - The history of the "Space Race" (Reading #2)
Week 4 - Asteroid impacts (Reading #3)
Week 5 - Cheating in sports (Reading #4)
Week 6 - Does "gi" exist? (Reading #5)
Week 7 - This week is reserved for supplemental readings and/or student presentations
Week 8 - This week is reserved for supplement-

tal readings and/or students presentations
Week 9 - The speech that made Barack Obama famous (Reading #7)
Week 10 - Anita Roddick, businessperson and human rights activist (Reading #8)
Week 11 - What is beauty? (Reading #9)
Week 12 - What counts as business, what is bribery? (Reading #10)
Week 13 - Adventure tours for charity (Reading #11)
Week 14 - Evaluating companies (Reading #12)
Week 15 - Catching up unfinished matters and exam review
Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and

willingness to do the work necessary!

学習課題（予習・復習） Course requirements

英語II発展B

English II AdvancedB (Reading & discussion)

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 Short readings and English (only) discussion.

学習の目的 I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.

学習の到達目標 At the end of the course, I intend that students will have learned more about *how* to read, rather than merely memorizing more vocabulary and grammar (although that is also somewhat important). Secondly, they will have greater confidence in expressing themselves in English. Finally, I hope that when students need to research or read for help in English, this class will help them feel stronger about doing so.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 There are no spe-

cific entry requirements for this course other than to have a sufficiently high level of English and a desire to improve. Students must be aware that this course is taught ENTIRELY in English. If you want to read some English, translate it to Japanese and then discuss it in Japanese, there are many other courses you can take. If you wish to improve both your English writing and speaking while lessening your dependence on Japanese, this could be a good course for you.

教科書 Reading for the Real World 1

成績評価方法と基準 Grading is based around in-class readings and assignments, classroom discussion and participation, attendance, and a short final exam.

オフィスアワー None, as I am a part time teacher. I can be contacted easily through e-mail or via social networks.

授業改善への工夫 There is a short final exam. Half is reading and comprehension questions, half is small group discussion.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) timed two page readings, group discussions, large variety of topics

学習内容

Week 1 - Overview and Class Introductions

Week 2 - American Superstitions (Reading #1), reading without a dictionary

Week 3 - Mysterious creatures (Reading #2)

Week 4 - History of the Internet (Reading #3)

Week 5 - Gamers: Image v. Reality (Reading #4)

Week 6 - Body mass and weight (Reading #5)

Week 7 - Studying headaches (Reading #6)

Week 8 - This week is reserved for supplemental readings and/or student presentations

Week 9 - This week is reserved for supplementen-

tal readings and/or students presentations
Week 10 - High School Dropout rates (Reading #7)

Week 11 - Single gender schooling (Reading #8)

Week 12 - Mass extinction (Reading #9)

Week 13 - Curbing greenhouse gases (Reading #10)

Week 14 - Death Penalty (Reading #11)

Week 15 - Bounty Hunters (Reading #12) and exam review.

Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and

willingness to do the work necessary!

学習課題 (予習・復習) Course requirements

英語II発展B

English II AdvancedB (Reading & discussion)

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習
担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 Short readings and English (only) discussion.

学習の目的 I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.

学習の到達目標 At the end of the course, I intend that students will have learned more about *how* to read, rather than merely memorizing more vocabulary and grammar (although that is also somewhat important). Secondly, they will have greater confidence in expressing themselves in English. Finally, I hope that when students need to research or read for help in English, this class will help them feel stronger about doing so.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 There are no spe-

cific entry requirements for this course other than to have a sufficiently high level of English and a desire to improve. Students must be aware that this course is taught ENTIRELY in English. If you want to read some English, translate it to Japanese and then discuss it in Japanese, there are many other courses you can take. If you wish to improve both your English writing and speaking while lessening your dependence on Japanese, this could be a good course for you.

教科書 Reading for the Real World 1

成績評価方法と基準 Grading is based around in-class readings and assignments, classroom discussion and participation, attendance, and a short final exam.

オフィスアワー None, as I am a part time teacher. I can be contacted easily through e-mail or via social networks.

授業改善への工夫 There is a short final exam. Half is reading and comprehension questions, half is small group discussion.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) timed two page readings, group discussions, large variety of topics

学習内容

Week 1 - Overview and Class Introductions
Week 2 - Martin Luther King's great speech (Reading #1),
Week 3 - The history of the "Space Race" (Reading #2)
Week 4 - Asteroid impacts (Reading #3)
Week 5 - Cheating in sports (Reading #4)
Week 6 - Does "gi" exist? (Reading #5)
Week 7 - This week is reserved for supplemental readings and/or student presentations
Week 8 - This week is reserved for supplementen-

tal readings and/or students presentations
Week 9 - The speech that made Barack Obama famous (Reading #7)
Week 10 - Anita Roddick, businessperson and human rights activist (Reading #8)
Week 11 - What is beauty? (Reading #9)
Week 12 - What counts as business, what is bribery? (Reading #10)
Week 13 - Adventure tours for charity (Reading #11)
Week 14 - Evaluating companies (Reading #12)
Week 15 - Catching up unfinished matters and exam review
Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and

willingness to do the work necessary!

学習課題（予習・復習） Course requirements

英語II発展C

English II Advanced C (Writing)

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 トーマス デール

授業の概要 In this course, students will learn how to improve their writing. We will accomplish this by studying what makes up a paragraph and an essay. In addition, we will study some different rhetorical modes for essay writing (exposition, narration, and argumentation).

学習の目的 Being able to present both your critical and light-hearted thinking in written form is not only a challenging and rewarding experience, but an important skill to possess. Therefore, it is the aim of this class to help you become better writers in various forms in English.

学習の到達目標 Students will be given the chance to improve their writing and proofreading skills by doing them extensively. Students will write both by themselves and with others. Tests (including the Final Exam) will consist of what we have studied and practiced. There will also be one group project in the form of a magazine due at the end of the semester. For students taking this class a second time, each homework assignment will be a little different, thus giving you a new challenge while reinforcing what you have studied previously.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、書き、校閲、意味段落、形式段落、論

Key Word(s) English, writing, proofreading, paragraphs, essays, communication, rhetorical modes, exposition, narration, argumentation

学習内容

受講要件 All students taking this course as a minimum should have passed Eiken Pre 2 or have the following certifications/scores: CEFR B1, TOEIC 400, IELTS 4.0, TOEFL ITP 460, TOEFL IBT 86, or PET

教科書 Text book: None (see optional books below)

参考書 Bring a dictionary, a thesaurus, a pencil and a notebook/writing pad. All other supplemental material will be provided by the teacher. *OPTIONAL: 1) Ready to Write: From Paragraph to Essay, Third Edition (by Karen Blanchard & Christine Root, ISBN: 978-0-13-136334-2); 2) Blueprints for Writing: Building Essays (by Pam Mathis, ISBN: 978-0495802464); 3) An A - Z of Common English Errors for Japanese Learners (Japanese version, by David Barker, ISBN: 978-4990415150)

成績評価方法と基準 Tests 54% (three test, 18% each); Group Magazine Project 25%; Final Exam 21%

オフィスアワー All meetings by appointment. At Mie University's campus on Tuesdays from 9:15 - 12:30, 16:10-20:00.

その他 This class will not only feature extensive writing and reading of one's own work, but participation in the class, participation with others and having a sense of fun are also very important!

Week 1: Introductions, syllabus review, course information, needs analysis, first writing practice
Week 2: Parts of a Paragraph
Week 3: Organization and Signal/Transition Words
Week 4: The Writing Process
Weeks 5-7: Writing Essays and Expository Essays

Weeks 8-10: Narrative Essays

Weeks 11-13: Argumentative Essays

Weeks 14-15: Magazine Production

Week 16: Final exam

学習課題 (予習・復習) Course requirements (notes, homework, and tests) will include: 1) Studying notes taken in class; 2) Doing the assigned writing homework on time;

3) Reviewing what you have written in class and for homework to improve your writing;

4) Producing a quality written piece for each test while applying what we have learned; 5)

Answering any questions in class or on tests that are based on the lectures and class notes;

*NOTE: Writing notebooks, pencils and erasers are a must!

英語II発展C

English II Advanced C (Writing)

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 トーマス デール

授業の概要 In this course, students will learn how to improve their writing. We will accomplish this by studying what makes up a paragraph and an essay. In addition, we will study some different rhetorical modes for essay writing (exposition, narration, and argumentation).

学習の目的 Being able to present both your critical and light-hearted thinking in written form is not only a challenging and rewarding experience, but an important skill to possess. Therefore, it is the aim of this class to help you become better writers in various forms in English.

学習の到達目標 Students will be given the chance to improve their writing and proofreading skills by doing them extensively. Students will write both by themselves and with others. Tests (including the Final Exam) will consist of what we have studied and practiced. There will also be one group project in the form of a magazine due at the end of the semester. For students taking this class a second time, each homework assignment will be a little different, thus giving you a new challenge while reinforcing what you have studied previously.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、書き、校閲、意味段落、形式段落、論

Key Word(s) English, writing, proofreading, paragraphs, essays, communication, rhetorical modes, exposition, narration, argumentation

学習内容

受講要件 All students taking this course as a minimum should have passed Eiken Pre 2 or have the following certifications/scores: CEFR B1, TOEIC 400, IELTS 4.0, TOEFL ITP 460, TOEFL IBT 86, or PET

教科書 Text book: None (see optional books below)

参考書 Bring a dictionary, a thesaurus, a pencil and a notebook/writing pad. All other supplemental material will be provided by the teacher. *OPTIONAL: 1) Ready to Write: From Paragraph to Essay, Third Edition (by Karen Blanchard & Christine Root, ISBN: 978-0-13-136334-2); 2) Blueprints for Writing: Building Essays (by Pam Mathis, ISBN: 978-0495802464); 3) An A - Z of Common English Errors for Japanese Learners (Japanese version, by David Barker, ISBN: 978-4990415150)

成績評価方法と基準 Tests 54% (three test, 18% each); Group Magazine Project 25%; Final Exam 21%

オフィスアワー All meetings by appointment. At Mie University's campus on Tuesdays from 9:15 - 12:30, 16:10-20:00.

その他 This class will not only feature extensive writing and reading of one's own work, but participation in the class, participation with others and having a sense of fun are also very important!

Week 1: Introductions, syllabus review, course information, needs analysis, first writing practice
Week 2: Parts of a Paragraph
Week 3: Organization and Signal/Transition Words
Week 4: The Writing Process
Weeks 5-7: Writing Essays and Expository Essays

Weeks 8-10: Narrative Essays

Weeks 11-13: Argumentative Essays

Weeks 14-15: Magazine Production

Week 16: Final exam

学習課題 (予習・復習) Course requirements (notes, homework, and tests) will include: 1) Studying notes taken in class; 2) Doing the assigned writing homework on time;

3) Reviewing what you have written in class and for homework to improve your writing;

4) Producing a quality written piece for each test while applying what we have learned; 5)

Answering any questions in class or on tests that are based on the lectures and class notes;

*NOTE: Writing notebooks, pencils and erasers are a must!

英語II発展D

English II AdvancedD Business English

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習
担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 English II Business English

学習の目的 (1) Putting advanced English vocabulary, grammar and patterns to use in real-life situations, (2) Becoming introduced to business situations in the English speaking world, (3) Interacting in English, not merely passively listening, and (4) Doing all of these things in an "English-only" environment.

学習の到達目標 Students should gain greater confidence in speaking English, particularly in Business situations, and become familiar with some of the nuances that are particular to the business world.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 Students who passed Mie University's TOEIC class, scored 600+ on TOEIC or have otherwise similarly high ability in English. Otherwise, there are no specific requirements. Students should know this

class is *taught* 100% in English. Japanese will NOT be used in class and will be used for communication in small groups or presentation work. All students should be prepared to work and think in English while in this class.

教科書 Business Explorer 3

参考書 None

成績評価方法と基準 Grades will be determined primarily on in-class participation and performance (about 50%), as well as writing projects, presentations, a final test, or other projects which may be assigned.

オフィスアワー None, as I am a part-time teacher. However, I can be contacted easily by e-mail or on social networks.

授業改善への工夫 The majority of this class - and the scores achieved - are based on oral work, mainly in class performance. There is a short final exam that accounts for much less than 50% of the final grade.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) forms of address, telephone English, e-mails, office rules, small talk, giving/taking criticism, hiring

学習内容

Week 1 - Overview and Introduction to the class (and each other)

Week 2 - Business Telephone calls/Initiating a relationship

Week 3 - Phone etiquette/Getting to the point

Week 4 - Business e-mails/Polite correspondence

Week 5 - Organizing and sending a brief business e-mail

Week 6 - Culture shock when going to another country for business

Week 7 - Creating a positive corporate culture

(even on a small scale!)

Week 8 - Asking for, Giving, or Refusing permission

Week 9 - Delegating responsibility

Week 10 - Constructive Criticism

Week 11 - Creating a good Performance Review system

Week 12 - Business Media

Week 13 - Reading Business news in English/
The Value of Electronic information systems

Week 14 - Business communication beyond e-mail and phone calls

Week 15 - Choosing the right media for the purpose

Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE

and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and willingness to do the work necessary!

英語II発展D

English II Advanced D (Business English)

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 English II Business English

学習の目的 (1) Putting advanced English vocabulary, grammar and patterns to use in real-life situations, (2) Becoming introduced to business situations in the English speaking world, (3) Interacting in English, not merely passively listening, and (4) Doing all of these things in an "English-only" environment.

学習の到達目標 Students should gain greater confidence in speaking English, particularly in Business situations, and become familiar with some of the nuances that are particular to the business world.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 Students who passed Mie University's TOEIC class, scored 600+ on TOEIC or have otherwise similarly high ability in English. Otherwise, there are no specific requirements. Students should know this

class is *taught* 100% in English. Japanese will NOT be used in class and will be used for communication in small groups or presentation work. All students should be prepared to work and think in English while in this class.

教科書 Business Explorer 3

参考書 None

成績評価方法と基準 Grades will be determined primarily on in-class participation and performance (about 50%), as well as writing projects, presentations, a final test, or other projects which may be assigned.

オフィスアワー None, as I am a part-time teacher. However, I can be contacted easily by e-mail or on social networks.

授業改善への工夫 The majority of this class - and the scores achieved - are based on oral work, mainly in class performance. There is a short final exam that accounts for much less than 50% of the final grade.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) Time management, stress, advertising/branding, shipping/ordering, future of business, bookkeeping, expense reimbursement, presentations

学習内容

Week 1 - Overview and Introduction to the class (and each other)

Week 2 - Time management as a part of business management

Week 3 - Dealing with stress on the job (maybe different from school stress!)

Week 4 - Corporate and Product Image

Week 5 - What is the value of "branding"?

Week 6 - International shipping methods

Week 7 - Making and Confirming business orders

Week 8 - E-business vs. Traditional Business

Week 9 - Developments in e-business should young people prepare for...

Week 10 - Reading and understanding spreadsheets

Week 11 - Filling out and approving expense reports

Week 12 - What is an effective business presentation...

Week 13 - Giving a good presentation

Week 14 - Business Responsibility and Ethics (Do they exist?)

Week 15 - How the business world will change in the near future...

Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE

and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and willingness to do the work necessary!

英語II 発展E

English II Advanced E

学期 前期 **開講時間** 火9, 10 **単位** 1 **対象** 英語I TOEICの単位を取得した学生、もしくは1年次で既に600点以上を取得した学生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次
選/必 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**
担当教員 嶋村貞志

授業の概要 「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。

学習の目的 TOEICの各パートに関する問題に多数取り組むことで、さらにTOEICのスコアを伸ばすことを目指します。また、頻出の英語表現を確認し、理解・聴覚の練習を積み重ねることで、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標 TOEICにおいて600点以上取得できる英語力を身につける。また、既に600点以上を取得している学生は、さらにスコアを伸ばすための英語力を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容

- 第1回：導入、実力確認テスト
- 第2回：Unit 1 Business Communication (1)
- 第3回：Unit 2 On the Telephone
- 第4回：Unit 3 Preparing Food
- 第5回：Unit 4 In the Workplace
- 第6回：Unit 5 Shopping (1)
- 第7回：Unit 6 Using Transportation
- 第8回：Unit 7 Daily Life
- 第9回：Unit 8 Residence (1)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件 「英語I TOEIC」の単位を取得している、あるいは、1年次にTOEIC600点以上を取得していることが必要です。

発展科目 他の英語IIの科目

教科書 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST, Step 3: Advanced course.アルク

成績評価方法と基準 各Unitごとに行われる小テスト: 50%、学期末テスト: 50%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯は授業の最初にお伝えします。

授業改善への工夫 受講生に積極的に質問・確認し、双方向的な授業を行う。また、重要事項については分かり易く丁寧に説明する。

- 第10回：Unit 9 Making Excuses
- 第11回：Unit 10 Business Communication (2)
- 第12回：Further Practice [1]：Listening
- 第13回：Further Practice [2]：Listening
- 第14回：Further Practice [3]：Reading
- 第15回：期末試験

学習課題（予習・復習） Unitごとに小テストを行うので、授業の内容をしっかりと復習してください。また学期末には、授業内容に基づいた確認テストを行います。

英語II 発展E

English II Advanced E

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 1 **対象** 英語I TOEICの単位を取得した学生、もしくは1年次で既に600点以上を取得した学生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次
選/必 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**
担当教員 嶋村貞志

授業の概要 「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。

学習の目的 TOEICの各パートに関する問題に多数取り組むことで、さらにTOEICのスコアを伸ばすことを目指します。また、頻出の英語表現を確認し、理解・聴覚の練習を積み重ねることで、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標 TOEICにおいて600点以上取得できる英語力を身につける。また、既に600点以上を取得している学生は、さらにスコアを伸ばすための英語力を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容

- 第1回：導入、実力確認テスト
- 第2回：Unit 11 Travel (1)
- 第3回：Unit 12 Complaining
- 第4回：Unit 13 Personnel Affairs
- 第5回：Unit 14 Negotiations
- 第6回：Unit 15 Weather
- 第7回：Unit 16 Events
- 第8回：Unit 17 Residence (2)
- 第9回：Unit 18 Travel (2)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件 「英語I TOEIC」の単位を取得している、あるいは、1年次にTOEIC600点以上を取得していることが必要です。

発展科目 他の英語IIの科目

教科書 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST, Step 3: Advanced course.アルク

成績評価方法と基準 各Unitごとに行われる小テスト: 50%、学期末テスト: 50%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯は授業の最初にお伝えします。

授業改善への工夫 受講生に積極的に質問・確認し、双方向的な授業を行う。また、重要事項については分かり易く丁寧に説明する。

第10回：Unit 19 Shopping (2)

第11回：Unit 20 Job Hunting

第12回：Further Practice [1]：Listening

第13回：Further Practice [2]：Listening

第14回：Further Practice [3]：Reading

第15回：期末テスト

学習課題（予習・復習） Unitごとに小テストを行うので、授業の内容をしっかりと復習してください。また学期末には、授業内容に基づいた確認テストを行います。

英語II 発展E

English II Advanced E

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 英語I TOEICの単位を取得した学生、もしくは1年次で既に600点以上を取得した学生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次
選択 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**
担当教員 澤田 治 (人文学部)

授業の概要 「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。

学習の目的 TOEICの各パートに関する問題に多数取り組むことで、さらにTOEICのスコアを伸ばすことを目指します。また、頻出の英語表現を確認し、理解・聴覚の練習を積み重ねることで、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標 TOEICにおいて600点以上取得できる英語力を身につける。また、既に600点以上を取得している学生は、さらにスコアを伸ばすための英語力を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容

- 第1回：導入、実力確認テスト
- 第2回：Unit 1 Business Communication (1)
- 第3回：Unit 2 On the Telephone
- 第4回：Unit 3 Preparing Food
- 第5回：Unit 4 In the Workplace
- 第6回：Unit 5 Shopping (1)
- 第7回：Unit 6 Using Transportation
- 第8回：Unit 7 Daily Life
- 第9回：Unit 8 Residence (1)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件 「英語I TOEIC」の単位を取得している、あるいは、1年次にTOEIC600点以上を取得していることが必要です。

発展科目 他の英語IIの科目

教科書 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST, Step 3: Advanced course.アルク

成績評価方法と基準 各Unitごとに行われる小テスト: 50%、学期末テスト: 50%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯は授業の最初にお伝えします。

授業改善への工夫 受講生に積極的に質問・確認し、双方向的な授業を行う。また、重要事項については分かり易く丁寧に説明する。

- 第10回：Unit 9 Making Excuses
- 第11回：Unit 10 Business Communication (2)
- 第12回：Further Practice [1]：Listening
- 第13回：Further Practice [2]：Listening
- 第14回：Further Practice [3]：Reading
- 第15回：期末試験

学習課題（予習・復習） Unitごとに小テストを行うので、授業の内容をしっかりと復習してください。また学期末には、授業内容に基づいた確認テストを行います。

英語II 発展E

English II Advanced E

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 英語I TOEICの単位を取得した学生、もしくは1年次で既に600点以上を取得した学生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選択** 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業** 担当教員 澤田 治 (人文学部)

授業の概要 「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。

学習の目的 TOEICの各パートに関する問題に多数取り組むことで、さらにTOEICのスコアを伸ばすことを目指します。また、頻出の英語表現を確認し、理解・聴覚の練習を積み重ねることで、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標 TOEICにおいて600点以上取得できる英語力を身につける。また、既に600点以上を取得している学生は、さらにスコアを伸ばすための英語力を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容

- 第1回：導入、実力確認テスト
- 第2回：Unit 11 Travel (1)
- 第3回：Unit 12 Complaining
- 第4回：Unit 13 Personnel Affairs
- 第5回：Unit 14 Negotiations
- 第6回：Unit 15 Weather
- 第7回：Unit 16 Events
- 第8回：Unit 17 Residence (2)
- 第9回：Unit 18 Travel (2)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件 「英語I TOEIC」の単位を取得している、あるいは、1年次にTOEIC600点以上を取得していることが必要です。

発展科目 他の英語IIの科目

教科書 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST, Step 3: Advanced course.アルク

成績評価方法と基準 各Unitごとに行われる小テスト: 50%、学期末テスト: 50%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯は授業の最初にお伝えします。

授業改善への工夫 受講生に積極的に質問・確認し、双方向的な授業を行う。また、重要事項については分かり易く丁寧の説明する。

第10回：Unit 19 Shopping (2)

第11回：Unit 20 Job Hunting

第12回：Further Practice [1]：Listening

第13回：Further Practice [2]：Listening

第14回：Further Practice [3]：Reading

第15回：期末テスト

学習課題（予習・復習） Unitごとに小テストを行うので、授業の内容をしっかりと復習してください。また学期末には、授業内容に基づいた確認テストを行います。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (German A)

学期 前期 **開講時間** 火 1, 2, 5, 6, 7, 8; 木 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 「三重大学教養教育履修案内」「教養教育授業科目時間割表」に記載のとおり

授業の概要 教員はドイツ語の基礎的な文法事項や語彙、発音を説明し、受講生は練習問題などによって修得します。

学習の目的

ドイツ語の基本的な構造を把握することにより、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化に対する理解を深めます。ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得して、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。

学習の到達目標 辞書を使ってドイツ語のごく簡単な文章を読み、書くことができる。

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」を、指定されたクラスで、それぞれ週1回ずつ受講してください。

発展科目 会話を学びたい人は、「異文化理

解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。そこに書かれていない場合は、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が授業中に紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が授業中に説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他 各クラスの受講者数を均一にするため、履修申告後にクラス分け（人数調整）を行います。調整結果は教養教育掲示板で必ず確認して、指定された受講クラスを間違えないようにしてください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語文法の基礎を学習します。

学習内容

練習問題などによって、ドイツ語の基礎的な文法と語彙を学びます。

文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験5級に対応する内容を6月までに習得することを目安とします。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (German A)

学期 後期 **開講時間** 火 1, 2, 5, 6, 7, 8; 木 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」と同じ教員です。

授業の概要 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」に引き続き、教員はドイツ語の基礎的な文法事項や語彙を説明し、受講生は練習問題などにより習得します。

学習の目的

ドイツ語の基本的な構造を把握することによって、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項を習得し、さらに過去形や現在完了形まで学ぶことにより、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。

学習の到達目標 辞書を使ってドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる。

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b」を、指定されたクラスで、それぞれ週1回ずつ受講してください。「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」を履修していない学生は、この科目を受講することができません。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語文法の基礎を学習します。

学習内容

「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」に引き続き、基礎的な文法事項と語彙を学習し、練習問題などによって習熟します。文法や語彙については、ドイツ語技能検定試

予め履修が望ましい科目 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」を必ず履修していること。

発展科目

2年次で、「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）」を履修してください。

会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」と同じ教科書を引き続き使用します。そうでない場合には、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が授業中に紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が授業中に説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

験4級に対応する内容を11月前半までに習得することを目安とし、11月後半以降に初級ドイツ語の残りの範囲（過去形や現在完了形など）を学びます。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (German B)

学期 前期 **開講時間** 火1, 2, 5, 6, 7, 8; 木5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 「三重大学教養教育履修案内」「教養教育授業科目時間割表」に記載のとおり

授業の概要 ペア練習やリスニングなどによって、ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を養成します。

学習の目的

ドイツ語の基本的な構造を把握することとおして、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得して、ドイツ語の基礎的な表現力と会話を身につけます。

学習の到達目標 ドイツ語でごく簡単な自己紹介をおこなったり、持ち物や家族について会話することができる。

本学教育目標との関連 実践外国語力

受講要件 1クラスの受講者数は最大25名で、履修申告者数が制限人数を超えた場合、無作為抽選（人数調整）を行います。調整の結果、「ドイツ語B」を受講できない学生は、

「ドイツ語A」を受講してください。

発展科目 さらに会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。そこに書かれていない場合は、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語会話の基礎を学習します。

学習内容

ペア練習などによって、基礎的なドイツ語会話を学びます。

文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験5級に対応する内容を6月までに習得することを目安とします。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (German B)

学期 後期 **開講時間** 火 1, 2, 5, 6, 7, 8; 木 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 「三重大学教養教育履修案内」「教養教育授業科目時間割表」に記載のとおり

授業の概要 ペア練習やリスニングなどによって、ドイツ語の語彙や文法を習得しつつ、ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を養成します。

学習の目的

ドイツ語の基本的な構造を把握することをおもとして、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項や、さらに過去形と現在完了形も習得して、平易なドイツ語で会話できる能力を身につけます。

学習の到達目標 日常的な事柄について、平易なドイツ語で会話することができる。

本学教育目標との関連 実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a」を

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語会話の基礎を学習します。

学習内容

「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a」に引き続き、ペア練習などによって、ドイツ語会話の基礎を学びます。基礎的な文法と語彙も習得します。

履修していない学生は、この科目を受講することができません。

発展科目 「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）」 「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）」

教科書 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a」と同じ教科書を引き続いて使用します。そうでない場合には、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

11月前半までにドイツ語技能検定試験4級に対応する内容を習得することを目安とし、11月後半以降に初級ドイツ語の残りの範囲（過去形や現在完了形など）を学びます。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (French)

学期 前期 **開講時間** 火1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 井出 勉（非常勤講師）、山本 寛（人文学部）

授業の概要 フランス語の文法と語彙の基礎的な知識を学ぶ

学習の目的 初歩的な日常的フランス語を読んで理解し書くことができるようになること

学習の到達目標 異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aと並行して履修し、理解、修得、暗記がすべて十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験5級合格程度の実力が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 『デビュー！ フランス語初級』朝日出版社（表紙には『Début!』と書いてあります）。この教科書は異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aと共通して用います。

授業計画・学習の内容

キーワード フランス語入門 文法 語彙

Key Word(s) introduction to French, grammar, vocabulary

学習内容

教科書冒頭の発音の仕方から始め、1課から6課までの Grammaire および Exercices と題された部分を、1課につき授業2回ないし3回のペースを基本にし、全体を15回で学びます。1課 être の直説法現在、主語人称代名詞、名詞 2課 定冠詞と不定冠詞、avoir の直説法現在

参考書 辞書については異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aの説明を参照してください。

成績評価方法と基準 試験で100%。合格点に若干及ばない場合など、受講態度を成績評価に反映させることがある。

オフィスアワー 連絡窓口は人文学部・山本寛（人文校舎2階）。月・火・木の昼休み、それ以外でも可能な限り対応します。メール（kakan@human.mie-u.ac.jp）は随時受け付けます。

その他

人文学部と教育学部は火3・4限（山本）、医学部は火1・2限（山本）、工学部は火5・6限（山本）、生物資源学部は火7・8限（井出）です。自分の学部のクラスで前期と後期を通して履修してください。再履修者と編入学生はどの学部のクラスでも構いません。

3課 第一群規則動詞、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞

4課 第二群規則動詞、不規則動詞、部分冠詞、疑問文

5課 aller と venir、前置詞の縮約、近接未来、近接過去

6課 pouvoir と vouloir、疑問形容詞、非人称構文

学習課題（予習・復習） 各担当教員が教室で説明します。

異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）b

Basic Course in Foreign Studies (French) I b

学期 後期 開講時間 火1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習
担当教員 井出 勉（非常勤講師）、山本 寛（人文学部）

授業の概要 フランス語の文法と語彙の基礎的な知識を学ぶ

学習の目的 基礎的な日常的フランス語を読んで理解し書くことができるようになること

学習の到達目標 異文化理解Ⅰ演習（フランス語）bと並行して履修し、理解、修得、暗記がすべて十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験4級合格程度の実力が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a、またはフランス語Ⅰ文法（前）を受講済であること。もしくは仏検5級程度の能力があること。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a、またはフランス語Ⅰ文法（前）

発展科目 異文化理解Ⅱ総合（フランス語）a

教科書 『デビュー！ フランス語初級』朝日

授業計画・学習の内容

キーワード フランス語入門 文法 語彙

Key Word(s) introduction to French, grammar, vocabulary

学習内容

教科書の7課から13課までの Grammaire および Exercices と題された部分を、1課につき授業2回ないし3回のペースを基本にし、全体を15回で学びます。

出版社（表紙には『Début!』と書いてあります）。この教科書は異文化理解Ⅰ演習（フランス語）bと共通して用います。

参考書 辞書については異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aの説明を参照してください。

成績評価方法と基準 試験で100%。合格点に若干及ばない場合など、受講態度を成績評価に反映させることがある。

オフィスアワー 連絡窓口は人文学部・山本寛（人文校舎2階）。月・火・木の昼休み、それ以外でも可能な限り対応します。メール（kakusan@human.mie-u.ac.jp）は随時受け付けます。

その他

人文学部と教育学部は火3・4限（山本）、医学部は火1・2限（山本）、工学部は火5・6限（山本）、生物資源学部は火7・8限（井出）です。自分の学部のクラスで前期と後期を通して履修してください。

再履修者と編入学生はどの学部のクラスでも構いません。

7課 目的語人称代名詞、強勢形

8課 il faut、命令法、devoir

9課 代名動詞、関係代名詞

10課 複合過去

11課 半過去、受動態、指示代名詞

12課 中性代名詞、比較級、最上級

13課 単純未来、現在分詞、ジェロンディフ

学習課題（予習・復習） 各担当教員が教室で説明します。

異文化理解Ⅰ基礎（中国語）a

Basic Course in Foreign Studies I a (Chinese)

学期 前期 **開講時間** 火 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 福田和展（人文学部）

湯浅陽子（人文学部）

花尻奈緒子（人文学部特任教員）

曾若涵（人文学部特任教員）

荒井茂夫（非常勤講師）

陳志平（非常勤講師）

中野麻里子（非常勤講師）

授業の概要 全クラス共通のテキストに沿って、中国語の基礎発音、基礎文法を学ぶ。

教科書 2015パイロットテキスト 中国語Ⅰ基礎

学習の目的 中国語の基礎発音と基礎文法を習得する。

参考書 授業で指定

学習の到達目標 中国語検定試験準4級取得

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

中国語検定準4級取得或いは前期期末統一試験の結果 50%

受講要件 大学入学以前に中国語を学習し、中級レベル以上の中国語能力を有する者、中国語圏からの留学生、日常的に中国語を使用している者は履修出来ない。

オフィスアワー 授業・会議以外の全ての時間。事前にメールにてアポイントをとること。メールアドレスは教養教育履修案内「異文化理解」のページを参照すること。

発展科目 異文化理解Ⅱ演習(中国語)、異文化理解Ⅱ演習(中国語)

その他 教科書は必ず最新版を購入すること。予習復習をしっかりとしよう。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語基礎発音、基礎文法

学習内容

第1課 基礎発音 (1)

第2課 基礎発音 (2)

第3課 这是什么?

第4課 今天忙, 明天不忙。

第5課 他看报。

第6課 你今天吃早饭了没有?

第7課 你有人民币吗?

第8課 你的生日几月几号?

第9課 书包里有很多书。

第10課 我在这儿吃饭。

学習課題（予習・復習） 予習復習を必ず行うこと。

異文化理解Ⅰ基礎（中国語）b

Basic Course in Foreign Studies I b (Chinese)

学期 後期 **開講時間** 火 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 福田和展（人文学部）

湯浅陽子（人文学部）

花尻奈緒子（人文学部特任教員）

曾若涵（人文学部特任教員）

荒井茂夫（非常勤講師）

陳志平（非常勤講師）

中野麻里子（非常勤講師）

授業の概要 前期に引き続き、全クラス共通のテキストに沿って、中国語の基礎発音、基礎文法を学ぶ。

学習の目的 中国語の基礎発音と基礎文法を習得する。

学習の到達目標 中国語検定試験4級取得

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 大学入学以前に中国語を学習し、中級レベル以上の中国語能力を有する者、中国語圏からの留学生、日常的に中国語を使用している者は履修出来ない。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語基礎発音、基礎文法

学習内容

第11課 我想在这儿休息一下。

第12課 你会开车吗？

発展科目 異文化理解Ⅱ演習（中国語）、異文化理解Ⅱ総合（中国語）

教科書 2015パイロットテキスト 中国語Ⅰ基礎

成績評価方法と基準

「授業への積極的参加 50%

中国語検定準4級取得或いは前期期末統一試験の結果 50%

オフィスアワー 授業・会議以外の全ての時間。事前にメールにてアポイントをとること。メールアドレスは教養教育履修案内「異文化理解」のページを参照すること。

その他 教科書は必ず最新版を購入すること。予習復習をしっかりとしよう。

第13課 我比你大三岁。

第14課 她打了一个小时的电话。

第15課 学好汉语很不容易。

第17課 请您把这本小说翻译成日文吧。

第18課 你要买什么, 就买什么？

異文化理解 I 基礎 (朝鮮語) a

Basic Course in Foreign Studies Ia (Korean)

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 有吉 登美子

授業の概要

日本では朝鮮半島で主として使用されている言語を総体的に朝鮮語、現在の韓国で話されている言語を韓国語と呼んでいる。朝鮮半島は分断され二つの国が存在し、長びく分断の影響で両国の言語にも違いが見られはするものの、同一の言語であることに変わりはない。

授業では韓国及び韓国語を対象とする。

まず表記法であるハングルについてその成り立ち及び発音のルールについて説明する。韓国語は日本語と非常によく似た文法構造を持っているが、音に関しては日本語にないものも多い。そのため音を聞き取る・発音するという点にポイントを置き授業を進める。

学習の目的 ハングルの覚えるとともに韓国語の構造を理解する。

学習の到達目標 ハングルとその発音のルールを覚える。日常の挨拶ができるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード ハングルの覚えよう

Key Word(s) Let's learn the Korean alphabet

学習内容

- 第1回 ガイダンス／韓国語及びハングルについて
- 第2回 基本的な母音字母とその発音
- 第3回 基本的な子音字母とその発音 (I)
- 第4回 // (II)
- 第5回 無声子音の有声音化
- 第6回 発展形の母音字母とその発音 (I)
- 第7回 発展形の子音字母とその発音
- 第8回 発展形の母音字母とその発音 (II)
- 第9回 パッチムとその発音

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

「コミュニケーション韓国語 読んで書こう」 白帝社
辞書「朝鮮語辞典」小学館／「ポケットプログレッシブ韓日韓辞典」小学館

成績評価方法と基準 小テストおよび授業への積極的参加30%、期末試験70% (合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日 12:00～13:00 非常勤講師室

授業改善への工夫 できるだけ学生の要望を取り入れ柔軟に対応する。

その他 異文化理解I 演習と併せて受講する学生は必ず「朝鮮語辞典」(小学館)を購入すること。

- 第10回 連音化 (I)
- 第11回 連音化 (II) / その他の発音のルール
- 第12回 自己紹介 (I) : 名前と所属 指定詞と上称形の終結語尾の使い方を学ぶ
- 第13回 //
- 第14回 自己紹介 (II) : 年齢と趣味 日本とは異なる年齢の数え方について理解する 漢数詞を覚える
- 第15回 //
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習)

必ずCDを聞いて授業に臨むこと。
進度に応じて随時小テストを実施する。

異文化理解 I 基礎 (朝鮮語) b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Korean)

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 有吉 登美子

授業の概要

前期に続き音を聞き取る・発音するという点にポイントを置くとともに、基礎的な表現をもとに表現能力を養えるよう考慮して授業を進める。

よく似た二つの言語のなかで異なる表現に着目し、日本語との対照を試みる。

学習の目的 基礎文法を段階的に学ぶ。話す・聞き取る・作文するという総合的な能力を身につける。

学習の到達目標 基礎的な表現及び運用能力を身につけ身近なことを表現できるようにする。また韓国人のものの見方・考え方を表現を通して理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ハングルを理解し、発音できること。

教科書

「コミュニケーション韓国語 読んで書こう」 白帝社
辞書「朝鮮語辞典」小学館 / 「ポケットプログレッシブ韓日韓辞典」小学館

成績評価方法と基準 小テスト及び授業への積極的参加30%、期末試験70% (合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日 12:00~13:00 非常勤講師室

授業改善への工夫 できるだけ学生の要望を取り入れ柔軟に対応する。

その他 異文化理解I 演習も併せて受講する学生は必ず「朝鮮語辞典」(小学館)を購入すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 身近なことを表現しよう

Key Word(s) Let's express everyday life

学習内容

第1回 家族を紹介する：存在詞及び動詞 固有数詞を覚える

第2回 //

第3回 学校を紹介する：並列・逆接の接続語尾 用言の語幹と語尾を理解する

第4回 //

第5回 日常生活を話す：さまざまな動詞

第6回 好き嫌いを話す：否定表現

第7回 //

第8回 身近なできごとを話す：過去形及び略待

丁寧形の終結語尾

第9回 //

第10回 旅行の経験を話す：連体形

第11回 //

第12回 //

第13回 好き嫌いの理由を話す：可能及び不可能の表現、原因・理由を表す接続語尾

第14回 //

第15回 将来の目標を話す：願望及び条件を表す接続語尾

第16回 試験

学習課題 (予習・復習)

必ずCDを聞いて授業に臨むこと。

進度に応じて随時小テストを実施する。

異文化理解I基礎（ロシア語）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (Russian)

学期 前期 開講時間 水5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 山路 明日太

授業の概要 異文化理解の観点からみて、英語以外にいくつかの外国語を知ることが大切です。本授業では、ヨーロッパの言語のなかでも英語とはおおくの点で異なるロシア語を学び、そのことによって言語の多様性を知ってもらいたいと思います。ロシア語の発音の基礎を手はじめに、初級文法をすこしずつ学んでいきます。

学習の目的 ロシア語の基礎的な文法を習得したうえで、日常生活でよく使われる文章を理解でき、自らの考えを伝えられるようになることをめざします。

学習の到達目標

- 1) ロシア語の文字を正確に発音できる。
- 2) ロシア語の文字を自由に読み書きできる。
- 3) ロシア語で簡単な挨拶、受け答えができる。
- 4) ロシア語初等文法の基礎を理解し、運用できる。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、論理的思考力、問題解決力、情報受発信力、指導力・協調性、実践外国語力、感じる

授業計画・学習の内容

キーワード ロシア、ロシア語、文法、異文化理解

Key Word(s) Russia, Russian language, Grammar, Cross-cultural understanding

学習内容

1. ガイダンス、ロシア語の全体的特徴について。
2. アルファベットと発音 (1)。硬母音字と子音字。
3. アルファベットと発音 (2)。軟母音字と子音字。
4. アルファベットと発音 (3)。子音字と発音の規則。
5. アルファベットと発音 (4)。子音字と発

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ありません。

予め履修が望ましい科目 異文化理解I演習（ロシア語）aも合わせて受講することが望ましい。

教科書 黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。

参考書 辞書は必要ありませんが、活用することで学習効果が上がります。例えば、木村彰一ほか『ロシア語辞典』（博友社）を推薦します。

成績評価方法と基準 平常点30%、小テスト・課題30%、定期試験40%。

オフィスアワー 非常勤のため、連絡方法については初回のガイダンス時に説明します。

授業改善への工夫 英語や日本語の文法などと比較しながら、理解しやすい説明を心がけます。難しい発音や文法事項については何度も基礎に立ち返りながら説明します。

- 音の規則。
6. アルファベットと発音 (5)。記号。やさしい表現と挨拶。
 7. 人称代名詞と性の区別。
 8. 所有代名詞。「だれの」「私の」など。
 9. 動詞の現在変化 (1)。
 10. 動詞「住んでいる」と場所の表現。「〜で」。
 11. 場所の表現における前置詞の使い分け。
 12. 動詞の現在変化 (2)。
 13. 不規則動詞の変化。「〜が好きだ」「〜がほしい」。
 14. 形容詞の三つのタイプ。ロシア人の姓と父称。
 15. これまでの復習と応用。

学習課題（予習・復習） 授業に際して基本的な予習は必要ありませんが、復習は必ずするようにしてください。

異文化理解I基礎（ロシア語）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Russian)

学期 後期 開講時間 水5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 山路 明日太

授業の概要 異文化理解の観点からみて英語以外にいくつかの外国語を知ることは大切です。本授業では、ヨーロッパの言語のなかでも英語とはおおくの点で異なるロシア語を学び、そのことによって言語の多様性を知ってほしいと思います。ロシア語の初級文法を基礎からすこしずつ学んでいきます。

学習の目的 前期にひきつづき、ロシア語の初等文法を習得する。ロシア語の文章を読解し、短い文を自ら書くことができる力を身につける。

学習の到達目標

- 1) ロシア語の短い文章を、アクセントやイントネーションに注意しながら正確に発音できる。
- 2) ロシア語で必要不可欠な会話ができる。
- 3) ロシア語の初等文法を理解し、運用できる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード ロシア、ロシア語、文法、異文化理解

Key Word(s) Russia, Russian language, Grammar, Cross-cultural understanding

学習内容

1. ガイダンス。これまでの文法事項の復習。
2. 名詞・形容詞の複数形。正書法の規則。
3. 所有の表現「～を持っている」。病気の表現。
4. 形容詞のまとめ。「全員／全部」の表現。格変化についての全体的説明。
5. 対格の作り方。対格の使い方：目的「～を」。
6. 過去の表現。「いる・ある」の過去の表現。

受講要件 異文化理解I基礎（ロシア語）aを履修済みであること、ないしは、同程度のロシア語文法の知識をもっていること。

予め履修が望ましい科目 異文化理解I演習（ロシア語）bも合わせて受講することが望ましい。

教科書 黒田 龍之助「ロシア語文法への旅」（大学書林）

参考書 辞書は必要ありませんが、活用することで学習効果が上がります。例えば、木村 彰一ほか『ロシア語辞典』（博友社）を推薦します。

成績評価方法と基準 平常点30%、小テスト・課題30%、定期試験40%。

オフィスアワー 非常勤のため、連絡方法については初回のガイダンス時に説明します。

授業改善への工夫 英語や日本語の文法などと比較しながら、理解しやすい説明を心がけます。難しい文法事項については何度も基礎に立ち返りながら説明します。

7. 行き先の表し方：「向かっている／かよっている」の違い。「行ってきた」の表現。交通手段の表し方。
8. 生格の作り方。生格の使い方：所有「～の」、存在の否定「～がない、いない」。
9. 前置格の作り方。場所の表現。ся動詞の活用。
10. 与格の作り方。与格の使い方：間接目的「～に」。命令形の作り方。
11. 可能・必要・禁止の表現。状態の表現。
12. 曜日の名称、「～曜日に」の表現。未来の表現。「いる・ある」の未来の表現。
13. 数詞と名詞の結びつき。年齢・時間・値段・人数・回数

14. 造格の作り方。造格の使い方：道具・手
段「～で」。「～とともに」の表現。

15. これまでの復習と応用。

学習課題（予習・復習） 授業に際して予習
はさほど必要ありませんが、復習は必ずする
ようにしてください。

異文化理解 I 基礎 (スペイン語) a

Basic course in Foreign Studies Ia (Spanish)

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 伊藤ゆかり (非常勤講師)

授業の概要 文法事項を中心に授業を進め、スペイン語の基礎を学びます。身近な出来事をスペイン語で作文したり、スペイン語圏に関する文章を読んでいきます。

学習の目的 スペイン語は、約4億2千万人という膨大な数の話者を持ち、20カ国の公用語となっています。またアメリカ合衆国でもヒスパニック系の移民が激増し、その勢力も増してきています。この授業では、スペイン語圏の様々な文化を紹介しながら、スペイン語の基礎文法の習得を目標とします。

学習の到達目標

スペイン語の基礎的な文法事項を学び、現在時制を用いた自己表現ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,専門知識・技術,社会人としての態度,実践外国語力,感じる力、

考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 異文化理解 I 演習 (スペイン語) aを同時に受講することが望ましい。

教科書 教科書: 『スペイン語を学ぼうよ! 改訂版』 (朝日出版社)

参考書

推薦問題集: 『とことんどリル スペイン語』 (朝日出版社)

推薦辞書: 『プログレッシブスペイン語辞典』 (小学館)

成績評価方法と基準 定期試験 (70%)、授業への参加度 (30%) により総合的に評価する。

オフィスアワー 授業中に対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎スペイン語文法の習得

学習内容

第1回 スペイン語とスペイン語圏について

第2回 アルファベット、発音、アクセント

第3回 名詞と冠詞

第4回 主格人称代名詞とser動詞

第5回 形容詞、指示詞

第6回 疑問文、所有詞

第7回 estar動詞とhay

第8回 ser動詞、estar動詞、hayの使い分け

第9回 不定語と否定語

第10回 直説法現在 -ar動詞

第11回 疑問詞

第12回 直説法現在 -er動詞

第13回 直説法現在 -ir動詞

第14回 目的格人称代名詞

第15回 まとめ

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 新しい語学を学ぶ場合は、復習の積み重ねが必要とされる。授業で学習したことを各自復習することを勧める。

異文化理解 I 基礎 (スペイン語) b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Spanish)

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 伊藤ゆかり (非常勤講師)

授業の概要 文法事項を中心に授業を進め、スペイン語の基礎を学びます。身近な出来事をスペイン語で作文したり、スペイン語圏に関する文章を読んでいきます。

学習の目的 スペイン語は、約4億2千万人という膨大な数の話者を持ち、20カ国の公用語となっています。またアメリカ合衆国でもヒスパニック系の移民が激増し、その勢力も増してきています。この授業では、スペイン語圏の様々な文化を紹介しながら、スペイン語の基礎文法の習得を目標とします。

学習の到達目標

スペイン語の基礎的な文法事項を学び、現在、過去、未来時制を用いた自己表現ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,専門知識・技術,社会人としての態度,実践外国語力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した

力

受講要件 異文化理解 I 基礎 (スペイン語) a を受講済みであることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 異文化理解 I 演習 (スペイン語) b を同時に受講することが望ましい。

教科書 教科書: 『スペイン語を学ぼうよ! 改訂版』 (朝日出版社)

参考書

推薦問題集: 『とことんどリル スペイン語』 (朝日出版社)

推薦辞書: 『プログレッシブスペイン語辞典』 (小学館)

成績評価方法と基準 定期試験 (70%)、授業への参加度 (30%) により総合的に評価する。

オフィスアワー 授業中に対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎スペイン語文法の習得

学習内容

- 第1回 前期に学んだ文法事項の復習
- 第2回 gustar型動詞
- 第3回 前置詞格人称代名詞
- 第4回 直説法現在 不規則動詞
- 第5回 直説法現在 不規則動詞と熟語
- 第6回 再帰動詞
- 第7回 無人称文
- 第8回 過去分詞と現在完了
- 第9回 現在分詞と現在進行形

第10回 直説法点過去 規則動詞

第11回 比較表現

第12回 直説法点過去 不規則動詞

第13回 直説法線過去

第14回 直説法未来

第15回 まとめ

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 新しい語学を学ぶ場合は、復習の積み重ねが必要とされる。授業で学習したことを各自復習することを勧める。

異文化理解 I 基礎 (ポルトガル語) a

Basic Course in Foreign Studies Ia (Portuguese)

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 重松 由美

授業の概要 この授業は、ブラジル・ポルトガル語を初めて学ぶ人を対象としており、初歩から学習していきます。まずは発音に慣れ、次に簡単な挨拶や身近な表現を学んでいきます。

学習の目的 日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育や医療分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。現場で用いられる基本的表現を理解し、またそれを応用するための知識を習得します。

学習の到達目標 ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、基本的な挨拶表現と現在時制を用いた自己表現ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 「異文化理解 I 演習」も合わせて受講することが望ましい。

発展科目 「異文化理解 I 演習」

教科書 『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美著、朝日出版社。

参考書

『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。

『ディリー一日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所。

成績評価方法と基準 小テスト20%、授業態度20%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 講師はスペイン語の知識もあるため、スペイン語学習者には両言語を比較しながら教えることができ、より効果的な授業を提供できます。

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語文法入門

Key Word(s) Introduction to Portuguese Grammar

学習内容

ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を習得できるように、多くの練習問題に取り組みます。

第1回 アルファベット、発音

第2回 挨拶表現、主語となる人称代名詞

第3回 動詞ser (職業の表現)、疑問文、否定文

第4回 動詞ser (出身地の表現)

第5回 名詞の性と数

第6回 指示詞、所有形容詞

第7回 動詞ter

第8回 形容詞

第9回 冠詞、定冠詞と前置詞deの縮合形

第10回 動詞estar (状態表現)

第11回 動詞estar (位置表現)

第12回 規則動詞の活用形

第13回 規則動詞の使い方 (頻度を表す表現)

第14回 動詞ir

第15回 疑問詞

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習)

・課題は必ずやってください。

・わからない点があった場合は、積極的に授業中に質問してください。

異文化理解 I 基礎 (ポルトガル語) a

Basic Course in Foreign Studies Ia (Portuguese)

学期 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学び、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けていく。前期はポルトガル語の文法に慣れて、簡単な表現を言えるようにする。

学習の目的 東海地方にはたくさんのブラジル人が住んでいるので、ブラジルポルトガル語は非常に身近な言語である。将来的にポルトガル語を使って簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語の初歩文法を学んでいく

学習の到達目標 簡単な自己紹介をポルトガ

ル語で説明できるようにする

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書 (電子辞書でも可)

成績評価方法と基準 定期試験 (9割)、授業態度 (小テスト含む) (1割)

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語

Key Word(s) Portuguese

学習内容

1. 履修に関するガイダンス
2. 文字と発音
3. 名詞の性数
4. 数字
5. SER動詞、疑問文と否定文
6. 形容詞
7. 指示詞、所有詞

8. 今までの復習
9. 規則動詞の活用
10. 前置詞
11. IR動詞、TER動詞
12. FAZER動詞、疑問詞
13. PODER動詞、QUERER動詞
14. 月日の表現
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題 (予習・復習) 基本的に課題を毎回出すので、必ずやってくること。

異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 重松 由美

授業の概要 この授業は、ブラジル・ポルトガル語を初めて学ぶ人を対象としており、初歩から学習していきます。まずは発音に慣れ、次に簡単な挨拶や身近な表現を学んでいきます。

学習の目的 日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育や医療分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。現場で用いられる基本的表現を理解し、またそれを応用するための知識を習得します。

学習の到達目標 ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、応用表現と過去時制を用いた自己表現ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ演習」も合わせて

受講することが望ましい。

予め履修が望ましい科目 「異文化理解Ⅰ基礎」

発展科目 「異文化理解Ⅰ演習」

教科書 『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美著、朝日出版社。

参考書

『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。

『デイリー日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所。

成績評価方法と基準 小テスト20%、授業態度20%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 講師はスペイン語の知識もあるため、スペイン語学習者には両言語を比較しながら教えることができ、より効果的な授業を提供できます。

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語文法入門

Key Word(s) Introduction to Portuguese Grammar

学習内容

ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を習得できるように、多くの練習問題に取り組みます。

第1回 estar動詞（状態）

第2回 estar動詞（場所）

第3回 現在進行形

第4回 直説法完全過去

第5回 時間表現

第6回 前置詞と指示詞の縮合形

第7回 再帰動詞

第8回 直説法完全過去の不規則活用動詞

第9回 不定代名詞・不定形容詞

第10回 直説法不完全過去

第11回 saberとconseguir

第12回 目的格人称代名詞

第13回 現在完了

第14回 比較級

第15回 まとめ

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習）

・課題は必ずやってきてください。

・わからない点があった場合は、積極的に授業中に質問してください。

異文化理解 I 基礎 (ポルトガル語) b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学び、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けていく。後期は前期で学んだ文法事項を踏まえて、さらに発展した表現を覚えていく。

学習の目的 東海地方にはたくさんのブラジル人が住んでいるので、ブラジルポルトガル語は非常に身近な言語である。将来的にポルトガル語を使って簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語の初歩文法を学んでいく。

学習の到達目標 自分の行動や考えをポルト

ガル語で表現できるようにする

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書 (電子辞書でも可)

成績評価方法と基準 定期試験 (9割)、授業態度 (小テスト含む) (1割)

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語

Key Word(s) Portuguese

学習内容

1. 前期の復習
2. ESTAR動詞
3. 現在進行形
4. 時間表現
5. 完全過去形
6. 再帰動詞
7. 完全過去不規則動詞

8. 今までの復習
9. 不完全過去形
10. SABER動詞
11. 目的格人称代名詞
12. 現在完了
13. 比較級・最上級
14. 大きい数字
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題 (予習・復習) 基本的に課題を毎回出すので、必ずやってくる。

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a

Seminar in Foreign Studies Ia (German A)

学期 前期 **開講時間** 火3,4; 木1,2,3,4,7,8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 「三重大学教養教育履修案内」「教養教育授業科目時間割表」に記載のとおり

授業の概要 ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化と社会について学びつつ、ドイツ語の語彙や文法を習得します。

学習の目的

ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）のさまざまな文化的現象や社会的事件について学ぶことで、ドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得することによって、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。

学習の到達目標

ドイツ語圏のさまざまな社会的事象やその文化的背景について、説明することができる。辞書を使って、ドイツ語のごく簡単な文章を読み、書くことができる。

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」を、指定されたクラスで、それぞれ週1回ずつ

受講してください。

発展科目 会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。そこに書かれていない場合は、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が授業中に紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が授業中に説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他 各クラスの受講者数を均一にするため、履修申告後にクラス分け（人数調整）を行います。調整結果は必ず確認して、指定された受講クラスを間違えないようにしてください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語とドイツ文化の初歩を総合的に学習します。

学習内容

ドイツ語を公用語とする国々の文化やものの見方、生活の仕方について、教員による解説や授業中に出される課題などをとおして学びます。

文化の学習と同時に、ドイツ語の基礎的な読解練習と文法練習も行います。文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験5級に対応する内容を6月までに習得することを目安とします。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b

Seminar in Foreign Studies Ib (German A)

学期 後期 **開講時間** 火3,4; 木1,2,3,4,7,8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」と同じ教員です。

授業の概要 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」に引き続き、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化と社会について学びつつ、ドイツ語の語彙や文法を習得します。

学習の目的

「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」に引き続き、さまざまな文化的事象について学ぶことをとおして、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項を習得し、さらに過去形や現在完了形まで学ぶことによって、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。

学習の到達目標

ドイツ語圏のさまざまな社会的事象やその文化的背景について、説明することができる。辞書を使って、ドイツ語の平易な文章を読み、書くことができる。

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b」を、指定されたクラスで、それぞれ週1回ずつ受講してください。「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」を履修していない学生は、この科目を受講することができません。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語とドイツ文化の初歩を総合的に学習します。

学習内容

「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」に引き続き、ドイツ語圏（ドイツ、スイス、オーストリアなど）の文化やものの見方、生活の仕方などについて、教員の説明や、授業中に出される課題などをとおして学びます。文化の学習と同時に、ドイツ語の基礎的な読

解練習と文法練習も行います。文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験4級に対応する内容を11月前半までに習得することを目安とし、11月後半以降に初級ドイツ語の残りの範囲（過去形や現在完了形など）を学びます。

予め履修が望ましい科目 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」を必ず履修していること。

発展科目

2年次で、「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）」を履修してください。会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」と同じ教科書を引き続いて使用します。そうでない場合には、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が授業中に紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が授業中に説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a

Seminar in Foreign Studies Ia (German B)

学期 前期 **開講時間** 火3,4; 木1,2,3,4,7,8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ または ユング ヨーハン

授業の概要 ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の文化と社会について学びつつ、簡単なドイツ語会話を練習します。

学習の目的

ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）のさまざまな文化的現象について学ぶことによって、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得して、基礎的なドイツ語会話の能力を身につけます。

学習の到達目標

ドイツ語圏のさまざまな社会的現象やその文化的背景について説明することができる。ドイツ語で簡単な自己紹介を行い、持ち物や家族について会話することができる。

本学教育目標との関連

 実践外国語力

受講要件 1クラスの受講者数は最大25名で、履修申告者数が制限人数を超えた場合、無作為抽選（人数調整）を行います。調整の結果、「ドイツ語B」を受講できない学生は、

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語圏の文化とドイツ語会話の基礎を学習します。

学習内容

ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の文化やものの見方、生活の仕方などについて、教員による説明や授業中に出される課題などをとおして学びます。文化の学習と同時に、簡単なドイツ語会話の

「ドイツ語A」を受講してください。

発展科目 さらに会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。そこに書かれていない場合は、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他

会話授業では、能動的、積極的に授業に参加することが必要です。

授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

練習も行い、実際の場面でドイツ語を使うための基礎学力を養成します。文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験5級に対応する内容を6月までに習得することを目安とします。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）b

Seminar in Foreign Studies Ib (German B)

学期 後期 **開講時間** 火 3, 4; 木 1, 2, 3, 4, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ または ユング ヨーハン

授業の概要 ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化と社会について学びつつ、ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を養成します。

学習の目的

ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）のさまざまな文化的事象について学ぶことによって、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項を習得し、さらに過去形や現在完了形も学ぶことによって、ドイツ語の基礎的な表現力とリスニング能力を身につけます。

学習の到達目標

ドイツ語圏のさまざまな社会的事象やその文化的背景について説明することができる。日常的な事柄について、平易なドイツ語で会話することができる。

本学教育目標との関連

 実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a」を履修していない学生は、この科目を受講することができません。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語圏の文化とドイツ語会話の基礎を学習します。

学習内容

「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a」に引き続いて、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化やものの見方、生活の仕方、社会制度などについて、教員からの説明や授業中に与えられる課題などによって学びます。文化の学習と同時に、基礎的なドイツ語会話

発展科目

「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）」「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）」さらに会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a」と同じ教科書を引き続いて使用します。そうでない場合には、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他

会話授業では、能動的、積極的に授業に参加することが必要です。

授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

の練習も行い、実際の場面でドイツ語を使うための基礎学力を養成します。

文法や語彙については、11月前半までにドイツ語技能検定試験4級に対応する内容を習得することを目安とし、11月後半以降に初級ドイツ語の残りの範囲（過去形や現在完了形など）を学びます。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a

Seminar in Foreign Studies Ia (French)

学期 前期 **開講時間** 木1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 グットマン ティエリー（人文学部）、ダメモ ジャン・フランソワ（非常勤講師）、山本 寛（人文学部）

授業の概要 入門フランス語会話の実践に加え、テキストの文字情報および必要に応じて他のメディアを用い、フランス文化に触れ、理解する。

学習の目的 初歩的な日常的フランス語を聞いて理解し話すことができるようになること。フランス文化のいくつかの側面に関して初歩的な知識を得ること。

学習の到達目標 異文化理解Ⅰ基礎aと並行して履修し、理解と習得と暗記が十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験5級合格程度の実力が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 『デビュー！フランス語初級』朝日出版社（表紙には「Début!」と書いてあります）。この教科書は異文化理解Ⅰ基礎aと共通して用います。

参考書

辞書については、まず教室で担当教員の指示を聞いてください。

その上で、必要に応じて以下の説明を参考にしてください。一年次だけならばデイリーコンサイス仏和・和仏辞典、または同程度のものがあれば十分でしょう。ポケットプログレッシブ仏和・和仏辞典は中上級用なので薦めません。辞書は古本でも役に立ちます。

二年以上フランス語を学ぶつもりの方はクラウン仏和中辞典、または同程度のものを買っても良いでしょう。クラウンには和仏イ

ンデックスがあって簡単な和仏辞典の役を果たします。仏和辞典を収録した電子辞書も便利です。

成績評価方法と基準 期末テスト等80点、平常点（積極的な授業参加等）20点。5回以上欠席の場合、仮に期末試験を受験しても出席不足で不合格とすることがある。正当な事由は考慮する。

オフィスアワー

グットマン（人文校舎3階）：木曜日14時40分～16時10分

ダメモ：至急の要件は山本まで

山本寛（人文校舎2階）：月・火・木の昼休み
メールの連絡も受け付けます

その他

人文学部と教育学部は木5・6限（人文学部文化学科はグットマン、人文学部法律経済学科と教育学部はダメモ）、医学部は木1・2限（医学科はグットマン、看護学科は山本）、工学部は木7・8限（山本）、生物資源学部は木3・4限（山本）です。自分の学部（学科）のクラスで前期と後期を通して履修してください。

再履修者と編入学生はどのクラスでも構いません。

医学部看護学科、工学部、生物資源の学生で、フランス人担当のクラスで学びたい人は、自分の学部（学科）のクラスの代わりに、木曜日1・2限の医学部医学科クラス、木曜日5・6限の人文学部・教育学部2クラス、これら3クラスのうちから自由に一つ選んで登録してください。

授業計画・学習の内容

キーワード フランスの文化 フランス語圏 フランス語会話

Key Word(s) French culture, "Franco-

phonie", French conversation

学習内容

教科書冒頭のフランスについてのクイズ、フ

フランス語のアルファベットから始め、1課から7課までの Dialogue および Culture と題された部分を、1課につき授業2回のペースを基本にして学びます。

1課 会話：自己紹介、文化：美術

2課 会話：知っているもの、存在するものと言う
文化：映画

3課 会話：人物を形容する、家族のことを言う
文化：音楽

4課 会話：予定について話す 文化：建築

5課 会話：最近のこと、出身地について話す
文化：美食

6課 会話：希望について話す、天気や時刻について話す
文化：ファッション

7課 会話：一日の予定 文化：写真

まとめ メールを読む、返事を書く 文化：
トゥールーズの街 (1)

学習課題（予習・復習） 教室で担当教員が説明します。

異文化理解Ⅰ演習（フランス語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (French)

学期 後期 **開講時間** 木 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 グットマン ティエリー (人文学部)、ダメモ ジャン・フランソワ (非常勤講師)、山本 寛 (人文学部)

授業の概要 基礎フランス語会話の実践に加え、テキストの文字情報および必要に応じて他のメディアを用い、フランスとフランス語圏の文化に触れ、理解する。

学習の目的 基礎的かつ日常的なフランス語を聞いて理解し話すことができるようになること。フランス文化のいくつかの側面とフランス語圏に関して初歩的な知識を得ること。

学習の到達目標 異文化理解Ⅰ基礎bと並行して履修し、理解と習得と暗記が十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験4級合格程度の実力が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）aと異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a、またはフランス語Ⅰ文法（前）とフランス語Ⅰ講読（前）を受講済であること。もしくはは仏検5級程度の能力があること。

予め履修が望ましい科目

異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a

異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a

発展科目 異文化理解Ⅱ演習（フランス語）a

教科書 『デビュー！フランス語初級』朝日出版社（表紙には「Début!」と書いてあります）。この教科書は異文化理解Ⅰ基礎bと共通して用います。

授業計画・学習の内容

キーワード フランスの文化 フランス語圏 フランス語会話

Key Word(s) French culture, "Francophonie", French conversation

参考書 辞書については異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aの説明を参照してください。

成績評価方法と基準 期末テスト等80点、平常点（積極的な授業参加等）20点。5回以上欠席の場合、仮に期末試験を受験しても出席不足で不合格とすることがある。正当な事由は考慮する。

オフィスアワー

グットマン（人文校舎3階）：木曜日14時40分～16時10分

ダメモ：至急の要件は山本まで

山本寛（人文校舎2階）：月・火・木の昼休み
メールの連絡も受け付けます

その他

人文学部と教育学部は木5・6限（人文学部文化学科はグットマン、人文学部法律経済学科と教育学部はダメモ）、医学部は木1・2限（医学科はグットマン、看護学科は山本）、工学部は木7・8限（山本）、生物資源学部は木3・4限（山本）です。自分の学部（学科）のクラスで前期と後期を通して履修してください。

再履修者と編入学生はどのクラスでも構いません。

医学部看護学科、工学部、生物資源の学生で、フランス人担当のクラスで学びたい人は、自分の学部（学科）のクラスの代わりに、木曜日1・2限の医学部医学科クラス、木曜日5・6限の人文学部・教育学部2クラス、これら3クラスのうちから自由に一つ選んで登録してください。

学習内容

教科書の8課から13課までの Dialogue および Culture と題された部分を、1課につき授業2回ないし3回のペースを基本にして全体を14回で学び、15回目はまとめとします。

8課 会話：誘う、勧める 文化：観光
9課 会話：日常の行動 文化：大学
10課 会話：過去のことを話す (1) 文化：宗教
11課 会話：過去のことを話す (2) 文化：フランス、フランス人、フランコフォニー
12課 会話：経験や希望を聞く 文化：フランス

における日本
13課 会話：未来のことを話す 文化：日本におけるフランス
まとめ メールを読む、返事を書く 文化：トゥールーズの街 (2)

学習課題（予習・復習） 教室で担当教員が説明します。

異文化理解Ⅰ演習（中国語）a

Seminar in Foreign Studies I a (Chinese)

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 福田和展（人文学部）

湯浅陽子（人文学部）

花尻奈緒子（人文学部特任教員）

曾若涵（人文学部特任教員）

荒井茂夫（非常勤講師）

広中一成（非常勤講師）

胡蓉（非常勤講師）

祖建（非常勤講師）

授業の概要 単語や表現をキーワードに、中国或いは中国語圏の国についての地理、文化、経済、政治など幅広い知識を身につけてゆく。また、日中間の文化的な差異が現れる言語表現について、実際の会話を通して学ぶ。授業は共通の教科書を使用する。

学習の目的 中国語の背景にある中国の文化や社会についての知識を獲得する。

学習の到達目標 中国語圏の国についての地理、文化、経済、政治など幅広い知識の習得。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養

受講要件 大学入学以前に中国語を学習し、中級レベル以上の中国語能力を有する者、中国語圏からの留学生、日常的に中国語を使用している者は履修出来ない。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語圏の文化、社会、人々の暮らし

学習内容

授業は共通の教科書に沿って行われる。

第1課 中国語とは何か？方言と普通話 中国語が使用される国と地域

第2課 ピンインと注音字母

第3課 繁体字と簡体字(中国の文字文化) 関連会話 関連表現

発展科目 異文化理解Ⅱ演習（中国語） 異文化理解Ⅱ総合（中国語）

教科書 2015 パイロットテキスト 中国語圏のことばと文化

参考書 授業で指定

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%、前期期末統一試験の結果 50%

なお、中国語検定準4級取得も単位認定の参考とする。

オフィスアワー

授業・会議以外の全ての時間。事前にてメールにてアポイントをとること。

メールアドレスは教養教育履修案内「異文化理解」のページを参照すること。

その他 教科書は必ず最新版を購入すること。予習復習をしっかりとしよう。

第4課 中国人の姓名 親族呼称 関連会話 関連表現

第5課 中国の気候風土 関連会話 関連表現

第6課 中国の食文化 関連会話 関連表現

第7課 中国の茶文化 関連会話 関連表現

第8課 中国の経済1 関連会話 関連表現

第9課 中国の経済2 関連会話 関連表現

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明

異文化理解Ⅰ演習（中国語）b

Seminar in Foreign Studies I b (Chinese)

学期 後期 **開講時間** 木 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 福田和展（人文学部）

湯浅陽子（人文学部）

花尻奈緒子（人文学部特任教員）

曾若涵（人文学部特任教員）

荒井茂夫（非常勤講師）

広中一成（非常勤講師）

胡蓉（非常勤講師）

祖建（非常勤講師）

授業の概要 単語や表現をキーワードに、中国或いは中国語圏の国についての地理、文化、経済、政治など幅広い知識を身につけてゆく。また、日中間の文化的な差異が現れる言語表現について、実際の会話を通して学ぶ。授業は共通の教科書を使用する。

学習の目的 中国語の背景にある中国の文化や社会についての知識を獲得する。

学習の到達目標 中国語圏の国についての地理、文化、経済、政治など幅広い知識の習得。

本学教育目標との関連 幅広い教養

受講要件 大学入学以前に中国語を学習し、中級レベル以上の中国語能力を有する者、中

国語圏からの留学生、日常的に中国語を使用している者は履修出来ない。

発展科目 異文化理解Ⅱ演習（中国語）、異文化理解Ⅱ総合（中国語）

教科書 パイロットテキスト 中国語圏のことばと文化

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%、前期期末統一試験の結果50%

なお、中国語検定準4級取得も単位認定の参考とする。

オフィスアワー 授業・会議以外の全ての時間。事前にメールにてアポイントをとること。メールアドレスは教養教育履修案内「異文化理解」のページを参照すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語圏の分解、社会、人にとの暮らし

学習内容

第10課 中国の家庭 関連会話 関連表現

第11課 助数詞と中国文化 関連会話 関連表現

第12課 台湾の人と社会 関連会話 関連表現

第13課 漫画と中国語（オノマトペ日中比較）

関連購読 関連表現

第14課 華僑華人 関連購読 関連表現

第15課 多民族社会としての中国 関連購読 関連表現

異文化理解Ⅰ演習（朝鮮語） a Seminar in Foreign Studies Ia (Korean)

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 有吉 登美子

授業の概要 まず文字（ハングル）を習得し、その後文章を講読する。短いエッセーを題材にし、学生の自発的なプレゼンテーションにより授業を進める。読了後にはレポートを求める。

学習の目的

文字（ハングル）を覚えるとともに、言語の膠着構造を理解する。それとともに講読するエッセーを通して韓国についての知識を得るとともに韓国人のものの考え方について理解する。

学習の到達目標 韓国語が膠着語であることを理解し、辞書を引いて文章を読めるようになる。講読のエッセーに描かれた韓国社会や韓国人を理解するとともに自国の現状にも目を向ける姿勢を確立する。

授業計画・学習の内容

キーワード ハングルの覚えよう／韓国語は膠着語

Key Word(s)

Let's learn the Korean alphabet
Korean is an agglutinative language

学習内容

- 第1回 ガイダンス／韓国語及びハングルについて
- 第2回 基本的な母音字母とその発音
- 第3回 基本的な子音字母とその発音（Ⅰ）
- 第4回 〃（Ⅱ）
- 第5回 無声子音の有声音化
- 第6回 発展形の母音字母とその発音（Ⅰ）
- 第7回 発展形の子音字母とその発音
- 第8回 発展形の母音字母とその発音（Ⅱ）
- 第9回 パッチムとその発音
- 第10回 連音化（Ⅰ）
- 第11回 連音化（Ⅱ）／講読用のプリント配布

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

プリントを配布する。
辞書「朝鮮語辞典」小学館

成績評価方法と基準 授業への積極的参加 20%、プレゼンテーション50%、レポート 30%（合計が60%以上で合格）

オフィスアワー 毎週火曜日 12:00～13:00 非常勤講師室

授業改善への工夫 できるだけ学生の要望を取り入れ柔軟に対応する。

その他 プリントの講読に入ったら、必ず辞書を引いて予習してくること。

辞書の引き方及び辞書の用語の説明、韓国語の構造について
第12回 プリント講読〈韓国人の感情表現〉韓国語の膠着形態に注目しながら用言の上称終結形を中心に学ぶ。日本人とはおおいに異なる韓国人の感情表現について学ぶ。
第13回 〃
第14回 〈夢占い〉用言の下称終結形を中心に学ぶ。占いが韓国人の日常にどう根づいているかについて考察する。
第15回 〃
第16回 〃

学習課題（予習・復習）

ハングルの習得段階に於いては随時小テストを実施する。
講読に於いてはとりあげたテーマにそって必要な文献を配布する。テキストの内容と併せて考察しレポートに反映することを求める。

異文化理解 I 演習 (朝鮮語) b

Seminar in Foreign Studies Ib (Korean)

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選択/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 有吉 登美子

授業の概要

前期に続き後期は短い小説やエッセーを講読する。文法説明に加え、背後の文化等についても解説する。

学生の自発的なプレゼンテーションにより授業を進める。作品ごとにレポートを求める。

学習の目的 多様な表現を学ぶとともに同時に作品に登場する人物を通してかれらを取りまく韓国という社会についても理解を深める。

学習の到達目標 言語構造の類似から単なる言葉の置きかえに陥りやすいが、そうではなく日本語らしい日本語で表現できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力、

授業計画・学習の内容

キーワード 韓国語な、あまりに韓国的な

Key Word(s) Just Korean style

学習内容

第1回 「食事を共にするということ」連体形・時制を中心に学ぶ。食事を共にするということに対する韓国人の真摯さを読み取る。なぜここまで真摯になれるのかについて歴史・文化的な考えを紹介しながら考察する。

第2回 //

第3回 //

第4回 //

第5回 //

第6回 「この花をおかあさんに」さまざまな接続語尾を中心に学ぶ。韓国に於ける母親について娘の視点から読む。日本の母親と比べてどうか、社会での家族の中での、また娘を含む子供にとってのといった、いろんな立ち位置の母親について考察する。

第7回 //

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 前期の同科目を履修済みであること、あるいは同等の学力があること。

教科書

プリントを配布する。

辞書「朝鮮語辞典」小学館

成績評価方法と基準 授業への積極的参加 20%、プレゼンテーション 50%、レポート 30% (合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日 12:00~13:00 非常勤講師室

授業改善への工夫 できるだけ学生の要望を取り入れ柔軟に対応する。

その他 必ず辞書を引いて予習してくること。積極的にプレゼンテーションすること。

第8回 //

第9回 //

第10回 「ソレおばさん」引用表現を中心に学ぶ。ほとんどが親戚という村で生きる女性に求められる生き方から韓国のムラ社会について考察する。

第11回 //

第12回 //

第13回 //

第14回 「彼女はきれいだった」同年輩の男女の自然な会話で用いられる終結語尾を中心に学ぶ。足の不自由な男性とつきあう女性...二人のとった行動を通して韓国人のものの考え方について考察する。

第15回 //

第16回 //

学習課題 (予習・復習) テキストに取りあげたいいくつかのテーマに関わる情報や文献をプリントで配布する。テキストの内容と併せて考察しレポートに反映することを求める。

異文化理解I演習（ロシア語） a

Seminar in Foreign Studies Ia (Russian)

学期 前期 開講時間 水7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 山路 明日太

授業の概要 異文化について理解を深めるための糸口として、ロシアの文化と社会について親しむことを目的とする。初等文法を活用しながら、ロシア語の会話や購読に慣れ親しんでいく。また、プリント・音声・映像資料なども用いながらロシア社会の特徴やロシア人の国民性についても学んでいく。

学習の目的 ロシア文化との関わりを端緒として、異文化にたいする興味関心をふかめ、偏見を払拭するとともに他者に対して開かれた精神を獲得し、他者の視点から自文化をみつめる精神をやしなう。自文化と比較しながら他国の社会文化や異国の国民性を学ぶことをとおして、自国の現状や国際関係についてみずから考える視座を獲得する。ロシア語の習得をとおして、異文化間コミュニケーションの能力もきたえる。

学習の到達目標 ロシア社会の特徴を知り、ロシア人の国民性について理解する。文法の授業で学んだロシア語の知識を定着させ、会話能力を養い、文章を読めるようになる。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討

論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 異文化理解I基礎（ロシア語）aも合わせて受講することが望ましい。

教科書 ミレル他『むかし、むかし... 初学者向けロシア語28課』（Миллер и др. Жили-были... 28 уроков русского языка для начинающих. Учебник.）（日ソ図書）。

参考書 辞書は自ら選んでもらって構いませんが、木村彰一ほか『ロシア語辞典』（博友社）を推薦します。

成績評価方法と基準 平常点30%、小テスト・課題40%、定期試験30%。

オフィスアワー 非常勤のため、連絡方法については初回のガイダンス時に説明します。

授業改善への工夫 適宜、音声・映像資料なども用いながら、ロシア文化に触れてもらいたいと思います。また、語学練習では学生の積極的な取り組みを促します。

授業計画・学習の内容

キーワード ロシア、ロシア語、コミュニケーション、異文化理解

Key Word(s) Russia, Russian language, Communication, Cross-cultural understanding

学習内容

1. ロシア語の特性。ロシアから入った日本語、日本から入ったロシア語。語学練習：アルファベット。
2. ロシア人の名前の特徴、愛称、父称。語学練習：ロシア文字の発音練習、自己紹介。
3. ロシア人の家族観。家族関係の親密さ。語学練習：発音練習、「これは～です」。

4. ロシア人の友人観。ロシア人の「友人と他人」の関係と日本の「内と外」との比較。ヴィソツキーの歌を参考に。語学練習：発音練習、挨拶、「～の...です」。
5. ロシア人の祖国愛。祝祭日にみられる戦争記念日の重要性。プーシキンやレールモントフの詩を参考に。語学練習：発音練習、挨拶、「～は...ですか？」。
6. ロシア人の恋愛観。贈り物の習慣。ヴィソツキーやプガチョーワの歌とともに。語学練習：発音練習、「～の名前は何かといいますか？」「～はどういう人ですか？」。
7. ロシア人の結婚観。結婚式当日の展開について。語学練習：発音練習、「調子はいかが

ですか？」。

8. ロシア人の夫婦生活、親子関係。語学練習：発音練習、「これは何ですか?」「これは～です」、複数形の作り方。

9. ロシアの教育制度。語学練習：「～について教えてください」、様々な疑問と応答。

10. ロシアにおける兵役。語学練習：国名・～人・～語、国についての説明。

11. ロシア語の言い回しに見られるロシア人の運命論的思考。語学練習：「～語を勉強する」「～語で話す」、ある人物についての説明の仕方。

12. ロシア人とお酒 (1)。酒を飲むときの

マナー。語学練習：「あなたは何をしているの?」「私は～をしています」。

13. ロシア人とお酒 (2)。お酒をめぐる小話。語学練習：家族をめぐる説明と会話。

14. ロシア人の迷信深さ (1)。様々なタブー。語学練習：「～してもいいですか?」「どのように読みますか?」

15. ロシア人の迷信深さ (2)。精や悪魔を想定した様々な言い回し。語学練習：副詞を用いた表現。

学習課題 (予習・復習) 語学学習では、復習が最も大切です。毎回出される宿題に取り組むことによって、学習効果が上がります。

異文化理解I演習（ロシア語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Russian)

学期 後期 開講時間 水7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 山路 明日太

授業の概要 異文化について理解を深めるための糸口として、ロシアの文化と社会について親しむことを目的とする。前期に引きつづき、文法を活用しながら、ロシア語の会話や購読に慣れ親しんでいく。また、プリント・音声・映像資料なども用いながらロシアの社会・文化やロシア人の国民性についても学んでいく。

学習の目的 ロシア文化との関わりを端緒として、異文化にたいする興味関心をふかめ、偏見を払拭するとともに他者に対して開かれた精神を獲得し、他者の視点から自文化をみつめる精神をやしなう。自文化と比較しながら他国の社会文化や異国の国民性を学ぶことをとおして、自国の現状や国際関係についてみずから考える視座を獲得する。前期に引きつづき、ロシア語の習得をとおして、異文化間コミュニケーションの能力もきたえる。

学習の到達目標 ロシアの社会・文化について知り、ロシア人の国民性について理解する。文法の授業で学んだロシア語の知識を定着させ、会話能力を養い、文章を読めるようになる。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実

践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解演習（ロシア語）aを履修済みであること、または、同程度の文法・コミュニケーション能力を有していること。

予め履修が望ましい科目 異文化理解I基礎（ロシア語）bも合わせて受講することが望ましい。

教科書 ミレル他『むかし、むかし... 初学者向けロシア語28課』（Миллер и др. Жили-были... 28 уроков русского языка для начинающих. Учебник). (日ソ図書)。

参考書 辞書は自ら選んでもらって構いませんが、木村彰一ほか『ロシア語辞典』（博友社）を推薦します。

成績評価方法と基準 平常点30%、小テスト・課題40%、定期試験30%。

オフィスアワー 非常勤のため、連絡方法については初回のガイダンス時に説明します。

授業改善への工夫 適宜、音声・映像資料なども用いながら、ロシア文化に触れてもらいたと思います。また、語学練習では学生の積極的な取り組みを促します。

授業計画・学習の内容

キーワード ロシア、ロシア語、コミュニケーション、異文化理解

Key Word(s) Russia, Russian language, Communication, Cross-cultural understanding

学習内容

1. ガイダンス。ロシア人の宗教観（1）。ロシア正教。語学練習：「～をください」「～を見せてください」「だれの...」、所有代名詞を用いた表現。
2. ロシア人の宗教観（2）。ロシア正教の教

会建築。語学練習：「どんな～」、形容詞を用いた表現。

3. ロシア人の宗教観（3）。イコン（聖像画）。語学練習：助動詞を用いた表現、「～したい」「～できる」「～しなければならない」。

4. ロシア人の仕事観（1）。人気の職業は？語学練習：助動詞を用いた表現、「～曜日に...する」、「なぜ...ですか」「なぜなら...だからです」。

5. ロシア人の仕事観（2）。仕事に対する意識。諺に表れた仕事観。語学練習：復習、

「これはだれ?」「これはなに?」「だれの...?」「どんな?」「どのように?」などの表現の復習。

6. ロシア人の仕事観 (3)。プロフェッショナルリズム。語学練習:「...は~を持っています」、「~を...する」、対格の表現。

7. ロシア人の食生活 (1)。パンの重要性。語学練習:「...が好きだ」「...を食べる」「...を飲む」。

8. ロシア人の食生活 (2)。乳製品、きのこ類。お茶の習慣。語学練習:「すみませんが、...はどこにありますか?」。

9. ロシア人の食生活 (3)。レストラン、カフェ、食堂などの位置づけとコース料理。語学練習:場所の表現、「~で勉強している」「~に...がある」。

10. モスクワの都市の成り立ち。語学練習:

電話での対応、過去形を用いた表現。

11. ペテルブルグの都市の成り立ち。語学練習:「~を見る」、手紙・メールの書き方。

12. ロシア人の小話・笑い話好きについて。語学練習:「気分が悪い」「私は...が痛い」、未来の表現。

13. ロシア映画について。語学練習:「...には~がない」という表現法。

14. ロシアアニメ (1)。ロシア版「くまのプーさん」。語学練習:「~には...が気に入っている」の表現、数詞。

15. ロシアアニメ (2)。ユーリ・ノルシュテインの作品。語学練習:「これはいくらですか?」。

学習課題 (予習・復習) 語学学習では、復習が最も大切です。毎回出される宿題に取り組むことによって、学習効果が上がります。

異文化理解Ⅰ演習（スペイン語）a

Seminar in Foreign Studies Ia (Spanish)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 伊藤ゆかり (非常勤講師)

授業の概要 テキストの会話文を読んで重要表現を学び、それを盛り込んだ会話文を各自作成し練習します。会話の内容は、日常会話、仕事、旅行、留学先で役立つように、実践的な場面を設定していきます。また、一ヶ月に一回、スペイン文化の授業を設け、異文化理解に努めます。

学習の目的 スペイン語は、3億5千万人という膨大な話者を持ち、スペイン、南米、アフリカの20カ国の公用語になっています。さらには、近年日本においても在日南米人が増加し、それに伴い小中学校や地方自治体などでスペイン語によるコミュニケーションの需要が高まっています。この授業では、スペイン語圏の様々な文化を紹介しながら、スペイン語の基礎会話を学び、コミュニケーション力を養うことを目標とします。

学習の到達目標

スペイン語圏の文化を学びつつ、簡単なスペイン語の日常会話と作文ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎スペイン語会話の習得とスペイン文化の紹介

学習内容

- 第1回 <文化>イントロダクション
- 第2回 第2課 主格人称代名詞と ser 動詞
- 第3回 会話の読みと訳
- 第4回 会話作成
- 第5回 <文化>スペイン語について
- 第6回 第3課 estar と hay
- 第7回 会話の読みと訳
- 第8回 会話作成
- 第9回 <文化>スペインの祝祭日

主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎（スペイン語）aを同時に受講することが望ましい。

教科書 教科書：『スペイン語を学ぼうよ！改訂版』（朝日出版社）

参考書

- 推薦問題集：『とことんドリル スペイン語』（朝日出版社）
- 推薦辞書：『プログレッシブスペイン語辞典』（小学館）

成績評価方法と基準 定期試験（70%）、授業への参加度（30%）により総合的に評価する。

オフィスアワー 授業中に対応する。

その他 昼休みにスペイン語圏の文化紹介ビデオをかけます。興味のある方は参加してください。

- 第10回 第4課 直説法現在規則動詞
- 第11回 会話の読みと訳
- 第12回 会話作成
- 第13回 <文化>スペインの歴史
- 第14回 第5課 直説法現在不規則動詞
- 第15回 会話の読みと訳
- 第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 授業中に各自会話を作成し、常時質問に答えられるようにします。正しいスペイン語を書いてみましょう。後日添削して返却します。作成した会話は必ず提出してください。

異文化理解Ⅰ演習（スペイン語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Spanish)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 伊藤ゆかり (非常勤講師)

授業の概要 テキストの会話文を読んで重要表現を学び、それを盛り込んだ会話文を各自作成し練習します。会話の内容は、日常会話、仕事、旅行、留学先で役立つように、実践的な場面を設定していきます。また、一ヶ月に一回、スペイン文化の授業を設け、異文化理解に努めます。

学習の目的 スペイン語は、3億5千万人という膨大な話者を持ち、スペイン、南米、アフリカの20カ国の公用語になっています。さらには、近年日本においても在日南米人が増加し、それに伴い小中学校や地方自治体などでスペイン語によるコミュニケーションの需要が高まっています。この授業では、スペイン語圏の様々な文化を紹介しながら、スペイン語の基礎会話を学び、コミュニケーション力を養うことを目標とします。

学習の到達目標

スペイン語圏の文化を学びつつ、簡単なスペイン語の日常会話と作文ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,専門知識・技術,社会人としての態度,実践外国語力,感じる力、

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎スペイン語会話の習得とスペイン文化の紹介

学習内容

- 第1回 <文化>スペインの美術 (1)
- 第2回 第6課 gustar 型動詞
- 第3回 会話の読みと訳
- 第4回 会話作成
- 第5回 <文化>スペインの美術 (2)
- 第6回 第7課 再帰動詞
- 第7回 会話の読みと訳
- 第8回 会話作成
- 第9回 <文化>スペインの建築

考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ演習（スペイン語）aを受講済みであることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎（スペイン語）bを同時に受講することが望ましい。

教科書 教科書：『スペイン語を学ぼうよ！改訂版』（朝日出版社）

参考書

推薦問題集：『とことんドリル スペイン語』（朝日出版社）

推薦辞書：『プログレッシブスペイン語辞典』（小学館）

成績評価方法と基準 定期試験（70%）、授業への参加度（30%）により総合的に評価する。

オフィスアワー 授業中に対応する。

その他 昼休みにスペイン語圏の文化紹介ビデオをかけます。興味のある方は参加してください。

- 第10回 第8課 現在完了
- 第11課 会話の読みと訳
- 第12課 会話作成
- 第13課 <文化>スペインの文学
- 第14課 点過去
- 第15課 会話の読みと訳
- 第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 授業中に各自会話を作成し、常時質問に答えられるようにします。正しいスペイン語を書いてみましょう。後日添削して返却します。作成した会話は必ず提出してください。

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語） a

Seminar in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 重松 由美

授業の概要 この授業は、異文化理解の一環としてブラジル文化に親しむことを目的とし、DVDやインターネット上の映像を用いて、ブラジルの歴史や現状、そして在日ブラジル人コミュニティについて学んでいきます。また文法の授業で学んだ知識をもとにして、状況設定した日常会話の練習、シャドーイング、台詞の暗記を行います。

学習の目的 ブラジルの文化や社会についての知識を深めるとともに、ブラジルと日本との歴史的背景そして在日ブラジル人の現状を知ることにより、日本や世界で起きている事象に対しての多角的な思考を養うことを目的とします。また、ポルトガル語の習得を通して、異文化間コミュニケーション能力を高めめます。

学習の到達目標 ブラジル文化・社会や在日ブラジル人の現状に関する基礎知識を身につけます。言語学習については、基本的な日常会話を習得し、簡単な文章を辞書を使って理解できるようになります。

授業計画・学習の内容

キーワード ブラジル文化、異文化理解、ブラジル・ポルトガル語会話

Key Word(s) Brazilian Culture, Cross-Cultural Understanding, Portuguese Conversation

学習内容

状況を設定した日常会話の練習を繰り返し行い、基礎的な会話力を身に付けていきます。また、テーマに沿って作文も書いてもらいます。

第1回 ブラジルの文化紹介「ポルトガル語を公用語としている国と地域」

語学練習：アルファベット、発音：「～はポルトガル語で何といいますか？」

第2回 ブラジルの文化紹介「挨拶の仕方」

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎」も合わせて受講することが望ましい。

教科書 『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美著、朝日出版社。

参考書

『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。

『ディリール日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所。

成績評価方法と基準 小テスト20%、授業態度20%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 講師はスペイン語の知識もあるため、スペイン語学習者には両言語を比較しながら教えることができ、より効果的な授業を提供できます。

語学練習：挨拶表現

第3回 ブラジルの文化紹介「歴史の概要」

語学練習：名詞の性と数、数字（0～30）：「ポルトガル語で算数」

第4回 ブラジルの文化紹介「祝日」

語学練習：動詞ser：「私は～（名前・職業）です」

第5回 ブラジルの文化紹介「地方都市Ⅰ」

語学練習：動詞ser：「私は～出身です」

第6回 ブラジルの文化紹介「音楽（ボサノヴァ、ショーロ、セルタネージョ）」

語学練習：形容詞、所有形容詞、指示詞：「～は誰ののですか？」

第7回 ブラジルの文化紹介「スポーツ、ワールドカップ2014」

語学練習：直説法現在の規則動詞：「私は～

することが好きです（自己紹介）」

第8回 ブラジルの文化紹介「教育システム」

語学練習：直説法現在の規則動詞：「どれくらい～しますか？（頻度を表す表現）」

第9回 ブラジルの文化紹介「現在の家族スタイル」

語学練習：動詞ter：「家族紹介」

第10回 ブラジルの文化紹介「食文化」

語学練習：動詞fazer：「私は今日の午後～をします」

第11回 ブラジルの文化紹介「若者の生活スタイル」

語学練習：動詞ir：「1週間の予定」

第12回 ブラジルの文化紹介「日系移民」

語学練習：動詞poder：「～してもいいですか？」

第13回 ブラジルの文化紹介「有名な日系ブラジル人」

語学練習：動詞querer：「～しませんか？」

第14回 在日ブラジルの現状「デカセギ」

語学練習：月日と曜日の表現：「誕生日はいつですか？」

第15回 ブラジルの文化紹介「観光するための豆知識」

語学練習：まとめ

第16回 定期試験

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語）a

Seminar in Foreign Studies Ia (Portuguese)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学んだうえで、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けましょう。特に単語や動詞の活用がたくさん覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行います。またブラジルの社会や文化に関する知識も同時に紹介していきます。

学習の目的 特に東海地方に多く住んでいるブラジル人と簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、またコミュニケーションの助けとなるようブラジルについての知識や情報を紹介して学んでいく。

学習の到達目標 文法の授業で学んだ事項を使って、会話練習を行う。またブラジルにつ

いての知識を理解していく。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）を受講していること

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書（電子辞書でも可）

成績評価方法と基準 定期試験（8割）、レポート（1割）、授業態度（1割）

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語、ブラジル、ブラジル文化

Key Word(s) Portuguese, Brazil, Brazilian culture

学習内容

異文化理解基礎で学んだ事項をもとに、会話練習を行う。

1. 履修に関するガイダンス／ポルトガル語の特徴
2. 文字と発音／ポルトガルとブラジルのポルトガル語の違い
3. 名詞の性数／日本語とポルトガル語の関係
4. 数字／ブラジルの地理
5. SER動詞、疑問文と否定文／ブラジル南東部

6. 形容詞／ブラジル中西部
7. 指示詞、所有詞／ブラジル南部
8. 今までの復習
9. 規則動詞の活用／ブラジル北東部
10. 前置詞／ブラジル北部
11. IR動詞、TER動詞／ブラジル移民について
12. FAZER動詞、疑問詞／在日ブラジル人について
13. PODER動詞、QUERER動詞／ブラジルの教育制度
14. 月日の表現／ブラジルの歴史、経済、政治
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 教科書を読んで、きちんと予習復習をすること

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語） a

Seminar in Foreign Studies Ia (Portuguese)

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学んだうえで、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けましょう。特に単語や動詞の活用がたくさん覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行います。またブラジルの社会や文化に関する知識も同時に紹介していきます。

学習の目的 特に東海地方に多く住んでいるブラジル人と簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、またコミュニケーションの助けとなるようブラジルについての知識や情報を紹介して学んでいく

学習の到達目標 文法の授業で学んだ事項を使って、会話練習を行う。またブラジルについての知識を理解していく。

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語、ブラジル、ブラジル文化

Key Word(s) Portuguese, Brazil, Brazilian culture

学習内容

異文化理解基礎で学んだ事項をもとに、会話練習を行う。

1. 履修に関するガイダンス／ポルトガル語の特徴
2. 文字と発音／ポルトガルとブラジルのポルトガル語の違い
3. 名詞の性数／日本語とポルトガル語の関係
4. 数字／ブラジルの地理
5. SER動詞、疑問文と否定文／ブラジル南東部

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）を受講していること

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書（電子辞書でも可）

成績評価方法と基準 定期試験（8割）、レポート（1割）、授業態度（1割）

その他 初回の講義で受講調整をする可能性あり

6. 形容詞／ブラジル中西部
7. 指示詞、所有詞／ブラジル南部
8. 今までの復習
9. 規則動詞の活用／ブラジル北東部
10. 前置詞／ブラジル北部
11. IR動詞、TER動詞／ブラジル移民について
12. FAZER動詞、疑問詞／在日ブラジル人について
13. PODER動詞、QUERER動詞／ブラジルの教育制度
14. 月日の表現／ブラジルの歴史、経済、政治
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 教科書を読んで、きちんと予習復習をすること

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 重松 由美

授業の概要 この授業は、異文化理解の一環としてブラジル文化に親しむことを目的とし、DVDやインターネット上の映像を用いて、ブラジルの歴史や現状、そして在日ブラジル人コミュニティについて学んでいきます。また文法の授業で学んだ知識をもとにして、状況設定した日常会話の練習、シャドーイング、台詞の暗記を行います。

学習の目的 ブラジルの文化や社会についての知識を深めるとともに、ブラジルと日本との歴史的背景そして在日ブラジル人の現状を知ることにより、日本や世界で起きている事象に対しての多角的な思考を養うことを目的とします。また、ポルトガル語の習得を通して、異文化間コミュニケーション能力を高めめます。

学習の到達目標 ブラジル文化・社会や在日ブラジル人の現状に関する基礎知識を身につけます。言語学習については、基本的な日常会話を習得し、簡単な文章を辞書を使って理解できるようになります。

授業計画・学習の内容

キーワード ブラジル文化、異文化理解、ブラジル・ポルトガル語会話

Key Word(s) Brazilian Culture, Cross-Cultural Understanding, Portuguese Conversation

学習内容

状況を設定した日常会話の練習を繰り返し行い、基礎的な会話力を身に付けていきます。また、テーマに沿って作文も書いてもらいます。

第1回 ブラジルの文化紹介「社会保障」

語学練習：動詞estar：「～が痛いです」（体調表現）

第2回 ブラジルの文化紹介「経済成長率（BRICS）」

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎」も合わせて受講することが望ましい。

教科書 『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美著、朝日出版社。

参考書

『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。

『ディリール日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所。

成績評価方法と基準 小テスト20%、授業態度20%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 講師はスペイン語の知識もあるため、スペイン語学習者には両言語を比較しながら教えることができ、より効果的な授業を提供できます。

語学練習：動詞estar：「～はどこにありますか？」

第3回 ブラジルの文化紹介「地方都市Ⅱ」

語学練習：現在進行形：「～しているところです」

第4回 ブラジルの文化紹介「ショッピング事情」

語学練習：動詞quererとpoder（ショッピングでの会話）：「試着したいのですが。」

第5回 ブラジルの文化紹介「日本文化（日本食ブーム、アニメ）」

語学練習：直説法完全過去：「昨日～しました」

第6回 ブラジルの文化紹介「NOVELA（ドラマ）」

語学練習：直説法完全過去：「～したことが」

ありますか？」

第7回 ブラジルの文化紹介「音楽Ⅱ（MPB）」
語学練習：再帰動詞（一日の行動を表現しよう）

第8回 ブラジルの文化紹介「日系移民と文学」
語学練習：直説法完全過去の不規則活用動詞
（過去の旅行について語ろう）

第9回 在日ブラジル人の現状（リーマンショック後）

語学練習：直説法不完全過去：「小さい頃は～していました」

第10回 口頭発表

第11回 ブラジルの文化紹介「映画Ⅰ」

語学練習：目的格人称代名詞：「私は君に～をプレゼントします」、現在完了：「最近～

しています」

第12回 ブラジルの文化紹介「映画Ⅱ」
語学練習：直説法完全過去の不規則活用動詞
（自分の伝記を書いてみよう）

第13回 ブラジルの文化紹介「宗教、クリスマス」

語学練習：比較級（身の回りにあるものを比較してみよう）

第14回 ブラジルの文化紹介「カポエイラと奴隷制度」

語学練習：数字（101～1.000）（買い物をしてみよう）

第15回 ブラジルの文化紹介「カーニバル」

語学練習：手紙を書いてみよう

第16回 定期試験

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学んだうえで、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けましょう。特に単語や動詞の活用がたくさん覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行います。またブラジルの社会や文化に関する知識も同時に紹介していきます。

学習の目的 特に東海地方に多く住んでいるブラジル人と簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、またコミュニケーションの助けとなるようブラジルについての知識や情報を紹介して学んでいく。

学習の到達目標 文法の授業で学んだ事項を

使って、会話練習を行う。またブラジルについての知識を理解していく。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）を受講していること

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書（電子辞書でも可）

成績評価方法と基準 定期試験（8割）、レポート（1割）、授業態度（1割）

授業計画・学習の内容

キーワード ブラジルポルトガル語の初歩会話

Key Word(s) Basic Conversation in Brazilian Portuguese

学習内容

動詞の活用や単語をできるだけ覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行う。

授業の展開は以下の通り。

第1回：前期の復習

第2回：estar動詞を使った表現

第3回：現在進行形を使った表現

第4回：完全過去形を使った表現

第5回：時間表現

第6回：再帰動詞を使った表現

第7回：今までの復習

第8回：不完全過去形を使った表現

第9回：「できる」を表す動詞を使った表現

第10回：目的格人称代名詞を使った表現

第11回：現在完了を使った表現

第12回：比較級を使った表現

第13回：命令形

第14回：今までの復習

第15回：今までの復習

第16回：定期試験

学習課題（予習・復習） 覚えた表現の理解度を知るために、随時簡単な文章やレポートを書いてもらう。

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学んだうえで、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けましょう。特に単語や動詞の活用がたくさん覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行います。またブラジルの社会や文化に関する知識も同時に紹介していきます。

学習の目的 特に東海地方に多く住んでいるブラジル人と簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、またコミュニケーションの助けとなるようブラジルについての知識や情報を紹介して学んでいく。

学習の到達目標 文法の授業で学んだ事項を使って、会話練習を行う。またブラジルについての知識を理解していく。

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語、ブラジル、ブラジル文化

Key Word(s) Portuguese, Brazil, Brazilian culture

学習内容

異文化理解基礎で学んだ事項をもとに、会話練習を行う。

1. 履修に関するガイダンス／ポルトガル語の特徴
2. 文字と発音／ポルトガルとブラジルのポルトガル語の違い
3. 名詞の性数／日本語とポルトガル語の関係
4. 数字／ブラジルの地理
5. SER動詞、疑問文と否定文／ブラジル南東部

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）を受講していること

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書（電子辞書でも可）

成績評価方法と基準 定期試験（8割）、レポート（1割）、授業態度（1割）

その他 初回の講義で受講調整をする可能性あり

6. 形容詞／ブラジル中西部
7. 指示詞、所有詞／ブラジル南部
8. 今までの復習
9. 規則動詞の活用／ブラジル北東部
10. 前置詞／ブラジル北部
11. IR動詞、TER動詞／ブラジル移民について
12. FAZER動詞、疑問詞／在日ブラジル人について
13. PODER動詞、QUERER動詞／ブラジルの教育制度
14. 月日の表現／ブラジルの歴史、経済、政治
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 教科書を読んで、きちんと予習復習をすること

異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (German A)

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵

授業の概要 ドイツ語テキスト（グリム童話）の講読により中級程度のドイツ語力を養う。練習問題により、受動態、関係代名詞、接続法などの文法事項を習得する。グリム童話の文化的背景についても、発表やグループ課題等を通して学ぶ。

学習の目的 ドイツ語の文法を全般的に理解する。辞書を使って、ある程度複雑なドイツ語の文章を読む事ができるようになる。グリム童話の成立背景や童話の中のモチーフ等について学ぶことを通して、ドイツの歴史と文化について幅広い知識を得る。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語、ドイツ文化

学習内容

グリム童話をもとにしたドイツ語の読解教材を使用して、読解の練習を行う。

グリム童話の成立史や時代背景、童話に出てくるモチーフ等についても演習形式で学ぶ。

文法についての説明や練習も適宜行い、一回生時に習得していない文法事項を全て学習す

学習の到達目標 辞書を使って、ある程度複雑なドイツ語の文章を読む事ができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解基礎／演習 1

教科書 授業中に指示する。

参考書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 課題提出、期末試験

る。（進度の目安は下記参照）

1～3 現在完了までの復習

4～6 形容詞、比較

7～9 関係代名詞

10～12 受動態

13～15 接続法

学習課題（予習・復習） 毎回予習が必要である。

異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (German A)

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵 (人文学部)

授業の概要 実践的なドイツ語能力を養いながらドイツの文化や社会について学習する。ドイツのニュースサイト "Deutsche Welle" (<http://www.dw-world.de/>) が提供しているドイツ語学習用のニュース素材をおもな教材とし、ニュース素材や関連する文献を読解する。さらにトピックについての討論や発表を行う。

学習の目的 現代ドイツとヨーロッパのさまざまな時事問題や文化について幅広く知識を得る。読解練習を通して、実践的なドイツ語能力を身につける。

学習の到達目標 ドイツ文化の諸相について知見を得るとともに、中級程度のドイツ語の読解力を身につける。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語、ドイツ文化、現代ドイツ事情

学習内容

Deutsche Welleの提供するニュース素材の講読を中心として授業を進める。取り上げるニュース素材のトピックは、おもに「ドイツの日常生活」「ドイツと国際社会」「現代ドイツの若者」「移民社会ドイツ」「現代ドイツの児童文学」等を考えてい

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 共通教育のドイツ語Ⅰを修得していること。

予め履修が望ましい科目 共通教育ドイツ語Ⅰ

教科書 プリント配布

参考書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 課題への取り組みと、期末試験で評価する。

るが、参加者の関心も考慮しながら決めていきたい。

ニュース素材以外に、取り上げたトピックに関連するテキストや映像作品をあつかうこともある。

一つ一つのトピックについて知見を深めるため、討論や発表の時間も作る。

学習課題（予習・復習） 参加者は毎回予習が必要である。

異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (German)

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 山崎 明日香

授業の概要 ドイツ語の基礎コミュニケーション能力をさらに発展させます。

学習の目的 挨拶や買い物、場所をたずねる表現など、生活や旅行のための会話に重点をおきます。授業は基本的にドイツ語で行いますが、場合によっては日本語と英語で補足説明を行います。受講者自身もパートナー練習や雑談において、積極的にドイツ語で話すことが求められています。

学習の到達目標 挨拶や買い物、場所をたずねる表現など、生活や旅行のための会話に重点をおきます。

本学教育目標との関連 実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

※ 会話練習を中心に行いますので、授業への毎回の積極的な参加が求められます。継続して参加できる方のみ履修登録を行い、受講してください。

※ 毎回の課題の遂行と提出が可能なこと。

教科書

『Menschen A1.2 Kursbuch Mit DVD-Rom』
(ドイツ語) Huber社、2012年。8.49ユーロ、
ISBN：978-3-19-501901-9

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語のコミュニケーション能力を伸ばします。

学習内容 発話を重視するため、小グループにわかれての会話練習を行います。授業時間

※ 目次と内容の見本は下記のウエブサイトからご覧になれます。受講レベルに応じているかどうか、ご確認ください。

目次：

https://shop.hueber.de/media/hueber_dateien/Internet_Inhaltsverz/Red1/9783195019019_Inhalt.pdf

内容：

https://shop.hueber.de/media/hueber_dateien/Internet_Muster/Red1/9783195019019_Muster_1.pdf

参考書 クラスの担当教員が指示します。

成績評価方法と基準

※ 中間テスト（会話）（20%）

※ 学期末テスト（個別の口頭試問 + 筆記テスト）（40%）

※ 平常点（40%）

※ 毎回の授業への取り組みや熱意、さらに課題の提出も評価点に加えます。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも効果的です。自宅学習の手段については、担当教員にご相談ください。授業ではパートナー練習が中心となります。そのため、予習を必要とする場合は、必ず事前に行った上で授業に臨んでください。

内に簡単な書き取り、聴き取りの練習も行います。ドイツの芸術や歴史などに親しみながら、映画やメディア、またサブカルチャーも含めた最新の文化事情にも触れます。

異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (German B)

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選必 選択

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山崎 明日香

授業の概要 ドイツ語の基礎コミュニケーション能力をさらに発展させます。

学習の目的

前期と同じく、挨拶や買い物、場所をたずねる表現など、生活や旅行のための会話に重点をおきます。また、図表やグラフを口頭で説明する練習や、議論において自分の意見を述べる練習も採り入れます。

授業は基本的にドイツ語で行いますが、場合によっては日本語と英語で補足説明を行います。受講者自身もパートナー練習や雑談において、積極的にドイツ語で話すことが求められています。

学習の到達目標 生活や旅行のためのドイツ語が使えるようになるだけでなく、議論において自分の意見を述べたり図表や状況を説明するなど、高度なドイツ語表現を運用できることを目標とします。

本学教育目標との関連 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

※ 会話練習を中心に行いますので、授業への毎回の積極的な参加が求められます。継続して参加できる方のみ履修登録を行い、受講してください。

※ 毎回の課題の遂行と提出が可能なこと。

教科書

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語のコミュニケーション能力を伸ばす。

学習内容 発話を重視するため、小グループにわかれての会話練習や、簡単な書き取り、

『Menschen A1.2 Kursbuch Mit DVD-Rom』（ドイツ語）Huber社、2012年。8.49ユーロ、ISBN：978-3-19-501901-9

※ 目次と内容の見本は下記のウエブサイトからご覧になれます。受講レベルに応じているかどうか、ご確認ください。

目次：

https://shop.hueber.de/media/hueber_dateien/Internet_Inhaltsverz/Red1/9783195019019_Inhalt.pdf

内容：

https://shop.hueber.de/media/hueber_dateien/Internet_Muster/Red1/9783195019019_Muster_1.pdf

参考書 クラスの担当教員が指示します。

成績評価方法と基準

※ 中間テスト（会話）（20%）

※ 学期末テスト（1分間の暗唱によるスピーチ＋筆記テスト）（40%）

※ 平常点（40%）

※ 毎回の授業への取り組みや熱意、さらに課題の提出も評価点に加えます。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも効果的です。授業ではパートナー練習が中心となります。そのため、予習を必要とする場合は、必ず事前に行った上で授業に臨んでください。

聴き取り練習を行います。ドイツの芸術・歴史・文化に親しみながら、授業を進めます。また受講者からの提案があれば、それを授業に採り入れる場合があります。

異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）

Seminar in Foreign Studies II (German A)

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 1 対象 人文学部文化学科 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業 担当教員 大河内 朋子 (人文学部)

授業の概要

ドイツ語テキストを読むことにより、中級程度の語彙、文法、よく使われる表現パターンなどの習得を目指します。

ドイツの人々の暮らしや考え方、文化や社会について基礎的な知識を獲得します。

学習の目的

中級程度の語彙、文法、よく使われる表現パターンなどを習得します。

ドイツ事情について基礎的な知識を獲得します。

学習の到達目標

初級後半～中級レベルのドイツ語テキストを正確に読むことができる。

ドイツの日常生活や文化について基礎的な知識をもっている。

授業計画・学習の内容

キーワード 初級後半～中級レベルのドイツ語テキストを読みます。

学習内容

ドイツの人々の暮らしや考え方、文化や社会について書かれたテキストを読みます。

テキストに関連する文法事項について、練習問題によって習得します。

前期（第1～15回）のトピック（予定）

1.労働契約

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 共通教育「ドイツ語Ⅰ基礎（前）」「ドイツ語Ⅰ基礎（後）」「ドイツ語Ⅰ演習（前）」「ドイツ語Ⅰ演習（後）」を履修していること

発展科目 人文学部専門科目「ドイツ文学演習」「ドイツ語学演習」「ドイツ語作文」

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。

成績評価方法と基準 初回の授業時に説明します。

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室

- 2.サイン
 - 3.部屋の暖房
 - 4.買い物客と店員
 - 5.授業中の生徒の態度
 - 6.答案の書き方
- など

学習課題（予習・復習） 必ず予習してから授業に望むこと

異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）

Seminar in Foreign Studies II (German A)

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 大河内 朋子（人文学部）

授業の概要

ドイツ語テキストを読むことにより、中級程度の語彙、文法、よく使われる表現パターンなどの習得を目指します。

ドイツの人々の暮らしや考え方、文化や社会について基礎的な知識を獲得します。

学習の目的

中級程度の語彙、文法、よく使われる表現パターンなどを習得する。

ドイツ事情について基礎的な知識を獲得する。

学習の到達目標

中級レベルのドイツ語テキストを正確に読むことができる。

ドイツの日常生活や文化について基本的な知

識をもっている。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 前期開講の「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）」を履修していること

発展科目 人文学部専門科目「ドイツ文学演習」「ドイツ語学演習」「ドイツ語作文」

教科書 未定（生協の教科書販売の一覧表で確認してください）

成績評価方法と基準 初回の授業時に説明します。

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 中級レベルのドイツ語テキストを読みます。

学習内容

ドイツの人々の暮らしや考え方、文化や社会について書かれたテキストを読みます。

作文や穴埋めなどの練習問題により、中級程度のドイツ語力を養います。

後期（第1～15回）のトピック（予定）

1. トイレのノック
2. 割り勘
3. 時間感覚
4. 保守と革新など

学習課題（予習・復習） 必ず予習してから授業に望むこと

異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）

Seminar in Foreign Studies II (German B)

学期 前期 **開講時間** 水5,6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒヤエラ

授業の概要 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を確かなものにし、さらに運用力を伸ばします。

学習の目的 ドイツ語の聴解・発音・表現能力を向上させます。

学習の到達目標 ドイツ語で日常的コミュニケーションができ、簡単な学問的テーマについて話せる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「ドイツ語Ⅰ会話A(前)」「ドイツ語Ⅰ会話A(後)」「ドイツ語Ⅰ会話B(前)」「ドイツ語Ⅰ会話B(後)」

発展科目

後期開講の「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語

B）」と「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）」人文学部専門科目「ドイツ語会話F」及び「ドイツ語作文D」

教科書 studio [21].A2.1.Das Deutschbuch. (Cornelsen) ISBN: 978-3-06-520587-0

参考書 独和辞典、和独辞典

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

授業改善への工夫 学生と教師間の会話だけでなく、隣の受講生とペアを組んで対話します。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語会話の運用力を伸ばします。

学習内容

Sachtexte verstehen

Termine machen

Landeskunde

über Sprachen und Migration sprechen

eigene Biografie

Städte und Länder vergleichen

über Familie sprechen

Fotos und Personen beschreiben

jemanden beglückwünschen/einladen

über eine Reise sprechen

Fahrpläne lesen

eine Reise planen und buchen

eine Zugfahrt organisieren

学習課題（予習・復習） 前回の復習；新しい単語の暗記

異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）

Seminar in Foreign Studies II (German B)

学期 後期 開講時間 水5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒヤエラ

授業の概要 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を確かなものにし、さらに運用力を伸ばします。

学習の目的 ドイツ語の聴解・発音・表現能力を向上させます。

学習の到達目標 ドイツ語で日常的コミュニケーションができ、平易な学問的テーマについて話せる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 前期開講の「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）」と「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）」

発展科目 人文学部専門科目「ドイツ語会話

C」「ドイツ語会話D」「ドイツ語作文A」「ドイツ語作文B」

教科書 studio [21].A2.1.Das Deutschbuch. (Cornelsen) ISBN: 978-3-06-520587-0

参考書 独和辞典、和独辞典

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

授業改善への工夫 学生と教師間の会話だけでなく、隣の受講生とペアを組んで対話します。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語会話の運用力を伸ばします。

学習内容

über Hobbys und Interessen sprechen
positiv/negativ oder überrascht auf etwas reagieren

Emotionen ausdrücken und verstehen

über Vereine sprechen

über Medien sprechen

eine Grafik verstehen und auswerten
kurze Mitteilungen schreiben
auf eine Reklamation reagieren
Freizeit: sagen, worauf man Lust hat
eine Speisekarte lesen
etwas im Restaurant bestellen
über Kontakte sprechen

学習課題（予習・復習） 前回の復習；新しい単語の暗記

異文化理解Ⅱ総合（フランス語）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (French)

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井出 勉（非常勤講師）

授業の概要 異文化理解の一環として、現代のフランスについて、わかりやすく書かれた時事フランス語の文章を講読する。学生の理解度に応じて、テキスト以外の新聞・雑誌記事等を抜粋し講読するが、DVDなども随時使い、フランス文化に親しんでもらう。

学習の目的 フランス文化との関わりを端緒として、アメリカ文化とは違うヨーロッパ文化という異文化への関心を養い深めてもらう。中級程度のフランス語で書かれた文章の理解を通して、正確な音読を習得し、異文化コミュニケーションに役立ててもらおう。

学習の到達目標 フランス文化を概観することで、現代フランスの現状や歴史的背景及びその問題点について理解する。フランス語に関しては、フランス語検定試験3級・準2級程度の文法力、語彙力、および読解力を習得する。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ文法前・後）と異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ講読前・後）を受講してあること。ないしは実用フランス語技能検定試験

（仏検）4級以上に相当する能力を有すること（4級以上の取得者ならば1年生でも受講を認める）。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎および演習（フランス語）（ないしはフランス語Ⅰ文法および講読）

発展科目 後期に開講される「異文化理解Ⅱ総合」

教科書 加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2015年度版』朝日出版社

参考書 授業中に随時紹介

成績評価方法と基準 期末試験60%（16回目に試験を行う）、平常点40%（授業中の読み、訳、質疑応答、受講態度など）で総合的に評価する。

オフィスアワー

授業前、授業後に対応。

至急の場合の連絡窓口は人文学部・山本寛（kakusan@human.mie-u.ac.jp）。

授業改善への工夫 一方的な講義にならないように努めたい。また、学生個々の能力を高め、活発な質疑応答ができる雰囲気を作るよう努力したい。

その他 前期と後期を通して受講することを勧める。また、異文化理解Ⅱ演習（フランス語）と並行して受講することを勧める。

授業計画・学習の内容

キーワード フランス、フランス文化、フランス語、異文化理解

Key Word(s) France, French Culture, French, Foreign Studies

学習内容

第1回～3回 「先生、ありがとう!」：インターネットでの24時間視聴可能なフランスの

テレビ局。

第4回～5回 「ラ・フォル・ジュルネ」：1995年以来続く、5日間のクラシック音楽の熱狂的な祭典。

第6回～7回 「メイド・イン・フランス」：フランス発祥の企業への理解。

第8回～9回 「フランスの高級ブランド」：高級ブランドとして知られるフランスのメー

カーの紆余曲折。

第10回～11回 「ル・ルレー」：古着のリサイクル回収ボックスとその人道的活動。

第12回～13回 「ワートルロー」：その名はナポレオンの敗戦地として有名だが、数々のその名にちなんだ場所の由来を通してイギリスとの関係を理解する。

第14回～15回 「モン・サン・ミシェル」：モン・サン・ミシェルの歴史とその小島が抱える環境問題。

第16回 期末試験

学習課題（予習・復習） テキスト付属のCDを繰り返し聞き、音読して下さい。また、十分な予習をして授業に臨んで下さい。

異文化理解Ⅱ総合（フランス語）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (French)

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井出 勉（非常勤講師）

授業の概要 異文化理解の一環として、現代のフランスについて、わかりやすく書かれた時事フランス語の文章を講読する。学生の理解度に応じて、テキスト以外の新聞・雑誌記事等を抜粋し講読するが、DVDなども随時使い、フランス文化に親しんでもらう。

学習の目的 フランス文化との関わりを端緒として、アメリカ文化とは違うヨーロッパ文化という異文化への関心を養い深めてもらう。中級程度のフランス語で書かれた文章の理解を通して、正確な音読を習得し、異文化コミュニケーションに役立ててもらおう。

学習の到達目標 フランス文化を概観することで、現代フランスの現状や歴史的背景及びその問題点について理解する。フランス語に関しては、フランス語検定試験3級・準2級程度の文法力、語彙力、および読解力を習得する。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ文法前・後）と異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ講読前・後）を受講してあること。ないしは実用フランス語技能検定試験

（仏検）4級以上に相当する能力を有すること（4級以上の取得者ならば1年生でも受講を認める）。

予め履修が望ましい科目

前期の異文化理解Ⅱ総合（フランス語）および異文化理解Ⅱ演習（フランス語）

（ないしは前期のフランス語Ⅱ講読および会話）

教科書 加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2015年度版』朝日出版社

参考書 授業中に随時紹介

成績評価方法と基準 期末試験60%（16回目に試験を行う）、平常点40%（授業中の読み、訳、質疑応答、受講態度など）で総合的に評価する。

オフィスアワー

授業前、授業後に対応。

至急の場合の連絡窓口は人文学部・山本寛（kakusan@human.mie-u.ac.jp）。

授業改善への工夫 一方的な講義にならないように努めたい。また、学生個々の能力を高め、活発な質疑応答ができる雰囲気を作るよう努力したい。

その他 前期と後期を通して受講することを勧める。また、異文化理解Ⅱ演習（フランス語）と並行して受講することを勧める。

授業計画・学習の内容

キーワード フランス、フランス文化、フランス語、異文化理解

Key Word(s) France, French culture, French, Foreign Studies

学習内容

第1回～3回「夏時間」：フランスのサマータイムの問題点。

第4回～5回「女性シェフ」：美食の国フランスにおける女性料理人の進出とその歴史的問題。

第6回～7回「凱旋門賞」：フランス競馬の現状

第8回～9回「政教分離」：カトリックの国におけるイスラム教とその問題。

第10回～11回「ルーヴル美術館ランス分

館」：美術館の分館化とその問題。

第12回～13回 「フランスのヨガ」：心身の調和を求めるヨガと、より宗教色の強いゼンの理解を通して見る東洋と西洋。

第14回～15回 「メープルシロップ」：メープルシロップを通して、カナダのフランス語圏

ケベック州とフランスの関係を考える。

第16回 期末試験

学習課題（予習・復習） テキスト付属のCDを繰り返し聞き、音読してください。また、十分な予習をして授業に臨んでください。

異文化理解Ⅱ演習（フランス語）

Seminar in Foreign Studies II (French)

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 ダメム ジャン・フランソワ

授業の概要 フランス人教員と日常フランス語中級会話を学ぶことを通して、異文化コミュニケーションのスキルを増し、異文化理解を深める。機会があれば映画も利用する。

学習の目的 フランス人教員との平易な対話を通して会話の力を伸ばすとともに、フランス人の対人関係の在り方、ものの考え方を知る。フランス語の文法と語彙の知識とともに、その実践的応用力も伸ばす。

学習の到達目標 後期も引き続き異文化理解Ⅱ演習（フランス語）bを履修した場合、理解と修得と暗記が十分であれば、フランス語検定試験3級程度に相当する会話能力が得られます。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ文法前・後）と異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a・b（または

フランス語Ⅰ講読前・後）を受講してあること。ないしは実用フランス語技能検定試験（仏検）4級以上に相当する能力を有すること（4級以上の取得者ならば1年生でも受講を認める）。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎および演習（フランス語）（ないしはフランス語Ⅰ文法および講読）

発展科目 後期の異文化理解Ⅱ演習（フランス語）

教科書 教室で担当教員が指示します。

成績評価方法と基準 期末テスト等80点、平常点（積極的な授業参加等）20点。5回以上欠席の場合、仮に期末試験を受験しても出席不足で不合格とすることがある。正当な事由は考慮する。

オフィスアワー 授業前、授業後に対応。至急の場合の連絡窓口は人文学部・山本覚（kakusan@human.mie-u.ac.jp）。

授業計画・学習の内容

キーワード 中級フランス語会話 異文化コミュニケーション

Key Word(s) intermediate French conversation, cross-cultural communication

学習内容

01-02回目 注文する、依頼する

03-04回目 質問する

05-06回目 人について質問する

07-08回目 好みについて話す

09-10回目 健康について話す、人に勧める

11-12回目 行先について話す

13-14回目 時に関する表現

15回目 まとめ

受講生の能力等に配慮して、進度と内容を適宜変更することがある。

学習課題（予習・復習） 教室で担当教員が説明します。

異文化理解Ⅱ演習（フランス語）

Seminar in Foreign Studies II (French)

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 ダメモ ジャン・フランソワ

授業の概要 フランス人教員と日常フランス語中級会話を学ぶことを通して、異文化コミュニケーションのスキルを増し、異文化理解を深める。機会があれば映画も利用する。

学習の目的 フランス人教員との平易な対話を通して会話の力を伸ばすとともに、フランス人の対人関係の在り方、ものの考え方を知る。フランス語の文法と語彙の知識とともに、その実践的応用力も伸ばす。

学習の到達目標 前期から引き続き異文化理解Ⅱ演習（フランス語）を履修した場合、理解と修得と暗記が十分であれば、フランス語検定試験3級程度に相当する会話能力が得られます。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ文法前・後）と異

文化理解Ⅰ演習（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ講読前・後）を受講してあること。ないしは実用フランス語技能検定試験（仏検）4級以上に相当する能力を有すること（4級以上の取得者ならば1年生でも受講を認める）。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎および演習（フランス語）（ないしはフランス語Ⅰ文法および講読）

教科書 教室で担当教員が指示します

成績評価方法と基準 期末テスト等80点、平常点（積極的な授業参加等）20点。5回以上欠席の場合、仮に期末試験を受験しても出席不足で不合格とすることがある。正当な事由は考慮する。

オフィスアワー 授業前、授業後に対応。至急の場合の連絡窓口は人文学部・山本寛（kakusan@human.mie-u.ac.jp）。

授業計画・学習の内容

キーワード 中級フランス語会話 異文化コミュニケーション

Key Word(s) intermediate French conversation, cross-cultural communication

学習内容

01-02回目 意思に関する表現、天候に関する表現

03-04回目 時刻について話す、年齢に関する表現

05-06回目 時に関する表現（頻度、期間）

07-08回目 約束する

09-11回目 したことについて話す

12-14回目 していること、したかったことについて話す

15回目 まとめ

受講生の能力等に配慮して、進度と内容を適宜変更することがある。

学習課題（予習・復習） 教室で担当教員が説明します。

異文化理解Ⅱ総合（中国語）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (Chinese)

学期 前期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 荒井 茂夫

授業の概要 中国語で書かれたトピックを通して中国を理解する

学習の目的 中国語の読解力を向上させ、中国に関する情報を言語で扱えるようにする

学習の到達目標 中国語の新聞や雑誌記事を読めるようにする

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読を履修していること

発展科目 異文化理解Ⅲ応用（中国ABC）

教科書 中国の窓

参考書 授業中に指示する

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%

試験 50%

オフィスアワー 授業日終日

授業改善への工夫 自発的学習の誘導

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語長文読解

学習内容 前期：1、授業進行の説説明と中国文化について2、第1課3、第2課4、第3課5、第6課6、第7課7、第8課8、第9課9、第10課

10、第11課11、第12課12、第13課14、第15課後期：1、第16課2、第17課3、第18課4、第19課5、第20課6、第21課7、第22課8、第23課9、第24課10、第25課11、第26課12、第27課14、第28課15、第29課

異文化理解Ⅱ総合（中国語）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (Chinese)

学期 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 荒井 茂夫

授業の概要 中国語で書かれたトピックを通して中国を理解する

学習の目的 中国語の読解力を向上させ、中国に関する情報を言語で扱えるようにする

学習の到達目標 中国語の新聞や雑誌記事を読めるようにする

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 中国語Ⅰ文法、中国語Ⅰ講読を履修していること

発展科目 異文化理解Ⅲ応用（中国語ABC）

教科書 中国の窓

参考書 授業中に指示する

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%

試験 50%

オフィスアワー 授業日終日

授業改善への工夫 自発的学習の誘導

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語長文読解

学習内容 前期：1、授業進行の説説明と中国文化について2、第1課3、第2課4、第3課5、第6課6、第7課7、第8課8、第9課9、第10課

10、第11課11、第12課12、第13課14、第15課後期：1、第16課2、第17課3、第18課4、第19課5、第20課6、第21課7、第22課8、第23課9、第24課10、第25課11、第26課12、第27課14、第28課15、第29課

異文化理解Ⅱ総合(中国語)

Comprehensive Course in Foreign Studies II (Chinese)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語講読

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読

学習の目的 中国語読解能力の養成

学習の到達目標 中国語検定試験3級レベルの読解力の達成

発展科目 異文化理解Ⅲ応用(中国語ABC)

本学教育目標との関連 実践外国語力

教科書 听听说说

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読履修済みの者。

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語長文読解

『留学計画』をテーマにした文章を読む。これらのテーマに即して、中国の大学、中国の大学生活、中国の景勝地などを紹介していく。

学習内容 『自己紹介』、『私たちの大学』、『学生生活』、『友達』、『私の趣味』、

異文化理解Ⅱ総合(中国語)

Comprehensive Course in Foreign Studies II (Chinese)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語講読

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読

学習の目的 中国語読解能力の養成

学習の到達目標 中国語検定試験3級レベルの読解力の達成

発展科目 異文化理解Ⅲ応用(中国語ABC)

本学教育目標との関連 実践外国語力

教科書 听听说说

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読履修済みの者。

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語長文読解

ル』をテーマにした文章を読む。これらのテーマに即して、中国人の生活、中国人の食事、中国の方言、中国の少数民族などを紹介していく。

学習内容 『中国の朝』、『中国の食事』、『買い物』、『祝日』、『方言』、『内モンゴ

異文化理解Ⅱ演習(中国語)

Seminar in Foreign Studies II (Chinese)

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語会話練習

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ演習 中国語Ⅰ講読

学習の目的 中国語会話能力の養成

学習の到達目標 中国語検定試験3級レベルの会話、聞き取り能力の達成

発展科目 異文化理解Ⅲ応用 (中国語ABC)

本学教育目標との関連 実践外国語力

教科書 中国語つぎへの一歩

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読履修済みの者。

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語中級会話

学習内容 会話練習のテーマは、それぞれ『中国に行こう』、『ジャスミン茶を飲もう』、『友達を作ろう』、『長城に登ろう』

『卓球を楽しもう』、『漢字を覚えよう』。これらのテーマに即して、中国への渡航、中国茶、万里の長城、卓球などを紹介していく。

異文化理解Ⅱ演習(中国語)

Seminar in Foreign Studies II (Chinese)

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語会話練習

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読履修済みの者

学習の目的 中国語会話能力の養成

発展科目 異文化理解Ⅲ応用(中国語ABC)

学習の到達目標 中国語検定試験3級レベルの会話、聞き取り能力の達成

教科書 中国語つぎへの一步

本学教育目標との関連 実践外国語力

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語中級会話

学習内容 会話練習のテーマは、それぞれ『街を歩こう』、『中国映画を見よう』、『チャイナドレスを買おう』、『中華を食べ

よう』、『西遊記を読もう』、『春節を祝おう』。これらのテーマに即して、中国の町、中国料理、チャイナドレス、中国映画、中国古典文学、中国の祝日などを紹介していく。

異文化理解Ⅱ演習（中国語） Seminar in Foreign Studies II (Chinese)

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 中国語の基礎文法を再確認しながら、中国や台湾・香港についての華人文化を紹介し、会話を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級に対応する単語を身に着ける。

学習の目的 中国語の文法構造を理解して、中国語での質問に対して自然に応答できる。華人社会の文化や物事に興味を持つ。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習の文法や語彙を利用して応答できる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 中国語Ⅰ文法と中国語Ⅰ講読を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法と中

国語Ⅰ講読

発展科目 異文化理解Ⅱ総合（中国語Ⅱ講読）異文化理解Ⅲ応用（中国語ABC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 與水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13：00～15：00
共通教育4号棟4階會研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌を紹介する。自由会話を毎回する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語の実践的会話

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 重逢（反語文）

第3回 逛早市（存現文）

第4回 动物园（程度補語、複文）

第5回 中国的传统节日1（文化比較、発表練習）

第6回 中国的传统节日2（文化比較、発表練習）

第7回 汉语歌曲介绍1（長文読み、比喩練習）

第8回 中検3級レーベルの聴力、阅读練習

第9回 汉语歌曲介绍2（長文読み、比喩練習）

第10回 借书（時間について文法）

第11回 找旅馆（量詞、複合方向補語）

第12回 搭乘交通工具（文化比較、発表練習）

第13回 电影欣赏1（理解力訓練、聞き取り練習）

第14回 电影欣赏2（理解力訓練、感想書く練習）

第15回 聴力、阅读总复习

第16回 定期試験

異文化理解Ⅱ演習（中国語） Seminar in Foreign Studies II (Chinese)

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 中国語の基礎文法を再確認しながら、中国や台湾・香港についての華人文化を紹介し、会話を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級に対応する単語を身に着ける。

学習の目的 中国語の文法構造を理解して、中国語での質問に対して自然に応答できる。華人社会の文化や物事に興味を持つ。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習の文法や語彙を利用して応答できる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅰ文法と中国語Ⅰ講読を履修済みであること。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語の実践的会話

学習内容

- 第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。
- 第2回 教室用語, 考試用語（教室用中国語練習）
- 第3回 我的暑假（発表練習）
- 第4回 访问他人（常用構文、連接詞練習）
- 第5回 买东西（場面を作る会話練習）
- 第6回 3級レベル聞き取り、語彙練習
- 第7回 3級レベル翻訳、長文読む練習
- 第8回 汉语流行歌介绍1（中国語の比喩を考えよう）

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法と中国語Ⅰ講読

発展科目 異文化理解Ⅱ総合（中国語）異文化理解Ⅲ応用（中国語ABC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 興水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13：00～15：00
共通教育4号棟4階曾研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌を紹介する。自由会話を毎回する。

第9回 汉语流行歌介绍2（若者の言葉）

第10回 欢迎会（動量補語）

第11回 找工作（就職用言葉）

第12回 送行（可能補語、助動詞）

第13回 电影欣赏1（理解力訓練、聞き取り練習）

第14回 电影欣赏2（理解力訓練、感想書く練習）

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明する。

異文化理解 III 応用（ドイツ語A）

Applied Course in Foreign Studies III (German A)

学期 前期 **開講時間** 水7,8 **単位** 1 **対象** 人文学部以外の学生 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ

授業の概要 基本的な文法を習得することにより、自分のことが表現できるようになります。

学習の目的 聞くことや話すことを中心にした練習によって、ドイツ語で簡単な会話ができるようになります。併せて、ドイツ事情について学びます。

学習の到達目標 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を作って、平易な日常的コミュニケーションができる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語会話を初めて学習する学生です。

発展科目 後期開講の「異文化理解 III 応用（ドイツ語B）」

教科書 プリント配布

参考書 独和辞典

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業改善への工夫 学生と教師間の会話だけでなく、隣の受講生とペアを組んで対話します。

授業計画・学習の内容

キーワード 場面で学ぶドイツ語（初級）

学習内容

アルファベットと発音

人と知り合う（自己紹介する）

趣味（好きなこと、嫌いなこと、ドイツ人と日本人の余暇活動）

家族と職業

町で（店、買い物）

食事（一日の食事）

学習課題（予習・復習）

前回の復習

新しい単語の暗記

異文化理解 III 応用 (ドイツ語B)

Applied Course in Foreign Studies III (German B)

学期 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 1 **対象** 人文学部以外の学生 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ

授業の概要 基本的な文法を習得することにより、自分のことが表現できるようになります。

学習の目的 聞くことや話すことを中心にした練習によって、ドイツ語で簡単な会話ができるようになります。併せて、ドイツ事情について学びます。

学習の到達目標 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を固めることで、平易な日常的コミュニケーションができる。

本学教育目標との関連モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語会話を初めて学習する学生です。

前期開講の「異文化理解 III 応用 (ドイツ語A)」

予め履修が望ましい科目 前期開講の「異文化理解 III 応用 (ドイツ語A)」

発展科目 人文学部専門科目「ドイツ語会話C」「ドイツ語会話D」

教科書 プリント配布

参考書 独和辞典

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業改善への工夫 学生と教師間の会話だけでなく、隣の受講生とペアを組んで対話します。

授業計画・学習の内容

キーワード 場面で学ぶドイツ語 (初級)

学習内容

時間；一日の生活；一週間の予定

持ち物 (品物と感想、買い物)

休日の計画 (ドイツで人気のある休暇先)

週末の後 (過去のできごと・経験を話す、メールを書く)

学習課題 (予習・復習)

前回の復習

新しい単語の暗記

異文化理解III応用（中国語A）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese A)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 リスニングと会話能力をさらに向上させるため、授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、中国や台湾・香港についての現代華人社会と文化を紹介し、自分の意見の発表を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレーベルに対応する単語を身に着ける。

学習の目的 既習の文法事項を利用して一文を完全に話せるようにする。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に對して自然に既習の語彙や文型を使い応答できる。書面語による文書を自力で読めるようにする。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

受講要件 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級取得済みの者。

発展科目 異文化理解III応用（中国語BC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 與水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13：00～15：00
共通教育4号棟4階曾研究室

授業改善への工夫 積極的に発言できる授業運営に努める。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌を紹介する。自由会話を毎回する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語上級会話

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 我的愿望

第3回 我的家乡

第4回 日本与邻近国家的关系1

第5回 日本与邻近国家的关系2

第6回 骂人的艺术

第7回 中国語検定2級听力, 語彙練習

第8回 中国語検定2級阅读, 翻譯練習

第9回 电影欣赏1（理解力訓練、聞き取り練習）

習）

第10回 电影欣赏2（理解力訓練、感想書く練習）

第11回 环保议题1

第12回 环保议题2

第13回 中日饮食文化比较1

第14回 中日饮食文化比较2

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明する。

異文化理解III応用（中国語A）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese A)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 会話を更に向上させるため、授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、中国や台湾・香港についての現代華人社会と文化を紹介し、自分の意見の発表を中心に練習する。なお、文章を大量に読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。

学習の目的 中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方や行動を認識させる。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習の語彙や表現を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるようになる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語II会話と中国語II講読を履修済みであること。或は、中検の4級取得者。

発展科目 異文化理解III応用（BC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 興水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13：00～15：00
共通教育4号棟4階曾研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる環境を整える。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌等も紹介する。毎回自由会話をする。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語上級会話

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 看图说故事1-绘本解读

第3回 看图说故事2-漫画解读

第4回 看图说故事3-海报解读

第5回 时事讨论1

第6回 时事讨论2

第7回 中国語検定2級听力, 語彙練習

第8回 中国語検定2級阅读, 翻译练习

第9回 电影欣赏1（理解力訓練、聞き取り練習）

習）

第10回 电影欣赏2（理解力訓練、感想書く練習）

第11回 商业汉语1-商品推销

第12回 商业汉语2-求职汉语

第13回 商业汉语3-办公室用语

第14回 商业汉语4-经济新闻阅读

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明する。

異文化理解III応用（中国語B）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese B)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、現代華人社会と文化を紹介し、感想や作文を書く。なお、文章を大量に読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着ける。作文を書くとともに、文章を日本語訳・中国語訳する練習もある。

学習の目的 中国語の文章を読んで、文章の枠組みを分析し、自分の作文の中に利用する。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方や行動を認識させる。翻訳の能力を上達させる。

学習の到達目標 中国語検定3級以上取得

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履

修済みであること。或は、中検の4級取得済みの者。

発展科目 異文化理解III応用（中国語AC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 奥水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13:00~15:00
共通教育4号棟4階曾研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる環境を整える。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌も紹介する。毎回自由会話をする。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語上級作文翻訳

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 自我介绍（写作练习1）

第3回 我的好朋友（翻译练习1）

第4回 见面礼仪（写作练习2）

第5回 我的家人（翻译练习2）

第6回 购物（写作练习3）

第7回 讲价（翻译练习3）

第8回 中国語検定2級練習

第9回 电影欣赏1

第10回 电影欣赏2

第11回 方位（写作练习4）

第12回 交通工具（翻译练习4）

第13回 烹饪（写作练习5）

第14回 用餐习惯（翻译练习5）

第15回 总复习

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明する。

異文化理解III応用（中国語B）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese B)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、現代華人社会と文化を紹介し、感想や作文を書く。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。作文を書くとともに、文章を日本語訳・中国語訳する練習もある。

学習の目的 中国語の文章を読んで、文章の枠組みを分析し、自分で文章を組み立てる。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方や行動を認識させる。翻訳の能力を上達する。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に對して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるようになる。大量の翻訳練習。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力、

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語上級作文、翻訳

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 飲茶文化（写作练习1）

第3回 性別平等（翻译练习1）

第4回 親子关系（写作练习2）

第5回 選挙文化（翻译练习2）

第6回 经济衰退（写作练习3）

第7回 空气污染（翻译练习3）

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語II文法と中国語II講読を履修済みであること。或は、中検の4級取得済みの者。

発展科目 異文化理解III応用（中国語AC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 與水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13:00~15:00
共通教育4号棟4階會研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる環境を整える。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌も紹介する。自由会話を毎回する。

第8回 中国語検定2級练习

第9回 电影欣赏1

第10回 电影欣赏2

第11回 传统艺术（写作练习4）

第12回 致命传染病（翻译练习4）

第13回 宗教（写作练习5）

第14回 气功和瑜伽（翻译练习5）

第15回 总复习

第16回 定期試験

異文化理解III応用（中国語C）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese C)

学期 前期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業 **市民開放授業**

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語検定についての学習

学習の目的 中国語検定3級、2級の合格

学習の到達目標 中国語の会話力、読解力、文章力を総合的に養成する

本学教育目標との関連 実践外国語力

受講要件 中国語Ⅱ会話 中国語Ⅱ講読履修済みの者。中国語検定4級取得済みの者。

発展科目 異文化理解III応用（中国語AB）

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語検定試験上位級受験対策

学習内容 中国語検定試験過去問題を解き、

合格を目指す。また、中国のニュースや、中国人の関心事なども随時紹介していく。

異文化理解III応用（中国語C）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese C)

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語検定3級以上取得のための学習

みの者。中国語検定4級取得済みの者。

学習の目的 中国語検定3級、2級の合格

発展科目 異文化理解III応用（中国語AB）

学習の到達目標 中国語の会話力、読解力、文章力を総合的に養成する

教科書 プリント等配布

本学教育目標との関連 実践外国語力

参考書 授業で指定。

受講要件 中国語II講読 中国語II会話履修済

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語検定試験上位級受験対策

合格を目指す。また、中国のニュースや、中国人の関心事なども随時紹介していく。

学習内容 中国語検定試験過去問題を解き、

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a

Seminar in Foreign Studies Ia (German A)

学期 前期 **開講時間** 火3,4 **単位** 1 **対象** 人文学部法律経済学科 **年次** 学部(学士課程): 1年次
選/必 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**
担当教員 大河内 朋子

授業の概要

平易なテキストを読み・書きすることにより、ドイツ語の基本的な文法や語彙などを習得します。
ドイツの文化についても学びます。

学習の目的

ドイツ語の基本的な文法や語彙などを習得します。
ドイツで暮らしている人々の生活習慣や社会制度などについて学びます。

学習の到達目標

初級レベルの基本的な語彙、構文、表現等を習得している。
ドイツの生活文化について基礎的な知識を持っている。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語とドイツ文化の基礎を学習する。

学習内容

平易なテキストを読み・書きすることにより、ドイツ語の基礎的な文法、表現、語彙を習得します。

文法のトピック（予定）

1. 人称代名詞
2. 動詞の現在人称変化
3. 名詞と冠詞の格変化

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

発展科目

後期に開講される「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b」

会話を学びたい人は、人文学部専門科目「ドイツ語会話A」「ドイツ語会話B」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。

成績評価方法と基準 筆記試験

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室（人文学部校舎2階）

4. 前置詞
 5. 話法の助動詞
 6. 現在完了形
- ドイツの生活文化を概観します。

- トピック（例）
1. ドイツの家族
 2. ドイツの宗教
 3. ドイツの学校

学習課題（予習・復習） 必ず予習と復習をすること

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b

Seminar in Foreign Studies Ib (German A)

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 1 対象 人文学部法律経済学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 大河内 朋子

授業の概要

平易なテキストを読み・書きすることにより、ドイツ語の基本的な文法や語彙などを習得します。

ドイツの歴史や社会についても学びます。

学習の目的

ドイツ語の基本的な文法や語彙などを習得します。

ドイツに暮らす人々の生活習慣や歴史、社会制度などについて学びます。

学習の到達目標

初級レベルの基本的な語彙、構文、表現等を習得している。

辞書を使って平易なテキストを読み、簡単な文章を作ることができる。

ドイツの生活文化や歴史、社会制度について基礎的な知識を持っている。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語とドイツ文化の基礎を学習します。

学習内容

辞書を使って、ドイツ語のテキストを読んだり、書いたりすることで、基礎的な文法知識を習得します。

文法のトピック（予定）

- 1.zu不定詞と現在分詞
- 2.関係代名詞

語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」を履修していること

発展科目

2年次で、「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）」を履修してください。

会話を学びたい人は、人文学部専門科目「ドイツ語会話A」と「ドイツ語会話B」を履修してください。

教科書 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」（火曜3-4限 担当：大河内）の教科書を引き続き使用します。

成績評価方法と基準 筆記試験

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室（人文学部校舎2階）

3.受動態

ドイツに暮らす人々の生活文化や歴史、社会制度について学びます。

トピック（予定）

- 1.ドイツ基本法
- 2.ドイツの社会保障制度
- 3.ドイツの現代史（20世紀以降）

学習課題（予習・復習） 必ず予習と復習をすること

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (German A)

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 Moodle 市民開放授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構)

授業の概要 異文化を理解する手段として、ドイツ語の基礎的な文法事項の習得を目指します。

学習の目的 ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、ドイツ語圏の文化に関するドイツ語の簡単な文を読んだり書いたりすることができるようになることを目指します。

学習の到達目標

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、外国人向けのドイツ語圏の観光案内書の概要がわかるようになる。

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、簡単な自己紹介が書けるようになる。

本学教育目標との関連 共感,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,情報受発信力,実践外国語力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

発展科目 異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）
b、異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b、異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）、異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）

教科書 井口靖『プラクティス・グラマー 練習で学ぶドイツ語』三修社

参考書

『新アクセス独和辞典第3版』三修社
(Casioの電子辞書に収録。iPhone, iPad用のアプリもあります。)

成績評価方法と基準 小テスト20%、中間試験40%、期末試験40%

オフィスアワー 毎週火3・4限 人文学部校舎2F研究室

授業改善への工夫 授業はスライドを用いて行います。授業で使用したスライドはMoodleに掲載します。毎回小テストを行いますので、Moodleを復習に利用してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語文法 発音 動詞の変化 名詞の性格変化 冠詞 前置詞 代名詞

Key Word(s) German grammar, pronunciation, conjugation, gender, declension, article, preposition, pronoun

学習内容

基礎的な文法事項を学習し、練習問題で訓練します。

第1回 ドイツ語について、授業の進め方、学習の仕方

第2回～第3回 現在人称変化と語順

第4回～第5回 名詞の性・格

第6回～第7回 不規則動詞の人称変化・命令文

第8回 中間テスト

第9回～第10回 中間テスト解答、名詞の複数形と数詞

第11回～第12回 定冠詞類と不定冠詞類

第13回～第14回 前置詞と人称代名詞

第15回 総まとめと補足

第16回 期末テスト

毎回、ドイツの映画を見ながら、実際の場面でのドイツ語とドイツの生活、文化、社会を学びます。

学習課題（予習・復習）

基本的に予習は必要ありませんが、復習は必ずしてください。

毎回授業の最初には小テストを行います。内容は前回の授業内容です。授業で用いた資料はMoodleに掲載しますので、それを参考に復習してください。休むとついて来られなくなりますので、毎回出席することが必要ですが、どうしても休んだ場合には必ずMoodleをチェックしてください。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (German A)

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 Moodle 市民開放授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構)

授業の概要 異文化を理解する手段として、異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）aに引き続いてドイツ語の基礎的な文法事項の習得を目指します。

学習の目的 ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、ドイツ語圏の文化に関するドイツ語のある程度まとまった文章を読んだり書いたりすることができるようになることを目指します。

学習の到達目標

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、外国人向けのドイツ語圏の観光案内書が読めるようになる。

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、簡単な日本の文化に関する紹介文が書けるようになる。

本学教育目標との関連 共感,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,情報受発信力,実践外国語力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語文法 再帰動詞 分離動詞 非分離動詞 話法の助動詞 時制 受動態 接続詞 関係代名詞 接続法 形容詞

Key Word(s) German grammar, reflexive verb, separable verb, inseparable verb, modal auxiliary, tense, passive, conjunction, relative pronoun, subjunctive, adjective

学習内容

学習内容

基礎的な文法事項を学習し、練習問題で訓練します。

第1回 前期の文法事項の復習

第2回～第3回 再帰動詞と分離動詞・非分離動詞

第4回～第5回 話法の助動詞とzu不定詞

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）aを履修しているか、またはそれに相当する内容を理解していること

発展科目 異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）、異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）

教科書 井口靖『プラクティス・グラマー 練習で学ぶドイツ語』三修社

参考書

『新アクセス独和辞典第3版』三修社

（Casioの電子辞書に収録。iPhone, iPad用のアプリもあります。）

成績評価方法と基準 小テスト20%、中間試験40%、期末試験40%

オフィスアワー 毎週火3・4限 人文学部校舎2F研究室

授業改善への工夫 授業はスライドを用いて行います。授業で使用したスライドはMoodleに掲載します。毎回小テストを行いますので、Moodleを復習に利用してください。

第6回～第7回 現在完了形と過去形

第8回 中間テスト

第9回～第10回 中間テスト解答、形容詞の格変化と比較変化

第11回～第12回 受動態と従属接続詞

第13回～第14回 接続法と関係代名詞

第15回 総まとめと補足

第16回 期末テスト

毎回、ドイツの映画を見ながら、実際の場面でのドイツ語とドイツの生活、文化、社会を学びます。

学習課題（予習・復習）

基本的に予習は必要ありませんが、復習は必ずしてください。

毎回授業の最初には小テストを行います。内容は前回の授業内容です。授業で用いた資料

はMoodleに掲載しますので、それを参考に復習してください。休むとついて来られなくなりますので、毎回出席することが必要ですが、どうしても休んだ場合には必ずMoodleをチェックしてください。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 火5,6 **単位** 1 **対象** 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 米川直樹 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの基礎的な技能の習得とルールにそった試合をできるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回 ガイダンスと種目分け

第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)

第3回 スポーツと怪我の防止。バドミントンの歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入

第4回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、基礎技能1(フォアハンド、

バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(2)

第6回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(3)

第7回 スポーツと環境、基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第8回 基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(2)

第9回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

オフィスアワー 火曜日14:30~14:40

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。授業中、授業後、オフィスアワー時に学生からの質問や意見などを参考にしたり、最終授業後のレポートなどを参考にしながら対応する。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第10回 基礎技能3（レシーブ）とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第11回 基礎技能4（戦術）とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)

第12回 基礎技能4（戦術）とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

第13回 ゲーム（ルールの説明を含む）(1)

第14回 ゲーム（ルールの説明を含む）(2)

第15回 テスト

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 基礎技能習得に向けて自宅でできる方法の提示、日常生活での体力維持の方法の提示、バドミントンに関する情報（新聞、TVなど）に接すること等を通して対応する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 1 対象 人文学部(文化+法経201~235) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉田 正明

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 健康、体力、運動についての意義、重要性などの概要を理解し、今後の生活に役立てるようになる。サッカーの基本的技術が身につく、自らがサッカーを楽しくできるようにする。

本学教育目標との関連 モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、指導力・協調性、社会人

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) soccer, exercise, health, sport

学習内容

第1回 ガイダンス 種目選択

第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)

第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認

第4回 基本トレーニングと基本のキック及びトラップなどの学習

第5回 基本トレーニングとパス、浮いたボールのパス、リフティング、パス回しの学習

第6回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、パスの学習

としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00杉田研究室（教育学部1号館1階）

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。1回目の授業に参加しないと希望種目が選択できないこともある。

第7回 基本の学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明

第8回 リフティング、パス、ドリブルの学習とミニゲーム

第9回 スポーツと運動強度、パス、ドリブル等の総合的な学習

第10~11回 パス、ドリブル等の総合的な学習とゲーム（ハーフコート）

第12~13回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）パスゲーム、センタープレイなど

第14回 ゲームと現行ルールの説明及び審判法

第15回 ゲーム

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 国内外のサッカーの試合をテレビなどで視聴し、サッカーへの理解を深めること。かんたんなルールについて事前に学習することを求める。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火,5,6 単位 1 対象 文化+法経 (201~235) 年次 学部(学士課程):1年次
選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 八木規夫 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身への健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(第2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 ・運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康・体力・運動についての概要を理解する。
- ・バスケットボールの基礎技術及びゲームルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考え

授業計画・学習の内容

キーワード 豊かなスポーツライフをめざして、バスケットボールゲームを実践する能力を養うとともに、バスケットボールの知識、楽しみ方について学習する。

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査 (1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認、シュート、ドリブルなどファンダメンタルスキルの学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明
- 第4回 シュート、ドリブルなどファンダメンタルスキルの学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明

る力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特になし

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時30分~14時30分

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、ファンダメンタルスキルの学習
- 第6回 マンツーマンディフェンスの学習とゲーム
- 第7回 スポーツと環境、マンツーマンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)。速攻、遅攻
- 第8回 マンツーマンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)。スクリーンプレイなど
- 第9回 スポーツと運動強度、ゾーンディフェンスの学習とゲーム
- 第10回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)

第11回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）パスワークなど

第12回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）センタープレイなど

第13回 マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲーム

第14回 マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲームと現行ルールの説明

第15回 マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲームと現行ルールの説明 及び審判法

第16回 まとめ

＊学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 実技実習なので体調を整えておくこと。着替え、タオルなど準備すること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 火5,6 **単位** 1 **対象** 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンドの練習
- 第4回 バックハンドの練習
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果
フィードバック、スマッシュ・ブロックの練習
- 第6回 サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツと環境、変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第8回 変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

人文学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)

第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)

第13回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)

第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)

第15回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 必修 授業の方法 実習

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 米川直樹 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの基礎的な技能の習得とルールにそった試合をできるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回 ガイダンスと種目分け

第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)

第3回 スポーツと怪我の防止。バドミントンの歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入

第4回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、基礎技能1(フォアハンド、

バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(2)

第6回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(3)

第7回 スポーツと環境、基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第8回 基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(2)

第9回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第10回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。授業中、授業後、オフィスアワー時に学生からの質問や意見などを参考にしたり、最終授業後のレポートなどを参考にしながら対応する。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第10回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第11回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第12回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第13回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第14回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第15回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第10回 基礎技能3（レシーブ）とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第11回 基礎技能4（戦術）とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)

第12回 基礎技能4（戦術）とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

第13回 ゲーム（ルールの説明を含む）(1)

第14回 ゲーム（ルールの説明を含む）(2)

第15回 テスト

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 基礎技能習得に向けて自宅でできる方法の提示、日常生活での体力維持の方法の提示、バドミントンに関する情報（新聞、TVなど）に接すること等を通して対応する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部(法経236～) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉田 正明

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 健康、体力、運動についての意義、重要性などの概要を理解し、今後の生活に役立てるようになる。サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようにする。

本学教育目標との関連モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) soccer, exercise, health, sport

学習内容

- 第1回 ガイダンス 種目選択
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認
- 第4回 基本トレーニングと基本のキック及びトラップなどの学習
- 第5回 基本トレーニングとパス、浮いたボールのパス、リフティング、パス回しの学習
- 第6回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、パスの学習

としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00杉田研究室(教育学部1号館1階)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。1回目の授業に参加しないと希望種目が選択できないこともある。

第7回 基本の学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明

第8回 リフティング、パス、ドリブルの学習とミニゲーム

第9回 スポーツと運動強度、パス、ドリブル等の総合的な学習

第10～11回 パス、ドリブル等の総合的な学習とゲーム(ハーフコート)

第12～13回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)パスゲーム、センタープレイなど

第14回 ゲームと現行ルールの説明及び審判法

第15回 ゲーム

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 国内外のサッカーの試合をテレビなどで視聴し、サッカーへの理解を深めること。かんたんなルールについて事前に学習することを求める。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 必修 授業の方法 実習

担当教員 柳瀬 慶子

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・エアロビック・ダンスやリズム体操、Gボールを使った運動の基本的な運動を習得し、自分にあった運動を構成できるようになる。体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じられるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード エアロビクス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、エアロビック・ダンスの基礎
- 第4回 基礎的なステップ、ストレッチ(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基礎的なステップ、ストレッチ(2)
- 第6回 基礎的なステップ、ストレッチ(3)
- 第7回 スポーツと環境、簡単なステップの組み合わせ、ストレッチ(1)
- 第8回 簡単なステップの組み合わせ、ストレッチ(2)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

人文学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第9回 スポーツと運動強度、Gボール等の用具を活用した運動(1)
 - 第10回 Gボール等の用具を活用した運動(2)
 - 第11回 Gボール等の用具を活用した運動(3)
 - 第12回 複数のステップコンビネーションと作品構成(1)
 - 第13回 複数のステップコンビネーションと作品構成(2)
 - 第14回 複数のステップコンビネーションと作品構成(3)
 - 第15回 複数のステップコンビネーションと作品構成(4)
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 随時、授業において提示する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火, 8 単位 1 対象 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンドの練習
- 第4回 バックハンドの練習
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、スマッシュ・ブロックの練習
- 第6回 サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツと環境、変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第8回 変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

人文学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)

第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)

第13回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)

第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)

第15回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部(看護学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修

授業の方法 実習

担当教員 中西 義雄 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第4回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第6回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツと環境。サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第8回 応用練習 試合の進め方と試合での作戦

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部と医学部(看護学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

の習得

第9回 スポーツと運動強度。ダブルスのフォーメーションの習得

第10回 ダブルスの試合(1)

第11回 ダブルスの試合(2)

第12回 ダブルスの試合(3)

第13回 シングルの試合(1)

第14回 シングルの試合(2)

第15回 シングルの試合(3)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部（看護学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 脇田裕久（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンド・ストローク(ロング)
- 第4回 バックハンド・ストローク(ショート)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、サービスとレシーブ・ルールの解説および簡易ゲーム
- 第6回 ドライブ・スピンスーブとゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、ドライブ・スピンスーブとゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部、医学部（看護学科）。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピンスーブとゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度、アンダー・スピンスーブとゲーム(2)
 - 第10回 サイド・スピンスーブ（時計回り）とゲーム
 - 第11回 サイド・スピンスーブ（反時計回り）とゲーム
 - 第12回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第13回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(1)
 - 第14回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(2)
 - 第15回 テスト
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部（看護学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 片山 靖富（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部、医学部（看護学科）。
毎年健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度（積極性、協調性など）、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第8回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第9回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第10回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第11回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第12回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第13回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(1)

第15回まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第16回まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金5,6 単位 1 対象 教育学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修

授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 洋子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通しての心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また学びの中でバドミントンの技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの基本的技能を習得し、ダブルスのゲームを楽しむことができるようになる。
- ・体を動かすことの気持ちよさを理解し、日常生活で活用できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康

学習内容

- 第1回: ガイダンスと種目分け
- 第2回: 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回: スポーツと怪我の防止、スポーツ活動1(バドミントンの導入)
- 第4回: スポーツ活動2(バドミントンの基礎技術・クリア)
- 第5回: 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、スポーツ活動3(シングルスミニゲーム)

力を総合した力

受講要件

教育学部の指定されたコース
毎年の健康診断を受診すること。「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に紹介する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00から13:00 保体(運動方法学II)研究室(後藤)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第6回スポーツ活動4(バドミントンの基礎技術・ヘアピン)

第7回: スポーツと環境、スポーツ活動5(バドミントンの基礎技術・ドロップとスマッシュ)

第8回スポーツ活動6(フットワークとシングルのミニゲーム)

第9回: スポーツと運動強度、スポーツ活動7(ダブルスの導入)

第10回スポーツ活動8(基礎練習とダブルスのミニゲーム)

第11回: スポーツ活動9(基礎練習と審判の方法)

第12回スポーツ活動10（応用練習とダブルスのポジショニング）

第13回スポーツ活動11（応用練習とダブルスのミニゲーム）

第14回:スポーツ活動12（応用練習とダブルスのミニゲーム）

第15回:まとめ

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 中西 義雄 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第4回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第6回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツと環境。サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第8回 応用練習 試合の進め方と試合での作戦

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

の習得
第9回 スポーツと運動強度。ダブルスのフォーメーションの習得
第10回 ダブルスの試合(1)
第11回 ダブルスの試合(2)
第12回 ダブルスの試合(3)
第13回 シングルの試合(1)
第14回 シングルの試合(2)
第15回 シングルの試合(3)
第16回 まとめ
*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 脇田裕久 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンド・ストローク(ロング)
- 第4回 バックハンド・ストローク(ショート)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、サービスとレシーブ・ルールの解説および簡易ゲーム
- 第6回 ドライブ・スピンスラブとゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、ドライブ・スピンスラブとゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピンスラブとゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度、アンダー・スピンスラブとゲーム(2)
 - 第10回 サイド・スピンスラブ(時計回り)とゲーム
 - 第11回 サイド・スピンスラブ(反時計回り)とゲーム
 - 第12回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第13回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(1)
 - 第14回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(2)
 - 第15回 テスト
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 1 対象 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 片山 靖富 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ (キック、ドリブル、トラップ、リフティング) (1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、課題解決：基本的なボールタッチ (キック、ドリブル、トラップ、リフティング) (2)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、課題解決：ドリブル技

術の向上を目的としたミニゲーム(2)
第8回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
第9回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
第10回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
第11回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
第12回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
第13回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム (フルコート) (1)
第15回 まとめ1：現行ルールでのゲーム (フルコート) (2)

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第16回 まとめ2：振り返り
*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関し

ては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 7,8 単位 1 対象 教育 (国・社・数情・理・音・美・保・技も・人・日) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 八木規夫

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの各種ショット及びゲームのルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特になし

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 金曜12時30分～14時30分

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード 豊かなスポーツライフをめざして、バドミントンを実践する能力を養うとともに、バドミントンの知識、楽しみ方について学習する。

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、用具などの説明、グループ分け、シャトルとラケットに慣れるための各種運動。
- 第4回 基本練習(ハイクリアー、ドロップショット)、ハーフコートゲームの進め方とゲーム
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果

- フィードバック、基本練習(ハイクリアー、ドロップショット、ヘアピンショット)、ハーフコートゲーム
- 第6回 基本練習(スマッシュ、サーブ)、ハーフコートゲーム
 - 第7回 スポーツと環境、基本練習(スマッシュ、サーブ、ドライブ)、シングルスゲームの進め方とゲーム
 - 第8回 基本練習(スマッシュ、サーブ、ドライブ)、シングルスゲーム(リーグ戦1)
 - 第9回 応用練習(各ショットの組み合わせと動き)、シングルスゲーム(リーグ戦2)
 - 第10回 スポーツと運動強度、応用練習(各ショットの組み合わせと動き)、ダブルスゲームの進め方とゲーム

第11回 応用練習（各ショットの組み合わせと動き）、ダブルスゲーム（リーグ戦1）

第12回 応用練習（各ショットの組み合わせと動き）、ダブルスゲーム（リーグ戦2）

第13回 シングルスゲームとダブルスゲームによる団体戦1

第14回 シングルスゲームとダブルスゲームによる団体戦2

第15回 バドミントンの基本技能に関する習熟度の確認

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 細野 信幸 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第6回 試合を通じルールを知り、お互いのチー

ムの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)

受講要件

生物資源と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(1)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第9回 スポーツと運動強度。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第10回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第13回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第14回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ(4)

第15回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ(5)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 船越 一彦 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バレーボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バレーボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(1)。個人の技能差に応じてソフトバレーボールやジュニア用のボールを使用する。
- 第4回 各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- する(1)。ゲームは男女混合のゲームを原則とするが、受講生の技能向上と経験の度合いの状況のみを適宜チーム編成をしない。
- 第6回 前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(2)
- 第7回 スポーツと環境。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(1)。各自の個別課題、とくに各種パスの長所や短所について確認する。
- 第8回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(2)
- 第9回 スポーツと運動強度。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(3)
- 第10回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(4)
- 第11回 審判法やリーグ戦運営方法についての

レクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(1)

第12回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(2)

第13回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(3)

第14回 審判法やリーグ戦運営方法についての

レクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(4)

第15回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(5)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 5,6 単位 1 対象 生物資源（資源環境＋共生）、医学（1～40） 年次 学部(学士課程): 1年次 選択/必修 必修 授業の方法 実習, 実技 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 脇田裕久（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定及び生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し運動と健康のお関係及びスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目わけ
- 第2回 体力測定および生活習慣調査（第1回）
- 第3回 スポーツとけがの防止、フォアハンドストローク（ロング）
- 第4回 バックハンドストローク（ショート）
- 第5回 体力測定及び生活習慣調査の結果のフィードバック、サービストレ支部、ルールの解説及び簡易ゲーム
- 第6回 ドライブ・スピンスーブとゲーム（1）
- 第7回 スポーツと環境、ドライブ・スピンスーブとゲーム（2）

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部、医学部（医学科）
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題収受度、授業態度（積極性や協調性など）、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目に授業時のガイダンスにおいて、種目決定及び履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピンスーブとゲーム（1）
 - 第9回 スポーツと運動強度、アンダー・スピンスーブとゲーム(2)
 - 第10回 サイド・スピンスーブ(時計回り)とゲーム
 - 第11回 サイド・スピンスーブ（反時計回り）とゲーム
 - 第12回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第13回 これまでの技能の習熟を図りゲームを楽しむ（1）
 - 第14回 これまでの技能の習熟を図りゲームを楽しむ（2）
 - 第15回 テスト
 - 第16回 まとめ
- ※学習内容の変更はありうる

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 1 **対象** 生物資源学部と医学部（医学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必修 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 宮本ともみ（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部、医学部（医学科）。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度（積極性、協調性など）、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第8回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第9回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第10回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第11回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第12回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第13回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(1)

第15回まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第16回まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 1 **対象** 生物資源学部（資源循環+共生）、医学（1~40）

年次 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業、グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 加納岳拓(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 基本的なストロークや試合の進め方（特にダブルス）を習得し、実際の試合を通して生涯スポーツとしてのバドミントンに身につける。同時に、健康、体力、運動についての概要を理解する。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合

した力

受講要件 健康診断を受診していること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価にあたっては、課題習熟度(30%)、授業態度（積極性、協調性など60%）、レポート等(10%)の3観点から原則として評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00

授業改善への工夫 バドミントンにおける基礎的な技術を紹介するとともに、様々なグループングでコミュニケーション能力の向上をめざす。また、出来る限り身体活動量の多い授業を心がける。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回：ガイダンス

第2回：体力測定および生活習慣調査

第3回：全体計画、用具などの説明、グループ分け、ラケットの握り方、スイングの仕方、アンダーハンドストローク(ロングハイサーブス、ロビング)、ミニゲーム①、スポーツと怪我の防止

第4回：オーバーヘッドストローク（ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ）、ミニゲーム②

第5回：サイドアームストローク他(ドライブ、ヘアピン、プッシュ&レシーブ)、ミニ

ゲーム③ 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック

第6回：ゲーム進行方法・ルールの説明、ミニゲーム④

第7回：基礎打ちの習得、ルールに基づきダブルスゲームに入る、スポーツと環境

第8回：基礎打ち、ダブルスゲーム

第9回：スコアシート説明、基礎打ち、スコアをつけながらダブルスゲーム、スポーツと運動強度

第10回：半面シングルス、ダブルスのフォーメーションについて、ダブルスゲーム

第11回：2：1のフリー、フットワークについて、ダブルスゲーム

第12回：バックハンドストローク、ダブルスゲーム

第13回： オールショート、オールロング、ダブルスゲーム

第14回： 技能別班編制によるダブルスゲーム

第15回： 感性別班編制によるダブルスゲーム

学習課題（予習・復習） 授業のみならず、日頃から身体活動量やスポーツ実践の増加を促すとともに、テレビや競技場でのスポーツ観戦を奨励すること、運動と健康に関わる知識を収集することなどを随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木7,8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 細野 信幸 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第6回 試合を通じルールを知り、お互いのチー

ムの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)

受講要件

生物資源と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(1)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第9回 スポーツと運動強度。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第10回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第13回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第14回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ(4)

第15回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ(5)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木7,8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 船越 一彦 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バレーボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バレーボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回 ガイダンスと種目分け

第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)

第3回 スポーツと怪我の防止。各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(1)。個人の技能差に応じてソフトバレーボールやジュニア用のボールを使用する。

第4回 各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(2)

第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源と医学部(医学科)。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

する(1)。ゲームは男女混合のゲームを原則とするが、受講生の技能向上と経験の度合いの状況のみを適宜チーム編成をしない。

第6回 前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(2)

第7回 スポーツと環境。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(1)。各自の個別課題、とくに各種パスの長所や短所について確認する。

第8回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(2)

第9回 スポーツと運動強度。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(3)

第10回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(4)

第11回 審判法やリーグ戦運営方法についての

レクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(1)

第12回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(2)

第13回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(3)

第14回 審判法やリーグ戦運営方法についての

レクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(4)

第15回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(5)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木7,8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部（医学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 脇田裕久（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンド・ストローク(ロング)
- 第4回 バックハンド・ストローク(ショート)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、サービスとレシーブ・ルールの解説および簡易ゲーム
- 第6回 ドライブ・スピンサーブとゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、ドライブ・スピンサーブとゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部、医学部（医学科）。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピンサーブとゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度、アンダー・スピンサーブとゲーム(2)
 - 第10回 サイド・スピンサーブ（時計回り）とゲーム
 - 第11回 サイド・スピンサーブ（反時計回り）とゲーム
 - 第12回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第13回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(1)
 - 第14回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(2)
 - 第15回 テスト
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 生物資源学部と医学部（医学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必修 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 宮本ともみ（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部、医学部（医学科）。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度（積極性、協調性など）、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第8回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第9回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第10回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第11回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第12回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第13回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(1)

第15回まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第16回まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部 (資源循環+共生)、医学 (1~40)

年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業、グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 加納岳拓(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 基本的なストロークや試合の進め方(特にダブルス)を習得し、実際の試合を通して生涯スポーツとしてのバドミントンに身につける。同時に、健康、体力、運動についての概要を理解する。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合

した力

受講要件 健康診断を受診していること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価にあたっては、課題習熟度(30%)、授業態度(積極性、協調性など60%)、レポート等(10%)の3観点から原則として評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00

授業改善への工夫 バドミントンにおける基礎的な技術を紹介するとともに、様々なグループでコミュニケーション能力の向上をめざす。また、出来る限り身体活動量の多い授業を心がける。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回：ガイダンス

第2回：体力測定および生活習慣調査

第3回：全体計画、用具などの説明、グループ分け、ラケットの握り方、スイングの仕方、アンダーハンドストローク(ロングハイサーブ、ロビング)、ミニゲーム①、スポーツと怪我の防止

第4回：オーバーヘッドストローク(ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ)、ミニゲーム②

第5回：サイドアームストローク他(ドライブ、ヘアピン、プッシュ&レシーブ)、ミニ

ゲーム③ 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック

第6回：ゲーム進行方法・ルールの説明、ミニゲーム④

第7回：基礎打ちの習得、ルールに基づきダブルスゲームに入る、スポーツと環境

第8回：基礎打ち、ダブルスゲーム

第9回：スコアシート説明、基礎打ち、スコアをつけながらダブルスゲーム、スポーツと運動強度

第10回：半面シングルス、ダブルスのフォーメーションについて、ダブルスゲーム

第11回：2：1のフリー、フットワークについて、ダブルスゲーム

第12回：バックハンドストローク、ダブルスゲーム

第13回： オールショート、オールロング、ダブルスゲーム

第14回： 技能別班編制によるダブルスゲーム

第15回： 感性別班編制によるダブルスゲーム

学習課題（予習・復習） 授業のみならず、日頃から身体活動量やスポーツ実践の増加を促すとともに、テレビや競技場でのスポーツ観戦を奨励すること、運動と健康に関わる知識を収集することなどを随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 中西義雄

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第4回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第6回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツと環境。サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第8回 応用練習 試合の進め方と試合での作戦

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

の習得
第9回 スポーツと運動強度。ダブルスのフォーメーションの習得
第10回 ダブルスの試合(1)
第11回 ダブルスの試合(2)
第12回 ダブルスの試合(3)
第13回 シングルの試合(1)
第14回 シングルの試合(2)
第15回 シングルの試合(3)
第16回 まとめ
*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 1 対象 工学部 (分子、電気、物理) 年次 学部(学士課程): 1
年次 選必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を
加えた授業

担当教員 富樫健二

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 アルティメットはボールのかわりにフライングディスクを用い、進行はバスケットボール、ハンドボール、得点方法はアメリカンフットボールに類似しているスポーツである。風の影響等、個人の技術・体力要素以外にも偶然性が作用することもあるため、楽しみながら身体に対し運動刺激を与え、生涯スポーツとして位置づけることが目標となる

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード アルティメット、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) Ultimate, Physical Activity, Exercise, Sports

学習内容

第1回: ガイダンス

第2回: 体力測定および生活習慣調査

第3回: 全体計画、用具などの説明、グループ分け、基本技術1(バックハンドスロー&キャッチ)、ミニゲーム①スポーツと怪我の防止

第4回: 基本技術2(サイドアームスロー&キャッチ)、ミニゲーム②

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価にあたっては、課題習熟度(30%)、授業態度(積極性、協調性など60%)、レポート等(10%)の3観点から原則として評価する。

オフィスアワー 木曜12:20~12:40

授業改善への工夫 アルティメットにおける基礎的な技術を紹介するとともに、様々なグルーピングでコミュニケーション能力の向上をめざす。また、出来る限り身体活動量の多い授業を心がける。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第5回: 基本技術3(サンドイッチキャッチ)、ミニゲーム③体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック

第6回: 基本技術4(シングルハンドキャッチ)、ミニゲーム④

第7回: 基本技術5(カーブ、シュートの投げ方)、ミニゲーム⑤スポーツと環境

第8回: 基本技術6(ルールの理解)、ミニゲーム⑥

第9回: 基本技術7(オフェンスの基本)、ミニゲーム⑦

第10回: 基本技術8(ディフェンスの基本)、ミニゲーム⑧

第11回: リーグ戦①(オフェンスの応用:ス

タック)

第12回：リーグ戦②（ディフェンスの応用：ゾーン）

第13回：リーグ戦③（オフェンスの応用：セットプレー）

第14回：リーグ戦④（ディフェンスの応用：クラム）

第15回：基礎技術に関する実技試験、まとめ

学習課題（予習・復習） 授業のみならず、日頃から身体活動量やスポーツ実践の増加を促すとともに、テレビや競技場でのスポーツ観戦を奨励すること、運動と健康に関わる知識を収集することなどを随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンドの練習
- 第4回 バックハンドの練習
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果
フィードバック、スマッシュ・ブロックの練習
- 第6回 サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツと環境、変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第8回 変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)

第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)

第13回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)

第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)

第15回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 1 対象 工学部 (分子・電気・物理) 年次 学部(学士課程): 1
年次 選必 必修 授業の方法 実習
担当教員 大隈節子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
第3回 スポーツと怪我の防止、スポーツ活動
(1) バドミントンのルール説明ならびに試しのゲーム
第4回 スポーツ活動(2) 基本の打ち方
第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、スポーツ活動(3) サービス
第6回 スポーツ活動(4) クリア
第7回 スポーツと環境、スポーツ活動(5) ドロップ

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日 12:15~12:45

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 スポーツ活動(6) ドライブ
第9回 スポーツと運動強度、スポーツ活動(7) スマッシュ
第10回 スポーツ活動(8) プッシュ
第11回 スポーツ活動(9) ダブルスのリーグ戦第1回
第12回 スポーツ活動(10) ダブルスのリーグ戦第2回
第13回 スポーツ活動(11) シングルのリーグ戦第1回
第14回 スポーツ活動(12) シングルのリーグ戦第2回
第15回 スポーツ活動(13) シングルのリーグ戦第3回
第16回 まとめ

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 1 対象 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 小木曾一之 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・ゲームを中心とした中で、バスケットボールの基本技術の習得及びルールを理解し、スポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バスケットボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (1)
- 第4回 3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (3)
- 第6回 3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (4)
- 第7回 スポーツと環境。3on3ゲーム (より多

く、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- く運動量とボールに触れる機会を作る) (5)
 - 第8回 チームで作戦を考えながらのゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度。チームで作戦を考えながらのゲーム(2)
 - 第10回 チームで作戦を考えながらのゲーム(3)
 - 第11回 チームで作戦を考えながらのゲーム(4)
 - 第12回 チームで作戦を考えながらのゲーム(5)
 - 第13回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(1)
 - 第14回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(2)
 - 第15回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(3)
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するに

あたって、最低限のルールをルールブック等 には授業を通じて随時指導する。
を利用して把握しておくこと。その他につい

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 高木 良明 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術を身につけ、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしてのサッカーに必要な体力を養う。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認、リフティングの学習
- 第4回 基本的技術の習得(キックの方法とパスワーク)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基本的技術の習得(ドリブル)
- 第6回 基本的技術の習得(シュート)
- 第7回 スポーツと環境、基本的技術の習得(コンビネーションプレー)
- 第8回 簡易ルールの説明とミニゲーム

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、総合的な学習とミニゲーム

第10回 パスでのコンビネーションとゲーム

第11回 1対1での突破方法とゲーム

第12回 ディフェンス方法とゲーム

第13回 戦術に対する理解とゲーム

第14回 作戦の立案とゲーム

第15回 現行ルールの説明及び審判法の理解とゲーム

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 中西義雄

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第4回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第6回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツと環境。サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第8回 応用練習 試合の進め方と試合での作戦

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

の習得

第9回 スポーツと運動強度。ダブルスのフォーメーションの習得

第10回 ダブルスの試合(1)

第11回 ダブルスの試合(2)

第12回 ダブルスの試合(3)

第13回 シングルス試合(1)

第14回 シングルス試合(2)

第15回 シングルス試合(3)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 1 対象 工学部 (機械、建築、情報) 年次 学部(学士課程): 1
年次 選必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を
加えた授業
担当教員 富樫健二

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 アルティメットはボールのかわりにフライングディスクを用い、進行はバスケットボール、ハンドボール、得点方法はアメリカンフットボールに類似しているスポーツである。風の影響等、個人の技術・体力要素以外にも偶然性が作用することもあるため、楽しみながら身体に対し運動刺激を与え、生涯スポーツとして位置づけることが目標となる

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード アルティメット、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) Ultimate, Physical Activity, Exercise, Sports

学習内容

第1回: ガイダンス

第2回: 体力測定および生活習慣調査

第3回: 全体計画、用具などの説明、グループ分け、基本技術1(バックハンドスロー&キャッチ)、ミニゲーム①スポーツと怪我の防止

第4回: 基本技術2(サイドアームスロー&キャッチ)、ミニゲーム②

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価にあたっては、課題習熟度(30%)、授業態度(積極性、協調性など60%)、レポート等(10%)の3観点から原則として評価する。

オフィスアワー 木曜12:20~12:40

授業改善への工夫 アルティメットにおける基礎的な技術を紹介するとともに、様々なグルーピングでコミュニケーション能力の向上をめざす。また、出来る限り身体活動量の多い授業を心がける。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第5回: 基本技術3(サンドイッチキャッチ)、ミニゲーム③体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック

第6回: 基本技術4(シングルハンドキャッチ)、ミニゲーム④

第7回: 基本技術5(カーブ、シュートの投げ方)、ミニゲーム⑤スポーツと環境

第8回: 基本技術6(ルールの理解)、ミニゲーム⑥

第9回: 基本技術7(オフェンスの基本)、ミニゲーム⑦

第10回: 基本技術8(ディフェンスの基本)、ミニゲーム⑧

第11回: リーグ戦①(オフェンスの応用:ス

タック)

第12回：リーグ戦②（ディフェンスの応用：ゾーン）

第13回：リーグ戦③（オフェンスの応用：セットプレー）

第14回：リーグ戦④（ディフェンスの応用：クラム）

第15回：基礎技術に関する実技試験、まとめ

学習課題（予習・復習） 授業のみならず、日頃から身体活動量やスポーツ実践の増加を促すとともに、テレビや競技場でのスポーツ観戦を奨励すること、運動と健康に関わる知識を収集することなどを随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンドの練習
- 第4回 バックハンドの練習
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、スマッシュ・ブロックの練習
- 第6回 サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツと環境、変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第8回 変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)

第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)

第13回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)

第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)

第15回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 小木曾一之 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・ゲームを中心とした中で、バスケットボールの基本技術の習得及びルールを理解し、スポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バスケットボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
第3回 スポーツと怪我の防止。3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (1)
第4回 3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (2)
第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (3)
第6回 3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (4)
第7回 スポーツと環境。3on3ゲーム (より多

く、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- く運動量とボールに触れる機会を作る) (5)
第8回 チームで作戦を考えながらのゲーム(1)
第9回 スポーツと運動強度。チームで作戦を考えながらのゲーム(2)
第10回 チームで作戦を考えながらのゲーム(3)
第11回 チームで作戦を考えながらのゲーム(4)
第12回 チームで作戦を考えながらのゲーム(5)
第13回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(1)
第14回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(2)
第15回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(3)
第16回 まとめ
*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するに

あたって、最低限のルールをルールブック等 には授業を通じて随時指導する。
を利用して把握しておくこと。その他につい

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 高木 良明 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術を身につけ、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしてのサッカーに必要な体力を養う。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認、リフティングの学習
- 第4回 基本的技術の習得(キックの方法とパスワーク)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基本的技術の習得(ドリブル)
- 第6回 基本的技術の習得(シュート)
- 第7回 スポーツと環境、基本的技術の習得(コンビネーションプレー)
- 第8回 簡易ルールの説明とミニゲーム

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、総合的な学習とミニゲーム

第10回 パスでのコンビネーションとゲーム

第11回 1対1での突破方法とゲーム

第12回 ディフェンス方法とゲーム

第13回 戦術に対する理解とゲーム

第14回 作戦の立案とゲーム

第15回 現行ルールの説明及び審判法の理解とゲーム

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a(アダプテッド スポーツ)

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 1 対象 本コース受講を希望するもの 年次 学部(学士課程): 1
年次, 2年次 選/必 必修 授業の方法 実習
担当教員 山本 俊彦 (教育学部)

授業の概要 我々の活動力に影響する健康や体力の維持増進は、急激な社会生活の変化の中で極めて重要なことである。本授業は、人間の生命や健康に関する科学に立脚して、健康の保持増進を図り、生活を豊かにし、進んで将来の社会生活を充実させようとするのがねらいである。

学習の目的 個人にあった健康、体力に関する認識を深め、個々人にあった日常生活での運動実践の方法を学びつつ、実践する能力を養う。

学習の到達目標 学生生活の中で運動実践を継続すること。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 通常のスポーツ健康学実習の履修が困難な学生を対象とする。そのため、医師

の診断書などを参考にする。

発展科目 スポーツ健康学概論

教科書 必要な資料は、授業時に提示する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要である。評価にあたっては、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 火曜日9.10限

授業改善への工夫 個人毎の態度、行動など授業中、最終授業時などで、レポートなど通して対応する。

その他 身体運動、スポーツの実践を通して「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」の4つの力を涵養する授業内容である。第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード 健康、体力、運動、

学習内容

第1回:ガイダンス

第2回~14回:各個人の症状に応じて個別に対応していく。

第15~16回:まとめ

学習課題(予習・復習) 疾病・外傷などによって、通常の授業履修が困難な学生を対象とするため、その個人の症状などを考慮し、個人にあった課題を提示し、復習や予習に役立てるように進める。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 火,5,6 **単位** 1 **対象** 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 米川直樹 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基礎的な技能の習得とルールにそった試合ができるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。卓球の歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入(1)
- 第3回 卓球の歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入(2)
- 第4回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

人文学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 必要な資料は、授業時に配布する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 火曜日 14:30~14:40

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。授業中、授業後、オフィスアワー時に学生からの質問や意見などを参考にしたり、最終授業後のレポートなどを参考にしながら対応する。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第5回 スポーツと運動強度。基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第6回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(3)

第7回 スポーツとコミュニケーション。基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

第8回 基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理。基礎技能3(レ

シーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

第10回 基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第11回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)

第12回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

第13回 生活習慣調査(2回目)。ゲーム(ルールの説明を含む)(1)

第14回 ゲーム(ルールの説明を含む)(2)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 基礎技能習得に向けて自宅のできる方法の提示、日常生活での体力維持の方法の提示、卓球に関する情報(新聞、TVなど)に接すること等を通して対応する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 対象 人文学部(文化+法経201~235) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉田 正明

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中（2回目）に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 健康、体力、運動についての意義、重要性などの概要を理解し、今後の生活に役立てるようになる。特に特に心理・社会的側面について理解する。サッカーの基本的技術が身につく、自らがサッカーを楽しむことができるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) soccer, exercise, health, sport

学習内容

- 第1回 ガイダンス 種目選択
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認
- 第3回 基本トレーニングと基本のキック及びトラップなどの学習
- 第4回 基本トレーニングとパス、浮いたボールのパス、リフティング、パス回しの学習
- 第5回 スポーツと運動強度、パス回しの学習
- 第6回 リフティングと基本の学習

技術、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00杉田研究室 (教育学部1号館1階)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。1回目の授業に参加しないと希望種目が選択できないこともある。

- 第7回 スポーツとコミュニケーション、ミニゲーム及び簡易ルールの説明
- 第8回 リフティング、パス、ドリブルの学習とミニゲーム
- 第9回 スポーツと体調管理、パス、ドリブル等の総合的な学習
- 第10~11回 パス、ドリブル等の総合的な学習とゲーム (パスゲーム)
- 第12回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム (リーグ戦)
- 第13回 生活習慣調査、ゲーム (リーグ戦)
- 第14回 ゲームと現行ルールの説明及び審判法
- 第15回 運動、生活習慣の振り返り
- 第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

の試合をテレビなどで視聴し、サッカーへの理解を深めること。かんたんなルールについて事前に学習することを求める。

学習課題（予習・復習） 国内外のサッカー

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 対象 人文学部(文化、法経201~235) 年次 学部(学士課程):1年次 選/必 選択必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業,グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 洋子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的

- ・運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。
- ・エアロビック・ダンス、リズム体操、Gボールを使ったバランス系、バウンド系の基礎的な運動を習得し、自分の心身に対する認知能力を高める。これらの正しい運動の方法を理解するとともに、体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを理解できるようになる。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・エアロビック・ダンスやリズム体操、Gボールを使った運動の基本的な運動を習得し、自分にあった運動を構成できるようになる。正しい運動の方法を説明できるようになる。体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じられるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード エアロビクス、身体運動、健康

学習内容

第1回: ガイダンスおよび種目分け
第2回: メンタルヘルスに関する調査、目標心拍数の算出、エアロビック・ダンスの基礎
第3回: 基礎的なステップ、ストレッチ、筋コンディショニング
第4回: 基本的なステップの組み合わせ、スト

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・人文学部(文化、法経201~235)
- ・毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に紹介する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00から13:00 保体(運動方法学II)研究室(後藤)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

レッチ、筋コンディショニング
第5回: スポーツと運動強度、基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ
第6回: 簡単なステップの組み合わせ、筋コンディショニング(体幹筋を中心に)
第7回: スポーツとコミュニケーション、ステップの組み合わせ、ストレッチ
第8回: 各種ステップの組み合わせ、筋コン

ディショニング（上肢を中心に）

第9回：スポーツと体調管理、Gボールを使った運動（座位での弾みを中心に）

第10回：Gボールを使った運動（組み合わせプログラムを中心に）

第11回：Gボールを使った運動（ペア、グループの活動を中心に）

第12回：ソフトジムボールを使った運動

第13回：生活習慣調査（2回目）、多様なステップコンビネーション、ストレッチ

第14回：多様なステップコンビネーションと作品構成

第15回：運動、生活習慣の振り返り、自由なステップの組み合わせとまとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 対象 人文学部(文化+法経201~235) 年次 学部(学士課程):
1年次 選/必 必修 授業の方法 実技 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 鶴原清志 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への「気づき」を促すために、授業中(2回目)に心理、社会的側面に関する調査を実施する。更に)スポーツ健康科学Iで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において(健康的な生活を営む上での)身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

シオン力を総合した力

受講要件 人文学部 毎年健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

予め履修が望ましい科目 保健体育教育科目
(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価は課題習熟度、授業態度(積極性・協調性など)、レポートなどの観点から総合的に行う。

オフィスアワー 毎週木曜日12時00分から約1時間程度。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンス及び種目分
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、ラケットティング
- 第3回 ハイクリア (フォアハンド)
- 第4回 ハイクリア (バックハンド)
- 第5回 スポーツと運動強度、ドロップ (フォアハンド)
- 第6回 ドロップ (バックハンド)
- 第7回 スマッシュ
- 第8回 ヘアピン (フォアハンド)

- 第9回 スポーツと体調管理、ヘアピン (バックハンド)
 - 第10回 ドライブ (フォアハンド)
 - 第11回 ドライブ (バックハンド)
 - 第12回 サーブ (ショートサーブ)
 - 第13回 生活習慣調査 (2回目)、サーブ (ロングサーブ)
 - 第14回 シングルスゲーム (トーナメント)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り、ダブルスのゲーム (トーナメント)
- また、授業の中で随時ゲーム形式を導入し、基本技能をゲームで試す。

学習課題 (予習・復習) バドミントンの基

基礎技能を獲得する練習を推奨するとともに、
日常生活の中で運動、スポーツを実施するこ

とを学習課題とする。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 火7,8 **単位** 1 **対象** 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必修** 必修 **授業の方法** 実習

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 米川直樹 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基礎的な技能の習得とルールにそった試合ができるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。卓球の歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入(1)
- 第3回 卓球の歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入(2)
- 第4回 基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

人文学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 必要な資料は、授業時に配布する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 火曜日 14:30~14:40

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。授業中、授業後、オフィスアワー時に学生からの質問や意見などを参考にしたり、最終授業後のレポートなどを参考にしながら対応する。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第5回 スポーツと運動強度。基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第6回 基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(3)

第7回 スポーツとコミュニケーション。基礎技能2 (サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

第8回 基礎技能2 (サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理。基礎技能3 (レ

シーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

第10回 基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第11回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)

第12回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

第13回 生活習慣調査(2回目)。ゲーム(ルールの説明を含む)(1)

第14回 ゲーム(ルールの説明を含む)(2)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 基礎技能習得に向けて自宅のできる方法の提示、日常生活での体力維持の方法の提示、卓球に関する情報(新聞、TVなど)に接すること等を通して対応する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部(法経236～) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選択/必修 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉田 正明

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中（2回目）に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 健康、体力、運動についての意義、重要性などの概要を理解し、今後の生活に役立てるようになる。特に特に心理・社会的側面について理解する。サッカーの基本的技術が身につく、自らがサッカーを楽しむことができるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) soccer, exercise, health, sport

学習内容

- 第1回 ガイダンス 種目選択
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認
- 第3回 基本トレーニングと基本のキック及びトラップなどの学習
- 第4回 基本トレーニングとパス、浮いたボールのパス、リフティング、パス回しの学習
- 第5回 スポーツと運動強度、パス回しの学習
- 第6回 リフティングと基本の学習

技術、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00杉田研究室（教育学部1号館1階）

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。1回目の授業に参加しないと希望種目が選択できないこともある。

- 第7回 スポーツとコミュニケーション、ミニゲーム及び簡易ルールの説明
- 第8回 リフティング、パス、ドリブルの学習とミニゲーム
- 第9回 スポーツと体調管理、パス、ドリブル等の総合的な学習
- 第10～11回 パス、ドリブル等の総合的な学習とゲーム（バスゲーム）
- 第12回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）
- 第13回 生活習慣調査、ゲーム（リーグ戦）
- 第14回 ゲームと現行ルールの説明及び審判法
- 第15回 運動、生活習慣の振り返り
- 第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

の試合をテレビなどで視聴し、サッカーへの理解を深めること。かんたんなルールについて事前に学習することを求める。

学習課題（予習・復習） 国内外のサッカー

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 法経 (236～) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 八木規夫 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バスケットボールの基礎技術及びゲームルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、専門知識・技術、課題探求力、討論・対話力、指導力・

授業計画・学習の内容

キーワード 豊かなスポーツライフをめざして、バスケットボールゲームを実践する能力を養うとともに、バスケットボールの知識、楽しみ方について学習する。

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認、
- 第3回 シュート、ドリブルなどファンダメンタルスキルの学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明
- 第4回 シュート、ドリブルなどファンダメンタルスキルの学習とミニゲーム
- 第5回 スポーツと運動強度、ファンダメンタル

協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特になし

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価に当たっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時30分～14時30分

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

スキルの学習とミニゲーム

第6回 マンツーマンディフェンスの学習とゲーム

第7回 スポーツとコミュニケーション、マンツーマンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)。速攻、遅攻

第8回 マンツーマンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)。スクリーンプレイなど

第9回 スポーツと体調管理、ゾーンディフェンスの学習とゲーム

第10回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)

第11回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦) パスワークなど

第12回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）センタープレイなど

第13回 生活習慣調査（2回目）、マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲーム

第14回 マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲームと現行ルールの説明

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 実技実習なので体調を整えておくこと。着替え、タオルなど準備すること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部(法経236~) 年次 学部(学士課程):1年次
選/必 必修 授業の方法 実技 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 鶴原清志(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への「気づき」を促すために、授業中(2回目)に心理、社会的側面に関する調査を実施する。更に)スポーツ健康科学Iで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において(健康的な生活を営む上での)身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

シオン力を総合した力

受講要件 人文学部 毎年健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

予め履修が望ましい科目 保健体育教育科目
(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価は課題習熟度、授業態度(積極性・協調性など)、レポートなどの観点から総合的に行う。

オフィスアワー 毎週木曜日12時00分から約1時間程度。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンス及び種目分
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、ラケットティング
- 第3回 ハイクリア(フォアハンド)
- 第4回 ハイクリア(バックハンド)
- 第5回 スポーツと運動強度、ドロップ(フォアハンド)
- 第6回 ドロップ(バックハンド)
- 第7回 スマッシュ
- 第8回 ヘアピン(フォアハンド)

- 第9回 スポーツと体調管理、ヘアピン(バックハンド)
 - 第10回 ドライブ(フォアハンド)
 - 第11回 ドライブ(バックハンド)
 - 第12回 サーブ(ショートサーブ)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、サーブ(ロングサーブ)
 - 第14回 シングルスゲーム(トーナメント)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り、ダブルスのゲーム(トーナメント)
- また、授業の中で随時ゲーム形式を導入し、基本技能をゲームで試す。

学習課題(予習・復習) バドミントンの基

基礎技能を獲得する練習を推奨するとともに、
日常生活の中で運動、スポーツを実施することを学習課題とする。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部(看護学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修

授業の方法 実習

担当教員 藤川 誠一 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基礎的な技能の習得とルールにそった試合をできるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。バドミントンの歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入
- 第4回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部と医学部(看護学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第6回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(3)
- 第7回 スポーツと環境、基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第8回 基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第9回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第10回 基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第11回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)
- 第12回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

用したダブルスゲーム(2)

第13回 ゲーム (ルールの説明を含む) (1)

第14回 ゲーム (ルールの説明を含む) (2)

第15回 テスト

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題 (予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 1 **対象** 教育学部と医学部(看護学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修

授業の方法 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンドの練習
- 第3回 バックハンドの練習
- 第4回 スマッシュ・ブロックの練習
- 第5回 スポーツと運動強度、サービス・レープの練習と簡易ゲーム
- 第6回 変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部と医学部(看護学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)
- 第9回 スポーツと体調管理、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)
- 第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)
- 第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)
- 第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)
- 第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(7)
- 第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するに

あたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部(看護学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修

授業の方法 実習

担当教員 片山 靖富 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第3回 課題解決：基本的なボールタッチ(キック、ドリブル、トラップ、リフティング)(1)
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ(キック、ドリブル、トラップ、リフティング)(2)
- 第5回 スポーツと運動強度、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的と

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部と医学部(看護学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

したミニゲーム(2)

第7回 スポーツとコミュニケーション、課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

第8回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理、課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)

第10回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)

第11回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(3)

第12回 まとめ1：現行ルールでのゲーム(フルコート)(1)

第13回 生活習慣調査（2回目）、まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 5,6 単位 1 対象 教育学部（家庭、学教、特支、英語、幼教の各コース）、医学部看護学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 実習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 洋子（教育学部）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中（2回目）に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的

・運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。
・エアロビック・ダンス、リズム体操、Gボールを使ったバランス系、バウンド系の基礎的な運動を習得し、自分の心身に対する認知能力を高める。これらの正しい運動の方法を理解するとともに、体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを理解できるようになる。

学習の到達目標

・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
・エアロビック・ダンスやリズム体操、Gボールを使った運動の基本的な運動を習得し、自分にあった運動を構成できるようになる。正しい運動の方法を説明できるようになる。体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じられるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード エアロビクス、身体運動、健康

学習内容

第1回：ガイダンスおよび種目分け
第2回：メンタルヘルスに関する調査、目標心拍数の算出、エアロビック・ダンスの基礎
第3回：基礎的なステップ、ストレッチ、筋コンディショニング

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部A類（家政、学教、特支）、B類、C類（消費）、D類（人発）、医学部看護学科
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に紹介する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度（積極性、協調性など）、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日12：00から13：00 保体（運動方法学II）研究室（後藤）

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第4回：基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ、筋コンディショニング
第5回：スポーツと運動強度、基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ
第6回：簡単なステップの組み合わせ、筋コンディショニング（体幹筋を中心に）
第7回：スポーツとコミュニケーション、ステップの組み合わせ、ストレッチ

第8回：各種ステップの組み合わせ、筋コンディショニング（上肢を中心に）

第9回：スポーツと体調管理、Gボールを使った運動（座位での弾みを中心に）

第10回：Gボールを使った運動（組み合わせプログラムを中心に）

第11回：Gボールを使った運動（ペア、グループの活動を中心に）

第12回：ソフトジムボールを使った運動

第13回：生活習慣調査（2回目）、多様なステップコンビネーション、ストレッチ

第14回：多様なステップコンビネーションと作品構成

第15回：運動、生活習慣の振り返り、自由なステップの組み合わせとまとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 藤川 誠一 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基礎的な技能の習得とルールにそった試合をできるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。バドミントンの歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入
- 第4回 基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第6回 基礎技能1 (フォアハンド、バックハン

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ド) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(3)
- 第7回 スポーツと環境、基礎技能2 (サーブ) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第8回 基礎技能2 (サーブ) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第9回 スポーツと運動強度、基礎技能3 (レシーブ) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第10回 基礎技能3 (レシーブ) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第11回 基礎技能4 (戦術) とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)
- 第12回 基礎技能4 (戦術) とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)
- 第13回 ゲーム (ルールの説明を含む) (1)

第14回 ゲーム（ルールの説明を含む）(2)

第15回 テスト

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンドの練習
- 第3回 バックハンドの練習
- 第4回 スマッシュ・ブロックの練習
- 第5回 スポーツと運動強度、サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第6回 変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム
- 第8回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- (1)
 - 第9回 スポーツと体調管理、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)
 - 第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)
 - 第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)
 - 第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)
 - 第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(7)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 片山 靖富 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回 ガイダンスおよび種目分け

第2回 メンタルヘルスに関する調査、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム

第3回 課題解決：基本的なボールタッチ(キック、ドリブル、トラップ、リフティング)(1)

第4回 課題解決：基本的なボールタッチ(キック、ドリブル、トラップ、リフティング)(2)

第5回 スポーツと運動強度、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第7回 スポーツとコミュニケーション、課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

第8回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理、課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)

第10回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)

第11回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(3)

第12回 まとめ1：現行ルールでのゲーム(フルコート)(1)

第13回 生活習慣調査(2回目)、まとめ1：現行ルールでのゲーム(フルコート)(2)

第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 7,8 **単位** 1 **対象** 教育学部 (国語、社会、数情、理科、音学、美術、保体、技も、人発、日語の各コース) **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 選択必修

授業の方法 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業、グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 洋子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中 (2回目) に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的

・運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。
・エアロビック・ダンス、リズム体操、Gボールを使ったバランス系、バウンド系の基礎的な運動を習得し、自分の心身に対する認知能力を高める。これらの正しい運動の方法を理解するとともに、体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを理解できるようになる。

学習の到達目標

・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
・エアロビック・ダンスやリズム体操、Gボールを使った運動の基本的な運動を習得し、自分にあった運動を構成できるようになる。正しい運動の方法を説明できるようになる。体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じられるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学

授業計画・学習の内容

キーワード エアロビクス、身体運動、健康

学習内容

第1回：ガイダンスおよび種目分け
第2回：メンタルヘルスに関する調査、目標心拍数の算出、エアロビック・ダンスの基礎
第3回：基礎的なステップ、ストレッチ、筋コ

習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

・教育学部 (国語、社会、数情、理科、音楽、美術、保体、技も、人発、日語の各コース)
・毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に紹介する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度 (積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00から13:00 保体 (運動方法学II) 研究室 (後藤)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

ンディショニング
第4回：基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ、筋コンディショニング
第5回：スポーツと運動強度、基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ
第6回：簡単なステップの組み合わせ、筋コンディショニング (体幹筋を中心に)

第7回：スポーツとコミュニケーション、ステップの組み合わせ、ストレッチ

第8回：各種ステップの組み合わせ、筋コンディショニング（上肢を中心に）

第9回：スポーツと体調管理、Gボールを使った運動（座位での弾みを中心に）

第10回：Gボールを使った運動（組み合わせプログラムを中心に）

第11回：Gボールを使った運動（ペア、グルー

プの活動を中心に）

第12回：ソフトジムボールを使った運動

第13回：生活習慣調査（2回目）、多様なステップコンビネーション、ストレッチ

第14回：多様なステップコンビネーションと作品構成

第15回：運動、生活習慣の振り返り、自由なステップの組み合わせとまとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 細野 信幸 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第3回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)
- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ゲームを楽しむ(1)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第9回 スポーツと体調管理。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第10回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)。能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(4)

第14回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 船越 一彦 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バレーボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バレーボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(1)。個人の技能差に応じてソフトバレーボールやジュニア用のボールを使用する。
- 第3回 各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(2)
- 第4回 前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(1)。ゲームは男女混合のゲームを原則とするが、受講生の技能向上と経験の度合いの状況のみを適

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 宜チーム編成をしなおす。
- 第5回 スポーツと運動強度。前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(2)
 - 第6回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(1)。各自の個別課題、とくに各種パスの長所や短所について確認する。
 - 第7回 スポーツとコミュニケーション。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(2)
 - 第8回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(3)
 - 第9回 スポーツと体調管理。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(4)
 - 第10回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既

定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(1)

第11回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(2)

第12回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(3)

第13回 生活習慣調査(2回目)。審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。

また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(4)

第14回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 脇田裕久 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンド・ストローク(ロング)
- 第3回 バックハンド・ストローク(ショート)
- 第4回 サービスとレシーブ・ルールの解説および簡易ゲーム
- 第5回 スポーツと運動強度、ドライブ・スピナーブとゲーム(1)
- 第6回 ドライブ・スピナーブとゲーム(2)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、アンダー・スピナーブとゲーム(1)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピナーブとゲーム(2)
 - 第9回 スポーツと体調管理、サイド・スピナーブ(時計回り)とゲーム
 - 第10回 サイド・スピナーブ(反時計回り)とゲーム
 - 第11回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第12回 これまでの技能の習熟をはかりゲームを楽しむ(1)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、これまでの技能の習熟をはかりゲームを楽しむ(2)
 - 第14回 テスト
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 宮本ともみ (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第3回 課題解決：基本的なボールタッチ (キック、ドリブル、トラップ、リフティング) (1)
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ (キック、ドリブル、トラップ、リフティング) (2)
- 第5回 スポーツと運動強度、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的と

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

したミニゲーム(2)

第7回 スポーツとコミュニケーション、課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

第8回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理、課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)

第10回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)

第11回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(3)

第12回 まとめ1：現行ルールでのゲーム(フルコート) (1)

第13回 生活習慣調査（2回目）、まとめ1：現
行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フル
コート）(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関し
ては、テレビ等で試合観戦するなどしてルー
ルを理解しておくことと、傷害予防のために
ストレッチングを実践するなど、体調管理に
努めること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 中西 義雄 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第3回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)
- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ゲームを楽しむ(1)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第9回 スポーツと体調管理。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第10回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)。能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(4)

第14回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 細野 信幸 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第3回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)
- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ゲームを楽しむ(1)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第9回 スポーツと体調管理。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第10回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)。能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(4)

第14回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 船越 一彦 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バレーボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バレーボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(1)。個人の技能差に応じてソフトバレーボールやジュニア用のボールを使用する。
- 第3回 各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(2)
- 第4回 前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(1)。ゲームは男女混合のゲームを原則とするが、受講生の技能向上と経験の度合いの状況のみを適

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

宜チーム編成をしなおす。

第5回 スポーツと運動強度。前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(2)

第6回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(1)。各自の個別課題、とくに各種パスの長所や短所について確認する。

第7回 スポーツとコミュニケーション。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(2)

第8回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(3)

第9回 スポーツと体調管理。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(4)

第10回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既

定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(1)

第11回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(2)

第12回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(3)

第13回 生活習慣調査(2回目)。審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。

また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(4)

第14回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選択/必修 必修 授業の方法 実習

担当教員 岡野 昇

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中（2回目）に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・主として、ボールゲームのレクリエーションスポーツを行うことによって、仲間とともにスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード レクリエーションスポーツ、ボールゲーム、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、コミュニケーションゲーム
- 第3回 キンボール①（行い方と試しのゲーム）
- 第4回 キンボール②（リーグ戦）
- 第5回 スポーツと運動強度、キンボール③（対抗戦）
- 第6回 ユニバーサルホッケー①（行い方と試しのゲーム）
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、ユニ

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- バーサルホッケー②（リーグ戦）
 - 第8回 ユニバーサルホッケー③（対抗戦）
 - 第9回 スポーツと体調管理、アルティメット①（行い方と試しのゲーム）
 - 第10回 アルティメット②（リーグ戦）
 - 第11回 アルティメット③（対抗戦）
 - 第12回 フットサル①（行い方と試しのゲーム）
 - 第13回 生活習慣調査（2回目）、フットサル②（リーグ戦）
 - 第14回 フットサル③（対抗戦）
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修/必修 授業の方法 実習

担当教員 宮本ともみ (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第3回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
- 第5回 スポーツと運動強度、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的と

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

したミニゲーム(2)

第7回 スポーツとコミュニケーション、課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

第8回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理、課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)

第10回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)

第11回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(3)

第12回 まとめ1：現行ルールでのゲーム(フルコート)(1)

第13回 生活習慣調査（2回目）、まとめ1：現
行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フル
コート）(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関し
ては、テレビ等で試合観戦するなどしてルー
ルを理解しておくことと、傷害予防のために
ストレッチングを実践するなど、体調管理に
努めること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 中西 義雄 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第3回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)
- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ゲームを楽しむ(1)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第9回 スポーツと体調管理。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第10回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)。能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(4)

第14回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 中西義雄

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第3回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第4回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 スポーツと運動強度。ボレー 基本的なフォームの習得
- 第6回 サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。応用練習 試合の進め方と試合での作戦の習得
- 第8回 ダブルスのフォーメーションの習得

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第9回 スポーツと体調管理。ダブルスの試合(1)
 - 第10回 ダブルスの試合(2)
 - 第11回 ダブルスの試合(3)
 - 第12回 シングルの試合(1)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)。シングルの試合(2)
 - 第14回 シングルの試合(3)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必修** 必修 **授業の方法** 実習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 加納 岳拓 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、試合を通じルールを知り、チームの特徴を知りながらゲームを楽しむ①
- 第3回 試合を通じルールを知り、チームの特徴を知りながらゲームを楽しむ②
- 第4回 試合を通じルールを知り、チームの特徴を知りながらゲームを楽しむ③
- 第5回 スポーツと運動強度、試合を通じルールを知り、チームの特徴を知りながらゲームを楽しむ④

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00 場所 保健体育科教育学研究室III

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ①
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ②
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ③
- 第9回 スポーツと体調管理、自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ④
- 第10回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ①
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ②
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ③

第13回 生活習慣調査（2回目）、
能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ④

第14回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ⑤

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンドの練習
- 第3回 バックハンドの練習
- 第4回 スマッシュ・ブロックの練習
- 第5回 スポーツと運動強度、サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第6回 変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム
- 第8回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- (1) 第9回 スポーツと体調管理、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)
 - 第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)
 - 第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)
 - 第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)
 - 第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(7)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 1 対象 工学部 (分子・電気・物理) 年次 学部(学士課程): 1
年次 選必 必修 授業の方法 実習
担当教員 大隈節子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、スポーツ活動(1) バドミントンのルール説明ならびに試しのゲーム
- 第3回 スポーツ活動(2) 基本の打ち方
- 第4回 スポーツ活動(3) サービス
- 第5回 スポーツと運動強度、スポーツ活動(4) クリア
- 第6回 スポーツ活動(5) ドロップ
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、スポーツ活動(6) ドライブ

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日 12:15~12:45

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 スポーツ活動(7) スマッシュ
- 第9回 スポーツと体調管理、スポーツ活動(8) プッシュ
- 第10回 スポーツ活動(9) ダブルスのリーグ戦第1回
- 第11回 スポーツ活動(10) ダブルスのリーグ戦第2回
- 第12回 スポーツ活動(11) シングルススのリーグ戦第1回
- 第13回 生活習慣調査(2回目)、スポーツ活動(12) シングルススのリーグ戦第2回
- 第14回 スポーツ活動(13) シングルススのリーグ戦第3回
- 第15回 運動、生活習慣の振り返り
- 第16回 まとめ

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 小木曾一之 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ゲームを中心とした中で、バスケットボールの基本技術の習得及びルールを理解し、スポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バスケットボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(1)
- 第3回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(2)
- 第4回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(4)
- 第6回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(5)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第7回 スポーツとコミュニケーション。チームで作戦を考えながらのゲーム(1)

第8回 チームで作戦を考えながらのゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理。チームで作戦を考えながらのゲーム(3)

第10回 チームで作戦を考えながらのゲーム(4)

第11回 チームで作戦を考えながらのゲーム(5)

第12回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(1)

第13回 生活習慣調査(2回目)。自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(2)

第14回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 高木 良明 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術を身につけ、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしてのサッカーに必要な体力を養う。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認、リフティングの学習
- 第3回 基本的技術の習得(キックの方法とパスワーク)
- 第4回 基本的技術の習得(ドリブル)
- 第5回 スポーツと運動強度、基本的技術の習得(シュート)
- 第6回 基本的技術の習得(コンビネーションプレー)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、簡易ルールの説明とミニゲーム
- 第8回 総合的な学習とミニゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと体調管理、パスでのコンビネーションとゲーム

第10回 1対1での突破方法とゲーム

第11回 ディフェンス方法とゲーム

第12回 戦術に対する理解とゲーム

第13回 生活習慣調査(2回目)、作戦の立案とゲーム

第14回 現行ルールの説明及び審判法の理解とゲーム

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 中西義雄

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第3回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第4回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 スポーツと運動強度。ボレー 基本的なフォームの習得
- 第6回 サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。応用練習 試合の進め方と試合での作戦の習得
- 第8回 ダブルスのフォーメーションの習得

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと体調管理。ダブルスの試合(1)

第10回 ダブルスの試合(2)

第11回 ダブルスの試合(3)

第12回 シングルの試合(1)

第13回 生活習慣調査(2回目)。シングルの試合(2)

第14回 シングルの試合(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 1 対象 工学部 (機械M、建築A、情報J) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL
担当教員 重松良祐(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的

健康づくりや生涯スポーツのために、以下のことができるようになる。

- ・バドミントンにおけるさまざまなショットを打つことができる。
- ・バドミントンの試合ができるようになる。

学習の到達目標

バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連

共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体活動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回目 ガイダンス
- 第2回目 体力アップやストレッチ
- 第3回目 知る■歴史とルール、用具
- 第4回目 助言する■チームメイト
- 第5回目 つなぐ■ラリー
- 第6回目 差し出す■サーブ
- 第7回目 ねらう■コントロール
- 第8回目 勝負する■試合Ⅰ(学びの自己評価: 中間)

力

受講要件 工学部 毎年の健康診断を受診すること。および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

予め履修が望ましい科目 スポーツ健康科学a

発展科目 スポーツ健康科学概論

参考書 バドミントン教本 日本バドミントン協会編 ベースボール・マガジン社

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の4観点から評価する。

オフィスアワー 適宜対応する。あらかじめメールにて連絡すること(rshige@edu.mie-u.ac.jp)。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第9回目 連携する■試合Ⅱ(チームメイトの動き)
 - 第10回目 観察する■試合Ⅲ(対戦相手の動き)
 - 第11回目 把握する■試合Ⅳ(プレイヤーと環境条件)
 - 第12回目 交わる■試合Ⅴ(交流試合)
 - 第13回目 まとめ■交流戦Ⅰ
 - 第14回目 まとめ■交流戦Ⅱ
 - 第15回目 まとめ■交流戦Ⅲ(学びの自己評価: 最終)
- 適宜、半面のゲームやパターン練習などを加

えながらダブルゲームをおこない、生涯スポーツとして楽しめるだけの技術、知識を身につける。

学習課題（予習・復習）

学習課題は授業中に指示する。

予習・復習に関しては、ルールを十分に理解しておくことと、障害予防のためのストレッチングを日々実践しておくことが望まれる。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンドの練習
- 第3回 バックハンドの練習
- 第4回 スマッシュ・ブロックの練習
- 第5回 スポーツと運動強度、サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第6回 変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム
- 第8回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- (1) 第9回 スポーツと体調管理、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)
 - 第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)
 - 第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)
 - 第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)
 - 第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(7)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 小木曾一之 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ゲームを中心とした中で、バスケットボールの基本技術の習得及びルールを理解し、スポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バスケットボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(1)
- 第3回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(2)
- 第4回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(4)
- 第6回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(5)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第7回 スポーツとコミュニケーション。チームで作戦を考えながらのゲーム(1)

第8回 チームで作戦を考えながらのゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理。チームで作戦を考えながらのゲーム(3)

第10回 チームで作戦を考えながらのゲーム(4)

第11回 チームで作戦を考えながらのゲーム(5)

第12回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(1)

第13回 生活習慣調査(2回目)。自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(2)

第14回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 1 対象 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 高木 良明 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術を身につけ、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしてのサッカーに必要な体力を養う。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認、リフティングの学習
- 第3回 基本的技術の習得(キックの方法とパスワーク)
- 第4回 基本的技術の習得(ドリブル)
- 第5回 スポーツと運動強度、基本的技術の習得(シュート)
- 第6回 基本的技術の習得(コンビネーションプレー)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、簡易ルールの説明とミニゲーム
- 第8回 総合的な学習とミニゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと体調管理、パスでのコンビネーションとゲーム

第10回 1対1での突破方法とゲーム

第11回 ディフェンス方法とゲーム

第12回 戦術に対する理解とゲーム

第13回 生活習慣調査(2回目)、作戦の立案とゲーム

第14回 現行ルールの説明及び審判法の理解とゲーム

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b(アダプテッド スポーツ)

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 1 対象 本コース受講を希望するもの 年次 学部(学士課程): 1
年次, 2年次 選/必 必修 授業の方法 実習
担当教員 山本 俊彦 (教育学部)

授業の概要 我々の活動力に影響する健康や体力の維持増進は、急激な社会生活の変化の中で極めて重要なことである。本授業は、人間の生命や健康に関する科学に立脚して、健康の保持増進を図り、生活を豊かにし、進んで将来の社会生活を充実させようとするのがねらいである。

学習の目的 個人にあった健康、体力に関する認識を深め、個々人にあった日常生活での運動実践の方法を学びつつ、実践する能力を養う。

学習の到達目標 学生生活の中で運動実践を継続すること。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 通常のスポーツ健康学実習の履修が困難な学生を対象とする。そのため、医師

の診断書などを参考にする。

発展科目 スポーツ健康学概論

教科書 必要な資料は、授業時に提示する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要である。評価にあたっては、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 火曜日9.10限

授業改善への工夫 個人毎の態度、行動など授業中、最終授業時などで、レポートなど通して対応する。

その他 身体運動、スポーツの実践を通して「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」の4つの力を涵養する授業内容である。第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード 健康、体力、運動、

学習内容

第1回:ガイダンス

第2回~14回:各個人の症状に応じて個別に対応していく。

第15~16回:まとめ

学習課題(予習・復習) 疾病・外傷などによって、通常の授業履修が困難な学生を対象とするため、その個人の症状などを考慮し、個人にあった課題を提示し、復習や予習に役立てるように進める。

スポーツ健康科学概論

Lecture of Sport and Health

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 その他 授業の方法 講義
授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 〇後藤洋子(教育学部)、岡野昇(教育学部)、重松良祐(教育学部)

授業の概要 「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求する。また、健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようにするとともに、スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようにする。

学習の目的 「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求できるようになる。また、健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになるとともに、スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようになる。

学習の到達目標

- ・スポーツをとりまく諸問題について、探求できるようになる(後藤担当)
- ・自己や他者のからだに起こっていることに広く深く注意をめぐらせ、身体のあり方について探求できるようになる(岡野担当)
- ・健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになる(重松担当)

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 教育学部

授業計画・学習の内容

キーワード スポーツをとりまく諸問題、「からだ気づき(ワークショップ)」と身体、健康・運動・身体活動

学習内容

- 第1回 ガイダンス(本授業のねらい、授業計画、受講上の諸注意等)
第2~5回(後藤担当)
第2回 スポーツの指導について
第3回 スポーツと男女差について

予め履修が望ましい科目 特に無し(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学a, スポーツ健康科学b

教科書 特に指定しない。授業時に資料を配布する。

成績評価方法と基準 出席状況と授業態度に加え、個人レポートを含めて総合的に評価する。

オフィスアワー

- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(運動方法学Ⅱ)研究室(後藤)
- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(保健体育科教育学Ⅱ)研究室(岡野)
- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(健康管理学Ⅱ)研究室(重松)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善に資する。

その他

- ・第1回授業時に受講人数が均等になるように調整することがある。
- ・岡野担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で第一体育館に集合する。
- ・重松担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で屋内運動場に集合する。晴天の場合は、屋外で活動することもある。

第4回 スポーツと親子について

第5回 スポーツと健康・体力について

第6~9回(岡野担当)

第6回〈触れる〉ということ／主体一客体関係(第一体育館)

第7回〈委ねる〉ということ／相互依存(第一体育館)

第8回〈察する〉ということ／非言語的・身体的コミュニケーション(第一体育館)

第9回 〈合わせる〉ということ／運動リズム
(第一体育館)

第10～13回 (重松担当)

第10回 健康・運動と体組成

第11回 健康・運動と運動量

第12回 健康・運動と食事

第13回 健康・運動に関するアップデート

第14回 振り返り

第15回 総括

学習課題(予習・復習) ・講義を通して、
各担当者から随時提出する。

スポーツ健康科学概論

Lecture of Sport and Health

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 その他 授業の方法 講義
担当教員 岡野 昇 (教育学部), 重松良祐 (教育学部), 後藤洋子 (教育学部)

授業の概要 「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求する。また、健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようにするとともに、スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようにする。

学習の目的 「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求できるようになる。また、健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになるとともに、スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようになる。

学習の到達目標

- ・自己や他者のからだに起こっていることに広く深く注意をめぐらせ、身体のあり方について探求できるようになる(岡野担当)
- ・健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになる(重松担当)
- ・スポーツをとりまく諸問題について、探求できるようになる(後藤担当)

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 教育学部

授業計画・学習の内容

キーワード 「からだ気づき(ワークショップ)」と身体、スポーツをとりまく諸問題、健康・運動・身体活動

学習内容

- 第1回 ガイダンス(本授業のねらい、授業計画、受講上の諸注意等)
第2~5回(岡野担当)
第2回 〈触れる〉ということ/主体-客体関係(第一体育館)
第3回 〈委ねる〉ということ/相互依存(第

予め履修が望ましい科目 特に無し(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学a, スポーツ健康科学b

教科書 特に指定しない。授業時に資料を配布する。

成績評価方法と基準 出席状況と授業態度に加え、個人レポートを含めて総合的に評価する。

オフィスアワー

- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(保健体育科教育学II)研究室(岡野)
- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(健康管理学II)研究室(重松)
- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(運動方法学II)研究室(後藤)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善に資する。

その他

- ・第1回授業時に受講人数が均等になるように調整することがある。
- ・岡野担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で第一体育館に集合する。
- ・重松担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で屋内運動場に集合する。晴天の場合は、屋外で活動することもある。

- 一体育館)
第4回 〈察する〉ということ/非言語的・身体的コミュニケーション(第一体育館)
第5回 〈合わせる〉ということ/運動リズム(第一体育館)
第6~9回(重松担当)
第6回 健康・運動と体組成
第7回 健康・運動と運動量
第8回 健康・運動と食事
第9回 健康・運動に関するアップデート

第10～13回（後藤担当）

第10回 スポーツの指導について

第11回 スポーツと男女差について

第12回 スポーツと親子について

第13回 スポーツと健康・体力について

第14回 振り返り

第15回 総括

第16回 試験

学習課題（予習・復習） ・講義を通して、
各担当者から随時提出する。

スポーツ健康科学概論

Lecture of Sport and Health

学期 前期 開講時間 金1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 実習

担当教員 重松良祐、後藤洋子、岡野昇

授業の概要 現代社会におけるスポーツ活動の意義と諸問題について考える。また、「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求するとともに、健康・体力・身体活動に関する諸問題に対して探求する。

学習の目的 現代社会におけるスポーツ活動の意義や諸問題について考えることができるようになる。また、身体のあり方についての探求能力や、健康・体力・身体活動に対する認識を深めることができるようになる。

学習の到達目標

- ・健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになる。(重松担当)
- ・自己や他者のからだに起こっていることに広く深く注意をめぐらせ、身体のあり方について探求できるようになる。(岡野担当)
- ・スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようになる。(後藤担当)

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 「からだ気づき(ワークショップ)」と身体、スポーツをとりまく諸問題、身体活動と健康

学習内容

- 第1回 ガイダンス(本授業のねらい、授業計画、受講上の諸注意等)
- 第2～5回(重松担当)
- 第2回 健康・運動と体組成
- 第3回 健康・運動と運動量
- 第4回 健康・運動と食事
- 第5回 健康・運動に関するアップデート
- 第6～9回(後藤担当)
- 第6回目 スポーツの指導について
- 第7回目 スポーツと男女差について
- 第8回目 スポーツと親子について

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 教育学部

予め履修が望ましい科目 特に無し(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学a、スポーツ健康科学b

教科書 随時資料を配付する。

成績評価方法と基準 出席状況と授業態度に加え、個人レポートを含めて総合的に評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他

- ・第1回授業時に受講人数が均等になるように調整することがある。
- ・重松担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で屋内運動場に集合する。晴天の場合は、屋外で活動することもある。
- ・岡野担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で第一体育館に集合する。

- 第9回目 スポーツと健康・体力について
- 第10～13回(岡野担当)
- 第10回 〈触れる〉ということ／主体一客体関係(第一体育館)
- 第11回 〈委ねる〉ということ／相互依存(第一体育館)
- 第12回 〈察する〉ということ／非言語的・身体的コミュニケーション(第一体育館)
- 第13回 〈合わせる〉ということ／運動リズム(第一体育館)
- 第14回 振り返り
- 第15回 総括1
- 第16回 総括2

学習課題(予習・復習) ・講義を通して、各担当者から随時提出する。

情報科学基礎

An Introduction to Information Literacy

学期 前期 **開講時間** 金 1, 2 **単位** 2 **対象** 人文学部文化学科1年生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 川口敦子 (人文学部)

薄井尚樹 (人文学部)

伊藤厚貴 (非常勤講師)

授業の概要 大学における研究を進めるうえで必要となるコンピュータの基本的知識及び操作を身につけます。

学習の目的

[1] パソコン利用の社会的ルールを身につけます。

[2] レポート・論文作成にとって必要となるパソコンの基本的操作方法を身につけます。

[3] レポート・論文作成にとって必要となる情報の検索と利用の方法を身につけます。

学習の到達目標

[1] 情報リテラシーおよび情報倫理に関する基本的知識を得ることができます。

[2] Word・Excel・Powerpointの基本的操作方法が理解できるようになります。

[3] インターネットを利用してWEB情報を収集する方法が理解できるようになります。

本学教育目標との関連 課題探求力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピューターによる情報利用の基礎

Key Word(s) Computer and information skill

学習内容

第1-2回 ネットワーク, 情報セキュリティ, 情報倫理

第3-5回 文書作成 (WORD)

第6-7回 プレゼンテーションソフト (POWER-POINT)

第8-10回 表計算 (EXCEL)

教科書 「Microsoft Office2013を使った情報リテラシーの基礎」 (近代科学社)

成績評価方法と基準

授業内での課題 (40%)、演習提出課題 (40%)、最終レポート (20%) の計100% 60%以上で単位が与えられます。

オフィスアワー 各担当教員から説明があります。

その他

1年生は、学籍番号によるクラス分けが行われます。必ず指定されたクラスにて受講してください。

再履修の学生は、希望するクラスの初回の授業に必ず出席し、担当教員と相談の上、許可を得てください。教室の関係上、各クラスで受け入れることのできる再履修生の数には上限があります。

第11-12回 WWW・文献情報データベース検索

第13-15回 レポート作成・その他

詳細に関しては、授業において、各担当教員より説明があります。

学習課題 (予習・復習)

予習: 各回、教科書の読んでおくべき部分を指定します。必ず読んでおくようにしてください。

復習: 各回、授業で練習・学習したことを確認するための課題を提示します。決められた期日までに、Moodleにて提出してください。

情報科学基礎

Introduction to Information Science

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 対象 国語教育コース、日本語教育コース、社会科教育コース
年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 Moodle
担当教員 丹保 健一 (教育学部)

授業の概要

*コンピュータを用いた実習形式の情報リテラシー

情報倫理

パソコンの基本操作

Wordによる文書の作成、

Excelによる表計算とグラフの作成、

Power Pointによるプレゼンテーション資料の作成

インターネットによる情報検索 (書籍・論文情報など)

* Word、Excel、Power Point等の実習を行い、今後の大学での学びが必要となるであろう基礎的なコンピュータ技術を習得する。

学習の目的

情報倫理を知る。

パソコンの基本操作ができる。

Wordによる文書の作成ができる、

Excelによる表計算とグラフの作成ができる。

Power Pointによるプレゼンテーション資料の作成ができる。

インターネットによる情報検索 (書籍・論文情報など) ができる。

学習の到達目標

情報倫理を知る。

パソコンの基本操作ができる。

Wordによる文書の作成ができる、

Excelによる表計算とグラフの作成ができる。

Power Pointによるプレゼンテーション資料の作成ができる。

インターネットによる情報検索 (書籍・論文情報など) ができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

教科書

使用予定の教科書の改訂が未定なので現時点ではお知らせできません。

決定次第、お知らせします。

成績評価方法と基準 提出物・発表等 10～30%、期末テスト 90～70%

オフィスアワー 火曜：13:00～14:30

授業改善への工夫 情報に関しては、個人差が激しいので丁寧に進めていく。

その他

休むと理解できなくなるので休まないこと。

扱うソフトはバージョンによって異なるので注意すること。

授業計画・学習の内容

キーワード パソコン、情報倫理、ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット

学習内容

第一回 ガイダンス、情報リテラシー (総合情報センター)

第二回 情報倫理 (総合情報センター)

第三回 図書館情報検索 (1) (図書館担当)

第四回 図書館情報検索 (2) (図書館担当)

第五回 ワープロ・Word入門 (1)

第六回 ワープロ・Word入門 (2)

第七回 表計算・Excel入門 (1)

第八回 表計算・Excel入門 (2)

第九回 グラフ・Excel入門

第十回 WordとExcelの連携

第十一回 エクセル関数による統計処理 (1)

第十二回 エクセル関数による統計処理 (2)

第十三回 パワーポイント入門 (1)

第十四回 パワーポイント入門 (2)

第十五回 大量言語データの処理

学習課題 (予習・復習) 当日達成できなかったことは、自習により補っておくこと。

情報科学基礎

Introduction to Information Science

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 対象 教育学部の数学教育・情報教育コース1年生 年次 学部(学士課程): 1年次 選択/必修 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 丁 亜希 (教育学部)

露峰 茂明 (教育学部)

授業の概要 コンピュータを用いた実習の付随した授業である。

学習の目的 データ収集能力・データ加工能力・データ作成能力・情報発信力の基礎を実践的に習得する。

学習の到達目標 レポート・指導案作成等に必要ワード・エクセル・パワーポイントのソフトウェアを使いこなせるようにする。著作権やプライバシーの保護等についても理解を深める。またTeXによる文書作成の基本的な部分を理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力、

授業計画・学習の内容

キーワード 今後の学生・社会生活に必要なとなるコンピューターの基礎を押さえる。

学習内容

第1回 お絵かき (丁担当)

第2回 文書作成 (丁担当)

第3回 表計算 (丁担当)

第4回 プレゼンテーション (丁担当)

第5回 コンピュータとネットワークのしくみ (丁担当)

第6回 TeX入門 (露峰担当)

第7回 TeXでの文書作成 (露峰担当)

コミュニケーション力を総合した力

教科書 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』第2版 技術評論社

成績評価方法と基準 レポート・試験(50%)、授業に対する積極的な姿勢(50%)

オフィスアワー

丁：水曜日10:30～12:00 (教育学部専門校舎2号館4階情報教育教員室)

露峰：水曜日12:00～13:30(教育学部・代数学第2研究室)

授業改善への工夫 受講者各自の到達度別に対応できるよう、努めたい。

第8回 数式(露峰担当)

第9回 数式の交じった文書(露峰担当)

第10回 表作成(露峰担当)

第11回 表と数式(露峰担当)

第16回 試験

なお、何回目かは未定であるが以下の授業が計4回行われる。

ガイドダンス・情報リテラシー(総情センター担当)

情報倫理(総情センター担当)

図書館での情報検索(1)(図書館担当)

図書館での情報検索(2)(図書館担当)

情報科学基礎

Introduction to Information Science

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 丁 亜希 (教育学部)

授業の概要 三重大で生活するために必要な学生用パソコンやメール, eラーニングシステムなどの使い方と, 社会に出ても通用する情報の基礎知識を学ぶ

学習の目的 データ収集能力・データ加工能力・データ作成能力・情報発信力の基礎を実践的に習得する。

学習の到達目標 レポート・指導案作成等に必要ワード・エクセル・パワーポイントのソフトウェアを使いこなせるようにする。著作権やプライバシーの保護等についても理解を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件 クラス指定 (理科・英語・特別支援)

教科書 教科書: 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』第2版 技術評論社

成績評価方法と基準 レポート・試験(50%)、出席および授業に対する積極的な姿勢(50%)

オフィスアワー 水曜日10:30~12:00 (教育学部専門校舎2号館4階情報教育教員室)

授業改善への工夫 受講者各自の到達度別に対応できるよう、努めたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 情報リテラシー

学習内容

まず最初に
テキスト作成
ネットの利用 (Web閲覧+メール)
お絵かき
文書作成 (×3)
表計算 (×2)

プレゼンテーション
Webによる情報発信
情報の検索と整理
コンピュータとネットワークのしくみ
情報とセキュリティ
情報と社会

学習課題 (予習・復習) 教科書を参照すること

情報科学基礎

Information Science

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 対象 教育学部 音楽、美術、学校、幼児、人間発達 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 実技 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 疋田 真也 (非常勤講師)

授業の概要 大学での学習や研究、社会に出てからも必要性の高い情報機器の活用技術 (Word、Excel、PowerPoint、インターネット) に関する基本的な操作を学習する。このことで、情報を主体的に選択、収集、活用、編集、発信する能力を習得すると共に、情報機器を使って論理的に考える能力の育成に取り組む。

学習の目的 情報化社会での基礎的な情報リテラシーを身につけるために、社会に出て必要とされるOfficeソフトとインターネットの基本的な知識と操作技術を理解する。このことで、情報機器を活用してレポート作成や情報発信を行いうと伴に、IT機器を問題解決ツールとして用い論理的に考える能力を身につける。

学習の到達目標 Word、Excel、PowerPoint、Internetに関するの基本的な操作方法を習得し、自ら試行錯誤を繰り返しながら、目的とする文章、集計、情報発信を行い、パソコン活用方法について自ら一人で学び、習熟していくことができる能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力,

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部
音楽、美術、学校、幼児、人間発達

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』第2版 技術評論社

参考書 関連する参考書は、適時授業中に示す。

成績評価方法と基準 出席20%、課題40%、期末試験40%、計100% (合計が60%以上で合格)

授業改善への工夫

実践的な課題にもとづく、操作演習を繰り返していく。
複数回の小テストにより理解度ををはかる。
Moodeを活用し、情報交換を行う。

その他 自宅、学内においてパソコン、インターネットの操作演習ができることが望ましい。

授業計画・学習の内容

キーワード Word Excel PowerPoint LAN インターネット パソコン Windows

Key Word(s) Word Excel PowerPoint LAN Internet PC Windows

学習内容

第1回 情報リテラシ講座 (学内におけるパソコン、ネットワークの使用方法)
第2回 情報倫理講座 (情報とセキュリティ)
第3回 図書館講習会 (付属図書館関連システムの使い方)
第4回 パソコンの基礎 (コンピュータの基本・タッチタイピング)

第5回 ファイル操作 (お絵かきソフト・ファイル操作の基本)
第6回 文章作成-1 (Wordの基本)
第7回 文章作成-2 (レポート作成)
第8回 文章作成-3 (ビジネス文書の作成)
第9回 表計算ソフト-1 (Excelの基本)
第10回 表計算ソフト-2 (表の集計方法)
第11回 表計算ソフト-3 (グラフ作成とWordとの連携)
第12回 プレゼンテーションソフト-1 (PowerPointの基本)
第13回 プレゼンテーションソフト-2 (プレゼンテーションの作成)

第14回 プレゼンテーションソフトー3（プレゼンテーションの実践）

第15回 Webによる情報発信（Webページの基本）

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） Word、Excel、PowerPoint、インターネットの操作方法を学習するが、習熟のためには、大学・自宅で自らパソコンに向かい操作演習を繰り返し、行うことが求められる。

情報科学基礎

Introduction to ICT

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 魚住明生 (教育学部技術・ものづくり教育講座)

授業の概要

学生生活を快適に送るためには、Web上に開講されるe-Learning授業の活用や音響映像を統合し双方向性を持たせたマルチメディア活用技術など、情報活用、情報処理および情報通信に関する基本的な技術を習得することが不可欠である。

さらに、インターネットに接続して、いつでもどこからでも自由かつ安全に使えるような情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT) を習得するとともに、高度情報社会を生きていくための情報倫理とルール、マナーを身に付けていくことが求められている。

この授業では、これらの情報通信技術 ICT, 即ち、各自の専門分野において有用な道具として使いこなす実践的技術を、「Practice makes perfect! (習うより慣れる!)」方式で身に付けることを目的としている。

学習の目的 授業概要を参照

学習の到達目標

この授業の具体的な目標は、以下に示す実践的技術と情報倫理を身に付けることである。

- 1) レポートや論文を書くための文書作成・編集技術
- 2) 実験データの分析やグラフ化のための表計算及びグラフ作成技術
- 3) 電子メールや電子掲示板BBSなどを使用するコミュニケーション技術
- 4) World Wide Webによる情報検索・収集などをするインターネット活用技術
- 5) 自分の考えを上手に人に伝える図解表現、プレゼンテーション技術
- 6) デジタル情報を統合的に扱うマルチメ

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータ, ネットワーク, Web, e-Learning, 情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT), 情報倫理, 情報リテラシー

ディア活用技術

- 7) e-Learningシステムや電子教材を使用する教育システム利用技術
- 8) ネットワーク利用に関するルールやマナー, 著作権法などを遵守し, 情報倫理観を身に付け, あらゆる脅威から安全を確保する技術

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

富山大学情報教育研究会 編: 2015年版大学生の情報リテラシー 大学生のICT活用標準テキスト, 富山大学出版会

その他, 必要な書籍は適宜紹介すると共に, 資料を配布する。

成績評価方法と基準

出席状況: 遅刻, 早退は2回で1回の欠席, 無断欠席1回では3回の欠席とみなす。

評価基準

- A: 課題を全部達成し, 授業に全て出席して, レポートやプレゼンテーション等が優れている者
B: 課題を全部達成し, 授業に全て出席した者
C: 課題を全部達成した者
D: A, B, Cに該当しない者

なお, 受講態度に問題がある者は, 課題達成の如何に関わらず, 評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日の12:00~13:00,

場所: 技術棟2階 技術科教育学研究室

授業改善への工夫 実習時, 並びにMoodle上での質疑, 要望に応じて, 授業を改善する。

学習内容

第1回: オリエンテーション

- ・情報科学基礎の目的と達成目標の把握
- ・PC及びネットワークの基本操作

・e-Learningシステムへの登録，課題の提出方法の習得

- ・日本語入力の方法MS-IME
- ・タイピング練習Type Trainer
- ・Windowsファイル・システム

【課題1】メモ帳による自己紹介文の作成

第2回：総合情報処理センター講師による授業（その1）情報リテラシー

・統一アカウントや総情センターが提供しているサービスに関する説明

第3回：総合情報処理センター講師による授業（その2）情報倫理

・インターネットを利用する上で遵守すべき法規やマナーに関する講義

第4回：日本語入力ソフトウェアの活用法（1）基本操作

○MS Word2013による基本操作の習得

【課題2】エディタ課題のMoodleでの提出

第5回：日本語入力ソフトウェアの活用法（2）編集操作

○MS Word2013による編集操作の習得

【課題3】編集課題のMoodleでの提出

第6回：表計算ソフトウェアの活用法（1）基本操作

○MS Excel 2013による成績データ処理演習による基本操作の習得

【課題4】Excel練習課題のMoodleでの提出

第7回：実学としての情報リテラシー講習会：附属図書館講師による授業（その1）

・情報検索入門レポートの書き方

第8回：実学としての情報リテラシー講習会：附属図書館講師による授業（その2）

・情報検索入門レポートの書き方

第9回：表計算ソフトウェアの活用法（2）応用操作とグラフ作成

○MS Excel 2013によるグラフ作成方法の習得

【課題5】Excel練習課題のMoodleでの提出

第10回：表計算ソフトウェアの活用法（3）総合演習

○MS Excel 2013によるデータの参照，テンプレートなど拡張機能の習得

【課題6】Excel練習課題のMoodleでの提出

第11回：プレゼンテーションの技法（1）基本操作

○MS PowerPoint 2013による基本操作，アニメーション効果の習得

【課題7】PowerPoint練習課題のMoodleでの提出

第12回：プレゼンテーションの技法（2）マルチメディアと図解表現

○MS PowerPoint 2013による図の作成と画像，音響，映像の組込み方法の習得と3分間プレゼンテーションの作成

【課題8】PowerPoint練習課題と演習用プレゼンテーションのMoodleでの提出

第13回・第14回・第15回：プレゼンテーションの実際3分間プレゼン教室変更（後日連絡する。）

【課題9】プレゼンテーションの演習

【課題10】プレゼン評価

学習課題（予習・復習）

○授業の進め方

原則として，テキストによる自学自習で進める。

具体的には，

- 1) まず，テキストをよく読み，テキストの指示に沿って演習する。
- 2) 分からない箇所は，もう一度テキストをよく読む。
- 3) それでも分からない箇所は，近くの分かる学生に聞く。
- 4) それでも分からない時は，TAまたは担当教員に聞く。

○レポートの提出方法

レポートの提出期限は，原則としてその週の金曜日17:00までとする。

提出はMoodleで行う。その際，提出する添付ファイル名についてはテキストを参照すること。

また，紙面で提出するレポートについては，次週の授業前に提出する。

情報科学基礎

Information Literacy

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **対象** 医学科学籍番号が奇数、看護学科：学籍番号が前半
年次 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高田孝広 (医学部)、坂本良太 (医学部)、新貝庄吾 (医学部)

授業の概要 医学生・看護学生として必要な情報技術・データ分析の基礎的知識・能力を習得します。演習主体の授業であり、講義・演習は医学科・看護学科合同で行います。

学習の目的 医学・看護学を学ぶ上で必要となるIT (情報技術) の基礎的な知識・技術・倫理を習得する。

学習の到達目標

各授業で用意された課題 (文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーション等) を作成できる。
発展課題として、プレゼンテーションを講義最終日に発表できる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 情報端末を利用するため、配布された自分専用の統一アカウント (水色の用紙) を持参すること。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 医学部における専門教育科目

授業計画・学習の内容

キーワード 医学・看護学における情報リテラシーの必要性

学習内容

第1回 情報リテラシー

第2回 情報倫理

第3回 ガイダンス・メール利用方法

第4回 文献検索入門

第5回 レポートの書き方入門

第6回 Word入門と少し高度な使い方

第7回 Excelによる表とグラフの作成

第8回 Excelによるデータ整理

第9回 統計とデータ解析入門

教科書 テキストは特に指定なし。参考書は、情報リテラシーに関するもので後日示します。

成績評価方法と基準

随時レポート70%、成果発表会30%、提出されたレポートの総合評価により、単位習得試験を免除します。
※レポートの提出は必須です。

オフィスアワー

高田：火曜日 10:00～12:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

坂本：水曜日 11:00～13:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

新貝：火、木曜日 10:00～12:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

授業改善への工夫 能力・到達度に応じて、サポートします。

その他

授業はすべて総合情報処理センター第4教育端末室 (教育実践総合センター建物1F) で実施します。

統一アカウント (水色の用紙) を忘れないようにしてください。

情報端末室内での飲食厳禁。

第10回 プレゼンテーションの機能を学ぶ

第11回 画像処理

第12回 プレゼン用ファイル作成

第13回 自習、プレゼン用ファイル作成・提出

第14回 発表会

第15回 復習

*受講生との協議などによって、学習内容を変更することもあります。

学習課題 (予習・復習)

学生は、それぞれの情報リテラシーの能力・到達度に応じて段階的に提示されていく課題に対して随時レポートを提出し、教官は、質

問や提出するレポートに対して、サポートを
します。

連絡事項をメールで伝えることがありますの
で、随時メールをチェックするようにして下

さい。

この授業用ホームページでも重要な内容を掲
載しますので、時々見る習慣をつけておいて
下さい。

情報科学基礎

Information Literacy

学期 前期 **開講時間** 月 9, 10 **単位** 2 **対象** 医学科学籍番号が偶数、看護学科：学籍番号が後半
年次 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高田孝広 (医学部)、坂本良太 (医学部)、新貝庄吾 (医学部)

授業の概要 医学生・看護学生として必要な情報技術・データ分析の基礎的知識・能力を習得します。演習主体の授業であり、講義・演習は医学科・看護学科合同で行います。

学習の目的 医学・看護学を学ぶ上で必要となるIT (情報技術) の基礎的な知識・技術・倫理を習得する。

学習の到達目標

各授業で用意された課題 (文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーション等) を作成できる。
発展課題として、プレゼンテーションを講義最終日に発表できる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 情報端末を利用するため、配布された自分専用の統一アカウント (水色の用紙) を持参すること。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 医学部における専門教育科目

授業計画・学習の内容

キーワード 医学・看護学における情報リテラシーの必要性

学習内容

第1回 情報リテラシー

第2回 情報倫理

第3回 ガイダンス・メール利用方法

第4回 文献検索入門

第5回 レポートの書き方入門

第6回 Word入門と少し高度な使い方

第7回 Excelによる表とグラフの作成

第8回 Excelによるデータ整理

第9回 統計とデータ解析入門

教科書 テキストは特に指定なし。参考書は、情報リテラシーに関するもので後日示します。

成績評価方法と基準

随時レポート70%、成果発表会30%、提出されたレポートの総合評価により、単位習得試験を免除します。
※レポートの提出は必須です。

オフィスアワー

高田：火曜日 10:00～12:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

坂本：水曜日 11:00～13:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

新貝：火、木曜日 10:00～12:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

授業改善への工夫 能力・到達度に応じて、サポートします。

その他

授業はすべて総合情報処理センター第4教育端末室 (教育実践総合センター建物1F) で実施します。

統一アカウント (水色の用紙) を忘れないようにしてください。

情報端末室内での飲食厳禁。

第10回 プレゼンテーションの機能を学ぶ

第11回 画像処理

第12回 プレゼン用ファイル作成

第13回 自習、プレゼン用ファイル作成・提出

第14回 発表会

第15回 復習

*受講生との協議などによって、学習内容を変更することもあります。

学習課題 (予習・復習)

学生は、それぞれの情報リテラシーの能力・到達度に応じて段階的に提示されていく課題に対して随時レポートを提出し、教官は、質

問や提出するレポートに対して、サポートを
します。

連絡事項をメールで伝えることがありますの
で、随時メールをチェックするようにして下

さい。

この授業用ホームページでも重要な内容を掲
載しますので、時々見る習慣をつけておいて
下さい。

情報科学基礎

Introduction to Information Science

学期 前期 開講時間 水1,2 単位 2 対象 工学部分子素材工学科1年および工学部分子素材工学科
再履修者 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を
加えた授業

担当教員 ○大西 拓 (工学部) , 三谷 昌輝 (工学部)

授業の概要 大学での学習や社会生活で必要となるコンピュータ・アプリケーションソフト・インターネットの基本的な操作法を学ぶ。ネットワーク社会における情報倫理と情報リテラシの基礎的な知識を学ぶ。インターネットを利用した情報検索とレポート作成の基礎的な知識を学ぶ。アプリケーションソフトについて、広く普及しているMS Officeの操作法を実習形式で説明する。情報倫理と情報リテラシについて、総合情報処理センター講習会を実施する。情報検索とレポート作成について、図書館講習会を実施する。

学習の目的 大学での学習や社会生活で必要となるコンピュータ・アプリケーションソフト・インターネットについて学び、MS Officeの基本的な操作法を修得する。ネットワーク社会における情報倫理と情報リテラシについて学び、情報セキュリティと統一アカウントで利用できる学内システムの基礎的な知識を修得する。インターネットを利用した情報検索とレポート作成について学び、データベースとレポートの書き方の基礎的な知識を修得する。

学習の到達目標 アプリケーションソフトのWord・Excel・Power Pointを利用して、文章作成・表計算とグラフ作成・プレゼンテーション作成の基本操作ができるようにする。情報セキュリティ対策とトラブル対策について、具体的な事例と関連する法令を参照して、ユーザIDとパスワード・プライバシー保護・社会的責任・情報の信ぴょう性・電子メールやインターネットによる被害・売買トラブル・著作権侵害等に関する理解を深める。情報リテラシについて、統一アカウントと総合情報処理センター教育用システム・学生用メールシステム・学務情報システム・TOEIC英語自習システム・モバイルLAN・教育用LAN・三重大学Moodle等に関する知識を得

る。インターネット経由でデータベースを利用して、情報検索と図書検索の基本操作ができるようにする。レポート作成について、レポートを書く手順と参考文献の書き方等に関する知識を得る。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

クラス指定

工学部分子素材工学科1年および工学部分子素材工学科再履修者

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 MicrosoftOffice2013を使った情報リテラシーの基礎

参考書 総合情報処理センター講習会および図書館講習会では、それぞれ資料が配布される。

成績評価方法と基準 出席50%・レポートおよび課題(講習会を含む)50%とし、総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00
および随時, 工学部第2合同棟6階6609室・6606室

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果等を参考にして、適宜、授業内容および課題内容を修正・改善していく。

その他 授業は教育実践総合センター1階の第4教育端末室で行うので、間違えないように集合する。コンピュータを利用する際に必要となるので、事前に配布される統一アカウントを必ず持参する。

授業計画・学習の内容

キーワード 情報リテラシ（コンピュータによる情報利用の基礎）・情報倫理・情報セキュリティ・情報検索

Key Word(s) information literacy, Information ethics, information security, information retrieval

学習内容

第1回オリエンテーション

第2回情報倫理（総合情報処理センター講習会）

第3回情報リテラシ（総合情報処理センター講習会）

第4回Windowsとアプリケーションソフトの基本操作

第5回Word（文章作成）

第6回Word（罫線と作表）

第7回Word（図形作成）

第8回Excel（表計算）

第9回Excel（関数）

第10回Excel（グラフ作成）

第11回Power Point（基本操作）

第12回Power Point（編集とスライドショー）

第13回Webによる情報検索と図書検索1（図書館講習会）

第14回Webによる情報検索と図書検索2（図書館講習会）

第15回総合実習（課題作成）

学習課題（予習・復習） 教科書の予習・復習および配布資料の復習を行うとともに、コンピュータ・アプリケーションソフト・インターネットの基本的な操作法を、実際のコンピュータ操作を通して修得する。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 ○内迫 貴幸(生物資源学部), 長屋 祐一(生物資源学部)

授業の概要 Windows系OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学び、専門課程で必要な情報検索や情報処理の基本技術(情報リテラシーの習得、情報収集・加工・発信能力の習得、情報認識・評価・意思伝達能力の習得、ネットワークコミュニケーションと対面コミュニケーションの特徴と利用)を習得する。

学習の目的 専門教育で必要となる情報リテラシー技術(情報の入手・検索、情報の取り扱い・取りまとめ、レポート・プレゼンテーションによる発表方法)の基本を習得する。

学習の到達目標

- 1: ノートPCの安定運用, セキュリティ対策を身に付ける。
- 2: 大学のモバイルLANを利用できる。
- 3: 大学の提供するサービス(メール, 情報検索, WWW等, IT講習会, e-learningシステムなど)を適切に利用できる
- 4: ワープロ, 表計算, パワーポイントなどのアプリケーションを利用して, 文書作成やデータ解析, プレゼンテーションの基本操作ができる。
- 5: 情報リテラシーと情報倫理を身に付ける。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード WindowsOS、インターネット、ウィルス対策、情報倫理、セキュリティー、情報検索、データ整理、プレゼンテーション

Key Word(s) WindowsOS, Internet, anti-virus, information ethics, security, information retrieval, data reduction, presentation

学習内容

受講要件

- ・ 第1回目の授業から「ノートパソコン」と「ACアダプタ」を必ず持参すること。
- ・ Microsoft社のOfficeを設定するためのメディアも持参すること。学部推奨パソコンには同封されている。
- ・ 学部推奨ではないパソコンで、Microsoft Officeが搭載されていない場合は、必ず三重大学生用Officeを大学生協(翠陵会館側)で購入しておいてください。
- ・ 講義に必要なパソコンの性能は、入学時に配布した資料「講義用ノート型パソコン必携のお願いとお知らせ」に説明されているので、自分でパソコンを購入する場合はよく確認すること。

発展科目 文献検索やデータをまとめレポート作成が必要な演習・実験・実習、発表を伴う授業等、卒業研究等

教科書 教材・資料は適宜配布

成績評価方法と基準 4回以上欠席の場合は再受講。課題に対する評価あり。

オフィスアワー

この授業は2名の教員が担当しますので、いずれの教員でも対応できます。

時間帯: 毎週金曜日12:10~13:10, 16:20~17:20

場所: 長屋(360室)・内迫(603室)

授業改善への工夫 学生の習熟度にあわせて授業内容を検討する。

1. ガイダンス・パソコンの基本設定1(無線LANによる学内ネットワークへの接続など)
2. パソコンの基本設定2(オフィスソフトのインストールと設定およびマイクロソフトアップデートなど)
3. 電子メールとMoodleの使い方(ネットワーク利用上のマナーとセキュリティー)
4. 情報倫理と情報セキュリティー(総合情報処

理センター教員による講述)

5. Webページの閲覧とWebによる情報検索 (附属図書館スタッフによる講述)

6. 蔵書や文献の検索 (附属図書館スタッフによる講述)

7. ワードプロソフト Wordの基本操作

8. 表計算ソフト1 Excelの基本操作一行・列・セル・作表

9. 表計算ソフト2 Excelによる数値の計算方法と関数の利用

10. 表計算ソフト3 Excelによるデータ操作

11. 表計算ソフト4 Excelによるグラフの作成

12. プレゼンテーションソフト1 PowerPointの概要と基本操作

13. プレゼンテーションソフト2 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と各種ソフトウェアとの連携

14. プレゼンテーションソフト3 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と表現テクニックの習得

15. 聴衆の前でプレゼンテーション

16. 定期試験

学習課題 (予習・復習)

[予習]

コンピュータ入門

ネットワーク利用による情報の発信と利用

ネチケット、セキュリティー

情報検索

レポート作成法

表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の

活用

の内容について、あらかじめ情報検索・収集を行う。

また、PCのセキュリティ対策を常に行う。

[復習]

授業レベルはそれほど高くないが、時間が限られるので消化不良の箇所は各自の復習が必要。情報スキルを身に付けるためには、平素から時間を使って自ら訓練する姿勢が望まれる。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 ○長屋 祐一(生物資源学部), 内迫 貴幸(生物資源学部)

授業の概要 Windows系OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学び、専門課程で必要な情報検索や情報処理の基本技術(情報リテラシーの習得、情報収集・加工・発信能力の習得、情報認識・評価・意思伝達能力の習得、ネットワークコミュニケーションと対面コミュニケーションの特徴と利用)を習得する。

学習の目的 専門教育で必要となる情報リテラシー技術(情報の入手・検索、情報の取り扱い・取りまとめ、レポート・プレゼンテーションによる発表方法)の基本を習得する。

学習の到達目標

- 1: ノートPCの安定運用, セキュリティ対策を身に付ける。
- 2: 大学のモバイルLANを利用できる。
- 3: 大学の提供するサービス(メール, 情報検索, WWW等, IT講習会, e-learningシステムなど)を適切に利用できる
- 4: ワープロ, 表計算, パワーポイントなどのアプリケーションを利用して, 文書作成やデータ解析, プレゼンテーションの基本操作ができる。
- 5: 情報リテラシーと情報倫理を身に付ける。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード WindowsOS、インターネット、ウィルス対策、情報倫理、セキュリティー、情報検索、データ整理、プレゼンテーション

Key Word(s) WindowsOS, Internet, anti-virus, information ethics, security, information retrieval, data reduction, presentation

学習内容

受講要件

- ・ 第1回目の授業から「ノートパソコン」と「ACアダプタ」を必ず持参すること。
- ・ Microsoft社のOfficeを設定するためのメディアも持参すること。学部推奨パソコンには同封されている。
- ・ 学部推奨ではないパソコンで、Microsoft Officeが搭載されていない場合は、必ず三重大学生用Officeを大学生協(翠陵会館側)で購入しておいてください。
- ・ 講義に必要なパソコンの性能は、入学時に配布した資料「講義用ノート型パソコン必携のお願いとお知らせ」に説明されているので、自分でパソコンを購入する場合はよく確認すること。

発展科目 文献検索やデータをまとめレポート作成が必要な演習・実験・実習、発表を伴う授業等、卒業研究等

教科書 教材・資料は適宜配布

成績評価方法と基準 4回以上欠席の場合は再受講。課題に対する評価あり。

オフィスアワー

この授業は2名の教員が担当しますので、いずれの教員でも対応できます。

時間帯: 毎週金曜日12:10~13:10, 16:20~17:20

場所: 長屋(360室)・内迫(603室)

授業改善への工夫 学生の習熟度にあわせて授業内容を検討する。

1. ガイダンス・パソコンの基本設定1(無線LANによる学内ネットワークへの接続など)
2. パソコンの基本設定2(オフィスソフトのインストールと設定およびマイクロソフトアップデートなど)
3. 電子メールとMoodleの使い方(ネットワーク利用上のマナーとセキュリティー)
4. 情報倫理と情報セキュリティー(総合情報処

理センター教員による講述)

5.Webページの閲覧とWebによる情報検索 (附属図書館スタッフによる講述)

6.蔵書や文献の検索 (附属図書館スタッフによる講述)

7.ワープロソフト Wordの基本操作

8.表計算ソフト1 Excelの基本操作一行・列・セル・作表

9.表計算ソフト2 Excelによる数値の計算方法と関数の利用

10.表計算ソフト3 Excelによるデータ操作

11.表計算ソフト4 Excelによるグラフの作成

12.プレゼンテーションソフト1 PowerPointの概要と基本操作

13.プレゼンテーションソフト2 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と各種ソフトウェアとの連携

14.プレゼンテーションソフト3 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と表現テクニックの習得

15.聴衆の前でプレゼンテーション

16. 定期試験

学習課題 (予習・復習)

[予習]

コンピュータ入門

ネットワーク利用による情報の発信と利用

ネチケット、セキュリティー

情報検索

レポート作成法

表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用

の内容について、あらかじめ情報検索・収集を行う。

また、PCのセキュリティ対策を常に行う。

[復習]

授業レベルはそれほど高くないが、時間が限られるので消化不良の箇所は各自の復習が必要。情報スキルを身に付けるためには、平素から時間を使って自ら訓練する姿勢が望まれる。

情報科学基礎 (1C)

Basic Information Science (1C)

学期 前期 開講時間 水 3, 4 単位 2 対象 生物資源学部共生環境学科Cクラス 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 伊藤 良栄(生物資源学部)

授業の概要

これからの大学生活および卒業後の社会において必要とされるITスキルを習得することを目的とする。具体的には、

- 1) 学内LANやインターネットに接続するための基礎知識とセキュリティ意識の向上
- 2) 情報検索等を利用した情報の「収集・整理・共有・分析」
- 3) 学術的文書や技術レポートのための文書作成に関する基礎知識とスキル
- 4) 数値データの処理とグラフ化
- 5) 図解を活用したプレゼンテーション等について課題を通じて身につけてもらう。

学習の目的

- 1) 無線LANのセキュリティや認証について理解することにより、安全かつ確実に学内LANを利用できるようになる。
- 2) レポート提出や関連資料のダウンロードなどMoodleの機能を学ぶことにより、他の授業でもMoodleを有効に活用できるようになる。
- 3) ネットワークやセキュリティなどネットワーク利用に関する基礎知識が身につく。
- 4) 三重大学学生用メールシステムが利用でき、電子メールを正しく利用できるようになる。
- 5) ワープロの機能を使いこなすことにより、学会や国際会議などで指定された書式で文章を作成できるようになる。
- 6) 表計算や塚ソフトを使いこなすことにより、指定された方法で数値データを整理できるようになる。
- 7) プレゼン用ソフトを使いこなすことにより、自らのアイデアをプレゼンテーションするスキルが身につく。
- 8) 情報倫理の概念をを理解し、セキュリティレベルの高いPC利用ができるようになる。
- 9) インターネットから収集した情報を、図解を用いて整理する知識が身につく。

学習の到達目標

- 1) 無線LANを使って学内LANを利用できる。
- 2) 三重大学が提供している学習管理システムであるMoodleを利用できる。
- 3) インターネット等のネットワークに関する基礎知識が身につく。
- 4) 三重大学学生用メールシステムが利用でき、電子メールを正しく利用できる。
- 5) 指定された書式で文章を作成できる。
- 6) 指定された方法で数値データを整理できるようになる。
- 7) 自らのアイデアをプレゼンテーションするスキルを身につける。
- 8) 情報倫理の概念をを理解し、セキュリティレベルの高いPC利用ができる。
- 9) インターネットから収集した情報を、図解を用いて整理する知識を得る。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎回、ノートパソコンを使用する。第1回目の授業には、1) ノートパソコン, 2) ACアダプタの2つを必ず持参すること。なお、講義に必要なパソコンの性能は、入学手続き時に配布した資料「講義用ノート型パソコン必携のお願いとお知らせ」に説明されているので、よく確認しておくこと。

発展科目 環境情報学(1年生後期, 共生環境学科・コース必修科目)

教科書 教科書: PPTやプリントを配布する。

参考書 切田節子, 他3名共著, 「Microsoft Office2013を使った情報リテラシーの基礎」, 近代科学社, 978-4764904484

成績評価方法と基準 各種課題レポートで評価する。4回以上欠席した場合は再受講。なお、詳しい評価基準は、第1回目の授業の際に説明する。

オフィスアワー

毎週水曜日12:00～13:00, 18:00～19:00

Cクラス 伊藤良栄 (303室)

授業改善への工夫 アンケート調査を行うなど、学生の習熟度に合わせて毎回の授業内容を

を検討する。

その他 生物資源学部共生環境学科の地域環境デザイン学教育コースの農業土壌学プログラムのJABEE科目に指定されている。

授業計画・学習の内容

キーワード 情報の「収集・整理・共有・分析・表現」力、セキュリティに対する意識、文書作成、数値データ整理、図解を利用したプレゼンテーション、情報倫理、情報検索

Key Word(s) Collection, arrangement, sharing, analysis and presentation of information, Security consciousness, Document writing, Arrangement of numeric data, Graphic presentation, Information ethics, Information retrieval

学習内容

- 1)授業概要、到達目標、成績評価等について説明を受けた後、パソコンの基本設定、学内無線LANへの接続（統一アカウントの配布）、ウィルス対策ソフトの設定およびMoodleへの登録を行う。
- 2)情報リテラシ講座（電子メール、大学提供サービスの説明など）（担当：情報処理センター）
- 3)電子メールを使う。電子メールを利用する場合に、注意すべき項目を学び、電子メールソフトをインストールして三重大学学生用メールシステムを利用してメールの送受信ができるようにする。セキュリティおよび電子メールに関するオンラインテスト。
- 4)情報セキュリティ・倫理教育講座（担当：総合情報処理センター）
- 5)図書館を利用するための情報検索講習会に参加する（図書館情報検索講習会）
- 6)インターネットを使って情報を検索する。指定された課題に対して適切なキーワードを選択し、複数のサイトから情報を検索する。
- 7)検索し収集した情報を整理し、プレゼンテ

ションソフトを使って図解をする。

8)整理した情報や自分のアイデアを、聴衆にプレゼンテーションする。

9)ワープロを使って指定された書式で、文書を作成する。

10)与えられた数値データを、指定された方法で加工する。

11)与えられた数値データから、指定されたグラフを作成する。

12)関数を使って複雑な処理を行う。

13)数値データに合わせて目的に適したグラフを選択することを知る。

14)作成した表やグラフを貼り付けてワープロと連携する。

15)レポートの書き方（図書館講習会）

16)社会で求められている情報スキルを知る。総括。

注意:順序が入れ替わる場合がある。

学習課題（予習・復習）

(前半7回)

パソコン(ACアダプタも)の準備。

大学ネットワーク統一アカウントの利用。大学無線LANの活用。

MS Office製品、ウィルス対策ソフト、電子メールソフトのインストール。

情報検索とプレゼンテーション課題。

タイピング練習課題。

情報倫理を理解し、意識する。

(後半7回)

大学無線LANの活用。

Word, Excel課題を通して、文章作成訓練。

情報検索とプレゼンテーション課題。

タイピング練習課題。

情報倫理を理解し、意識する。

情報科学基礎 (1D)

Basic Information Science (1D)

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○森尾 吉成(生物資源学部)

授業の概要 本授業では、学生は、数多くの課題を通して基本的なITスキル（インターネット活用、情報倫理、パソコン保守、ファイル管理、タイピング、文書作成、表計算、発表原稿作り、クラウド活用）を習得するとともに、週次課題である1分間プレゼンテーションを通してプレゼンテーション力を向上させる。さらに、問題設定力ならびに問題解決力が必要とされる課題を通して、情報収集・分析・整理力、新しいアイデアの発想やアイデアを実践するために必要なデザイン力についても訓練する。eポートフォリオなどを活用して自分の活動を記録し、振り返る習慣を身につける。

学習の目的

- ・ノートをとる力が身につく。
- ・インターネットを活用する力が身につく。
- ・情報倫理が身につく。
- ・パソコンの簡単な設定・保守・管理作業が行える。
- ・基本的なファイル管理が行える。
- ・タイピング力が向上する。
- ・ワープロソフトを使って学術的なスタイルが要求される文書を作成できる。
- ・表計算ソフトを使って学術的なデータ処理が行える。
- ・図解を使ってプレゼンテーション用の発表原稿を作成できる。
- ・クラウドサービスを活用できる。
- ・プレゼンテーション力が向上する。
- ・問題設定力と問題解決力が訓練される。
- ・ある課題に対して目的意識を持って一週間やり切る習慣が身につく。
- ・eポートフォリオなどを使って自分の活動を振り返る習慣が身につく。

学習の到達目標

- ・自分流のノートの取り方を見つける。
- ・大学内ネットワークが利用でき、学外の有用なインターネット上のサイトを日常的に活用する習慣が身づく。
- ・ウィルス対策、情報漏洩対策、誹謗中傷な

ど、課外防止、被害防止、被害回復に求められる知識、技能、態度を意識できる。

- ・パソコンの初期設定、無線LANへの接続、プログラムの強制終了など、初歩的な設定・保守・管理作業が行える。
- ・フォルダ、ファイル、ファイルパス、拡張子の概念を理解し、ファイル管理が行える。
- ・タッチタイピングに近い速度でタイピングができる。
- ・指定されたページレイアウト（余白、段組、1行の文字数、ページ番号、ヘッダー、フッター）、文字フォント、段落スタイルをもつ文書を作成できる。
- ・与えられた学術データを処理し、グラフが作成できる。
- ・少なくとも一つのクラウドサービスは使用できる。
- ・全員10回近くプレゼンテーションをする。
- ・毎週8時間以上取り組むべき課題を自ら設定する。
- ・毎週8時間以上取り組まなければならない課題をやり切る。
- ・自分の活動を少なくとも1週間に1回は振り返る習慣が身につく。

本学教育目標との関連 倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・第1回目の授業には、「ノートパソコン」と「ACアダプタ」を必ず持参すること。
- ・Microsoft社のOfficeを設定するためのメディアも持参すること。学部推奨パソコンには同封されている。
- ・学部推奨ではないパソコンで、Microsoft Officeが搭載されていない場合は、必ず三重大学生用Officeを大学生協（翠陵会館側）で購入しておいてください。
- ・講義に必要なパソコンの性能は、入学時

に配布した資料「講義用ノート型パソコン必携のお願いとお知らせ」に説明されているので、自分でパソコンを購入する場合はよく確認すること。

・不明な点は、授業当日までに担当教員に相談すること。

発展科目 環境情報学(1年生後期, 共生環境学科・コース必修科目)

成績評価方法と基準 各種課題レポート70%, プレゼンテーションピア評価10%, 期末試験20%の計100%で評価する。ただし, 4回以上欠席した場合は再受講とする。なお, 詳

授業計画・学習の内容

キーワード ノートとり, インターネット, タイピング, 情報倫理, パソコン設定・保守・管理, ファイル管理, ワープロ, 表計算, クラウド, プレゼンテーション, 問題設定力と問題解決力, やり切る習慣, eポートフォリオ

Key Word(s) Note taking, IT, typing, information ethics, PC setup and maintenance, file management, Word, Excel, Cloud, presentation, problem solving, goal setting competency, persevere, e-portfolio.

学習内容

- 1)授業概要, 到達目標, 成績評価, 課題レポートについて説明を受けた後, パソコンの基本設定, 無線LANを使ってキャンパスLANへの接続, インターネットへの接続, ウィルス対策, Microsoft Officeのインストールを行う。キャンパスLANを利用するための統一アカウントを受け取り, 統一アカウントで利用可能な提供サービスを知る。
- 2)三重大の学習管理システムであるMoodleにログインし, 教材の閲覧方法, 教材のダウンロード, 課題レポートの提出方法, の操作方法を習得する。
- 3)三重大の学生用メールシステムの利用方法を習得するとともに, 電子メールクライアントソフトをインストールして, 学生用メールアドレスを利用する方法を習得する。
- 4)電子メールを利用する際, 相手に合わせてメッセージを作成する方法, 正しく宛先を指定する方法, 相手に合わせてファイルをメー

しい評価基準は, 第1回目の授業の際に説明を行う。

オフィスアワー

時間帯: 毎週火曜日12:00~13:00, 18:00~19:00

場所: 森尾(415室)

授業改善への工夫 毎回授業アンケート調査を行い, 学生の習熟度に合わせて授業内容を改善する。

その他 生物資源学部共生環境学科の地域保全工学講座のJABEE科目に指定されている。

ルに添付する方法, を習得する。

5)セキュリティやモラル, パソコンOSの脆弱性に関する説明を受け, インターネット利用時に注意すべき点を知るとともに, 倫理上問題なく安全にパソコンを使用する方法を習得する。

6)与えられた課題に対して, 適切なキーワードを選択して複数のサイトから情報を検索する方法, 収集した情報を効果的に整理する方法, 整理・分析した結果を図解するスキルを訓練する。

7)与えられた課題に対して, 自分らしい視点から情報を収集・整理・分析し, さらにとりまとめた内容をプレゼンテーションするために, PowerPointを使って発表原稿を魅力的に作成するスキルを訓練する。

8)プレゼンテーション時に, 自分のメッセージを聴衆に効果的に伝えるためのスキルを訓練する。

9)大学図書館を有効活用する方法について知る。

10)与えられた課題レポートに対して, Wordを使って指定された書式やレイアウトをもつ学術的な文書を作成するスキルを訓練する。さらに, 相手に合わせて適切なファイル名を付ける流儀についても身に付ける。

11)与えられた数値データを, Excelを使って指定された条件に合う形に加工するスキルを訓練する。

12)与えられた数値データを, Excelを使って加工し, さらにデータの性質に合わせてグラフ化するスキルを訓練する。

13)与えられた課題レポートに対して、学術的文書としてふさわしい書式、文章、グラフ、表、数式、図表タイトル、所属氏名、ページ番号、表紙を作成するための流儀を身に付ける。

14)情報を取り扱う上で意識しなければならない知的財産権やプライバシーやモラルに関する情報倫理について、社会で発生している事例を調査する。

15)大学ではなく、社会で必要とされている情報スキルについて調査することにより、今の自分を成長させるための振り返りを日々行う習慣を身に付ける。

16)eポートフォリオを活用しながら、毎回、学習成果を振り返るメタ認知とともに、習熟度テストによって到達レベルを確認し、次の行動につなげる学習サイクルを回す習慣を身に付ける。

注意:順序が入れ替わる場合がある。

学習課題（予習・復習）

1)ノートパソコン、ACアダプタを忘れずに持参する。知識のない人は授業までに電源を投入しないように。

2)授業開始までに統一アカウントを使ってキャンパスLANに接続し、Moodleにログインすること。

3)学生用メールアカウントを使って電子メールが送受信できるようになること。

4)電子メールを隣に座る人に合わせて正しく

作成し、送信して相手からの感想を受け取ること。

5)Windowsパソコンの脆弱性を解消するWindowsUpdate、セキュリティ対策ソフトの更新作業を実施してくる。

6)与えられた課題について徹底して情報を検索し、図解にまとめてくる。

7)プレゼンテーションを行うための魅力的な発表原稿作る。

8)魅力的なプレゼンテーションができるように原稿を見ず、ジェスチャーを交えた発表方法を訓練してくる。

9)大学図書館でどんな情報が提供されているか調べてくる。

10)Wordを使って必ず指定された書式をもつ課題レポートを作成してくる。

11)Excelを使って数値データを指定された形に加工してくる。

12)Excelを使って指定された書式を持つグラフを作成してくる。

13)学術的な文書を作成するための流儀について、いろいろな学会の論文投稿規定を調べてくる。

14)情報倫理に関して社会で問題が起こっている事例を調べてくる。

15)社会で必要とされている情報スキルについて調べてくる。

16) 毎週必ず、学習成果の振り返りと予習を行う課題が出る。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 対象 生物圏生命科学科E1クラス 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL
担当教員 末原憲一郎(生物資源学部)

授業の概要 Windows系OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学び、専門課程に必要な情報検索や情報処理の基本技術(情報リテラシーの習得、情報収集・加工・発信能力の習得、情報認識・評価・意思伝達能力の習得、ネットワークコミュニケーションと対面コミュニケーションの特徴と利用)を習得する。

学習の到達目標 専門課程で出されるレポートに関する情報を、インターネットなどで安全に検索かつ信頼性の高い情報を取捨選択し、課題を電子ファイルで作成・提出可能なスキルの修得を目指す。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータの基本操作の習熟

学習内容

- コンピューター入門
- 1. コンピュータハードウェアの基本構造としくみ
- 2. オペレーティングシステム(Windows系OS)の概要と基本操作
- ワープロソフト(WORD)による文書作成
- 3. 文字入力・変換方法などの仕組みと基本操作
- 4. 文書体裁の変更と図表を含んだ文書の作成
- ネットワーク利用による情報の発信と利用
- 5. ネットワーク利用上のマナー(ネチケット)とセキュリティ
- 6. 学内LANの使い方とWWWブラウザの操作方法(学生用ラン、統一アカウント、三重大学moodleの利用手引き)
- 7. インターネットを利用した情報検索・収集
- 8. 電子メールによるメッセージ交換
- 表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

受講要件 E1クラス、毎回ノートパソコンを使用する

教科書 基礎からわかる情報リテラシー (改定第2版)、奥村晴彦著、技術評論社

成績評価方法と基準 授業中に出題する課題レポートで評価する。欠席4回以上で再受講となる。

オフィスアワー 毎週月曜日12:10~12:50、末原(生物資源棟651室)

授業改善への工夫 学生のコンピュータの習熟度にあわせて授業内容を検討する。

その他 総合情報処理センター教員による情報倫理教育を1回、図書館職員による文献検索講習を1回行う予定

- 9. 行・列・セルの基本操作と表
- 10. 数値計算方法と組込み関数の取り扱い
- 11. 並び替えやオートフォーマット等のデータ操作
- 12. グラフ作成およびWORDとの関係
- プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用
- 13. プレゼンテーションソフトの概要と基本操作方法
- 14-15. 各種ソフトウェアの関係によるプレゼンテーションの作成と表現テクニック
(順番などは随時入れ替わることがある)

学習課題(予習・復習)

教科書の例題などから、課題レポートを科す。
課題レポートを科す頻度については授業の進行を加味して決めるが、3週に1回~毎週ぐらゐの頻度にする。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 田口 和典 (生物資源学部)

授業の概要 Windows系OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学び、専門課程に必要な情報検索や情報処理の基本技術(情報リテラシーの習得、情報収集・加工・発信能力の習得、情報認識・評価・意思伝達能力の習得、ネットワークコミュニケーションと対面コミュニケーションの特徴と利用)を習得する。

学習の目的 パソコンが効率よく利用できる実例を示すことで、将来的な目的に合わせて各自が必要な道具として応用できるようになる。

学習の到達目標 専門課程で出されるレポートに関する情報を、インターネットなどで安全に検索かつ信頼性の高い情報を取捨選択し、課題を電子ファイルで作成・提出可能なスキルの修得を目指す。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力,

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータの基本操作の習熟

Key Word(s) familiarization of basic operation by a personal computer

学習内容

○コンピューター入門

1. コンピュータハードウェアの基本構造としくみ
2. オペレーティングシステム(Windows系OS)の概要と基本操作
- ワープロソフト(WORD)による文書作成
3. 文字入力・変換方法などの仕組みと基本操作
4. 文書体裁の変更と図表を含んだ文書の作成
- ネットワーク利用による情報の発信と利用
5. ネットワーク利用上のマナー(ネチケット)とセキュリティ
6. 学内LANの使い方とWWWブラウザの操作方法(学生用ラン、

情報受発信力

受講要件 E2クラス。毎回ノートパソコンを使用する。

教科書 基礎からわかる情報リテラシー (改定第2版)、奥村晴彦著、技術評論社

成績評価方法と基準 授業中に出題する課題レポートで評価する。欠席4回以上で再受講となる。

オフィスアワー

毎週水曜日 12:10~12:50、田口 (生物資源棟 639室)

毎週月曜日 12:10~12:50、末原 (生物資源棟 651室)

授業改善への工夫 学生のコンピュータの習熟度に合わせて授業内容を検討する。

その他 総合情報処理センター教員による情報倫理教育を1回、図書館職員による文献検索講習を1回行う予定

統一アカウント、三重大学moodleの利用手続き)

7. インターネットを利用した情報検索・収集

8. 電子メールによるメッセージ交換

○表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

9. 行・列・セルの基本操作と作表

10. 数値計算方法と組込み関数の取り扱い

11. 並び替えやオートフォーマット等のデータ操作

12. グラフ作成およびWORDとの関係

○プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用

13. プレゼンテーションソフトの概要と基本操作方法

14-15. 各種ソフトウェアの関係によるプレゼンテーションの作成と

表現テクニック

(順番などは随時入れ替わることがある)

学習課題（予習・復習）

教科書の例題などから、課題レポートを科す。

課題レポートを科す頻度については授業の進行を加味して決めるが、3週に1回～毎週ぐらいの頻度にする。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 ○勝川 俊雄(生物資源学部), 森川 由隆(生物資源学部)

授業の概要 OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学ぶ。

学習の到達目標 専門教育で必要な文献等の情報検索、調査及び実験データの解析処理、プレゼンテーションなどの基本技術を習得する。

受講要件 Gクラス

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 データをまとめレポート作成が必要な各種の物理学・化学・生物学関連の実

験・実習、発表を伴う授業等、卒業研究等

教科書 教材・資料は適宜配布、参考書として「基礎からわかる情報リテラシー」を推薦する。

成績評価方法と基準

4回以上欠席の場合は再受講。

課題に対する評価あり。(プレゼンテーションの評価を重視する)

オフィスアワー 随時、生物資源学部校舎の教員室

授業改善への工夫 パソコン使用環境の改善、学生の能力向上に即した授業内容の改善

授業計画・学習の内容

キーワード Windows、インターネット、ウィルス対策、情報倫理、セキュリティ、情報検索、データ整理、プレゼンテーション

Key Word(s) Windows, network, information literacy, information security, information retrieval, presentation

学習内容

- 1.ガイダンス、パソコンの基本設定(1)(ウィルス対策ソフトのインストールと無線LANの設定)
- 2.パソコンの基本設定(2)(MS Officeのインストールとマイクロソフトアップデート)
- 3.電子メールの使い方とMoodleの使い方
- 4.Webページの閲覧とWebによる情報検索(附属図書館スタッフ)
- 5.情報倫理と情報セキュリティ(総合情報処理センター教員)
- 6.蔵書や文献の検索(附属図書館スタッフ)
- 7.ワープロソフト(Word)の基本操作
- 8.表計算ソフト(Excel)の基本操作一行・列・セル・作表
- 9.表計算ソフト(Excel)による数値の計算方法と関数の利用
- 10.表計算ソフト(Excel)によるデータ操作
- 11.表計算ソフト(Excel)によるグラフの作成
- 12.プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の

概要と基本操作

13.プレゼンテーションソフト(PowerPoint)によるプレゼンテーション資料の作成
各種ソフトウェアとの連携

14.プレゼンテーションソフト(PowerPoint)によるプレゼンテーション資料の作成
プレゼンテーションによる表現テクニックの習得

15.聴衆の前でプレゼンテーション

学習課題(予習・復習)

[学習課題]

コンピュータ入門

ネチケット、セキュリティ

ネットワーク利用による情報の発信と利用
情報検索

レポート作成法

表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用

[予習]

セキュリティ対策を常に行う

[復習]

授業レベルはそれほど高くないが、時間が限られるので消化不良の箇所は各自の復習が必要。情報スキルを身に付けるためには、平素から時間を使って自ら訓練する姿勢が望まれる。

情報科学基礎 F2クラス

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義 授業の特徴

Moodle

担当教員 勝川 俊雄(生物資源学部), ○森川 由隆(生物資源学部)

授業の概要 OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学ぶ。

学習の目的 専門教育で必要となる情報リテラシー技術の基本を習得する。

学習の到達目標 専門教育に必要な文献などの情報検索、調査および実験データの解析処理、プレゼンテーションなど基本技術を習得する。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード Windows、インターネット、ウィルス対策、情報倫理、セキュリティー、情報検索、データ整理、プレゼンテーション

Key Word(s) Windows, network, information literacy, information security, information retrieval, presentation

学習内容

1. ガイダンス・パソコンの基本設定1(無線LANによる学内ネットワークへの接続など)
2. 電子メールとMoodleの使い方(ネットワーク利用上のマナーとセキュリティー)
3. 情報セキュリティー(総合情報処理センター教員による講述)
4. 情報倫理(総合情報処理センター教員による講述)
5. Webページの閲覧とWebによる情報検索(附属図書館スタッフによる講述)
6. 蔵書や文献の検索(附属図書館スタッフによる講述)
7. ワープロソフト Wordの基本操作
8. 表計算ソフト1 Excelの基本操作 一行・列・セル・作表

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 データをまとめレポート作成が必要な各種の物理・化学・生物関連の実験・実習、発表を伴う授業等、卒業研究等

教科書 教材・資料は適宜配布

成績評価方法と基準 4回以上欠席の場合は再受講。課題に対する評価あり。

オフィスアワー 随時、生物資源学部校舎各教員室

授業改善への工夫 パソコン使用環境の改善、学生の能力向上に即した授業内容の改善

9. 表計算ソフト2 Excelによる数値の計算方法と関数の利用

10. 表計算ソフト3 Excelによるデータ操作

11. 表計算ソフト4 Excelによるグラフの作成

12. プレゼンテーションソフト1 PowerPointの概要と基本操作

13. プレゼンテーションソフト2 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と各種ソフトウエアとの連携

14. プレゼンテーションソフト3 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と表現テクニックの習得

15. 聴衆の前でプレゼンテーション1

16. 聴衆の前でプレゼンテーション2

学習課題(予習・復習)

[学習課題]

コンピュータ入門

ネットワーク利用による情報の発信と利用
ネチケット、セキュリティー

情報検索

レポート作成法

表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の
活用

[予習]

セキュリティ対策を常に行う

[復習]

授業レベルはそれほど高くないが、時間が限られるので消化不良の箇所は各自の復習が必要。情報スキルを身に付けるためには、平素から時間を使って自ら訓練する姿勢が望まれる。

情報科学基礎B

Introduction to Information Literacy (advanced)

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** 人文学部法律経済学科の学生のみ受講できる

選/必 選択 **授業の方法** 講義, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 朝日 幸代 (人文学部)

授業の概要 法律経済学科学生の学習・研究活動にとって必要な情報処理の知識や技能を習得する。

学習の目的 さまざまな統計データやアンケート調査結果等をMicrosoft Excelを用いて集計・分析し、その結果をMicrosoft PowerPointを用いて効果的にプレゼンテーションできるようにする。

学習の到達目標 Microsoft Excelの応用的な操作(グラフ、関数の活用やデータベースを用いた集計分析等)とMicrosoft PowerPointの基本的な操作ができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピューターによる情報利用の応用編

学習内容

1. ガイダンス
2. Excelの機能と活用方法
- 3-4. Excelの基本操作1 (セルへの入力、加減乗除、セル、行、列の挿入・削除と結合)
- 5-7. データ分析 (並べ替え、フィルタ処理、統計関数・論理関数)
8. 総合問題 (前半)
- 9-11. データ分析 (グラフの作成、ピボット

受講要件 本講義はパソコンの基礎的な操作から各種ソフトウェアの基礎的な利用方法について習得している学生を対象としている。事前アンケートにおいて基礎編の履修が望ましいと考えられる学生においては、本講義の履修が認められない場合もある。

教科書 特になし。

参考書 適宜、指示する。

成績評価方法と基準 出席20%、課題80%。

その他 前期の情報科学基礎Ⅱ(応用編)と同一内容となっている。また、情報科学基礎Ⅰ、Ⅱの2つ(合計4単位)を履修しても卒業要件として認められる単位は2単位までである点に留意されたい。

- テーブルの活用)
12. 図形描画と文章への挿入
 - 13-14. プレゼンテーションへの応用 (Word, Power Pointへの展開)
 15. 総合問題 (後半)

学習課題(予習・復習)

基本的な操作方法についてテキスト等で予習復習を行うこと。
各回の課題について講義時間内に提出ができない場合には次回までに完成させること。

計算機基礎 I 及び演習

Introduction to Computer Engineering I and Exercise

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 1.5 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習, 実習 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 鶴岡 信治 (工学部 電気電子工学科)

授業の概要 コンピュータリテラシー（ワープロによるレポート作成、パワーポイントによるプレゼンテーション用スライド作成）、コンピュータの基礎（ハードウェア、ソフトウェア、インターネット）について、学生がグループで能動学習（調査、テーマの立案、構成、図表の作成、スライドの作成、発表）し、プレゼンテーションとレポート作成を体験する授業科目です。前半は通常の講義とコンピュータ実習ですが、後半はグループ討論を含む教材作成型プロジェクトベース学習（Project Based Learning）です。

学習の目的

(1) ワードプロソフト (Word)を使用して各自で調査した内容を、図表を使用し、レポートとしてまとめ、論理的な表現ができるようになる。

(2) パワーポイントを使用して、図表を使用し、ストーリー性を持ったプレゼンテーション資料を作成できるようになる。

(3) コンピュータの入門知識を自己学習とグループ討論により獲得し、他人に説明できるようになる。

学習の到達目標

(1) ワードプロソフト (Word)を使用してレポートを作成できるようになる。

(2) パワーポイントを使用して、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。

(3) コンピュータの入門知識を自己学習とグループ討論により獲得した結果を発表会で説

明する。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 電気電子工学科の専門教育科目すべて

教科書

(1) 高橋麻奈、やさしい基本情報技術者講座、ソフトバンククリエイティブ株式会社

(2) 三重大学共通教育センター、大学生のためのレポート作成ハンドブック

成績評価方法と基準 レポート30%、グループ発表に関する学生全員による評価30%、グループ内メンバーによる学習活動評価20%、期末試験20%の合計が60%以上で合格

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00, その他の時間はメールにより、連絡して下さい。

授業改善への工夫 学生が能動学習の習慣を身に付ける。

その他 グループのメンバーに迷惑がかかるので、欠席しないようにして下さい。

授業計画・学習の内容

キーワード

- 1.統一アカウント, TOEIC自習システム, ウェブシラバス, ユニパ, モバ情, 飲食厳禁, 学習目的のみでの利用
- 2.OPAC, 三重大OPAC, WebcatPlus, NACSIC-Webcat
- 3.序論, 本論, 結論, アウトライン, 出典, 参

考文献

- 4.情報の表現方法, 情報倫理
- 5.ハードウェア, ソフトウェア, 2進数
- 6.URL, HTML, HTTP, World Wide Web, Web, WWW, TCP/IP, サーバアンドクライアント
- 7.余白, センタリング, フォント, 箇条書き,

文体、出典

- 8.起承転結、図表の作成方法
- 9.文字のフォント・サイズ・色、表の作成、図の作成、画像、レイアウト
- 10.ストーリー、統一デザイン、統一用語
- 11.スライドの構成、ストーリー性、統一表記
- 12.発表態度、発声、アイコンタクト、礼儀
- 13.発表態度、発声、アイコンタクト、礼儀
- 14.発表態度、発声、アイコンタクト、礼儀
- 15.時間内に全問解答して下さい。
- 16.論理的な展開、理解しやすい表現

学習内容

- 1.総合情報処理センターの利用方法、Moodleの利用方法: ●総合情報処理センターの利用するときの注意事項・禁止事項
●統一アカウント、Moodle (eラーニングシステム)、TOEIC自習システム(英語IプレTOEICで自習を義務付け)、ユニバ(Univarsl Passport, 履修申告)の説明
- 2.情報検索講習会(附属図書館): ●情報検索の基本知識・注意事項の説明および演習
●蔵書検索システム(三重大OPAC, Webcat-Plus, など)の使い方の説明および演習
- 3.レポートの書き方入門講習会(附属図書館): ●レポートの構造
●出典の書き方
- 4.情報の表現方法(10進数と2進数、文字コード)、情報倫理の理解: ◇コンピュータのしくみ(プログラミングを学ぶときに必要なデータの表現方法)を理解する。
◇コンピュータリテラシ(および情報フルエンシー)に関する調査報告の課題を通じての情報収集・資料作成能力、ワープロによる文書作成の能力を身につける。
●情報倫理
- 5.コンピュータでの計算のしくみとグループ学習の課題の説明: ●計算する機械としての計算機
●身の回りで使われている計算機技術
●計算機の原理(2進数による計算)
- 6.インターネットのしくみ: ●インターネット(Internet)概念の説明
●URL(Universl Resource Locator)インターネットで用いるアドレス
●World Wide Web(Web, WWW)概念の説明
●HTML(Hyper-Text Markup Language) Web

ページの記述言語

- 7.ワープロを使用した演習と清書課題の説明:
●ワープロ文書の清書わざと書式を見だしたワープロ文書を清書することを通じてワープロの機能の使い方、および、ビジネス文書としての適切な書式を学びます。
- 8.ワープロを使用した報告書初版の作成と編集: ●コンピュータに関する調査報告のまとめとして報告書を作成します。
- 9.パワーポイントの資料の作成方法の演習: パワーポイントの資料の作成
- 10.グループでパワーポイントの資料を討論し、発表用スライド(初版8枚)の作成: グループでパワーポイントの資料を討論し、発表用スライド(初版8枚)の作成
- 11.グループでパワーポイントの資料を討論し、発表用スライドの作成(2回目): グループでパワーポイントの資料を討論し、発表用スライド(修正版8枚)の作成
- 12.グループで作成したスライドの発表会(1回目): グループでの発表会(1回目): 発表態度、評価、省察
- 13.グループで作成したスライドの発表会(2回目): グループでの発表会(2回目): 発表態度、評価、省察
- 14.グループで作成したスライドの発表会(3回目): グループでの発表会(3回目): 発表態度、評価、省察
- 15.期末試験(学習内容の発見とスライドでの表現方法): 期末試験問題に取り組み、解答を記入して下さい。
- 16.完成版レポートの作成: 完成版レポートの作成

学習課題(予習・復習)

- 1.●この科目では半期にわたって、コンピュータ(計算機)に関する調査報告の課題を実施します。課題の詳細については授業のとき、および、Moodleを使って連絡します。いくつかの作業はグループを作って実施します。報告書は各自が作成します。
- 2.各自でOPACを使用し、複数人の三重大大学の教員の論文や書籍を検索し、検索した感想を100文字から200文字にまとめ、Moodleに提出して下さい。
- 3.学習した内容の要約を200文字から300文字にまとめ、Moodleに提出して下さい。
- 4.●「INFOSS情報倫理」のテキストの内容に

関する小テストを何回かに分けて実施します。授業実施時に公開する小テストのスケジュールに従って「INFOSS情報倫理」のテキストを自習してください。

●計算機科学・情報科学の分野ではカタカナ語や略語が多く用いられます。カタカナ語の英語表記、略語のフルネーム（英語表記）をこの機会に覚えてください。

5.●計算機科学・情報科学の分野ではカタカナ語や略語が多く用いられます。カタカナ語の英語表記、略語のフルネーム（英語表記）をこの機会に覚えてください。

6.●計算機科学・情報科学の分野ではカタカナ語や略語が多く用いられます。カタカナ語の英語表記、略語のフルネーム（英語表記）をこの機会に覚えてください。

7.●この演習までに十分に教科書のグループでの担当箇所に関して自主的に調査・考察および班活動を行い、調査した内容をレポートの

下書きとして作成し、Moodleに提出して下さい。

8.図表を各自で作成し、レポートに追加し、Moodleに提出して下さい。

9.各自でパワーポイントのスライドを、起承転結に従って4枚作成し、Moodleに提出して下さい。

10.グループでパワーポイントの発表用スライドを作成し、Moodleに提出して下さい。

11.発表用スライド（修正版8枚）の作成し、Moodleに提出して下さい。

12.発表用スライド（完成版8枚）の作成し、Moodleに提出して下さい。

13.発表練習

14.予習：発表練習

15.

16.完成版レポートを作成し、Moodle2に提出して下さい。

計算機基礎 II 及び演習

Introduction to Computer Engineering II and Exercise

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 1.5 対象 工学部電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 2年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 森 香津夫 (工学研究科電気電子工学専攻)

授業の概要 コンピュータのしくみをハードウェア面から理解するための論理代数・論理回路について学習する。また、情報科学の基礎知識としての情報数学を学ぶ。これにより、計算機及び情報処理に関する内容の理解を深め、今後この分野を学習していくための基礎的な素養をつくる。

学習の目的 コンピュータのハードウェア的な基礎知識と、論理代数・論理回路の基礎知識を得ることを目的とする。

学習の到達目標 論理代数・論理回路の基礎知識を修得して、簡単な組合せ論理回路と順序回路を設計できるようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

予め履修が望ましい科目 計算機基礎 I 及び演習

発展科目 計算機工学 I・II, アルゴリズムとデータ構造, プログラミング演習 II

教科書 論理回路入門 第2版 (浜辺隆二著, 森北出版)

参考書 図解コンピュータ概論-ハードウェア (橋本洋志ほか著, オーム社), 論理回路の基礎 (田丸啓吉, 工学図書), 論理設計・

スイッチング回路理論 (笹尾勤, 近代科学社), 論理回路とオートマトン (稲垣康善編, オーム社), 工学のための離散数学 (黒澤馨, 数理工学社)

成績評価方法と基準

出席は必要条件であり、8割以上の講義に出席した者を単位授与の対象者とする。

評価は、課題・演習(30点)、期末試験(70点)の合計100点で行い、合計点数/10を四捨五入して最終成績とし、最終成績6以上を合格とする。

ただし、課題・演習が未提出の場合はその回数に応じて減点する。

オフィスアワー

毎週金曜 17:00 - 18:00、場所：第一合同棟3階 7306号室

可能であれば事前に下記電子メールに質問事項等を連絡してください。

電子メールアドレス：kmori@elec.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 課題・演習により、きめ細かなチェックとフィードバックを行って、理解程度の把握と向上に努める。また、Moodleにより授業資料を公開し、学生の自主的勉強の便宜を図る。

その他 課題・演習のためのノートを1冊、受講者で用意すること。

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータのしくみ, 情報数学, 論理回路

Key Word(s) Computer architecture, information mathematics, logic circuits

学習内容

第1回(講義) 序論：アナログとデジタル, 数体系

第2回(講義) 論理関数(1): 基本論理演算

第3回(講義) 論理関数(2): 論理関数の標準形と

真理値表

第4回(演習) 第1～3回までの演習(数体系, 論理関数) [終了後提出]

第5回(講義) 論理関数の簡単化(1): カルノー図による簡単化

第6回(講義) 論理関数の簡単化(2): QM法による簡単化

第7回(演習) 第5, 6回までの演習(論理関数の簡単化) [終了後提出]

第8回(講義) 組み合わせ回路(1): 組み合わせ回

路の構成

第9回(講義) 組み合わせ回路(2): 組み合わせ回路の実例

第10回(講義) 組み合わせ回路(3): 組み合わせ回路の設計

第11回(演習) 第8～11回までの演習(組み合わせ回路) [終了後提出]

第12回(講義) 順序回路(1): 順序回路の構成, 状態遷移

第13回(講義) 順序回路(2): フリップフロップ(FF)

第14回(講義) 順序回路(3): 順序回路の設計

第15回(演習) 第12～15回までの演習(順序回路) [終了後提出]

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習)

第1回: (予習)教科書1章の事前学習, (復習)教科書1章の演習問題[次週に提出]

第2回: (予習)教科書2.1章の事前学習, (復習)教科書2章の演習問題[次週に提出]

第3回: (予習)教科書2.2章の事前学習, (復習)教科書2章の演習問題[次週に提出]

第4回: (予習)教科書1, 2章の復習, (復習)演習

課題

第5回: (予習)教科書3.1～3.4章の事前学習, (復習)教科書3章の演習問題[次週に提出]

第6回: (予習)教科書3.5, 3.6章の事前学習, (復習)教科書3章の演習問題[次週に提出]

第7回: (予習)教科書3章の復習, (復習)演習課題

第8回: (予習)教科書4.1～4.2章の事前学習, (復習)教科書4章の演習問題[次週に提出]

第9回: (予習)教科書4.3章の事前学習, (復習)教科書4章の演習問題[次週に提出]

第10回: (予習)教科書4.4～4.7章の事前学習, (復習)教科書4章の演習問題[次週に提出]

第11回: (予習)教科書4章の復習, (復習)演習課題

第12回: (予習)教科書5.1, 5.2章の事前学習, (復習)教科書5章の演習問題[次週に提出]

第13回: (予習)教科書5.3章の事前学習, (復習)教科書5章の演習問題[次週に提出]

第14回: (予習)教科書5.4章の事前学習, (復習)教科書5章の演習問題[次週に提出]

第15回: (予習)教科書5章の復習, (復習)演習課題

建築情報処理基礎

Fundamental Computer Science for Architecture

学期 後期 開講時間 火1,2 単位 2 対象 工学部建築学科 年次 学部(学士課程): 1年次

授業の方法 講義

担当教員 大月淳(工学部), ○松浦 健治郎(工学部), 毛利志保(工学部)

授業の概要 模型制作やCADの操作方法の理解により, 専門教育科目の受講に際して必要とされる建築物の立体構成の把握や建築図面の作成のための情報処理技術の習得を目指す。

学習の目的 建築設計の模型制作技能を習得すること, CADによる図面作成のための情報機器の操作方法を理解し, 問題解決の場面で適切に利用できるようになることを目的とする

学習の到達目標 情報機器を用いて, 建築図面の作成及び3次元モデリングができることを到達目標とする。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 建築図学

発展科目 建築設計製図I、建築設計製図II、建築設計製図III、建築設計製図IV、建築企画設計

教科書 講義中にプリントを配布する

成績評価方法と基準 授業中に課す課題によって評価する。100点を満点として点数/10を切り上げて最終成績とし、最終成績6以上を合格とする。

オフィスアワー メールにて随時、受け付ける(otsuki, matsuura, mouriの後に@arch.mie-u.ac.jp)。

授業改善への工夫

- ・TAの有効活用
- ・学生の理解度の応じた講義内容の変更

その他 入学時に配布された統一アカウント(ID, パスワード)が必要です

授業計画・学習の内容

キーワード 情報処理、模型制作、CAD

学習内容

1. 模型制作(1)課題説明
2. 同(2)エスキスその1
3. 同(3)エスキスその2
4. 同(4)講評
5. CADによる建築図面の作成(1) CADの操作に慣れる, 簡単な図形の作成
6. 同(2)簡単な建築図の作図その1
7. 同(3)簡単な建築図の作図その2
8. 同(4)簡単な建築図の作図その3
9. 同(5)簡単な立体形の3次元モデリングその1
10. 同(6)簡単な立体形の3次元モデリングその2
11. 同(7)小さな建築物の3次元モデリングその1

12. 同(8)小さな建築物の3次元モデリングその2
13. 同(9)小さな建築物の3次元モデリングその3
14. 同(10)プレゼンテーション・デザインの技法
15. 同(11)全体講評

学習課題(予習・復習)

講義中に以下の演習課題を課す。

1. 模型制作では、住宅スケールの小さな建築物の模型をS=1/50等で制作する。
2. CADによる建築図面の作成では、1)簡単な図形の作図、2)簡単な建築図の作図、3)簡単な立体形の作図、4)小さな建築物の3次元モデリングの制作、を行う。

情報科学基礎及び初級プログラミング演習

Computer Programming Fundamentals and Exercise

学期 前期 開講時間 水 1, 2, 3, 4 単位 3 対象 工学部情報工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 若林 哲史, 西野 隆典, ○大山 航, 森 純一 (工学部情報工学科)

授業の概要

1. C言語によるプログラミングの実践を通して、プログラムの基本、プログラミング技法、計算機プログラミングにおける基本的かつ重要なアルゴリズムを学ぶ。
2. 情報工学科で学ぶ上で必要な計算機の使い方を学ぶ。UNIXシステム上のコマンド操作になれる。
3. 三重大学の提供する情報サービスの使い方を理解する。

学習の目的

1. 今後、情報工学科で学ぶ専門教科、演習や実験、卒業研究のための基礎となるプログラミングに関する知識と基本的な技術を身につける。
2. プログラミングで用いる基本的なデータ構造とアルゴリズムについて理解する。
3. 三重大学が提供する情報ネットワークサービスについて正しく利用できる。

学習の到達目標

1. C言語を用いて簡単なプログラムを自作できる。
3. 情報工学科電算演習室で用いるUNIXシステムで、主に、
 - A. コマンドによるファイル操作
 - B. エディタやコンパイラなど、プログラム開発に必要なソフトウェアの活用
 - C. ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの操作・活用 (自習による)をできるようにする。
3. 電算演習室で電子メールやWebブラウジングなどのインターネット活用ができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

受講要件 第1回目の授業では、成績評価と単位認定に関する重要なガイダンスを実施するので、再履修生を含め全ての受講生が必ず出席すること。

発展科目

中級プログラミング及び演習,
上級プログラミング演習I,
上級プログラミング演習II,
計算機言語論

教科書

1. 『ゼロからわかる UNIX 基礎講座～はじめてでも安心して学べる』, 中井 獏 著, 技術評論社, ISBN 978-4-7741-3980-7, 2009
2. 『新版 明解C言語 入門編』, 柴田 望洋 著, ソフトバンクパブリッシング, ISBN 4797327928, 2004.

成績評価方法と基準

1. 全体成績
全体成績は試験成績 (50点満点) と演習成績 (50点満点) との和を評点換算 (10点満点) したものとする。
2. 試験成績
中間試験 (6月) と期末試験 (7月) との素点合計。50点満点とする。
講義の欠席が4回以上の受講生には、期末試験の受験を認めない。
講義の遅刻 (出席確認時に不在だった場合)、途中退席は0.5回の欠席とする。
期末試験の得点率 (期末試験の得点/期末試験の満点) が0.2未満となった場合は試験成績は0点とする。
3. 演習成績
演習成績は以下の基準により算出する
演習成績 = 演習素点 - 欠席ポイント
演習素点は、
毎週の確認テストの点数 (10点×10回) の和 S
第3週目以降の基本課題の点数 (10点×10回) の和 K
第4週目以降の応用課題の点数 (5点×8回) の和 A
「自由演習」の成績の和 α
とし、以下の式で算出する。
演習素点 = $0.1 \times S + 0.3 \times K + 0.375 \times A + \alpha$

すなわち演習素点中の配点は、確認テスト10点、基本課題30点、応用課題15点である。欠席ポイントは以下の通りとする。ここでの「欠席」とは、演習開講時限（水曜2-3限または水曜1-4限）に、電算演習室の計算機にログインしていた時間が開講時間の9割（90分演習の場合には80分、180分演習の場合は160分）に満たない場合をいう（第1回演習は除く）。図書館と総合情報処理センター提供のセミナー（6月）もそれぞれ90分演習として扱う。5月、6月に複数回の開催が予定されている情報工学科ホームルームへの出席を、本科目の演習1回（7月21日1-2限）の出席として認定す

る（1年生のみ）。演習の欠席ポイント
0回 0
1回 5
2回 15
3回 30
4回 50
5回以上 10ずつ増加
演習成績の上限値、下限値はそれぞれ50点、0点とする。

オフィスアワー 毎週火曜日10:30～12:00、場所6501号室（工学部第2合同棟）

授業計画・学習の内容

キーワード 計算機リテラシ、C言語プログラミング、UNIXの使い方

Key Word(s) Computer literacy, Programming language C, UNIX operating

学習内容

計算機の構造、プログラムのコンパイルと実行などを説明した後、C言語の仕様の各部分を順を追って講義する。また、演習を通して、UNIXの基本操作、メール、C言語の記号や記述の仕方に慣れる。

第1回 ログイン/ログアウト、ファイルの基本操作

第2回 ファイルの編集、メールの送受信

第3回 計算機の構成要素/基本動作

第4回 演算と型

第5回 プログラムの流れの分岐

第6回 プログラムの流れの繰返し

第7回 配列

第8回 情報検索講習会（図書館） 中間試験

第9回 レポートの書き方講習会（図書館） 情報倫理（総情センター）

第10回 関数（その1）

第11回 関数（その2）

第12回 ポインタ

第13回 構造体

第14回 ファイル入出力

第15回 自由演習課題

第16回 定期試験

詳細は第1回の講義時に説明する。

計算機基礎

Introduction to Computer

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 理工学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 小林 正(工学部)

授業の概要 様々なアプリケーションソフトを通じて、パソコンでどのようなことができるのかを知る。また、パソコンのハードの仕組みを理解し、データのバックアップの方法を知る。さらに、情報倫理についても学ぶ。最後に、情報における省資源・省エネルギーについて考える。

学習の目的 パソコンを使わないと不可能な情報処理ができるようになる。数式処理ソフトを使って、科学的な分析ができるようになる。パソコンの故障に対応できるようになる。また、情報倫理を身に付けることができる。

学習の到達目標 パソコンを使ってレポートや卒業論文を書くことができるようになる。数式処理ソフトを使って、テイラー展開やフーリエ級数などの概念を視覚的に理解することができるようになる。パソコンをハード的、ソフト的に安全に使えるようになる。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション

授業計画・学習の内容

キーワード パソコンのソフトとハードの基礎と応用

学習内容

1. 情報リテラシー
2. 基本操作, 文字の種類と入力, 電子メールの使い方(1)
3. 電子メールの使い方(2)
4. 書籍検索の方法
5. 数式処理ソフト(1)
6. 数式処理ソフト(2)
7. 数式処理ソフト(3)
8. 数式処理ソフト(4)
9. 数式処理ソフト(5)
10. レポート・論文の表, グラフの作り方
11. レポート・論文の図の作り方
12. ワードプロソフトを使ったレポート・論文の書き方
13. ハードの仕組みとデータのバックアップ

ン, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 計算機言語(専門教育科目)

教科書 なし

参考書 なし

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 毎週火曜日16:10~17:30, 場所 第2合同棟(理工学科棟)3階6304室。電子メールによる質問も可能です。E-mail: kobayasi(アットマーク)phen.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 学習課題レポートを課します。

その他 出席の代筆が見つかったら、単位の取得が難しくなる。

14. 情報倫理
15. 情報における省資源・省エネルギー
16. 定期試験

学習課題(予習・復習)

- ・課題: 授業で学習した内容を使って、何か作品を作ってください。Mathematicaを使った計算, Excelを使った計算等, 何でもいいです。コンピューターを利用することに意味がある作品にしてください。すなわち, コンピューターを使わないとできないような, あるいは困難な作品にしてください。
- ・条件: 総合情報処理センターのパソコン, すなわち計算機基礎の授業で使っていますパソコンで, 作品を見ることができると。
- ・提出方法, 締切については, 授業で説明します。

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 火 7, 8 単位 2 対象 教育学部、数学・情報 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 露峰 茂明 (教育学部)

授業の概要 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

課題探求力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

受講要件 クラス指定。教育学部数学教育・情報教育コース

学習の到達目標 線形代数は数学のあらゆる分野に現れて重要な役を務めるが、そのときに対応できる力を身につける。

教科書 授業開始前に指定する。

成績評価方法と基準 期末試験

本学教育目標との関連 感性, 論理的思考力,

オフィスアワー 水曜日 12:00 ~ 13:00 教育学部4階代数学代二研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列, 行列式, ベクトル, 線形空間, 線形写像

学習内容

- 1.行列の定義と基本演算 (第1回~第2回)
- 2.行列の基本変形と, 基本行列 (第3回~第4回)

- 3.行列の階数 (第5回~第7回)
- 4.掃きだし法による逆行列の計算 (第8回~第10回)
- 5.行列式の定義とその性質 (第11回~第14回)
- 6.定期試験 (第15回)

基礎線形代数学I

Linear algebra I

学期 前期 **開講時間** 月 3, 4, 7, 8 **単位** 2 **対象** 工学部電気電子 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義
担当教員 新田貴士 (教育学部)

授業の概要 行列と行列式につき学習する。

線形代数(改訂改題) 著者: 矢野健太郎、石原繁: 裳華房

学習の目的 行列と行列式につき理論、応用ができること。

問題集線形代数 著者: 矢野健太郎、石原繁: 裳華房

学習の到達目標 行列と行列式につき理論、応用ができること。

成績評価方法と基準 レポート、試験で総合的に判断する。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

オフィスアワー 月曜日12:00-13:00、教育学部1号館・新田研究室

教科書

授業改善への工夫 予習、復習の内容をを各回到指示する。

授業計画・学習の内容

キーワード 行列、基本変形、連立1次方程式、逆行列

5回~8回 連立1次方程式、逆行列
9回~15回 置換、行列式、応用

学習内容
1回~4回 行列、基本変形

学習課題(予習・復習) 各回の講義で通知する。

基礎線形代数学 II

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工1C (1~50) 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 大貫 洋介 (非常勤講師)

授業の概要

線形代数学の基礎である行列の取り扱い方について学ぶ。

また、線形空間、基底、線形写像などの抽象的な概念について学ぶ。

学習の目的

固有値・固有ベクトル、行列の対角化などの行列に関する性質を理解すること。

また、それらの関連を理解し、行列や二次形式などの問題解決に応用する力を身に付ける。

学習の到達目標 固有値・固有ベクトル、行列の対角化を理解し、これらを応用できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解

決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「クラス指定」工1C(1~50)

教科書 「線形代数学入門」 培風館 山形邦夫・和田俱幸 共著 (定価1, 800円+税)

参考書 「線形代数キャンパス・ゼミ」 マゼマ出版 馬場敬之、高杉豊 共著 (定価2, 310円)

成績評価方法と基準 中間試験・期末試験 80%、小テスト 10%、授業において課す課題 10%

授業改善への工夫 毎回、出席の代わりに課す課題プリントにおいて授業の理解度を確認しながら講義を進める。

授業計画・学習の内容

キーワード 線形空間、一次独立、一次従属、固有値、固有ベクトル、行列の対角化、二次形式

学習内容

- 1回 線形空間の基底
- 2回 線形写像と表現行列
- 3回 標準基底に関する表現行列
- 4回 固有値、固有ベクトル
- 5回 行列の対角化
- 6回 行列の対角化に関する応用 (行列のべきへの応用)
- 7回 行列の対角化に関する応用 (漸化式、微分方程式への応用)

- 8回 中間試験
- 9回 内積と内積空間
- 10回 正規直交基底とグラム・シュミットの直交化法
- 11回 線形空間における基底の取り換え
- 12回 直交変換と直交行列
- 13回 実対称行列の対角化
- 14回 二次形式とその標準形
- 15回 二次関数と実対称行列の対角化の応用
- 16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 授業時間内に十分な演習時間を確保することは困難なので、各自十分な復習の時間をとること。

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 火1,2 単位 2 対象 工学部・分子素材工学科1年(51-) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 森山 貴之 (教育学部)

授業の概要

行列を階数の観点から解説する。その応用として、一般の連立1次方程式の解法や行列の正則性の判定を解説する。

つぎに行列式を解説する。その応用として、行列の正則性の判定を行なう。つまり行列の階数と行列式の解説、およびそれらの活用がこの講義の概要である。

学習の目的

行列の階数の求め方を学び、その応用として一般の連立1次方程式を解けるようになる。さらに行列の正則性を判定できるようになる。つぎに行列式を学び、その応用として行列の正則性を判定できるようになる。つまり階数と行列式を学び、そして活用できるようになることが受講生の学習の目的になる。

学習の到達目標 行列の階数を正しく求めることが出来るようになり、その応用として、一般の連立1次方程式を正しく解いたり、行列の正則性を正しく判定したりすることができ

るようになることが学習の到達目標になる。また行列式の性質を正しく理解し、その値を求めることができるようになることも学習の到達目標になる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 工学部 分子素材工学科1年生(51-)クラス指定

発展科目 基礎線形代数学 II

教科書 「入門 線形代数」(三宅 敏恒著、培風館)

成績評価方法と基準 期末試験の結果のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00~13:00, 教育学部一号棟4階 研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列、連立一次方程式、行列式

Key Word(s) Matrix, system of linear equations, determinant

学習内容

1. 行列の定義と演算 (第1回~第2回)
2. 行列の基本変形と階数 (第3回~第5回)
3. 正則行列と逆行列 (第6回~第7回)
4. 連立一次方程式 (第8回~第10回)

5. 行列式の定義とその性質 (第11回~第15回)

6. 定期試験 (第16回)

ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

学習課題 (予習・復習)

十分に予習、復習をしてから受講すること。教科書の練習問題を解いて理解を確かめること。

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 鈴木 秀智(工学部)

授業の概要 線形代数の基礎であるベクトル, 行列および行列式の取り扱い方を学び, さらに, ベクトル空間の概念について学習する.

学習の目的 線形代数学に関する基礎的な事項を習得し, 専門教育科目などの内容理解や問題解決に応用できる知識を身に付ける.

学習の到達目標 線形代数学において基本となるベクトル, 行列および行列式の意味を理解し, 連立一次方程式の計算などに応用できるようにする. また, ベクトル空間, 基底, 線形写像などについて説明できるようにする. さらに, 専門教育科目などの理解に利用できるようにする.

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 基礎線形代数学 II

教科書

教科書:

『テキスト線形代数』小寺平治著 共立出版

参考書

参考書: (購入は任意)

『すぐわかる線形代数』石村園子 東京図書

『線形代数学』川久保勝夫 日本評論社

『工科のための数理2 工科のための線形代数』

吉村善一 数理工学社

『線形代数入門』齋藤正彦 東京大学出版会

成績評価方法と基準 講義に10回以上出席したとき, 期末試験の受験資格を与える. 演習など20%, 期末試験80% (合計100%) を10点満点で評価し, 6点以上を合格とする. 最初の授業で詳細を説明する.

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00, 情報工学科棟5308室.

授業改善への工夫 レポートの課題達成度などを元に, 講義方法や問題演習量などを改善する.

その他 情報工学科の学生の履修申告者数が90名を超えた場合には, 受講者は情報工学科の学生だけとする.

授業計画・学習の内容

キーワード ベクトル, 行列, 行列式, 連立一次方程式, ベクトル空間, 基底, 線形写像

Key Word(s) vector, matrix, determinant, simultaneous linear equations, vector space, basis, linear mapping

学習内容

1. 行列とその演算(第1回~第3回)

ベクトル, 行列, 行列の乗法・除法

2. 行列の基本変形(第4回~第7回)

基本変形, ベクトルの一次独立性, 階数, 連立一次方程式, 逆行列

3. 行列式(第8回~第11回)

面積・体積と行列式, 行列式の基本性質, 積の行列式, 逆行列の公式, クラメルの公式

4. ベクトル空間と線形写像 (第12回~第15回)

ベクトル空間, 基底と次元, 線形写像

5. 定期試験(第16回)

後期開講の「基礎線形代数学II」と連続しているので, 受講者の習熟度などによって, 学習内容を多少変更する場合がある.

学習課題 (予習・復習) 授業の前に教科書を読んでおくこと. 各章末の演習問題を各自で解くこと. 授業後, Moodleなどで復習事項を提示するので, 各自で実施すること.

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 対象 工学部物理工学科1年生クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 川向 洋之 (教育学部)

授業の概要 線形代数学の基礎理論の習得.

学習の目的 線形代数学を通じて, 思考力, 計算力, 応用力のレベルをあげる.

学習の到達目標 線形代数学を通じて, 思考力, 計算力, 応用力のレベルをあげる.

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

教科書 教科書: 後日指定する.

成績評価方法と基準 (基本的に) 期末試験で判断する. なお, いつも遅刻や欠席をしたり, レポートを出さなかったり, 授業中に関係のないこと (例えばスマートフォンの操作や, 睡眠) などをしている場合, テストが良くても単位を出さないことがある.

オフィスアワー 水曜日 12:00~13:00 教育学部
4階解析学第3研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 線形代数学の基礎

学習内容

1. 行列の定義と基本演算 (第1回~第2回)
2. 行列の基本変形と, 基本行列 (第3回~第4回)

3. 行列の階数 (第5回~第7回)
4. 掃きだし法による逆行列の計算 (第8回~第10回)
5. 行列式の定義とその性質 (第11回~第15回)
6. 定期試験 (第16回)

基礎線形代数学 II

Linear Algebra II

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** この科目を再履修する学生のみ、受講できる。 **年次**

学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義

担当教員 大貫 洋介 (非常勤講師)

授業の概要 線形代数学の線形空間、固有値、固有ベクトルとその応用を説明する。

学習の目的 線形空間、固有値、固有ベクトルとその応用を理解する。

学習の到達目標 線形空間、固有値、固有ベクトルを理解し、応用することが出来る。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 討論・対話力

受講要件 この科目を再履修する学生のみ、受講できる。

教科書 追って指示する

成績評価方法と基準 中間試験・期末試験 70%、小テスト 10%、授業において課す課題 20%

その他 開講学期は、前期です。注意してください。

授業計画・学習の内容

キーワード 線形空間、一次独立、一次従属、固有値、固有ベクトル、行列の対角化、二次形式

学習内容

第1回～第3回 線形空間、ベクトルの一次独立と一次従属

第4回～第5回 1次独立なベクトルの最大個数、線形空間の基と次元

第6回～第8回 線形写像とその表現行列

第9回～第11回 固有値と固有ベクトル、行列の対角化

第13回～第15回 内積、正規直交化と直交行列、対称行列の対角化とその応用

第16回 期末試験

ただし、これは予定であり、受講生の状況などにより多少の変更を行なうことがある。

基礎線形代数学 II

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 火 7, 8 単位 2 対象 教育学部、数学・情報 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 露峰 茂明 (教育学部)

授業の概要 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

学習の目的 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

学習の到達目標 線形代数は数学のあらゆる分野に現れて重要な役を務めるが、そのときに対応できる力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 専門知識・技術,

論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 クラス指定. 教育学部数学教育・情報教育コース

予め履修が望ましい科目 基礎線形代数学 I

成績評価方法と基準 期末試験

オフィスアワー 水曜日 12:00 ~ 13:00 教育学部4階代数学代二研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列, 行列式, ベクトル, 線形空間, 線形写像, 線形変換

学習内容

1. 行列の定義と基本演算 (第1回~第2回)
2. 行列の基本変形と, 基本行列 (第3回~第4回)

3. 行列の階数 (第5回~第7回)
4. 掃きだし法による逆行列の計算 (第8回~第10回)
5. 行列式の定義とその性質 (第11回~第14回)
6. 定期試験 (第15回)

基礎線形代数学II

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 月 3, 4, 7, 8 単位 2 対象 工学部電気電子 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 新田貴士 (教育学部)

授業の概要 線形空間と対角化につき学習する。

学習の目的 線形空間と対角化につき理論、応用ができること。

学習の到達目標 線形空間と対角化につき理論、応用ができること。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

教科書

線形代数(改訂改題) 著者: 矢野健太郎、石原繁: 裳華房

問題集線形代数 著者: 矢野健太郎、石原繁: 裳華房

成績評価方法と基準 レポート、試験で総合的に判断する。

オフィスアワー 月曜日12:00-13:00、教育学部1号館・新田研究室

授業改善への工夫 予習、復習の内容をを各回に指示する。

授業計画・学習の内容

キーワード 線形空間、対角化

13回から15回、いろいろな応用

学習内容

1回から7回、線形空間
8回から12回、対角化

学習課題(予習・復習) 各回の講義で通知する。

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工1C (1~50) 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 大貫 洋介 (非常勤講師)

授業の概要

線形代数学の基礎である行列の取り扱い方について学ぶ。

また、線形空間、ベクトルの一次独立・一次従属の抽象的な概念について学ぶ。

学習の目的

行列式や行列の基本変形などの行列に関する性質を理解すること。

また、それらの関連を理解し、様々な問題解決に応用する力を身に付ける。

学習の到達目標 行列式、行列の基本変形に関する基礎的な知識が身に付き、これらを利用し問題を解決できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解

決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「クラス指定」工1C(1~50)

教科書 「線形代数学入門」 培風館 山形邦夫・和田俱幸 共著 (定価1, 800円+税)

参考書 「線形代数キャンパス・ゼミ」 マゼマ出版 馬場敬之、高杉豊 共著 (定価2, 310円)

成績評価方法と基準 中間試験・期末試験 80%、小テスト 10%、授業において課す課題 10%

授業改善への工夫 毎回、出席の代わりに課す課題プリントにおいて授業の理解度を確認しながら講義を進める。

授業計画・学習の内容

キーワード ベクトル、行列、行列式、行列の掃き出し法

学習内容

- 1回 ベクトルと行列の演算
- 2回 行列の基本変形と連立一次方程式
- 3回 連立一次方程式の解の自由度
- 4回 階数と連立一次方程式の解
- 5回 行列の基本変形と逆行列
- 6回 置換とその積、偶置換と奇置換
- 7回 行列式の定義とサラスの公式
- 8回 中間試験
- 9回 行列式の性質とこれを用いた計算

- 10回 様々な行列に関する行列式の計算
- 11回 余因子と余因子展開
- 12回 余因子の応用 (逆行列の公式とクラメル
の公式)
- 13回 ベクトルの内積・外積
- 14回 線形空間
- 15回 一次独立・一次従属
- 16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 授業時間内に十分な演習時間を確保することは困難なので、各自十分な復習の時間をとること。

基礎線形代数Ⅱ

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 工学部・分子素材工学科1年(51-) 年次 学部(学士課程):
1年次 選^必必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 森山 貴之 (教育学部)

授業の概要 「基礎線形代数I」に続き、線形代数の基礎的概念に触れ、数学的考え方を身につける。

学習の目的

1次独立性の観点に重点をおいてベクトルの性質をくわしく学ぶ。関連して、ベクトル空間の次元を理解することが学習目的の一つになる。

さらに行列式の応用として行列の固有値を求めることが出来るようになり、ベクトル空間の次元の応用として行列が対角化可能か判定できるようになることも学習目標になる。

学習の到達目標 ベクトル空間の次元を求めることが出来るようになり、さらに行列を対角化できるようになることが到達目標になる。

授業計画・学習の内容

キーワード ベクトル空間、固有値、対角化

Key Word(s) Vector spaces, eigen values, diagonalization

学習内容

- 1.ベクトル空間の定義 (第1回)
- 2.ベクトルの線形独立性、基底、次元 (第2回～第6回)

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・工学部 分子素材工学科1年生(51-)クラス指定
- ・基礎線形代数Iを履修済みであること

教科書 「入門 線形代数」(三宅 敏恒著、培風館)

成績評価方法と基準 期末試験の結果のほか、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00～13:00, 教育学部一号棟4階 研究室

- 3.内積と正規直交化 (第7回～第8回)
- 4.固有値と固有ベクトル (第9回～第12回)
- 5.行列の対角化 (第13回～第15回)
- 6.定期試験 (第16回)

ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

学習課題(予習・復習) 各回毎に教科書の練習問題を解いて理解を確かめること。

基礎線形代数学II

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 工学部情報工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 成瀬 央(工学部)

授業の概要

基礎線形代数学IIは、情報工学科で学ぶさまざまな専門科目の内容を理解したり、卒業研究や大学院で高度な研究を進める上で重要な役割を果たしたりします。また、将来、研究や開発などの仕事に就いた場合にも必要となってきます。

後期の基礎線形代数学IIは、前期の基礎線形代数学Iに比べ内容は抽象的かつ高度になるので、理解しにくい部分が多くあります。そのため、講義前には必ず予習をしておいてください。講義では基本的な考え方を説明する時間しかありませんので、問題解決の道具として使いこなせるようにするためには、問題演習を各自で行うなどしてください。

学習の目的 学習の目的は、線形空間、線形写像、内積空間、固有値、固有ベクトル、行列の対角化、指数行列、線形微分方程式について学ぶことにより、これらのことについての基礎的な考え方を理解するとともに計算力を身につけることです。

学習の到達目標

線形代数学における以下の内容について理解し計算などができるようになるとともに、それに基づいて専門科目を深く理解できるようになることを目的としています。

- ・線形空間、線形写像
- ・内積空間
- ・固有値、固有ベクトル
- ・行列の対角化
- ・指数行列、線形微分方程式

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、感じる力、考える力、コ

授業計画・学習の内容

キーワード 線形空間、線形写像、内積空間、固有値、固有ベクトル、行列の対角化、2次形式、指数行列、線形微分方程式

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 受講要件は、基礎線形代数学Iを履修済みであることです。

発展科目 電磁気学、情報理論、数値解析、制御工学、情報通信工学などをはじめが、多くの科目が本講義の発展科目となります。

教科書 『テキスト線形代数』小寺平治著 共立出版

参考書

- 『すぐわかる線形代数』石村園子 東京図書
- 『線形代数学』川久保勝夫 日本評論社
- 『工科のための数理2 工科のための線形代数』吉村善一 数理工学社
- 『線形代数入門』齋藤正彦 東京大学出版会

成績評価方法と基準 成績は、中間試験、定期試験の結果、さらにレポートなどの提出物で総合的に評価します。

オフィスアワー 毎週火曜日14:00~15:00、情報工学科棟5302室（事前に連絡をお願いします）

授業改善への工夫 授業での質問、授業評価アンケートを参考に改善を図っています。

その他

- ・履修申告者数が70名を超えた場合には、受講者は情報工学科の学生に限らせていただきます。
- ・情報工学科以外で受講する場合には、必ず事前に連絡し、受講可能か否かを確認してください。
- ・基礎線形代数学Iに比べて内容が抽象的になり理解が難しくなっているので、毎週予習、復習を2~3時間してください。

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ベクトル空間・基底と次元（基礎線形代

数学Ⅰの復習)

第3回 線形写像 (基礎線形代数学Ⅰの復習)

第4回 第1回中間試験 (基礎線形代数学Ⅰの内容)

第5回 線形写像の表現行列

第6回 内積と外積

第7回 固有値と固有ベクトル

第8回 行列の対角化 (1)

第9回 行列の対角化 (2)

第10回 2次形式

第11回 第2回中間試験

第12回 微分方程式

第13回 ベクトル・行列の微分、微分方程式のベクトル・行列による表現、指数行列

第14回 線形微分方程式 (1)

第15回 線形微分方程式 (2)

第16回 定期試験

講義の進捗によって上記内容やスケジュールは適宜変更します。

学習課題 (予習・復習) 基本概念は講義で説明しますが、これまでの講義から、予習なしでは理解がたいへんなようです。特に、高校での学習内容や基礎線形代数学Ⅰの学習内容に対する知識、理解が十分出ない場合には、いっそう困難になっているようです。その場合にはそれらの復習をしておいてください。

基礎線形代数学 II

Linear algebra II

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 対象 工学部物理工学科1年生クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 川向 洋之 (教育学部)

授業の概要 線形代数学の基礎理論の習得.

学習の目的 線形代数学を通じて, 思考力, 計算力, 応用力のレベルをあげる.

学習の到達目標 線形代数学を通じて, 思考力, 計算力, 応用力のレベルをあげる.

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

教科書 教科書: 後日指定する.

成績評価方法と基準 (基本的に) 期末試験で判断する. なお, いつも遅刻や欠席をしたり, レポートを出さなかったり, 授業中に関係のないこと(例えばスマートフォンの操作や, 睡眠)などをしている場合, テストが良くても単位を出さないことがある.

オフィスアワー 水曜日 12:00~13:00 教育学部 4階解析学第3研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 線形代数学の基礎

学習内容

1. 余因子による逆行列の計算 (第1回~第2回)
2. クラメル公式と掃きだし法による連立一次方程式の解法 (第3回~第4回)
3. ベクトル空間の定義 (第5回)

4. ベクトルの一次独立と, 一次従属 (第6回~第8回)
5. ベクトル空間の基底 (第8回~第9回)
6. 固有値と固有ベクトル (第10回~第11回)
7. 行列の対角化 (第12回~第15回)
8. 定期試験 (第16回)

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** この科目を再履修する学生のみ、受講できる。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **担当教員** 大貫 洋介 (非常勤講師)

授業の概要 線形代数学に現れる行列と行列式の基本的性質を説明する。

学習の目的 行列と行列式に関する基本的性質を理解する。

学習の到達目標 行列と行列式を理解し、応用することが出来る。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 討論・対話力

受講要件 この科目を再履修する学生のみ、受講できる。

教科書 追って指示する。

成績評価方法と基準 中間試験・期末試験 70%、小テスト 10%、授業において課す課題 20%

その他 開講学期は、後期です。注意してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ベクトル、行列、行列式、行列の掃き出し法

学習内容

第1回～第3回 行列と数ベクトル、行列の演算、行列と連立1次方程式

第4回～第7回 基本変形とランク、連立1次方程式を解く、逆行列を求める

第8回～第11回 置換と行列式の定義、行列式の性質

第12回～第15回 行列式の余因子展開、余因子行列と逆行列、クラメル公式

第16回 期末試験

ただし、これは予定であり、受講生の状況などにより多少の変更を行なうことがある。

基礎線形代数学

Fundamental Linear Algebra

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 小竹 茂夫 (工学部機械工学科)

授業の概要 線形代数の基礎である行列の取り扱いを学ぶと共にベクトル空間・双対空間・線形変換・固有値の概念とその応用について学ぶ。高校や入門数学で学んだ2行2列の理解を一般の n 次元線形空間に広げる。

学習の目的

ベクトルを利用した空間概念が養われます。行列のベクトル空間での働きが分かります。工学部に必須となる線形空間の概念が養われます。ベクトルや行列を使った計算に慣れることができます。

学習の到達目標

ベクトルや行列の演算を通して、その図形的意味や線形空間の概念を学ぶ。特に線形独立性や行列の階数、固有値とその応用を通して、線形空間の取り扱いに慣れる

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、ベクトルや 2×2 行列の演算について既知であることが望ましい。それらの知識は、機械工学科の学生は「入門数学」の授業で学べる。

予め履修が望ましい科目 特に必修ではないが、工学部機械工学科の学生であれば、入門数学(工学部機械工学科1年前期開講科目)を、他の学生はそれに相当する授業を履修していることが望ましい。しかし、必ずしも必要ではない。

発展科目 量子力学、工業数学1、工業数学2および演習、工業数学3、工業数学4、工業数学5、振動工学、材料力学

教科書 「パワーアップ 線形代数」 大月卓郎, 竹内康博著 共立出版

成績評価方法と基準

Moodleの小テスト(10点満点)を p 点、授業のレポート(10点満点)を q 点、期末試験(80点満点)を r 点とし、 $100 \cdot (p+q+r)/(p+q+80)$ 点を評価点とする。

ただし、出席等の状況も考慮し、総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週月曜日12:20~14:30、場所 工学部機械工学科棟2F 2211号室

授業改善への工夫

毎週、レジュメを配り、授業の参考にしてもらう

メール等により、質問等を受け付ける。

小テストによる正誤問題を始める。

Moodleによる連絡と小テスト、レジュメ、演習問題の解答の配布を始める。

その他

- 授業の連絡はMoodleを通じてメールで配信しますので、Moodleへの登録をお願いします。

- 毎週、レジュメを配ります。なくした人はMoodleに置いてありますのでdownloadしてください。

- 毎週、Moodleの小テストを課しますので、次の授業までに受講ください。

- 数回ごとにレポートを課しますが、その連絡はレジュメに載せてありますので、毎回チェックしてください。

- 他学科の過年度生は、レジュメでの連絡に注意してください。

- 宿題で使用する「DME(Drill for Mechanical Engineers)」の問題もMoodleにありますので、downloadして使用ください。

授業計画・学習の内容

キーワード

JABEE基本キーワード：応用数学の基礎

JABEE個別キーワード：線形代数とその応用

学科キーワード：ベクトル、行列、線形空間

学習内容

- 1.ベクトルの成分表示と演算
- 2.ベクトルの線形独立性・従属性、座標系と数ベクトル
- 3.ベクトルの内積とノルム、ベクトル間の角度
- 4.行列とその演算
- 5.行列の階数と基本変形
- 6.掃き出し法で求める逆行列と連立一次方程式の解
- 7.行列の線形変換と連立一次方程式
- 8.行列式と外積
- 9.行列式の一般化

10.逆行列と双対空間

11.特性方程式と行列の固有値と固有ベクトル

12.行列の対角化と対称行列、直交行列

13.行列のべき乗と行列のスペクトル分解

14.行列の対角化の応用

15.全体のまとめと演習

16.定期試験

学習課題（予習・復習）

独自の演習課題を3～4回に分けて出題する。

提出日は、毎回配る講義録（レジュメ）にて知らせる。

毎授業後にMoodleの小テストを受講してもらう。

質問等は、科目のMoodle内の質問コーナーにお願いしたい。

基礎線形代数学

Linear Algebra

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 対象 工1A 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 堀江 太郎 (非常勤講師)

授業の概要 線形代数に関する基礎的な知識を身につける.

学習の目的 工学および自然科学における様々な現象は、行列を用いて簡潔に記述できることがある. ここでは、行列、行列式、掃き出し法、行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化について学習し、その基礎的な知識と計算力・応用力を身につけることを目標にする.

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要

になる線形代数に関する基礎的な知識を得る.

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力

受講要件 「クラス指定」工1A

教科書 未定 (開講時まで指示する)

成績評価方法と基準 毎回行う小テスト 30%, 中間・期末試験70% 計100%

授業計画・学習の内容

キーワード 行列、行列式、ベクトル空間、線形写像、行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化

学習内容

(基礎線形代数学)

1-3回: 行列と連立1次方程式

4-7回: 行列式とその応用

8回: 中間試験 (予定)

9-11回: ベクトル空間と線形写像

12-15回: 行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化

16回: 期末試験

基礎線形代数学

Linear Algebra

学期 前期 **開講時間** 月7,8 **単位** 2 **対象** 「基礎線形代数学」を再履修する学生のみ受講できる。「基礎線形代数学I、II」とは別の科目なので混同しないこと。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義
担当教員 古関 春隆 (教養教育機構)

授業の概要 「線形代数学」を再履修する学生のために、基本的な事項を解説して演習を行う。

学習の目的 線形代数学の基礎を理解し、具体的な計算問題を解く。

学習の到達目標 行列や連立1次方程式や行列式の計算ができるようになること。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件 「基礎線形代数学」を再履修する学生であること。

教科書 三宅敏恒、「入門線形代数」、培風館

成績評価方法と基準 授業への出席、演習への取り組み、定期試験の成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー 月曜16:30~18:00、教育学部1号館4階古関研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列、連立1次方程式、置換、行列式

Key Word(s) matrix, system of linear equations, substitution, determinant

学習内容

項目ごとにまとめた講義を行い、続いて学生が演習問題を解く。

第1回~第4回 行列計算と基本変形

第5回~第8回 連立1次方程式

第9回~第15回 行列式

第16回 試験

基礎微分積分学I

Calculus I

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 教育学部、数学・情報 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 新田 貴士 (教育学部)

授業の概要 微分、積分の基礎を講義、演習する。

微分積分 キャンパスゼミ 馬場敬之 マセマ出版社

学習の目的 微分、積分の基礎を講義、演習する。

演習微分積分 キャンパスゼミ 馬場敬之 高杉豊
マセマ出版社

学習の到達目標 微分、積分の基礎が理解できる。

微分積分学 矢野健太郎 石原繁 裳華房

成績評価方法と基準 出席、宿題、試験による。講義15回、レポート15回が課せられる。

発展科目 微分積分学II

オフィスアワー 月曜日 12:00-13:00、水曜日 12:00-13:00、新田研究室。

教科書

授業計画・学習の内容

キーワード 連続、微分、積分

学習課題（予習・復習）

学習内容

予習は各自おこなうこと。

1～4回 極限

復習は毎回宿題が出るのでそれをすること。

5～7回 連続

一回の講義に3時間から5時間の自習が課される。

8～11回 微分

12～15回 積分

基礎微分積分学 I

Basic Caclulus I

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 市原 潔(非常勤講師)

授業の概要

一変数の微積分の計算技法を習得し、理論的側面を理解する。

多変数の微積分の計算技法の基礎を習得する。

学習の目的 機械工学に現れる、微積分の演算子を含む主要な数式の意味を理解できるようにするために、教科書の例題レベルの問題を自力で解けるようになることを目的とする。

学習の到達目標

教科書の例題に掲載されている解法を少なくとも理解できるレベルの学力をつけることを目標とする。

教科書の例題に類似の問題を自力で解けるよ

うになることを目標とする。

本学教育目標との関連 感性、主体的学習力、論理的思考力、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 日本の高校で学ぶ数学を理解しており、三重大学の微積分に係る入試問題が解けるレベルであることが望ましい。

教科書 江川博康：弱点克服 大学生の微積分、東京図書

参考書 (最初の授業で示す。)

成績評価方法と基準 欠席が4回以下であることを前提に、レポート20%、期末テスト80%の割合で評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分、積分、実数、逆関数、逆三角関数、極限、数列、Taylor展開、de L'Hospitalの定理、極大、極小、最大、最小、陰関数

学習内容

第1回 極限

第2回 三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数の微分法

第3回 テーラー展開、マクローリン展開

第4回 置換積分、部分積分、広義積分

第5回 面積、媒介変数、極座標

第6回 回転体の体積

第7回 偏導関数

第8回 多変数関数の極値問題

第9回 陰関数、多変数関数の条件付き極値問題

第10回 二重積分の基礎

第11回 二重積分の応用

第12回 名古屋大学等の編入学試験に現れる微積分問題の一例

第13回 名古屋大学大学院等の入学試験に現れる微積分問題の一例

第14回 東京大学大学院等の入学試験に現れる微積分問題の一例

第15回 総復習と補足

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習）

あらかじめ教科書に記載の問題を自力で解くことを試みて欲しい。

自力で解けなかった問題は、授業中に理解し、再度自力で解けるかどうか確認して欲しい。

最初の授業で第12～15回で取り上げる問題のプリントを配布するので、これも自力で解くことを試みて欲しい。

基礎微分積分学 I

Introduction to Differential and Integral Calculus I

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 松井龍之介 (工学部)

授業の概要 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の基礎的な考え方を講義すると共に、応用力および計算力を養う。

学習の目的 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の基礎的な考え方を習得すると共に、応用力および計算力を身につける。

学習の到達目標 工学部電気電子工学科で開講されている専門教育科目の内容を理解する程度の微分積分学の実力を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 クラス指定 (電気電子工学科1年1-40)

予め履修が望ましい科目 高等学校での数学III、数学Cを履修していることが望ましい。

発展科目 基礎科目の数学分野の科目、電気電子工学科の専門教育科目

教科書 『微分積分』和達三樹著、岩波書店

成績評価方法と基準 中間試験2回各25%、期末試験50%、計100%。60%以上を合格とする。

オフィスアワー 日時：毎週金曜日12:00～13:00、場所：電子情報棟3階1320室

授業改善への工夫 講義ノートをMoodleにアップし、受講生が自由にダウンロードできるようにしている。

その他 JABEE関連項目：学習・教育目標との関連 (達成度点検シートの重み)：多面的思考能力 (0.3)、基礎・専門知識 (0.7)

授業計画・学習の内容

キーワード 関数の極限、連続と不連続、微分法、導関数、テイラーの定理、積分法、不定積分、定積分

Key Word(s) limit of a function, continuity and discontinuity, derivative, Taylor expansion, integral, indefinite integral, definite integral

学習内容

第1回 数列と極限、収束の定義

第2回 変数と関数

第3回 関数の極限

第4回 連続と不連続

第5回 微分係数と導関数

第6回 合成関数の微分法、高次導関数

第7回 関数の性質

第8回 基本的な種々の定理、テイラーの定理

第9回 テイラー展開とマクローリン展開

第10回 中間試験

第11回 不定積分

第12回 定積分

第13回 定積分と不定積分

第14回 定積分の拡張、応用

第15回 問題演習

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 学習内容は教科書の各章節の見出しに従っており、予習としては教科書の該当する箇所を時間をかけて読み、疑問な点を明確にしておくこと。

基礎微分積分学 I

Introduction to Differential and Integral Calculus I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 松井龍之介 (工学部)

授業の概要 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の基礎的な考え方を講義すると共に、応用力および計算力を養う。

学習の目的 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の基礎的な考え方を習得すると共に、応用力および計算力を身につける。

学習の到達目標 工学部電気電子工学科で開講されている専門教育科目の内容を理解する程度の微分積分学の実力を身につける。

受講要件 クラス指定 (電気電子工学科1年41-)

予め履修が望ましい科目 高等学校での数学III、数学Cを履修していることが望ましい。

発展科目 基礎科目の数学分野の科目、電気

電子工学科の専門教育科目

教科書 『微分積分』和達三樹著、岩波書店

成績評価方法と基準 中間試験2回各25%、期末試験50%、計100%。60%以上を合格とする。

オフィスアワー 日時: 毎週金曜日12:00~13:00、場所: 電子情報棟3階1320室

授業改善への工夫 講義ノートをMoodleにアップし、受講生が自由にダウンロードできるようにしている。

その他 JABEE関連項目: 学習・教育目標との関連 (達成度点検シートの重み): 多面的思考能力 (0.3)、基礎・専門知識 (0.7)

授業計画・学習の内容

キーワード 関数の極限、連続と不連続、微分法、導関数、テイラーの定理、積分法、不定積分、定積分

Key Word(s) limit of a function, continuity and discontinuity, derivative, Taylor expansion, integral, indefinite integral, definite integral

学習内容

第1回 数列と極限、収束の定義

第2回 変数と関数

第3回 関数の極限

第4回 連続と不連続

第5回 微分係数と導関数

第6回 合成関数の微分法、高次導関数

第7回 関数の性質

第8回 基本的な種々の定理、テイラーの定理

第9回 テイラー展開とマクローリン展開

第10回 中間試験

第11回 不定積分

第12回 定積分

第13回 定積分と不定積分

第14回 定積分の拡張、応用

第15回 問題演習

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 学習内容は教科書の各章節の見出しに従っており、予習としては教科書の該当する箇所を時間をかけて読み、疑問な点を明確にしておくこと。

基礎微分積分学 I

Calculus I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 工学部分子素材工学科(1-50) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 肥田野万里子 (担当窓口は教育学部、玉城正和)

授業の概要 1変数関数及び多変数関数の連続性およびそれらの導関数、テイラー展開。

学習の目的 微分の計算、テイラー展開などを道具として使いこなせるようになること。またそれらを一段高い立場から見られるようになること。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要になる1変数・多変数関数に関する微分・積分学の基礎的な知識が身につくこと。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「クラス指定」工学部分子素材工学科(51-)

教科書 開講時に紹介する。

成績評価方法と基準 小テスト10%、中間・期末試験90%

授業計画・学習の内容

キーワード 極限、微分、偏微分

学習内容

第1回 微分法、導関数

第2-3回 多項式、無理関数のテイラー展開

第4-5回 指数関数、三角関数のテイラー展開

第6-7回 逆三角関数のテイラー展開

第8-9回 関数値の近似値の求め方

第10-11回 多変数関数の連続、極限

第12-15回 偏導関数、2変数関数の極大・極小
テイラー展開

第16回 定期試験

基礎微分積分学 I

Calculus I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工学部分子素材工学科クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle 担当教員 玉城政和

授業の概要 1変数関数の微分と積分の基礎をまなぶ

広義積分について理解し、計算できるようになる。

学習の目的

関数の極限・連続性が理解できるようになる。

導関数およびその応用について理解できるようになる。

原始関数・不定積分・定積分について理解できるようになる。

広義積分について理解できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 微分積分学入門-改訂版-, 岩谷・河合・田中 共著, 学術図書出版社, ISBN978-4-7806-0222-7

学習の到達目標

関数の極限および連続性を理解し、計算・判定ができるようになる。

導関数を理解し、計算できるようになる。

曲線の外形を描き、テーラー展開を理解・計算できるようになる。

原始関数・不定積分・定積分を理解し、計算できるようになる。

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00, 解析学第1研究室 (教育学部4F)

授業改善への工夫 授業中の質問, 授業評価アンケートを参考に適宜対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 導関数, 平均値の定理, テーラー展開, マクローリン展開, ロピタルの定理, 原始関数, 不定積分, 定積分, 広義積分

学習内容

1. 関数の極限と連続性
2. 導関数
3. 三角関数・逆三角関数
4. 対数微分法
5. 関数の増減とグラフ
6. 高次導関数

7. テーラーの定理
8. ロピタルの定理
9. 原始関数
10. 部分積分と置換積分
11. 有理関数
12. 面積
13. 体積, 曲線の長さ
14. 広義積分
15. ガンマ関数とベータ関数

学習課題 (予習・復習) 毎回提示する

基礎微積分学 I

Calculus I

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 対象 工1A 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 堀江 太郎 (非常勤講師)

授業の概要 高校までの知識を受けて、微分・積分 (1変数, 多変数) に関する基礎的な知識を完成させる。

学習の目的 微積分学は自然科学や工学の学習の基礎となる必須の学問である。1変数の微分法については、関数の展開など (高階) 微分の様々な応用について学ぶ。さらに、工学にとって重要な多変数の微積分法の基礎的な知識と計算力を身につけることを主な目標とする。

学習の到達目標 今後の工学の学習, 実験等

で必要になる微積分学に関する基礎的な知識を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力

受講要件 「クラス指定」工1A

教科書 未定 (開講時まで指示する)

成績評価方法と基準 毎回行う小テスト 30%、中間・期末試験70%計100%

授業計画・学習の内容

キーワード 極限 微分法 偏微分 2重積分

学習内容

(基礎微積分学)

1-2回 多変数関数 偏導関数

3-5回 関数の近似 Taylor 展開

6-8回 偏微分 全微分 2変数関数の極大・極小

9回 中間試験

10-11回 2変数関数の極大・極小 (続)

12-15回 2重積分とその応用

16回 期末試験

基礎微分積分学 I

Calculus I

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 工学部情報工学科クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必修 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle 担当教員 玉城政和

授業の概要 1変数関数の微分と積分の基礎をまなぶ

広義積分について理解し、計算できるようになる。

学習の目的

関数の極限・連続性が理解できるようになる。

導関数およびその応用について理解できるようになる。

原始関数・不定積分・定積分について理解できるようになる。

広義積分について理解できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 微分積分学入門-改訂版-, 岩谷・河合・田中 共著, 学術図書出版社, ISBN978-4-7806-0222-7

学習の到達目標

関数の極限および連続性を理解し、計算・判定ができるようになる。

導関数を理解し、計算できるようになる。

曲線の外形を描き、テラー展開を理解・計算できるようになる。

原始関数・不定積分・定積分を理解し、計算できるようになる。

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00, 解析学第1研究室 (教育学部4F)

授業改善への工夫 授業中の質問, 授業評価アンケートを参考に適宜対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 導関数, 平均値の定理, ティラー展開, マクローリン展開, ロピタルの定理, 原始関数, 不定積分, 定積分, 広義積分

学習内容

1. 関数の極限と連続性
2. 導関数
3. 三角関数・逆三角関数
4. 対数微分法
5. 関数の増減とグラフ
6. 高次導関数

7. ティラーの定理
8. ロピタルの定理
9. 原始関数
10. 部分積分と置換積分
11. 有理関数
12. 面積
13. 体積, 曲線の長さ
14. 広義積分
15. ガンマ関数とベータ関数

学習課題 (予習・復習) 毎回提示する

基礎微積分学I

Calculus I

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 工学部物理工学科1年生クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 川向 洋之

授業の概要 基礎的な微積分学を学習すること

教科書 開講時に紹介する

学習の目的 1変数の微積分学の基礎についての理解と、それに伴う応用を行う力を身につける

成績評価方法と基準 (基本的に) 期末試験で判断する。なお、いつも遅刻や欠席をしたり、レポートを出さなかったり、授業中に関係のないこと(例えばスマートフォンの操作や、睡眠)などをしている場合、テストが良くても単位を出さないことがある。

学習の到達目標 微積分学の基礎を身につけ、それに伴う応用を行う力をつけること

オフィスアワー 水曜日の 12:00 - 13:00

授業計画・学習の内容

キーワード 極限, 連続, 微分, 積分, テーラー展開

[授業計画]

学習内容

微積分学について、基本事項を、応用面も考慮しながら概説する。

1. 数列、関数、極限、連続関数 (第1-4回)
2. 1変数関数の微分法 (第5-9回)
3. 1変数関数の積分法 (第10-14回)
4. 試験 (第15回)

基礎微分積分学 I

Calculus I

学期 後期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **対象** 再履修者を対象とします。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義
担当教員 堀江 太郎 (非常勤講師)

授業の概要 微分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につける。

論理的思考力, 問題解決力

学習の目的 微分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につけ、計算力を高める。

受講要件 再履修者を対象とする。

教科書 追って指示する。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要になる1変数・多変数関数に関する微分・積分学の基礎的な知識が身につく。

成績評価方法と基準 レポート・小テスト 30%、中間・期末試験70%計100%

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

その他 開講学期は後期です。注意してください。

授業計画・学習の内容

キーワード 極限 微分 偏微分

9回：中間試験 (予定)

学習内容

1-2回：連続 極限

10-11回：多変数関数の連続 極限

3-8回：微分法 導関数 テーラー展開

12-15回：偏導関数 2変数関数の極大・極小

16回：期末試験

基礎微分積分学II

Calculus II

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 教育学部、数学・情報 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 新田 貴士 (教育学部)

授業の概要 多変数微分、多変数積分を講義する。

学習の目的 多変数微分、多変数積分を講義する。

学習の到達目標 多変数微分、多変数積分ができるようになる。

予め履修が望ましい科目 微分積分学I

教科書 微分積分学 矢野健太郎 石原繁 裳華房

成績評価方法と基準 出席、宿題、試験による。講義15回、レポート15回が課せられる。

オフィスアワー 月曜日 12:00-13:00、水曜日 12:00-13:00、新田研究室。

授業計画・学習の内容

キーワード 多変数微分、多変数積分。

学習内容

1～7回 多変数微分

8～15回 多変数積分

学習課題（予習・復習）

予習は各自すること。

毎回の宿題をすることを復習とする。

毎回の講義に自習時間が必要となる。

基礎微分積分学 II

Calculus II

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 工学部機械工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 ○松井博和(工学研究科), 加藤典彦(工学研究科)

授業の概要 多くの自然現象は微分方程式であらわされ、積分により解析される。エンジニアの使命は自然現象を利用し、技術によってよりよい社会を築き上げることである。本授業では、技術を構築するために必須となる微分・積分を自由・自在に扱えるようにすることが目的である。

学習の目的 例えば、材料力学、機械力学、流体力学、量子力学などの機械工学における基盤専門科目でつまづかないために、微分・積分に習熟し、自然に使いこなせるようになることを目的とする。

学習の到達目標

微分・積分における基礎的な計算能力を習得し、応用的な積分計算に発揮できるようになることを目標とする。

微分・積分法の基本的概念（イメージ）をつかむことで、記憶だけに依存しない計算能力や応用力を身につける。専門科目や工学的技術との関連を意識した上で、基礎関数の微分・積分計算に慣れる。さらに基礎関数の計算技術をもとに、専門科目の基礎となる積分法の応用計算を使いこなせるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分・積分

Key Word(s) differential and integral calculus

学習内容

- 第1回 微分編(1)微分の定義を学び、演習する。
- 第2回 微分編(2)指数関数・対数関数の微分を学び、演習する。
- 第3回 微分編(3)積の微分、合成関数の微分法を学び、演習する。
- 第4回 微分編(4)三角関数の組み合わせの微分を学び、演習する。
- 第5回 マクローリン展開や、テイラー展開を学び演習する。
- 第6回 オイラー公式を学び演習する。

講義直後の演習問題で自分の理解度と計算能力を深めていく。

本学教育目標との関連 論理的思考力

予め履修が望ましい科目 基礎微分積分学

発展科目 機械工学科のすべての科目について、本授業内容が基礎として発展される。

参考書 Drill for Mechanical Engineering Volume 2 (Mie University Press)

成績評価方法と基準 毎週出題される演習問題の解答の提出および期末試験。

オフィスアワー

毎週火曜日17:00-18:00, 工学部機械工学科松井教員室

(あるいはメール相談随時:hmatsui@mach.mie-u.ac.jp)

授業改善への工夫 将来的な応用例（工学～産業技術）の実例を提示すると共に、各回の学習目標を明確にして学生諸君の学習意欲を高める努力をしている。各回の内容についてイメージを提示しながら講義することで視覚的に理解しやすいように努めている。

第7回 偏微分法に関し学習し、演習を行う。

第8回 微分編の復習をし、演習する。

第9回 積分編(1)基礎的概念を学び、演習する。

第10回 積分編(2)三角関数の組み合わせの積分を学び、演習する。

第11回 積分編(3)部分分数分解による積分などの特殊な積分を学び、演習する。

第12回 積分編(4)単純な面積や体積の計算法を学び、演習する。

第13回 積分編(5)区分求積にもとづく特性値の総和を求める方法を学び、演習する。

第14回 積分編(6)複雑な形状の面積、体積の計算法を学び、演習する。

第15回 積分編の復習をし、演習する。

定期試験。

学習課題（予習・復習）

各回の講義終了後，授業時間内に演習問題を解答して毎回提出してもらいます。

なお，復習として，各回ごとに自力で解答できなかった演習問題を再学習してください。

基礎微分積分学II

Introduction to Differential and Integral Calculus II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 畑 浩一 (工学部)

授業の概要 基礎微分積分学Iで学んだ内容を基に、多変数関数に拡張された微分積分学について講義する。理工系学生にとって必要不可欠な応用力と計算力を養う。

学習の目的 多変数関数に拡張された微分積分学の基礎を学ぶとともに、意味を理解しその応用に必要な知識を身に付けるさらに、複素関数論、フーリエ級数、微分方程式等工学において重要な位置を占める概念につながる無限級数について基礎を学ぶとともに意味を理解し応用に必要な知識を習得する。

学習の到達目標 工学部電気電子工学科で開講される専門教育科目の内容を理解できるに足る微分積分学の実力を身に付ける。

受講要件 基礎微分積分学Iを履修済みである

授業計画・学習の内容

キーワード 多変数関数の極限と微分積分学

Key Word(s) Function with Many Variables, Differential and Integral Calculus, Limits

学習内容

第1回 2変数関数, 偏微分

第2回 全微分, 平均値の定理

第3回 Taylorの定理

第4回 偏導関数の応用, 演習

第5回 多重積分の定義, 累次積分

第6回 積分変数の変換

第7回 多重積分の応用

第8回 線積分

第9回 Greenの定理, 演習

事。

予め履修が望ましい科目 基礎微分積分学I

発展科目 常微分方程式及び演習, フーリエ解析と偏微分方程式及び演習, 複素関数論及び演習, ベクトル解析及び演習, 確率・統計

教科書 「微分積分」 和田三樹 著 岩波書店

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50% 中間試験, 期末試験の合計点が120点以上を合格とする。

オフィスアワー 工学部電気電子工学科棟 畑研究室

授業改善への工夫 シラバスに沿った授業進行

第10回 中間試験

第11回 無限級数, 有界な単調数列

第12回 正項級数, 交項級数

第13回 絶対収束級数

第14回 べき級数

第15回 一様収束する関数級数

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習)

学習内容は教科書の各節の見出しに従っており, 予習として, 教科書の該当節を読んでおく。

復習として, 該当節の練習問題を解き, レポートとして提出する。

基礎微分積分学II

Introduction to Differential and Integral Calculus II

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 畑 浩一 (工学部)

授業の概要 基礎微分積分学Iで学んだ内容を基に、多変数関数に拡張された微分積分学について講義する。理工系学生にとって必要不可欠な応用力と計算力を養う。

学習の目的 多変数関数に拡張された微分積分学の基礎を学ぶとともに、意味を理解しその応用に必要な知識を身に付けるさらに、複素関数論、フーリエ級数、微分方程式等工学において重要な位置を占める概念につながる無限級数について基礎を学ぶとともに意味を理解し応用に必要な知識を習得する。

学習の到達目標 工学部電気電子工学科で開講される専門教育科目の内容を理解できるに足る微分積分学の実力を身に付ける。

受講要件 基礎微分積分学Iを履修済みである

授業計画・学習の内容

キーワード 多変数関数の極限と微分積分学

Key Word(s) Function with Many Variables, Differential and Integral Calculus, Limits

学習内容

第1回 2変数関数, 偏微分

第2回 全微分, 平均値の定理

第3回 Taylorの定理

第4回 偏導関数の応用, 演習

第5回 多重積分の定義, 累次積分

第6回 積分変数の変換

第7回 多重積分の応用

第8回 線積分

第9回 Greenの定理, 演習

事。

予め履修が望ましい科目 基礎微分積分学I

発展科目 常微分方程式及び演習, フーリエ解析と偏微分方程式及び演習, 複素関数論及び演習, ベクトル解析及び演習, 確率・統計

教科書 「微分積分」 和田三樹 著 岩波書店

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50% 中間試験, 期末試験の合計点が120点以上を合格とする。

オフィスアワー 工学部電気電子工学科棟 畑研究室

授業改善への工夫 シラバスに沿った授業進行

第10回 中間試験

第11回 無限級数, 有界な単調数列

第12回 正項級数, 交項級数

第13回 絶対収束級数

第14回 べき級数

第15回 一様収束する関数級数

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習)

学習内容は教科書の各節の見出しに従っており, 予習として, 教科書の該当節を読んでおく。

復習として, 該当節の練習問題を解き, レポートとして提出する。

基礎微分積分学 II

Calculus II

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 工学部分子素材工学科(1-50) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 肥田野万里子 (担当窓口は教育学部、玉城正和)

授業の概要 積分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につける

学習の目的 積分、重積分などを道具として使いこなせるようになること。またそれらを一段高い立場から見られるようになること。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要になる1変数・多変数関数に関する微分・積分学の基礎的な知識が身につけること。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「クラス指定」工1C(51-)

教科書 開講時に紹介する。

成績評価方法と基準 レポート10%、中間・期末試験90%

授業計画・学習の内容

キーワード 定積分、不定積分、重積分

学習内容

第1回 原始関数、不定積分

第2-3回 有理関数の積分

第4-6回 無理関数の積分

第7-8回 面積、回転体の体積、重心

第9-10回 重積分

第11-13回 重積分の計算

第14-15回 重積分とその応用

第16回 定期試験

基礎微積分学 II

Calculus II

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工学部分子素材工学科クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 玉城政和

授業の概要 多変数関数の微積分学の基礎をまなぶ

学習の目的

偏微分を理解し, 応用できるようになる.
重積分を理解し, 応用できるようになる.

学習の到達目標

偏微分を理解し, 計算できるようになる.
陰関数定理を理解し, 極値問題を解決できるようになる.
重積分を理解し, 計算できるようになる.
体積を計算できるようになる.

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論

理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 微積分学入門-改訂版-, 岩谷・河合・田中共著, 学術図書出版社, ISBN978-4-7806-0222-7

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00, 解析学第1研究室(教育学部4F)

授業改善への工夫 授業中の質問, 授業評価アンケートを参考に適宜対応する.

授業計画・学習の内容

キーワード 偏微分, 陰関数定理, 重積分, 累次積分

学習内容

1. 偏導関数の計算
2. 合成関数の偏導関数
3. 陰関数の微分

4. 重積分の計算
5. 積分順序の交換
6. 置換積分
7. 曲面積

学習課題(予習・復習) 毎回提示する

基礎微積分学 II

Calculus II

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 工学部情報工学科クラス指定 年次 学部(学士課程): 1
年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 玉城政和

授業の概要 多変数関数の微積分学の基礎をまなぶ

学習の目的

偏微分を理解し、応用できるようになる。
重積分を理解し、応用できるようになる。

学習の到達目標

偏微分を理解し、計算できるようになる。
陰関数定理を理解し、極値問題を解決できるようになる。
重積分を理解し、計算できるようになる。
体積を計算できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論

理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 微積分学入門-改訂版-, 岩谷・河合・田中共著, 学術図書出版社, ISBN978-4-7806-0222-7

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00, 解析学第1研究室(教育学部4F)

授業改善への工夫 授業中の質問, 授業評価アンケートを参考に適宜対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 偏微分, 陰関数定理, 重積分, 累次積分

学習内容

1. 偏導関数の計算
2. 合成関数の偏導関数
3. 陰関数の微分

4. 重積分の計算
5. 積分順序の交換
6. 置換積分
7. 曲面積

学習課題(予習・復習) 毎回提示する

基礎微分積分学II

Calculus II

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 工学部物理工学科1年生クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 川向 洋之

授業の概要 多変数の微積分の概説を行う

教科書 開講時に紹介する

学習の目的 多変数の微分積分学の基礎についての理解と、それに伴う応用を行う力を身につける

成績評価方法と基準 (基本的に) 期末試験で判断する. なお, いつも遅刻や欠席をしたり, レポートを出さなかったり, 授業中に関係のないこと(例えばスマートフォンの操作や, 睡眠)などをしている場合, テストが良くても単位を出さないことがある.

学習の到達目標 微積分学の基礎を身につけ、それに伴う応用を行う力をつけること

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

オフィスアワー 水曜日 12:00~13:00 教育学部4階解析学第3研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 偏微分, 全微分, 重責分, 級数

1. 1変数の微積分学の復習 (第1-4回)
2. テーラー展開 (第5-8回)
3. 多変数関数の微分法 (第9-11回)
4. 多変数関数の積分法 (第12-14回)
5. 試験 (第15回)

学習内容

微分積分学の基本事項を、応用面も考慮し概説する。

[授業計画]

基礎微分積分学 II

Calculus II

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **対象** 再履修者を対象とします。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義
担当教員 堀江 太郎 (非常勤講師)

授業の概要 積分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につける。

論理的思考力, 問題解決力

学習の目的 積分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につけ、計算力を高める。

受講要件 再履修者を対象とする。

教科書 追って指示する。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要になる1変数・多変数関数に関する微分・積分学の基礎的な知識が身につく。

成績評価方法と基準 レポート・小テスト 30%、中間・期末試験70%計100%

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

その他 開講学期は前期です。注意してください。

授業計画・学習の内容

キーワード 定積分 不定積分 重積分

5-8回: 定積分とその応用

9回: 中間試験 (予定)

学習内容

1-4回: 原始関数 不定積分

10-15回: 重積分とその応用

16回: 期末試験

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 葛葉泰久(生物資源学部)

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復習をしておくことが望ましい。

教科書

(1)大学1・2年生のためのすぐわかる数学(江川博康著 東京図書株式会社)

(2)微分積分 (和達著; 岩波書店; ISBN4-00-007771-6)

成績評価方法と基準 出席状況と演習、定期試験を総合評価

オフィスアワー 月曜日 12:30-16:00 ただし、出張等で確実に在室とは限らないので、事前に必ずメールでアポイントメントを取ること。メールアドレスは、講義時に示す。

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める。

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。数学基礎(上級、中級クラス)の不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。また、基礎クラスの不合格者は専門課程の入門数学演習(補習クラス)を受け次年度基礎クラスを再受験するのが基本であるが、場合によっては数学基礎の再履修クラスへ編入することもある。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 偏微分 重積分

Key Word(s) differentiation, integral, partial differentiation, multiple integral

学習内容

- 第1回 三角関数、逆三角関数
- 第2回 指数関数、対数関数
- 第3回 小テスト (1)、1変数関数の微分
- 第4回 対数微分法、n次導関数
- 第5回 テイラーの定理
- 第6回 マクローリン展開
- 第7回 小テスト (2)、不定積分

- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 定積分
- 第11回 小テスト (3)、偏微分法
- 第12回 偏導関数、高次偏導関数
- 第13回 全微分、合成関数の微分
- 第14回 累次積分
- 第15回 重積分
- 第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 各授業日程にあわせて教科書の演習問題を各自解いておくこと

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 生物資源学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 取出伸夫(生物資源学部)

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復習をしておく

とがのぞましい

教科書 やさしく学べる微分積分 石村園子 共立出版

成績評価方法と基準 出席状況と演習、定期試験を総合評価

オフィスアワー 随時受け付け。部屋番号574

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める。

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 偏微分 重積分

Key Word(s) differentiation, integral, partial differentiation, multiple integral

学習内容

- 第1回 三角関数、逆三角関数
- 第2回 指数関数、対数関数
- 第3回 小テスト (1)、1変数関数の微分
- 第4回 対数微分法、 n 次導関数
- 第5回 テイラーの定理
- 第6回 マクローリン展開
- 第7回 小テスト (2)、不定積分

- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 定積分
- 第11回 小テスト (3)、偏微分法
- 第12回 偏導関数、高次偏導関数
- 第13回 全微分、合成関数の微分
- 第14回 累次積分
- 第15回 重積分
- 第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 各回の授業の予習、復習を教科書により行うこと。

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 渡辺晋生(生物資源学部)

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復習をしておくことがのぞましい

教科書 やさしく学べる微分積分 (石村園子 著 共立出版株式会社)

授業計画・学習の内容

キーワード 指数、対数、微分、積分、偏微分、微分方程式

学習内容

- 第1回 三角関数、逆三角関数
- 第2回 指数関数、対数関数
- 第3回 小テスト (1)、1変数関数の微分
- 第4回 対数微分法、 n 次導関数
- 第5回 テイラーの定理
- 第6回 マクローリン展開
- 第7回 小テスト (2)、不定積分
- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 定積分
- 第11回 小テスト (3)、偏微分法
- 第12回 偏導関数、高次偏導関数
- 第13回 全微分、合成関数の微分
- 第14回 累次積分
- 第15回 重積分
- 第16回 定期試験

成績評価方法と基準 出席状況と宿題、演習、定期試験を総合評価

オフィスアワー 随時教員の居室にて対応。数学なんでも相談室も積極的に活用してください。

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める。

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。数学基礎 (上級、中級クラス) の不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。また、基礎クラス的不合格者は専門課程の入門数学演習 (補習クラス) を受け次年度基礎クラスを再受験するのが基本であるが、場合によっては数学基礎の再履修クラスへ編入することもある。

学習課題 (予習・復習)

- 第2回学習内容に関する宿題と予復習
- 第3回学習内容に関する宿題と予復習
- 第4回学習内容に関する宿題と予復習
- 第5回関数の作図
- 第6回学習内容に関する宿題と予復習
- 第7回学習内容に関する宿題と予復習
- 第8回学習内容に関する宿題と予復習
- 第9回学習内容に関する宿題と予復習
- 第10回学習内容に関する宿題と予復習
- 第11回学習内容に関する宿題と予復習
- 第12回学習内容に関する宿題と予復習
- 第13回学習内容に関する宿題と予復習
- 第14回学習内容に関する宿題と予復習
- 第15回学習内容に関する宿題と予復習

(各回の講義終了時に課題を配布します。日曜の朝、Moodleで解答例を提示しますので、各自採点・確認の上、月曜の講義終了時に提出すること)

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 生物資源学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 山田 二久次

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復習をしておくことがのぞましい

教科書 やさしく学べる微分積分（石村園子 著 共立出版株式会社）

参考書 出席状況と演習、定期試験を総合評価

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める。

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。数学基礎（上級、中級クラス）の不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。また、基礎クラスの不合格者は専門課程の入門数学演習（補習クラス）を受け次年度基礎クラスを再受験するのが基本であるが、場合によっては数学基礎の再履修クラスへ編入することもある。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 偏微分 重積分

Key Word(s) differentiation, integral, partial differentiation, multiple integral

学習内容

第1回 三角関数、逆三角関数

第2回 指数関数、対数関数

第3回 小テスト（1）、1変数関数の微分

第4回 対数微分法、 n 次導関数

第5回 テイラーの定理

第6回 マクローリン展開

第7回 小テスト（2）、不定積分

第8回 置換積分

第9回 部分積分

第10回 定積分

第11回 小テスト（3）、偏微分法

第12回 偏導関数、高次偏導関数

第13回 全微分、合成関数の微分

第14回 累次積分

第15回 重積分

第16回 定期試験

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 生物資源学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 鈴木 直之(教養教育機構)

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復讐をしておくことが望ましい

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 重積分 偏微分

Key Word(s)

differentiation, integral, partial differentiation, multiple integra

学習内容

- 第1回 三角関数、逆三角関数
- 第2回 指数関数、対数関数
- 第3回 小テスト (1)、1変数関数の微分
- 第4回 対数微分法、 n 次導関数
- 第5回 テイラーの定理
- 第6回 マクローリン展開
- 第7回 小テスト (2)、不定積分

教科書 やさしく学べる微分積分 (石村園子 著 共立出版株式会社)

成績評価方法と基準 出席状況と演習、定期試験を総合評価

オフィスアワー 毎週火曜日12時~13時

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。数学基礎 (上級、中級クラス) の不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。また、基礎クラス の不合格者は専門課程の入門数学演習 (補習クラス) を受け次年度基礎クラスを再受験するのが基本であるが、場合によっては数学基礎の再履修クラスへ編入することもある。

- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 定積分
- 第11回 小テスト (3)、偏微分法
- 第12回 偏導関数、高次偏導関数
- 第13回 全微分、合成関数の微分
- 第14回 累次積分
- 第15回 重積分
- 第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 各授業日程にあわせて教科書の演習問題を各自解いておくこと

数学基礎（再履修）

Basic Mathematics (repeating a course)

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 鈴木 直之

授業の概要 前期に行われた数学基礎の不合格者を対象に開講される授業科目であり、受講生各自が数学基礎の復習を行い、さらに場合によっては、高校数学に戻って、演習形式で数学の知識を身につけるようにさせる。

学習の目的 微分および積分の知識を身につけ、後の専門教科に役立たせることを目的とする。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分の基礎を習得し、一般的なこれらの問題が解けるようになるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 問題解

決力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 数学基礎の再履修学生であること

教科書 前期の数学基礎で使用した教科書を使用するが、適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準 小テストおよび期末テストを総合して評価する。

オフィスアワー 月～金の昼休み12:15～12:50

授業改善への工夫 毎時間小テストを課し、理解度を深めさせる。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 偏微分 重積分

Key Word(s) differentiation, integral, partial differentiation, multiple integral

学習内容

演習：数学基礎の範囲（微分、積分、偏微分、重積分）の復習

第1回～第5回 微分の復習（第2回～第5回 小テストあり）

第6回～第10回 積分の復習（第7回～第10回 小テストあり）

第11回～第14回 偏微分の復習（第12回～第14回 小テストあり）

第15回 重積分

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 各自授業の復習と毎時間行う小テストの準備をすること

基礎数学演習Ⅰ

Exercises in Mathematics I

学期 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 1 **対象** 教育学部数学教育・情報教育コース1年 なお、基礎線形代数学Ⅰ, 基礎微積分学Ⅰを受講している学生は可能な限り受け入れる **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 森山 貴之 (教育学部)

授業の概要 基礎線形代数学Ⅰ、基礎微積分学Ⅰの理解に必要な、計算問題及び証明問題等の演習を行う。

学習の目的 実際に問題を解くことにより、線形代数と微積分学の色を養うこと。

学習の到達目標 線形代数の、行列の掃き出し、一次方程式の解法の計算、行列式の計算などが出来るようになること。解析分野の、連続性の理解、および極限の具体的な計算が出来るようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部数学教育・情報教育コース1年
その他、基礎線形代数学Ⅰ, 基礎微積分学Ⅰを受講している学生は可能な限り受け入れる。

予め履修が望ましい科目 基礎線形代数学Ⅰ、基礎微積分学Ⅰを並行して受講すること。

発展科目 基礎数学演習Ⅱ

教科書 特に指定はしないが、基礎線形代数学Ⅰ、基礎微積分学Ⅰの教科書を持参すること。

成績評価方法と基準 期末試験の結果と講義での発表のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00~13:00, 教育学部一号楼4階 研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列の階数、連立1次方程式、行列式、連続性、極限、関数、微分

Key Word(s) Rank of matrix, system of linear equations, determinant, continuity, limit, differentiation

学習内容

1. 行列の演算 (第1回~第3回)

2. 連続性、極限 (第4回~第6回)
 3. 連立1次方程式の解法 (第7回~第9回)
 4. 微分の応用 (第10回~第12回)
 5. 行列式の計算、簡単な積分の計算 (第13回~第15回)
 6. 定期試験 (第16回)
- ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

基礎数学演習 I

Exercise in Fundamental Mathematics I

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 1 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 山村直紀 (工学部電気電子工学科), 川中普晴 (工学部電気電子工学科)

授業の概要 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の演習問題を数多くこなし、応用力および計算力を養う。

学習の目的 数と極限, 変数と関数, 微分法の基礎, 積分法の基礎について学習する。

学習の到達目標

学習・教育目標: 「多面的思考能力」および「基礎知識と専門知識」に関する能力を向上させる。

工学部電気電子工学科で開講されている専門教育科目の内容を理解する程度の微分積分学の実力を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

受講要件 基礎微分積分学 I を履修していること

発展科目 基礎科目の数学分野の科目, 電気電子工学科の専門教育科目

教科書 『微分積分演習』和達三樹, 十河清著, 岩波書店

成績評価方法と基準 「小テスト (20点満点全14回) の合計168点以上」を合格とする。

オフィスアワー

山村直紀: 講義終了後
川中普晴: 毎週火曜日 12:00~13:00, 場所: 電子情報棟4階 1412室

授業改善への工夫 小テストの解答解説など

授業計画・学習の内容

キーワード 実数、複素数、関数の極限、連続と不連続、微分法、導関数、テイラーの定理、積分法、不定積分、定積分

学習内容

第1回 ガイダンス, 【演習】数のいろいろ, 漸化式

第2回 【演習・小テスト】数列と極限

第3回 【演習・小テスト】収束・発散の条件

第4回 【演習・小テスト】いろいろな関数

第5回 【演習・小テスト】関数の極限

第6回 【演習・小テスト】連続関数

第7回 【演習・小テスト】導関数とその計算

第8回 【演習・小テスト】微分法

第9回 【演習・小テスト】関数の性質

第10回 【演習・小テスト】微分法の諸定理

第11回 【演習・小テスト】不定積分とその計算

第12回 【演習・小テスト】定積分とその計算

第13回 【演習・小テスト】広義積分

第14回 【演習・小テスト】よく現れる関数たち

第15回 【演習・小テスト】積分の応用

学習課題 (予習・復習) 2週目以降は演習後に小テストを行い、その合計で成績を評価するので、よく予習しておくこと。

基礎数学演習 II

Exercises in Mathematics II

学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 1 **対象** 教育学部数学教育・情報教育コース1年 なお、基礎線形代数学 II, 基礎微積分学 II を受講している学生は可能な限り受け入れる **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 森山 貴之 (教育学部)

授業の概要 基礎線形代数学 II、基礎微積分学 II の理解に必要な、計算問題及び証明問題等の演習を行う。

学習の目的 実際に問題を解くことにより、線形代数と微積分学の力を養うこと。

学習の到達目標 逆行列、ベクトル空間、固有値、固有空間が計算できるようになること。また、テイラー展開、偏微分、様々な関数の積分が出来るようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード 逆行列、ベクトル空間、固有空間、テイラー展開、偏微分、積分

Key Word(s) Inverse matrix, vector spaces, eigen spaces, Taylor's expansion, partial differentiation, integration

学習内容

1. 余因子展開と余因子行列の演算 (第1回～第3回)

教育学部数学教育・情報教育コース1年
その他、基礎線形代数学 II, 基礎微積分学 II を受講している学生は可能な限り受け入れる。

予め履修が望ましい科目 基礎線形代数学 II、基礎微積分学 II を並行して受講すること。

教科書 特に指定はしないが、基礎線形代数学 II、基礎微積分学 II の教科書を持参すること。

成績評価方法と基準 期末試験の結果と講義での発表のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 水曜日 12:00～13:00, 教育学部一号棟4階 研究室

2. 様々な関数のテイラー展開 (第4回～第6回)

3. 逆行列とその応用 (第7回～第9回)

4. 偏微分の計算 (第10回～第12回)

5. 固有空間、積分の応用 (第13回～第15回)

6. 定期試験 (第16回)

ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

基礎数学演習 II

Exercise in Fundamental Mathematics II

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 1 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習

担当教員 松井 龍之介 (工学部) , 永井 洸一 (工学部)

授業の概要 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の演習問題を数多くこなし、応用力および計算力を養う。

学習の目的 多変数関数の微分積分法と無限級数について学習する。

学習の到達目標

学習・教育目標: 「多面的思考能力」および「基礎知識と専門知識」に関する能力を向上させる。

工学部電気電子工学科で開講されている専門教育科目の内容を理解するのに必要不可欠な微分積分学の実力を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「基礎微分積分学 I」、「基礎数学演習 I」を修得しておくこと

とが望ましい。

発展科目 基礎科目の数学分野の科目、電気電子工学科の専門教育科目

教科書 微分積分演習 (理工系の数学入門コース/演習 (1))、和達三樹、十河清 著、岩波書店

成績評価方法と基準 前期復習テスト (50点満点: 初回実施) と小テスト (20点満点: 全15回) の合計210点以上を合格とする。ただし、欠席5回以上は対象外とする。

オフィスアワー

松井: 毎週金曜日 12:00~13:00, 場所: 電子情報棟3階1320室、電子メール: matsui@elec.mie-u.ac.jp

永井: 毎週金曜日 12:00~13:00, 場所: 電子情報棟4階1401室, 電子メール:nagai@elec.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 小テストの解答解説など。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分法、積分法、偏微分、全微分、平均値の定理、多重積分、線積分、無限級数、正項級数、絶対収束級数、べき級数、一様収束

Key Word(s) differential calculus, integral calculus, partial derivative, total derivative, law of the mean, multiple integral, line integral, infinite series, positive series, absolutely convergent series, power series, uniform convergence

学習内容

- 第1回 ガイダンス、前期の復習
- 第2回 偏微分とその計算
- 第3回 全微分と変数変換
- 第4回 全微分と変数変換
- 第5回 平均値の定理、陰関数の微分

- 第6回 平均値の定理、陰関数の微分
- 第7回 偏導関数の応用
- 第8回 多重積分
- 第9回 積分変数の変換
- 第10回 積分変数の変換
- 第11回 多重積分の応用
- 第12回 線積分
- 第13回 無限級数とその収束・発散
- 第14回 無限級数とその収束・発散
- 第15回 べき級数
- 第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 1週目は「微分積分学 I」に関する復習テスト、2週目以降は前の週の内容に関する小テストを行い、その合計で成績を評価する。毎回宿題を課し、その内容を次回小テストの出題範囲とするので、よく復習しておくこと。

基礎数理統計学

Mathematical Statistics

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修

授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 玉城 政和

授業の概要 確率論と統計学がテーマであり、数理統計学の基礎的考え方を学ぶ。

学習の目的 数理統計学の基礎的考え方を身につけ、データを整理し分析する数理的方法や、確率変数の意味・意義を理解できるようにする。時間があれば、推定および検定の基本的考え方や方法も学び応用を目指す。

学習の到達目標

データの平均、分散、標準偏差および相関係数といった量について理解し、計算できるようになる。

確率変数、正規分布、中心極限定理（および推定・検定の概要）を理解し、活用できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 工学部建築学科2年生以上

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 確率・統計学

授業計画・学習の内容

キーワード ベイズの定理、平均、分散、標準偏差、相関係数、確率変数、正規分布、大数の法則、中心極限定理、区間推定

学習内容

- データの処理(第1回～第3回)
平均、分散、標準偏差、相関係数、回帰直線
- 確率の考え方と計算(第4回～第7回)
標本空間、事象、確率、条件付き確率、ベイズの定理

教科書 新基礎コース 確率・統計（浅倉、竹居 共著、学術図書出版社、ISBN978-4-7806-0405-4）

参考書

統計学の基礎（栗栖、濱田、稲垣 共著、裳華房、ISBN978-4-7853-1525-2）

確率統計の数理（石井、塩出、新森 共著、裳華房、ISBN978-4-7853-1090-5）

新訂・確率統計（大日本図書、ISBN4-477-01875-4）

はじめての数理統計学（古島・市橋・坂西、近代科学社、ISBN978-4-7649-1048-5）

入門統計学（橋本智雄、共立出版、ISBN4-320-01508-8）

理工系の確率・統計入門（服部哲也、ISBN: 978-4-7806-0207-4）

成績評価方法と基準 中間試験50%、期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00～13:30、解析学第1研究室（教育学部4F）

授業改善への工夫 授業中の質問、授業評価アンケートを参考に適宜対応する。

3. 確率変数と確率分布(第8回～第11回)

確率変数、確率分布、期待値、分散

4. 2項分布と正規分布(第12回～第15回)

2項分布、2項分布から正規分布へ、正規分布の計算、中心極限定理、推定と検定

学習課題（予習・復習） 毎回、復習は欠かさず行なうこと。具体的には授業中に指示する。

基礎物理学A

Introductory Physics I (Classical Mechanics)

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 國仲 寛人 (教育学部)

授業の概要 自然界の現象を理解する上でもっとも基本となる物体(質点)の運動についての基礎を学ぶ

学習の目的 運動の法則についての理解とその運用能力の修得

学習の到達目標 身のまわりの力学現象について、解析的に考えることができるようになること。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

予め履修が望ましい科目 基礎微積分学I、基礎線形代数学Iをあわせて受講することが望ましい。

発展科目 物理学講義I (質点系と剛体の力学)

教科書 原康夫 著 「第4版 物理学基礎」 学術図書

参考書

ファインマン、レイトン、サンズ: 『ファインマン物理学I 力学』 岩波書店

松下貢: 『物理学講義 力学』 裳華房

和達三樹: 『物理入門コース 物理のための数学』 岩波書店

成績評価方法と基準 小テスト50%, 定期試験50%, 計100%

オフィスアワー 在室時随時 (研究室、教育学部1号館2F)

授業改善への工夫

- ・毎回演習問題を用意し、授業内容の理解を深める。

- ・講義のページ (Moodle) を作成し、講義資料等にアクセス可能にする。

授業計画・学習の内容

キーワード 力と物体の運動 (教職を目指す人たちのための基礎物理学)

学習内容

第1回: 序論 (物理量の表し方)

第2, 3, 4回: 運動 (座標, ベクトル, 微分, 積分, 位置, 速度, 加速度, 等速円運動)

第5, 6回: 運動の法則と力の法則 (慣性の法則, 運動の法則, 作用反作用の法則)

第7, 8, 9回: 力と運動 (微分方程式と積分, 放物運動, 雨滴の落下, 摩擦力, 運動量と力

積)

第10, 11回: 振動 (単振動と単振り子, 減衰振動, 強制振動と共振)

第12, 13, 14, 15回: エネルギー (仕事, 位置エネルギー, 運動エネルギー, 保存力, 力学的エネルギー保存の法則)

第16回: 定期試験

学習課題 (予習・復習) 復習として毎回の講義内容に関連する演習問題を解いてもらう。

基礎物理学 I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 牧 清二郎 (工学部)

授業の概要

物理学のうち力学の分野を中心に講義する。教養としての力学を学び、力学に基づく思考力を養うことを目標とする。

★工学部電気電子工学科JABEE関連項目: 学習・教育目標: 基礎・専門知識(0.7)、多面的思考能力(0.3)に関する能力を向上させる。

学習の目的 物体の運動と力の関係について、高校で習った範囲より一歩進め、より理解を深める。

学習の到達目標 基本的な力学問題が解ける。特に、物体(質点および剛体)の運動に関しては、運動を微分方程式の形で記述し、与えられた初期条件のもとで解き、時間の関数として表現できるようになる。

本学教育目標との関連 論理的思考力

受講要件 特にないが、高校物理を履修していることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 力学、数学などに関わる高度な科

目

教科書 「入門 工系の力学」、田中、西浦著、共立出版

成績評価方法と基準 期末試験(100点)により評価し、合計60点以上を合格とする。ただし、出席70%以上を期末試験受験可能条件とする。

オフィスアワー

随時(場所: 工学部機械工学科棟3階2306室)。不在のときは下記アドレスへ連絡して下さい。

maki@mach.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 授業中に演習問題を課したり、復習のために宿題を課し、理解の向上に努める。

その他 授業の内容に関連して宿題を課すことがある。宿題は評価の対象になっていないが、次の授業の折に解答を示すので、まじめに取り組み、自分自身の理解の向上に役立ててほしい。

授業計画・学習の内容

キーワード 力学の基礎

学習内容

主として質点系の運動について講義する。剛体の運動学、弾性体の力学などについてもふれる。

[講義計画]

第1回 授業を始めるにあたって、位置と位置ベクトル・絶対単位・重力単位

第2回 速度と加速度

第3回 Newtonの運動の法則

第4回 運動量と角運動量

第5回 運動方程式・自由落下・放物運動

第6回 単振動・減衰振動・強制振動

第7回 仕事と運動エネルギー

第8回 力学的エネルギー保存則

第9回 質点系の運動・内力と外力

第10回 質点系の運動量と角運動量

第11回 剛体のつり合いと運動

第12回 慣性モーメント

第13回 剛体の平面運動

第14回 弾性体の力学

第15回 総まとめ

第16回 期末試験

学習課題(予習・復習) 毎回、講義に関係した演習問題をレポートとして課す。

基礎物理学 I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 対象 工学部電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 社河内 敏彦

授業の概要 力学の基礎(主に、動力学、質点系の力学、剛体の力学の一部)について学習(教科書を中心に、一部ノート授業をする)し、力学に基づく論理的な考察力、問題の解決能力の涵養に努める。なお、演習問題を多く取り入れ、理解の向上に努める。また、授業中、適宜、各自に演習問題(一部、英語教科書からの英文による演習問題を使用)を課し授業に参加させ考えさせる時間を設定する。

学習の目的 力学(ニュートン力学)に関する一般的な知識・考え方、及び論理的な考察力、問題の解決能力の涵養

学習の到達目標

論理的な考察力、問題の解決能力の涵養
学習・教育目標: 基礎・専門知識(0.7)、多面的思考能力(0.3)に関する能力を向上させる。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,専門知識・技術,論理的思考力,課題探求力,問題解決力,批判的思考力,情報受発信力,討論・対話力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし(本授業は、学生「1年生」にとって初めての授業である)

予め履修が望ましい科目 特になし(本授業は、学生「1年生」にとって初めての授業で

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎物理学、基礎力学、質点系の力学、剛体の力学

Key Word(s) Fundamental physics, Basic mechanics, Statics, Dynamics, Newtonian mechanics

学習内容

I 力と運動

第1回 力学のためのベクトル演算

第2回 力の作用、働き

ある)

発展科目 力学、数学などに関わる高度な科目

教科書

以下の教科書を使用するので用意・購入すること。

教科書: 「基礎と演習、理工系の力学」、高橋正雄著、共立出版

参考書 "Vector Mechanics of Engineering Dynamics", by F.P.Beer and E.R.Johnstone_Jr. McGraw-Hill

成績評価方法と基準 期末試験の評価で判断する。なお、授業への出席、及び授業で課されるレポートの提出などは必須である。

オフィスアワー

随時(場所: 総合研究棟 I、1F、社河内教室、tel., fax.059-231-9384, e-mail: shako@mach.mie-u.ac.jp)

授業改善への工夫 演習問題(一部、英語教科書からの英文による演習問題を使用)を多く取り入れ、理解の向上に努める。また、授業中、適宜、各自に演習問題を課し授業に参加させ考えさせる時間を設定する。

その他 授業への出席、及び授業で課されるレポートの提出などは必須である。

第3回 運動の表し方(等速度運動と等加速度運動)

第4回 運動の表し方(速度・加速度と微積分)

第5回 運動の法則(ニュートン力学の体系、運動方程式)

II エネルギーと運動量

第6回 仕事とエネルギー

第7回 力学的エネルギー保存則

第8回 運動量保存則(運動量と力積)

第9回 運動量保存則(衝突とエネルギー)

III 振動と円運動

第10回 単振動・単振り子

第11回 等速円運動

第12回 万有引力・角運動量

第13回 慣性力（見かけの力、慣性力、遠心力、コリオリ力）

IV 剛体の力学

第14回 剛体剛体に働く力、回転運動の方程式

第15回 剛体の運動

V まとめ

第16回 総まとめ、試験

学習課題（予習・復習） 毎回、演習問題を中心に復習、予習をすること。

基礎物理学I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 分子素材工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 藤原 裕司

授業の概要 これまでの高校における物理学, 数学と将来の工学部専門科目への橋渡しとして, 基本的な学問である力学を対象に, 手段としての数学の自然科学への応用について学ぶ. 具体的には, 基礎方程式である運動方程式に基づいて, 力による物体の位置の時間変化を演繹的に導く.

学習の目的 力学の基礎である運動方程式を通して, 力による物体の運動の変化, エネルギーの考え方を学ぶとともに, 数学による実際の現象へのアプローチを理解する.

学習の到達目標 質点, 質点系, 剛体へと至る力学の体系を理解することで, 運動方程式に基づいてさまざまな現象へ応用する方法および科学において必要な演繹的な思考方法を醸成する.

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 微分, 積分の基礎を修得していることが望ましい.

予め履修が望ましい科目 微分, 積分に関する数学科目

発展科目 基礎物理学II

教科書 物理入門コース1 力学: 戸田盛和著 (岩波書店)

参考書 物理学講義 力学: 松下貢 (裳華房)

成績評価方法と基準 レポート50%, 定期試験50%

オフィスアワー 随時対応します. 電子メールで予約してもらえると確実です.

授業改善への工夫

授業時間内に演習の時間を確保し, 個別の質問に答えます.

Moodleを利用して, 演習問題, 略解を提示し, 質問にも回答します.

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 運動, エネルギー

Key Word(s) Classical mechanics

学習内容

第1回 単位と次元

第2回 位置, 速度, 加速度

第3回 運動の法則

第4回 運動量と力積

第5回 質点の簡単な運動I

第6回 質点の簡単な運動II

第7回 仕事と運動エネルギー

第8回 力のポテンシャルとエネルギー保存則

第9回 中心力

第10回 角運動量

第11回 質点系の運動量と運動エネルギー

第12回 質点系の角運動量

第13回 剛体の運動方程式

第14回 剛体の簡単な運動

第15回 コマの歳差運動

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) シラバスに基づき予習してください. 可能ならMoodle上の演習問題を事前に解答しておいてください.

基礎物理学 I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 対象 分子素材工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 宮西 基明

授業の概要

速度と加速度など瞬間の変化の求め方と運動の法則を理解し、運動方程式の記述と解法より物体の

運動を求める方法を習得する。また、運動量やエネルギー保存則などの物理の基本法則を導く。

エネルギー、運動量など物理の基礎となる量について学んでいく。

学習の目的 力学を通して物理の基礎と科学的な考え方を学ぶ。

学習の到達目標

力を式で表し運動方程式を記述することができる。

基礎的な力について運動方程式の一般解と特別解を求めることができる。

求めた解を図示しすることができ、また描かれた図の意味を読み取ることができる。

運動方程式の解法より物体の運動や保存則を導くことができる。

ポテンシャル、保存力などの概念を理解す

る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

予め履修が望ましい科目 数学。特に三角関数、ベクトルの内積・外積、微分・積分、偏微分などの基礎的事項

発展科目 電磁気学

参考書

「物理学」小出照一郎著 裳華房。「物理学I」大槻義彦著 学術図書出版社。
随時プリント等を配布する。

成績評価方法と基準 欠席は5回以内であること。演習30%、期末試験70%。

授業改善への工夫

随時演習の時間を設け巡回するので、このときを質問の時間にあてる。

演習はその都度提出とし、合格点未満の場合は再提出とする。演習の成績は平常点に加えていく。

授業計画・学習の内容

キーワード 力学 力と運動 運動の法則 科学的な考え方

Key Word(s) mechanics, force and motion, laws of motion, scientific attitude of mind

学習内容

第1回 瞬間の変化の求め方

第2回 速度と加速度

第3回 運動の法則、運動方程式

第4回 簡単な運動の求め方

第5回 放物運動

第6回 単振動、減衰振動

第7回 仕事と運動エネルギー

第8回 保存力とポテンシャル

第9回 力学的エネルギー保存則

第10回 力積と運動量

第11回 衝突と運動量保存則

第12回 力のモーメントと角運動量

第13回 質点系の力学：重心運動と相対運動

第14回 固定軸の回りの剛体の運動

第15回 慣性モーメント

第16回 期末試験

学習課題（予習・復習）

極限と微分、積分、ベクトルの内積と外積、偏微分
微分方程式の解法

基礎物理学 I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 対象 工学部建築学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 小竹 茂夫 (工学部 機械工学科)

授業の概要

力学は広い意味での物理学の根幹であり、細分化された各分野にもその痕跡を見ることが出来る。高校までの式を憶える物理学から、森羅万象は法則に支配された調和のある世界であることを理解し、自然観が改められることを期待する。

高校までの学習を背景として古典力学を中心として講義するが、日常での現象との関わりや、現代物理との関連についても適宜述べる。

学習の目的

- ・運動方程式を微分方程式で書き下せる。
- ・運動方程式を微分・積分を使って解くことができる。
- ・剛体の運動が理解できる
- ・単振動が理解できる
- ・古典力学と量子力学、相対性理論との違いが理解できる

学習の到達目標

- ・高校までは公式の暗記に終わっていた力学だが、これを微分・積分を使った理解へと発展させる。
- ・剛体の運動方程式により、斜面を転がる剛体の運動を理解できる。
- ・単振動を運動方程式を解くことにより理解できる。
- ・量子力学、相対性理論がどういった考えかたであるかが理解できる。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 論理的思考力, 問題解決力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特にないが、高校までの力学を復習しておくこと

発履科目 科学史や力学史の統合教育科目を受講すると、別の視点から力学を見ることが出来る。

教科書

- ・原康夫著 「物理学基礎」 学術図書出版社 (ISBN 978-4-7806-0217-3)
- ・原康夫, 右近修治著 「物理学演習問題集 力学編」 学術図書出版社 (ISBN 978-4-7806-0170-1)

参考書 副島雄児 杉山忠男, 「力学」 講談社基礎物理学シリーズ, 講談社 (ISBN 9784061572010)

成績評価方法と基準

Moodleの小テスト(10点満点)をp点, 授業のレポート(10点満点)をq点, 期末試験(80点満点)をr点とし, $100 \cdot (p+q+r)/(p+q+80)$ 点を評価点とする。

ただし、出席等の状況も考慮し、総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週月曜日12:20~14:30、場所 工学部機械棟2F 2211号室

授業改善への工夫

Moodleの小テストをおこなう。
小テストで正誤問題を解くことにより、力学の知識を定着させる。
毎回、授業のレジュメを配る。
レジュメをMoodleにて配布する。
微分方程式による力学の理解が難しいため、ここを丁寧に教えることとする。
逆に剛体の力学は入門的な理解にとどめ、初歩的な問題を解くだけとする。
振動現象は理解しにくいため省き、量子力学や相対性理論等、現代物理との関係について講義する。

その他 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 力学，ニュートンの3法則，並進運動，力，運動量，エネルギー，仕事，重心，回転運動，剛体，力のモーメント，回転運動量

Key Word(s) mechanics, Newton's laws of motion, translational motion, force, momentum, energy, work, center of gravity, rotational motion, rigid body, moment of force, rotational momentum

学習内容

- 第1回 「科学とは何か？技術とは何か？」，「力学はどう発展してきたのか」
- 第2回 「ポテンシャル下での運動（位置，速度，加速度）：決定論的世界の軌道」
- 第3回 「ニュートンの運動方程式と運動の法則」，「等速直線運動，等加速運動」
- 第4回 「放物運動」
- 第5回 「粘性抵抗下の運動」
- 第6回 「機械的エネルギーの保存則」

第7回 「様々なエネルギー」

第8回 「慣性系と加速度系(非慣性系)」と「等価原理」

第9回 「重心」，「質点系における並進運動」

第10回 「質点の回転」

第11回 「力のモーメントと角運動量」

第12回 「固定軸周りの剛体の回転運動」と「剛体の慣性モーメント」

第13回 「中心対称性の良い剛体の平面運動」

第14回 「回転運動下での慣性系と加速度系(非慣性系)」

第15回 「古典力学と相対性理論」と「古典力学と量子力学」

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習）

毎回配るレジュメ（講義録）に演習課題を示すので、これを数回に分けてレポートとして提出してもらう。

毎回、Moodleの小テストを復習として受講してもらう。

基礎物理学 I

Elementary Physics I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工学部情報工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 川上 博士(工学部)

授業の概要 様々な場面において、直面した事象に対する考察力が必要とされる。本講義では、日常生活において体験する自然現象の一つである色々な運動に関して、運動の法則に代表される物理法則および関連する数学的事項を学習する。これにより、運動現象に対する物理的な視点と数学的处理能力を養う。

学習の目的 各種座標系、質点系の運動（直線運動、振動、回転運動など）および剛体の運動に関する概念とその数学的記述の理解を目的とする。

学習の到達目標 力学問題に対する基本的理解および数学知識の活用

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 座標系、質点、剛体、直線運動、振動、回転運動

Key Word(s) Coordinate systems, Particle, Mass point, Rigid body, Linear Motion, Vibration, Rotational motion

学習内容

- 第1回 運動を特徴づける量
- 第2回 運動の法則 I
- 第3回 運動の法則 II
- 第4回 仕事とエネルギー I
- 第5回 仕事とエネルギー II
- 第6回 いろいろな振動 I

教科書 教科書：河辺哲次 スタンダード力学 (裳華房)

成績評価方法と基準 定期試験・宿題・出席日数により総合的に評価する

オフィスアワー

質問等は随時受付

まずは、下記アドレスへ連絡して下さい。

kawakami@mach.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 宿題レポートにより理解度を適宜把握し、以降の講義内容に反映させる。

その他

各テーマ学習後に簡単な宿題を提示するので、次回講義開始時に提出すること。

宿題レポートは単なる数学的手法による回答だけでなく、運動を表す図を示し、その問題に対する考え方を必ず添えること。

第7回 いろいろな振動 II

第8回 中心力を受ける質点の運動 I

第9回 中心力を受ける質点の運動 II

第10回 質点系の運動 I

第11回 質点系の運動 II

第12回 剛体の運動 I

第13回 剛体の運動 II

第14回 相対運動 I

第15回 相対運動 II

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 各章終了後に課された宿題を、次回授業前に提出すること。図を用い、解き方を明示すること。

基礎物理学I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 木 5,6 単位 2 対象 理工工学科のみ 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 阿部純義 (工学部理工工学科)

授業の概要 物理学の出発点である質点と剛体の力学の初歩を学ぶ。Newtonの力学の法則とそれに基づく自然界にみられる簡単な力学の現象を数学的に記述し、その物理的性質を理解をする。

学習の目的 力学現象を数理的に解析し、その物理的性質を把握理解出来るようになることを目的とする。

学習の到達目標 質量、運動量、速度、加速度、角運動量、仕事、力学的エネルギー、Galileiの相対性原理、多体系、剛体などの基本的な概念を理解する。簡単な系の運動を記述するNewton方程式を立てて、その解を求め、現象を物理的に解釈出来るようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 同時に、微分積分学と線形代数学を勉強していること。

予め履修が望ましい科目 同時に、微分積分学と線形代数学を勉強していること。

授業計画・学習の内容

キーワード 質量、Newtonの運動の法則、運動量、角運動量、仕事、エネルギー、保存則、質点の運動、Keplerの法則、Galileiの相対性原理、多体系、剛体

Key Word(s) mass, Newtonian laws of motion, momentum, angular momentum, work, energy, conservation laws, motion of a particle, Kepler's laws, Galileian principle of relativity, many-body systems, rigid bodies

学習内容

第1回 運動の記述 (質点、座標系、ベクトルの内積と外積)

第2回 運動の法則 (Newtonの三法則、慣性質

発展科目 解析力学、統計力学、量子力学

教科書 戸田盛和著「物理入門コース1 力学」(岩波書店) <初級レベル>

参考書

(1) 戸田盛和著「力学」(物理入門コース1、岩波書店)

<初級レベル>

(2) ゴールドスタイン著「古典力学上・下」(吉岡書店) <上級レベル>

(3) ランダウ=リフシッツ著「力学」(東京図書) <上級レベル、研究者を目指す人向け>

(2)と(3)は解析力学の参考書としても推奨します。

成績評価方法と基準 定期試験：80%、数回のレポート：20%

オフィスアワー 随時、メール (sabe@phen.mie-u.ac.jp) で問い合わせ下さい。

授業改善への工夫 内容と水準の高さを保つ。

その他 講義のみに頼るのではなく、各自で教科書や参考書で勉強すること。

量と重力質量)

第3回 円運動、放物体の運動

第4回 単振動

第5回 減衰振動

第6回 強制振動、共鳴

第7回 保存力、ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギー保存則

第8回 中心力、角運動量保存則、惑星の運動 (その1)

第9回 惑星の運動 (その2)

第10回 慣性系、Galileiの相対性原理、非慣性系と慣性力

第11回 質点系、重心運動と相対運動 (その1)

第12回 質点系、重心運動と相対運動 (その2)

第13回 質点系、重心運動と相対運動（その3）、剛体の慣性モーメント

第14回 剛体の運動方程式、固定軸のまわりの剛体の回転（その1）

第15回 固定軸のまわりの剛体の回転（その2）

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） シラバスに基づき、毎回予習を求める。また、数回のレポート課題を与える。

基礎物理学 II

Basic Physics II

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 対象 工学部機械工学科 年次 学部(学士課程): 2年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 松島 武男

授業の概要 クーロンの法則から始め、マクスウエルの方程式までを学ぶ。

学習の目的 電磁気学の基礎を理解することを目的とする。

学習の到達目標 機械科の学生が対象であるがエレクトロニクスの基礎知識は今日必須であるのでマクスウエルの方程式までは是非理解して欲しいものである

本学教育目標との関連 論理的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 力学を習得していることが望ましい

教科書 教科書 小出昭一郎著『電磁気学』(物理学分冊版)裳華房

成績評価方法及び基準 期末試験100%

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果を参考にして授業改善を行っている。

その他 論理的に「考える力」=70% 自然現象に対する「感じる力」=30%

授業計画・学習の内容

キーワード 電磁気学の基本法則

Key Word(s) Fundamental laws of electromagnetism

学習内容

下記の順序で講義を行う。

- 1 静電場におけるクーロンの法則
- 2 ガウスの法則と電場の導入
- 3 静電ポテンシャルと電位
- 4 静電容量とキャパシター
- 5 誘電分極

- 6 電束密度
- 7 オームの法則
- 8 磁石と磁場
- 9 静磁場におけるクローンの法則
- 10 ビオ・サバールの法則
- 11 アンペールの法則
- 12 電磁誘導
- 13 電気振動
- 14 拡張されたアンペールの法則
- 15 マクスウエルの基礎方程式

基礎物理学 II

Basic Physics II

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 対象 機械工学科 年次 学部(学士課程): 2年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 松島 武男

授業の概要 クーロンの法則から始め、マクスウエルの方程式までを学ぶ。

学習の目的 電磁気学の基礎を理解することを目的とする。

学習の到達目標 機械科の学生が対象であるがエレクトロニクスの基礎知識は今日必須であるのでマクスウエルの方程式までは是非理解して欲しいものである

本学教育目標との関連 論理的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 力学を習得していることが望ましい

教科書 教科書 小出昭一郎著『電磁気学』(物理学分冊版)裳華房

成績評価方法及び基準 期末試験100%

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果を参考にして授業改善を行っている。

その他 論理的に「考える力」=70% 自然現象に対する「感じる力」=30%

授業計画・学習の内容

キーワード 電磁気学の基本法則

Key Word(s) Fundamental laws of electromagnetism

学習内容

下記の順序で講義を行う。

- 1 静電場におけるクーロンの法則
- 2 ガウスの法則と電場の導入
- 3 静電ポテンシャルと電位
- 4 静電容量とキャパシター
- 5 誘電分極

- 6 電束密度
- 7 オームの法則
- 8 磁石と磁場
- 9 静磁場におけるクローンの法則
- 10 ビオ・サバールの法則
- 11 アンペールの法則
- 12 電磁誘導
- 13 電気振動
- 14 拡張されたアンペールの法則
- 15 マクスウエルの基礎方程式

基礎物理学 II

Basic Physics II

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 分子素材工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 飯田 和生 (工学部)

授業の概要 力学と並び物理学の重要な柱となっている電磁気学の基礎を学習する。

学習の目的 電磁気学の学習を通じて電気現象がいかに私たちの日常生活と密接に関係しているかを理解する。

学習の到達目標 電磁気学の基本的な概念を理解し、電磁気学的な現象が物理の基本法則によって理解できるということを実感できるようにする。

本学教育目標との関連 共感, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校での物理

授業計画・学習の内容

キーワード 電磁気学

学習内容

授業内容

第1回 SI単位系

第2回 電荷、クーロンの法則

第3回 電界

第4回 ガウスの定理

第5回 電位

第6回 コンデンサー

第7回 静電誘導

第8回 直流回路、オームの法則

発展科目 電気工学通論、他の物理関連専門科目

教科書 高橋正雄「基礎と演習 理工系の電磁気学」(共立出版)

成績評価方法及び基準 期末試験100%

オフィスアワー

月曜 16:00-18:00 工学部電気電子棟1階1110室
メールによる質問も可 iida@elec.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 高校での物理 II 未履修者にも電磁気学の基本的な考え方を理解できるように授業を進める。

その他 質問等は疑問に思ったすぐが一番いいので、授業が終わった直後にできるだけして下さい。

第9回 キリヒホッフの法則

第10回 電流計・電圧計

第11回 電流がつくる磁界

第12回 電流が磁界から受ける力

第13回 電磁誘導

第14回 自己誘導・相互誘導

第15回 交流

第16回 試験

学習課題(予習・復習) 授業で学習した部分に対応した章末の演習問題を復習として解いておく。

基礎物理学 II

Basic Physics II

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 工学部情報工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 仲本 朝基(非常勤講師)

授業の概要 力学と並んで工学の基礎となる電磁気学に関する基本事項を中心に講義する。

学習の目的 力学と並んで工学の基礎となる電磁気学に関する基本的事項を習得する。

学習の到達目標 基本的な電磁気学に関する問題の解法ができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 高校レベルの数学についてはマスターしていること。

教科書 科学者と技術者のための物理学III 電

磁気学 Raymond A.Serway著 松村博之訳 学術図書出版社

参考書

基礎物理学演習 後藤憲一、小早川恵三、國友正和共編 共立出版株式会社

基礎物理学演習 II 永田一清編 サイエンス社

成績評価方法と基準 中間試験50%, 定期試験50%

オフィスアワー 質問があれば、毎回の講義終了直後に受け付けます。

授業改善への工夫 中間試験実施後に実施する授業アンケートを参考に、必要に応じて適宜改善

授業計画・学習の内容

キーワード 電磁気学の基礎

Key Word(s) Fundamentals of Electromagnetics

学習内容

第1回 電荷、導体と絶縁体、クーロンの法則

第2回 電場、ガウスの法則

第3回 電位、等電位面、孤立した帯電導体

第4回 電気容量

第5回 誘電体

第6回 キルヒホッフの法則、RC回路

第7回 電流と抵抗

第8回 中間試験

第9回 磁場、磁気双極子モーメント

第10回 電流がつくる磁場

第11回 ファラデーの電磁誘導の法則

第12回 自己誘導と相互誘導、インダクタンス

第13回 電磁振動と交流

第14回 マクスウェル方程式、電磁波

第15回 まとめ

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 毎回、その日の講義内容に関連した問題演習プリントを配布するので、次回までに考えておくこと。

基礎物理学IIIA

Basic PhysicsIIIA

学期 前期 **開講時間** 木3,4 **単位** 2 **対象** 本講義は、電気電子工学科2年生を対象とした講義である。他学科の学生の受講は、原則として認めない。 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修

授業の方法 講義

担当教員 平松 和政(工学部), ○元垣内 敦司(工学部)

授業の概要 熱力学(熱平衡、温度、エントロピーなど)、統計力学(平衡状態、状態数、エントロピー、自由エネルギーなど)の基礎について理解する。

学習の目的 熱力学、統計力学に関する知識を得る。

学習の到達目標

熱力学、統計力学の基礎について理解すると同時に、工学分野の専門教育科目を履修のための基礎とする。

★工学部電気電子工学科JABEE関連項目: 学習・教育目標: 基礎・専門知識(0.7)、多面的思考能力(0.3)に関する能力を向上させる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術

受講要件 1年次に受講する数学、物理学・化学の講義内容を十分に理解しておく。

予め履修が望ましい科目 基礎微分積分学Ⅰ・Ⅱ、確率・統計及び演習、基礎物理学Ⅰ、化学Ⅰ、化学Ⅱ

発展科目 電気電子工学応用実験、材料科学、固体電子工学、量子力学、半導体工学、電気電子材料、光エレクトロニクス、電子デバイス工学

教科書 和田純夫「グラフィック講義 熱・統計力学の基礎」(サイエンス社)

授業計画・学習の内容

キーワード 熱力学、統計力学、熱力学の第1法則、熱平衡、熱機関、熱力学の第2法則、確率分布、エントロピー、自由エネルギー、相転移、ボルツマン因子、正準分布

Key Word(s) thermodynamics, statistical physics, first law of thermodynamics, thermal equilibrium, heat engine, second law of thermodynamics, distribution of probability,

参考書

和田純夫「熱・統計力学のききどころ」(岩波書店、物理講義のききどころ4)

原康夫「物理学通論Ⅰ」(学術図書出版社)

戸田盛和「物理入門コース7 熱・統計力学」(岩波書店)

香取真理「統計力学」(昇華房)

沼居貴陽「固体物理学入門」(森北出版)

沼居貴陽「統計物理入門」(森北出版)

成績評価方法と基準 欠席4回以下を前提として定期試験の成績(100%)により評価する。

オフィスアワー

オフィスアワー: 木曜 9:00~10:00 平松教授室: 電気電子棟1階1120室

水曜 16:30~18:00 元垣内准教授室: 電気電子棟1階1118室

電子メールアドレス: hiramatu@elec.mie-u.ac.jp (平松), motogaito@elec.mie-u.ac.jp (元垣内) (訪問予定をE-mailによって尋ねてください)

授業改善への工夫 授業は、原則的にテキスト沿って行う。理解を助け、自然と実力が身に付くように、演習問題を適宜行う。演習はレポート以外に講義時間中に設け、学生自らが考えて問題を解くように工夫をしている。

その他 工学部電気電子工学科2年生向けに講義を行う。

entropy, free energy, phase transition, Boltzmann factor, canonical distribution

学習内容

<熱力学・統計力学>

第1回 第1章 内部エネルギー・熱・仕事

第2回 第1章 熱力学の第1法則

第3回 第2章 理想気体の状態方程式

第4回 第2章 熱機関・熱力学の第2法則

第5回 第3章 粒子の確率分布
第6回 第3章 エントロピー
第7回 第4章 自由エネルギー
第8回 第4章 系の平衡状態
第9回 演習 (第1章～4章の内容)
第10回 第5章 固相・液相・気相
第11回 第5章 相転移
第12回 第5章 溶液の性質
第13回 第7章 ボルツマン因子
第14回 第7章 正準分布
第15回 演習 (第5章と7章)

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習)

- ・熱力学・統計力学的な考え方の相違を理解する。
- ・エネルギー、熱、圧力、エントロピーなどの熱力学諸量を正確に理解する。
- ・演習を通して、仕事、熱、エントロピー、及び熱機関の計算に習熟する。
- ・平衡状態と状態数の関係を理解し、統計力学的な考え方を習得する。

基礎物理学III A

Basic Physics IIIA

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工学部物理工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 山下 護

授業の概要 熱力学は19C中葉にできあがった理論体系であって、原子の実体が明らかにされる前の現象論であるが、かえってそれゆえに理論的に見事な体系である。本講義では理学・工学に必須である熱力学を教授する。

学習の目的 熱力学は力学、電磁気学とともに物理学の体系の基礎をなしている。物理学や工学を志す学生にとって、これらを学び習得することは不可欠である。

学習の到達目標 熱現象についての基礎概念、2つの基本法則を理解すること。それを用いて熱的諸現象を実際に取り扱える力を身につけること、つまり初級、中級の演習問題を解けるようになること。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力、考え

る力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 工学部物理工学科

予め履修が望ましい科目 基礎物理学I(力学)

発展科目 統計力学、量子力学、固体物理学

教科書 熱・統計力学(物理学入門コース7、戸田盛和著、岩波書店)

成績評価方法と基準 定期試験80%、小テストなど20%

オフィスアワー 非常勤講師であるので、照会は学年担任、物理工学科量子工学の教員、あるいは事務室。

授業改善への工夫 開講時に講義方針、内容、講義の進め方など例年の経験に基づいて計画するが、学生の反応や要望に応じて適宜改善。

授業計画・学習の内容

キーワード 熱平衡、状態量、熱力学第1法則、熱力学第2法則、エントロピー

Key Word(s)

thermal equilibrium, state variable, first law of thermodynamics, second law of thermodynamics, entropy

学習内容

- 第1回 熱力学の歴史、温度概念、理想気体
- 第2回 実在の気体と相図
- 第3回 熱と仕事
- 第4回 熱力学第1法則
- 第5回 準静変化、完全微分

第6回 比熱と内部エネルギー

第7回 理想気体の断熱変化

第8回 熱機関と不可逆変化

第9回 熱力学第2法則

第10回 可逆機関の効率

第11回 エントロピー

第12回 エントロピー増大の法則

第13回 熱力学的関係式

第14回 安定性と変化の方向

第15回 演習

学習課題(予習・復習) 毎回次の学習範囲を示し、進捗に応じて演習問題を課す。

基礎物理学 III B

Basic Physics III B

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 分子素材工学科 年次 学部(学士課程): 2年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 小海 文夫 (工学部分子素材工学)

授業の概要 化学反応の時間依存性に焦点をあて、速度式、速度定数などから反応速度論の基礎を学習する。原子・分子(ミクロ)と圧力や温度(マクロ)との関係を気体分子運動論で学習する。熱力学関数であるエンタルピー、エントロピー、自由エネルギー等が統計熱力学で如何に記述できるかを基礎から学習する。

学習の目的 反応速度式や定数、気体運動、統計熱力学を学習することから、化学反応の基本概念を理解できるようになる。

学習の到達目標 専門課程での講義を理解し、研究を進めていく上で必要な、化学反応論、統計熱力学、化学平衡論等に関する知識を習得する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 反応速度、反応機構、気体分子運動論、熱力学関数、統計熱力学

学習内容

第1回熱力学の復習と反応速度論の序論

第2回速度式

第3回反応機構

第4回速度定数の解釈I

第5回速度定数の解釈II

第6回気体の状態方程式

第7回気体分子運動論

第8回中間試験

第9回統計熱力学とその組立

第10回分子エネルギー準位の分配の仕方

第11回Boltzmann分布

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 基礎物理学I-III、物理化学A等

発展科目 物理化学B、C等

教科書 教科書: 基礎物理化学II (山内淳著、サイエンス社)

成績評価方法と基準 中間試験30%、定期試験70%、計100%。

オフィスアワー 毎週月曜日9:00から10:00、場所総合研究棟2階小海教員室あるいは、講義終了後に予約して下さい。

授業改善への工夫 講義に対する学生の要望を随時受け付けるので、こうした事を参考にして授業の改善に対応したい。学生の授業評価アンケートの結果等は、次年度以降の参考になりたい。

第12回分子分配関数

第13回集合分布関数

第14回集合分布関数と熱力学関数との関係I

第15回集合分布関数と熱力学関数との関係II

第16回定期試験

学習課題(予習・復習)

物理化学Aで学習した熱力学の復習。

第1回から第8回までは物理化学Aで使用した教科書を使用するので、予習すること。

第9回以降は予めプリント等を配布するので予習すること。

適宜課題をあたえるので、課題を解いて復習すること。

物理学基礎 I

Basic Physics I

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義
担当教員 酒井 俊典 (生物資源学部)

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的 自然現象を数学のことで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現ができることが学習の目的です。

学習の到達目標 力学の基礎について、数学を用いて理解し、表現できることを学習の到達

目標とします。

本学教育目標との関連 感性、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 基礎数学など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 演習で理解する基礎物理学-力学-, 御法川幸雄・新居毅人, 共立出版

成績評価方法と基準 小テスト+レポート20%, 期末試験80%

オフィスアワー 木曜日14:40-16:10, 生物資源学部317室

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位, 位置, 速度, 加速度, 運動の法則, 摩擦, 仕事, エネルギー

Key Word(s) mechanics, unit, position, velocity, acceleration, laws of motion, friction, work, energy

学習内容

- 第1回 はじめに
- 第2回 単位系
- 第3回 1次元の運動
- 第4回 2次元の運動
- 第5回 2次元の運動
- 第6回 力のはたらき

- 第7回 力のつりあい
- 第8回 運動の法則
- 第9回 落下の運動
- 第10回 抵抗を受ける運動
- 第11回 等速円運動と単振動
- 第12回 仕事
- 第13回 運動とエネルギー
- 第14回 ポテンシャルエネルギー
- 第15回 力学的エネルギー
- 第16回 定期試験(期末試験)

学習課題 (予習・復習) 各回の予習と復習を行うこと

物理学基礎 I

Basic Physics 1

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 対象 生物資源学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 王 秀崙(生物資源学部)

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的

質点の運動やその表し方について説明することを目的とする。

自然現象の数式表現方法を理解し、これらの知識を用いて自然現象を説明したり解析したりすることができることを目的とする

学習の到達目標 自然現象を数学のことで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位系, 座標系, 質点の運動, 位置・速度・加速度, 運動の法則, 円運動, 摩擦力, 振動, 仕事とエネルギー

Key Word(s) Mechanics, units, vector, force, motion, law of gravitation, Newton's laws, energy

学習内容

- 第1回 運動の表し方, 物理量
- 第2回 位置, 速度, 加速度の関係
- 第3回 力と運動, ベクトル
- 第4回 最大静止摩擦力, 動摩擦力
- 第5回 運動の法則

本学教育目標との関連 感性, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 共生環境学科1年生

予め履修が望ましい科目 数学基礎など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 教科書 演習で理解する基礎物理学一力学一, 御法川幸雄, 新居毅人[著], 共立出版

成績評価方法と基準

3分の2以上出席した者を評価の対象とする。

評価点=レポート(20%)+期末試験(80%)

オフィスアワー 火曜日16:20~17:50

授業改善への工夫 レポートを用いて学生の理解度を分析し、次回の授業でその問題点を説明すると同時に授業の改善に努める。

- 第6回 落体の運動, 重力と万有引力, 放物運動
- 第7回 抵抗を受ける運動
- 第8回 等速円運動
- 第9回 単振動
- 第10回 仕事とエネルギー
- 第11回 力学的エネルギー保存則
- 第12回 運動量と運動量保存の法則
- 第13回 角運動量と回転運動の方程式
- 第14回 見かけの力, 慣性力
- 第15回 コリオリの力
- 第16回 定期試験(期末試験)

学習課題(予習・復習) 各回の予習と復習を行うこと

物理学基礎 I

Basic Physics I

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義
担当教員 大野 研 (教養教育機構)

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的 自然現象を数学のことで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現ができることが学習の目的です。

学習の到達目標 力学の基礎について、数学を用いて理解し、表現できることを学習の到達

目標とします。

本学教育目標との関連 感性、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 基礎数学など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 演習で理解する基礎物理学-力学-, 御法川幸雄・新居毅人, 共立出版

成績評価方法と基準 小テスト+レポート20%, 期末試験80%

オフィスアワー 木曜日14:40-16:10, 生物資源学部374室

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位, 位置, 速度, 加速度, 運動の法則, 摩擦, 仕事, エネルギー

Key Word(s) mechanics, unit, position, velocity, acceleration, laws of motion, friction, work, energy

学習内容

第1回 はじめに

第2回 単位系

第3回 1次元の運動

第4回 2次元の運動

第5回 2次元の運動

第6回 力のはたらき

第7回 力のつりあい

第8回 運動の法則

第9回 落下の運動

第10回 抵抗を受ける運動

第11回 等速円運動と単振動

第12回 仕事

第13回 運動とエネルギー

第14回 ポテンシャルエネルギー

第15回 力学的エネルギー

第16回 定期試験(期末試験)

学習課題 (予習・復習) 各回の予習と復習を行うこと

物理学基礎 I

Basic Physics I

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 松島 武男

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことばで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことばで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的 自然現象を数学のことばで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現ができることが学習の目的です。

学習の到達目標 力学の基礎について、数学を

用いて理解し、表現できることを学習の到達目標とします。

本学教育目標との関連 感性、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 基礎数学など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 演習で理解する基礎物理学-力学-, 御法川幸雄・新居殺人, 共立出版

成績評価方法と基準 小テスト+レポート 20%, 期末試験80%

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位, 位置, 速度, 加速度, 運動の法則, 摩擦, 仕事, エネルギー

Key Word(s) mechanics, unit, position, velocity, acceleration, laws of motion, friction, work, energy

学習内容

第1回 はじめに

第2回 単位系

第3回 1次元の運動

第4回 2次元の運動

第5回 2次元の運動

第6回 力のはたらき

第7回 力のつりあい

第8回 運動の法則

第9回 落下の運動

第10回 抵抗を受ける運動

第11回 等速円運動と単振動

第12回 仕事

第13回 運動とエネルギー

第14回 ポテンシャルエネルギー

第15回 力学的エネルギー

第16回 定期試験(期末試験)

学習課題(予習・復習) 各回の予習と復習を行うこと

物理学基礎Ⅰ（再履修）

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 木1,2 単位 2 対象 再履修 年次 学部(学士課程): 2年次 選択 必修

授業の方法 講義

担当教員 大野 研（教養教育機構）

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的 自然現象を数学のことで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現ができることが学習の目的です。

学習の到達目標 力学の基礎について、数学を用いて理解し、表現できることを学習の到達

目標とします。

本学教育目標との関連 感性、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 基礎数学など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 演習で理解する基礎物理学-力学-, 御法川幸雄・新居毅人, 共立出版

成績評価方法と基準 小テスト+レポート20%, 期末試験80%

オフィスアワー 木曜日14:40-16:10, 生物資源学部374室

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位, 位置, 速度, 加速度, 運動の法則, 摩擦, 仕事, エネルギー

Key Word(s) mechanics, unit, position, velocity, acceleration, laws of motion, friction, work, energy

学習内容

- 第1回 はじめに
- 第2回 単位系
- 第3回 1次元の運動
- 第4回 2次元の運動
- 第5回 2次元の運動
- 第6回 力のはたらき

- 第7回 力のつりあい
- 第8回 運動の法則
- 第9回 落下の運動
- 第10回 抵抗を受ける運動
- 第11回 等速円運動と単振動
- 第12回 仕事
- 第13回 運動とエネルギー
- 第14回 ポテンシャルエネルギー
- 第15回 力学的エネルギー
- 第16回 定期試験(期末試験)

学習課題（予習・復習） 各回の予習と復習を行うこと

物理学実験

Basic Physics Laboratory

学期 前期 開講時間 月 5, 6, 7 単位 1 対象 工・情報2年（再履修の学生は、学部・学科・学年に制限なく受講できる） 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 実験 授業の特徴 PBL

担当教員 ○鳥飼正志(工学部), 佐野和博(工学部), 秋山亨(工学部), 中村浩次(工学部), 内海裕洋(工学部), T.ニワット(工学部), 宮西基明(非常勤講師)

授業の概要 物理学の基礎的な実験をおこなう。

学習の目的 基礎的な実験を通して物理学の理解を深め、各種の実験機器の操作法やデータ処理法を学ぶことによって、多くの自然科学の分野に共通して必要となる知識を身につける。

学習の到達目標 基礎的な実験機器の操作手法とデータ処理法を習得する。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

受講要件

情報工学科:

原則として「基礎物理学I」または「基礎物理学II」のいずれか2単位を取得していること。他学科の学生の受講要件は、共通教育履修案内を参照。

予め履修が望ましい科目 特に指定しない。

発展科目 各学科での実験科目。

教科書

「物理学実験」(三重大学出版会)および「物理学実験レポート用紙」(三重大学共通教育物理学編)。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎的な物理学実験

Key Word(s) mechanics, thermodynamics, acoustics, optics, electronics

学習内容

第一回:(共通教育校舎4号館一階の物理学第3実験室に集合すること)

ともに最初の授業の数十分まえから実験室前で販売するので、早めに来て購入すること(合計2100円であるが、年度によって変更の可能性もあるので多めに準備する)。毎回、これら2つに加えて関数電卓と実験データ記録用紙5, 6枚を持参すること。実験データ記録用紙は市販の罫線入りレポート用紙、白紙、ルーズリーフなど(各実験ごとに提出するので、1枚ずつ切り離せる物)。

成績評価方法と基準

予習・レポート・実験ノートを80%、実験に取り組む姿勢を20%として評価する。原則として(体調不良などのやむを得ない場合を除いて)、欠席・遅刻・早退を一度もしないことが成績評価の最低基準である。

オフィスアワー 質問などは授業時間中に実験室にて随時受け付ける。

授業改善への工夫 学生からの要望や実験への取り組み方などを参考にして、改善をはかっていきたい。

その他

無断欠席・遅刻は厳禁。遅刻した場合は受講させない。無断欠席の場合は単位を与えないことがある。病気などの正当な理由による欠席でも事前に連絡して許可を得ること。特に初回に遅刻すると、開始前に実験室前で販売する教科書およびレポート用紙を購入できないので、絶対に遅刻しないこと。

1. 受講者の確定および共同実験者と実験計画の決定。
2. 実験の一般的説明および円柱の体積の測定実験。
第二回以降:(実験テーマによって実験室が異なる)
受講者は各週にひとつ、毎週ことなる実験を

する。実験中に各受講者の次週の実験のテーマを掲示するので、実験が終了して帰る前に確認すること。

テーマは以下のものからこちらが選び与える:

(a)重力加速度の測定、(b)Ewingの装置によるYoung率の測定、(c)ねじれ振子による慣性モーメント比の測定、(d)固体の比熱の測定、(e)気柱の共鳴による音速の測定、(f)Kundtの実験、(g)プリズムの屈折率の測定、(h)電流による熱の仕事当量の測定、(i)トランジスタの実験、(j)電気回路の基礎実験。

最終回:(共通教育校舎4号館一階の物理学第3実験室)

各自の実験の誤差処理。

補講:

許可を得て通常の授業を欠席した者は、未学習の実験について補講を受けることができる。

学習課題 (予習・復習) どの実験も必ず予習をして実験に臨むこと。実験テーマによっては予習問題が与えられている。予習問題は必ず前もって解いてくること。

物理学実験

Basic Physics Laboratory

学期 前期 開講時間 木 5, 6, 7 単位 1 対象 工・機械工学科2年 (再履修の学生は、学部・学科・学年に制限なく受講できる) 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 実験

授業の特徴 PBL

担当教員 ○松永 守(教養教育機構), 秋山亨(工学部), 内海裕洋(工学部), 松井博和(工学部), 河村 貴宏(工学部), 宮西基明(非常勤講師), 岩田達夫(非常勤講師)

授業の概要 物理学の基礎的な実験をおこなう。

学習の目的 基礎的な実験を通して物理学の理解を深め、各種の実験機器の操作法やデータ処理法を学ぶことによって、多くの自然科学の分野に共通して必要となる知識を身につける。

学習の到達目標 基礎的な実験機器の操作方法とデータ処理法を習得する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

受講要件

工・機械工学科: 「力学I」の2単位を取得していることあるいは「力学I」の担当教員から許可を得ていること。

他学科の学生の受講要件は、共通教育履修案内を参照。

予め履修が望ましい科目 特に指定しない。

発展科目 各学科での実験科目。

教科書

物理学実験 (三重大学出版会) および「物理学実験レポート用紙」(三重大学共通教育物理編)。

ともに最初の授業の数十分まえから実験室

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎的な物理学実験

Key Word(s)

mechanics, thermodynamics, acoustics, optics, electronics

学習内容

第一回:(共通教育校舎4号館一階の物理学第3実

験室に集合するので、早めに来て購入すること (合計2100円であるが、年度によって変更の可能性もあるので多めに準備する)。

毎回、これら2つに加えて関数電卓と実験データ記録用紙5, 6枚を持参すること。

実験データ記録用紙は市販の罫線入りレポート用紙、白紙、ルーズリーフなど (各実験ごとに提出するので、1枚ずつ切り離せる物)。
参考書

成績評価方法と基準

予習・レポート・実験ノートを80%、実験に取り組む姿勢を20%として評価する。

原則として(体調不良などのやむを得ない場合を除いて)、欠席・遅刻・早退を一度もしないことが成績評価の最低基準である。

オフィスアワー 質問などは授業時間中に実験室にて随時受け付ける。

授業改善への工夫 学生からの要望や実験への取り組み方などを参考にして、改善をはかっていきたい。

その他

無断欠席・遅刻は厳禁。遅刻した場合は受講させない。無断欠席の場合は単位を与えないことがある。病気などの正当な理由による欠席でも事前に連絡して許可を得ること。

特に初回に遅刻すると、開始前に実験室前で販売する教科書およびレポート用紙を購入できないので、絶対に遅刻しないこと。

験室に集合すること)

1. 受講者の確定および共同実験者と実験計画の決定。

2. 実験の一般的説明および円柱の体積の測定実験。

第二回以降:

受講者は各週にひとつ、毎週ことなる実験を

する。実験中に各受講者の次週の実験のテーマを掲示するので、実験が終了して帰る前に確認すること。

テーマは以下のものからこちらが選び与える:

(a)重力加速度の測定、(b)Ewingの装置によるYoung率の測定、(c)ねじれ振子による慣性モーメント比の測定、(d)固体の比熱の測定、(e)気柱の共鳴による音速の測定、(f)Kundtの実験、(g)プリズムの屈折率の測定、(h)電流による熱の仕事当量の測定、(i)トランジスタの実験、(j)電気回路の基礎実験。

最終回:

1.各自の実験の誤差処理。

2.半年のあいだ使用した実験ノートを提出して評価を受ける。

補講:

許可を得て通常の授業を欠席した者は、未学習の実験について補講を受けることができる。

学習課題（予習・復習） どの実験も必ず予習をして実験に臨むこと。実験テーマによっては予習問題が与えられている。予習問題は必ず前もって解いてくること。

物理学実験

Basic Physics Laboratory

学期 後期 開講時間 金 5, 6, 7 単位 1 対象 工・物理工学科2年/生物資源・環境情報システム2年 (再履修の学生は、学部・学科・学年に制限なく受講できる) 年次 学部(学士課程): 2年次

選択/必修 必修 授業の方法 実験 授業の特徴 PBL

担当教員 ○松永守 (教養教育機構), 佐野和博 (工学部), 鬼頭孝治(生物資源学部), 山下光司(生物資源学部), 宮西基明(非常勤講師), 岩田達夫(非常勤講師)

授業の概要 物理学の基礎的な実験をおこなう。

学習の目的 基礎的な実験を通して物理学の理解を深め、各種の実験機器の操作法やデータ処理法を学ぶことによって、多くの自然科学の分野に共通して必要となる知識を身につける。

学習の到達目標 基礎的な実験機器の操作方法とデータ処理法を習得する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

受講要件

工・物理工学科: 原則として「基礎物理学 I」または「基礎物理学 III」のいずれか2単位を取得していること。

生物資源学部: 原則として「基礎物理学 I」または「基礎物理学 II」のいずれか2単位を取得していること。

予め履修が望ましい科目 特に指定しない。

発展科目 各学科での実験科目。

教科書

物理学実験 (三重大学出版会) および「物理学実験レポート用紙」(三重大学共通教育物理編)。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎的な物理学実験

Key Word(s)

mechanics, thermodynamics, acoustics, optics, electronics

学習内容

ともに最初の授業の数十分まえから実験室前で販売するので、早めに来て購入すること (合計2100円であるが、年度によって変更の可能性もあるので多めに準備する)。

毎回、これら2つに加えて関数電卓と実験データ記録用紙5, 6枚を持参すること。

実験データ記録用紙は市販の罫線入りレポート用紙、白紙、ルーズリーフなど (各実験ごとに提出するので、1枚ずつ切り離せる物)。
参考書

成績評価方法と基準

予習・レポート・実験ノートを80%、実験に取り組む姿勢を20%として評価する。原則として(体調不良などのやむを得ない場合を除いて)、欠席・遅刻・早退を一度もしないことが成績評価の最低基準である。

オフィスアワー 質問などは授業時間中に実験室にて随時受け付ける。

授業改善への工夫 学生からの要望や実験への取り組み方などを参考にして、改善をはかっていきたい。

その他

無断欠席・遅刻は厳禁。遅刻した場合は受講させない。無断欠席の場合は単位を与えないことがある。病気などの正当な理由による欠席でも事前に連絡して許可を得ること。

特に初回に遅刻すると、開始前に実験室前で販売する教科書およびレポート用紙を購入できないので、絶対に遅刻しないこと。

第一回:(共通教育校舎4号館一階の物理学第3実験室に集合すること)

1. 受講者の確定および共同実験者と実験計画の決定。
2. 実験の一般的説明および円柱の体積の測定実験。

第二回以降:

受講者は各週にひとつ、毎週ことなる実験をする。実験中に各受講者の次週の実験のテーマを掲示するので、実験が終了して帰る前に確認すること。

テーマは以下のものからこちらが選び与える:

(a)重力加速度の測定、(b)Ewingの装置によるYoung率の測定、(c)ねじれ振子による慣性モーメント比の測定、(d)固体の比熱の測定、(e)気柱の共鳴による音速の測定、(f)Kundtの実験、(g)プリズムの屈折率の測定、(h)電流による熱の仕事当量の測定、(i)トランジスタの実験、(j)電気回路の基礎実験。

最終回:

- 1.各自の実験の誤差処理。
- 2.半年のあいだ使用した実験ノートを提出して評価を受ける。

補講:

許可を得て通常の授業を欠席した者は、未学習の実験について補講を受けることができる。

学習課題（予習・復習） どの実験も必ず予習をして実験に臨むこと。実験テーマによっては予習問題が与えられている。予習問題は必ず前もって解いてくること。

基礎化学A

Basic Chemistry A

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 新居淳二(教育学部)

授業の概要 物質の性質を化学的に理解するためのアプローチの一つである原子や分子などの性質を学び、続いてそれらの集合体としての物質の性質を学ぶ。

学習の目的 原子や分子などのミクロの世界を通して物質の性質を理解する。

学習の到達目標 原子や分子などのミクロの世界を通して物質の性質を理解できるようになる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

的思考力

受講要件 教員免許の取得を目指す人

発展科目 化学講義Ⅱ (教育学部専門科目)

教科書 プリントを使用。参考書は随時紹介する。

成績評価方法と基準 中間テスト及び期末テストの成績を平均して評価する。

オフィスアワー 月曜日13時-17時、場所：研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 教職を目指す人のための基礎化学

学習内容

第1回 原子論・分子論の歴史

第2～3回 原子の構造

第4～5回 原子の性質

第6回 問題演習

第7回 中間テスト

第8回 イオン結合

第9～10回 共有結合

第11回 分子間に働く力

第12～13回 気体の性質

第14回 固体の性質

第15回 問題演習

第16回 期末テスト

学習課題 (予習・復習)

【予習】 プリントの次週の講義内容の部分を通読しておくこと。

【復習】 その週に学習した内容に対応した章末の練習問題を解いてみること。

基礎化学B

Basic Chemistry B

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 岡垣 壮(生物資源学部)

授業の概要 生物体を構成し、生命活動を担う基本分子である糖質、脂質、タンパク質、核酸、無機塩類等の構造と機能について解説する。専門基礎として必要な生物化学の全体像を広範に取り扱う。

学習の目的 専門科目の生化学を理解するための基礎知識を身につける。高等学校では「生物」と「化学」は別々の科目として教えているが、現在の細胞生物学の現場では、遺伝子やタンパク質等の成分の化学的な性質を理解しておくことが、必要不可欠になっている。そこで本科目は、高校と大学の専門教育の橋渡しをする科目として位置づける。

学習の到達目標 生体構成成分の構造と機能、エネルギーや遺伝情報の流れについて、細胞、生体と関連づけて考えることによって、分子レベルからみた生命活動について理解と関心を深める。受講生は、高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活、天然高分子化合物の構造と機能について、基本的事項を指導できる能力を修得することを目標とする。

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 生体構成成分、遺伝情報、細胞、脂質、糖質、タンパク質、核酸、天然高分子化合物

Key Word(s) biomolecule, gene, cell, lipid, saccharide, protein, nucleotide

学習内容

- 第1回：細胞の基本構造
- 第2回：生体成分と化学結合
- 第3回：アミノ酸
- 第4回：タンパク質
- 第5回：核酸
- 第6回：糖質
- 第7回：脂質
- 第8回：糖質代謝とエネルギー生産
- 第9回：細胞が食物からエネルギーを得る仕組み

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 Essential細胞生物学 第3版(B.Albertsら著, 南江堂)

参考書 基礎から学びたい人: ZEROからの生命科学改訂3版(木下勉, 小林秀明, 浅賀宏昭著), 南山堂。わかる! 身につく! 生物・生化学・分子生物学(田村隆明著)南山堂。さらに勉強したい人: ベーシックマスター生化学(大山隆監修, 西川一八, 清水光弘共編)オーム社。ヴォート基礎生化学第4版(田宮信雄, 村松正實, 八木達彦, 遠藤斗志也記)東京化学同人。

成績評価方法と基準 中間テスト50%, 期末テスト50%で評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日13:00~18:00、生物資源学部 722室

授業改善への工夫 学生からの質問や意見、授業評価アンケートの結果などを参考にして改善する

- み
- 第10回：タンパク質の構造と機能1:立体構造と性質
- 第11回：タンパク質の構造と機能2:タンパク質の働くしくみ
- 第12回：タンパク質の構造と機能3:酵素
- 第13回：DNA:核酸の構造, DNA複製・修復
- 第14回：DNAからタンパク質へ:遺伝情報の流れ
- 第15回：タンパク質、遺伝子等解析技術
定期試験

学習課題(予習・復習) 講義プリント資料を配付する。なお、教科書としての指定はないが、Essential細胞生物学 第3版(B.Albertsら著, 南江堂)に沿って講義するので、購入することを強く推奨する。

基礎化学C

Basic Chemistry C

学期 後期 開講時間 金 1, 2, 3, 4 単位 2 対象 医学科1年生 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 樋廻博重

授業の概要 有機化合物の構造を立体的に捉え、その化合物の反応性を理解できるようになることを到達目標としている。

学習の目的 人体内でおこっている様々な化学反応を理解するための知識を得ることを目的としている。

学習の到達目標 医学部における専門教育科目である生化学、生理学および薬理学を理解

するのに必要な有機化学を修得させる。

教科書 「有機化合物の基礎」(東京化学同人)、「ガンにならない緑茶カテキンの驚異」(青春出版社)

成績評価方法と基準 小テストおよび期末テストの合計で評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12:00~13:00
樋廻教官室(4F)

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞生物学領域における有機化学の基礎

Key Word(s) Hydrogenation Iodine number phospholipid Glycolipid Sphingolipid Cholesterol Lecithin Cephalin Sphingomyelin Cerebroside Glycolipid Amine Pyrimidine Purine base Amino acid Peptide Protein

学習内容

第1回有機化合物の分類

第2回アルカン、アルケンの構造、命名法と性質

第3回ジエン、ポリエンの構造、命名法と性質

第4回アルコール、フェノールの構造、命名法と性質

第5回光学異性体の生物学的意義、不斉合成(ノーベル化学賞野依氏の業績)

第6回アルデヒド、ケトンの構造、命名法と性質

第7回エーテル、エポキシドの構造、命名法と性質

第8回カルボン酸の構造、命名法と性質

第9回炭水化物(糖質)の構造、命名法と性質

第10回油脂(脂質)の構造、命名法と性質

第11回アミノ酸の構造、命名法と性質

第12回タンパク質の構造と性質

第13回ポリフェノールの分類と性質

第14回有機化合物の構造決定(赤外線スペクトル、核磁気共鳴スペクトル、質量スペクトル)及びノーベル化学賞田中氏の業績

第15回クロスカップリング(ノーベル化学賞鈴木らの業績)

第16回定期試験

化学基礎I

Baisc Chemistry I

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 対象 資源循環学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 木村 哲哉 (生物資源学研究科)

授業の概要 資源循環に関わる現象やそれに関わる生物体やバイオマスなどを物質レベル・分子レベルで理解するのに必要な無機化学及び有機化学の基礎知識を身につけさせる。

学習の目的 生物資源学部では、タンパク質やDNAなどの分子レベル、微生物や動植物の細胞レベルや個体レベル、生物の集団レベルまで幅広い材料を扱って研究を行っている。それらを理解するための化学的基礎知識を身につけることが、学習の目的である。

学習の到達目標 生物資源に関わる現象やそれに関わる生物体や細胞などを物質レベル・分子レベルで理解するのに必要な学力を身につける。

授業計画・学習の内容

キーワード 分子軌道 化学結合 有機化学 生化学 pH

Key Word(s) organic chemistry, orbital, chemical bond, biochemistry, pH

学習内容

- 第1回 元素、原子、電子 (1)
- 第2回 元素、原子、電子 (2)
- 第3回 結合、電子、分子 (1)
- 第4回 結合、電子、分子 (2)
- 第5回 分子間相互作用
- 第6回 分子の数の表し方
- 第7回 炭素—生命体のもと

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

発展科目 共通教育、学部での化学関連科目

教科書 生命科学系のための基礎化学 東京化学同人 (Mitch Fry, Elizapeth Page著、林 利彦訳) ISBN978-4-8079-0703-8

参考書 大学への橋渡し 一般化学 (芝原寛泰・斉藤正治; 化学同人)

成績評価方法と基準 授業への取り組みと期末試験の結果を総合的に評価する。

オフィスアワー 月曜日 12:00~13:00、生物資源学研究科 761室

- 第8回 形だけが異なる同じ分子
- 第9回 水—生命の溶媒 その1
- 第10回 水—生命の溶媒 その2
- 第11回 反応する分子とエネルギー
- 第12回 反応中の分子と反応速度論
- 第13回 エネルギーと生命
- 第14回 生体反応の反応性
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 授業中にプリント等を配布するので、予習、復習に利用すること。

化学基礎 I

Basic Chemistry I

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 対象 生物資源学部 共生環境学科 1年対象 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 寺西 克倫(生物資源学部)

授業の概要 本講義は、化学に関して知っておくべき基礎知識を教授するとともに、理解に必要な基本的原理を専門的にならない範囲で解説し、化学専攻以外の学生が理解できるように解説する。

学習の目的 理系大学1年生が修得すべき化学の基礎の内容を理解する。知識の暗記ではなく、化学現象を論理的に思考し、理解することを目指す。

学習の到達目標 高等学校化学レベル、およびその延長にある理系大学の化学の基礎を理解、習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求

力、問題解決力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清 編著、化学同人

成績評価方法と基準 期末試験 100%

オフィスアワー 毎週月曜日12:00~13:00、生物資源学部校舎740

授業改善への工夫 FD、JABEE、学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、随時改善する。

その他 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 物質、化合物、分子、原子

Key Word(s) Material, Compound, Molecule, Atom

学習内容

第1回:講義の概要説明および化学の理解度チェック

第2回:物質・元素・原子の構成に関して

第3回:電子、原子核に関して

第4回:原子の電子配置に関して

第5回:原子のイオン化について

第6回:化学結合（イオン結合・共有結合）について

第7回:化学結合（イオン結合・共有結合）について

第8回:分子構造と電子軌道について

第9回:分子構造と電子軌道について

第10回:分子構造と電子軌道について

第11回:分子構造と電子軌道について

第12回:共有結合の極性について

第13回:物質の三態（固体・液体・気体）について

第14回:気体の熱力学的性質について

第15回:試験

第16回:総合的解説

学習課題（予習・復習） 毎回の講義の終わりに、次回の講義内容に対応する教科書のページを示すので、予習を行う。また、毎回の講義の終わりにまとめとしての課題を提示する。

化学基礎I

Basic chemistry I

学期 前期 開講時間 月1,2 単位 2 対象 生物資源学部 生物圏生命学科 年次 学部(学士課程): 1
年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 岡垣 壮

授業の概要 専門教育に必要な生化学や細胞生物学の基礎知識を化学の観点から学習する。実際に多くの計算問題を通して、生体分子の濃度、化学平衡、自由エネルギー、反応性などについて定量的に理解する。

学習の目的 高等学校で教育する生物学は知識の羅列ですし、化学的なバックグラウンドがほとんど示されていません。実際の専門教育の生化学や細胞生物学では、化学の知識をもとに細胞内での反応性を考察する必要があります。従って種々の生命現象がどのような化学的な反応から成り立っているかを、理解する能力を身につけます。

学習の到達目標 自由エネルギー、生体分子の反応性、化学平衡に対する定量的な理解をする能力を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 心身の

授業計画・学習の内容

キーワード 化学結合、分子の相互作用、分子の濃度、化学平衡、自由エネルギー、酸化還元反応、反応速度論

Key Word(s) chemical bond, molecular interaction, molar concentration, equilibrium, free energy, oxidization, reduction, kinetics of chemical reaction

学習内容

1回目、元素、原子、電子（電子のエネルギー準位、炭素、窒素、酸素の電子配置）。発展：放射性同位元素と生物学（ ^{14}C による年代測定、ガンの放射線治療、 ^{13}C によるピロリ菌の検出、トレーサー実験）。

2回目、結合、電子、分子（共有結合、配位結合、電気陰性度、イオン結合）。発展：ペプチド結合の空間配置。

3回目、分子間相互作用（水素結合、静電相互作用、疎水性相互作用）。発展：生体分子の水への溶解度、極性。

4,5回目、分子数の表し方（モル、モル濃度、

健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 化学基礎II

教科書 Fry, Page著「生命科学系のための基礎化学」（東京化学同人）

成績評価方法と基準 中間テスト2回（40%）、期末テスト（60%）。両方を合計した総合点で評価する。

オフィスアワー 毎週月曜日13:00~18:00、生物資源学部722室

授業改善への工夫 学生からの質問や意見、授業評価アンケートの結果などを参考にして改善する。

パーセント濃度、希釈）。発展：生体分子のモル濃度、細胞内は生体分子の希薄溶液。6回目、炭素-生命体の素-（炭素の電子配置、 π 結合と電子の非局在化、芳香族性）。7回目、形だけが異なる同じ分子（光学異性体、立体異性体）。発展：生理作用の異なる立体異性体（サリドマイド、不斉合成）。8,9回目、水-生命の溶媒（水分子の結合、酸と塩基、酸性度とpH、水中での弱酸と弱塩基の解離、緩衝液、ヘンダーソン-ハッセルバルクの式。発展：生体の緩衝液（リン酸緩衝液、炭酸緩衝液）。10,11回目、反応する分子とエネルギー（熱力学の基礎用語、エントロピー、エンタルピー、ギブス自由エネルギー）。発展：自由エネルギーと代謝経路（ATPの加水分解、解糖系と糖新生）。12回目、反応中の分子と反応速度論（速度式、反応経路と反応機構、活性化エネルギー、平衡状態、自由エネルギーと平衡。発展：生体内は平衡状態とはかけ離れている。

13回目、エネルギーと生命（酸化と還元、自由エネルギーと酸化還元電位。発展：生体反応系における酸化還元電位、電子伝達系。

14回目、生体分子の反応性（付加反応、置換反応、脱離反応、官能基の連結（炭水化物、タンパク質、核酸を例として））。発展：酵素触媒における特異性は活性部位と基質の立体構造でできる。

15回目、演習（あるいは授業のまとめ）。

16回目、期末テスト。

学習課題（予習・復習） 授業期間中に教科書の演習問題（自己診断テスト）をもとに中間テストを2回おこないます。期末テストに備えて知識を整理して下さい。中間テストおよび期末テストは関数電卓持ち込み可能とします。

化学基礎I (再履修)

Baisc Chemistry I

学期 後期集中 単位 2 対象 生物圏生命科学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 粟冠 和郎 (生物圏生命科学専攻)

授業の概要 資源循環に関わる現象やそれに関わる生物体やバイオマスなどを物質レベル・分子レベルで理解するのに必要な無機化学及び有機化学の基礎知識を身につけさせる。

学習の目的 生物資源学部では、タンパク質やDNAなどの分子レベル、微生物や動植物の細胞レベルや個体レベル、生物の集団レベルまで幅広い材料を扱って研究を行っている。それらを理解するための化学的基礎知識を身につけることが、学習の目的である。

学習の到達目標 生物資源に関わる現象やそれに関わる生物体や細胞などを物質レベル・分子レベルで理解するのに必要な学力を身につける。

授業計画・学習の内容

キーワード 無機化学および有機化学の基礎

Key Word(s) organic chemistry, orbital, chemical bond, biochemistry, pH

学習内容

- 第1回 元素、原子、電子 (1)
- 第2回 元素、原子、電子 (2)
- 第3回 結合、電子、分子 (1)
- 第4回 結合、電子、分子 (2)
- 第5回 分子間相互作用
- 第6回 分子の数の表し方
- 第7回 炭素一生命体のもと

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

受講要件 再履修者のみ受講可能である。

発展科目 共通教育、学部での化学関連科目

教科書 生命科学系のための基礎化学 東京化学同人 (Mitch Fry, Elizapeth Page著、林利彦訳) ISBN978-4-8079-0703-8

参考書 大学への橋渡し 一般化学 (芝原寛泰・斉藤正治; 化学同人)

成績評価方法と基準 授業への取り組みと期末試験の結果を総合的に評価する。

オフィスアワー 月曜日 12:00~13:00、生物資源学研究科 758室

- 第8回 形だけが異なる同じ分子
- 第9回 水一生命の溶媒 その1
- 第10回 水一生命の溶媒 その2
- 第11回 反応する分子とエネルギー
- 第12回 反応中の分子と反応速度論
- 第13回 エネルギーと生命
- 第14回 生体反応の反応性
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 授業中にプリント等を配布するので、予習、復習に利用すること。

化学基礎 II

Basic Chemistry II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 生物資源学部(A, B, Cクラス) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 奥村 克純(生物資源学部・生物圏生命科学科)

授業の概要 生物体を構成し, 生命活動を担う基本分子である糖質, 脂質, タンパク質, 核酸, 無機塩類等の構造と機能について解説する。専門基礎として必要な生物化学の全体像を広範に取り扱う。高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活, 天然高分子化合物の構造と機能について指導するために必要な基本的事項について解説する。

学習の目的 生体構成成分の構造と機能, エネルギーや遺伝情報の流れについての知識を得る。

学習の到達目標 生体構成成分の構造と機能, エネルギーや遺伝情報の流れについて, 細胞, 生体と関連づけて考えることによって, 分子レベルからみた生命活動について理解と関心を深める。受講生は, 高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活, 天然高分子化合物の構造と機能について, 基本的事項を指導できる能力を修得することを目標とする。

本学教育目標との関連モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 化学基礎I, 生物学基礎I

発展科目 細胞生物学, 生化学I, 生化学II

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 糖質, 脂質, タンパク質, 核酸, 無機塩類

Key Word(s) Cell, organelle, sugar, lipid, protein, nucleic acid, mineral

学習内容

- 1:細胞の基本構造
- 2:生体成分と化学結合
- 3:アミノ酸

教科書 講義プリント資料を配付する。なお, 教科書としての指定はしないが, Essential細胞生物学 第3版(B.Albertsら著, 南江堂)に沿って講義するので, 購入することを強く推奨する。

参考書 基礎から学びたい人: ZEROからの生命科学改訂3版(木下勉, 小林秀明, 浅賀宏昭著), 南山堂。わかる!身につく!生物・生化学・分子生物学(田村隆明著)南山堂。さらに勉強したい人: ベーシックマスター生化学(大山隆監修, 西川一八, 清水光弘共編)オーム社。ヴォート基礎生化学第4版(田宮信雄, 村松正實, 八木彦彦, 遠藤斗志也訳)東京化学同人。

成績評価方法と基準 中間テスト50%, 期末テスト50%で評価する。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00, 716(加納)室, 755(奥村)室。および随時受け付けている。電話番号・メールアドレスは授業時に案内する。

授業改善への工夫 E-mailでの質問・要望等にもできる限り対応する。理解度確認用のキーワードリスト等も配付する。講義中に質問を行うことにより理解を深める。

その他

教員免許・各種資格取得に関連した科目(注:必ず入学年度の学習要項で確認してください) 高等学校教諭一種免許状(理科)

4:タンパク質

5:核酸

6:糖質

7:脂質

8.糖質代謝とエネルギー生産

9.細胞が食物からエネルギーを得る仕組み

10.タンパク質の構造と機能1:立体構造と性質

11.タンパク質の構造と機能2:タンパク質の働くしくみ

- 12.タンパク質の構造と機能3:酵素
- 13.DNA:核酸の構造, DNA複製・修復
- 14.DNAからタンパク質へ:遺伝情報の流れ
- 15.タンパク質、遺伝子等解析技術
- 16.期末試験

学習課題（予習・復習） 参考図書等で毎回の講義内容を復習すること。特に、分子・細胞レベルの研究分野に進む予定のものは、十分に予習復習すること。また、高校での生物・化学未習者は、講義のペースが速いので十分に予習・復習をすること。

化学基礎 II

Basic Chemistry II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 生物資源学部(D, E, Fクラス) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 加納 哲(生物資源学部・生物圏生命科学科)

授業の概要 生物体を構成し, 生命活動を担う基本分子である糖質, 脂質, タンパク質, 核酸, 無機塩類等の構造と機能について解説する。専門基礎として必要な生物化学の全体像を広範に取り扱う。高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活, 天然高分子化合物の構造と機能について指導するために必要な基本的事項について解説する。

学習の目的 生体構成成分の構造と機能, エネルギーや遺伝情報の流れについての知識を得る。

学習の到達目標 生体構成成分の構造と機能, エネルギーや遺伝情報の流れについて, 細胞, 生体と関連づけて考えることによって, 分子レベルからみた生命活動について理解と関心を深める。受講生は, 高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活, 天然高分子化合物の構造と機能について, 基本的事項を指導できる能力を修得することを目標とする。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 化学基礎 I, 生物学基礎 I

発展科目 細胞生物学, 生化学 I, 生化学 II

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 糖質, 脂質, タンパク質, 核酸, 無機塩類

Key Word(s) Cell, organelle, sugar, lipid, protein, nucleic acid, mineral

学習内容

- 1:細胞の基本構造
- 2:生体成分と化学結合
- 3:アミノ酸

教科書 教科書 講義プリント資料を配付する。なお, 教科書としての指定はしないが, Essential細胞生物学 第3版(B.Albertsら著, 南江堂)に沿って講義するので, 購入することを強く推奨する。

参考書 基礎から学びたい人: ZEROからの生命科学改訂3版(木下勉, 小林秀明, 浅賀宏昭著), 南山堂。わかる!身につく!生物・生化学・分子生物学(田村隆明著)南山堂。さらに勉強したい人: ベーシックマスター生化学(大山隆監修, 西川一八, 清水光弘共編)オーム社。ヴォート基礎生化学第4版(田宮信雄, 村松正實, 八木彦彦, 遠藤斗志也訳)東京化学同人。

成績評価方法と基準 中間テスト50%, 期末テスト50%で評価する。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00, 716(加納)室, 755(奥村)室。および随時受け付けている。電話番号・メールアドレスは授業時に案内する。

授業改善への工夫 E-mailでの質問・要望等にもできる限り対応する。理解度確認用のキーワードリスト等も配付する。講義中に質問を行うことにより理解を深める。

その他

教員免許・各種資格取得に関連した科目(注:必ず入学年度の学習要項で確認してください) 高等学校教諭一種免許状(理科)

4:タンパク質

5:核酸

6:糖質

7:脂質

8.糖質代謝とエネルギー生産

9.細胞が食物からエネルギーを得る仕組み

10.タンパク質の構造と機能1:立体構造と性質

11.タンパク質の構造と機能2:タンパク質の働くしくみ

- 12.タンパク質の構造と機能3:酵素
- 13.DNA:核酸の構造, DNA複製・修復
- 14.DNAからタンパク質へ:遺伝情報の流れ
- 15.タンパク質、遺伝子等解析技術
- 16.期末試験

学習課題（予習・復習） 各回の講義の最後に次回の内容を伝え、その部分の教科書を

読んでくること。また、教科書等で毎回の講義内容を復習すること。学科全体の講義であるので、分子・細胞レベルの研究分野に進む予定のものは、十分に予習復習すること。また、高校での生物・化学未習者は、講義のペースが速いので十分に予習・復習をすること。

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 機械工学科 年次 学部(学士課程):1年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 金子 聡 (工学研究科)

授業の概要 文明の進歩に伴い、様々な化学物質が生み出され、利用されてきた。これらの物質は、我々の生活を利便にし、生活レベルを上げてきた。化学物質の性質と基礎化学理論を講義する。

学習の目的 化学物質の性質を理解するために、最新基礎化学理論と知識を習得することを目的とする。

学習の到達目標 化学の基礎を学習し、理工学系専門課程に進む学生に相応しい基礎素養を習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

受講要件 クラス指定

予め履修が望ましい科目 高校の基礎化学, 化学

授業計画・学習の内容

キーワード 元素、化合物、原子、分子、電子配置、化学結合

Key Word(s) Element; Compound; Atom, Molecule

学習内容

- 第1回 第1章その1 化学の学習の前に (化学で学ぶこと、近代化学の誕生)
- 第2回 第1章その2 化学の学習の前に (原子・分子・イオン)
- 第3回 第1章その3 化学の学習の前に (国際標準 (SI) 単位)
- 第4回 第1章その4 化学の学習の前に (測定と有効数字)
- 第5回 第2章その1 物質の構造 (物質の構成要素1回目)
- 第6回 第2章その2 物質の構造 (物質の構成要素2回目)

発展科目 化学II

教科書 わかる理工系のための化学 (今西誠之、金子聡、小塩明、湊元幹太、八谷蔵編著、共立出版) ISBN: 4320044002

成績評価方法と基準 レポートと期末試験で判断する。ただし、出席率2/3を原則とする。

オフィスアワー 月曜日～金曜日 12:00～13:00、基本的にはこの時間帯ですが、質問などがある場合にはいつでも気軽に質問に来て下さい。分子素材工学棟 4F 3421室

授業改善への工夫 授業中に学生の反応 (理解度) を勘案しながら、授業後の学生の意見を参考にして、学生の授業評価アンケートの結果等も参考にし、授業の工夫、組み立て、説明を行う。さらに、授業に関する興味深い話題や知識を盛り込んで授業を進める。

- 第7回 第2章その3 物質の構造 (化学結合)
- 第8回 第2章その4 物質の構造 (化学量論)
- 第9回 第3章その1 物質の状態 (物質の状態変化と粒子の運動)
- 第10回 第3章その2 物質の状態 (気体)
- 第11回 第3章その3 物質の状態 (溶液、コロイド)
- 第12回 第4章その1 物質の変化 (化学反応と熱)
- 第13回 第4章その2 物質の変化 (酸と塩基の反応)
- 第14回 第4章その3 物質の変化 (酸化還元反応)
- 第15回 第4章その4 物質の変化 (化学反応の速さと化学平衡)

学習課題 (予習・復習) 講義を受講する前に、必ず教科書を読んでくること。受講後、説明された講義内容を復習しておくこと。

化学I

Chemistry

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 理工工学科 年次 学部(学士課程):1年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 石原 篤 (工学部)、那須弘行 (工学部)、橋本忠範 (工学部)

授業の概要 原子の電子構造(原子内の電子の数、エネルギー及び分布)とその原子番号による周期的な変化を理解する。また、原子の組み合わせに応じて多様な化学結合が生じ、これが物質の構造と性質に密接に関係していることを代表的な無機化合物および有機化合物を例にとり学ぶ。

学習の目的 原子および分子レベルの認識を確かなものとし、技術者として、対象の本質を理解し、工学的課題を解決するための基礎となる能力を育成することを目的とする。

学習の到達目標 化学の基礎について修得する。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体

授業計画・学習の内容

キーワード 無機化学、有機化学、原子の電子構造、分子の構造、結合生成、イオン性固体、多原子陰イオン、配位化学、溶媒、溶液、酸、塩基、周期表

Key Word(s) Inorganic chemistry, Organic chemistry, Electronic structure of atom, Structure of molecule, Formation of chemical bond, Ionic solid, Polyatomic anion, Coordination chemistry, Solvent, Solution, Acid, Base, Periodic table

学習内容

【授業内容・スケジュールと履修のポイント】

第1講: 無機化学とは? 化学反応、状態変化に伴う熱の出入り。単位系。

第2講: 原子の電子構造。粒子性、波動性。水素原子のスペクトルとボーアモデル。原子軌道とは何か。そのいろいろな表示法と種類、形、エネルギー。

第3講: 多電子原子の電子配置(組み立ての原理、フントの規則、パウリの排他原理)

第4講: 電子配置の原子番号による周期的変化。各ブロック元素の特徴。イオン化エン

的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 高校の化学

発展科目 無機化学、有機化学、物理化学

教科書 コットン、ウイルキンソン、ガウス、「基礎無機化学」、培風館

成績評価方法と基準 中間試験40%、期末試験40%、宿題、演習、発表など20%、60%以上取得で合格

タルピー、電子付着エンタルピー、電気陰性度、原子半径、イオン半径。

第5講: 分子の構造と結合生成。ルイス構造、共鳴、混成、多重結合、原子価殻電子対反発モデル

第6講: 中間テスト

第7講: 中間テストの解答

履修のポイント: 原子の電子構造、原子軌道、分子の構造、軌道の重なりと結合性相互作用、反結合性相互作用など、高校ではほとんど触れられていない項目であるので、教科書をよく読み、言葉の定義をよく理解すること。物理化学と関連するので、あわせて勉強すること。

第8講: 軌道の重なりと結合性相互作用、反結合性相互作用。 σ 軌道、 π 軌道。

第9講: 等核二原子分子の分子軌道。結合次数、結合エネルギー、結合距離の関係。酸素の常磁性。多原子分子、電子不足分子。

第10講: イオン性固体。イオン性化合物の構造とエネルギー。

第11講: 多原子陰イオンの化学(構造、性質、反応)。

第12講: 配位化学。配位化合物の構造。

第13講: 異性体、命名法。溶媒、溶液、酸、塩基。

第14講: プロトン性溶媒、非プロトン性溶媒の性質（極性、解離、溶媒和）。酸、塩基の定義。

第15講: 期末テスト

第16: 解答

履修のポイント：分子軌道、イオン性化合

物の化合物の構造とエネルギー、配位化学、酸、塩基の定義など、無機化学を理解するために不可欠な項目を含んでおり、教科書をよく読み、言葉の定義をよく理解すること。物理化学と関連するので、あわせて勉強すること。

学習課題（予習・復習） 予習のための宿題を与える。演習を行い、達成度を見る。

化学 II

Chemistry II

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 選択必修

授業の方法 講義

担当教員 伊藤 敬人 (工学部)

授業の概要 われわれが衣・食・住・通信・運輸などの現代生活のために多種多様な物質・材料の力学的・光学的・電気的などの性質を利用している。これらの性質は一見互いに無関係なようにおもえるが、基本的には共通の原理により理解できる。物質・材料の構造と性質の関係を中心に化学の基本を学ぶ。

学習の目的 化学系でない工学部系学生が化学を中心に物質・材料の構造と性質を理解出来るようになる。

学習の到達目標 物質の構造や機能性について化学的な観点で考える能力を取得する。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニ

授業計画・学習の内容

キーワード 化学構造、原子、分子、化学結合、物質・材料、性質

Key Word(s) Chemical structure, Atom, Molecule, Chemical Bond, Materials, Property

学習内容

- 第1回 物質・材料の性質と化学構造
- 第2回 原子・分子・化学結合
- 第3回 硬い物質と軟らかい物質
- 第4・5回 物質をつくる

ケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の化学

発展科目 化学の話題から

教科書 井上祥平著「化学 物質と材料の基礎」化学同人

成績評価方法と基準 出席30%、期末試験70%。出席と期末試験の評価をもとに総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00-13:00、工学部分子素材工学科棟2階3216室

授業改善への工夫 授業アンケート結果を参照して授業改善に努める。

- 第6・7回 色のある物質・ない物質
- 第8・9回 電気を通す物質・通さない物質
- 第10・11回 エネルギーと物質
- 第12・13回 環境と技術
- 第14・15回 物質と生命
- 第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 毎回の講義の教科書の予習と復習を行い、理解を深めると共に達成度を見ること。

化学実験

Experimentation on Chemistry

学期 後期 開講時間 月 5, 6, 7 単位 1 対象 工学部2年生、医学部1年生、生物資源学部2年生

選/必 選択 授業の方法 実験 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 幹 渉 (生物資源学研究科)

授業の概要 身近にいる生物の成分について、その物性を調べ、生理的な機能を推定する。

学習の目的

化学実験の基礎的な知見と技術を得ることができる。

生体成分について、化学的な思考で見ることができるようになる。

学習の到達目標

化学的なものの考え方ができるようになる。

天然物化学的な思考をすることができるようになる。

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 その都度、プリントを配布する。

参考書 特になし。

成績評価方法と基準 実験実技50%、レポート50%

オフィスアワー 月曜日、実験終了後、15：30～16：20、生物資源学部棟727号室

授業改善への工夫 一人で行う実験に加えて、グループで行う実験、あるいは結果についてのディスカッションタイムなどを設けることで、単なる実験授業で終わらせない試みを行おうと考えている。

授業計画・学習の内容

キーワード 光合成、活性酸素、酵素、色素、クロマトグラフィー

Key Word(s) Photosynthesis, Reactive Oxygen Species, Enzyme, Pigment, Chromatography

学習内容

- 1) ガイダンス
- 2) 化学実験の基礎
- 3) 光合成色素の抽出
- 4) クロマトグラフィー
- 5) 色素の分離
- 6) 色素の同定と生物種間における差異の検討
- 7) グループディスカッション

- 8) 脂溶性物質と水溶性物質
- 9) スキンケア素材の準備
- 10) 乳液を創る
- 11) 化粧水を創る
- 12) グループディスカッション
- 13) 抗菌性物質の抽出
- 14) 微生物の培養
- 15) 抗菌性試験
- 16) グループディスカッション

学習課題（予習・復習）

配布する予定のプリントをよく読むこと。
レポートを提出する時に、自らWEB等を活用して行った実験の意味を理解すること。

化学実験

Laboratory for General Chemistry

学期 前期 開講時間 月 5, 6, 7 単位 1 対象 電気電子工学科 (クラス指定) 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修

担当教員 ○那須弘行 (工学部分子素材工学科), 野村伸志 (工学部分子素材工学科), 山崎賢二 (非常勤講師), 奥村 都子 (非常勤講師)

授業の概要 工学部学生 (電気電子工学科) のための化学実験を通して、化学の方法と基礎理論を理解する。また、化学実験における基礎的な操作法・技術を学ぶ。

学習の目的 工学系に必要な基礎的的化学実験を安全にかつ計画的に行うことができる。

学習の到達目標

化学実験における基礎的な操作法、技術と安全について修得する。

化学物質の取り扱いについて理解する。

本学教育目標との関連 幅広い教養

受講要件 化学実験には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入する。実験室では実験着 (白衣) と保護眼鏡 (普通の眼鏡でよい) を着用し、運動靴などの動きやすくすべらない靴をはく。スリッパやサンダル、ハイヒールは不可。実験室での飲食と喫煙はしない。携帯音楽プレーヤや携帯電話は電源を切っておく。

授業計画・学習の内容

キーワード 化学実験

Key Word(s) Laboratory for General Chemistry

学習内容

つぎの実験を予定しています。

1. ガイダンス、器具の点検と洗浄
2. 実験の基本操作、試薬調製
3. ガラス細工
4. 測定と誤差
5. 中和熱の測定
6. 金属陽イオンの性質 (1)
7. 金属陽イオンの性質 (2)
8. 陽イオン混合試料からの系統分析
9. 陽イオン混合試料からの系統分析 (続き)

予め履修が望ましい科目 化学I, 化学II

教科書 これならわかる化学実験 第二版、田中晶善、三共出版

成績評価方法と基準 すべての実験を行い、レポートを提出することを前提する。実験の実施態度と結果、レポートの評価に基づいて、総合的に評価する。他人のレポートを写したレポートは、不可とします。

オフィスアワー 実験中および、開講時間の前後に質問してください。

その他 共通教育校舎の化学実験室を使用する予定であるが、履修者は時間割表で確認してください。第一回目には、ガイダンスと器具の洗浄等を行うので、白衣と保護眼鏡を用意してきてください。保護眼鏡は普通の眼鏡でよい。保護眼鏡を掛けないと実験できません。さらに、履修申告の確認と実験台の割り当てを行いますので、遅刻しないように実験室に集合する。

10. 陽イオン混合試料からの系統分析 (続き)
11. アセトアニリドの合成
12. 食酢中の酢酸の定量
13. 時計反応の反応速度
14. モル比熱の測定
15. 器具の点検と洗浄、実験室の清掃

学習課題 (予習・復習) 毎回、必ず教科書を読み、予習する。実験中には、実験ノートに実験操作と観察事項を記録する。実験後、実験ノートの記載に基づいて、実験項目ごとにレポートを作成し、期日までに提出する。実験の始めに、当日の実験に必要な注意と指示をするので、遅刻しない。

化学実験

Laboratory Chemistry

学期 前期 **開講時間** 水 5, 6, 7 **単位** 1 **対象** 資源循環学科2年生を優先とする。余裕があれば他の上級学年から優先的に受け入れる **年次** 学部(学士課程): 2年次 **授業の方法** 実験 **授業の特徴** Moodle

担当教員 磯野直人(生物資源学研究所), 水野隆文(生物資源学研究所), 近藤誠(生物資源学研究所), 木村哲哉(生物資源学研究所), 奥村都子(非常勤講師)

授業の概要 実験を通して化学の方法と基礎理論を理解する。

学習の目的

実験に取り組むための基本的な学習態度を習得する。

実験を通じて、授業で学習した内容を実際の化学現象として理解できるようになる。

共同実験を通じてお互いのコミュニケーションを図りながら共同研究できる素養を身につけられる。

レポートを作成することにより、科学論文を作成するための素養が身に付く。

学習の到達目標

化学実験における基礎的な操作方法・技術を習得する。

実験について、レポートの作成方法を習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 原則基礎化学Ⅳの授業を受講していること。

予め履修が望ましい科目 基礎化学Ⅳ

授業計画・学習の内容

キーワード 無機化学、分析化学、有機化学

Key Word(s) inorganic chemistry, analytical chemistry, organic chemistry

学習内容

1. 実験概容の説明、器具の点検・洗浄
2. 実験の基本操作
3. ガラス細工
4. 測定とその誤差
5. 金属陽イオンの性質(1)
6. 金属陽イオンの性質(2)

発展科目 資源循環学科の2年次、3年次の学生実験

教科書 教科書: 「これならわかる化学実験」(三共出版)

成績評価方法と基準

取り組み50%、レポート50% 原則として病氣・忌引き等やむを得ない事情以外は欠席を認めない。

教育実習で欠席する場合はかならず最初の授業で連絡をすること。原則として教育実習以外の授業・実習による欠席は認めない。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00

授業改善への工夫 基本的な実験操作の習熟に留意して指導する。実験の安全についても注意をする。

その他 実験室の収容人数に限りがあるので、受講制限をする場合がある。(資源循環学科物質循環学講座、循環生物工学講座で化学実験が必修に準ずる受講生を除く。)この場合、以前に履修申告をして受講制限により受講できなかったことのある受講生や卒業年次の受講生を優先する。毎回必ず出席をし、レポートを提出するという意志を持ったひとのみ受講申請すること。

7. 金属陽イオンの系統分析(1)
8. 金属陽イオンの系統分析(2)
9. 金属陽イオンの系統分析(3)
10. アセトアニリドの合成
11. 中和熱の測定
12. 食酢中の酢酸の定量
13. 時計反応の反応速度測定
14. 金属のモル比熱の測定
15. 器具の点検・洗浄、実験室の清掃

学習課題 (予習・復習)

初回は重要な連絡を行うので、受講予定者は当該実験室に必ず集合すること。

毎回必ずテキストを読んで予習をし、実験の意味・操作の方法等を把握してくること。また毎回の実験についてレポートを提出する

必要があるので、実験後はデータや結果をまとめておくこと。

安全のため原則として実験中は実験着（白衣）を着用し、運動靴など運動しやすい靴をはくこと。

化学実験

Laboratory Chemistry

学期 前期 開講時間 水 5, 6, 7 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 その他

授業の方法 実験 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 稲垣 稷, 田中晶善, 奥村克純, 寺西克倫, 勝崎裕隆, 緒方 進, 三宅英雄

授業の概要 無機化学, 有機化学, 物理化学に関連するテーマの実験

学習の目的 化学実験における基礎的な操作法・技術を習得する。実験と理論を結びつけて理解することができる。

学習の到達目標

化学実験のさまざまな操作を安全かつ合理的に行うことができる。

実験と理論を結びつけて理解することができる。

実験を行った経過, 結果, その解釈を形式に則して簡潔かつ適切にレポートしてまとめることができる。

実験廃液の適切な分類や廃棄など, 実験後の処理を事前に意識し, 適切に行うことができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術

受講要件 学生教育研究災害傷害保険に必ず加入すること。

発展科目 学部別講義の, 物理化学, 有機化学, 分析化学, 無機化学, 生化学, 分子生物学, および, それらに関連した実験科目

授業計画・学習の内容

キーワード 化学実験, 実験器具, 分析, 計量, 操作, ろ過, 定性分析, 遠心分離, 化学反応, 物理化学, 熱力学, 中和滴定, 反応速度, 活性化自由エネルギー, 金属イオン, 分別沈殿

Key Word(s) chemical experiment, experimental apparatus, analysis, measuring, operation, filtration, quantitative analysis, centrifugation, chemical reaction, physical chemistry, thermodynamics, neutralization titration, reaction velocity, activation free energy, metal cation, fractional precipitation

教科書 教科書: 「これならわかる化学実験 第二版」 (三共出版)

成績評価方法と基準

レポート100%で評価する。

原則として欠席を認めない。やむを得ない事情であっても多数回の欠席は単位不認定とするが, 補講などで対応する場合があるので, 早めに担当教員に相談すること (下記「その他」参照)。

オフィスアワー 水曜日午後5~6時, 各担当教員室 (生物資源学部校舎)

授業改善への工夫 基本的な実験操作に習熟できるように指導する。

その他 実験室の収容人数に限りがあるので, 受講制限を行う場合がある (化学実験が必修か, 必修に準ずる受講生を優先する)。以前に履修申告をして受講制限により受講できなかったことのある受講生や, 卒業年次の受講生を優先する。教育実習などでやむを得ず欠席する場合は, 事前 (履修申告時) にその予定を担当教員と相談すること。2回までの欠席に限り, 補講などで対応する場合がある。

学習内容

- 第1回 実験概要の説明, 器具の点検・洗浄
- 第2回 実験の基本操作
- 第3回 ガラス細工
- 第4回 測定とその誤差
- 第5回 中和熱の測定
- 第6回 金属陽イオンの性質(1)
- 第7回 金属陽イオンの性質(2)
- 第8回 金属陽イオンの系統分析(1)
- 第9回 金属陽イオンの系統分析(2)
- 第10回 金属陽イオンの系統分析(3)
- 第11回 アセトアニリドの合成
- 第12回 食酢中の酢酸の定量

第13回 時計反応の反応速度の測定

第14回 金属のモル比熱の測定

第15回 器具の点検・洗浄，実験室の清掃

第1回目には，履修申告の確認や実験大の割り当てなどを行う。毎回実験の初めに，当日の実験に必要な連絡を指示するので，遅刻しない様に集合すること。

学習課題（予習・復習） 事前にテキストを

熟読し，当日の実験内容と操作の流れを把握してから実験に臨むこと。実験後は，実験項目毎にレポートを作成し，期限までに所定の場所に提出すること。レポート提出とその内容の合格をもって，当該実験項目の終了とする。レポート作成に当たっては，テキストを参照し，レポート作成の手引きを参考に，基本的な構成に則して記述すること。

基礎生物学 A

General Biology A

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 平山大輔 (教育学部理科教育講座)

授業の概要 環境や生態系に及ぼす人間活動の影響が大きい今日では、生物学に関する確かな教養をもつことはきわめて重要である。また、生物学は重要なだけでなく、未解明の現象に満ちた非常に面白い学問である。この講義では、生命の起源や生物多様性など、最近注目されている話題を中心に、生物学の基本事項を幅広く学ぶ。

学習の目的 生命の起源や生物多様性など、生物学において最近注目されている話題に関する知識を習得する。

学習の到達目標 生物や自然界に関する様々な現象を、科学的な見方で理解することができるようになる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 生命、生態、環境、生物多様性

学習内容

第1回 生物学の魅力と重要性

第2回 細胞の起源

第3回 細胞の特性

第4回 DNAと遺伝

第5回 分子生物学の応用

第6回 生態系のなりたち；生物の集団と環境

第7回 生物の地理的分布とその要因

第8回 時間と自然現象

第9回 気候環境の変動

第10回 個体数（人口）の変動

第11回 生物間の相互作用 1；競争と捕食-被食

第12回 生物間の相互作用 2；共生

第13回 生物の変遷

第14回 生物多様性と生態系機能

第15回 生物多様性の保全

第16回 期末試験

学習課題（予習・復習）

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 教科書は特に指定しない。スライドや配布資料を用いて講義を行う。参考となる書籍については講義中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 平常点50%、期末試験50%、合計100%で成績を評価する（合計が60%以上で合格）。ただし、出席状況や受講態度によっては評価の対象としない。

オフィスアワー 毎週月曜：12:00-13:00、場所：教育学部1号館2階 平山研究室

授業改善への工夫 学生の理解度を確認しながら講義を進め、学生が無理なく広い教養をもつことができるよう図る。

各回での主なテーマ（問いかけ）は以下の通り。配布資料や講義ノート等をもとに、下記の課題の理解に努めること。

第1回：なぜ生物学を学ぶのか？第2回：すべての細胞は細胞から。では地球上で最初の細胞はどこから来たのか？第3回：細胞は何をしているのか？第4回：生命の分子的基础とは？第5回：分子生物学は医療や生活にどう応用されているのか？第6回：生態系の栄養段階はなぜたいてい3次や4次で終わるのか？第7回：何が生物の分布を決めるか？カンガルーはなぜオーストラリアにだけいるのか？第8回：気候は変動し、大陸は動く。時間でさえ不変ではない？第9回：生物をとりまく気候環境はどのように変動してきたか？第10回：生物の数に潜む法則とは？第11回：競争や捕食-被食は生物に何をもたらすか？第12回：共生とは何か？第13回：生物はどのように変遷してきたのか？第14回：生物多様性とは何か？第15回：なぜ生物多様性の保全が大切なのか？

基礎生物学B

Basic Biology B

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 医学部医学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 古丸 明 (生物資源学部)

授業の概要 生命の営みを理解するために必要な、細胞レベル、遺伝子レベルから、生物学の基礎を理解する。

学習の目的 生物進化の概略、発生生物学、細胞生物学について網羅的に生物学の基礎的な知識をみにつける。

学習の到達目標 生体を構成する細胞の構造

と機能を理解する。発生生物学、進化学の概略を理解する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術

参考書 essential 細胞生物学 (南江堂)

成績評価方法と基準 定期試験100% 67%以上の出席率無い場合は採点対象としない

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞生物学、自然選択説、遺伝子重複、分子進化、発生生物学

Key Word(s) cell biology, natural selection, gene duplication, molecular evolution, developmental biology

学習内容

1: ガイダンス

2-5: 細胞の構造と機能の概略

6-7: 自然選択説

8-9: 分子進化の概略(分子進化の中立説から)

10-11: 遺伝子重複による進化

12-15: 発生生物学の概略 受精、発生、形態形成遺伝子(ホメオティック遺伝子) について

16: 定期試験

学習課題 (予習・復習) 授業で指示します

基礎生物学C

Basic Biology

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 対象 医学部医学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修
授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 太城 康良 (教養教育機構、兼、医学部 医学・看護学教育センター)

授業の概要 生物学をベースに人体の正常構造と機能についての基礎的な知識を講義する。

学習の目的 生物学をベースに人体の正常構造と機能についての基礎的な知識を習得する。

学習の到達目標 専門分野の学習に必要なとなるレベルの人体の正常構造と機能に関する生物学的知識を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

授業計画・学習の内容

キーワード 肉眼解剖学、解剖生理学

Key Word(s) anatomy, physiology

学習内容

1. 身体の区分、骨
2. 下肢の関節と筋
3. 上肢の関節と筋
4. 頭部・体幹の骨
5. 中枢神経系
6. 末梢神経系 (脳神経)
7. 末梢神経系 (脊髄神経)

予め履修が望ましい科目 分子生命体科学、入門生物学、基礎生物学B

発展科目 解剖学、生理学など専門課程の基礎医学科目

教科書 プリントを主体に講義を行う

参考書 イラスト解剖学 第8版、人体の正常構造と機能

成績評価方法と基準 筆記試験100%。

オフィスアワー 事前にメールでアポを取り、調整する。

授業改善への工夫 復習では無線送信器（クリッカー）を使い、双方性の授業を展開する。

8. 復習（無線送信器を使ったクイズ形式）
9. 呼吸器
10. 消化管
11. 肝・胆・膵、脾
12. 泌尿・生殖器
13. 心臓
14. 脈管系
15. 復習（無線送信器を使ったクイズ形式）

学習課題（予習・復習） 講義を契機に該当する図書を自力で読み、知識の修得・定着に努めること。

生物学基礎 I

Basic Biology I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 生物資源学部・全学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 ○掛田克行(生物資源学部), 平塚伸(生物資源学部), 松井宏樹(生物資源学部), 木佐貴博光(生物資源学部)

授業の概要 4つの主題「生命現象と物質」, 「植物という生き物」, 「動物という生き物」, 「生態と進化」に沿って生物学の基礎を学び, 生物の共通性と多様性に関する理解を深める。

学習の目的 生物資源学部の専門課程で学ぶ広範な学問領域すべてに関わる「生物」についての理解を深め, 「生物学」の基礎的知識を習得する。

学習の到達目標 高校で生物学を履修してこなかった学生においては, 学部の専門科目を修得するのに必要な生物学の基礎的理解に主眼におく。高校生物の既習学生においては, 生物学の基礎を固めた上で, さらに広範な生命科学に関する学問的興味を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 生物学基礎 II

教科書 ライフサイエンスのための生物学 (培風館, 2015年2月刊行予定)

成績評価方法と基準 小試験, レポートや期末試験により, 総合的に評価する。

授業改善への工夫 開講初年度のため, 受講生の反応を見ながら, 適宜改善対応する。

その他 クラス分けについては, 入学式前の学部ガイダンス時に通知します。第1回目の授業時に人数調整等を行うので, 必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 植物, 動物, 生態

Key Word(s) cell, plant, animal, ecology

学習内容

第1回: 講義の概要 (ガイダンス)

主題1. 生命現象と物質 (掛田)

主題2. 植物という生き物 (平塚)

主題3. 動物という生き物 (松井)

主題4. 生態と進化 (木佐貴)

第16回: 期末試験

*主題1~4の順序はクラスによって異なる(初回の講義でアナウンスします)。

学習課題 (予習・復習)

主題1. 生命現象と物質:
細胞と生体物質, 細胞分裂, 染色体と遺伝, 遺伝情報

主題2. 植物という生き物:
植物細胞の分化, 代謝, 植物ホルモン, 環境応答

主題3. 動物という生き物:
動物の組織・器官, 発生, 恒常性維持・内分泌, 生体防御

主題4. 生態と進化:
生物と環境, 生態系, 生物の系統, 進化

生物学基礎 I

Basic Biology I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 生物資源学部・全学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 ○松井宏樹(生物資源学部), 木佐貫博光(生物資源学部), 掛田克行(生物資源学部), 平塚伸(生物資源学部),

授業の概要 4つの主題「生命現象と物質」, 「植物という生き物」, 「動物という生き物」, 「生態と進化」に沿って生物学の基礎を学び, 生物の共通性と多様性に関する理解を深める。

学習の目的 生物資源学部の専門課程で学ぶ広範な学問領域すべてに関わる「生物」についての理解を深め, 「生物学」の基礎的知識を習得する。

学習の到達目標 高校で生物学を履修してこなかった学生においては, 学部の専門科目を修得するのに必要な生物学の基礎的理解に主眼におく。高校生物の既習学生においては, 生物学の基礎を固めた上で, さらに広範な生命科学に関する学問的興味を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 生物学基礎 II

教科書 ライフサイエンスのための生物学 (培風館, 2015年2月刊行予定)

成績評価方法と基準 小試験, レポートや期末試験により, 総合的に評価する。

授業改善への工夫 開講初年度のため, 受講生の反応を見ながら, 適宜改善対応する。

その他 クラス分けについては, 入学式前の学部ガイダンス時に通知します。第1回目の授業時に人数調整等を行うので, 必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 植物, 動物, 生態

Key Word(s) cell, plant, animal, ecology

学習内容

第1回: 講義の概要 (ガイダンス)

主題1. 生命現象と物質 (掛田)

主題2. 植物という生き物 (平塚)

主題3. 動物という生き物 (松井)

主題4. 生態と進化 (木佐貫)

第16回: 期末試験

*主題1~4の順序はクラスによって異なる(初回の講義でアナウンスします)。

学習課題 (予習・復習)

主題1. 生命現象と物質:

細胞と生体物質, 細胞分裂, 染色体と遺伝, 遺伝情報

主題2. 植物という生き物:

植物細胞の分化, 代謝, 植物ホルモン, 環境応答

主題3. 動物という生き物:

動物の組織・器官, 発生, 恒常性維持・内分泌, 生体防御

主題4. 生態と進化:

生物と環境, 生態系, 生物の系統, 進化

生物学基礎Ⅰ（再履修用）

Basic Biology I

学期 後期集中 単位 2 対象 生物資源学部・全学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 その他

授業の方法 講義

担当教員 ○掛田克行(生物資源学部), 平塚伸(生物資源学部), 松井宏樹(生物資源学部), 木佐貴博光(生物資源学部)

授業の概要 4つの主題「生命現象と物質」, 「植物という生き物」, 「動物という生き物」, 「生態と進化」に沿って生物学の基礎を学び, 生物の共通性と多様性に関する理解を深める。

学習の目的 生物資源学部の専門課程で学ぶ広範な学問領域すべてに関わる「生物」についての理解を深め, 「生物学」の基礎的知識を習得する。

学習の到達目標 高校で生物学を履修してこなかった学生においては, 学部の専門科目を修得するのに必要な生物学の基礎的理解に主眼におく。高校生物の既習学生においては, 生物学の基礎を固めた上で, さらに広範な生命科学に関する学問的興味を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 前期の授業(生物学基礎Ⅰ)を受講済みであること。再履修となった学生のみを対象とする。

発展科目 生物学基礎Ⅱ

教科書 ライフサイエンスのための生物学(培風館, 2015年2月刊行予定)

成績評価方法と基準 小試験, レポートや期末試験により, 総合的に評価する。

オフィスアワー Moodle等を通じて別途連絡する。

授業改善への工夫 開講初年度のため, 受講生の反応を見ながら, 適宜改善対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 植物, 動物, 生態

Key Word(s) cell, plant, animal, ecology

学習内容

第1回: 講義の概要(ガイダンス)

主題1. 生命現象と物質(掛田)

主題2. 植物という生き物(平塚)

主題3. 動物という生き物(松井)

主題4. 生態と進化(木佐貴)

第16回: 期末試験

*主題1~4の順序や授業の進め方はMoodle等でアナウンスします。

学習課題(予習・復習)

主題1. 生命現象と物質:

細胞と生体物質, 細胞分裂, 染色体と遺伝, 遺伝情報

主題2. 植物という生き物:

植物細胞の分化, 代謝, 植物ホルモン, 環境応答

主題3. 動物という生き物:

動物の組織・器官, 発生, 恒常性維持・内分泌, 生体防御

主題4. 生態と進化:

生物と環境, 生態系, 生物の系統, 進化

生物学基礎 II

Basic Biology II

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 選択必修

授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 ○塚田 森生 (生物資源学部), 原田 泰志 (生物資源学部), 石川 輝 (生物資源学部), 松田 陽介 (生物資源学部), 淀 太我 (生物資源学部), 鳥丸 猛 (生物資源学部)

授業の概要

生物資源学部で身につけるべき生物学の基礎のうち、特に生態学分野について教授する。

これは、学部において生物と環境のかかわり等を学ぶための基礎となる科目である。

指定教科書に従って、「生態と環境」、「生物の進化と系統」に関連してこれまでに学界で得られている知見を教授する。分担者の専門に応じ、対象とする生物は適宜変更しうる。

学習の目的

生物と環境のかかわり、生物の集団の特性等に関する学問分野である生態学に関して専門的な学習をするための基礎知識を得る。

材料にこだわることなく、幅広い生物の生態を学ぶ中で生物の生態にかかる普遍的法則を理解する。

学習の到達目標 「生態と環境」、「生物の進化と系統」に関して専門的な学習をするた

めの基礎知識を得る。材料にこだわることなく、幅広い生物の生態を学ぶ中で生物の生態にかかる普遍的法則を理解し、身の回りの生物の集団としての性質を身につけるとともにさまざまな生物のふるまいの適応的意義を考えられるようになる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 生物学基礎I

教科書 生態学入門 第2版 日本生態学会編 東京化学同人 2012年

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 各担当教員から別途指示する。

その他 講義の順序は前後することがある。

授業計画・学習の内容

キーワード 各回ごとに設定 (学習内容を参照)

Key Word(s) Given for each lecture

学習内容

1 生態学とはどんな学問か?—遺伝子から地球環境まで (担当:石川輝)

キーワード: 遺伝子、個体群、生物群集、景観、地球環境

2 生物界の共通性と多様性 (担当: 石川輝)

キーワード: 細胞、DNA、地域、多様性、古環境

3 進化からみた生態 (担当:塚田森生)

キーワード: 自然選択、種分化、適応放散

4 分子進化の特性 (担当:鳥丸猛)

キーワード: 分子進化の中立説、分子時計

5 生活史の適応進化 (担当:原田泰志)

キーワード: 生活史、適応戦略、繁殖のコス

ト、r-K選択説、表現型可塑性

6 進化とゲーム理論 (担当:原田泰志)

キーワード: 有性生殖, ESS、性比の進化

7 植物の生理生態的特性の適応戦略 (担当: 松田陽介)

キーワード: 植物、光、競争、化石燃料、二酸化炭素

8動物の生理生態的特性の適応戦略 (担当: 塚田森生)

キーワード: 動物、水分、温度、概日リズム

9動物の行動と社会 (担当: 淀太我)

キーワード: 競争関係、なわばり、配偶行動、繁殖システム、性選択、血縁選択

10 個体間の相互作用 (担当: 原田泰志)

キーワード: 個体群、密度効果、生命表

11 同種・異種の個体群 (担当: 塚田森生)

キーワード: 競争、捕食、寄生、共生。

12 生物群集の構造その分布 (担当: 松田陽

介)

キーワード：種間相互作用、生物群集、カスケード効果、ギルド内捕食、多種共存

13 生物群集の構造その分布 (担当: 鳥丸猛)

キーワード：植生遷移、バイオーム

14 生態系の構造と機能 (担当: 石川輝)

キーワード：多様性、生態系機能、IPCC、エネルギー流、生産力ピラミッド

15 生態系の保全と地球環境 (担当: 澁太我)

キーワード：生態系サービス、環境問題、レッドリスト、生物多様性の保全、気候変動

学習課題（予習・復習）

教科書や配布資料を用いて各自で予習・復習を行うこと。

また、担当教員によっては別途課題を与えることがある。

入門生物学

Introducton to Biology

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 対象 医学部1年次生 (生物未履修) 年次 学部(学士課程):
1年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義
担当教員 ○神原 淳(生物資源学部), 宮崎 多恵子(生物資源学部)

授業の概要 生物学における基礎的な考え方(概念)や生物学の基礎的項目(生物の進化と分類, 呼吸と循環, 神経と感覚, 生物の遺伝情報と発現等)について解説します。

学習の目的 生物学の基礎について知り, そのおもしろさが理解できるようになる。

学習の到達目標 生物学の基礎的内容(進化, 分類, 呼吸, 循環, 神経感覚系, 遺伝等)について説明できる。

本学教育目標との関連 幅広い教養

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特に指定しません。

参考書 ケイン生物学(石川統監訳, 東京化学同人), レーヴン/ジョンソン生物学(上下)等. 各項目についての資料プリント等を配布します。

成績評価方法と基準 出席と小テストの成績をもって総合的に評価します。

オフィスアワー 随時(生物資源学部校舎, 神原:630室, 宮崎:628室), Eメールでも対応。

授業改善への工夫 板書, プリント, スライドなどを通じて, 内容を体系的に理解できるような工夫を心がけます。

その他 医1年A・B

授業計画・学習の内容

キーワード 生物学入門

Key Word(s) Introduction to Biology

学習内容

I.入門生物学の概要解説

II.生物の系統と分類

1.生物進化の歴史

2.生物の系統と生物分類の概念

3.生物分類

4.小テスト:I・IIの講義内容の理解度を問う。

III.呼吸と循環

1.内呼吸

2.外呼吸, 呼吸器官とその様式

3.循環系, 血液の酸素・二酸化炭素運搬

4.小テスト:IIIの講義内容の理解度を問う。

IV.神経と感覚

1.神経系の進化, 神経系の発達, 中枢神経系と末梢神経系

2.神経細胞の構造と働き, 外部刺激の受容と情報伝達のしくみ

3~4.感覚系(1)および(2):適刺激, 感覚器の種類と構造, 刺激受容機構

V.生物の遺伝情報と発現

1.遺伝の法則, 遺伝形質の発現と制御, 遺伝子の実体, 遺伝情報の発現過程

2.小テスト:IVとVの講義内容の理解度を問う。

学習課題(予習・復習) 各回に配布するプリントや講義での板書内容をよく復習してください。講義では生物学を学ぶ上での必須の専門用語が数多く出てくるので, これらを覚えることが必要です。

生物学実験

Biological Experiments

学期 後期 開講時間 金 5, 6, 7 単位 1 対象 生物資源学部, 2年生以上 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択 授業の方法 実験 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ○倉島彰(生物資源学部), 一色正(生物資源学部), 中島千晴(生物資源学部), 加納哲(生物資源学部), 勝川俊雄(生物資源学部), 石川輝(生物資源学部), 田口和典(生物資源学部), 塚田森生(生物資源学部), 伴智美(生物資源学部), 長屋祐一(生物資源学部), 名田和義(生物資源学部), 宮崎多恵子(生物資源学部), 河村功一(生物資源学部), 淀太我(生物資源学部), 森川由隆(生物資源学部)

授業の概要 多様な観点からの観察や実験・実習を通じ, 生物の生態・形態の特徴や遺伝子・細胞ならびに器官の特徴的な活動・機能について学ぶ。

学習の目的 生物の生態・形態の特徴や遺伝子・細胞ならびに器官の特徴的な活動・機能についての知識を得る。

学習の到達目標 生物について多様な観点から実験的に解析し, 考え, その結果を伝えることができるようになる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 指導力・協調性

受講要件 クラス指定: 生物資源2年生以上。実験・調査には危険が伴うので, 学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。化学および生物学の基礎的知識をもっていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 生物圏生命科学科必修の生物化学, 細胞生物学, 生理学, 生態学を履修していることが望ましい。

授業計画・学習の内容

キーワード 生態, 個体, 形態, 生理, 生化学, 多様性

Key Word(s) ecology, individual, morphology, physiology, biochemistry, biodiversity

学習内容

- 1.生態に関する実験・実習
- 2.生態に関する実験・実習
- 3.生態に関する実験・実習
- 4.個体の観点からの実験・実習
- 5.個体の観点からの実験・実習
- 6.個体の観点からの実験・実習
- 7.形態に関する実験・実習
- 8.形態に関する実験・実習

発展科目 卒業研究

教科書 適宜プリントを配付

成績評価方法と基準 実験態度40%, 実験レポート60%

オフィスアワー 随時

授業改善への工夫 TAを使ったきめ細かい対応をする。

その他

教員免許・各種資格取得に関連した科目(注:必ず入学年度の学習要項で確認してください)。設備の関係から学部で受講者人数を調整することがある。この場合, 教員免許取得希望の受講生, 以前に履修申告をして受講制限により受講できなかったことのある受講生や卒業年次の受講生を優先する。

白衣, 解剖セットが必要となる。内容の一部を土曜日に集中形式で行う場合がある。

これらについては事前に掲示するので確認のうえ登録されたい。

- 9.形態に関する実験・実習
 - 10.生理に関する実験・実習
 - 11.生理に関する実験・実習
 - 12.生理に関する実験・実習
 - 13.生理に関する実験・実習
 - 14.生化学的観点からの実験・実習
 - 15.生化学的観点からの実験・実習
 - 16.生化学的観点からの実験・実習
- 実験材料の都合(生物のため)で必ずしもこの順に実験が行われるわけではない。また, 各内容の時間数は変更される可能性がある。

学習課題 (予習・復習)

- 1.生態に関する実験・実習

- 2.生態に関する実験・実習
- 3.生態に関する実験・実習
- 4.個体の観点からの実験・実習
- 5.個体の観点からの実験・実習
- 6.個体の観点からの実験・実習
- 7.形態に関する実験・実習
- 8.形態に関する実験・実習
- 9.形態に関する実験・実習
- 10.生理に関する実験・実習

- 11.生理に関する実験・実習
 - 12.生理に関する実験・実習
 - 13.生理に関する実験・実習
 - 14.生化学的観点からの実験・実習
 - 15.生化学的観点からの実験・実習
 - 16.生化学的観点からの実験・実習
- 各回の担当教員より指示される事前・事後課題に積極的に取り組むこと。

基礎地学A

Basic Astronomy A

学期 後期 開講時間 月9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義 授業の特徴

Moodle

担当教員 伊藤 信成 (教育学部)

授業の概要 天文学は人類最古の学問の1つであるとともに、先端科学の1つでもある。近代天文学の基礎となる物理法則を学習するとともに、最新の宇宙観を俯瞰し、我々が存在する最も基本的な時空間である宇宙に対する理解を深める。

学習の目的

天文学の基盤となっている論理的、科学的な思考法について理解し、我々の住む世界の基盤である宇宙の基本構造を理解する。

小中高校生に天文学を指導する際に重要となる概念について、取捨選択し、その重要性を説明することができる。

学習の到達目標

宇宙をロマンや神秘等の観点からでなく、自然科学の対象としてとらえることができる。現代天文学が解明してきた宇宙像について俯瞰することができる。

天文学と社会とのかかわりについて自分なりに考察することができる。

本学教育目標との関連 モチベーション、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力

発展科目 地学講義I, II

教科書 教科書:特に指定しない

参考書

100億を翔ける宇宙, 加藤万里子, 恒星社厚生閣
天文学への招待, 岡村定矩(著), 朝倉書店
地学図表, 浜島書店

成績評価方法と基準 レポート 30%, 期末試験 70% 以上の評価を総合判断する。

オフィスアワー 毎週火曜:13:00-14:30 教育学部1号棟2F 地学第一研究室

授業改善への工夫 要望があれば適宜受け付ける

その他 高校で地学を履修していないことを前提に授業を進める

授業計画・学習の内容

キーワード 宇宙・天文学

Key Word(s) Astronomy, Space Science

学習内容

初回のアンケート内容や進度により、内容が前後したり変更する場合もあるが、概ね以下の内容を予定している。

第1～3回：地球および月に関連する現象

- ・自転, 公転
- ・日食, 月食

第4～7回：天体の運動・時刻系に関連する事柄

- ・黄道, 黄道12星座
- ・惑星の会合, 地球近接小惑星
- ・ケプラーの法則

・時刻系

第8～10回：太陽および太陽系に関連する現象

- ・太陽の諸量の推定
- ・太陽の内部構造
- ・太陽のエネルギー発生機構

第11～13回：星の構造と進化

- ・星の明るさと色
- ・星の質量と距離
- ・星の誕生と終焉

第14～15回：銀河系と銀河, 宇宙の誕生と終焉

- ・銀河系と銀河
- ・宇宙の始まり, 宇宙の果て

学習課題 (予習・復習) 高校で学習した数学および物理 (履修者) の復習をしておくことを奨める。

地学基礎

Introduction to Earth Science

学期 前期集中 単位 2 対象 生物資源学部の教職員免許取得希望学生 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 岡島賢治 (生物資源学部)

授業の概要 本講義では、地学の基礎としての地球のすがた、地球の歴史、大気と海洋、宇宙の中の地球、地球環境について解説する。また、近年多発している自然災害、身近な地形、実物標本や映像情報を用いて、身近な事象から教材を探す能力を育成する。さらに、レポート課題、教材製作課題、小テストを行い知識の定着を図る。

学習の目的 高校理科で「地学」を教育するための基礎として、地球や宇宙の構造や形態、また、そこで起こっている現象等を理解するための基礎知識を習得する。

学習の到達目標 高校理科で「地学」を教育

するための、地学的探究心を身につけることを目標とする。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、モチベーション、幅広い教養、論理的思考力、情報受発信力、社会人としての態度

教科書 ニューステージ新訂「地学図表」(浜島書店)を必携すること。生協書籍部で販売予定。

成績評価方法と基準 レポート課題20%、小テスト50%、期末テスト30%で評価する。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 講義日の講義終了後

授業計画・学習の内容

キーワード 地学、地球科学、天文学、宇宙科学、大気、海洋、地球の歴史

Key Word(s) Geoscience, Earth science, Astronomy, Space science, Atmosphere, Ocean, Earth history

学習内容

- 第1回：地球のすがた：重力、地磁気、地殻構造、内部構造、地殻熱流量
- 第2回：大陸の移動：大陸移動説、海洋拡大説、プレートテクトニクス、地震
- 第3回：地球の活動：火山活動、火山災害、マグマ、火成岩
- 第4回：地表の変化：風化、河川の作用、海水の作用、堆積岩
- 第5回：地層の形成：堆積構造、地質構造、造山運動、変成作用
- 第6回：地層の観察：走向、傾斜、地質図
- 第7回：地球の歴史：地質年代、示準化石、示

- 相化石、日本列島の地質構造
 - 第8回：生物の歴史：先カンブリア時代、古生代、中生代、新生代
 - 第9回：大気圏と熱収支：大気圏、大気の組成、太陽放射、熱収支
 - 第10回：水の循環と状態変化：水蒸気、断熱変化、雲、雨
 - 第11回：大気循環：気圧、風、地衡風、地上風、大気大循環
 - 第12回：海洋の運動：海水、海洋の構造、波、海流
 - 第13回：太陽系：太陽系の天体、惑星現象、会合周期、ケプラーの法則
 - 第14回：恒星と銀河：恒星の進化、恒星の明るさ、銀河系、宇宙
 - 第15回：地球環境：温室効果、淡水資源、エネルギー資源
- 定期試験

電子計算機プログラミング及び演習

Computer Programming and Exercises

学期 後期 開講時間 水 2, 3, 4 単位 2.5 対象 工学部機械工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 前田 太佳夫(工学研究科), 村田 淳介(工学研究科)

授業の概要 機械工学における数値シミュレーション, データ解析, 制御等に必要なプログラミングの基礎を学習する. 授業ではプログラム言語および計算機援用の基礎を解説し, コンピュータを用いた計算やデータ整理の方法を修得するとともにプログラミングの実習を行いコンピュータに親しむ.

学習の目的 プログラム文法について知り, 基本的なプログラミングができるようになることを目的とする.

学習の到達目標 初めは, 例題として与えられたプログラムを模倣してプログラミングしバグ取りを通じてプログラム文法を実践的に理解する. 最終的には, 初歩的なプログラムを自力で創造できる能力を身につける.

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

受講要件 とくになし

予め履修が望ましい科目 とくになし

発展科目 情報工学

教科書 自作のプリントを配布する

参考書 適宜紹介する

成績評価方法と基準

7割以上出席した者に対して単位を与える. 評価は, 調査型課題 (10点), 中間試験 (30点×2回), 定期試験 (30点) の総計100点で行い, 総計点数60点以上を合格とする.

オフィスアワー 毎週火曜日5時限, 場所: 機械創成棟4階前田教員室・村田教員室にて対応.

授業改善への工夫

諸君の要望に応じて言語をFORTRANからCへ変更した.

市販テキストは内容が多すぎてポイントが定まらないという諸君の声に応じて自作のプリントにした.

例題プログラムをトレースすることによってプログラミングへの導入を平易にし十分理解した時点で, 自力で問題を解くようにした.

その他

中間試験の日程に関しては, 機械創成棟2階掲示板にて通知するので, 掲示に注意すること.

中間試験, 定期試験, 調査型課題の点数について, 成績通知書配布前の問い合わせには応じない.

授業計画・学習の内容

キーワード 計算機利用の基礎, プログラム言語, 数値計算, 関数

Key Word(s) Basic Computer Utilization, Programing Language, Numerical Calculation, Function

学習内容

第1回 C++の基本操作, プログラム文法と標準関数の講義

第2回 変数と式の講義と実習(1変数, 複数変数の入力, 数学関数)

第3回 変数と式の講義と実習

第4回 変数と式の講義と実習

第5回 条件分岐の講義と実習 (if)

第6回 条件分岐の講義と実習 (if else)

第7回 繰り返し計算の講義と実習 (while)

第8回 繰り返し計算の講義と実習 (do while)

第9回 繰り返し計算の講義と実習 (for)

第10回 繰り返し計算の実習

第11回 配列の講義と実習

第12回 配列の講義と実習 (static float)

第13回 関数の講義と実習 (引数のない場合)

第14回 関数の講義と実習 (引数のある場合)

第15回 応用問題のプログラミング

第16回 定期試験

授業時間の一部を使って中間試験を2回行う。

学習課題（予習・復習）

第1回 プリントの文法と標準関数

第2回 プリントの変数と式

第3回 プリントの変数と式，自力問題

第4回 自力問題

第5回 プリントの条件分岐 (if)

第6回 プリントの条件分岐 (if else)

第7回 プリントの繰り返し計算 (while)

第8回 プリントの繰り返し計算 (do while)

第9回 プリントの繰り返し計算 (for) ，自力

問題

第10回 自力問題

第11回 プリントの配列，調査型課題

第12回 プリントの配列 (static float)

第13回 プリントの関数 (引数のない場合)

第14回 プリントの関数 (引数のある場合) ，
自力問題

第15回 自力問題

第16回 定期試験

総合情報処理センターの空いている時間を利用して，配布したプリントや自力問題をプログラミングし文法を十分に理解しておくこと。

情報科学基礎A

An introduction to Information Literacy A

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 人文学部法律経済学科の学生のみ受講できる 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 実習

授業の特徴 Moodle

担当教員 三重 遷一 (非常勤講師)

授業の概要 法律経済学科の学生における研究活動にとって必要な情報処理の知識や技能の基礎を修得する。

学習の目的 電子メールの送受信、Webページの閲覧、文書作成ソフト (Microsoft Word) による文章作成、表計算ソフト (Microsoft Excel) による簡単な統計処理等の基礎的操作方法を習得する。

学習の到達目標 Webページを閲覧して必要な情報を取得するとともに、文書作成ソフト (Microsoft Word) や表計算ソフト (Microsoft Excel) のグラフ機能等を利用して文書を作成し、それを電子メールで送受信できるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピューターによる情報利用の基礎編

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 電子メールの送受信 (ファイル添付等) 及びWebによる情報検索

第3～7回 Microsoft Wordによる文書作成

第8～12回 Microsoft Excelによる統計処理

受講要件

本講義では、パソコンの基礎的な操作から各種ソフトウェアの基礎的な利用方法を取り扱う予定である。

したがって、基礎的な操作・利用方法は習得しており、かつ統計データの分析等、より実践的な学習を希望する学生は、この科目ではなく情報科学基礎Bを受講することが望ましい。

発展科目 情報科学基礎B

教科書 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健『Microsoft Office 2010を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、2011年。

参考書 適宜講義中に紹介する。

成績評価方法と基準 出席 20%、課題提出 80%、計100%。(合計が60%以上で合格)

第13～16回 プレゼンテーション、レポート作成その他

学習課題 (予習・復習)

基本的な操作方法についてテキスト等で予習復習を行うこと。

各回の課題について講義時間内に提出ができない場合には、次回までに完成させること。

情報科学基礎B

An introduction to Information Literacy B

学期 前期 開講時間 水 7, 8 単位 2 対象 人文学部法律経済学科の学生のみ受講できる 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 実習

授業の特徴 Moodle

担当教員 三重 遷一 (非常勤講師)

授業の概要 法律経済学科の学生における研究活動にとって必要な情報処理の知識や技能を修得する。

学習の目的 様々な統計データやアンケート調査結果等をMicrosoft Excelを用いて集計し、分析し、その結果をMicrosoft Power Pointを用いて効果的にプレゼンテーションできるようになる。

学習の到達目標 Microsoft Excelの応用的な操作(グラフ、関数の活用やデータベースを用いたクロス集計分析等)とMicrosoft Power Pointの基本的な操作ができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピューターによる情報利用の基礎編

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 電子メールの送受信(ファイル添付等)及びWebによる情報検索

第3～7回 Microsoft Wordによる文書作成

第8～12回 Microsoft Excelによる統計処理

受講要件 本講義では、パソコンの基礎的な操作から各種ソフトウェアの基礎的な利用方法を習得している学生を対象としている。

教科書 特に使用しない。

参考書 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健『Microsoft Office 2010を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、2011年。

成績評価方法と基準 出席20%、課題提出80%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 後期の「情報科学基礎B」と同一内容となっている。また、「情報科学基礎A」「情報科学基礎B」の2つ(合計4単位)を履修しても卒業要件として認められる単位は2単位までである点に留意されたい。

第13～16回 プレゼンテーション、レポート作成その他

学習課題(予習・復習)

基本的な操作方法についてテキスト等で予習復習を行うこと。

各回の課題について講義時間内に提出ができない場合には、次回までに完成させること。

留学生支援実践 (留学生支援実践)

Foreign Student Support Training

学期 後期 開講時間 水 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 後藤 綾文

授業の概要 三重大学の外国人留学生の実態やニーズを把握し、留学生支援のために学生が何ができるのかを素材にしたプロジェクト活動に携わることを通して、国際性とコミュニケーション力を育成する。

学習の目的

三重大学に在籍する学生の多様性を理解し、交流に臆すること無く挑戦し、様々な交流を体験することができる。

留学生支援に関するニーズを理解し、自分に何ができるかを考えて行動する姿勢を示すことができる。

学習の到達目標

三重大学に在籍する学生の多様性を理解できるようになる。

留学生と積極的に交流することができるようになる。

支援ニーズを理解し、自分に何ができるかを考えて行動する姿勢を示すことができる。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー、キャリアプランニング

発展科目 学習支援実践、こころのサポート、および各種キャリア教育科目

成績評価方法と基準 毎回のMoodle課題提出50%、グループ課題25%、活動への参加度25%により総合的に判断する。

授業改善への工夫 学生のコメントおよび授業アンケートをもとに改善に努めます。

その他 キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム初級の選択必修科目(キャリア実践科目)の一つです。2月に予定しているアカデミックフェアで成果を発表します。

授業計画・学習の内容

キーワード 留学生支援、交流、支援ニーズ

学習内容

授業を通して、以下を組み合わせで行う。

・三重大学にいる外国人留学生の実態とニーズを把握する。

・留学生支援のニーズに応じたプロジェクトに分かれて、企画を検討し実践する。

・学びを発表することを通じて、学びのふりかえりと相互に刺激を与え合う。

1. オリエンテーション

2・3. 留学生ニーズの把握と理解

4~11. プロジェクト学習

12~: まとめと発表

15. ふりかえりと総括

障がい学生支援実践 (障がい学生支援実践)

Support for Students with Disabilities

学期 後期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 荒川哲郎 (教育学部), 大谷正人 (教育学部), 菊池紀彦 (教育学部), 郷右近歩 (教育学部), 栗田季佳 (教育学部), 後藤綾文 (学生総合支援センター), 生川友恒 (非常勤講師), 前川賢一 (非常勤講師), 稲垣智子 (非常勤講師), 横山慶 (非常勤講師), 倉野直紀 (非常勤講師)

授業の概要 今日、ノーマライゼーション (あらゆる活動にすべての人が平等に参加できる) 社会の実現が求められている。大学への進学も社会参加の一つと捉えた場合、障がいのある学生の修学について、その人の疾病や機能の問題だけでなく、教育支援や生活支援についても考える必要がある。この授業では、さまざまな障がいの実態について実習形式で学ぶとともに、事例検討を通して障がい学生支援が障がい学生のためだけの支援ではなく、すべての学生にとって教育的な価値があるということを理解することを目的とする。

学習の目的

- 1.障がいについての正しい理解ができるようになることを目的とする。
- 2.障がい学生の自立につながる支援について学ぶ。
- 3.三重大の資源や個性、歴史を活かした支援のあり方について考えることができるようになる。

学習の到達目標

- 1.さまざまな障がい (視覚・聴覚・肢体不自由等) について、講義や実習を通して理解できる。
- 2.障がい学生にとって必要とされる支援の内容

授業計画・学習の内容

キーワード 障がい学生、支援、福祉、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由

Key Word(s) Students with Disabilities, Support, Welfare, Visual Disturbance, Hearing Impairments, Physically Handicapped

学習内容

について理解できる。
3.三重大における障がい学生支援を充実するための方策について考えることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2015年度の「アカデミックフェア」(2016年2月頃に開催予定)に参加が可能であること。

教科書 授業のなかで適宜紹介します

参考書 授業のなかで適宜紹介します

成績評価方法と基準 出席 50%、レポート 50%で評価します (レポートは5回程度課します)。

オフィスアワー 毎週月曜日10:30~12:00, 教育学部2号館5階, 菊池研究室

その他 キャリア・ピアサポーター基礎資格を取得するためには、「4つのカスタートアップセミナー」で8以上の成績を収め、「キャリアプランニング」の単位を取得し、この授業を含む「実践科目」のうちの1科目の単位を取得することが要件となる。

- 1.オリエンテーション、ユニバーサルデザインについて
- 2.障がい者・高齢者体験
- 3.本学定型業務センターキャンパス環境整備室との交流①
- 4.本学定型業務センターキャンパス環境整備室との交流②

5.聴覚障がいについて（当事者からの話題提供）

6.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験①）

7.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験②）

8.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験③）

9.視覚障がいについて（視覚障害のある人の日常生活）

10.視覚障がいについて（アイマスク、白杖を用いた体験①）

11.視覚障がいについて（アイマスク、白杖を

用いた体験②）

12.発達障がいについて

13.アカデミックフェアに向けて①

14.アカデミックフェアに向けて②

15.アカデミックフェアに向けて③

16.授業のまとめ

学習課題（予習・復習）

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）における「障害学生修学支援情報」のホームページを閲覧し、情報収集に努めること。

URL: http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/index.html

ピアサポート実践 (ピアサポート実践)

Training for peer support

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 鈴木 英一郎 (学生総合支援センター)

授業の概要

・多様な環境と可能性を持つ者同士が相互に尊重し合うことが求められる今の社会において自己・他者を尊重する姿勢を学ぶことで社会人としての姿勢の獲得を目指す。

・さらに大学を一つの社会に見立て、学内に存在する多様な支援資源を最大限に活性化させ、相互に支援し合う取り組み(ピアサポート活動)を通して相互支援の姿勢を実践する。

学習の目的

・三重大学学生支援方針をもとに、相互尊重と他者支援の基本的な考え方を理解することができる。

・現在ある資源を活用し、相互に支援し合うシステムを構築する姿勢を身につけることができる。

・そのために必要な行動力、思考力、調整力を発揮することができる。

学習の到達目標

・三重大学学生支援方針をもとに、相互尊重と他者支援の基本的な考え方を説明することができる。

・学内に現在ある資源を活用し、相互に支援し合うシステムを構築する考えを提案することができる。

・三重大学学生支援方針の考え方を理解し、その視点から大学における学生支援活動として自分たちにできる取り組みを実践することができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 三重大学学生支援方針、相互支援、ピアサポート

学習内容

1. 大学コミュニティ全体を対象として、今ある資源を最大限に活用して相互に支援するとい

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、幅広い教養、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

平成26年度以前の入学者については、「スタートアップセミナー」および「キャリアプランニング」を履修済み、または履修中であること。

また受講学生は、今後継続的にピアサポーター学生委員会への参加を目指す者で、上級生を優先する(上限20名)。

予め履修が望ましい科目

- ・スタートアップセミナー
- ・キャリアプランニング
- ・AIポジティブ思考法

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書

教科書は使用しない。
参考文献は適宜紹介する。

参考書 参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席(30%)および期末レポート(70%)によって総合的に評価します。

オフィスアワー 金曜: 15:00~16:00

授業改善への工夫 受講生のコメントをもとに授業改善への対応を行います。

う考え方についての講義。

2.

受講生と同じ三重大生(仲間)の学生生活への適応や資質向上に寄与すると考えられる「ミニシンポジウム」企画をグループで検討・実施する。

3.

具体的には、「テーマの選定」「テーマに沿ったシンポジストの選出や依頼」「各話題提供やディスカッションの内容についての検討」「シンポジウム実施時の役割分担」「広報」等の作業を含む。

学習課題（予習・復習）

毎回の授業に積極的に参加すること。

また、授業ではグループワークが主となるため、グループのメンバーに迷惑をかけるような行為（遅刻、欠席、非協調的な態度など）は慎むこと。

ピアサポート実践 (ピアサポート実践)

Training for peer support

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤 綾文

授業の概要

・多様な環境と可能性を持つ者同士が相互に尊重し合うことが求められる今の社会において自己・他者を尊重する姿勢を学ぶことで社会人としての姿勢の獲得を目指す。

・さらに大学を一つの社会に見立て、学内に存在する多様な支援資源を最大限に活性化させ、相互に支援し合う取り組み(ピアサポート活動)を通して相互支援の姿勢を実践する。

学習の目的

・三重大学学生支援方針をもとに、相互尊重と他者支援の基本的な考え方を理解することができる。

・現在ある資源を活用し、相互に支援し合うシステムを構築する姿勢を身につけることができる。

・そのために必要な行動力、思考力、調整力を発揮することができる。

学習の到達目標

・三重大学学生支援方針をもとに、相互尊重と他者支援の基本的な考え方を説明することができる。

・学内に現在ある資源を活用し、相互に支援し合うシステムを構築する考えを提案することができる。

・三重大学学生支援方針の考え方を理解し、その視点から大学における学生支援活動として自分たちにできる取り組みを実践することができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 三重大学学生支援方針、相互支援、ピアサポート

学習内容

1. 大学コミュニティ全体を対象として、今ある資源を最大限に活用して相互に支援するとい

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、幅広い教養、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

平成26年度以前の入学者については、「スタートアップセミナー」および「キャリアプランニング」を履修済み、または履修中であること。

また受講学生は、今後継続的にピアサポーター学生委員会への参加を目指す者で、上級生を優先する(上限20名)。

予め履修が望ましい科目

- ・スタートアップセミナー
- ・キャリアプランニング
- ・AIポジティブ思考法

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書

教科書は使用しない。
参考文献は適宜紹介する。

参考書 参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席(30%)および期末レポート(70%)によって総合的に評価します。

オフィスアワー 金曜: 15:00~16:00

授業改善への工夫 受講生のコメントをもとに授業改善への対応を行います。

う考え方についての講義。

2.

受講生と同じ三重大生(仲間)の学生生活への適応や資質向上に寄与すると考えられる「ミニシンポジウム」企画をグループで検討・実施する。

3.

具体的には、「テーマの選定」「テーマに沿ったシンポジストの選出や依頼」「各話題提供やディスカッションの内容についての検討」「シンポジウム実施時の役割分担」「広報」等の作業を含む。

学習課題（予習・復習）

毎回の授業に積極的に参加すること。

また、授業ではグループワークが主となるため、グループのメンバーに迷惑をかけるような行為（遅刻、欠席、非協調的な態度など）は慎むこと。

学生生活支援実践 (学生生活支援活動実践) Training for Supporting Students

学期 後期 開講時間 水5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 鈴木 英一郎 (学生総合支援センター)

授業の概要 学生支援に求められる考え方を理解し、様々な背景を持つ学生がいかに充実した大学生活を送るか、そのために同じ学生として自分たちに貢献できることはなにか、についてグループで検討し、それに基づく実践を行なう。

学習の目的

・学生支援の考え方を理解し、その視点から大学コミュニティに対して自分たちが貢献できることは何かについて考えることができる。

・グループ毎に一つの学生支援企画を検討・実践する過程で、三重大の学生支援に関する課題を見つけ、その解決について考えることができる。

・グループ活動を通じて、社会人として求められる能力とは何かについて、考察することができる。

学習の到達目標 ・学内の様々な学生主体の活動に積極的に参加していく。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション

授業計画・学習の内容

キーワード 種々の学生支援活動に関する理解と実践

学習内容

以下のような内容を予定している。

1. 大学コミュニティ全体を対象とした「学生支援」という考え方についての講義。
2. 現在備えている「援助資源」を探するための全体ワーク。
3. グループワークによる、同じ学生の立場からできる学生支援企画の検討と実践。

力を総合した力

受講要件 2月に開催予定の「アカデミックフェア」に参加が可能であること。

予め履修が望ましい科目

- ・スタートアップセミナー
- ・キャリアプランニング

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席と期末レポートにより総合的に判断する。

オフィスアワー 水曜10:00~12:00 「学生なんでも相談室」

授業改善への工夫 授業の感想や授業評価アンケートの結果を参考にする。

その他 キャリア・ピアサポーター初級資格を取得するためには、「スタートアップセミナー」および「キャリアプランニング」の単位を取得し、この授業を含む「キャリア実践科目」のうちの1科目の単位を取得することが要件となる。

4. グループ単位での実践内容の振り返り(考察)。

5. 「実践報告会」におけるグループ発表。

学習課題(予習・復習)

毎回の授業に主体的に参加すること。

また、授業ではグループワークが主となるため、グループのメンバーに迷惑をかけるような行為(遅刻、欠席、非協調的な態度など)は慎むこと。

学習支援実践 (学習支援実践A)

Facilitator Training for Active Learning

学期 前期 **開講時間** 木7,8 **単位** 2 **対象** 「4つのカスタートアップセミナー」の単位を、8以上の成績で取得していること。「学習支援実践」の単位をすでに取得している者は、重複して受講することはできない。**年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 長濱文与・守山紗弥加・下村智子 (教養教育機構)

授業の概要 授業におけるファシリテーションの考え方や具体的な視点について学び、それらを基盤として「スタートアップセミナー」におけるファシリテーション実践を行う。「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」を総合した「生きる力」を自ら活用し、他者を支援する力を育成する。

学習の目的 「スタートアップセミナー」受講生の学習活動を効果的に支援できるようにする。

学習の到達目標

1. 「スタートアップセミナー」の目的を説明できる。
2. 授業におけるファシリテーションの考え方や具体的な視点について説明できる。
3. 2.を基盤とした初歩的なファシリテーションができる。
4. ファシリテーションに関する学習成果をまとめ、発表できる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション

授業計画・学習の内容

キーワード 4つの力、ファシリテーション、能動的学習

Key Word(s) Four Key Abilities, Facilitation, Active Learning

学習内容

第1回 オリエンテーション (「スタートアップセミナー」の説明と担当決め)

第2回～第13回 毎回、以下の内容を行う

- ①ファシリテーションの考え方、具体的な視点の学習
- ②実践の振り返り

シオン, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

「4つのカスタートアップセミナー」の単位を、8以上の成績で取得していること。

「学習支援実践」の単位をすでに取得している者は、重複して受講することはできない。

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、ファシリテーション実践40%、最終課題 (ファシリテーションについての発表) 30%

オフィスアワー 第1回授業で伝達する

授業改善への工夫 ・授業全体の計画を明確に示す

③次回のポイントの理解

第14回 ファシリテーションについての学習成果発表

第15回 ふり返り

学習課題 (予習・復習)

1. 配布する資料にしたがって、ファシリテーションのポイントや次回内容など、予習を行う。
2. 毎回の授業でファシリテーション実践についての振り返りを共有するので、意見をまとめておくこと。

学習支援実践 (学習支援実践B)

Learning Support Training

学期 前期 開講時間 水 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤 綾文

授業の概要 三重大大学に在籍する留学生の日常的な日本語コミュニケーションに関する状況を知る。留学生が日本語コミュニケーション力の習得するための支援に関して、講義・実践から学ぶ。

学習の目的 日本語を母語としない留学生が日本語を学習するための支援に関する姿勢、態度、知識を得る。ことばを教えることを考えるにあたって、母語に対する知識やコミュニケーションの原理についてより深く学ぶ。

学習の到達目標

- ・日本語を母語としない留学生に対して、日本語を学習するための支援に関して学ぶことで、「支援」について考えることができる。
- ・日本語の学習について考えていく中で、母語に対する知識やコミュニケーションの原理についてより深く学ぶ。
- ・三重大大学に在籍する学生の多様性に対して共感し、日本語と日本文化についてふりかえる。また相互交流を通して、国際性を高める。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本語、支援、留学生、チューター

学習内容

受講生のニーズ等を配慮しながら、主に以下の内容を扱う。

- ・留学生を「支援」すること、留学生の望む支援について考える
- ・実際に留学生に関わった経験についてふりかえる
- ・三重大大学に在籍する留学生の日本語コミュニケーション力と学習スキルを把握する

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 討論・対話力, 指導力・協働性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー、留学生支援実践

発展科目 こころのサポート、および各種キャリア教育科目

教科書 授業の中で提示する。

成績評価方法と基準 出席25%、毎回のMoodle課題提出25%、グループ課題25%、活動への参加度25% 計100% (合計が60%以上で合格)

授業改善への工夫 授業の感想や授業評価アンケートの結果を参考にする。

その他 受講生の人数により授業の進め方を修正するため、最初の授業に必ず出席すること。

・国際交流センターで、留学生に対して行われている授業内容を知る

- ・留学生の日本語コミュニケーション力を向上させるための知識・支援方法を得る
- ・留学生に対する学習支援方法を探り、実践する。

学習課題 (予習・復習) 毎回授業の振り返り、およびMoodle上に課題を提出する。課題は、毎時間授業の中で提示されるので、欠席をしないように。

広報実践 (広報誌編集実践)

Training for Public Relations

学期 後期 開講時間 木7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 演習, 実習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 村上 克介(生物資源学部)

授業の概要

三重大学広報誌「MIU」は学生編集、大学発刊の情報誌として年1回刊行される。

編集組織は教員編集委員(委員長: 学生総合支援担当副学長と学生支援に係わる教員)および学生編集委員から成る。

本講義の受講者は、学生編集委員となり、学生として大学から広報誌を通じて発信したい情報を提案し、取材、執筆、編集、構成、査読、校正、印刷、出版、を担当教員、共通教育事務スタッフ、出版社、印刷所等の指導助言を経て完成に至るプロセスを実践する。

学習の目的 キャリア実践の実例として、出版物の概要とプロセスの理解ができる。

学習の到達目標 取材、執筆、編集、構成、査読、校正、印刷、出版の一連のプロセスを実践、経験し、出版物作成の基本を学ぶ。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 取材、執筆、編集、構成、査読、校正、印刷、出版、

学習内容

- 1.概要説明、スタッフ紹介、学生自己紹介
- 2.論文、著書なども包括した出版物の作成の全体プロセス
- 3.広報誌の歴史
- 4.次回広報誌MIUの構成計画
- 5.取材、執筆 (1)
- 6.取材、執筆 (2)
- 7.取材、執筆 (3)
- 8.中間編集委員会
- 9.取材、執筆 (4)
- 10.全体調整会議

受講要件 学外での取材等の活動があるため、学生教育研究災害傷害保険に加入していない学生の履修はできません。類似の保険は、加入の確認が学生サービスチームでできないため認めていません。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 主題「生きる力とキャリア形成」に属する科目

教科書 必要な資料は配布またはムードルに掲載する。

成績評価方法と基準 出席、実地での取り組み、成果物

オフィスアワー 毎週金曜日1200-1300、生物資源414または419号室

その他 キャリアピアサポーター初級資格取得のためには、実践科目のうち一科目を選択履修しなければならない。受講生は、学習成果を三重大学アカデミックフェアにおいて発表する、または、企画、運営への参加が要件となるので、その日を予定に入れておくこと

- 11.印刷所との打ち合わせ
- 12.校正作業
- 13.納品、仕分け、配布
- 14.15.三重大学アカデミックフェア参加・発表
- 16.評価会

学習課題 (予習・復習)

予習は必要としないが、各回に出た課題は次回までにこなし、次回に状況を報告する。毎回各自当日の作業報告を所定用紙で行う。12月初旬に、仮原稿を教員に提出し査読を受け、指摘事項を訂正して12月最終授業日には、仮入稿を完了する。1月は校正の実施と仕上げ期間となる。

広報実践 (大学紹介実践)

Public Relations & Communication

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要 学内の大学広報を扱う部署と連携し、その支援ニーズに応じた、かつ学生という立場から関わるができる大学広報活動について、グループワークにより実践する。

学習の目的

- ・学内で取り組まれている実際の業務に触れて、仕事の意味を考える。
- ・自分たちに求められているもの（ニーズ）と、それに対して学生という立場から提供できるもの（シーズ）とを良く理解する。
- ・グループワークによって一定の成果を上げるために必要な行動力、思考力、調整力を発揮することができる。

学習の到達目標

- ・大学広報に関連して、現在あるニーズを理解することができる。
- ・ニーズに応じて自分たちにできる取り組みを実践し、一定の成果を上げることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度,

授業計画・学習の内容

キーワード 大学広報、支援ニーズ

学習内容

1. 「連携・協働とはなにか」、「現在の本学の広報戦略」、等についての講義。
2. グループワークによる、ニーズに応じた大学広報活動の提案・検討と実践。
- 3.

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 平成26年度以前の入学者については、「4つのカスタートアップセミナー」および「キャリアプランニング」を履修済み、または履修中であること。

予め履修が望ましい科目

- ・スタートアップセミナー
- ・キャリアプランニング
- ・AIポジティブ思考法
- ・こころのサポート

発展科目

- ・実践を含む科目
- ・各種キャリア教育科目

参考書 参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 毎回の授業後に出題する課題(30%)と最終レポート課題 (50%)、プロジェクトへの取組み (20%) によって総合的に評価する。

授業改善への工夫 受講生のコメントをもとに授業改善への対応を行います。

プロジェクトの進捗状況の確認のために、授業内において随時プレゼンテーションの機会を設ける。

学習課題（予習・復習）

毎回の授業に積極的に参加すること。
また、授業ではグループワークが主となるため、グループのメンバーに迷惑をかけるような行為（遅刻、欠席、非協調的な態度など）は慎むこと。

キャリアプランニング (キャリアプランニング)

Career Planning

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 長谷川 岳雄 (学生総合支援センター)

授業の概要 大学を卒業して、社会に出るといふ転機は、人生のなかでも大きな転換期のひとつです。その大きな節目のなかで、世の中、企業、働くということについて、深く考えるきっかけを提供します。また、「働き方」を取り巻く環境が大きく変化をしています。新たな時代においては、自分のキャリア形成を会社（組織）に委ねるのではなく、主体的にキャリア(職業人生)をデザインしていく必要があります。キャリアを「探す」・「選ぶ」のではなく、「創る」・「広げる」のです。この授業では、皆さんが社会に出て充実した職業人生を送るために、キャリアをデザインすることの重要性とその方法論を学びます。

学習の目的 この授業は、直接的に就活支援をするためのものではありません。皆さんが卒業後社会に出て充実した職業人生を送るために、また、貴重な大学生活を有意義に過ごすために、「働くということ」をテーマに、世の中と自分自身の人生について考え、実際に行動に移すきっかけを得ることを目的としています。

学習の到達目標

- ・キャリア開発に関する基本理論の概要を説明できる。
- ・節目におけるキャリアデザインの方法を説明できる。
- ・自分の強み、大切にしている価値観を自分の言葉で説明できる。
- ・自分のキャリアの方向性を認識し、その実

現に向け具体的に行動に移すことができる。

本学教育目標との関連 モチベーション、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発履科目 前期「キャリアインターンシップ1」、後期「仕事・社会を知る」、後期「キャリアイベント実践」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書

金井壽宏 (2002) , 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書, 842円
上記以外の参考図書は、授業で取り上げるテーマに関連して、適宜紹介します。興味を持ったらぜひ読んでみてください。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加（フィードバックシートの提出、授業中の態度・発言）40%
- ・中間課題（宿題）の提出 35%
- ・最終課題レポート（テッドライン以降の提出は認めない）25%

オフィスアワー 火曜日 16:30-17:30（アポイントを取れば、月～水随時）

授業改善への工夫 毎週受講生からフィードバックコメントを提出してもらい、次週に紹介し、それらに対する回答及び復習を行います。また、その内容により授業改善への対応を図ります。

授業計画・学習の内容

キーワード キャリア開発、キャリアデザイン、キャリア教育

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 企業から期待されている（求められてい

- る）能力・スキル
- 第3回 働くということ
- 第4回 キャリア開発理論の潮流
- 第5回 節目ごとのキャリア発達課題
- 第6回 節目でキャリアをデザインする方法
- 第7回 質問力をみがく

第8回 自分を知る①－自分の興味・関心を知る－

第9回 自分を知る②－自分の価値観を知る－

第10回 自分を知る③－自分の取扱説明書を知る－

第11回 世の中の変化と働き方の未来図

第12回 希望学－希望の作り方－

第13回 未来を構想する①－ビジョンを描く－

第14回 未来を構想する②－布石を打つ－

第15回 振り返り&課題レポート提出

キャリアプランニング (キャリアプランニング)

Career Planning

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 長谷川 岳雄 (学生総合支援センター)

授業の概要 大学を卒業して、社会に出るといふ転機は、人生のなかでも大きな転換期のひとつです。その大きな節目のなかで、世の中、企業、働くということについて、深く考えるきっかけを提供します。また、「働き方」を取り巻く環境が大きく変化をしています。新たな時代においては、自分のキャリア形成を会社(組織)に委ねるのではなく、主体的にキャリア(職業人生)をデザインしていく必要があります。キャリアを「探す」・「選ぶ」のではなく、「創る」・「広げる」のです。この授業では、皆さんが社会に出て充実した職業人生を送るために、キャリアをデザインすることの重要性とその方法論を学びます。

学習の目的 この授業は、直接的に就活支援をするためのものではありません。皆さんが卒業後社会に出て充実した職業人生を送るために、また、貴重な大学生活を有意義に過ごすために、「働くということ」をテーマに、世の中と自分自身の人生について考え、実際に行動に移すきっかけを得ることを目的としています。

学習の到達目標

- ・キャリア開発に関する基本理論の概要を説明できる。
- ・節目におけるキャリアデザインの方法を説明できる。
- ・自分の強み、大切にしている価値観を自分の言葉で説明できる。
- ・自分のキャリアの方向性を認識し、その実

現に向け具体的に行動に移すことができる。

本学教育目標との関連 モチベーション、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 前期「キャリアインターンシップ1」、後期「仕事・社会を知る」、後期「キャリアイベント実践」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書

金井壽宏(2002), 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書, 842円
上記以外の参考図書は、授業で取り上げるテーマに関連して、適宜紹介します。興味を持ったらぜひ読んでみてください。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加(フィードバックシートの提出、授業中の態度・発言) 40%
- ・中間課題(宿題)の提出 35%
- ・最終課題レポート(テッドライン以降の提出は認めない) 25%

オフィスアワー 火曜日 16:30-17:30 (アポイントを取れば、月~水随時)

授業改善への工夫 毎週受講生からフィードバックコメントを提出してもらい、次週に紹介し、それらに対する回答及び復習を行います。また、その内容により授業改善への対応を図ります。

授業計画・学習の内容

キーワード キャリア開発、キャリアデザイン、キャリア教育

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 企業から期待されている(求められてい

- る)能力・スキル
- 第3回 働くということ
- 第4回 キャリア開発理論の潮流
- 第5回 節目ごとのキャリア発達課題
- 第6回 節目でキャリアをデザインする方法
- 第7回 質問力をみがく

第8回 自分を知る①－自分の興味・関心を知る－

第9回 自分を知る②－自分の価値観を知る－

第10回 自分を知る③－自分の取扱説明書を知る－

第11回 世の中の変化と働き方の未来図

第12回 希望学－希望の作り方－

第13回 未来を構想する①－ビジョンを描く－

第14回 未来を構想する②－布石を打つ－

第15回 振り返り&課題レポート提出

キャリアプランニング (インターンシップ)

Career Internship

学期 前期集中 開講時間 水9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 長谷川 岳雄 (学生総合支援センター)

授業の概要

三重大学では、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、および総合力としての「生きる力」の育成を教育目標としています。本授業では、社会で「生きる力」の養成を目指し、大学と企業が連携をして、インターンシップ(就業体験)を提供します。

授業は、前期約8回の授業、夏休み期間中のインターンシップ(約2週間の就業体験)、および、受け入れ企業の社長や担当者を招いた最終報告会の3つのパートから成り立っています。

この授業は、投下する時間が多く、一見割の合わない授業に思われますが、昨年度の受講者を見てみると、大変得るものが多く、かつ、自分の成長を実感できる機会であると自信をもって言える内容となっています。

ぜひ、新たな挑戦をし、自らの可能性・枠を広げみてはどうでしょうか？

学習の目的

- ・インターンシップ(就業体験)を通じ、自己理解や取り組む課題を探索し、具体的な行動に移すきっかけを提供する。
- ・インターンシップ(就業体験)を通じ、社会で求められている能力・スキルを実感する。
- ・インターンシップ(就業体験)を通じ、働くことの実態、意義、面白みを体感する。
- ・授業を通して、社会人として必要なスキル・マナーを習得する。

学習の到達目標

- ・企業(社会)で何が求められているのかを

授業計画・学習の内容

キーワード インターンシップ、就業体験、社会人基礎力、社会人マナー

学習内容

前期授業は、原則隔週で実施します。

実感し、説明することができる。

- ・インターンシップで何を行い、何を学び、それをどう大学生活で生かしていくのかについて、プレゼンすることができる
- ・ビジネスメール、履歴書、お礼状の書き方を理解し、実践できる。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・夏休み期間中(8月下旬から9月中旬)に、約2週間のインターンシップに参加します。その参加が必須条件です。
- ・学外実習に対応する保険加入が必要です。

予め履修が望ましい科目 前期・後期「キャリアプランニング」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書 授業で取り上げるテーマに関連して、適宜紹介します。興味を持ったらぜひ読んでみてください。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加(課題提出、授業中の態度・発言) 30%
- ・インターンシップ(受入企業からの評価等) 40%
- ・最終報告会(プレゼンテーション) 30%

オフィスアワー 火曜日16:30-17:30 (アポイントを取れば、月~水随時)

第1回 オリエンテーション

第2回 前期受講者の体験談

第3回 履歴書の書き方、メール・お礼状の書き方

第4回 ホームページから企業を読み解く

第5回 企業研究プレゼン

第6回 社会人マナー①

第7回 社会人マナー②&企業で成長する人の特徴

第8回 インターンシップの目標設定、実施前注意事項

8月下旬～9月中旬 インターンシップ (2週間)

9月下旬 最終報告会 (受入企業様来賓)

キャリアプランニング (キャリアイベント実践)

Training for Career Events Management

学期 後期 開講時間 水9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 長谷川岳雄

授業の概要 実践的なキャリア教育に位置づけられる本授業では、三重大学における就職支援業務(就活イベント)を題材に、考える技術、伝える技術、問題を解決する技術、の育成を図ります。具体的には、就活イベント参加、アンケート分析、インタビュー調査等を行い、就活イベントの「報告書」と「企画書」を作成し、プレゼンテーションを行います。

学習の目的

- ・就活イベントの「報告書」「企画書」作成を通して、社会で必要とされる「考える技術」「伝える技術」「問題を解決する技術」を習得する。
- ・就職活動に対する知識を習得することを通して、就職活動に関する備えをする。
- ・就職支援チームとの連携を通じ、大学の就職支援業務を知るとともに、職員との交流を図る。

学習の到達目標

- ・「問題を解決する」プロセスを説明できる。
- ・「報告書」「企画書」に何を書けばよいのかを理解し、作成することができる。
- ・伝わりやすいプレゼンテーションの「型」

授業計画・学習の内容

キーワード 就職活動、ロジカル・シンキング、問題解決技法、プレゼンテーション

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 就活イベント参加
第3回 報告書の作り方&考える技術[基礎編]
第4回 図解の技術[実践編]
第5回 グループワーク
第6回 中間課題プレゼンテーション[報告書編]&振り返り

を理解し、実践できる。

- ・就職活動の流れとその内容を理解し、説明できる。

本学教育目標との関連 モチベーション、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、社会人としての態度

予め履修が望ましい科目 「キャリア形成・能力開発」を受講していることが望ましい

発展科目 キャリアピアサポーター資格教育プログラム関連科目。

教科書 必要に応じて必要な資料を授業で配布する。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加(課題提出、授業中の態度・発言) 40%、
- ・中間プレゼン[報告書編] 30%(グループ評価15%・個人評価15%)
- ・最終プレゼン[企画書編] 30%(グループ評価15%・個人評価15%)

オフィスアワー 火曜日 16:30-17:30 (アポイントをとれば、月～水随時)

授業改善への工夫 就職支援チームとの連携を強化

第7回 問題解決技法[基礎編]
第8回 問題解決技法[基礎編]
第9回 《ゲストスピーカー》(仮) 就活の実態と三重大学の就職支援
第10回 《ゲストスピーカー》(仮) Making of 就活イベント[企画の技術]
第11回 就活イベント参加
第12回 《ゲストスピーカー》(仮) 4年生に聞く「就活」の実態と課題
第13回 伝える技術[基礎編]
第14回 最終プレゼンテーション[リハ]

第15回 最終プレゼンテーション[企画書編]& 振り返り

学習課題（予習・復習） 三重大学の就活イベントの運営、アンケート分析、インタ

ビュー調査を通して、5名程度のグループで、「就活イベント」に関する企画プレゼンをしてもらいます。したがって、授業外でもグループワーク等を行う時間が必要となります。

キャリア形成 (キャリア形成)

Career Development

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 長谷川 岳雄(学生総合支援センター)

授業の概要 皆さんは、社会に出たらどのような能力・スキルを求められている(期待されている)と考えていますか? 経済産業省は、それらを「社会人基礎力」(「前に踏み出す力(アクション)」・「考え抜く力(シンキング)」・「チームで働く力(チームワーク)」)として提示しています。また、企業の採用選考で重視されている能力の筆頭は「コミュニケーション能力」です。この授業では、皆さんが社会に出て求められているコミュニケーション・スキルである「考える技術」・「伝える技術」の基本の「型」を学びます。

学習の目的 社会に出て求められる(期待されている)能力・スキルである「考える技術」・「伝える技術」の基本の「型」を習得し、大学生活で実践できるようにすることを目的としています。

学習の到達目標

- ・思考を整理する「型」を理解し、実践できる。
- ・相手に伝わりやすいメッセージを構築するための「型」を理解し、実践できる。
- ・相手に伝わりやすいプレゼンテーションの「型」を理解し、実践できる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 一方的に聞くだけの講義ではな

授業計画・学習の内容

キーワード 考える技術、伝える技術、ロジカルシンキング、プレゼンテーション

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 考える技術Ⅰー考えたり、伝えたりする前の作法ー

く、考える、対話する、発表する、を重視します。積極的に、楽しく授業に参加してください。ただし、グループで議論&プレゼンしてもらいますので、授業外でのグループ活動に参加し貢献することを受講要件とします。

発展科目 PBLセミナー「キャリア・イベント実践」、「キャリアインターンシップⅠ」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書

照屋華子・岡田恵子(2001), 『ロジカル・シンキング』東洋経済新報社, 2,310円
バーバラ・ミント(1999), 『考える技術・書く技術』ダイヤモンド社, 2,940円
ジーン・ゼラズニー(2004), 『マッキンゼー流プレゼンテーションの技術』東洋経済新報社, 2310円

成績評価方法と基準

- ・授業への参加(フィードバックシート提出、授業中の態度・発言) 35%、
- ・中間課題 30%、
- ・最終プレゼン&振り返りレポート 35%

オフィスアワー 火曜日16:30~17:30(アポイントをとれば、月~水随時)

授業改善への工夫 毎週受講生からフィードバックコメントを提出してもらい、次週に紹介し、それらに対する回答及び復習を行います。また、その内容により授業改善への対応を図ります。

第3回 考える技術Ⅱー思考を整理する4つの型①ー

第4回 考える技術Ⅲー思考を整理する4つの型②ー

第5回 考える技術Ⅳーわかる&つなげる①ー

第6回 考える技術Ⅴーわかる&つなげる②ー

第7回 考える技術VIーわかる&つなげる③ー
第8回 問題を解決する技術Ⅰー問題解決プロセスの基本型ー
第9回 問題を解決する技術Ⅱー問題解決プロセスの基本型ー
第10回 伝える技術Ⅰー構成のスキルー
第11回 伝える技術Ⅱー図解のスキルー
第12回 伝える技術Ⅲー伝達のスキルー
第13回 グループプレゼンテーション（課題発表）

第14回 グループプレゼンテーション（課題発表）

第15回 振り返り&振り返りレポート提出

学習課題（予習・復習） 授業で提供する「考える技術」・「伝える技術」の各スキルを活用し、「あるお題」に対して5名程度のグループで議論し、プレゼンテーションをしてもらいます。したがって、授業外でもグループワークを行う時間が必要となります。

キャリア形成 (仕事・社会を知る)

Work and Society

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 長谷川 岳雄(学生総合支援センター)

授業の概要 大学を卒業して、社会に出るといふ転機は、人生のなかでも大きな転換期のひとつです。その大きな節目のなかで、世の中、企業、働くということについて、考えるきっかけを提供します。この授業では、業界・企業研究、OBOG訪問をグループで行い、最終的にプレゼンテーションを行います。また、外部からゲストスピーカーを招き、実際に社会（会社）で働いている人から、取り組んできた仕事や一皮むけたターニングポイントの経験等を聞き、働き方・生き方に関して考える機会とします。

学習の目的 みなさんが多い就職活動を送るために、就職活動を先取りして、①業界・企業情報を収集・研究する、②OBOG訪問を行う、③ゲストスピーカー（ビジネスで活躍している人）との対話を通して、仕事・社会の一端を実感することを目的としています。

学習の到達目標

- ・業界・企業研究のやり方を理解し、実践できる。
- ・実際に社会で働く人の「一皮むけた経験」から、働くということの面白さを感じる。
- ・「働くこと」に関する法律の基礎知識を説明できる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 就職活動、業界・企業研究、OBOG訪問、プレゼンテーション

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 就活の実態と選考基準—就活、そして、人事部は何をみているのか—

受講要件 一方的に聞くだけの講義ではなく、考える、対話する、発表する、を重視します。積極的に、楽しく授業に参加してください。ただし、グループで議論&プレゼンしてもらいますので、授業外でのグループ活動に参加し貢献することを受講要件とします。

予め履修が望ましい科目 前期・後期「キャリアプランニング」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書

授業で取り上げるテーマに関連して、適宜紹介します。興味を持ったらぜひ読んでみてください。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加（フィードバックシート、授業中の態度・発言）40%
- ・中間課題 25%
- ・最終プレゼンテーション（全体・個人）& 振り返りシート 35%

オフィスアワー 火曜日16:30~17:30（アポイントをとれば、月~水のうち随時）

授業改善への工夫 毎週受講生からフィードバックコメントを提出してもらい、次週に紹介し、それらに対する回答及び復習を行います。また、その内容により授業改善への対応を図ります。

第3回 業界・企業・職種研究の仕方—ホームページから企業を読み解く—
第4回 自分の興味・関心を知る
第5回 業界・企業研究プレゼンテーション
第6回 企業が求めている人材・能力
第7回 労働法制の基礎知識 I & OBOG訪問企画会議

第8回 ゲストスピーカー（仮）「女性活躍推進とライフワークバランス」

第9回 ゲストスピーカー（仮）「三重大OBが語る“仕事・就活”」

第10回 労働法制の基礎知識Ⅱ & OBOG訪問企画会議

第11回 ゲストスピーカー（仮）「偶然を味方にする方法と自分グローバル化」

第12回 世の中の変化と働き方の未来図

第13回 プレゼンテーション準備

第14回 最終プレゼンテーション（企業研究 & OBOG訪問結果）

第15回 まとめ&振り返りシート提出

※ゲストスピーカーの都合により、日程・順番が変更になる場合があります。

学習課題（予習・復習） 5名程度のグループで、業界・企業研究及びOBOG訪問を実施し、最終的にプレゼンをしてもらいます。したがって、授業外でもグループワーク等を行う時間が必要となります。

アントレプレナー論 (起業マインドの醸成)

Introduction to Entrepreneurship

学期 前期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○山根栄次 (教育学部)、松岡守 (教育学部)、武田秀一 (非常勤講師)

授業の概要 起業のための基礎知識と方法を起業プランの作成を通じて実践的に獲得する。

学習の目的 社会をより良いものにしていくためには、与えられた仕事をただこなすのではなく、今のシステムのどこに問題があるのか気づくアンテナの繊細さ、そしてそれを発見したらどうすれば良いのかの企画力、そしてそれを形にする実践力が個々人に求められる。これは実際に起業をせずに一企業に所属する立場を継続する場合でも求められる姿である。このような一連の意識、知識、実践力を身に付けるのがこの授業の目的である。

学習の到達目標

- ・ 起業のための基礎知識を得る
- ・ 起業のための心構え、姿勢を獲得
- ・ 自ら課題を発見し解決する企画立案能力の

獲得

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

成績評価方法と基準 授業の中でのグループ討論、発表、レポートから評価する。

オフィスアワー 相談は武田 (dzq04343@nifty.ne.jp) まで電子メールで。直接相談が必要な場合は電子メールで日時等を設定の上、対応します。

その他 授業の進行上受講生は50名までとする。

授業計画・学習の内容

キーワード 起業マインドの醸成

学習内容

- 1 プログラム受講ガイダンス
- 2 アントレプレナーシップとは
- 3 起業の心構え
- 4 事業計画とは1
- 5 現役起業家 (ゲストスピーカー) による講義1
- 6 ビジネスアイデアの洗い出し

- 7 ビジネスプランの作成1
- 8 ビジネスプランの作成2
- 9 事業計画とは2
- 10 現役起業家 (ゲストスピーカー) による講義2
- 11 ビジネスプランの作成3
- 12 ビジネスプランの作成4
- 13 効果的なプレゼンテーションとは
- 14 プレゼンテーション資料作成
- 15 ビジネスプランの発表・総括

地域と仕事 (地域の仕事を考える)

Employment and Career Development

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 ○西村訓弘 (医学系研究科)、狩野幹人、八神寿徳、加藤貴也 (以上、社会連携研究センター)、矢野竹男、坂内正明 (以上、地域イノベーション学研究科)

授業の概要 日本社会は人口減少期に入り経済の停滞と閉塞感が漂っていると言われて久しい。しかしながら、地域社会を見渡すと三重県内には可能性が高く、活力に満ちた企業が数多く存在している。本授業では、ゲストスピーカーとして主に三重県を足場として日本国内に限らずグローバルに展開した企業経営を行っている経営者(社長クラス)を順次招聘し、経営者の立場から大学で学ぶ学生に期待することを語ってもらう。元気な経営者の生の声を聴き、自分の感覚で経営者の生きざまを感じ取ることで、就職を目指す学生諸君に、「働くことを通じた自己形成」について自ら考える機会を与える。

学習の目的 地域社会の中核人材として活躍する人材に必要な素養について理解できるようになる。

学習の到達目標 企業経営を行う人たちとの対話から、企業への就職など社会生活を通じた自己実現について熟慮できる能力を養成する。大学卒業後に社会人として生きるための基礎力を磨く。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、問題解決力、討論・対

話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「働くことを通じて自己実現をはかる」ことを考えている学生であることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 第一回目の講義で招聘する企業名の一覧を提示するので、各企業の事業内容等についてホームページ等で事前に調べておくこと。

発展科目 特になし。

教科書 講義において各講師からの資料を配布する予定。

成績評価方法と基準 出席票(各講義についての感想を記述)50%、レポート(50%)によって評価する。

オフィスアワー

医学系研究科トランスレーショナル医科学(059-231-5405)まで問い合わせのこと。
担当: 田口、加藤

授業改善への工夫 毎回の講義において感想文を学生から提出させ、その内容を考慮した改善を行うことを計画している。

授業計画・学習の内容

キーワード 経営者との対話から就職を考える

Key Word(s) Committing for community and works

学習内容

本講義では、三重県内など地域社会の現場での活躍している経営者などをゲスト・スピーカーとして招聘し、ゲスト・スピーカーの活動内容、考え方を生の声として語っていただく。その後、教員が解説しながら地域社会で活躍するための考え方を学生との質疑を通して指導する。

第1回 就職を通じたキャリア形成について(担当: 西村)

第2回～第14回 地域の経営者に聞く(担当: ゲストスピーカーとして招聘する地域の企業経営者など)

三重県内など地域社会の現場での活躍している経営者などをゲスト・スピーカーとして招聘し、ゲスト・スピーカーの活動内容、考え方を生の声として語っていただく。

第15回 就職とキャリア形成のまとめ(担当: 西村)

授業終了時に提出するレポートでは、授業における習熟度を把握するために、全てのゲス

トスピーカーのお話を受けて自身が感じ取った「社会で働くこと」についての考えを自分の言葉としてまとめ、提出する。その際には、講義シリーズで心に残った講師を3名挙げ、なぜその講師の話聞いて心に残ったかについての説明とその結果として自分がどのように仕事に取り組みたいと思ったかについてを問うことを予定している。

学習課題（予習・復習）

第1回目の授業にて、本授業科目でお話を聞くゲストスピーカーの一覧表を提示するので、ゲストスピーカーの方々について、インターネットなどを利用して事前に背景を理解しておくことが望ましい。

各授業では、出席確認のための用紙を配布するので、この用紙にゲストスピーカーのお話を聞いたことに対する感想を各授業の終了時までに入力して、退出時に提出すること。その提出をもって各授業への出席とする。

社会連携型実践 (社会連携型実践A)

Social cooperation practice

学期 後期 **開講時間** 月7,8 **単位** 2 **対象** 最大50名程度が望ましい **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習, 実習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 ○西村訓弘 (医学系研究科・社会連携研究センター)、加藤貴也、八神寿徳、狩野幹人 (以上、社会連携研究センター)、矢野竹男、坂内正明 (以上、地域イノベーション学研究科)

授業の概要 地域社会が抱える現実の問題を理解し、その解決方法について考察する授業として実施する。本事業では、ゲストスピーカーとして招へいする地域社会で活躍する方々の生の声を聴き、その生きざまを感じ取った後、地域社会が抱える具体的な課題を題材にグループ討議を行い、解決策をまとめさせる。参考として、平成26年度には、鈴鹿サーキット、速水林業からゲストスピーカーを招聘し、現場見学とグループディスカッションを行うことで、これらの企業が抱える問題を解決するための提言を行った。

学習の目的 地域社会の課題を理解し、その解決に向けた考察を行うための基礎力を修得させるとともに、自身のキャリア形成に対する意識づけを行う。

学習の到達目標 自らのキャリア形成を考え行動するようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コ

ミュニケーション力を総合した力

受講要件 「働くことを通して自己実現をはかる」ことを考えている学生であることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 地域の仕事を知る

教科書 特になし。講義において印刷物を配布する予定。

参考書 地域社会の問題と解決に関する書籍、日本経済新聞など。

成績評価方法と基準 出席票 (各講義についての感想を記述) 50%、レポート (50%) によって評価する。

オフィスアワー

医学系研究科トランスレーショナル医科学 (059-231-5405) まで問い合わせのこと。
担当: 加藤、田口

授業改善への工夫 毎回の講義において感想文を学生から提出させ、その内容を考慮した改善を行うことを計画している。

授業計画・学習の内容

キーワード 地域社会、社会連携、キャリア形成、プロジェクト・マネジメント

Key Word(s) Community, Social cooperation, Carrier formation, Project management

学習内容

- 1週: 授業ガイダンスとグループ分け
- 2週: 地域社会の課題①について当事者からの話を聞く
- 3週: 地域社会の課題①に関する現地実習
- 4週: グループディスカッション: 方法の説明と実施
- 5週: グループディスカッション: 自由討議

- 6週: グループディスカッション: 発表資料の作成
- 7週: グループディスカッション・発表
- 8週: 地域社会の課題②について当事者からの話を聞く
- 9週: 地域社会の課題②に関する現地実習
- 10週: グループディスカッション: 方法の説明と実施
- 11週: グループディスカッション: 自由討議
- 12週: グループディスカッション: 発表資料の作成
- 13週: グループディスカッション・発表
- 14週: 授業の振り返りと全体議論

15週：授業の振り返りと全体議論の結果発表

学習課題（予習・復習） グループワークで発表を行ってもらうため、講義時間以外でも

グループで集まり討論する必要があります。
また、学外実習を2回行う予定であり、それが可能であることが望ましい。

知財学 (発明・知財学入門)

Intellectual Property Study

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○松岡 守 (教育学部)、狩野 幹人 (社会連携研究センター)、八神 寿徳 (社会連携研究センター)、世良 清 (非常勤講師)

授業の概要

- ・知財制度 (特許, 商標, 著作権等) のあらましと関係する実践を理解する
- ・創造性を引き出し, 生まれたアイデアを基に特許申請書の作成実践をする
- ・以上の知識と実践を通じて知財を尊重する意識を涵養する

学習の目的

- ・知財制度を理解し, 適切に対応できるようにする
- ・自らの創造性に自信を持ち, 豊かな社会の構築に貢献できる素養を獲得する

学習の到達目標

- ・知財制度と知財に対する正しい意識を持つ
- ・豊かな社会の構築につながる創造性, 生まれたアイデアを活用できるスキルを持つ

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

参考書

- 知的財産イノベーション研究の展望ー明日を創造する知財学ー
- 日本知財学会知財学ゼミナール編集委員会 (編)
白桃書房
- 知財教育の実践と理論 小・中・高・大での知財教育の展開
- 日本知財学会知財教育分科会編集委員会 (編)
白桃書房
(教育学部生向け)

成績評価方法と基準 レポート 50%、プレゼンテーション 50%

オフィスアワー

毎週月曜日 12:00~13:00, 場所: 教育学部技術棟 2階松岡教員室
メール (matsuoka@edu.mie-u.ac.jp) でまずはご相談ください。

授業計画・学習の内容

キーワード 発明、特許、著作権、知的財産

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 アイデア発想1
- 第3回 産業財産権とは
- 第4回 アイデア発想2
- 第5回 IPDL検索
- 第6回 特許出願の手続き
- 第7回 明細書作成
- 第8回 諸外国の取り組み、後半レポート課題説明
- 第9回 中学校・高校での知財学習の事例

- 第10回 特許行政
- 第11回 著作権
- 第12回 知財紛争劇
- 第13回 三重大学の発明と特許
- 第14回 三重大学の商品開発と商標
- 第15回 学習成果発表会 (レポート発表・プレゼン)
(2月 アカデミックフェアでポスター発表)
*協同学習法によりアイデア出しを行い, そのアイデアに基づく発明について特許申請書類を作成する演習を行う。実際の特許として見込みのあるものは申請手続きをする補助まで行う。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 鈴木 英一郎 (学生総合支援センター)

授業の概要 心理的問題が形成される背景や状況について考え、そういった問題にどのように対応するのか、また相談者とのように解決を作り上げていくのか等の心理的援助の実際について、講義と各種ワークを通して理解する。

学習の目的 共感的な態度で人と接する市民・職業人となるために、人の心理や心理的サポートに関する基礎的な知識を持つ

学習の到達目標

- ・心理的援助について、「コミュニケーション」という観点から考え、「心理的な問題の捉え方」やそれに対する「解決の導き方」についての実際を理解することができる。
- ・心理的なサポートを実践する上で求められる態度や振る舞いについて理解し、過不足のない適切なサポートとは何かについて考えることができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技

術, 問題解決力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 心理学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 講義中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席とレポートにより総合的に判断する。

オフィスアワー 月曜10:00~12:00「学生なんでも相談室」

授業改善への工夫 授業の感想や授業評価アンケートの結果を参考にする。

その他 「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」の上級資格取得要件のうち「選択必修科目C: 心的援助科目」群に属する科目である。

授業計画・学習の内容

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

学習内容

- 1.オリエンテーション (講義の進め方・課題についての説明) :
- 2.「こころのサポート」とは?:
- 3.「学生生活サイクル」について考える:
- 4.カウンセラーの相談技法 (援助的コミュニケーション) :
- 5.行動療法によるアプローチ① (学習理論について) :
- 6.行動療法によるアプローチ② (行動療法の技法) :
- 7.認知行動療法によるアプローチ:
- 8.システム理論とコミュニケーション:
- 9.二重拘束 (ダブルバインド) 理論:
- 10.リフレーミング技法:
- 11.例外を利用した問題解決アプローチ:
- 12.「こころのサポート」演習①:

13. 「こころのサポート」演習②:
14. 「こころのサポート」演習③:
15. これまでのまとめ:

学習課題（予習・復習）

- 1.
 - 2.
 - 3.
 - 4.
 - 5.
- 6.
 - 7.
 - 8.
 - 9.
 - 10.
 - 11.
 - 12.
 - 13.
 - 14.
 - 15.

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要

心理的問題が形成される背景や状況について考え、そういった問題にどのように対応するのか、また相談者どどのように解決を作り上げていくのかについて、講義と各種ワークを通して理解する。

また、他者に対する相談行動や、仲間、部活・サークル集団、企業組織などの集団内で対人関係についても見識を深める。

学習の目的 共感的な態度で人と接する市民・職業人となるために、人の心理や心理的サポートに関しての基礎的な知識を持つ。

学習の到達目標 心理的な問題が形成される背景や状況について、個人の要因だけでなく個人を取り巻く環境の要因などにも注目し、「心理的な問題の捉え方」やそれに対する「解決の導き方」について、多面的な捉え方をすることができる。心理的なサポートを実践する上で求められる態度や振る舞いについて理解し、過不足のない適切なサポートは何かについて考えることができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 心理的問題の理解と解決、心理的サポートの実際

学習内容

受講生のニーズ等を考慮しながら、適宜以下のようなテーマを扱う。

1. 心理的な問題が形成される背景
2. 大学生の「悩み」に対するイメージ
3. 他者に相談することの難しさ・サポートされることへの抵抗
4. 個人を取り巻く環境、集団という観点か

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 心理学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 講義中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 授業中に出すミニレポートと期末レポート課題により総合的に判断する。

授業改善への工夫 毎回の授業の感想・ミニレポートの内容を参考にする。

その他 「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。

ら、心理的な問題を捉える

5. カウンセラーの聴き方・話し方

6. 事例から心理的サポートの実際について学ぶ

学習課題 (予習・復習) 基礎的な心理学の知識があることにより、講義内容についてより深い理解が出来るものと思われる。よって、「心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みの受講生は再度復習をしておくことも勧める。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** 望木 郁代 (医学部)

授業の概要 こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。

学習の目的 現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。スムーズな支援が展開され、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。

学習の到達目標 自己そして他者のこころとからだの状態に気づき、ソーシャル・サポートを担えるコミュニティの一員として機能できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

教科書 使用しない。

参考書 講義中、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 試験40%、毎回のレポート30%、授業参加30%で評価する。

オフィスアワー 火曜日 9:00～12:00 医学部 (探索医学研究棟1F 教員室2)

授業改善への工夫 レポート課題や授業アンケートの内容から、受講生の要望や理解度を把握し、授業改善を進める。

その他

「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。後期末曜日5, 6時限開講の同名授業とは同じ内容を扱うので、履修はどちらか一方のみとすること。

なお、本授業は平成21年度までの「心理的援助論」に当たる科目であり、「心理的援助論」を既に履修済みの学生は履修できない。受講者人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード こころとからだ、自他理解、健康、心理的サポート

Key Word(s) Psychological support, Mental health

学習内容

- 第1回 科学としての心理学
- 第2回 心理学の研究法
- 第3回 ヒトという存在
- 第4回 「こころ」と「からだ」の関係
- 第5回 ストレスと健康
- 第6回 感情と行動①

- 第7回 感情と行動②
- 第8回 パーソナリティ
- 第9回 自己理解・他者理解①
- 第10回 自己理解・他者理解②
- 第11回 原因帰属
- 第12回 心理療法①
- 第13回 心理療法②
- 第14回 カウンセリング体験①
- 第15回 カウンセリング体験②
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 毎週、授業の振り返りと来週の課題を、Moodleで提出する。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** 望木 郁代 (医学部)

授業の概要 こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。

学習の目的 現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。スムーズな支援が展開され、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。

学習の到達目標 自己そして他者のこころとからだの状態に気づき、ソーシャル・サポートを担えるコミュニティの一員として機能できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

授業計画・学習の内容

キーワード こころとからだ、自他理解、健康、心理的サポート

Key Word(s) Psychological support, Mental health

学習内容

- 第1回 科学としての心理学
- 第2回 心理学の研究法
- 第3回 ヒトという存在
- 第4回 「こころ」と「からだ」の関係
- 第5回 ストレスと健康
- 第6回 感情と行動①

教科書 使用しない。

参考書 講義中、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 試験40%、毎回のレポート30%、授業参加30%で評価する。

オフィスアワー 火曜日 9:00～12:00 医学部 (探索医学研究棟1F 教員室2)

授業改善への工夫 レポート課題や授業アンケートの内容から、受講生の要望や理解度を把握し、授業改善を進める。

その他

「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。前期木曜日5, 6時限開講の同名授業とは同じ内容を扱ので、履修はどちらか一方のみとすること。

なお、本授業は平成21年度までの「心理的援助論」に当たる科目であり、「心理的援助論」を既に履修済みの学生は履修できない。受講者人数制限あり。

- 第7回 感情と行動②
- 第8回 パーソナリティ
- 第9回 自己理解・他者理解①
- 第10回 自己理解・他者理解②
- 第11回 原因帰属
- 第12回 心理療法①
- 第13回 心理療法②
- 第14回 カウンセリング体験①
- 第15回 カウンセリング体験②
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 毎週、授業の振り返りと来週の課題を、Moodleで提出する。

A-Iポジティブ思考法 (AIポジティブ思考法)

Introduction to Appreciative Inquiry

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 川島 一晃 (非常勤講師)

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協働的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的 授業が終了した時点で、学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。

学習の到達目標

- ・自分と他人の良さを認めることができる。
- ・前向きな態度を持つことができる。
- ・他人の意見を尊重することができる。
- ・異なった意見を調整することができる。
- ・建設的な意見を出そうとする態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ワークショップを行うために、40名を上限とする。受講者多数の場合には、選

定を最初の授業で行うので、欠席をしないように留意してください。

予め履修が望ましい科目 キャリアプランニングを履修していることが望ましい

発展科目 キャリアの要素を含む科目、実践を伴う科目の履修によって、本科目で得られた知見を応用できるでしょう。

教科書 ダイアナ・ホイットニー他著『ポジティブ・チェンジャー主体性と組織力を高めるAI』ヒューマンバリュー、2006年。

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、グループ活動40%、個人課題評価30%によって総合的に判断する。

オフィスアワー 金曜日：15：00～16：00

授業改善への工夫 授業アンケート等の学生の声を反映させ、改善する。

その他 アプリシエーティブ・インクワイアリーは、大学、学校、自治体、企業、NPO、福祉、医療現場、国際協力などの領域で、世界各地で用いられている手法です。この手法を教える授業は、日本の大学では初めてのものです。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

アプリシエーティブ・インクワイアリーについての概説およびワークショップを行う。

1. アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- 2～3. 共感的に聞く方法と実践

4～6. 強みの発見

7～9. 夢を描く

10～12. デザインする

13～14. 実践する

15. まとめとふりかえり

学習課題 (予習・復習)

毎回課題を課します。

各自期限までにムードルにコメントをアップすること。

A-Iポジティブ思考法 (AIポジティブ思考法)

Introduction to Appreciative Inquiry

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 川島 一晃 (非常勤講師)

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協働的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的 授業が終了した時点で、学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。

学習の到達目標

- ・自分と他人の良さを認めることができる。
- ・前向きな態度を持つことができる。
- ・他人の意見を尊重することができる。
- ・異なった意見を調整することができる。
- ・建設的な意見を出そうとする態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ワークショップを行うために、40名を上限とする。受講者多数の場合には、選

定を最初の授業で行うので、欠席をしないように留意してください。

予め履修が望ましい科目 キャリアプランニングを履修していることが望ましい

発展科目 キャリアの要素を含む科目、実践を伴う科目の履修によって、本科目で得られた知見を応用できるでしょう。

教科書 ダイアナ・ホイットニー他著『ポジティブ・チェンジャー主体性と組織力を高めるAI』ヒューマンバリュー、2006年。

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、グループ活動40%、個人課題評価30%によって総合的に判断する。

オフィスアワー 金曜日：15：00～16：00

授業改善への工夫 授業アンケート等の学生の声を反映させ、改善する。

その他 アプリシエーティブ・インクワイアリーは、大学、学校、自治体、企業、NPO、福祉、医療現場、国際協力などの領域で、世界各地で用いられている手法です。この手法を教える授業は、日本の大学では初めてのものです。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

アプリシエーティブ・インクワイアリーについての概説およびワークショップを行う。

1. アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- 2～3. 共感的に聞く方法と実践

4～6. 強みの発見

7～9. 夢を描く

10～12. デザインする

13～14. 実践する

15. まとめとふりかえり

学習課題 (予習・復習)

毎回課題を課します。

各自期限までにムードルにコメントをアップすること。

A-Iポジティブ思考法 (AIポジティブ思考法)

Introduction to Appreciative Inquiry

学期 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協同的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的

学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。グループ活動では、お互いにさまざまな考え方をもち他者と認めあい、議論しあい、課題に取り組む姿勢を得ることができる。

学習の到達目標

アプリシエーティブ・インクワイアリーの考え方を理解し、その視点から物事を捉えることができる。物事のポジティブな側面にきづくことができ、より発展していくためのアイデア、さらに自分ができることについても考えることができる。グループ活動を通して、お互いの意見を尊重

し、調整し、一つにまとめていくなどの社会人として求められる力を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 グループで討議を行いますので、グループ活動に積極的に取り組むこと。

発展科目 主題Iにおけるキャリア実践科目

教科書 講義時に指示する。

参考書 講義時に適宜指示する。

成績評価方法と基準 課題コメント (25%)、グループ活動 (40%)、発表 (30%) による総合点により評価します。

オフィスアワー 水曜14:30-15:30

授業改善への工夫 毎週、受講生のコメントに対して次週にフィードバックの時間を設けます。回答により授業改善への対応を図りません。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

本授業は、アメリカを中心に実践されているアプリシエーティブ・インクワイアリーの教育方法を理解し、自分たち学生自身がいかに充実した大学教育を受けられるか、よりよい大学教育は何か、自分たちができることは何か、についてグループで検討を行う。「三重大学の教育をよりよくするには」という大きな課題に取り組む中で、問題解決をする一つ

の手段としてアプリシエーティブ・インクワイアリーの考え方を得て、グループ討論を通じて思考を深めていく。

第1回から第4回までの授業でアプリシエーティブ・インクワイアリーについて講義を行う。

- ・アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か

- ・共感的に聴く方法と実践

第5回からグループを編成する。学生は、アプリシエーティブ・インクワイアリーの教育方法に沿いながら、グループ毎に三重大学の強

み、よりよくするためのアイデア、そのアイデアを実践するための方法についてグループ討議を行う。

- ・強みの発見
- ・夢を描く
- ・デザインする
- ・実践する

第15回にまとめを行う。

学習課題（予習・復習）

授業ではグループワークなどの演習を行いますので遅刻は厳禁です。

身近な生活の中でアプリシエーティブ・インクワイアリーの考えを取り入れた課題に取り組み、その内容をMoodleに提出するという課題が出ます。

哲学A (「因果」とは何か)

Philosophy A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 ○遠山 敦 (人文学部)、片倉望 (人文学部)、藤田伸也 (人文学部)、秋元ひろと (教育学部)、馬原潤二 (教育学部)、森脇由美子 (人文学部)、久間泰賢 (人文学部)、田中綾乃 (人文学部)、薄井尚樹 (人文学部)、相澤康隆 (人文学部)、伊東祐之 (非常勤講師)、山岡悦郎 (非常勤講師)、小川眞里子 (非常勤講師)、斎藤明 (非常勤講師)、桑原直己 (非常勤講師)

授業の概要 元来仏教の基本的な概念として日本に移入された「因果」は、現代においては論理の最も基本的な枠組みの一つとして科学的思考の基礎ともなっている。そうした「因果」概念について、それが西洋及び東洋においてどのように捉えられてきたかを、哲学、宗教、科学史、歴史、政治、芸術などをそれぞれの専門とする多彩な講師によるオムニバス形式の授業により、多角的な視点から明らかにする。

学習の目的 「因果」(原因と結果)を巡る東西の様々な思索を学ぶことを通じて、その現代的な意味について考える力を身につけることができるようになるとともに、「因果」を巡る諸問題に関して、その根源に立脚した思索を転回することができるようになる。

学習の到達目標 「因果」(原因と結果)が東西の諸思想においてどのような意味で捉

えられてきたかを知ることができる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特に無し。

予め履修が望ましい科目 特に無し。

発展科目 哲学、倫理学、宗教学

教科書 秋元ひろと編『因果の探究』三重大学出版会

成績評価方法と基準 期末定期試験によって評価する。ただし5回以上欠席の場合は、評価の対象としない。

オフィスアワー 毎週金曜日 14:30~16:10 遠山研究室 (共通教育2号館2階)

その他 本講は、オムニバス形式で開講する。

授業計画・学習の内容

キーワード 因果

Key Word(s) causality

学習内容

第1回: 問題提起、日本における「因果」理解の特質

第2回: 「因果」の論理的把握

第3回: 科学史における「因果」関係把握

第4回: 歴史学と「因果」

第5回: 政治思想と「因果」

第6回: ギリシア哲学における「因果」

第7回: 西洋中世哲学における「因果」

第8回: 西洋近代哲学における「因果」①~デカルトを中心に~

第9回: 西洋近代哲学における「因果」②~

ヒュームを中心に~

第10回: 西洋近代哲学における「因果」③~カントを中心に~

第11回: 西洋現代哲学における「因果」

第12回: 仏教における「因果」①

第13回: 仏教における「因果」②

第14回: 中国古代哲学における「因果」

第15回: 東洋の美術と「因果」

※内容・順序等を変更する場合があります。詳しくは第1回ガイダンスにおいてお知らせします。

学習課題(予習・復習) 講義はテキストに即して進められる。予め該当箇所を熟読しておくこと。

倫理学A（「自然」について）

Ethics A

学期 前期 開講時間 火1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 現在一般に使われている「自然」は、近代に入りnatureの訳語として次第に定着したものである。これに対して近代以前、「自然」は主に「ジネン」と読まれ、現在とは異なる意味を担うものであった。だがまた一方で、そうした「ジネン」は、natureの訳語としても妥当する意味内容を元来含み持つものであったともいえよう。本講では、仏教思想の理解の上に、こうした伝統的文脈における「自然」がどのようなものとして捉えられていたのかを考える。

学習の目的 伝統的な「自然」概念を、主として仏教の基本的思惟との関連から理解することを通じて、現代語「自然」の複合的な意味を理解することができるようになる。またそれによって、現代的なトピックである「自然」について、問題の根源から理解し考える力を身につけることができる。

学習の到達目標 現代社会においても注目すべき「自然」概念について、歴史的背景を学ぶことを通じて、その複合的な意味について理解し考える力を身につけることができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養,

専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特に無し。

予め履修が望ましい科目 特に無し。

発展科目 哲学、倫理学、宗教学

教科書 授業中にプリント資料を配付する。

参考書 柳父章『翻訳後成立事情』（岩波新書）

成績評価方法と基準 定期試験70%、中間レポート20%、質問票の内容10%

オフィスアワー 毎週火曜日10:20～12:00、遠山研究室（共通教育2号館2階）

授業改善への工夫 学生から提出された質問票やレポートについて授業中にコメントすることで、より主体的な学習へ導く。

その他 毎時間の終了時に、授業に関する簡単なコメントを求めると共に、疑問点を質問票に記入することを求める。

授業計画・学習の内容

キーワード 自然、仏教

Key Word(s)

nature, Buddhism

学習内容

- 第1回：導入～倫理とは～
- 第2回：問題提起～「自然」について～
- 第3回：大乘仏教の基本精神
- 第4回： //
- 第5回：『大乘起信論』の世界
- 第6回： //
- 第7回：天台本覚論について

- 第8回：文芸に見る本覚論の思惟
- 第9回：浄土教の「自然」理解（1）～源信～
- 第10回： //
- 第11回：浄土教の「自然」理解（2）～法然～
- 第12回： //
- 第13回：浄土教の「自然」理解（3）～親鸞～
- 第14回： //
- 第15回：まとめ

学習課題（予習・復習） 授業はプリント資料の読解を中心に進められる。予め配布された資料の読解、及び授業中指示した点に関してコメントの提出を求める。

倫理学B（「情」と「理」）

Ethics B

学期 後期 開講時間 火1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 日本近世の思想動向は、中国朱子学の「理」的世界観・人間把握の受容とそれに対する様々な変容や批判によって彩られている。本講では、そうした朱子学の理解の上に、伊藤仁斎や荻生徂徠といった古学派と、賀茂真淵や本居宣長らを中心とする国学の思想運動とに焦点を当て、彼らが人間の「情」的側面を「理」に対してどのように対置しようとしたのかを明らかにする。

学習の目的 儒教と国学について、基本的な理解を得るとともに、そこでは「情」が「理」との関係でどのように考えられていたのかを理解することができる。またそれを通じて、人間の道徳的な本性に関して、考える力を養うことができる。

学習の到達目標 儒教及び国学について基本的な知識をえることができる。また現代では「感性」という範疇で考えられる「情」について、それが倫理とどのような関わりを持つのかについて、理解し考える力を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思

考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特に無し。

予め履修が望ましい科目 特に無し。

発展科目 哲学、倫理学、宗教学

教科書 授業中にプリント資料を配付する。

参考書 フランソワ・ジュリアン『道徳を基礎づける』（講談社現代新書）

成績評価方法と基準 定期試験70%、中間レポート20%、質問票の内容10%

オフィスアワー 毎週金曜日14:30～16:10 遠山研究室（共通教育2号館2階）

授業改善への工夫 学生から提出されたりレポートや質問票の内容について授業中にコメントすることで、より主体的な学習へと導く。

その他 毎時間の終了時に、授業に関する簡単なコメントを求めるとともに、疑問点を質問票に記入することを求める。

授業計画・学習の内容

キーワード 儒教、国学、理、情

Key Word(s) Confucianism, Study of Japanese classical culture, reason, emotion

学習内容

- 第1回：導入～倫理とは～
- 第2回：問題提起～「良心」について～
- 第3回：朱子学の概要（1）
- 第4回：〃（2）
- 第5回：〃（3）
- 第6回：伊藤仁斎の古義学（1）
- 第7回：〃（2）

- 第8回：〃（3）
- 第9回：荻生徂徠の古文辞学（1）
- 第10回：〃（2）
- 第11回：賀茂真淵の国学思想
- 第12回：本居宣長の国学思想（1）
- 第13回：〃（2）
- 第14回：〃（3）
- 第15回：まとめ

学習課題（予習・復習） 授業はプリント資料の読解を中心に進められる。予め配られた資料の読解、及び授業中指示した点に関してコメントの提出を求める。

日本史A (日本古代史の諸問題)

Japanese History A

学期 前期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **対象** 日本史Ⅰ(2014年度)の単位修得者の受講は認めない。**年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文学部)

授業の概要 考古学・日本史における論争や近年の話題を取り上げて解説と分析をおこなう。

学習の目的 考古学や日本史の研究の現状と問題点を知り、それぞれの研究方法や根拠の相違について理解する。

学習の到達目標 見解が分かれる問題について、研究方法や根拠の相違を把握し、みずからも考える力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力

発展科目

日本史

日本考古学特講

参考書 適宜資料を配付する。

成績評価方法と基準 試験 60%、受講態度 40%

オフィスアワー 火曜日15:00~16:00

授業計画・学習の内容

キーワード 邪馬台国 卑弥呼 倭の五王

Key Word(s) Yamatai-koku, Queen Himiko, Five Kings of Wa

学習内容

第1回 講義方針の説明

第2回~第9回 魏志倭人伝と邪馬台国・卑弥呼
第10回~第12回 倭の五王
第13回~第15回 古墳とその被葬者
第16回 試験

学習課題(予習・復習) 講義時の配付資料をもとに復習すること。

日本史B (忍者の歴史)

Japanese HistoryB

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 市民開放授業
担当教員 山田雄司(人文学部)

授業の概要 忍者・忍術学

笠間書院、2014年

学習の目的 これまで日本史の研究からはまともにとりあげられてこなかった忍者について、どのような存在で、いかに変容してきたのか。具体的史料に基づき明らかにしていきます。

参考書

吉丸雄哉・山田雄司・尾西康充編『忍者芸芸研究読本』笠間書院、2014年

中島篤巳編『忍術伝書 正忍記』角川学芸出版、2014年

藤田西湖『當身殺活法明解』名著刊行会、2000年

藤田西湖『図解手裏剣術』名著刊行会、1999年

学習の到達目標 日本史上の諸問題について、新たな視点から考えていくヒントを得る。

成績評価方法と基準 レポート40%、期末テスト60%

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 伊賀忍者研究会編『忍者の教科書』

オフィスアワー 火曜日7・8限、場所山田研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 忍者・忍術学

第8回 立川文庫

Key Word(s) Ninja Ninjutsu

第9回 伊藤銀月の忍者研究

第10回 大正時代の忍者研究

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 忍者の概要

第3回 世界の忍者

第4回 「しのび」の実像

第5回 兵法から忍術へ

第6回 江戸の忍者

第7回 江戸時代の忍者

第11回 藤田西湖の忍者研究

第12回 奥瀬平七郎の忍者研究

第13回 忍者映画

第14回 忍者小説

第15回 現代の忍者

学習課題（予習・復習） 伊賀で講座を行っていますので、そちらにも積極的に参加して下さい。

日本史D (木簡から見た古代日本)

Japanese History D

学期 後期 **開講時間** 木3,4 **単位** 2 **対象** 日本史Ⅲ (2014年度以前)の単位修得者の受講は認めない。**年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 清水 みき(非常勤講師)

授業の概要 地中から発見された文字資料である木簡を主な素材として、従来の文献史料や考古学の成果と併せて比較考察し、具体的な歴史の事象を理解する。古代の木簡は日本律令国家の成立と支配組織について新しい知見を齎すばかりでなく、文化や庶民の日常生活までも考察できる貴重な歴史資料である。また世界の木簡事情も適宜紹介する。

学習の目的 国家の成立と支配の仕組みについて概観し、さらに古代の政治・税制・文化・地方の暮らしについて一次資料である木簡を素材として考察する。

学習の到達目標 従来は教科書や歴史書から日本の歴史を学んできたと思うが、土中から

甦った木簡を読み解くことで、《歴史を発見する》喜びを知ってほしい。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養

教科書 必要な資料をプリントして配付する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 授業への参加度20%、小文・レポート20%、期末試験60%

オフィスアワー 申し出があれば、別途時間を指示する。

授業改善への工夫 質疑応答時間を増やし、また実技の時間を通じて理解の助けとする。

授業計画・学習の内容

キーワード 木簡を通して見る古代の日本

Key Word(s) Ancient Japan, Wooden Tablets

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 木簡の種類と機能

第3回 国家成立期の文字—記紀と金石文と木簡—

第4~5回 律令国家の支配の仕組みと木簡

第6~7回 古代宮都の木簡

第8~10回 古代の税制と木簡

第11回 暮らしと木簡

第12回 木簡の保存法

第13回 歌の短籍の伝統—新年を歌おう!

第14回 木簡を作ってみよう!

第15回 まとめ

第16回 試験

学習課題(予習・復習) 毎回資料を配付するので、関連した参考書とともに予習、復習することが望ましい。

日本考古学A (考古学の最新情報)

Japanese Archaeology A

学期 前期 **開講時間** 水 5, 6 **単位** 2 **対象** 日本史Ⅲ (2014年度以前) の単位修得者の受講は認めない。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 山中 章(非常勤講師)

授業の概要 日本考古学に関する最新情報を概説する。

教科書 必要な資料をプリントして配付する。

学習の目的 考古学とは何かを様々な最新情報を通して理解する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

学習の到達目標 従来の教科書や歴史書から学んだ歴史学とは異なり、土中から甦った遺構や遺物を通して、新しい歴史像に触れる。

成績評価方法と基準 日常レポート50%、期末試験50%

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

オフィスアワー 申し出があれば、別途時間を指示する。

授業改善への工夫 質疑応答時間を増やし、また実技の時間を通じて理解の助けとする。

授業計画・学習の内容

キーワード 遺跡、遺物、考古学、比較史学

第7回 風呂の考古学

Key Word(s) Archaeology, Archaeological Sites and Relics

第8回～第14回 2015年度上半期の最新情報から

第15回 まとめ

第16回 試験

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第5回 2014年度末の最新情報から

第6回 トイレの考古学

学習課題 (予習・復習) 毎回資料を配付するので、関連した参考書とともに予習、復習することが望ましい。

日本考古学B (遺跡と博物館を考える)

Japanese Archaeology B

学期 後期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **対象** 受講人数は30名までとする。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 演習, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文学部)

授業の概要 遺跡や博物館の展示に関する事例を収集し、資料公開のありかたを探る。

学習の目的 遺跡や博物館の展示に関する事例収集とその分析をつうじて、望ましい資料公開の方法を考える。

学習の到達目標 遺跡や博物館の展示について、現状とその長所・短所を把握し、資料公開のありかたを判断する材料を得る。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目

日本考古学特講
博物館学関連科目

成績評価方法と基準 受講態度60%、研究発表40%

オフィスアワー 火曜日15:00~16:00

授業改善への工夫 実地見学

その他

休日などに遺跡や博物館の見学を予定している。交通費や入館料などは個人負担。受講人数制限あり

授業計画・学習の内容

キーワード 考古学 遺跡 博物館

Key Word(s) Archaeology, Archaeological Sites and Museums

学習内容

第1回 主旨説明と具体的計画の立案

第2回~第16回 遺跡や博物館の展示に関する事例収集と研究発表・討論

学習課題(予習・復習) 見学・収集した遺跡や博物館の展示について、それぞれの長所・短所を研究発表までに整理し、パワーポイントで説明できるよう準備しておくこと。

日本文化論A (絵巻物を読む)

Japanese CultureA

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習

担当教員 山田雄司(人文学部)

授業の概要 絵巻物『石山寺縁起絵巻』を用いてくずし字の基本を学ぶとともに、絵の読み取りを行っていきます。

学習の目的 絵巻物を用いて、中世の人々の考え方に触れます。

学習の到達目標 初歩的くずし字が読めるようになることを目標とします。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 伊地知鐵男『仮名変体集』新典社、1975年

参考書

山本博文『戦国大名の古文書 西日本編』柏書

房、2013年

佐藤 孝之・天野清文『新版古文書用語辞典』新人物往来社、2011年

森岡隆『図説かなの成り立ち事典』教育出版、2006年

石山寺文化財総合調査団『石山寺資料叢書 史料篇〈第3〉』法蔵館、2010年

成績評価方法と基準 試験100%

オフィスアワー 金曜日13時30分～14時30分

授業改善への工夫 毎回指名して字を読んでもらいます。

その他

史料はこちらで用意します。

受講人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード 絵巻物を読む

Key Word(s) Picture scroll

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 『平治物語絵巻』について

第3回～5回 くずし字の基礎

第6回～8回 古文書の様式

第9回～11回 解読の実践

第12回～15回 内容を理解する

学習課題(予習・復習) 伊地知鐵男『仮名変体集』(新典社、1975年)は購入してください。児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993年)などを利用して、毎回配る古文書の解読を事前しておくことを望みます。

日本文化論B (日本の海女文化)

Japanese Culture

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 ○塚本明 (人文学部)、石原義剛、川口祐二、吉村利男 (以上、博学連携推進室・客員教授)、菅原洋一 (工学研究科)、原田泰志、常清秀 (以上、生物資源研究科)

授業の概要 世界的に女性の素潜り漁は、日本と韓国済州島にしか存在せず、近年、この海女漁の文化的価値が注目されてきている。日本における海女漁の中心地は三重県鳥羽志摩地方であるが、全国各地の事例を含めて、海女の歴史、民俗、生業の形態を幅広く紹介し、その魅力を伝えていく。

学習の目的 日本の海女文化の歴史と現状を、様々な角度から考える。

学習の到達目標 日本の海女文化の歴史と現状を認識し、様々な角度から考えられるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 海の博物館編『目で見える鳥羽・志摩の海女』(授業中に紹介・販売)

成績評価方法と基準 出席時のコメントカード40% (4回以上の欠席は不可)、試験60%

オフィスアワー 木曜日14:40~16:00 塚本明 予約要 (メールにて連絡下さい)

授業計画・学習の内容

キーワード 日本の海女文化を探る

Key Word(s) Culture of the Japanese Woman Diver

学習内容

- 1、オリエンテーション【塚本】(4/13)
- 2、日本の海女と志摩の海女【石原】(4/20)
- 3、海女さんの現在(現役海女さんとの対談)【石原】(4/27)
- 4、海女文化の歴史【塚本】(5/11)
- 5、観光海女の歴史と現在【塚本】(5/18)
- 6、近代統計資料に見る海女【吉村】(5/25)
- 7、近代期の海女の出稼ぎ【吉村】(6/1)
- 8、全国の漁村で出会った海女さんたちⅠ(東日本)【川口】(6/8)
- 9、全国の漁村で出会った海女さんたちⅡ(西

- 日本)【川口】(6/15)
- 10、海女の祭り【石原】(6/22)
- 11、歴史上の海女と食文化【塚本】(6/29)
- 12、海女漁と資源管理【原田】(7/6)
- 13、海女の漁獲物と流通【常】(7/13)
- 14、済州島海女と韓国の海女研究【菅原】(7/23)
- 15、海女の現在と未来ー【全講師によるシンポジウム】(7/27)
- 16、試験(8/3)

学習課題(予習・復習)

各回ごとの講義内容の整理・理解。
随時紹介される参考文献を読む。
鳥羽市にある「海の博物館」の展示見学など。

PBL日本史（地域・日本）Ⅰ・Ⅱ（博物館の歴史展示案）

PBL Japanese History Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 開講時間 水 1, 2, 9, 10 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 塚本 明

授業の概要

博物館の歴史展示案を設計する。各自が関心を持つ博物館を見学し、興味のあるテーマを選択する。

関連する資料情報を集め、空間配置等の展示計画を立て、説明文（キャプション）や年表を作成する。

テーマに即したグループ毎で意思の疎通を図りながら成果をまとめる。

学習の目的

博物館の歴史展示の読み解き方を習得する。展示設計案への取り組みを通して、テーマに基づく歴史情報の収集・整理・表現の仕方を習得する。

企画の発表の仕方を習得する。

学習の到達目標

博物館の歴史展示が読み解けるようになる。展示設計案作成に取り組むことで、テーマに基づく歴史情報の収集・整理・表現ができるようになる。

企画の発表ができるようになる。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,

主体的学習力,幅広い教養,専門知識・技術,論理的思考力,課題探求力,問題解決力,批判的思考力,情報受発信力,討論・対話力,指導力・協調性,社会人としての態度,感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 授業時間外の休日等を利用して、博物館へ積極的に見学に行くことが求められる。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 日本の歴史、日本歴史演習（人文学部専門科目）

参考書 授業中に随時指定する。

成績評価方法と基準 日常的な課題への取り組み（50%）と最終レポートの「展示企画案」（50%）

オフィスアワー 木曜日7・8限（メールで確認のこと）

授業改善への工夫 随時受講生からの要望を把握する。

その他 受講人数制限あり

授業計画・学習の内容

キーワード 博物館、歴史、展示

Key Word(s) Museum History Display

学習内容

1～3：オリエンテーション、博物館の展示論概説。資料情報の集め方の解説。

4～6：テーマの選定、調整（グループ分け）。各グループ毎に課題提供、助言。

7～9：第1回目構想発表。大枠の方向性を示す。

10～11：展示企画案の事例紹介

12～14：第2回目報告

15：最終発表会

学習課題（予習・復習）

課題は毎回指示する。

博物館への見学、各自（各グループ）ごとの課題に即した情報の収集、年表や企画案の作成など。

授業時間外の休日等を利用して、博物館へ積極的に見学に行くことが求められる。

日本文学B (原典で読む江戸文学)

Japanese Literature B

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 実習

担当教員 吉丸雄哉

授業の概要 くずし字の影印(写真で撮ったもの)をテキストに江戸時代の文学を知る。文学ジャンルの特性、作家の素性、作品の特徴を知るだけでなく、くずし字の習得を目的とする。また、和本(日本の伝統的な書籍)について、書誌調査を行いその特性を学ぶ。くずし字は一見難しいが意外と簡単に読めるようになるものである。

学習の目的 1、くずし字の習得。2、近世文学史を覚える。3、日本の古典籍に関する基礎知識を得る。4、日本古典籍に関して基礎的な調査能力を身につける。

学習の到達目標 1、仮名までのくずし字が読めるようになる。2、日本古典籍の調査能力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

受講要件 辞書・教科書を購入のこと。当然ながら出席は毎回必要である。

発展科目

書誌学ならびにくずし字の知識は日本古典文学研究の基礎であり、日本古典文学研究を将

来専攻するつもりの方にとってこの種の授業は必修である。

また将来的に司書や学芸員の資格を取得する者にも強く履修を勧める。また書道の草書に興味がある者にも向いている。

教科書 テキストはプリントを配布。書誌学の教科書として堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版)も購入のこと。くずし字の辞書として児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』を購入すること(同等のものを持っている人はそれでも可)。

参考書 参考書は適宜授業内で指示する。

成績評価方法と基準 成績は期末試験を重視する。書誌学の知識を問うほか(4割)、くずし字を翻字してもら(6割)。最終的にくずし字が読めなければ、単位の取得はできないと思っていて欲しい。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長時間の相談が必要な場合はメールで事前予約のこと。

授業改善への工夫 日々、日本古典籍に関心をもち、不断の収集に努めている。

授業計画・学習の内容

キーワード 書誌学とくずし字と日本近世文学

学習内容

第一回が概説である。二回目以降、解説ののち、ある作品の影印を読み、くずし字と江戸時代文芸の特徴を学習していく。読解作品は諸君らの関心を元に決める(一昨年は『雨月

物語』。昨年は『更科紀行』)。教科書を用いて書誌学の授業をうち四回行う。人数によるが、実際に和本を手に取り、書誌調査を行うことを考えている。

学習課題(予習・復習) 書誌調査期間は、くずし字の到達度確認のための宿題が出る(3回)。

日本文学B (原典で読む江戸文学)

Japanese Literature B

学期 前期 開講時間 金 7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 実習

担当教員 吉丸雄哉

授業の概要 くずし字の影印(写真で撮ったもの)をテキストに江戸時代の文学を知る。文学ジャンルの特性、作家の素性、作品の特徴を知るだけでなく、くずし字の習得を目的とする。また、和本(日本の伝統的な書籍)について、書誌調査を行いその特性を学ぶ。くずし字は一見難しいが意外と簡単に読めるようになるものである。

学習の目的 1、くずし字の習得。2、近世文学史を覚える。3、日本の古典籍に関する基礎知識を得る。4、日本古典籍に関して基礎的な調査能力を身につける。

学習の到達目標 1、仮名までのくずし字が読めるようになる。2、日本古典籍の調査能力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

受講要件 辞書・教科書を購入のこと。当然ながら出席は毎回必要である。

発展科目

書誌学ならびにくずし字の知識は日本古典文学研究の基礎であり、日本古典文学研究を将

来専攻するつもりの方にとってこの種の授業は必修である。

また将来的に司書や学芸員の資格を取得する者にも強く履修を勧める。また書道の草書に興味がある者にも向いている。

教科書 テキストはプリントを配布。書誌学の教科書として堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版)も購入のこと。くずし字の辞書として児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』を購入すること(同等のものを持っている人はそれでも可)。

参考書 参考書は適宜授業内で指示する。

成績評価方法と基準 成績は期末試験を重視する。書誌学の知識を問うほか(4割)、くずし字を翻字してもら(6割)。最終的にくずし字が読めなければ、単位の取得はできないと思っていて欲しい。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長時間の相談が必要な場合はメールで事前予約のこと。

授業改善への工夫 日々、日本古典籍に関心をもち、不断の収集に努めている。

授業計画・学習の内容

キーワード 書誌学とくずし字と日本近世文学

学習内容

第一回が概説である。二回目以降、解説のもの、ある作品の影印を読み、くずし字と江戸時代文芸の特徴を学習していく。読解作品は諸君らの関心を元に決める(一昨年は『雨月

物語』。昨年は『更科紀行』)。教科書を用いて書誌学の授業をうち四回行う。人数によるが、実際に和本を手に取り、書誌調査を行うことを考えている。

学習課題(予習・復習) 書誌調査期間は、くずし字の到達度確認のための宿題が出る(3回)。

日本文学B (連句入門)

Japanese Literature B

学期 前期 開講時間金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習

担当教員 吉丸雄哉 (人文学部)

授業の概要 連句という文芸を学ぶ。連句とは、簡単にいえば俳句をつなげていく遊びである。5・7・5の句に7・7の句をつけ、さらに5・7・5の句をつけ、さらに7・7の句をつけ...というのを一定数まで続ける。授業では付句の作成がすべての参加者にとって、毎回の宿題であり、授業時間に各人による推薦により、付句を決める。実作以外では、持ち回りで、連句の注釈してもらおう。また、連句の評論を読み、その要約を作ってもらおう。

学習の目的 1.連句の制作により、連句という文芸の面白さを知る。2.連句の正確な注釈ができるようになる。連句の式目を学ぶ。

学習の到達目標 1.連句を通じて、日本の伝統的な季節感に鋭敏になる。2.連句の式目にそって、一座で連句を巻くことができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 連句は座の文芸といって、集団の

授業計画・学習の内容

キーワード 連句を読む。連句の実作を行う。

学習内容

[授業計画]

一回 俳諧ならびに連句の解説。
二回 以降、連句の付句の選定。連句の解釈の発表。連句評論の要約の発表を順に行う。
以後、十五回まで続く。

まとまりを大切に。初回の授業に遅刻・欠席した者は受講を認めない。

発展科目 人文学部日本文学M (近世韻文)

教科書 注釈の対象となる連句のプリントは配布する。俳句の評論は青空文庫にあるテキストを各自でダウンロードしてもらおう。連句実作のため『連句・俳句季語辞典 十七季』(三省堂)の購入が絶対に必要である。

参考書 東明雅『連句入門』(中公新書)。『連句一学びから遊びへ』(おうふう、平成20)、『連句一理解・鑑賞・実作』(おうふう、平成11)、『連句一そこが知りたい』(おうふう、平成15)、深沢真二『連句の教室: ことばを付けて遊ぶ』(平凡社新書、平成25)。その他の参考図書は授業で一覧を配布する。

成績評価方法と基準 連句の注釈・評論の要約で二割、付句実作の評価で八割の評価をする。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長時間の相談が必要な場合、事前に連絡のこと。

連句の実作は毎回の宿題のほか、授業時間で即吟してもらおうことがある。選句にあたっては、各人に選句の理由を話してもらおう。半歌仙(18句)まで作成の予定。

学習課題(予習・復習)

句の解釈や評論の要約など、必要なレジュメを作成してもらおう。
宿題として付句を考えてもらおう。

演劇入門 (演劇の基礎知識と実践)

Introduction to the drama

学期 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **対象** 高大連携授業のため高校生が受講することがある。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義, 実習, 実技

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ○吉丸雄哉 (人文学部), 田中綾乃 (人文学部), 大月淳 (工学部), 吉野さつき (愛知大学文学部), 油田晃 (NPO法人パフォーミングアーツネットワークみえ代表理事), 鳴海康平 (第七劇場主宰), 松浦茂之 (三重県文化会館事業推進グループリーダー)

授業の概要

数ある芸術文化の中でも、演劇という舞台芸術を取り上げる。

講義と並ぶ、本授業のもうひとつの柱に演劇ワークショップがある。完成度の高い芝居を作ることよりも、コミュニケーション能力や自己表現力を高めるのが目的である。今後の大学生活、対話に必要な学習、就職活動はもとより、広く社会に出ても役立つ能力を鍛えることをめざす。

演劇を観る習慣のある人生のほうが、ない人生よりも豊かである。演劇の面白さを発見し、劇場へ足を運ぶことが習慣化できればよい。

本年度は「音・音楽」をテーマに講義を行う予定である。

学習の目的

古今東西の演劇の様式とその特徴を学ぶ。現代における演劇制作の現場について知る。

ワークショップに参加することで自己表現力やコミュニケーション能力を高める。実際に劇場に足を運ぶことで、演劇を肌で体感する。

学習の到達目標

演劇の歴史的・社会的意義を理解する。

演劇ワークショップを通じてコミュニケーション力・自己表現力を高める。

観劇の習慣を身につけることで、本講義の終了後も、演劇を通じて、自分の人生を豊かにする。

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

最低二回は実際の観劇体験を要求する。引率して劇場に足を運ぶ機会は設けるが、それに

参加できない場合、自分の行ける演劇を観に行くこと。

期間中、一、二回ほど、土曜日に振り替えて、劇場で授業を行う予定である(前年は二回。三重県文と国立文楽劇場。前々年は一回)。この行事に参加できないからといって、単位取得ができないわけではないが(単に授業の欠席とみなす)、参加できることが望ましい。

参考書 金原瑞人『古典芸能』(プチグラパブリッシング、2007)、鈴木忠志『演劇とは何か』(岩波新書、1988)、平田オリザ『演劇入門』(講談社新書、1998)、米屋尚子『演劇は仕事になるのか?』(彩流社、2011)、中野民夫『ワークショップ:新しい学びと創造の場』(岩波新書、2001)、『ワークショップと学び』1・2・3(東京大学出版会、2012)。想田和弘『演劇1・2』(DVD、紀伊國屋書店、2013)、鴻上尚史『あなたの思いを伝える表現力のレッスン』(講談社、2012)、平田オリザ『わかりあえないことからコミュニケーション能力とは何か』(講談社現代新書、2012)

成績評価方法と基準 3分の2以上の出席が必要。学びの振り返り(三割)、ワークショップ(三割)、期末レポート2本(四割)で評価する。また、期間のうち二回の観劇体験を要求するが、これが満たされない場合、単位は与えない。レポートは観劇の感想を求める。一本につき2000字程度が必要。

オフィスアワー 本科目の取りまとめ役の教員(吉丸雄哉)の連絡については火曜日昼休みか木曜日午後。共通教育校舎二号館五階。それぞれの講師の先生への取り次ぎも行う。できればメール等で事前の連絡のこと。

その他 ワークショップは講義に比べて、時間通りに終わることが難しい。ワークショップ

プが行われる一ヶ月間は、授業が10～15分程度延長する場合があることを理解しておいて

欲しい。

授業計画・学習の内容

キーワード 演劇、伝統芸能、歌舞伎、文楽、現代劇、新劇、小劇場、劇場、公共ホール、ワークショップ。

Key Word(s) Drama, Traditional arts, Kabuki, Bunraku, Modern drama, New Theater”Shingeki”, Small theater”Syougekijyo”, Theater, Public theater, Workshop

学習内容

- (1) イントロダクション「演劇」とは何か (担当：田中) 4/16
- (2) 「劇場」とは何か (担当：大月) 4/23
- (3) 演劇鑑賞会 (担当吉丸) 4/30 (振替予定分)
- (4) 日本の音楽劇一宝塚・ミュージカル (担当：田中) 5/7
- (5) 小劇場と音 (担当：田中) 5/14
- (6) 西洋の音楽劇一オペラ (担当：大月) 5/21
- (7) 日本の伝統芸能と音楽一文楽 (担当：吉丸) 5/28
- (8) 演劇ワークショップとは何か (担当：吉野) 6/4
- (9) 演劇ワークショップ (1) (担当：油田) 6/11
- (10) 演劇的ワークショップ (2) (担当：油田) 6/18
- (11) 演劇ワークショップ (3) (担当：鳴海) 6/25

(12) 劇場の現場から (担当：松浦) 7/4 (土)

(13) 日本の伝統芸能と音楽一歌舞伎 (担当：吉丸) 7/9

(14) 落語と音 (担当：吉丸) 7/16

(15) まとめ (担当：吉丸) 7/30

＊4月30日の授業は他日 (6月中予定) の演劇鑑賞に振替。7月2日分は7月4日 (土) 三重県文化会館の授業に振替。7月23日は月曜日の授業。

本年度は「音・音楽」をテーマに授業を行う。

講師や劇場の都合でスケジュールが入れ替わることがある。

講義に関しては、毎回の講義でひとつの芸能、ひとつの種類の演劇を扱うのではなく、通史的に芸能・演劇全般の特性をみて、その特徴を語る予定。

ワークショップでは簡単ながら実際に身体を動かさなくてはならない。

学習課題 (予習・復習) 図書館所蔵のDVDやNHK『にっぽんの芸能』の視聴を求める場合がある。ワークショップでは簡単ながら実際に身体を動かさなくてはならない。実際の観劇体験を重視する。この近辺での公演予定を教えるので、積極的に観に行くこと。また個々の講師から指示があるので、それにもとづき復習を行うこと。

日本語学A (日本語学概説)

Japanese Linguistics A

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 川口敦子 (人文学部)

授業の概要 日本語の歴史的背景を踏まえつつ、音韻・語彙・文法・表記などの諸問題について概観し、日本語への理解を深める。

学習の目的

日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、知識を身につける。

得た知識を基に、日常生活の日本語と関連させて、自ら考察し、理解する。

日本語のみならず、言語に対する幅広い理解と関心を深めることを目的とする。

学習の到達目標

日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、基礎的な知識（専門用語や概念の理解）を身につける。

教科書の事例以外に、日常の日本語の諸問題と関連させて考察し、それを説明することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力

発展科目 日本語学B

教科書 伊坂淳一著『ここからはじまる日本語学』ひつじ書房

参考書

『日本国語大辞典』（小学館）
『角川古語大辞典』（角川書店）
『時代別国語大辞典』（三省堂）
『国語学大辞典』（東京堂出版）
『日本語学研究事典』（明治書院）
沖森卓也『図解日本語』（三省堂）

成績評価方法と基準 毎回の小課題（20%）と期末試験（80%）で総合的に評価する。

オフィスアワー 随時（必ず事前にメール等でアポイントメントを取る）

授業改善への工夫 授業の終了前に用紙を配布して、授業に対する感想や質問・意見を書いてもらい、次の授業で（可能な範囲で）回答する。

その他

毎回の課題については提出締め切りを厳守すること。

提出用紙（授業中に配布）の書式は勝手に変更しないこと。汚損や紛失などやむを得ない場合に限り、同一サイズの紙に同じ書式で記入し、理由を添付して提出しても受け付ける。

引用・参考にした資料（書籍、サイト）は必ず出典を明記すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本語学入門

Key Word(s) Introduction to Japanese Linguistics

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 日本語学とは何か

第3回 音声・音韻 (1)

第4回 音声・音韻 (2)

第5回 音声・音韻 (3)

第6回 語彙 (1)

第7回 語彙 (2)

第8回 語彙 (3)

第9回 文法 (1)

第10回 文法 (2)

第11回 文法 (3)

第12回 表記 (1)

第13回 表記 (2)

第14回 表記 (3)

第15回 日本語の位置・他

第16回 試験

学習課題（予習・復習）

テキストに沿った小課題を毎回提示するので、これを復習として取り組むこと（毎回提出）。

次回取り扱うテーマについて、教科書の該当箇所を読み、自分なりに考えておくこと。

日本語学A (日本語学概説)

Japanese Linguistics A

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 川口敦子 (人文学部)

授業の概要

17世紀初頭にヨーロッパ陣によって作られた日本語の文典の内容から、日本語の音韻、表記、文法、方言など、日本語の諸テーマと歴史について考える。

自ら問題を発見して課題を設定し、解決する過程で、日本語学の基礎を身につける。

学習の目的

日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、知識を身につける。

得た知識を基に、日常生活の日本語と関連させて、自ら考察し、理解する。

日本語のみならず、言語に対する幅広い理解と関心を深めることを目的とする。

学習の到達目標

日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、基礎的な知識（専門用語や概念の理解）を身につける。

提示された事例以外に、日常の日本語の諸問題と関連させて考察し、それを説明することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 現代日本語だけでなく、日本語の歴史（古語）や言語一般に対する興味がある

授業計画・学習の内容

キーワード セミナー形式による日本語学概説

Key Word(s) Elementary Seminar in Japanese Linguistics

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 使用テキストに関する基本的事項

第3回 発表の取り組み方、テキストの解読法

り、意欲的に取り組める者。

発展科目 日本語学B

教科書

初回の授業で指示するので、確認してから対応すること。

ロドリゲス『日本語小文典』（岩波書店）

ジョアン・ロドリゲス著、土井忠生訳『日本大文典』（三省堂）

※ともに絶版もしくは入手困難のため、図書館の蔵書等で対応する。

参考書

『日本国語大辞典』（小学館）

『角川古語大辞典』（角川書店）

『時代別国語大辞典』（三省堂）

『国語学大辞典』（東京堂出版）

『日本語学研究事典』（明治書院）

沖森卓也他『図解日本語』（三省堂）

佐藤武義編著『概説日本語の歴史』（朝倉書店）

北原保雄編著『概説日本語』（朝倉書店）

成績評価方法と基準 発表内容とレポート（70%）、授業への貢献度（30%）で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時（必ず事前にメール等でアポイントメントを取る）

授業改善への工夫 資料の読解および発表に関する相談には随時応じる。

第4～14回 資料の読解と検討

受講生は以下の作業を行い、授業中に発表する。

・テキストの読解（語釈を含む）

・問題の発見と考察

第15回 まとめ

学習課題（予習・復習）

受講生の人数によってはグループ発表形式で行う。

受講者は全員、適切な辞書や参考文献を用いて予習し、発表資料を作成して、担当回に発表すること。

日本語学B (日本語史)

Japanese Linguistics B

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 川口敦子 (人文学部)

授業の概要 中世口語資料のうち、狂言とキリシタン資料を題材に、資料から読み取れる言語現象について取り上げ、現代語にもつながる日本語の諸問題について理解を深める。

学習の目的

狂言(台本及び映像)とキリシタン資料を通して、音韻や表記(ローマ字)等、特に中世日本語の諸問題に関する知識を得る。得た知識を基に、現代語に至る日本語について考察し、理解を深める。

学習の到達目標

古語と現代語を含む日本語の様々な様相について、理解を深め、授業で取り上げたそれぞれの言語事象について、具体的に自分の言葉で説明することが出来る。狂言及びキリシタン資料それぞれについて、知識と理解を深め、具体的に説明することが出来る。

本学教育目標との関連

主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 中世日本語資料の世界

Key Word(s) Japanese language in 16-17th centuries

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 狂言概要
- 第3回 狂言の言葉: 被覆形と露出形
- 第4回 同: 方言周圍論
- 第5回 同: 連声
- 第6回 同: オノマトペ
- 第7回 同: 待遇表現
- 第8回 同: デフォルメされた外国語
- 第9回 キリシタン資料概要

教科書 基本的にプリントと映像教材を使用する。

参考書

- 小林責監修・油谷光雄編『狂言ハンドブック』(三省堂2000)
- 茂山宗彦・茂山逸平『茂山宗彦・茂山逸平と狂言へ行こう』(旬報社2001)
- H. チースリク監修・太田淑子編『日本史小百科キリシタン』(東京堂出版1999)
- 海老沢有道『キリシタン南蛮文学入門』(教文館1991)
- 豊島正之編『キリシタンと出版』(八木書店2013)

成績評価方法と基準 期末試験(80%)、提出物と受講態度(20%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取る)

授業改善への工夫 毎時間、授業のまとめを提出して貰うが、質問・意見欄を設け、回答する。

- 第10回 活版印刷技術とキリシタン版
- 第11回 キリシタン版の言葉: ローマ字
- 第12回 同: 文学書の翻訳、辞書
- 第13回 同: 文語と口語
- 第14回 同: 宗教書の翻訳
- 第15回 同: 方言
- 第16回 試験

学習課題(予習・復習)

狂言台本およびキリシタン資料の使用テキストを配布する。
狂言については、授業中にビデオやDVDで鑑賞するが、機会があればぜひテレビや生の舞台を見て欲しい。

日本語学B (日本語史)

Japanese Linguistics B

学期 後期 開講時間 水1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 川口敦子 (人文学部)

授業の概要 中世口語資料のうち、狂言とキリシタン資料を題材に、資料から読み取れる言語現象について取り上げ、現代語にもつながる日本語の諸問題について理解を深める。

学習の目的

狂言(台本及び映像)とキリシタン資料を通して、音韻や表記(ローマ字)等、特に中世日本語の諸問題に関する知識を得る。得た知識を基に、現代語に至る日本語について考察し、理解を深める。

学習の到達目標 古語と現代語を含む日本語の様々な様相について、理解を深め、授業で取り上げたそれぞれの言語事象について、具体的に自分の言葉で説明することが出来る。狂言及びキリシタン資料それぞれについて、知識と理解を深め、具体的に説明することが出来る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 中世日本語資料の世界

Key Word(s) Japanese language in 16-17th centuries

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 狂言概要
- 第3回 狂言の言葉: 被覆形と露出形
- 第4回 同: 方言周圍論
- 第5回 同: 連声
- 第6回 同: オノマトペ
- 第7回 同: 待遇表現
- 第8回 同: デフォルメされた外国語
- 第9回 キリシタン資料概要

教科書 基本的にプリントと映像教材を使用する。

参考書

- 小林責監修・油谷光雄編『狂言ハンドブック』(三省堂2000)
- 茂山宗彦・茂山逸平『茂山宗彦・茂山逸平と狂言へ行こう』(旬報社2001)
- H. チースリク監修・太田淑子編『日本史小百科キリシタン』(東京堂出版1999)
- 海老沢有道『キリシタン南蛮文学入門』(教文館1991)
- 豊島正之編『キリシタンと出版』(八木書店2013)

成績評価方法と基準 期末試験(80%)、提出物と受講態度(20%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取る)

授業改善への工夫 毎時間、授業のまとめを提出して貰うが、質問・意見欄を設け、回答する。

- 第10回 活版印刷技術とキリシタン版
- 第11回 キリシタン版の言葉: ローマ字
- 第12回 同: 文学書の翻訳、辞書
- 第13回 同: 文語と口語
- 第14回 同: 宗教書の翻訳
- 第15回 同: 方言
- 第16回 試験

学習課題(予習・復習)

狂言台本およびキリシタン資料の使用テキストを配布する。
狂言については、授業中にビデオやDVDで鑑賞するが、機会があればぜひテレビや生の舞台を見て欲しい。

日本国憲法 (憲法と自己)

Constitutional Law

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 内野 広大 (人文学部)

授業の概要 なぜ人は生きるのが息苦しいと感じたり、不安にとりつかれたりするのだろうか。それから逃れることのできる術はないのだろうか。古人は、まさにこうした痛切な問いに突き動かされつつ思索を深め、「自己を知る」という営みこそほんとうの意味での安心を得る途であると説いたのだった。けれども、自己を知るという営みは、絶えず「我」からだけではなく「他者」からも水を差され、道半ばにして挫折してしまいがちである。それでは我と他者との関係を国家全体の見地から規律する憲法は、自己を知るための条件を保障してくれるのだろうか。本講義では、憲法が自己を知るための条件をどのように整備するものかという観点から憲法の世界を垣間見ることにしたい。

学習の目的

- ①憲法上の諸権利が「自己を知る」という営みとどのような関係に立つものなのかを知る。
- ②憲法上の問題を「他人」の問題としてではなく「自己」の問題として受け取るための素地を身につける。
- ③日本国の憲法の全体像を知り、それが実はあなたにとって身近なものであると感じ取ることができるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード 憲法 当事者としての自己 法の支配 違憲審査制

Key Word(s) Constitutional Law, Self, Rule of Law, Judicial review

学習内容

- 1 開講にあたって——憲法上の問題概観
- 第1部 憲法上の権利論の観点から
- 2 裁判所による権利保障——法の支配・司法権・付随的違憲審査制
- 3 幸福追求権——諸権利・自由の源
- 4 思想・良心の自由
- 5 信教の自由

学習の到達目標

- ①憲法上の諸権利が定められ手厚く保障されているのはなぜであるのかを自省することができるようになる。
- ②法的な概念を用いた思考に慣れ親しみ、法学の基本的素養が身につくとともに、具体的な生身をもった他者に対して言葉を使って説得力のある理由を提示する習慣が身につくようになる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

発展科目 憲法・憲法制度論 (人文学部法律経済学科専門科目)

教科書 『目で見える憲法〔第4版〕』(有斐閣、2011年)

参考書 講義開始時に紹介します。

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 毎週月曜日14:30~16:00 (人文学部内野研究室)です。その他質問時間の指定に応じることもできます。

授業改善への工夫 時期を特定せず、講義アンケートを複数回実施し、それをもとに改善いたします。

- 6 表現の自由
- 7 教育を受ける権利
- 8 職業選択の自由
- 9 生存権
- 10 憲法的保障の限界
- 第2部 統治機構論の観点から
- 11 国会の地位と構成
- 12 内閣の権能
- 13 有権者団の権能 (国民主権含む)
- 14 国会の性格
- 15 内閣の性格と地位

学習課題 (予習・復習) なぜ大学の教室に

毎朝足を運んで勉強に心身を削る思いをし ぎ合ってください。
なければならぬのかという問いに真摯に向

日本国憲法 (事例で学ぶ日本国憲法)

The Constitution of Japan

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 日本国憲法の全体像を明らかにし、それを貫く基本的な考え方についての理解を得る。ただし、単なる入門的な講義にはならぬよう心がけたい。そこで、日本国憲法にまつわる実際の事件やできごとにもふれることによって、国家と私たちの具体的・現実的なかかわり合いのあり方について検討することとする。

学習の目的 日本国憲法についての基礎的な理解をめざす。更に、国家と私たちとのかかわり合いのあり方について、日本国憲法を通じて考える。

学習の到達目標

- ・日本国憲法の基本的なしくみについて、説明できるようになる。
- ・私たちの権利の保障において、日本国憲法がどのような働きをしているか、そのしくみにはどのような問題や課題があるかということ、講義で扱った事例を基にして評価できるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理

授業計画・学習の内容

キーワード 事例で学ぶ日本国憲法

学習内容

おおむね次の項目について取り扱う予定である。

1. 総論 (第1回～第2回)
「憲法」の意味と意義、日本国憲法の制定
2. 日本国憲法の基本原理 (第3回)
国民主権、平和主義、基本的人権の尊重
3. 三権分立と違憲審査制 (第4回)
日本における権力分立、違憲立法審査
4. 人権保障のあり方 (第5回～第12回)
人権保障・総論、幸福追求権、法の下での平等、

的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書

教科書は特に用いない。毎回、レジュメ（「講義案」）を配布する。
なお、六法を必携のこと。

参考書 講義の中で適時紹介する。

成績評価方法と基準 筆記試験をもとに評価する。

オフィスアワー

月曜日13:00～14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

授業改善への工夫 受講学生や同僚教員との意見交換等を通じて、よりよい授業となるよう努めていきたい。

内心の自由、表現の自由、経済的自由、人身の自由、社会権

5. 国家のしくみ (第13回～第14回)
- 立法権と国会、行政権と内閣
6. まとめ (第15回)

学習課題 (予習・復習) 各回ごとにテーマを設定して、それぞれに関して受講者に考えてほしい「問題」を提起するので、講義で学んだことをもとにして、また、講義中に紹介する参考文献に自ら当たるなどして、その「問題」について「自分はどう考えるか」を検討してしてほしい。

日本国憲法 (基本的人権の発展史)

The Constitution of Japan

学期 前期 開講時間 水1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 前田 定孝 (人文学部)

授業の概要 日本という国は、決して「長い歴史と伝統」のなかで自然に生まれたものではない。私たちの先人が、さまざまな反省のもとに、日本国憲法というものの制定を通じて創設した、人為的なものである。それでは、日本国憲法制定当時である1946年に、その当時の人民はどのような理念を託してこの国をつくり出したのであろうか。そこで示された理念は、その後の60年に上にわたる経済的、政治的、社会的諸関係のもとで、とりわけ、経済発展やその裏面(ダークサイド)としての外交・安全保障、公害・環境問題、および雇用・労働などの諸問題のなかで、どのように影響を受けてきたのであろうか。本講義では、これまでおよびこれからの、日本の〈この国のかたち〉について、経済的社会的諸条件の歴史的展開過程を踏まえつつ、その上部構造に位置する、国家および国家権力のあり方を、法規範の側面から分析する。これらの作業を通じて、次世代がこの日本と地球を担うにあたっての最低限のルールのあり方考える機会にしたい。

学習の目的 日本国憲法制定の経緯、そこで盛り込まれた理念、その後の運用などを社会科学的に検証し、今後社会のあり方をみずからの頭で読み解き、その方向性を見通す能力をみずから形成するにあたってのその基礎的知識を身に付ける。

学習の到達目標 戦後の日本社会が進んできた道筋を、日本国憲法における人権論とそれを運用する統治機構のあり方という観点から、歴史的事実を踏まえつつ判例・学説等に

おける憲法解釈を通じて、検証してみる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 榎透・永山茂樹・三宅裕一郎『判例ナビゲーション憲法』(日本評論社、2014年)

成績評価方法と基準 中間レポートおよび期末レポートにもとづいて評価する。

オフィスアワー

火曜日13:00~14:30

なお、その他の時間においても随時受け付ける。

メールアドレス: maeda@human.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 受講生のみなさんの質問や意見、問題関心を反映させて、講義を作り上げたい。

その他 手に入れやすい本でいいので、読書量を格段に拡大すること。推薦図書は授業でも紹介するが、それにかぎらず、乱読、熟読その他できるだけ多くの社会科学文献に触れる努力をしてほしい。

授業計画・学習の内容

キーワード 基本的人権の弁証法的発展

学習内容

【第1部】「憲法」というものの考え方

1 基本的人権と「政府を取り結ぶこと」

2 日本における〈憲法〉というものの考え方

【第2部】資本主義と基本的人権の弁証法

3 近代市民革命と立憲主義の形成

4 〈国家〉というものと国家安全保障

5 人権制約のプロトタイプとしての〈人身の自由〉

6 財産権絶対の法理と〈営業の自由〉制限の法理

7 資本主義的矛盾の蓄積と国家の役割の増大、

社会権的な救済の必然性

8 資本主義のグローバル化と国家の役割の変容
【第3部】総論「基本的人権」と国家

9 基本的人権の2大原理としての〈国家からの自由〉と〈平等原則〉

10 「政府を取り結ぶこと」と政教分離原則

11 「政府を取り結ぶこと」と政治的言論の自由

12 公教育——国民の教育の自由と国家による教化の狭間

13 〈人民〉と国家の関係、その展開過程と現段階

【第4部】「国家」に対する人民の民主主義的統制

14 立憲主義と権力分立——国レベルの権力統制と権力分立

15 〈住民に身近な行政〉と地方自治——国と地方の関係

学習課題（予習・復習）

社会科学はあくまでも現実世界に起こっている事柄を対象とする学問分野である。つねに社会に目を向けること。

さしあたり、文献を例として紹介するとすれば、以下のとおりである。いずれも批判的に読んでほしい。

〔全体〕

伊藤真『憲法問題』（PHP新書、2013年）

樋口陽一『いま、「憲法改正」をどう考えるか』（岩波書店、2013年）

辻村みよ子『比較のなかの改憲論 日本国憲法の位置』（岩波新書、2014年）

青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013年）

古関彰一『日本国憲法の誕生』（岩波現代文庫、2009年）

小西豊治『憲法「押しつけ」論の幻』（講談社現代新書、2006年）

田村理『国家は僕らをまもらない』（朝日新書、2007年）

ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン 惨事便乗型資本主義の正体を暴く上下』（岩波書店、2011年）

〔国家からの自由〕

三木義一『給与明細は謎だらけ』（光文社新書、2009年）

斎藤貴男『消費税のカラクリ』（講談社現代新書、2010年）

〔平等原則〕

辻村みよ子『ポジティブアクション』（岩波新書、2011年）

〔表現の自由〕

長岡義幸『マンガはなぜ規制されるのか』（平凡社新書、2010年）

西山太吉『機密を開示せよ』（岩波書店、2010年）

山崎豊子『運命の人』全4巻（文春文庫、2011年）

〔政教分離〕

島藺進『国家神道と日本人』（岩波新書、2010年7月）

〔教育〕

兼子仁『国民の教育権』（岩波新書、1971年）

小川正人『教育改革のゆくえ』（ちくま新書、2010年）

尾木直樹『子ども格差』（角川Oneテーマ21、2010年）

橋木俊詔『日本の教育格差』（岩波新書、2010年）

世取山洋介・福祉国家構想研究会編『公教育の無償制を実現する』（大月書店、2012年）

奨学金問題対策全国会議編『日本の奨学金はこれでいいのか！』（あけび書房、2013年）

〔生存権〕

伊藤周平『後期高齢者医療制度』（平凡社新書、2008年）

伊藤周平『雇用崩壊と社会保障』（平凡社新書、2010年）

〔勤労権〕

笹山尚人『人が壊れていく職場』（光文社新書、2008年）

湯浅誠『反貧困』（岩波新書、2008年）

森岡孝二『貧困化するホワイトカラー』（ちくま新書、2009年）

森岡孝二『過労死は何を告発しているか』（岩波現代文庫、2013年）

〔安全保障〕

布川玲子・新原昭治『砂川事件と田中最高裁長官』（日本評論者、2013年）

阪田雅裕『政府の憲法解釈』（有斐閣、2013年）

〔地方自治〕

白藤博行『新しい時代の地方自治像の探求』（自治体研究社、2013年）

*その他読んで参考になる文献は、その都度紹介する。

日本国憲法 (憲法入門)

Japanese Constitution

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 柴田 堯史

授業の概要 特定秘密保護法、集团的自衛権の容認に向けた閣議決定など、昨今、日本国憲法にかかわる問題が社会的・政治的な議論となった。その際、憲法に対する考え方の違いのみが問題となり、憲法が法律の一部であることがあまり認識されていない。この講義では、憲法に対する政治的な賛否ではなく、「学問」として憲法を取り扱い、憲法の各条文がどのような意義をもっているのか、を検討する。

学習の目的

日本国憲法がどのような原理に立脚し、どのような内容もち、法に携わる者によってどのように解釈されているのか、を理解できるようになること。具体的には、憲法の原理、憲法の条文、現実の問題の観点から憲法を検討できるようになること。憲法にかかわる現実の問題の意味を理解できるようになること。

学習の到達目標 現実起きる現象について、憲法から観れば、そこにどのような問題があり、その問題について説明できるようになること。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 憲法、憲法制度論、行政法総論、

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：オリエンテーション(講義の進め方、学習の仕方、試験・単位)
- 第1部：憲法総論(カッコは教科書の該当箇所)
- 第1回：憲法の意義(第1章)
- 第2回：憲法史(第2章、第3章)
- 第3回：憲法の法源と解釈(第4章、第10章)

行政法各論、法哲学(すべて人文学部)

教科書

- 伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』(有斐閣、2007年)
- 野中俊彦・江橋崇(編著)『憲法判例集〔第10版〕』(有斐閣、2010年)
- 日本国憲法の条文(各自持参、インターネット上のものを印刷するか、小学館、講談社などの文庫もある)

参考書

- 伊藤正己『憲法〔第3版〕』(弘文堂、1995年)
- 初宿正典・戸松秀典(編著)『憲法判例〔第7版〕』(有斐閣、2014年)

成績評価方法と基準

期末試験100%
(講義で数回出席をとることがあるが、それは試験の点数が及第点に少し及ばない学生の救済のための判断材料としてであって、平常点ではない)

オフィスアワー 講義の前後

授業改善への工夫 学生からの質問、批判、および要求から改善する

その他

講義中の質問は歓迎するが、私語は歓迎しない
私語が続くような場合、学生証を点検の上、途中退出を含め、徹底した態度をとる
ただ出席し、能動的に聞くだけでなく、主体性をもつこと

- 第2部：憲法原理と統治機構
- 第4回：憲法原理、とくに国民主権(第5章1)と権力分立
- 第5回-第7回：選挙(第5章2)、国会(第8章1)
- 第8回：内閣(第8章2)
- 第9回-第10回：裁判所と違憲審査制(第8章3、第9章)

第3部：基本的人権

第11回-第12回：人権総論(第7章1-2)

第13回-第14回：自由権(第7章3)

第15回：社会権(第7章4)、まとめ

第16回：定期試験

学習課題（予習・復習）

予習：教科書を一読し、内容の理解、理解できなかつた箇所と疑問を明確にすること

復習：レジュメの最後にある「学習の目標」をもとに、講義の内容を再検討すること
興味を持った学生は、参考文献や参考資料にも挑戦してみることに

日本国憲法 (憲法入門)

Japanese Constitution

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 柴田 堯史

授業の概要 特定秘密保護法、集团的自衛権の容認に向けた閣議決定など、昨今、日本国憲法にかかわる問題が社会的・政治的な議論となった。その際、憲法に対する考え方の違いのみが問題となり、憲法が法律の一部であることがあまり認識されていない。この講義では、憲法に対する政治的な賛否ではなく、「学問」として憲法を取り扱い、憲法の各条文がどのような意義をもっているのか、を検討する。

学習の目的

日本国憲法がどのような原理に立脚し、どのような内容もち、法に携わる者によってどのように解釈されているのか、を理解できるようになること。具体的には、憲法の原理、憲法の条文、現実の問題の観点から憲法を検討できるようになること。憲法にかかわる現実の問題の意味を理解できるようになること。

学習の到達目標 現実起きる現象について、憲法から観れば、そこにどのような問題があり、その問題について説明できるようになること。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 憲法、憲法制度論、行政法総論、

行政法各論、法哲学(すべて人文学部)

教科書

伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』(有斐閣、2007年)
野中俊彦・江橋崇(編著)『憲法判例集〔第10版〕』(有斐閣、2010年)
日本国憲法の条文(各自持参、インターネット上のものを印刷するか、小学館、講談社などの文庫もある)

参考書

伊藤正己『憲法〔第3版〕』(弘文堂、1995年)
初宿正典・戸松秀典(編著)『憲法判例〔第7版〕』(有斐閣、2014年)

成績評価方法と基準

期末試験100%
(講義で数回出席をとることがあるが、それは試験の点数が及第点に少し及ばない学生の救済のための判断材料としてであって、平常点ではない)

オフィスアワー 講義の前後

授業改善への工夫 学生からの質問、批判、および要求から改善する

その他

講義中の質問は歓迎するが、私語は歓迎しない
私語が続くような場合、学生証を点検の上、途中退出を含め、徹底した態度をとる
ただ出席し、能動的に聞くだけでなく、主体性をもつこと

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：オリエンテーション(講義の進め方、学習の仕方、試験・単位)
第1部：憲法総論(カッコは教科書の該当箇所)
第1回：憲法の意義(第1章)
第2回：憲法史(第2章、第3章)
第3回：憲法の法源と解釈(第4章、第10章)

第2部：憲法原理と統治機構
第4回：憲法原理、とくに国民主権(第5章1)と権力分立
第5回-第7回：選挙(第5章2)、国会(第8章1)
第8回：内閣(第8章2)
第9回-第10回：裁判所と違憲審査制(第8章3、第9章)

第3部：基本的人権

第11回-第12回：人権総論(第7章1-2)

第13回-第14回：自由権(第7章3)

第15回：社会権(第7章4)、まとめ

第16回：定期試験

学習課題（予習・復習）

予習：教科書を一読し、内容の理解、理解できなかつた箇所と疑問を明確にすること

復習：レジュメの最後にある「学習の目標」をもとに、講義の内容を再検討すること
興味を持った学生は、参考文献や参考資料にも挑戦してみることに

日本国憲法 (憲法から世の中を見る)

The Constitution of Japan

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 宮坂 果麻理

授業の概要 憲法は国の「最高法規」であり、憲法を理解することは、日本という国のかたちを理解することに繋がります。授業では、憲法に規定されている人権や国家機構の概念等について解説します。合わせて、事例を通じ、人権の構造を理解するとともに、具体的な問題につき、自身の見解を示せるような知識を修得します。

学習の目的

主権者として、憲法の必要性を認識し、条文で示されている内容を理解できる能力を身につけます。

憲法の意義を実感として理解するために、判例を素材に、憲法上の論点は何か、どのような憲法解釈が可能であり、妥当であるかを学び、考えることにより、自らの見解を示すことができます。

学習の到達目標 憲法問題を含む社会問題について、論点を明確にし、私見を述べることができます。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 憲法を通して世の中を見る

学習内容

- 第1回 ガイダンス -憲法を学ぶにあたって-
- 第2回 憲法史・憲法の基本概念
- 第3回 人権総論
- 第4回 家庭と人権
- 第5回 学校と人権
- 第6回 医療と人権
- 第7回 生命と人権
- 第8回 福祉と人権

受講要件

日頃から新聞等で時局問題に関心を持つように心がけてください。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 古橋エツ子『新・初めての人権』(2012年・法律文化社)

参考書

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ〔第6版〕』(2013年・有斐閣)

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅱ〔第6版〕』(2013年・有斐閣)

成績評価方法と基準 定期試験70% 小レポート30%

オフィスアワー 質問等は、授業(金曜日)の前後でお願いします。

授業改善への工夫 毎回、授業次に出席カードを配布し、授業に対する感想・意見を記入してもらいます。それを基に、常に授業改善に努めてまいります。

その他 受講マナーの徹底にご協力ください。

- 第9回 職場と人権
- 第10回 報道と人権
- 第11回 死刑制度の是非<<ビデオ>>
- 第12回 死刑制度をめぐる諸問題
- 第13回 統治機構 (1) -国会
- 第14回 統治機構 (2) -内閣
- 第15回 統治機構 (2) -裁判所
- 第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 教科書を熟読してください。

日本国憲法 (憲法から世の中を見る)

The Constitution of Japan

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 宮坂 果麻理

授業の概要 憲法は国の「最高法規」であり、憲法を理解することは、日本という国のかたちを理解することに繋がります。授業では、憲法に規定されている人権や国家機構の概念等について解説します。合わせて、事例を通じ、人権の構造を理解するとともに、具体的な問題につき、自身の見解を示せるような知識を修得します。

学習の目的

主権者として、憲法の必要性を認識し、条文で示されている内容を理解できる能力を身につけます。

憲法の意義を実感として理解するために、判例を素材に、憲法上の論点は何か、どのような憲法解釈が可能であり、妥当であるかを学び、考えることにより、自らの見解を示すことができます。

学習の到達目標 憲法問題を含む社会問題について、論点を明確にし、私見を述べることができます。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 憲法を通して世の中を見る

学習内容

- 第1回 ガイダンス -憲法を学ぶにあたって-
- 第2回 憲法史・憲法の基本概念
- 第3回 人権総論
- 第4回 家庭と人権
- 第5回 学校と人権
- 第6回 医療と人権
- 第7回 生命と人権
- 第8回 福祉と人権

受講要件 日頃から新聞等で時局問題に関心を持つように心がけてください。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 古橋エツ子『新・初めての人権』(2012年・法律文化社)

参考書

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ〔第6版〕』(2013年・有斐閣)

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅱ〔第6版〕』(2013年・有斐閣)

成績評価方法と基準 定期試験70% 小レポート30%

オフィスアワー 質問等は、授業(金曜日)の前後でお願いします。

授業改善への工夫 毎回、授業次に出席カードを配布し、授業に対する感想・意見を記入してもらいます。それを基に、常に授業改善に努めてまいります。

その他 受講マナーの徹底にご協力ください。

第9回 職場と人権

第10回 報道と人権

第11回 死刑制度の是非<<ビデオ>>

第12回 死刑制度をめぐる諸問題

第13回 統治機構 (1) -国会

第14回 統治機構 (2) -内閣

第15回 統治機構 (2) -裁判所

第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 教科書を熟読してください。

法学A (法律学への案内)

Introduction to Legal Studies A

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義

授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○洪 恵子 (人文学部), 高橋秀治 (人文学部), 内野広大 (人文学部), 岩崎恭彦 (人文学部), 前田定孝 (人文学部), 上井長十 (人文学部), 稲垣朋子 (人文学部), 藤本真理 (人文学部), 名島利喜 (人文学部)

授業の概要 しばしば「法律家だけしかわからない」と揶揄される法律の条文について、具体的な事例を交えて検討することによって、「難解で抽象的」な法律の「本当の姿」を理解する。

学習の目的 1回につき、一つの法分野、条文を題材としながら、その条文の成立過程、内容、学説の対立、判例を学ぶ。このようにして現代社会を法的思考力を持って生きていく力を身に着ける。

学習の到達目標 六法を使いこなしながら条文を読むことができ、判例にもアクセスして必要な情報を入手できるようになる。これらの技能を前提にして、かつ各回の授業で学んだ法的知識をもとにして、現代的な法的問題について、自分の考えをまとめられる。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 条文 法律学 条約 国際法 六法 裁判所 判例 学説

Key Word(s) legal provisions, legal studies, treaties, international law, basic laws, courts, jurisprudence, doctrines

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 憲法
- 第3回 行政法1
- 第4回 行政法2
- 第5回 国際法
- 第6回 国際組織法

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 法律を扱う教養教育の科目。

教科書 教科書は指定しないが、六法（コンバクトなもの）は必ず持参すること。詳細は第1回のガイダンスの際に指示する。

参考書 授業で指示する。

成績評価方法と基準 出席状況と期末定期試験（筆記）によって成績を評価する。筆記試験の問題は授業で提示するなかから出題される。詳しくは第一回目のガイダンスにおいて説明する。なお特段の理由なく4回以上欠席した時点で、定期試験の受験資格を失う。

オフィスアワー 毎週火曜日14:40-16:10 洪 恵子研究室（人文学部棟4階）

授業改善への工夫 担当教員相互間で綿密に連携を取り、常に改良を心掛けている。

その他 授業計画については、取り扱う法分野やその順番を変更する可能性がある。詳細は第1回目のガイダンスで説明する。

- 第7回 刑法総論
- 第8回 刑事訴訟法
- 第9回 前半のまとめ
- 第10回 民法1
- 第11回 民法2
- 第12回 家族法
- 第13回 労働法
- 第14回 法哲学
- 第15回 後半のまとめ

学習課題（予習・復習）

プリントなどを配付するとともに、授業の中で発展的な学習のための補助教材、文献などを適宜紹介する。

法学B (法におけるジェンダー)

Law B

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 田中亜紀子 (人文学部)

授業の概要 社会における法的諸問題について、特に女性に関する問題の中から「性差別の歴史」「教育」「家族」「労働」「社会保障」「犯罪」などにおけるジェンダー問題を取り上げて検討することを通じて、基礎的な法的知識と法的考え方を身につける。

学習の目的 社会における法的諸問題について、特に女性に関する問題を取り上げて検討することを通じて、基礎的な法的知識と法的考え方を身につける。

学習の到達目標 ジェンダーと法分野における諸問題について基礎的な知識を得る。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 女性をめぐる法律について考える

Key Word(s) gender, an outline of law

学習内容

- 第1回 法学概論でまなぶこと (ガイダンス)
- 第2回 主要な法律について
- 第3-4回 日本と諸外国における性差別
- 第5-6回 教育や家族におけるジェンダー問題
- 第7-8回 契約や労働、社会保障におけるジェンダー問題
- 第9-10回 性犯罪およびその周辺

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 「日本国憲法」をはじめとする法律科目

教科書 『レクチャー ジェンダー法』 (法律文化社、2012年)

成績評価方法と基準 レポート 80%、出席カードを用いたコメント 20% 計 100%

オフィスアワー 毎週火曜日 14:40-16:10 田中(亜)研究室

授業改善への工夫 法律に初めて触れる学生を対象とするため、事例を紹介しつつ適度なスピードで講義を進める予定。また、出席票を通じて学生との対話を図る。

- 第11回 女性の自己決定 (リプロダクティブライツを中心に)
- 第12-13回 司法・行政におけるジェンダー問題
- 第14回 男性にとってのジェンダー問題
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 初めて法律科目に触れる受講者が多いと思われるので、用語などの確認のため、テキストの該当ページには予め目を通した上で参加していただきたい。また、復習としては、配布レジュメを読み返すことを期待する。

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 伊藤 睦 (人文学部)

授業の概要

死刑制度をめぐる問題や裁判員制度、少年法の厳罰化等、主として刑事法（少年法等も含む）の領域にかかわるテーマの中から毎回1つを取り上げます。
担当者による報告の後、受講者全員で討論を行います。

学習の目的

法をめぐる議論やその背景にある社会のしくみ、問題点等についての理解が深まる。
様々な社会問題について、自分なりの問題意識をもちながら主体的に考える習慣が身につく。

学習の到達目標

与えられたテーマについて資料を調べ、そこで得た知識について、他の人に対してわかりやすく説明し、自分の意見を述べるができるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード 様々な社会問題と法のかかわり

学習内容

第1回 オリエンテーション

授業で取り上げるテーマの選定

報告順序等の決定

第2回 模擬裁判

第3回～15回 担当者による報告とそれに基づく討論

授業で取り上げるテーマは、第1回の授業で教員側から提示しますが、受講者からもテーマを募集します。

基本的には刑事法に関するもの（死刑問題、

他者の報告した内容について、自分自身の意見を持ち、討論に積極的に参加できるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 教科書は特に用いない。

参考書 授業の際に適宜指示する。

成績評価方法と基準 授業への取り組み（報告および討論への参加）と出席状況を総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日5・6時限（前期のみ）伊藤研究室（人文学部棟4階）

裁判員制度、犯罪被害者など、犯罪や少年非行をめぐるテーマ）を考えていますが、受講者の希望があれば、それ以外の法（憲法や民法等）にかかわるテーマも取り上げます。

学習課題（予習・復習）

・報告の担当者は、テーマに関わる本や資料を調べ、学んだこと、考えたことについてわかりやすくレジュメにまとめて下さい。

・報告者以外の受講生も、討論に積極的に参加するために、テーマに関する本を読むなどの予習をしておくことが必要です。

政治学A (現代日本の政治)

PoliticsA

学期 前期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 岡田宏太郎

授業の概要 日本の政治についての入門的講義。最初の二回は映像資料を使用し、その後の理解の助けにする。かつての自民党が長期政権を維持した時代、いわゆる「五五年体制」の時代(1955年～93年)から現在までを扱い、日本政治の歴史的経過の概略、基本的構造について、キーワードを確認しつつ解説し、あわせて政治学的に考えるとどのようなことか、また、政治的現象をとらえるとはどのようなことなのか示していく。

学習の目的

「五五年体制」期の日本の政治の仕組みとその問題点、そして、そこから提起された改革の課題(「政治改革」、小泉「構造改革」、民主党の「マニフェスト」)等を取りあげ、今日の日本政治の基本的構造と動態、変容について理解する。

最終的に、現在の日本政治の状況を、歴史的、大局的文脈に位置づけ、かつての長期政権時代の自民党と、現在の自民党政権の性格の違いをおさえ、日本政治の現局面の特質を理解することをめざす。

学習の到達目標

- 1 日本政治の理解のための基本的用語、概念を理解し、説明できる。
- 2 「五五年体制」期の自民党政権の基本的特質、政党の機能を理解し、説明できる。

授業計画・学習の内容

キーワード 自民党、民主党、選挙制度、構造改革 政権交代

学習内容

- ①映像によるイントロダクション (1)
- ②映像によるイントロダクション (2)
- ③「五五年体制」=自民党一党優位の成立
- ④自民党支配の構造と選挙制度
- ⑤「族議員」と政官業の「鉄の三角形」
- ⑥日米安保と保守本流路線
- ⑦自民党政権の行き詰まり
- ⑧政党とはなにか

30年代の「政治改革」と「五五年体制」の転換について理解し、説明できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、日頃から政治に関心を持っていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 後期の政治学B(岡田担当)

教科書 教科書は使用しない。

参考書 授業中に適宜指示していく。

成績評価方法と基準 期末試験による。

オフィスアワー 非常勤講師なので、質問は基本的に授業の前後にお願いします。

授業改善への工夫 なるべく、その時々での政治の動きに顧慮しつつ講義をすすめていきたい。

その他 この科目は、各講義が相互に関連しあい、全体として一つのまとまりをなしている。継続的に出席することが大切である。

⑨国会運営と「国対政治」

⑩国家財政の危機

⑪「政治改革」と連立政権の時代

⑫官僚制の諸問題

⑬「構造改革」と郵政民営化、特殊法人、特別会計問題

⑭民主党政権と自民党の政権奪還

⑮まとめ——日本政治の現局面

学習課題(予習・復習) 期末試験に向けて、各回の授業でのキーワード、重要事項のまとめを確認していくこと。さらに、授業中

に紹介した参考文献で関心をひくものを、自主的に読み進めていくこと。

政治学A (現代日本政治史)

Political Science A

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は現代日本政治の歴史的経緯を理解することを目的とする。具体的には、1945年のポツダム宣言受諾から2013年の第二次安倍内閣成立までの日本政治のダイナミズムを首相のリーダーシップを中心にして解き明かしていく。

学習の目的 現代日本政治に関する基礎知識を習得し、歴史を通じて日本政治を理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 テキストで予習・復習をし、関連する新聞記事を読むなど、能動的に学習すること。本講義を通じて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を身に付け、独りよがりではない、他者と対話のできる力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

受講要件 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 政権交代、政治改革、自民党、55年体制

Key Word(s) Political Reform, Power change, Liberal Democratic Party, The 1955 System

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本政治の見取り図
- 第3回 第二次安倍政権の誕生と政権運営
- 第4回 民主党政権の誕生と混迷
- 第5回 民主党の成立
- 第6回 小泉改革

予め履修が望ましい科目 なし

発履科目 戦後日本外交史

教科書

北岡伸一『自民党』中央公論新社、2008年
葉師寺克行『現代日本政治史』有斐閣、2014年

参考書 講義中に指示する。

成績評価方法と基準 小テスト50%、期末試験50%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。

現在から過去に遡ることで、現代日本政治史に対して興味を持てるように工夫している。

- 第7回 自民党政権の復活
- 第8回 細川連立政権の誕生
- 第9回 政治改革の波―竹下・宇野・海部・宮澤
- 第10回 中曽根政権と「戦後日本の総決算」
- 第11回 経済大国の政治指導
- 第12回 田中角栄の功罪
- 第13回 高度経済成長と日本政治
- 第14回 1955年体制の成立
- 第15回 占領期と吉田茂
- 第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 教科書・参考書・新聞をよく読むこと

政治学A (現代日本政治史)

Political Science A

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は現代日本政治の歴史的経緯を理解することを目的とする。具体的には、1945年のポツダム宣言受諾から2013年の第二次安倍内閣成立までの日本政治のダイナミズムを首相のリーダーシップを中心にして解き明かしていく。

学習の目的 現代日本政治に関する基礎知識を習得し、歴史を通じて日本政治を理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 テキストで予習・復習をし、関連する新聞記事を読むなど、能動的に学習すること。本講義を通じて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を身に付け、独りよがりではない、他者と対話のできる力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

受講要件 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 政権交代、政治改革、自民党、55年体制

Key Word(s) Political Reform, Power change, Liberal Democratic Party, The 1955 System

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本政治の見取り図
- 第3回 第二次安倍政権の誕生と政権運営
- 第4回 民主党政権の誕生と混迷
- 第5回 民主党の成立
- 第6回 小泉改革

予め履修が望ましい科目 なし

発履科目 戦後日本外交史

教科書

北岡伸一『自民党』中央公論新社、2008年
葉師寺克行『現代日本政治史』有斐閣、2014年

参考書 講義中に指示する。

成績評価方法と基準 小テスト50%、期末試験50%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。

現在から過去に遡ることで、現代日本政治史に対して興味を持てるように工夫している。

- 第7回 自民党政権の復活
- 第8回 細川連立政権の誕生
- 第9回 政治改革の波―竹下・宇野・海部・宮澤
- 第10回 中曽根政権と「戦後日本の総決算」
- 第11回 経済大国の政治指導
- 第12回 田中角栄の功罪
- 第13回 高度経済成長と日本政治
- 第14回 1955年体制の成立
- 第15回 占領期と吉田茂
- 第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 教科書・参考書・新聞をよく読むこと

政治学A (日本政治論)

Political Science A

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は、現代日本政治の諸相を身近なテーマから理解することを目的とする。

学習の目的 現代日本政治に関する基礎知識を習得し、新聞の読解や、参加型の授業（学生同士のグループディスカッション等）を通じて、自らの力で政治と社会の関わりを理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 本講義は参加型の授業形式をとるため、①テキストで予習をし、関連する新聞記事の要約・コメントを作成すること②授業中のプレゼン、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること、以上の2点が求められる。本講義を通じて、新聞を読む習慣を身に付けて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 政党、選挙、内閣と国会、政治家

Key Word(s) Political Party, Election, Cabinet and Parliament, Politician

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治とは何か
- 第3回 国会議員の仕事①
- 第4回 国会議員の仕事②
- 第5回 国会議員の仕事③
- 第6回 組織された集団一鉄の三角同盟
- 第7回 官と民の関係

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 現代日本政治史、戦後日本外交史

教科書

北山俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学第3版』有斐閣、2013年
林芳正、津村啓介『国会議員の仕事 職業としての政治』中央公論新社、2011年

参考書 講義中に指示する

成績評価方法と基準 毎回の新聞要約提出60%、グループディスカッション・プレゼンに対する評価40%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。
グループディスカッションを取り入れ、能動的な学習の場を提供する。

その他 このクラスには30名の履修制限があります。

- 第8回 大企業と政治
- 第9回 選挙と政治
- 第10回 地方分権
- 第11回 マスメディアと政治
- 第12回 国会
- 第13回 内閣と総理大臣
- 第14回 官僚
- 第15回 外交
- 第16回 期末試験

学習課題（予習・復習） テキストで予習し、授業テーマに沿った新聞記事を探し、その要約およびコメントを提出すること

政治学A (日本政治論)

Political Science A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は、現代日本政治の諸相を身近なテーマから理解することを目的とする。

学習の目的 現代日本政治に関する基礎知識を習得し、新聞の読解や、参加型の授業（学生同士のグループディスカッション等）を通じて、自らの力で政治と社会の関わりを理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 本講義は参加型の授業形式をとるため、①テキストで予習をし、関連する新聞記事の要約・コメントを作成すること②授業中のプレゼン、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること、以上の2点が求められる。本講義を通じて、新聞を読む習慣を身に付けて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 政党、選挙、内閣と国会、政治家

Key Word(s) Political Party, Election, Cabinet and Parliament, Politician

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治とは何か
- 第3回 国会議員の仕事①
- 第4回 国会議員の仕事②
- 第5回 国会議員の仕事③
- 第6回 組織された集団―鉄の三角同盟
- 第7回 官と民の関係

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 現代日本政治史、戦後日本外交史

教科書

北山俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学第3版』有斐閣、2013年
林芳正、津村啓介『国会議員の仕事 職業としての政治』中央公論新社、2011年

参考書 講義中に指示する

成績評価方法と基準 毎回の新聞要約提出60%、グループディスカッション・プレゼンに対する評価40%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。
グループディスカッションを取り入れ、能動的な学習の場を提供する。

- 第8回 大企業と政治
- 第9回 選挙と政治
- 第10回 地方分権
- 第11回 マスメディアと政治
- 第12回 国会
- 第13回 内閣と総理大臣
- 第14回 官僚
- 第15回 外交
- 第16回 期末試験

学習課題（予習・復習） テキストで予習し、授業テーマに沿った新聞記事を探し、その要約およびコメントを提出すること

政治学B (地方政治を考える)

Politics

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 樹神 成

授業の概要 政治を地方の現場から考える。人々の生活のありようは、国際経済や国内政治が決めています。しかし、人々が住むそれぞれの市町や都道府県の政治は、人々の生活にどのような意味をもつか、あるいは、国際経済や国内政治にどのように影響を受け、また与えるかを考えます。

学習の目的 地方の政治の特徴と課題を、三重県や自分が住んでいる市町を例に考えることができるようになる

学習の到達目標 三重県や自分が住んでいる市町の政治の特徴と課題について、必要な資

料に基づいて、意見を述べるができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 課題探求力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 授業のときに指示する

参考書 授業のときに指示する

成績評価方法と基準 レポート 50 パーセント、試験50パーセント

オフィスアワー 毎週12時30分 - 13時 人文校舎3階樹神研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 地方政治、地方分権、グローバル化

Key Word(s) Local Politics, Decentralization, Globalism,

学習内容

- 1.地方政治論とは？ -
- 2.制度（地方自治法等）と実態（経済力・財政力・人口等）
- 3.1990年代の分権改革・自治体運営改革

4.地方政治の課題と実際（大都市、地方都市、過疎の市町）

学習課題（予習・復習）

地方自治体については、インターネットに多くの統計資料が公表されているので、これを自分で見る訓練をします。

制度と実態、1990年代の分権改革・自治体運営改革、地方政治の課題と実際のそれぞれについて、参考文献を指示します。

政治学B (日本の政治と世界)

Politics B

学期 後期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 岡田宏太郎

授業の概要 「主権国家」、「国民国家」をはじめとする、現代政治の理解に必須の概念、観点をおさえた上で、主として第二次大戦後の日本とアメリカの政治経済の動きを追っていく。その際、単にそれぞれの国を見るのではなく、両者の相互関係に注意し、また、他国との比較をまじえていく。最終的には、発展途上国の政治経済の状況も概観した上で、いわゆるグローバル化の時代の国家と政治の本質的性格、課題について考察したい。

学習の目的

まず、グローバル化の時代の政治の理解に必須の重要概念、基本的観点を理解していく。これを前提として、時期を追って、第二次大戦前から戦後への転換、高度経済成長期とその後の危機、いわゆる「新自由主義」の台頭と「冷戦」の終結、さらに、今日の転換期にある日本とアメリカの政治経済の特徴を理解していく。その際、日米の政治の動きのみならず、その動きが作り出されていく基本的仕組み、メカニズムを含めた理解をめざす。これに加え、発展途上国の政治経済の抱える困難、開発独裁体制の特徴を、同様の観点から整理し、理解していく。

学習の到達目標

- 1 政治学の最も基本的な用語、概念を理解し、説明できる。
- 2 現代の政治経済の動きを作り出していく基本

授業計画・学習の内容

キーワード 国民国家、日米関係、冷戦、大きな政府/小さな政府 グローバル化

学習内容

- 1 イントロダクションー授業で使う基本用語等の解説
- 2 第二次大戦前から戦後への転換
- 3 アメリカによる戦後体制の構築ー日本の民主化と「逆コース」
- 4 アメリカによる戦後体制の構築ー自由貿易

的要素、仕組みを理解し、説明できる。

31、2の理解により、戦後の日米の政治の基本的特徴と動態を説明できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、日頃から政治に関心をもっていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 政治、経済にかかわるその他の科目全般。

教科書 教科書は使用しない。

参考書 授業中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 期末試験による。

オフィスアワー 非常勤講師なので、質問は基本的に授業の前後にお願いします。

授業改善への工夫 なるべく、その時々政治の動きを顧慮しつつ講義をすすめていきたい。

その他 この科目は、各講義が相互に関連しあい、全体として一つのまとまりをなしているため、継続的に出席することが大切である。

体制

5 現代政治の理解のための基本的視点

6 「冷戦」と日本ー「冷戦」の諸様相

7 「冷戦」と日本ー高度経済成長の時代

8 1970年代の政治的経済的危機とアメリカの衰退

9 社会主義体制の崩壊

10 米レーガン政権と日本

11 90年代のアメリカと日本

- 12 動揺するアメリカの覇権と日本
- 13 グローバル化と各国の政治体制の歴史的展開
- 14 先進国と発展途上国
- 15 グローバル化の中の政治
- 16 期末試験

学習課題（予習・復習） 期末試験に向けて、各回の授業でのキーワード、重要事項のまとめを確認していくこと。さらに、授業中に紹介した参考文献で関心をひくものを、自主的に読み進めていくこと。

政治学B (戦後日本外交史)

Political Science B

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は戦後日本外交の歴史的経緯を理解することを目的とする。具体的には、1945年の終戦から2013年の第二次安倍内閣成立までの日本外交のダイナミズムを首相のリーダーシップを中心にして解き明かしていく。

学習の目的 現代日本外交に関する基礎知識を習得し、外交史を通じて日本と世界の関わりを理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 テキストで予習・復習をし、関連する新聞記事を読むなど、能動的に学習すること。本講義を通じて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を身に付け、独りよがりではない、他者と対話のできる力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

授業計画・学習の内容

キーワード 吉田路線、日米関係、アジア外交、国連外交

Key Word(s) The Yoshida Doctrine, Japan-U.S.Relationship, Japana's Asia Diplomacy, Japan's UN Diplomacy

学習内容

第1回 イントロダクション
第2回 現代国際政治の変容と「吉田路線」
第3回 安倍政権の外交
第4回 民主党政権の外交
第5回 小泉政権と対テロ戦争
第6回 橋本・小淵政権と「競争的協調外交」の

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 現代日本政治史、日本政治論

教科書 五百旗頭真『戦後日本外交史 第3版補訂版』有斐閣、2014年

参考書 添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』筑摩書房、2005年

成績評価方法と基準 小テスト50%、期末試験50%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。

現在から過去に遡ることで、日本外交史に対して興味を持てるように工夫している。

時代

第7回 日米同盟の「漂流」

第8回 湾岸戦争と日本外交

第9回 「国際国家」の使命と苦悩

第10回 自立的協調の模索

第11回 日中国交回復

第12回 沖縄返還

第13回 日米安保条約の改定

第14回 日ソ国交回復

第15回 吉田路線の成立

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 教科書・参考書・新聞をよく読むこと

政治学B (戦後日本外交史)

Political Science B

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は戦後日本外交の歴史的経緯を理解することを目的とする。具体的には、1945年の終戦から2013年の第二次安倍内閣成立までの日本外交のダイナミズムを首相のリーダーシップを中心にして解き明かしていく。

学習の目的 現代日本外交に関する基礎知識を習得し、外交史を通じて日本と世界の関わりを理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 テキストで予習・復習をし、関連する新聞記事を読むなど、能動的に学習すること。本講義を通じて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を身に付け、独りよがりではない、他者と対話のできる力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

授業計画・学習の内容

キーワード 吉田路線、日米関係、アジア外交、国連外交

Key Word(s) The Yoshida Doctrine, Japan-U.S.Relationship, Japana's Asia Diplomacy, Japan's UN Diplomacy

学習内容

第1回 イントロダクション
第2回 現代国際政治の変容と「吉田路線」
第3回 安倍政権の外交
第4回 民主党政権の外交
第5回 小泉政権と対テロ戦争
第6回 橋本・小淵政権と「競争的協調外交」の

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 現代日本政治史、日本政治論

教科書 五百旗頭真『戦後日本外交史 第3版補訂版』有斐閣、2014年

参考書 添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』筑摩書房、2005年

成績評価方法と基準 小テスト50%、期末試験50%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。

現在から過去に遡ることで、日本外交史に対して興味を持てるように工夫している。

時代
第7回 日米同盟の「漂流」
第8回 湾岸戦争と日本外交
第9回 「国際国家」の使命と苦悩
第10回 自立的協調の模索
第11回 日中国交回復
第12回 沖縄返還
第13回 日米安保条約の改定
第14回 日ソ国交回復
第15回 吉田路線の成立
第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 教科書・参考書・新聞をよく読むこと

経済学A (経済現象の科学)

Economics A

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 堀内 義隆

授業の概要 現在私たちが暮らしている資本主義社会のしくみを理解するために、様々な経済現象を素材として取り上げながら、経済学の基本的な考え方と資本主義社会の歴史を解説する。これから経済学を学ぼうとする人のための入門的講義であると同時に、一般教養として誰もが知っておくべき基本的な事項が習得できるような授業を目指す。

学習の目的 現代の資本主義社会のしくみと歴史を理解することを通じて、自分自身が社会においてどのように生きるべきかということについて考察を深めること。

学習の到達目標 現代の資本主義社会がどのように動いているのかを理解し、資本主義社

会の歴史に関する基礎的な知識を得ること。

教科書 初回の授業で指示する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 小テスト40%、期末試験60%、計100%。

オフィスアワー 金曜日13:00~14:00、場所：人文学部棟5階堀内研究室。

授業改善への工夫 質問・意見用紙により、理解の向上・問題意識の醸成を図る。

その他 私語・電話など他の受講生の学習を妨げる行為は厳禁する。

授業計画・学習の内容

キーワード 市場経済、資本主義、経済の再生産

Key Word(s) market economy, capitalism, reproduction of economy

学習内容

第1回 イントロダクション

第2回 商品の売り買い

第3回 雇用と賃金

第4回 金利

第5回 インフレーションとデフレーション

第6回 円高と円安

第7回 企業活動と金融 (1)

第8回 企業活動と金融 (2)

第9回 経済成長

第10回 恐慌、小テスト

第11回 独占的競争

第12回 社会保障

第13回 税金と国債

第14回 環境問題

第15回 バブル経済

学習課題 (予習・復習) 授業中に指示した文献を期間中に読むこと。

経済学A (社会保障を考える)

EconomicsA

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 和田 康紀 (人文学部)

授業の概要 日本の社会保障を取り巻く諸課題について、グループで解決すべき課題(テーマ)を設定し、解決策についての仮説に基づき現状等を調査し、仮説の妥当性について整理、発表、討議を行います。

学習の目的

- ・グループの一員として、お互い助け合いながら、課題の解決に向けた自分たちの仮説の正しさをわかりやすく論証するとともに、他の学生が積極的に討論に参加できるように促し、他の学生の意見に対し、しっかりと耳を傾けながら、より高度なレベルの解決策を導き出せるようになること
- ・一連の討議への参加を通じて、日本の社会保障を取り巻く諸問題についての認識を深め、今後の社会保障をめぐる制度改革の動きに対して、自分なりの問題意識を持って意見表明ができるようになること

学習の到達目標

- ・各自が、グループの一員として、同じグループ内の学生と協力しながら、仮説に基づき、調査、検証を行い、その成果をわかりやすく発表し、他の学生や教員との討議の中から、ひとつの方向性を導き出せるようになること
- ・他のグループの発表した内容について、自分自身の意見を持って、討議に積極的に参加

授業計画・学習の内容

キーワード 社会保障を考える

Key Word(s) Social Security

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 ゼミ形式による講義

第5回以降 グループ分け、課題の設定、発表に

できるようになること

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありませんが、日本の社会保障を取り巻く諸問題に関心を持ち、主体的に課題に取り組むことを希望します。

予め履修が望ましい科目 特にありません

発展科目 特にありません

教科書 こちらでレジュメを用意します。

参考書 学生が扱うテーマに応じて、適宜紹介します。

成績評価方法と基準 課題発表50%、討議への参加50% (出席状況を含む)

オフィスアワー 毎週月曜日13:00～14:30

授業改善への工夫 毎回、コミュニケーションペーパー(授業での気づき、授業の改善策)を提出していただきます。

その他 受講人数制限(30名まで)を実施します。

に向けた準備、発表

(履修者の人数に応じて、柔軟に進め方を考えていく予定です)

学習課題(予習・復習) 日々の社会保障をめぐる新聞報道や雑誌等の記事の内容に関心をもっていただきたいと思います。

経済学A (資本主義の変化と現代)

EconomicsA

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 西淳 (非常勤講師)

授業の概要 この授業では資本主義という経済体制とはなにかを考え、また資本主義における制度の変化を考えることによってわれわれが生活している現代資本主義とはどのような経済なのかを考える。

学習の目的 人間の経済や経済活動には、歴史的に不変的な部分と特殊な部分が存在します。そして現代の資本主義を理解することは、その両面の関係を理解することでもあるのです。たとえば、人間ははるか昔から生産・分配・消費・蓄積という活動をおこなってきました。その意味では同じことを繰り返しているのですが、それがいかになされるのか、という点でそれぞれの時代の性格が分かれてきます。この授業では、これらの点に留意しつつ、われわれがどっぷりとつかり、またそのなかでさまざまなことを自明の前提として生きている資本主義という経済システムのメカニズムを理解してもらうことが目的です。

学習の到達目標 自分の生きている社会を理解するという事は、歴史におけるみずからの位置を理解するという事でもあるわけで

す。よって社会を理解するという事を通じて自己の歴史における位置を理解し、それを通じて自己理解につなげていってもらえば、学習の到達目標は達成されたことになるかと思えます。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 特にありません。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

教科書 特に指定しません(毎回、資料・プリントを配布しておこないます)。

参考書 授業の中で適宜指示します。

成績評価方法と基準 平常点と定期試験の点でおこないます。

授業改善への工夫 授業期間中に何回か感想を書いてもらい、それを参考にしておこなおうと考えている。

その他 私語は厳禁です。

授業計画・学習の内容

キーワード 資本主義、生産、消費、蓄積、会社と株主、労働者、経営者の関係、政府と市場

Key Word(s) capitalism, production, consumption, accumulation, company and shareholders, workers, manager's relation, government and market

学習内容

第一回：はじめに(授業の流れの説明)
第二回：社会制度の変遷と経済(資本主義の特殊性、経済と制度との関連)
第三回：制度変化と経済の調整(家計と企業分離、労働と所有の分離、経営と所有の分離)
第四回：初期産業資本主義における経済(経済

主体、市場のあり方、経済倫理)
第五回：中期産業資本主義における経済(経済主体、市場の変容、経済倫理)
第六回：後期産業資本主義の時代・その初期段階(上)(工業化の進展、経営形態の変化)
第七回：後期産業資本主義の時代・その初期段階(下)(会社と株主、経営者、労働者の関係の変化)
第八回：ケインズ以前の経済学とはどのようなものであったか(上)(競争原理、価格メカニズム、自己責任論)
第九回：ケインズ以前の経済学とはどのようなものであったか(下)(小さな政府論、失業観)
第十回：ケインズによる経済学・経済思想の転換(上)(有効需要の原理、経済倫理の転換)

第十一回：ケインズによる経済学・経済思想の転換(中)(失業観の転換、不況観の転換)

第十二回：ケインズによる経済学・経済思想の転換(下)(政府についての考え方の転換)

第十三回：ケインズから現代へ(ケインズ以降の世界の変化)

第十四回：小さな政府論の復権(大きな政府か小さな政府か)

第十五回：まとめ(全体のまとめ)

学習課題（予習・復習） 普段から歴史に興味をもち、また現実の経済問題に注意をはらってください。

経済学A (日本の流通システム)

Economics A

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 常 清秀 (生物資源学部)

授業の概要 流通機構、流通経路、取引費用などの流通論に関する基本的概念を学習しながら、日本の流通システムの仕組みについて経済学の観点から例を示しながら解説する。

学習の目的 日本の流通システムについて理解する。

学習の到達目標 具体的には、第1段階においては、まず、流通システムの基本的枠組みや各流通過程における機構、主体、組織の役割と機能などを把握すること。第2段階では、学習した知識に基づき、現存の流通システムに存在している諸課題を独自の観点から、一定の論理性に基づいて或る程度説明できるようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 流通機構、流通経路、流通革命、レギュラーチェーン、卸売市場、自動補充発注システム (EOS)、委託販売、小売の輪の理論、小売業、公正取引委員会

Key Word(s) Distribution Structure, Distribution Chanel, Distribution Revolution, Regular Chain, Wholesale Market, Electronic Order System, Selling on Consignment Basis, Wheel of Retailing, Retailer, Fair Trade Commission

学習内容

第1回目 ガイダンス (受講生の当該授業科目関連知識の確認を含む)

第2回目 流通の仕組みと流通の社会的役割

第3回目 流通経路の形成

受講要件 特にない

参考書

・有賀健編著『日本の流通の経済学—参入・規制メカニズムの解明—』日本経済新聞社。

・矢作敏行著『現代流通—理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ

・ブルース・マリオン編著 有松晃訳 (財) 食料・農業政策研究センター監修『アメリカの食品流通』社団法人 農山漁村文化協会

成績評価方法と基準 期末試験による。なお、出席率が7割以下の場合は、評価の対象外になる (期末試験を受ける資格がなくなる)。要注意!

オフィスアワー 341室・常 (時間は初回授業時に連絡する)

授業改善への工夫 授業アンケートを通じて、学生のニーズと評価を把握し、授業改善に努める。

第4回目 商流

第5回目 物流

第6回目 情報流

第7回目 流通システム形成のメカニズム

第8回目 小売流通

第9回目 卸売流通

第10回目 メーカー流通

第11回目 流通系列化の理論

第12回目 多元的流通システムの展開

第13回目 流通政策

第14回目 日本の流通システムの特徴

第15回目 期末試験

学習課題 (予習・復習) ケーススタディの題材は学生に調べてもらいます。

経済学B (観光と環境)

EconomicsB

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 朝日幸代

授業の概要

観光は経済活動の1つであることから、観光と環境の関係は環境経済学を理解することが重要になる。そのため、本授業は環境経済学の考え方を中心に取り扱う。

観光資源は、自然環境を基盤とした自然資本、長い歴史を含む文化によって人間がつくりだした文化資本、近年の社会的ニーズによって作りだされた民間資本などがあり、様々な形成過程や特徴がある。これら資本に対する経済学理論による捉え方を講義する。さらに自然環境および環境問題の保全政策や環境評価、観光資源となる文化資本の価値を理解する内容を提示した上で、日本国内および海外の観光資源として環境政策や環境への取り組みを利用した事例を紹介する。また、観光と環境に関する世界遺産等の映像によって、様々な観光資源を見る機会を増やす予定である。講義は講義ノートのプリントと資料によってすすめる。

学習の目的 経済学の外部性の観点で環境を捉え、観光政策の重要性を理解すること、さらに環境政策の観光への適用を学ぶことにより、観光資源を多様な側面理解する。

学習の到達目標

外部性を理解し、環境問題を説明する知識を得る。また、文化資源や自然環境資源を理解する。環境政策の観光への適用事例を説明できるようになる。環境問題の解決策や観光政策で必要とされる要素について自分の意見を述べるができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 経済学、環境経済学、外部性、環境政策、公共財

学習内容

<第1週> 経済活動と資源 経済と環境の関係
<第2週> 資本の定義と役割 観光資源と環境資源
<第3週> 外部性の考え方 (1)

日常生活の環境問題や環境政策、さらに現在の観光の状況、環境政策に関心をもつことができる。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 配布資料を用いる

参考書

観光マーケティング理論と実際一, 長谷政弘, 同文館, 1998年
都市再生を考える, 植田和弘他, 岩波書店, 2004年
公共経済学入門, 西垣泰幸 編著, 八千代出版, 2003年
文化経済学入門, デイビット・スロスピー, 日本経済新聞社, 2003年

成績評価方法と基準 出席点30%、小テスト・講義内でのレポート20%、期末試験50%、計100%

オフィスアワー

日時: 毎週火曜日7.8時限
場所: 人文学部棟5F朝日研究室

その他 積極的な講義の参加を期待しています。尚、講義に出席せずに、試験およびレポートの提出は、講義で理解したことを評価することができません。本講義の単位をとるには出席が不可欠です。この点を理解した上で、受講して下さい。

<第4週> 外部性の考え方 (2)

<第5週> 環境と経済の持続可能性

<第6週> 環境政策の考え方 (1) 直接規制

<第7週> 環境政策の考え方 (2) 四日市公害の事例紹介

<第8週> 環境再生における新たな発展 水俣公害の負の遺産をプラスにする戦略

<第9週> エコツーリズム ドイツのフライブルクの事例、オーストラリア環境研修

<第10週> 観光デザインの要素

新しい観光のコンセプト 環境保全型の観光

<第11週> 環境評価方法

<第12週> 観光の便益と費用 (1)

<第13週> 観光の便益と費用 (2)

<第14週> 文化資本と持続可能性
文化遺産の経済的側面

<第15週> 文化的な財・サービスの経済的評価
s 美術館の事例

学習課題（予習・復習） 学習内容のトピックスに関連する箇所について、講義時に指示する課題等に取り組むこと。

人文地理学A (都市地理学入門)

Human Geography

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 安食 和宏(人文学部)

授業の概要 地域の科学としての地理学の視点を用いて、現代社会を分析的に理解するために、日本の都市の特徴について学習する。できるだけ身近な具体例を取り上げて、授業を進める。

学習の目的 都市地理学の基本知識と理論を身につける。そして、現実の都市構造や都市問題について、適切なデータを用いて具体的に説明できるようになる。

学習の到達目標 都市地理学的なものの方を学び、身近な都市の仕組みについて論理的に考えることができる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

受講要件 野外実習を行うので、歩くのが苦

授業計画・学習の内容

キーワード 都市地理学入門、日本の都市を理解する

学習内容

授業計画は以下の通り。「」は授業で取り上げるトピックスの一例を示す。

第1回 授業のガイダンス

第2回 都市の範囲、都市の分布 「なぜ、名古屋－四日市、名古屋－岐阜、名古屋－岡崎、岡崎－豊橋の距離が大体同じなのか?」

第3回 都市の順位・規模、都市機能 「なぜ、県庁のある津よりも四日市の方が大都市なのか?」「なぜ、桑名・四日市・鈴鹿・津・松阪・伊勢が共存できるのか?」

第4回－5回 都市の内部構造 「名古屋の中でステイタスの高い(低い)人々はどこに住んでいるのか?」「なぜ、阪急・阪神・南海・京阪沿線地域でそれぞれ性格が違うのか?」

にならない学生、路上観察が好きな学生の受講が望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 教科書は用いない。授業の時に資料を配付する。

参考書 参考文献は、授業時間内に適宜指示する。

成績評価方法と基準 平常点(20%)とレポート(20%)と試験(60%)の総合評価。

オフィスアワー 質問は随時受け付ける。

その他 授業の一部として、休日を利用した津市内実習(日帰り、徒歩)を行う。特別の理由がない限り、これへの参加は必修である。

第6回 商店街の構造 「なぜ、津市の商店街には活気がないのか?なぜ、スーパーがよく廃業するのか?」「なぜ、名古屋の繁華街は魅力に欠けるといわれるのか?」

第7回 津市の歴史と現状 (講義の順番が入れ替わる可能性あり)

第8回－9回 都市の階層 「なぜ、名古屋は大阪に匹敵できないのか?」「なぜ、奈良・大津・福井・富山市(県庁所在都市)の人口規模が大体同じなのか?」

第10回 都市システム 「三重は名古屋圏か?大阪圏か?」

第11回 頭の中の都市(イメージ)

第12回 日本とアジアの都市

第13回－15回 (津市内実習で代替する)

学習課題 (予習・復習) 市内実習ではレポート提出が求められる

人文地理学B (文化地理学入門)

Human Geography B

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 2 **対象** 人文学部専門授業の開放科目なので、人文学部学生は教養教育科目として受講することはできない。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 中川正

授業の概要 文化地理学的視点とその視点の現実生活への適用を概説する。

学習の目的 学生は、身近な現象の中から、地域的、環境的、景観的側面を浮かび上げさせ、そのパターンの発見、要因の説明、意味の解釈し、応用をする思考習慣を得るようになる。

学習の到達目標 本授業を受講することにより、学生は、身近な現象に地理的な側面から光を当てる感受性、発見した現象を説明・解釈する思考力、試行の結果を応用する実践力、を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、情報受発信力

受講要件 人文学部学生は、教養教育科目としてこの授業を受講することはできない。教養教育として受講する学生は、専門授業の

開放科目として、毎回リーディングの感想をMoodleへ投稿する等の課題を遂行し、グループディスカッションに積極的に参加する覚悟をもって受講すること。教養教育履修者の上限は30名であり、履修登録者が上限を超える場合には、最初の授業で選考するので、欠席しないこと。

教科書 中川正・森正人・神田孝治『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版、2006年。

成績評価方法と基準 毎回Moodle上に提出するリーディングと振り返り等の課題提出の評価で100%。したがって、課題提出の期限が遅れた場合、欠席の場合には減点となる。

オフィスアワー 金16:30～17:30

授業改善への工夫 人文学部専門授業の共通教育開放科目とし、異なった学部の学生間の議論ができるようにした。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化地理学、地域、環境、景観、発見、説明、解釈、応用

Key Word(s) Cultural Geography, Region, Environment, Landscape, Discovery, Explanation, Interpretation, Application

学習内容

身近な生活の中から、地理学的な地域、環境、景観という視点から光を当てて課題を浮かび上がらせて、パターンを発見し、要因を説明し、意味を解釈し、応用する方法を学ぶ

1. 文化地理学の視点
2. 文化地理学研究の手順
3. 視点としての地域
4. 視点としての環境

5. 視点としての景観
6. 言語の文化地理
7. 政治の文化地理
8. 都市の文化地理
9. 宗教の文化地理
10. 民俗の文化地理
11. 生業の文化地理
12. 観光の文化地理
13. ジェンダーの文化地理
14. 文化地理学の応用
15. 振り返り

学習課題(予習・復習) 毎回、教科書1章ずつ読んで感想を授業前日までにMoodleに投稿すること、および振り返り等の課題の投稿が課せられる。

人文地理学C (三重県の地誌を読む)

Human Geography

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏 (人文学部)

授業の概要 三重県の地誌(地理的特徴)を学習する。1970年代に出版された「日本地誌」シリーズ(二宮書店)、および2000年代に出版された「日本の地誌」シリーズ(朝倉書店)の中から三重県部分を取り上げて、その内容に即して学ぶ。三重県の自然環境、産業構造、住民の生活と文化、都市と農村などの特徴について、かつその特徴がどのように変化したかを学習する。

学習の目的 私たちが生活している(三重大学が立地する)三重県の地理的な特徴を理解する。それをもとにして、三重県の抱える課題と今後の方向性を説明することができるようになる。そして、地誌の記載の方法を身につける。

学習の到達目標 身近な地域の地理的特徴を理解して、その仕組みについて論理的に考えることができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い

教養, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 以下の2冊を主なテキストにして読み進める。必要部分はコピーを配布する。

1. 日本地誌研究所編(1976): 「日本地誌13. 近畿地方総論・三重県・滋賀県・奈良県」(二宮書店)。2. 藤田佳久・田林明編(2007): 「日本の地誌7. 中部圏」(朝倉書店)。

参考書 参考文献については、授業時間内に説明する。

成績評価方法と基準 平常点20%、授業における発表内容40%、レポート40%

オフィスアワー 質問は随時受け付ける。

授業計画・学習の内容

キーワード 三重県の地誌を読む

学習内容

第1回 授業概要の説明

第2回~3回 三重県の地理的特性について(講義)

第4回~13回 「日本地誌13」(1976年)と「日本の地誌7」(2007年)の内容紹介と討

論

(できるところまで読み進める予定)

第14回~15回 レポート発表会

学習課題(予習・復習) 文献の担当部分を読み、発表要旨を準備してくる。最終的には、三重県の興味あるテーマについて、レポートにまとめて発表する。

PBL地理学（地域・日本）Ⅰ・Ⅱ（ドキュメンタリー撮影）

PBL Seminar: Making documentary films Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 **開講時間** 火 9, 10; 水 9, 10 **単位** 4 **対象** 基本的に一年次生の受講とする。グループでのディスカッションや調査を積極的に行なうことが要される。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習, 実習 **授業の特徴** PBL, Moodle

担当教員 森 正人

授業の概要 フィールド調査をとおして、社会に対する視点を育成するとともに、企画化、表現の仕方等についても学ぶ。

学習の目的 受講生は調査対象を決定し、調査のスケジュールを立て、ドキュメンタリーを撮影し、編集することをとおして、大学外の社会に対してどのような研究方法が可能かを学ぶ

学習の到達目標 社会の理解に対する複数のアプローチおよび企画化、表現化。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える

力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 調査には危険が伴うので、学生教育研究災害保険に必ず加入すること。学外での調査への参加が可能であること。交通費、昼食代等は自己負担。

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー

成績評価方法と基準 授業への参加状況を勘案して総合的に評価する。

オフィスアワー 木曜13時～14時（ただしアポイントメントが必要）

その他 受講人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード フィールド調査と表現方法の習得

学習内容

- 1～2. ガイダンス
- 3～4. 学内の調査
- 5～6. 成果発表
- 7～8. 大門商店街の調査計画

- 9～12. 大門商店街の調査
- 13～14. 調査結果発表
15. 企画の発表と立案
- 16～18. 下見、企画の計画提出
- 19～23. 撮影
- 21～24. 編集
- 25～28. 第一次発表
- 29～30. 全体発表

日本学 (メディア・リテラシー)

Japanology

学期 前期 開講時間 月9, 10 単位 2 対象 受講制限 (100名) がある。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 平野 易子(非常勤講師)

授業の概要

- 1:伝統や文化など”過去の日本”については学ばない。
- 2:グローバル・スタンダード、言い換えればアメリカン・スタンダードの影響下にある”現在の日本”について、アメリカにおける支配文化とサブ・カルチャーの関係を参考に、メディア・リテラシーの視点から考える。
- 3:日本学というよりは「映画で学ぶジャパノロジー(Japan+ology)」

学習の目的

- 1)人種、民族的に同質性が高いと言われる日本人は、とかく視点がウチ向きになりがち。ジェンダーやエスニシティ等グローバル社会共通のキーワードを学ぶことによりソト向きの視点を持つこと。
- 2)本や新聞でなくネット上の情報を過信する若者たち。SNS等ソーシャルメディアへの依存に伴い思考内容もまた偏向する危険性があることを知ること。
- 3)現代は情報化社会でもあるが、情報を流すメディアの劣化は著しい。視聴率や発行部数等商業ベースに支えられたメディアに情報操作されることなく、メディアを疑い、批判する力「メディアリテラシー」を身につけること。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード サブカルチャー、ジェンダー、エスニシティ、メディア・リテラシーなど

学習内容

- 1:オリエンテーション
- 2:異文化コミュニケーション 「米映画:ロスト・イン・トランスレーションその1」
- 3:コミュニケーションの仕方 「米映画:ロスト・イン・トランスレーションその2」
- 4:日本的なコミュニケーション 「日米映画:シャル・ウィー・ダンス?の抜粋」
- 5:アメリカにおける黒人運動や女性運動などサ

- 1:”同質性の高い”日本で育ち、とかく「ウチ」に向きがちな学生の感性を「ソト」へも向けるようにする。
- 2:知識を得ると言うよりは、日々変化する日本を取りまくグローバルな情報への「知的好奇心」と「メディア・リテラシー」を身につける。

本学教育目標との関連 感性、論理的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 講義2回目以降の受講登録は困難。受講希望者はかならず初回到教室にやってくることで登録のこと。

教科書 授業時間中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 期末の試験成績で100%評価する。

授業改善への工夫 毎回授業後の質問や要望について、必要に応じて対応する。

その他

毎回授業の出席者のみにプリントを配布する。いかなる理由があっても後での配布はしないので、欠席者は友人、知人にコピーを依頼すること。
受講制限 (100名) がある。

ブ・カルチャーの変化

「米映画:ステップフォードの妻たちオリジナル版その1」

6:セックスとジェンダー 「米映画:ステップフォードの妻たちオリジナル版その2」

7:セクシズム(性差別)からレイシズム(人種差別)へ

「米映画:ステップフォードの妻たちリメイク版抜粋」

8:人種とエスニシティ 「米映画:ミシシッピ・バーニングその1」

- 9:グローバル化に伴う人種・民族の等質化「米
映画:ミシシッピ・バーニングその2」
- 10:メディアとは何か?「米映画:クイズ・
ショーその1」
- 11:情報操作とは何か?「米映画:クイズ・
ショーその2」
- 12:日本のメディアの現状「米映画:クイズ・
ショーその3」
- 13:インターネットとマス・メディア「米映画:
クイズ・ショーその4」
- 14:グローバル社会とメディア・リテラシー」
- 15:まとめ
- 16:定期試験
- *映画の内容は変更あり

日本学 (メディア・リテラシー)

Japanology

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 受講制限 (100名) がある。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 平野 易子(非常勤講師)

授業の概要

- 1:伝統や文化など”過去の日本”については学ばない。
- 2:グローバル・スタンダード、言い換えればアメリカン・スタンダードの影響下にある”現在の日本”について、アメリカにおける支配文化とサブ・カルチャーの関係を参考に、メディア・リテラシーの視点から考える。
- 3:日本学というよりは「映画で学ぶジャパノロジー(Japan+ology)」

学習の目的

- 1)人種、民族的に同質性が高いと言われる日本人は、とかく視点がウチ向きになりがち。ジェンダーやエスニシティ等グローバル社会共通のキーワードを学ぶことによりソト向きの視点を持つこと。
- 2)本や新聞でなくネット上の情報を過信する若者たち。SNS等ソーシャルメディアへの依存に伴い思考内容もまた偏向する危険性があることを知ること。
- 3)現代は情報化社会でもあるが、情報を流すメディアの劣化は著しい。視聴率や発行部数等商業ベースに支えられたメディアに情報操作されることなく、メディアを疑い、批判する力「メディアリテラシー」を身につけること。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード サブカルチャー、ジェンダー、エスニシティ、メディア・リテラシーなど

学習内容

- 1:オリエンテーション
- 2:異文化コミュニケーション 「米映画:ロスト・イン・トランスレーションその1」
- 3:コミュニケーションの仕方 「米映画:ロスト・イン・トランスレーションその2」
- 4:日本的なコミュニケーション 「日米映画:シャル・ウィー・ダンス?の抜粋」
- 5:アメリカにおける黒人運動や女性運動などサ

- 1:”同質性の高い”日本で育ち、とかく「ウチ」に向きがちな学生の感性を「ソト」へも向けるようにする。
- 2:知識を得ると言うよりは、日々変化する日本を取りまくグローバルな情報への「知的好奇心」と「メディア・リテラシー」を身につける。

本学教育目標との関連 感性、論理的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 講義2回目以降の受講登録は困難。受講希望者はかならず初回到教室にやってくることで登録のこと。

教科書 授業時間中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 期末の試験成績で100%評価する。

授業改善への工夫 毎回授業後の質問や要望について、必要に応じて対応する。

その他

毎回授業の出席者のみにプリントを配布する。いかなる理由があっても後での配布はしないので、欠席者は友人、知人にコピーを依頼すること。
受講制限 (100名) がある。

ブ・カルチャーの変化

「米映画:ステップフォードの妻たちオリジナル版その1」

6:セックスとジェンダー 「米映画:ステップフォードの妻たちオリジナル版その2」

7:セクシズム(性差別)からレイシズム(人種差別)へ

「米映画:ステップフォードの妻たちリメイク版抜粋」

8:人種とエスニシティ 「米映画:ミシシッピ・バーニングその1」

- 9:グローバル化に伴う人種・民族の等質化「米映画:ミシシッピ・バーニングその2」
- 10:メディアとは何か?「米映画:クイズ・ショーその1」
- 11:情報操作とは何か?「米映画:クイズ・ショーその2」
- 12:日本のメディアの現状「米映画:クイズ・ショーその3」
- 13:インターネットとマス・メディア「米映画:クイズ・ショーその4」
- 14:グローバル社会とメディア・リテラシー」
- 15:まとめ
- 16:定期試験
- *映画の内容は変更あり

三重学（「四日市学」の確立）

MIE Studies

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○朴 恵淑(人文学部教授), 谷口智雅(人文学部特任教授), 岩崎恭彦(人文学部准教授), 宮岡邦任(教育学部教授), 水木千春(地域圏防災・減災研究センター 特任助教), 牛田芳克(非常勤講師), 山田享司(非常勤講師), 西浦尚夫(非常勤講師), 加藤忠哉(非常勤講師), 加藤征三(非常勤講師), 香川雄一(非常勤講師), 樋口知行(非常勤講師)

授業の概要 三重県の環境問題、特に四日市公害問題から環境先進県としての過去、現在、未来像を探るため、オムニバス形式で、人文社会科学及び自然科学、医学などを横断的に繋ぐ学際的・総合環境学的アプローチの講義を行う。そして、単に四日市にとどまらず、人間学・持続可能な社会学・環境教育学・アジア学として、自然環境と人々の営みの関わり合いについても、言及する。

学習の目的 様々な分野からのアプローチの講義を通じて、幅広い視野で地域の捉え方・見方ができるようになる。

学習の到達目標 過去の負の遺産としての四日市公害の教訓を活かし、三重県唯一の総合大学の三重大学が世界一の環境先進大学として位置付けられるための、環境マインドの高い学生となるべく考える力や実践力の向上をはかる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 四日市学、四日市公害、四日市コンビナート、人間学、持続可能な社会学、環境教育学、アジア学

学習内容

- 第1回 「四日市学」が目指すもの
- 第2回 四日市公害について
- 第3回 伊勢湾・四日市の水文環境
- 第4回 伊勢湾・英虞湾の海洋生態系の変遷
- 第5回 四日市公害と環境未来館
- 第6回 四日市公害と生物多様性

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 三重ブランドの創出

参考書

〔参考書〕；朴 恵淑編、四日市公害の過去・現在・未来を問う「四日市学」の挑戦、2012年、風媒社

〔参考書〕；国際環境シンポジウム報告書「四日市学」

〔参考書〕；朴 恵淑編、「四日市学講義」、2007年、風媒社

〔参考書〕；朴 恵淑・上野達彦・妹尾允史・山本真吾著「四日市学—未来をひらく環境学へ」、2005年、風媒社

成績評価方法と基準 最終レポート(50%)、授業態度(30%)、シンポジウムおよびエコ移動教室の参加状況(20%)で総合評価する。

その他 最終授業として、日本のみならずアジア・太平洋の海外の環境問題についても学習できる場として、国際環境シンポジウム「四日市学」を開催予定。また、週末の1日を利用してエコ移動教室を行い、四日市コンビナートや環境学習情報センター内の四日市公害資料室を見学を実施する予定。

- 第7回 四日市公害と地場産業
 - 第8回 四日市公害と環境政策
 - 第9回 四日市公害と環境法
 - 第10回 四日市公害と自然災害
 - 第11回 四日市公害とメディア
 - 第12回 四日市公害と環境教育
 - 第13回 四日市公害とエネルギー問題
 - 第14回 四日市公害と地球環境問題との接点
 - 第15回 国際環境シンポジウム「四日市学」
- ※講義内容の順番の変更あり

三重学 (三重ブランドの創出)

MIE Studies

学期 後期 開講時間 水5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 〇朴 恵淑 (人文学部教授)、谷口智雅(人文学部特任教授)、速水 亨 (非常勤講師)、川喜田 久 (非常勤講師)、宮武新次郎 (非常勤講師)、先浦宏紀 (非常勤講師)、松月清朗 (非常勤講師)、渡邊 昇 (非常勤講師)、木村 修(非常勤講師)、西浦尚夫(非常勤講師)

授業の概要 三重県内の産業について、オムニバス形式で講義を行う。三重県の産業の中には、国内ばかりでなく世界的なブランドとして知られている地場産業が数多くある。例えば、ミキモト真珠は世界ではじめて養殖に成功した以来、「ミキモト真珠」という世界的なブランドとして君臨している。また、日本初のFSC認証を取得した速水林業のヒノキは日本屈指の三重ブランドである。世界的なブランドとして成長できた背景には何が必要であったのか、戦略的に優れたものは何だったのかを探ることは、新たな三重ブランドを創出するために大変重要な意味を持つ。また、四日市公害で苦しんだ経験を生かした「環境に配慮した商品」の開発は産業と環境との両立をはかる新たな三重ブランド創出の大きなチャンスとなる。単に特産品やその概要を学ぶのではなく、地域と物の捉え方、考え方についても講義を行う。

学習の目的 地域の特徴的な産業を理解することかできる。

学習の到達目標 三重ブランドを創出するために必要とする諸要件を探り、応用し、発表

授業計画・学習の内容

キーワード 三重ブランド、ビジネス、環境

学習内容

- 第1回 三重ブランド、「三重」とは
- 第2回 三重ブランド、「ブランド」とは
- 第3回 三重ブランドと地場産業
- 第4回 三重ブランド創出に必要な自然環境
- 第5回 三重ブランド創出に必要な人文社会的環境
- 第6回 三重ブランドの事例Ⅰ (ミキモト真珠)
- 第7回 三重ブランドの事例Ⅱ (速水林業のヒノキ)
- 第8回 三重ブランドの事例Ⅲ (三重トヨペットのエコカー)

できる、感じる力、考える力、コミュニケーション力の向上をはかる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 参考書；日興リサーチセンター編「環境ビジネス最前線」、1995年、工業調査会

成績評価方法と基準 最終レポート(80%)を主な評価の対象とし、授業態度(20%)も考慮して総合評価する。

授業改善への工夫 三重ブランドとして位置付けられる企業及び三重ブランド化戦略の専門家から直接講義を受ける。

第9回 三重ブランドの事例Ⅳ (モクモク手づくりファーム)

第10回 三重ブランドの事例Ⅴ (地場産業)

第11回 環境ビジネスの事例Ⅰ (三重銀行)

第12回 環境ビジネスの事例Ⅱ (アスト津)

第13回 環境ビジネスの事例Ⅲ (環境管理)

第14回 新たな三重ブランドの創出

第15回 まとめ

※講義順序は変更があるので、初回の授業で説明します。

学習課題 (予習・復習)

- ・事例研究対象に対する文献及び情報収集
- ・講師からの資料及び情報に基づく学習

・三重ブランドの可能性の高い事業所の情報 収集

医学医療C (現代社会と健康)

Medicine, Nursing

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 ○村端真由美 (医学部), 平松万由子 (医学部), 北川亜希子 (医学部), 山田奈央 (医学部), 犬丸杏里 (医学部), 辻川真弓 (医学部), 小森照久 (医学部), 竹内佐智恵 (医学部), 井倉一政 (医学部), 畑下博世 (医学部), 新小田春美 (医学部), 児玉豊彦 (医学部), 後藤姉奈, 本田直子, 田村裕子, 賤川葉子他

授業の概要 現代社会の変化、歪みなどに影響される健康課題に焦点を当て、その実態と対策についての理解を促し、健康支援やサポートシステムのあり方について考える力を育てる。

学習の到達目標

- 1) 現代社会における健康課題の実態や発生要因についての理解を深める。
- 2) 現代社会が抱える健康課題の発生メカニズムと実施されている対策について理解する。
- 3) 健康支援の方向性やサポートシステムのあり方、自分の担える役割について考える。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準

2/3以上の出席を条件に、各回ごとのレポート(100%)で評価をする

オフィスアワー 毎週木曜日17:50-18:20, 場所: 共通教育190番教室

授業計画・学習の内容

キーワード 現代社会、健康、生活

学習内容

- 1 平松万由子「老年期におけるこころと体の変化と健康」
- 2 北川亜希子「高齢者のケアシステム」
- 3 山田奈央「母子保健の現状～先進国と発展途上国の現状から～」
- 4 吉田和枝「お肌の健康」
- 5 犬丸杏里「がんをもって生きること」
- 6 小森照久「心と身体のネットワークと香りの応用」

- 7 辻川真弓「デス・エデュケーション」
- 8 服部由佳「環境と健康」
- 9 竹内佐智恵「手術を受ける病気になったら」
- 10 井倉一政「アルコールと健康」
- 11 畑下博世「在日外国人の健康課題」
- 12 新小田春美「睡眠の健康科学」
- 13 児玉豊彦「あなたは今、しあわせ？」(現代の若者のこころは病んでいるのか?)
- 14 村端真由美「子どもの療養環境」
- 15 総括 他
(＊授業担当者と内容、順序は変更、追加することがある)

医学医療D (暮らしと看護)

Medicine, Nursing

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 ○村端真由美(医学部), 井關敦子(医学部), 西出りつ子(医学部), 林智子(医学部), 坂口美和(医学部), 今井奈妙(医学部), 福録恵子(医学部), 磯和勅子(医学部), 種田ゆかり(医学部), 井村香積(医学部), 江藤由美(医学部), 吉田和枝, 井倉一政 他

授業の概要 日常生活で起こりやすい身近な健康課題についての理解を促し、具体的な対処方法と予防的観点からの「健康的な生活の過ごし方」について考える力を育てる。

学習の到達目標

- 1) 生活の中にある身近な健康課題について再確認し、その対処方法や予防方法のあり方について理解する。
- 2) 各健康課題の視点から自分の生活を見つめ直し、発主要因や具体的な対処方法について考える。
- 3) 身近な健康課題の予防に向け、生活習慣を改善する具体的方策について考える。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 2/3以上の出席を条件に、各回ごとのレポート(100%)で評価をする

オフィスアワー 毎週木曜日17:50-18:20, 場所: 共通教育190番教室

授業計画・学習の内容

キーワード 暮らし、健康、看護

学習内容

- 1 井關敦子「胎児・新生児の発育と健康」
- 2 西出りつ子「子どもと不慮の事故」
- 3 吉田和枝「成人看護学」
- 4 林智子「相手の立場になって考える」
- 5 坂口美和「死への準備教育」
- 6 今井奈妙「化学物質と健康」
- 7 福録恵子「骨の健康学」
- 8 磯和勅子「超高齢社会における防災対策 災

害看護の視点から」
9 種田ゆかり「むくみとリンパ」
10 井村香積「人間関係」
11 成田有吾「成年後見制度と暮らし」
12 江藤由美「身近な人が病気になったら」
13 村端真由美「子どもの健康と感染症の予防」
14 服部由佳「老年看護学」
15 井倉一政「地域看護学」
(※授業担当者と内容、順序を変更、追加することがある)

日本理解特殊講義 (日本語の文処理) Lecture Course in Understanding Japan

学期 前期 開講時間 水 3, 4; 金 3, 4, 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 菅原彩加

授業の概要 母語話者がどのように文を解釈して意味を組み立てているかについて、主に日本語話者に対して行われた実験を紹介していく。扱う内容は、絵を見ながら文を聞いた時に被験者がどこを見ているかを記録したものや、被験者に文を読ませて文節ごとのリーディングタイムを記録したものなどである。実験結果から日本語の構造についてどのような推論ができるかを議論する。また、必要に応じて日本語以外の自然言語との比較も行う。

学習の目的

「言語学」は「認知科学」の一分野であることを具体的な例を用いて科学的に他人に説明できる。

授業で紹介された文処理研究のさまざまな手法を理解し、実験結果が日本語の構造についてどのような意味を持つかを他人に説明できる。

学習の到達目標

「言語学」は「認知科学」の一分野であることを他人に説明できる。

授業で紹介された文処理研究のさまざまな手

法を理解し、実験結果を他人に説明できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 教科書は指定しない。スライドを使い、適宜資料を配布する。

参考書 適宜紹介する。

成績評価方法と基準 授業参加 (リアクションペーパーへの記入) 25%、小テスト25%、期末試験50%で評価する。

オフィスアワー 随時 (メールでアポイントメントを取ることを)

授業改善への工夫 パワーポイント、配布資料などによる講義と毎回のリアクションペーパーの提出を組み合わせ、授業内容の理解を深めてもらうと共に学生のニーズを把握できるようにする。講義では実験の具体例を提示し、より興味が持てるようにする。

授業計画・学習の内容

キーワード 文処理、事象関連電位、アイトラッキング、自己制御読文課題

Key Word(s) Sentence processing, ERP, eye-tracking, self-paced reading task

学習内容

第1回 ガイダンス：サイエンスの対象としての言語学

第2回 音の知覚：事象関連電位を使って

第3回 音の知覚：Eye-trackingを使って

第4回 音が持つシグナルと意味の関係

第5回 (#2~4の範囲の小テスト)、項構造の処理

第6回 言語獲得におけるブートストラップ理論

第7回 人工言語を使った研究

第8回 関係節の処理

第9回 関係節の処理2

第10回 (#5~9の範囲の小テスト)、疑問詞を使った文法的依存関係の処理

第11回 疑問詞を使った文法的依存関係の処理2

第12回 否定副詞を使った文法的依存関係の処理

第13回 (#10~12の範囲の小テスト)、含意計算の処理

第14回 含意計算の処理2

第15回 総まとめ

(試験)

学習課題 (予習・復習) 授業は付加的に進むので、スライドや授業でとったノートをもとに復習をし、前回の内容を理解したうえで授業に臨んでください。

日本理解特殊講義S (地域の仕事をを知る)

Employment and Career Development

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○西村訓弘 (医学系研究科)、狩野幹人、八神寿徳、加藤貴也 (以上、社会連携研究センター)、矢野竹男、坂内正明 (以上、地域イノベーション学研究科)

授業の概要 日本社会は人口減少期に入り経済の停滞と閉塞感が漂っていると言われて久しい。しかしながら、地域社会を見渡すと三重県内には可能性が高く、活力に満ちた企業が数多く存在している。本授業では、ゲストスピーカーとして主に三重県を足場として日本国内に限らずグローバルに展開した企業経営を行っている経営者(社長クラス)を順次招聘し、経営者の立場から大学で学ぶ学生に期待することを語ってもらう。元気な経営者の生の声を聴き、自分の感覚で経営者の生きざまを感じ取ること、就職を目指す学生諸君に、「働くことを通じた自己形成」について自ら考える機会を与える。

学習の目的 地域社会の中核人材として活躍する人材に必要な素養について理解できるようになる。

学習の到達目標 企業経営を行う人たちとの対話から、企業への就職など社会生活を通じた自己実現について熟慮できる能力を養成する。大学卒業後に社会人として生きるための基礎力を磨く。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、問題解決力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 経営者との対話から就職を考える

Key Word(s) Committing for community and works

学習内容

本講義では、三重県内など地域社会の現場での活躍している経営者などをゲスト・スピーカーとして招聘し、ゲスト・スピーカーの活動内容、考え方を生の声として語っていただ

受講要件 「働くことを通じて自己実現をはかる」ことを考えている学生であることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 第一回目の講義で招聘する企業名の一覧を提示するので、各企業の事業内容等についてホームページ等で事前に調べておくこと。

発展科目 特になし。

教科書 講義において各講師からの資料を配布する予定。

成績評価方法と基準 出席票(各講義についての感想を記述)50%、レポート(50%)によって評価する。

オフィスアワー

医学系研究科トランスレーショナル医科学(059-231-5405)まで問い合わせのこと。

担当: 田口、加藤

授業改善への工夫 毎回の講義において感想文を学生から提出させ、その内容を考慮した改善を行うことを計画している。

その他 こちらは教育統合科目としての科目です。キャリア科目として履修する場合はこちらを履修して下さい。

く。その後、教員が解説しながら地域社会で活躍するための考え方を学生との質疑を通して指導する。

第1回 就職を通じたキャリア形成について(担当: 西村)

第2回~第14回 地域の経営者に聞く

(担当: ゲストスピーカーとして招聘する地域の企業経営者など)

三重県内など地域社会の現場での活躍している経営者などをゲスト・スピーカーとして招

聘し、ゲスト・スピーカーの活動内容、考え方を生の声として語っていただく。

第15回 就職とキャリア形成のまとめ（担当：西村）

授業終了時に提出するレポートでは、授業における習熟度を把握するために、全てのゲストスピーカーのお話を受けて自身が感じ取った「社会で働くこと」についての考えを自分の言葉としてまとめ、提出する。その際には、講義シリーズで心に残った講師を3名挙げ、なぜその講師の話聞いて心に残ったかについての説明とその結果として自分がどのように仕事に取り組みたいと思ったかについ

てを問うことを予定している。

学習課題（予習・復習）

第1回目の授業にて、本授業科目でお話を聞くゲストスピーカーの一覧表を提示するので、ゲストスピーカーの方々について、インターネットなどを利用して事前に背景を理解しておくことが望ましい。

各授業では、出席確認のための用紙を配布するので、この用紙にゲストスピーカーのお話を聞いたことに対する感想を各授業の終了時まで記入して、退出時に提出すること。その提出をもって各授業への出席とする。

日本理解特殊講義S (起業マインドの醸成)

Lecture Course in Understanding Japan S

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 ○山根栄次 (教育学部)、松岡守 (教育学部)、武田秀一 (非常勤講師)

授業の概要 起業のための基礎知識と方法を起業プランの作成を通じて実践的に獲得する。

学習の目的 社会をより良いものにしていくためには、与えられた仕事をただこなすのではなく、今のシステムのどこに問題があるのか気づくアンテナの繊細さ、そしてそれを発見したらどうすれば良いのかの企画力、そしてそれを形にする実践力が個々人に求められる。これは実際に起業をせずに一企業に所属する立場を継続する場合でも求められる姿である。このような一連の意識、知識、実践力を身に付けるのがこの授業の目的である。

学習の到達目標

- ・ 起業のための基礎知識を得る
- ・ 起業のための心構え、姿勢を獲得
- ・ 自ら課題を発見し解決する企画立案能力の

獲得

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

成績評価方法と基準 授業の中でのグループ討論、発表、レポートから評価する。

オフィスアワー 相談は武田 (dzq04343@nifty.ne.jp) まで電子メールで。直接相談が必要な場合は電子メールで日時等を設定の上、対応します。

その他 授業の進行上受講生は50名までとする。

授業計画・学習の内容

キーワード 起業マインドの醸成

学習内容

- 1 プログラム受講ガイダンス
- 2アントレプレナーシップとは
- 3 起業の心構え
- 4 事業計画とは1
- 5 現役起業家 (ゲストスピーカー) による講義1
- 6 ビジネスアイデアの洗い出し

- 7 ビジネスプランの作成1
- 8 ビジネスプランの作成2
- 9 事業計画とは2
- 10 現役起業家 (ゲストスピーカー) による講義2
- 11 ビジネスプランの作成3
- 12 ビジネスプランの作成4
- 13 効果的なプレゼンテーションとは
- 14 プレゼンテーション資料作成
- 15 ビジネスプランの発表・総括

日本学 (メディアと日本文化)

Japanology

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 栗田 聡子

授業の概要

”この授業では、日本人学生と留学生が、日本の社会や文化についてともに考え英語で討論します。メディアのコンテンツ・情報伝達の在り方は、その国の文化や社会について知る上で欠かせない材料です。新聞からテレビ、映画やインターネットなど様々な形態のメディアを通じて日本の文化や社会、日本人の心理的傾向などについて考えていきます。This course will offer both International students and Japanese students an opportunity to discuss Japanese society and culture in English. Media content and process of communication are a primary source for us to understand culture and society of a given country. In this course, students will get an insight into Japanese culture and society, as well as their psychological tendencies, through various forms of media, such as newspapers, television, film and the Internet.”

学習の目的

- 1) 日本のメディア事情から日本の文化と社会、日本人の心理的傾向について考え理解する、
 - 2) (自国のメディア事情や文化と比較して) 日本社会の特色や問題について考える、
 - 3) ディスカッションを通して国際交流を促進する、
 - 4) 英語能力を高める。
- 1) Increase understanding of the Japanese culture, society, and psychological tendencies through media, 2) consider characteristics of Japanese culture and social issues (by

comparing with these of student's own country), 3) enhance international communication through discussions, and 4) increase English competency.

学習の到達目標

メディアという材料を通して日本文化や社会状況などについて考え、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて英語で表現できるようにすること。
To think about and get an insight into Japanese culture and social climate through media, and to express own opinions in English through discussions and group presentations.

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 レポートと授業への参加の積極性

オフィスアワー 教員室に在室時に随時対応

授業改善への工夫 最新の情報を含め、様々なメディアを活用して教授する

授業計画・学習の内容

キーワード 文化、社会、メディア、新聞、テレビ、映画、インターネット

Key Word(s) Culture, Society Media, Newspaper, TV, Film, Internet

学習内容

第1回 イントロダクションーメディア概要：Introduction - Outline of Japanese Media

第2回 言論の自由：Journalism and freedom of expression

第3回 テレビから見える日本ー過去：Japanese culture and society on television in the past

第4回 テレビから見える日本ー近年：Japanese culture and society on television in recent years

第5回 雑誌から見える日本： Japanese culture and society in magazines

第6回 新聞から見える日本： Japanese culture and society in newspaper

第7回 映画から見える日本の文化： Japanese culture in films

第8回 映画から見える日本の社会： Japanese society in films

第9回 広告から見える日本の文化： Japanese culture in advertisements

第10回 広告から見える日本の社会： Japanese society in advertisements

第11回 インターネットの発展： Development of the Internet

第12回 インターネットの影響： Influence of

the Internet

第13回 メディアと流行： Media and popular culture in Japan

第14回 グループプレゼンテーション： Group presentations (subjects will be discussed)

第15回 プレゼンテーション評価と総括： Evaluation review

第16回 レポート提出 Report Submission

学習課題（予習・復習）

日頃から日本のメディアやニュースについて親しんでください。他の予習・復習については授業で説明します。

Please familiarize yourself with Japanese media and news in daily life. Other preparations and reviews will be explained in classes.

日本学 (メディアと日本文化)

Japanology

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 栗田 聡子

授業の概要

この授業では、日本人学生と留学生が、日本の社会や文化についてともに考え英語で討論します。メディアのコンテンツ・情報伝達の在り方は、その国の文化や社会について知る上で欠かせない材料です。新聞からテレビ、映画やインターネットなど様々な形態のメディアを通じて日本の文化や社会、日本人の心理的傾向などについて考えていきます。This course will offer both International students and Japanese students an opportunity to discuss Japanese society and culture in English. Media content and process of communication are a primary source for us to understand culture and society of a given country. In this course, students will get an insight into Japanese culture and society, as well as their psychological tendencies, through various forms of media, such as newspapers, television, film and the Internet.

学習の目的

- 1) 日本のメディア事情から日本の文化と社会、日本人の心理的傾向について考え理解する、
 - 2) (自国のメディア事情や文化と比較して) 日本社会の特色や問題について考える、
 - 3) ディスカッションを通して国際交流を促進する、
 - 4) 英語能力を高める。
- 1) Increase understanding of the Japanese culture, society, and psychological tendencies through media, 2) consider characteristics of Japanese culture and social issues (by

comparing with these of student's own country), 3) enhance international communication through discussions, and 4) increase English competency.

学習の到達目標

メディアという材料を通して日本文化や社会状況などについて考え、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて英語で表現できるようにすること。
To think about and get an insight into Japanese culture and social climate through media, and to express own opinions in English through discussions and group presentations.

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 レポートと授業への参加の積極性

オフィスアワー 教員室に在室時に随時対応

授業改善への工夫 最新の情報を含め、様々なメディアを活用して教授する

授業計画・学習の内容

キーワード 文化、社会、メディア、新聞、テレビ、映画、インターネット

Key Word(s) Culture, Society Media, Newspaper, TV, Film, Internet

学習内容

第1回 イントロダクションーメディア概要：Introduction - Outline of Japanese Media

第2回 言論の自由：Journalism and freedom of expression

第3回 テレビから見える日本ー過去：Japanese culture and society on television in the past

第4回 テレビから見える日本ー近年：Japanese culture and society on television in recent years

第5回 雑誌から見える日本： Japanese culture and society in magazines

第6回 新聞から見える日本： Japanese culture and society in newspaper

第7回 映画から見える日本の文化： Japanese culture in films

第8回 映画から見える日本の社会： Japanese society in films

第9回 広告から見える日本の文化： Japanese culture in advertisements

第10回 広告から見える日本の社会： Japanese society in advertisements

第11回 インターネットの発展： Development of the Internet

第12回 インターネットの影響： Influence of

the Internet

第13回 メディアと流行： Media and popular culture in Japan

第14回 グループプレゼンテーション： Group presentations (subjects will be discussed)

第15回 プレゼンテーション評価と総括： Evaluation review

第16回 レポート提出 Report Submission

学習課題（予習・復習）

日頃から日本のメディアやニュースについて親しんでください。他の予習・復習については授業で説明します。

Please familiarize yourself with Japanese media and news in daily life. Other preparations and reviews will be explained in classes.

日本学 (メディアと日本文化)

Japanology

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 栗田 聡子

授業の概要 この授業は日本語上級クラスの留学生および日本人学生を対象とし、メディアを通して日本の社会や文化を理解するだけでなく、情報社会に生きる私たちの在り方について皆で考え討論します。言語は日本語を使用します。メディアはその国の文化・心理傾向について理解する上で欠かせない材料です。留学生にとっては自国における報道や娯楽番組の特色と比較することで、世界における日本社会の特性や位置について理解することができるだけでなく、日本以外の文化にも触れる機会があります。学期末にはグループプレゼンテーションを通じて情報を伝える側の技術も学びます。

学習の目的 1) 日本のメディア事情から日本の文化と社会、日本人の心理的傾向について考え理解する、2) (自国のメディア事情や文化と比較して) 日本社会の特色や問題について考える、3) ディスカッションを通して国際交流を促進する、4) プレゼンテーションを通じて情報を伝える技術を学ぶ。

学習の到達目標 メディアという材料を通して日本社会の問題や文化などについて日本語

で説明することができ、プレゼンテーションで情報を明確に伝える。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 レポートと授業への参加の積極性

オフィスアワー 教員室に在室時に随時対応

授業改善への工夫 日本の社会を象徴するようなメディアコンテンツを様々なフォーマットで紹介する。

その他 留学生は、学部正規生の場合でも、国際交流センターにて履修登録すること(国際交流センターの科目名:「日本事情2A」)。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化、社会、メディア、新聞、テレビ、映画、インターネット

Key Word(s) Culture, Society Media, Newspaper, TV, Film, Internet

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 社会を映す鏡ーメディア
第3回 テレビ番組編成から見る日本
第4回 娯楽番組から見える日本
第5回 映画から見える日本
第6回 報道から考える日本
第7回 日本が伝える世界・世界が伝える日本

第8回 グループプレゼンテーション準備: テーマ

第9回 広告・雑誌から見える日本

第10回 Jポップカルチャー

第11回 特別講義(新聞記者など)

第12回 グループプレゼンテーション

第13回 グループプレゼンテーション

第14回 グループプレゼンテーション

第15回 プレゼンテーション評価と総括

第16回 レポート提出

学習課題(予習・復習) 課題は随時説明します。

日本学 (メディアと日本文化)

Japanology

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 栗田 聡子

授業の概要 この授業は日本語上級クラスの留学生および日本人学生を対象とし、メディアを通して日本の社会や文化を理解するだけでなく、情報社会に生きる私たちの在り方について皆で考え討論します。言語は日本語を使用します。メディアはその国の文化・心理傾向について理解する上で欠かせない材料です。留学生にとっては自国における報道や娯楽番組の特色と比較することで、世界における日本社会の特性や位置について理解することができるだけでなく、日本以外の文化にも触れる機会があります。学期末にはグループプレゼンテーションを通じて情報を伝える側の技術も学びます。

学習の目的 1) 日本のメディア事情から日本の文化と社会、日本人の心理的傾向について考え理解する、2) (自国のメディア事情や文化と比較して) 日本社会の特色や問題について考える、3) ディスカッションを通して国際交流を促進する、4) プレゼンテーションを通じて情報を伝える技術を学ぶ。

学習の到達目標 メディアという材料を通して日本社会の問題や文化などについて日本語

で説明することができ、プレゼンテーションで情報を明確に伝える。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 レポートと授業への参加の積極性

オフィスアワー 教員室に在室時に随時対応

授業改善への工夫 日本の社会を象徴するようなメディアコンテンツを様々なフォーマットで紹介する。

その他 留学生は、学部正規生の場合でも、国際交流センターにて履修登録すること(国際交流センターの科目名:「日本事情2B」)。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化、社会、メディア、新聞、テレビ、映画、インターネット

Key Word(s) Culture, Society Media, Newspaper, TV, Film, Internet

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 社会を映す鏡ーメディア
第3回 テレビ番組編成から見る日本
第4回 娯楽番組から見える日本
第5回 映画から見える日本
第6回 報道から考える日本
第7回 日本が伝える世界・世界が伝える日本

第8回 グループプレゼンテーション準備: テーマ

第9回 広告・雑誌から見える日本

第10回 Jポップカルチャー

第11回 特別講義(新聞記者など)

第12回 グループプレゼンテーション

第13回 グループプレゼンテーション

第14回 グループプレゼンテーション

第15回 プレゼンテーション評価と総括

第16回 レポート提出

学習課題(予習・復習) 課題は随時説明します。

日本文学A (日本古典文学入門)

Japanese literature A

学期 前期 開講時間 火 1, 2, 5, 6; 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 高井 悠子

授業の概要 中古文学を味わう。中古文学の代表的な作品について、原文に触れながら、それぞれの作品世界と文学史的な位置づけを学ぶ。

学習の目的 『古今和歌集』や『和漢朗詠集』などの平安文学における基礎的な韻文作品の内容を把握した上で、『伊勢物語』、『源氏物語』など、後世の文学作品に大きな影響を与えたの王朝文学作品における世界観や表現の方法などを理解する。

学習の到達目標 講義を聞いて、取り上げた作品本文を理解し、学習した内容をまとめ、問題意識や関心を見つけることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考

授業計画・学習の内容

キーワード 日本古典文学入門

Key Word(s) Introduction to Japanese classical literature

学習内容

中古文学のいくつかの作品を取り上げ、原文を読みながら、それぞれの作品の特徴や文学史的な位置づけを解説する。受講者は授業で指示されるミニレポートや課題に取り組む。

第1回 イントロダクション

第2回 『古今和歌集』の世界

第3回 『和漢朗詠集』の世界

第4回 『古今和歌集』、『和漢朗詠集』の古注釈

第5回 歌物語『伊勢物語』

力、課題探求力

教科書 プリントを配布する。

参考書 『平安文学研究ハンドブック』（田中登・山本登朗編、和泉書院）

成績評価方法と基準 授業中に課す課題、ミニレポート及び学期末レポート（80%）と受講態度（20%）で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

授業改善への工夫 授業中に課す課題やミニレポートにより、学生の興味関心や理解度を確認し、授業に反映する。

その他 第一回目の授業は、授業の内容や方針を説明するので、必ず出席すること。

第6回 歌物語『大和物語』

第7回 長編物語への道『竹取物語』

第8回 長編物語への道『宇津保物語』

第9回 『源氏物語』①

第10回 『源氏物語』②

第11回 『源氏物語』③

第12回 『源氏物語』以後の文学『狭衣物語』

第13回 『源氏物語』以後の文学『浜松中納言物語』、『夜の寝覚』

第14回 中世王朝物語の世界

第15回 まとめ 物語と和歌

学習課題（予習・復習） 次の授業で読むテキストを、必ず前もって読んで予習をしておくこと。

日本文学A (日本古典文学入門)

Japanese literature A

学期 後期 開講時間 月 9, 10; 火 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 高井 悠子

授業の概要 中古文学を味わう。中古文学の代表的な作品について、原文に触れながら、それぞれの作品世界と文学史的な位置づけを学ぶ。

学習の目的 『古今和歌集』や『和漢朗詠集』などの平安文学における基礎的な韻文作品の内容を把握した上で、『伊勢物語』、『源氏物語』など、後世の文学作品に大きな影響を与えた王朝文学作品における世界観や表現の方法などを理解する。

学習の到達目標 講義を聞いて、取り上げた作品本文を理解し、学習した内容をまとめ、問題意識や関心を見つけることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考

授業計画・学習の内容

キーワード 日本古典文学入門

Key Word(s) Introduction to Japanese classical literature

学習内容

中古文学のいくつかの作品を取り上げ、原文を読みながら、それぞれの作品の特徴や文学史的な位置づけを解説する。受講者は授業で指示されるミニレポートや課題に取り組む。

第1回 イントロダクション

第2回 『古今和歌集』の世界

第3回 『和漢朗詠集』の世界

第4回 『古今和歌集』、『和漢朗詠集』の古注釈

第5回 歌物語『伊勢物語』

力、課題探求力

教科書 プリントを配布する。

参考書 『平安文学研究ハンドブック』（田中登・山本登朗編、和泉書院）

成績評価方法と基準 授業中に課す課題、ミニレポート及び学期末レポート（80%）と受講態度（20%）で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

授業改善への工夫 授業中に課す課題やミニレポートにより、学生の興味関心や理解度を確認し、授業に反映する。

その他 第一回目の授業は、授業の内容や方針を説明するので、必ず出席すること。

第6回 歌物語『大和物語』

第7回 長編物語への道『竹取物語』

第8回 長編物語への道『宇津保物語』

第9回 『源氏物語』①

第10回 『源氏物語』②

第11回 『源氏物語』③

第12回 『源氏物語』以後の文学『狭衣物語』

第13回 『源氏物語』以後の文学『浜松中納言物語』、『夜の寝覚』

第14回 中世王朝物語の世界

第15回 まとめ 物語と和歌

学習課題（予習・復習） 次の授業で読むテキストを、必ず前もって読んで予習をしておくこと。

日本文学C (日本近代文学セミナー)

Japanese literature C

学期 前期 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択

授業の方法 講義

担当教員 坂 堅太

授業の概要 戦争を取扱った日本近代文学の作品を読解しながら、日本社会が戦争をどうイメージしてきたかを考察する。

学習の目的

日本近代文学の作品を読解する力を身につける。

作品の描かれた歴史的・社会的背景を知り、現代社会に対する批判的視座を構築する。

学習の到達目標

戦争文学を読解し、日本社会が戦争をどう描いてきたかを知る。

作品の描かれた歴史的・社会的背景を知り、現代社会に対する批判的視座を構築する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 日本文学史・日本史についての基礎的な知識(高校範囲)を有すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本の戦争文学の概説

Key Word(s) General theory of the Japanese war literature

学習内容

戦争を描いた作品をテーマごとに取り上げ、そこに描かれた戦争のイメージを分析する。

【授業計画】

第1回: イントロダクション

第2回: 「兵営」を描く(1) 一野間宏『真空地帯』

第3回: 「兵営」を描く(2) 一「俗情との結託」論争

第4回: 「兵営」を描く(3) 一大西巨人『神聖喜劇』

第5回: 「特攻」を描く(1) 一島尾敏雄の特攻三部作①

第6回: 「特攻」を描く(2) 一島尾敏雄の特攻三部作②

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 適宜プリントを配付する。

参考書 別途指示する。

成績評価方法と基準 授業への意欲30%、期末レポート70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する

オフィスアワー 水曜日12~13時、場所: 研究室

授業改善への工夫 授業中の私語は厳禁。リフレクションシートに寄せられた感想をもとに、講義内容を一部変更することがある。

その他 このクラスは開放科目なので、人文学部1年生は共通教育科目として履修できません。授業中に私語をして注意されると、その時点で単位は不可。

第7回: 「原爆」を描く(1) 一林京子『ギヤマンビードロ』①

第8回: 「原爆」を描く(2) 一林京子『ギヤマンビードロ』②

第9回: 「引揚げ」を描く(1) 一藤原てい『流れる星は生きている』

第10回: 「引揚げ」を描く(2) 一松本清張「赤いくじ」

第11回: 「占領」を描く(1) 一小島信夫「アメリカン・スクール」①

第12回: 「占領」を描く(2) 一小島信夫「アメリカン・スクール」②

第13回: 「焼け跡」を描く(1) 一野坂昭如「火垂るの墓」①

第14回: 「焼け跡」を描く(2) 一野坂昭如「火垂るの墓」②

第15回: まとめ

学習課題(予習・復習) 授業で扱うテキストは必ず事前に読んでくること。

日本文学C (日本近代文学セミナー)

Japanese literature C

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 坂 堅太

授業の概要 戦争を取扱った日本近代文学の作品を読解しながら、日本社会が戦争をどうイメージしてきたかを考察する。

学習の目的

日本近代文学の作品を読解する力を身につける。

作品の描かれた歴史的・社会的背景を知り、現代社会に対する批判的視座を構築する。

学習の到達目標

戦争文学を読解し、日本社会が戦争をどう描いてきたかを知る。

作品の描かれた歴史的・社会的背景を知り、現代社会に対する批判的視座を構築する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 日本文学史・日本史についての基礎的な知識(高校範囲)を有すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本の戦争文学の概説

Key Word(s) General theory of the Japanese war literature

学習内容

戦争を描いた作品をテーマごとに取り上げ、そこに描かれた戦争のイメージを分析する。

【授業計画】

第1回: イントロダクション

第2回: 「兵営」を描く(1) 一野間宏『真空地帯』

第3回: 「兵営」を描く(2) 一「俗情との結託」論争

第4回: 「兵営」を描く(3) 一大西巨人『神聖喜劇』

第5回: 「特攻」を描く(1) 一島尾敏雄の特攻三部作①

第6回: 「特攻」を描く(2) 一島尾敏雄の特攻三部作②

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 適宜プリントを配付する。

参考書 別途指示する。

成績評価方法と基準 授業への意欲30%、期末レポート70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する

オフィスアワー 水曜日12~13時、場所: 研究室

授業改善への工夫 授業中の私語は厳禁。リフレクションシートに寄せられた感想をもとに、講義内容を一部変更することがある。

その他 このクラスは開放科目なので、人文学部1年生は共通教育科目として履修できません。授業中に私語をして注意されると、その時点で単位は不可。

第7回: 「原爆」を描く(1) 一林京子『ギヤマンビードロ』①

第8回: 「原爆」を描く(2) 一林京子『ギヤマンビードロ』②

第9回: 「引揚げ」を描く(1) 一藤原てい『流れる星は生きている』

第10回: 「引揚げ」を描く(2) 一松本清張「赤いくじ」

第11回: 「占領」を描く(1) 一小島信夫「アメリカン・スクール」①

第12回: 「占領」を描く(2) 一小島信夫「アメリカン・スクール」②

第13回: 「焼け跡」を描く(1) 一野坂昭如「火垂るの墓」①

第14回: 「焼け跡」を描く(2) 一野坂昭如「火垂るの墓」②

第15回: まとめ

学習課題(予習・復習) 授業で扱うテキストは必ず事前に読んでくること。

哲学F（「哲学」とは何か）

Philosophy F

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 田中 綾乃（人文学部）

授業の概要

「哲学」とは一体、どのような学問なのだろうか。

古代から近代までのヨーロッパの哲学者たちの思想を概観することで、哲学的思考法についてゼロから学ぶ。

学習の目的

哲学的思考法の基礎を身につけることを目的とする。

論理的に物事を考察することを目的とする。

学習の到達目標

授業で扱う哲学者の理論を理解することを目標とする。

現代における哲学的諸問題について考察を広げられることを目標とする。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

哲学の授業では、哲学者の理論を通して、様々な諸問題をじっくりとく自分自身で考え

る>ことが求められる。

それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。

発展科目 哲学・倫理学の科目

教科書

貫成人『哲学マップ』（ちくま新書）

その他、プリント配布。

参考書 参考書は適宜指示する。

成績評価方法と基準 平常点、小レポート（レスポンスペーパー）などから総合的に評価する。

オフィスアワー

木曜日12時～13時

事前にメールでアポイントをとること。

その他

毎回、授業の後にレスポンス・ペーパーを配布し、

授業の内容や質問について書いてもらいます。

数回、哲学カフェ（対話型授業）の形式をとりいれます。

授業計画・学習の内容

キーワード 「哲学」とは何か？

学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 <哲学>とはなにか？

第三回 <哲学>的な思考法

第四回～第五回 古代ギリシャにおける哲学

第六回～第七回 中世における神学と哲学

第八回 デカルトのCogito ergo sum

第九回 ホッブスの哲学

第十回～第十二回 イギリス経験論

第十三回～第十四回 カント哲学

第十五回 まとめ

ただし、学生の理解度によって授業を進めるので、

必ずしもシラバス通りに進むとは限らない。

学習課題（予習・復習） 身の回りにある日常や常識を疑い、哲学的に捉えなおしてみる。

哲学 F (哲学と現代的諸問題)

Philosophy F

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

授業の概要

めまぐるしく時代が変容する現代において、
<哲学>はどのような意義を持つのだろうか。

哲学の基本問題からデジタル・テクノロジー、そして3.11の問題まで、幅広い視点で現代の哲学的諸問題を学ぶ。

学習の目的

哲学的思考法の基礎を身につけることを目的とする。

論理的に物事を考察することを目的とする。

学習の到達目標

現代のさまざまな諸問題をより深く考察することを目標とする。

授業で扱う哲学者の理論を理解することを目標とする。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

哲学の授業では、哲学者の理論を通して、様々な諸問題をじっくりとく自分自身で考え

る>ことが求められる。

それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。

発展科目 哲学・倫理学の科目

教科書

黒崎政男『いまを生きるための「哲学的思考」』（日本実業出版社）

その他、プリント配布。

参考書 参考書は適宜指示する。

成績評価方法と基準 平常点、小レポート（レスポンスペーパー）などから総合的に評価する。

オフィスアワー

木曜日12時～13時

事前にメールでアポイントをとること。

その他

毎回、授業の後にレスポンス・ペーパーを配布し、授業の内容や質問について書いてもらいます。

数回、哲学カフェ（対話型の授業）の形式をとります。

授業計画・学習の内容

キーワード 哲学と現代的諸問題

学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 <哲学>とはなにか

第三回 現代の諸問題と哲学の関係

第四回 近代的なものの見方

第五回 デカルトのCogito ergo sum

第六回 デジタルとは何か？

第七回～第九回 デジタル時代の哲学

第十回 リスボンとフクシマ

第十一回～第十四回 3.11後の世界を哲学的に考える

第十五回 まとめ

ただし、学生の理解度によって授業を進めるので、

必ずしもシラバス通りに進むとは限らない。

学習課題（予習・復習）

身の回りにある日常や常識を疑い、哲学的に捉えなおしてみる。

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要

自分は相手の考えていることを本当はなにも分かっていないのではないか。相手は自分のことを本当に理解してくれているのだろうか。ペットのポチはいま、なにを思っているのだろうか...こんな疑問や不安を抱くことは、ふだんの暮らしのなかでよくあることでしょう。

「心」というものは私たちのそばに当たり前存在するように思われるのに、よくよく考えてみると、手の届かないところへとスリリと逃げてしまいます。

哲学はこのヤッカイな「心」という存在をずっと考えてきました。この講義では、日常的なエピソードを考えることを通じて、「心」をめぐる哲学的議論を紹介します。

学習の目的 「心」という哲学の主要問題を考察することを通じて、現代に至るまでの哲学的立場の変遷を理解し、学問としての哲学の手法を身につける。

学習の到達目標

1. 哲学上の論争を考察することで、相手の主張を批判的に吟味できる。
2. 多様な哲学的立場を概観することで、複数の立場を系統立てて比較できる。
3. コンセプトマップを作成することで、自身の知識を整理・表現する方法を獲得する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

予め履修が望ましい科目 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

授業計画・学習の内容

キーワード 哲学入門、心の哲学、心身問題、他者の心の問題

Key Word(s) Introduction to philosophy; Philosophy of mind; Mind-body problem;

発展科目

(共通教育) 哲学、倫理学
(人文学部専門科目) アメリカの思想

教科書 レジュメを配布します。

参考書

金杉武司『心の哲学入門』、勁草書房、2009年。
それ以外のものについては、授業中に適宜、指示します。

成績評価方法と基準 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00
薄井研究室 (人文学部3階)

授業改善への工夫

- ・毎回の講義では、質問・要望欄を設けたレスポンスペーパーを配布する。学生からの質問には次回の講義の冒頭で回答し、指摘された要望を取り入れることで柔軟な内容改善を図る。
- ・パワーポイントにより視覚的にアピールすることで学生の理解度の向上に努めつつ、一方的な講義形態にならないように、板書を交えつつ学生との対話を図る。
- ・全講義を通じて数回コンセプトマップを学生に作成させる機会を設ける。それを通じて学生に知識の整理をおこなってもらい、同時に学生たちの理解状況を確認する。
- ・哲学には難解な語句や抽象的な概念が伴いがちだが、毎回の講義タイトルも含め、平易な言葉で講義をおこなう。

Problem of other minds

学習内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：心と身体 (1)

- 第3回：心と身体 (2)
 - 第4回：心と行動 (1)
 - 第5回：心と行動 (2)
 - 第6回：心と脳 (1)
 - 第7回：心と脳 (2)
 - 第8回：前半のまとめとコンセプトマップの作成
 - 第9回：コンピュータと心 (1)
 - 第10回：コンピュータと心 (2)
 - 第11回：コンピュータと心 (3)
 - 第12回：心の消去 (1)
 - 第13回：心の消去 (2)
 - 第14回：後半のまとめとコンセプトマップの作成
 - 第15回：講義全体のまとめ
- ※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

学習課題（予習・復習）

・「哲学」というと難解なイメージを持ってしまいかもしれませんが、哲学者たちが考え、悩んできたことは、私たちが日常的に直面する問題と変わりません。講義の予習のために資料を配布しますが、それを読むときには、言葉の難しさに惑わされず、自分がふだん思っていることにつなげて理解するように意識しましょう。

・ただレジメを読むだけでなく、講義中に自分で考えたことをレジメに書き込むようにしましょう。復習の際に読み返してみても疑問に思ったことは、レスポンスペーパーに記入して提出してください。

哲学G (心の哲学)

Philosophy G

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要

自分は相手の考えていることを本当はなにも分かっていないのではないか。相手は自分のことを本当に理解してくれているのだろうか。ペットのポチはいま、なにを思っているのだろうか...こんな疑問や不安を抱くことは、ふだんの暮らしのなかでよくあることでしょう。

「心」というものは私たちのそばに当たり前存在するように思われるのに、よくよく考えてみると、手の届かないところへとスリリと逃げてしまいます。

哲学はこのヤッカイな「心」という存在をずっと考えてきました。この講義では、日常的なエピソードを考えることを通じて、「心」をめぐる哲学的議論を紹介します。

学習の目的 「心」という哲学の主要問題を考察することを通じて、現代に至るまでの哲学的立場の変遷を理解し、学問としての哲学の手法を身につける。

学習の到達目標

1. 哲学上の論争を考察することで、相手の主張を批判的に吟味できる。
2. 多様な哲学的立場を概観することで、複数の立場を系統立てて比較できる。
3. コンセプトマップを作成することで、自身の知識を整理・表現する方法を獲得する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

予め履修が望ましい科目 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

授業計画・学習の内容

キーワード 哲学入門、心の哲学、心身問題、他者の心の問題

Key Word(s) Introduction to philosophy; Philosophy of mind; Mind-body problem;

発展科目

(共通教育) 哲学、倫理学
(人文学部専門科目) アメリカの思想

教科書 レジュメを配布します。

参考書

金杉武司『心の哲学入門』、勁草書房、2009年。
それ以外のものについては、授業中に適宜、指示します。

成績評価方法と基準 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00
薄井研究室 (人文学部3階)

授業改善への工夫

- ・毎回の講義では、質問・要望欄を設けたレスポンスペーパーを配布する。学生からの質問には次回の講義の冒頭で回答し、指摘された要望を取り入れることで柔軟な内容改善を図る。
- ・パワーポイントにより視覚的にアピールすることで学生の理解度の向上に努めつつ、一方的な講義形態にならないように、板書を交えつつ学生との対話を図る。
- ・全講義を通じて数回コンセプトマップを学生に作成させる機会を設ける。それを通じて学生に知識の整理をおこなってもらい、同時に学生たちの理解状況を確認する。
- ・哲学には難解な語句や抽象的な概念が伴いがちだが、毎回の講義タイトルも含め、平易な言葉で講義をおこなう。

Problem of other minds

学習内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：心と身体 (1)

- 第3回：心と身体 (2)
 - 第4回：心と行動 (1)
 - 第5回：心と行動 (2)
 - 第6回：心と脳 (1)
 - 第7回：心と脳 (2)
 - 第8回：前半のまとめとコンセプトマップの作成
 - 第9回：コンピュータと心 (1)
 - 第10回：コンピュータと心 (2)
 - 第11回：コンピュータと心 (3)
 - 第12回：心の消去 (1)
 - 第13回：心の消去 (2)
 - 第14回：後半のまとめとコンセプトマップの作成
 - 第15回：講義全体のまとめ
- ※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

学習課題（予習・復習）

・「哲学」というと難解なイメージを持ってしまいかもしれませんが、哲学者たちが考え、悩んできたことは、私たちが日常的に直面する問題と変わりません。講義の予習のために資料を配布しますが、それを読むときには、言葉の難しさに惑わされず、自分がふだん思っていることにつなげて理解するように意識しましょう。

・ただレジメを読むだけでなく、講義中に自分で考えたことをレジメに書き込むようにしましょう。復習の際に読み返してみても疑問に思ったことは、レスポンスペーパーに記入して提出してください。

哲学G (思考実験と哲学)

Philosophy G

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要

「哲学」と聞くと、なにか難しい言葉が出てきてよくわからない抽象的な議論をしている、というイメージを持つひとも多いかもしれません。もちろん、そのような側面も確かにあるのですが、同時に、そういった抽象的な議論をするときにはしばしば、誰もがイメージできるようなエピソードも挙げられてきました。

本人が望むとおりの経験を仮想的に与えてくれる、そんな機械につながれたひとは幸福なのだろうか。白黒の部屋でずっと育てられてきた天才科学者は、はじめて外に出たときになにを学ぶのだろうか。自分とまったく同じ物理的構造をしているのに意識を持たないゾンビというものは考えられるだろうか...

「心」「幸福」「知識」「自由」などの抽象的な考えを明らかにするために、想像力をはたらかせて現実から少し離れた事例を考えてみることを、しばしば「思考実験」と呼びます。この講義では、道徳哲学、認識論、心の哲学といった、さまざまな分野で営まれてきた思考実験を紹介し、それを通じて哲学がなにを問題としてきたのか、そしてそれにどう答えようとしてきたのかを学びます。

学習の目的 思考実験を考察することを通じて、哲学の主要問題についての知識を獲得する。

学習の到達目標

- 1.ある問題に対してとられる複数の立場をお互いに関係づけることができる。
- 2.意見の異なる相手と議論することで、自分の意見を明示的に述べるができる。
- 3.コンセプトマップを作成することで、自分の知識を整理・表現する方法を獲得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

予め履修が望ましい科目 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

発展科目

(共通教育) 哲学、倫理学

(人文学部専門科目) アメリカの思想

教科書 レジュメを配布します。

成績評価方法と基準 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00

薄井研究室 (人文学部3階)

授業改善への工夫

- ・毎回の講義では、質問・要望欄を設けたレスポンスペーパーを配布する。学生からの質問には次回の講義の冒頭で回答し、指摘された要望を取り入れることで柔軟な内容改善を図る。

- ・パワーポイントにより視覚的にアピールすることで学生の理解度の向上に努めつつ、一方的な講義形態にならないように、板書を交えつつ学生との対話を図る。

- ・全講義を通じて数回コンセプトマップを学生に作成させる機会を設ける。それを通じて学生に知識の整理をおこなってもらい、同時に学生たちの理解状況を確認する。

- ・哲学には難解な語句や抽象的な概念が伴いがちだが、毎回の講義タイトルも含め、平易な言葉で講義をおこなう。

授業計画・学習の内容

キーワード 哲学入門、思考実験、相対主義、道徳、自由意志、ひとの同一性

Key Word(s) Introduction to philosophy; Thought experiment; Relativism; Morality; Free will; Personal identity

学習内容

第1回：イントロダクション

第2回：「思考実験」ってなんだろう？

第3回：相対主義（1）－傷ついたウサギ

第4回：相対主義（2）－あらゆる文化を認めること

第5回：相対主義（3）－相対主義の苦境

第6回：道徳（1）－ストイックな快樂主義者

第7回：道徳（2）－「善意」の証言者

第8回：道徳（3）－経験機械

第9回：前半のまとめとコンセプトマップの作成

第10回：同一性（1）－改心したひと

第11回：同一性（2）－身体のスウィッチ

第12回：自由（1）－ラプラスの悪魔

第13回：自由（2）－運の問題？

第14回：後半のまとめとコンセプトマップの作成

第15回：講義全体のまとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

学習課題（予習・復習）

・「哲学」というと難解なイメージを持ってしまいかもしれませんが、哲学者たちが考え、悩んできたことは、私たちが日常的に直面する問題と変わりません。講義の予習のために資料を配布しますが、それを読むときには、言葉の難しさに惑わされず、自分がふだん思っていることにつなげて理解するように意識しましょう。

・ただレジュメを読むだけでなく、講義中に自分で考えたことをレジュメに書き込むようにしましょう。復習の際に読み返してみても疑問に思ったことは、レスポンスペーパーに記入して提出してください。

哲学H (論理的哲学の理解)

Philosophy H

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 山岡 悦郎 (非常勤講師)

授業の概要 論理的哲学

学習の目的 論理学の基礎知識、パラドックスならびに真理に内在する諸問題に関する論理的視点からの深い理解を得ることができる。

学習の到達目標 われわれが常識的に受け入れている事柄について、改めて論理的に思考する態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 論理的思考力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 使わない

参考書 適宜紹介

成績評価方法と基準 期末試験による

オフィスアワー 授業終了後

授業改善への工夫 授業評価を利用

授業計画・学習の内容

キーワード 論理、パラドックス、命題真理、トートロジー、真理

Key Word(s) logic, paradox, propositional logic, tautology, truth

学習内容

第1回：論理学の哲学について

第2回：パラドックスとは何か

第3回：ゼノンのパラドックス

第4回：うそつきのパラドックス

第5回：社会的パラドックス

第6回：命題論理1

第7回：命題論理2

第8回：トートロジー

第9回：トートロジーと推論

第10回：含意のパラドックス

第11回：論理の公理体系

第12回：ゲーデルの不完全性定理

第13回：真理の対応説

第14回：真理の整合説

第15回：プラグマティズム

哲学H (論理的哲学の理解)

Philosophy H

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 山岡 悦郎 (非常勤講師)

授業の概要 論理的哲学

受講要件 なし

学習の目的 論理学の基礎的知識、パラドックスならびに真理に内在する諸問題に関する論理的観点からの深い理解を得ることができる。

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 使わない

学習の到達目標 われわれが常識的に受け入れている事柄について、改めて論理的に思考する態度を身につけることができる。

参考書 適宜紹介

成績評価方法と基準 期末試験による。

本学教育目標との関連 論理的思考力

オフィスアワー 授業終了後

授業改善への工夫 授業評価を利用

授業計画・学習の内容

キーワード 論理、パラドックス、命題真理、トートロジー、真理

Key Word(s) logic, paradox, propositional logic, tautology, truth

学習内容

第1回：論理学の哲学について

第2回：パラドックスとは何か

第3回：ゼノンのパラドックス

第4回：うそつきのパラドックス

第5回：社会的パラドックス

第6回：命題論理1

第7回：命題論理2

第8回：トートロジー

第9回：トートロジーと推論

第10回：含意のパラドックス

第11回：論理の公理体系

第12回：ゲーデルの不完全性定理

第13回：真理の対応説

第14回：真理の整合説

第15回：プラグマティズム

哲学Ⅰ (科学史・科学論)

Philosophy I

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 鈴木秀憲

授業の概要 科学史、科学哲学、科学技術社会論の基礎的内容について講義する。

学習の目的

- ・科学の歴史についての基礎知識を習得する
- ・科学技術に関してどのような議論がなされてきたかを理解する
- ・科学をめぐるさまざまな問題について自ら批判的に考える力を養う

学習の到達目標

現代の科学技術の在り方について、学術的知識に基づき、自らの観点を持ち議論を組み立てることができるようにする。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じ

る力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 なし

参考書

『はじめて学ぶ科学史』山中康資 共立出版、2014年
『科学哲学の冒険—サイエンスの目的と方法をさぐる』戸田山和久 日本放送出版協会、2005年
他、授業内で随時紹介する

成績評価方法と基準

授業時間に記載するコメント用紙40%、期末テスト60%
60%以上で合格

オフィスアワー 授業の前後、必要に応じて

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：古代における「科学」とその時代背景
- 第3回：中世における「科学」とその時代背景
- 第4回：近代科学の形成と科学革命1
- 第5回：近代科学の形成と科学革命2
- 第6回：18世紀以降の科学の展開1
- 第7回：18世紀以降の科学の展開2
- 第8回：科学についての諸研究
- 第9回：科学哲学の議論（クーン）
- 第10回：科学哲学の議論（科学的実在論論

争)

- 第11回：科学哲学の議論（科学と疑似科学）
- 第12回：科学技術と社会（技術倫理）
- 第13回：科学技術と社会（ジェンダー）
- 第14回：科学技術と社会（現代科学の制度的問題）
- 第15回：まとめ
受講者の理解・関心に依じて適宜調整する

学習課題（予習・復習） 授業中に疑問に思った点、興味を持った人物などについてその都度調べておくこと。

哲学Ⅰ (科学史・科学論)

Philosophy I

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 鈴木秀憲

授業の概要 科学史、科学哲学、科学技術社会論の基礎的内容について講義する。

る力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的

- ・科学の歴史についての基礎知識を習得する
- ・科学技術に関してどのような議論がなされてきたかを理解する
- ・科学をめぐるさまざまな問題について自ら批判的に考える力を養う

教科書 なし

参考書

『はじめて学ぶ科学史』山中康資 共立出版、2014年
『科学哲学の冒険—サイエンスの目的と方法をさぐる』戸田山和久 日本放送出版協会、2005年
他、授業内で随時紹介する

学習の到達目標

現代の科学技術の在り方について、学術的知識に基づき、自らの観点を持ち議論を組み立てることができるようにする。

成績評価方法と基準

授業時間に記載するコメント用紙40%、期末テスト60%
60%以上で合格

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じ

オフィスアワー 授業の前後、必要に応じて

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：古代における「科学」とその時代背景
- 第3回：中世における「科学」とその時代背景
- 第4回：近代科学の形成と科学革命1
- 第5回：近代科学の形成と科学革命2
- 第6回：18世紀以降の科学の展開1
- 第7回：18世紀以降の科学の展開2
- 第8回：科学についての諸研究
- 第9回：科学哲学の議論（クーン）
- 第10回：科学哲学の議論（科学的実在論論

争)

- 第11回：科学哲学の議論（科学と疑似科学）
- 第12回：科学技術と社会（技術倫理）
- 第13回：科学技術と社会（ジェンダー）
- 第14回：科学技術と社会（現代科学の制度的問題）
- 第15回：まとめ
受講者の理解・関心に依じて適宜調整する

学習課題（予習・復習） 授業中に疑問に思った点、興味を持った人物などについてその都度調べておくこと。

哲学I (自然理解の哲学)

Philosophy I

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 小川 眞里子(人文学部)

授業の概要 博物学の科学史的考察を通して、科学の基礎と考えられている観察の本性を考える。同時に、科学も社会的、文化的所産であると考えざるを得ない面を有することを学ぶ。

学習の目的 科学と言えば、一般的に客観的で普遍的とされるが、歴史的な事例を通して文化的社会的影響があることを学ぶ。

学習の到達目標 日々の科学に関係するニュースについても、一歩さがってその客観性や妥当性について考えてみる事が出来るようにしたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 自然、観察、科学、ジェンダー、分類

学習内容

観察するということの哲学的意味を考えながら、具体的な博物学の事例を通して検討する。植物にも性が存在することを知った人々が、花の性生活を考え、生殖器官に基づいて分類を行ったこと、乳房に注目した哺乳類という分類名が、ある社会的背景の下に誕生したことなど、自然認識と西洋文化のインターフェイスを扱う。また自然認識に関する比較文化論的考察も交える。

第1回 講義の進め方と講義の目的について説明
第2回と第3回 観察するとはいかなることであるかを考える

第4回と第5回 植物にも性があることに気づい

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 講義のはじめにテキストや参考書について指示する。

成績評価方法と基準 出席および授業態度 50% 期末試験 50%

オフィスアワー

水曜日 11時半から12時半 金曜日 13時から14時

不在のこともあるので、あらかじめメールでアポイントメントをとることが望ましい。

た人々は？

第6回と第7回 哺乳類はなぜ哺乳類と名づけられたのか？

第8回 前半のまとめ 哲学と科学はいかに繋がっているか？

第9回 類人猿はどのように観察されるようになったのか？

第10回 類人猿研究に反映する人間の価値観

第11回 人種の分類は何を根拠に、どのように行われたのだろうか？

第12回 白い文明の真実 DVDの視聴

第13回 科学の起源は黒人か白人か？ 科学は誰のために？

第14回 白人男性中心に成立した科学を見直す

第15回 全体のまとめ (授業の回数により調整)

第16回 試験

倫理学 F (現代の倫理的諸問題)

Ethics F

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 現代の倫理的諸問題を解決するためには、どのようなアプローチが有効なのだろうか。本講義では、ピーター・シンガーの著作に依拠しつつ、動物の解放・妊娠中絶・安楽死・飢餓救済などのテーマを概説し、それらのテーマに関連する倫理的諸問題の解決策を紹介する。

学習の目的

- ・現代の倫理的諸問題についての知識を身につける。
- ・倫理的諸問題に対する哲学者たちのアプローチを学ぶ。

学習の到達目標 動物の解放・妊娠中絶・安楽死・飢餓救済などのテーマに関連するさまざまな問題とは何かを知り、それらの問題を解決するための考え方を理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 本講義は2014年度の倫理学VIと同内容であるため、倫理学VIの単位取得者は本講義を受講してはならない。

授業計画・学習の内容

キーワード 応用倫理学

Key Word(s) applied ethics

学習内容

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：倫理学について
- 第3回：平等の意味
- 第4回：動物に平等を(1)
- 第5回：動物に平等を(2)
- 第6回：殺すことはなぜ不正なのか
- 第7回：動物を殺すことについて
- 第8回：胎児を殺すことについて(1)
- 第9回：胎児を殺すことについて(2)

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 哲学、倫理学

教科書 なし。プリントを配布する。

参考書

- (1) ピーター・シンガー 『実践の倫理 [新版]』 昭和三十九年。
 - (2) ピーター・シンガー 『あなたが救える命』 勁草書房、2014年。
 - (3) 児玉聡 『功利主義入門：はじめての倫理学』 ちくま新書、2012年。
- *その他の参考書は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 期末試験(持ち込みなし)で評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時～13時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 リアクションペーパーの内容を踏まえて、講義の難易度を調節する。

その他 授業中の私語・常習的遅刻・途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

第10回：自発的安楽死の正当化

第11回：積極的安楽死と消極的安楽死

第12回：飢餓救済(1)

第13回：飢餓救済(2)

第14回：飢餓救済(3)

第15回：まとめ

- ・受講生の理解度などを考慮して、予定を変更する場合もある。

学習課題 (予習・復習)

- ・配布プリントの内容を復習すること。
- ・講義の中で紹介する参考文献を何冊か読むこと。

倫理学 F (現代の倫理的諸問題)

Ethics F

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 現代の倫理的諸問題を解決するためには、どのようなアプローチが有効なのだろうか。本講義では、ピーター・シンガーの著作に依拠しつつ、動物の解放・妊娠中絶・安楽死・飢餓救済などのテーマを概説し、それらのテーマに関連する倫理的諸問題の解決策を紹介する。

学習の目的

- ・現代の倫理的諸問題についての知識を身につける。
- ・倫理的諸問題に対する哲学者たちのアプローチを学ぶ。

学習の到達目標 動物の解放・妊娠中絶・安楽死・飢餓救済などのテーマに関連するさまざまな問題とは何かを知り、それらの問題を解決するための考え方を理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 本講義は2014年度の倫理学VIと同内容であるため、倫理学VIの単位取得者は本講義を受講してはならない。

授業計画・学習の内容

キーワード 応用倫理学

Key Word(s) applied ethics

学習内容

第1回: ガイダンス
第2回: 倫理学について
第3回: 平等の意味
第4回: 動物に平等を(1)
第5回: 動物に平等を(2)
第6回: 殺すことはなぜ不正なのか
第7回: 動物を殺すことについて
第8回: 胎児を殺すことについて(1)
第9回: 胎児を殺すことについて(2)

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 哲学、倫理学

教科書 なし。プリントを配布する。

参考書

- (1) ピーター・シンガー 『実践の倫理 [新版]』 昭和田、1999年。
 - (2) ピーター・シンガー 『あなたが救える命』 勁草書房、2014年。
 - (3) 児玉聡 『功利主義入門: はじめての倫理学』 ちくま新書、2012年。
- *その他の参考書は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 期末試験(持ち込みなし) で評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時~13時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 リアクションペーパーの内容を踏まえて、講義の難易度を調節する。

その他 授業中の私語・常習的遅刻・途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

第10回: 自発的安楽死の正当化
第11回: 積極的安楽死と消極的安楽死
第12回: 飢餓救済(1)
第13回: 飢餓救済(2)
第14回: 飢餓救済(3)
第15回: まとめ
・受講生の理解度などを考慮して、予定を変更する場合もある。

学習課題 (予習・復習)

- ・配布プリントの内容を復習すること。
- ・講義の中で紹介する参考文献を何冊か読むこと。

倫理学 G (倫理学の基礎)

Ethics G

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 倫理学とはどのような学問なのだろうか。本講義では、倫理的利己主義、功利主義、義務論、徳倫理学など、倫理学上のさまざまな理論を概説する。

学習の目的

- ・倫理学 (道徳哲学) の基礎知識を身につける。
- ・哲学的に考えるとはどういうことを学ぶ。

学習の到達目標 倫理学にはどのような理論があるのか、また、それらの理論は具体的な倫理的問題を解決する際にどう役立つのかを理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 本講義は2014年度の倫理学Vと同内容であるため、倫理学Vの単位取得者は本講義を受講してはならない。

授業計画・学習の内容

キーワード 倫理学の基礎

Key Word(s) Introduction to Ethics

学習内容

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 倫理学における主観主義
- 第3回: 心理的利己主義(1)
- 第4回: 心理的利己主義(2)
- 第5回: 倫理的利己主義
- 第6回: 功利主義(1)
- 第7回: 功利主義(2)
- 第8回: 快楽と幸福
- 第9回: 義務論(1)

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 哲学、倫理学

教科書 なし。プリントを配布する。

参考書

ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学: 安楽死からフェミニズムまで』晃洋書房、2003年。
*その他の参考書は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 期末試験 (持ち込みなし) で評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時~13時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 リアクションペーパーの内容を踏まえて、講義の難易度を調節する。

その他 授業中の私語・常習的遅刻・途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

第10回: 義務論(2)

第11回: 徳倫理学(1)

第12回: 徳倫理学(2)

第13回: 徳倫理学(3)

第14回: 徳倫理学(4)

第15回: まとめ

・受講生の理解度などを考慮して、予定を変更する場合もある。

学習課題 (予習・復習)

- ・配布プリントの内容を復習すること。
- ・講義の中で紹介する参考文献を何冊か読むこと。

倫理学H (東洋の倫理思想)

Ethics H

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 片倉 望(人文学部)

授業の概要

儒家・墨家・道家・法家の順に、その倫理思想の構造と歴史的展開とを考察する。

祖先神としての色彩の強い「帝」がその土俗性を捨象して「天」という概念に抽象化される時、その「天」から生まれたとされる人間の内部には何らかの神性が宿ると構想されることになる。孔子の時代、このような考えは、極めて素朴な信仰にすぎなかったが、やがて、この考えは統治の根拠としての本性論として展開され、体系性を備えた「性善説」や「性悪説」として光彩を放つこととなる。直接的には本性論を展開しなかった墨家や法家にあっても、この性善や性悪の枠組みが、その思想構造に反映していることを論証しつつ、漢代の董仲舒にいたる本性論の展開を見ていくことにしたい。

学習の目的 偽善の人間を見破れるようになる。

る。

学習の到達目標 良識のある人間になれる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 適宜プリントにて配布, 『中国思想史』 武内義雄著(岩波全書)

成績評価方法と基準 原則とし毎回の講義での質疑応答40%, 試験60%

オフィスアワー 授業の後

授業改善への工夫 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 東洋の倫理思想 中国古代の倫理思想が、いかなる理由で誕生し、どのように展開したのかを、心身論を中心に見ていく。

学習内容

授業計画

第1回授業の進め方について

第2回中国古代の神観念(1)

第3回中国古代の神観念(2)

第4回儒家の心身観(1)孔子

第5回儒家の心身観(2)孟子

第6回儒家の心身観(3)荀子

第7回墨家の心身観(1)

第8回墨家の心身観(2)

第9回道家の心身観(1)老子

第10回道家の心身観(2)荘子

第11回道家の心身観(3)管子

第12回法家の心身観(1)申到

第13回法家の心身観(2)韓非子

第14回先秦諸子の心身観のまとめ(1)

第15回先秦諸子の心身観のまとめ(2)

学習課題(予習・復習) 毎回講義をよく聴くこと。

宗教学A (仏教とは何か)

Religious Studies A

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 片倉 望 (人文学部)

授業の概要

1. 仏教流入以前の中国の心身観、死生観はどのようなものだったのか。知識人のレベルと一般人のレベルに分けて考える。
2. 范縝の「神滅論」は、何故、仏教者にとって強烈なインパクトを与えたのか。仏教思想の構造との関係から考察する。

学習の目的 仏教とは何か、と聞かれて説明できるようにする。

学習の到達目標 いかかわしいカルト宗教な

どに騙されないような知性を持つ。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

教科書 適宜プリントにて配布する。

参考書 講義のなかで紹介する。

成績評価方法と基準 原則として毎回の質疑(40%)と学期末試験(60%)の評価、普段の学習態度を総合して判断します。

授業計画・学習の内容

キーワード 仏教とは何か?

学習内容

漢代から六朝時代に至るまで、中国の心身観、死生観がどのように変化したのかを、仏教思想の流入との関係を軸として概観する。

- 第1回 先秦諸子の心身観・死生観
- 第2回 漢代の心身観・死生観
- 第3回 薄葬論の心身観・死生観
- 第4回 一般人の心身観・死生観
- 第5回 六朝時代の神滅・不滅論争
- 第6回 神不滅側の論理(1) 袁宏

- 第7回 神不滅側の論理(2) 慧遠
- 第8回 神不滅側の論理(3) 郗超「奉法要」
- 第9回 神不滅側の論理(4) 宗炳「明仏論」
- 第10回 神滅側の論理(1) 庾闡・謝瞻
- 第11回 神滅側の論理(2) 范縝「神滅論」
- 第12回 「神滅論」の思想構造(1)
- 第13回 「神滅論」の思想構造(2)
- 第14回 梁の武帝と「神滅論」
- 第15回 沈約「神不滅論」

学習課題(予習・復習) 学習課題については、各授業で指示します。

宗教学B (インド諸宗教の修行論)

Religious Study B

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 久間 泰賢(人文学部)

授業の概要 インドにおいて発達した諸宗教について学習する

学習の目的 インド諸宗教学派の修行論を概観する

学習の到達目標 修行論という視点を通じて、インド諸宗教学派についての基本的な知識を習得する

本学教育目標との関連 専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 必要に応じてプリントを配布する

参考書 参考書は講義の中で適宜紹介する

成績評価方法と基準 期末試験(100%)

授業計画・学習の内容

キーワード インド諸宗教の修行論

Key Word(s) Various Practices in Indian Religions

学習内容

インドにその起源をたどることができるヨーガ、瞑想などの修行形態は、現代社会の諸宗教に対して多大な影響を及ぼしている。その意味において、宗教的実践の問題について考察する際、インド諸宗教における修行論を決して看過することはできない。本講義では、インドにおける多様な宗教的実践の発生と展開について概説を加え、それを通じて宗教と実践との問題について考えてゆきたい。

第1回 導入:インドの宗教観と修行論

第2回 インダス文明期における宗教と実践

第3回 ヴェーダ期の修行論

第4回 ウパニシャッド期の修行論

第5回 六派哲学という考え方について

第6回 サーンキヤ学派の修行論

第7回 ヨーガ学派の修行論

第8回 ニヤーヤ学派の修行論

第9回 ヴァイシェーシカ学派の修行論

第10回 ミーマンサー学派の修行論

第11回 ヴェーダーンタ学派の修行論(1)

第12回 ヴェーダーンタ学派の修行論(2)

第13回 初期仏教における修行論(1)

第14回 初期仏教における修行論(2)

第15回 ジャイナ教における修行論

宗教学B (インド諸宗教の修行論)

Religious Study B

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 久間 泰賢(人文学部)

授業の概要 インドにおいて発達した諸宗教について学習する

学習の目的 インド諸宗教学派の修行論を概観する

学習の到達目標 修行論という視点を通じて、インド諸宗教学派についての基本的な知識を習得する

本学教育目標との関連 専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 必要に応じてプリントを配布する

参考書 参考書は講義の中で適宜紹介する

成績評価方法と基準 期末試験(100%)

授業計画・学習の内容

キーワード インド諸宗教の修行論

Key Word(s) Various Practices in Indian Religions

学習内容

インドにその起源をたどることができるヨーガ、瞑想などの修行形態は、現代社会の諸宗教に対して多大な影響を及ぼしている。その意味において、宗教的実践の問題について考察する際、インド諸宗教における修行論を決して看過することはできない。本講義では、インドにおける多様な宗教的実践の発生と展開について概説を加え、それを通じて宗教と実践との問題について考えてゆきたい。

第1回 導入:インドの宗教観と修行論

第2回 インダス文明期における宗教と実践

第3回 ヴェーダ期の修行論

第4回 ウパニシャッド期の修行論

第5回 六派哲学という考え方について

第6回 サーンキヤ学派の修行論

第7回 ヨーガ学派の修行論

第8回 ニヤーヤ学派の修行論

第9回 ヴァイシェーシカ学派の修行論

第10回 ミーマンサー学派の修行論

第11回 ヴェーダーンタ学派の修行論(1)

第12回 ヴェーダーンタ学派の修行論(2)

第13回 初期仏教における修行論(1)

第14回 初期仏教における修行論(2)

第15回 ジャイナ教における修行論

宗教学C (新宗教について考える)

Religious Study C

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習

担当教員 久間 泰賢(人文学部)

授業の概要 分類基準という観点から日本の新宗教を概観する

学習の目的 いくつかの主要な宗教類型論を批判的に用いつつ、現代日本の新宗教に対する視座を獲得することを試みる

学習の到達目標 現代日本の新宗教に対する知見と理解を深める

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 受講者数制限あり (30名以下) .

教科書 授業において適宜指示する

参考書 授業において適宜指示する

成績評価方法と基準 レポート発表・討論への参加度(100%)

オフィスアワー

毎週木曜日13:00-14:30

共通教育2号館2階久間教官室

授業計画・学習の内容

キーワード 新宗教, 新新宗教, 類型論

Key Word(s) Modern & Postmodern Religions in Japan, Typology

学習内容

現代日本においては、実に多種多様な新宗教(あるいは新新宗教)が存在するため、それらのすべてを体系的に把握することは決して容易ではない。このセミナーでは、まず考察の手がかりとして、何人かの宗教学者たちによって提出されている類型論について学習す

る。そしてその後、果たしてそれらが現代日本の新宗教にも適用可能であるかどうか検討することを通じて、多様な新宗教に対する理解を深めていきたい。

第1回 授業の内容・進め方の説明

第2～3回 宗教類型論の説明

第4～6回 宗教類型論に関するレポート発表

第7～8回 日本の新宗教の時代区分・内容分類の説明

第9～14回 日本の新宗教に関するレポート発表

第15回 総括

東洋史A (中国女性史)

Oriental History A

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 前近代中国には悪女と評された女性たちがいるが、なぜ悪女といわれるのであろうか。この授業では、当時の状況および女性観を概観したのち、悪女に対する新たな視点を提示する。また、さまざまな女性のあり方も紹介する。

学習の目的

異なる時代・地域には異なる文化が存在することを理解する。
当時の時代背景を理解したうえで、通説に対して自らの意見を述べるができるようになる。

学習の到達目標 前近代中国の女性について、各時代の女性観を理解したうえで、具体例を挙げて説明することができる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い

教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

教科書 教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 小テスト2回30%、定期試験50%、リアクションペーパー20%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(共通教育4号館5階)

授業改善への工夫 毎回授業に対する感想・要望などを聞く。

授業計画・学習の内容

キーワード 前近代中国の女性、漢、魏晋南北朝、唐

Key Word(s) Women in Imperial China, Han, Wei, Jin, Southern and Northern Dynasties, Tang

学習内容

- 第1回 現在の中国の女性
- 第2~3回 前近代中国の女性
- 第4~5回 漢高祖の妻呂后
- 第6~7回 劉向『列女伝』と班昭『女誡』

- 第8~9回 後漢時代の臨朝称制
- 第10~11回 魏晋南北朝時代の嫉妬する妻
- 第12~13回 則天武后
- 第14回 宋代以降の女性
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 毎回、次回の授業で使用するレジュメを配布するので、予習する。また前回の授業内容を復習したうえで次回の授業を受ける。

東洋史A (中国女性史)

Oriental History A

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 前近代中国には悪女と評された女性たちがいるが、なぜ悪女といわれるのであろうか。この授業では、当時の状況および女性観を概観したのち、悪女に対する新たな視点を提示する。また、さまざまな女性のあり方も紹介する。

学習の目的

異なる時代・地域には異なる文化が存在することを理解する。
当時の時代背景を理解したうえで、通説に対して自らの意見を述べるができるようになる。

学習の到達目標 前近代中国の女性について、各時代の女性観を理解したうえで、具体例を挙げて説明することができる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い

教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

教科書 教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 小テスト2回30%、定期試験50%、リアクションペーパー20%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(共通教育4号館5階)

授業改善への工夫 毎回授業に対する感想・要望などを聞く。

授業計画・学習の内容

キーワード 前近代中国の女性、唐、宋、明、清

Key Word(s) Women in Imperial China, Tang, Song, Ming, Qing

学習内容

- 第1回 現在の中国の女性
- 第2~3回 前近代中国の女性
- 第4回 唐代以前の女性
- 第5~6回 則天武后と楊貴妃

- 第7~9回 『名公書判清明集』にみられる女性
- 第10~11回 明太祖の妻馬皇后
- 第12~13回 西太后
- 第14回 婦女解放運動
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 毎回、次回の授業で使用するレジュメを配布するので、予習する。また前回の授業内容を復習したうえで次回の授業を受ける。

東洋史A (中国の君主独裁制)

Oriental History A

学期 後期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 中国では紀元前から皇帝による支配が始まり、宋代には君主独裁制が成立した。この君主独裁制について、明朝の洪武帝・永楽帝、清朝の康熙帝・雍正帝に関する伝記や論文を読むことを通じて考える。

学習の目的 現在、共産党による一党独裁体制をとっている隣の大国中国への理解を深め、中国に関するさまざまな情報を吟味し、自分の考えを述べられるようになる。

学習の到達目標 明清時代に実施された政策をひとつ取り上げ、当時の状況を説明したうえで評価することができる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 情報

受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

教科書 教科書は使用せず、資料を配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 小レポート4回60%、最終レポート40%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室 (共通教育4号館5階)

授業改善への工夫 随時要望を受け付ける。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国の皇帝、明、清

Key Word(s) Chinese Emperor, Ming and Qing Dynasties

学習内容

第1回 中国の皇帝

第2~3回 内藤湖南「概括的唐宋時代観」を読む

第4~6回 明朝洪武帝

第7~9回 明朝永楽帝

第10~11回 清朝康熙帝

第12~14回 清朝雍正帝

第15回 まとめ

第16回 最終レポート提出

学習課題 (予習・復習) 授業で取り上げる皇帝ごとに課題を出し、小レポートを提出してもらう。このレポートをもとに授業を展開するので、必ず期日までに提出すること。

東洋史B (中国古代史)

Oriental History

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 飯田 祥子 (非常勤講師)

授業の概要 中国はなぜあのように巨大なのか。文明のはじまりまでさかのぼり、国家が形成され、巨大化し、滅亡する過程を概観する。また技術や文化などのテーマを取り上げる。

学習の目的 われわれが生きる現代社会を客観的にとらえるため、中国古代史という異文化について理解する。

学習の到達目標

中国古代史に関する基礎的な事項を適切な表現によって説明できる。

中国古代史に関連するテーマをみずから選択

し、適切な論拠にもとづいて表現できる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力

教科書 なし

参考書 講義中に随時紹介する。

成績評価方法と基準 平常点30% (小テスト等を含む)、レポート70%、計100%

オフィスアワー 授業終了後

授業計画・学習の内容

キーワード 中国史、古代史

学習内容

第1回：はじめに

第2回：新石器時代

第3回：殷

第4回：周

第5回：戦国時代

第6回：秦①

第7回：秦②

第8回：前漢①

第9回：前漢②

第10回：王莽

第11回：後漢①

第12回：後漢②

第13回：三国時代①

第14回：三国時代②

第15回：まとめ

学習課題 (予習・復習) 授業終了時に、次回までの課題 (下調べ・復習等) を提示する。また小テスト等を数回課す。

東洋文化史 (中国美術史)

Oriental Cultural History

学期 前期 開講時間 火1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤田伸也(人文学部)

授業の概要 中国の古美術品と故宮博物院について理解を深める。書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色と歴史を大局的に把握し、名品に親しむことに努める。

学習の目的

中国の古美術品と故宮博物院について基礎知識を得る。

中国の書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色の概要について説明できる。

中国美術の代表的名品を示すことができる。

学習の到達目標

中国の美術を通して中国文化を認識する。

中国の書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色と故宮博物院の歴史について総合的に説明できる。

中国美術の名品を示し、その芸術的価値について評価することができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考

える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

予め履修が望ましい科目 なし。

教科書 授業の最初に示す。

参考書 適宜授業中に示す。

成績評価方法と基準 期末等の試験およびレポート60%、コメント40%。コメントは毎回授業の終わりに用紙を配布し書かせる。受講生の授業理解度・関心の程度を採点し、出席チェックを兼ねる。また授業態度不良(遅刻・早退・私語・居眠など)の場合は大きく減点し、場合によっては受講資格を失う。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00~14:30、火曜日10:30~12:30、藤田研究室(共通教育2号館2階)

授業改善への工夫

授業ではDVD映像、PC画像を多用する。

学生の興味に応じて、対象とする美術の分野および作品を選んでいきたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国美術史入門 - 故宮博物院と中国美術 -

Key Word(s)

Chinese Art History, Palace Museum

学習内容

[授業計画]

第1回 中国美術の特質

第2回 故宮博物院(紫禁城と最後の皇帝溥儀)

第3回 故宮博物院(博物館)

第4回 玉器(新石器時代~周)

第5回 玉器(漢~清)

第6回 青銅器(用途・器形・製法)

第7回 青銅器(殷周~漢)

第8回 秦始皇帝と兵馬俑(始皇帝と陵墓)

第9回 秦始皇帝と兵馬俑(兵馬俑)

第10回 陶磁器(青磁と白磁)

第11回 陶磁器(青花と五彩)

第12回 鼻煙壺と宮廷美術

第13回 書(書聖王羲之)

第14回 絵画(故宮の名品)

第15回 絵画(日本所在の名品)

試験

学習課題(予習・復習)

授業中に示された参考図書によって、講義で紹介された美術作品の図版・解説を確認すること。

指示された展覧会は見に行くこと。

東洋文化史 (中国美術史)

Oriental Cultural History

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤田伸也(人文学部)

授業の概要 中国の古美術品と故宮博物院について理解を深める。書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色と歴史を大局的に把握し、名品に親しむことに努める。

学習の目的

中国の古美術品と故宮博物院について基礎知識を得る。

中国の書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色の概要について説明できる。

中国美術の代表的名品を示すことができる。

学習の到達目標

中国の美術を通して中国文化を認識する。

中国の書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色と故宮博物院の歴史について総合的に説明できる。

中国美術の名品を示し、その芸術的価値について評価することができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考

える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

予め履修が望ましい科目 なし。

教科書 授業の最初に示す。

参考書 適宜授業中に示す。

成績評価方法と基準 期末等の試験およびレポート60%、コメント40%。コメントは毎回授業の終わりに用紙を配布し書かせる。受講生の授業理解度・関心の程度を採点し、出席チェックを兼ねる。また授業態度不良(遅刻・早退・私語・居眠など)の場合は大きく減点し、場合によっては受講資格を失う。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00~14:30、火曜日10:30~12:30、藤田研究室(共通教育2号館2階)

授業改善への工夫

授業ではDVD映像、PC画像を多用する。

学生の興味に応じて、対象とする美術の分野および作品を選んでいきたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国美術史入門 - 故宮博物院と中国美術 -

Key Word(s) Chinese Art History, Palace Museum

学習内容

[授業計画]

第1回 中国美術の特質

第2回 故宮博物院(紫禁城と最後の皇帝溥儀)

第3回 故宮博物院(博物館)

第4回 玉器(新石器時代~周)

第5回 玉器(漢~清)

第6回 青銅器(用途・器形・製法)

第7回 青銅器(殷周~漢)

第8回 秦始皇帝と兵馬俑(始皇帝と陵墓)

第9回 秦始皇帝と兵馬俑(兵馬俑)

第10回 陶磁器(青磁と白磁)

第11回 陶磁器(青花と五彩)

第12回 鼻煙壺と宮廷美術

第13回 書(書聖王羲之)

第14回 絵画(故宮の名品)

第15回 絵画(日本所在の名品)

試験

学習課題(予習・復習)

授業中に示された参考図書によって、講義で紹介された美術作品の図版・解説を確認すること。

指示された展覧会は見に行くこと。

西洋史A (西洋古代史入門)

European History A

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 西村 昌洋

授業の概要 西洋古代ギリシア・ローマの歴史・文化の特徴および世界史上の意義について学ぶ。

学習の目的 古代ギリシア・ローマはヨーロッパ文明のルーツとして位置付けられるとともに、独特の個性を持っている。古代ギリシア・ローマという独特の世界について学習するとともに、それが後のヨーロッパ世界にどのような影響を与えたのかを考え、西洋の歴史についての理解を深める。同時に、日本や東洋の歴史との相違点や類似点について考えることで比較という視点を養い、それをもとに現代社会についても考えることを目指す。

学習の到達目標

古代ギリシア・ローマ史の主要な年代的知識を得る。

古代ギリシア・ローマに関わる基礎的な事柄、テーマ、特徴を、ひとつ、あるいはそれ以上、説明できるようになる。

西洋の古代と日本や東洋の歴史との共通点・相違点について考え、関心を抱く。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ギリシア人と「野蛮人」
- 第3回 世界で最初の民主主義
- 第4回 裁判大国？古代アテネ
- 第5～6回 民主主義をめぐる論争
- 第7回 古代人は性におおらかなのか？
- 第8回 戦争国家ローマ：共和政から帝国へ
- 第9回 見栄っ張りな支配者たち

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力

教科書 特に指定しない。

参考書 講義中に紹介する。

成績評価方法と基準

小レポート等の平常点 (40%) + 期末レポート (60%)

文献を読んで学習し、得た知識と自分の考えとを的確かつ論理的に記述・説明できているかどうか。

期末レポートを提出するためには、平常点評価の課題をすべてこなしていなければならない。

その他 高校世界史の内容を覚えていることが望ましい。不安な者は教科書や参考書を探して読んでおくように。ただ単に教室に来て座っているだけでは理解が深まることはない。授業時間外にも自分で文献を探して読み、考えることで、読書体験を蓄積するようにしてください。

第10回 ローマ人の人生と生活

第11回 キリスト教とローマ帝国

第12回 キリスト教は古代世界を変えたのか

第13回 「ローマはなぜ滅んだか」

第14回 古代の終わりりと中世の始まり

第15回 西洋古代の個性と特徴とは何か

第16回 まとめ

学習課題（予習・復習） 授業の進行にあわせて適宜指示する。

西洋史A (西洋古代史入門)

European History A

学期 後期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 西村 昌洋

授業の概要 西洋古代ギリシア・ローマの歴史・文化の特徴および世界史上の意義について学ぶ。

学習の目的 古代ギリシア・ローマはヨーロッパ文明のルーツとして位置付けられるとともに、独特の個性を持っている。古代ギリシア・ローマという独特の世界について学習するとともに、それが後のヨーロッパ世界にどのような影響を与えたのかを考え、西洋の歴史についての理解を深める。同時に、日本や東洋の歴史との相違点や類似点について考えることで比較という視点を養い、それをもとに現代社会についても考えることを目指す。

学習の到達目標

古代ギリシア・ローマ史の主要な年代的知識を得る。

古代ギリシア・ローマに関わる基礎的な事柄、テーマ、特徴を、ひとつ、あるいはそれ以上、説明できるようになる。

西洋の古代と日本や東洋の歴史との共通点・相違点について考え、関心を抱く。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ギリシア人と「野蛮人」
- 第3回 世界で最初の民主主義
- 第4回 裁判大国？古代アテネ
- 第5～6回 民主主義をめぐる論争
- 第7回 古代人は性におおらかなのか？
- 第8回 戦争国家ローマ：共和政から帝国へ
- 第9回 見栄っ張りな支配者たち

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力

教科書 特に指定しない。

参考書 講義中に紹介する。

成績評価方法と基準

小レポート等の平常点 (40%) + 期末レポート (60%)

文献を読んで学習し、得た知識と自分の考えとを的確かつ論理的に記述・説明できているかどうか。

期末レポートを提出するためには、平常点評価の課題をすべてこなしていなければならない。

その他 高校世界史の内容を覚えていることが望ましい。不安な者は教科書や参考書を探して読んでおくように。ただ単に教室に来て座っているだけでは理解が深まることはない。授業時間外にも自分で文献を探して読み、考えることで、読書体験を蓄積するようにしてください。

第10回 ローマ人の人生と生活

第11回 キリスト教とローマ帝国

第12回 キリスト教は古代世界を変えたのか

第13回 「ローマはなぜ滅んだか」

第14回 古代の終わりりと中世の始まり

第15回 西洋古代の個性と特徴とは何か

第16回 まとめ

学習課題（予習・復習） 授業の進行にあわせて適宜指示する。

西洋史B (西洋近現代史)

Western History B

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 植民地時代から19世紀中葉まで、アメリカ史における主要なテーマを取り上げながら、アメリカ社会の変化や多様性を把握する。

学習の目的 アメリカの歴史を通して、現代とは異なる人々の暮らしや考え方を認識するとともに、現在の私たちの社会や文化に対して批判的な考察が行えるようになる。

学習の到達目標 アメリカの歴史と社会について、基礎的な知識をうることができる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

授業計画・学習の内容

キーワード 西洋史、アメリカ社会、近代史

学習内容

アメリカという「歴史のない国」というイメージを持つ人が多いだろう。しかし現代の国際社会においては、好むと好まざるとにかかわらず、アメリカという国の影響から逃れることは難しい。この絶大な影響力を持つアメリカは様々な顔を持っており、それを理解するためには歴史的にとることが重要となる。授業は通史という形をとらず、いくつかのトピックスを取り上げ、アメリカの歴史を概観する。その際、3～4回程度ビデオを利用する予定である。

第1回 はじめに

第2～3回 アメリカの特質

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）

参考書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 平常点20%、レポート(数回) 80%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業改善への工夫 毎回、授業内容への質問・意見を求める。

第4～7回 植民地としての出発
旧世界と新世界の出会い、植民地の建設、植民地社会の形成と発展
第8回 ビデオ (1)
第9～12回 奴隷制
大西洋世界と奴隷、奴隷貿易、奴隷制、奴隷制反対運動
第13回 ビデオ (2)
第14～15回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

ビデオを見る前に、それぞれ数回の授業で取り上げたテーマについて復習をすること。ビデオ視聴後、レポートを作成し提出すること。

西洋史B (西洋近現代史)

Western History B

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 植民地時代から19世紀中葉まで、アメリカ史における主要なテーマを取り上げながら、アメリカ社会の変化や多様性を把握する。

学習の目的 アメリカの歴史を通して、現代とは異なる人々の暮らしや考え方などを認識するとともに、現在の私たちの社会や文化に対して批判的な考察が行えるようになる。

学習の到達目標 アメリカの歴史と社会について、基礎的な知識をうることができる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

授業計画・学習の内容

キーワード 西洋史、アメリカ社会、近代史

学習内容

アメリカという「歴史のない国」というイメージを持つ人が多いだろう。一方、現代においては、好むと好まざるとにかかわらず、アメリカという国の影響から逃れることは難しい。この絶大な影響力を持つアメリカは様々な顔を持っており、それを理解するためには歴史的にとることが重要となる。授業は通史という形をとらず、いくつかのトピックスを取り上げ、アメリカの歴史を概観する。その際、3〜4回程度ビデオを利用する予定である。

第1回 はじめに

第2〜3回 アメリカの特徴

アメリカについての基本知識

アメリカの地理的条件と歴史

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）

参考書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 平常点20%、レポート（数回）80%

オフィスアワー 火曜日15:00〜16:00

授業改善への工夫 毎回、授業内容への質問・意見を求める。

第4〜7回 先住民とアメリカ社会
西漸運動

強制移住政策

保護区と同化政策

第8回 ビデオ (1)

第9〜12回 現代アメリカと戦争

パックス・アメリカーナの時代

第二次世界大戦後の国際関係

ヴェトナム戦争

第13回 ビデオ (2)

第14〜15回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

ビデオを見る前に、それぞれ数回の授業で取り上げたテーマについて復習をすること。

ビデオ視聴後、レポートを作成し提出すること。

西洋史C (20世紀、欧州)

European History C

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一(人文学部)

授業の概要 主としてヨーロッパを対象に、受講者自身が主体的に授業を作り上げるような形式で、二十世紀の歴史について参加者全員で考える。

学習の目的 高等学校で学ぶ近現代史の知識はしばしば断片的であるが、それをまとまりのある、活用可能な体系へと変化させる。

学習の到達目標

研究を基礎に歴史が書かれていることを体得する。

今の時代と少し前の時代の共通点と相違点を把握する。

歴史を学ぶには様々な関連分野の知識が必要であることを知る。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件

①高等学校「世界史」で学んだ知識を盲信しない学習態度。

②高等学校「世界史」教科書レベルのヨーロッパ近現代史分野に関する基礎的知識を有していない場合は、必要な努力を惜しまないこと。

③初回の授業に必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 欧州、20世紀、世界大戦、総力戦

Key Word(s) Europe, 20th Century, World War, Total War

学習内容

第1回 オリエンテーション（授業の運営方針を説明する）、受講者認定

受講を希望する者が多数で授業運営を困難にすると想定される場合、小レポートや抽選等の手段で選抜を行う。それゆえ初回授業に

発展科目 歴史学、社会学、哲学、政治学、法学、経済学関係の諸科目。

教科書

テキストの候補は次の通り。

木村靖二、他『世界の歴史26 世界大戦と現代文化の開幕』中央公論新社

山室信一、他『現代の起点 第一次世界大戦』全4巻、岩波書店

木村靖二『第一次世界大戦』ちくま新書

フォルカー・R・ベルクハーン『第一次世界大戦』東海大学出版部

篠原初枝『国際連盟』中公新書

亀井高孝、他（編）『世界史年表・地図』吉川弘文館

望田幸男（編）『西洋の歴史 基本用語集 近現代編』ミネルヴァ書房

指定したテキストは必ず入手し、授業に持参すること。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション点6割、発言点4割

授業改善への工夫 参加者の学習状況(基礎知識の水準、知的志向など)に配慮すると共に、できる限り要望を取り込んでいきたい。

その他 いわゆる平常点に拠って成績評価を行うので、毎回の予習と復習が不可欠である。

必ず出席すること。受講認定を受けていないと、履修登録しても単位認定の対象とはならない。

第2回 基礎知識等、受講者の諸状況を確認。第3回以降回数分の報告担当者と質問者を決定。

第3回～第15回 主に20世紀前半の国内政治、国際政治、経済、社会、文化等について、受講者によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進行する。

テーマに関するキーワードの例：ナショナリズム、大衆デモクラシー、総力戦、共産主

義、国際機構、全体主義

毎回報告者と質問者を各1名以上指名する。指定された文献等について、報告者は板書やレジュメを配布するなどしてその要旨を発表し、質問者は問題点、疑問点を報告者に提示する。質問者に対し報告者が応答した後、担当教員の司会の下、参加者全員のディスカッションを中心とした授業を行う。

学習課題（予習・復習）

1.毎回の報告担当者はテキストを入念に読むこ

とはもちろん、関連文献等も参照して、質問や議論に対応できるよう十分な準備をすること。

2.質問者は報告者同様テキストを入念に読み、不明な点や疑問点などをメモする等の準備をしておくこと。

3.報告者・質問者以外の参加者も指定された文献を必ず予習して問題点や疑問点を確認し、議論で何を発言するかあらかじめ用意しておくこと。

西洋史C (20世紀、欧州)

European History C

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一(人文学部)

授業の概要 主としてヨーロッパを対象に、受講者自身が主体的に授業を作り上げるような形式で、二十世紀の歴史について参加者全員で考える。

学習の目的 高等学校で学ぶ近現代史の知識はしばしば断片的であるが、それをまとまりのある、活用可能な体系へと変化させる。

学習の到達目標

研究を基礎に歴史が書かれていることを体得する。

今の時代と少し前の時代の共通点と相違点を把握する。

歴史を学ぶには様々な関連分野の知識が必要であることを知る。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件

①高等学校「世界史」で学んだ知識を盲信しない学習態度。

②高等学校「世界史」教科書レベルのヨーロッパ近現代史分野に関する基礎的知識を有していない場合は、必要な努力を惜しまないこと。

③初回の授業に必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 欧州、20世紀、世界大戦、総力戦

Key Word(s) Europe, 20th Century, World War, Total War

学習内容

第1回 オリエンテーション（授業の運営方針を説明する）、受講者認定

受講を希望する者が多数で授業運営を困難にすると想定される場合、小レポートや抽選等の手段で選抜を行う。それゆえ初回授業に

発展科目 歴史学、社会学、哲学、政治学、法学、経済学関係の諸科目。

教科書

テキストの候補は次の通り。

木村靖二、他『世界の歴史26 世界大戦と現代文化の開幕』中央公論新社

山室信一、他『現代の起点 第一次世界大戦』全4巻、岩波書店

木村靖二『第一次世界大戦』ちくま新書

フォルカー・R・ベルクハーン『第一次世界大戦』東海大学出版部

篠原初枝『国際連盟』中公新書

亀井高孝、他（編）『世界史年表・地図』吉川弘文館

望田幸男（編）『西洋の歴史 基本用語集 近現代編』ミネルヴァ書房

指定したテキストは必ず入手し、授業に持参すること。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション点6割、発言点4割

授業改善への工夫 参加者の学習状況(基礎知識の水準、知的志向など)に配慮すると共に、できる限り要望を取り込んでいきたい。

その他 いわゆる平常点に拠って成績評価を行うので、毎回の予習と復習が不可欠である。

必ず出席すること。受講認定を受けていないと、履修登録しても単位認定の対象とはならない。

第2回 基礎知識等、受講者の諸状況を確認。第3回以降回数分の報告担当者と質問者を決定。

第3回～第15回 主に20世紀前半の国内政治、国際政治、経済、社会、文化等について、受講者によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進行する。

テーマに関するキーワードの例：ナショナリズム、大衆デモクラシー、総力戦、共産主

義、国際機構、全体主義

毎回報告者と質問者を各1名以上指名する。指定された文献等について、報告者は板書やレジュメを配布するなどしてその要旨を発表し、質問者は問題点、疑問点を報告者に提示する。質問者に対し報告者が応答した後、担当教員の司会の下、参加者全員のディスカッションを中心とした授業を行う。

学習課題（予習・復習）

1.毎回の報告担当者はテキストを入念に読むこ

とはもちろん、関連文献等も参照して、質問や議論に対応できるよう十分な準備をすること。

2.質問者は報告者同様テキストを入念に読み、不明な点や疑問点などをメモする等の準備をしておくこと。

3.報告者・質問者以外の参加者も指定された文献を必ず予習して問題点や疑問点を確認し、議論で何を発言するかあらかじめ用意しておくこと。

比較政治文化 (政治文化を比較する)

Comparative Political Culture

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業
担当教員 グットマン・ティエリー(人文学部)

授業の概要 現代日本政治の現象として次のようなものが挙げられる。「世襲議員の多さ」、「宣伝カーによる選挙運動」、「総理大臣の任期の短さ」、「皇室と政治の関係」、「靖国神社問題」、「領土問題とナショナリズム」、「政治に対する若者の無関心」等。それらの現象の原因は日本文化にあるのだろうか。それとも政治制度にあるのだろうか。この授業においては、各現象の原因を正しく把握するために、国民性・文化からの影響と政治制度・仕組からの影響を分けて考える姿勢をとる。また、一見日本政治に独特と思われるような現象も、その存在自体は普遍的に観察できる場合が多く、国毎の相違点は程度問題あるいは表層的な相違にとどまる場合が多いという点についても説明を加える。

学習の目的 固定観念にとらわれず海外の実情を知りながら自国の政治文化に対する認識を改めることを学習の目的とする。

学習の到達目標 自国の政治文化について海外の事情を比較しながら小論文を書けるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード 欧米 日本 政治文化 比較

Key Word(s) western world, Japan, political culture, comparison

学習内容

- 第1回: 講義の問題意識 (政治文化、政治現象、政治制度の区別)
- 第2回: 講義の問題意識(続)
- 第3回: 政治制度の国際比較 (政治機関)
- 第4回: 政治制度の国際比較 (選挙法)
- 第5回: アメリカ、フランス、日本における政治と宗教の関係
- 第6回: アメリカ、フランス、日本における政治と宗教の関係 (続)
- 第7回: 宗教と政治の関係という現象の普遍性

になる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 PBL比較文化論

参考書 授業の過程でその都度参考書を指摘する。なお、教材としてはビデオを頻繁に利用する。

成績評価方法と基準 期末試験(小論文)80%、平常点(授業への積極的な参加が求められる)20%、計100%。

オフィスアワー 毎週の木曜日14:40~16:10、GUTHMANN研究室(人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 FD(Faculty Development)プログラム、学生の授業評価アンケートの結果を参考にし、常に改善に努めている。

第8回: 日仏米の政治象徴比較論

第9回: ナショナリズムの国際比較

第10回: ナショナリズムの国際比較 (続)

第11回: 政治参加の日仏比較 (選挙)

第12回: 政治参加の日仏比較 (日常生活の中で)

第13回: 政治と女性スキャンダルの日仏米比較

第14回: 総合まとめ (政治文化の相違点と政治現象の普遍性)

第15回: 総合まとめ (学生の質問に答えながら)

学習課題 (予習・復習) 国内、国外政治一般、また各回のテーマに関する、新聞記事・ニュース等に常日頃関心を持つようにすること。

PBL比較文化論（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（政治文化を比較する）

PBL Comparative culture Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 開講時間 月 3, 4; 水 9, 10 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 グットマンティエリー（人文学部）

授業の概要 現代日本政治において様々な現象が見受けられる。例えば、「世襲議員の多さ」、「宣伝カーによる選挙運動」、「総理大臣の任期の短さ」、「皇室と政治の関係」、「靖国神社問題」、「領土問題とナショナリズム」、「政治に対する若者の無関心」等。受講生は日本政治におけるこれらの現象の分析を行った上で関連する海外の実態や文化的な特徴を調べ、日本政治の諸現象の再評価を行い、半期の授業を通し一貫して政治への文化の影響について考察する。

学習の目的 著書、新聞、インターネット等にある情報を収集し、グループで話し合いながらそれらを整理し考察を加え、その分析の結果をレジュメや発表を通じて他人に巧みに伝える能力を磨くこと。

学習の到達目標 海外の事情を参考にした上で自国の政治文化について数十人の前で迫力のある口頭発表をできるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力,

授業計画・学習の内容

キーワード 日本政治文化 国際比較

Key Word(s) Japanese political culture, international comparison

学習内容

- 第1回：セミナーのテーマ・進み方について教官から概要説明。『バラク・オバマ大統領への軌跡』というドキュメンタリー映画を上映。自己学習グループの形成。
第2回～6回：文化と関係のありそうな日本政治における特徴・現象について学生の各グループによる発表
第7回～12回：各グループが扱っている特徴・

指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 比較政治文化

参考書 学生の関心に応じて指摘する。

成績評価方法と基準 最終発表の評価30%、中間発表の評価20%、報告の評価20%、平常点(ゼミへの積極的な参加が求められる)30%、計100%。

オフィスアワー 毎週の木曜日14:40～16:10、GUTHMANN研究室(人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 FD(Faculty Development)プログラム、学生の授業評価アンケートの結果、学生の報告・発表内容を参考にし、常に改善に努めている。

その他

自己学習タイムを水曜日9, 10時限とする。PBL比較政治論も併せて履修すること。

現象に関連する他の民主主義国家の実態や文化的な特徴を調べた結果の発表
第13回～15回：各グループが公開発表に向けて調べた海外の例を参考にしながら日本政治の特徴・現象の再評価を発表する
第16回：公開発表

学習課題（予習・復習）

第2回～11回：発表の準備あるいは研究の進行に関する報告の作成
第12回～15回：公開発表の準備（要旨の作成、パワーポイント・プレゼンテーションの作成、発表の予行演習）

心理学A (人間の社会的行動)

Psychology A

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 松浦 均 (教育学部)

授業の概要 人間がその社会の一人前のメンバーに成長し育っていく過程では、社会での様々な様式を学習しながら生き方を身につけていく。ただし人間として共通の成長発達の過程があり、知覚や学習、身体発達などはある程度の個人差の幅を持ちつつ一定の法則性がある。これらのことを心理学の観点から概説する

学習の到達目標 もし心理学のイメージとして何かステレオタイプのものを持っているとしたら、それを壊すように幅広い心理学の領域を概説し、新たに心理学とはこんな学問であったのかと知ってもらいたいと考えている。学生諸君には、柔軟な考え方で、幅広い視点と考え方を養ってもらいたい

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識

識・技術、論理的思考力、情報受信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

参考書 「わたしそしてわれわれ」北大路書房

成績評価方法と基準 試験(中間テストと期末テスト各35%) 70% 出席30%, 合計100%(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 水曜日7/8限(ただし会議のある週を除く) 教育学部1号館2階, 社会心理学研究室

授業改善への工夫

単元を明確にして、コンパクトにわかりやすい解説を心がける。

中間テストを実施して(テストは返却する)理解の定着を図る。

授業計画・学習の内容

キーワード 心理学, 認知, 学習, 発達, パーソナリティ

学習内容

1. オリエンテーション(第1週) 前期半年間の授業の進め方の説明。学習方法や学習目標を説明し、授業方法、成績評価方法なども説明する。
2. 感覚と知覚のプロセス(第2週~4週) いわゆる五感は重要なセンサーとして人間行動の基本的な部分をコントロールしている。これらは単なるセンサーではなく意識が介在することによって積極的に情報を取り込むチャンネルとなっている。とくに視覚を例に置いて「知覚すること」の意味を説明し、その仕組みや特徴を解説する。具体的には視覚における知覚の体制化や錯視、パターン認識などについて解説する。
3. 学習と記憶(第5週~6週) 心理学における記憶の過程、学習の過程を解説する。記憶の仕組みと種類、学習の基本的家庭である条件付けとそのメカニズム、その他の学習の過

程について解説する。

4. 成長と発達(第7週~10週) 人間が生まれてから死ぬまでの身体的精神的变化の過程、つまり発達の概念について解説する。発達の法則性や、遺伝や環境との関連について、発達の具体的な過程について、諸理論を踏まえて説明し、また発達の考え方や個人差の問題について、発達研究の手法なども解説する。
5. パーソナリティ(第11週~12週) 人間の成長発達の過程で、個々人の特徴を示す「その人らしさ」という概念がある。つまり「パーソナリティ・個人差」である。性格や人格といったパーソナリティは、その人の行動傾向を顕在化させ、自己と他者の関係のあり方なども規定する。パーソナリティについての諸理論を踏まえて、その意味について解説する。また、種々のパーソナリティ・テストを紹介し、その解釈とテストそのものの意味についても解説する。
6. 自己概念(第13週~15週) 社会の中の個人の問題について、自己概念の在り方、他者

との比較における自己の確認，他者に対する
自己の表出などについて解説する．

なお，第8週に中間テストを，最終16週に期末

テストを実施する

学習課題（予習・復習）
はよく理解しておくこと

各回での授業内容

心理学A (適応と対人関係)

PsychologyA

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 瀬戸美奈子

授業の概要 自己および他者の行動を理解するための知識と、人間関係を円滑にし適応していくための基本的知識を学ぶ。

学習の目的

人間の行動を心理学の視点から理解できる。適応と精神的健康についての理論を理解できる。

学習の到達目標 人間の行動について心理学的な視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築き、精神的な健康を保つための方法や理論を理解できるようになる。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎回の授業に出席し、他の受講生の学習の妨げにならないこと。

教科書 適宜文献を紹介、資料を配布する。

参考書 適宜文献を紹介、資料を配布する。

成績評価方法と基準 毎回の授業ごとの小レポート (30%)、試験 (70%) によって総合的に評価する。

授業改善への工夫 毎時の小レポートから出てきた意見、疑問を講義に取り込む。講義中に能動的に思考したり、グループワークを行う機会を設ける。

その他 授業ではグループワークや簡単な実習を取り入れる予定である。他の受講生と積極的にコミュニケーションをはかり、討議をすることが求められる。

授業計画・学習の内容

キーワード 発達、適応、対人関係

学習内容

- 1 心の健康(1)発達障害
- 2 心の健康(2)精神障害
- 3 心の健康(3)ストレスマネジメント
- 4 発達(1)幼児期から児童期
- 5 発達(2)青年期
- 6 自己とは何か
- 7 対人関係
- 8 対人関係

- 9 対人関係
- 10 家族システムと発達
- 11 学習と動機づけ
- 12 社会的勢力
- 13 対人魅力
- 14 対人魅力
- 15 まとめ
- 16 テスト

学習課題 (予習・復習) 毎回授業内容に関して小レポートを提出する。

心理学A (心の理解に役立つ知識)

Psychology A

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 廣岡雅子 (非常勤講師)

授業の概要 心理学入門

予め履修が望ましい科目 なし

学習の目的 自己や他者、社会集団を心理学の視点から学ぶことによって、人間の行動と心のはたらきについての理解を深める

発展科目 心理学関係の授業

教科書 わたしそしてわれわれミレニアムバージョン 大坊郁夫編著 北大路書房

学習の到達目標 人間の多面性・多様性・関係性について心理学的視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築く態度を持つようになる。

参考書 講義時に適宜紹介する

成績評価方法と基準 出席状況20%、定期試験80%

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業改善への工夫 各授業の冒頭に前回授業のフィードバックを実施する。講義中に、能動的に思考活動する機会を設ける。学生から意見や要望を聴き、好ましい学習環境を確保する。

受講要件 好ましい受講マナーを発揮すること。

その他 授業中に、自分自身を知るための心理検査を数回実施する（自己採点するのみで、申告は不要）。

授業計画・学習の内容

キーワード 心の理解に役立つ知識

学習内容

1. ガイダンス、感情
2. 動機づけ
3. 成長と変化
4. 自己意識
5. 心の健康と適応
6. 心理検査
7. 心理療法
8. 対人認知
9. 対人関係の発展

10. 集団と人間1
11. 集団と人間2
12. 住みやすい社会、協調的社会
13. 社会的スキル/アサーション1
14. 社会的スキル/アサーション2
15. 広告と大衆
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 予習として、テキストと授業資料(Moodle) を読んでおくこと。授業後にノートを整理して復習すること。

心理学A (心の理解に役立つ知識)

Psychology A

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 廣岡雅子 (非常勤講師)

授業の概要 心理学入門

予め履修が望ましい科目 なし

学習の目的 自己や他者、社会集団を心理学の視点から学ぶことによって、人間の行動と心のはたらきについての理解を深める

発展科目 心理学関係の授業

教科書 わたしそしてわれわれミレニウムバージョン 大坊郁夫編著 北大路書房

学習の到達目標 人間の多面性・多様性・関係性について心理学的視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築く態度を持つようになる。

参考書 講義時に適宜紹介する

成績評価方法と基準 出席状況20%、定期試験80%

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業改善への工夫 各授業の冒頭に前授業のフィードバックを実施する。講義中に、能動的に思考活動する機会を設ける。学生から意見や要望を聴き、好ましい学習環境を確保する。

受講要件 好ましい受講マナーを発揮すること。

その他 授業中に、自分自身を知るための心理検査を数回実施する（自己採点するのみで、申告は不要）。

授業計画・学習の内容

キーワード 心の理解に役立つ知識

学習内容

1. ガイダンス、感情
2. 動機づけ
3. 成長と変化
4. 自己意識
5. 心の健康と適応
6. 心理検査
7. 心理療法
8. 対人認知
9. 対人関係の発展

10. 集団と人間1
11. 集団と人間2
12. 住みやすい社会、協調的社会
13. 社会的スキル/アサーション1
14. 社会的スキル/アサーション2
15. 広告と大衆
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 予習として、テキストと授業資料(Moodle) を読んでおくこと。授業後にノートを整理して復習すること。

心理学A (心の理解に役立つ知識)

Psychology A

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 廣岡雅子 (非常勤講師)

授業の概要 心理学入門

予め履修が望ましい科目 なし

学習の目的 自己や他者、社会集団を心理学の視点から学ぶことによって、人間の行動と心のはたらきについての理解を深める

発展科目 心理学関係の授業

教科書 わたしそしてわれわれミレニアムバージョン 大坊郁夫編著 北大路書房

学習の到達目標 人間の多面性・多様性・関係性について心理学的視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築く態度を持つようになる。

参考書 講義時に適宜紹介する

成績評価方法と基準 出席状況20%、定期試験80%

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業改善への工夫 各授業の冒頭に前回は授業のフィードバックを実施する。講義中に、能動的に思考活動する機会を設ける。学生から意見や要望を聴き、好ましい学習環境を確保する。

受講要件 好ましい受講マナーを発揮すること。

その他 授業中に、自分自身を知るための心理検査を数回実施する（自己採点するのみで、申告は不要）。

授業計画・学習の内容

キーワード 心の理解に役立つ知識

学習内容

1. ガイダンス、感情
2. 動機づけ
3. 成長と変化
4. 自己意識
5. 心の健康と適応
6. 心理検査
7. 心理療法
8. 対人認知
9. 対人関係の発展

10. 集団と人間1
11. 集団と人間2
12. 住みやすい社会、協調的社会
13. 社会的スキル/アサーション1
14. 社会的スキル/アサーション2
15. 広告と大衆
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 予習として、テキストと授業資料(Moodle) を読んでおくこと。授業後にノートを整理して復習すること。

心理学S (AIポジティブ思考法)

Introduction of Psychology S

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 川島 一晃 (非常勤講師)

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協働的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的 授業が終了した時点で、学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。

学習の到達目標

- ・自分と他人の良さを認めることができる。
- ・前向きな態度を持つことができる。
- ・他人の意見を尊重することができる。
- ・異なった意見を調整することができる。
- ・建設的な意見を出そうとする態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ワークショップを行うために、40名を上限とする。受講者多数の場合には、選

定を最初の授業で行うので、欠席をしないように留意してください。

予め履修が望ましい科目 キャリアプランニングを履修していることが望ましい

発展科目 キャリアの要素を含む科目、実践を伴う科目の履修によって、本科目で得られた知見を応用できるでしょう。

教科書 ダイアナ・ホイットニー他著『ポジティブ・チェンジャー主体性と組織力を高めるAI』ヒューマンバリュー、2006年。

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、グループ活動40%、個人課題評価30%によって総合的に判断する。

オフィスアワー 金曜日：15：00～16：00

授業改善への工夫 授業アンケート等の学生の声を反映させ、改善する。

その他 アプリシエーティブ・インクワイアリーは、大学、学校、自治体、企業、NPO、福祉、医療現場、国際協力などの領域で、世界各地で用いられている手法です。この手法を教える授業は、日本の大学では初めてのものです。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

アプリシエーティブ・インクワイアリーについての概説およびワークショップを行う。

1. アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- 2～3. 共感的に聞く方法と実践

- 4～6. 強みの発見
- 7～9. 夢を描く
- 10～12. デザインする
- 13～14. 実践する
15. まとめとふりかえり

学習課題（予習・復習）

毎回課題を課します。
各自期限までにムードルにコメントをアップすること。

心理学S (AIポジティブ思考法)

Introduction of Psychology S

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 川島 一晃 (非常勤講師)

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協働的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的 授業が終了した時点で、学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。

学習の到達目標

- ・自分と他人の良さを認めることができる。
- ・前向きな態度を持つことができる。
- ・他人の意見を尊重することができる。
- ・異なった意見を調整することができる。
- ・建設的な意見を出そうとする態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ワークショップを行うために、40名を上限とする。受講者多数の場合には、選

定を最初の授業で行うので、欠席をしないように留意してください。

予め履修が望ましい科目 キャリアプランニングを履修していることが望ましい

発展科目 キャリアの要素を含む科目、実践を伴う科目の履修によって、本科目で得られた知見を応用できるでしょう。

教科書 ダイアナ・ホイットニー他著『ポジティブ・チェンジャー主体性と組織力を高めるAI』ヒューマンバリュー、2006年。

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、グループ活動40%、個人課題評価30%によって総合的に判断する。

オフィスアワー 金曜日：15：00～16：00

授業改善への工夫 授業アンケート等の学生の声を反映させ、改善する。

その他 アプリシエーティブ・インクワイアリーは、大学、学校、自治体、企業、NPO、福祉、医療現場、国際協力などの領域で、世界各地で用いられている手法です。この手法を教える授業は、日本の大学では初めてのものです。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

アプリシエーティブ・インクワイアリーについての概説およびワークショップを行う。

1. アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- 2～3. 共感的に聞く方法と実践

- 4～6. 強みの発見
- 7～9. 夢を描く
- 10～12. デザインする
- 13～14. 実践する
15. まとめとふりかえり

学習課題（予習・復習）

毎回課題を課します。各自期限までにムードルにコメントをアップすること。

心理学S (AIポジティブ思考法)

PsychologyS

学期 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協同的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的

学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。グループ活動では、お互いにさまざまな考え方を持つ他者と認めあい、議論しあい、課題に取り組む姿勢を得ることができる。

学習の到達目標

アプリシエーティブ・インクワイアリーの考え方を理解し、その視点から物事を捉えることができる。物事のポジティブな側面にきづくことができ、より発展していくためのアイデア、さらに自分ができることについても考えることができる。グループ活動を通して、お互いの意見を尊重

し、調整し、一つにまとめていくなどの社会人として求められる力を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 グループで討議を行いますので、グループ活動に積極的に取り組むこと。

発展科目 主題IIにおけるキャリア実践科目

教科書 講義時に指示する。

参考書 講義時に適宜指示する。

成績評価方法と基準 課題 コメント (25%)、グループ活動 (40%)、発表 (30%) による総合点により評価します。

オフィスアワー 水曜14:30-15:30

授業改善への工夫 毎週、受講生のコメントに対して次週にフィードバックの時間を設けます。回答により授業改善への対応を図りません。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

本授業は、アメリカを中心に実践されているアプリシエーティブ・インクワイアリーの教育方法を理解し、自分たち学生自身がいかに充実した大学教育を受けられるか、よりよい大学教育は何か、自分たちができることは何か、についてグループで検討を行う。「三重大学の教育をよりよくするには」という大きな課題に取り組む中で、問題解決をする一つの手段としてアプリシエーティブ・インクワ

イアリーの考え方を得て、グループ討論を通じて思考を深めていく。

第1回から第4回までの授業でアプリシエーティブ・インクワイアリーについて講義を行う。

- ・アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- ・共感的に聴く方法と実践

第5回からグループを編成する。学生は、アプリシエーティブ・インクワイアリーの教育方法に沿いながら、グループ毎に三重大学の強み、よりよくするためのアイデア、そのアイデアを実践するための方法についてグループ

討議を行う。

- ・強みの発見
- ・夢を描く
- ・デザインする
- ・実践する

第15回にまとめを行う。

学習課題（予習・復習）

授業ではグループワークなどの演習を行いますので遅刻は厳禁です。

身近な生活の中でアプリシエーティブ・インクワイアリーの考えを取り入れた課題に取り組み、その内容をMoodleに提出するという課題が出ます。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 鈴木 英一郎 (学生総合支援センター)

授業の概要 心理的問題が形成される背景や状況について考え、そういった問題にどのように対応するのか、また相談者とどのように解決を作り上げていくのか等の心理的援助の実際について、講義と各種ワークを通して理解する。

学習の目的 共感的な態度で人と接する市民・職業人となるために、人の心理や心理的サポートに関しての基礎的な知識を持つ

学習の到達目標

- ・心理的援助について、「コミュニケーション」という観点から考え、「心理的な問題の捉え方」やそれに対する「解決の導き方」についての実際を理解することができる。
- ・心理的なサポートを実践する上で求められる態度や振る舞いについて理解し、過不足のない適切なサポートとは何かについて考えることができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技

術, 問題解決力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 心理学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 講義中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席とレポートにより総合的に判断する。

オフィスアワー 月曜10:00~12:00「学生なんでも相談室」

授業改善への工夫 授業の感想や授業評価アンケートの結果を参考にする。

その他 「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」の上級資格取得要件のうち「選択必修科目C: 心的援助科目」群に属する科目である。

授業計画・学習の内容

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

学習内容

- 1.オリエンテーション (講義の進め方・課題についての説明) :
- 2.「こころのサポート」とは?:
- 3.「学生生活サイクル」について考える:
- 4.カウンセラーの相談技法 (援助的コミュニケーション) :
- 5.行動療法によるアプローチ① (学習理論について) :
- 6.行動療法によるアプローチ② (行動療法の技法) :
- 7.認知行動療法によるアプローチ:
- 8.システム理論とコミュニケーション:
- 9.二重拘束 (ダブルバインド) 理論:
- 10.リフレーミング技法:
- 11.例外を利用した問題解決アプローチ:
- 12.「こころのサポート」演習①:

13. 「こころのサポート」演習②:
14. 「こころのサポート」演習③:
15. これまでのまとめ:

学習課題（予習・復習）

- 1.
 - 2.
 - 3.
 - 4.
 - 5.
- 6.
 - 7.
 - 8.
 - 9.
 - 10.
 - 11.
 - 12.
 - 13.
 - 14.
 - 15.

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 前期 **開講時間** 水 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤 綾文 (学生総合支援センター)

授業の概要

心理的問題が形成される背景や状況について考え、そういった問題にどのように対応するのか、また相談者とどのように解決を作り上げていくのかについて、講義と各種ワークを通して理解する。

また、他者に対する相談行動や、仲間・部活・サークル集団、企業組織などの集団内で対人関係についても見識を深める。

学習の目的 共感的な態度で人と接する市民・職業人となるために、人の心理や心理的サポートに関しての基礎的な知識を持つ。

学習の到達目標 心理的な問題が形成される背景や状況について、個人の要因だけでなく個人を取り巻く環境の要因などにも注目し、「心理的な問題の捉え方」やそれに対する「解決の導き方」について、多面的な捉え方をすることができる。心理的なサポートを実践する上で求められる態度や振る舞いについて理解し、過不足のない適切なサポートは何かについて考えることができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 心理的問題の理解と解決、心理的サポートの実際

学習内容

受講生のニーズ等を考慮しながら、適宜以下のようなテーマを扱う。

1. 心理的な問題が形成される背景
2. 大学生の「悩み」に対するイメージ
3. 他者に相談することの難しさ・サポートされることへの抵抗
4. 個人を取り巻く環境、集団という観点か

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 心理学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 講義中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 授業中に出すミニレポートと期末レポート課題により総合的に判断する。

授業改善への工夫 毎回の授業の感想・ミニレポートの内容を参考にする。

その他 「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。

ら、心理的な問題を捉える

5. カウンセラーの聴き方・話し方

6. 事例から心理的サポートの実際について学ぶ

学習課題(予習・復習) 基礎的な心理学の知識があることにより、講義内容についてより深い理解が出来るものと思われる。よって、「心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みの受講生は再度復習をしておくことも勧める。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** 望木 郁代 (医学部)

授業の概要 こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。

学習の目的 現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。スムーズな支援が展開され、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。

学習の到達目標 自己そして他者のこころとからだの状態に気づき、ソーシャル・サポートを担えるコミュニティの一員として機能できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

授業計画・学習の内容

キーワード こころとからだ、自他理解、健康、心理的サポート

Key Word(s) Psychological support, Mental health

学習内容

- 第1回 科学としての心理学
- 第2回 心理学の研究法
- 第3回 ヒトという存在
- 第4回 「こころ」と「からだ」の関係
- 第5回 ストレスと健康
- 第6回 感情と行動①

教科書 使用しない。

参考書 講義中、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 試験40%、毎回のレポート30%、授業参加30%で評価する。

オフィスアワー 火曜日 9:00～12:00 医学部 (探索医学研究棟1F 教員室2)

授業改善への工夫 レポート課題や授業アンケートの内容から、受講生の要望や理解度を把握し、授業改善を進める。

その他

「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。後期末曜日5, 6時限開講の同名授業とは同じ内容を扱ので、履修はどちらか一方のみとすること。

なお、本授業は平成21年度までの「心理的援助論」に当たる科目であり、「心理的援助論」を既に履修済みの学生は履修できない。受講者人数制限あり。

- 第7回 感情と行動②
- 第8回 パーソナリティ
- 第9回 自己理解・他者理解①
- 第10回 自己理解・他者理解②
- 第11回 原因帰属
- 第12回 心理療法①
- 第13回 心理療法②
- 第14回 カウンセリング体験①
- 第15回 カウンセリング体験②
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 毎週、授業の振り返りと来週の課題を、Moodleで提出する。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** 望木 郁代 (医学部)

授業の概要 こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。

学習の目的 現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。スムーズな支援が展開され、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。

学習の到達目標 自己そして他者のこころとからだの状態に気づき、ソーシャル・サポートを担えるコミュニティの一員として機能できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

授業計画・学習の内容

キーワード こころとからだ、自他理解、健康、心理的サポート

Key Word(s) Psychological support, Mental health

学習内容

- 第1回 科学としての心理学
- 第2回 心理学の研究法
- 第3回 ヒトという存在
- 第4回 「こころ」と「からだ」の関係
- 第5回 ストレスと健康
- 第6回 感情と行動①

教科書 使用しない。

参考書 講義中、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 試験40%、毎回のレポート30%、授業参加30%で評価する。

オフィスアワー 火曜日 9:00～12:00 医学部 (探索医学研究棟1F 教員室2)

授業改善への工夫 レポート課題や授業アンケートの内容から、受講生の要望や理解度を把握し、授業改善を進める。

その他

「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。前期末曜日5, 6時限開講の同名授業とは同じ内容を扱ので、履修はどちらか一方のみとすること。

なお、本授業は平成21年度までの「心理的援助論」に当たる科目であり、「心理的援助論」を既に履修済みの学生は履修できない。受講者人数制限あり。

- 第7回 感情と行動②
- 第8回 パーソナリティ
- 第9回 自己理解・他者理解①
- 第10回 自己理解・他者理解②
- 第11回 原因帰属
- 第12回 心理療法①
- 第13回 心理療法②
- 第14回 カウンセリング体験①
- 第15回 カウンセリング体験②
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 毎週、授業の振り返りと来週の課題を、Moodleで提出する。

PBL心理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（学ぶこころの法則発見）

PBL Psychology Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 開講時間 月 5, 6; 水 9, 10 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選^必 選択 授業の特徴 PBL, Moodle 担当教員 中西 良文(教育学部)

授業の概要

人は生まれてからその生涯を閉じるまで、「学び続ける」存在であるといえるだろう。では、「学び」はどのような形で生じ、それをより良くするにはどうすればよいのだろうか？この授業では、実際に受講生が何かを「学ぶもの」（お手玉ぐらいのレベルのもの）を選び、それを学びながら、学びの様子を観察することで「学び」がどのように生じているのか、そして、より良く学ぶには何が必要かという「法則」を発見することを目指す。

なお、このような活動はグループで行う予定である。

学習の目的 「学び」についての理解・協調スキル・手続き的知識の獲得

学習の到達目標 まず、学びの法則を探究することにより、「学び」についての理解を深めることが1つの目標である。すなわち、これまで持ってきた「繰り返してやれば何となくよくなっていく」という認識を超えた、「学び」について科学的な説明ができるような理解を手に入れることがこの授業での最も高いレベルでの到達目標である。なおこれらは、人が学び続ける存在であるということを考えれば、これはその後十分に活かせるものになるだろう。また、人を観察する力を身につけるといっても、1つの目標になる。さらに、ただ観察して現象を解釈するだけでなく、そこから創造的に科学的な結論を導けるようになるという最も高いレベルの目標として設定したい。そして、本授業はグループ活動を行うため、グループでの協調スキルを身につけるといっても本授業での目標に含まれる。最後に、自ら選んだ「学ぶもの」が実際にできるようになって欲しい。例えば、「お手玉」を選んだ人は、上手に「お手玉」ができるようになってくれればと考えている（こ

れらは「ねがい」である）。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、グループでの活動を行うため、無断欠席を決してしないこと。理由もない無断欠席は厳格に成績（単位認定）に反映させます（1回あたり10点の減点）。

予め履修が望ましい科目 特にないが、スタートアップセミナーを同時に履修することが望ましい。また、統計解析に関する授業も受講していることが望ましい。

発展科目 心理学AならびにF心理統計法(教育学部)教育心理学(教育学部)学習心理学(教育学部)学習心理学実践技法(教育学部)コミュニケーション実習(教育学部)

教科書 授業内で連絡する。

成績評価方法と基準 授業での活動に対する関与の度合いと授業中での発表、最終レポートなどで総合的に評価する。欠席については、減点要因として重視する。

オフィスアワー 火曜日 9:00~10:30 教育学部 1号館2F 学習心理学研究室

授業改善への工夫 授業評価において「自学自習のための教材の提供」の評価が低かったため、このような情報について出来る限り提供をするようにしたい。

その他

授業内で、e-learningシステムであるMoodleを使うため、学内のコンピュータで構わないので、定期的にMoodleにアクセスするようになって欲しい。

受講人数制限あり

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.仮説生成
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.仮説検証
- 11.
- 12.
- 13.ポートフォリオの作成。発表グループへのコメント送付。
- 14.
- 15.

学習内容

- 1.第1回 ガイダンス（これ以降PBLタイムの活動を示す。PBL心理学Iでは7回目まで、PBL心理学IIでは8回目以降の内容を扱う）：授業内容について概説する
- 2.第2回 アイスブレイキング: 授業に対してかたく構えることなく、力が発揮できるようアイスブレイキングを行う。またポートフォリオの使用法を説明する
- 3.第3回 グループ分け・過去ビデオ閲覧・研究計画作成: 授業を進めていくグループを構成する。そして、授業内容に入っていくため、まず過去に行われた授業でのビデオ閲覧し、研究計画作成に着手する。
- 4.第4回 データ収集1: まず、データ収集を行うに当たって、注意すべき点について説明した後、データ収集に着手する
- 5.第5回 データ収集2: 前回決定した方法によるデータ収集を進める。また、実際にデータを収集して気づいた点について、早い段階での修正を行う。
- 6.第6回 データ収集3・法則検討: データの収集を続けるとともに、次週の間接発表に向けて、現段階でどのような方向で分析するか、また、どんな法則が見えてきそうかについて検討する。
- 7.第7回 中間発表: これまでに収集したデータについてそれを分析した結果をクラス内に発表し、他のグループから意見を受ける。それをもとに、今後の活動の改善を目指す。

8.第8回 データ収集4: 前回の中間発表で受けた意見を参考にして、一部修正を加えた上でのデータ収集を行う。

9.第9回 データ収集5: データ収集の最終回となるため、通常のデータに加え、事後でとるべきデータを収集する。そして、次回以降のデータ分析に向けて、データの整理・加工を始める。

10.第10回 データ分析1: これまでに収集したデータの分析を始める。まず、データから何をみたいのか、そのためにどのような分析が必要なのかについて考える。また、データ分析の際に注意すべき事項について学習する。その上で、データ分析に取りかかる。

11.第11回 データ分析2・発表準備: データ分析の続きを行い、発表に備えて準備を行う

12.第12回 クラス内発表会1: クラス内で成果を発表し、グループで検討した法則について、議論を行う。

13.第13回 クラス内発表会2: クラス内で成果を発表し、グループで検討した法則について、議論を行う。なお、前回とあわせて2回の発表の中で、合同発表会で発表する代表を選抜する。

14.第14回 合同発表会: 合同発表会に参加し、発表グループだけではなく、全グループが、他のクラスでの発表・ディスカッションに参加し、議論を深める。

15.第15回 クロージング: これまでのグループでの歩みを振り返り、成果と課題について考える。また、グループ活動についてのクロージングを行う

学習課題（予習・復習）

- 1.Moodleへの登録
- 2.ポートフォリオを作成する
- 3.ポートフォリオの作成とデータ収集準備
- 4.ポートフォリオの作成。収集したデータの整理
- 5.ポートフォリオの作成。収集したデータの整理
- 6.ポートフォリオの作成。データ分析の分析と中間発表の準備
- 7.ポートフォリオの作成。データ収集についての再検討。
- 8.ポートフォリオの作成。データ整理
- 9.ポートフォリオ作成。|データ整理
- 10.ポートフォリオの作成。データ分析・考察

- 11.ポートフォリオ作成・データ分析結果の考察と発表準備
- 12.ポートフォリオの作成。発表グループへのコメント送付
- 13.
- 14.他のクラスでの発表を聞いた上でポートフォリオ作成
- 15.これまでのポートフォリオを振り返りつつ、最終回にふさわしいポートフォリオを記載する

PBL心理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（人間の社会的行動）

PBL Seminar Psychology I・II

学期 前期 開講時間 月3,4;水9,10 単位 4 年次 学部(学士課程):1年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL,能動的要素を加えた授業,グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 松浦 均 (教育学部)

授業の概要

人間の社会的行動を観察し、そこから人間行動の法則性を発見していく。

人間は社会的動物であり、自分で意思決定することもあるが、その多くは実は他者からの影響を大きく受けている。その影響の受け方には、様々ありそうであるが、意外と単純なルールが働いている可能性がある。

観察という研究手法を用いて、人間は、どんなときに、どんな条件で、どのような行動をするのか、その答えを見つけていく。

学習の目的

これから大学で学問を修得し専門的な研究を行うにあたって、人間行動の観察を通して、基本的なモノの見方やその表し方、課題の設定の仕方や探求の仕方などを学ぶ。

グループ活動を基本形態として、議論の仕方や、協同的な課題遂行などのコミュニケーションの側面も強化したい。

学習の到達目標

人間の行動、とくにありのままの状態をよく見てみるができること

観察という研究手法を理解して、モノを見ることができるようになること

質的データの扱い方を理解し、結果データをうまく説明することができること

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門

授業計画・学習の内容

キーワード

人間の社会的行動

心理学研究法

観察法

データ分析

学習内容

初回 観察研究法のガイダンス。グループ分け。

知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

グループでの活動を行うので遅刻や無断欠席はしないこと。

フィールドでの作業の可能性があるため、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

発展科目 心理学関連科目、社会心理学（教育学部）

教科書 心理学基礎演習Vol.3 観察法・調査的面接法の進め方 松浦均・西口利文編 ナカニシヤ出版

成績評価方法と基準 レポート課題（2種）70%、出席および活動状況30%（合計が60%以上で合格）ただしレポート課題のいずれかが提出されない場合や、活動への取り組み状況が積極的でない場合は、この限りではない。

オフィスアワー 水曜日3/4限 教育学部1号館 2F 社会心理学研究室

その他

PBL心理学IIと併せて履修すること。

受講人数制限あり

2回 心理学研究法の紹介

3回～5回 観察対象の検討および観察方法の検討

6回 中間テーマ検討会（各グループからのレジュメ提出により、実施に向けての建設的な議論を行う）

7回～9回 観察の実施（フィールドへ出る可能性有り）

10回～13回 観察データの取りまとめ、報告書

作成（報告書の様式を設定しておく）
14回～最終回 合同発表会

学習課題（予習・復習）

各グループともMoodleを積極的に活用して、

テーマ検討，観察方法の検討，データ分析等の情報交換を行うこと．

教員からの授業時間外での連絡もMoodleを利用するので，積極的に活用すること．

PBL心理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（適応とは何か）

PBL Psychology Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 開講時間 月5,6;水9,10 単位 4 年次 学部(学士課程):1年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 瀬戸美奈子

授業の概要 「適応とは何か」というテーマに基づき、事例シナリオを提示する。学生は臨床心理学、発達心理学の理論や症例について自己学習を行い、その知見をもとにシナリオを分析し、適応と援助に関する課題を発見して考察していく。具体的には①発達障害、②精神障害、③幼児期から児童期の発達、④青年期の発達という4つの事例シナリオを扱う。

学習の目的

- ①臨床心理学、発達心理学の基礎的な知識を習得する。
- ②事例シナリオを通して、発達のプロセスや障害についての理解を深める。
- ③事例シナリオから適応と援助に関する課題を発見し、多角的な視野から考察する。

学習の到達目標

- ①児童期から青年期にかけての発達のプロセス、障害について理解できる。
- ②自己学習、グループディスカッション、グループでの発表を通して、知識の習得と課題解決能力を身につける。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 課題探求力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 臨床、発達、事例分析、援助

学習内容

授業は事例シナリオの提示から始まる。提示された事例を各自が自己学習した知識に基づき分析し、次に各グループで課題を設定して、さらに考察をすすめていく。事例分析レポート、課題レポートの提出がそのつど要求される。授業中の発言はもちろん、事前の自己学習とレポート作成による事後の振り返りが多く求められる。

1 ガイダンス

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 心理学を同時に受講していることががのぞましい。グループでの活動を行うため、無断欠席をけつしてしないこと。

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 心理学関連科目

教科書 なし

成績評価方法と基準 授業での活動や発表、Moodleに記録していく活動の記録、レポート、出席状況を総合的に評価する。

オフィスアワー 木3・4時限教育学部1号館2階発達臨床心理学研究室

授業改善への工夫 学生の授業への取り組み方、感想をもとに随時対応していく。

その他

積極的に話し合いながら事例を分析していくことが求められます。またMoodleを使うため、定期的にアクセスするようにしてください。PBL心理学Ⅱ（瀬戸担当）とあわせて受講してください。

受講人数制限あり

2～3

発達障害：事例の説明と事例シナリオ提示
事例の分析、グループでの課題設定とディスカッション

4 発達障害：グループディスカッションと振り返り

5～6

精神障害：事例の説明と事例シナリオ提示
事例の分析、グループでの課題設定とディスカッション

7 精神障害：グループディスカッションと振り返り

8～9

幼児期から児童期の発達：事例の説明と事例シナリオ提示

事例の分析、グループでの課題設定とディスカッション

10 幼児期から児童期の発達：グループディスカッションと振り返り

11～12

青年期の発達：事例の説明と事例シナリオ提示

事例の分析、グループでの課題設定とディスカッション

13 青年期の発達：グループディスカッションと振り返り

14 プレゼンテーション資料作成

15 プレゼンテーションとまとめ

学習課題（予習・復習） 発達障害、精神障害、幼児期から青年期の発達について、事例シナリオ提示前に自己学習しておく。

授業の概要 家族関係や雇用、科学技術など様々な現代の社会問題と、それに対応する法律の現状を取り上げます。それによって、法律(学)が専門家だけのものではなく誰にとっても身近な存在であることを理解し、困難を解決する姿勢と考え方を養います。

学習の目的 法律・法学が関わりうる分野を広く知ると同時に、初歩的な法学的な考え方を修得することが目的です。困難を法律によって解決する糸口を見つける力を養うことにつながります。

学習の到達目標 法的なアプローチで問題を解決するための道筋を判断する力と説得的に論理を組み立てる力を身につけることが学

習の目標です。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力

教科書 池田真朗他著『法の世界へ(第5版)』(有斐閣)

成績評価方法と基準 期末試験の成績で評価します。

オフィスアワー 第1回の授業の際に連絡します。

授業改善への工夫 質問票や自由課題の提出等、個々の理解度に合わせて学習の手助けをする機会を多く設けます。

授業計画・学習の内容

キーワード 契約、雇用、家族関係、紛争処理

Key Word(s) contract, employment, family, procedure and ADR

学習内容

全回講義形式で行いますが、質問票や自由課題の提出等を通じて、各人の理解が深まる手助けをします。

- (1) オリエンテーション、法とは何か
- (2) 約束と法：契約法の原則
- (3) 様々な契約とそのルール
- (4) 不法行為

(5) 家族と法

(6) ~ (7) 紛争の解決：訴訟の種類と手続

(8) さまざまな人権

(9) ~ (10) 労働と法

(11) ~ (12) 生活の「リスク」と法

(13) ~ (14) 家庭と社会と法

(15) まとめ

学習課題(予習・復習)

教科書は読んできてください。

復習については、毎回、授業内容に合わせて、より学習を深めるための文献等を配布し自由課題を設定します。

社会学A (社会と個人)

Sociology A

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部)

授業の概要 著名な社会学の基礎理論を紹介・考察することを通じて、現代社会に生きる私たちが社会的な視点から学ぶうる点を考えていく。

学習の目的 社会学の基本的な考え方や「社会的な視点」を理解したうえで、現代社会の諸問題について考察する。

学習の到達目標 社会学独自の観察方法や説明方法が、理解できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくになし

授業計画・学習の内容

キーワード 社会的行動、逸脱、メディア

Key Word(s) social behavior, deviance, media

学習内容

授業内容

第1回 社会学の視点とは？〔第一部の概説〕

第2回 人間の「欲求」の独自性

第3回 欲望と現代社会

第4回 「意味」を求める存在としての人間

第5回 「意味」と現代社会

第6回 文化と価値

第7回 小テストと第二部の概説

第8回 逸脱行動の原因を説明する理論1

予め履修が望ましい科目 とくになし

発展科目 社会学概論 (人文学部)

教科書 教科書は特に指定しない。

参考書 参考書は授業のなかで適宜指示する。

成績評価方法と基準 小テストと期末テストによって評価する。(いずれかをレポート試験とする場合もある。)

オフィスアワー 月曜日16:20~17:20

授業改善への工夫 小テストや授業内レポートを通じて、受講者の疑問点や理解の程度を確認する。

その他 ビジュアル資料を活用する。

第9回 逸脱行動の原因を説明する理論2

第10回 逸脱の抑止と統制

第11回 情報メディアと社会〔第三部の概説〕

第12回 メディア研究概観1

第13回 メディア研究概観2

第14回 映像文化とメディアリテラシー

第15回 現代社会と人間 (試験に向けての総括)

学習課題(予習・復習) はじめて社会学という分野に触れる者が多いと思うので、授業内容を十分に理解するためにも、配布したプリント類をよく読んでおくこと。また、小テストを課す場合があるので留意すること。

社会学A (社会学の中心的テーマ)

Sociology

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上 直樹(人文学部)

授業の概要 社会学がこれまで対象としてきたテーマの中で最も重要なものをいくつか取り上げ、社会学がそのテーマをどのように論じてきたのかを説明する。そのことを通して、社会学という学問がどのようなものであるのかを示したい。

学習の目的 受講した学生が、社会学の中心的テーマがどのようなものであるのか、またそれらが社会学者によってどのように論じられてきたのかを理解する。また、その理解の内容を他人に適切に説明することができる。そして、さらに、社会学という学問が提示している様々な見解に対して、自分の考えを持ち、それを他人に伝えることができる。

学習の到達目標 受講した学生が、社会学の中心的テーマがどのようなものであるのか、またそれらが社会学者によってどのように論じられてきたのかを理解する。また、その理解の内容を他人に適切に説明することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ①必ず第1回目から受講すること、第2回目からの受講は認められない。②教室での強い集中力を持っていること。

教科書 プリントを配布する。

参考書 プリントを配付する。

成績評価方法と基準 報告の出来具合30%、討議への参加度30%、最後に行う試験40%

オフィスアワー 火曜日と水曜日の午後(くわしい時間に関しては、開講時に連絡)

授業改善への工夫 学生から改善の要望があった場合には、できる限りすみやかに対応するようにします。

その他

本授業はセミナー形式の授業です。

第1回目の授業で、授業の進め方についてのくわしい説明を行うので、必ず第1回目から受講すること。第2回目からの受講は認められない。

授業計画・学習の内容

キーワード 階層、家族、国家、社会的行為、宗教、若者

Key Word(s)

class, family, state, action, religion, youth

学習内容

0. 講義の内容と進め方

1. 階層と社会移動—格差をめぐる議論
2. 国家と社会—国家とは何か
3. 家族の社会学—現代における家族と結婚の変容
4. 演劇論的 sociology—社会的行為を役割演技として見る
5. 身体社会学—現代社会における外見の意味
6. 少年と若者の社会学—少年犯罪、アイデ

ンティティの形成

7. 宗教の社会学—新々宗教と現代社会
なお、受講者の関心に応じた内容の部分的な変更はあり得る。

学習課題 (予習・復習)

1. 階層論、格差社会論の基本的視角を理解する (配付プリント (文献のコピーを含む) を読み、理解する)
2. 国家論の基本的視角を理解する (同上)
3. 家族社会学の基本的視角を理解する (同上)
4. 演劇論的 sociologyの基本的視角を理解する (同上)
5. 身体と外見の社会学の基本的視角を理解する (同上)

6. 若者論の基本的視角を理解する（同上） 上）
7. 宗教社会学の基本的視角を理解する（同

社会学B (家族関係の社会学)

Sociology B

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 江成 幸

授業の概要 社会学の視点から、現代の家族について考察する。

学習の目的 戦後家族の変化、少子高齢社会、子育てと社会、多文化家族などについて、知識を得る。

学習の到達目標 家族に関する基礎知識をもとに、多様な家族のありかたを理解することができる。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 問題解決力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

参考書

湯沢雅彦 『データで読む平成期の家族問題 四半世紀で昭和とどう変わったか』朝日選書、2014年。

千田有紀 『日本型近代家族』勁草書房、2011年。

渡邊秀樹・竹ノ下弘久 『越境する家族社会学』学文社、2014年。

成績評価方法と基準 授業中のコメントペーパーおよび出席30%、小レポート20%、期末課題50%、計100%

オフィスアワー 木曜日 15:00～16:00, 共通教育棟4号館3F研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 家族、ジェンダー、子育て、移住

Key Word(s) family, gender, parenting, immigration

学習内容

第1回 社会学による家族研究

第2, 3回 日本の近代家族

第4, 5回 家族とジェンダー

第6, 7回 現代の子育て

第8, 9回 高齢世帯の人間関係

第10, 11回 国境を越える家族

第12, 13回 アメリカの家族

第14, 15回 家族の多様性

第15回 期末課題

学習課題（予習・復習） 配付資料、参考書、新聞記事などを予習復習に活用し、家族に関するデータを読み取る。

社会学B (現代社会を考える)

Sociology B

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 児玉克哉 (人文学部) 他

授業の概要 地域社会について講義していく。様々な社会の問題に取り組み、それらについての考察力をつけるようにする。地域社会を中心にしながら国際社会にも幅広くアプローチする。

学習の目的 地域社会について講義していく。様々な社会の問題に取り組み、それらについての考察力をつけることを目的とする。

学習の到達目標 学生が、社会的な問題に対する関心を持ち、理解を深めるとともに、その問題に対して対応する力を持つようにしたい。社会問題への対応力を鍛える。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予備履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 「はじめて出会う平和学」有斐閣

参考書 特になし

成績評価方法と基準

出席 30%

期末試験 70%

オフィスアワー

毎週月曜16:30-18:00 場所: 児玉研究室または総合研究棟2の2階児玉共同研究室の部屋
メールをしてくると確実。kkodama@human.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 ビデオやパワーポイントを活用し、ビジュアル的にもアピールする。

その他 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 地域社会、国際、平和、まちづくり

学習内容

1. ガイダンス
2. 広島・長崎の被爆
3. 広島・長崎の被爆
4. 広島・長崎の被爆
5. アウシュビッツの悲劇
6. 平和学の概要
7. 難民問題
8. 外国人問題

9. 環境破壊
10. 環境破壊
11. アジアの平和
12. 日本の防衛問題
13. 国際NGO
14. 平和への行動
15. まちづくりについて

学習課題 (予習・復習) 新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどから情報を収集するように努力する。いつも国際問題、社会問題に関心を持つことが重要。

社会学B (社会と差異化の構図)

Sociology B

学期 前期 開講時間 水5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 人が、ある対象を明確に定義づけようとするとき、その対象をそれ以外のものから区別しなければならぬ。この区別によって初めて、ある対象をAと認識できるようになるのである。つまり人の認識は、分類という作業を経ることによって可能となる。例えば赤色は、橙色や黄色から分類されることによってはじめて認識可能となるのだ。このように我々は、さまざまなものを名付け、分類し、差異化を行うことで周囲の世界を認識していると言える。本授業では、我々の生活中にある「男/女」、「神聖なもの/穢れたもの」、「正常/異常」、「白人/黒人」、「西洋/東洋」、「近代/伝統」といったさまざまな区別を、フーコーやサイードといった学者たちの著作を読解しながら考察し、私たちが日頃どのように世界を認識しているのかを批判的に学んでいく。

学習の目的

- ・われわれの生活中に潜んでいる二項対立図式を批判的に考察できる思考力を養うことができる。
- ・差異化による単純な二分法に惑わされることなく、現代社会の複雑な構造を、より明確に捉える力を養うことができる。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード 分類、差異化、社会の構造、二項対立

Key Word(s) classification, differentiation, social structure, binary opposition

学習内容

講義と演習

第1回 講義：授業の概要や重要な概念について講義形式で行う

第2回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む1

・何かと何かを分類することが差異化の構造を生み出すことを理解する。

・「当たり前」と思っていたことが、意図的な差異化によって生み出されてものであることを知る。

・既存の社会構造を疑う目を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は強く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日の11:00-12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば授業で取り扱う著作を変更し、柔軟に対処していく。

第3回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む2

第4回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む1

第5回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む2

第6回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む3

第7回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む1

第8回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む2

イードの『オリエンタリズム』を読む2

第9回 演習：「西洋／東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む3

第10回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む1

第11回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む2

第12回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む3

第13回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差

異の政治学』を読む1

第14回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差異の政治学』を読む2

第15回 講義：全体のまとめを講義形式で行う

学習課題（予習・復習）

・毎回の授業で、必要と思われる参考文献を提示するので、次の授業までに読んでくることが望ましい。

・授業中にとったノートを帰宅後復習すること。

社会学B (社会と差異化の構図)

Sociology B

学期 前期 開講時間 水9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 人が、ある対象を明確に定義づけようとするとき、その対象をそれ以外のものから区別しなければならぬ。この区別によって初めて、ある対象をAと認識できるようになるのである。つまり人の認識は、分類という作業を経ることによって可能となる。例えば赤色は、橙色や黄色から分類されることによってはじめて認識可能となるのだ。このように我々は、さまざまなものを名付け、分類し、差異化を行うことで周囲の世界を認識していると言える。本授業では、我々の生活中にある「男/女」、「神聖なもの/穢れたもの」、「正常/異常」、「白人/黒人」、「西洋/東洋」、「近代/伝統」といったさまざまな区別を、フーコーやサイドといった学者たちの著作を読解しながら考察し、私たちが日頃どのように世界を認識しているのかを批判的に学んでいく。

学習の目的

- ・われわれの生活中に潜んでいる二項対立図式を批判的に考察できる思考力を養うことができる。
- ・差異化による単純な二分法に惑わされることなく、現代社会の複雑な構造を、より明確に捉える力を養うことができる。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード 分類、差異化、社会の構造、二項対立

Key Word(s) classification, differentiation, social structure, binary opposition

学習内容

講義と演習

第1回 講義：授業の概要や重要な概念について講義形式で行う

第2回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む1

・何かと何かを分類することが差異化の構造を生み出すことを理解する。

・「当たり前」と思っていたことが、意図的な差異化によって生み出されてものであることを知る。

・既存の社会構造を疑う目を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は堅く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日の11:00-12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば授業で取り扱う著作を変更し、柔軟に対処していく。

第3回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む2

第4回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む1

第5回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む2

第6回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む3

第7回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイドの『オリエンタリズム』を読む1

第8回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サ

イードの『オリエンタリズム』を読む2

第9回 演習：「西洋／東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む3

第10回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む1

第11回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む2

第12回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む3

第13回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差

異の政治学』を読む1

第14回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差異の政治学』を読む2

第15回 講義：全体のまとめを講義形式で行う

学習課題（予習・復習）

・毎回の授業で、必要と思われる参考文献を提示するので、次の授業までに読んでくることが望ましい。

・授業中にとったノートを帰宅後復習すること。

社会学B (社会と差異化の構図)

Sociology B

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 人が、ある対象を明確に定義づけようとするとき、その対象をそれ以外のものから区別しなければならぬ。この区別によって初めて、ある対象をAと認識できるようになるのである。つまり人の認識は、分類という作業を経ることによって可能となる。例えば赤色は、橙色や黄色から分類されることによってはじめて認識可能となるのだ。このように我々は、さまざまなものを名付け、分類し、差異化を行うことで周囲の世界を認識していると言える。本授業では、我々の生活中にある「男/女」、「神聖なもの/穢れたもの」、「正常/異常」、「白人/黒人」、「西洋/東洋」、「近代/伝統」といったさまざまな区別を、フーコーやサイードといった学者たちの著作を読解しながら考察し、私たちが日頃どのように世界を認識しているのかを批判的に学んでいく。

学習の目的

- ・われわれの生活中に潜んでいる二項対立図式を批判的に考察できる思考力を養うことができる。
- ・差異化による単純な二分法に惑わされることなく、現代社会の複雑な構造を、より明確に捉える力を養うことができる。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード 分類、差異化、社会の構造、二項対立

Key Word(s) classification, differentiation, social structure, binary opposition

学習内容

講義と演習

第1回 講義：授業の概要や重要な概念について講義形式で行う

第2回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む1

- ・何かと何かを分類することが差異化の構造を生み出すことを理解する。
- ・「当たり前」と思っていたことが、意図的な差異化によって生み出されてものであることを知る。
- ・既存の社会構造を疑う目を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は堅く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日の11:00-12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば授業で取り扱う著作を変更し、柔軟に対処していく。

第3回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む2

第4回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む1

第5回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む2

第6回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む3

第7回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む1

第8回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む2

イードの『オリエンタリズム』を読む2

第9回 演習：「西洋／東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む3

第10回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む1

第11回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む2

第12回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む3

第13回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差

異の政治学』を読む1

第14回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差異の政治学』を読む2

第15回 講義：全体のまとめを講義形式で行う

学習課題（予習・復習）

・毎回の授業で、必要と思われる参考文献を提示するので、次の授業までに読んでくることが望ましい。

・授業中にとったノートを帰宅後復習すること。

社会学B (社会と差異化の構図)

Sociology B

学期 後期 開講時間 水9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 人が、ある対象を明確に定義づけようとするとき、その対象をそれ以外のものから区別しなければならぬ。この区別によって初めて、ある対象をAと認識できるようになるのである。つまり人の認識は、分類という作業を経ることによって可能となる。例えば赤色は、橙色や黄色から分類されることによってはじめて認識可能となるのだ。このように我々は、さまざまなものを名付け、分類し、差異化を行うことで周囲の世界を認識していると言える。本授業では、我々の生活中にある「男/女」、「神聖なもの/穢れたもの」、「正常/異常」、「白人/黒人」、「西洋/東洋」、「近代/伝統」といったさまざまな区別を、フーコーやサイドといった学者たちの著作を読解しながら考察し、私たちが日頃どのように世界を認識しているのかを批判的に学んでいく。

学習の目的

- ・われわれの生活中に潜んでいる二項対立図式を批判的に考察できる思考力を養うことができる。
- ・差異化による単純な二分法に惑わされることなく、現代社会の複雑な構造を、より明確に捉える力を養うことができる。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード 分類、差異化、社会の構造、二項対立

Key Word(s) classification, differentiation, social structure, binary opposition

学習内容

講義と演習

第1回 講義：授業の概要や重要な概念について講義形式で行う

第2回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む1

- ・何かと何かを分類することが差異化の構造を生み出すことを理解する。
- ・「当たり前」と思っていたことが、意図的な差異化によって生み出されてものであることを知る。
- ・既存の社会構造を疑う目を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は堅く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日の11:00-12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば授業で取り扱う著作を変更し、柔軟に対処していく。

第3回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む2

第4回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む1

第5回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む2

第6回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む3

第7回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイドの『オリエンタリズム』を読む1

第8回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サ

イードの『オリエンタリズム』を読む2

第9回 演習：「西洋／東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む3

第10回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む1

第11回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む2

第12回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む3

第13回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差

異の政治学』を読む1

第14回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差異の政治学』を読む2

第15回 講義：全体のまとめを講義形式で行う

学習課題（予習・復習）

・毎回の授業で、必要と思われる参考文献を提示するので、次の授業までに読んでくることが望ましい。

・授業中にとったノートを帰宅後復習すること。

文化人類学A (人類学の基礎と理論)

Cultural Anthropology A

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁(人文学部)

授業の概要 文化の多様性と普遍性に関する人類学の成果を紹介し、文化相対主義に対する理解を培う

学習の目的

- ・数少ないが、世界の民族にほぼ共通してみられる文化的現象の理解を深められる。
- ・それと同時に世界の文化の多様性が理解できる。

学習の到達目標

- ・文化相対主義の長所と短所について深い理解ができる。
- ・人類学の基礎と呼べる部分のおおよそが理

解できる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 文化人類学概論 (専門、人文学部)

参考書 授業中に紹介。

成績評価方法と基準 レポートあるいはテストの成績のみ。

オフィスアワー 木曜日の講義後。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化の普遍性と多様性、文化相対主義

学習内容

講義は以下の予定で実施する。

本講義では、特定の地域に限定せず、以下にあげるトピックごとに文化人類学の知見を幅広く、またわれわれの日常生活のレベルにできるだけそった形で理解することをねらいとしている。

第1回:オリエンテーション

第2回:文化人類学という学問分野の説明

第3回:フィールドワーク

第4-15回:異文化との接触、贈答と交換、汚れとタブー、社会構造、宗教と世界観、法、政治、暗黙知など (この期間内に、レポートかテストを課します)

学習課題 (予習・復習) 自分以外のいわゆる「他者」に対する情報 (本、テレビの番組) を取り込み、関心をもつこと。また、そういった「他者」に対する自身の偏見をもう一度疑ってみること。

文化人類学A (人類学の基礎と理論)

Cultural Anthropology A

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁(人文学部)

授業の概要 文化の多様性と普遍性に関する人類学の成果を紹介し、文化相対主義に対する理解を培う

学習の目的

- ・数少ないが、世界の民族にほぼ共通してみられる文化的現象の理解を深められる。
- ・それと同時に世界の文化の多様性が理解できる。

学習の到達目標

- ・文化相対主義の長所と短所について深い理解ができる。

- ・人類学の基礎と呼べる部分のおおよそが理解できる。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 文化人類学(人文学部、専門)

参考書 授業中に紹介。

成績評価方法と基準 期末テストの成績。

オフィスアワー 木曜日の講義後。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化の普遍性と多様性、文化相対主義

学習内容

講義は以下の予定で実施する。

本講義では、特定の地域に限定せず、以下にあげるトピックごとに文化人類学の知見を幅広く、またわれわれの日常生活のレベルにできるだけそった形で理解することをねらいとしている。

第1回:オリエンテーション

第2回:文化人類学という学問分野の説明

第3回:フィールドワーク

第4-15回:異文化との接触、贈答と交換、汚れとタブー、社会構造、宗教と世界観、法、政治、暗黙知など(この期間内にレポートかテストを課します)

学習課題(予習・復習) 自分以外のいわゆる「他者」に対する情報(本、テレビの番組)を取り込み、関心をもつこと。また、そういった「他者」に対する自身の偏見をもう一度疑ってみること。

文化人類学B (民族誌学)

Cultural Anthropology

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 河邊 真次(非常勤講師)

授業の概要

異文化理解に様々な形で取り組んできた文化人類学の視点から世界の諸文化を紹介し、人間にとって「文化とは何か?」という根源的な問題にアプローチする。

学習の目的

ラテンアメリカにおける文化現象を事例として多く取り上げ、その社会文化的状況を把握し、理解を深めるとともに、異文化へのまなざしを養う。

学習の到達目標 異文化理解のための新しい視野を獲得し、近年の多文化共生をめぐる諸問題への関心が高まる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力

受講要件 本科目では、世界のさまざまな文化現象を紹介するため、受講者は講義内で紹介する推薦図書を積極的に読むことに加え、新聞やインターネットなどを活用し、異

文化への関心をもって講義に臨むことを期待する。

教科書 テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書

綾部恒雄・桑山敬己(編)『よくわかる文化人類学(やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ)』、ミネルヴァ書房、2006年。
浜本 満・浜本まり子(共編)『文化人類学のコモンセンスー文化人類学入門』、学術図書出版社、1994年。

成績評価方法と基準 学期中に数回実施する小レポートと期末試験によって評価する。

オフィスアワー 授業の前後に講師控室にて受けつける。

授業改善への工夫 異文化に対する受講者の関心を高めるため、学期中に数回ビデオ上映を実施する。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化人類学、ラテンアメリカ文化、異文化理解、多文化共生

学習内容

1. オリエンテーションー文化人類学への招待ー
2. 概論ー文化とは何か?ー
3. 人類と言語
4. 文化と経済
5. 性・生殖・婚姻
6. ジェンダーとセクシュアリティ
7. 人種・民族・国家

8. 政治と権力
9. 宗教と世界観
10. 人間の一生ー時間と儀礼ー
11. 医療と文化
12. 開発と文化
13. 観光と文化
14. 方法論としてのフィールドワーク
15. まとめ

学習課題(予習・復習) 毎回の講義で学んだことさらに、自文化と比較して考える習慣を身につけていただきたい。

政治学F (性の多様性・複合差別)

Politics F

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 ○岩本美砂子 (人文学部), 稲垣朋子 (人文学部) 江成幸 (人文学部), 朴恵淑 (人文学部), 菅利恵 (人文学部) 中島美幸, 日高庸晴 (宝塚大学), 風間孝 (中京大学), 山崎鈴子 (部落解放同盟) 近藤由香 (QWRC), 安間優希 (Queers), 吉田みち (自立生活センター三田), 関口久志 (京都教育大学)

授業の概要

①セクシャル・マイノリティー—レズビアン、ゲイ、トランスジェンダー、性分化障害(インターセックス) —の当事者に、自分の置かれた立場について話してもらい、学生の理解を深める。HIV問題や性と生殖の分離と重なりといった実践的な講義も提供する。

②ジェンダーについて、法律、文学といった切り口で考える。

③ジェンダーについて、マイノリティ女性の立場からの考察を行う。

国内でも得難い講師陣によって、日本で「性」の問題を考える際の先端的な糸口を提供する。

学習の目的 ジェンダーとセクシュアリティという「性」に関する問題で、自分の頭・自分の言葉で考えられるようになること。セクシャル・マイノリティやマイノリティ女性の受けている複合差別を理解できること。

学習の到達目標 ジェンダーとセクシュアリティについて基本的知識をもって、自分や自分の周りの人々について考えられるようになること。セクシュアル・マイノリティ、マイノリティ女性の状況に関して、社会の構造と関連づけて考えられるようになること。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ステレオタイプ(型にはまった画一的なものの見方)を「うのみ」にしない姿勢

参考書

橋本秀雄・花立都世司・島津威雄『性を再考する：性の多様性概論』青弓社、2003

日本女性学会ジェンダー研究会『男女共同参画／ジェンダーフリーバッシング』明石書店、2006

以上の他、初回に一覧表で示すが、講義ごとに提示するものもある

成績評価方法と基準 出席30% レポート2回合計70%

オフィスアワー 月曜5-6限岩本研究室(人文)

授業改善への工夫 Moodleの利用を、より充実させる。

その他 レポートは2回ともMoodleで提出、1回目はコメントを付けて返す。

授業計画・学習の内容

キーワード ジェンダーセクシュアリティ 性差別 セクシュアル・マイノリティ マイノリティ女性 同性愛 トランスジェンダー

Key Word(s) gender, sexuality, sexual discrimination, sexual minority, minority women, homosexuality, transgender

学習内容

①オリエンテーション、②ゲイ・ムーブメン

ト、③トランスジェンダー、④レズビアン・フェミニズム、⑤家族法とジェンダー⑥HIV・エイズと性的行動、⑦性と生殖の基礎知識⑧部落出身の女性⑨障害のある女性、⑩ジェンダーと日本文学、⑪ドメスティック・バイオレンス、⑫環境とジェンダー、⑬日本における外国人女性、⑭ジェンダーとヨーロッパ近代、⑮男性のジェンダー、⑯まとめ、—順番は、講師との調整で変動する—

第1回レポートにコメントを付けて返し、第2回レポートに生かす形でフィードバックする。

学習課題（予習・復習）

レポート（2000字以上）2回

講師の話に関連して、ジェンダー・セクシュアリティ・マイノリティをテーマにしたレポート（参考文献や参考URLを明記する）。マイノ

リティをテーマにするときにも、ジェンダーかセクシュアリティに言及すること。

1回は、「自分のセクシュアリティ」をテーマにしたレポートでもよい。

ワードファイルで提出すること。注は脚注機能を使わず、文中に(1)(2)などと記し、文末に

(1) ～～。 (2) ～～～。とまとめること。

（コピペ予防ソフトが脚注に対応していないため）

政治学G (正義を考える)

Politics

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 麻野雅子(人文学部)

授業の概要 授業では、正義に関する基本的な文献を講読します。受講者は、授業前に、あらかじめ指定された文献を熟読し、その内容を理解してくることを必須とします。受講生は、授業のうち数回担当者となり、文献の内容をレジュメにまとめ、他の受講生に講読文献の内容を説明します。(担当者でない場合でも、指定された文献は必ず事前に熟読して、内容を理解してきてください。) 受講者数が6名を超える場合は、グループに分けて議論をします。

学習の目的 正義に関する理論の基礎を理解するとともに、文献の内容を正しく理解したうえで、その要旨を簡潔にまとめ、分かりやすく報告する能力を身につけることが学習の目的です。

学習の到達目標 正義に関する理論について理解を得たうえで、現代の政治状況を分析する力を持てるようになることが、学習の到達目標です。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。ただし1回目の授

授業計画・学習の内容

キーワード 正義論

Key Word(s) theory of justice

学習内容

第1回 講義概要、文献の紹介、報告の仕方、評価係方針、学習方法などについて説明します。

第2～16回 指定された文献を講読していきます。

業には必ず出席してください。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

発展科目 特にありません。

教科書 取りあげる文献は、マイケル・サンデル著『これからの「正義」の話をしようーいまを生き延びるための哲学』(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)、マイケル・サンデル著『それをお金で買いますー市場主義の限界』(早川書房)、小川仁志著『はじめての政治哲学ー「正しさ」をめぐる23の問い』(講談社現代新書)などを予定していますが、受講者と相談の上、変更することもあります。

参考書 参考書は授業内容や受講生の関心に応じて適宜指示します。

成績評価方法と基準 出席点20%(原則毎回出席してください。ただし病気等でどうしても欠席せざるをえない場合は必ず事前に連絡してください。)、報告の内容ならびに授業時間内での発言等の態度80%、計100%です。

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00、場所は人文学部棟5階麻野研究室です。

授業改善への工夫 グループ分けを行い報告の回数を増やすとともに受講生相互のコミュニケーションを高めていくよう工夫します。

す。担当者を決めて、文献の要旨を報告してもらったのち、その内容について全員で、あるいは各グループで議論します。

学習課題(予習・復習) 受講生の毎回の出席とともに、積極的な発言を期待します。学習の方法については授業時間中に詳しく説明します。

PBL政治学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（現代東アジア国際政治）

PBL Politics Ⅰ, Ⅱ

学期 前期 開講時間 月9, 10; 水9, 10 単位 4 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 古瀬 啓之(人文学部)

授業の概要 東アジア地域における国際問題を、最新の新聞記事からピックアップして、その問題の構造や歴史的経緯、さらに原因等を考えていく。受講生は、おもに次の中から取り組む問題を選択する。「1. 地球環境問題、2. 食料、貿易問題と生活への影響、3. 文化交流、4. 歴史認識問題」（もし、受講生から申し出があればその他のテーマでも可）

学習の目的 東アジアにおける国際問題の歴史的背景を知ることができる。また、グループ内での議論を通して、多様な意見を知ることにより、物事を複眼的に見られるようになる。

学習の到達目標 セミナーに主体的に関わり、また、根拠に基づき、結論を導きだす。他者に自分の見解を明確に伝える。

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・

協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 授業中の議論の展開によって、その都度示す。

参考書 授業中の議論の展開によって、その都度示す。

成績評価方法と基準 出席20点＋研究発表50点＋レポート30点、計100点

オフィスアワー 毎週 月曜日、木曜日の昼休み（12：00～13：00）

授業改善への工夫 受講生が討論を行うにあたり自由に発言できる雰囲気を作り出していきたい。また、受講生の設定した課題に適した文献を積極的に提示していく。

授業計画・学習の内容

キーワード 現代東アジア国際政治

Key Word(s) International relations in East Asia

学習内容

授業計画

1～3 グループ分け、自己紹介、討論のデモンストレーション

4～5 東アジアをめぐる国際問題：教員による講義（新聞記事等の紹介）。講義の後、意見交換。グループ毎にグループワークのテーマ設定

6 グループごとに取り組むテーマを発表。そして次週までの目標決定する

7～9 グループディスカッション（グループ内個々人の学習成果に基づく議論）

10 成果の中間発表（全員の前で）、今後の目標の設定

11～13 グループディスカッション（グループ内個々人の学習成果に基づく議論）

14 成果の最終発表（全員の前で）

15 授業を振り返って（感想を話し合う）

※現在、中国の目覚ましい発展などもあって、東アジアに国際的な関心が集まっています。日本は、中国、朝鮮半島とともにこの地域を構成する主要なアクターであり、この地域の国際関係の行方は、我々自身の生活などに少なからぬ影響を与えています。たとえばそれは、環境問題、政治外交問題、食料問題、経済問題などに関することです。本授業ではこうした問題に対し、その原因や歴史的背景などを考察し、これからどうすべきかをみなさんの自由な議論を通して一緒に考えていきたいと思っております。

学習課題（予習・復習）

受講者のグループ分けを行った後に、教員側

から複数のテーマを提示する。受講生はグループ毎にその中からテーマを一つ選択して（あるいは教員が提示したものではないテーマを自分たちで用意してもらってもよい）、最終グループ発表に向けて、課題に取り組

む。それにあたって主体的に行っていくことが重要である。

教員側からは、参考文献等を適宜提示していくが、そうした文献の読解を積極的に行っていくことが望ましい。

経済学F (経済学入門)

Economics F

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 本講義では、グローバル化、金融化、日本経済の現状という3つの角度から、現代の社会経済を分析するうえで糸口となるようなテーマをとりあげます。

学習の目的 現代の社会経済の多様な論点を多角的な角度から分析する視座を身につける。

学習の到達目標 現代の社会経済をみずからの言葉で分析し、評価できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

発展科目 とくになし。

教科書 柴田努ほか編『図説 経済の論点』旬報社、2014年。

参考書 別途、授業内で指定することがあります。

成績評価方法と基準 定期試験および平常点によって評価する。

オフィスアワー 随時。メールで予約してください。

授業改善への工夫 毎講義ごとに質問用紙を配布し、次回講義の冒頭で一件ずつ丁寧に回答する。

その他 私語をはじめとして、ほかの受講者に迷惑をかける行為は厳禁とします。また、この講義ではMoodleの利用が必須となりますから、あらかじめ使用方法に習熟しておいてください。

授業計画・学習の内容

キーワード 経済学入門

学習内容

第1回 イントロダクション
第1部 グローバル化する現代経済
第2回 企業の国際生産と通商体制
第3回 マーケティングの国際化と金融グローバル化
第4回 グローバル化の一国経済への影響——地域経済・技術基盤・税制
第5回 新興国の台頭とグローバルな貧困問題
第6回 対外援助は有効に機能しているか
第7回 金融化する現代経済
第8回 投機取引とデリバティブ
第9回 金融自由化と「規制の民営化」

第10回 金融機関のビジネスモデルとその変容
第11回 「異次元緩和」が増幅する国債市場のリスク
第III部 日本経済の現在
第12回 日本経済の構造変化
第13回 労働・雇用・賃金の変容
第14回 財政・金融政策の現在
第15回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

第I部 グローバル化の経済過程への影響を理解すること
第II部 金融依存の背景を理解すること
第III部 日本経済の現状を企業活動とマクロ政策の2つの面から理解すること

経済学F (経済学入門)

Economics F

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 本講義では、グローバル化、金融化、日本経済の現状という3つの角度から、現代の社会経済を分析するうえで糸口となるようなテーマをとりあげます。

学習の目的 現代の社会経済の多様な論点を多角的な角度から分析する視座を身につける。

学習の到達目標 現代の社会経済をみずからの言葉で分析し、評価できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

発展科目 とくになし。

教科書 柴田努ほか編『図説 経済の論点』旬報社、2014年。

参考書 別途、授業内で指定することがあります。

成績評価方法と基準 定期試験および平常点によって評価する。

オフィスアワー 随時。メールで予約してください。

授業改善への工夫 毎講義ごとに質問用紙を配布し、次回講義の冒頭で一件ずつ丁寧に回答する。

その他 私語をはじめとして、ほかの受講者に迷惑をかける行為は厳禁とします。また、この講義ではMoodleの利用が必須となりますから、あらかじめ使用方法に習熟しておいてください。

授業計画・学習の内容

キーワード 経済学入門

学習内容

第1回 イントロダクション
第1部 グローバル化する現代経済
第2回 企業の国際生産と通商体制
第3回 マーケティングの国際化と金融グローバル化
第4回 グローバル化の一国経済への影響——地域経済・技術基盤・税制
第5回 新興国の台頭とグローバルな貧困問題
第6回 対外援助は有効に機能しているか
第11部 金融化する現代経済
第7回 経済の金融化とはなにか
第8回 投機取引とデリバティブ
第9回 金融自由化と「規制の民営化」

第10回 金融機関のビジネスモデルとその変容
第11回 「異次元緩和」が増幅する国債市場のリスク
第11部 日本経済の現在
第12回 日本経済の構造変化
第13回 労働・雇用・賃金の変容
第14回 財政・金融政策の現在
第15回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

第1部 グローバル化の経済過程への影響を理解すること
第11部 金融依存の背景を理解すること
第11部 日本経済の現状を企業活動とマクロ政策の2つの面から理解すること

経済学G (ミクロ経済学入門)

Economics G

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 担当教員 嶋恵一

授業の概要

経済学は自由な取引が保障された社会において人々がどのような行動をとりうるか、またどのような取引が望ましいのかについて分析する学問になります。

市場経済の下で、個人や企業は需要と供給を通じて交換取引を行います。対価を支払うことで、需要と供給の間の交換取引は成立します。市場とは需要と供給とが出合い、双方が暗黙のうちに交渉し、交換の成立へと導く場と考えることができます。交換を成立させる上で、価格(対価)は重要な役割を果たします。この授業では価格のメカニズムを考察し、交換経済の基礎を学習します。

学習の目的 経済学とはどのような学問かを紹介し、その使命、役割について理解してもらうことが目的になります。

学習の到達目標 市場経済の意義、その中で需要と供給を行う経済主体の合理的行動を理解し、需要と供給のメカニズムを理論的に説明できるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

キーワード 需要、供給、最適化行動、価格メカニズム、完全競争、不完全競争

Key Word(s) demand, supply, rational behavior, price mechanism, (im)perfect competition

学習内容

- 第1回 講義の解説：需要と供給
- 第2回 需要理論：消費選択の最適化
- 第3回 需要理論：効用関数、無差別曲線、予算制約
- 第4回 需要理論：効用最大化、需要関数
- 第5回 異時点の間最適化：消費のライフサイクルモデル

本学教育目標との関連 幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力

受講要件 ありません。

予め履修が望ましい科目 ありません。

発展科目 ミクロ経済学

教科書 用いません。

参考書 講義中に適宜示します。

成績評価方法と基準 中間テスト(配点50)と期末テスト(配点50)の合計(満点100)により単位評価します。60点以上が合格になります。

オフィスアワー 木曜日講義後、講義室または研究室にて質問を受けます。

授業改善への工夫 適宜例題を解き、受講生の理解度を確認しつつ授業を進めます。中間テストは採点后返却し、解説を加えます。

その他 全てパワーポイントによる講義になります。

- 第6回 供給理論：生産の最適化
- 第7回 供給理論：生産関数、費用関数
- 第8回 中間テスト
- 第9回 供給理論：利益最大化、供給関数
- 第10回 市場競争：完全競争均衡
- 第11回 市場競争：価格支配力と独占均衡
- 第12回 市場競争：競争と余剰の問題
- 第13回 不完全競争：寡占均衡
- 第14回 不完全競争：クールノー均衡
- 第15回 不完全競争：スタックルバーグ均衡
- 第16回 期末テスト

学習課題(予習・復習) 講義で示した計算問題は、独力で解けるようになるまでよく復習することを願います。

文化と空間A (空間・政治・文化)

Culture and Space A

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 北川真也 (人文学部)

授業の概要 授業は、不均等な世界の諸地域で生じている様々な現代のかつ時事的な政治的諸現象・諸問題を、グローバル化という観点から、さらにはそれをめぐる批判的理論の観点から考察することを目的とする。

学習の目的 グローバル化という言葉が様々なところで用いられ、世界が小さくなったような感覚があるかもしれません。しかし、私たちの世界への想像力はほんとうにグローバルなものでしょうか。世界の他の場所(近くても遠くても)で生じている社会的・政治的・文化的・経済的出来事に、私たちの共感・応答できるでしょうか。グローバル化の時代だからこそ、世界の広さ、深さへの想像力が試されています。学習の目的は、世界の諸地域(いくぶんはヨーロッパが多くなるかもしれませんが)で生じる様々な現代の・時事的な出来事について知識を得、それらをグローバル化とそれについての諸理論を用いて思考できるようになることです。

学習の到達目標 学習の到達目標もまた、世界の諸地域で生じる様々な現代の・時事的な出来事について知識を得、それらをグローバル化とそれについての諸理論を用いて思考することですが、さらにはそれを自らが生きる社会の問いとしてもまた引き受けられるよう

な知と想像力を育み、その成果を的確かつ論理的に文章化することです。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性

教科書 特にはありません。

参考書

たとえば、
アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート(水嶋一憲・酒井隆史・浜 邦彦・吉田俊美)『〈帝国〉——グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』以文社、2003。
アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート(水嶋一憲・清水知子)『叛逆——マルチチュードの民主主義宣言』NHK出版、2013。
など。

成績評価方法と基準 レポート(50%)×2回=100%(予定)

オフィスアワー 木曜日 12~13時(事前に連絡することが望ましい)

授業改善への工夫 学生の要望に応じて、柔軟に対応します。

その他 授業中に自分なりのメモを積極的に作成することが受講の前提となります。

授業計画・学習の内容

キーワード グローバル化、国民国家、グローバル/ローカル、資本主義、蜂起、民主主義

Key Word(s) globalization, nation-state, global/local, capitalism, insurrection, democracy

学習内容

第1回 はじめに

第2回 グローバル化とその理論・実践

第3回 グローバル化とその理論・実践

第4回 グローバル化とその理論・実践

第5回 ローカルな実践とグローバル化：具体例1

第6回 ローカルな実践とグローバル化：具体例2

第7回 ローカルな実践とグローバル化：具体例3

第8回 ローカルな実践とグローバル化：具体例4

第9回 ローカルな実践とグローバル化：具体例5

第10回 ローカルな実践とグローバル化：具体例6

第11回 ローカルな実践とグローバル化：具体例7

第12回 ローカルな実践とグローバル化：具体例8

第13回 グローバル化とその理論・実践の再考

第14回 グローバル化とその理論・実践の再考

第15回 まとめ

学習課題（予習・復習） 予習については、授業内容についての簡単な文献を提示するので、予めそれを読書してくる。予習をすれば、内容への理解度がまったく異なります。復習についても同様です。

文化と空間B (世界諸地域の生活環境)

Human Geography E

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 原 眞一(非常勤講師)

授業の概要 主に世界の諸地域の多様な生活環境を国際理解(異文化理解)の視点を加味して取りあげていく。風土と景観を中心として、環境と人々の生活の姿を見つめ、その理解を深める。さらに演習として受講生の関心や身近な生活環境を記録(描く)し、その意義を考える。

学習の到達目標 世界の諸地域について、風土・景観を中心として掘り下げ、自ら豊かな地域像(世界像)の育成を培う。そのためにも地域認識と地域を見る眼を深める。

教科書 原 眞一 『写真地理を考える』ナカニシヤ出版(2012)。

参考書 高校レベルの地図帳を準備することが望ましい。例えば、帝国書院編集部『地図帳標準高等地図―地図でよむ現代社会―』など。

成績評価方法と基準 試験が約50%、課題(フィールドワーク)、出席状況、学習意欲などが約50%として総合的に評価する。

授業改善への工夫 主に世界諸地域の生活環境をより多面的に追究していきたい。受講生の興味・関心を高めるために現地での見聞などを織り交ぜて、写真・地図などの教材を多用して動的に取り組んでいきたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 世界諸地域の生活環境

学習内容

第1回 空間と文化を学ぶガイダンス

第2回 空間・地域・景観・風土・文化を考える

第3回 世界の諸地域の生活環境① タイ―東南アジアの縮図

第4回 ② モンゴルー草原国の歴史と今

第5回 ③ イギリス―スコットランドとイングランド

第6回 ④ カナダ―多様な自然景観と文化景観

第7回 ⑤ モロッコ―アトラス山脈の北と南、ハワイ島の西と東―対照的な生活環境

第8回 ⑥ フィジー諸島共和国―伝統的的生活文

化と観光・リゾート

第9回 ⑦ イスタンプル(トルコ)とメキシコシティ(メキシコ)―巨大都市の変遷と都市景観

第10回 ⑧ 名古屋と神戸の都市空間と歴史の変遷

第11回 ⑨ 伊勢湾と三河湾の離島の生活環境と暮らし

第12回 世界の諸地域の自然景観・文化景観

第13回 日本の諸地域の自然景観・文化景観

第14回 生活環境のフィールドワークのまとめと報告(Ⅰ)

第15回 生活環境のフィールドワークのまとめと報告(Ⅱ)

第16回 定期試験

PBL地理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（社会の法則を探る）

PBL Geography I, II

学期 前期 開講時間 水 9, 10; 金 7, 8 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選^必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, Moodle
担当教員 中川 正

授業の概要 日常生活に潜む法則を発見し、学問的アプローチを用いて説明・解釈し、結果をどのように応用できるかを考える方法を実践的に学び、その成果を発表する。

学習の目的 学生は、身近な現象から法則性を発見し、説明解釈し、応用し、さらにそれを公開の場で発表することができるようになる。

学習の到達目標 本授業を受講することにより、学生は、日常生活から法則を発見する感受性、発見した現象を説明・解釈する思考力、試行の結果を応用する実践力、および、それを公開の場で発表し、議論するためのコミュニケーション力を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 効果的なグループワークを行うために、受講生を30名に制限する。受講希望者が超過した場合には、最初の授業で選考を行うので、欠席をしないこと。

発展科目 人文地理学B

教科書 法則研究プラザ編『法則探検に出かけよう』三重大学出版会、2007年。授業の中で販売する。

成績評価方法と基準 毎回の課題50%、ディスカッションへの参加20%、最終報告30%

オフィスアワー 水曜12:00～13:00

授業計画・学習の内容

キーワード 法則探検、発見、説明解釈、応用、プレゼンテーション

Key Word(s) Social Laws, Discovery, Explanation, Application, Presentation

学習内容

日常生活に潜む法則の発見、説明・解釈、応用の一連の作業を、小グループで行い、法則カフェと呼ばれる社会公開の場でプレゼンテーションを行う。

前期

1. 社会法則探検の方法（1～3週）
2. 空間的・時間的・集団的パターンの発見（4～6週）
3. 説明と解釈（7～8週）
4. 応用（9週）
5. プレゼンテーション準備（10～13週）
6. 発表（14～15週）

学習課題（予習・復習） グループで法則発見と説明・解釈・応用を行い、パワーポイントで報告させるので、Moodleを通したホームワークがある。

PBL地理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（時事問題の検討）

PBL Geography I, II

学期 前期 開講時間 水9, 10; 木5, 6 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL
担当教員 北川真也（人文学部）

授業の概要 時事問題についてのPBLです。時事問題についての常識的・支配的な見方は異なったマイナーな見方を発見すること、それについて思考・議論・発表するPBLです。基礎的な教材としては、日本語の新聞記事、外国語の新聞記事を用います。

学習の目的

私たちの時事的な社会問題・国際問題へのものの見方は、常に限られたもの、「偏った」ものです。目的は、自らの観点の「かたより」を検討し、既存の社会のなかで周辺的な位置に置かれている人々の「マイナー」な見方を見出すこと、そしてそのような観点から既存の時事問題について思考できるようになることです。

時事問題、特に国境をまたぐような国際的な問題を、日本語の様々な種類の新聞記事、そして外国語の新聞記事の読解を通して行います。

学習の到達目標

到達目標は、次の通りです。いずれもがグループでの作業が基本となります。

①自らの時事問題への見方の「かたより」を検討し、「マイナー」な見方を見つけ出すこと、そこから時事問題について思考すること。

と。

②それを様々な日本語の新聞記事、また外国語の新聞記事、そして関連文献の読解を通して実行すること。

③上述の内容について、パワーポイントを用いて明瞭にプレゼンテーションを行うこと、また論文執筆などを通して的確に文章化すること。

④グループワークを通して、上記の①、②、③を行うこと。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

教科書 特にありません。

参考書 適宜、提示します。

成績評価方法と基準 グループワークの発表・議論 60%、グループワークによる論文など 40%

オフィスアワー 木曜日12:00~13:00

その他

受講生の能動的・積極的な取り組みが、授業の前提となります。
受講人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード 時事問題 マイナー性 グループワーク

Key Word(s) current topics, minority, group work

学習内容

第1回 木5.6-授業目的の説明、おおまかなテーマ設定、グループ分け

水9.10-グループ・ディスカッションにおいて詳細なテーマ設定

第2回 木5.6-グループごとにテーマの報告、テーマ設定の妥当性について討論、資料収集

の方法の説明

水9.10-グループごとに資料収集、発表に向けた準備、資料収集と発表方法について

第3回 木5.6-日本語の新聞記事を用いた発表とディスカッション

水9.10-発表したグループは振り返り、次回発表グループは準備

第4回 木5.6-日本語の新聞記事を用いた発表とディスカッション発表

水9.10-すべてのグループが次へ向けての振り返り

第5回 木5.6-どのようにして次に問題意識を

深めるか、より深く調査するかについて各グループの報告

水9.10ー新聞記事以外の関連文献の収集

第6回 木5.6ー外国語の新聞記事の収集方法の説明、グループでどの言語の新聞記事を読むのかをディスカッション

水9.10ー外国語の新聞時期の収集・読解

第7回 木5.6ー外国語の新聞記事内容の簡単な報告

水9.10ー外国語の新聞記事の収集・読解、日本語の新聞記事と関連文献のさらなる収集・読解

第8回 木5.6ーグループごとに資料収集と発表に向けた準備の簡単な状況報告

水9.10ーグループごとに資料収集、発表に向けた準備

第9回 木5.6ー外国語の新聞記事を含めて、すべての資料を用いた発表とディスカッション

水9.10ー発表したグループは振り返り、次回発表グループは準備

第10回 木5.6ー外国語の新聞記事を含めて、すべての資料を用いた発表とディスカッション

水9.10ーすべてのグループが次へ向けての振り返り

第11回 木5.6ー前回の発表の振り返りの内容報告、論文執筆方法の説明

水9.10ーグループでの論文執筆

第12回 木5.6ー論文執筆の進展報告

水9.10ーグループでの論文執筆

第13回 木5.6ーグループの論文についてディスカッション

水9.10ー論文発表したグループは論文修正、次回発表グループは論文作成

第14回 木5.6ーグループの論文についてディスカッション

水9.10ーすべてのグループが論文の修正、そして完成・提出へ

第15回 木5.6ー全員で振り返り

水9.10ー学生で振り返り

学習課題（予習・復習） 新聞資料を、事前に収集・読解・比較検討すること。また関心を持った主題については、ディスカッションを有意義にできるように、関連する書誌などを読み理解を深めておくことが望ましい。

言語学 (日本語の構造と獲得)

Linguistics

学期 前期 開講時間 火 5, 6, 7, 8; 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 菅原彩加

授業の概要 科学的な手法を用いて客観的に日本語の構造をひもとく。取り扱う分野は大きく分けて音、文法、意味の組み立て、となる。それぞれの分野について、子供の母語獲得の現象も扱い、実験と理論がどのように結びつけられるかについて議論する。また、必要に応じて日本語以外の自然言語との比較も行う。

学習の目的

「言語学」は「認知科学」の一分野であることを具体的な例を用いて科学的に他人に説明できる。

音・文法・意味の各分野において授業内容を理解し他人に説明できる。

各分野の母語獲得における最新の話題が理解できる。

学習の到達目標

「言語学」は「認知科学」の一分野であることを他人に説明できる。

音・文法・意味の各分野において基礎的な事項を理解する。

各分野の母語獲得における基礎的な事項を理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受信

授業計画・学習の内容

キーワード 日本語学・言語学入門、音韻論、統語論、意味論

Key Word(s) Introduction to Japanese linguistics, phonology, syntax, semantics

学習内容

第1回 ガイダンス：サイエンスの対象としての言語学

第2回 形態論・日本語のフィールドワーク：「友達」が「友」の複数を表すとしたら「友達たち」とは？

第3回 音韻論：省略語・外来語のアクセント規則

力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 教科書は特に指定しない。スライドを使い、適宜資料を配布する。

参考書

興味があれば以下の本を読むことを薦める。

スティーブン・ピンカー「言語を生み出す本能」

酒井邦嘉「言語の脳科学 脳はどのようにことばを生み出すか」

成績評価方法と基準 授業参加（リアクションペーパーへの記入）25%、小テスト25%、期末試験50%で評価する。

オフィスアワー 随時（メールでアポイントメントを取ること）

授業改善への工夫 パワーポイント、配布資料などによる講義と毎回のリアクションペーパーの提出を組み合わせ、授業内容の理解を深めてもらうと共に学生のニーズを把握できるようにする。講義では子どもの発話の具体例を多く提示し、より興味が持てるようにする。

第4回 音韻論：外来語・複合語の音の変化規則

第5回 形態論と音韻論における母語獲得

第6回 (#2～5の範囲の小テスト)、統語論：単語の集まりからどのように文を作るか

第7回 統語論：日本語と多言語の比較

第8回 統語論：日本語の構造

第9回 統語論：移動現象（受動文、疑問文）

第10回 統語現象における母語獲得

第11回 (#6～10の範囲の小テスト)、英語話者のブローカ失語症、特異的言語発達障害、ウィリアムズ症候群における受動文の獲得

（試験範囲外）

第12回 意味論：量子子のスコープの計算

第13回 意味論＋語用論：会話における含意の
計算

第14回 意味論・語用論の母語獲得

第15回 総まとめ

(試験)

学習課題（予習・復習） 授業は付加的に進むので、スライドや授業でとったノートをもとに復習をし、前回の内容を理解したうえで授業に臨んでください。

言語学 (言語学入門 I)

Intro.to Linguistics I

学期 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **対象** Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。 **授業の方法** 講義, 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

You will learn the basics of the following core areas of linguistics: phonetics and phonology, morphology, and syntax.

言語学の中心的な分野として音声学と音韻論、形態論、統合論の基本を学ぶ。

学習の目的

- ・ Acquire skills to analyze the forms of language
- ・ Deepen your understanding of the structure of English as well as languages in general
- ・ 言語の形式を分析するスキルを習得する
- ・ 英語及び一般的に言語の構造の知識を深める

学習の到達目標

- ・ Apply critical thinking to solve language problems
- ・ Improve your ability to learn foreign languages
- ・ Improve your understanding and accuracy in the production of language
- ・ 批判的思考を応用して言語の問題を解決する
- ・ 外国語を学ぶ能力を進める
- ・ 言語の理解や産出の精度を進める

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

Students with a score of 600 or higher on the

TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

発展科目

- ・ Special Seminar in International Studies: Intro.to the Science and the Meaning of Words II
- ・ Intro.to Linguistics II
- ・ 国際理解特殊講義：言葉と科学入門 II
- ・ 言語学入門 II

教科書

Plag, Ingo, Sabine Lappe, Maria Braun, and Mareile Schramm.2009.Introduction to English Linguistics (2nd Edition).De Gruyter, Walter, Inc.

ISBN: 3110214083

ISBN-13: 978-3110214086

成績評価方法と基準

Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and an in-class final exam.

成績評価は、講義準備 (宿題等)、講義中の態度 (グループ活動への取り組み姿勢等) と最終試験による。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ること。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、言語語学、分析、音声学、音韻論、形態論、統合論

Key Word(s) English, linguistics, analysis, phonetics, phonology, morphology, syntax

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Phonetics - Producing sounds

Session 3: Phonetics - Classifying sounds: consonants

Session 4: Phonetics - Classifying sounds: vowels

Session 5: Phonology - Phonemes, minimal pairs, and allophones

Session 6: Phonology - Specifics of English

Session 7: Phonology - Syllable structure

Session 8: Morphology - Morphemes

Session 9: Morphology - Allomorphs

Session 10: Morphology - Inflection and derivation

Session 11: Morphology - Word formation

Session 12: Syntax - Layering of structures

Session 13: Syntax - Types of phrases

Session 14: Syntax - Mapping from form to function

Session 15: Final Test

The above schedule is subject to change dependent upon students' needs.

第一回：紹介

第二回：音声学 音の作成

第三回：音声学 音の区別：子音

第四回：音声学 音の区別：母音

第五回：音韻論 音素、最小対語、異音

第六回：音韻論 英語の特徴

第七回：音韻論 音節の構造

第八回：形態論 形態

第九回：形態論 異形態

第十回：形態論 活用、導出

第十一回：形態論 言葉の作成

第十二回：統合論 構造と階層

第十三回：統合論 句、節の種類

第十四回：統合論 形式から機能へ

第十五回：最終試験

学生のニーズによって計画が変わる可能性がある。

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する。

言語学 (言語学入門 II)

Intro.to Linguistics II

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

You will learn the basics of the following core areas of linguistics: semantics and pragmatics. You will also learn the basics of the following cross-disciplinary areas of linguistics: sociolinguistics, historical linguistics, psycholinguistics, semiotics, and linguistic anthropology/anthropological linguistics.

言語学の中心的な分野として意味論、語用論の基本を学ぶ。それに、言語学の学際的な分野として社会学、歴史言語学、心理学、記号論、言語人類学／人類言語学の基本も学ぶ。

学習の目的

- Acquire skills to analyze the functions of language
- Deepen your understanding of the use and meaning of English as well as languages in general
- 言語の形状を分析するスキルを習得する
- 英語及び一般的に言語の意味、使い方の知識を深める

学習の到達目標

- Apply critical thinking to solve language problems
- Improve your ability to learn foreign languages
- Improve your understanding and accuracy in the use of language
- Deepen your understanding of the relations between language, society, and culture
- 批判的思考を応用して言語の問題を解決する
- 外国語を学ぶ能力を進める
- 言語の理解や応用の精度を進める
- 言語、社会、文化の関係や繋がりの理解を深める

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

教科書

Plag, Ingo, Sabine Lappe, Maria Braun, and Mareile Schramm. 2009. Introduction to English Linguistics (2nd Edition). De Gruyter, Walter, Inc.

ISBN: 3110214083

ISBN-13: 978-3110214086

成績評価方法と基準

Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and an in-class final exam.

成績評価は、講義準備（宿題等）、講義中の態度（グループ活動への取り組み姿勢等）と最終試験による。

オフィスアワー

By appointment.
予約を取ること。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.
読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、言語学、分析、意味論、語用論、社会学、歴史言語学、心理学、記号論、人類学

Key Word(s) English, linguistics, analysis, semantics, pragmatics, sociology, historical linguistics, psychology of language, semiotics, anthropology

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Semantics - What is meaning?

Session 3: Semantics - Meaning and composition

Session 4: Semantics - Meaning relations

Session 5: Pragmatics - Context

Session 6: Pragmatics - Speech Acts

Session 7: Pragmatics - Gricean implicature

Session 8: Pragmatics - Politeness I

Session 9: Pragmatics - Politeness II

Session 10: Sociolinguistics

Session 11: Historical Linguistics

Session 12: Psycholinguistics

Session 13: Semiotics: Language and signs

Session 14: Linguistic Anthropology and Anthropological Linguistics

Session 15: Final Test

The above schedule is subject to change dependent upon students' needs.

第一回：紹介

第二回：意味論 意味って何？

第三回：意味論 意味と成分

第四回：意味論 意味と繋がり、関係

第五回：語用論 状況

第六回：語用論 発話行為

第七回：語用論 グライスの含意

第八回：語用論 ポライトネス I

第九回：語用論 ポライトネス II

第十回：社会言語学

第十一回：歴史言語学

第十二回：心理言語学

第十三回：記号論

第十四回：言語人類学、人類言語学

第十五回：最終試験

学生のニーズによって計画が変わる可能性がある。

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する。

地域学 (海外体験実習ベトナム)

Area Studies

学期 前期集中 **単位** 2 **対象** 応募者多数の場合は、「国際協力入門」の受講者で参加要件を満たす学生を優先的に選考する **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○国際協力センター長

・長縄 真吾 (国際交流センター 特任准教授)

授業の概要 新興国の一つとして発展著しいベトナムを9月上旬に約2週間訪問し、交流校学生との合同フィールドリサーチ・ディスカッション、JICAやNGO等が実施する開発援助プロジェクトの視察学習、ベトナム人家庭へのホームステイ、現地日本人駐在員との交流等の活動・学習を行う。7~8月に事前勉強会を5回以上実施し、各自が選定したテーマにそってベトナムの開発問題や訪問先についての事前学習を行う。プログラムのアレンジも担当教員の指導の下、学生自身が行う。

学習の目的 新興国の一つとして発展著しいベトナムにおいて、ベトナム人学生との合同フィールドリサーチ、開発現場視察、日系企業駐在員との交流等の活動を、学生自身が事前アレンジも含めて主体的に取り組むことにより、グローバル人材に求められる3要素を総合的に向上させ、グローバルな視野を持ちながら主体的・積極的に行動できる人材となることを目指す。

学習の到達目標

- ・日本とは異なる環境におけるフィールドワーク等を通じ、不測の事態等にも対応できる能力を高める
- ・ベトナム人学生との合同調査・ディスカッションやホームステイ先家族との交流等を通じ、総合的なコミュニケーション能力を高める
- ・日系企業訪問、現地で活躍する日本人駐在員等との交流を通じ、自身の将来のキャリアや目指すべき人材像を明確化する
- ・開発現場の視察等を通じ貧困・環境・平和構築等のグローバルイシューに対して理解を深め、自分自身の意見を持つ
- ・プログラムのアレンジ (訪問先との連絡調整、車両・ホテル手配、資料準備) 等を担当教員の指導のもとで、学生自身が主体的に行

うことにより、社会人としての基礎的な素養を身につける

- ・帰国後参加学生が自身の経験を他の学生や一般市民に伝え、学内や社会の国際化に寄与する

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・「国際協力入門」を受講済であることが望ましい (応募者多数の場合は受講済学生を優先する)
- ・参加費用 (10~12万円程度) を負担できること
- ・事前勉強会にすべて出席可能なこと

予め履修が望ましい科目 ・国際協力入門

発展科目 ・Tri-U Joint Seminar & Symposium (Tri-U国際シンポ)

成績評価方法と基準 事前勉強会におけるプレゼンテーション、事前準備における主体性、協調性、現地フィールドスタディ期間中の振り返り、帰国後の報告書等を総合的に勘案して評価を行う

オフィスアワー

国際交流センター 長縄 真吾

(月~金 10:00 - 17:30、総合研究棟I12F国際交流チーム)

原則として事前にメール等で連絡のこと

その他

5月上旬: 掲示板等を通じて応募方法について

周知

5月下旬：説明会

6月上旬：応募締切

6月下旬：参加者選考・通知

7月～9月：事前勉強会

授業計画・学習の内容

キーワード ベトナム、ODA、NGO、グローバル化、日系企業の海外展開、貧困、環境、紛争と平和、異文化理解

Key Word(s) Vietnam, ODA, NGO, Globalization, Overseas Advance of Japanese Enterprises, Poverty, Environment, Conflict and Peace, Cross-cultural Understanding,

学習内容

1. 事前勉強会（計20時間）

- ・ベトナムの概況・歴史
- ・ベトナムに対する日本のODAの現況
- ・訪問予定のテーマ別に担当を決め、事前学習・発表を行う
- ・現地フィールドリサーチのテーマ設定・事前準備
- ・各訪問先との日程調整・訪問準備
- ・渡航前オリエンテーション、事前準備等

・ベトナム語基礎講座

2. フィールドスタディ期間中（計13日間（正味5時間×10日＝50時間）

- ・ホーチミン市師範大学学生との合同フィールドリサーチ（街頭インタビュー、発表資料作成、プレゼンテーション）
- ・現地大学生との英語によるディスカッション・交流
- ・JICA・NGO等が実施する開発援助プロジェクトの現場視察
- ・ベトナム進出企業訪問・現地日本人駐在員との懇親会（毎晩参加者と担当教員による振り返りミーティングを行い、各自の気づきを共有する）

3. 帰国後

- ・報告書作成
- ・報告会の実施

医学医療E (国際保健と地域医療)

Medicine, Nursing

学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **対象** 医学科以外の学生の受講については年次を問わない

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 医学部教員他によるオムニバス形式

授業の概要 医療と保健の課題を「国際」と「地域」のふたつの観点から考える授業である。地域医療の原点がある開発途上国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保険医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。

学習の目的 医療と保健の課題を「国際」と「地域」のふたつの観点から考える授業である。地域医療の原点がある開発途上国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保険医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。

学習の到達目標

- ・日本の国際協力を理解する。

授業計画・学習の内容

キーワード 国際医療協力、公衆衛生、外国の医療、地域医療、へき地医療

学習内容

- ・日本の地域医療の課題を理解する。

受講要件 医学科専門科目を兼ねるので医学科学生は共通教育単位としては取得できない。開放科目であるため看護学科学生および医学部以外の学生は取得できる。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 公衆衛生学、地域医療実習、医学臨床実習

教科書 必要がある場合、授業毎に提示。

成績評価方法と基準

- ・成績評価は出席および試験による。
- ・出席管理システムで出席の確認を行うため必ず学生証を持参すること。学生証の忘れは欠席扱いとする。

講義予定や講義室は変更がありうるので掲示板に注意のこと。

講義テーマと講義日程については、初回講義で配布する。

医学医療E (病気のサインと健康)

Symptoms in disease and health

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 丸山一男 (医学系研究科)

授業の概要 英語で症状の説明ができる to be able to explain the symptom in English

学習の到達目標 病名や症状の英語による表現を知る Student learn the English expressions of disease and their symptom.

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・

対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 report and final examination レポートと期末試験

オフィスアワー make appointment at ext. 6401 (内線6401で約束を取り付ける)

授業計画・学習の内容

キーワード 健康 health, 病気 disease, 症状 symptom

学習内容

The following subjects will be held through the course

以下の内容について、期間を通じて学習する。

外来にて at outpatient clinic

腹痛 abdominal pain

胸痛 chest pain

発熱 fever

心停止 cardiac arrest

心肺蘇生 cardiopulmonary resuscitation

AED automated external defibrillator

意識障害 loss of consciousness

小児の救急 pediatric emergency (Dr.H. Sawada, pediatrician, will talk)

ロールプレイを英語で行い、海外旅行などで、急病になった時に、症状を表現できるようにする。

また、相手医師看護師などの質問を理解できるようにする。

Students will play roles as patients and medical staff to learn the English expressions.

学習課題 (予習・復習)

Memorize short English expressions which were presented in the previous class.

(前回の短い英語表現を記憶する)

環境学A (食料生産と環境保全)

Environmental Studies A

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 梅崎輝尚(生物資源学部)

授業の概要 人口増加によって引き起こされる環境破壊について現状を認識し、人類の生存に必要な不可欠な食料の生産と環境保全に関する知識を身につけるとともにプレゼンテーションの方法を学ぶ。

学習の目的 各自が設定した食料生産と環境保全に関するテーマについての問題点や解決方法を発表・討議を通して理解するとともに自ら考える能力を身につける。

学習の到達目標

1. 食料生産と環境問題についてのテーマを各自の興味・視点で自ら設定・選択することができる。
2. 多くの資料の中から客観的な情報を選択することができる。
3. 自ら設定したテーマについての背景、現状の把握、問題点、解決方法を簡潔かつ的確にまとめることができる。
4. 自ら設定したテーマを分かりやすく簡潔に発表することができる。
5. 協調的あるいは批判的にそれぞれのテーマを捉え、討議・討論することができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 環境、環境保全、食料、食料生産、食料安全保障、人口増加

Key Word(s) Environment, Environmental protection, Food, Food production, Food security, Population explosion

学習内容

第1回 ガイダンス(発表テーマの決定)

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 講義の中で必要に応じて指示する。

成績評価方法と基準 研究報告の内容と方法(70%)ならびに討議への参加程度(30%)で評価する。

オフィスアワー 月曜日(12:15~13:00)、生物資源学部棟3階358室

授業改善への工夫 学生が興味を持ったテーマについて発表してもらう際に、他の学生の理解を助けるようなアドバイスを行う。

その他 ゼミナール形式のため、最低1回の研究報告と全体討議への積極的な参加を求める。受講人数制限 (30名)

第2回 講義「食料生産の実情と人口の動向」
第3~15回 学生によるテーマ別研究報告と討議
第16回 学生によるテーマ別研究報告と討議と総括

学習課題(予習・復習) 担当する研究報告の課題を選定し、資料収集・整理を行い、プレゼンテーションの準備をする。必要があれば報告後、追加資料を作成する。

環境学A (環境問題と地球A)

Environmental Studies A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 ブライアン・ジェームス・マホニー(非常勤講師)

授業の概要 To study and evaluate various environmental issues relating to global warming, biodiversity, our planet earth and to begin to recognize the impact these pose to life and sustainability.

学習の目的 For students to develop a greater awareness of the environment and global issues relating to it. To understand differing views that help shape the dynamics of the movements for global change. And for students to learn the basics of the language used to discuss these topics on the global stage.

学習の到達目標 For students to develop a greater awareness and appreciation for the environment. To gain a better understanding of the vital roles that systems of ecology play in our lives. To reconnect with nature in ways that benefit our planet Earth.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 This is an English content class and therefore a strong background in English writing, reading and communication is necessary. For Japanese students an above average score of at least 600 on the TOEIC test or similar test(s) is necessary. Overseas study and/or international exchange experience is also a plus.

発展科目 With a committed effort, students will gain a better understanding of the language used and the key and controversial issues relating to the global environment. Students will have opportunities for group discussion. Essay and slide show presentations will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English.

教科書 (Details will be given in our class introduction). English dictionary/thesaurus is required. A4 size notebook is also necessary for note taking. Additional materials will be provided by the instructor.

参考書 Environmental Documentary and Film: Several titles throughout the course will be presented in order to provide additional support to subject matter. These films will be shown in English/Japanese with English/Japanese subtitles. Titles to be shown include, "At The Edge of the World," "The Cove," "The Mountain Patrol," amongst others.

成績評価方法と基準 Participation/Reflection Papers 50%, Homework Assignment 25%, Final Work Assignment 25%. Interested students please note-Class begins on Day One.

オフィスアワー Friday after class: 12:00 ~12:30.

その他 Please note that a short essay may be required prior to official acceptance into this class.

授業計画・学習の内容

キーワード 環境問題、私たちの地球、生物多様性、エコシステム、伝統と文化

Key Word(s) Environmental Issues, Our Planet Earth, Biodiversity, Eco-Systems, Tradition & Culture

学習内容

Class 1: Class introduction/Topic for Discussion.

Class 2~7: Topics for discussion. Reading assignments/homework.

Class 8: Environmental topic essay introduction.

Class 9~13: Topics for discussion. Reading as-

signments/homework.
Environmental essay development.

Class 14-15: Small group presentations/
slideshow.

音楽文化論 (西洋音楽の流れ)

Music civilization

学期 前期 開講時間 金 5,6 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 三浦健一

授業の概要 古代社会から中世、近世へ至る西洋の歴史の流れの中で、人間と音楽がどのように関わり、音楽をどのように捉えてきたかを講義する。

学習の到達目標 西洋古代から近世にかけて音楽の思想、作曲様式などの展開の過程を理解する

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養

教科書 特にないが各テーマごとに講義の中で指摘する

成績評価方法と基準 定期テスト50%、レポート40%、出欠席10% 定期テスト、レポート及び出欠席で総合判定

授業計画・学習の内容

キーワード 西洋音楽の流れ

学習内容

授業内容

第1回 ガイダンス

第2回～第5回 音楽起源説を出発点に古代社会にみられる呪術的、魔術的音楽観について

第6回～第8回 古代ギリシャにおける様々な音楽の実践と理論、音楽思想について

第9回～第12回 西洋中世前期の学問としての音楽の在り方とキリスト教音楽思想そしてグレゴリオ聖歌について

第13回～第16回 西洋中世後期の感性的、感覚的な音楽の把握、そして近世に向けての芸術、技術としての音楽の在り方について

以上が本講義の主な内容であるが、プリント資料、CD、テープを活用しながら授業を進めていきたい。

音楽文化論 (西洋音楽の流れ)

Music civilization

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 三浦健一

授業の概要 古代社会から中世、近世へ至る西洋の歴史の流れの中で、人間と音楽がどのように関わり、音楽をどのように捉えてきたかを講義する。

学習の到達目標 西洋古代から近世にかけて音楽の思想、作曲様式などの展開の過程を理解する

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養

教科書 特にないが各テーマごとに講義の中で指摘する

成績評価方法と基準 定期テスト50%、レポート40%、出欠席10% 定期テスト、レポート及び出欠席で総合判定

授業計画・学習の内容

キーワード 西洋音楽の流れ

学習内容

授業内容

第1回 ガイダンス

第2回～第5回 音楽起源説を出発点に古代社会にみられる呪術的、魔術的音楽観について

第6回～第8回 古代ギリシャにおける様々な音楽の実践と理論、音楽思想について

第9回～第12回 西洋中世前期の学問としての音楽の在り方とキリスト教音楽思想そしてグレゴリオ聖歌について

第13回～第16回 西洋中世後期の感性的、感覚的な音楽の把握、そして近世に向けての芸術、技術としての音楽の在り方について
以上が本講義の主な内容であるが、プリント資料、CD、テープを活用しながら授業を進めていきたい。

国際理解特殊講義 (立憲君主制)

Special course for international understanding

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要

血統原理や世襲原理に基づく君主を戴く国家は、わが国をはじめとして実は少なくない。君主が有する権能は歴史上、また国によって様々である。

この授業では二十世紀以降の立憲君主制を主たる対象として、その諸相に近年の研究成果に拠って迫りたい。

学習の目的 高等学校レベルのしばしば断片的な世界史、日本史、政治経済等の知識を、まとまりある活用可能なものに発展させる。

学習の到達目標

研究に基づいて歴史が書かれていることを知る。

研究の発展が歴史観を変えることを、先端的な研究を通じて体得する。

一つの事柄になぜ複数の解釈や見方があるのかを知る。

歴史上の出来事や人物について、世間には誤ったイメージが流布していることに気付く。

歴史というものは残念なことに、イデオロギーや政治的意図によって歪曲されることもあることを認識する。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

①本授業のテーマに関心を抱いていること。

授業計画・学習の内容

キーワード 君主制、立憲主義

学習内容

第1回 セミナーの運営方針等についての説明、受講者認定

②高等学校における日本史、世界史、政治経済、現代社会等の社会科関係科目に関する総合的知識の有無が受講の難易を左右することが多いかもしれない。この点で不安のある学生は必要な努力を惜しまないこと。

③初回の授業に出席すること。

発展科目 歴史学や社会科学系(政治学、法学、経済学など)の諸科目。

教科書

テキストの候補を以下に挙げておく。

Kaiser Wilhelm II .New Interpretations, 2005

Vernon Bogdanor, The Monarchy and the Constitution, 1995

伊藤之雄『明治天皇』ミネルヴァ書房

原武史『大正天皇』朝日新聞社

古川隆久『大正天皇』吉川弘文館

牧原憲夫『民権と憲法』岩波新書

古川隆久『昭和天皇』中公新書

伊藤之雄『昭和天皇伝』文藝春秋

加藤陽子『昭和天皇と戦争の世紀』講談社、など。

成績評価方法と基準

発表点6割、発言点4割。

発表の水準が十分でない場合にはレポート提出等を追加的に課す。

授業改善への工夫 セミナー参加者の学習状況(基礎知識の水準、知的志向など)に配慮すると共に、できる限り要望を取り込んでいきたい。

その他 指定したテキスト等は必ず入手すること。

人数が多数の場合は小レポート・抽選等の手段で選抜するので、受講を希望する者は必ず出席すること。受講認定を受けていない場合、履修登録をしても単位を付与する対象とはならない。

第2回 セミナーのテーマ、及び文献について紹介。参加者の関心等も顧慮しつつ、研究テーマの分担を行うとともに、第3回以降数回分について研究報告の担当者を決定する。

第3回～第15回 指定した文献を題材として担当者が報告を行い、それに基づいて参加者全員で議論する。

学習課題（予習・復習）

1.各グループまたは個人は研究テーマに関する文献・資料等を入念に調べるなどして、質問や議論に対応できるよう、報告のための十分な準備をすること。

2.報告の際には必ずレジюме(報告内容に関する要約)を作成して参加者に配布すること。

3.報告担当者以外の受講者は、必ず予習をした上で議論に参加しなければならない。

国際理解特殊講義 (文化の意義を考え直す)

Special course for international understanding

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 ○グットマンティエリー (人文学部)、江成 幸 (人文学部)、吉田 悦子 (人文学部)、グットマン 佳子、生田 ゆき (三重県立美術館)、小澤 毅 (人文学部)、北川 真也 (人文学部)、相澤 康隆 (人文学部)、古瀬 啓之 (人文学部)、岩本 美砂子 (人文学部)、吉野 由起 (人文学部)、深井 英喜 (人文学部)、藤田 伸也 (人文学部)

授業の概要 「法律」、「政治」、「経済」等と比べて「文化」という概念は非常に漠然としたものである。なぜなら「文化」としてみなされるモノは人によって様々であるからだ。この授業のために次の最小定義をしておこう。文化というのは、人間が集団で作り上げてきた生活方式、システム、価値体系、信仰、芸術である。そして、「文化の意義」を考える、つまり、「人間はなぜ文化を形成するのか」という素朴な疑問がこの授業の各講義の共通の出発点である。様々な分野の観点から数多くの世界中の具体例を通じてそれぞれに特有の文化の意義を考え直す作業を行う。

学習の目的 文化の様々な形に気づき、文化の意義を改めて認識することを目標にする。

学習の到達目標 文化の意義についてレポート等を書けるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、幅広い教養、情報発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 比較文化 文化の意義

Key Word(s) comparative culture, the meaning of culture

学習内容

1. 「美術における日本的とは何か」藤田伸也
2. 「おとぎ話の「発見」：ロマン派期イギリスにおける民話の位置」吉野 由起
3. 「日本文化とジェンダー」岩本美砂子

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 教科書はありません。

参考書 必要に応じて担当者がプリント等を配布します。

成績評価方法と基準

レポート60% (30%×2)、平常点40%

○受講者は特に興味を持った講義2つを選び、レポートを作成する。レポートのテーマ、書式等については、各担当講師が講義の際に指示します。担当者からレポートの分量の指示がない場合は、2000字程度とします。

○この授業では様々な講師を招き、いろいろな分野の講義を聴いて、学生諸君の視野を広げてもらうことを目標にしています。ですから成績は平常点を重視します。

オフィスアワー 毎週の木曜日14:40～16:10、GUTHMANN研究室(人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 FD(Faculty Development)プログラム、学生の授業評価アンケートの結果を参考にし、常に改善に努めている。

4. 「考古遺物が語る文化交流」小澤 毅
5. 「もうひとつのジャポニスム 型紙とモダンデザイン」生田ゆき
6. 「結婚、文化の結合あるいは衝突」グットマン 佳子
7. 「文化交流と国家間関係」古瀬 啓之
8. 「地中海の「歓待」文化？—イタリアの境界地帯における移民の受入／排除」北川真也
9. 「文化相対主義の思想」相澤 康隆
10. 「アメリカの越境文化—メキシコ系移民

による芸術表現」江成 幸

11. 「職場のディスコースから探る異文化間コミュニケーションの課題」吉田 悦子

12. 「福祉国家レジームと文化」深井英喜

13. 「日本人論における比較文化：集団アイデンティティの形成」

グットマン・ティエリー

国際理解特殊講義 (植民地主義について)

Special Studies on International Understanding

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 植民地主義の問題を幅広い射程から捉えるため、イギリス、オーストラリア、フランスといった地域を中心に植民地政策のあり方を考察し、植民地主義の全体像について把握していく。特に本授業では、西洋諸国の介入を受けた被抑圧者側の視点に注目していきたい。例えばオーストラリアの植民地主義について考察していく場合、宗主国であるイギリス政府の植民地主義政策を概観しつつも、オーストラリアの先住民であるアボリジナルの人々に注目し、彼らの目線からみた植民地主義について考えていく。加えて、フランツ・ファノン、チャールズ・ディケンズ、ジョゼフ・コンラッドなど植民地の経験を書き残した人々の著作活動にも触れ、個々人が植民地主義をどのように経験していったのかに注目していきたい。

学習の目的

- ・現代のグローバル社会で起きている国家間や民族間の争いが、植民地主義時代に端を発するものも少なくないことを理解できる。
- ・西洋の植民地主義に介入を受けた非西洋諸国の人々が、未だに植民地主義時代に構造化された西洋中心の支配体制に影響を受けていることを学ぶことで、過去と現在の連続的な歴史背景を学ぶ。

授業計画・学習の内容

キーワード 植民地主義、抑圧者と被抑圧者、植民地主義下における被抑圧者たちの経験と記憶

Key Word(s) Colonialism, Coloniser and Colonised, local experiences and memories to be governed by the Western Other

学習内容

講義と演習

第1回 講義：植民地主義についての概説を講義形式でおこなう

第2回 演習：イギリスの植民地主義政策につい

学習の到達目標

- ・地域によって様々に異なる植民地主義政策ではあるが、幾つかの共通点があることを理解する。
- ・異文化の他者を従属させてきた西洋諸国の支配の仕組みを批判的に分析することができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は強く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日 11:00~12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば演習中に読む著作を変更するなど柔軟に対処していきたい。

て関連資料を読む

第3回 演習：イギリスの植民地主義政策について関連資料を読む

第4回 演習：ジョゼフ・コンラッドの『闇の奥』を読む

第5回 演習：関連映像資料をみる（映画『ガンジー』）

第6回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』などを読む1

第7回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』な

どを読む2

第8回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』などを読む3

第9回 演習：チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』を読む

第10回 演習：関連映像資料をみる（『裸足の1500マイル』）

第11回 演習：平野千果子の『フランス植民地主義の歴史』を読む

第12回 演習：フランツ・ファノンの『黒い皮膚・白い仮面』を読む

第13回 演習：今福龍太の『クレオール主義』を読む

第14回 演習：関連映像資料をみる（『遠い夜明け』）

第15回 講義：全体のまとめを講義形式でおこなう

学習課題（予習・復習）

- ・授業中に書き取ったノートを帰宅後に復習すること。
- ・次の授業で読む本を自宅で熟読してこること。

国際理解特殊講義 (植民地主義について)

Special Studies on International Understanding

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 植民地主義の問題を幅広い射程から捉えるため、イギリス、オーストラリア、フランスといった地域を中心に植民地政策のあり方を考察し、植民地主義の全体像について把握していく。特に本授業では、西洋諸国の介入を受けた被抑圧者側の視点に注目していきたい。例えばオーストラリアの植民地主義について考察していく場合、宗主国であるイギリス政府の植民地主義政策を概観しつつも、オーストラリアの先住民であるアボリジナルの人々に注目し、彼らの目線からみた植民地主義について考えていく。加えて、フランツ・ファノン、チャールズ・ディケンズ、ジョゼフ・コンラッドなど植民地の経験を書き残した人々の著作活動にも触れ、個々人が植民地主義をどのように経験していったのかに注目していきたい。

学習の目的

- ・現代のグローバル社会で起きている国家間や民族間の争いが、植民地主義時代に端を発するものも少なくないことを理解できる。
- ・西洋の植民地主義に介入を受けた非西洋諸国の人々が、未だに植民地主義時代に構造化された西洋中心の支配体制に影響を受けていることを学ぶことで、過去と現在の連続的な歴史背景を学ぶ。

授業計画・学習の内容

キーワード 植民地主義、抑圧者と被抑圧者、植民地主義下における被抑圧者たちの経験と記憶

Key Word(s) Colonialism, Coloniser and Colonised, local experiences and memories to be governed by the Western Other

学習内容

講義と演習

第1回 講義：植民地主義についての概説を講義形式でおこなう

第2回 演習：イギリスの植民地主義政策について

学習の到達目標

- ・地域によって様々に異なる植民地主義政策ではあるが、幾つかの共通点があることを理解する。
- ・異文化の他者を従属させてきた西洋諸国の支配の仕組みを批判的に分析することができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は強く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日 11:00~12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば演習中に読む著作を変更するなど柔軟に対処していきたい。

て関連資料を読む

第3回 演習：イギリスの植民地主義政策について関連資料を読む

第4回 演習：ジョゼフ・コンラッドの『闇の奥』を読む

第5回 演習：関連映像資料をみる（映画『ガンジー』）

第6回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』などを読む1

第7回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』な

どを読む2

第8回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』などを読む3

第9回 演習：チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』を読む

第10回 演習：関連映像資料をみる（『裸足の1500マイル』）

第11回 演習：平野千果子の『フランス植民地主義の歴史』を読む

第12回 演習：フランツ・ファノンの『黒い皮膚・白い仮面』を読む

第13回 演習：今福龍太の『クレオール主義』を読む

第14回 演習：関連映像資料をみる（『遠い夜明け』）

第15回 講義：全体のまとめを講義形式でおこなう

学習課題（予習・復習）

- ・授業中に書き取ったノートを帰宅後に復習すること。
- ・次の授業で読む本を自宅で熟読してこること。

国際理解特殊講義 (異文化理解A)

Lecture Course in International Understanding

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山根 裕子 (非常勤講師)

授業の概要

異文化間コミュニケーションの理解を深めながら、国際性を高め、各々の分野で社会貢献していく為の基礎作りをサポートします。
(定員15名)

While increasing the understanding of cross-cultural communication, the class will provide the foundation for international perspective and social contribution.(Maximum 15 students)

学習の目的

- 1) 異文化間コミュニケーションの理解を深める
- 2) ディスカッションを通して国際的な視野を広げる
- 3) 英語能力を高める
- 4) 国際交流や異文化理解を促進する。

- 1) increase the understanding of cross-cultural communication
- 2) broaden international perspective
- 3) increase English competency
- 4) increase international relationship and cross-cultural understanding.

学習の到達目標

- 1) 異文化間コミュニケーションの理解が深まる
- 2) ディスカッションを通して国際的な視野が広がる
- 3) 英語能力が高まる
- 4) 国際交流や異文化理解が高まる。

- 1) The understanding of cross-cultural communication will be increased
- 2) international perspective will be broadened
- 3) English competency will be increased
- 4) International relationship and cross-cultural understanding will be increased.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

基本的な英語能力, または予習・復習などを通して学習する意欲

Basic English competency or intention to study through preparation and review

予め履修が望ましい科目

英語授業
English language courses

教科書

教科書はとくに指定しない。ビデオ、各種配布資料を活用する。

No textbook. Videos and handouts are used.

参考書

異文化コミュニケーションに関する参考資料
Information and handouts related to cross-cultural communication

成績評価方法と基準

口頭発表50%、積極的参加50%

Evaluation: Oral Presentation 50%; Active Participation 50%

授業改善への工夫

英語での授業がスムーズにいくように、学生の英語能力のサポートを心がけ、ビデオやスライドなども使って、学生のトピックに関する興味と学習意欲を高める工夫をする。

Instructor will make an effort to improve students' English competency and increase their interests and learning through use of video and slideslides

授業計画・学習の内容

キーワード

異文化間コミュニケーション, 異文化理解、国際感覚, 社会貢献

Cross-cultural communication, Cross-cultural understanding, International perspective, Social contribution

学習内容

第1回 世界における言語集団の分布とその文化：Distribution of linguistic family and culture in the world

第2回 アマゾンの森にすむヤノマミ族に関する映像鑑賞：Video of Yanomami people who are living in deep forest of Amazon

第3回 日本あるいは日本人とは何か？日本史の略史：What is Japan or Japanese? Brief history of Japan

第4回 タンザニアの山地農業と文化1：Agriculture and Culture of the Mountainous region of Tanzania1

第5回 タンザニアの山地農業と文化2：Agriculture and Culture of the Mountainous region in Tanzania2

第6回 世界のフードシステムの現状：Current situation food system in the world

第7回 ケニアの牧畜民の文化：Culture of the pastoralist in Kenya

第8回 東南アジアの歴史と生活：History and livinghood of South east asia

第9回 北アメリカに関する映像鑑賞：Video of North America

第10回 南米の歴史と生活（インカ文明を中心に）：History and livinghood of South America (Mainly Inca civilization)

第11回 市場経済と金融経済のグローバル化：Globalization of capitalism and financial economy

第12回 文明崩壊—過去の社会—：Collapse of Society -Ancient society-

第13回 文明崩壊—現在の社会—：Collapse of Society -Modern society-

第14回 世界史の構造：Structure of world history

第15回 平等とは何か？：What is Equality？

第16回 レポート執筆：Report writing

国際理解特殊講義 (異文化理解B)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山根 裕子 (非常勤講師)

授業の概要

異文化間コミュニケーションの理解を深めながら、国際性を高め、各々の分野で社会貢献していく為の基礎作りをサポートします。(定員15名)

While increasing the understanding of cross-cultural communication, the class will provide the foundation for international perspective and social contribution.(Maximum 15 students)

学習の目的

- 1) 異文化間コミュニケーションの理解を深める
- 2) ディスカッションを通して国際的な視野を広げる
- 3) 英語能力を高める
- 4) 国際交流や異文化理解を促進する。

- 1) increase the understanding of cross-cultural communication
- 2) broaden international perspective
- 3) increase English competency
- 4) increase international relationship and cross-cultural understanding.

学習の到達目標

- 1) 異文化間コミュニケーションの理解が深まる
- 2) ディスカッションを通して国際的な視野が広がる
- 3) 英語能力が高まる
- 4) 国際交流や異文化理解が高まる。

- 1) The understanding of cross-cultural communication will be increased
- 2) international perspective will be broadened
- 3) English competency will be increased
- 4) International relationship and cross-cultural understanding will be increased.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

基本的な英語能力, または予習・復習などを通して学習する意欲

Basic English competency or intention to study through preparation and review

予め履修が望ましい科目

英語授業
English language courses

教科書

教科書はとくに指定しない。ビデオ、各種配布資料を活用する。

No textbook. Videos and handouts are used.

参考書

異文化間コミュニケーションにかんする参考資料

Information and handouts related to cross-cultural communication

成績評価方法と基準

口頭発表50%、積極的参加50%

Evaluation: Oral Presentation 50%; Active Participation 50%

授業改善への工夫

英語での授業がスムーズにいくように、学生の英語能力のサポートを心がけ、ビデオやスライドなども使って、学生のトピックに関する興味と学習意欲を高める工夫をする。

Instructor will make an effort to improve students' English competency and increase their interests and learning through use of video and slides

授業計画・学習の内容

キーワード

異文化間コミュニケーション, 異文化理解、国際感覚, 社会貢献

Cross-cultural communication, Cross-cultural understanding, International perspective, Social contribution

学習内容

第1回 世界における言語集団の分布とその文化：Distribution of linguistic family and culture in the world

第2回 アマゾンの森にすむヤノマミ族に関する映像鑑賞：Video of Yanomami people who are living in deep forest of Amazon

第3回 日本あるいは日本人とは何か？日本史の略史：What is Japan or Japanese? Brief history of Japan

第4回 タンザニアの山地農業と文化1：Agriculture and Culture of the Mountainous region of Tanzania1

第5回 タンザニアの山地農業と文化2：Agriculture and Culture of the Mountainous region in Tanzania2

第6回 世界のフードシステムの現状：Current situation food system in the world

第7回 ケニアの牧畜民の文化：Culture of the pastoralist in Kenya

第8回 東南アジアの歴史と生活：History and livinghood of South east asia

第9回 北アメリカに関する映像鑑賞：Video of North America

第10回 南米の歴史と生活（インカ文明を中心に）：History and livinghood of South America (Mainly Inca civilization)

第11回 市場経済と金融経済のグローバル化：Globalization of capitalism and financial economy

第12回 文明崩壊—過去の社会—：Collapse of Society -Ancient society-

第13回 文明崩壊—現在の社会—：Collapse of Society -Modern society-

第14回 世界史の構造：Structure of world history

第15回 平等とは何か？：What is Equality?

第16回 レポート執筆：Report writing

国際理解特殊講義 (世界遺産と私たちA)

Lecture Course in International Understanding

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 ブライアン・ジェームス・マホニー

授業の概要 To introduce, explore and reflect upon the many Wonders, both natural and made-made, that exist around our world.

学習の目的 This course will introduce the student to several amazing wonders, some natural, some man-made, around our world and focus on understanding key points of interest associated with each of these wonders. The importance of these wonders in our world and also the threats that these wonders face will be examined and discussed at length.

学習の到達目標 For students to develop a greater awareness and appreciation for each of these World Wonders. To gain a better understanding of the vital roles that each has played throughout our histories, and to appreciate their importance in our present lives.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 This is an English content class and therefore a strong background in English writing, reading and communication is necessary. For Japanese students an above average score of at least 600 on the TOEIC test or similar test(s) is necessary. Overseas study and/or international exchange experience is also a plus.

発展科目 With a committed effort, students will gain a better understanding of many key

natural and man-made wonders around our world. Reflecting on the past and present circumstances surrounding these various wonders, students will be encouraged to explore global issues in relation to the wonders in our world. Extensive reading, film and documentary, oral presentation and written essay will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English.

教科書 (Details will be given in our class introduction). English dictionary/thesaurus is required. A4 size notebook is also necessary for note taking. Additional materials will be provided by the instructor.

参考書 Documentary and Film: Several titles throughout the course will be presented in order to provide additional support to subject matter. These films will be shown in English/Japanese with English/Japanese subtitles. Titles to be shown include, "River at Risk: Grand Canyon Adventure", "Antonio Gaudi", amongst others.

成績評価方法と基準 Participation/Final Work Assignment 50%. Two Homework Assignments 25% each. Interested students please note-Class begins on Day One.

オフィスアワー Friday after class: 12:00 ~12:30.

その他 Please note that a short essay may be required prior to official acceptance into this class.

授業計画・学習の内容

キーワード 世界遺産、保存、修復、芸術、神話

Key Word(s) World Heritage, Preservation, Restoration, Art and Myth

学習内容

Week 1, 2, 3 - Class Introduction: "Grand Canyon Adventure." River at risk. The Grand Canyon and Colorado River. Arizona State, the United States.

Week 4, 5 – “Petra- city of pink stone.” Forgotten for over a thousand years. Jordan, Middle East.

Week 6, 7, 8 – “The Serengeti Migration.” Dangerous journey. Kenya & Tanzania, East Africa.

Week 9, 10, 11 – “Angkor Wat.” Rainforest tem-

ple. Cambodia, Southeast Asia.

Week 12, 13, 14 – “The Iguazu Falls.” Heavenly waterfalls. Brazil & Argentina, South America.

Week 15, 16– “Chichen Itza.” Sunset snake. Southern Mexico. Central America.

国際理解特殊講義 (世界遺産と私たちB)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 ブライアン・ジェームス・マホニー

授業の概要 To introduce, explore and reflect upon the many Wonders, both natural and made-made, that exist around our world.

学習の目的 This course will introduce the student to several amazing wonders, some natural, some man-made, around our world and focus on understanding key points of interest associated with each of these wonders. The importance of these wonders in our world and also the threats that these wonders face will be examined and discussed at length.

学習の到達目標 For students to develop a greater awareness and appreciation for each of these World Wonders. To gain a better understanding of the vital roles that each has played throughout our histories, and to appreciate their importance in our present lives.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 This is an English content class and therefore a strong background in English writing, reading and communication is necessary. For Japanese students an above average score of at least 600 on the TOEIC test or similar test(s) is necessary. Overseas study and/or international exchange experience is also a plus.

発展科目 With a committed effort, students will gain a better understanding of many key

natural and man-made wonders around our world. Reflecting on the past and present circumstances surrounding these various wonders, students will be encouraged to explore global issues in relation to the wonders in our world. Extensive reading, film and documentary, oral presentation and written essay will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English.

教科書 (Details will be given in our class introduction). English dictionary/thesaurus is required. A4 size notebook is also necessary for note taking. Additional materials will be provided by the instructor.

参考書 Documentary and Film: Several titles throughout the course will be presented in order to provide additional support to subject matter. These films will be shown in English/Japanese with English/Japanese subtitles. Titles to be shown include, "River at Risk: Grand Canyon Adventure", "Antonio Gaudi", amongst others.

成績評価方法と基準 Participation/Final Work Assignment 50%. Two Homework Assignments 25% each. Interested students please note-Class begins on Day One.

オフィスアワー Friday after class: 12:00 ~12:30.

その他 Please note that a short essay may be required prior to official acceptance into this class.

授業計画・学習の内容

キーワード 世界遺産、保存、修復、芸術、神話

Key Word(s) World Heritage, Preservation, Restoration, Art and Myth

学習内容

Week 1, 2, 3 - Class Introduction: "Grand Canyon Adventure." River at risk. The Grand Canyon and Colorado River. Arizona State, the United States.

Week 4, 5 –“The Alhambra.” Court of Lions.
Granada, Spain.

Week 6, 7, 8 –“The Lights of the Aurora.” North-
ern and Southern lights.Northern and South-
ern Hemisphere.

Week 9, 10, 11 – “Kyoto, Japan.” Moss gardens

& wooden temples.Kyoto & Nara, Japan.

Week 12, 13, 14 – “The Great Barrier Reef.”
Coral reef islands.Australia.

Week 15, 16– “Qin’s Last Army.” Secrets under-
ground.China.

国際理解特殊講義 (国際協力入門)

Lecture Course in International Understanding

学期 前期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○・国際交流センター長, 長縄真吾(国際交流センター特任准教授), JICA職員他の招聘講師 (オムニバス形式)

授業の概要 JICA (独立行政法人国際協力機構) との連携講座。国際協力の現場に様々な立場で関わる実務者や教員によりオムニバス形式で講義を行う。国際協力の最前線での活動・体験談を通して、開発途上国の開発問題についてグローバルな視野を得るとともに、自身のキャリア形成への気づきを得ることを目的とする。

学習の目的

- ・貧困、環境、感染症、平和構築等のグローバル 이슈と途上国の開発問題について基本的な知識を得る。
- ・日本および国際社会の様々なアクター (政府、市民社会、民間企業、国際機関、NGO 等) による国際協力の取り組みについて理解する。
- ・国際協力の最前線で取り組む実務者による体験談を通して、国際協力や国際ボランティアに取り組むためのきっかけを得る。

学習の到達目標 ・上記「学習の目的」を通じて、国際協力をめぐるイシューについて、自分自身の意見を持ち、グローバル社会の一

員としての見識と行動力を持つ。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、幅広い教養、課題探求力、批判的思考力、情報受信能力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 地域学：海外体験実習ベトナム

参考書 国際協力 (新版) ～その新しい潮流 (下村恭民他、著)

成績評価方法と基準 レポート50%、振り返りシート30%、授業での発言等参加姿勢20%

オフィスアワー 長縄 真吾 月～金 10:00～18:00 場所：総合研究棟II 2F 国際交流チーム事務室内 (事前の連絡が望ましい)

授業改善への工夫 質疑応答や学生同士のディスカッションの機会を複数回設け、能動的な授業を行います。

授業計画・学習の内容

キーワード 国際協力、ODA、NGO、国際ボランティア、開発途上国、地球規模課題

Key Word(s) International Cooperation, ODA(Official Development Assistance)、NGO (Non-Governmental Organization)、Overseas Volunteer, Developing Countries, Global Issues

学習内容

JICA、NGO、青年海外協力隊、民間企業、大学教員等さまざまな立場で国際協力に関わってきた専門家・実務者を招いてオムニバス形式による授業を行う。

- 1.国際協力概論、三重大学による国際協力の取り組み
- 2.国際保健医療
- 3.貧困問題、ジェンダーとミレニアム開発目標
- 4.①国際協力の仕事とキャリア形成、②南スーダンでの国造り
- 5.インドネシアにおける日本のODA
- 6.①ODAと民間企業、②対中国ODA～環境分野を事例に
- 7.防災分野における国際協力
- 8.中間グループディスカッション
- 9.民間企業による国際協力～コロンビアの森林環境保全

- 10.NGOによる国際協力～ウガンダ北部の元子供兵社会復帰支援支援
- 11.世にもユニークな国・ブータン～幸せの国に学ぶ
- 12.多文化共生と在住外国人
- 13.コミュニティ開発・参加型開発
- 14.JICA青年海外協力隊参加者による体験談

- 15.演習・ディスカッション
(上記の他、希望者のみJICA中部なごや地球ひろば（於：名古屋市）への訪問を6月10日（土）に予定)

学習課題（予習・復習） 必要に応じ、各講義の前週に事前に読むべき資料を配布予定。

国際理解特殊講義 (英語論文作成演習A)

Lecture Course in International Understanding

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 フロイド・マクダニエル (非常勤講師)

授業の概要 The goal is to write a research and/or thesis paper suitable for submission at a foreign university or international seminar.

学習の目的 I aim to teach students more than just creating a paper written in English, but rather one written in a style suitable for an American or other English speaking university. We will incorporate the format, style, logic, research, opinion v. fact, and other elements necessary, and which may be different from traditional Japanese research papers.

学習の到達目標 Upon completing the course, students should (a) grasp understand one method for writing and revising a research paper appropriate in English, and (b) have a completed research paper which may become part of the student's portfolio or writing samples.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2010 was the first year that this class was offered. Since then, I have taught the topic at least 9 times. I have become comfortable teaching it and I will now vary the speed and contents of the course to better suit the average level of student in the immediate semester. However, this is always a high level English course and will be taught AND discussed in English only.

予め履修が望ましい科目 I do not know of

any course at Mie University which is similar to this one. Therefore, let me say this again: students MUST have a VERY high level of English listening and writing ability before even considering this class. It is taught 100% in English, at American university level and speed.

教科書 "Basic Steps to Writing Research Papers" by: David E. Kluge and Matthew A. Taylor, CENGAGE Learning ISBN 978-4-902902-89-1

参考書 Any other materials which I use will be distributed during class. Students will be responsible for their own research outside the textbook and other classroom materials.

成績評価方法と基準 Grading will be based primarily on the finished paper and the effort put forth by the student during the semester. Students are EXPECTED to attend every class. If the student must miss class, they will need to get the day's notes and assignment from another student.

オフィスアワー As I am a part-time instructor at Mie University, I do not maintain any office hours. However, I can be contacted readily through electronic media. The appropriate means will be discussed in class.

その他 We will begin working on writing research papers on WEEK ONE. Therefore, any student who wishes to join this class must begin on WEEK ONE, not week two or week three. Students should be in this class prepared to work *immediately*. If you do, you can learn and accomplish a lot. If you do not intend to work, please do NOT take this class.

授業計画・学習の内容

学习内容

Week 1 - Deciding general topics, differences between "laboratory research papers" and "library research papers"

Week 2 - Narrowing your topic, defining what a good topic is, as well as a topic narrow enough to cover in the paper

Week 3 - Writing a thesis statement and beginning a working outline

Week 4 - Revising thesis statement and outline

Week 5 - Essay spelling, typing and formatting. Appropriate word choices for research papers.

Week 6 - First series of individual meetings with the teacher

Week 7 - Introducing "the first draft" and writing an introduction.

Week 8 - Revising the introduction

Week 9 - Writing the body. Using solid support, accuracy and logic.

Week 10 - Revising the body - transitions and grammar.

Week 11 - Writing the conclusion

Week 12 - Second meeting with the teacher, first detailed peer review of first draft

Week 13 - Review of completed first draft with the teacher, initial peer review and feedback from students.

Week 14 - Checking for plagiarism, writing the bibliography.

Week 15 - Final meetings with teacher and final peer reviews.

Week 16 - Submission of the final draft to the teacher.

(This schedule will always change slightly depending upon the number of students in class, their abilities, and the variety of subjects being written about. Please view this syllabus as a general outline. There will be variations.)

国際理解特殊講義 (英語論文作成演習B)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 フロイド・マクダニエル (非常勤講師)

授業の概要 The goal is to write a research and/or thesis paper suitable for submission at a foreign university or international seminar.

学習の目的 I aim to teach students more than just creating a paper written in English, but rather one written in a style suitable for an American or other English speaking university. We will incorporate the format, style, logic, research, opinion v. fact, and other elements necessary, and which may be different from traditional Japanese research papers.

学習の到達目標 Upon completing the course, students should (a) grasp understand one method for writing and revising a research paper appropriate in English, and (b) have a completed research paper which may become part of the student's portfolio or writing samples.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2010 was the first year that this class was offered. Since then, I have taught the topic at least 9 times. I have become comfortable teaching it and I will now vary the speed and contents of the course to better suit the average level of student in the immediate semester. However, this is always a high level English course and will be taught AND discussed in English only.

予め履修が望ましい科目 I do not know of

any course at Mie University which is similar to this one. Therefore, let me say this again: students MUST have a VERY high level of English listening and writing ability before even considering this class. It is taught 100% in English, and the English is American university level and speed.

教科書 "Basic Steps to Writing Research Papers" by: David E. Kluge and Matthew A. Taylor, CENGAGE Learning ISBN 978-4-902902-89-1

参考書 Any other materials which I use will be distributed during class. Students will be responsible for their own research outside the textbook and other classroom materials.

成績評価方法と基準 Grading will be based primarily on the finished paper and the effort put forth by the student during the semester. Students are EXPECTED to attend every class. If the student must miss class, they will need to get the day's notes and assignment from another student.

オフィスアワー As I am a part-time instructor at Mie University, I do not maintain any office hours. However, I can be contacted readily through electronic media. The appropriate means will be discussed in class.

その他 We will begin working on writing research papers on WEEK ONE. Therefore, any student who wishes to join this class must begin on WEEK ONE, not week two or week three. Students should be in this class prepared to work *immediately*. If you do, you can learn and accomplish a lot. If you do not intend to work, please do NOT take this class.

授業計画・学習の内容

学习内容

Week 1 - Deciding general topics, differences between "laboratory research papers" and "library research papers"

Week 2 - Narrowing your topic, defining what a good topic is, as well as a topic narrow enough to cover in the paper

Week 3 - Writing a thesis statement and beginning a working outline

Week 4 - Revising thesis statement and outline

Week 5 - Essay spelling, typing and formatting. Appropriate word choices for research papers.

Week 6 - First series of individual meetings with the teacher

Week 7 - Introducing "the first draft" and writing an introduction.

Week 8 - Revising the introduction

Week 9 - Writing the body. Using solid support, accuracy and logic.

Week 10 - Revising the body - transitions and grammar.

Week 11 - Writing the conclusion

Week 12 - Second meeting with the teacher, first detailed peer review of first draft

Week 13 - Review of completed first draft with the teacher, initial peer review and feedback from students.

Week 14 - Checking for plagiarism, writing the bibliography.

Week 15 - Final meetings with teacher and final peer reviews.

Week 16 - Submission of the final draft to the teacher.

(This schedule will always change slightly depending upon the number of students in class, their abilities, and the variety of subjects being written about. Please view this syllabus as a general outline. There will be variations.)

国際理解特殊講義 (言葉と科学入門 I)

Special Seminar in International Studies: Intro.to Science and the Meaning of Words I

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **対象** Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。 **授業の方法** 講義, 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 ポッフマイア ジャスティン

授業の概要

You will learn to analyze English vocabulary into component parts based on the structure of the words themselves, and to understand the basic meaning of new vocabulary without the need of a dictionary. You will also learn why English words are spelled the way they are.

英語の語彙をそれぞれの構造によって部分に分析し、辞書要らずに新しい語彙の基本的な意味を理解することを学ぶ。その上、英語の言葉のスペルの故も学ぶ。

学習の目的

- ・ Acquire skills to analyze words into separate affixes and stems
- ・ Know the meanings of various affixes and stems
- ・ Understand the linguistic processes that synthesize affixes and stems into words
- ・ Gain insight into the historical and socio-political circumstances that influence language and orthography
- ・ 言葉を接辞と語幹に分析するスキルを習得する
- ・ 様々な接辞と語幹の意味を習う
- ・ 言葉に接辞と語幹を統合する言語の __ を理解する
- ・ 言語と字方を影響する歴史的で社会的な情勢に眼力を達成する

学習の到達目標

- ・ Understand new (scientific) words without needing a dictionary
- ・ Deepen your understanding of the meanings of words
- ・ Improve your English spelling
- ・ Learn how to make new terms
- ・ 辞書要らずに新しい(科学的な)語彙の意味を理解する
- ・ 言葉の意味を深める

- ・ 英語のスペル能力を磨く
- ・ 新しい(専門)単語の作り方を学ぶ

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

発展科目

- ・ Special Seminar in International Studies: Intro.to the Science and the Meaning of Words II
- ・ Intro.to Linguistics II
- ・ 国際理解特殊講義：言葉と科学入門 II
- ・ 言語学入門 II

教科書

Denning, Keith and Brett Kessler.2007.English Vocabulary Elements.Oxford University Press. ISBN: 0195168038 ISBN-13: 978-0195168037

成績評価方法と基準

Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and an in-class final exam.

成績評価は、講義準備 (宿題等)、講義中の態度 (グループ活動への取り組み姿勢等) と最終試験による。

オフィスアワー

By appointment.
予約を取ること。

その他

All readings and classroom instruction are con-

ducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、言語語学、分析、形態論、音韻論、医学語彙、科学語彙、言葉の歴史

Key Word(s) English, linguistics, analysis, morphology, phonology, medical terminology, scientific terminology, history of words

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: The Wealth of English

Session 3-4: History of English and Sources of English Vocabulary

Session 5-7: Morphology

Session 8-10: Phonetics

Session 11-12: Phonology and Allomorphy

Session 13-14: Regular Allomorphy

Session 15: Final Test

The above schedule is subject to change dependent upon students' needs.

第一回：紹介

第二回：英語の

第三～四回：英語の歴史と英語語彙の原因

第五～七回：形態論

第八～十回：音声学

第十一～十二回：音韻論と異形態

第十一～十二回：正規異形態

第十五回：最終試験

学生のニーズによって計画が変わる可能性がある。

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する。

国際理解特殊講義 (言葉と科学入門II)

Special Seminar in International Studies: Intro.to Science and the Meaning of Words II

学期 後期 **開講時間** 火7,8 **単位** 2 **対象** Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。 **授業の方法** 講義, 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 ポッフマイア ジャスティン

授業の概要

You will learn to analyze English vocabulary into component parts based on the structure of the words themselves, and to understand the basic meaning of new vocabulary without the need of a dictionary. You will also learn why English words are spelled the way they are.

英語の語彙をそれぞれの構造によって部分に分析し、辞書要らずに新しい語彙の基本的な意味を理解することを学ぶ。その上、英語の言葉のスペルの故も学ぶ。

学習の目的

- ・ Acquire skills to analyze words into separate affixes and stems
- ・ Know the meanings of various affixes and stems
- ・ Understand the linguistic processes that synthesize affixes and stems into words
- ・ Gain insight into the historical and socio-political circumstances that influence language and orthography
- ・ 言葉を接辞と語幹に分析するスキルを習得する
- ・ 様々な接辞と語幹の意味を習う
- ・ 言葉に接辞と語幹を統合する言語の__を理解する
- ・ 言語と字方を影響する歴史的で社会的な情勢に眼力を達成する

学習の到達目標

- ・ Understand new (scientific) words without needing a dictionary
- ・ Deepen your understanding of the meanings of words
- ・ Improve your English spelling
- ・ Learn how to make new terms
- ・ 辞書要らずに新しい(科学的な)語彙の意味を理解する

- ・ 言葉の意味を深める
- ・ 英語のスペル能力を磨く
- ・ 新しい(専門)単語の作り方を学ぶ

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

教科書

Denning, Keith and Brett Kessler.2007.English Vocabulary Elements.Oxford University Press. ISBN: 0195168038 ISBN-13: 978-0195168037

成績評価方法と基準

Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and an in-class final exam.

成績評価は、講義準備(宿題等)、講義中の態度(グループ活動への取り組み姿勢等)と最終試験による。

オフィスアワー

By appointment.
予約を取ること。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、言語語学、分析、形態論、音韻論、医学語彙、科学語彙、言葉の歴史

Key Word(s) English, linguistics, analysis, morphology, phonology, medical terminology, scientific terminology, history of words

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2-4: Polysemy and Semantic Change

Session 5-7: Usage and Variation

Session 8-10: Latin and Greek Morphology

Session 11-12: Historical Linguistics of English and Indo-European

Session 13-14: Later Changes of English: Latin -> French -> English

Session 15: Final Test

The above schedule is subject to change dependent upon students' needs.

第一回：紹介

第二～四回：多意味と意味的な変化

第五～七回：使い方と変形

第八～十回：ラテン語、ギリシャ語の形態論

第十一～十二回：英語と印欧語族の歴史言語学

第十三～十四回：英語の後日談の変化：ラテン語→フランス語→英語

第十五回：最終試験

学生のニーズによって計画が変わる可能性がある。

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する。

国際理解実践 (中国語・中国文化) Seminar in International Understanding

学期 後期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 宮地信弘 (教育学部)

授業の概要

天津師範大学 (中国天津市) において、2週間の語学学習と文化学習を実施します。

午前はレベル別に分かれた少人数クラスでの中国語授業に参加して中国語の運用能力の向上を目指します。

午後は中国の歴史・風土・文化に触れ、また、多くの中国人学生との交流を通して異文化に対する理解を深め、広い視野の獲得を目指します。

※天津師範大学での研修前の1月～2月に中国語基礎講座を行います。参加は必須です。

学習の目的 中国語と中国文化を共感的に理解する態度を修得し、広い国際的視野を獲得する。

学習の到達目標

日常の生活場面で中国語が使えるようになる。

中国での生活を通して中国の習慣・文化・考え方についての経験的知識を得る。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語・中国文化・異文化理解

Key Word(s) Chinese language, Chinese culture, Cross-cultural understanding

学習内容

研修前: 基礎中国語講座8時間程度

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 研修にかかわる諸費用の負担

予め履修が望ましい科目 中国語

成績評価方法と基準 事前の基礎講座を含めた出席、天津における中国語学習の成績、事後のレポートにより総合的に評価する。

オフィスアワー

担当予定教員のオフィスアワー

水曜日3-4限 (教育学部1号館: 宮地信弘研究室)

授業改善への工夫 研修実施後、受講生へのアンケート等により、適宜改善を加える。

その他 研修参加者が極端に少ない場合は中止になることもあります。

研修: 2016年3月中旬の2週間 (中国語および中国文化に関する研修)

研修後: レポート作成

※詳細は10月中旬に公示およびオリエンテーションで知らせます

国際理解実践 (海外英語研修A)

Seminar in International Understanding

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** ○国際交流センター長、長縄 真吾 (国際交流センター特任准教授)

授業の概要

本授業は英語力の向上と海外滞在経験による国際的視野の醸成を目的とする海外語学研修である。豪州メルボルンのモナシュ大学にて4週間実施される。

This course aims to upgrade students' English competency and broaden their view on the global community. The training will be held for four weeks at Monash University, Melbourne, Australia.

学習の目的

本授業は英語力の向上と海外滞在経験による国際的視野の醸成を目的とする。

This course aims to upgrade students' English competency and broaden their views on the global community.

学習の到達目標

アカデミックスキルの習得、英語力の向上(特に会話とディスカッション)、国際的視野、異文化適応能力

Participants will acquire academic skills, improve communication skills in English (esp. conversation and discussion), broaden their views on the global community, and acquire ability to adopt themselves to different cultures.

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード オーストラリア、英語研修、アカデミックスキル、国際交流、ホームステイ

Key Word(s) Australia, English Training, Aca-

研修にかかる諸費用を負担すること(約50~60万円)

7~8月に実施する事前オリエンテーションにすべて出席が可能なこと。

予め履修が望ましい科目 英語

発展科目 長期留学、Tri-U国際シンポ

教科書

研修先にて支給される。

Text will be prepared by Monash Univ.

成績評価方法と基準

モナシュ大学による評価システムに基づき評価を行う。

Evaluation will be conducted based on the evaluation system of Monash University.

オフィスアワー 長縄真吾 平日10:00-18:00 場所: 総合研究棟II 国際交流チーム

その他

1. 募集方法および事前オリエンテーション

・4月に掲示板およびユニパにて全学生に応募方法を通知予定。

・5/8(金) 12:15-13:00: 募集説明会

・5/18(月) 申込締切

・7/17(金) 18:00 - 第1回オリエンテーション

・8月上旬 第2回オリエンテーション

2. 成績通知

・前期集中科目だが、モナシュ大学からの成績通知が10月中旬になるため、成績評価結果の通知は後期の成績通知とあわせて行われる。

3. その他

・現地滞在中の宿泊はホームステイとなる。

demic Skills, International Exchange, Homestay

学習内容

1. 事前準備

- ・募集説明会：5/8(金)
- ・第1回オリエンテーション（7/17(金)）：異文化理解・危機管理ワークショップ
- ・第2回オリエンテーション（8月上旬）：Placement Testおよび出発前オリエンテーション

2. 現地でのプログラム

計4週間。第1週目は、三重大学生向けの特別クラスを受講し、第2～4週はモナシュ大学が用意するレベル別クラス（6段階）での授業を受講する。

【第1週（特別クラス）】

- ・毎日15分間のディスカッション（滞在中の出来事・日本とは違う点など）
- ・文法・語彙の勉強
- ・オーストラリアの歴史・文化・教育について

- ・5日目にフィールドトリップを予定

【第2～4週（レベル別クラス）】

・週20時間の授業（月～金まで1日4時間）のうち、12時間は一般英語（English Skills）を学び、残り8時間は論文作成等のAcademic Skillを学ぶ。これに加えて自習として5時間分の学習を行う。

- ・基礎から英語4技能（読む・書く・聞く・話す）と授業で使う英語を学習する
- ・授業外の時間において、大学が提供する各種のActivityに参加する。

3. 帰国後

振り返りワークショップを実施。

学習課題（予習・復習） 事前オリエンテーションにて提供される資料に基づき、現地事情等を事前に学習する。また授業外で行う現地での活動の計画を出発前に学生自身で行う。

国際理解実践 (国際環境インターン) Seminar in International Understanding

学期 後期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 朴 恵淑 (人文学部教授)

授業の概要 国連機関、海外企業、国際NPOにおける環境実務を通して、環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を取得する。

学習の目的 環境分野で仕事をする意義について、理解できるようになる。

学習の到達目標

実務経験を通じての理解・実務の場で必要な責任感、誠実さを養える。
プレゼンテーション能力の向上できる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 事前のガイダンス (7月にガイダンスを実施するので、履修を希望する学生は掲示板に注意し、かならず受講すること) と事後指導を受講すること。かつ国際環境インターンシップ (12月～2月を予定) に参加することを条件とする。海外渡航費は自己負担で、滞在費は受け入れ先が負担する場合がある。学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険へ加入すること。

成績評価方法と基準 国際環境インターンシップ受け入れ先の評価と担当教員の評価に基づき、総合的に判断する。

オフィスアワー 空いている時間はいつでも可能。

授業計画・学習の内容

キーワード 環境実務、実地体験、国連機関、企業、NPO、世宗大学校 (韓国)

学習内容

第1回ガイダンス 履修登録 *掲示板に注意

第2回ガイダンス 事前指導、派遣先への人選決定

インターンシップ 2週間研修

第3回 事後指導

国際理解実践S (留学生支援実践)

Foreign Student Support Training

学期 後期 **開講時間** 水 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤綾文 (学生総合支援センター)

授業の概要 三重大学の外国人留学生の実態やニーズを把握し、留学生支援のために学生が何ができるのかを素材にしたプロジェクト活動に携わることを通して、国際性とコミュニケーション力を育成する。

学習の目的

三重大学に在籍する学生の多様性を理解し、交流に臆すること無く挑戦し、様々な交流を体験することができる。

留学生支援に関するニーズを理解し、自分に何ができるかを考えて行動する姿勢を示すことができる。

学習の到達目標

三重大学に在籍する学生の多様性を理解できるようになる。

留学生と積極的に交流することができるようになる。

支援ニーズを理解し、自分に何ができるかを考えて行動する姿勢を示すことができる。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 討

授業計画・学習の内容

キーワード 留学生支援、交流、支援ニーズ

学習内容

授業を通して、以下を組み合わせで行う。

・三重大学にいる外国人留学生の実態とニーズを把握する。

・留学生支援のニーズに応じたプロジェクトに分かれて、企画を検討し実践する。

論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー

発展科目 学習支援実践、こころのサポート、および各種キャリア教育科目

成績評価方法と基準 Moodle課題提出15%、グループ課題55%、活動への参加度30%により総合的に判断する。

オフィスアワー 水曜15:00~16:00

授業改善への工夫 学生のコメントおよび授業アンケートをもとに改善に努めます。

その他

キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム初級の選択必修科目(キャリア実践科目)の一つです。2月に予定しているアカデミックフェアで成果を発表します。

※教育統合科目として履修する場合は、キャリア科目としての認定はできません。

・学びを発表することを通じて、学びのふりかえりと相互に刺激を与え合う。

1. オリエンテーション

2・3. 留学生ニーズの把握と理解

4~11. プロジェクト学習

12~: まとめと発表

15. ふりかえりと総括

現代社会理解特殊講義 (現代社会の人間観)

Understanding Contemporary Society

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹(人文学部)

授業の概要 現代社会において強い影響力を持つ2つの人間観——「心身二元論的人間観」と「脳中心主義の人間機械論」——がどのようなものであるのかを説明する。また、それらがどのような問題点を持っているのかを示す。そして、この2つに代わるものとして提唱されている新しい人間観にはどのようなものがあるのかを示す。

学習の目的

受講した学生が、「心身二元論的人間観」と「脳中心主義の人間機械論」がどのようなものであるのかを、そしてそれらがどのような問題点を持っているのかを理解する。また、その理解の内容を適切に他人に伝えることができる。その上で、現代における新しい人間観の探究がどのようなものであるのかを理解し、それに対する自分の考えを持つことができる。

学習の到達目標 受講した学生が、「心身二元論的人間観」と「脳中心主義の人間機械論」がどのようなものであるのかを、そしてそれらがどのような問題点を持っているのかを理解する。また、その理解の内容を適切に他人に伝えることができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 心、脳、行動、思考、知覚、アフォーダンス、ハイデガー

Key Word(s) mind, brain, behavior, thinking, perception, affordance, Heidegger

学習内容

イントロダクション：現代社会における2つの人間観

1. 心身二元論的人間観とその問題点

1. 心=機械の中の幽霊

2. 知覚する心

3. 考える心

4. 身体を操縦する心

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ①必ず第1回目から受講すること、第2回目からの受講は認められない②教室での集中力と強い好奇心を持っていること

教科書 プリントを配布する。

参考書 プリントを配付する。

成績評価方法と基準 報告30%、討議への参加度30%、最後に行う試験40%

オフィスアワー 火曜日と水曜日の午後(くわしい時間に関しては、開講時に連絡)

授業改善への工夫 学生から改善の要望があった場合には、できる限りすみやかに対応するようにします。

その他

本授業は、セミナー形式の授業です。

第1回目の授業で、授業の進め方についてのくわしい説明を行うので、必ず第1回目から受講すること。第2回目からの受講は認められない。

5. 人間=身体+心？

II. 脳中心主義の人間機械論とその問題点

1. 世界の像を生み出す脳——世界脳産教義

2. 考える脳——神経細胞の発火と「思い」

3. 身体の司令塔としての脳

4. 脳は本当に人間の主、主人なのか？

III. 現代における第3の人間観の探究

1. 〈私〉と世界の関係——ハイデガーの存在論

2. 脳に対する新しい見方——大森荘蔵による脳中心主義批判

3. 人間の行動と環境——アフォーダンス理論

4. 常に演じている人間——演劇論的社会学

学習課題（予習・復習）

1. 心身二元論的人間観の概要を理解する（配付プリント（文献のコピーを含む）を読み、理解する）
2. 現代における脳理解の概要を理解する（同上）
3. 人間機械論の歴史と概要を理解する（同上）
4. ハイデガーの存在論の概要を理解する（同上）
5. アフォーダンス理論の概要を理解する（同上）
6. 演劇論的社会学の概要を理解する（同上）
*詳細については、授業の各回において指示する。

現代社会理解特殊講義 (男女共同参画の基礎)

Promotion of Gender Equality: primer

学期 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **担当教員** 朴恵淑、森脇由美子、重松良祐、江藤みちる、井関敦子、門脇文子、小林正、宇野貴浩、常清秀、長濱文与、○小川眞里子、○佐伯富樹、○西岡慶子、○石垣弘美、○伊藤久美子

授業の概要

男女共同参画について多方面から考え、活動できるように、社会のさまざまな分野における男女共同参画推進活動等について学ぶ。本学教員とともに企業経営者及び自治体職員等の非常勤講師を交えて指導する。

学習の目的 男女共同参画社会を実現するには何をすべきかを考えさせ、意識向上を図る。

学習の到達目標

男女共同参画社会について理解する。社会の様々な分野における男女共同参画に関する知識やノウハウを修得する。男女共同参画社会の実現に向けて主体的に活動できるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、幅広い教養、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、社会人とし

での態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。

発展科目 男女共同参画実践

教科書 講義のはじめにテキストや参考書について提示する。

参考書 講義のはじめにテキストや参考書について提示する。

成績評価方法と基準 出席20%、レポート2回(80%)

オフィスアワー 本科目の取りまとめ役の教員(朴恵淑)の連絡については、月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで可。それぞれの講師については、三重大学男女共同参画推進室へ、月曜日～金曜日の午前9時～午後4時まで可。

授業計画・学習の内容

キーワード 男女共同参画、女性活躍支援、次世代育成支援、ワーク・ライフ・バランス

Key Word(s) Gender Equality

学習内容

第1回 小川眞里子 「なぜ今理系分野の男女共同参画か」
第2回 朴恵淑 「日本、三重大学の男女共同参画の現状と課題」
第3回 小林正 「会社で働くということ」
第4回 石垣弘美 「三重県の男女共同参画の現状と課題」
第5回 伊藤久美子 「三重県男女共同参画基本計画～三重県、三重県庁、斎宮制度からみる男女共同参画～」
第6回 井関敦子 「アンパイドワーク(家事・育児・介護)と男女共同参画」

第7回 西岡慶子 「企業の男女共同参画への取組」
第8回 重松良祐 「スポーツと男女共同参画」
第9回 森脇由美子 「歴史のなかの男女共同参画ーアメリカの事例を中心にー」
第10回 佐伯富樹 「女子差別撤廃条約をめぐる問題について」
第11回 門脇文子 「大学病院における男女共同参画の推進」
第12回 江藤みちる 「男女共同参画とワーク・ライフ・バランス」
第13回 宇野貴浩 「工学研究科における男女共同参画の推進」
第14回 常清秀 「アジア(中国)の男女共同参画の現状と課題」
第15回 長濱文与 「男女共同参画社会」
第16回 朴恵淑 「総括」

現代社会理解実践 (人間関係トレーニング) Better relationship and skills

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle
担当教員 望木 郁代 (医学部医学・看護学教育センター)
後藤 道子 (医学系研究科 地域医療学講座)

授業の概要 新しい環境になじめない。友達があまく作れない。悩みを打ち明けられる友人がいない。いずれ何でもなくなってしまうことが、若いときにはそれこそ人生の最重要課題であることもあります。もちろん若いときのみならず人間関係はこれからもずっとついて回ります。心も体も柔軟なこの時期に、一度自分のコミュニケーションの仕方を振り返り、未来に向かうより良い人間関係づくりのためのトレーニングを始めませんか。特に医療にかかわる学生には患者との関係を築いていく上で基盤となるコミュニケーション力を養成する機会となるはずです。身体を使って体験的に人間関係を学ぶ為のエクササイズを織り交ぜ、理論と体験を併せて学ぶことで、しっかりした人間関係を作れる自分になることを目指します。

学習の目的

- 1) 自身のコミュニケーションの仕方に気づく
- 2) 他者のコミュニケーションの仕方に気づく
- 3) 他者とのコミュニケーションを行う上で克服すべき課題とその方法を知る

学習の到達目標 学習したことを他者とのコミュニケーションに生かすことができるよう

授業計画・学習の内容

キーワード コミュニケーション

学習内容

- 「人間関係づくりトレーニング」
- 第1回 オリエンテーション エクササイズ「第一印象」
 - 第2回 講義 対人認知
 - 第3回 エクササイズ「好き嫌い 一価値観とは」 「思い込み」
 - 第4回 講義 自己と他者
 - 第5回 エクササイズ「わかちあう、こたえるーコミュニケーションってなんだろうー」

になる

本学教育目標との関連 感性, 共感, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

受講者人数制限有。
授業に積極的に参加することを条件とします。

成績評価方法と基準 3分の2以上の出席が必要です。テーマ毎の小レポート(50%)と期末試験(50%)で評価します。出席がない場合は、レポートの提出が出来ませんので、注意してください。

オフィスアワー 後藤 原則いつでも構いませんが、事前のアポが望ましいです。

その他

講義の回とエクササイズを行う回では教室が変わることがあります。
エクササイズの回ではグループで作業をすることがあります。
受講者に人数制限があります。

- 第6回 講義 カウンセリング
- 第7回 エクササイズ「話す、聞く」
- 第8回 講義 対人コミュニケーション
- 第9回 エクササイズ「非言語コミュニケーション」
- 第10回 講義 態度
- 第11回 エクササイズ「見る」
- 第12回 講義 感情のしくみ
- 第13回 エクササイズ「感情について知る」
- 第14回 講義 集団と個人
- 第15回 エクササイズ「葛藤と付き合う」
- 第16回 試験

現代社会理解実践 (環境実務・就業体験)

Lecture Course in Understanding Modern Society

学期 前期 開講時間 水9,10 単位 2 授業の方法 講義, 演習, 実習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○平山大輔(教育学部), 守田庸一(教育学部), 朴恵淑(人文学部)

授業の概要 企業・NPOにおける環境実務への参加を通して、企業やNPOの行っている環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を習得することをねらいとする。本年度は、インターンシップ受入れ先として、(株)東芝(四日市工場)、ミキモト真珠島真珠博物館、亀山市環境保全対策室、三重県地球温暖化防止活動推進センター、伊勢商工会議所、NPO法人地域の未来・志援センター(エコデザイン市民社会フォーラムと合同)、伊賀の里モクモク手づくりファームを予定している。

学習の目的 企業・NPOにおける環境実務への参加を通して、企業やNPOの行っている環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を習得する。

学習の到達目標

環境分野で仕事をするということはどういうことなのかを実務経験を通じて理解できるようになる。

実務の場で必要な責任感・誠実さ・プレゼンテーション能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 討論・対話力, 社

会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 インターンシップ(夏季休業中2週間、計80時間)に参加することを条件とする。また水曜日の9・10限に事前のガイダンスを数回行うので、この時間に他の授業を取らないこと。初回ガイダンスの日程は、教養教育(共通教育)の掲示板で連絡するので、履修を希望する学生は掲示物に注意し、かならず受講すること。また事後指導も受講すること。学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険へ加入すること。

教科書 指定しない

参考書 指定しない

成績評価方法と基準 インターンシップ受入れ先の評価に基づき、総合的に判断する

オフィスアワー 毎週木曜日 12:00~13:00、教育学部1号館2階 平山研究室

その他 各受入れ先は年度ごとに定員を設定するので、希望受入れ先でインターンシップを行えるとは限らない。またモクモクファームのインターンシップは2年生以上を対象としている。

授業計画・学習の内容

キーワード 環境実務、就業体験、企業、NPO、市役所

学習内容

環境インターンシップのスケジュール

①第1回ガイダンス(5月または6月); インターンシップ履修登録 ※4月から掲示物に注意しておくこと。

②第2回、第3回ガイダンス(6~7月中); 派遣先の決定、事前指導、誓約書の提出等。
※ガイダンスは他に必要が生じたときにも適宜行う。

③インターンシップ(8~9月中); 2週間(派遣先により変更あり)の就業体験 ※夏休みを利用。

④事後指導(10~12月)

現代社会理解実践 (環境教育実践)

Seminar in Understanding Modern Society

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 朴 恵淑(人文学部)、○山村直紀(工学部)、丸山 直樹(工学部)、石川 知明(生物資源学部)、梅崎 輝尚(生物資源学部)

授業の概要 持続発展教育(ESD)の基礎を学び、三重大学のESD実践方法の一つとして、MIEUポイントシステム(三重大学独自の環境活動に対するポイント付与システム)を理解する。さらに環境ISO学生委員会での活動を通じてMIEUポイント活動を実践し、その成果を分析し、システムの改善や拡張を考察する。

学習の目的

環境マインドを向上させることができる。将来環境に関わった仕事に着きたいと考える学生にとって役立つ知識・意識と行動力を育む。

学習の到達目標

- ・MIEUポイントシステムの基礎概念が理解できる。
- ・MIEUポイントを実践することでその効果を検証することができる。
- ・持続可能な世界のために行動する環境意識を高める。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード MIEUポイント 持続発展教育 環境 ISO

Key Word(s) ESD, Practice on Environmental Education, MIEU Point

学習内容

- 1 講義の内容と進め方のガイダンス
 - 2 MIEUポイントの概要
 - 3~13 受講生各自による環境ISO学生委員会での活動・報告書の作成
- 途中以下の講義・実習を含む

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 環境に関連する授業科目、その他講義の中で適宜紹介する

教科書 教科書の使用はしない。資料等は担当教員が適宜配布する

成績評価方法と基準 MIEUポイント実践記録(50%)、中間・最終レポート(50%)

オフィスアワー 講義終了後

授業改善への工夫 毎回の実践報告によって学生意識と理解を確認し、適宜、講義内容を改善していく。

その他 前期と後期は同一の講義内容である。本科目での修得単位は、「持続発展教育プログラム」の修了要件に含めることができる。また、2011年度までの「環境資格支援教育プログラム」の修了要件においては、「環境資格支援ガイダンス」の修得単位として振り替えることができる。なお、実践には、教員より紹介される環境関連のシンポジウム等への参加もMIEUポイントとして含めることも出来る。

- ・三重大学スマートキャンパスの見学会
- ・関連講義
- ・関連講義

14 最終報告発表会

15 総括

上記の内容は予定であり、授業進度に合わせて適宜変更される。

予定の詳細は初回のガイダンスにて解説する。

学習課題(予習・復習)

以下の課題が与えられる

- ・活動についての実施報告の作成
 - ・活動の実施報告まとめとその効果検証に関する考察報告の作成
- (パワーポイント書類としてとりまとめ、中間および最終報告に使用する。)

現代社会理解実践 (環境教育実践)

Seminar in Understanding Modern Society

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 朴恵淑 (人文学部)、○山村直紀(工学部)、丸山直樹 (工学部)、石川知明 (生物資源学部)、梅崎輝尚 (生物資源学部)

授業の概要 持続発展教育 (ESD) の基礎を学び、三重大学のESD実践方法の一つとして、MIEUポイントシステム (三重大学独自の環境活動に対するポイント付与システム) を理解する。さらに環境ISO学生委員会での活動を通じてMIEUポイント活動を実践し、その成果を分析し、システムの改善や拡張を考察する。

学習の目的 環境マインドを向上させることができる。将来環境に関わった仕事に着きたいと考える学生にとって役立つ知識・意識と行動力を育む。

学習の到達目標

- ・ MIEUポイントシステムの基礎概念が理解できる。
- ・ MIEUポイントを実践することでその効果を検証することができる。
- ・ 持続可能な世界のために行動する環境意識を高める。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード MIEUポイント 持続発展教育 環境 ISO

Key Word(s) ESD, Practice on Environmental Education, MIEU Point

学習内容

- 1 講義の内容と進め方のガイダンス
 - 2 MIEUポイントの概要
 - 3~13 受講生各自による環境ISO学生委員会での活動・報告書の作成
- 途中以下の講義・実習を含む
- ・ 三重大学スマートキャンパスの見学会

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 環境に関連する授業科目、その他講義の中で適宜紹介する。

教科書 教科書の使用はしない。資料等は担当教員が適宜配布する

成績評価方法と基準 MIEUポイント実践記録 (50%)、中間・最終レポート (50%)

オフィスアワー 講義終了後

授業改善への工夫 毎回の実践報告によって学生意識と理解を確認し、適宜、講義内容を改善していく。

その他 前期と後期は同一の講義内容である。本科目での修得単位は、「持続発展教育プログラム」の修了要件に含めることができる。また、2011年度までの「環境資格支援教育プログラム」の修了要件においては、「環境資格支援ガイダンス」の修得単位として振り替えることができる。なお、実践には、教員より紹介される環境関連のシンポジウム等への参加もMIEUポイントとして含めることも出来る。

・ 関連講義

・ 関連講義

14 最終報告発表会

15 総括

上記の内容は予定であり、授業進度に合わせて適宜変更される。

予定の詳細は初回のガイダンスにて解説する。

学習課題 (予習・復習)

以下の課題が与えられる

- ・ 活動についての実施報告の作成
- ・ 活動の実施報告まとめとその効果検証に関

する考察報告の作成

間および最終報告に使用する。)

(パワーポイント書類としてとりまとめ、中

現代社会理解実践 (環境内部監査員養成)

Seminar in Understanding Modern Society

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ○間島 順哉(非常勤講師)

授業の概要 環境先進大学 三重大学として取り組んでいる環境マネジメントシステム (ISO14001) の知識と監査技術の取得をする。最終的に学内環資格の認定を受け、実際の三重大学環境内部監査に携わる。

学習の目的 環境内部監査員として三重大学の環境内部監査に携わることが出来る。

学習の到達目標 三重大学が取り組む環境マネジメントシステムを理解し、環境取り組みを監査する力量を身に付ける。最終目標は学内環資格「三重大学環境内部監査員」の認定を受け大学の環境内部監査に貢献する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 環境資格支援ガイダンス、ISO環境管理学、環境法入門、四日市公害から学ぶ四日市環境学、PBLセミナー (ISO学)

授業計画・学習の内容

キーワード 学内環境資格の「三重大学環境内部監査員」を修得する

Key Word(s) Environmental internal audit, ISO14001

学習内容

- 1 授業概要の説明
- 2 ISO 14001の適用範囲と定義とISO 14001の要求事項①
- 3 ISO 14001の適用範囲と定義とISO 14001の要求事項②
- 4 ISO 19011:2002「環境マネジメントシステム監査のための指針」要求事項
- 5 環境内部監査の取組についての解説と討論
- 6 環境パフォーマンス評価 (ISO14032) とその他評価手法の解説と討論①

発展科目 特になし

教科書 講義資料は授業中に配布する。

参考書 参考書は講義中に紹介する。

成績評価方法と基準

グループ作業、グループ間の「相互監査」実習などで協調性を持った学習姿勢 (40%)、着眼力、提案力、論理的な報告書の作成力、等レポート評価 (60%) を総合点評価します。

オフィスアワー 講義終了後

授業改善への工夫 セミナー内で実施するグループ作業の進捗度と理解度を確認し、適宜、講義及び実習内容を改善していきます。

その他 セミナー単位取得により、三重大学環資格の「三重大学内部監査員」の認定を受け登録することができる。講義内容が前後することもあります。前期と後期は同一の内容です。

7 環境パフォーマンス評価 (ISO14032) とその他評価手法の解説と討論②

8 ケース・スタディ 1 (環境影響の調査)

9 ケース・スタディ 1 (環境目的の検討)

10 ケース・スタディ 1 (内部監査チェック表)

11 ケース・ステディ 1の評価

12 ケース・スタディ 2 (内部監査の演習、内部監査体験①)

13 ケース・スタディ 2 (内部監査の演習、内部監査体験②)

14 ケース・ステディ 2の評価

15 内部監査報告書の作成、環境法規制の解説と討議

16 レポート発表と総括

学習課題（予習・復習）

- ・三重大学環境報告書等、授業資料によるグループ討議を行う。
- ・ケーススタディ実習を行う。

現代社会理解実践 (環境内部監査員養成)

Seminar in Understanding Modern Society

学期 後期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ○間島 順哉(非常勤講師)

授業の概要 環境先進大学 三重大学として取り組んでいる環境マネジメントシステム (ISO14001) の知識と監査技術の取得をする。最終的に学内環資格の認定を受け、実際の三重大学環境内部監査に携わる。

学習の目的 環境内部監査員として三重大学の環境内部監査に携わることが出来る。

学習の到達目標 三重大学が取り組む環境マネジメントシステムを理解し、環境取り組みを監査する力量を身に付ける。最終目標は学内環資格「三重大学環境内部監査員」の認定を受け大学の環境内部監査に貢献する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 環境資格支援ガイダンス、ISO環境管理学、環境法入門、四日市公害から学ぶ四日市環境学、PBLセミナー (ISO学)

授業計画・学習の内容

キーワード 学内環境資格の「三重大学環境内部監査員」を修得する

Key Word(s) Environmental internal audit ISO14001

学習内容

- 1 授業概要の説明
- 2 ISO 14001の適用範囲と定義とISO 14001の要求事項①
- 3 ISO 14001の適用範囲と定義とISO 14001の要求事項②
- 4 ISO 19011:2002「環境マネジメントシステム監査のための指針」要求事項
- 5 環境内部監査の取組についての解説と討論
- 6 環境パフォーマンス評価 (ISO14032) とその他評価手法の解説と討論①

発展科目 特になし

教科書 講義資料は授業時間中に配布する。

参考書 参考書物は授業時間に紹介する。

成績評価方法と基準

グループ作業、グループ間の「相互監査」実習などで協調性を持った学習姿勢 (40%)、着眼力、提案力、論理的な報告書の作成力、等レポート評価 (60%) を総合点評価します。

オフィスアワー 講義終了後

授業改善への工夫 セミナー内で実施するグループ作業の進捗度と理解度を確認し、適宜、講義及び実習内容を改善していきます。

その他 単位取得により、三重大学環資格の「三重大学内部監査員」の認定を受け登録することができる。講義内容が前後することもあります。前期と後期は同一の講義内容で開講されます。

7 環境パフォーマンス評価 (ISO14032) とその他評価手法の解説と討論②

8 ケース・スタディ 1 (環境影響の調査)

9 ケース・スタディ 1 (環境目的の検討)

10 ケース・スタディ 1 (内部監査チェック表)

11 ケース・ステディ 1の評価

12 ケース・スタディ 2 (内部監査の演習、内部監査体験①)

13 ケース・スタディ 2 (内部監査の演習、内部監査体験②)

14 ケース・ステディ 2の評価

15 内部監査報告書の作成、環境法規制の解説と討議

16 レポート発表と総括

学習課題（予習・復習）

- ・三重大学環境報告書等、授業資料によるグループ討議を行う。
- ・ケーススタディ実習を行う。

現代社会理解実践S (障がい学生支援実践)

Support for Students in Contemporary Society

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習, 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 荒川哲郎 (教育学部), 大谷正人 (教育学部), 菊池紀彦 (教育学部), 郷右近歩 (教育学部), 栗田季佳 (教育学部), 生川友恒 (非常勤講師), 前川賢一 (非常勤講師), 稲垣智子 (非常勤講師), 横山慶 (非常勤講師), 倉野直紀 (非常勤講師)

授業の概要 今日、ノーマライゼーション (あらゆる活動にすべての人が平等に参加できる) 社会の実現が求められている。大学への進学も社会参加の一つと捉えた場合、障がいのある学生の修学について、その人の疾病や機能の問題だけでなく、教育支援や生活支援についても考える必要がある。この授業では、さまざまな障がいの実態について実習形式で学ぶとともに、事例検討を通して障がい学生支援が障がい学生のためだけの支援ではなく、すべての学生にとって教育的な価値があるということを理解することを目的とする。

学習の目的

- 1.障がいについての正しい理解ができるようになることを目的とする。
- 2.障がい学生の自立につながる支援について学ぶ。
- 3.三重大学の資源や個性、歴史を活かした支援のあり方について考えることができるようになる。

学習の到達目標

- 1.さまざまな障がい (視覚・聴覚・肢体不自由等) について、講義や実習を通して理解できる。
- 2.障がい学生にとって必要とされる支援の内容について理解できる。
- 3.三重大学における障がい学生支援を充実する

授業計画・学習の内容

キーワード 障がい学生、支援、福祉、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由

Key Word(s) Students with Disabilities, Support, Welfare, Visual Disturbance, Hearing Impairments, Physically Handicapped

ための方策について考えることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2015年度の「アカデミックフェア」(2016年2月頃に開催予定)に参加が可能であること。

教科書 授業のなかで適宜紹介します

参考書 授業のなかで適宜紹介します

成績評価方法と基準 出席 50%、レポート 50%で評価します (レポートは5回程度課します)。

オフィスアワー 毎週月曜日10:30~12:00, 教育学部2号館5階, 菊池研究室

その他

キャリア・ピアサポーター基礎資格を取得するためには、「4つのカスタートアップセミナー」で8以上の成績を収め、「キャリアプランニング」の単位を取得し、この授業を含む「実践科目」のうちの1科目の単位を取得することが要件となる。

※教育統合科目として履修する場合は、キャリア科目としての認定はできません。

学習内容

- 1.オリエンテーション、ユニバーサルデザインについて
- 2.障がい者・高齢者体験
- 3.本学定型業務センターキャンパス環境整備室との交流①

- 4.本学定型業務センターキャンパス環境整備室との交流②
- 5.聴覚障がいについて（当事者からの話題提供）
- 6.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験①）
- 7.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験②）
- 8.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験③）
- 9.視覚障がいについて（視覚障害のある人の日常生活）
- 10.視覚障がいについて（アイマスク、白杖を用いた体験①）

- 11.視覚障がいについて（アイマスク、白杖を用いた体験②）
- 12.発達障がいについて
- 13.アカデミックフェアに向けて①
- 14.アカデミックフェアに向けて②
- 15.アカデミックフェアに向けて③
- 16.授業のまとめ

学習課題（予習・復習）

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）における「障害学生修学支援情報」のホームページを閲覧し、情報収集に努めること。

URL: http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/index.html

経済学G (ミクロ経済学)

ECON

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 渡辺 茂 (非常勤講師, 元大阪府立大学教授)

授業の概要 ミクロ経済の学習によって、経済学的な考え方を理解させる。

学習の目的 クリエイティブかつ経済的に考えることができるようになる。

学習の到達目標 日本経済をミクロ経済学的立場から理解する初歩的能力

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、簡単な微分の知識は必要とされる。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 マクロ経済学 経済政策論

教科書 教科書は使用しない。参考書は講義中に指示する。プリントを配布する。

成績評価方法と基準 期末テスト50パーセント、平常点50パーセント

オフィスアワー 連絡窓口 落合 隆 (人文学部)

授業改善への工夫 理解の程度を確認しながら、対話と質問を大切にしながら講義をする

その他 出席は不可欠でかつ熱心な学生を希望する

授業計画・学習の内容

キーワード ミクロ経済学の入門

学習内容

- 1はじめに (ミクロ経済学とはなにか)
ミクロ経済学の学び方の習得を課題とする
- 2需要と供給 需要曲線 供給曲線
弾力性について理解する
- 3消費の理論 効用関数 無差別曲線
消費と貯蓄の選択などの理解
- 4企業と費用 企業の目的 生産関数
費用関数などの理解
- 5市場と均衡 完全競争
市場価格の調整メカニズムについて学ぶ
- 6要素価格と所得分配
要素価格の決定などについて学ぶ
- 7独占 独占企業の行動
独占と市場について学ぶ
- 8寡占
寡占企業の行動について学習する
- 9外部性 市場の失敗 コースの定理
公共財について学ぶ
- 10不完全情報
情報の非対称性などについて学ぶ
- 11ゲームの理論 ゲームの構造
ナッシュ均衡などについて学ぶ
- 12厚生経済

- パレート最適などについて学ぶ
13投入産出分析
産業連関表の初歩的理解
14国際貿易
貿易の利益について学ぶ
15まとめ
ミクロ経済学の立場から現代日本経済を理解する

学習課題 (予習・復習)

- 配布する資料を来週までにまとめる
練習問題を復習する
重要語をまとめる
練習問題を解く
資料をまとめるとともに問題を解く
重要語をまとめる
練習問題を解く
配布する資料をまとめる
練習問題を解く
重要語をまとめる
練習問題を解く
資料をまとめる
練習問題を解く
資料をまとめる
重要語と資料をまとめる

環境学A (環境問題と地球B)

Environmental Studies A

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 ブライアン・ジェームス・マホニー(非常勤講師)

授業の概要 To study and evaluate various environmental issues relating to global warming, biodiversity, our planet earth and to begin to recognize the impact these pose to life and sustainability.

学習の目的 For students to develop a greater awareness of the environment and global issues relating to it. To understand differing views that help shape the dynamics of the movements for global change. And for students to learn the basics of the language used to discuss these topics on the global stage.

学習の到達目標 For students to develop a greater awareness and appreciation for the environment. To gain a better understanding of the vital roles that systems of ecology play in our lives. To reconnect with nature in ways that benefit our planet Earth.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 This is an English content class and therefore a strong background in English writing, reading and communication is necessary. For Japanese students an above average score of at least 600 on the TOEIC test or similar test(s) is necessary. Overseas study and/or international exchange experience is also a plus.

発展科目 With a committed effort, students will gain a better understanding of the language used and the key and controversial issues relating to the global environment. Students will have opportunities for group discussion. Essay and slide show presentations will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English.

教科書 (Details will be given in our class introduction). English dictionary/thesaurus is required. A4 size notebook is also necessary for note taking. Additional materials will be provided by the instructor.

参考書 Environmental Documentary and Film: Several titles throughout the course will be presented in order to provide additional support to subject matter. These films will be shown in English/Japanese with English/Japanese subtitles. Titles to be shown include, "At The Edge of the World," "The Cove," "The Mountain Patrol," amongst others.

成績評価方法と基準 Participation/Reflection Papers 50%, Homework Assignment 25%, Final Work Assignment 25%. Interested students please note-Class begins on Day One.

オフィスアワー Friday after class: 12:00 ~12:30.

その他 Please note that a short essay may be required prior to official acceptance into this class.

授業計画・学習の内容

キーワード 環境問題、私たちの地球、生物多様性、エコシステム、伝統と文化

Key Word(s) Environmental Issues, Our Planet Earth, Biodiversity, Eco-Systems, Tradition & Culture

学習内容

Class 1: Class introduction/Topic for Discussion.

Class 2~7: Topics for discussion. Reading assignments/homework.

Class 8: Environmental topic essay introduction.

Class 9~13: Topics for discussion. Reading as-

signments/homework.
Environmental essay development.

Class 14-15: Small group presentations/
slideshow.

社会学B (現代社会のトピックス)

Sociology B

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 江成 幸 (人文学部)

授業の概要

・日本における格差の現状を理解し、社会学の立場から家族や地域との関わりを探る。
・大学 (higher learning) の入門科目として、身のまわりの事柄に一つの答えを求めるのではなく、物事の複雑な背景を理解しながら、社会現象を分析する力を身につける。

学習の目的

・社会的格差が家族や教育に及ぼす影響を研究するための分析枠組みや概念を知る。
・信頼性の高い資料およびデータにもとづいて、適切に分析を行うことができる。
・学習上の必要に応じ、関係機関での資料収集や聞き取りを行う。

学習の到達目標

・文献講読を通じて社会問題を分析し、関心のあるテーマについてレジюмеを作成して報告する。
・内容理解と考察を深めて期末レポートをまとめる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニ

ケーション力を総合した力

受講要件 校外調査をする場合に備え、学生教育研究災害傷害保険に加入すること。

予め履修が望ましい科目 とくに指定しないが、社会学、文化人類学など、本セミナーの基礎となる科目を積極的に履修すること。

教科書 本田由紀『社会を結びなおす—教育・仕事・家族の連携へ—』岩波ブックレット、2014年。

参考書

阿部彩『弱者の居場所がない社会』講談社新書、2011年

赤石知恵子『ひとり親家庭』岩波新書、2014年

橋本 俊詔『格差社会』(福祉+α) ミネルヴァ書房、2012年

高崎経済大学附属地域政策研究センター編『社会的排除と格差問題』勁草書房、2010年

成績評価方法と基準 授業への参加30%、資料の収集と整理20%、研究成果50%、計100%

オフィスアワー 毎週木曜日14:40~16:10、場所：共通教育棟4号館3F江成研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 格差社会の課題

Key Word(s) social disparities

学習内容

第1回

授業の説明・参考文献の紹介・履修者の自己紹介

第2回

参考文献講読のためのレジюме作成について、文献講読の分担決め

第3回

研究対象の選定について、文献検索と資料収集について

第4回

学生のレジюмеを用いた講読

第5回

学生のレジюмеを用いた講読

第6回

基本的な知識・概念の整理

第7回

社会学の研究方法について

第8回

研究テーマと参考文献について

第9回

学生の間報告

第10回

学生の中間報告

第11回

社会的格差の影響に関する討論

第12回

レポート作成について、研究報告の準備

第13回

学生の研究報告

第14回

学生の研究報告

第15回

まとめ、学生アンケート

最終試験

レポート課題提出

学習課題（予習・復習）

学生による参考文献の講読と、能動的な授業参加を前提として授業を進める。

学生との連絡等にMoodleを活用する。

経済学F (経済学の歴史と経済学)

EconomicsF

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 西淳 (非常勤講師)

授業の概要 この授業では、経済学の基本的な考え方を過去の経済学者たちの学説を通じて考えてみたいと思います。現代において論じられている経済についての考え方は歴史的なプロセスを通じて形成されてきたものですので、そのプロセスを学ぶことは経済学の基礎的なロジックを身につけるのに役にたちます。過去の学説の紹介に終るのではなく、現代の経済をみる力を身につけるのが目的です。

学習の目的 過去の経済学者のさまざまな考え方を学習することによって、現代の経済をみる力を養うのが目的です。このような方法は一見、経済を学ぶためには遠回りのように思えますが、実はもっとも効率的な方法だと思われまます。スミスやリカードが考えた問題を深く考えることによって、市場や競争、貿易の意義、格差の問題、政府というものの存在意義、などについて理解を深めることが求められます。

授業計画・学習の内容

キーワード 市場、分業、貿易、利潤、成長、平等性と効率性

Key Word(s) market, division of labor, trade, profit, growth, equality and efficiency

学習内容

第一回：はじめに(授業の流れの説明、など)

第二回：経済学の成立過程(1)(経済学の成立について、資本主義とはなにか)

第三回：経済学の成立過程(2)(さまざまな学派の存在、学説の対立をどう見るか)

第四回：A・スミスの経済学(1)：(豊かさとはなにか、市場の機能について)

第五回：A・スミスの経済学(2)(分業と市場との関係、貯蓄は美徳か消費は美徳か)

第六回：D・リカードの経済学(1)(財の価値はどう決まるか、労働量が希少性か)

第七回：D・リカードの経済学(2)(土地のせまい国の経済の成長法則、比較優位とはなにか)

学習の到達目標 あくまで現実の経済問題を考える基礎的な力を養うことが目的です。

本学教育目標との関連 倫理観、モチベーション、論理的思考力、問題解決力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。経済現象に対する興味があればよいと思います。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

教科書 特に指定しません(毎回、資料・プリントを配布することによって行います)。

参考書 授業のなかで適宜指示します。

成績評価方法と基準 平常点と定期試験の点によって評価します。

授業改善への工夫 学生のみなさんに、授業期間中に何度か感想を書いてもらい、それを参考にして行おうと思っております。

その他 授業中は私語厳禁です。

第八回：D・リカードの経済学(3)(一般的過剰生産はあるか、供給化需要か)

第九回：K・マルクスの経済学(1)(利潤はどこから生まれるのか)

第十回：K・マルクスの経済学(2)(再生産について、資本主義と社会主義、平等性が効率性か)

第十一回：ケインズ以前の経済学(競争原理、価格メカニズム、失業観、小さな政府)

第十二回：J・M・ケインズの経済学(1)(有効需要の原理、失業観)

第十三回：J・M・ケインズの経済学(2)(不況とはなにか、合成の誤謬について)

第十四回：J・M・ケインズの経済学(3)(政府の役割について)

第十五回：まとめ(全体のまとめ)

学習課題(予習・復習) 普段から経済問題に対する関心をもってください。

国際理解実践 (Tri-U国際シンポ) Seminar in International Understanding

学期 後期集中 **単位** 2 **対象** 夏期集中講義と他に秋季にTri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムへの参加を要する。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選必** 選択 **授業の方法** 演習

担当教員 国際交流センター 栗田聡子 (2014年4月着任予定)

授業の概要 人口、食料、エネルギー、環境などの問題に関する英語論文の作成とパワーポイントを用いた発表技法について演習形式で学び、三重大学が海外の協定大学とともに輪番で開催するTri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム (Tri-U International Joint Seminar & Symposium) に参加して研究発表を行なう。

学習の目的 英語論文の構成、記述、プレゼンテーションマテリアルの作成、効果的な発表の仕方を学ぶとともに、英語によるコミュニケーション能力を養う。

学習の到達目標 自身の研究における背景を十分に理解し、研究成果を英語論文としてとりまとめ、国際シンポジウムで発表し、様々な国々からの参加者とともにディスカッションすることにより、感じる力、考える力とコ

ミュニケーション力を高める。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 配布資料

成績評価方法と基準 授業参加への積極性と英語論文およびプレゼンテーションマテリアルの作成 50%、国際ジョイントセミナー&シンポジウムへの参加と研究発表 50%として総合的に評価する。

オフィスアワー 集中講義期間 12:00 - 13:00

その他 応募方法および参加者募集説明会の日程について4月以降に掲示板等にて通知予定。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語論文、パワーポイント、口頭発表、人口、食料、エネルギー、環境、国際交流

Key Word(s) Research paper in English, Powerpoint, Oral presentation, Population, Food, Energy, Environment, International Exchange

学習内容

夏期集中講義 (8月)

1日目: 英語論文の構成

英語による研究内容の表現

2日目: 緒言、研究方法、結果の記述

3日目: 考察と結論の記述

英語論文の提出

4日目: 口頭発表のためのパワーポイントファイルの作成

ハンドアウトの作成

5日目: 効果的なプレゼンテーション

プレゼンテーションマテリアルの提出

秋季国際ジョイントセミナー&シンポジウム (10~12月頃)

1日目: 特別講演の聴講

2日目: 研究発表

3日目: グループディスカッション

学習課題 (予習・復習) 各講義日に復習と予習の課題を与える。

国際理解特殊講義 (大学の国際化)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 奥田久春

授業の概要 国際理解とは何をどのように理解することだろうか。またなぜ理解しないといけないのだろうか。大学において専門的な学問分野を学ぶためには、逆に幅広い考え方を理解する能力や態度が重要となる。本授業では、学生にとって身近な大学をテーマに取り上げ、社会の変化とともに国際化している現状を理解し、今後の大学生活や学問研究、社会生活において遭遇するであろう様々な国際交流の場面に積極的に参加したり、多様な価値観や考え方を理解したりすることのできる素地を養う。

学習の目的

本授業を通じて、受講学生が国際理解の基本となる多様な価値観や考え方を理解するために、

国際化・グローバル化する社会と大学の現状を理解する上で必要な知識を獲得する。

国際社会の多様性を理解し考察する上で必要な知識を身につける。

国際理解の目的や方法、意義、課題を考察する。

国際交流の状況で相手の考えを理解し、自らの考えを伝えるスキルを身につける。

大学での国際交流の場面に積極的に参加する方法を知る。

学習の到達目標

国際化・グローバル化する社会と大学について具体的な事例を挙げ、その状況や要因を論理的に説明することができる。

国際社会の多様性について、その意味と課題を考察し、説明することができる。

国際理解の何を、どのように、なぜ理解する

ことが求められるのかを考察し、議論することができる。

国際交流の場面で相手の考えを理解し、自らの考えを伝えることができる。

大学や社会での国際交流の場面に積極的に参加する意欲を示すことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 国際理解実践

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書 授業において適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席 (30%)、小レポート (30%)、期末レポート (40%)

オフィスアワー 平日 月曜日～金曜日 9:00～17:00 (授業時間、昼休みを除く)。但し不在のこともあるので、予約することが望ましい。

授業改善への工夫 一方的な講義スタイルにせず、学生との対話によって授業を進めていく。

その他 講義形式だが、学生同士の対話の場面も設け、多様な意見を期待するため、できるだけ多様な学生に受講してもらいたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 大学の国際化、グローバル化、地域性、留学生、社会・文化や価値観の多様性

Key Word(s) Internationalization, Globalization, Locality, International Students in the University, Diversity of Societies, Cultures, and

Values

学習内容

第1回：ガイダンス：国際理解とは何を理解するのか？

第2回：変わりゆく社会と大学1（グローバル化社会と大学）

第3回：変わりゆく社会と大学2（知識基盤社会・情報化社会と大学）

第4回：変わりゆく社会と大学3（地域に根ざした大学と国際的な影響）

第5回：国際化に取り組む大学

第6回：留学生の増加

第7回：グループディスカッション（1）

第8回：多文化と多様な社会、多様な価値観

第9回：多様な国際理解（日本と海外の国際理解教育）

第10回：国際理解とアイデンティティ

第11回：国際化の諸問題

第12回：グループディスカッション（2）

第13回：国際交流に参加しよう

第14回：海外留学のススメ

第15回：グローバル人材とは？

第16回：まとめ

学習課題（予習・復習） 必要に応じて事前に資料を配付し、予習を指示する。また小レポート（6回）を課す。

国際理解特殊講義 (大学の国際化)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 奥田久春

授業の概要 国際理解とは何をどのように理解することだろうか。またなぜ理解しないといけないのだろうか。大学において専門的な学問分野を学ぶためには、逆に幅広い考え方を理解する能力や態度が重要となる。本授業では、学生にとって身近な大学をテーマに取り上げ、社会の変化とともに国際化している現状を理解し、今後の大学生活や学問研究、社会生活において遭遇するであろう様々な国際交流の場面に積極的に参加したり、多様な価値観や考え方を理解したりすることのできる素地を養う。

学習の目的

本授業を通じて、受講学生が国際理解の基本となる多様な価値観や考え方を理解するために、

国際化・グローバル化する社会と大学の現状を理解する上で必要な知識を獲得する。

国際社会の多様性を理解し考察する上で必要な知識を身につける。

国際理解の目的や方法、意義、課題を考察する。

国際交流の状況で相手の考えを理解し、自らの考えを伝えるスキルを身につける。

大学での国際交流の場面に積極的に参加する方法を知る。

学習の到達目標

国際化・グローバル化する社会と大学について具体的な事例を挙げ、その状況や要因を論理的に説明することができる。

国際社会の多様性について、その意味と課題を考察し、説明することができる。

国際理解の何を、どのように、なぜ理解する

ことが求められるのかを考察し、議論することができる。

国際交流の場面で相手の考えを理解し、自らの考えを伝えることができる。

大学や社会での国際交流の場面に積極的に参加する意欲を示すことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 国際理解実践

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書 授業において適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席 (30%)、小レポート (30%)、期末レポート (40%)

オフィスアワー 平日 月曜日～金曜日 9:00～17:00 (授業時間、昼休みを除く)。但し不在のこともあるので、予約することが望ましい。

授業改善への工夫 一方的な講義スタイルにせず、学生との対話によって授業を進めていく。

その他 講義形式だが、学生同士の対話の場面も設け、多様な意見を期待するため、できるだけ多様な学生に受講してもらいたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 大学の国際化、グローバル化、地域性、留学生、社会・文化や価値観の多様性

Key Word(s) Internationalization, Globalization, Locality, International Students in the University, Diversity of Societies, Cultures, and

Values

学習内容

第1回：ガイダンス：国際理解とは何を理解するのか？

第2回：変わりゆく社会と大学1（グローバル化社会と大学）

第3回：変わりゆく社会と大学2（知識基盤社会・情報化社会と大学）

第4回：変わりゆく社会と大学3（地域に根ざした大学と国際的な影響）

第5回：国際化に取り組む大学

第6回：留学生の増加

第7回：グループディスカッション（1）

第8回：多文化と多様な社会、多様な価値観

第9回：多様な国際理解（日本と海外の国際理解教育）

第10回：国際理解とアイデンティティ

第11回：国際化の諸問題

第12回：グループディスカッション（2）

第13回：国際交流に参加しよう

第14回：海外留学のススメ

第15回：グローバル人材とは？

第16回：まとめ

学習課題（予習・復習） 必要に応じて事前に資料を配付し、予習を指示する。また小レポート（6回）を課す。

地域学 (オセアニアの教育事情)

Area Studies

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 奥田久春

授業の概要 地域学は、ある地域の社会、文化、教育、政治、環境など諸問題の特徴について学際的に明らかにしていく学問だが、こうした研究アプローチは地域の固有性とその要因を分析するなど、多様な学問分野に役立つものである。本授業ではオセアニア地域の学校教育をテーマに取り上げ、各国や地域の教育に関する文献、画像・映像等を分析し、記述、整理、比較といった作業を進め、当該地域の学校教育の特徴と課題を考察する。

学習の目的

受講学生が地域学の学び方を学び、それぞれの専門分野に応用するために、当該地域を学ぶにあたって必要な知識とは何かを理解する。テーマとなる事柄の歴史的、社会的、地理的など諸要因について、様々な情報を収集し、考察する。それらに共通する地域の特徴を抽出できるように情報を記述し、整理する。地域内の比較、他地域との比較を行い、地域の特徴を分析、考察する。

学習の到達目標

オセアニア諸国の学校教育の基礎知識（義務教育制度、学校階梯、カリキュラム、試験制度、学校文化など）について説明することができる。それら学校教育の歴史的、社会的、地理的な諸要因について考察し、説明することができる。それらに共通する地域の特徴を抽出できるように情報を記述し、整理することができる。地域内諸国間の学校教育の比較、他地域との比較を行い、地域の特徴を分析し、考察した

授業計画・学習の内容

キーワード 地域研究、オセアニア、教育制度、比較研究

Key Word(s) Regional Study, Oceania, Educational System, Comparative Study

ことを説明することができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書

石附実・笹森健編「オーストラリア・ニュージーランドの教育」東信堂
二宮皓編著「新版世界の学校」学事出版、など授業において適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席（30%）、小レポート（30%）、期末レポート（40%）

オフィスアワー 平日 月曜日～金曜日 9：00～17：00（授業時間、昼休みを除く）。但し不在のこともあるので、予約することが望ましい。

授業改善への工夫 地域学の醍醐味は単に知識を得ることではなく、自らの観察によって得られたデータを自らの観点で分析していくことにあるため、小レポートなどでそうした実践を含めるようにする。またそうした能力をそれぞれの学問分野に応用することを意識づける。

その他 特になし

学習内容

第1回：ガイダンス（地域学の概要）
第2回：オセアニアの概況
第3回：オーストラリアの教育（1）

第4回：オーストラリアの教育（2）
第5回：オーストラリアの教育（3）
第6回：ニュージーランドの教育（1）
第7回：ニュージーランドの教育（2）
第8回：ポリネシア島嶼国の教育（サモア1）
第9回：ポリネシア島嶼国の教育（サモア2）
第10回：ポリネシア島嶼国の教育（ツバル、トンガ）
第11回：メラネシア島嶼国の教育（フィジー、パプアニューギニア、バヌアツ）

第12回：ミクロネシア島嶼国の教育（マーシャル、パラオ）
第13回：教育の地域連携
第14回：地域内での比較
第15回：他の地域との比較
第16回：オセアニア諸国の教育の特徴と課題

学習課題（予習・復習） 適宜、事前に資料を配付し、予習を指示する。また小レポート（6回）を課す。

地域学 (オセアニアの教育事情)

Area Studies

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 奥田久春

授業の概要 地域学は、ある地域の社会、文化、教育、政治、環境など諸問題の特徴について学際的に明らかにしていく学問だが、こうした研究アプローチは地域の固有性とその要因を分析するなど、多様な学問分野に役立つものである。本授業ではオセアニア地域の学校教育をテーマに取り上げ、各国や地域の教育に関する文献、画像・映像等を分析し、記述、整理、比較といった作業を進め、当該地域の学校教育の特徴と課題を考察する。

学習の目的

受講学生が地域学の学び方を学び、それぞれの専門分野に応用するために、当該地域を学ぶにあたって必要な知識とは何かを理解する。テーマとなる事柄の歴史的、社会的、地理的など諸要因について、様々な情報を収集し、考察する。それらに共通する地域の特徴を抽出できるように情報を記述し、整理する。地域内の比較、他地域との比較を行い、地域の特徴を分析、考察する。

学習の到達目標

オセアニア諸国の学校教育の基礎知識（義務教育制度、学校階梯、カリキュラム、試験制度、学校文化など）について説明することができる。それら学校教育の歴史的、社会的、地理的な諸要因について考察し、説明することができる。それらに共通する地域の特徴を抽出できるように情報を記述し、整理することができる。地域内諸国間の学校教育の比較、他地域との比較を行い、地域の特徴を分析し、考察した

授業計画・学習の内容

キーワード 地域研究、オセアニア、教育制度、比較研究

Key Word(s) Regional Study, Oceania, Educational System, Comparative Study

ことを説明することができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書

石附実・笹森健編「オーストラリア・ニュージーランドの教育」東信堂
二宮皓編著「新版世界の学校」学事出版、など授業において適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席 (30%)、小レポート (30%)、期末レポート (40%)

オフィスアワー 平日 月曜日～金曜日 9:00～17:00 (授業時間、昼休みを除く)。但し不在のこともあるので、予約することが望ましい。

授業改善への工夫 地域学の醍醐味は単に知識を得ることではなく、自らの観察によって得られたデータを自らの観点で分析していくことにあるため、小レポートなどでそうした実践を含めるようにする。またそうした能力をそれぞれの学問分野に応用することを意識づける。

その他 特になし

学習内容

第1回：ガイダンス (地域学の概要)
第2回：オセアニアの概況
第3回：オーストラリアの教育 (1)

第4回：オーストラリアの教育（2）
第5回：オーストラリアの教育（3）
第6回：ニュージーランドの教育（1）
第7回：ニュージーランドの教育（2）
第8回：ポリネシア島嶼国の教育（サモア1）
第9回：ポリネシア島嶼国の教育（サモア2）
第10回：ポリネシア島嶼国の教育（ツバル、トンガ）
第11回：メラネシア島嶼国の教育（フィジー、パプアニューギニア、バヌアツ）

第12回：ミクロネシア島嶼国の教育（マーシャル、パラオ）
第13回：教育の地域連携
第14回：地域内での比較
第15回：他の地域との比較
第16回：オセアニア諸国の教育の特徴と課題

学習課題（予習・復習） 適宜、事前に資料を配付し、予習を指示する。また小レポート（6回）を課す。

心理学F (心のくせを見つめ直す)

Psychology F

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 対象 学部1年生を想定して授業をおこないます。

授業の方法 講義

担当教員 南学(教育学部)

授業の概要 心理学は、人の「こころ」を研究対象とし、それを客観的に明らかにしていく学問領域です。人はみなそれぞれ自分の「こころ」をもっていますが、それを客観的に見るというのはそう簡単ではありません。本授業では、「こころのしくみ」や「こころのくせ」について述べます。

学習の到達目標 「こころ」を対象化し、客観的にとらえることができる。「こころのしくみ」や「こころのくせ」について正確な理解と知識をえる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード こころのくせを見つめ直す

学習内容

- 1 心理学とは
- 2 知覚と脳
- 3 学習・記憶
- 4 知識・信念

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 参考書:『不思議現象なぜ信じるのか-こころの科学入門-』 菊池聡ほか 北大路書房

成績評価方法と基準 小レポートを課した場合は30%、残りを定期試験の配点とする。

オフィスアワー 金曜7, 8限目

授業改善への工夫 時間の許す限り毎回ミニッツペーパーにより授業のコメントを求め、対応していく。

その他

この授業に関するWEBページ
<http://www.minamis.net/kougi.html>

学習課題（予習・復習）

復習としてノートを整理したり、振り返ることを求める。求める理解のレベルは、授業を受けていない人に、心理学的概念を具体例を挙げながら説明できることです。紹介する参考文献をどれか1冊以上読むこと。

心理学F (心のくせを見つめ直す)

Psychology F

学期 後期 開講時間 木1,2 単位 2 対象 学部1年生を想定して授業をおこないます。

授業の方法 講義

担当教員 南学(教育学部)

授業の概要 心理学は、人の「こころ」を研究対象とし、それを客観的に明らかにしていく学問領域です。人はみなそれぞれ自分の「こころ」をもっていますが、それを客観的に見るというのはそう簡単ではありません。本授業では、「こころのしくみ」や「こころのくせ」について述べます。

学習の到達目標 「こころ」を対象化し、客観的にとらえることができる。「こころのしくみ」や「こころのくせ」について正確な理解と知識をえる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード こころのくせを見つめ直す

学習内容

- 1 心理学とは
- 2 知覚と脳
- 3 学習・記憶
- 4 知識・信念

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 参考書:『不思議現象なぜ信じるのかこころの科学入門-』 菊池聡ほか 北大路書房

成績評価方法と基準 小レポートを課した場合は30%、残りを定期試験の配点とする。

オフィスアワー 金曜7,8限目

授業改善への工夫 時間の許す限り毎回ミニッツペーパーにより授業のコメントを求め、対応していく。

その他

この授業に関するWEBページ
<http://www.minamis.net/kougi.html>

学習課題（予習・復習）

復習としてノートを整理したり、振り返ることを求める。求める理解のレベルは、授業を受けていない人に、心理学的概念を具体例を挙げながら説明できることです。紹介する参考文献をどれか1冊以上読むこと。

心理学 F (心の総合的理解)

Psychology F

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle 担当教員 中西 良文(教育学部)

授業の概要

日々の生活の中で、人は何らかの形で「こころ」を働かせている。そのため、「こころ」の働きについて理解することが、より良い生活に役に立つ場合もある。本講義では「こころ」の働きに関する様々なトピックを紹介し、「こころ」の働きを統合的に理解することを目指す。

なお、授業は共同での活動を行うため、積極的に他者と関わる姿勢を持って授業に臨んでほしい。

学習の目的 心についての関心を深める。また、心の理解を通して、科学的なものの見方を身につける。

学習の到達目標 ここでは最高レベルの到達目標を挙げておきたい。まず、心理学という学問が「人の気持ちが分かる」といった感覚的なものではなく、実証的な性格を有する学問であるということ認識し、心理学的なものの見方、考え方を使って、日常的な事象について考えられることを挙げたい。続いて、心理学という学問が実際にどのような領域があるのかについて、その関係性と応用のあり方について説明できることが挙げられる。そして、授業で取り上げたトピックについて、日常的な具体例を伴うことができるというもの

授業計画・学習の内容

キーワード 「こころの働きの統合的理解」

Key Word(s) 知覚・認知・学習・記憶・言語・思考・動機づけ・感情

学習内容

- 1.心理学とはどのような学問か?
- 2.心理学の領域とその応用
- 3.情報の処理を行う人間
- 4.人の知覚の特徴
- 5.記憶のプロセスの理解
- 6.熟達化の過程
- 7.スキーマの理解 (知識・言語・理解について

が最後に挙げられるものである。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 他の受講生の受講を妨害する者(たとえば、私語を行う者や共同学習に参加しない者)は受講を認めない。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 教育心理学(教育学部) 学習心理学(教育学部) 心理学II 共通PBLセミナー

教科書 適宜講義時に紹介する。

成績評価方法と基準 レポート、試験、および授業内で行う活動(主にMoodleへの書き込み)を総合的に評価する

オフィスアワー 月曜日 14:40~16:10 教育学部1号館2F 学習心理学研究室

授業改善への工夫 毎回行う受講生によるレポート活動から、受講生の理解度を把握し、理解度を高めるよう授業改善を続ける。

- 考える)
- 8.社会的認知(1)
- 9.社会的認知(2)
- 10.グループダイナミクス
- 11.社会的ジレンマ
- 12.「やる気」の心理を探る(1): 外的報酬の影響
- 13.「やる気」の心理を探る(2): 感情が行動にもたらす影響
- 14.「やる気」の心理を探る(3): テスト結果をどう考えるか
- 15.「やる気」の心理を探る(4): 社会的動機づ

け
16.テスト

学習課題（予習・復習） 授業で行ったこと
に関しては、各自で再度復習を行い、「理

解」の作業を行うことを求める。また、授業
に関連する文献等を読み、知識の絶対量を増
やすことも必要である。授業ではMoodleを使
うため、定期的にネットワークにつながった
PCの前に座るようにして欲しい。

情報科学A (プログラミングの初歩)

Mathematical Science A

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle
担当教員 武本 行正 (非常勤講師)

授業の概要 テーマはコンピュータの初歩, プログラミングの初歩を学ぶということで, 総合情報処理センターのパソコンで, Excelを用いていろいろな計算をします。また, この結果をグラフ化します。最後の方で, Excelに内蔵されているVBA (visual BASIC) を用いて簡単なプログラミングも実施します。

学習の目的 コンピュータは連続的な量を扱えず, 離散的な量しか扱えません。しかし実際の計算の対象は連続的な量であるのが普通です。そこで連続的な量をどのようにして離散的に扱うかが大きな問題です。Excelを用いているいろいろなケースで学習しましょう。

学習の到達目標 コンピュータでWORDとExcelは使いこなせるようになりましょう。また, 情報の基礎として2進数についての演算と減算の補数加算等の学習をします。最後に少しはプログラムが書けるようになりましょう。ITパスポートや基本情報技術者の受験の最初の一歩にはなると思います。

授業計画・学習の内容

キーワード

Excelの操作、数式の入力、関数を使用して計算
度数分布、統計関数を利用した計算、各種関数のグラフ
データの回帰直線や補間の方法 (Lagangeの補間など)
距離を求めよう (常微分をルンゲクッタ公式で数値解法)
面積を求めよう (Simpsonの積分公式をVBAで)
VBAマクロについての練習

学習内容

第1講 Excelの操作、数式の入力、関数を使用して計算
第2講 .txtと.csvの保存の仕方、ASCIIコード表
第3講 バイトとビット、2の補数計算、2進と

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にない。

予め履修が望ましい科目 特にないが, 高校程度の数学

発展科目 コンピュータ関連の応用科目

教科書 プリント配布、特に教科書は定めない。

参考書 各自のレベルに合った初歩のExcelとかExcel入門など。

成績評価方法と基準 毎回の小テストやレポートは20~40%、期末の試験は60%程度。

オフィスアワー 特にないが, 授業時に質問歓迎。

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果等を参考にして改善する。

16進

第4講 Excelでの演算子 (^ はべき乗)、優先順位とカッコ

第5講 度数分布、漸化式、階乗、数学関数EXPやSINでグラフ

第6講 統計関数を利用した成績表の作成

第7講 数列、ベキ関数、三角関数のグラフ

第8講 指数関数、対数関数とそのグラフ

第9講 方程式の解をExcelのグラフを使用して見つけよう

第10講 データの回帰直線を求める (Excelのグラフから自動的に)

第11講 データの補間の方法 (Lagangeの補間公式を打ち込む)

第12講 距離を求めよう、ルンゲクッタの式をVBAマクロで

第13講 面積を求めよう、Simpsonの積分公式

をVBAで

第14講 VBAマクロについての練習問題

第15講 ExcelやVBAマクロの総まとめ

第16項 試験

学習課題（予習・復習） 授業の都度、関連項目を指示する。

情報科学A (プログラミングの初歩)

Mathematical Science A

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle
担当教員 武本 行正 (非常勤講師)

授業の概要 テーマはコンピュータの初歩、プログラミングの初歩を学ぶということで、情報処理センターのパソコンで、Excelを用いていろいろな計算をします。また、この結果をグラフ化します。最後の方で、Excelに内蔵されているVBA (visual BASIC) を用いて簡単なプログラミングも実施します。

学習の目的 コンピュータは連続的な量を扱えず、離散的な量しか扱えません。しかし実際の計算の対象は連続的な量であるのが普通です。そこで連続的な量をどのようにして離散的に扱うかが大きな問題です。Excelを用いているいろいろなケースで学習しましょう。

学習の到達目標 コンピュータでWORDとExcelは使いこなせるようになりましょう。また、情報の基礎として2進数についての演算と減算の補数加算等の学習をします。最後に少しはプログラムが書けるようになろう。ITパスポートや基本情報技術者の受験の最初の一歩にはなると思います。

授業計画・学習の内容

キーワード

Excelの操作、数式の入力、関数を使用して計算
度数分布、統計関数を利用した計算、各種関数のグラフ
データの回帰直線や補間の方法 (Lagangeの補間など)
距離を求めよう (常微分をルンゲクッタ公式で数値解法)
面積を求めよう (Simpsonの積分公式をVBAで)
VBAマクロについての練習

学習内容

第1講 Excelの操作、数式の入力、関数を使用して計算
第2講 .txtと.csvの保存の仕方、ASCIIコード表
第3講 バイトとビット、2の補数計算、2進と

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にない。

予め履修が望ましい科目 特にないが、高校程度の数学

発展科目 コンピュータ関連の応用科目

教科書 プリント配布、特に教科書は定めない。

参考書 各自のレベルに合った初歩のExcelとかExcel入門など。

成績評価方法と基準 毎回の小テストやレポートは20~40%、期末の試験は60%程度。

オフィスアワー 特にないが、授業時に質問歓迎。

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果等を参考にして改善する。

16進

第4講 Excelでの演算子 (^ はべき乗)、優先順位とカッコ

第5講 度数分布、漸化式、階乗、数学関数EXPやSINでグラフ

第6講 統計関数を利用した成績表の作成

第7講 数列、ベキ関数、三角関数のグラフ

第8講 指数関数、対数関数とそのグラフ

第9講 方程式の解をExcelのグラフを使用して見つけよう

第10講 データの回帰直線を求める (Excelのグラフから自動的に)

第11講 データの補間の方法 (Lagangeの補間公式を打ち込む)

第12講 距離を求めよう、ルンゲクッタの式をVBAマクロで

第13講 面積を求めよう、Simpsonの積分公式

をVBAで

第14講 VBAマクロについての練習問題

第15講 ExcelやVBAマクロの総まとめ

第16項 試験

学習課題（予習・復習） 授業の都度、関連項目を指示する。

情報科学A (JavaScript)

Computer Science A

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 山守一徳 (教育学部)

授業の概要 JavaScriptを用いて、プログラミングの基礎を身に付ける。

学習の目的 簡単なプログラムによって表示されるものが変わる楽しさを知り、本格的なプログラミングの経験のない学生でも、プログラミングへの意欲を得ることができる。

学習の到達目標 JavaScriptによって作ることができるものを知り、静的なホームページから動的なホームページへ改良をすることができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 情報受発信力

教科書 高橋麻奈著、やさしいJavaScriptのきほん、SBクリエイティブ発行

参考書 クジラ飛行機・土井毅著、基本から学ぶHTML5+ JavaScript、SBクリエイティブ発行

成績評価方法と基準 毎回レポートの提出

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00、場所教育学部2号館1階第1研究室

その他 受講制限25名

授業計画・学習の内容

キーワード

コンピュータ
プログラミング
JavaScript

Key Word(s)

Computer
Programming
JavaScript

学習内容

1. 演習に向けた準備
2. JavaScriptをはじめてみよう
3. オブジェクトとは

4. 状況に応じた処理
5. 繰り返し処理
6. 配列データの活用
7. クリックで動かそう
8. スライドショーにしよう
9. 入力フォームを作ろう
10. 計算プログラムを完成させよう
11. グラフィックを描こう
12. アニメーションを作ろう
13. ペイントアプリを作ろう
14. マップを活用しよう
15. マーカーを表示しよう
16. まとめ

情報科学B (数値計算と統計処理)

Mathematical Science B

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 井岡 幹博 (非常勤講師)

授業の概要 Cプログラミングを通して、計算機におけるデータの内部表現、数値計算の初歩を実習する。

を作成できるようになる。

教科書 独習C (翔泳社)

学習の到達目標 簡単な数値計算プログラム

成績評価方法と基準 出席50%, 試験50%

授業計画・学習の内容

キーワード Cプログラミング, 数値計算, 統計処理

9. 1次元配列と文字列の扱い

10. 非線型方程式の解

11. 2分法, ニュートン方

12. 最大値, 最小値, 平均, 偏差, 分散を求める.

13. 補間

14. 連立1次方程式

15. 逆行列, 行列式

16. 試験

学習内容

1. プログラムの作成とコンパイル
2. プログラムに数値を入力する方法
3. 算術式
4. 制御文
5. 基数変換
6. 補数
7. 2進数の加減乗除
8. データ型修飾子と文字の表現

学習課題 (予習・復習) そのつど, 課題プリントを与える.

数理科学A (整数の話題から)

Mathematical Science A

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 蟹江幸博 (非常勤講師)

授業の概要

整数の理論から興味深い数学の話題を取り上げ、講義する。

それらの数学の話題の歴史的・文化的な背景も紹介する。

学習の目的 整数と多項式に関する基本概念や原理・法則に対する理解を深め、事象を数理的に考察・表現・処理する能力を高める。

学習の到達目標

整数の理論を通して、その背景にある数学の基本概念や原理・法則が分かる。

事象を数学的論拠をもって考察・表現・処理を行う。

今後の研究や社会・日常生活に、積極的に数学を活用しようとする態度を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

教科書 D.フックス, S.タバチニコフ「本格数学練習帳1ラマニユジャンの遺した関数」(岩波書店)

成績評価方法と基準 定期試験およびレポート、平常の学習態度など。

授業改善への工夫 講義中に行う演習の時間に、随時学生の要望を聞き対処する。

授業計画・学習の内容

キーワード 有理数近似, 2項係数, パスカルの三角形, 代数方程式, 方程式の根, 方程式の幾何学

Key Word(s) Approximation by rational numbers, binomial coefficients, Pascal's triangle, algebraic equation, roots of equations, geometry of equations

学習内容

[授業計画]

第1~3回: 実数を有理数で近似する

第4~6回: 2項係数とパスカルの三角形

第7~8回: 3次と4次の方程式

第9~11回: 5次方程式

第12~13回: 多項式の根の数とデカルトの規則

第14~15回: 方程式の幾何学

第16回: 期末試験

数理科学B (幾何に関する話題)

Mathematical Science B

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 蟹江幸博 (非常勤講師)

授業の概要 幾何の様々な話題を巡って、数学の議論の進め方、発想の展開の仕方に接する。

学習の目的 さまざまな幾何、特に曲面や、曲線を変形して、見えているものの背後にある法則性に触れる。また、カスプがいたるところにあるという、興味深い事実を学ぶ。

学習の到達目標 日頃目にする図形が、なぜそのように見えるのか、背後にある理論、構造などの深さを理解できるようになり、さら

に自分で探求を進められるようにする。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

成績評価方法と基準 講義中に課される演習問題のレポートと、期末試験と授業態度を総合して評価する。

授業改善への工夫 講義中に行う演習の時間に、随時学生の要望を聞き対処する。

その他

授業計画・学習の内容

キーワード 4頂点定理, カスプ, 直線族, 平面曲線, 組み合わせ論的公式, メビウスの帯

学習内容

授業内容

[授業計画]

第1回-第3回 4頂点定理

第4回-第6回 領域を切り分ける直線族

第7回-第9回 平面曲線に関する組み合わせ論的公式

第10回-第12回 1枚の紙を折り曲げて作る曲面

第13回-第15回 メビウスの作った曲面

第16回 試験

学習課題 (予習・復習)

数理科学C (微分方程式の話題)

Mathematical Science C

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 肥田野 久二男 (教育学部)

授業の概要 1変数関数の微分と2変数関数の偏微分を学習済みまたは学習中の学生を対象に、いろいろな微分方程式の導出とその解法に関して解説します。

学習の目的 自然現象から物理法則を経由して微分方程式は導かれます。微分方程式の解によって、その現象は記述されるともいえます。微分方程式を解くために、古くから数学者たちは方法を考案してきました。本講義では、いくつかの比較的単純な場合に、物理法則を経由して微分方程式が導かれる様子に触れてほしいと思います。そのあとで、求積法、定数変化法、フーリエの方法などを駆使して、微分方程式を実際に解いてみます。

学習の到達目標 微分方程式が物理法則から導かれることを理解して、微分方程式の解を求めるために考案された方法を実際に使えるようになることが学習の到達点になります。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専

授業計画・学習の内容

キーワード 微分方程式の導出とその解法

Key Word(s) Derivation of ordinary differential equations and partial differential equations. Methods for solving ordinary differential equations and partial differential equations.

学習内容

1. 物理現象のモデル化。常微分方程式の例とその解法 (第1回~7回)
2. 熱の伝導と波の伝播。熱方程式と波動方程

門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 受講生は1変数関数の微分と2変数関数の偏微分を知っていることを前提として講義します。

予め履修が望ましい科目 「基礎微分積分学 I」は履修済みで、「基礎微分積分学 II」を履修中または履修済みであることが望まれます。

参考書

「数理物理の微分方程式」(望月清・I.トルシン共著、培風館)

「偏微分方程式入門」(神保秀一著、共立出版)

成績評価方法と基準 試験による。ただし、講義への出席状況や受講態度等も考慮して総合的に評価します。

その他 毎回、出席をとります。無断で欠席をすると、期末試験を受けられません。

式の導出。フーリエの方法による解法 (第8回~第15回)

3. 試験 (第16回)

なお、これは予定であり、受講生の状況等により変更する場合があります。

学習課題 (予習・復習) 理解を深めるために、簡単な練習問題を課すことがあります。十分な時間をかけて問題を解き、理解を深めることが求められます。

数理学D (グラフ理論)

Mathematical Science D

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 石谷 寛

授業の概要

有限グラフの理論から興味深い数学の話題を取り上げ、講義する。
それらの数学の話題の歴史的・文化的な背景・応用例も紹介する。

学習の目的 有限グラフの理論に関する基本概念や原理・法則に対する理解を深め、事象を数理的に考察・表現・処理する能力を高める。

学習の到達目標

有限グラフの理論を通して、その背景にある数学の基本概念や原理・法則が分かる。

、事象を数学的論拠をもって考察・表現・処理を行う。
今後の研究や社会・日常生活に、積極的に数学を活用しようとする態度を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

参考書 「やさしくくわしいグラフ理論入門」、オイステン・オア

成績評価方法と基準 定期試験およびレポート、平常の学習態度など。

授業計画・学習の内容

キーワード 有限グラフ、ケーニヒスベルグの橋、平面グラフ、電気回路、パズル、木、オイラーの定理

学習内容

[授業計画]

第1～3回：グラフとは何か、完全グラフ、同型グラフ、平面グラフ、区間グラフ

第4～6回：連結グラフ、連結成分、ケーニヒスベルグの橋、オイラーグラフ
第7～8回：木、木と林、サイクルと木、旅するセールスマン問題
第9～11回：マッチング
第12～13回：ゲームとパズル
第14～15回：平面的グラフ
第16回：期末試験

数理学D (グラフ理論)

Mathematical Science D

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 石谷 寛

授業の概要

有限グラフの理論から興味深い数学の話題を取り上げ、講義する。
それらの数学の話題の歴史的・文化的な背景・応用例も紹介する。

学習の目的 有限グラフの理論に関する基本概念や原理・法則に対する理解を深め、事象を数理的に考察・表現・処理する能力を高める。

学習の到達目標

有限グラフの理論を通して、その背景にある数学の基本概念や原理・法則が分かる。

、事象を数学的論拠をもって考察・表現・処理を行う。
今後の研究や社会・日常生活に、積極的に数学を活用しようとする態度を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

参考書 「やさしくくわしいグラフ理論入門」、オイステン・オア

成績評価方法と基準 定期試験およびレポート、平常の学習態度など。

授業計画・学習の内容

キーワード 有限グラフ、ケーニヒスベルグの橋、平面グラフ、電気回路、パズル、木、オイラーの定理

学習内容

[授業計画]

第1～3回：グラフとは何か、完全グラフ、同型グラフ、平面グラフ、区間グラフ

第4～6回：連結グラフ、連結成分、ケーニヒスベルグの橋、オイラーグラフ
第7～8回：木、木と林、サイクルと木、旅するセールスマン問題
第9～11回：マッチング
第12～13回：ゲームとパズル
第14～15回：平面的グラフ
第16回：期末試験

数理科学G (数学書の輪読と発表)

Mathematical Science G

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 蟹江幸博 (非常勤講師)

授業の概要 整数や幾何の話題について、グループに分かれてテキストを読み、発表する。

学習の目的 整数や幾何の話題に関する数学に親しみ、その考え方を理解する。

学習の到達目標 整数や幾何の話題に関する数学の入門的部分の知識と、考え方を身に付ける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体

的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

教科書 M.アイグナー, G.M.ツィーグラー「天書の証明」(丸善出版)

成績評価方法と基準 発表の準備、発表のまとめ方、熱意。

授業改善への工夫 講義中に行う演習の時間に、随時学生の要望を聞き対処する。

授業計画・学習の内容

キーワード 整数と幾何に関する数学

Key Word(s) Mathematics on Integers and Geometry

学習内容

グループに分かれて、テキストの分担部分の

内容(および自分たちで考えたこと)を発表する。

分担については、最初の講義の際に、教科書を読み合わせながら、希望の箇所を選択する。

数理科学H (やさしい統計学)

Mathematical Science H

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **担当教員** 石谷 寛 (非常勤講師)

授業の概要 統計学入門としてのデータの整理、確率分布、標本分布、推定を講義し、更に理解を深めるため演習も補う。

学習の目的 統計学におけるデータ処理と分析の方法を理解し、修得する。

学習の到達目標 統計学の基礎的知識を修得し、世論調査や視聴率調査など各種調査の数値のあいまいさについて理解できるようになる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

発展科目 確率・統計学

教科書 開講時に発表します。

成績評価方法と基準 レポートの内容と試験の結果を総合して評価する。

授業改善への工夫 授業についての意見・感想は適宜受け入れ、改善への工夫をする。

授業計画・学習の内容

キーワード 平均、分散、回帰直線、相関係数、確率分布、正規分布、標本分布、推定

学習内容

第1回 ガイダンス (統計学の概要)

第2回 データの整理

第3回 平均と分散

第4回 偏差値、チェビシェフの不等式

第5回 相関係数と回帰直線 (その1)

第6回 相関係数と回帰直線 (その2)

第7回 集合と事象、確率

第8回 確率変数と確率分布

第9回 2項分布

第10回 ポアソン分布等

第11回 正規分布

第12回 正規分布の応用

第13回 標本分布

第14回 推定の考え方、点推定

第15回 母平均の区間推定

第16回 まとめと試験

数理科学H (やさしい統計学)

Mathematical Science H

学期 後期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **担当教員** 石谷 寛 (非常勤講師)

授業の概要 統計学入門としてのデータの整理、確率分布、標本分布、推定を講義し、更に理解を深めるため演習も補う。

学習の目的 統計学におけるデータ処理と分析の方法を理解し、修得する。

学習の到達目標 統計学の基礎的知識を修得し、世論調査や視聴率調査など各種調査の数値のあいまいさについて理解できるようになる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

発展科目 確率・統計学

教科書 開講時に発表します。

成績評価方法と基準 レポートの内容と試験の結果を総合して評価する。

授業改善への工夫 授業についての意見・感想は適宜受け入れ、改善への工夫をする。

授業計画・学習の内容

キーワード 平均、分散、回帰直線、相関係数、確率分布、正規分布、標本分布、推定

学習内容

第1回 ガイダンス (統計学の概要)

第2回 データの整理

第3回 平均と分散

第4回 偏差値、チェビシェフの不等式

第5回 相関係数と回帰直線 (その1)

第6回 相関係数と回帰直線 (その2)

第7回 集合と事象、確率

第8回 確率変数と確率分布

第9回 2項分布

第10回 ポアソン分布等

第11回 正規分布

第12回 正規分布の応用

第13回 標本分布

第14回 推定の考え方、点推定

第15回 母平均の区間推定

第16回 まとめと試験

PBL数理科学（現代科学）Ⅰ・Ⅱ（数学の楽しみ） PBL seminarⅠ、Ⅱ

学期 前期 開講時間 月 5, 6; 水 9, 10 単位 4 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 新田 貴士（教育学部）

授業の概要 高校数学を補充しながら、具体的数理モデルをPBLセミナー形式で学習する。

園子(著)共立出版)、その他は講義の際に紹介する。

学習の到達目標 高校数学を補充しながら、具体的数理モデルをPBLセミナー形式で学習する過程で、本学の基本方針の4つの力を身につける。

成績評価方法と基準 発表、出席、レポートによる。

教科書 やさしく学べる微分方程式、(石村

オフィスアワー 月曜日 12:00-13:00、水曜日 12:00-13:00、新田研究室。

授業計画・学習の内容

キーワード PBL、微分積分、微分方程式

進度に合わせて、内容は変更する。

学習内容 高校数学を補充しながら、微分積分モデルをPBLセミナー形式で学習する。学習

学習課題（予習・復習） 講義の際にPBL形式に合わせて提示する。

物理学 (自然観の発展)

Topics in Physics

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 松島 武男

授業の概要 物理の話題からの講義

受講要件 特になし

学習の目的 文系の学生も含めて物理学とはどういうものを理解してもらうことを目的とする。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 古典力学

学習の到達目標 古代ギリシャ時代からニュートン力学の形成までを歴史的に考察し、科学的認識とはどういうものを理解すること。

教科書 なし

成績評価方法と基準 期末試験100%

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果を考慮して授業改善を行っている。

その他 自然に対する「感じる力」=50% 論理的に「考える力」=50%

授業計画・学習の内容

キーワード 自然観, 天文学, 力学, 原子・分子, 原子核, クォーク

5 コペルニクス, ケプラーの天体運動論

6 ガリレイの落体運動論

7 ニュートンによる力学の基礎の確立

8 ドルトンの原子仮説

学習内容
古代ギリシャ時代から現代に至るまで広く話題を取り上げて、人間の自然観がどの様に変化発展してきたかを探る。

1 はじめに

2 古代ギリシャ時代の自然観

3 アリストタルコスの地動説

4 エラトステネスによる地球半径の測定

9 アヴォガドロの分子仮説

10 電子の発見

11 ラザフォード散乱と原子の構造

12 原子核反応

13 ゲルマンのクォーク模型

14 究極の粒子とは何か

15 まとめ

化学A (化学の特徴の理解)

Chemistry A

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 選/必 選択 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 工学研究科分子素材工学専攻教員、○橋本 忠範 (工学研究科分子素材工学専攻)

授業の概要 化学に関するトピックスや最新の研究について、オムニバス形式の講義で学習する。また、その理解のために、基礎知識や化学的な見方について、学習する。

学習の目的 化学関連の事象や話題について、理解できる。さらに、化学の知識に基づいた解釈の仕方や見方を身につける。

学習の到達目標 常に、知的好奇心を持ち続け、最近の化学に関するトピックスについて理解できる。

本学教育目標との関連 幅広い教養

参考書 必要に応じて、講義中に紹介します。

成績評価方法と基準 欠席4回以下を前提とし、講義に関する学習状況と最終レポートに基づいて、総合的に評価します。

オフィスアワー 月曜日～金曜日12:00～12:50
工学研究科担当教員室

授業改善への工夫 講義だけではなく、報道ニュース等でわからないことがあれば、積極的に質問することを歓迎します。

その他 市民開放10人まで

授業計画・学習の内容

キーワード 化学・物質・原子・分子

Key Word(s) Chemistry, Substance, Atom, Molecule

学習内容

本講義は、工学研究科分子素材工学専攻の8分野(有機機能化学、レーザー光化学、分析環境化学、有機素材化学、無機素材化学、高分子設計化学、有機精密化学、エネルギー変換化学)の教員によって、化学のトピックスや最新の研究の概要を説明します。

第一回 有機素材化学の提供する話題

第二回 無機素材化学の提供する話題

第三回 高分子設計化学の提供する話題

第四回 有機精密化学の提供する話題

第五回 エネルギー変換化学の提供する話題

第六回 有機機能化学の提供する話題

第七回 レーザー光化学の提供する話題

第八回 分析環境化学の提供する話題

第九回 有機素材化学の提供する話題

第十回 無機素材化学の提供する話題

第十一回 高分子設計化学の提供する話題

第十二回 有機精密化学の提供する話題

第十三回 エネルギー変換化学の提供する話題

第十四回 有機機能化学の提供する話題

第十五回 レーザー光化学の提供する話題

これまでに講義で取り上げたトピックス:

太陽電池・シリコン結晶・プラズマ分解

ニューガラス・ガラスファイバー

鉱物・石英・人工水晶・蛍石・磁鉄鉱・イエローダイヤモンド・ブルーダイヤモンド・レアメタル

日本人のノーベル化学賞受賞研究・ポリアセチレン・パラジウム触媒

医薬品の有機合成・フッ素化学

フラーレン・カーボンナノチューブ

高分子化学・液晶・液晶ディスプレイ・有機ELディスプレイ

グリーンケミストリー・環境にやさしい生分解性プラスチック

放射線化学

学習課題(予習・復習) 各自が興味を持った内容に関して、さらに勉強し、最終レポートにまとめてください。

化学A (化学の基礎と話題)

Chemistry A

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 野本建雄(三重大学名誉教授)

授業の概要 化学の基礎を学ぶと共に、身の回りの化学現象や化学の話題、化学と物質文明との関係などを学ぶ。

学習の目的 理系の人は化学の最小限の基礎を学び、文系の人も大学教養としての化学的な見方、考え方を身に付け、文系理系の誰もが、化学の奥深さを垣間見ることで、その面白さを知り、身の回りの化学現象や、話題に興味を持ち、現代文明と化学の関係を理解できるようになること。

学習の到達目標 現代の科学観と化学的考え方学ぶことで、身の回りの化学現象を説明できるようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 学部専門科目の物理化学、無機化学、有機化学、生化学など。

授業計画・学習の内容

キーワード 化学史、原子の構造、放射能、原子の電子配置、化学結合、分子間力、物質の状態、エンタルピー、エントロピー、有機化合物、高分子、アミノ酸、タンパク質、遺伝情報、環境問題

Key Word(s) Chemical history, Atomic structure, Radioactivity, Electronic structures of atoms, Chemical bonds, Intermolecular forces, States of matter, Enthalpy, Entropy, Organic compounds, Polymers, Amino acids, Proteins, Genetic code, Chemistry and Environment.

学習内容

参考書

- ・今西、金子、小塩、湊元、八谷 編著「わかる理工系のための化学」共立出版
- ・久保田真理 「興味が湧き出る化学結合論：基礎から論理的に理解して楽しく学ぶ」共立出版
- ・齋藤太郎 「化学の基本概念: 理系基礎化学」裳華房

成績評価方法と基準 期末試験(又はレポート)と受講態度。期末試験にするかレポートにするかは、学生数や受講態度等によって決め、最終回の授業までに連絡する。

オフィスアワー 初回に連絡する。

授業改善への工夫 可能であれば、ビデオを使って理解を深める。積極的な質問を歓迎し、またミニレポートを課すこともある。これらによって授業改善を図る。

その他 化学に関することであれば、どのような質問でも歓迎します。それにより、シラバス以外でも講義します。プリントを配布するなど、参考書なしでも理解できるようにします。文系の方でも充分理解できるように配慮しますので、文系の方も大いに歓迎します。

- (1)化学とは(化学史、原子と分子、単位、モル)
- (2)放射能(放射線と単位、生体への影響)
- (3) 元素の誕生(物質の階層構造と化学)
- (4)原子の構造
- (5)電子配置と周期表
- (6) 色について(物はなぜ見えるか))
- (7)化学結合と分子間力
- (8)物質の状態(三態、超臨界状態)
- (9)物質の変化(エンタルピーとエントロピー)
- (10)炭素の化学 (有機物、高分子)
- (11)アミノ酸とタンパク質
- (12)核酸と遺伝情報

(13)物質文明と環境問題。

これら全てを講義する時間は無いので、受講生の構成(学部、学科)を考慮して、この内の8割程度を選択講義する。これ以外でも要望が

あれば、それを取り上げて、講義する。

学習課題（予習・復習） 予習よりも、復習は必ず行い、不明な点は次回に質問すること。

化学B (遺伝子工学と抗体工学)

Chemistry B

学期 後期 開講時間 水 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 富田昌弘(工学部)

授業の概要

遺伝子工学の発展とその役割に関し、現在のトピックスを踏まえ講述する。

組換えDNA技術の基礎とその応用および社会における役割について理解する。

抗体の産生機構、モノクローナル抗体作製法などの抗体工学に関して講述する。

授業での基礎的事項に基づき、受講生によるセミナー形式の授業を行う。

学習の目的 遺伝子工学および抗体工学に関する基礎的事項を学習し、バイオテクノロジーに関する知識を修得する。

学習の到達目標 遺伝子工学および抗体工学の基礎を修得すると共に、セミナー発表による学習の向上、発表における質疑応答の重要性について学ぶ。

授業計画・学習の内容

キーワード 遺伝子工学および抗体工学の発展とその役割

学習内容

- 第1回 DNAおよびRNAの構造と機能
- 第2回 転写、翻訳
- 第3回 組換えDNA技術の概要および応用
- 第4回 遺伝子のクローニング
- 第5回 塩基配列決定方法
- 第6回 ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR法)
- 第7回 抗体産生機構
- 第8回 モノクローナル抗体の作製方法
- 第9回 酵素免疫測定(ELISA)法
- 第10回 セミナー発表および質疑応答
- 第11回 セミナー発表および質疑応答
- 第12回 セミナー発表および質疑応答
- 第13回 セミナー発表および質疑応答

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 プリント配布および適宜紹介する。

成績評価方法と基準 セミナー発表50%、出席10%、レポート20%、質疑応答を含む授業態度20%

オフィスアワー 水曜日 12:00~13:00 第1合同棟4階 富田教室7412

授業改善への工夫 授業に関する意見、感想に基づき柔軟に対応する。

- 第14回 セミナー発表および質疑応答
- 第15回 セミナー発表および質疑応答
- 第16回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

- 第1回 予習:核酸について
- 第2回 予習:セントラルドグマについて
- 第3回 予習:制限酵素について
- 第4回 予習:プラスミドベクターについて
- 第5回 予習:サンガー法について
- 第6回 予習:DNA合成酵素について
- 第7回 予習:脊椎動物の免疫機構について
- 第8回 予習:ハイブリドーマ作製法について
- 第9回 予習:抗原抗体反応について
- 第10回~第15回 予習:各セミナー担当者の発表準備および発表原稿(A3サイズ、1枚)の作成
- 第16回 予習:特になし

化学 B (先端医療工学を学ぶ)

Chemistry B

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 選/必 選択

担当教員 ○堀内 孝 (工学部) , 宮本 啓一 (工学部)

授業の概要 豊かな未来社会は健全な社会の熟成のみならず個人の健康に負うところが大きい。健康を損ねた体を人工的に置換したり、再生を促進したりする医療技術の発展は驚くばかりである。この学際的領域を工学、医学、社会等多面的に捉え、将来の姿を受講者と共に考察する。

学習の到達目標 調査研究力とプレゼンテーション力を培う。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 生体材料化学、生体材料物性学

教科書 「人工臓器はいま」 (日本人工臓器学会編、はる書房)

成績評価方法と基準 出席 (15%) 課題に対するプレゼンテーション (60%) 質疑応答 (15%) レポート (20%)

オフィスアワー 基本的には講義、出張以外の居室時。工学部・第一合同棟5F・生体材料化学ゼミ室

授業改善への工夫 教師から学生への一方的な講義形式ではなく、課題提示型の授業進行を行うことで授業改善に対処する。

授業計画・学習の内容

キーワード 先端医療工学

Key Word(s) advanced biomedical engineering

学習内容

教科書に記述してある内容に基づき、それぞれの人工臓器に対し教員側から幾つかの課題を課す。学生は、その具体的課題を調べプレゼンテーションを行い、それに基にディスカッション形式で授業を進める。

第1回オリエンテーション

第2回人工臓器アラカルト

第3回循環器系人工臓器 (1) ペースメーカー・人工弁

第4回循環器系人工臓器 (2) 補助循環・人工心臓

第5回循環器系人工臓器 (3) 人工心臓・人工肺

第6回代謝系人工臓器 (1) 人工臓器

第7回代謝系人工臓器 (2) 人工肝臓

第8回代謝系人工臓器 (3) 人工脾臓

第9回感覚系人工臓器 (1) 眼内レンズ

第10回感覚系人工臓器 (2) 人工内耳

第11回感覚系人工臓器 (3) 人工神経・視覚

第12回材料系人工臓器 (1) 人工関節

第13回材料系人工臓器 (2) 人工骨

第14回材料系人工臓器 (3) 人工皮膚

第15回次世代型人工臓器

生物学 (環境と生物)

Biology

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 鈴木 直之(教養教育機構)

授業の概要 地球環境問題について種々の見方があることを披露し、マスコミ報道等の情報を鵜呑みにするのではなく、それらについて自分自身で考えることにより、正確な情報を選別させる。また、木材をはじめとする森林資源は、その蓄積量、循環可能性、多様な用途から言って、21世紀の有望な資源として多方面から注目されている理由を理解させる。

学習の目的 木材をはじめとする各種資源の現状を把握するとともに、それらを有効利用し、地球環境への負荷を低減するために何をしなければならぬかを認識する

学習の到達目標 地球環境について現状を把握し、将来どのように行動すべきかを正しく選択できる能力を身につけさせる。

本学教育目標との関連 倫理観, 問題解決力,

社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 授業中に適宜示す。

成績評価方法と基準 原則として毎回行う小レポートによって行う。ただし、必要に応じて期末テストを行う場合がある(期末テストを行う場合は総点の30%とする)。

オフィスアワー 鈴木 金曜日12:10~13:00 605室

授業改善への工夫 問題を提起しそれらについての受講生に意見を述べさせ授業内容の理解を深める。

授業計画・学習の内容

キーワード 森林 木材 地球環境問題 資源

Key Word(s) Forest, Wood, Global- environment, Resource

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 森林と海のつながり
- 第3回 地球環境問題
- 第4回 地球温暖化の真偽
- 第5回 エネルギーと環境
- 第6回 資源と環境 I
- 第7回 資源と環境 II

第8回 資源と環境 III

第9回 資源と環境 IV

第10回 環境と健康

第11回 木質資源のリサイクル

第12回 生物体としての木材

第13回 木材と居住環境

第14回 樹木の遺伝子工学研究の現状

第15回 教育と木材・総括

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 毎回問題意識をもって授業にのぞむこと。

生物学 (教養としての生物学)

Biology

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 浅原 正和

授業の概要 生物学全体について基本的な知識と考え方を学びます。高校で生物学を履修していない学生に対して配慮した構成としています。

学習の目的 現代の社会には再生医療の発展や環境問題、遺伝子組み換え作物の普及、バイオ燃料の利用など、生物学の基礎知識なくしては理解できない諸問題があふれています。そのような社会で活躍していく皆さんの基礎教養として、マクロからミクロまで、生物学全体の基本的な知識と考え方を学んでいこうと思います。

学習の到達目標 生物学全般について基本的な知識と考え方を身に付け、説明できるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎生物学

Key Word(s) Essential biology

学習内容

- 第1回 『生物学の考え方』 オリエンテーション
- 第2回 『生命とは』 生命とは何かを考えてみましょう
- 第3回 『体をつくり、エネルギーを生み出すしくみ』 生き物の代謝について学びます
- 第4回 『動植物のからだとそれを構成する物質』 生き物は何からできているかを考えます
- 第5回 『遺伝子とは』 遺伝子の仕組みについて考えます
- 第6回 『遺伝の法則』 さまざまな遺伝する形質について考えます
- 第7回 『生物の感覚』 生き物が外界を認識するしくみについて考えます
- 第8回 『生物の行動』 生き物の行動と、それ

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、生物学の考え方を理解することを重視してください。

を制御するしくみについて考えます

第9回 『生き物の名前はどのように決められている?』 生物の分類学をその歴史を踏まえて概観します

第10回 『生物の進化1』 進化論の起こりと、生命の進化の歴史を概観します

第11回 『生物の進化2』 生命の進化の歴史とさまざまな進化の事例について考えます

第12回 『生物間の相互作用と自然環境保護』 生物の相互関係と、ヒトと自然の関係について考えます

第13回 『生物の地理的分布』 生き物はどうして限られたエリアに住むのか、その原因を考えます

第14回 『骨格と筋肉』 脊椎動物の体について、その進化をふまえて考えます

第15回 『まとめ』 全体をおさらいします
(試験)

生物学 (教養としての生物学)

Biology

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 浅原 正和

授業の概要 生物学全体について基本的な知識と考え方を学びます。高校で生物学を履修していない学生に対して配慮した構成としています。

学習の目的 現代の社会には再生医療の発展や環境問題、遺伝子組み換え作物の普及、バイオ燃料の利用など、生物学の基礎知識なくしては理解できない諸問題があふれています。そのような社会で活躍していく皆さんの基礎教養として、マクロからミクロまで、生物学全体の基本的な知識と考え方を学んでいこうと思います。

学習の到達目標 生物学全般について基本的な知識と考え方を身に付け、説明できるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎生物学

Key Word(s) Essential biology

学習内容

- 第1回 『生物学の考え方』 オリエンテーション
- 第2回 『生命とは』 生命とは何かを考えてみましょう
- 第3回 『体をつくり、エネルギーを生み出すしくみ』 生き物の代謝について学びます
- 第4回 『動植物のからだとそれを構成する物質』 生き物は何からできているかを考えます
- 第5回 『遺伝子とは』 遺伝子の仕組みについて考えます
- 第6回 『遺伝の法則』 さまざまな遺伝する形質について考えます
- 第7回 『生物の感覚』 生き物が外界を認識するしくみについて考えます
- 第8回 『生物の行動』 生き物の行動と、それ

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、生物学の考え方を理解することを重視してください。

を制御するしくみについて考えます

第9回 『生き物の名前はどうか決まられている?』 生物の分類学をその歴史を踏まえて概観します

第10回 『生物の進化1』 進化論の起こりと、生命の進化の歴史を概観します

第11回 『生物の進化2』 生命の進化の歴史とさまざまな進化の事例について考えます

第12回 『生物間の相互作用と自然環境保護』 生物の相互関係と、ヒトと自然の関係について考えます

第13回 『生物の地理的分布』 生き物はどうして限られたエリアに住むのか、その原因を考えます

第14回 『骨格と筋肉』 脊椎動物の体について、その進化をふまえて考えます

第15回 『まとめ』 全体をおさらいします
(試験)

生物学 (教養としての生物学)

Biology

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 浅原 正和

授業の概要 生物学全体について基本的な知識と考え方を学びます。高校で生物学を履修していない学生に対して配慮した構成としています。

学習の目的 現代の社会には再生医療の発展や環境問題、遺伝子組み換え作物の普及、バイオ燃料の利用など、生物学の基礎知識なくしては理解できない諸問題があふれています。そのような社会で活躍していく皆さんの基礎教養として、マクロからミクロまで、生物学全体の基本的な知識と考え方を学んでいこうと思います。

学習の到達目標 生物学全般について基本的な知識と考え方を身に付け、説明できるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎生物学

Key Word(s) Essential biology

学習内容

- 第1回 『生物学の考え方』 オリエンテーション
- 第2回 『生命とは』 生命とは何かを考えてみましょう
- 第3回 『体をつくり、エネルギーを生み出すしくみ』 生き物の代謝について学びます
- 第4回 『動植物のからだとそれを構成する物質』 生き物は何からできているかを考えます
- 第5回 『遺伝子とは』 遺伝子の仕組みについて考えます
- 第6回 『遺伝の法則』 さまざまな遺伝する形質について考えます
- 第7回 『生物の感覚』 生き物が外界を認識するしくみについて考えます
- 第8回 『生物の行動』 生き物の行動と、それ

本学教育目標との関連 幅広い教養、論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、生物学の考え方を理解することを重視してください。

を制御するしくみについて考えます

第9回 『生き物の名前は どう決められている?』 生物の分類学をその歴史を踏まえて概観します

第10回 『生物の進化1』 進化論の起こりと、生命の進化の歴史を概観します

第11回 『生物の進化2』 生命の進化の歴史とさまざまな進化の事例について考えます

第12回 『生物間の相互作用と自然環境保護』 生物の相互関係と、ヒトと自然の関係について考えます

第13回 『生物の地理的分布』 生き物はどうして限られたエリアに住むのか、その原因を考えます

第14回 『骨格と筋肉』 脊椎動物の体について、その進化をふまえて考えます

第15回 『まとめ』 全体をおさらいします
(試験)

自然科学概論 (森は生きている)

Lecture Course in Natural Science

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 演習

担当教員 沼本 晋也 (生物資源学部)

授業の概要 源流域の森林環境の成り立ちや仕組みを理解し、流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、附带施設演習林において2泊3日の実地演習・講義を実施する。

学習の目的 森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場で山地・森林・溪流の意義を理解する。

学習の到達目標 演習林内で2泊3日の学習をとおして、森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、課題探求力、批判的思考力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 学生教育研究災害障害保険に加入すること。

教科書 必要に応じ資料等を配布する。

成績評価方法と基準 演習への取り組み態度(50%)、レポート(50%)。

オフィスアワー 集中講義期間中随時、後日Eメール対応も可。

授業改善への工夫 各自が多様な森林環境を観察できるよう野外(森林内)での見学学習に時間をとり、解説内容の改善を図る。

その他

山歩きができる服装・靴で参加して下さい。また、天候の急変に備え雨具・防寒も十分に考慮して下さい。警報発令時は大学の基準により対応します。

夏期休暇中に2泊3日で実施。受講人数制限(20名)

環境教育に関連した科目。

授業計画・学習の内容

キーワード テーマ：森は生きている。演習林、天然生林、人工林、源流域、環境保全

Key Word(s)

university forest, natural forest, man-made forest, headwater, environmental conservation

学習内容

1日目:

演習林の概要、宿舍利用に関する注意事項の説明

森林の多面的機能についての林内学習

2日目:

人工林の自然災害・溪流沿いの土砂災害調査
天然生林・二次林の林分構造と植生調査, 人工林保育現場の観察

映画「WOODJOB!」ロケ撮影と日本の森林・林業の課題解説

3日目

森林環境調査

レポート作成

学習課題 (予習・復習)

課題

- ・自然状態の森林の成り立ちや構造、人工林の目的や保育方法を理解する
- ・源流域の森林が環境保全に果たす役割を理解する

- ・日本の森林と林業の現状と課題を理解する

予習・復習
森林・環境保全に関する話題や時事問題について調べておくこと。

※映画「WOODJOB!」のロケ地となった当演習林を見学します。

以下を見ておくことをお勧めします。

- 1) 三浦しん著「神去なあなあ日常」
- 2) 映画「WOODJOB!」, のDVDまたはBD。

自然科学概論 (食物の健康への影響)

Lecture Course in Natural Science

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 ○奥村克純(生物資源学部), 田口 寛(非常勤講師), 高瀬 幸次郎(非常勤講師)

授業の概要 がんを始めとする厄介な生活習慣病は、若年からの食生活を中心とする生活習慣が悪いために発症するものが大部分であり、現在の日本における年間30兆円を越える医療費も、これらの病気によることが多い。そこで、このような病気の予防法や健康増進法などについて、特に食物との関係で詳細に解説する。

学習の目的 がんや生活習慣病の予防法や健康増進法についての知識を得る。また、健康食品などについて批判できる力を養う。

学習の到達目標 本授業を履修することによって、すでに大学生の頃から生活習慣病の予防に努力しないといけないことが理解でき、中高年になってからの生活習慣病の予防や健康増進に非常に役立つ。また、健康食品などについてある程度批判できるようになる。

本学教育目標との関連 倫理観, 心身の健康に

対する意識, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 生化学, 予防医学, 各種生活習慣病に関係する科目など

教科書

<http://hiroshi-t.com/the-secret-to-healthy-long-life.pdf>

をダウンロード・プリントして持参のこと

成績評価方法と基準 レポート100%

オフィスアワー 毎週:月曜日12:00~13:00、生物資源学部755室

授業改善への工夫 各種プレゼンや板書を、より見やすくする。毎回、出席調査票を配布し、質問・意見・希望なども記入してもらうので、可能な限り、それに対応した改善を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード 食物による生活習慣病の予防など

Key Word(s) life-style diseases, cancer

学習内容

第1週と第2週: 「食物と健康」のガイダンスと疾病予防・健康増進に関する全体的な概論
第3週: 発がんの分子メカニズムについて
第4週: さまざまな発がん要因について
第5週: 一般的ながん予防法について
第6週: ビタミンを中心とするがん予防法について

第7週と第8週: 個々の生活習慣病の実際の症例をスライドで呈示し、疾患の恐ろしさについて解説する

第9週: 臨床検査の意義について

第10週と11週: 各種の生活習慣病に対する食事療法について

第12週: 酒、煙草、コ-ヒ-などの嗜好品のメリット、デメリットについて、およびストレスと疾患の関係について

第13週: 食物と遺伝子と生活習慣病

第14週と第15週: 食物と健康について受講生諸君との討論と全体のまとめ

自然科学概論 (生物進化)

Lecture Course in Natural Science

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle
担当教員 高松 進(生物資源学部)

授業の概要 DNAは生命の誕生以来30億年以上にわたって生物に受け継がれており、DNAを解析することで生物進化の歴史を従来よりも格段に高い精度で明らかにすることができる。このような学問は分子系統進化学と呼ばれ、近年急速に発達しつつある新しい学問分野である。本講義の前半は、分子系統学の基本原理を講義し、後半はコンピュータを用いてDNAデータから系統樹を作る作業を実習する。

学習の目的 20世紀後半に発展した分子系統学的手法により、生物の進化や系統に関する理解、知識が大きく変化する事になった。本講義ではDNAの塩基配列やアミノ酸配列データを使ってなぜ生物進化が研究できるのかについて基礎的な知識を教授するとともに、コンピュータを用いて実際の塩基配列データから生物系統樹を導くための演習を行う。

学習の到達目標

- ・ダーウインの進化論と木村資生の中立説の違いを理解することができる。
- ・DNAデータを用いて生物系統樹を作成する方法および原理が理解できる。
- ・分子系統学によって明らかになりつつある生物進化に関する新しい知識を得ることができる。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,論理的思考力,批判的思考力,討論・対話力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード DNA 塩基配列 系統解析 生物進化

Key Word(s)

DNA , Nucleotide Sequence, Phylogenetic analysis , Evolution

学習内容

高校で生物IIを履修していること。
実習でコンピュータを使うので、無線LAN内蔵のコンピュータを持っていること。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

参考書

「新しい分子進化学入門」宮田 隆著、岩波書店

「生物進化を考える」木村資生著、岩波新書

「DNAから見た日本人」斎藤成也著、ちくま新書

「DNA」James Watson著、講談社ブルーバックス

「ミトコンドリアはどこから来たかー生命40億年を遡る」黒岩常祥著、NHKブックス

「分子進化のほぼ中立説」太田朋子著、講談社ブルーバックス

成績評価方法と基準 中間試験30%、レポート40%、受講態度30%、計100%（合計が60%以上で合格）

オフィスアワー 毎週水曜日12時～13時、場所生物資源学部校舎562号室

授業改善への工夫 毎週質問用紙を配り、寄せられた質問に次回講義までに赤ペンで返事を書くことにより学生とのコミュニケーションを図る。

その他 レポートや試験を多く課すので、単位を取るのは大変です。本当に生物進化に興味があり、やる気のある人のみ受講可能。

- 1) 生物多様性とは
- 2) 自然選択説と中立説
- 3) 分子進化のしくみ
- 4) 分子時計
- 5) 中間テスト
- 6) 系統樹作成法の原理

- 7) 系統樹作成法 (DNAデータベースからの塩基配列の取得とFASTAファイルの作成)
- 8) 系統樹作成法 (多重アラインメント)
- 9) 系統樹作成法 (系統樹の作成)
- 10) 系統樹作成法 (系統樹の描画)
- 11) 系統樹作成法 (系統樹作成の実践1)
- 12) 系統樹作成法 (系統樹作成の実践2)
- 13) 系統樹作成法 (系統樹作成の実践3)
- 14) 生物の大分類
- 15) 進化は男の中で起こる
- 16) 共生と生物進化

学習課題 (予習・復習) 参考図書を読むことにより予習, 復習を行うこと.

自然科学概論 (科学技術の歴史)

Lecture Course in Natural Science

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 和田 正法

授業の概要 科学・技術は、わたしたちの生活に様々な面で多大な影響を与えている。本授業では、19世紀以降、現代に至るまでの科学・技術がどのように発展してきたのか、その歴史的な進歩の過程を見る。とくに19世紀以降の科学と技術の歴史は、国家や産業界との関係が深く、急激に大規模化・高度化してきた。そのため、科学・技術が社会とどのような影響関係にあるのか幅広く探ることが重要である。本授業の受講を通して、現代の科学技術文明が、歴史の積み重ねによって成り立っていることを学んでほしい。また、本授業の後半では、日本における科学・技術の発展も扱う。日本の文化を学ぶ一つのきっかけとしてほしい。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るといふことにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけでなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・19世紀以降の科学と技術の歴史の概要を理解する(C評価)。
- ・科学技術と社会の関係性を歴史に基づいて論じることができる(B評価)。
- ・現代の科学技術の進展を見つめ、歴史的展開に基づいて今後の方向性を論じることができる(A評価)。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受信

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、歴史的事実を記憶すること(のみ)を目標としません。歴史的事項の検討を通じて、現代のわたしたちの生活にどのような影響があるのか考え、主体的に意見を表明することを目標とします。

成績評価はレポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

また、科学技術が発展する場としての大学の歴史、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 歴史、科学技術、産業革命以降の科学技術史

Key Word(s) History, Science and Technology, History of Science and Technology since the Industrial Revolution

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術の歴史を扱う意義について概略的に考える。

第2回 万国博覧会

科学技術の祭典の歴史を通して、国家間競争の進展を考える。

第3回 ドイツの化学技術

「化学」の歴史を通して、科学と技術の境目を考える。

第4回 フォードシステム

大量生産体制の登場と、社会への影響を考える。

第5回 戦争と科学技術

毒ガスの製造と使用の歴史を通して、科学技術のあり方を考える。

第6回 医療の科学技術史

X線の登場と医療への応用の歴史を概略的に振り返る。

第7回 アポロ計画

巨大計画の実現を中心に、国家による科学技術への支援体制を考える。

第8回 特許紛争

国を超える知的財産権の歴史を通して、模倣と創造の関係を考える。

第9回 ISO、JISの成立

標準化と規制の歴史を通して、企業の科学技術戦略を考える。

第10回 生殖科学技術史

人間を対象とする科学技術の利用と倫理の境目を考える。

第11回 日本の科学技術史1 人物誌

田中久重のからくりと東芝の誕生を知る。

第12回 日本の科学技術史2 開国と技術導入

反射炉から鉄鋼業の自立までを知る。

第13回 日本の科学技術史3 産業遺産

富岡製糸場を中心に、殖産興業政策を振り返る。

第14回 日本の科学技術史4 社会と科学技術

電気事業の展開（なぜ50Hzと60Hzがあるのかなど）を知る。

第15回 日本の技術史5 経済成長と科学技術

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代を振り返る。

自然科学概論 (科学技術の歴史)

Lecture Course in Natural Science

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 和田 正法

授業の概要 科学・技術は、わたしたちの生活に様々な面で多大な影響を与えている。本授業では、19世紀以降、現代に至るまでの科学・技術がどのように発展してきたのか、その歴史的な進歩の過程を見る。とくに19世紀以降の科学と技術の歴史は、国家や産業界との関係が深く、急激に大規模化・高度化してきた。そのため、科学・技術が社会とどのような影響関係にあるのか幅広く探ることが重要である。本授業の受講を通して、現代の科学技術文明が、歴史の積み重ねによって成り立っていることを学んでほしい。また、本授業の後半では、日本における科学・技術の発展も扱う。日本の文化を学ぶ一つのきっかけとしてほしい。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけでなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・19世紀以降の科学と技術の歴史の概要を理解する(C評価)。
- ・科学技術と社会の関係性を歴史に基づいて論じることができる(B評価)。
- ・現代の科学技術の進展を見つめ、歴史的展開に基づいて今後の方向性を論じることができる(A評価)。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受信

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、歴史的事実を記憶すること(のみ)を目標としません。歴史的事項の検討を通じて、現代のわたしたちの生活にどのような影響があるのか考え、主体的に意見を表明することを目標とします。

成績評価はレポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

また、科学技術が発展する場としての大学の歴史、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 歴史、科学技術、産業革命以降の科学技術史

Key Word(s) History, Science and Technology, History of Science and Technology since the Industrial Revolution

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術の歴史を扱う意義について概略的に考える。

第2回 万国博覧会

科学技術の祭典の歴史を通して、国家間競争の進展を考える。

第3回 ドイツの化学技術

「化学」の歴史を通して、科学と技術の境目を考える。

第4回 フォードシステム

大量生産体制の登場と、社会への影響を考える。

第5回 戦争と科学技術

毒ガスの製造と使用の歴史を通して、科学技術のあり方を考える。

第6回 医療の科学技術史

X線の登場と医療への応用の歴史を概略的に振り返る。

第7回 アポロ計画

巨大計画の実現を中心に、国家による科学技術への支援体制を考える。

第8回 特許紛争

国を超える知的財産権の歴史を通して、模倣と創造の関係を考える。

第9回 ISO、JISの成立

標準化と規制の歴史を通して、企業の科学技術戦略を考える。

第10回 生殖科学技術史

人間を対象とする科学技術の利用と倫理の境目を考える。

第11回 日本の科学技術史1 人物誌

田中久重のからくりと東芝の誕生を知る。

第12回 日本の科学技術史2 開国と技術導入

反射炉から鉄鋼業の自立までを知る。

第13回 日本の科学技術史3 産業遺産

富岡製糸場を中心に、殖産興業政策を振り返る。

第14回 日本の科学技術史4 社会と科学技術

電気事業の展開（なぜ50Hzと60Hzがあるのかなど）を知る。

第15回 日本の技術史5 経済成長と科学技術

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代を振り返る。

自然科学概論 (科学技術の歴史)

Lecture Course in Natural Science

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 和田 正法

授業の概要 科学・技術は、わたしたちの生活に様々な面で多大な影響を与えている。本授業では、19世紀以降、現代に至るまでの科学・技術がどのように発展してきたのか、その歴史的な進歩の過程を見る。とくに19世紀以降の科学と技術の歴史は、国家や産業界との関係が深く、急激に大規模化・高度化してきた。そのため、科学・技術が社会とどのような影響関係にあるのか幅広く探ることが重要である。本授業の受講を通して、現代の科学技術文明が、歴史の積み重ねによって成り立っていることを学んでほしい。また、本授業の後半では、日本における科学・技術の発展も扱う。日本の文化を学ぶ一つのきっかけとしてほしい。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・19世紀以降の科学と技術の歴史の概要を理解する(C評価)。
- ・科学技術と社会の関係性を歴史に基づいて論じることができる(B評価)。
- ・現代の科学技術の進展を見つめ、歴史的展開に基づいて今後の方向性を論じることができる(A評価)。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受信

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、歴史的事実を記憶すること(のみ)を目標としません。歴史的事項の検討を通じて、現代のわたしたちの生活にどのような影響があるのか考え、主体的に意見を表明することを目標とします。

成績評価はレポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

また、科学技術が発展する場としての大学の歴史、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 歴史、科学技術、産業革命以降の科学技術史

Key Word(s) History, Science and Technology, History of Science and Technology since the Industrial Revolution

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術の歴史を扱う意義について概略的に考える。

第2回 万国博覧会

科学技術の祭典の歴史を通して、国家間競争の進展を考える。

第3回 ドイツの化学技術

「化学」の歴史を通して、科学と技術の境目を考える。

第4回 フォードシステム

大量生産体制の登場と、社会への影響を考える。

第5回 戦争と科学技術

毒ガスの製造と使用の歴史を通して、科学技術のあり方を考える。

第6回 医療の科学技術史

X線の登場と医療への応用の歴史を概略的に振り返る。

第7回 アポロ計画

巨大計画の実現を中心に、国家による科学技術への支援体制を考える。

第8回 特許紛争

国を超える知的財産権の歴史を通して、模倣と創造の関係を考える。

第9回 ISO、JISの成立

標準化と規制の歴史を通して、企業の科学技術戦略を考える。

第10回 生殖科学技術史

人間を対象とする科学技術の利用と倫理の境目を考える。

第11回 日本の科学技術史1 人物誌

田中久重のからくりと東芝の誕生を知る。

第12回 日本の科学技術史2 開国と技術導入

反射炉から鉄鋼業の自立までを知る。

第13回 日本の科学技術史3 産業遺産

富岡製糸場を中心に、殖産興業政策を振り返る。

第14回 日本の科学技術史4 社会と科学技術

電気事業の展開（なぜ50Hzと60Hzがあるのかなど）を知る。

第15回 日本の技術史5 経済成長と科学技術

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代を振り返る。

医学医療A (医学概論)

Introduction to Medicine

学期 前期 **開講時間** 月5,6 **単位** 2 **対象** ・医学科専門科目であるので、医学科学生は共通教育単位としては選択できない(看護学科学生は可)。・医学科以外の学生の受講については年次を問わない。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○後藤道子、森尾邦正、若林英樹、那谷雅之、小林茂樹、西川政勝、田島和雄、岩本彰太郎、松原貴子、緒方正人、安積良紀、白石泰三、石倉健、梅本正和(非常勤講師)、金丸恵子(非常勤講師)、鈴木中人(非常勤講師)

授業の概要 最新の医科学研究、医療の現状、医の倫理、学習姿勢などのついて幅広く講義する。

学習の目的 医学・医療に臨む者の基本姿勢や概念を修得する。

学習の到達目標

- ・医師・医学生に求められる姿勢を説明できる。
- ・最新の医科学研究の事例をあげ、内容を概説できる。
- ・医療現場や医療をとりまく社会の現状について概説できる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 医学の各専門科目。

教科書 指定なし

参考書 適宜紹介する

成績評価方法と基準

- ・成績評価は授業への取り組み(60%)、レ

ポート(40%)で評価する。出席やレポートの不正行為は不合格とする。病欠(要診断書)、忌引きなど、やむを得ず欠席する場合は医学科学務グループに連絡すること。

- ・出席管理システムで出席の確認を行うため必ず学生証を持参すること。学生証の忘れは欠席扱いとする。

- ・レポートは以下のⅠ. Ⅱ. を、三重大学Moodleを用いて提出すること【期限厳守】。
Ⅰ. 出席した回の感想【講義終了後、次回講義日の13時まで(最終回は8月3日(月)の13:00まで)】*ただし講義された先生が指定する課題があれば、感想ではなくそれに従う。

- Ⅱ. 最終レポート【8月6日(木)13:00まで】*15回の講義の内、最も興味深いテーマを自分なりに調べ、新たにデータを付け、考察を行ったものを「レポート作成ハンドブック」に従った形式で作成すること。最終レポートの提出は2/3以上の出席によって提出が可能とし、単位認定に必須としますので、提出がないものは不合格とする。

オフィスアワー メール (meduc@doc.medic.mie-u.ac.jp)でアポを取ること。

授業改善への工夫 Moodleを介して毎回の感想を教員にFeedbackし改善を促します。

授業計画・学習の内容

キーワード 生命科学、医療倫理、国際医療協力、治療・診断

Key Word(s) Lifescience, Medical ethics, International medical cooperation, Diagnosis

学習内容

前期の毎週月曜日午後13:00~14:30、医学部臨床講義棟第2講義室。

なお、講義予定や講義室は変更がありうるので掲示板に注意のこと。

講義テーマと講義日程については、初回講義で配布する。

学習課題(予習・復習) 各講義の感想(講義された先生が指定する課題があればそれに従う)をMoodleにて提出すること。

医学医療A (生命医学の課題)

Medicine, Nursing

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ○島岡要 (医学部), 油田正夫 (医学部), 野阪哲哉 (医学部), ガバザ・エステバン (医学部), 田中利男 (医学部), 緒方正人 (医学部), 吉田利通 (医学部), 成田正明 (医学部), 溝口明 (医学部), 那谷雅之 (医学部), 白石泰三 (医学部), 村田真理子 (医学部), 笹島茂 (医学部), 法貴葉子 (医学部), 山崎英俊 (医学部)

授業の概要 生命医学研究の最先端を講義より学ぶ。

予め履修が望ましい科目 特になし

学習の目的 生命医学研究の最先端を講義より学ぶ。

発展科目 特になし

学習の到達目標 生命医学研究において、どのようなことが研究課題とされ、どのような方法で解決されるかを理解すると共に、生命医学と社会との関わりについて考察できるようにする。

教科書 特に指定しない

参考書 特に指定しない

成績評価方法と基準

各講義毎に講義の概略と感想をA4用紙一枚程度にまとめ、医学部学務係へ、次回の講義日の17時までに提出して下さい。(提出先がバラバラになると混乱をきたしますので、講義担当教官のところではなく、必ず、とりまとめをお願いしている医学部学務係に提出をお願いします。)

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力

学籍番号、学部、学科、学年、氏名を忘れずに明記して下さい。

受講要件 特になし

授業改善への工夫 できる限り、わかりやすい講義をするよう心がけています。

授業計画・学習の内容

キーワード 生命医学

学習内容

大学院医学系研究科生命医学専攻の基礎医学系分野である薬理ゲノミクス、機能プロテオミクス、修復再生病理学、感染症制御医学・分子遺伝学、神経再生医学・細胞情報学、法医学科学、分子病態学、発生再生医学、免疫学、医動物・感染医学、腫瘍病理学、環境分子医学、公衆衛生・産業医学、システム神経科学、幹細胞発生学の教官が生命医学に関するトピックスをオムニバス形式で講義する。今年度の予定は以下の通り。

10/1 田中利男 (薬理ゲノミクス) オミックス創薬科学とシステムズ薬理学

10/8 緒方正人 (機能プロテオミクス) 発生工芸と医学研究

10/22 吉田利通 (修復再生病理学) 細胞外マト

リックスと組織構築

10/29 野阪哲哉 (感染症制御医学・分子遺伝学) インフルエンザウイルスの話

11/5 溝口明 (神経再生医学・細胞情報学) 神経の病気はどこまでわかったか?

11/12 那谷雅之 (法医学科学) 「法医学とは」「DNA鑑定」

11/19 Gabazza Esteban (免疫学) 生体防御機構の概要

11/26 成田正明 (発生再生医学) 神経伝達物質セロトニンと脳の発達

12/3 島岡要 (分子病態学) 細胞接着と病気

12/10 村田真理子 (環境分子医学) 環境と生活習慣病

12/17 白石泰三 (腫瘍病理学) がんを考える

1/7 油田正夫 (医動物・感染医学) マラリアと薬剤耐性

1/14 笹島茂 (公衆衛生・産業医学) 公衆衛生

における混合戦略の現状

1/21 法貴葉子（システム神経科学）Mozart効果と1/f—BachからJoplinまで—

1/28 山崎英俊（幹細胞発生学）幹細胞を用い

た再生医療

学習課題（予習・復習） 予習については、各教員の指示に従うこと。

医学医療A (医学文献抄読)

Seminar in life sciences and medicine

学期 後期 開講時間 月9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 演習 授業の特徴
グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 緒方正人 (医学部 以下同じ)、大河原剛、油田正夫、戸田雅昭、広川佳史、山崎英俊、田中利男、那谷雅之、溝口明、法貴葉子、平工雄介、
笹島茂、島岡要、鶴留雅人、吉田利通

授業の概要 生命医学分野の学術雑誌や書籍に掲載されている学術論文を読み、その内容について積極的に発言、討論へ参加する。

学習の目的 文献抄読 (critical reading) により生命医学研究の基礎を修得する。

学習の到達目標 生命医学分野の文献を正しく批判的に読めるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 各担当教員の指定による。

参考書 各担当教員の指定による。

成績評価方法及び基準 各回の活動内容で評価します。

オフィスアワー

先端医学教育研究棟5階
医学系研究科 法医学科学分野 月曜日～金曜日：9:00～16:00(祝日を除く)

※事前に秘書(倉田)までご連絡願います。
foresci@doc.medic.mie-u.ac.jp

その他

受講者も前もって各回に指定された論文の抄読 (critical reading)を行い、内容について数名が発表し、参加者で討論します。

各回に次回のシラバスを配布し、また、次回の指定論文を配布、あるいは、その入手方法をお知らせします。

受講学生への注意：

- 1) 各回の授業の場所、論文、学習方法については配布したシラバスに従ってください。
- 2) 原則的に、各回のセミナーは受講者で主体的に運営してもらいます。教員はチューターとして、セミナーに参加します。
- 3) 受講者が3名に満たない場合は、開講を取りやめることがあります。
- 4) 問い合わせ先：

医学系研究科 先端医学教育研究棟5階法医学科学分野 電話：059-231-5014 (直通)、内線：6383

メール：foresci@doc.medic.mie-u.ac.jp

授業計画・学習の内容

キーワード 生命医学、文献抄読

学習内容

月/日 担当教員・所属
10/5 発生再生医学...大河原剛
10/15 医動物学...油田正夫
10/19 生体防御医学・免疫学...戸田雅昭
10/26 腫瘍病理学...広川佳史
11/2 幹細胞発生学...山崎英俊
11/9 薬理ゲノミクス...田中利男

11/16 法医学科学...那谷雅之
11/30 神経再生医学・細胞情報学...溝口明
12/7 機能プロテオミクス...緒方正人
12/14 システム神経科学...法貴葉子
12/21 環境分子医学...平工雄介
1/4 公衆衛生・産業医学...笹島茂
1/18 分子病態学...島岡要
1/25 感染症制御医学...鶴留雅人
2/1 修復再生病理学...吉田利通

医学医療A (教養人のための生理学)

Physiology for the well-educated people

学期 前期 開講時間 水 1, 2; 木 1, 2; 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle
担当教員 玉利 健悟

授業の概要

人体の仕組みを理解することは、文系、理系と問わず、教養として備えておくべき知識である。本授業では、人体を器官系別に、全身にある臓器や組織がどの様に働くことで、生命を維持しているかを簡潔に解説する。

授業終盤ではグループでの試験を実施し、成績に反映する。

理系であれば、専門教育の基礎とし、文系であれば、身の回りの健康問題に対応する基礎知識を習得する。

学習の目的

現代科学における様々な問題には人体や健康に関するものが少なくない。それらはひとえに、人体に対する

知識の不足によるものが大きい。学生諸君がそのような身近な問題を解決する基礎的能力を養うことを目的

とし、専門教育を学ぶ際の、人体に関する応用力を身につける。

また、グループ試験を行う事で、理解した知識を話し合い、グループ内の答えを1つに集約する能力も身につける。

学習の到達目標

本講義を受講することで、全身の器官系(消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、生殖器系、

内分泌系、神経系、感覚器系、外皮系、骨筋系、免疫系など)を概説できる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 理系・文系問わない

予め履修が望ましい科目 生物学が履修されていると理解が早い

発展科目 「教養人の健康食品科学」では、健康食品に含まれる栄養素が人体の機能の中でどの様に扱われるかを、ホームページや文献から調べる授業を行うため、基礎知識の習得をこの授業でしておくが良い。

教科書 特になし 講義中に資料を配布

参考書 解剖生理学 (メディカ出版) 解剖生理学 (医学書院)

成績評価方法と基準 グループ試験50% 期末試験50%

オフィスアワー 火曜日から金曜日の12:00~13:00

授業改善への工夫

人体の仕組みの中でも、身近に感じる項目を中心に授業する。また、グループ試験を行うことで、理系・文系や学科間でも差の少ない成績評価を行う。

その他 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 生理学 医学 生命科学

Key Word(s) Physiology Medicine Life science

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 消化器系

第3回 呼吸器系
第4回 循環器系
第5回 泌尿器系
第6回 生殖器系
第7回 内分泌系
第8回 神経系
第9回 中枢神経系

第10回 末梢神経系
第11回 感覚器系
第12回 外皮系
第13回 骨・筋系
第14回 免疫・血液系
第15回 まとめ
第16回 期末試験

学習課題（予習・復習）

予習：解剖生理学と名の付く教科書を予習すると良い。また、普段から健康、医学、医療に関わるメディアの情報を得る努力をしておくこと。
復習：一日の講義で行った知識をもう一度覚え直し、期末試験に対策すると良い。また、Moodleにて質問を受け付けるので、いつでも疑問に思うことがあれば解決して次の講義に臨むこと。

医学医療A (教養人の健康食品科学)

Health-food science for the well-educated people

学期 前期 開講時間 水 3, 4; 木 3, 4; 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 玉利 健悟

授業の概要

身近にある科学として、健康食品を題材に、批判的思考を学び、科学リテラシーの向上を図る。

グループ内で課題を解決していく形式で健康食品に含まれる栄養素のエビデンスを調査、班で発表する。

簡単な関連する人体の仕組みも講義する。

学習の目的

・主体的学習者としての自己認識、さまざまなコミュニティの構成員としての自己認識をもつ。

・身近な食品には機能があるのかといった、調べるための素養を身につけさせる。

・どのように調べればエビデンスを得られるかを学ぶことが出来る。

学習の到達目標

本授業による効果として、身近にあるものを、積極的に科学的調査し、評価、批判することが、将来、科学知識を得る学生の科学リテラシー教育だけでなく、一般には消費者としての科学リテラシーの向上にも繋がるだろう。また、身近なものを題材としているため、学生の社会貢献も期待される。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・

授業計画・学習の内容

キーワード 健康食品 医学 生命科学

Key Word(s) Health food Medicine Life science

学習内容

第1回 科学と似非科学の違い (講義形式)

第2回 自然科学の証拠主義 (講義形式)

第3回 健康食品1 (グループワーク形式)

第4回 健康食品2 (グループワーク形式)

第5回 健康食品3 (グループワーク形式)

対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 理系・文系問わない

予め履修が望ましい科目 生物学が履修されていると理解が早い

発展科目

「教養人のための生理学」では、関連する人体の機能も講義を行うので、本授業で興味を持った

人体の仕組みについて、より広範的に学ぶ事が出来る。

教科書 特になし 講義中に資料を配布

参考書 解剖生理学 (メディカ出版) 解剖生理学 (医学書院)

成績評価方法と基準 個人の活動 (レポート) ・出席 50% グループの活動 (班での発表) 50%

オフィスアワー 火曜日から金曜日の12:00～13:00

授業改善への工夫 課題解決型授業、Moodleを活用し、授業を進めていく。

その他 特になし

第6回 健康食品4 (グループワーク形式)

第7回 健康食品5 (グループワーク形式)

第8回 健康食品6 (グループワーク形式)

第9回 健康食品7 (グループワーク形式)

第10回 健康食品8 (グループワーク形式)

第11回 健康食品9 (グループワーク形式)

第12回 健康食品10 (グループワーク形式)

第13回 健康食品の機能批判1 (ディベート形式)

第14回 健康食品の機能批判2 (ディベート形

式)

第15回 健康食品の機能批判3 (ディベート形式)

(試験) 最終レポート

学習課題 (予習・復習)

予習：医学に関連した教科書を予習すると良い。また、普段から健康、医学、医療に関わ

るメディアの

情報を得る努力をしておくこと。

復習：一日の講義で行った知識をもう一度覚え直し、Moodleにて質問を受け付けるので、いつでも

疑問に思うことがあれば解決姿勢を身に付けること。

医学医療B (癌の最新の診断と治療)

Medicine, Nursing

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 受講者が200名を超えた場合は学年を指定する等の方法で受講数を制限することもあります。 **授業の方法** 講義

担当教員 ○白石 泰三 (医学部), 佐久間 肇(医学部), 中谷 中(医学部), 片山 直之(医学部), 中塚 豊真(医学部), 松原 年生(医学部), 田口 修(医学部), 高尾 仁二(医学部), 田畑 務(医学部), 毛利 靖彦 (医学部), 杉村 芳樹(医学部), 松峯 昭彦(医学部), 石永 一(医学部), 石井 建一郎(医学部)

授業の概要 体内に発生する様々な臓器における癌に対する最新の診断法や治療法を概説する。

学習の目的 癌の最新の診断法や治療法が他領域の技術進歩と深く関係していることが実感できる。

学習の到達目標 癌に対する最新の診断法と治療法を理解することにより現代医学の進歩を学ぶ。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

意識, 幅広い教養, 専門知識・技術

予め履修が望ましい科目 基礎生物学、基礎医学(特に解剖学、生理学、病理学など)

発展科目 臨床医学各論

成績評価方法と基準 授業への取り組み (30%)、レポート (70%)

授業改善への工夫 できるだけ画像や動画を取り入れ、医学部以外の学生にも十分に理解できるように工夫した。

授業計画・学習の内容

キーワード 癌、診断、治療

学習内容

- 第1回 癌の画像診断(10/6)
- 第2回 癌の遺伝子診断(10/13)
- 第3回 癌の内科的治療(10/20)
- 第4回 癌の新しい治療(10/27)
- 第5回 脳腫瘍(11/10)
- 第6回 肺癌内科的治療(11/17)
- 第7回 肺癌外科的治療(11/24)
- 第8回 癌生物学概論(12/1)
- 第9回 ヒトパピローマウイルスと子宮頸癌(12/8)

- 第10回 消化管の癌(12/15)
- 第11回 ヒトはなぜ、癌になるのか?(12/22)
- 第12回 骨軟部腫瘍(1/19)
- 第13回 癌に対する薬物治療(1/26)
- 第14回 頭頸部腫瘍(2/2)
- 第15回 泌尿器癌 (2/9)

学習課題 (予習・復習)

- 医学概論
- 小児がん
- 最新のCT、MRI、PET
- 最近の薬物治療

医学医療B (急病の観察と判断)

Physical examination and judgement in emergency cases

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 丸山一男

授業の概要 急病・事故に遭遇した際、いかに観察し、判断し、行動するか？医療従事者でなくとも、できることは多くあります。本講義では、「酸素を脳へ」というコンセプトもと、生命活動の根源に関わる酸素の運搬について解説します。救急蘇生、AEDの使用、ショック、外傷、意識障害、熱中症、溺水など、日常生活で起こりうる救急疾患についての概要と対処法を身につけることを目標とします。本講義が何かあったときのお役に立ててればと考えております。専門的というより、一般の方々の教養と実益になりますよう、「分かりやすく」をモットーに講義を進めて参ります。なお、医療系の学生諸君に

は、専門科目に入る前に聞いておいていただければ、将来の役にたつと思います。

学習の到達目標 緊急を要する、病気、けが、事故に遭遇した際の考え方と対処を身につけることができ、回りの人々のお役に立てることを目標にしております。

教科書 プリントを配布します。

成績評価方法と基準 2/3以上の出席を条件に、筆記試験(100%)で評価する。

オフィスアワー 随時、内線6401

授業改善への工夫 板書の字を読み易くするよう心がけております。

授業計画・学習の内容

キーワード 急病、けが、応急処置、心肺蘇生、救急疾患

学習内容

主な担当：丸山一男（医学科教授、麻酔科専門医、救急科専門医、集中治療専門医、ペインクリニック認定医）

1救急蘇生：酸素を脳へ

2救急蘇生・ショック・AED

3ショック

4血圧

5窒息

6意識障害の症状

7意識障害の原因

8脳梗塞・脳出血・脳内血腫

9トリアージ

10災害医療（医学部 溝口明教授の特別講義を予定しております）

11小児救急1(小児科専門医 澤田博文先生の講義を予定)

12外傷

13熱中症

14溺水

15小児救急2(小児科専門医 澤田博文先生の講義を予定)

16まとめ・テストなど

医学医療B (健康科学)

Medicine, Nursing

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 ○岡野禎治(保健管理センター), 田口修(保健管理センター), 小林由直 (保健管理センター)、大谷正人(教育学部), 井上雄一朗(非常勤講師),

授業の概要 心と身体の健康に関連した講義を通して、心身の健康に対する自己管理能力の必要性を学ぶことを目標とする

学習の目的 キャンパスライフにおける疾病への対処行動と健康増進

学習の到達目標 実学を学び、心身の健康維持と危機管理能力を習得する。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 配布資料を中心に講義を進める。

参考書 なし

成績評価方法と基準 2/3以上の出席受験資格ありとして、定期試験で総合点60%以上を合格とする

授業改善への工夫 授業アンケート調査を参照

授業計画・学習の内容

キーワード 大学生のためのセルフケア

Key Word(s) Self-Care for Students

学習内容

心身の健康に関連した事柄をさまざまな角度から捉えて講義する。講義では、適宜資料を配付する他、ビデオ教材等も利用する。

第1回 ガイダンス(ひきこもり)

第2回 キャンパスのメンタルヘルス

第3回 薬物の依存と乱用

第4回 異文化とメンタルヘルス

第5回 食事と心の病気

第6回 大学生と自殺

第7回 地域のメンタルヘルス

第8回 糖尿病について

第9回 大学生が知っておきたい感染症

第10回 大学生のための肝臓学

第11回 肥満について

第12回 タバコの害、喘息について

第13回 脂質異常症と高尿酸血症について

第15回 肺の感染症：結核とインフルエンザ

第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 予習や復習は必要としない。配布資料を中心に講義を進める。実践的な内容を理解して、今後の心身を含めた健康づくりに役立てる

環境地理学A (世界の気候と植生分布)

Environmental Geography A

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 柏木 良明(非常勤講師)

授業の概要 熱収支の観点からみた気候の成り立ちや様々な場所の気候の特徴、そこにみられる植生との関わりについて、環境地理学の視点からとらえる。

学習の到達目標 上記の視点と知識を習得する。

成績評価方法と基準 最終授業時における試験90%、平常点10%

授業計画・学習の内容

キーワード 世界の気候分布とその成因およびそれに関わる植生分布

学習内容

第1回 地理学と気候環境

第2回 大気候—季節風

第3回 中・小気候、熱収支の考え方

第4回 放射と気候 その1

第5回 放射と気候 その2

第6回 放射と気候 その3

第7回 放射と気候 その4

第8回 世界の気候分布 その1

第9回 世界の気候分布 その2

第10回 世界の植生分布 その1

第11回 世界の植生分布 その2

第12回 植生遷移と環境 その1

第13回 植生遷移と環境 その2

第14回 日本の季節

第15回 まとめ

環境科学 (海に親しむ)

Environmental Studies

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ○前川陽一 (生物資源学部)、中村亨 (生物資源学部)、岡田果林 (生物資源学部)

授業の概要 勢水丸に乗船し、表面海水測温や透明度測定といった基本的作業から、CTD オクトパスシステムを使用した断面観測といった本格的な海洋観測作業を行います。また、ベントスネットなどを用いた底生生物採集も行い、海洋環境と生態系との関わりについて体験的に学習します。

学習の目的 伊勢湾の海水、堆積物、気象・海象、生物に直接見て、触れて実感し、伊勢湾の現状や自然環境の保全について理解を深めます。

学習の到達目標 最新の機器を用いた海洋観測や生物採集調査により、その方法、準備、実践、処理などの知識を得ることにより、今後大学における各自の研究活動につなげていくことを目的としています。また、洋上という日常を離れた特殊な環境で寝食を共にしながら船内生活を行うことで集団活動での協調性を養います。

本学教育目標との関連 感性、共感、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 練習船、海洋環境、海洋観測、生物採集、気象観測

Key Word(s)

research & training vessel, ocean environment, oceanographic observation, marine species sampling, meteorological observation

学習内容

受講要件 学生教育研究災害保険または生協の保険に加入して下さい。当年度内の健康診断にて欠格事由のない健康な者に限ります。

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 特になし

参考書 特になし

成績評価方法と基準 実習作業への取り組み (80%)、レポート (20%)

オフィスアワー

松阪港停泊中は電話及び訪船も可。(土日を除き08:30~12:00、Eメールも可)。詳細はガイダンス時に連絡します。

授業改善への工夫 航海期間中は気象・海象による船体動揺の軽減に努め効果的な実施に努めます。

その他 内容は天候によって変更されることがあります。動きやすく、汚れても良い服装で参加して下さい(出来れば長袖長ズボンが好ましい)。必ず運動靴で参加して下さい。受講人数制限 (24名)

1日目: 船内生活の案内、出港作業を見学、班単位で海洋・気象の各観測法演習

2日目: 断面観測線での観測実施、観測データの整理・処理・解析、レポートの作成(水温・塩分の断面図作成等)

3日目: 総括、入港作業見学、帰学。

学習課題(予習・復習) 航海前に実施する「実習ガイダンス」に必ず出席して下さい。

環境科学 (ISO環境管理学)

Environmental Studies

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 ○佐藤邦夫(生物資源学部), 奥山哲也(非常勤講師)

授業の概要 ISO環境マネジメントシステムの事例を学習し、実習的に三重大のEMSを仮想構築する。さらに、内部監査の実務について学習し、構築した仮想三重大EMSの内部監査を実習的に実施することにより、EMSについて総合的に理解する。

学習の目的 ISO14001の実際について理解し、内部監査に関するさらに進んだ学習に進めるようになる。

学習の到達目標 ISO14001環境マネジメントシステムについて総合的に理解する。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 環境問題の改善に興味があること

授業計画・学習の内容

キーワード ISO14001, 環境マネジメントシステム, EMS, 組織の社会的責任, CSR, USR

Key Word(s) ISO14001, Environmental Management System, EMS, Corporate Social Responsibility, CSR, USR

学習内容

1. 講義の内容と進め方
2. ISO環境マネジメントシステムの基礎知識1
3. ISO環境マネジメントシステムの基礎知識2
4. ISO環境マネジメントシステム事例学習1
5. ISO環境マネジメントシステム事例学習2
6. 三重大の環境側面およびその他の環境情報1
7. 三重大の環境側面およびその他の環境情報2
8. EMS導入手順
9. 三重大仮想EMS構築実務
10. 文書管理

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 よくわかる図解シリーズ『ISO14001が見えてくる』(第2版)(日刊工業新聞社)

成績評価方法と基準 レポート、期末試験の評価を総合判断する。

オフィスアワー 毎週月曜日10:30~12:00、生物資源学部棟425室

授業改善への工夫 コンピュータによる教材(Moodle)を用いて受講者の理解を促進する

その他

三重大『環境内部監査員資格』を取得するのに役立ち、また環境資格支援教育プログラムの単位として認定される。
受講人数制限 (65名)

11. 環境関連法および条例
12. 内部監査と審査
13. 仮想三重大EMS内部監査1
14. 仮想三重大EMS内部監査2
15. カーボンオフセットの基礎知識
16. 試験

学習課題 (予習・復習)

ISO環境マネジメントシステムの基礎知識復習
ISO環境マネジメントシステム事例調査
三重大の環境側面およびその他の環境情報調査
EMS導入手順復習
三重大仮想EMS構築実習
文書管理復習
環境関連法および条例復習
内部監査と審査復習
仮想三重大EMS内部監査実習
全体の復習

環境科学 (流域問題)

Environmental Studies

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 春山成子(生物資源学部)

授業の概要 流域内の自然現象と人間活動の相互作用を理解するための講義。1. ガイダン(流域について), 2. 流域の定義, 3. 流域変化と災害への応答(雲出川), 4. 流域変貌と災害変化(宮川), 5. 流域変化で揺れる景観(宮川), 6. バゴ川の河川次数, 7. プケットの土地利用変化と災害変容, 8. 津波被災とリゾート化, 9. 2004年洪水と流域変化(円山川), 10. 2004年洪水と社会変化(足羽川), 11. 濃尾平野の地形と洪水, 12. 長良川の流域変化, 13. 長良川河口堰の建設前後, 14. 濃尾三川の河川管理と流域変化, 15. ダム建設と流域変化, 16. 試験

学習の目的 河川流域を理解する。河川流域の環境問題を解決するための知識を得る。

学習の到達目標 世界的視野で流域問題を考える力を養い、土地利用変化の中で流域が抱える問題を身近に感じ、考え、評価する姿勢を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード 河川、流域、管理、土地利用変化

Key Word(s) river, basin, management, land use change

学習内容

1回目 授業全体の紹介を行う。全体を通して講義中心の授業であり、
2回目以降は河川および流域の概念規定、土地利用の概念規定、土地利用・土地被覆変化の概念規定、流域内の水関係災害、災害実例

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

予め履修が望ましい科目 地理学

教科書 災害軽減と土地利用(古今書院)

参考書 水文化の憧憬(古今書院)

成績評価方法と基準 通常点を50%、期末試験50%、計100%。

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00。生物資源学部3階 春山研究室

授業改善への工夫 受講生が満足可能な方法を模索する。

その他

受講生の適正規模の人数制限を行う(100名)。

と防災の歴史的变化、現在の河川管理手法、流域および河川管理のガバナンス、完新世の河川環境変化、環境劣化の概念規定、流域内の土地利用変化にともなう河川環境の連動変化、長良河口堰を以前と以後について、最終回の講義では全体のとりまとめ。定期試験。

学習課題(予習・復習) 講義前に指定した教科書を読み事前学習を行っておくこと。新聞記事などを通して社会問題を学習しておくこと。河川管理、河川工学などの書籍を図書館で読んでおくこと。

環境科学 (環境化学)

Environmental Studies

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL

担当教員 広瀬 和久

授業の概要 環境問題について、化学の視点から水質汚染、大気汚染、土壌汚染、廃棄物処理技術、地球環境問題、放射能などを解説する。また三重県内での研究事例も紹介し、日常生活に関連する環境化学問題を基礎的、概論的に学習する。

学習の目的 環境化学に関連する基礎知識を身につけることにより、水質汚染、大気汚染、土壌汚染、廃棄物処理、地球環境、放射能等の問題、及びその解決法について理解できるようにすることを目的とする。

学習の到達目標 学んだ環境化学の基礎知識から、日常生活に関連した環境問題を説明することができ、また科学的な思考方法に基づいて考えることができる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 問題解決力, 情報発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

学生と対話しながらの講義のため、受講希望者が80人を超えた場合は第1回目の受講者及び文科系学生を優先とする。それ以上の場合は

抽選とする。

また講義中、試験中の座席は指定とする。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 各学部の化学、環境汚染、環境測定技術などに関する科目。

教科書 教科書は使用しない。(毎回、授業概要資料を配布する。)

参考書 「環境化学」(斎藤、山崎著、東京化学同人), 「化学ってそういうこと」(日本化学会編、化学同人), 「放射能のウソ・ホント」(大谷浩樹、東京書店)

成績評価方法と基準 試験成績が100点満点で60点以上を合格とするが、受講態度も考慮し、総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週木曜日; 8時~8時半 & 10時半~12時、教養教育校舎(非常勤講師控室)

授業改善への工夫 講義内容を分かりやすく解説し、聞き取りやすくスライドが見やすいように努力する。

その他 受講人数制限(80名)

授業計画・学習の内容

キーワード 環境汚染、環境化学物質、放射能、廃棄物処理、環境修復

Key Word(s) Environmental Pollution, Environmental Pollutant, Radioactivity, Waste Dispose, Environmental Remediation

学習内容

第1回 授業概要やスケジュールの説明、参考書紹介、評価方法の説明など

第2階 環境化学の基礎1

第3回 環境化学の基礎2

第4回 放射能と放射線1

第5回 放射能と放射線2

第6回 環境問題の歴史

第7回 水質汚染

第8回 中間試験

第9回 土壌汚染

第10回 大気汚染

第11回 地球温暖化問題

第12回 農薬、肥料と環境化学

第13回 廃棄物処理とリサイクル

第14回 環境修復とバイオ燃料

第15回 三重県での環境化学に関する研究事例

第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 毎回、授業概要プリントを配布するので、授業が終わった後で復習すること。理解できない箇所があれば、まず自ら調べる習慣をつけ、担当教員にも尋

ね、完全に理解できるように努力すること。 報に注意、関心を向けること。
また日常生活においても環境問題に関する情

生物資源学A (森と土壤)

Bioresource Science A

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 ○船岡正光(生物資源学部), 野中 寛(生物資源学部), 水野 隆文(生物資源学部)

授業の概要 森林を構成するリグノセルロース系素材(樹木)は、自然界における蓄積量・多様な機能・リニューアブル性から、石油、石炭などの化石資源に替わる次世代の物質資源としてのポテンシャルを秘めている。本講義では、森林植物体の環境および材料資源としての機能を分子素材レベルで説明するとともに、その多面的な高度循環活用システム、さらには森林資源を形成する森林土壤等について解説し、森林資源の地球生態系における意義と重要性を理解させる。

学習の目的 森林資源の地球生態系における意義と重要性、化石資源に代替しうる資源としての可能性を理解する。

学習の到達目標 森林資源の地球生態系における意義と重要性、化石資源に代替しうる資源としての可能性を理解する。森林活用の話題に興味を感じ、その活用の仕方の是非につ

いて考える力を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 自作テキストを使用する。

成績評価方法と基準 小テスト20%、期末試験80% 小テスト、期末試験の評価を総合判断する。

オフィスアワー 随時。来る前に事前にメールでアポイントメントをとってください(携帯、スマホからで構いません)。

授業計画・学習の内容

キーワード 森と土壤

Key Word(s) Forest and soil

学習内容

1. オリエンテーション
2. 森と地球
3. 樹木の仕組み
4. 樹木の構造と構成分子
5. 森林資源の利用
6. 地球温暖化
7. 化石資源の利用
8. 木質バイオマスの利用I
9. 木質バイオマスの利用II
10. 土壤とは/土壤の分類
11. 土壤の成り立ちと気候(成帯性土壤・成

帯内性土壤)

12. 森林土壤の特性
 13. 樹木の生育に寄与する土壤微生物(菌根菌・根粒菌・内生菌)
 14. 森林土壤と海
 15. 植物および土壤微生物による土壤浄化(ファイトレメディエーション・バイオレメディエーション)
 16. 試験
- 1~3: 船岡, 4~9: 野中, 10~15: 水野

学習課題(予習・復習) 前回授業ノートの復習をして授業に臨む。地球上における森林や土壤の重要性を意識して、普段から書籍、雑誌、新聞記事、テレビ番組などに関心をもつようにする。

生物資源学A (食と農)

Bioresource Science A

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 波多野豪 (生物資源学部資源循環学科), 橋本力男 (非常勤), 野末光 (非常勤), 川口淳子 (非常勤), 小林富雄 (非常勤), 森田英治 (非常勤), 岩田康子 (非常勤), 岸川政之(非常勤), 吉澤俊昭(非常勤)

授業の概要 現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。

学習の目的 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。

学習の到達目標 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つ概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 心身の健康に対する意識, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 学外の講師を招くため、自分たちの受講態度が外部評価を受けていることを自覚して授業に臨む姿勢を有すること。

予め履修が望ましい科目 なし。

授業計画・学習の内容

キーワード 地産地消運動から現代の食と農の現実と課題を学ぶ

Key Word(s)

Local food
Eat local

学習内容

- 1回 食と農の現在 波多野豪(生物資源学部)
- 2回 高校生レストランとまちの宝創造 岸川政之 (多気町まちの宝創造特命監)
- 3回 ブルーベリーの実る丘から 岩田康子 (農

発展科目 インターンシップ (共通教育科目、各学部専門科目)。

教科書 使用しない。

参考書 参考書: 大江正章『地域の力ー食・農・ちいきづくり』岩波新書、2008.小泉武夫『いのちをはぐくむ食と農』岩波ジュニア新書、2008.神門善久『日本の食と農』NTT出版、2006.

成績評価方法と基準 授業において随時提出をを求めるコメントシート30%、定期試験70%。但し、コメントシートの記述内容と試験結果によって配分を変更することがある。

オフィスアワー

学外の講師に連絡を求める場合は、科目担当代表者の波多野まで申し出ること。
波多野のオフィスアワーは毎週月曜日14:40～16:10、生物資源学部473号室。
上記の時間以外も事前のアポイントを取れば適宜対応する。

授業改善への工夫 現場からの生の声を伝えるためにビデオや写真などを活用する。

その他 学外からの講師の都合により、講義の順序は前後することがある。

- 業・レストラン経営)
- 4回 食べ残しから考える食と環境 小林富雄(ドギーバッグ普及委員会)
- 5回 食品循環資源の再資源化の現場 小林富雄(ドギーバッグ普及委員会)
- 6回 地域資源の利用と有機農業 橋本力男 (堆肥育土研究所主宰・有機農家)
- 7回 地産地消と循環型社会 波多野豪(生物資源学部)
- 8回 食育と食生活 川口淳子(管理栄養士)
- 9回 生活者視点からの地産地消 吉澤俊昭 (農

商工連携コーディネーター)

10回 農業問題と安全安心 野末光(三重県農業大学校)

11回 食を通じた生産者と消費者の関係 波多野豪 (生物資源学部)

12回 ブルーベリー農家のレストラン 岩田康子 (農業・レストラン経営)

13回 地域とつながる農業経営 森田英治(もりた農園経営)

14回 高校生と食農ビジネスの創造 岸川政之

(多気町まちの宝創造特命監)

15回 まとめ 波多野豪 (生物資源学部)

16回 試験 波多野豪 (生物資源学部)

非常勤講師の事情により、開講予定は変更する場合があります。

学習課題(予習・復習) 机上の予習は不要であるが、受講者の生活圏において、地産地消活動を発見すること、実際の産品や人・情報の流れに関して問題意識を持つことが復習の内実を形成するはずである。

生物資源学A (環境と動物の関わり)

Bioresource Science A

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 松井宏樹、山田佳廣、近藤誠、伴智美

授業の概要 生物と環境は相互に作用を及ぼし合っている。本講義では動物と環境の関わりについて概説し、資源の循環、自然環境、環境保全について考える。

学習の目的 環境が動物の進化、体内環境に及ぼす影響や動物が環境に及ぼす影響について理解を深め、環境と動物の関わりについての素養を涵養する。

学習の到達目標 動物や環境について科学的な視点で理解できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い

教養, 情報受発信力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 特に指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 各担当毎に試験・課題提出を実施し、それぞれの評価点の平均点を成績評価とする。

オフィスアワー 月曜日12:00~13:00

授業計画・学習の内容

キーワード 進化、動物、家畜、飼料、生体調節機構、気候変動

Key Word(s) Evolution, Animal, Livestock, Feed, Regulatory Biology, Climate change

学習内容

1. 乳・肉生産に必要な飼料資源
2. 乳・肉生産と窒素負荷
3. 有機性廃棄物の飼料として再利用
4. 野生動物による獣害被害、家畜の生産現場と衛生、草地と家畜生産
5. ウシの食性と消化管
6. ウシの消化管に住む微生物
7. ウシと気候変動の関係

8. 消化管の微生物：研究手法と制御技術

9. 動物の生理と環境1

10. 動物の生理と環境2

11. 動物の生理と環境3

12. 進化(1)：ハーディ-ワインベルグの法則，自然選択，遺伝的浮動について概説する．

13. 進化(2)：変異の維持機構と共進化について概説する．

14. 性の生態学(1): 性の進化的意義と様々な状況下における最適性比について説明する．

15. 性の生態学(2): 性選択の結果起こる諸現象とそれを説明する仮説を概説する．

生物資源学A (土は生きています)

Bioresource Science A

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習, 実習

担当教員 ○奥田 均 (生物資源学部)、平塚 伸 (生物資源学部)、梅崎輝尚 (生物資源学部)、松井宏樹 (生物資源学部)、三島 隆 (生物資源学部)、長菅輝義 (生物資源学部)

授業の概要 土は、自然環境の構成要素としての側面と食糧生産の基盤としての側面を併せ持つ。水田、畑地、果樹園、茶園、畜舎ならびに農産物加工など現場体験を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。また、実習対象や加工材料に地域の特産物を利用することで、地域農業・社会との関わりに気づき、地産地消の精神を学ぶ。

学習の目的 土と食糧生産の関係について地域特産物を素材にし入門的かつ包括的知識を獲得するとともに今後の理解を深めるための技術的経験を積む。

学習の到達目標 講義や体験を通じて、土と食糧生産の関係、地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などに関する認識を高めることで、農や食を正しく理解する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い

教養、専門知識・技術、課題探求力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 生物、自然環境、農業生産に関する科目。

成績評価方法と基準 レポート70% 実習態度30%の評価を総合判断する。

オフィスアワー 2泊する集中セミナーなので、夕方あるいは夜の自由時間に適宜対応する。

授業改善への工夫 毎回セミナー最終回に実施するセミナーの総括の結果などを参考にし、適宜改善を図っている。

その他 本セミナーは、三重大学大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附属施設の共同利用に供するため、他大学に開放するものである。受講人数制限(20名)

授業計画・学習の内容

キーワード 地域特産物 (伊勢茶、松阪牛、南紀ミカン)、農産物加工 (豆腐、うどん、茶)、食の安全・安心

Key Word(s) Special products of Mie prefecture (Ise-cha, Matsusaka Beef, Nanki Mikan), Processed agricultural products(Tofu, Udon noodles, green tea), Food safety and security

学習内容

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 地域特産農産物の概要
- 第3回 ダイズの栽培管理
- 第4回 世界と日本の食料事情 (ナイトセミ

- ナー)
- 第5回 イネの収穫
- 第6回 肉牛の肥育管理
- 第7回 豆腐作り
- 第8回 食の安全・安心と社会 (ナイトセミナー)
- 第9回 茶の加工
- 第10回 温州ミカンの栽培管理
- 第11回 うどん作り
- 第12回 授業の総括

学習課題 (予習・復習) 体験や実物教育に重点をおくので、積極的に5感を使って体感すること。

生物資源学B (食と農からみた世界)

Bioresource Science B

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 徳田 博美(生物資源学部)

授業の概要 食料の世界でも進展しているグローバル化とその中心にあるアグリビジネスの実態を解説し、極めて低い食料自給率の下にある日本の食料事情について考える。

学習の目的 人間が生きていく上で最も基礎的な物資である食料におけるグローバル化の実態を、明暗両面において理解し、世界的な視野から身近な食生活について考えられるようにする。

学習の到達目標 世界の食料需給動向や農産物貿易の概要やWTOなどによる農産物貿易などに関する国際ルールについて理解し、これからの世界の食料や農業のあり方について、日本の食料事情や世界の飢餓の実態も踏まえて、自らの考えを持てるようにする。

授業計画・学習の内容

キーワード アグリビジネス、グローバル化、飢餓と飽食、食文化、食の安全

Key Word(s) Agribusiness, Globalization, Hunger and Satiation, Food Culter, Food Safety

学習内容

1. ガイドダンス～日本の食・農事情と食をとらえる視点～
2. フードビジネスと現代の食
3. 世界の食料事情と多国籍アグリビジネス
4. 食料貿易とWTO体制
5. 市場と政治の間で揺らぐ世界の穀物需給
6. 産物の生産・流通と食肉ビジネス
7. 果実・果汁と野菜のグローバル化
8. 食の簡便化と冷凍食品生産拠点のアジア展開
9. 発展途上国の貧困と熱帯産品貿易～コーヒーと紅茶～

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

参考書 大塚茂・松原豊彦編「現代の食とアグリビジネス」有斐閣選書

成績評価方法と基準 講義中のレポート30%、期末試験70%

オフィスアワー 毎週月曜日・火曜日12:00～13:00

授業改善への工夫 できるだけ身近な話題や注目されている話題を取り上げることで、学生が自分自身の問題として考えられるようにする。

10. 水産物市場のグローバル化と資源保護
11. 食料とエネルギーとの相克
12. 食の安全と表示をどうするか
13. 農業技術の高度化と食料・農業問題
14. グローバリゼーションとの対抗軸—国内編—
15. グローバリゼーションとの対抗軸—国際編—

学習課題（予習・復習）

予習・・次回扱うテーマについて、最近どのような問題が起きているのかマスコミ、インターネットなどで調べてみる。
復習・・授業で配布したプリントなどで復習するとともに、興味があるテーマについては授業で紹介した関連文献などで独習する。
授業で扱った話題などに関して各自調べたものを、3回程度レポートとして提出を求める。

生物資源学 B (森林と人間との関わり)

Bioresource Science B

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学生課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 ○石川 知明(生物資源学部), 板谷 明美(生物資源学部)

授業の概要 森林は自然環境の保全や水資源のかん養、レクリエーションなど様々な役割を果たすとともに、木材・紙・エネルギーなどの「循環可能な資源」を生産する場でもある。これらの森林の役割について紹介しながら、森林と人間の付き合い方を考える。

学習の目的

- ・森林の持つ多面的機能が理解できる
- ・森林の持続的な利用方法が理解できる
- ・森林情報の活用と把握の方法が理解できる

学習の到達目標

- ・森林の持つ多面的機能が説明できる
- ・森林の持続的な利用方法が説明できる
- ・森林情報の活用と把握の方法が説明できる

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 森林 森林資源 持続的経営 環境 緑資源 森林情報 リモートセンシング 地理情報システム(GIS)

Key Word(s)

Forest , Forest Resources , Sustainable Forest Management , Environment , Green Resources , Forest Information , Remote Sensing
Geographic Information System

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 森林の現状
- 第3回 森林の効用
- 第4回 林業・木材業の現状
- 第5回 森林を育てる

発展科目 特になし

教科書 授業の中で紹介する

参考書 授業の中で紹介する

成績評価方法と基準 基本的にレポート(50%)、定期試験(50%)とし、授業態度を考慮して総合的に判断する。

オフィスアワー

石川知明:木曜日13:00~14:30

板谷明美:木曜日13:00~14:30

授業改善への工夫 レポートの内容を確認し、理解が不十分と思われる箇所は次回の授業で再度解説する

その他

- ・Moodleなどを使用して自主的に予習、復習することを前提にした講義です。森林に興味を持ち、自主的に学習できる人の受講を強く望みます。
- ・初回の講義には必ず出席してください。受講希望者数によって、受講者数を調整することがあります。

第6回 からだにやさしい森の働き

第7回 木を使う

第8回 森林伐採と地球環境

第9回 森林伐採と水環境

第10回 森林が作りだす景観

第11回 中間まとめ

第12回 森林は動く

第13回 リモートセンシングと森林

第14回 地理情報システム(GIS)と森林

第15回 定期試験

第16回 振り返り

学習課題(予習・復習)

毎回、Moodleなどに掲載した資料を予習していただくことが受講の条件である。また、毎回の講義内容を復習すること。予習、復習をしない者には、「0」の評価をつける。

小レポートの提出において、代筆などの不正行為があった場合、行為者、被行為者ともに、評価を「0」とし、不正行為として処理する。

初回の講義を欠席した者には、以降の受講を認めない。受講希望者数によって、受講者数を調整することがある。なお、調整方法は教員が決める。

防災論 (自然災害と防災・減災)

Disaster Prevention

学期 後期 開講時間 月9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 ○川口 淳(工学研究科), 畑中 重光(工学研究科), 花里 利一(工学研究科), 田端千夏子(工学研究科), 浅野聡(工学研究科), 浦山益郎(工学研究科), 林克巳(三重大学防災室), 三重県防災担当職員(非常勤講師)

授業の概要 最近, 事故や自然現象による災害が数多く報道されており, 一般市民の防災に対する意識は高まりつつある。三重県を含む東海地方では, 東海・東南海・南海地震の近い将来での発生が危惧されている。また, 近年, 三重県内では数多くの風水害・土砂災害も発生している。災害発生後は自助・公助・共助が必要であり, 特に, 学生を含めたボランティアは災害復興の大きな力となる。本講義では, 防災意識の向上を目標に, 建築・地域及び防災の専門の立場から, 災害・防災に関する講義を行う。

学習の目的 我が国における自然災害についての基礎基地式を身につけ, それに対する行政から, 市民までの様々な主体による, 防災・減災の対策を理解する。またあわせて, 受講者自身が災害対策(特に予防対策から緊急対応)をしっかりと実践できるようになること。

学習の到達目標 建物・都市の地震防災に関する知識を得るとともに, 防災意識の向上を目標とする

授業計画・学習の内容

キーワード 地震・津波災害, 地域防災, 建築防災, 三重県の地震・津波

Key Word(s) Earthquake and Tsunami disaster, Regional disaster prevention and Disaster in Mie pref.

学習内容

1. 地震・津波災害と過去の被害(ガイダンス)
2. 地震・津波対策
3. 地域における防災対策
4. 津波
5. 建物振動と耐震設計
6. 三重県の防災行政1

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 各授業の担当教員がその都度案内する。

成績評価方法と基準 欠席4回以下を前提として, 途中レポート(80%)および出席(20%)により評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00, 工学部建築学科川口室。その他, 各授業の担当教員がその都度案内する。

授業改善への工夫 最終回に学生の授業評価アンケートを行い, その結果を参考にして, 改善方法を検討する。

その他 市民開放10人まで

7. 三重県の防災行政2
8. 災害と自衛隊の災害派遣活動および行政の災害対策本部の活動
9. 木造住宅の地震被害と耐震補強の必要性
10. 防災都市計画
11. 防災コミュニティづくり
12. 都市型水害の発生構造
13. 都市型水害への対策
14. 地震と液状化
15. 建築物の地震対策に関する最近の話題

学習課題(予習・復習) 予習・復習にあたっては, 地震・津波・自主防災・ライフラインなどについての書籍・資料・HPを参照すること。

防災論 (森林と洪水・山崩れ)

Disaster Prevention

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 山田孝(生物資源学部)

授業の概要 森林の公益的機能と森林が流域の洪水、土地環境(森林土壌の侵食、流亡、土砂災害等)に果たす役割と限界について理解を深め、これからの森林保全・管理、減災のありかたについて考察する。

学習の目的 森林の公益的機能と森林が洪水、土地環境(森林土壌の侵食、流亡、土砂災害等)に果たす役割と限界について、実態、理論、基本的な防災の考え方を理解できるようにする。

学習の到達目標 森林の公益的機能と森林が洪水、土地環境(森林土壌の侵食、流亡、土砂災害等)に果たす役割と限界について、実態、

理論、基本的な防災の考え方を理解できるようにする。

本学教育目標との関連 モチベーション、論理的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 配布資料によって説明する。

参考書 参考書は適宜、授業時に示す。

成績評価方法と基準 毎回のレポートにより評価する(60点以上が合格)。

オフィスアワー 毎週金曜日12:00～13:00 生物資源学部504号室

授業計画・学習の内容

キーワード 森林、洪水、山崩れ、土砂災害

Key Word(s) forest, flood, slope failure, sediment-related disaster

学習内容

森林資源の特徴と現象、森林の公益的機能、森林保全・管理の歴史、森林の洪水に及ぼす影響、森林の土壌侵食、山崩れに及ぼす影響、今後の森林保全・管理、減災のありかた
授業計画

第1回 講義の目的とエッセンス

第2回 森林資源の特徴と現象

第3回 森林の公益的機能、森林保全・管理の歴

史

第4回 森林の洪水に及ぼす影響

第5回 //

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第10回 森林の土壌侵食、山崩れに及ぼす影響

第11回 //

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 今後の森林保全・管理、減災のありかた

現代科学理解特殊講義 (カモノハシと博物学史)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義

担当教員 浅原 正和

授業の概要 オーストラリアにカモノハシという卵を産む不思議な哺乳類がいます。その不思議な動物の進化の歴史と、人類による発見と研究の歴史を軸に、哺乳類の進化と多様性、博物学(自然史学)の歴史と手法、そして科学と社会との関係を学んでいきたいと思います。

学習の目的 特定の動物を挙げていますが、特定の動物を学ぶという講義ではありません。生物進化のメカニズムと生物多様性の形成・維持機構について理解するとともに、それらの知識をもたらしてきた科学の歴史について理解することを目標とします。そして、それら科学研究と社会とが互いに影響し合っていることを理解し、説明できるようになることを目標とします。

学習の到達目標

- ・博物学が発展した社会的要因を説明できる
- ・生き物の名前の付け方とそのルールを説明できる
- ・生物進化の仕組みを説明できる

授業計画・学習の内容

キーワード 博物学、自然史、科学史、哺乳類の進化、研究方法

Key Word(s) Natural History, History of science, Mammalian evolution, research method

学習内容

- 第1回 『なぜカモノハシか?』 極限を知ると普遍がわかる・比較という研究方法
- 第2回 『カモノハシ発見の歴史1』 博物学の発展とその社会的背景・分類学の考え方
- 第3回 『カモノハシ発見の歴史2』 植民地主義と博物学・19世紀のカモノハシ研究
- 第4回 『哺乳類の進化1』 進化とは・四足動物～単弓類の進化・恐竜の時代と哺乳類の黎明
- 第5回 『哺乳類の進化2』 過去の動物の生態を知るには?・大陸移動と哺乳類の進化

- ・生物進化にかかった時間をイメージできる
- ・科学研究や学術分野の発展にかかった時間をイメージできる
- ・他の生き物や科学の歴史から教訓を学び取り、説明できる

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、博物学や生物学の考え方を理解することを重視してください。

第6回 『哺乳類の多様性と収斂進化』 哺乳類の多様化と異なる系統から似た形が進化する理由

第7回 『カモノハシの一年』 カモノハシの一年を辿りながら動物の周期性について考えてみます

第8回 『カモノハシの生態』 カモノハシの持つ不思議な感覚器や毒腺について考えてみます

第9回 『カモノハシのからだ』 脊椎動物における運動(ロコモーション)とその進化

第10回 『地理的変異と自然保護』 地域個体群を守る意義・カモノハシ保護活動の事例

第11回 『戦争と動物学者』 戦火の中、激動の時代に生きた科学者たち

第12回 『現代社会と動物学』 現代社会の中で

の社会と科学との関わりあいを考えます

第13回 『カモノハシはどうして歯を失った？』 持っているものを失う進化について考えます

第14回 『進化と絶滅』 どうしてある生き物は

生き延び、ある生き物は滅びたのでしょうか

第15回 『カモノハシが私たちに教えてくれること』 全体のまとめと考察

(試験)

現代科学理解特殊講義 (カモノハシと博物学史)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義

担当教員 浅原 正和

授業の概要 オーストラリアにカモノハシという卵を産む不思議な哺乳類がいます。その不思議な動物の進化の歴史と、人類による発見と研究の歴史を軸に、哺乳類の進化と多様性、博物学(自然史学)の歴史と手法、そして科学と社会との関係を学んでいきたいと思います。

学習の目的 特定の動物を挙げていますが、特定の動物を学ぶという講義ではありません。生物進化のメカニズムと生物多様性の形成・維持機構について理解するとともに、それらの知識をもたらしてきた科学の歴史について理解することを目標とします。そして、それら科学研究と社会とが互いに影響し合っていることを理解し、説明できるようになることを目標とします。

学習の到達目標

- ・博物学が発展した社会的要因を説明できる
- ・生き物の名前の付け方とそのルールを説明できる
- ・生物進化の仕組みを説明できる

授業計画・学習の内容

キーワード 博物学、自然史、科学史、哺乳類の進化、研究方法

Key Word(s) Natural History, History of science, Mammalian evolution, research method

学習内容

- 第1回 『なぜカモノハシか?』 極限を知ると普遍がわかる・比較という研究方法
- 第2回 『カモノハシ発見の歴史1』 博物学の発展とその社会的背景・分類学の考え方
- 第3回 『カモノハシ発見の歴史2』 植民地主義と博物学・19世紀のカモノハシ研究
- 第4回 『哺乳類の進化1』 進化とは・四足動物～単弓類の進化・恐竜の時代と哺乳類の黎明
- 第5回 『哺乳類の進化2』 過去の動物の生態を知るには?・大陸移動と哺乳類の進化

- ・生物進化にかかった時間をイメージできる
- ・科学研究や学術分野の発展にかかった時間をイメージできる
- ・他の生き物や科学の歴史から教訓を学び取り、説明できる

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、博物学や生物学の考え方を理解することを重視してください。

第6回 『哺乳類の多様性と収斂進化』 哺乳類の多様化と異なる系統から似た形が進化する理由

第7回 『カモノハシの一年』 カモノハシの一年を辿りながら動物の周期性について考えてみます

第8回 『カモノハシの生態』 カモノハシの持つ不思議な感覚器や毒腺について考えてみます

第9回 『カモノハシのからだ』 脊椎動物における運動(ロコモーション)とその進化

第10回 『地理的変異と自然保護』 地域個体群を守る意義・カモノハシ保護活動の事例

第11回 『戦争と動物学者』 戦火の中、激動の時代に生きた科学者たち

第12回 『現代社会と動物学』 現代社会の中で

の社会と科学との関わりあいを考えます

第13回 『カモノハシはどうして歯を失った？』 持っているものを失う進化について考えます

第14回 『進化と絶滅』 どうしてある生き物は

生き延び、ある生き物は滅びたのでしょうか

第15回 『カモノハシが私たちに教えてくれること』 全体のまとめと考察

(試験)

現代科学理解特殊講義 (カモノハシと博物学史)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

次 授業の方法 講義

担当教員 浅原 正和

授業の概要 オーストラリアにカモノハシという卵を産む不思議な哺乳類がいます。その不思議な動物の進化の歴史と、人類による発見と研究の歴史を軸に、哺乳類の進化と多様性、博物学(自然史学)の歴史と手法、そして科学と社会との関係を学んでいきたいと思います。

学習の目的 特定の動物を挙げていますが、特定の動物を学ぶという講義ではありません。生物進化のメカニズムと生物多様性の形成・維持機構について理解するとともに、それらの知識をもたらしてきた科学の歴史について理解することを目標とします。そして、それら科学研究と社会とが互いに影響し合っていることを理解し、説明できるようになることを目標とします。

学習の到達目標

- ・博物学が発展した社会的要因を説明できる
- ・生き物の名前の付け方とそのルールを説明できる
- ・生物進化の仕組みを説明できる

授業計画・学習の内容

キーワード 博物学、自然史、科学史、哺乳類の進化、研究方法

Key Word(s) Natural History, History of science, Mammalian evolution, research method

学習内容

- 第1回 『なぜカモノハシか?』 極限を知ると普遍がわかる・比較という研究方法
- 第2回 『カモノハシ発見の歴史1』 博物学の発展とその社会的背景・分類学の考え方
- 第3回 『カモノハシ発見の歴史2』 植民地主義と博物学・19世紀のカモノハシ研究
- 第4回 『哺乳類の進化1』 進化とは・四足動物～単弓類の進化・恐竜の時代と哺乳類の黎明
- 第5回 『哺乳類の進化2』 過去の動物の生態を知るには?・大陸移動と哺乳類の進化

- ・生物進化にかかった時間をイメージできる
- ・科学研究や学術分野の発展にかかった時間をイメージできる
- ・他の生き物や科学の歴史から教訓を学び取り、説明できる

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、博物学や生物学の考え方を理解することを重視してください。

第6回 『哺乳類の多様性と収斂進化』 哺乳類の多様化と異なる系統から似た形が進化する理由

第7回 『カモノハシの一年』 カモノハシの一年を辿りながら動物の周期性について考えてみます

第8回 『カモノハシの生態』 カモノハシの持つ不思議な感覚器や毒腺について考えてみます

第9回 『カモノハシのからだ』 脊椎動物における運動(ロコモーション)とその進化

第10回 『地理的変異と自然保護』 地域個体群を守る意義・カモノハシ保護活動の事例

第11回 『戦争と動物学者』 戦火の中、激動の時代に生きた科学者たち

第12回 『現代社会と動物学』 現代社会の中で

の社会と科学との関わりあいを考えます

第13回 『カモノハシはどうして歯を失った？』 持っているものを失う進化について考えます

第14回 『進化と絶滅』 どうしてある生き物は

生き延び、ある生き物は滅びたのでしょうか

第15回 『カモノハシが私たちに教えてくれること』 全体のまとめと考察

(試験)

現代科学理解特殊講義 (科学技術と社会)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 和田 正法

授業の概要 現代の科学・技術は、科学者や技術者だけの問題ではなく、一般の社会と密接に関係している。科学・技術の成果は、われわれの暮らしに恩恵を与える一方で、ときに問題を生み出すことがある。しかし、現代の科学・技術は急激な進展をみせており、専門家ですえ個人が把握できるのは、科学・技術全体のほんの一部分にすぎない。こうした科学・技術をわれわれはどのように捉え、問題に対処していけばよいのか。各回の授業では、現代の科学・技術が社会と関わりをもつ際に生じる問題を取りあげ、それらを分析する視点を提供する。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・科学技術が社会の中で生じる問題があることを理解する(C評定)。
- ・多面的な視点から科学技術の進展を理解し、論じることができる(B評定)。
- ・科学技術と社会の問題に関して、自らの考えを表明し、論理的に説明することができる(A評定)。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える

力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、レポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

授業中に、受講者に現代科学技術の内容に関してマイクで意見を求めることがあります。初めのうちは発言することに戸惑うことがあるかもしれませんが、自らの意見を表明することに慣れてください。

また、科学技術が発展する場としての大学の役割とは何か、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 科学技術、科学論、科学技術社会論、社会の中の科学技術

Key Word(s) Science and Technology, Science Studies, STS (Science and Technology Studies), Science and Technology in Society

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術とは何かについて考える。

第2回 研究者と社会

論文捏造など研究者の不正事件を例に、研究現場の最先端と社会の関わりを考える。

第3回 「科学」、「技術」、「科学技術」

産業革命やイノベーションを例に、「科学」、「技術」、「科学技術」について考える。

第4回 公害問題

水俣病を中心に、公害と科学技術の関係について考える。

第5回 地球環境問題

地球温暖化について、エネルギー、持続可能性、不確実性を考える。

第6回 戦争と科学技術

科学技術が兵器開発とどう関わってきたかを考える。

第7回 事故と科学技術

スペースシャトル・チャレンジャー号の事故を中心に、科学技術の失敗例を考える。

第8回 科学技術と安全

化学物質などを例に、科学技術の安全面を考える。

第9回 科学技術とリスク

遺伝子組み換え作物、不妊治療、出生前診断などの最新科学技術に潜むリスクを考える。

第10回 科学技術と国家

日本や各国の科学技術政策を中心に、国家と科学技術の関係を考える。

第11回 科学・技術と知的財産権

青色LED特許訴訟やWinny事件を中心に、科学技術の進歩とその商業化や普及の過程を考える。

第12回 巨大科学技術システムと社会

原子力発電を例に、巨大システムと社会の関連を考える。

第13回 先端の科学技術と社会

再生医療などを例に、最先端の科学技術が社会に及ぼす影響を考える。

第14回 専門家と市民の関係

専門家と非専門家の関係をとりあげ、科学技術は誰のためにあるのかを考える。

第15回 まとめ

これまで取りあげた事例を振り返り、科学技術と社会の関連を問い直す。

現代科学理解特殊講義 (科学技術と社会)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 和田 正法

授業の概要 現代の科学・技術は、科学者や技術者だけの問題ではなく、一般の社会と密接に関係している。科学・技術の成果は、われわれの暮らしに恩恵を与える一方で、ときに問題を生み出すことがある。しかし、現代の科学・技術は急激な進展をみせており、専門家でさえ個人が把握できるのは、科学・技術全体のほんの一部分にすぎない。こうした科学・技術をわれわれはどのように捉え、問題に対処していけばよいのか。各回の授業では、現代の科学・技術が社会と関わりをもつ際に生じる問題を取りあげ、それらを分析する視点を提供する。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・科学技術が社会の中で生じる問題があることを理解する(C評定)。
- ・多面的な視点から科学技術の進展を理解し、論じることができる(B評定)。
- ・科学技術と社会の問題に関して、自らの考えを表明し、論理的に説明することができる(A評定)。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える

力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、レポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

授業中に、受講者に現代科学技術の内容に関してマイクで意見を求めることがあります。初めのうちは発言することに戸惑うことがあるかもしれませんが、自らの意見を表明することに慣れてください。

また、科学技術が発展する場としての大学の役割とは何か、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 科学技術、科学論、科学技術社会論、社会の中の科学技術

Key Word(s) Science and Technology, Science Studies, STS (Science and Technology Studies), Science and Technology in Society

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術とは何かについて考える。

第2回 研究者と社会

論文捏造など研究者の不正事件を例に、研究現場の最先端と社会の関わりを考える。

第3回 「科学」、「技術」、「科学技術」

産業革命やイノベーションを例に、「科学」、「技術」、「科学技術」について考える。

第4回 公害問題

水俣病を中心に、公害と科学技術の関係について考える。

第5回 地球環境問題

地球温暖化について、エネルギー、持続可能性、不確実性を考える。

第6回 戦争と科学技術

科学技術が兵器開発とどう関わってきたかを考える。

第7回 事故と科学技術

スペースシャトル・チャレンジャー号の事故を中心に、科学技術の失敗例を考える。

第8回 科学技術と安全

化学物質などを例に、科学技術の安全面を考える。

第9回 科学技術とリスク

遺伝子組み換え作物、不妊治療、出生前診断などの最新科学技術に潜むリスクを考える。

第10回 科学技術と国家

日本や各国の科学技術政策を中心に、国家と科学技術の関係を考える。

第11回 科学・技術と知的財産権

青色LED特許訴訟やWinny事件を中心に、科学技術の進歩とその商業化や普及の過程を考える。

第12回 巨大科学技術システムと社会

原子力発電を例に、巨大システムと社会の関連を考える。

第13回 先端の科学技術と社会

再生医療などを例に、最先端の科学技術が社会に及ぼす影響を考える。

第14回 専門家と市民の関係

専門家と非専門家の関係をとりあげ、科学技術は誰のためにあるのかを考える。

第15回 まとめ

これまで取りあげた事例を振り返り、科学技術と社会の関連を問い直す。

現代科学理解特殊講義 (科学技術と社会)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 和田 正法

授業の概要 現代の科学・技術は、科学者や技術者だけの問題ではなく、一般の社会と密接に関係している。科学・技術の成果は、われわれの暮らしに恩恵を与える一方で、ときに問題を生み出すことがある。しかし、現代の科学・技術は急激な進展をみせており、専門家ですえ個人が把握できるのは、科学・技術全体のほんの一部分にすぎない。こうした科学・技術をわれわれはどのように捉え、問題に対処していけばよいのか。各回の授業では、現代の科学・技術が社会と関わりをもつ際に生じる問題を取りあげ、それらを分析する視点を提供する。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・科学技術が社会の中で生じる問題があることを理解する(C評定)。
- ・多面的な視点から科学技術の進展を理解し、論じることができる(B評定)。
- ・科学技術と社会の問題に関して、自らの考えを表明し、論理的に説明することができる(A評定)。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える

力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、レポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

授業中に、受講者に現代科学技術の内容に関してマイクで意見を求めることがあります。初めのうちは発言することに戸惑うことがあるかもしれませんが、自らの意見を表明することに慣れてください。

また、科学技術が発展する場としての大学の役割とは何か、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 科学技術、科学論、科学技術社会論、社会の中の科学技術

Key Word(s) Science and Technology, Science Studies, STS (Science and Technology Studies), Science and Technology in Society

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術とは何かについて考える。

第2回 研究者と社会

論文捏造など研究者の不正事件を例に、研究現場の最先端と社会の関わりを考える。

第3回 「科学」、「技術」、「科学技術」

産業革命やイノベーションを例に、「科学」、「技術」、「科学技術」について考える。

第4回 公害問題

水俣病を中心に、公害と科学技術の関係について考える。

第5回 地球環境問題

地球温暖化について、エネルギー、持続可能性、不確実性を考える。

第6回 戦争と科学技術

科学技術が兵器開発とどう関わってきたかを考える。

第7回 事故と科学技術

スペースシャトル・チャレンジャー号の事故を中心に、科学技術の失敗例を考える。

第8回 科学技術と安全

化学物質などを例に、科学技術の安全面を考える。

第9回 科学技術とリスク

遺伝子組み換え作物、不妊治療、出生前診断などの最新科学技術に潜むリスクを考える。

第10回 科学技術と国家

日本や各国の科学技術政策を中心に、国家と科学技術の関係を考える。

第11回 科学・技術と知的財産権

青色LED特許訴訟やWinny事件を中心に、科学技術の進歩とその商業化や普及の過程を考える。

第12回 巨大科学技術システムと社会

原子力発電を例に、巨大システムと社会の関連を考える。

第13回 先端の科学技術と社会

再生医療などを例に、最先端の科学技術が社会に及ぼす影響を考える。

第14回 専門家と市民の関係

専門家と非専門家の関係をとりあげ、科学技術は誰のためにあるのかを考える。

第15回 まとめ

これまで取りあげた事例を振り返り、科学技術と社会の関連を問い直す。

医学医療B (臨床医学の最近の話題)

Medicine, Nursing

学期 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 受講者が200名を超えた場合は学年を指定する等の方法で受講数を制限することもあります。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義

担当教員 ○白石 泰三 (医学部), 佐久間 肇(医学部), 長谷川 正裕 (医学部), 土肥 薫(医学部), 水谷 仁(医学部), 岡田 元宏(医学部), 新井 直也(医学部), 豊田 秀実(医学部), 北村 大(医学部), 冨本 秀和 (医学部), 今井 寛 (医学部), 近藤 峰生(医学部), 石井 建一郎(医学部)

授業の概要 最新の臨床医学の進歩を各分野ごとに分かりやすく解説する。

予め履修が望ましい科目 基礎生物学、基礎医学(特に解剖学、生理学、病理学など)

学習の目的 自分自身の健康に対する関心が高まる。また、最新の医学が他領域の技術進歩と密接に関係していることが実感できる。

発展科目 臨床医学各論

学習の到達目標 臨床医学の最前線を学び、現代医学の動向や将来展望を理解する。

成績評価方法と基準 授業への取り組み (30%)、レポート (70%)

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術

授業改善への工夫 画像や動画をできるだけ取り入れ、他学部の学生にも分かりやすく解説するように工夫した。

授業計画・学習の内容

キーワード 臨床医学、診断、治療、予防医学

第14回 薬の個別化医療 (7/21)

第15回 留学のすすめ (7/28)

第16回 予備日 (8/4)

学習内容

第1回 画像診断の話 (4/14)

第2回 人工関節の話 (4/21)

第3回 薬理学概論 (4/28)

第4回 心臓の話 (5/12)

第5回 アトピー性皮膚炎の話 (5/19)

第6回 薬の効く仕組み (5/26)

第7回 脳とこころの科学 (6/2)

第8回 口の五大機能の話 (6/9)

第9回 こどもの病気 (6/16)

第10回 癌に対する薬物治療 (6/23)

第11回 患者中心の医療の話 (6/30)

第12回 救急医療の話 (7/7)

第13回 脳の話 (7/14)

学習課題 (予習・復習)

医学概論

神経内科学

循環器病学

心臓外科学

口腔外科学

アトピー性皮膚炎、アレルギー、鼻炎、免疫反応

子どもの病気、小児がん、感染症

ストレスと病気

最新のCT、MRI、PET

最近の薬物治療

情報科学C (続・数値計算統計処理)

Mathematical Science C

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 井岡 幹博 (非常勤講師)

授業の概要 Cプログラミングを通して、計算機におけるデータの内部表現、数値計算の初歩を実習する。

を作成できるようになる。

教科書 独習C (翔泳社)

学習の到達目標 簡単な数値計算プログラム

成績評価方法と基準 出席50%, 試験50%

授業計画・学習の内容

キーワード Cプログラミング, 数値計算, 統計処理

11~12. 数値積分

13~14. 最大値, 最小値, 平均, 分散, 共分散, 相関係数

学習内容

1~2. 非線型方程式の解

3~4. 2分方, ニュートン法

5~6. 補間

7~8. 連立1次方程式

9~10. 逆行列, 行列式

15. 正規分布

16. 試験

学習課題 (予習・復習) そのつど, 課題プリントを与える。

情報科学A (プログラミング入門)

Computer Science A

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 露峰 茂明 (教育学部)

授業の概要 数式処理ソフトMathematicaを用いて、数学の問題解法を試みる。

学習の目的 コンピュータを用いて数学の問題を解く。数式処理ソフトMathematicaの基本的な使い方を学んだ後、様々な具体的な問題を解いていく。

学習の到達目標 数学の問題を解くときに、コンピュータをどう役立てるかを学ぶ。高校以下の初等的な問題も扱うが、基礎微分積分学、基礎線形代数学の問題を解くのに役立つので、それらを受講していることが望まし

い。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

教科書 特になし

成績評価方法と基準 定期試験の成績により評価する。

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00、場所：教育学部4階代数学第二研究室

その他 受講制限25名。

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータ、Mathematica、プログラミング

学習内容

1. Mathematicaの基本的な操作法 (第1回)
2. 高性能電卓としての使い方 (第2-3回)
3. 連立一次方程式、高次方程式 (第4-5回)
4. 記号計算 (第6-7回)

5. 微分、級数展開 (第8-9回)
6. 積分、定積分 (第10-11回)
7. 関数のグラフ (第12回)
8. 簡単なプログラミング (第13回)
9. プログラミングを用いての問題解法 (第14-15回)
10. 定期試験 (第16回)

Index

アントレプレナー論	453	異文化理解Ⅰ基礎(ポルトガル語) a	70
		異文化理解Ⅰ基礎(ポルトガル語) a	71
医学医療B	762	異文化理解Ⅰ基礎(ポルトガル語) b	72
医学医療E	647	異文化理解Ⅰ基礎(ロシア語) a	64
医学医療E	646	異文化理解Ⅰ基礎(ロシア語) b	66
医学医療A	759	異文化理解Ⅱ演習(中国語)	118, 119
医学医療A	753, 754, 756, 757	異文化理解Ⅱ演習(中国語)	120, 121
医学医療C	532	異文化理解Ⅱ演習(ドイツ語A)	104
医学医療D	533	異文化理解Ⅱ演習(ドイツ語A)	105
医学医療B	761, 763, 792	異文化理解Ⅱ演習(ドイツ語B)	106, 107
異文化理解Ⅰ演習(スペイン語) a	90	異文化理解Ⅱ演習(フランス語)	112, 113
異文化理解Ⅰ演習(スペイン語) b	91	異文化理解Ⅱ総合(中国語)	116, 117
異文化理解Ⅰ演習(中国語) a	82	異文化理解Ⅱ総合(中国語)	114, 115
異文化理解Ⅰ演習(中国語) b	83	異文化理解Ⅱ総合(ドイツ語A)	100, 101
異文化理解Ⅰ演習(朝鮮語) a	84	異文化理解Ⅱ総合(ドイツ語B)	102, 103
異文化理解Ⅰ演習(朝鮮語) b	85	異文化理解Ⅱ総合(フランス語)	108, 110
異文化理解Ⅰ演習(ドイツ語A) a	130	異文化理解Ⅲ応用(中国語A)	124, 125
異文化理解Ⅰ演習(ドイツ語A) b	131	異文化理解Ⅲ応用(中国語B)	126, 127
異文化理解Ⅰ演習(ドイツ語A) a	74	異文化理解Ⅲ応用(中国語C)	128, 129
異文化理解Ⅰ演習(ドイツ語A) b	75	異文化理解Ⅲ応用(ドイツ語A)	122
異文化理解Ⅰ演習(ドイツ語B) a	76	異文化理解Ⅲ応用(ドイツ語B)	123
異文化理解Ⅰ演習(ドイツ語B) b	77		
異文化理解Ⅰ演習(フランス語) a	78	英語Ⅱ発展Aa	23, 24
異文化理解Ⅰ演習(フランス語) b	80	英語Ⅱ発展Ab	26, 27
異文化理解Ⅰ演習(ポルトガル語) a	92, 95	英語Ⅰコミュニケーション	21, 22
異文化理解Ⅰ演習(ポルトガル語) a	94	英語Ⅰ大学基礎	19, 20
異文化理解Ⅰ演習(ポルトガル語) b	96, 98,	英語ⅠTOEIC	17, 18
99		英語Ⅱ発展E	50, 52
異文化理解Ⅰ演習(ロシア語) a	86	英語Ⅱ発展E	51, 53
異文化理解Ⅰ演習(ロシア語) b	88	英語Ⅱ発展B	36
異文化理解Ⅰ基礎(ポルトガル語) b	73	英語Ⅱ発展Aa	25
異文化理解Ⅰ基礎(スペイン語) a	68	英語Ⅱ発展Ab	28, 29
異文化理解Ⅰ基礎(スペイン語) b	69	英語Ⅱ発展C	42, 44
異文化理解Ⅰ基礎(中国語) a	60	英語Ⅱ発展D	46
異文化理解Ⅰ基礎(中国語) b	61	英語Ⅱ発展B	32, 34, 38, 40
異文化理解Ⅰ基礎(朝鮮語) a	62	英語Ⅱ発展D	48
異文化理解Ⅰ基礎(朝鮮語) b	63	英語Ⅱ発展B	30
異文化理解Ⅰ基礎(ドイツ語A) a	54, 132	A-Iポジティブ思考法	464-466
異文化理解Ⅰ基礎(ドイツ語A) b	55	演劇入門	482
異文化理解Ⅰ基礎(ドイツ語A) b	133		
異文化理解Ⅰ基礎(ドイツ語B) a	56	音楽文化論	651, 652
異文化理解Ⅰ基礎(ドイツ語B) b	57		
異文化理解Ⅰ基礎(フランス語) a	58	化学B	737
異文化理解Ⅰ基礎(フランス語) b	59	化学Ⅰ	402, 403

化学A	734, 735	基礎微分積分学Ⅱ	340, 348
化学基礎Ⅱ	398, 400	基礎微分積分学Ⅱ	345, 346
化学基礎Ⅰ	394	基礎微分積分学Ⅰ	329, 337
化学基礎Ⅰ	393, 395	基礎微分積分学Ⅱ	339, 347
化学基礎Ⅰ(再履修)	397	基礎微分積分学Ⅰ	331, 332
化学実験	406-408, 410	基礎微分積分学Ⅱ	342, 343
化学Ⅱ	405	基礎物理学ⅢB	378
化学B	738	基礎物理学Ⅰ	361, 362
学習支援実践	437, 438	基礎物理学Ⅱ	371, 372
学生生活支援実践	436	基礎物理学Ⅰ	364, 369
環境科学	765-767	基礎物理学Ⅰ	365, 366, 368
環境科学	768	基礎物理学A	360
環境学A	648	基礎物理学ⅢA	375, 377
環境学A	649, 700	基礎物理学Ⅱ	373, 374
環境地理学A	764	キャリア形成	449, 451
		キャリアプランニング	441, 443, 445, 447
基礎化学B	391	教養ワークショップ	12
基礎化学A	390	教養ワークショップ「特別英語プログラム」	
基礎化学C	392		13, 15
基礎数学演習Ⅰ	355		
基礎数学演習Ⅱ	357	経済学B	519
基礎数学演習Ⅰ	356	経済学G	631
基礎数学演習Ⅱ	358	経済学G	699
基礎数理統計学	359	経済学A	514
基礎生物学B	413	経済学A	515, 516, 518
基礎生物学A	412	経済学F	629, 630, 704
基礎生物学C	414	計算機基礎	309
基礎線形代数学	325, 328	計算機基礎Ⅰ及び演習	301
基礎線形代数学Ⅰ	311	計算機基礎Ⅱ及び演習	304
基礎線形代数学Ⅱ	318	言語学	638, 640, 642
基礎線形代数学	327	現代科学理解特殊講義	786, 788, 790
基礎線形代数学Ⅱ	320	現代社会理解実践	687-689, 691, 693, 695
基礎線形代数学Ⅰ	310	現代社会理解実践S	697
基礎線形代数学Ⅰ	313	現代社会理解特殊講義	684, 686
基礎線形代数学Ⅱ	317	現代科学理解特殊講義	782, 784
基礎線形代数学Ⅰ	319	現代科学理解特殊講義	780
基礎線形代数学Ⅰ	314	建築情報処理基礎	306
基礎線形代数学Ⅰ	324		
基礎線形代数学Ⅱ	316	広報実践	439, 440
基礎線形代数学Ⅱ	312	国際理解実践	679, 680, 682, 705
基礎線形代数学Ⅰ	315	国際理解実践S	683
基礎線形代数学Ⅱ	323	国際理解特殊講義	653, 655, 657, 659, 661,
基礎地学A	423	663, 665, 667, 669, 671, 673, 675,	
基礎微分積分学Ⅰ	333	677, 706, 708	
基礎微分積分学Ⅱ	344	こころのサポート	459, 461-463, 595,
基礎微分積分学Ⅰ	334, 336	597-599	
基礎微分積分学Ⅰ	330, 335, 338		
		自然科学概論	743-745, 747, 749, 751

社会学A	608, 609	スポーツ健康科学a	135,
社会学B	611-613, 615, 617, 619, 702		141, 143, 147, 148, 150-152, 156-
社会連携型実践	456		158, 162, 164, 166, 167, 169, 171,
宗教学A	565		173, 175, 176, 178, 180, 181, 183,
宗教学C	568		186, 188-190, 192, 194, 196
宗教学B	566, 567	スポーツ健康科学a(アダプテッド スポーツ)	
障がい学生支援実践	430		197
情報科学A	722	スポーツ健康科学a	137, 145, 154, 185
情報科学A	718, 720	スポーツ健康科学概論	266, 268, 270
情報科学C	793	スポーツ健康科学b	198, 200, 202,
情報科学B	723		204, 206, 208, 212, 214, 216, 218,
情報科学A	794		220, 222, 224, 226, 228, 230, 232,
情報科学基礎	271-275, 277, 279, 281, 283,		234, 235, 237, 239, 241, 243, 244,
	285, 287, 294, 295, 297		246, 248, 249, 251, 253, 254, 256-
情報科学基礎 F2クラス	298		258, 260, 262, 264
情報科学基礎 (1C)	289	スポーツ健康科学b(アダプテッド スポーツ)	
情報科学基礎 (1D)	291		265
情報科学基礎A	427	政治学A	503
情報科学基礎及び初級プログラミング演習	307	政治学B	509, 510
情報科学基礎B	300, 428	政治学G	626
人文地理学A	521	政治学A	505-508
人文地理学C	523	政治学F	624
文化と空間B	634	政治学B	512, 513
人文地理学B	522	生物資源学B	775
心理学A	585	生物学	739-742
心理学F	716	生物学基礎Ⅱ	418
心理学A	587	生物学基礎Ⅰ	415, 416
心理学A	588-590	生物学基礎Ⅰ (再履修用)	417
心理学S	591, 592	生物学実験	421
心理学S	593	生物資源学A	774
心理学F	714, 715	生物資源学B	776
数学基礎	349-353	生物資源学A	770, 771, 773
数学基礎 (再履修)	354	西洋史B	577, 578
数理科学C	726	西洋史C	579, 581
数理科学A	724	西洋史A	575, 576
数理科学H	730, 731	基礎線形代数Ⅱ	321
数理科学G	729	地域学	644, 710, 712
数理科学D	727, 728	地域と仕事	454
数理科学B	725	地学基礎	424
スタートアップセミナー	1-3, 5, 7, 9	知財学	458
スタートアップセミナー 編入生・再履修生クラス	11	哲学Ⅰ	559
スポーツ健康科学a	139, 160	哲学F	548, 549
スポーツ健康科学b	210	哲学G	550, 552, 554
		哲学I	560
		哲学Ⅰ	558

哲学A	468	法学B	501
哲学H	556, 557	法学A	500
電子計算機プログラミング及び演習	425	法学F	607
		防災論	778, 779
東洋史A	569-571		
東洋史B	572	三重学	529, 530
東洋文化史	573, 574		
		留学生支援実践	429
日本学	525, 527, 538, 540, 542, 543	倫理学H	564
日本考古学A	474	倫理学 F	561, 562
日本考古学B	475	倫理学 G	563
日本語学A	484, 485	倫理学A	469
日本語学B	487, 488	倫理学B	470
日本国憲法	489, 491, 492, 494, 496, 498, 499		
日本史A	471		
日本史B	472		
日本史D	473		
日本文学B	479-481		
日本文学A	544, 545		
日本文学C	546, 547		
日本文化論A	476		
日本文化論B	477		
日本理解特殊講義	534		
日本理解特殊講義S	535		
日本理解特殊講義S	537		
入門生物学	420		
ピアサポート実践	432, 434		
PBL心理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ	600, 603, 605		
PBL数理科学（現代科学）Ⅰ・Ⅱ	732		
PBL政治学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ	627		
PBL日本史（地域・日本）Ⅰ・Ⅱ	478		
PBL比較文化論（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ	584		
PBL地理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ	635, 636		
PBL地理学（地域・日本）Ⅰ・Ⅱ	524		
比較政治文化	583		
物理学	733		
物理学基礎Ⅰ	379, 381		
物理学基礎Ⅰ（再履修）	383		
物理学基礎Ⅰ	380, 382		
物理学実験	384, 386, 388		
文化人類学A	621, 622		
文化人類学B	623		
文化と空間A	632		
法学C	502		

スタートアップセミナー

Start Up Seminar for Collegiate Learning

学期 前期 **開講時間** 火 7, 8 **単位** 2 **対象** 人文学部文化学科1年次生 **年次** 学部(学士課程): 1年次
選/必 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** PBL
担当教員 ○村上直樹、永谷健、吉田悦子、湯浅陽子、福田和展、森正人、田中綾乃、吉野由起
(全員人文学部)

授業の概要 クラスのテーマに沿った課題について調べ、問題を発見し、考え、答を形あるものにする。クラスごとに研究発表を行う。

学習の目的 文化学科における学問研究の基礎を学ぶ。

学習の到達目標 自主的学習態度を身につける。論理的思考方法、調査の仕方、説得力のあるまとめ方等を修得する。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 問題発見、分析能力、説明能力

Key Word(s) problem finding, analysis ability, explanation capability

学習内容

第1回: 全体授業

オリエンテーション、理事・副学長講話、クラス希望調査

第2回～第13回: 各クラスでの授業

*各クラスのテーマについての詳しい説明
(各クラスのテーマは、第1回目の全体授業で提示する)

*受講生による各クラスのテーマに関する研究発表

受講要件 第1回目の全体授業に必ず出席し、クラス希望届を提出すること。第2回からは、指定されたクラスで受講すること。

教科書

『三重大学「4つの力」スタートアップセミナー』(三重大学高等教育創造開発センター) ムイスリ出版

及び、各クラスで指定される文献

参考書 各クラスで指示

成績評価方法と基準 開講時に説明する。

オフィスアワー 各クラスの担当教員が指示する。

授業改善への工夫 授業全体の終わりに、アンケートをとり、その内容を次年度のセミナーに活かす。

*研究発表の準備

小グループの編成、発表日程の作成

図書館の使い方を学ぶ(図書館ツアー)

文献の読み方、情報の吟味の仕方を学ぶ

調査等の仕方を学ぶ

発表の仕方、レジュメの作成の仕方を学ぶ

討議の仕方を学ぶ

*研究発表をまとめる

レポートの書き方、論文の書き方を学ぶ

*合宿(合宿は各クラスごとに行う)

合同発表会の準備等を行う

第14～15回: 合同発表会

学習課題(予習・復習) 各クラスで指示する。

スタートアップセミナー

ASUS

学期 前期 開講時間 月 1, 2; 火 1, 2; 水 1, 2; 木 1, 2; 金 1, 2 単位 2 対象 人文学部法律経済学科1年生
年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の特徴 PBL
担当教員 人文学部法律経済学科教員

授業の概要 大学における研究・調査方法の習得

討論への参加を含む)
☑レポートの作成

学習の目的

大学における学習に対する姿勢については、高校までとは異なった主体的な学習態度が望まれ、単に教えられたことを正確に理解するだけでなく、自ら課題を発見し、調査・分析を行い、その結果を発表する能力を習得することが要請される。

スタートアップセミナーでは、学生が、これから大学で研究、調査を行うに当たって必要となるこれらの基本的能力を習得し、引き続いて開講される共通教育科目や専門科目等において、これらの能力を十分に発揮しながら主体的に学習していけるようにすることを目的とする。

学習の到達目標

1. 図書館の利用方法、情報機器の使用方法、情報倫理の基本的知識を習得すること
2. 学生が自ら選択した具体的問題について、以下の一連の作業を行えるようになること
 - ① 課題の発見・設定
 - ② 資料の収集
 - ③ レジューメ（報告原稿）の作成
 - ④ 発表
 - ⑤ 討論（他の学生が選択した問題についての

本学教育目標との関連

感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

参考書 担当教員の指示に従うこと

成績評価方法と基準 レポートと平常点で行う。

オフィスアワー 担当教員が指定する。

その他

4月のガイダンスの際に、クラス指定が発表される。

2009年度以前入学生及び2011年度編入学生に対しては、専門教育のオリエンテーションセミナーとして開講される。2010年度から2014年度入学生に対して、および2012年度から2015年度編入学生に対しては専門科目の法律経済学科オリエンテーションセミナーとして開講される。

授業計画・学習の内容

キーワード 社会科学の基礎

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 図書館ガイダンス

第3回 情報リテラシー（情報機器の使用方法）

第4回 情報倫理

第5回以降 学生からの課題発表と討論

（注）教室の都合により、第2回と第3回の授業内容が入れ替わるクラスがあります。

スタートアップセミナー

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **単位** 2 **対象** 教育学部、医学部、工学部、生物資源学部を対象とする クラスは指定なので履修案内を参照すること 編入生のうち希望者は受講可能である なお、英語特別プログラム参加希望学生も第1回の授業は指定クラスで受講すること **年次** 学部(学士課程): 1年次

選択 必修 **授業の方法** 講義、演習 **授業の特徴** PBL、能動的要素を加えた授業、グループ学習の要素を加えた授業、Moodle

担当教員 長濱文与、下村智子、守山紗弥加（教養教育機構）

授業の概要 グループでプロジェクト活動を実践する中で、三重大の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法などを体験的に学習し、大学生生活へのスムーズな移行をはかる

学習の目的

- ・ 主体的学習者としての自己認識、さまざまなコミュニティの構成員としての自己認識をもつ
- ・ 感じる力、考える力、コミュニケーション力、それらの統合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解し、実践する
- ・ グループ活動を通して4つの力の素養を習得する

学習の到達目標

- ・ 大学の教育目標（4つの力）の理解と、自発的な学習目標の設定
- ・ 学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得
- ・ グループによるプロジェクトの遂行と達成

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的

授業計画・学習の内容

キーワード 「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s) Four Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

- 第1回：導入、大学での学び
- 第2回：グループ活動の基本
- 第3回：アイデアの発想
- 第4回：情報の種類と特徴
- 第5回：具体的問いの設定

思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 教養ワークショップ

教科書 授業内で配布する

参考書 適宜、紹介する

成績評価方法と基準

個人の活動40%（各ワークシート、中間・最終の提出物等）、グループの活動60%（プロジェクトの評価、各ワークシート、グループ活動への取り組み姿勢等）
減点対象：遅刻・欠席、取り組み姿勢、課題の提出遅れ、など

オフィスアワー 各教員により異なるので、第1回授業で伝達する

授業改善への工夫 PBL形式、Moodleを活用し、授業を進めていく

第6回：具体的問いの吟味と情報収集

第7回：プロジェクトのピアレビュー

第8回：計画の立て方

第9回：情報の収集と整理

第10回：情報の吟味

第11回：アウトラインの構成

第12回：発表の方法

第13回：プロジェクトの発表と評価①

第14回：プロジェクトの発表と評価②

第15回：プロジェクト・授業全体のふり振り返り
全回で講義、グループでの話し合いを実施する。

学習課題（予習・復習） 毎回、次回授業に 向けての課題を設定する

スタートアップセミナー

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **開講時間** 火 5, 6 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. All students are required to attend the Japanese language startup seminar during the first week of classes (this class is only open starting the 2nd week, after the results from the TOEIC test). この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。一回目の授業は日本語でのスタートアップセミナーを受けること。この授業は二回目から開講され受講可能となる。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle **担当教員** ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

In this class, you will learn the "4 key abilities" of Mie University's educational goals through conducting group projects and achieve proper study methods through practice, as well as transition to life as a college student.

グループでプロジェクト活動を実践する中で、三重大学の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法を体験的に学習し、大学生活へのスムーズな移行を図る。

学習の目的

- ・ To understand your identity and sense of self as an individual, and also as a member of a larger community.
- ・ Practice and understand the meaning and significance of living ability through integration ability, which consists of feeling ability, thinking ability, and communication ability.
- ・ Achieve these 4 key abilities through conducting group work.
- ・ 主体的学習者としての自己認識、様々なコミュニティの構成員としての自己認識。
- ・ 感じる力、考える力、コミュニケーション力、これらの総合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解し実践する。
- ・ グループ活動を通して4つの力の素養を習得する。

学習の到達目標

- ・ Grasp the educational goals of the university (the 4 key abilities), and thereby establish your own educational goals.
- ・ Realize these educational goals by acquiring necessary study skills and methods.
- ・ Achieve these goals through the execution of group projects as part of a team.
- ・ 大学の教育目的（4つの力）の理解と、自発

的な学習目標の設定。

- ・ 学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得。
- ・ グループによるプロジェクトの遂行と達成。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.
無し。

予め履修が望ましい科目

None.
無し。

発展科目

Education Workshop (English Program)
教養ワークショップ「特別英語プログラム」

教科書

To be distributed in class.
授業内で配布する。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

Individual work: 40% (worksheets, midterm and final reports, etc.)
Group work: 60% (project evaluation, worksheets, active participation and involvement in

group activities, etc.)

個人の活動40%（各ワークシート、中間・最終の提出物等）、グループの活動60%（プロジェクトの評価、各ワークシート、グループ活動への取り組み姿勢等）。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ること。

授業改善への工夫

The class will involve the utilization of Moodle and PBL.

PBL形式、Moodleを活用し、授業を進めていく。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード

「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s)

4 Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

(Note: This course begins from session 2. You are REQUIRED to attend Session 1 of the Japanese Startup Seminar)

Session 2: Basics of group work

Session 3: Expressing your ideas

Session 4: Kinds and characteristics of information

Session 5: Formulating concrete hypotheses

Session 6: Researching and evaluating concrete hypotheses

Session 7: Peer review for projects

Session 8: Planning and scheduling

Session 9: Gathering and organizing evidence

Session 10: Evaluating evidence

Session 11: Constructing outlines

Session 12: Giving a presentation

Session 13: Final Project Presentations 1

Session 14: Final Project Presentations 2

Session 15: Class summary and review

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する

スタートアップセミナー

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **開講時間** 火7, 8 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. All students are required to attend the Japanese language startup seminar during the first week of classes (this class is only open starting the 2nd week, after the results from the TOEIC test). この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。一回目の授業は日本語でのスタートアップセミナーを受けること。この授業は二回目から開講され受講可能となる。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle **担当教員** ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

In this class, you will learn the "4 key abilities" of Mie University's educational goals through conducting group projects and achieve proper study methods through practice, as well as transition to life as a college student. グループでプロジェクト活動を実践する中で、三重大学の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法を体験的に学習し、大学生活へのスムーズな移行を図る。

学習の目的

- ・ To understand your identity and sense of self as an individual, and also as a member of a larger community.
- ・ Practice and understand the meaning and significance of living ability through integration ability, which consists of feeling ability, thinking ability, and communication ability.
- ・ Achieve these 4 key abilities through conducting group work.
- ・ 主体的学習者としての自己認識、様々なコミュニティの構成員としての自己認識。
- ・ 感じる力、考える力、コミュニケーション力、これらの総合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解し実践する。
- ・ グループ活動を通して4つの力の素養を習得する。

学習の到達目標

- ・ Grasp the educational goals of the university (the 4 key abilities), and thereby establish your own educational goals.
- ・ Realize these educational goals by acquiring necessary study skills and methods.
- ・ Achieve these goals through the execution of group projects as part of a team.
- ・ 大学の教育目的（4つの力）の理解と、自発

的な学習目標の設定。

- ・ 学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得。
- ・ グループによるプロジェクトの遂行と達成。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.
無し。

予め履修が望ましい科目

None.
無し。

発展科目

Education Workshop (English Program)
教養ワークショップ「特別英語プログラム」

教科書

To be distributed in class.
授業内で配布する。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

Individual work: 40% (worksheets, midterm and final reports, etc.)
Group work: 60% (project evaluation, worksheets, active participation and involvement in

group activities, etc.)

個人の活動40%（各ワークシート、中間・最終の提出物等）、グループの活動60%（プロジェクトの評価、各ワークシート、グループ活動への取り組み姿勢等）。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ること。

授業改善への工夫

The class will involve the utilization of Moodle and PBL.

PBL形式、Moodleを活用し、授業を進めていく。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード

「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s)

4 Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

(Note: This course begins from session 2. You are REQUIRED to attend Session 1 of the Japanese Startup Seminar)

Session 2: Basics of group work

Session 3: Expressing your ideas

Session 4: Kinds and characteristics of information

Session 5: Formulating concrete hypotheses

Session 6: Researching and evaluating concrete hypotheses

Session 7: Peer review for projects

Session 8: Planning and scheduling

Session 9: Gathering and organizing evidence

Session 10: Evaluating evidence

Session 11: Constructing outlines

Session 12: Giving a presentation

Session 13: Final Project Presentations 1

Session 14: Final Project Presentations 2

Session 15: Class summary and review

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する

スタートアップセミナー

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **開講時間** 火9, 10 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. All students are required to attend the Japanese language startup seminar during the first week of classes (this class is only open starting the 2nd week, after the results from the TOEIC test). この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。一回目の授業は日本語でのスタートアップセミナーを受けること。この授業は二回目から開講され受講可能となる。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle **担当教員** ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

In this class, you will learn the "4 key abilities" of Mie University's educational goals through conducting group projects and achieve proper study methods through practice, as well as transition to life as a college student. グループでプロジェクト活動を実践する中で、三重大学の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法を体験的に学習し、大学生活へのスムーズな移行を図る。

学習の目的

- ・ To understand your identity and sense of self as an individual, and also as a member of a larger community.
- ・ Practice and understand the meaning and significance of living ability through integration ability, which consists of feeling ability, thinking ability, and communication ability.
- ・ Achieve these 4 key abilities through conducting group work.
- ・ 主体的学習者としての自己認識、様々なコミュニティの構成員としての自己認識。
- ・ 感じる力、考える力、コミュニケーション力、これらの総合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解し実践する。
- ・ グループ活動を通して4つの力の素養を習得する。

学習の到達目標

- ・ Grasp the educational goals of the university (the 4 key abilities), and thereby establish your own educational goals.
- ・ Realize these educational goals by acquiring necessary study skills and methods.
- ・ Achieve these goals through the execution of group projects as part of a team.
- ・ 大学の教育目的（4つの力）の理解と、自発

的な学習目標の設定。

- ・ 学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得。
- ・ グループによるプロジェクトの遂行と達成。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.
無し。

予め履修が望ましい科目

None.
無し。

発展科目

Education Workshop (English Program)
教養ワークショップ「特別英語プログラム」

教科書

To be distributed in class.
授業内で配布する。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

Individual work: 40% (worksheets, midterm and final reports, etc.)
Group work: 60% (project evaluation, worksheets, active participation and involvement in

group activities, etc.)

個人の活動40%（各ワークシート、中間・最終の提出物等）、グループの活動60%（プロジェクトの評価、各ワークシート、グループ活動への取り組み姿勢等）。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ること。

授業改善への工夫

The class will involve the utilization of Moodle and PBL.

PBL形式、Moodleを活用し、授業を進めていく。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード

「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s)

4 Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

(Note: This course begins from session 2. You are REQUIRED to attend Session 1 of the Japanese Startup Seminar)

Session 2: Basics of group work

Session 3: Expressing your ideas

Session 4: Kinds and characteristics of information

Session 5: Formulating concrete hypotheses

Session 6: Researching and evaluating concrete hypotheses

Session 7: Peer review for projects

Session 8: Planning and scheduling

Session 9: Gathering and organizing evidence

Session 10: Evaluating evidence

Session 11: Constructing outlines

Session 12: Giving a presentation

Session 13: Final Project Presentations 1

Session 14: Final Project Presentations 2

Session 15: Class summary and review

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する

スタートアップセミナー 編入生・再履修生クラス

Startup seminar for collegiate learning

学期 前期 **開講時間** 水 11, 12 **単位** 2 **対象** スタートアップセミナー（または「4つの力」スタートアップセミナー）が卒業要件科目である学生で、まだ単位を修得していない学生 希望すれば、1年生対象のスタートアップセミナーを受講可能である **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選必修** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 長濱 文与、下村 智子、守山 紗弥加（教養教育機構）

授業の概要 三重大学の教育目標である「4つの力」や、大学での学習方法などを学び、大学生活へのスムーズな移行をはかる

学習の目的

- ・主体的学習者としての自己認識、さまざまなコミュニティの構成員としての自己認識をもつ
- ・感じる力、考える力、コミュニケーション力、それらの統合力としての生きる力（4つの力）の意義を理解する
- ・学習を通して4つの力の素養を習得する

学習の到達目標

- ・三重大学の教育目標「4つの力」の理解と、自発的な学習目標の設定
- ・学習目標を実現するための学習スキル・学習方法の習得

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的

思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 スタートアップセミナー（または「4つの力」スタートアップセミナー）が卒業要件科目である学生で、まだ単位を修得していない2年生以上の学生

教科書 授業内で配布する

参考書 適宜、紹介する

成績評価方法と基準 提出物60%、取り組み姿勢（提出物の期限、教員とのやり取りにおけるマナー、など）40%

オフィスアワー 第1回授業時に伝達する

その他 教育学部生で、分野を人文分野または自然分野で履修する学生は、事前に教養教育事務室に申し出ること。

授業計画・学習の内容

キーワード 「4つの力」の意義の理解・素養の習得、主体的学習者としての準備、アカデミックスキル

Key Word(s) Four Key Abilities, Independent Learning, Academic Skills

学習内容

第1回：ガイダンス

第2回～第15回：課題作成に向けたグループ・個別指導

教養ワークショップ

workshop for liberal arts

学期 後期 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴

能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 各教員 (教養教育機構)

授業の概要 教員のファシリテーションの下、半期で新書(基本的に論説文)を一冊以上読んで、書評を書く。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、スタートアップセミナーで培ったグループ学習も取り入れる。1クラスは30名程度とし、5~6グループにわけられる。学生は読書シートを作成しつつ本を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレビューをグループで行う。

学習の目的 図書や文献を読むこと、文章を作成することは、情報収集、情報発信の一般的な形態、自律的・能動的学習力の基盤となる「読む」「書く」能力を育成することを目的とする。前期のスタートアップセミナーで培った「聞く」「話す」能力と統合し、知的コミュニケーション力の獲得を目指す。

学習の到達目標 新書を読み切り、内容を相手に伝えられる。内容をまとめ自分の意見を付加し、書評を書くことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総

合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー

教科書 書評を書くための新書(論説文)は、教員が推薦する課題図書のリスト(学生も新規に推薦可)の中から教員が指定、あるいは、学生間の協議・ビブリオバトルなどによって選択する。新書であっても、実用書(ハウツーもの)や自己啓発書は避ける。

参考書 適宜、紹介する。

成績評価方法と基準 グループ学習への参加・課題(読書シート・書評など)の提出60%、グループ学習への貢献度・提出物の内容など40%を総合的に評価する。書評の作成において剽窃、盗用などの不正があれば単位を認めない。

オフィスアワー 各教員により異なるので、第1回授業で伝達する。

その他 各回の順序、内容については、教員により一部異なることがあるので留意すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 読解、文書作成、論理的思考、情報リテラシー

Key Word(s) reading, writing, logical thinking, information literacy

学習内容

- 第1回: ガイダンス・班分け・自己紹介
- 第2回: 授業の背景、レポートの書き方
- 第3回: 書評とは、新書とは
- 第4回: 主題の把握
- 第5回: 要約の仕方
- 第6回: 批判的読解

第7回: 書評を書くための新書の選定

第8回: 読書計画の立案

第9回: 読みあわせと書評作成1

第10回: 読みあわせと書評作成2

第11回: 読みあわせと書評作成3

第12回: 書評の作成

第13回: 書評の校正

第14回: 書評の評価・査読

第15回: 総括・アンケート

学習課題(予習・復習) 各自が新書を読む際には、読書シートを記載する。毎回、次回授業に向けての課題を各教員が指定する。

教養ワークショップ「特別英語プログラム」

Education Workshop (English Program)

学期 後期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選必修** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

Students will read recent publications (essentially academic publications) and write reviews of those readings under the guidance of the instructor. In addition to reading comprehension, summaries, and related writing tasks, the class will also include group learning cultivated in the startup seminar from the spring semester. Students will fill in review sheets on assigned readings and carry out peer review of each other's review sheets through discussion. 教員のファシリテーションの下、半期で新書(基本的に論説文)を読んで、書評を書く。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、スタートアップセミナーで培ったグループ学習も取り入れる。学生は読書シートを作成しつつ新書を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレビューをグループで行う。

学習の目的

Students will improve their abilities in reading and writing through reading publications in English, writing in English, gathering information, and reviews of information founded on individual and self-motivated study. Students will also acquire abilities in intellectual discussion coupled with the synthesis of the listening and speaking abilities developed in the spring semester startup seminar.

英語で文献を読むこと、英語で文章を作成することは、情報収集、情報発言の一般的な形態、自律的・能動的学習力の基盤となる「読む」「書く」能力を育成する事を目的とする。前期のスタートアップセミナーで培った「聞く」「話す」能力と統合し、知的コミュニケーション力の獲得を目指す。

学習の到達目標

Upon completing a reading in English, you will be able to convey the content and nature of

that reading to others using English. You will also learn to discuss your own opinions and give commentary on your summaries, as well as write reviews of publications, all using the English language.

新書を読み切り、内容を相手に伝えられる。内容をまとめ自分の意見を付加し、書評を書くことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.

無し。

予め履修が望ましい科目

Startup Seminar

スタートアップセミナー

教科書

Recently published readings will be selected either from a list of suggested readings (students can also suggest readings) by the instructor, or by some other method such as bibliobattle. However, recent publications that are manuals (such as how-to instructions, etc.) will not be considered appropriate.

書評を書くための新書(論説文)は、推薦する新書(学生も新規に推薦可)の中から指定、或いはビブリオバトル等によって選択する。新書であっても、実用書(ハウツー物)や自己啓発書は避ける。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

・ Group participation and submission of assignments (reading sheets, peer evaluations, etc.): 60%

・ Content and quality of contribution to group activities and submitted assignments: 40%

・ However, no credit will be given for copying, plagiarism, or theft.

グループ学習への参加・課題（読書シート・書評等）の提出：60%グループ学習への貢献度・提出物の内容等40%を総合的に評価す

授業計画・学習の内容

キーワード 読解、文書作成、論理的思考、情報リテラシー

Key Word(s) Reading, writing, logical thinking, information literacy

学習内容

Session 1: Introduction and Orientation

Session 2: Basics of writing reports

Session 3: Book reviews, readings

Session 4: Understanding main ideas

Session 5: Summaries

Session 6: Critical reading

Session 7: Selecting a reading for reviewing

Session 8: Reading schedule draft

Session 9: Reading and reviewing 1

Session 10: Reading and reviewing 2

Session 11: Reading and reviewing 3

Session 12: Writing your review

Session 13: Proofreading and editing

Session 14: Review evaluation and peer review

Session 15: Wrap-up and questionnaire

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

る。書評の作成において剽窃、盗用等の不正があれば単位を認めない。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ることに。

その他

Please bear in mind that some details of the course may change as needed/appropriate. Additionally, all readings and classroom instruction are conducted in English.

各回の順序、内容について修正が入ることがあるので留意すること。その上、読み物や講義中の活動は英語のみ。

第一回：ガイダンス・班分け・自己紹介

第二回：授業の背景、レポートの書き方

第三回：書評とは、新書とは

第四回：主題の把握

第五回：要約の仕方

第六回：批判的読解

第七回：書評を書くための新書の選定

第八回：読書計画の立案

第九回：読み合わせと書評作成1

第十回：読み合わせと書評作成2

第十一回：読み合わせと書評作成3

第十二回：書評の作成

第十三回：書評の校正

第十四回：書評の評価・査読

第十五回：総括・アンケート

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each student will record the readings they read on the reading sheet. Each session, homework due the following session will be assigned.

各自が新書を読む際には、読書シートを記載する。毎回、次回授業に向けての課題を指定する。

教養ワークショップ「特別英語プログラム」

Education Workshop (English Program)

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher. この授業はTOEIC600点以上の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選必修** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

Students will read recent publications (essentially academic publications) and write reviews of those readings under the guidance of the instructor. In addition to reading comprehension, summaries, and related writing tasks, the class will also include group learning cultivated in the startup seminar from the spring semester. Students will fill in review sheets on assigned readings and carry out peer review of each other's review sheets through discussion. 教員のファシリテーションの下、半期で新書(基本的に論説文)を読んで、書評を書く。文章の読解、要約、作成に関する解説に加え、スタートアップセミナーで培ったグループ学習も取り入れる。学生は読書シートを作成しつつ新書を読み、読書シートに基づく討論や書評のピアレビューをグループで行う。

学習の目的

Students will improve their abilities in reading and writing through reading publications in English, writing in English, gathering information, and reviews of information founded on individual and self-motivated study. Students will also acquire abilities in intellectual discussion coupled with the synthesis of the listening and speaking abilities developed in the spring semester startup seminar.

英語で文献を読むこと、英語で文章を作成することは、情報収集、情報発言の一般的な形態、自律的・能動的学習力の基盤となる「読む」「書く」能力を育成する事を目的とする。前期のスタートアップセミナーで培った「聞く」「話す」能力と統合し、知的コミュニケーション力の獲得を目指す。

学習の到達目標

Upon completing a reading in English, you will be able to convey the content and nature of

that reading to others using English. You will also learn to discuss your own opinions and give commentary on your summaries, as well as write reviews of publications, all using the English language.

新書を読み切り、内容を相手に伝えられる。内容をまとめ自分の意見を付加し、書評を書くことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

None.

無し。

予め履修が望ましい科目

Startup Seminar

スタートアップセミナー

教科書

Recently published readings will be selected either from a list of suggested readings (students can also suggest readings) by the instructor, or by some other method such as bibliobattle. However, recent publications that are manuals (such as how-to instructions, etc.) will not be considered appropriate.

書評を書くための新書(論説文)は、推薦する新書(学生も新規に推薦可)の中から指定、或いはビブリオバトル等によって選択する。新書であっても、実用書(ハウツー物)や自己啓発書は避ける。

参考書

To be introduced in class, as appropriate.
適宜、紹介する。

成績評価方法と基準

・ Group participation and submission of assignments (reading sheets, peer evaluations, etc.): 60%

・ Content and quality of contribution to group activities and submitted assignments: 40%

・ However, no credit will be given for copying, plagiarism, or theft.

グループ学習への参加・課題（読書シート・書評等）の提出：60%グループ学習への貢献度・提出物の内容等40%を総合的に評価す

授業計画・学習の内容

キーワード 読解、文書作成、論理的思考、情報リテラシー

Key Word(s) Reading, writing, logical thinking, information literacy

学習内容

Session 1: Introduction and Orientation

Session 2: Basics of writing reports

Session 3: Book reviews, readings

Session 4: Understanding main ideas

Session 5: Summaries

Session 6: Critical reading

Session 7: Selecting a reading for reviewing

Session 8: Reading schedule draft

Session 9: Reading and reviewing 1

Session 10: Reading and reviewing 2

Session 11: Reading and reviewing 3

Session 12: Writing your review

Session 13: Proofreading and editing

Session 14: Review evaluation and peer review

Session 15: Wrap-up and questionnaire

All students are expected and required to actively participate in group discussions in English only.

る。書評の作成において剽窃、盗用等の不正があれば単位を認めない。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ることに。

その他

Please bear in mind that some details of the course may change as needed/appropriate. Additionally, all readings and classroom instruction are conducted in English.

各回の順序、内容について修正が入ることがあるので留意すること。その上、読み物や講義中の活動は英語のみ。

第一回：ガイダンス・班分け・自己紹介

第二回：授業の背景、レポートの書き方

第三回：書評とは、新書とは

第四回：主題の把握

第五回：要約の仕方

第六回：批判的読解

第七回：書評を書くための新書の選定

第八回：読書計画の立案

第九回：読み合わせと書評作成1

第十回：読み合わせと書評作成2

第十一回：読み合わせと書評作成3

第十二回：書評の作成

第十三回：書評の校正

第十四回：書評の評価・査読

第十五回：総括・アンケート

全回で講義、英語でグループでの話し合いを実施する

学習課題（予習・復習）

Each student will record the readings they read on the reading sheet. Each session, homework due the following session will be assigned.

各自が新書を読む際には、読書シートを記載する。毎回、次回授業に向けての課題を指定する。

英語I TOEIC

English I TOEIC

学期 前期 **開講時間** 火5, 6, 7, 8, 9, 10 **単位** 1 **対象** 1年生は、指定されたクラスにて受講してください。編入生および再履修が必要な2年生以上の学生は、再履修クラスにて受講してください。**年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づき習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 専用の教科書および語学e-learningシステムを用いて、TOEICにおいて高得点を取得できる英語力を身につけます。

学習の目的

[1] TOEICの各パートの練習問題に取り組み、問題の形式を理解し、必要な英語力を身につけます。

[2] TOEICの各パートにおける頻出の英語表現を確認し、理解・聴解の練習を重ね、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標

[1] TOEICにおいて、入学時よりも高い得点を取得するための英語力を身につけます。
(1年次の最低ラインは400点です。)

[2] TOEICにおいて高得点を目指すためにはどのパートを伸ばす必要があるか、把握できるようになります。

本学教育目標との関連 主体的学習力、実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

4月に行われるプレースメントテスト(TOEIC IPテスト)を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲

示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級

英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展E TOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。

中級クラス: Step-by-Step for the TOEIC Test (Step 2: Intermediate course) アルク

初級クラス: Step-by-Step for the TOEIC Test (Step 1: Basic course) アルク

成績評価方法と基準

授業の評価と7月末に受験するTOEIC IPテストのスコアに基づいて、成績が決まります。

授業の評価基準

[1] 語学e-learningシステムに基づく小テスト 50%

[2] 教科書に基づく期末テスト 50%

計100% 合計が60%以上で「合格」となります。

授業で「合格」を取得し、かつ7月末に実施されるTOEIC IPテストで400点以上を取得することにより単位が認定されます。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容 具体的な進め方に関しては、初回の授業において各担当教員から説明があります。

学習課題 (予習・復習)

毎授業において、「語学e-learningシステム」

に基づく小テストが実施されるので、「語学e-learningシステム」を用いて学習を行ってください。

各回の小テストの範囲は、初回の授業において配布される「英語 I TOEIC 履修マニュアル」で確認しておいてください。

英語I TOEIC

English I TOEIC

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10 **単位** 1 **対象** 1年生は、指定されたクラスにて受講してください。編入生および再履修が必要な2年生以上の学生は、再履修クラスにて受講してください。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づき習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 専用の教科書および語学e-learningシステムを用いて、TOEICにおいて高得点を取得できる英語力を身につけます。

学習の目的

[1] TOEICの各パートの練習問題に取り組み、問題の形式を理解し、必要な英語力を身につけます。

[2] TOEICの各パートにおける頻出の英語表現を確認し、理解・聴解の練習を重ね、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標

[1] TOEICにおいて、入学時よりも高い得点を取得するための英語力を身につけます。
(1年次の最低ラインは400点です。)

[2] TOEICにおいて高得点を目指すためにはどのパートを伸ばす必要があるか、把握できるようになります。

本学教育目標との関連 主体的学習力、実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲

示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級

英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展E TOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。

中級クラス: Step-by-Step for the TOEIC Test (Step 2: Intermediate course) アルク

初級クラス: Step-by-Step for the TOEIC Test (Step 1: Basic course) アルク

成績評価方法と基準

授業の評価と7月末に受験するTOEIC IPテストのスコアに基づいて、成績が決まります。

授業の評価基準

[1] 語学e-learningシステムに基づく小テスト 50%

[2] 教科書に基づく期末テスト 50%

計100% 合計が60%以上で「合格」となります。

授業で「合格」を取得し、かつ7月末に実施されるTOEIC IPテストで400点以上を取得することにより単位が認定されます。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容 具体的な進め方に関しては、初回の授業において各担当教員から説明があります。

学習課題 (予習・復習)

毎授業において、「語学e-learningシステム」

に基づく小テストが実施されるので、「語学e-learningシステム」を用いて学習を行ってください。

各回の小テストの範囲は、初回の授業において配布される「英語 I TOEIC 履修マニュアル」で確認しておいてください。

英語 I 大学基礎

English I Reading

学期 前期 **開講時間** 月 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8; 水 1, 2, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **対象** 1年生は、指定されたクラスにて受講してください。編入生および再履修が必要な2年生以上の学生は、再履修クラスにて受講してください。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 大学レベルの英語文献を読むために必要となる読解力・文法力の基礎を身につけることを目的とします。習熟度別に編成された50人規模のクラスにおいて、英文を正確に理解する力を育てます。

学習の目的

- [1] 大学において専門的文献を英語で読む際に必要となる読解力を身につけます。
- [2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を確認し、それらを実際に使えるようになることを目指します。
- [3] TOEICのリーディングパートにおいて高得点を取る力を身につけます。

学習の到達目標

- [1] ある程度の長さの英文を、辞書なしでも理解できる力を身につけます。
- [2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を用いて、ある程度の長さの英文を書ける力を身につけます。
- [3] TOEICのリーディングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるための読解力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

授業計画・学習の内容

キーワード 英語リーディング・英文法

学習内容 初回の授業において各担当教員から説明があります。

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級
英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展ETOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。
中級クラス：Reading Fusion 2 (南雲堂)
初級クラス：Reading Fusion 1 (南雲堂)

成績評価方法と基準

授業で与えられた課題・小テスト・期末テストなどに基づき、総合的に評価します。具体的な基準は、各教員が初回の授業において説明します。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

学習課題 (予習・復習) 初回の授業において各担当教員から説明があります。

英語 I 大学基礎

English I Reading

学期 後期 **開講時間** 月 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8; 水 1, 2, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **対象** 1年生は、指定されたクラスにて受講してください。編入生および再履修が必要な2年生以上の学生は、再履修クラスにて受講してください。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 大学レベルの英語文献を読むために必要となる読解力・文法力の基礎を身につけることを目的とします。習熟度別に編成された50人規模のクラスにおいて、英文を正確に理解する力を育てます。

学習の目的

- [1] 大学において専門的文献を英語で読む際に必要となる読解力を身につけます。
- [2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を確認し、それらを実際に使えるようになることを目指します。
- [3] TOEICのリーディングパートにおいて高得点を取る力を身につけます。

学習の到達目標

- [1] ある程度の長さの英文を、辞書なしでも理解できる力を身につけます。
- [2] 基本的な英文法の知識・英語の語彙を用いて、ある程度の長さの英文を書ける力を身につけます。
- [3] TOEICのリーディングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるための読解力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

授業計画・学習の内容

キーワード 英語リーディング・英文法

学習内容 初回の授業において各担当教員から説明があります。

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級
英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展ETOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。
中級クラス：Reading Fusion 2 (南雲堂)
初級クラス：Reading Fusion 1 (南雲堂)

成績評価方法と基準

授業で与えられた課題・小テスト・期末テストなどに基づき、総合的に評価します。具体的な基準は、各教員が初回の授業において説明します。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

学習課題 (予習・復習) 初回の授業において各担当教員から説明があります。

英語I コミュニケーション

English I Communication

学期 前期 開講時間 水 1, 2, 3, 4; 金 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 英語を話す力・聞く力を中心に、英語のコミュニケーション能力をバランスよく養成することを目的とします。習熟度別に編成された35人規模のクラスにおいて、英語のスピーキング・リスニングの練習を行い、必要な表現を身につけます。

学習の目的

- [1] 英語での基本的な日常会話を行うことができるスピーキング力を身につけます。
- [2] 自然なスピードで話されている英語を正確に聞き取って理解することができるリスニング力を身につけます。
- [3] TOEICのリスニングパートにおいて高得点を取る力を身につけます。

学習の到達目標

- [1] 英語での基本的な日常会話に必要な英語表現に関する知識を身につけます。
- [2] 自然なスピードで話されている英語を聞き取り、主な内容を把握できるようになります。
- [3] TOEICのリスニングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるためのリスニング力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

授業計画・学習の内容

キーワード 英語によるコミュニケーション

学習内容 初回の授業において各担当教員から説明があります。

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級
英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展E TOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。
中級クラス： Interchange 3 (Cambridge)
初級クラス： Interchange 2 (Cambridge)

成績評価方法と基準

授業で与えられた課題・小テスト・期末テストなどに基づき、総合的に評価します。具体的な基準は、各教員が初回の授業において説明します。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

学習課題 (予習・復習) 初回の授業において各担当教員から説明があります。

英語I コミュニケーション

English I Communication

学期 後期 開講時間 水 1, 2, 3, 4; 金 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 1年生に関しては、入学時のIPテストの結果に基づいて習熟度別クラス分けが行われ、担当教員が決定します。

授業の概要 英語を話す力・聞く力を中心に、英語のコミュニケーション能力をバランスよく養成することを目的とします。習熟度別に編成された35人規模のクラスにおいて、英語のスピーキング・リスニングの練習を行い、必要な表現を身につけます。

学習の目的

- [1] 英語での基本的な日常会話を行うことができるスピーキング力を身につけます。
- [2] 自然なスピードで話されている英語を正確に聞き取って理解することができるリスニング力を身につけます。
- [3] TOEICのリスニングパートにおいて高得点を取る力を身につけます。

学習の到達目標

- [1] 英語での基本的な日常会話に必要な英語表現に関する知識を身につけます。
- [2] 自然なスピードで話されている英語を聞き取り、主な内容を把握できるようになります。
- [3] TOEICのリスニングパートに関して、入学時よりも高い点数が取れるようになるためのリスニング力を養います。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件

(新入生に関する注意)

授業計画・学習の内容

キーワード 英語によるコミュニケーション

学習内容 初回の授業において各担当教員から説明があります。

4月に行われるプレースメントテスト (TOEIC IPテスト) を必ず受験してください。第1回目の授業は学籍番号に基づく仮クラス編成で行われますので、「履修案内」にて自分のクラスを確認してください。第2回目の授業以降は、プレースメントテストの結果に基づく習熟度別クラスとなります。自分のクラスを掲示にて確認してください。

発展科目

英語II発展Aaプレゼンテーション初級、英語II発展Abプレゼンテーション中級
英語II発展Bリーディング&ディスカッション
英語II発展Cライティング、英語II発展Dビジネスイングリッシュ、英語II発展E TOEIC受験対策

教科書

以下の教科書を必ず購入してください。
中級クラス： Interchange 3 (Cambridge)
初級クラス： Interchange 2 (Cambridge)

成績評価方法と基準

授業で与えられた課題・小テスト・期末テストなどに基づき、総合的に評価します。具体的な基準は、各教員が初回の授業において説明します。

オフィスアワー 各担当教員に確認してください。

学習課題 (予習・復習) 初回の授業において各担当教員から説明があります。

英語 II 発展Aa

English II Advanced Aa

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course teaches basic principles and methods of presentations in English.

学習の目的 Students will learn to effectively present on a variety of topics in English

学習の到達目標 Students will develop English presentation skills, including presentation structure, eye contact and body language, and some basic rhetorical techniques.

本学教育目標との関連モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

教科書 Hood, Michael (2007).Dynamic Presentations.ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and presentations.

オフィスアワー By appointment

授業改善への工夫 All readings and classroom instruction are conducted in English

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English

授業計画・学習の内容

学習内容

Class Schedule:

[First Semester]

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation

Session 6-7: Transitions

Session 8-9: Audience Analysis

Session 10-11: Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons

Session 14-15: Final Presentations

学習課題（予習・復習） Students will prepare short presentations on various topics, focusing on different skills as they are covered in the course

英語 II 発展Aa

English II Advanced Aa

学期 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course teaches basic principles and methods of presentations in English

学習の目的 Students will learn to effectively present on a variety of topics in English

学習の到達目標 Students will develop English presentation skills, including presentation structure, eye contact and body language, and some basic rhetorical techniques.

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

教科書 Hood, Michael (2007). Dynamic Presentations. ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and presentations.

オフィスアワー By appointment

授業改善への工夫 All readings and classroom instruction are conducted in English

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English

授業計画・学習の内容

学習内容

Class Schedule:

[First Semester]

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation

Session 6-7: Transitions

Session 8-9: Audience Analysis

Session 10-11: Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons

Session 14-15: Final Presentations

学習課題（予習・復習） Students will prepare short presentations on various topics, focusing on different skills as they are covered in the course.

英語 II 発展Aa

English II Advanced Aa

学期 前期 **開講時間** 金 1, 2 **単位** 1 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher, or those who have 2 credits of TOEIC. この授業はTOEIC600点以上の学生、TOEICの2単位の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選択** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ジャスティン・ポッフマイア

授業の概要 You will learn to effectively present on a variety of topics in English, using various presentation skills and methods learned in class.

学習の目的

- effective eye contact and body language
- structure and organization
- understanding of the audience
- analysis of information and evidence
- integration of the above techniques into a cohesive and compelling presentation

学習の到達目標

- Gain confidence in English speaking ability
- Attain confidence for public speaking
- Develop a better understanding of others through audience analysis
- Acquire necessary skills for further improving presentations

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベー

授業計画・学習の内容

キーワード プレゼンテーション、英語、スピーキング、スピーチ

Key Word(s) presentations, English, speaking, speeches

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation and Transitions

Session 6-7: Audience Analysis

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

受講要件

For students who have attained a score of 600 or higher on the TOEIC, or those students with 2 credits of TOEIC.

TOEICで600点以上、TOEICの2単位の学生のみ。

教科書 Hood, Michael(2007).Dynamic Presentations.ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and in-class presentations.

オフィスアワー By appointment.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion and Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons, and Handling Questions

Session 14-15: Final Presentations

The schedule is subject to change depending on students' needs.

学習課題 (予習・復習) Each session, homework due the following session will be assigned.Short presentations will often be assigned.

英語 II 発展Ab

English II Advanced Ab

学期 後期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course teaches basic principles and methods of presentations in English.

学習の目的 Students will learn to effectively present on a variety of topics in English.

学習の到達目標 Students will develop English presentation skills, including presentation structure, eye contact and body language, and some basic rhetorical techniques.

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

教科書 Hood, Michael (2007). Dynamic Presentations. ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and presentations.

オフィスアワー By appointment

授業改善への工夫 All readings and classroom instruction are conducted in English.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

授業計画・学習の内容

学習内容

Class Schedule:

[Second Semester]

Session 1: Orientation

Session 2-3: Organization Patterns I and Using Examples

Session 4-5: Organization Patterns II and Evaluating Evidence

Session 6-7: Persuasion I

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion II

Session 12-13: Handling Questions and Impromptu Speaking

Session 14-15: Final Presentations

学習課題（予習・復習） Students will prepare short presentations on various topics, focusing on different skills as they are covered in the course.

英語 II 発展Ab

English II Advanced Ab

学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 カバラ・トーマス

授業の概要 The course teaches basic principles and methods of presentations in English.

学習の目的 Students will learn to effectively present on a variety of topics in English.

学習の到達目標 Students will develop English presentation skills, including presentation structure, eye contact and body language, and some basic rhetorical techniques.

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

教科書 Hood, Michael (2007). Dynamic Presentations. ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation, in-class participation, and presentations

オフィスアワー By appointment

授業改善への工夫 All readings and classroom instruction are conducted in English.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

授業計画・学習の内容

学習内容

Class Schedule:

[Second Semester]

Session 1: Orientation

Session 2-3: Organization Patterns I and Using Examples

Session 4-5: Organization Patterns II and Evaluating Evidence

Session 6-7: Persuasion I

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion II

Session 12-13: Handling Questions and Impromptu Speaking

Session 14-15: Final Presentations

学習課題（予習・復習） Students will prepare short presentations on various topics, focusing on different skills as they are covered in the course.

英語 II 発展Ab

English II Advanced Ab

学期 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 1 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher, or those who have 2 credits of TOEIC. この授業はTOEIC600点以上の学生、TOEICの2単位の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ジャスティン・ポッフマイア

授業の概要 You will learn to effectively present on a variety of topics in English, using various presentation skills and methods learned in class.

学習の目的

- effective eye contact and body language
- structure and organization
- understanding of the audience
- analysis of information and evidence
- integration of the above techniques into a cohesive and compelling presentation

学習の到達目標

- Gain confidence in English speaking ability
- Attain confidence for public speaking
- Develop a better understanding of others through audience analysis
- Acquire necessary skills for further improving presentations

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベー

授業計画・学習の内容

キーワード プレゼンテーション、英語、スピーキング、スピーチ

Key Word(s) presentations, English, speaking, speeches

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation and Transitions

Session 6-7: Audience Analysis

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

受講要件

For students who have attained a score of 600 or higher on the TOEIC, or those students with 2 credits of TOEIC.

TOEICで600点以上、TOEICの2単位の学生のみ。

教科書 Hood, Michael(2007).Dynamic Presentations.ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and in-class presentations.

オフィスアワー By appointment.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion and Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons, and Handling Questions

Session 14-15: Final Presentations

The schedule is subject to change depending on students' needs.

学習課題 (予習・復習) Each session, homework due the following session will be assigned.Short presentations will often be assigned.

英語 II 発展Ab

English II Advanced Ab

学期 後期 **開講時間** 金 1, 2 **単位** 1 **対象** This class is limited to students with a TOEIC score of 600 or higher, or those who have 2 credits of TOEIC. この授業はTOEIC600点以上の学生、TOEICの2単位の学生に限られている。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選択** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ジャスティン・ポッフマイア

授業の概要 You will learn to effectively present on a variety of topics in English, using various presentation skills and methods learned in class.

学習の目的

- effective eye contact and body language
- structure and organization
- understanding of the audience
- analysis of information and evidence
- integration of the above techniques into a cohesive and compelling presentation

学習の到達目標

- Gain confidence in English speaking ability
- Attain confidence for public speaking
- Develop a better understanding of others through audience analysis
- Acquire necessary skills for further improving presentations

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベー

授業計画・学習の内容

キーワード プレゼンテーション、英語、スピーキング、スピーチ

Key Word(s) presentations, English, speaking, speeches

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2-3: Presentation Basics and Body Language

Session 4-5: Structuring a Presentation and Transitions

Session 6-7: Audience Analysis

ション, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 実践外国語力

受講要件

For students who have attained a score of 600 or higher on the TOEIC, or those students with 2 credits of TOEIC.

TOEICで600点以上、TOEICの2単位の学生のみ。

教科書 Hood, Michael(2007).Dynamic Presentations.ISBN 978-4-342-54970-0

成績評価方法と基準 Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and in-class presentations.

オフィスアワー By appointment.

その他 All readings and classroom instruction are conducted in English.

Session 8-9: Visual Aids and Statistics

Session 10-11: Persuasion and Selecting Facts/Opinions

Session 12-13: Explaining Causes, Effects, and Reasons, and Handling Questions

Session 14-15: Final Presentations

The schedule is subject to change depending on students' needs.

学習課題 (予習・復習) Each session, homework due the following session will be assigned.Short presentations will often be assigned.

英語II発展B

English II Advanced B (Reading & Discussion)

学期 前期 **開講時間** 火5,6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業
担当教員 トーマス デール

授業の概要 In this course, students will learn how to improve their reading, listening, speaking and critical thinking skills. We will accomplish this by reading various types of text, listening to recorded materials and to each other (including lectures from the teacher), and by discussing our thoughts and opinions.

学習の目的 Being able to gain information from written text and aural/visual media, add your own thoughts to it and present these thoughts to a wider audience orally is not only a challenging and rewarding experience, but an important set of skills to possess. Therefore, it is the aim of this class to help you become better readers, listeners, speakers and thinkers in English.

学習の到達目標 Students will be given the chance to improve their reading, listening, speaking and thinking skills by practicing them extensively. The goal is to have students be ready to give their thoughts at a moments notice (impromptu speaking) and prepare to give thoughtful answers that are backed by facts when given more time (debate). Therefore, students will work both by themselves and with each other. Quizzes will cover reading and listening comprehension. There will also be two tests and a final exam which we will discuss in class.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 All students taking this course as a minimum should have passed Eiken Pre 2 or

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、読み、聞き、話、批判的思考 (クリティカル・シンキング)

Key Word(s) English, reading, listening,

have the following certifications/scores: CEFR B1, TOEIC 400, IELTS 4.0, TOEFL ITP 460, TOEFL IBT 86, or PET

教科書 Text Books: 1) Face the Issues: Intermediate Listening and Critical Thinking Skills, Third Edition (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199218-4); 2) Face the Issues: Intermediate Listening and Critical Thinking Skills, Third Edition, Answer Key and Audioscript (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199219-8) Audio CD: 1) Face the Issues, Third Edition, Audio CD (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199220-1)

参考書 Supplemental material will be provided by the teacher. *OPTIONAL: 1) An A - Z of Common English Errors for Japanese Learners (Japanese version, by David Barker, ISBN: 978-4990415150); 2) Critical Thinking Skills: Developing Effective Analysis and Argument (by Stella Cottrell, ISBN: 978-0230285293)

成績評価方法と基準 Class Participation (this includes class attendance): 25%; Individual Presentation: 10%; Group Presentation: 10%; Vocabulary, Reading and Listening Comprehension Quizzes: 30% (three quizzes, 10% each); Final Exam: 25%

オフィスアワー All meetings by appointment. At Mie University's campus on Tuesdays from 9:15 - 12:30, 16:15-20:00.

その他 It is vital that students be willing to speaking in class, both to others and in front of others. Willingness to do the readings and other assignments are a must! It also helps a great deal if you have a sense of humor!

speaking, critical thinking, discussing, impromptu, individual presentation, prepare, conversation, debate, group presentation,

communication

学習内容

Week 1: Introductions, syllabus review, course information, needs analysis, first reading and discussion practice

Weeks 2-6: Chapters 1 and 2, quiz on week 4, individual presentation/test on week 6

Weeks 7-12: Chapters 3, 7, and 8, quiz on week 9, group presentation/test on week 12

Weeks 13-15: Chapters 10, 11 and 12, last quiz on week 15

Week 16: Final exam

学習課題 (予習・復習) Course requirements (homework, quizzes, and tests) will

include: 1) Reading assigned chapters and other supplemental material; 2) Practicing impromptu skills outside of class; 3) Preparing for group presentations/debates; 4) Practicing vocabulary, reading and listening outside of class for quiz preparation; 5) Three vocabulary, reading and listening comprehension quizzes; 6) One individual presentation on a topic of your choice with the order of presentation decided by drawing lots; 7) One prepared group presentation/debate with the order of presentation decided by drawing lots; 8) One final exam that includes vocabulary, reading and listening comprehension; *NOTE: Writing notebooks, pencils and erasers are a must!

英語II発展B

English II Advanced B (Reading & Discussion)

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習
担当教員 トーマス デール

授業の概要 In this course, students will learn how to improve their reading, listening, speaking and critical thinking skills. We will accomplish this by reading various types of text, listening to recorded materials and to each other (including lectures from the teacher), and by discussing our thoughts and opinions.

学習の目的 Being able to gain information from written text and aural/visual media, add your own thoughts to it and present these thoughts to a wider audience orally is not only a challenging and rewarding experience, but an important set of skills to possess. Therefore, it is the aim of this class to help you become better readers, listeners, speakers and thinkers in English.

学習の到達目標 Students will be given the chance to improve their reading, listening, speaking and thinking skills by practicing them extensively. The goal is to have students be ready to give their thoughts at a moments notice (impromptu speaking) and prepare to give thoughtful answers that are backed by facts when given more time (debate). Therefore, students will work both by themselves and with each other. Quizzes will cover reading and listening comprehension and vocabulary. There will also be two presentation tests and a final exam, which we will discuss in class.

本学教育目標との関連 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 All students taking this course as a minimum should have passed Eiken Pre 2 or

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、読み、聞き、話、批判的思考 (クリティカル・シンキング)

Key Word(s) English, reading, listening,

have the following certifications/scores: CEFR B1, TOEIC 400, IELTS 4.0, TOEFL ITP 460, TOEFL IBT 86, or PET

教科書 Text Books: 1) Face the Issues: Intermediate Listening and Critical Thinking Skills, Third Edition (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199218-4); 2) Face the Issues: Intermediate Listening and Critical Thinking Skills, Third Edition, Answer Key and Audioscript (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199219-8) Audio CD: 1) Face the Issues, Third Edition, Audio CD (by Carol Numrich, ISBN: 0-13-199220-1)

参考書 Supplemental material will be provided by the teacher. *OPTIONAL: 1) An A - Z of Common English Errors for Japanese Learners (Japanese version, by David Barker, ISBN: 978-4990415150); 2) Critical Thinking Skills: Developing Effective Analysis and Argument (by Stella Cottrell, ISBN: 978-0230285293)

成績評価方法と基準 Class Participation (this includes class attendance): 25%; Individual Presentation: 10%; Group Presentation: 10%; Vocabulary, Reading and Listening Comprehension Quizzes: 30% (three quizzes, 10% each); Final Exam: 25%

オフィスアワー All meetings by appointment. At Mie University's campus on Tuesdays from 9:15 - 12:30, 16:15-20:00.

その他 It is vital that students be willing to speak in class, both to others and in front of others. Willingness to do the readings and other assignments are a must! It also helps a great deal if you have a sense of humor!

speaking, critical thinking, discussing, impromptu, individual presentation, prepare, conversation, debate, group presentation,

communication

学習内容

Week 1: Introductions, syllabus review, course information, needs analysis, first reading and discussion practice

Weeks 2-6: Chapters 1 and 2, quiz on week 4, individual presentation/test on week 6

Weeks 7-12: Chapters 3, 7, and 8, quiz on week 9, group presentation/test on week 12

Weeks 13-15: Chapters 10, 11 and 12, last quiz on week 15

Week 16: Final exam

学習課題 (予習・復習) Course requirements (homework, quizzes, and tests) will

include: 1) Reading assigned chapters and other supplemental material; 2) Practicing impromptu skills outside of class; 3) Preparing for group presentations/debates; 4) Practicing vocabulary, reading and listening outside of class for quiz preparation; 5) Three vocabulary, reading and listening comprehension quizzes; 6) One individual presentation on a topic of your choice with the order of presentation decided by drawing lots; 7) One prepared group presentation/debate with the order of presentation decided by drawing lots; 8) One final exam that includes vocabulary, reading and listening comprehension; *NOTE: Writing notebooks, pencils and erasers are a must!

英語II発展B

English II AdvancedB (Reading & discussion)

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習
担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 Short readings and English (only) discussion.

学習の目的 I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.

学習の到達目標 At the end of the course, I intend that students will have learned more about *how* to read, rather than merely memorizing more vocabulary and grammar (although that is also somewhat important). Secondly, they will have greater confidence in expressing themselves in English. Finally, I hope that when students need to research or read for help in English, this class will help them feel stronger about doing so.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 There are no spe-

cific entry requirements for this course other than to have a sufficiently high level of English and a desire to improve. Students must be aware that this course is taught ENTIRELY in English. If you want to read some English, translate it to Japanese and then discuss it in Japanese, there are many other courses you can take. If you wish to improve both your English writing and speaking while lessening your dependence on Japanese, this could be a good course for you.

教科書 Reading for the Real World 1

成績評価方法と基準 Grading is based around in-class readings and assignments, classroom discussion and participation, attendance, and a short final exam.

オフィスアワー None, as I am a part time teacher. I can be contacted easily through e-mail or via social networks.

授業改善への工夫 There is a short final exam. Half is reading and comprehension questions, half is small group discussion.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) timed two page readings, group discussions, large variety of topics

学習内容

Week 1 - Overview and Class Introductions
Week 2 - American Superstitions (Reading #1), reading without a dictionary
Week 3 - Mysterious creatures (Reading #2)
Week 4 - History of the Internet (Reading #3)
Week 5 - Gamers: Image v. Reality (Reading #4)
Week 6 - Body mass and weight (Reading #5)
Week 7 - Studying headaches (Reading #6)
Week 8 - This week is reserved for supplemental readings and/or student presentations
Week 9 - This week is reserved for supplementen-

tal readings and/or students presentations
Week 10 - High School Dropout rates (Reading #7)
Week 11 - Single gender schooling (Reading #8)
Week 12 - Mass extinction (Reading #9)
Week 13 - Curbing greenhouse gases (Reading #10)
Week 14 - Death Penalty (Reading #11)
Week 15 - Bounty Hunters (Reading #12) and exam review.
Week 16 - Final exam
*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and

willingness to do the work necessary!

学習課題 (予習・復習)
ments

Course requirements

英語II発展B

English II AdvancedB (Reading & discussion)

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習
担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 Short readings and English (only) discussion.

学習の目的 I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.

学習の到達目標 At the end of the course, I intend that students will have learned more about *how* to read, rather than merely memorizing more vocabulary and grammar (although that is also somewhat important). Secondly, they will have greater confidence in expressing themselves in English. Finally, I hope that when students need to research or read for help in English, this class will help them feel stronger about doing so.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 There are no spe-

cific entry requirements for this course other than to have a sufficiently high level of English and a desire to improve. Students must be aware that this course is taught ENTIRELY in English. If you want to read some English, translate it to Japanese and then discuss it in Japanese, there are many other courses you can take. If you wish to improve both your English writing and speaking while lessening your dependence on Japanese, this could be a good course for you.

教科書 Reading for the Real World 1

成績評価方法と基準 Grading is based around in-class readings and assignments, classroom discussion and participation, attendance, and a short final exam.

オフィスアワー None, as I am a part time teacher. I can be contacted easily through e-mail or via social networks.

授業改善への工夫 There is a short final exam. Half is reading and comprehension questions, half is small group discussion.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) timed two page readings, group discussions, large variety of topics

学習内容

Week 1 - Overview and Class Introductions
Week 2 - Martin Luther King's great speech (Reading #1),
Week 3 - The history of the "Space Race" (Reading #2)
Week 4 - Asteroid impacts (Reading #3)
Week 5 - Cheating in sports (Reading #4)
Week 6 - Does "gi" exist? (Reading #5)
Week 7 - This week is reserved for supplemental readings and/or student presentations
Week 8 - This week is reserved for supplementen-

tal readings and/or students presentations
Week 9 - The speech that made Barack Obama famous (Reading #7)
Week 10 - Anita Roddick, businessperson and human rights activist (Reading #8)
Week 11 - What is beauty? (Reading #9)
Week 12 - What counts as business, what is bribery? (Reading #10)
Week 13 - Adventure tours for charity (Reading #11)
Week 14 - Evaluating companies (Reading #12)
Week 15 - Catching up unfinished matters and exam review
Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and

willingness to do the work necessary!

学習課題（予習・復習） Course requirements

英語II発展B

English II AdvancedB (Reading & discussion)

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 Short readings and English (only) discussion.

学習の目的 I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.

学習の到達目標 At the end of the course, I intend that students will have learned more about *how* to read, rather than merely memorizing more vocabulary and grammar (although that is also somewhat important). Secondly, they will have greater confidence in expressing themselves in English. Finally, I hope that when students need to research or read for help in English, this class will help them feel stronger about doing so.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 There are no spe-

cific entry requirements for this course other than to have a sufficiently high level of English and a desire to improve. Students must be aware that this course is taught ENTIRELY in English. If you want to read some English, translate it to Japanese and then discuss it in Japanese, there are many other courses you can take. If you wish to improve both your English writing and speaking while lessening your dependence on Japanese, this could be a good course for you.

教科書 Reading for the Real World 1

成績評価方法と基準 Grading is based around in-class readings and assignments, classroom discussion and participation, attendance, and a short final exam.

オフィスアワー None, as I am a part time teacher. I can be contacted easily through e-mail or via social networks.

授業改善への工夫 There is a short final exam. Half is reading and comprehension questions, half is small group discussion.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) timed two page readings, group discussions, large variety of topics

学習内容

Week 1 - Overview and Class Introductions

Week 2 - American Superstitions (Reading #1), reading without a dictionary

Week 3 - Mysterious creatures (Reading #2)

Week 4 - History of the Internet (Reading #3)

Week 5 - Gamers: Image v. Reality (Reading #4)

Week 6 - Body mass and weight (Reading #5)

Week 7 - Studying headaches (Reading #6)

Week 8 - This week is reserved for supplemental readings and/or student presentations

Week 9 - This week is reserved for supplementen-

tal readings and/or students presentations
Week 10 - High School Dropout rates (Reading #7)

Week 11 - Single gender schooling (Reading #8)

Week 12 - Mass extinction (Reading #9)

Week 13 - Curbing greenhouse gases (Reading #10)

Week 14 - Death Penalty (Reading #11)

Week 15 - Bounty Hunters (Reading #12) and exam review.

Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and

willingness to do the work necessary!

学習課題 (予習・復習) Course requirements

英語II発展B

English II AdvancedB (Reading & discussion)

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習
担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 Short readings and English (only) discussion.

学習の目的 I aim to (a) help the students improve their reading abilities, (b) focus on reading and understanding through context and NOT through depending on a dictionary, (c) use the topics to engage in thoughtful discussions and debates, and (d) improve students' speed not only in reading, but in speaking.

学習の到達目標 At the end of the course, I intend that students will have learned more about *how* to read, rather than merely memorizing more vocabulary and grammar (although that is also somewhat important). Secondly, they will have greater confidence in expressing themselves in English. Finally, I hope that when students need to research or read for help in English, this class will help them feel stronger about doing so.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 There are no spe-

cific entry requirements for this course other than to have a sufficiently high level of English and a desire to improve. Students must be aware that this course is taught ENTIRELY in English. If you want to read some English, translate it to Japanese and then discuss it in Japanese, there are many other courses you can take. If you wish to improve both your English writing and speaking while lessening your dependence on Japanese, this could be a good course for you.

教科書 Reading for the Real World 1

成績評価方法と基準 Grading is based around in-class readings and assignments, classroom discussion and participation, attendance, and a short final exam.

オフィスアワー None, as I am a part time teacher. I can be contacted easily through e-mail or via social networks.

授業改善への工夫 There is a short final exam. Half is reading and comprehension questions, half is small group discussion.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) timed two page readings, group discussions, large variety of topics

学習内容

Week 1 - Overview and Class Introductions
Week 2 - Martin Luther King's great speech (Reading #1),
Week 3 - The history of the "Space Race" (Reading #2)
Week 4 - Asteroid impacts (Reading #3)
Week 5 - Cheating in sports (Reading #4)
Week 6 - Does "gi" exist? (Reading #5)
Week 7 - This week is reserved for supplemental readings and/or student presentations
Week 8 - This week is reserved for supplementen-

tal readings and/or students presentations
Week 9 - The speech that made Barack Obama famous (Reading #7)
Week 10 - Anita Roddick, businessperson and human rights activist (Reading #8)
Week 11 - What is beauty? (Reading #9)
Week 12 - What counts as business, what is bribery? (Reading #10)
Week 13 - Adventure tours for charity (Reading #11)
Week 14 - Evaluating companies (Reading #12)
Week 15 - Catching up unfinished matters and exam review
Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and

willingness to do the work necessary!

学習課題（予習・復習） Course requirements

英語II発展C

English II Advanced C (Writing)

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 トーマス デール

授業の概要 In this course, students will learn how to improve their writing. We will accomplish this by studying what makes up a paragraph and an essay. In addition, we will study some different rhetorical modes for essay writing (exposition, narration, and argumentation).

学習の目的 Being able to present both your critical and light-hearted thinking in written form is not only a challenging and rewarding experience, but an important skill to possess. Therefore, it is the aim of this class to help you become better writers in various forms in English.

学習の到達目標 Students will be given the chance to improve their writing and proofreading skills by doing them extensively. Students will write both by themselves and with others. Tests (including the Final Exam) will consist of what we have studied and practiced. There will also be one group project in the form of a magazine due at the end of the semester. For students taking this class a second time, each homework assignment will be a little different, thus giving you a new challenge while reinforcing what you have studied previously.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、書き、校閲、意味段落、形式段落、論

Key Word(s) English, writing, proofreading, paragraphs, essays, communication, rhetorical modes, exposition, narration, argumentation

学習内容

受講要件 All students taking this course as a minimum should have passed Eiken Pre 2 or have the following certifications/scores: CEFR B1, TOEIC 400, IELTS 4.0, TOEFL ITP 460, TOEFL IBT 86, or PET

教科書 Text book: None (see optional books below)

参考書 Bring a dictionary, a thesaurus, a pencil and a notebook/writing pad. All other supplemental material will be provided by the teacher. *OPTIONAL: 1) Ready to Write: From Paragraph to Essay, Third Edition (by Karen Blanchard & Christine Root, ISBN: 978-0-13-136334-2); 2) Blueprints for Writing: Building Essays (by Pam Mathis, ISBN: 978-0495802464); 3) An A - Z of Common English Errors for Japanese Learners (Japanese version, by David Barker, ISBN: 978-4990415150)

成績評価方法と基準 Tests 54% (three test, 18% each); Group Magazine Project 25%; Final Exam 21%

オフィスアワー All meetings by appointment. At Mie University's campus on Tuesdays from 9:15 - 12:30, 16:10-20:00.

その他 This class will not only feature extensive writing and reading of one's own work, but participation in the class, participation with others and having a sense of fun are also very important!

Week 1: Introductions, syllabus review, course information, needs analysis, first writing practice
Week 2: Parts of a Paragraph
Week 3: Organization and Signal/Transition Words
Week 4: The Writing Process
Weeks 5-7: Writing Essays and Expository Essays

Weeks 8-10: Narrative Essays

Weeks 11-13: Argumentative Essays

Weeks 14-15: Magazine Production

Week 16: Final exam

学習課題 (予習・復習) Course requirements (notes, homework, and tests) will include: 1) Studying notes taken in class; 2) Doing the assigned writing homework on time;

3) Reviewing what you have written in class and for homework to improve your writing;

4) Producing a quality written piece for each test while applying what we have learned; 5)

Answering any questions in class or on tests that are based on the lectures and class notes;

*NOTE: Writing notebooks, pencils and erasers are a must!

英語II発展C

English II Advanced C (Writing)

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 トーマス デール

授業の概要 In this course, students will learn how to improve their writing. We will accomplish this by studying what makes up a paragraph and an essay. In addition, we will study some different rhetorical modes for essay writing (exposition, narration, and argumentation).

学習の目的 Being able to present both your critical and light-hearted thinking in written form is not only a challenging and rewarding experience, but an important skill to possess. Therefore, it is the aim of this class to help you become better writers in various forms in English.

学習の到達目標 Students will be given the chance to improve their writing and proofreading skills by doing them extensively. Students will write both by themselves and with others. Tests (including the Final Exam) will consist of what we have studied and practiced. There will also be one group project in the form of a magazine due at the end of the semester. For students taking this class a second time, each homework assignment will be a little different, thus giving you a new challenge while reinforcing what you have studied previously.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力, 実践外国語力

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、書き、校閲、意味段落、形式段落、論

Key Word(s) English, writing, proofreading, paragraphs, essays, communication, rhetorical modes, exposition, narration, argumentation

学習内容

受講要件 All students taking this course as a minimum should have passed Eiken Pre 2 or have the following certifications/scores: CEFR B1, TOEIC 400, IELTS 4.0, TOEFL ITP 460, TOEFL IBT 86, or PET

教科書 Text book: None (see optional books below)

参考書 Bring a dictionary, a thesaurus, a pencil and a notebook/writing pad. All other supplemental material will be provided by the teacher. *OPTIONAL: 1) Ready to Write: From Paragraph to Essay, Third Edition (by Karen Blanchard & Christine Root, ISBN: 978-0-13-136334-2); 2) Blueprints for Writing: Building Essays (by Pam Mathis, ISBN: 978-0495802464); 3) An A - Z of Common English Errors for Japanese Learners (Japanese version, by David Barker, ISBN: 978-4990415150)

成績評価方法と基準 Tests 54% (three test, 18% each); Group Magazine Project 25%; Final Exam 21%

オフィスアワー All meetings by appointment. At Mie University's campus on Tuesdays from 9:15 - 12:30, 16:10-20:00.

その他 This class will not only feature extensive writing and reading of one's own work, but participation in the class, participation with others and having a sense of fun are also very important!

Week 1: Introductions, syllabus review, course information, needs analysis, first writing practice
Week 2: Parts of a Paragraph
Week 3: Organization and Signal/Transition Words
Week 4: The Writing Process
Weeks 5-7: Writing Essays and Expository Essays

Weeks 8-10: Narrative Essays

Weeks 11-13: Argumentative Essays

Weeks 14-15: Magazine Production

Week 16: Final exam

学習課題 (予習・復習) Course requirements (notes, homework, and tests) will include: 1) Studying notes taken in class; 2) Doing the assigned writing homework on time;

3) Reviewing what you have written in class

and for homework to improve your writing;

4) Producing a quality written piece for each

test while applying what we have learned; 5)

Answering any questions in class or on tests

that are based on the lectures and class notes;

*NOTE: Writing notebooks, pencils and erasers

are a must!

英語II発展D

English II AdvancedD Business English

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 English II Business English

学習の目的 (1) Putting advanced English vocabulary, grammar and patterns to use in real-life situations, (2) Becoming introduced to business situations in the English speaking world, (3) Interacting in English, not merely passively listening, and (4) Doing all of these things in an "English-only" environment.

学習の到達目標 Students should gain greater confidence in speaking English, particularly in Business situations, and become familiar with some of the nuances that are particular to the business world.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 Students who passed Mie University's TOEIC class, scored 600+ on TOEIC or have otherwise similarly high ability in English. Otherwise, there are no specific requirements. Students should know this

class is *taught* 100% in English. Japanese will NOT be used in class and will be used for communication in small groups or presentation work. All students should be prepared to work and think in English while in this class.

教科書 Business Explorer 3

参考書 None

成績評価方法と基準 Grades will be determined primarily on in-class participation and performance (about 50%), as well as writing projects, presentations, a final test, or other projects which may be assigned.

オフィスアワー None, as I am a part-time teacher. However, I can be contacted easily by e-mail or on social networks.

授業改善への工夫 The majority of this class - and the scores achieved - are based on oral work, mainly in class performance. There is a short final exam that accounts for much less than 50% of the final grade.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) forms of address, telephone English, e-mails, office rules, small talk, giving/taking criticism, hiring

学習内容

Week 1 - Overview and Introduction to the class (and each other)

Week 2 - Business Telephone calls/Initiating a relationship

Week 3 - Phone etiquette/Getting to the point

Week 4 - Business e-mails/Polite correspondence

Week 5 - Organizing and sending a brief business e-mail

Week 6 - Culture shock when going to another country for business

Week 7 - Creating a positive corporate culture

(even on a small scale!)

Week 8 - Asking for, Giving, or Refusing permission

Week 9 - Delegating responsibility

Week 10 - Constructive Criticism

Week 11 - Creating a good Performance Review system

Week 12 - Business Media

Week 13 - Reading Business news in English/
The Value of Electronic information systems

Week 14 - Business communication beyond e-mail and phone calls

Week 15 - Choosing the right media for the purpose

Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE

and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and willingness to do the work necessary!

英語II発展D

English II Advanced D (Business English)

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 担当教員 フロイド・マクダニエル

授業の概要 English II Business English

学習の目的 (1) Putting advanced English vocabulary, grammar and patterns to use in real-life situations, (2) Becoming introduced to business situations in the English speaking world, (3) Interacting in English, not merely passively listening, and (4) Doing all of these things in an "English-only" environment.

学習の到達目標 Students should gain greater confidence in speaking English, particularly in Business situations, and become familiar with some of the nuances that are particular to the business world.

本学教育目標との関連 モチベーション, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 Students who passed Mie University's TOEIC class, scored 600+ on TOEIC or have otherwise similarly high ability in English. Otherwise, there are no specific requirements. Students should know this

class is *taught* 100% in English. Japanese will NOT be used in class and will be used for communication in small groups or presentation work. All students should be prepared to work and think in English while in this class.

教科書 Business Explorer 3

参考書 None

成績評価方法と基準 Grades will be determined primarily on in-class participation and performance (about 50%), as well as writing projects, presentations, a final test, or other projects which may be assigned.

オフィスアワー None, as I am a part-time teacher. However, I can be contacted easily by e-mail or on social networks.

授業改善への工夫 The majority of this class - and the scores achieved - are based on oral work, mainly in class performance. There is a short final exam that accounts for much less than 50% of the final grade.

授業計画・学習の内容

Key Word(s) Time management, stress, advertising/branding, shipping/ordering, future of business, bookkeeping, expense reimbursement, presentations

学習内容

Week 1 - Overview and Introduction to the class (and each other)

Week 2 - Time management as a part of business management

Week 3 - Dealing with stress on the job (maybe different from school stress!)

Week 4 - Corporate and Product Image

Week 5 - What is the value of "branding"?

Week 6 - International shipping methods

Week 7 - Making and Confirming business orders

Week 8 - E-business vs. Traditional Business

Week 9 - Developments in e-business should young people prepare for...

Week 10 - Reading and understanding spreadsheets

Week 11 - Filling out and approving expense reports

Week 12 - What is an effective business presentation...

Week 13 - Giving a good presentation

Week 14 - Business Responsibility and Ethics (Do they exist?)

Week 15 - How the business world will change in the near future...

Week 16 - Final exam

*** PLEASE NOTE: This syllabus is TENTATIVE

and subject to change as the semester progresses depending on the student's ability and willingness to do the work necessary!

英語II 発展E

English II Advanced E

学期 前期 **開講時間** 火9, 10 **単位** 1 **対象** 英語I TOEICの単位を取得した学生、もしくは1年次で既に600点以上を取得した学生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次
選/必 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**
担当教員 嶋村貞志

授業の概要 「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。

学習の目的 TOEICの各パートに関する問題に多数取り組むことで、さらにTOEICのスコアを伸ばすことを目指します。また、頻出の英語表現を確認し、理解・聴覚の練習を積み重ねることで、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標 TOEICにおいて600点以上取得できる英語力を身につける。また、既に600点以上を取得している学生は、さらにスコアを伸ばすための英語力を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容

- 第1回：導入、実力確認テスト
- 第2回：Unit 1 Business Communication (1)
- 第3回：Unit 2 On the Telephone
- 第4回：Unit 3 Preparing Food
- 第5回：Unit 4 In the Workplace
- 第6回：Unit 5 Shopping (1)
- 第7回：Unit 6 Using Transportation
- 第8回：Unit 7 Daily Life
- 第9回：Unit 8 Residence (1)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件 「英語I TOEIC」の単位を取得している、あるいは、1年次にTOEIC600点以上を取得していることが必要です。

発展科目 他の英語IIの科目

教科書 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST, Step 3: Advanced course.アルク

成績評価方法と基準 各Unitごとに行われる小テスト: 50%、学期末テスト: 50%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯は授業の最初にお伝えします。

授業改善への工夫 受講生に積極的に質問・確認し、双方向的な授業を行う。また、重要事項については分かり易く丁寧に説明する。

- 第10回：Unit 9 Making Excuses
- 第11回：Unit 10 Business Communication (2)
- 第12回：Further Practice [1]：Listening
- 第13回：Further Practice [2]：Listening
- 第14回：Further Practice [3]：Reading
- 第15回：期末試験

学習課題（予習・復習） Unitごとに小テストを行うので、授業の内容をしっかりと復習してください。また学期末には、授業内容に基づいた確認テストを行います。

英語II 発展E

English II Advanced E

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 1 **対象** 英語I TOEICの単位を取得した学生、もしくは1年次で既に600点以上を取得した学生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次
選/必 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**
担当教員 嶋村貞志

授業の概要 「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。

学習の目的 TOEICの各パートに関する問題に多数取り組むことで、さらにTOEICのスコアを伸ばすことを目指します。また、頻出の英語表現を確認し、理解・聴覚の練習を積み重ねることで、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標 TOEICにおいて600点以上取得できる英語力を身につける。また、既に600点以上を取得している学生は、さらにスコアを伸ばすための英語力を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容

- 第1回：導入、実力確認テスト
- 第2回：Unit 11 Travel (1)
- 第3回：Unit 12 Complaining
- 第4回：Unit 13 Personnel Affairs
- 第5回：Unit 14 Negotiations
- 第6回：Unit 15 Weather
- 第7回：Unit 16 Events
- 第8回：Unit 17 Residence (2)
- 第9回：Unit 18 Travel (2)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件 「英語I TOEIC」の単位を取得している、あるいは、1年次にTOEIC600点以上を取得していることが必要です。

発展科目 他の英語IIの科目

教科書 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST, Step 3: Advanced course.アルク

成績評価方法と基準 各Unitごとに行われる小テスト: 50%、学期末テスト: 50%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯は授業の最初にお伝えします。

授業改善への工夫 受講生に積極的に質問・確認し、双方向的な授業を行う。また、重要事項については分かり易く丁寧に説明する。

第10回：Unit 19 Shopping (2)

第11回：Unit 20 Job Hunting

第12回：Further Practice [1]：Listening

第13回：Further Practice [2]：Listening

第14回：Further Practice [3]：Reading

第15回：期末テスト

学習課題（予習・復習） Unitごとに小テストを行うので、授業の内容をしっかりと復習してください。また学期末には、授業内容に基づいた確認テストを行います。

英語II 発展E

English II Advanced E

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 英語I TOEICの単位を取得した学生、もしくは1年次で既に600点以上を取得した学生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選択** 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**
担当教員 澤田 治 (人文学部)

授業の概要 「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。

学習の目的 TOEICの各パートに関する問題に多数取り組むことで、さらにTOEICのスコアを伸ばすことを目指します。また、頻出の英語表現を確認し、理解・聴覚の練習を積み重ねることで、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標 TOEICにおいて600点以上取得できる英語力を身につける。また、既に600点以上を取得している学生は、さらにスコアを伸ばすための英語力を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容

- 第1回：導入、実力確認テスト
- 第2回：Unit 1 Business Communication (1)
- 第3回：Unit 2 On the Telephone
- 第4回：Unit 3 Preparing Food
- 第5回：Unit 4 In the Workplace
- 第6回：Unit 5 Shopping (1)
- 第7回：Unit 6 Using Transportation
- 第8回：Unit 7 Daily Life
- 第9回：Unit 8 Residence (1)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件 「英語I TOEIC」の単位を取得している、あるいは、1年次にTOEIC600点以上を取得していることが必要です。

発展科目 他の英語IIの科目

教科書 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST, Step 3: Advanced course.アルク

成績評価方法と基準 各Unitごとに行われる小テスト: 50%、学期末テスト: 50%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯は授業の最初にお伝えします。

授業改善への工夫 受講生に積極的に質問・確認し、双方向的な授業を行う。また、重要事項については分かり易く丁寧に説明する。

- 第10回：Unit 9 Making Excuses
- 第11回：Unit 10 Business Communication (2)
- 第12回：Further Practice [1]：Listening
- 第13回：Further Practice [2]：Listening
- 第14回：Further Practice [3]：Reading
- 第15回：期末試験

学習課題（予習・復習） Unitごとに小テストを行うので、授業の内容をしっかりと復習してください。また学期末には、授業内容に基づいた確認テストを行います。

英語II 発展E

English II Advanced E

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 1 **対象** 英語I TOEICの単位を取得した学生、もしくは1年次で既に600点以上を取得した学生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選択** 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **市民開放授業**
担当教員 澤田 治 (人文学部)

授業の概要 「英語I TOEIC」の単位を取得した学生およびTOEIC600点以上取得者を対象に、難易度の高いTOEICの練習問題に取り組むことを通して、さらなる高得点の取得を目指します。具体的には、TOEICの各パート（リスニング、文法、読解）の問題を解きながら重要事項を確認し、英語力を伸ばします。

学習の目的 TOEICの各パートに関する問題に多数取り組むことで、さらにTOEICのスコアを伸ばすことを目指します。また、頻出の英語表現を確認し、理解・聴覚の練習を積み重ねることで、苦手なパートをなくすことを目指します。

学習の到達目標 TOEICにおいて600点以上取得できる英語力を身につける。また、既に600点以上を取得している学生は、さらにスコアを伸ばすための英語力を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード TOEIC

学習内容

- 第1回：導入、実力確認テスト
- 第2回：Unit 11 Travel (1)
- 第3回：Unit 12 Complaining
- 第4回：Unit 13 Personnel Affairs
- 第5回：Unit 14 Negotiations
- 第6回：Unit 15 Weather
- 第7回：Unit 16 Events
- 第8回：Unit 17 Residence (2)
- 第9回：Unit 18 Travel (2)

本学教育目標との関連 主体的学習力, 実践外国語力

受講要件 「英語I TOEIC」の単位を取得している、あるいは、1年次にTOEIC600点以上を取得していることが必要です。

発展科目 他の英語IIの科目

教科書 Step-by-Step Prep for the TOEIC TEST, Step 3: Advanced course.アルク

成績評価方法と基準 各Unitごとに行われる小テスト: 50%、学期末テスト: 50%

オフィスアワー オフィスアワーの時間帯は授業の最初にお伝えします。

授業改善への工夫 受講生に積極的に質問・確認し、双方向的な授業を行う。また、重要事項については分かり易く丁寧の説明する。

第10回：Unit 19 Shopping (2)

第11回：Unit 20 Job Hunting

第12回：Further Practice [1]：Listening

第13回：Further Practice [2]：Listening

第14回：Further Practice [3]：Reading

第15回：期末テスト

学習課題（予習・復習） Unitごとに小テストを行うので、授業の内容をしっかりと復習してください。また学期末には、授業内容に基づいた確認テストを行います。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (German A)

学期 前期 **開講時間** 火 1, 2, 5, 6, 7, 8; 木 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 「三重大学教養教育履修案内」「教養教育授業科目時間割表」に記載のとおり

授業の概要 教員はドイツ語の基礎的な文法事項や語彙、発音を説明し、受講生は練習問題などによって修得します。

学習の目的

ドイツ語の基本的な構造を把握することにより、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化に対する理解を深めます。ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得して、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。

学習の到達目標 辞書を使ってドイツ語のごく簡単な文章を読み、書くことができる。

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」を、指定されたクラスで、それぞれ週1回ずつ受講してください。

発展科目 会話を学びたい人は、「異文化理

解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。そこに書かれていない場合は、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が授業中に紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が授業中に説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他 各クラスの受講者数を均一にするため、履修申告後にクラス分け（人数調整）を行います。調整結果は教養教育掲示板で必ず確認して、指定された受講クラスを間違えないようにしてください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語文法の基礎を学習します。

学習内容

練習問題などによって、ドイツ語の基礎的な文法と語彙を学びます。

文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験5級に対応する内容を6月までに習得することを目安とします。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (German A)

学期 後期 **開講時間** 火 1, 2, 5, 6, 7, 8; 木 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」と同じ教員です。

授業の概要 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」に引き続き、教員はドイツ語の基礎的な文法事項や語彙を説明し、受講生は練習問題などにより習得します。

学習の目的

ドイツ語の基本的な構造を把握することによって、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項を習得し、さらに過去形や現在完了形まで学ぶことにより、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。

学習の到達目標 辞書を使ってドイツ語の簡単な文章を読み、書くことができる。

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b」を、指定されたクラスで、それぞれ週1回ずつ受講してください。「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」を履修していない学生は、この科目を受講することができません。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語文法の基礎を学習します。

学習内容

「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」に引き続き、基礎的な文法事項と語彙を学習し、練習問題などによって習熟します。文法や語彙については、ドイツ語技能検定試

予め履修が望ましい科目 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」を必ず履修していること。

発展科目

2年次で、「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）」を履修してください。

会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」と同じ教科書を引き続き使用します。そうでない場合には、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が授業中に紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が授業中に説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

験4級に対応する内容を11月前半までに習得することを目安とし、11月後半以降に初級ドイツ語の残りの範囲（過去形や現在完了形など）を学びます。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (German B)

学期 前期 **開講時間** 火1, 2, 5, 6, 7, 8; 木5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 「三重大学教養教育履修案内」「教養教育授業科目時間割表」に記載のとおり

授業の概要 ペア練習やリスニングなどによって、ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を養成します。

学習の目的

ドイツ語の基本的な構造を把握することをおして、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得して、ドイツ語の基礎的な表現力と会話を身につけます。

学習の到達目標 ドイツ語でごく簡単な自己紹介をおこなったり、持ち物や家族について会話することができる。

本学教育目標との関連 実践外国語力

受講要件 1クラスの受講者数は最大25名で、履修申告者数が制限人数を超えた場合、無作為抽選（人数調整）を行います。調整の結果、「ドイツ語B」を受講できない学生は、

「ドイツ語A」を受講してください。

発展科目 さらに会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。そこに書かれていない場合は、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語会話の基礎を学習します。

学習内容

ペア練習などによって、基礎的なドイツ語会話を学びます。

文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験5級に対応する内容を6月までに習得することを目安とします。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (German B)

学期 後期 **開講時間** 火 1, 2, 5, 6, 7, 8; 木 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 「三重大学教養教育履修案内」「教養教育授業科目時間割表」に記載のとおり

授業の概要 ペア練習やリスニングなどによって、ドイツ語の語彙や文法を習得しつつ、ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を養成します。

学習の目的

ドイツ語の基本的な構造を把握することをおもとして、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項や、さらに過去形と現在完了形も習得して、平易なドイツ語で会話できる能力を身につけます。

学習の到達目標 日常的な事柄について、平易なドイツ語で会話することができる。

本学教育目標との関連 実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a」を

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語会話の基礎を学習します。

学習内容

「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a」に引き続き、ペア練習などによって、ドイツ語会話の基礎を学びます。基礎的な文法と語彙も習得します。

履修していない学生は、この科目を受講することができません。

発展科目 「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）」 「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）」

教科書 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a」と同じ教科書を引き続き使用します。そうでない場合には、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

11月前半までにドイツ語技能検定試験4級に対応する内容を習得することを目安とし、11月後半以降に初級ドイツ語の残りの範囲（過去形や現在完了形など）を学びます。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (French)

学期 前期 **開講時間** 火1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 井出 勉（非常勤講師）、山本 寛（人文学部）

授業の概要 フランス語の文法と語彙の基礎的な知識を学ぶ

学習の目的 初歩的な日常的フランス語を読んで理解し書くことができるようになること

学習の到達目標 異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aと並行して履修し、理解、修得、暗記がすべて十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験5級合格程度の実力が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 『デビュー！フランス語初級』朝日出版社（表紙には『Début!』と書いてあります）。この教科書は異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aと共通して用います。

授業計画・学習の内容

キーワード フランス語入門 文法 語彙

Key Word(s) introduction to French, grammar, vocabulary

学習内容

教科書冒頭の発音の仕方から始め、1課から6課までの Grammaire および Exercices と題された部分を、1課につき授業2回ないし3回のペースを基本にし、全体を15回で学びます。1課 être の直説法現在、主語人称代名詞、名詞 2課 定冠詞と不定冠詞、avoir の直説法現在

参考書 辞書については異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aの説明を参照してください。

成績評価方法と基準 試験で100%。合格点に若干及ばない場合など、受講態度を成績評価に反映させることがある。

オフィスアワー 連絡窓口は人文学部・山本 寛（人文校舎2階）。月・火・木の昼休み、それ以外でも可能な限り対応します。メール（kakan@human.mie-u.ac.jp）は随時受け付けます。

その他

人文学部と教育学部は火3・4限（山本）、医学部は火1・2限（山本）、工学部は火5・6限（山本）、生物資源学部は火7・8限（井出）です。自分の学部のクラスで前期と後期を通して履修してください。再履修者と編入学生はどの学部のクラスでも構いません。

3課 第一群規則動詞、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞

4課 第二群規則動詞、不規則動詞、部分冠詞、疑問文

5課 aller と venir、前置詞の縮約、近接未来、近接過去

6課 pouvoir と vouloir、疑問形容詞、非人称構文

学習課題（予習・復習） 各担当教員が教室で説明します。

異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）b

Basic Course in Foreign Studies (French) I b

学期 後期 **開講時間** 火1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 井出 勉（非常勤講師）、山本 寛（人文学部）

授業の概要 フランス語の文法と語彙の基礎的な知識を学ぶ

学習の目的 基礎的な日常的フランス語を読んで理解し書くことができるようになること

学習の到達目標 異文化理解Ⅰ演習（フランス語）bと並行して履修し、理解、修得、暗記がすべて十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験4級合格程度の実力が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a、またはフランス語Ⅰ文法（前）を受講済であること。もしくは仏検5級程度の能力があること。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a、またはフランス語Ⅰ文法（前）

発展科目 異文化理解Ⅱ総合（フランス語）a

教科書 『デビュー！フランス語初級』朝日

出版社（表紙には『Début!』と書いてあります）。この教科書は異文化理解Ⅰ演習（フランス語）bと共通して用います。

参考書 辞書については異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aの説明を参照してください。

成績評価方法と基準 試験で100%。合格点に若干及ばない場合など、受講態度を成績評価に反映させることがある。

オフィスアワー 連絡窓口は人文学部・山本寛（人文校舎2階）。月・火・木の昼休み、それ以外でも可能な限り対応します。メール（kakusan@human.mie-u.ac.jp）は随時受け付けます。

その他

人文学部と教育学部は火3・4限（山本）、医学部は火1・2限（山本）、工学部は火5・6限（山本）、生物資源学部は火7・8限（井出）です。自分の学部のクラスで前期と後期を通して履修してください。

再履修者と編入学生はどの学部のクラスでも構いません。

授業計画・学習の内容

キーワード フランス語入門 文法 語彙

Key Word(s) introduction to French, grammar, vocabulary

学習内容

教科書の7課から13課までの Grammaire および Exercices と題された部分を、1課につき授業2回ないし3回のペースを基本にし、全体を15回で学びます。

7課 目的語人称代名詞、強勢形

8課 il faut、命令法、devoir

9課 代名動詞、関係代名詞

10課 複合過去

11課 半過去、受動態、指示代名詞

12課 中性代名詞、比較級、最上級

13課 単純未来、現在分詞、ジェロンディフ

学習課題（予習・復習） 各担当教員が教室で説明します。

異文化理解Ⅰ基礎（中国語）a

Basic Course in Foreign Studies I a (Chinese)

学期 前期 **開講時間** 火 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 福田和展（人文学部）

湯浅陽子（人文学部）

花尻奈緒子（人文学部特任教員）

曾若涵（人文学部特任教員）

荒井茂夫（非常勤講師）

陳志平（非常勤講師）

中野麻里子（非常勤講師）

授業の概要 全クラス共通のテキストに沿って、中国語の基礎発音、基礎文法を学ぶ。

教科書 2015パイロットテキスト 中国語Ⅰ基礎

学習の目的 中国語の基礎発音と基礎文法を習得する。

参考書 授業で指定

学習の到達目標 中国語検定試験準4級取得

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

中国語検定準4級取得或いは前期期末統一試験の結果 50%

受講要件 大学入学以前に中国語を学習し、中級レベル以上の中国語能力を有する者、中国語圏からの留学生、日常的に中国語を使用している者は履修出来ない。

オフィスアワー 授業・会議以外の全ての時間。事前にメールにてアポイントをとること。メールアドレスは教養教育履修案内「異文化理解」のページを参照すること。

発展科目 異文化理解Ⅱ演習(中国語)、異文化理解Ⅱ演習(中国語)

その他 教科書は必ず最新版を購入すること。予習復習をしっかりとしよう。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語基礎発音、基礎文法

学習内容

第1課 基礎発音 (1)

第2課 基礎発音 (2)

第3課 这是什么?

第4課 今天忙, 明天不忙。

第5課 他看报。

第6課 你今天吃早饭了没有?

第7課 你有人民币吗?

第8課 你的生日几月几号?

第9課 书包里有很多书。

第10課 我在这儿吃饭。

学習課題（予習・復習） 予習復習を必ず行うこと。

異文化理解Ⅰ基礎（中国語）b

Basic Course in Foreign Studies I b (Chinese)

学期 後期 **開講時間** 火 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 福田和展（人文学部）

湯浅陽子（人文学部）

花尻奈緒子（人文学部特任教員）

曾若涵（人文学部特任教員）

荒井茂夫（非常勤講師）

陳志平（非常勤講師）

中野麻里子（非常勤講師）

授業の概要 前期に引き続き、全クラス共通のテキストに沿って、中国語の基礎発音、基礎文法を学ぶ。

学習の目的 中国語の基礎発音と基礎文法を習得する。

学習の到達目標 中国語検定試験4級取得

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 大学入学以前に中国語を学習し、中級レベル以上の中国語能力を有する者、中国語圏からの留学生、日常的に中国語を使用している者は履修出来ない。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語基礎発音、基礎文法

学習内容

第11課 我想在这儿休息一下。

第12課 你会开车吗？

発展科目 異文化理解Ⅱ演習（中国語）、異文化理解Ⅱ総合（中国語）

教科書 2015パイロットテキスト 中国語Ⅰ基礎

成績評価方法と基準

「授業への積極的参加 50%

中国語検定準4級取得或いは前期期末統一試験の結果 50%

オフィスアワー 授業・会議以外の全ての時間。事前にメールにてアポイントをとること。メールアドレスは教養教育履修案内「異文化理解」のページを参照すること。

その他 教科書は必ず最新版を購入すること。予習復習をしっかりとしよう。

第13課 我比你大三岁。

第14課 她打了一个小时的电话。

第15課 学好汉语很不容易。

第17課 请您把这本小说翻译成日文吧。

第18課 你要买什么, 就买什么？

異文化理解 I 基礎 (朝鮮語) a

Basic Course in Foreign Studies Ia (Korean)

学期 前期 開講時間 火 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 有吉 登美子

授業の概要

日本では朝鮮半島で主として使用されている言語を総体的に朝鮮語、現在の韓国で話されている言語を韓国語と呼んでいる。朝鮮半島は分断され二つの国が存在し、長びく分断の影響で両国の言語にも違いが見られはするものの、同一の言語であることに変わりはない。

授業では韓国及び韓国語を対象とする。

まず表記法であるハングルについてその成り立ち及び発音のルールについて説明する。韓国語は日本語と非常によく似た文法構造を持っているが、音に関しては日本語にないものも多い。そのため音を聞き取る・発音するという点にポイントを置き授業を進める。

学習の目的 ハングルの覚えるとともに韓国語の構造を理解する。

学習の到達目標 ハングルとその発音のルールを覚える。日常の挨拶ができるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード ハングルの覚えよう

Key Word(s) Let's learn the Korean alphabet

学習内容

- 第1回 ガイダンス／韓国語及びハングルについて
- 第2回 基本的な母音字母とその発音
- 第3回 基本的な子音字母とその発音 (I)
- 第4回 // (II)
- 第5回 無声子音の有声音化
- 第6回 発展形の母音字母とその発音 (I)
- 第7回 発展形の子音字母とその発音
- 第8回 発展形の母音字母とその発音 (II)
- 第9回 パッチムとその発音

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

「コミュニケーション韓国語 読んで書こう」 白帝社
辞書「朝鮮語辞典」小学館／「ポケットプログレッシブ韓日韓辞典」小学館

成績評価方法と基準 小テストおよび授業への積極的参加30%、期末試験70% (合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日 12:00～13:00 非常勤講師室

授業改善への工夫 できるだけ学生の要望を取り入れ柔軟に対応する。

その他 異文化理解I 演習と併せて受講する学生は必ず「朝鮮語辞典」(小学館)を購入すること。

- 第10回 連音化 (I)
- 第11回 連音化 (II) / その他の発音のルール
- 第12回 自己紹介 (I) : 名前と所属 指定詞と上称形の終結語尾の使い方を学ぶ
- 第13回 //
- 第14回 自己紹介 (II) : 年齢と趣味 日本とは異なる年齢の数え方について理解する 漢数詞を覚える
- 第15回 //
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習)

必ずCDを聞いて授業に臨むこと。
進度に応じて随時小テストを実施する。

異文化理解 I 基礎 (朝鮮語) b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Korean)

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 有吉 登美子

授業の概要

前期に続き音を聞き取る・発音するという点にポイントを置くとともに、基礎的な表現をもとに表現能力を養えるよう考慮して授業を進める。

よく似た二つの言語のなかで異なる表現に着目し、日本語との対照を試みる。

学習の目的 基礎文法を段階的に学ぶ。話す・聞き取る・作文するという総合的な能力を身につける。

学習の到達目標 基礎的な表現及び運用能力を身につけ身近なことを表現できるようにする。また韓国人のものの見方・考え方を表現を通して理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ハングルを理解し、発音できること。

教科書

「コミュニケーション韓国語 読んで書こう」 白帝社
辞書「朝鮮語辞典」小学館 / 「ポケットプログレッシブ韓日韓辞典」小学館

成績評価方法と基準 小テスト及び授業への積極的参加30%、期末試験70% (合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日 12:00~13:00 非常勤講師室

授業改善への工夫 できるだけ学生の要望を取り入れ柔軟に対応する。

その他 異文化理解I 演習も併せて受講する学生は必ず「朝鮮語辞典」(小学館)を購入すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 身近なことを表現しよう

Key Word(s) Let's express everyday life

学習内容

第1回 家族を紹介する：存在詞及び動詞 固有数詞を覚える

第2回 //

第3回 学校を紹介する：並列・逆接の接続語尾 用言の語幹と語尾を理解する

第4回 //

第5回 日常生活を話す：さまざまな動詞

第6回 好き嫌いを話す：否定表現

第7回 //

第8回 身近なできごとを話す：過去形及び略待

丁寧形の終結語尾

第9回 //

第10回 旅行の経験を話す：連体形

第11回 //

第12回 //

第13回 好き嫌いの理由を話す：可能及び不可能の表現、原因・理由を表す接続語尾

第14回 //

第15回 将来の目標を話す：願望及び条件を表す接続語尾

第16回 試験

学習課題 (予習・復習)

必ずCDを聞いて授業に臨むこと。

進度に応じて随時小テストを実施する。

異文化理解I基礎（ロシア語） a

Basic Course in Foreign Studies Ia (Russian)

学期 前期 開講時間 水5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 山路 明日太

授業の概要 異文化理解の観点からみて、英語以外にいくつかの外国語を知ることが大切です。本授業では、ヨーロッパの言語のなかでも英語とはおおくの点で異なるロシア語を学び、そのことによって言語の多様性を知ってもらいたいと思います。ロシア語の発音の基礎を手はじめに、初級文法をすこしずつ学んでいきます。

学習の目的 ロシア語の基礎的な文法を習得したうえで、日常生活でよく使われる文章を理解でき、自らの考えを伝えられるようになることをめざします。

学習の到達目標

- 1) ロシア語の文字を正確に発音できる。
- 2) ロシア語の文字を自由に読み書きできる。
- 3) ロシア語で簡単な挨拶、受け答えができる。
- 4) ロシア語初等文法の基礎を理解し、運用できる。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、論理的思考力、問題解決力、情報受発信力、指導力・協調性、実践外国語力、感じる

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ありません。

予め履修が望ましい科目 異文化理解I演習（ロシア語）aも合わせて受講することが望ましい。

教科書 黒田龍之助『ロシア語文法への旅（改訂版）』（大学書林）。

参考書 辞書は必要ありませんが、活用することで学習効果が上がります。例えば、木村彰一ほか『ロシア語辞典』（博友社）を推薦します。

成績評価方法と基準 平常点30%、小テスト・課題30%、定期試験40%。

オフィスアワー 非常勤のため、連絡方法については初回のガイダンス時に説明します。

授業改善への工夫 英語や日本語の文法などと比較しながら、理解しやすい説明を心がけます。難しい発音や文法事項については何度も基礎に立ち返りながら説明します。

授業計画・学習の内容

キーワード ロシア、ロシア語、文法、異文化理解

Key Word(s) Russia, Russian language, Grammar, Cross-cultural understanding

学習内容

1. ガイダンス、ロシア語の全体的特徴について。
2. アルファベットと発音（1）。硬母音字と子音字。
3. アルファベットと発音（2）。軟母音字と子音字。
4. アルファベットと発音（3）。子音字と発音の規則。
5. アルファベットと発音（4）。子音字と発

- 音の規則。
6. アルファベットと発音（5）。記号。やさしい表現と挨拶。
7. 人称代名詞と性の区別。
8. 所有代名詞。「だれの」「私の」など。
9. 動詞の現在変化（1）。
10. 動詞「住んでいる」と場所の表現。「～で」。
11. 場所の表現における前置詞の使い分け。
12. 動詞の現在変化（2）。
13. 不規則動詞の変化。「～が好きだ」「～がほしい」。
14. 形容詞の三つのタイプ。ロシア人の姓と父称。
15. これまでの復習と応用。

学習課題（予習・復習） 授業に際して基本的な予習は必要ありませんが、復習は必ずするようにしてください。

異文化理解I基礎（ロシア語）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Russian)

学期 後期 開講時間 水5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 山路 明日太

授業の概要 異文化理解の観点からみて英語以外にいくつかの外国語を知ることは大切です。本授業では、ヨーロッパの言語のなかでも英語とはおおくの点で異なるロシア語を学び、そのことによって言語の多様性を知ってほしいと思います。ロシア語の初級文法を基礎からすこしずつ学んでいきます。

学習の目的 前期にひきつづき、ロシア語の初等文法を習得する。ロシア語の文章を読解し、短い文を自ら書くことができる力を身につける。

学習の到達目標

- 1) ロシア語の短い文章を、アクセントやイントネーションに注意しながら正確に発音できる。
- 2) ロシア語で必要不可欠な会話ができる。
- 3) ロシア語の初等文法を理解し、運用できる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード ロシア、ロシア語、文法、異文化理解

Key Word(s) Russia, Russian language, Grammar, Cross-cultural understanding

学習内容

1. ガイダンス。これまでの文法事項の復習。
2. 名詞・形容詞の複数形。正書法の規則。
3. 所有の表現「～を持っている」。病気の表現。
4. 形容詞のまとめ。「全員／全部」の表現。格変化についての全体的説明。
5. 対格の作り方。対格の使い方：目的「～を」。
6. 過去の表現。「いる・ある」の過去の表現。

受講要件 異文化理解I基礎（ロシア語）aを履修済みであること、ないしは、同程度のロシア語文法の知識をもっていること。

予め履修が望ましい科目 異文化理解I演習（ロシア語）bも合わせて受講することが望ましい。

教科書 黒田 龍之助「ロシア語文法への旅」（大学書林）

参考書 辞書は必要ありませんが、活用することで学習効果が上がります。例えば、木村 彰一ほか『ロシア語辞典』（博友社）を推薦します。

成績評価方法と基準 平常点30%、小テスト・課題30%、定期試験40%。

オフィスアワー 非常勤のため、連絡方法については初回のガイダンス時に説明します。

授業改善への工夫 英語や日本語の文法などと比較しながら、理解しやすい説明を心がけます。難しい文法事項については何度も基礎に立ち返りながら説明します。

7. 行き先の表し方：「向かっている／かよっている」の違い。「行ってきた」の表現。交通手段の表し方。
8. 生格の作り方。生格の使い方：所有「～の」、存在の否定「～がない、いない」。
9. 前置格の作り方。場所の表現。ся動詞の活用。
10. 与格の作り方。与格の使い方：間接目的「～に」。命令形の作り方。
11. 可能・必要・禁止の表現。状態の表現。
12. 曜日の名称、「～曜日に」の表現。未来の表現。「いる・ある」の未来の表現。
13. 数詞と名詞の結びつき。年齢・時間・値段・人数・回数

14. 造格の作り方。造格の使い方：道具・手段「～で」。「～とともに」の表現。

15. これまでの復習と応用。

学習課題（予習・復習） 授業に際して予習はさほど必要ありませんが、復習は必ずするようにしてください。

異文化理解Ⅰ基礎（スペイン語）a

Basic course in Foreign Studies Ia (Spanish)

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 伊藤ゆかり (非常勤講師)

授業の概要 文法事項を中心に授業を進め、スペイン語の基礎を学びます。身近な出来事をスペイン語で作文したり、スペイン語圏に関する文章を読んでいきます。

学習の目的 スペイン語は、約4億2千万人という膨大な数の話者を持ち、20カ国の公用語となっています。またアメリカ合衆国でもヒスパニック系の移民が激増し、その勢力も増してきています。この授業では、スペイン語圏の様々な文化を紹介しながら、スペイン語の基礎文法の習得を目標とします。

学習の到達目標

スペイン語の基礎的な文法事項を学び、現在時制を用いた自己表現ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,専門知識・技術,社会人としての態度,実践外国語力,感じる力、

考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ演習（スペイン語）aを同時に受講することが望ましい。

教科書 教科書：『スペイン語を学ぼうよ！改訂版』（朝日出版社）

参考書

推薦問題集：『とことんどリル スペイン語』（朝日出版社）

推薦辞書：『プログレッシブスペイン語辞典』（小学館）

成績評価方法と基準 定期試験（70%）、授業への参加度（30%）により総合的に評価する。

オフィスアワー 授業中に対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎スペイン語文法の習得

学習内容

- 第1回 スペイン語とスペイン語圏について
- 第2回 アルファベット、発音、アクセント
- 第3回 名詞と冠詞
- 第4回 主格人称代名詞とser動詞
- 第5回 形容詞、指示詞
- 第6回 疑問文、所有詞
- 第7回 estar動詞とhay
- 第8回 ser動詞、estar動詞、hayの使い分け
- 第9回 不定語と否定語

- 第10回 直説法現在 -ar動詞
- 第11回 疑問詞
- 第12回 直説法現在 -er動詞
- 第13回 直説法現在 -ir動詞
- 第14回 目的格人称代名詞
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 新しい語学を学ぶ場合は、復習の積み重ねが必要とされる。授業で学習したことを各自復習することを勧める。

異文化理解 I 基礎 (スペイン語) b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Spanish)

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 伊藤ゆかり (非常勤講師)

授業の概要 文法事項を中心に授業を進め、スペイン語の基礎を学びます。身近な出来事をスペイン語で作文したり、スペイン語圏に関する文章を読んでいきます。

学習の目的 スペイン語は、約4億2千万人という膨大な数の話者を持ち、20カ国の公用語となっています。またアメリカ合衆国でもヒスパニック系の移民が激増し、その勢力も増してきています。この授業では、スペイン語圏の様々な文化を紹介しながら、スペイン語の基礎文法の習得を目標とします。

学習の到達目標

スペイン語の基礎的な文法事項を学び、現在、過去、未来時制を用いた自己表現ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,専門知識・技術,社会人としての態度,実践外国語力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した

力

受講要件 異文化理解 I 基礎 (スペイン語) a を受講済みであることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 異文化理解 I 演習 (スペイン語) b を同時に受講することが望ましい。

教科書 教科書: 『スペイン語を学ぼうよ! 改訂版』 (朝日出版社)

参考書

推薦問題集: 『とことんどリル スペイン語』 (朝日出版社)

推薦辞書: 『プログレッシブスペイン語辞典』 (小学館)

成績評価方法と基準 定期試験 (70%)、授業への参加度 (30%) により総合的に評価する。

オフィスアワー 授業中に対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎スペイン語文法の習得

学習内容

- 第1回 前期に学んだ文法事項の復習
- 第2回 gustar型動詞
- 第3回 前置詞格人称代名詞
- 第4回 直説法現在 不規則動詞
- 第5回 直説法現在 不規則動詞と熟語
- 第6回 再帰動詞
- 第7回 無人称文
- 第8回 過去分詞と現在完了
- 第9回 現在分詞と現在進行形

第10回 直説法点過去 規則動詞

第11回 比較表現

第12回 直説法点過去 不規則動詞

第13回 直説法線過去

第14回 直説法未来

第15回 まとめ

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 新しい語学を学ぶ場合は、復習の積み重ねが必要とされる。授業で学習したことを各自復習することを勧める。

異文化理解 I 基礎 (ポルトガル語) a

Basic Course in Foreign Studies Ia (Portuguese)

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習
担当教員 重松 由美

授業の概要 この授業は、ブラジル・ポルトガル語を初めて学ぶ人を対象としており、初歩から学習していきます。まずは発音に慣れ、次に簡単な挨拶や身近な表現を学んでいきます。

学習の目的 日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育や医療分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。現場で用いられる基本的表現を理解し、またそれを応用するための知識を習得します。

学習の到達目標 ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、基本的な挨拶表現と現在時制を用いた自己表現ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 「異文化理解 I 演習」も合わせて受講することが望ましい。

発展科目 「異文化理解 I 演習」

教科書 『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美著、朝日出版社。

参考書

『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。

『ディリー一日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所。

成績評価方法と基準 小テスト20%、授業態度20%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 講師はスペイン語の知識もあるため、スペイン語学習者には両言語を比較しながら教えることができ、より効果的な授業を提供できます。

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語文法入門

Key Word(s) Introduction to Portuguese Grammar

学習内容

ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を習得できるように、多くの練習問題に取り組みます。

第1回 アルファベット、発音

第2回 挨拶表現、主語となる人称代名詞

第3回 動詞ser (職業の表現)、疑問文、否定文

第4回 動詞ser (出身地の表現)

第5回 名詞の性と数

第6回 指示詞、所有形容詞

第7回 動詞ter

第8回 形容詞

第9回 冠詞、定冠詞と前置詞deの縮合形

第10回 動詞estar (状態表現)

第11回 動詞estar (位置表現)

第12回 規則動詞の活用形

第13回 規則動詞の使い方 (頻度を表す表現)

第14回 動詞ir

第15回 疑問詞

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習)

・課題は必ずやってください。

・わからない点があった場合は、積極的に授業中に質問してください。

異文化理解 I 基礎 (ポルトガル語) a

Basic Course in Foreign Studies Ia (Portuguese)

学期 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学び、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けていく。前期はポルトガル語の文法に慣れて、簡単な表現を言えるようにする。

学習の目的 東海地方にはたくさんのブラジル人が住んでいるので、ブラジルポルトガル語は非常に身近な言語である。将来的にポルトガル語を使って簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語の初歩文法を学んでいく

学習の到達目標 簡単な自己紹介をポルトガ

ル語で説明できるようにする

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書 (電子辞書でも可)

成績評価方法と基準 定期試験 (9割)、授業態度 (小テスト含む) (1割)

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語

Key Word(s) Portuguese

学習内容

1. 履修に関するガイダンス
2. 文字と発音
3. 名詞の性数
4. 数字
5. SER動詞、疑問文と否定文
6. 形容詞
7. 指示詞、所有詞

8. 今までの復習
9. 規則動詞の活用
10. 前置詞
11. IR動詞、TER動詞
12. FAZER動詞、疑問詞
13. PODER動詞、QUERER動詞
14. 月日の表現
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題 (予習・復習) 基本的に課題を毎回出すので、必ずやってくることを。

異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習
担当教員 重松 由美

授業の概要 この授業は、ブラジル・ポルトガル語を初めて学ぶ人を対象としており、初歩から学習していきます。まずは発音に慣れ、次に簡単な挨拶や身近な表現を学んでいきます。

学習の目的 日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育や医療分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。現場で用いられる基本的表現を理解し、またそれを応用するための知識を習得します。

学習の到達目標 ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を学び、応用表現と過去時制を用いた自己表現ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ演習」も合わせて

受講することが望ましい。

予め履修が望ましい科目 「異文化理解Ⅰ基礎」

発展科目 「異文化理解Ⅰ演習」

教科書 『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美著、朝日出版社。

参考書

『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。

『デイリー日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所。

成績評価方法と基準 小テスト20%、授業態度20%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 講師はスペイン語の知識もあるため、スペイン語学習者には両言語を比較しながら教えることができ、より効果的な授業を提供できます。

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語文法入門

Key Word(s) Introduction to Portuguese Grammar

学習内容

ブラジルポルトガル語の発音と基礎的な文法事項を習得できるように、多くの練習問題に取り組みます。

第1回 estar動詞（状態）

第2回 estar動詞（場所）

第3回 現在進行形

第4回 直説法完全過去

第5回 時間表現

第6回 前置詞と指示詞の縮合形

第7回 再帰動詞

第8回 直説法完全過去の不規則活用動詞

第9回 不定代名詞・不定形容詞

第10回 直説法不完全過去

第11回 saberとconseguir

第12回 目的格人称代名詞

第13回 現在完了

第14回 比較級

第15回 まとめ

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習）

・課題は必ずやってください。

・わからない点があった場合は、積極的に授業中に質問してください。

異文化理解 I 基礎 (ポルトガル語) b

Basic Course in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学び、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けていく。後期は前期で学んだ文法事項を踏まえて、さらに発展した表現を覚えていく。

学習の目的 東海地方にはたくさんのブラジル人が住んでいるので、ブラジルポルトガル語は非常に身近な言語である。将来的にポルトガル語を使って簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語の初歩文法を学んでいく。

学習の到達目標 自分の行動や考えをポルト

ガル語で表現できるようにする

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書 (電子辞書でも可)

成績評価方法と基準 定期試験 (9割)、授業態度 (小テスト含む) (1割)

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語

Key Word(s) Portuguese

学習内容

1. 前期の復習
2. ESTAR動詞
3. 現在進行形
4. 時間表現
5. 完全過去形
6. 再帰動詞
7. 完全過去不規則動詞

8. 今までの復習
9. 不完全過去形
10. SABER動詞
11. 目的格人称代名詞
12. 現在完了
13. 比較級・最上級
14. 大きい数字
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題 (予習・復習) 基本的に課題を毎回出すので、必ずやってくることを。

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a

Seminar in Foreign Studies Ia (German A)

学期 前期 **開講時間** 火3,4;木1,2,3,4,7,8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程):1年次,2年次,3年次,4年次,5年次,6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義,演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 「三重大学教養教育履修案内」「教養教育授業科目時間割表」に記載のとおり

授業の概要 ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化と社会について学びつつ、ドイツ語の語彙や文法を習得します。

学習の目的

ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）のさまざまな文化的現象や社会的事件について学ぶことで、ドイツ語圏の文化や社会に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得することによって、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。

学習の到達目標

ドイツ語圏のさまざまな社会的事象やその文化的背景について、説明することができる。辞書を使って、ドイツ語のごく簡単な文章を読み、書くことができる。

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」を、指定されたクラスで、それぞれ週1回ずつ

受講してください。

発展科目 会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。そこに書かれていない場合は、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が授業中に紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が授業中に説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他 各クラスの受講者数を均一にするため、履修申告後にクラス分け（人数調整）を行います。調整結果は必ず確認して、指定された受講クラスを間違えないようにしてください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語とドイツ文化の初歩を総合的に学習します。

学習内容

ドイツ語を公用語とする国々の文化やものの見方、生活の仕方について、教員による解説や授業中に出される課題などをとおして学びます。

文化の学習と同時に、ドイツ語の基礎的な読解練習と文法練習も行います。文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験5級に対応する内容を6月までに習得することを目安とします。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b

Seminar in Foreign Studies Ib (German A)

学期 後期 **開講時間** 火3,4; 木1,2,3,4,7,8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」と同じ教員です。

授業の概要 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」に引き続き、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化と社会について学びつつ、ドイツ語の語彙や文法を習得します。

学習の目的

「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」に引き続き、さまざまな文化的事象について学ぶことをとおして、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項を習得し、さらに過去形や現在完了形まで学ぶことによって、ドイツ語の基礎的な表現力と読解力を身に付けます。

学習の到達目標

ドイツ語圏のさまざまな社会的事象やその文化的背景について、説明することができる。辞書を使って、ドイツ語の平易な文章を読み、書くことができる。

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b」を、指定されたクラスで、それぞれ週1回ずつ受講してください。「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」を履修していない学生は、この科目を受講することができません。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語とドイツ文化の初歩を総合的に学習します。

学習内容

「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」に引き続き、ドイツ語圏（ドイツ、スイス、オーストリアなど）の文化やものの見方、生活の仕方などについて、教員の説明や、授業中に出される課題などをおして学びます。文化の学習と同時に、ドイツ語の基礎的な読

解練習と文法練習も行います。文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験4級に対応する内容を11月前半までに習得することを目安とし、11月後半以降に初級ドイツ語の残りの範囲（過去形や現在完了形など）を学びます。

予め履修が望ましい科目 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」を必ず履修していること。

発展科目

2年次で、「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）」を履修してください。会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」と同じ教科書を引き続いて使用します。そうでない場合には、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が授業中に紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が授業中に説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a

Seminar in Foreign Studies Ia (German B)

学期 前期 **開講時間** 火3, 4; 木1, 2, 3, 4, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ または ユング ヨーハン

授業の概要 ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の文化と社会について学びつつ、簡単なドイツ語会話を練習します。

学習の目的

ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）のさまざまな文化的現象について学ぶことによって、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。

ドイツ語技能検定試験5級に対応する語彙と文法の知識を習得して、基礎的なドイツ語会話の能力を身につけます。

学習の到達目標

ドイツ語圏のさまざまな社会的現象やその文化的背景について説明することができる。
ドイツ語で簡単な自己紹介を行い、持ち物や家族について会話することができる。

本学教育目標との関連

 実践外国語力

受講要件 1クラスの受講者数は最大25名で、履修申告者数が制限人数を超えた場合、無作為抽選（人数調整）を行います。調整の結果、「ドイツ語B」を受講できない学生は、

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語圏の文化とドイツ語会話の基礎を学習します。

学習内容

ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス）の文化やものの見方、生活の仕方などについて、教員による説明や授業中に出される課題などをとおして学びます。
文化の学習と同時に、簡単なドイツ語会話の

「ドイツ語A」を受講してください。

発展科目 さらに会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。そこに書かれていない場合は、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他

会話授業では、能動的、積極的に授業に参加することが必要です。

授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

練習も行い、実際の場面でドイツ語を使うための基礎学力を養成します。文法や語彙については、ドイツ語技能検定試験5級に対応する内容を6月までに習得することを目安とします。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）b

Seminar in Foreign Studies Ib (German B)

学期 後期 **開講時間** 火3, 4; 木1, 2, 3, 4, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ または ユンゲ ヨーハン

授業の概要 ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化と社会について学びつつ、ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を養成します。

学習の目的

ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）のさまざまな文化的事象について学ぶことによって、ドイツ語圏の文化に対する理解を深めます。
ドイツ語技能検定試験4級に対応する文法事項を習得し、さらに過去形や現在完了形も学ぶことによって、ドイツ語の基礎的な表現力とリスニング能力を身につけます。

学習の到達目標

ドイツ語圏のさまざまな社会的事象やその文化的背景について説明することができる。
日常的な事柄について、平易なドイツ語で会話することができる。

本学教育目標との関連

 実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B）a」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a」を履修していない学生は、この科目を受講することができません。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語圏の文化とドイツ語会話の基礎を学習します。

学習内容

「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a」に引き続いて、ドイツ語圏（ドイツ・オーストリア・スイス）の文化やものの見方、生活の仕方、社会制度などについて、教員からの説明や授業中に与えられる課題などによって学びます。文化の学習と同時に、基礎的なドイツ語会話

発展科目

「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）」 「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）」
さらに会話を学びたい人は、「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）」を履修してください。

教科書 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B）a」と同じ教科書を引き続いて使用します。そうでない場合には、クラスの担当教員から説明があります。

参考書 クラスの担当教員が紹介します。

成績評価方法と基準 クラスの担当教員が説明します。

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

その他

会話授業では、能動的、積極的に授業に参加することが必要です。
授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

の練習も行い、実際の場面でドイツ語を使うための基礎学力を養成します。
文法や語彙については、11月前半までにドイツ語技能検定試験4級に対応する内容を習得することを目安とし、11月後半以降に初級ドイツ語の残りの範囲（過去形や現在完了形など）を学びます。

学習課題（予習・復習） クラスの担当教員が指示します。

異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a

Seminar in Foreign Studies Ia (French)

学期 前期 **開講時間** 木1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 グットマン ティエリー（人文学部）、ダメモ ジャン・フランソワ（非常勤講師）、山本 寛（人文学部）

授業の概要 入門フランス語会話の実践に加え、テキストの文字情報および必要に応じて他のメディアを用い、フランス文化に触れ、理解する。

学習の目的 初歩的な日常的フランス語を聞いて理解し話すことができるようになること。フランス文化のいくつかの側面に関して初歩的な知識を得ること。

学習の到達目標 異文化理解Ⅰ基礎aと並行して履修し、理解と習得と暗記が十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験5級合格程度の実力が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 『デビュー！フランス語初級』朝日出版社（表紙には「Début!」と書いてあります）。この教科書は異文化理解Ⅰ基礎aと共通して用います。

参考書

辞書については、まず教室で担当教員の指示を聞いてください。

その上で、必要に応じて以下の説明を参考にしてください。一年次だけならばデイリーコンサイス仏和・和仏辞典、または同程度のものがあれば十分でしょう。ポケットプログレッシブ仏和・和仏辞典は中上級用なので薦めません。辞書は古本でも役に立ちます。

二年以上フランス語を学ぶつもりの方はクラウン仏和中辞典、または同程度のものを買っても良いでしょう。クラウンには和仏イ

ンデックスがあって簡単な和仏辞典の役を果たします。仏和辞典を収録した電子辞書も便利です。

成績評価方法と基準 期末テスト等80点、平常点（積極的な授業参加等）20点。5回以上欠席の場合、仮に期末試験を受験しても出席不足で不合格とすることがある。正当な事由は考慮する。

オフィスアワー

グットマン（人文校舎3階）：木曜日14時40分～16時10分

ダメモ：至急の要件は山本まで

山本寛（人文校舎2階）：月・火・木の昼休み
メールの連絡も受け付けます

その他

人文学部と教育学部は木5・6限（人文学部文化学科はグットマン、人文学部法律経済学科と教育学部はダメモ）、医学部は木1・2限（医学科はグットマン、看護学科は山本）、工学部は木7・8限（山本）、生物資源学部は木3・4限（山本）です。自分の学部（学科）のクラスで前期と後期を通して履修してください。

再履修者と編入学生はどのクラスでも構いません。

医学部看護学科、工学部、生物資源の学生で、フランス人担当のクラスで学びたい人は、自分の学部（学科）のクラスの代わりに、木曜日1・2限の医学部医学科クラス、木曜日5・6限の人文学部・教育学部2クラス、これら3クラスのうちから自由に一つ選んで登録してください。

授業計画・学習の内容

キーワード フランスの文化 フランス語圏 フランス語会話

Key Word(s) French culture, "Franco-

phonie", French conversation

学習内容

教科書冒頭のフランスについてのクイズ、フ

フランス語のアルファベットから始め、1課から7課までの Dialogue および Culture と題された部分を、1課につき授業2回のペースを基本にして学びます。

1課 会話：自己紹介、文化：美術

2課 会話：知っているもの、存在するものと言う文化：映画

3課 会話：人物を形容する、家族のことを言う文化：音楽

4課 会話：予定について話す文化：建築

5課 会話：最近のこと、出身地について話す文化：美食

6課 会話：希望について話す、天気や時刻について話す文化：ファッション

7課 会話：一日の予定文化：写真

まとめ メールを読む、返事を書く文化：
トゥールーズの街 (1)

学習課題（予習・復習） 教室で担当教員が説明します。

異文化理解Ⅰ演習（フランス語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (French)

学期 後期 **開講時間** 木 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習
担当教員 グットマン ティエリー (人文学部)、ダメモ ジャン・フランソワ (非常勤講師)、山本 寛 (人文学部)

授業の概要 基礎フランス語会話の実践に加え、テキストの文字情報および必要に応じて他のメディアを用い、フランスとフランス語圏の文化に触れ、理解する。

学習の目的 基礎的かつ日常的なフランス語を聞いて理解し話すことができるようになること。フランス文化のいくつかの側面とフランス語圏に関して初歩的な知識を得ること。

学習の到達目標 異文化理解Ⅰ基礎bと並行して履修し、理解と習得と暗記が十分であれば、文部省認定実用フランス語検定試験4級合格程度の実力が得られます。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）aと異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a、またはフランス語Ⅰ文法（前）とフランス語Ⅰ講読（前）を受講済であること。もしくはは仏検5級程度の能力があること。

予め履修が望ましい科目

異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a

異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a

発展科目 異文化理解Ⅱ演習（フランス語）a

教科書 『デビュー！フランス語初級』朝日出版社（表紙には「Début!」と書いてあります）。この教科書は異文化理解Ⅰ基礎bと共通して用います。

授業計画・学習の内容

キーワード フランスの文化 フランス語圏 フランス語会話

Key Word(s) French culture, "Franco-phonie", French conversation

参考書 辞書については異文化理解Ⅰ演習（フランス語）aの説明を参照してください。

成績評価方法と基準 期末テスト等80点、平常点（積極的な授業参加等）20点。5回以上欠席の場合、仮に期末試験を受験しても出席不足で不合格とすることがある。正当な事由は考慮する。

オフィスアワー

グットマン（人文校舎3階）：木曜日14時40分～16時10分

ダメモ：至急の要件は山本まで

山本寛（人文校舎2階）：月・火・木の昼休み
メールの連絡も受け付けます

その他

人文学部と教育学部は木5・6限（人文学部文化学科はグットマン、人文学部法律経済学科と教育学部はダメモ）、医学部は木1・2限（医学科はグットマン、看護学科は山本）、工学部は木7・8限（山本）、生物資源学部は木3・4限（山本）です。自分の学部（学科）のクラスで前期と後期を通して履修してください。

再履修者と編入学生はどのクラスでも構いません。

医学部看護学科、工学部、生物資源の学生で、フランス人担当のクラスで学びたい人は、自分の学部（学科）のクラスの代わりに、木曜日1・2限の医学部医学科クラス、木曜日5・6限の人文学部・教育学部2クラス、これら3クラスのうちから自由に一つ選んで登録してください。

学習内容

教科書の8課から13課までの Dialogue および Culture と題された部分を、1課につき授業2回ないし3回のペースを基本にして全体を14回で学び、15回目はまとめとします。

8課 会話：誘う、勧める 文化：観光
9課 会話：日常の行動 文化：大学
10課 会話：過去のことを話す (1) 文化：宗教
11課 会話：過去のことを話す (2) 文化：フランス、フランス人、フランコフォニー
12課 会話：経験や希望を聞く 文化：フランス

における日本
13課 会話：未来のことを話す 文化：日本におけるフランス
まとめ メールを読む、返事を書く 文化：トゥールーズの街 (2)

学習課題（予習・復習） 教室で担当教員が説明します。

異文化理解Ⅰ演習（中国語）a

Seminar in Foreign Studies I a (Chinese)

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 福田和展（人文学部）

湯浅陽子（人文学部）

花尻奈緒子（人文学部特任教員）

曾若涵（人文学部特任教員）

荒井茂夫（非常勤講師）

広中一成（非常勤講師）

胡蓉（非常勤講師）

祖建（非常勤講師）

授業の概要 単語や表現をキーワードに、中国或いは中国語圏の国についての地理、文化、経済、政治など幅広い知識を身につけてゆく。また、日中間の文化的な差異が現れる言語表現について、実際の会話を通して学ぶ。授業は共通の教科書を使用する。

学習の目的 中国語の背景にある中国の文化や社会についての知識を獲得する。

学習の到達目標 中国語圏の国についての地理、文化、経済、政治など幅広い知識の習得。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養

受講要件 大学入学以前に中国語を学習し、中級レベル以上の中国語能力を有する者、中国語圏からの留学生、日常的に中国語を使用している者は履修出来ない。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語圏の文化、社会、人々の暮らし

学習内容

授業は共通の教科書に沿って行われる。

第1課 中国語とは何か？方言と普通話 中国語が使用される国と地域

第2課 ピンインと注音字母

第3課 繁体字と簡体字(中国の文字文化) 関連会話 関連表現

発展科目 異文化理解Ⅱ演習（中国語） 異文化理解Ⅱ総合（中国語）

教科書 2015 パイロットテキスト 中国語圏のことばと文化

参考書 授業で指定

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%、前期期末統一試験の結果 50%

なお、中国語検定準4級取得も単位認定の参考とする。

オフィスアワー

授業・会議以外の全ての時間。事前にてメールにてアポイントをとること。

メールアドレスは教養教育履修案内「異文化理解」のページを参照すること。

その他 教科書は必ず最新版を購入すること。予習復習をしっかりとしよう。

第4課 中国人の姓名 親族呼称 関連会話 関連表現

第5課 中国の気候風土 関連会話 関連表現

第6課 中国の食文化 関連会話 関連表現

第7課 中国の茶文化 関連会話 関連表現

第8課 中国の経済1 関連会話 関連表現

第9課 中国の経済2 関連会話 関連表現

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明

異文化理解Ⅰ演習（中国語）b

Seminar in Foreign Studies I b (Chinese)

学期 後期 **開講時間** 木 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習

担当教員 福田和展（人文学部）

湯浅陽子（人文学部）

花尻奈緒子（人文学部特任教員）

曾若涵（人文学部特任教員）

荒井茂夫（非常勤講師）

広中一成（非常勤講師）

胡蓉（非常勤講師）

祖建（非常勤講師）

授業の概要 単語や表現をキーワードに、中国或いは中国語圏の国についての地理、文化、経済、政治など幅広い知識を身につけてゆく。また、日中間の文化的な差異が現れる言語表現について、実際の会話を通して学ぶ。授業は共通の教科書を使用する。

学習の目的 中国語の背景にある中国の文化や社会についての知識を獲得する。

学習の到達目標 中国語圏の国についての地理、文化、経済、政治など幅広い知識の習得。

本学教育目標との関連 幅広い教養

受講要件 大学入学以前に中国語を学習し、中級レベル以上の中国語能力を有する者、中

国語圏からの留学生、日常的に中国語を使用している者は履修出来ない。

発展科目 異文化理解Ⅱ演習（中国語）、異文化理解Ⅱ総合（中国語）

教科書 パイロットテキスト 中国語圏のことばと文化

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%、前期期末統一試験の結果50%

なお、中国語検定準4級取得も単位認定の参考とする。

オフィスアワー 授業・会議以外の全ての時間。事前にメールにてアポイントをとること。メールアドレスは教養教育履修案内「異文化理解」のページを参照すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語圏の分解、社会、人にとの暮らし

学習内容

第10課 中国の家庭 関連会話 関連表現

第11課 助数詞と中国文化 関連会話 関連表現

第12課 台湾の人と社会 関連会話 関連表現

第13課 漫画と中国語（オノマトペ日中比較）

関連購読 関連表現

第14課 華僑華人 関連購読 関連表現

第15課 多民族社会としての中国 関連購読 関連表現

異文化理解Ⅰ演習（朝鮮語） a Seminar in Foreign Studies Ia (Korean)

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 有吉 登美子

授業の概要 まず文字（ハングル）を習得し、その後文章を講読する。短いエッセーを題材にし、学生の自発的なプレゼンテーションにより授業を進める。読了後にはレポートを求める。

学習の目的

文字（ハングル）を覚えるとともに、言語の膠着構造を理解する。それとともに講読するエッセーを通して韓国についての知識を得るとともに韓国人のものの考え方について理解する。

学習の到達目標 韓国語が膠着語であることを理解し、辞書を引いて文章を読めるようになる。講読のエッセーに描かれた韓国社会や韓国人を理解するとともに自国の現状にも目を向ける姿勢を確立する。

授業計画・学習の内容

キーワード ハングルの覚えよう／韓国語は膠着語

Key Word(s)

Let's learn the Korean alphabet
Korean is an agglutinative language

学習内容

- 第1回 ガイダンス／韓国語及びハングルについて
- 第2回 基本的な母音字母とその発音
- 第3回 基本的な子音字母とその発音（Ⅰ）
- 第4回 〃（Ⅱ）
- 第5回 無声子音の有声音化
- 第6回 発展形の母音字母とその発音（Ⅰ）
- 第7回 発展形の子音字母とその発音
- 第8回 発展形の母音字母とその発音（Ⅱ）
- 第9回 パッチムとその発音
- 第10回 連音化（Ⅰ）
- 第11回 連音化（Ⅱ）／講読用のプリント配布

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

プリントを配布する。
辞書「朝鮮語辞典」小学館

成績評価方法と基準 授業への積極的参加 20%、プレゼンテーション50%、レポート 30%（合計が60%以上で合格）

オフィスアワー 毎週火曜日 12:00～13:00 非常勤講師室

授業改善への工夫 できるだけ学生の要望を取り入れ柔軟に対応する。

その他 プリントの講読に入ったら、必ず辞書を引いて予習してくること。

辞書の引き方及び辞書の用語の説明、韓国語の構造について
第12回 プリント講読〈韓国人の感情表現〉韓国語の膠着形態に注目しながら用言の上称終結形を中心に学ぶ。日本人とはおおいに異なる韓国人の感情表現について学ぶ。
第13回 〃
第14回 〈夢占い〉用言の下称終結形を中心に学ぶ。占いが韓国人の日常にどう根づいているかについて考察する。
第15回 〃
第16回 〃

学習課題（予習・復習）

ハングルの習得段階に於いては随時小テストを実施する。
講読に於いてはとりあげたテーマにそって必要な文献を配布する。テキストの内容と併せて考察しレポートに反映することを求める。

異文化理解 I 演習 (朝鮮語) b

Seminar in Foreign Studies Ib (Korean)

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選択/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 有吉 登美子

授業の概要

前期に続き後期は短い小説やエッセーを講読する。文法説明に加え、背後の文化等についても解説する。

学生の自発的なプレゼンテーションにより授業を進める。作品ごとにレポートを求める。

学習の目的 多様な表現を学ぶとともに同時に作品に登場する人物を通してかれらを取りまく韓国という社会についても理解を深める。

学習の到達目標 言語構造の類似から単なる言葉の置きかえに陥りやすいが、そうではなく日本語らしい日本語で表現できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 実践外国語力, 感じる力, 考える力、

授業計画・学習の内容

キーワード 韓国語な、あまりに韓国的な

Key Word(s) Just Korean style

学習内容

第1回 「食事を共にするということ」連体形・時制を中心に学ぶ。食事を共にするということに対する韓国人の真摯さを読み取る。なぜここまで真摯になれるのかについて歴史・文化的な考えを紹介しながら考察する。

第2回 //

第3回 //

第4回 //

第5回 //

第6回 「この花をおかあさんに」さまざまな接続語尾を中心に学ぶ。韓国に於ける母親について娘の視点から読む。日本の母親と比べてどうか、社会での家族の中での、また娘を含む子供にとってのといった、いろんな立ち位置の母親について考察する。

第7回 //

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 前期の同科目を履修済みであること、あるいは同等の学力があること。

教科書

プリントを配布する。

辞書「朝鮮語辞典」小学館

成績評価方法と基準 授業への積極的参加 20%、プレゼンテーション 50%、レポート 30% (合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 毎週火曜日 12:00~13:00 非常勤講師室

授業改善への工夫 できるだけ学生の要望を取り入れ柔軟に対応する。

その他 必ず辞書を引いて予習しておくこと。積極的にプレゼンテーションすること。

第8回 //

第9回 //

第10回 「ソレおばさん」引用表現を中心に学ぶ。ほとんどが親戚という村で生きる女性に求められる生き方から韓国のムラ社会について考察する。

第11回 //

第12回 //

第13回 //

第14回 「彼女はきれいだった」同年輩の男女の自然な会話で用いられる終結語尾を中心に学ぶ。足の不自由な男性とつきあう女性...二人のとった行動を通して韓国人のものの考え方について考察する。

第15回 //

第16回 //

学習課題 (予習・復習) テキストに取りあげたいいくつかのテーマに関わる情報や文献をプリントで配布する。テキストの内容と併せて考察しレポートに反映することを求める。

異文化理解I演習（ロシア語） a

Seminar in Foreign Studies Ia (Russian)

学期 前期 開講時間 水7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 山路 明日太

授業の概要 異文化について理解を深めるための糸口として、ロシアの文化と社会について親しむことを目的とする。初等文法を活用しながら、ロシア語の会話や購読に慣れ親しんでいく。また、プリント・音声・映像資料なども用いながらロシア社会の特徴やロシア人の国民性についても学んでいく。

学習の目的 ロシア文化との関わりを端緒として、異文化にたいする興味関心をふかめ、偏見を払拭するとともに他者に対して開かれた精神を獲得し、他者の視点から自文化をみつめる精神をやしなう。自文化と比較しながら他国の社会文化や異国の国民性を学ぶことをとおして、自国の現状や国際関係についてみずから考える視座を獲得する。ロシア語の習得をとおして、異文化間コミュニケーションの能力もきたえる。

学習の到達目標 ロシア社会の特徴を知り、ロシア人の国民性について理解する。文法の授業で学んだロシア語の知識を定着させ、会話能力を養い、文章を読めるようになる。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討

論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 異文化理解I基礎（ロシア語）aも合わせて受講することが望ましい。

教科書 ミレル他『むかし、むかし... 初学者向けロシア語28課』（Миллер и др. Жили-были... 28 уроков русского языка для начинающих. Учебник.）（日ソ図書）。

参考書 辞書は自ら選んでもらって構いませんが、木村彰一ほか『ロシア語辞典』（博友社）を推薦します。

成績評価方法と基準 平常点30%、小テスト・課題40%、定期試験30%。

オフィスアワー 非常勤のため、連絡方法については初回のガイダンス時に説明します。

授業改善への工夫 適宜、音声・映像資料なども用いながら、ロシア文化に触れてもらいたいと思います。また、語学練習では学生の積極的な取り組みを促します。

授業計画・学習の内容

キーワード ロシア、ロシア語、コミュニケーション、異文化理解

Key Word(s) Russia, Russian language, Communication, Cross-cultural understanding

学習内容

1. ロシア語の特性。ロシアから入った日本語、日本から入ったロシア語。語学練習：アルファベット。
2. ロシア人の名前の特徴、愛称、父称。語学練習：ロシア文字の発音練習、自己紹介。
3. ロシア人の家族観。家族関係の親密さ。語学練習：発音練習、「これは～です」。

4. ロシア人の友人観。ロシア人の「友人と他人」の関係と日本の「内と外」との比較。ヴィソツキーの歌を参考に。語学練習：発音練習、挨拶、「～の...です」。
5. ロシア人の祖国愛。祝祭日にみられる戦争記念日の重要性。プーシキンやレールモンツフの詩を参考に。語学練習：発音練習、挨拶、「～は...ですか？」。
6. ロシア人の恋愛観。贈り物の習慣。ヴィソツキーやプガチョーワの歌とともに。語学練習：発音練習、「～の名前は何かといいますか？」「～はどういう人ですか？」。
7. ロシア人の結婚観。結婚式当日の展開について。語学練習：発音練習、「調子はいかが

ですか？」。

8. ロシア人の夫婦生活、親子関係。語学練習：発音練習、「これは何ですか?」「これは～です」、複数形の作り方。

9. ロシアの教育制度。語学練習：「～について教えてください」、様々な疑問と応答。

10. ロシアにおける兵役。語学練習：国名・～人・～語、国についての説明。

11. ロシア語の言い回しに見られるロシア人の運命論的思考。語学練習：「～語を勉強する」「～語で話す」、ある人物についての説明の仕方。

12. ロシア人とお酒 (1)。酒を飲むときの

マナー。語学練習：「あなたは何をしているの?」「私は～をしています」。

13. ロシア人とお酒 (2)。お酒をめぐる小話。語学練習：家族をめぐる説明と会話。

14. ロシア人の迷信深さ (1)。様々なタブー。語学練習：「～してもいいですか?」「どのように読みますか?」

15. ロシア人の迷信深さ (2)。精や悪魔を想定した様々な言い回し。語学練習：副詞を用いた表現。

学習課題 (予習・復習) 語学学習では、復習が最も大切です。毎回出される宿題に取り組むことによって、学習効果が上がります。

異文化理解I演習（ロシア語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Russian)

学期 後期 開講時間 水7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 山路 明日太

授業の概要 異文化について理解を深めるための糸口として、ロシアの文化と社会について親しむことを目的とする。前期に引きつづき、文法を活用しながら、ロシア語の会話や購読に慣れ親しんでいく。また、プリント・音声・映像資料なども用いながらロシアの社会・文化やロシア人の国民性についても学んでいく。

学習の目的 ロシア文化との関わりを端緒として、異文化にたいする興味関心をふかめ、偏見を払拭するとともに他者に対して開かれた精神を獲得し、他者の視点から自文化をみつめる精神をやしなう。自文化と比較しながら他国の社会文化や異国の国民性を学ぶことをとおして、自国の現状や国際関係についてみずから考える視座を獲得する。前期に引きつづき、ロシア語の習得をとおして、異文化間コミュニケーションの能力もきたえる。

学習の到達目標 ロシアの社会・文化について知り、ロシア人の国民性について理解する。文法の授業で学んだロシア語の知識を定着させ、会話能力を養い、文章を読めるようになる。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実

践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解演習（ロシア語）aを履修済みであること、または、同程度の文法・コミュニケーション能力を有していること。

予め履修が望ましい科目 異文化理解I基礎（ロシア語）bも合わせて受講することが望ましい。

教科書 ミレル他『むかし、むかし... 初学者向けロシア語28課』（Миллер и др. Жили-были... 28 уроков русского языка для начинающих. Учебник). (日ソ図書)。

参考書 辞書は自ら選んでもらって構いませんが、木村彰一ほか『ロシア語辞典』（博友社）を推薦します。

成績評価方法と基準 平常点30%、小テスト・課題40%、定期試験30%。

オフィスアワー 非常勤のため、連絡方法については初回のガイダンス時に説明します。

授業改善への工夫 適宜、音声・映像資料なども用いながら、ロシア文化に触れてもらいたと思います。また、語学練習では学生の積極的な取り組みを促します。

授業計画・学習の内容

キーワード ロシア、ロシア語、コミュニケーション、異文化理解

Key Word(s) Russia, Russian language, Communication, Cross-cultural understanding

学習内容

1. ガイダンス。ロシア人の宗教観（1）。ロシア正教。語学練習：「～をください」「～を見せてください」「だれの...」、所有代名詞を用いた表現。
2. ロシア人の宗教観（2）。ロシア正教の教

会建築。語学練習：「どんな～」、形容詞を用いた表現。

3. ロシア人の宗教観（3）。イコン（聖像画）。語学練習：助動詞を用いた表現、「～したい」「～できる」「～しなければならない」。

4. ロシア人の仕事観（1）。人気の職業は？語学練習：助動詞を用いた表現、「～曜日に...する」、「なぜ...ですか」「なぜなら...だからです」。

5. ロシア人の仕事観（2）。仕事に対する意識。諺に表れた仕事観。語学練習：復習、

「これはだれ?」「これはなに?」「だれの...?」「どんな?」「どのように?」などの表現の復習。

6. ロシア人の仕事観 (3)。プロフェッショナルリズム。語学練習:「...は~を持っています」、「~を...する」、対格の表現。

7. ロシア人の食生活 (1)。パンの重要性。語学練習:「...が好きだ」「...を食べる」「...を飲む」。

8. ロシア人の食生活 (2)。乳製品、きのこ類。お茶の習慣。語学練習:「すみませんが、...はどこにありますか?」。

9. ロシア人の食生活 (3)。レストラン、カフェ、食堂などの位置づけとコース料理。語学練習:場所の表現、「~で勉強している」「~に...がある」。

10. モスクワの都市の成り立ち。語学練習:

電話での対応、過去形を用いた表現。

11. ペテルブルグの都市の成り立ち。語学練習:「~を見る」、手紙・メールの書き方。

12. ロシア人の小話・笑い話好きについて。語学練習:「気分が悪い」「私は...が痛い」、未来の表現。

13. ロシア映画について。語学練習:「...には~がない」という表現法。

14. ロシアアニメ (1)。ロシア版「くまのプーさん」。語学練習:「~には...が気に入っている」の表現、数詞。

15. ロシアアニメ (2)。ユーリ・ノルシュテインの作品。語学練習:「これはいくらですか?」。

学習課題 (予習・復習) 語学学習では、復習が最も大切です。毎回出される宿題に取り組むことによって、学習効果が上がります。

異文化理解Ⅰ演習（スペイン語）a

Seminar in Foreign Studies Ia (Spanish)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 伊藤ゆかり (非常勤講師)

授業の概要 テキストの会話文を読んで重要表現を学び、それを盛り込んだ会話文を各自作成し練習します。会話の内容は、日常会話、仕事、旅行、留学先で役立つように、実践的な場面を設定していきます。また、一ヶ月に一回、スペイン文化の授業を設け、異文化理解に努めます。

学習の目的 スペイン語は、3億5千万人という膨大な話者を持ち、スペイン、南米、アフリカの20カ国の公用語になっています。さらには、近年日本においても在日南米人が増加し、それに伴い小中学校や地方自治体などでスペイン語によるコミュニケーションの需要が高まっています。この授業では、スペイン語圏の様々な文化を紹介しながら、スペイン語の基礎会話を学び、コミュニケーション力を養うことを目標とします。

学習の到達目標

スペイン語圏の文化を学びつつ、簡単なスペイン語の日常会話と作文ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎スペイン語会話の習得とスペイン文化の紹介

学習内容

- 第1回 <文化>イントロダクション
- 第2回 第2課 主格人称代名詞と ser 動詞
- 第3回 会話の読みと訳
- 第4回 会話作成
- 第5回 <文化>スペイン語について
- 第6回 第3課 estar と hay
- 第7回 会話の読みと訳
- 第8回 会話作成
- 第9回 <文化>スペインの祝祭日

主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎（スペイン語）aを同時に受講することが望ましい。

教科書 教科書：『スペイン語を学ぼうよ！改訂版』（朝日出版社）

参考書

推薦問題集：『とことんドリル スペイン語』（朝日出版社）

推薦辞書：『プログレッシブスペイン語辞典』（小学館）

成績評価方法と基準 定期試験（70%）、授業への参加度（30%）により総合的に評価する。

オフィスアワー 授業中に対応する。

その他 昼休みにスペイン語圏の文化紹介ビデオをかけます。興味のある方は参加してください。

第10回 第4課 直説法現在規則動詞

第11回 会話の読みと訳

第12回 会話作成

第13回 <文化>スペインの歴史

第14回 第5課 直説法現在不規則動詞

第15回 会話の読みと訳

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 授業中に各自会話を作成し、常時質問に答えられるようにします。正しいスペイン語を書いてみましょう。後日添削して返却します。作成した会話は必ず提出してください。

異文化理解Ⅰ演習（スペイン語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Spanish)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 伊藤ゆかり (非常勤講師)

授業の概要 テキストの会話文を読んで重要表現を学び、それを盛り込んだ会話文を各自作成し練習します。会話の内容は、日常会話、仕事、旅行、留学先で役立つように、実践的な場面を設定していきます。また、一ヶ月に一回、スペイン文化の授業を設け、異文化理解に努めます。

学習の目的 スペイン語は、3億5千万人という膨大な話者を持ち、スペイン、南米、アフリカの20カ国の公用語になっています。さらには、近年日本においても在日南米人が増加し、それに伴い小中学校や地方自治体などでスペイン語によるコミュニケーションの需要が高まっています。この授業では、スペイン語圏の様々な文化を紹介しながら、スペイン語の基礎会話を学び、コミュニケーション力を養うことを目標とします。

学習の到達目標

スペイン語圏の文化を学びつつ、簡単なスペイン語の日常会話と作文ができるようになります。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,専門知識・技術,社会人としての態度,実践外国語力,感じる力、

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎スペイン語会話の習得とスペイン文化の紹介

学習内容

- 第1回 <文化>スペインの美術 (1)
- 第2回 第6課 gustar 型動詞
- 第3回 会話の読みと訳
- 第4回 会話作成
- 第5回 <文化>スペインの美術 (2)
- 第6回 第7課 再帰動詞
- 第7回 会話の読みと訳
- 第8回 会話作成
- 第9回 <文化>スペインの建築

考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ演習（スペイン語）aを受講済みであることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎（スペイン語）bを同時に受講することが望ましい。

教科書 教科書：『スペイン語を学ぼうよ！改訂版』（朝日出版社）

参考書

推薦問題集：『とことんドリル スペイン語』（朝日出版社）

推薦辞書：『プログレッシブスペイン語辞典』（小学館）

成績評価方法と基準 定期試験（70%）、授業への参加度（30%）により総合的に評価する。

オフィスアワー 授業中に対応する。

その他 昼休みにスペイン語圏の文化紹介ビデオをかけます。興味のある方は参加してください。

- 第10回 第8課 現在完了
- 第11課 会話の読みと訳
- 第12課 会話作成
- 第13課 <文化>スペインの文学
- 第14課 点過去
- 第15課 会話の読みと訳
- 第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 授業中に各自会話を作成し、常時質問に答えられるようにします。正しいスペイン語を書いてみましょう。後日添削して返却します。作成した会話は必ず提出してください。

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語） a

Seminar in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 重松 由美

授業の概要 この授業は、異文化理解の一環としてブラジル文化に親しむことを目的とし、DVDやインターネット上の映像を用いて、ブラジルの歴史や現状、そして在日ブラジル人コミュニティについて学んでいきます。また文法の授業で学んだ知識をもとにして、状況設定した日常会話の練習、シャドーイング、台詞の暗記を行います。

学習の目的 ブラジルの文化や社会についての知識を深めるとともに、ブラジルと日本との歴史的背景そして在日ブラジル人の現状を知ることにより、日本や世界で起きている事象に対しての多角的な思考を養うことを目的とします。また、ポルトガル語の習得を通して、異文化間コミュニケーション能力を高めめます。

学習の到達目標 ブラジル文化・社会や在日ブラジル人の現状に関する基礎知識を身につけます。言語学習については、基本的な日常会話を習得し、簡単な文章を辞書を使って理解できるようになります。

授業計画・学習の内容

キーワード ブラジル文化、異文化理解、ブラジル・ポルトガル語会話

Key Word(s) Brazilian Culture, Cross-Cultural Understanding, Portuguese Conversation

学習内容

状況を設定した日常会話の練習を繰り返し行い、基礎的な会話力を身に付けていきます。また、テーマに沿って作文も書いてもらいます。

第1回 ブラジルの文化紹介「ポルトガル語を公用語としている国と地域」

語学練習：アルファベット、発音：「～はポルトガル語で何といいますか？」

第2回 ブラジルの文化紹介「挨拶の仕方」

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎」も合わせて受講することが望ましい。

教科書 『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美著、朝日出版社。

参考書

『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。

『ディリール日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所。

成績評価方法と基準 小テスト20%、授業態度20%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 講師はスペイン語の知識もあるため、スペイン語学習者には両言語を比較しながら教えることができ、より効果的な授業を提供できます。

語学練習：挨拶表現

第3回 ブラジルの文化紹介「歴史の概要」

語学練習：名詞の性と数、数字（0～30）：「ポルトガル語で算数」

第4回 ブラジルの文化紹介「祝日」

語学練習：動詞ser：「私は～（名前・職業）です」

第5回 ブラジルの文化紹介「地方都市Ⅰ」

語学練習：動詞ser：「私は～出身です」

第6回 ブラジルの文化紹介「音楽（ボサノヴァ、ショーロ、セルタネージョ）」

語学練習：形容詞、所有形容詞、指示詞：「～は誰ののですか？」

第7回 ブラジルの文化紹介「スポーツ、ワールドカップ2014」

語学練習：直説法現在の規則動詞：「私は～

することが好きです（自己紹介）」

第8回 ブラジルの文化紹介「教育システム」

語学練習：直説法現在の規則動詞：「どれくらい～しますか？（頻度を表す表現）」

第9回 ブラジルの文化紹介「現在の家族スタイル」

語学練習：動詞ter：「家族紹介」

第10回 ブラジルの文化紹介「食文化」

語学練習：動詞fazer：「私は今日の午後～をします」

第11回 ブラジルの文化紹介「若者の生活スタイル」

語学練習：動詞ir：「1週間の予定」

第12回 ブラジルの文化紹介「日系移民」

語学練習：動詞poder：「～してもいいですか？」

第13回 ブラジルの文化紹介「有名な日系ブラジル人」

語学練習：動詞querer：「～しませんか？」

第14回 在日ブラジルの現状「デカセギ」

語学練習：月日と曜日の表現：「誕生日はいつですか？」

第15回 ブラジルの文化紹介「観光するための豆知識」

語学練習：まとめ

第16回 定期試験

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語）a

Seminar in Foreign Studies Ia (Portuguese)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学んだうえで、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けましょう。特に単語や動詞の活用がたくさん覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行います。またブラジルの社会や文化に関する知識も同時に紹介していきます。

学習の目的 特に東海地方に多く住んでいるブラジル人と簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、またコミュニケーションの助けとなるようブラジルについての知識や情報を紹介して学んでいく。

学習の到達目標 文法の授業で学んだ事項を使って、会話練習を行う。またブラジルにつ

いての知識を理解していく。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）を受講していること

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書（電子辞書でも可）

成績評価方法と基準 定期試験（8割）、レポート（1割）、授業態度（1割）

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語、ブラジル、ブラジル文化

Key Word(s) Portuguese, Brazil, Brazilian culture

学習内容

異文化理解基礎で学んだ事項をもとに、会話練習を行う。

1. 履修に関するガイダンス／ポルトガル語の特徴
2. 文字と発音／ポルトガルとブラジルのポルトガル語の違い
3. 名詞の性数／日本語とポルトガル語の関係
4. 数字／ブラジルの地理
5. SER動詞、疑問文と否定文／ブラジル南東部

6. 形容詞／ブラジル中西部
7. 指示詞、所有詞／ブラジル南部
8. 今までの復習
9. 規則動詞の活用／ブラジル北東部
10. 前置詞／ブラジル北部
11. IR動詞、TER動詞／ブラジル移民について
12. FAZER動詞、疑問詞／在日ブラジル人について
13. PODER動詞、QUERER動詞／ブラジルの教育制度
14. 月日の表現／ブラジルの歴史、経済、政治
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 教科書を読んで、きちんと予習復習をすること

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語） a

Seminar in Foreign Studies Ia (Portuguese)

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学んだうえで、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けましょう。特に単語や動詞の活用がたくさん覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行います。またブラジルの社会や文化に関する知識も同時に紹介していきます。

学習の目的 特に東海地方に多く住んでいるブラジル人と簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、またコミュニケーションの助けとなるようブラジルについての知識や情報を紹介して学んでいく

学習の到達目標 文法の授業で学んだ事項を使って、会話練習を行う。またブラジルについての知識を理解していく。

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語、ブラジル、ブラジル文化

Key Word(s) Portuguese, Brazil, Brazilian culture

学習内容

異文化理解基礎で学んだ事項をもとに、会話練習を行う。

1. 履修に関するガイダンス／ポルトガル語の特徴
2. 文字と発音／ポルトガルとブラジルのポルトガル語の違い
3. 名詞の性数／日本語とポルトガル語の関係
4. 数字／ブラジルの地理
5. SER動詞、疑問文と否定文／ブラジル南東部

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）を受講していること

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書（電子辞書でも可）

成績評価方法と基準 定期試験（8割）、レポート（1割）、授業態度（1割）

その他 初回の講義で受講調整をする可能性あり

6. 形容詞／ブラジル中西部
7. 指示詞、所有詞／ブラジル南部
8. 今までの復習
9. 規則動詞の活用／ブラジル北東部
10. 前置詞／ブラジル北部
11. IR動詞、TER動詞／ブラジル移民について
12. FAZER動詞、疑問詞／在日ブラジル人について
13. PODER動詞、QUERER動詞／ブラジルの教育制度
14. 月日の表現／ブラジルの歴史、経済、政治
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 教科書を読んで、きちんと予習復習をすること

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習 担当教員 重松 由美

授業の概要 この授業は、異文化理解の一環としてブラジル文化に親しむことを目的とし、DVDやインターネット上の映像を用いて、ブラジルの歴史や現状、そして在日ブラジル人コミュニティについて学んでいきます。また文法の授業で学んだ知識をもとにして、状況設定した日常会話の練習、シャドーイング、台詞の暗記を行います。

学習の目的 ブラジルの文化や社会についての知識を深めるとともに、ブラジルと日本との歴史的背景そして在日ブラジル人の現状を知ることにより、日本や世界で起きている事象に対しての多角的な思考を養うことを目的とします。また、ポルトガル語の習得を通して、異文化間コミュニケーション能力を高めめます。

学習の到達目標 ブラジル文化・社会や在日ブラジル人の現状に関する基礎知識を身につけます。言語学習については、基本的な日常会話を習得し、簡単な文章を辞書を使って理解できるようになります。

授業計画・学習の内容

キーワード ブラジル文化、異文化理解、ブラジル・ポルトガル語会話

Key Word(s) Brazilian Culture, Cross-Cultural Understanding, Portuguese Conversation

学習内容

状況を設定した日常会話の練習を繰り返し行い、基礎的な会話力を身に付けていきます。また、テーマに沿って作文も書いてもらいます。

第1回 ブラジルの文化紹介「社会保障」
語学練習：動詞estar：「～が痛いです」（体調表現）

第2回 ブラジルの文化紹介「経済成長率（BRICS）」

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、実践外国語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ基礎」も合わせて受講することが望ましい。

教科書 『ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美著、朝日出版社。

参考書

『現代ポルトガル語辞典改訂版』池上岑夫他編、白水社。

『ディリール日葡英・葡日英辞典』三省堂編修所。

成績評価方法と基準 小テスト20%、授業態度20%、期末試験60%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 講師はスペイン語の知識もあるため、スペイン語学習者には両言語を比較しながら教えることができ、より効果的な授業を提供できます。

語学練習：動詞estar：「～はどこにありますか？」

第3回 ブラジルの文化紹介「地方都市Ⅱ」
語学練習：現在進行形：「～しているところです」

第4回 ブラジルの文化紹介「ショッピング事情」

語学練習：動詞quererとpoder（ショッピングでの会話）：「試着したいのですが。」

第5回 ブラジルの文化紹介「日本文化（日本食ブーム、アニメ）」

語学練習：直説法完全過去：「昨日～しました」

第6回 ブラジルの文化紹介「NOVELA（ドラマ）」

語学練習：直説法完全過去：「～したことが」

ありますか？」

第7回 ブラジルの文化紹介「音楽Ⅱ (MPB)」
語学練習：再帰動詞（一日の行動を表現しよう）

第8回 ブラジルの文化紹介「日系移民と文学」
語学練習：直説法完全過去の不規則活用動詞
（過去の旅行について語ろう）

第9回 在日ブラジル人の現状（リーマンショック後）

語学練習：直説法不完全過去：「小さい頃は～していました」

第10回 口頭発表

第11回 ブラジルの文化紹介「映画Ⅰ」

語学練習：目的格人称代名詞：「私は君に～をプレゼントします」、現在完了：「最近～

しています」

第12回 ブラジルの文化紹介「映画Ⅱ」
語学練習：直説法完全過去の不規則活用動詞
（自分の伝記を書いてみよう）

第13回 ブラジルの文化紹介「宗教、クリスマス」

語学練習：比較級（身の回りにあるものを比較してみよう）

第14回 ブラジルの文化紹介「カポエイラと奴隷制度」

語学練習：数字（101～1.000）（買い物をしてみよう）

第15回 ブラジルの文化紹介「カーニバル」

語学練習：手紙を書いてみよう

第16回 定期試験

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習
担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学んだうえで、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けましょう。特に単語や動詞の活用がたくさん覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行います。またブラジルの社会や文化に関する知識も同時に紹介していきます。

学習の目的 特に東海地方に多く住んでいるブラジル人と簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、またコミュニケーションの助けとなるようブラジルについての知識や情報を紹介して学んでいく。

学習の到達目標 文法の授業で学んだ事項を

使って、会話練習を行う。またブラジルについての知識を理解していく。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、討論・対話力、実践外国語力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）を受講していること

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書（電子辞書でも可）

成績評価方法と基準 定期試験（8割）、レポート（1割）、授業態度（1割）

授業計画・学習の内容

キーワード ブラジルポルトガル語の初歩会話

Key Word(s) Basic Conversation in Brazilian Portuguese

学習内容

動詞の活用や単語をできるだけ覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行う。

授業の展開は以下の通り。

第1回：前期の復習

第2回：estar動詞を使った表現

第3回：現在進行形を使った表現

第4回：完全過去形を使った表現

第5回：時間表現

第6回：再帰動詞を使った表現

第7回：今までの復習

第8回：不完全過去形を使った表現

第9回：「できる」を表す動詞を使った表現

第10回：目的格人称代名詞を使った表現

第11回：現在完了を使った表現

第12回：比較級を使った表現

第13回：命令形

第14回：今までの復習

第15回：今までの復習

第16回：定期試験

学習課題（予習・復習） 覚えた表現の理解度を知るために、随時簡単な文章やレポートを書いてもらう。

異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語）b

Seminar in Foreign Studies Ib (Portuguese)

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必修 選択必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 瀧藤 千恵美(非常勤講師)

授業の概要 ブラジルで話されているポルトガル語の基礎文法を学んだうえで、コミュニケーションに必要な最低限の知識を付けましょう。特に単語や動詞の活用がたくさん覚えられるよう、パターンプラクティスを多く行います。またブラジルの社会や文化に関する知識も同時に紹介していきます。

学習の目的 特に東海地方に多く住んでいるブラジル人と簡単なコミュニケーションが取れるように、ポルトガル語での会話練習を行い、またコミュニケーションの助けとなるようブラジルについての知識や情報を紹介して学んでいく。

学習の到達目標 文法の授業で学んだ事項を使って、会話練習を行う。またブラジルについての知識を理解していく。

授業計画・学習の内容

キーワード ポルトガル語、ブラジル、ブラジル文化

Key Word(s) Portuguese, Brazil, Brazilian culture

学習内容

異文化理解基礎で学んだ事項をもとに、会話練習を行う。

1. 履修に関するガイダンス／ポルトガル語の特徴
2. 文字と発音／ポルトガルとブラジルのポルトガル語の違い
3. 名詞の性数／日本語とポルトガル語の関係
4. 数字／ブラジルの地理
5. SER動詞、疑問文と否定文／ブラジル南東部

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語）を受講していること

教科書 『Vamos falar português! ブラジル・ポルトガル語を話そう!』重松由美 朝日出版社

参考書 ポ和辞書（電子辞書でも可）

成績評価方法と基準 定期試験（8割）、レポート（1割）、授業態度（1割）

その他 初回の講義で受講調整をする可能性あり

6. 形容詞／ブラジル中西部
7. 指示詞、所有詞／ブラジル南部
8. 今までの復習
9. 規則動詞の活用／ブラジル北東部
10. 前置詞／ブラジル北部
11. IR動詞、TER動詞／ブラジル移民について
12. FAZER動詞、疑問詞／在日ブラジル人について
13. PODER動詞、QUERER動詞／ブラジルの教育制度
14. 月日の表現／ブラジルの歴史、経済、政治
15. 今までの復習
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 教科書を読んで、きちんと予習復習をすること

異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (German A)

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵

授業の概要 ドイツ語テキスト（グリム童話）の講読により中級程度のドイツ語力を養う。練習問題により、受動態、関係代名詞、接続法などの文法事項を習得する。グリム童話の文化的背景についても、発表やグループ課題等を通して学ぶ。

学習の目的 ドイツ語の文法を全般的に理解する。辞書を使って、ある程度複雑なドイツ語の文章を読む事ができるようになる。グリム童話の成立背景や童話の中のモチーフ等について学ぶことを通して、ドイツの歴史と文化について幅広い知識を得る。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語、ドイツ文化

学習内容

グリム童話をもとにしたドイツ語の読解教材を使用して、読解の練習を行う。

グリム童話の成立史や時代背景、童話に出てくるモチーフ等についても演習形式で学ぶ。

文法についての説明や練習も適宜行い、一回生時に習得していない文法事項を全て学習す

学習の到達目標 辞書を使って、ある程度複雑なドイツ語の文章を読む事ができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解基礎／演習 1

教科書 授業中に指示する。

参考書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 課題提出、期末試験

る。（進度の目安は下記参照）

1～3 現在完了までの復習

4～6 形容詞、比較

7～9 関係代名詞

10～12 受動態

13～15 接続法

学習課題（予習・復習） 毎回予習が必要である。

異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (German A)

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 菅 利恵 (人文学部)

授業の概要 実践的なドイツ語能力を養いながらドイツの文化や社会について学習する。ドイツのニュースサイト "Deutsche Welle" (<http://www.dw-world.de/>) が提供しているドイツ語学習用のニュース素材をおもな教材とし、ニュース素材や関連する文献を読解する。さらにトピックについての討論や発表を行う。

学習の目的 現代ドイツとヨーロッパのさまざまな時事問題や文化について幅広く知識を得る。読解練習を通して、実践的なドイツ語能力を身につける。

学習の到達目標 ドイツ文化の諸相について知見を得るとともに、中級程度のドイツ語の読解力を身につける。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語、ドイツ文化、現代ドイツ事情

学習内容

Deutsche Welleの提供するニュース素材の講読を中心として授業を進める。取り上げるニュース素材のトピックは、おもに「ドイツの日常生活」「ドイツと国際社会」「現代ドイツの若者」「移民社会ドイツ」「現代ドイツの児童文学」等を考えてい

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 共通教育のドイツ語Ⅰを修得していること。

予め履修が望ましい科目 共通教育ドイツ語Ⅰ

教科書 プリント配布

参考書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 課題への取り組みと、期末試験で評価する。

るが、参加者の関心も考慮しながら決めていきたい。

ニュース素材以外に、取り上げたトピックに関連するテキストや映像作品をあつかうこともある。

一つ一つのトピックについて知見を深めるため、討論や発表の時間も作る。

学習課題（予習・復習） 参加者は毎回予習が必要である。

異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (German)

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 山崎 明日香

授業の概要 ドイツ語の基礎コミュニケーション能力をさらに発展させます。

学習の目的 挨拶や買い物、場所をたずねる表現など、生活や旅行のための会話に重点をおきます。授業は基本的にドイツ語で行いますが、場合によっては日本語と英語で補足説明を行います。受講者自身もパートナー練習や雑談において、積極的にドイツ語で話すことが求められています。

学習の到達目標 挨拶や買い物、場所をたずねる表現など、生活や旅行のための会話に重点をおきます。

本学教育目標との関連 実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

※ 会話練習を中心に行いますので、授業への毎回の積極的な参加が求められます。継続して参加できる方のみ履修登録を行い、受講してください。

※ 毎回の課題の遂行と提出が可能なこと。

教科書

『Menschen A1.2 Kursbuch Mit DVD-Rom』
(ドイツ語) Huber社、2012年。8.49ユーロ、
ISBN：978-3-19-501901-9

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語のコミュニケーション能力を伸ばします。

学習内容 発話を重視するため、小グループにわかれての会話練習を行います。授業時間

※ 目次と内容の見本は下記のウエブサイトからご覧になれます。受講レベルに応じているかどうか、ご確認ください。

目次：

https://shop.hueber.de/media/hueber_dateien/Internet_Inhaltsverz/Red1/9783195019019_Inhalt.pdf

内容：

https://shop.hueber.de/media/hueber_dateien/Internet_Muster/Red1/9783195019019_Muster_1.pdf

参考書 クラスの担当教員が指示します。

成績評価方法と基準

※ 中間テスト（会話）（20%）

※ 学期末テスト（個別の口頭試問 + 筆記テスト）（40%）

※ 平常点（40%）

※ 毎回の授業への取り組みや熱意、さらに課題の提出も評価点に加えます。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも効果的です。自宅学習の手段については、担当教員にご相談ください。授業ではパートナー練習が中心となります。そのため、予習を必要とする場合は、必ず事前に行った上で授業に臨んでください。

内に簡単な書き取り、聴き取りの練習も行います。ドイツの芸術や歴史などに親しみながら、映画やメディア、またサブカルチャーも含めた最新の文化事情にも触れます。

異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (German B)

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選必 選択

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山崎 明日香

授業の概要 ドイツ語の基礎コミュニケーション能力をさらに発展させます。

学習の目的

前期と同じく、挨拶や買い物、場所をたずねる表現など、生活や旅行のための会話に重点をおきます。また、図表やグラフを口頭で説明する練習や、議論において自分の意見を述べる練習も採り入れます。

授業は基本的にドイツ語で行いますが、場合によっては日本語と英語で補足説明を行います。受講者自身もパートナー練習や雑談において、積極的にドイツ語で話すことが求められています。

学習の到達目標 生活や旅行のためのドイツ語が使えるようになるだけでなく、議論において自分の意見を述べたり図表や状況を説明するなど、高度なドイツ語表現を運用できることを目標とします。

本学教育目標との関連 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

※ 会話練習を中心に行いますので、授業への毎回の積極的な参加が求められます。継続して参加できる方のみ履修登録を行い、受講してください。

※ 毎回の課題の遂行と提出が可能なこと。

教科書

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語のコミュニケーション能力を伸ばす。

学習内容 発話を重視するため、小グループにわかれての会話練習や、簡単な書き取り、

『Menschen A1.2 Kursbuch Mit DVD-Rom』（ドイツ語）Huber社、2012年。8.49ユーロ、ISBN：978-3-19-501901-9

※ 目次と内容の見本は下記のウエブサイトからご覧になれます。受講レベルに応じているかどうか、ご確認ください。

目次：

https://shop.hueber.de/media/hueber_dateien/Internet_Inhaltsverz/Red1/9783195019019_Inhalt.pdf

内容：

https://shop.hueber.de/media/hueber_dateien/Internet_Muster/Red1/9783195019019_Muster_1.pdf

参考書 クラスの担当教員が指示します。

成績評価方法と基準

※ 中間テスト（会話）（20%）

※ 学期末テスト（1分間の暗唱によるスピーチ＋筆記テスト）（40%）

※ 平常点（40%）

※ 毎回の授業への取り組みや熱意、さらに課題の提出も評価点に加えます。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも効果的です。授業ではパートナー練習が中心となります。そのため、予習を必要とする場合は、必ず事前に行った上で授業に臨んでください。

聴き取り練習を行います。ドイツの芸術・歴史・文化に親しみながら、授業を進めます。また受講者からの提案があれば、それを授業に採り入れる場合があります。

異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）

Seminar in Foreign Studies II (German A)

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 1 対象 人文学部文化学科 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業 担当教員 大河内 朋子 (人文学部)

授業の概要

ドイツ語テキストを読むことにより、中級程度の語彙、文法、よく使われる表現パターンなどの習得を目指します。

ドイツの人々の暮らしや考え方、文化や社会について基礎的な知識を獲得します。

学習の目的

中級程度の語彙、文法、よく使われる表現パターンなどを習得します。

ドイツ事情について基礎的な知識を獲得します。

学習の到達目標

初級後半～中級レベルのドイツ語テキストを正確に読むことができる。

ドイツの日常生活や文化について基礎的な知識をもっている。

授業計画・学習の内容

キーワード 初級後半～中級レベルのドイツ語テキストを読みます。

学習内容

ドイツの人々の暮らしや考え方、文化や社会について書かれたテキストを読みます。

テキストに関連する文法事項について、練習問題によって習得します。

前期（第1～15回）のトピック（予定）

1.労働契約

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 共通教育「ドイツ語Ⅰ基礎（前）」「ドイツ語Ⅰ基礎（後）」「ドイツ語Ⅰ演習（前）」「ドイツ語Ⅰ演習（後）」を履修していること

発展科目 人文学部専門科目「ドイツ文学演習」「ドイツ語学演習」「ドイツ語作文」

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。

成績評価方法と基準 初回の授業時に説明します。

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室

- 2.サイン
- 3.部屋の暖房
- 4.買い物客と店員
- 5.授業中の生徒の態度
- 6.答案の書き方
- など

学習課題（予習・復習） 必ず予習してから授業に望むこと

異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）

Seminar in Foreign Studies II (German A)

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 大河内 朋子（人文学部）

授業の概要

ドイツ語テキストを読むことにより、中級程度の語彙、文法、よく使われる表現パターンなどの習得を目指します。

ドイツの人々の暮らしや考え方、文化や社会について基礎的な知識を獲得します。

学習の目的

中級程度の語彙、文法、よく使われる表現パターンなどを習得する。

ドイツ事情について基礎的な知識を獲得する。

学習の到達目標

中級レベルのドイツ語テキストを正確に読むことができる。

ドイツの日常生活や文化について基本的な知

識をもっている。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 前期開講の「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）」を履修していること

発展科目 人文学部専門科目「ドイツ文学演習」「ドイツ語学演習」「ドイツ語作文」

教科書 未定（生協の教科書販売の一覧表で確認してください）

成績評価方法と基準 初回の授業時に説明します。

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 中級レベルのドイツ語テキストを読みます。

学習内容

ドイツの人々の暮らしや考え方、文化や社会について書かれたテキストを読みます。

作文や穴埋めなどの練習問題により、中級程度のドイツ語力を養います。

後期（第1～15回）のトピック（予定）

1. トイレのノック
2. 割り勘
3. 時間感覚
4. 保守と革新など

学習課題（予習・復習） 必ず予習してから授業に望むこと

異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）

Seminar in Foreign Studies II (German B)

学期 前期 **開講時間** 水 5, 6 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒヤエラ

授業の概要 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を確かなものにし、さらに運用力を伸ばします。

学習の目的 ドイツ語の聴解・発音・表現能力を向上させます。

学習の到達目標 ドイツ語で日常的コミュニケーションができ、簡単な学問的テーマについて話せる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「ドイツ語Ⅰ会話A (前)」「ドイツ語Ⅰ会話A (後)」「ドイツ語Ⅰ会話B (前)」「ドイツ語Ⅰ会話B (後)」

発展科目

後期開講の「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語

B）」と「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）」人文学部専門科目「ドイツ語会話F」及び「ドイツ語作文D」

教科書 studio [21].A2.1.Das Deutschbuch. (Cornelsen) ISBN: 978-3-06-520587-0

参考書 独和辞典、和独辞典

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

授業改善への工夫 学生と教師間の会話だけでなく、隣の受講生とペアを組んで対話します。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語会話の運用力を伸ばします。

学習内容

Sachtexte verstehen

Termine machen

Landeskunde

über Sprachen und Migration sprechen

eigene Biografie

Städte und Länder vergleichen

über Familie sprechen

Fotos und Personen beschreiben

jemanden beglückwünschen/einladen

über eine Reise sprechen

Fahrpläne lesen

eine Reise planen und buchen

eine Zugfahrt organisieren

学習課題（予習・復習） 前回の復習；新しい単語の暗記

異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）

Seminar in Foreign Studies II (German B)

学期 後期 開講時間 水5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒヤエラ

授業の概要 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を確かなものにし、さらに運用力を伸ばします。

学習の目的 ドイツ語の聴解・発音・表現能力を向上させます。

学習の到達目標 ドイツ語で日常的コミュニケーションができ、平易な学問的テーマについて話せる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 前期開講の「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）」と「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）」

発展科目 人文学部専門科目「ドイツ語会話

C」「ドイツ語会話D」「ドイツ語作文A」「ドイツ語作文B」

教科書 studio [21].A2.1.Das Deutschbuch. (Cornelsen) ISBN: 978-3-06-520587-0

参考書 独和辞典、和独辞典

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー クラスの担当教員が授業中に案内します。

授業改善への工夫 学生と教師間の会話だけでなく、隣の受講生とペアを組んで対話します。

その他 授業外でテレビやラジオのドイツ語番組を視聴したり、インターネットのサイトを活用することも有益です。自宅学習の手段については、担当教員に相談してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語会話の運用力を伸ばします。

学習内容

über Hobbys und Interessen sprechen
positiv/negativ oder überrascht auf etwas reagieren

Emotionen ausdrücken und verstehen

über Vereine sprechen

über Medien sprechen

eine Grafik verstehen und auswerten
kurze Mitteilungen schreiben
auf eine Reklamation reagieren
Freizeit: sagen, worauf man Lust hat
eine Speisekarte lesen
etwas im Restaurant bestellen
über Kontakte sprechen

学習課題（予習・復習） 前回の復習；新しい単語の暗記

異文化理解Ⅱ総合（フランス語）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (French)

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井出 勉（非常勤講師）

授業の概要 異文化理解の一環として、現代のフランスについて、わかりやすく書かれた時事フランス語の文章を講読する。学生の理解度に応じて、テキスト以外の新聞・雑誌記事等を抜粋し講読するが、DVDなども随時使い、フランス文化に親しんでもらう。

学習の目的 フランス文化との関わりを端緒として、アメリカ文化とは違うヨーロッパ文化という異文化への関心を養い深めてもらう。中級程度のフランス語で書かれた文章の理解を通して、正確な音読を習得し、異文化コミュニケーションに役立ててもらおう。

学習の到達目標 フランス文化を概観することで、現代フランスの現状や歴史的背景及びその問題点について理解する。フランス語に関しては、フランス語検定試験3級・準2級程度の文法力、語彙力、および読解力を習得する。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ文法前・後）と異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ講読前・後）を受講してあること。ないしは実用フランス語技能検定試験

（仏検）4級以上に相当する能力を有すること（4級以上の取得者ならば1年生でも受講を認める）。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎および演習（フランス語）（ないしはフランス語Ⅰ文法および講読）

発展科目 後期に開講される「異文化理解Ⅱ総合」

教科書 加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2015年度版』朝日出版社

参考書 授業中に随時紹介

成績評価方法と基準 期末試験60%（16回目に試験を行う）、平常点40%（授業中の読み、訳、質疑応答、受講態度など）で総合的に評価する。

オフィスアワー

授業前、授業後に対応。

至急の場合の連絡窓口は人文学部・山本寛（kakusan@human.mie-u.ac.jp）。

授業改善への工夫 一方的な講義にならないように努めたい。また、学生個々の能力を高め、活発な質疑応答ができる雰囲気を作るよう努力したい。

その他 前期と後期を通して受講することを勧める。また、異文化理解Ⅱ演習（フランス語）と並行して受講することを勧める。

授業計画・学習の内容

キーワード フランス、フランス文化、フランス語、異文化理解

Key Word(s) France, French Culture, French, Foreign Studies

学習内容

第1回～3回 「先生、ありがとう!」：インターネットでの24時間視聴可能なフランスの

テレビ局。

第4回～5回 「ラ・フォル・ジュルネ」：1995年以来続く、5日間のクラシック音楽の熱狂的な祭典。

第6回～7回 「メイド・イン・フランス」：フランス発祥の企業への理解。

第8回～9回 「フランスの高級ブランド」：高級ブランドとして知られるフランスのメー

カーの紆余曲折。

第10回～11回 「ル・ルレー」：古着のリサイクル回収ボックスとその人道的活動。

第12回～13回 「ワートルロー」：その名はナポレオンの敗戦地として有名だが、数々のその名にちなんだ場所の由来を通してイギリスとの関係を理解する。

第14回～15回 「モン・サン・ミシェル」：モン・サン・ミシェルの歴史とその小島が抱える環境問題。

第16回 期末試験

学習課題（予習・復習） テキスト付属のCDを繰り返し聞き、音読して下さい。また、十分な予習をして授業に臨んで下さい。

異文化理解Ⅱ総合（フランス語）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (French)

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 井出 勉（非常勤講師）

授業の概要 異文化理解の一環として、現代のフランスについて、わかりやすく書かれた時事フランス語の文章を講読する。学生の理解度に応じて、テキスト以外の新聞・雑誌記事等を抜粋し講読するが、DVDなども随時使い、フランス文化に親しんでもらう。

学習の目的 フランス文化との関わりを端緒として、アメリカ文化とは違うヨーロッパ文化という異文化への関心を養い深めてもらう。中級程度のフランス語で書かれた文章の理解を通して、正確な音読を習得し、異文化コミュニケーションに役立ててもらおう。

学習の到達目標 フランス文化を概観することで、現代フランスの現状や歴史的背景及びその問題点について理解する。フランス語に関しては、フランス語検定試験3級・準2級程度の文法力、語彙力、および読解力を習得する。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ文法前・後）と異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ講読前・後）を受講してあること。ないしは実用フランス語技能検定試験

（仏検）4級以上に相当する能力を有すること（4級以上の取得者ならば1年生でも受講を認める）。

予め履修が望ましい科目

前期の異文化理解Ⅱ総合（フランス語）および異文化理解Ⅱ演習（フランス語）

（ないしは前期のフランス語Ⅱ講読および会話）

教科書 加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2015年度版』朝日出版社

参考書 授業中に随時紹介

成績評価方法と基準 期末試験60%（16回目に試験を行う）、平常点40%（授業中の読み、訳、質疑応答、受講態度など）で総合的に評価する。

オフィスアワー

授業前、授業後に対応。

至急の場合の連絡窓口は人文学部・山本寛（kakusan@human.mie-u.ac.jp）。

授業改善への工夫 一方的な講義にならないように努めたい。また、学生個々の能力を高め、活発な質疑応答ができる雰囲気を作るよう努力したい。

その他 前期と後期を通して受講することを勧める。また、異文化理解Ⅱ演習（フランス語）と並行して受講することを勧める。

授業計画・学習の内容

キーワード フランス、フランス文化、フランス語、異文化理解

Key Word(s) France, French culture, French, Foreign Studies

学習内容

第1回～3回「夏時間」：フランスのサマータイムの問題点。

第4回～5回「女性シェフ」：美食の国フランスにおける女性料理人の進出とその歴史的問題。

第6回～7回「凱旋門賞」：フランス競馬の現状

第8回～9回「政教分離」：カトリックの国におけるイスラム教とその問題。

第10回～11回「ルーヴル美術館ランス分

館」：美術館の分館化とその問題。

第12回～13回 「フランスのヨガ」：心身の調和を求めるヨガと、より宗教色の強いゼンの理解を通して見る東洋と西洋。

第14回～15回 「メープルシロップ」：メープルシロップを通して、カナダのフランス語圏

ケベック州とフランスの関係を考える。

第16回 期末試験

学習課題（予習・復習） テキスト付属のCDを繰り返し聞き、音読してください。また、十分な予習をして授業に臨んでください。

異文化理解Ⅱ演習（フランス語）

Seminar in Foreign Studies II (French)

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 ダメム ジャン・フランソワ

授業の概要 フランス人教員と日常フランス語中級会話を学ぶことを通して、異文化コミュニケーションのスキルを増し、異文化理解を深める。機会があれば映画も利用する。

学習の目的 フランス人教員との平易な対話を通して会話の力を伸ばすとともに、フランス人の対人関係の在り方、ものの考え方を知る。フランス語の文法と語彙の知識とともに、その実践的応用力も伸ばす。

学習の到達目標 後期も引き続き異文化理解Ⅱ演習（フランス語）bを履修した場合、理解と修得と暗記が十分であれば、フランス語検定試験3級程度に相当する会話能力が得られます。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ文法前・後）と異文化理解Ⅰ演習（フランス語）a・b（または

フランス語Ⅰ講読前・後）を受講してあること。ないしは実用フランス語技能検定試験（仏検）4級以上に相当する能力を有すること（4級以上の取得者ならば1年生でも受講を認める）。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎および演習（フランス語）（ないしはフランス語Ⅰ文法および講読）

発展科目 後期の異文化理解Ⅱ演習（フランス語）

教科書 教室で担当教員が指示します。

成績評価方法と基準 期末テスト等80点、平常点（積極的な授業参加等）20点。5回以上欠席の場合、仮に期末試験を受験しても出席不足で不合格とすることがある。正当な事由は考慮する。

オフィスアワー 授業前、授業後に対応。至急の場合の連絡窓口は人文学部・山本覚（kakusan@human.mie-u.ac.jp）。

授業計画・学習の内容

キーワード 中級フランス語会話 異文化コミュニケーション

Key Word(s) intermediate French conversation, cross-cultural communication

学習内容

- 01-02回目 注文する、依頼する
- 03-04回目 質問する
- 05-06回目 人について質問する

07-08回目 好みについて話す

09-10回目 健康について話す、人に勧める

11-12回目 行先について話す

13-14回目 時に関する表現

15回目 まとめ

受講生の能力等に配慮して、進度と内容を適宜変更することがある。

学習課題（予習・復習） 教室で担当教員が説明します。

異文化理解Ⅱ演習（フランス語）

Seminar in Foreign Studies II (French)

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 ダメモ ジャン・フランソワ

授業の概要 フランス人教員と日常フランス語中級会話を学ぶことを通して、異文化コミュニケーションのスキルを増し、異文化理解を深める。機会があれば映画も利用する。

学習の目的 フランス人教員との平易な対話を通して会話の力を伸ばすとともに、フランス人の対人関係の在り方、ものの考え方を知る。フランス語の文法と語彙の知識とともに、その実践的応用力も伸ばす。

学習の到達目標 前期から引き続き異文化理解Ⅱ演習（フランス語）を履修した場合、理解と修得と暗記が十分であれば、フランス語検定試験3級程度に相当する会話能力が得られます。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ文法前・後）と異

文化理解Ⅰ演習（フランス語）a・b（またはフランス語Ⅰ講読前・後）を受講してあること。ないしは実用フランス語技能検定試験（仏検）4級以上に相当する能力を有すること（4級以上の取得者ならば1年生でも受講を認める）。

予め履修が望ましい科目 異文化理解Ⅰ基礎および演習（フランス語）（ないしはフランス語Ⅰ文法および講読）

教科書 教室で担当教員が指示します

成績評価方法と基準 期末テスト等80点、平常点（積極的な授業参加等）20点。5回以上欠席の場合、仮に期末試験を受験しても出席不足で不合格とすることがある。正当な事由は考慮する。

オフィスアワー 授業前、授業後に対応。至急の場合の連絡窓口は人文学部・山本寛（kakusan@human.mie-u.ac.jp）。

授業計画・学習の内容

キーワード 中級フランス語会話 異文化コミュニケーション

Key Word(s) intermediate French conversation, cross-cultural communication

学習内容

01-02回目 意思に関する表現、天候に関する表現

03-04回目 時刻について話す、年齢に関する表現

05-06回目 時に関する表現（頻度、期間）

07-08回目 約束する

09-11回目 したことについて話す

12-14回目 していること、したかったことについて話す

15回目 まとめ

受講生の能力等に配慮して、進度と内容を適宜変更することがある。

学習課題（予習・復習） 教室で担当教員が説明します。

異文化理解Ⅱ総合（中国語）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (Chinese)

学期 前期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 荒井 茂夫

授業の概要 中国語で書かれたトピックを通して中国を理解する

学習の目的 中国語の読解力を向上させ、中国に関する情報を言語で扱えるようにする

学習の到達目標 中国語の新聞や雑誌記事を読めるようにする

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読を履修していること

発展科目 異文化理解Ⅲ応用（中国ABC）

教科書 中国の窓

参考書 授業中に指示する

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%

試験 50%

オフィスアワー 授業日終日

授業改善への工夫 自発的学習の誘導

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語長文読解

学習内容 前期：1、授業進行の説説明と中国文化について2、第1課3、第2課4、第3課5、第6課6、第7課7、第8課8、第9課9、第10課

10、第11課11、第12課12、第13課14、第15課
後期：1、第16課2、第17課3、第18課4、第19課5、第20課6、第21課7、第22課8、第23課9、第24課10、第25課11、第26課12、第27課14、第28課15、第29課

異文化理解Ⅱ総合（中国語）

Comprehensive Course in Foreign Studies II (Chinese)

学期 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 荒井 茂夫

授業の概要 中国語で書かれたトピックを通して中国を理解する

学習の目的 中国語の読解力を向上させ、中国に関する情報を言語で扱えるようにする

学習の到達目標 中国語の新聞や雑誌記事を読めるようにする

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

受講要件 中国語Ⅰ文法、中国語Ⅰ講読を履修していること

発展科目 異文化理解Ⅲ応用（中国語ABC）

教科書 中国の窓

参考書 授業中に指示する

成績評価方法と基準

授業への積極的参加 50%

試験 50%

オフィスアワー 授業日終日

授業改善への工夫 自発的学習の誘導

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語長文読解

学習内容 前期：1、授業進行の説説明と中国文化について2、第1課3、第2課4、第3課5、第6課6、第7課7、第8課8、第9課9、第10課

10、第11課11、第12課12、第13課14、第15課
後期：1、第16課2、第17課3、第18課4、第19課5、第20課6、第21課7、第22課8、第23課9、第24課10、第25課11、第26課12、第27課14、第28課15、第29課

異文化理解Ⅱ総合(中国語)

Comprehensive Course in Foreign Studies II (Chinese)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語講読

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読

学習の目的 中国語読解能力の養成

学習の到達目標 中国語検定試験3級レベルの読解力の達成

発展科目 異文化理解Ⅲ応用(中国語ABC)

本学教育目標との関連 実践外国語力

教科書 听听说说

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読履修済みの者。

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語長文読解

『留学計画』をテーマにした文章を読む。これらのテーマに即して、中国の大学、中国の大学生活、中国の景勝地などを紹介していく。

学習内容 『自己紹介』、『私たちの大学』、『学生生活』、『友達』、『私の趣味』、

異文化理解Ⅱ総合(中国語)

Comprehensive Course in Foreign Studies II (Chinese)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語講読

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読

学習の目的 中国語読解能力の養成

学習の到達目標 中国語検定試験3級レベルの読解力の達成

発展科目 異文化理解Ⅲ応用(中国語ABC)

本学教育目標との関連 実践外国語力

教科書 听听说说

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読履修済みの者。

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語長文読解

ル』をテーマにした文章を読む。これらのテーマに即して、中国人の生活、中国人の食事、中国の方言、中国の少数民族などを紹介していく。

学習内容 『中国の朝』、『中国の食事』、『買い物』、『祝日』、『方言』、『内モンゴ

異文化理解Ⅱ演習(中国語)

Seminar in Foreign Studies II (Chinese)

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語会話練習

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ演習 中国語Ⅰ講読

学習の目的 中国語会話能力の養成

学習の到達目標 中国語検定試験3級レベルの会話、聞き取り能力の達成

発展科目 異文化理解Ⅲ応用(中国語ABC)

本学教育目標との関連 実践外国語力

教科書 中国語つぎへの一歩

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読履修済みの者。

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語中級会話

学習内容 会話練習のテーマは、それぞれ『中国に行こう』、『ジャスミン茶を飲もう』、『友達を作ろう』、『長城に登ろう』

『卓球を楽しもう』、『漢字を覚えよう』。これらのテーマに即して、中国への渡航、中国茶、万里の長城、卓球などを紹介していく。

異文化理解Ⅱ演習(中国語)

Seminar in Foreign Studies II (Chinese)

学期 後期 開講時間金 3,4 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語会話練習

受講要件 中国語Ⅰ文法 中国語Ⅰ講読履修済みの者

学習の目的 中国語会話能力の養成

発展科目 異文化理解Ⅲ応用(中国語ABC)

学習の到達目標 中国語検定試験3級レベルの会話、聞き取り能力の達成

教科書 中国語つぎへの一步

本学教育目標との関連 実践外国語力

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語中級会話

学習内容 会話練習のテーマは、それぞれ『街を歩こう』、『中国映画を見よう』、『チャイナドレスを買おう』、『中華を食べ

よう』、『西遊記を読もう』、『春節を祝おう』。これらのテーマに即して、中国の町、中国料理、チャイナドレス、中国映画、中国古典文学、中国の祝日などを紹介していく。

異文化理解Ⅱ演習（中国語） Seminar in Foreign Studies II (Chinese)

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 中国語の基礎文法を再確認しながら、中国や台湾・香港についての華人文化を紹介し、会話を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級に対応する単語を身に着ける。

学習の目的 中国語の文法構造を理解して、中国語での質問に対して自然に応答できる。華人社会の文化や物事に興味を持つ。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習の文法や語彙を利用して応答できる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力

受講要件 中国語Ⅰ文法と中国語Ⅰ講読を履修済みであること。

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法と中

国語Ⅰ講読

発展科目 異文化理解Ⅱ総合（中国語Ⅱ講読）異文化理解Ⅲ応用（中国語ABC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 與水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13：00～15：00
共通教育4号棟4階會研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌を紹介する。自由会話を毎回する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語の実践的会話

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 重逢（反語文）

第3回 逛早市（存現文）

第4回 动物园（程度補語、複文）

第5回 中国的传统节日1（文化比較、発表練習）

第6回 中国的传统节日2（文化比較、発表練習）

第7回 汉语歌曲介绍1（長文読み、比喩練習）

第8回 中検3級レーベルの聴力、阅读練習

第9回 汉语歌曲介绍2（長文読み、比喩練習）

第10回 借书（時間について文法）

第11回 找旅馆（量詞、複合方向補語）

第12回 搭乘交通工具（文化比較、発表練習）

第13回 电影欣赏1（理解力訓練、聞き取り練習）

第14回 电影欣赏2（理解力訓練、感想書く練習）

第15回 聴力、阅读总复习

第16回 定期試験

異文化理解Ⅱ演習（中国語） Seminar in Foreign Studies II (Chinese)

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 中国語の基礎文法を再確認しながら、中国や台湾・香港についての華人文化を紹介し、会話を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級に対応する単語を身に着ける。

学習の目的 中国語の文法構造を理解して、中国語での質問に対して自然に応答できる。華人社会の文化や物事に興味を持つ。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習の文法や語彙を利用して応答できる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅰ文法と中国語Ⅰ講読を履修済みであること。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語の実践的会話

学習内容

- 第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。
- 第2回 教室用語, 考試用語（教室用中国語練習）
- 第3回 我的暑假（発表練習）
- 第4回 访问他人（常用構文、連接詞練習）
- 第5回 买东西（場面を作る会話練習）
- 第6回 3級レベル聞き取り、語彙練習
- 第7回 3級レベル翻訳、長文読む練習
- 第8回 汉语流行歌介绍1（中国語の比喩を考えよう）

予め履修が望ましい科目 中国語Ⅰ文法と中国語Ⅰ講読

発展科目 異文化理解Ⅱ総合（中国語）異文化理解Ⅲ応用（中国語ABC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 興水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13：00～15：00
共通教育4号棟4階曾研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌を紹介する。自由会話を毎回する。

第9回 汉语流行歌介绍2（若者の言葉）

第10回 欢迎会（動量補語）

第11回 找工作（就職用言葉）

第12回 送行（可能補語、助動詞）

第13回 电影欣赏1（理解力訓練、聞き取り練習）

第14回 电影欣赏2（理解力訓練、感想書く練習）

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明する。

異文化理解 III 応用 (ドイツ語A)

Applied Course in Foreign Studies III (German A)

学期 前期 **開講時間** 水7,8 **単位** 1 **対象** 人文学部以外の学生 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ

授業の概要 基本的な文法を習得することにより、自分のことが表現できるようになります。

学習の目的 聞くことや話すことを中心にした練習によって、ドイツ語で簡単な会話ができるようになります。併せて、ドイツ事情について学びます。

学習の到達目標 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を作って、平易な日常的コミュニケーションができる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語会話を初めて学習する学生です。

発展科目 後期開講の「異文化理解 III 応用 (ドイツ語B)」

教科書 プリント配布

参考書 独和辞典

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業改善への工夫 学生と教師間の会話だけでなく、隣の受講生とペアを組んで対話します。

授業計画・学習の内容

キーワード 場面で学ぶドイツ語 (初級)

学習内容

アルファベットと発音

人と知り合う (自己紹介する)

趣味 (好きなこと、嫌いなこと、ドイツ人と日本人の余暇活動)

家族と職業

町で (店、買い物)

食事 (一日の食事)

学習課題 (予習・復習)

前回の復習

新しい単語の暗記

異文化理解 III 応用 (ドイツ語B)

Applied Course in Foreign Studies III (German B)

学期 後期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 1 **対象** 人文学部以外の学生 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 コッホ ミヒャエラ

授業の概要 基本的な文法を習得することにより、自分のことが表現できるようになります。

学習の目的 聞くことや話すことを中心にした練習によって、ドイツ語で簡単な会話ができるようになります。併せて、ドイツ事情について学びます。

学習の到達目標 ドイツ語でのコミュニケーション能力の基礎を固めることで、平易な日常的コミュニケーションができる。

本学教育目標との関連モチベーション, 幅広い教養, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 この授業を履修できるのは、ドイツ語会話を初めて学習する学生です。

前期開講の「異文化理解 III 応用 (ドイツ語A)」

予め履修が望ましい科目 前期開講の「異文化理解 III 応用 (ドイツ語A)」

発展科目 人文学部専門科目「ドイツ語会話C」「ドイツ語会話D」

教科書 プリント配布

参考書 独和辞典

成績評価方法と基準 平常点70%、期末試験30%

オフィスアワー 授業中に案内します。

授業改善への工夫 学生と教師間の会話だけでなく、隣の受講生とペアを組んで対話します。

授業計画・学習の内容

キーワード 場面で学ぶドイツ語 (初級)

学習内容

時間；一日の生活；一週間の予定

持ち物 (品物と感想、買い物)

休日の計画 (ドイツで人気のある休暇先)

週末の後 (過去のできごと・経験を話す、メールを書く)

学習課題 (予習・復習)

前回の復習

新しい単語の暗記

異文化理解III応用（中国語A）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese A)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 リスニングと会話能力をさらに向上させるため、授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、中国や台湾・香港についての現代華人社会と文化を紹介し、自分の意見の発表を中心に練習する。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレーベルに対応する単語を身に着ける。

学習の目的 既習の文法事項を利用して一文を完全に話せるようにする。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方ややり方を認識させる。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に對して自然に既習の語彙や文型を使い応答できる。書面語による文書を自力で読めるようにする。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

受講要件 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級取得済みの者。

発展科目 異文化理解III応用（中国語BC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 與水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13：00～15：00
共通教育4号棟4階曾研究室

授業改善への工夫 積極的に発言できる授業運営に努める。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌を紹介する。自由会話を毎回する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語上級会話

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 我的愿望

第3回 我的家乡

第4回 日本与邻近国家的关系1

第5回 日本与邻近国家的关系2

第6回 骂人的艺术

第7回 中国語検定2級听力, 語彙練習

第8回 中国語検定2級阅读, 翻译練習

第9回 电影欣赏1（理解力訓練、聞き取り練習）

習）

第10回 电影欣赏2（理解力訓練、感想書く練習）

第11回 环保议题1

第12回 环保议题2

第13回 中日饮食文化比较1

第14回 中日饮食文化比较2

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明する。

異文化理解III応用（中国語A）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese A)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 会話を更に向上させるため、授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、中国や台湾・香港についての現代華人社会と文化を紹介し、自分の意見の発表を中心に練習する。なお、文章を大量に読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。

学習の目的 中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方や行動を認識させる。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に対して自然に既習の語彙や表現を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるようになる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅱ会話と中国語Ⅱ講読を履修済みであること。或は、中検の4級取得者。

発展科目 異文化理解III応用（BC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 興水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13：00～15：00
共通教育4号棟4階曾研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる環境を整える。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌等も紹介する。毎回自由会話をする。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語上級会話

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 看图说故事1-绘本解读

第3回 看图说故事2-漫画解读

第4回 看图说故事3-海报解读

第5回 时事讨论1

第6回 时事讨论2

第7回 中国語検定2級听力, 語彙練習

第8回 中国語検定2級阅读, 翻译练习

第9回 电影欣赏1（理解力訓練、聞き取り練習）

習）

第10回 电影欣赏2（理解力訓練、感想書く練習）

第11回 商业汉语1-商品推销

第12回 商业汉语2-求职汉语

第13回 商业汉语3-办公室用语

第14回 商业汉语4-经济新闻阅读

第15回 听力、阅读总复习

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明する。

異文化理解III応用（中国語B）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese B)

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、現代華人社会と文化を紹介し、感想や作文を書く。なお、文章を大量に読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着ける。作文を書くとともに、文章を日本語訳・中国語訳する練習もある。

学習の目的 中国語の文章を読んで、文章の枠組みを分析し、自分の作文の中に利用する。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方や行動を認識させる。翻訳の能力を上達させる。

学習の到達目標 中国語検定3級以上取得

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語Ⅱ文法と中国語Ⅱ講読を履

修済みであること。或は、中検の4級取得済みの者。

発展科目 異文化理解III応用（中国語AC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 奥水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13:00~15:00
共通教育4号棟4階曾研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる環境を整える。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌も紹介する。毎回自由会話をする。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語上級作文翻訳

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 自我介绍（写作练习1）

第3回 我的好朋友（翻译练习1）

第4回 见面礼仪（写作练习2）

第5回 我的家人（翻译练习2）

第6回 购物（写作练习3）

第7回 讲价（翻译练习3）

第8回 中国語検定2級練習

第9回 电影欣赏1

第10回 电影欣赏2

第11回 方位（写作练习4）

第12回 交通工具（翻译练习4）

第13回 烹饪（写作练习5）

第14回 用餐习惯（翻译练习5）

第15回 总复习

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 初回授業で説明する。

異文化理解III応用（中国語B）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese B)

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 曾若涵（ソウジャクカン）（人文学部特任教員）

授業の概要 授業は基本的に中国語で行われる。中国語の丁寧な書き言葉を練習しながら、現代華人社会と文化を紹介し、感想や作文を書く。なお、文章を大量読み、中国語検定の3級や2級のレベルに対応する単語を身に着けるように目標とする。作文を書くとともに、文章を日本語訳・中国語訳する練習もある。

学習の目的 中国語の文章を読んで、文章の枠組みを分析し、自分で文章を組み立てる。中国語での質問に対して自然に応答できる。華人の考え方や行動を認識させる。翻訳の能力を上達する。

学習の到達目標 中国語での質問や会話場面に對して自然に既習な言葉を利用して応答できる。固い文書も自力でよめるようになる。大量の翻訳練習。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力、

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語上級作文、翻訳

学習内容

第1回 授業内容の説明、学生のレベルを確認。

第2回 飲茶文化（写作练习1）

第3回 性別平等（翻译练习1）

第4回 親子关系（写作练习2）

第5回 選挙文化（翻译练习2）

第6回 经济衰退（写作练习3）

第7回 空气污染（翻译练习3）

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 中国語II文法と中国語II講読を履修済みであること。或は、中検の4級取得済みの者。

発展科目 異文化理解III応用（中国語AC）

教科書 テキストはプリントを配布する。

参考書 與水優・島田亜実著、『中国語わかる文法』、東京：大修館書店、2009。

成績評価方法と基準

1. 練習問題と小テスト 30%。
2. 授業態度 30%
3. 期末テスト 40%

オフィスアワー 毎週水曜日13:00~15:00
共通教育4号棟4階會研究室

授業改善への工夫 いつでも気楽に質問、発言ができる環境を整える。教科書から離れて、中国語の歌・映画・雑誌も紹介する。自由会話を毎回する。

第8回 中国語検定2級练习

第9回 电影欣赏1

第10回 电影欣赏2

第11回 传统艺术（写作练习4）

第12回 致命传染病（翻译练习4）

第13回 宗教（写作练习5）

第14回 气功和瑜伽（翻译练习5）

第15回 总复习

第16回 定期試験

異文化理解III応用（中国語C）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese C)

学期 前期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** グループ学習の要素を加えた授業 **市民開放授業**

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語検定についての学習

学習の目的 中国語検定3級、2級の合格

学習の到達目標 中国語の会話力、読解力、文章力を総合的に養成する

本学教育目標との関連 実践外国語力

受講要件 中国語Ⅱ会話 中国語Ⅱ講読履修済みの者。中国語検定4級取得済みの者。

発展科目 異文化理解III応用（中国語AB）

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語検定試験上位級受験対策

学習内容 中国語検定試験過去問題を解き、

合格を目指す。また、中国のニュースや、中国人の関心事なども随時紹介していく。

異文化理解III応用（中国語C）

Applied Course in Foreign Studies III (Chinese C)

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 市民開放授業

担当教員 胡蓉

授業の概要 中国語検定3級以上取得のための学習

みの者。中国語検定4級取得済みの者。

学習の目的 中国語検定3級、2級の合格

発展科目 異文化理解III応用（中国語AB）

学習の到達目標 中国語の会話力、読解力、文章力を総合的に養成する

教科書 プリント等配布

本学教育目標との関連 実践外国語力

参考書 授業で指定。

受講要件 中国語II講読 中国語II会話履修済

成績評価方法と基準 授業での発言力、小テスト、定期試験で総合的に評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語検定試験上位級受験対策

合格を目指す。また、中国のニュースや、中国人の関心事なども随時紹介していく。

学習内容 中国語検定試験過去問題を解き、

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a

Seminar in Foreign Studies Ia (German A)

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 1 対象 人文学部法律経済学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 大河内 朋子

授業の概要

平易なテキストを読み・書きすることにより、ドイツ語の基本的な文法や語彙などを習得します。

ドイツの文化についても学びます。

学習の目的

ドイツ語の基本的な文法や語彙などを習得します。

ドイツで暮らしている人々の生活習慣や社会制度などについて学びます。

学習の到達目標

初級レベルの基本的な語彙、構文、表現等を習得している。

ドイツの生活文化について基礎的な知識を持っている。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語とドイツ文化の基礎を学習する。

学習内容

平易なテキストを読み・書きすることにより、ドイツ語の基礎的な文法、表現、語彙を習得します。

文法のトピック（予定）

1. 人称代名詞
2. 動詞の現在人称変化
3. 名詞と冠詞の格変化

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国語力

発展科目

後期に開講される「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b」と「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b」

会話を学びたい人は、人文学部専門科目「ドイツ語会話A」「ドイツ語会話B」を履修してください。

教科書 生協の教科書販売の一覧表で確認してください。

成績評価方法と基準 筆記試験

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室（人文学部校舎2階）

4. 前置詞
5. 話法の助動詞
6. 現在完了形

ドイツの生活文化を概観します。

- トピック（例）
1. ドイツの家族
 2. ドイツの宗教
 3. ドイツの学校

学習課題（予習・復習） 必ず予習と復習をすること

異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b

Seminar in Foreign Studies Ib (German A)

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 1 対象 人文学部法律経済学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 大河内 朋子

授業の概要

平易なテキストを読み・書きすることにより、ドイツ語の基本的な文法や語彙などを習得します。

ドイツの歴史や社会についても学びます。

学習の目的

ドイツ語の基本的な文法や語彙などを習得します。

ドイツに暮らす人々の生活習慣や歴史、社会制度などについて学びます。

学習の到達目標

初級レベルの基本的な語彙、構文、表現等を習得している。

辞書を使って平易なテキストを読み、簡単な文章を作ることができる。

ドイツの生活文化や歴史、社会制度について基礎的な知識を持っている。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 実践外国

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語とドイツ文化の基礎を学習します。

学習内容

辞書を使って、ドイツ語のテキストを読んだり、書いたりすることで、基礎的な文法知識を習得します。

文法のトピック（予定）

- 1.zu不定詞と現在分詞
- 2.関係代名詞

語力

受講要件 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a」を履修していること

発展科目

2年次で、「異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）」と「異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）」を履修してください。

会話を学びたい人は、人文学部専門科目「ドイツ語会話A」と「ドイツ語会話B」を履修してください。

教科書 「異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）a」（火曜3-4限 担当：大河内）の教科書を引き続き使用します。

成績評価方法と基準 筆記試験

オフィスアワー 月曜日と火曜日のお昼休み、大河内研究室（人文学部校舎2階）

3.受動態

ドイツに暮らす人々の生活文化や歴史、社会制度について学びます。

トピック（予定）

- 1.ドイツ基本法
- 2.ドイツの社会保障制度
- 3.ドイツの現代史（20世紀以降）

学習課題（予習・復習） 必ず予習と復習をすること

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）a

Basic Course in Foreign Studies Ia (German A)

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 Moodle 市民開放授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構)

授業の概要 異文化を理解する手段として、ドイツ語の基礎的な文法事項の習得を指します。

学習の目的 ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、ドイツ語圏の文化に関するドイツ語の簡単な文を読んだり書いたりすることができるようになることを目指します。

学習の到達目標

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、外国人向けのドイツ語圏の観光案内書の概要がわかるようになる。

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、簡単な自己紹介が書けるようになる。

本学教育目標との関連 共感,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,情報受発信力,実践外国語力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

発展科目 異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）
b、異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A）b、異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）、異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）

教科書 井口靖『プラクティス・グラマー 練習で学ぶドイツ語』三修社

参考書

『新アクセス独和辞典第3版』三修社
(Casioの電子辞書に収録。iPhone, iPad用のアプリもあります。)

成績評価方法と基準 小テスト20%、中間試験40%、期末試験40%

オフィスアワー 毎週火3・4限 人文学部校舎2F研究室

授業改善への工夫 授業はスライドを用いて行います。授業で使用したスライドはMoodleに掲載します。毎回小テストを行いますので、Moodleを復習に利用してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語文法 発音 動詞の変化 名詞の性格変化 冠詞 前置詞 代名詞

Key Word(s) German grammar, pronunciation, conjugation, gender, declension, article, preposition, pronoun

学習内容

基礎的な文法事項を学習し、練習問題で訓練します。

第1回 ドイツ語について、授業の進め方、学習の仕方

第2回～第3回 現在人称変化と語順

第4回～第5回 名詞の性・格

第6回～第7回 不規則動詞の人称変化・命令文

第8回 中間テスト

第9回～第10回 中間テスト解答、名詞の複数形と数詞

第11回～第12回 定冠詞類と不定冠詞類

第13回～第14回 前置詞と人称代名詞

第15回 総まとめと補足

第16回 期末テスト

毎回、ドイツの映画を見ながら、実際の場面でのドイツ語とドイツの生活、文化、社会を学びます。

学習課題（予習・復習）

基本的に予習は必要ありませんが、復習は必ずしてください。

毎回授業の最初には小テストを行います。内容は前回の授業内容です。授業で用いた資料はMoodleに掲載しますので、それを参考に復習してください。休むとついて来られなくなりますので、毎回出席することが必要ですが、どうしても休んだ場合には必ずMoodleをチェックしてください。

異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）b

Basic Course in Foreign Studies Ib (German A)

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義, 演習

授業の特徴 Moodle 市民開放授業

担当教員 井口 靖 (教養教育機構)

授業の概要 異文化を理解する手段として、異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）aに引き続いてドイツ語の基礎的な文法事項の習得を目指します。

学習の目的 ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、ドイツ語圏の文化に関するドイツ語のある程度まとまった文章を読んだり書いたりすることができるようになることを目指します。

学習の到達目標

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、外国人向けのドイツ語圏の観光案内書が読めるようになる。

ドイツ語の基礎的な文法を習得し、独和辞典を用いて、簡単な日本の文化に関する紹介文が書けるようになる。

本学教育目標との関連 共感,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,情報受発信力,実践外国語力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード ドイツ語文法 再帰動詞 分離動詞 非分離動詞 話法の助動詞 時制 受動態 接続詞 関係代名詞 接続法 形容詞

Key Word(s) German grammar, reflexive verb, separable verb, inseparable verb, modal auxiliary, tense, passive, conjunction, relative pronoun, subjunctive, adjective

学習内容

学習内容

基礎的な文法事項を学習し、練習問題で訓練します。

第1回 前期の文法事項の復習

第2回～第3回 再帰動詞と分離動詞・非分離動詞

第4回～第5回 話法の助動詞とzu不定詞

受講要件 異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A）aを履修しているか、またはそれに相当する内容を理解していること

発展科目 異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）、異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）

教科書 井口靖『プラクティス・グラマー 練習で学ぶドイツ語』三修社

参考書

『新アクセス独和辞典第3版』三修社

（Casioの電子辞書に収録。iPhone, iPad用のアプリもあります。）

成績評価方法と基準 小テスト20%、中間試験40%、期末試験40%

オフィスアワー 毎週火3・4限 人文学部校舎 2F研究室

授業改善への工夫 授業はスライドを用いて行います。授業で使用したスライドはMoodleに掲載します。毎回小テストを行いますので、Moodleを復習に利用してください。

第6回～第7回 現在完了形と過去形

第8回 中間テスト

第9回～第10回 中間テスト解答、形容詞の格変化と比較変化

第11回～第12回 受動態と従属接続詞

第13回～第14回 接続法と関係代名詞

第15回 総まとめと補足

第16回 期末テスト

毎回、ドイツの映画を見ながら、実際の場面でのドイツ語とドイツの生活、文化、社会を学びます。

学習課題（予習・復習）

基本的に予習は必要ありませんが、復習は必ずしてください。

毎回授業の最初には小テストを行います。内容は前回の授業内容です。授業で用いた資料

はMoodleに掲載しますので、それを参考に復習してください。休むとついて来られなくなりますので、毎回出席することが必要ですが、どうしても休んだ場合には必ずMoodleをチェックしてください。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 火5,6 **単位** 1 **対象** 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 米川直樹 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの基礎的な技能の習得とルールにそった試合をできるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回 ガイダンスと種目分け

第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)

第3回 スポーツと怪我の防止。バドミントンの歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入

第4回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、基礎技能1(フォアハンド、

バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(2)

第6回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(3)

第7回 スポーツと環境、基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第8回 基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(2)

第9回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

オフィスアワー 火曜日14:30~14:40

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。授業中、授業後、オフィスアワー時に学生からの質問や意見などを参考にしたり、最終授業後のレポートなどを参考にしながら対応する。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第10回 基礎技能3（レシーブ）とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第11回 基礎技能4（戦術）とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)

第12回 基礎技能4（戦術）とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

第13回 ゲーム（ルールの説明を含む）(1)

第14回 ゲーム（ルールの説明を含む）(2)

第15回 テスト

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 基礎技能習得に向けて自宅でできる方法の提示、日常生活での体力維持の方法の提示、バドミントンに関する情報（新聞、TVなど）に接すること等を通して対応する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 1 対象 人文学部(文化+法経201~235) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉田 正明

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 健康、体力、運動についての意義、重要性などの概要を理解し、今後の生活に役立てるようになる。サッカーの基本的技術が身につく、自らがサッカーを楽しむことができるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、指導力・協調性、社会人

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) soccer, exercise, health, sport

学習内容

- 第1回 ガイダンス 種目選択
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認
- 第4回 基本トレーニングと基本のキック及びトラップなどの学習
- 第5回 基本トレーニングとパス、浮いたボールのパス、リフティング、パス回しの学習
- 第6回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、パスの学習

としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00杉田研究室(教育学部1号館1階)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。1回目の授業に参加しないと希望種目が選択できないこともある。

第7回 基本の学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明

第8回 リフティング、パス、ドリブルの学習とミニゲーム

第9回 スポーツと運動強度、パス、ドリブル等の総合的な学習

第10~11回 パス、ドリブル等の総合的な学習とゲーム(ハーフコート)

第12~13回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)パスゲーム、センタープレイなど

第14回 ゲームと現行ルールの説明及び審判法

第15回 ゲーム

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 国内外のサッカーの試合をテレビなどで視聴し、サッカーへの理解を深めること。かんたんなルールについて事前に学習することを求める。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火,5,6 単位 1 対象 文化+法経 (201~235) 年次 学部(学士課程):1年次
選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 八木規夫 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身への健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(第2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 ・運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康・体力・運動についての概要を理解する。
- ・バスケットボールの基礎技術及びゲームルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考え

授業計画・学習の内容

キーワード 豊かなスポーツライフをめざして、バスケットボールゲームを実践する能力を養うとともに、バスケットボールの知識、楽しみ方について学習する。

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認、シュート、ドリブルなどファンダメンタルスキルの学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明
- 第4回 シュート、ドリブルなどファンダメンタルスキルの学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明

る力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特になし

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時30分~14時30分

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、ファンダメンタルスキルの学習
- 第6回 マンツーマンディフェンスの学習とゲーム
- 第7回 スポーツと環境、マンツーマンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)。速攻、遅攻
- 第8回 マンツーマンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)。スクリーンプレイなど
- 第9回 スポーツと運動強度、ゾーンディフェンスの学習とゲーム
- 第10回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)

第11回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）パスワークなど

第12回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）センタープレイなど

第13回 マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲーム

第14回 マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲームと現行ルールの説明

第15回 マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲームと現行ルールの説明 及び審判法

第16回 まとめ

＊学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 実技実習なので体調を整えておくこと。着替え、タオルなど準備すること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 火5,6 **単位** 1 **対象** 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンドの練習
- 第4回 バックハンドの練習
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果
フィードバック、スマッシュ・ブロックの練習
- 第6回 サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツと環境、変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第8回 変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

人文学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)

第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)

第13回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)

第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)

第15回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必修 必修 授業の方法 実習

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 米川直樹 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの基礎的な技能の習得とルールにそった試合をできるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回 ガイダンスと種目分け

第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)

第3回 スポーツと怪我の防止。バドミントンの歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入

第4回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、基礎技能1(フォアハンド、

バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(2)

第6回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(3)

第7回 スポーツと環境、基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第8回 基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(2)

第9回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第10回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。授業中、授業後、オフィスアワー時に学生からの質問や意見などを参考にしたり、最終授業後のレポートなどを参考にしながら対応する。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第10回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第11回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第12回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第13回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第14回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第15回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルゲーム(1)

第10回 基礎技能3（レシーブ）とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第11回 基礎技能4（戦術）とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)

第12回 基礎技能4（戦術）とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

第13回 ゲーム（ルールの説明を含む）(1)

第14回 ゲーム（ルールの説明を含む）(2)

第15回 テスト

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 基礎技能習得に向けて自宅でできる方法の提示、日常生活での体力維持の方法の提示、バドミントンに関する情報（新聞、TVなど）に接すること等を通して対応する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部(法経236～) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉田 正明

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 健康、体力、運動についての意義、重要性などの概要を理解し、今後の生活に役立てるようになる。サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようにする。

本学教育目標との関連 モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、指導力・協調性、社会人

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) soccer, exercise, health, sport

学習内容

第1回 ガイダンス 種目選択

第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)

第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認

第4回 基本トレーニングと基本のキック及びトラップなどの学習

第5回 基本トレーニングとパス、浮いたボールのパス、リフティング、パス回しの学習

第6回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、パスの学習

としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00杉田研究室（教育学部1号館1階）

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。1回目の授業に参加しないと希望種目が選択できないこともある。

第7回 基本の学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明

第8回 リフティング、パス、ドリブルの学習とミニゲーム

第9回 スポーツと運動強度、パス、ドリブル等の総合的な学習

第10～11回 パス、ドリブル等の総合的な学習とゲーム（ハーフコート）

第12～13回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）パスゲーム、センタープレイなど

第14回 ゲームと現行ルールの説明及び審判法

第15回 ゲーム

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 国内外のサッカーの試合をテレビなどで視聴し、サッカーへの理解を深めること。かんたんなルールについて事前に学習することを求める。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 柳瀬 慶子

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・エアロビック・ダンスやリズム体操、Gボールを使った運動の基本的な運動を習得し、自分にあった運動を構成できるようになる。体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じられるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード エアロビクス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、エアロビック・ダンスの基礎
- 第4回 基礎的なステップ、ストレッチ(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基礎的なステップ、ストレッチ(2)
- 第6回 基礎的なステップ、ストレッチ(3)
- 第7回 スポーツと環境、簡単なステップの組み合わせ、ストレッチ(1)
- 第8回 簡単なステップの組み合わせ、ストレッチ(2)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

人文学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第9回 スポーツと運動強度、Gボール等の用具を活用した運動(1)
 - 第10回 Gボール等の用具を活用した運動(2)
 - 第11回 Gボール等の用具を活用した運動(3)
 - 第12回 複数のステップコンビネーションと作品構成(1)
 - 第13回 複数のステップコンビネーションと作品構成(2)
 - 第14回 複数のステップコンビネーションと作品構成(3)
 - 第15回 複数のステップコンビネーションと作品構成(4)
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 随時、授業において提示する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 火, 8 単位 1 対象 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンドの練習
- 第4回 バックハンドの練習
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、スマッシュ・ブロックの練習
- 第6回 サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツと環境、変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第8回 変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

人文学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)

第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)

第13回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)

第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)

第15回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部(看護学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修

授業の方法 実習

担当教員 中西 義雄 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第4回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第6回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツと環境。サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第8回 応用練習 試合の進め方と試合での作戦

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部と医学部(看護学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

の習得

第9回 スポーツと運動強度。ダブルスのフォーメーションの習得

第10回 ダブルスの試合(1)

第11回 ダブルスの試合(2)

第12回 ダブルスの試合(3)

第13回 シングルの試合(1)

第14回 シングルの試合(2)

第15回 シングルの試合(3)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部（看護学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 脇田裕久（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンド・ストローク(ロング)
- 第4回 バックハンド・ストローク(ショート)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、サービスとレシーブ・ルールの解説および簡易ゲーム
- 第6回 ドライブ・スピンスーブとゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、ドライブ・スピンスーブとゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部、医学部（看護学科）。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピンスーブとゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度、アンダー・スピンスーブとゲーム(2)
 - 第10回 サイド・スピンスーブ（時計回り）とゲーム
 - 第11回 サイド・スピンスーブ（反時計回り）とゲーム
 - 第12回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第13回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(1)
 - 第14回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(2)
 - 第15回 テスト
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部（看護学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 片山 靖富（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部、医学部（看護学科）。毎年健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度（積極性、協調性など）、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第8回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第9回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第10回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第11回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第12回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第13回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(1)

第15回まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第16回まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金5,6 単位 1 対象 教育学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修

授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 洋子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通しての心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また学びの中でバドミントンの技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの基本的技能を習得し、ダブルスのゲームを楽しむことができるようになる。
- ・体を動かすことの気持ちよさを理解し、日常生活で活用できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康

学習内容

- 第1回: ガイダンスと種目分け
- 第2回: 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回: スポーツと怪我の防止、スポーツ活動1(バドミントンの導入)
- 第4回: スポーツ活動2(バドミントンの基礎技術・クリア)
- 第5回: 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、スポーツ活動3(シングルスミニゲーム)

力を総合した力

受講要件

教育学部の指定されたコース
毎年の健康診断を受診すること。「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に紹介する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00から13:00 保体(運動方法学II)研究室(後藤)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第6回スポーツ活動4(バドミントンの基礎技術・ヘアピン)

第7回: スポーツと環境、スポーツ活動5(バドミントンの基礎技術・ドロップとスマッシュ)

第8回スポーツ活動6(フットワークとシングルのミニゲーム)

第9回: スポーツと運動強度、スポーツ活動7(ダブルスの導入)

第10回スポーツ活動8(基礎練習とダブルスのミニゲーム)

第11回: スポーツ活動9(基礎練習と審判の方法)

第12回スポーツ活動10（応用練習とダブルスのポジショニング）

第13回スポーツ活動11（応用練習とダブルスのミニゲーム）

第14回:スポーツ活動12（応用練習とダブルスのミニゲーム）

第15回:まとめ

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 1 対象 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 中西 義雄 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第4回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第6回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツと環境。サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第8回 応用練習 試合の進め方と試合での作戦

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

の習得
第9回 スポーツと運動強度。ダブルスのフォーメーションの習得
第10回 ダブルスの試合(1)
第11回 ダブルスの試合(2)
第12回 ダブルスの試合(3)
第13回 シングルの試合(1)
第14回 シングルの試合(2)
第15回 シングルの試合(3)
第16回 まとめ
*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 脇田裕久 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンド・ストローク(ロング)
- 第4回 バックハンド・ストローク(ショート)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、サービスとレシーブ・ルールの解説および簡易ゲーム
- 第6回 ドライブ・スピンスラブとゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、ドライブ・スピンスラブとゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピンスラブとゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度、アンダー・スピンスラブとゲーム(2)
 - 第10回 サイド・スピンスラブ(時計回り)とゲーム
 - 第11回 サイド・スピンスラブ(反時計回り)とゲーム
 - 第12回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第13回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(1)
 - 第14回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(2)
 - 第15回 テスト
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 1 対象 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 片山 靖富 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ (キック、ドリブル、トラップ、リフティング) (1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、課題解決：基本的なボールタッチ (キック、ドリブル、トラップ、リフティング) (2)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、課題解決：ドリブル技

術の向上を目的としたミニゲーム(2)
第8回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
第9回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
第10回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
第11回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
第12回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
第13回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム (フルコート) (1)
第15回 まとめ1：現行ルールでのゲーム (フルコート) (2)

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第16回 まとめ2：振り返り
*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関し

ては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 7,8 単位 1 対象 教育 (国・社・数情・理・音・美・保・技も・人・日) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 八木規夫

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの各種ショット及びゲームのルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特になし

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 金曜12時30分～14時30分

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード 豊かなスポーツライフをめざして、バドミントンを実践する能力を養うとともに、バドミントンの知識、楽しみ方について学習する。

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、用具などの説明、グループ分け、シャトルとラケットに慣れるための各種運動。
- 第4回 基本練習(ハイクリアー、ドロップショット)、ハーフコートゲームの進め方とゲーム
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果

- フィードバック、基本練習(ハイクリアー、ドロップショット、ヘアピンショット)、ハーフコートゲーム
- 第6回 基本練習(スマッシュ、サーブ)、ハーフコートゲーム
 - 第7回 スポーツと環境、基本練習(スマッシュ、サーブ、ドライブ)、シングルスゲームの進め方とゲーム
 - 第8回 基本練習(スマッシュ、サーブ、ドライブ)、シングルスゲーム(リーグ戦1)
 - 第9回 応用練習(各ショットの組み合わせと動き)、シングルスゲーム(リーグ戦2)
 - 第10回 スポーツと運動強度、応用練習(各ショットの組み合わせと動き)、ダブルスゲームの進め方とゲーム

第11回 応用練習（各ショットの組み合わせと動き）、ダブルスゲーム（リーグ戦1）

第12回 応用練習（各ショットの組み合わせと動き）、ダブルスゲーム（リーグ戦2）

第13回 シングルスゲームとダブルスゲームによる団体戦1

第14回 シングルスゲームとダブルスゲームによる団体戦2

第15回 バドミントンの基本技能に関する習熟度の確認

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 細野 信幸 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第6回 試合を通じルールを知り、お互いのチー

ムの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)

受講要件

生物資源と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(1)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第9回 スポーツと運動強度。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第10回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第13回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第14回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ(4)

第15回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ(5)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 船越 一彦 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バレーボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バレーボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(1)。個人の技能差に応じてソフトバレーボールやジュニア用のボールを使用する。
- 第4回 各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- する(1)。ゲームは男女混合のゲームを原則とするが、受講生の技能向上と経験の度合いの状況のみを適宜チーム編成をしない。
- 第6回 前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(2)
- 第7回 スポーツと環境。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(1)。各自の個別課題、とくに各種パスの長所や短所について確認する。
- 第8回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(2)
- 第9回 スポーツと運動強度。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(3)
- 第10回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(4)
- 第11回 審判法やリーグ戦運営方法についての

レクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(1)

第12回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(2)

第13回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(3)

第14回 審判法やリーグ戦運営方法についての

レクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(4)

第15回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(5)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 5,6 単位 1 対象 生物資源(資源環境+共生)、医学(1~40) 年次 学部(学士課程): 1年次 選択/必修 必修 授業の方法 実習, 実技 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 脇田裕久(非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定及び生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し運動と健康のお関係及びスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目わけ
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(第1回)
- 第3回 スポーツとけがの防止、フォアハンドストローク(ロング)
- 第4回 バックハンドストローク(ショート)
- 第5回 体力測定及び生活習慣調査の結果のフィードバック、サービストレ支部、ルールの解説及び簡易ゲーム
- 第6回 ドライブ・スピンサーブとゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、ドライブ・スピンサーブとゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部、医学部(医学科)
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題収受度、授業態度(積極性や協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目に授業時のガイダンスにおいて、種目決定及び履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピンサーブとゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度、アンダー・スピンサーブとゲーム(2)
 - 第10回 サイド・スピンサーブ(時計回り)とゲーム
 - 第11回 サイド・スピンサーブ(反時計回り)とゲーム
 - 第12回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第13回 これまでの技能の習熟を図りゲームを楽しむ(1)
 - 第14回 これまでの技能の習熟を図りゲームを楽しむ(2)
 - 第15回 テスト
 - 第16回 まとめ
- ※学習内容の変更はありうる

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 1 **対象** 生物資源学部と医学部（医学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必修 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 宮本ともみ（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部、医学部（医学科）。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度（積極性、協調性など）、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第8回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第9回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第10回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第11回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第12回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第13回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(1)

第15回まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第16回まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 1 **対象** 生物資源学部（資源循環+共生）、医学（1~40）

年次 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業、グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 加納岳拓(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 基本的なストロークや試合の進め方（特にダブルス）を習得し、実際の試合を通して生涯スポーツとしてのバドミントンに身につける。同時に、健康、体力、運動についての概要を理解する。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合

した力

受講要件 健康診断を受診していること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価にあたっては、課題習熟度(30%)、授業態度（積極性、協調性など60%）、レポート等(10%)の3観点から原則として評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00

授業改善への工夫 バドミントンにおける基礎的な技術を紹介するとともに、様々なグループングでコミュニケーション能力の向上をめざす。また、出来る限り身体活動量の多い授業を心がける。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回：ガイダンス

第2回：体力測定および生活習慣調査

第3回：全体計画、用具などの説明、グループ分け、ラケットの握り方、スイングの仕方、アンダーハンドストローク(ロングハイサーブス、ロビング)、ミニゲーム①、スポーツと怪我の防止

第4回：オーバーヘッドストローク（ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ）、ミニゲーム②

第5回：サイドアームストローク他(ドライブ、ヘアピン、プッシュ&レシーブ)、ミニ

ゲーム③ 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック

第6回：ゲーム進行方法・ルールの説明、ミニゲーム④

第7回：基礎打ちの習得、ルールに基づきダブルスゲームに入る、スポーツと環境

第8回：基礎打ち、ダブルスゲーム

第9回：スコアシート説明、基礎打ち、スコアをつけながらダブルスゲーム、スポーツと運動強度

第10回：半面シングルス、ダブルスのフォーメーションについて、ダブルスゲーム

第11回：2：1のフリー、フットワークについて、ダブルスゲーム

第12回：バックハンドストローク、ダブルスゲーム

第13回： オールショート、オールロング、ダブルスゲーム

第14回： 技能別班編制によるダブルスゲーム

第15回： 感性別班編制によるダブルスゲーム

学習課題（予習・復習） 授業のみならず、日頃から身体活動量やスポーツ実践の増加を促すとともに、テレビや競技場でのスポーツ観戦を奨励すること、運動と健康に関わる知識を収集することなどを随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木7,8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 細野 信幸 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第6回 試合を通じルールを知り、お互いのチー

ムの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)

受講要件

生物資源と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(1)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第9回 スポーツと運動強度。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第10回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第13回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第14回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ(4)

第15回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ(5)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 船越 一彦 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バレーボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バレーボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(1)。個人の技能差に応じてソフトバレーボールやジュニア用のボールを使用する。
- 第4回 各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- する(1)。ゲームは男女混合のゲームを原則とするが、受講生の技能向上と経験の度合いの状況のみを適宜チーム編成をしない。
- 第6回 前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(2)
- 第7回 スポーツと環境。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(1)。各自の個別課題、とくに各種パスの長所や短所について確認する。
- 第8回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(2)
- 第9回 スポーツと運動強度。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(3)
- 第10回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(4)
- 第11回 審判法やリーグ戦運営方法についての

レクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(1)

第12回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(2)

第13回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(3)

第14回 審判法やリーグ戦運営方法についての

レクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(4)

第15回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(5)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木7,8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部（医学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 脇田裕久（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンド・ストローク(ロング)
- 第4回 バックハンド・ストローク(ショート)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、サービスとレシーブ・ルールの解説および簡易ゲーム
- 第6回 ドライブ・スピンサーブとゲーム(1)
- 第7回 スポーツと環境、ドライブ・スピンサーブとゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部、医学部（医学科）。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピンサーブとゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度、アンダー・スピンサーブとゲーム(2)
 - 第10回 サイド・スピンサーブ（時計回り）とゲーム
 - 第11回 サイド・スピンサーブ（反時計回り）とゲーム
 - 第12回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第13回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(1)
 - 第14回 これまでの技能の習熟をはかり、ゲームを楽しむ(2)
 - 第15回 テスト
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部（医学科）のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必修 授業の方法 実習

担当教員 宮本ともみ（非常勤講師）

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中（2回目）に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部、医学部（医学科）。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度（積極性、協調性など）、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第7回 スポーツと環境、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第8回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第9回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第10回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第11回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(3)
- 第12回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第13回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
- 第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(1)

第15回まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第16回まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部 (資源循環+共生)、医学 (1~40)

年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業、グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 加納岳拓(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中 (2回目) に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 基本的なストロークや試合の進め方 (特にダブルス) を習得し、実際の試合を通して生涯スポーツとしてのバドミントンに身につける。同時に、健康、体力、運動についての概要を理解する。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合

した力

受講要件 健康診断を受診していること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価にあたっては、課題習熟度(30%)、授業態度 (積極性、協調性など60%)、レポート等 (10%)の3観点から原則として評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00

授業改善への工夫 バドミントンにおける基礎的な技術を紹介するとともに、様々なグループでコミュニケーション能力の向上をめざす。また、出来る限り身体活動量の多い授業を心がける。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

第1回：ガイダンス

第2回：体力測定および生活習慣調査

第3回：全体計画、用具などの説明、グループ分け、ラケットの握り方、スイングの仕方、アンダーハンドストローク(ロングハイサーブス、ロビング)、ミニゲーム①、スポーツと怪我の防止

第4回：オーバーヘッドストローク (ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ)、ミニゲーム②

第5回：サイドアームストローク他(ドライブ、ヘアピン、プッシュ&レシーブ)、ミニ

ゲーム③ 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック

第6回：ゲーム進行方法・ルールの説明、ミニゲーム④

第7回：基礎打ちの習得、ルールに基づきダブルスゲームに入る、スポーツと環境

第8回：基礎打ち、ダブルスゲーム

第9回：スコアシート説明、基礎打ち、スコアをつけながらダブルスゲーム、スポーツと運動強度

第10回：半面シングルス、ダブルスのフォーメーションについて、ダブルスゲーム

第11回：2：1のフリー、フットワークについて、ダブルスゲーム

第12回：バックハンドストローク、ダブルスゲーム

第13回： オールショート、オールロング、ダブルスゲーム

第14回： 技能別班編制によるダブルスゲーム

第15回： 感性別班編制によるダブルスゲーム

学習課題（予習・復習） 授業のみならず、日頃から身体活動量やスポーツ実践の増加を促すとともに、テレビや競技場でのスポーツ観戦を奨励すること、運動と健康に関わる知識を収集することなどを随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 中西義雄

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第4回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第6回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツと環境。サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第8回 応用練習 試合の進め方と試合での作戦

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

の習得

第9回 スポーツと運動強度。ダブルスのフォーメーションの習得

第10回 ダブルスの試合(1)

第11回 ダブルスの試合(2)

第12回 ダブルスの試合(3)

第13回 シングルス試合(1)

第14回 シングルス試合(2)

第15回 シングルス試合(3)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 1 対象 工学部 (分子、電気、物理) 年次 学部(学士課程): 1
年次 選必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を
加えた授業

担当教員 富樫健二

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 アルティメットはボールのかわりにフライングディスクを用い、進行はバスケットボール、ハンドボール、得点方法はアメリカンフットボールに類似しているスポーツである。風の影響等、個人の技術・体力要素以外にも偶然性が作用することもあるため、楽しみながら身体に対し運動刺激を与え、生涯スポーツとして位置づけることが目標となる

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード アルティメット、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) Ultimate, Physical Activity, Exercise, Sports

学習内容

第1回: ガイダンス

第2回: 体力測定および生活習慣調査

第3回: 全体計画、用具などの説明、グループ分け、基本技術1(バックハンドスロー&キャッチ)、ミニゲーム①スポーツと怪我の防止

第4回: 基本技術2(サイドアームスロー&キャッチ)、ミニゲーム②

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価にあたっては、課題習熟度(30%)、授業態度(積極性、協調性など60%)、レポート等(10%)の3観点から原則として評価する。

オフィスアワー 木曜12:20~12:40

授業改善への工夫 アルティメットにおける基礎的な技術を紹介するとともに、様々なグルーピングでコミュニケーション能力の向上をめざす。また、出来る限り身体活動量の多い授業を心がける。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第5回: 基本技術3(サンドイッチキャッチ)、ミニゲーム③体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック

第6回: 基本技術4(シングルハンドキャッチ)、ミニゲーム④

第7回: 基本技術5(カーブ、シュートの投げ方)、ミニゲーム⑤スポーツと環境

第8回: 基本技術6(ルールの理解)、ミニゲーム⑥

第9回: 基本技術7(オフェンスの基本)、ミニゲーム⑦

第10回: 基本技術8(ディフェンスの基本)、ミニゲーム⑧

第11回: リーグ戦①(オフェンスの応用:ス

タック)

第12回：リーグ戦②（ディフェンスの応用：ゾーン）

第13回：リーグ戦③（オフェンスの応用：セットプレー）

第14回：リーグ戦④（ディフェンスの応用：クラム）

第15回：基礎技術に関する実技試験、まとめ

学習課題（予習・復習） 授業のみならず、日頃から身体活動量やスポーツ実践の増加を促すとともに、テレビや競技場でのスポーツ観戦を奨励すること、運動と健康に関わる知識を収集することなどを随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンドの練習
- 第4回 バックハンドの練習
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果 フィードバック、スマッシュ・ブロックの練習
- 第6回 サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツと環境、変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第8回 変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)

第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)

第13回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)

第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)

第15回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 1 対象 工学部 (分子・電気・物理) 年次 学部(学士課程): 1
年次 選必 必修 授業の方法 実習
担当教員 大隈節子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、スポーツ活動
(1) バドミントンのルール説明ならびに試しのゲーム
- 第4回 スポーツ活動(2) 基本の打ち方
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、スポーツ活動(3) サービス
- 第6回 スポーツ活動(4) クリア
- 第7回 スポーツと環境、スポーツ活動(5) ドロップ

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日 12:15~12:45

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 スポーツ活動(6) ドライブ
- 第9回 スポーツと運動強度、スポーツ活動(7) スマッシュ
- 第10回 スポーツ活動(8) プッシュ
- 第11回 スポーツ活動(9) ダブルスのリーグ戦第1回
- 第12回 スポーツ活動(10) ダブルスのリーグ戦第2回
- 第13回 スポーツ活動(11) シングルのリーグ戦第1回
- 第14回 スポーツ活動(12) シングルのリーグ戦第2回
- 第15回 スポーツ活動(13) シングルのリーグ戦第3回
- 第16回 まとめ

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 1 対象 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 小木曾一之 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・ゲームを中心とした中で、バスケットボールの基本技術の習得及びルールを理解し、スポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バスケットボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (1)
- 第4回 3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (3)
- 第6回 3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (4)
- 第7回 スポーツと環境。3on3ゲーム (より多

く、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- く運動量とボールに触れる機会を作る) (5)
 - 第8回 チームで作戦を考えながらのゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度。チームで作戦を考えながらのゲーム(2)
 - 第10回 チームで作戦を考えながらのゲーム(3)
 - 第11回 チームで作戦を考えながらのゲーム(4)
 - 第12回 チームで作戦を考えながらのゲーム(5)
 - 第13回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(1)
 - 第14回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(2)
 - 第15回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(3)
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するに

あたって、最低限のルールをルールブック等 には授業を通じて随時指導する。
を利用して把握しておくこと。その他につい

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 高木 良明 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術を身につけ、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしてのサッカーに必要な体力を養う。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認、リフティングの学習
- 第4回 基本的技術の習得(キックの方法とパスワーク)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基本的技術の習得(ドリブル)
- 第6回 基本的技術の習得(シュート)
- 第7回 スポーツと環境、基本的技術の習得(コンビネーションプレー)
- 第8回 簡易ルールの説明とミニゲーム

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、総合的な学習とミニゲーム

第10回 パスでのコンビネーションとゲーム

第11回 1対1での突破方法とゲーム

第12回 ディフェンス方法とゲーム

第13回 戦術に対する理解とゲーム

第14回 作戦の立案とゲーム

第15回 現行ルールの説明及び審判法の理解とゲーム

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 中西義雄

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第4回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第6回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツと環境。サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第8回 応用練習 試合の進め方と試合での作戦

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

の習得
第9回 スポーツと運動強度。ダブルスのフォーメーションの習得
第10回 ダブルスの試合(1)
第11回 ダブルスの試合(2)
第12回 ダブルスの試合(3)
第13回 シングルの試合(1)
第14回 シングルの試合(2)
第15回 シングルの試合(3)
第16回 まとめ
*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 1 対象 工学部 (機械、建築、情報) 年次 学部(学士課程): 1
年次 選必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 富樫健二

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 アルティメットはボールのかわりにフライングディスクを用い、進行はバスケットボール、ハンドボール、得点方法はアメリカンフットボールに類似しているスポーツである。風の影響等、個人の技術・体力要素以外にも偶然性が作用することもあるため、楽しみながら身体に対し運動刺激を与え、生涯スポーツとして位置づけることが目標となる

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード アルティメット、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) Ultimate, Physical Activity, Exercise, Sports

学習内容

第1回: ガイダンス

第2回: 体力測定および生活習慣調査

第3回: 全体計画、用具などの説明、グループ分け、基本技術1(バックハンドスロー&キャッチ)、ミニゲーム①スポーツと怪我の防止

第4回: 基本技術2(サイドアームスロー&キャッチ)、ミニゲーム②

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価にあたっては、課題習熟度(30%)、授業態度(積極性、協調性など60%)、レポート等(10%)の3観点から原則として評価する。

オフィスアワー 木曜12:20~12:40

授業改善への工夫 アルティメットにおける基礎的な技術を紹介するとともに、様々なグルーピングでコミュニケーション能力の向上をめざす。また、出来る限り身体活動量の多い授業を心がける。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第5回: 基本技術3(サンドイッチキャッチ)、ミニゲーム③体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック

第6回: 基本技術4(シングルハンドキャッチ)、ミニゲーム④

第7回: 基本技術5(カーブ、シュートの投げ方)、ミニゲーム⑤スポーツと環境

第8回: 基本技術6(ルールの理解)、ミニゲーム⑥

第9回: 基本技術7(オフェンスの基本)、ミニゲーム⑦

第10回: 基本技術8(ディフェンスの基本)、ミニゲーム⑧

第11回: リーグ戦①(オフェンスの応用:ス

タック)

第12回：リーグ戦②（ディフェンスの応用：ゾーン）

第13回：リーグ戦③（オフェンスの応用：セットプレー）

第14回：リーグ戦④（ディフェンスの応用：クラム）

第15回：基礎技術に関する実技試験、まとめ

学習課題（予習・復習） 授業のみならず、日頃から身体活動量やスポーツ実践の増加を促すとともに、テレビや競技場でのスポーツ観戦を奨励すること、運動と健康に関わる知識を収集することなどを随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、フォアハンドの練習
- 第4回 バックハンドの練習
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、スマッシュ・ブロックの練習
- 第6回 サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツと環境、変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第8回 変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)

第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)

第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)

第13回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)

第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)

第15回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 小木曾一之 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・ゲームを中心とした中で、バスケットボールの基本技術の習得及びルールを理解し、スポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バスケットボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (1)
- 第4回 3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (2)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック。3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (3)
- 第6回 3on3ゲーム (より多くの運動量とボールに触れる機会を作る) (4)
- 第7回 スポーツと環境。3on3ゲーム (より多

く、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- く運動量とボールに触れる機会を作る) (5)
 - 第8回 チームで作戦を考えながらのゲーム(1)
 - 第9回 スポーツと運動強度。チームで作戦を考えながらのゲーム(2)
 - 第10回 チームで作戦を考えながらのゲーム(3)
 - 第11回 チームで作戦を考えながらのゲーム(4)
 - 第12回 チームで作戦を考えながらのゲーム(5)
 - 第13回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(1)
 - 第14回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(2)
 - 第15回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(3)
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するに

あたって、最低限のルールをルールブック等 には授業を通じて随時指導する。
を利用して把握しておくこと。その他につい

スポーツ健康科学a

Practice of Sport and Health a

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 高木 良明 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、心身の健康について理解し自己の体力への気づきを促すために、授業中(2回目)に体力測定および生活習慣調査を実施する。測定データをもとに体力の現状を理解し、授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動についての概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術を身につけ、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしてのサッカーに必要な体力を養う。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止、チーム編成と安全への確認、リフティングの学習
- 第4回 基本的技術の習得(キックの方法とパスワーク)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基本的技術の習得(ドリブル)
- 第6回 基本的技術の習得(シュート)
- 第7回 スポーツと環境、基本的技術の習得(コンビネーションプレー)
- 第8回 簡易ルールの説明とミニゲーム

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと運動強度、総合的な学習とミニゲーム

第10回 パスでのコンビネーションとゲーム

第11回 1対1での突破方法とゲーム

第12回 ディフェンス方法とゲーム

第13回 戦術に対する理解とゲーム

第14回 作戦の立案とゲーム

第15回 現行ルールの説明及び審判法の理解とゲーム

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学a(アダプテッド スポーツ)

Practice of Sport and Health a

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 1 対象 本コース受講を希望するもの 年次 学部(学士課程): 1

年次, 2年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 山本 俊彦 (教育学部)

授業の概要 我々の活動力に影響する健康や体力の維持増進は、急激な社会生活の変化の中で極めて重要なことである。本授業は、人間の生命や健康に関する科学に立脚して、健康の保持増進を図り、生活を豊かにし、進んで将来の社会生活を充実させようとするのがねらいである。

学習の目的 個人にあった健康、体力に関する認識を深め、個々人にあった日常生活での運動実践の方法を学びつつ、実践する能力を養う。

学習の到達目標 学生生活の中で運動実践を継続すること。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 通常のスポーツ健康学実習の履修が困難な学生を対象とする。そのため、医師

の診断書などを参考にする。

発展科目 スポーツ健康学概論

教科書 必要な資料は、授業時に提示する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要である。評価にあたっては、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 火曜日9.10限

授業改善への工夫 個人毎の態度、行動など授業中、最終授業時などで、レポートなど通して対応する。

その他 身体運動、スポーツの実践を通して「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」の4つの力を涵養する授業内容である。第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード 健康、体力、運動、

学習内容

第1回:ガイダンス

第2回~14回:各個人の症状に応じて個別に対応していく。

第15~16回:まとめ

学習課題(予習・復習) 疾病・外傷などによって、通常の授業履修が困難な学生を対象とするため、その個人の症状などを考慮し、個人にあった課題を提示し、復習や予習に役立てるように進める。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 火,5,6 **単位** 1 **対象** 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 米川直樹 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基礎的な技能の習得とルールにそった試合ができるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。卓球の歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入(1)
- 第3回 卓球の歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入(2)
- 第4回 基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

人文学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 必要な資料は、授業時に配布する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 火曜日 14:30~14:40

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。授業中、授業後、オフィスアワー時に学生からの質問や意見などを参考にしたり、最終授業後のレポートなどを参考にしながら対応する。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第5回 スポーツと運動強度。基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第6回 基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(3)

第7回 スポーツとコミュニケーション。基礎技能2 (サーブ) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

第8回 基礎技能2 (サーブ) とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理。基礎技能3 (レ

シーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

第10回 基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第11回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)

第12回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

第13回 生活習慣調査(2回目)。ゲーム(ルールの説明を含む)(1)

第14回 ゲーム(ルールの説明を含む)(2)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 基礎技能習得に向けて自宅のできる方法の提示、日常生活での体力維持の方法の提示、卓球に関する情報(新聞、TVなど)に接すること等を通して対応する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 対象 人文学部(文化+法経201~235) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉田 正明

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中（2回目）に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 健康、体力、運動についての意義、重要性などの概要を理解し、今後の生活に役立てるようになる。特に特に心理・社会的側面について理解する。サッカーの基本的技術が身につく、自らがサッカーを楽しむことができるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) soccer, exercise, health, sport

学習内容

- 第1回 ガイダンス 種目選択
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認
- 第3回 基本トレーニングと基本のキック及びトラップなどの学習
- 第4回 基本トレーニングとパス、浮いたボールのパス、リフティング、パス回しの学習
- 第5回 スポーツと運動強度、パス回しの学習
- 第6回 リフティングと基本の学習

技術、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00杉田研究室 (教育学部1号館1階)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。1回目の授業に参加しないと希望種目が選択できないこともある。

- 第7回 スポーツとコミュニケーション、ミニゲーム及び簡易ルールの説明
- 第8回 リフティング、パス、ドリブルの学習とミニゲーム
- 第9回 スポーツと体調管理、パス、ドリブル等の総合的な学習
- 第10~11回 パス、ドリブル等の総合的な学習とゲーム (パスゲーム)
- 第12回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム (リーグ戦)
- 第13回 生活習慣調査、ゲーム (リーグ戦)
- 第14回 ゲームと現行ルールの説明及び審判法
- 第15回 運動、生活習慣の振り返り
- 第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

の試合をテレビなどで視聴し、サッカーへの理解を深めること。かんたんなルールについて事前に学習することを求める。

学習課題（予習・復習） 国内外のサッカー

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 対象 人文学部(文化、法経201~235) 年次 学部(学士課程):1年次 選/必 選択必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業,グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 洋子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的

- ・運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。
- ・エアロビック・ダンス、リズム体操、Gボールを使ったバランス系、バウンド系の基礎的な運動を習得し、自分の心身に対する認知能力を高める。これらの正しい運動の方法を理解するとともに、体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを理解できるようになる。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・エアロビック・ダンスやリズム体操、Gボールを使った運動の基本的な運動を習得し、自分にあった運動を構成できるようになる。正しい運動の方法を説明できるようになる。体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じられるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード エアロビクス、身体運動、健康

学習内容

第1回: ガイダンスおよび種目分け
第2回: メンタルヘルスに関する調査、目標心拍数の算出、エアロビック・ダンスの基礎
第3回: 基礎的なステップ、ストレッチ、筋コンディショニング
第4回: 基本的なステップの組み合わせ、スト

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・人文学部(文化、法経201~235)
- ・毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に紹介する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00から13:00 保体(運動方法学II)研究室(後藤)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

レッツ、筋コンディショニング
第5回: スポーツと運動強度、基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ
第6回: 簡単なステップの組み合わせ、筋コンディショニング(体幹筋を中心に)
第7回: スポーツとコミュニケーション、ステップの組み合わせ、ストレッチ
第8回: 各種ステップの組み合わせ、筋コン

ディショニング（上肢を中心に）

第9回：スポーツと体調管理、Gボールを使った運動（座位での弾みを中心に）

第10回：Gボールを使った運動（組み合わせプログラムを中心に）

第11回：Gボールを使った運動（ペア、グループの活動を中心に）

第12回：ソフトジムボールを使った運動

第13回：生活習慣調査（2回目）、多様なステップコンビネーション、ストレッチ

第14回：多様なステップコンビネーションと作品構成

第15回：運動、生活習慣の振り返り、自由なステップの組み合わせとまとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 1 対象 人文学部(文化+法経201~235) 年次 学部(学士課程):
1年次 選/必 必修 授業の方法 実技 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 鶴原清志(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への「気づき」を促すために、授業中(2回目)に心理、社会的側面に関する調査を実施する。更に)スポーツ健康科学Iで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において(健康的な生活を営む上での)身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

シオン力を総合した力

受講要件 人文学部 毎年健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

予め履修が望ましい科目 保健体育教育科目
(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価は課題習熟度、授業態度(積極性・協調性など)、レポートなどの観点から総合的に行う。

オフィスアワー 毎週木曜日12時00分から約1時間程度。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンス及び種目分
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、ラケットティング
- 第3回 ハイクリア(フォアハンド)
- 第4回 ハイクリア(バックハンド)
- 第5回 スポーツと運動強度、ドロップ(フォアハンド)
- 第6回 ドロップ(バックハンド)
- 第7回 スマッシュ
- 第8回 ヘアピン(フォアハンド)

- 第9回 スポーツと体調管理、ヘアピン(バックハンド)
 - 第10回 ドライブ(フォアハンド)
 - 第11回 ドライブ(バックハンド)
 - 第12回 サーブ(ショートサーブ)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、サーブ(ロングサーブ)
 - 第14回 シングルスゲーム(トーナメント)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り、ダブルスのゲーム(トーナメント)
- また、授業の中で随時ゲーム形式を導入し、基本技能をゲームで試す。

学習課題(予習・復習) バドミントンの基

基礎技能を獲得する練習を推奨するとともに、
日常生活の中で運動、スポーツを実施することを学習課題とする。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 火7,8 **単位** 1 **対象** 人文学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必修** 必修 **授業の方法** 実習
授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 米川直樹 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基礎的な技能の習得とルールにそった試合ができるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。卓球の歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入(1)
- 第3回 卓球の歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入(2)
- 第4回 基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

人文学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 必要な資料は、授業時に配布する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 火曜日 14:30~14:40

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。授業中、授業後、オフィスアワー時に学生からの質問や意見などを参考にしたり、最終授業後のレポートなどを参考にしながら対応する。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第5回 スポーツと運動強度。基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第6回 基礎技能1 (フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(3)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。基礎技能2 (サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第8回 基礎技能2 (サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第9回 スポーツと体調管理。基礎技能3 (レ

シーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)

第10回 基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

第11回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)

第12回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

第13回 生活習慣調査(2回目)。ゲーム(ルールの説明を含む)(1)

第14回 ゲーム(ルールの説明を含む)(2)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 基礎技能習得に向けて自宅のできる方法の提示、日常生活での体力維持の方法の提示、卓球に関する情報(新聞、TVなど)に接すること等を通して対応する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部(法経236～) 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選択/必修 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 杉田 正明

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中（2回目）に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標 健康、体力、運動についての意義、重要性などの概要を理解し、今後の生活に役立てるようになる。特に特に心理・社会的側面について理解する。サッカーの基本的技術が身につく、自らがサッカーを楽しむことができるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

Key Word(s) soccer, exercise, health, sport

学習内容

- 第1回 ガイダンス 種目選択
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認
- 第3回 基本トレーニングと基本のキック及びトラップなどの学習
- 第4回 基本トレーニングとパス、浮いたボールのパス、リフティング、パス回しの学習
- 第5回 スポーツと運動強度、パス回しの学習
- 第6回 リフティングと基本の学習

技術、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00～13:00杉田研究室（教育学部1号館1階）

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。1回目の授業に参加しないと希望種目が選択できないこともある。

- 第7回 スポーツとコミュニケーション、ミニゲーム及び簡易ルールの説明
- 第8回 リフティング、パス、ドリブルの学習とミニゲーム
- 第9回 スポーツと体調管理、パス、ドリブル等の総合的な学習
- 第10～11回 パス、ドリブル等の総合的な学習とゲーム（パスゲーム）
- 第12回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦）
- 第13回 生活習慣調査、ゲーム（リーグ戦）
- 第14回 ゲームと現行ルールの説明及び審判法
- 第15回 運動、生活習慣の振り返り
- 第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

の試合をテレビなどで視聴し、サッカーへの理解を深めること。かんたんなルールについて事前に学習することを求める。

学習課題（予習・復習） 国内外のサッカー

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 法経 (236～) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修
授業の方法 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 八木規夫 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バスケットボールの基礎技術及びゲームルールを理解し、ゲームを楽しむことができる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力, 指導力・

授業計画・学習の内容

キーワード 豊かなスポーツライフをめざして、バスケットボールゲームを実践する能力を養うとともに、バスケットボールの知識、楽しみ方について学習する。

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認、
- 第3回 シュート、ドリブルなどファンダメンタルスキルの学習とミニゲーム及び簡易ルールの説明
- 第4回 シュート、ドリブルなどファンダメンタルスキルの学習とミニゲーム
- 第5回 スポーツと運動強度、ファンダメンタル

協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特になし

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価に当たっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時30分～14時30分

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

スキルの学習とミニゲーム

第6回 マンツーマンディフェンスの学習とゲーム

第7回 スポーツとコミュニケーション、マンツーマンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)。速攻、遅攻

第8回 マンツーマンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)。スクリーンプレイなど

第9回 スポーツと体調管理、ゾーンディフェンスの学習とゲーム

第10回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦)

第11回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム(リーグ戦) パスワークなど

第12回 ゾーンディフェンスに対する攻撃を考えたゲーム（リーグ戦） センタープレイなど

第13回 生活習慣調査（2回目）、マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲーム

第14回 マンツーマン、ゾーンディフェンス混合のゲームと現行ルールの説明

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 実技実習なので体調を整えておくこと。着替え、タオルなど準備すること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 1 対象 人文学部(法経236~) 年次 学部(学士課程):1年次
選/必 必修 授業の方法 実技 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 鶴原清志(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への「気づき」を促すために、授業中(2回目)に心理、社会的側面に関する調査を実施する。更に)スポーツ健康科学Iで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において(健康的な生活を営む上での)身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識、幅広い教養、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

シオン力を総合した力

受講要件 人文学部 毎年健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

予め履修が望ましい科目 保健体育教育科目(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 休まずに出席することを単位認定上不可欠な条件とした上で、評価は課題習熟度、授業態度(積極性・協調性など)、レポートなどの観点から総合的に行う。

オフィスアワー 毎週木曜日12時00分から約1時間程度。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンス及び種目分
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、ラケットティング
- 第3回 ハイクリア(フォアハンド)
- 第4回 ハイクリア(バックハンド)
- 第5回 スポーツと運動強度、ドロップ(フォアハンド)
- 第6回 ドロップ(バックハンド)
- 第7回 スマッシュ
- 第8回 ヘアピン(フォアハンド)

- 第9回 スポーツと体調管理、ヘアピン(バックハンド)
 - 第10回 ドライブ(フォアハンド)
 - 第11回 ドライブ(バックハンド)
 - 第12回 サーブ(ショートサーブ)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、サーブ(ロングサーブ)
 - 第14回 シングルスゲーム(トーナメント)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り、ダブルスのゲーム(トーナメント)
- また、授業の中で随時ゲーム形式を導入し、基本技能をゲームで試す。

学習課題(予習・復習) バドミントンの基

基礎技能を獲得する練習を推奨するとともに、
日常生活の中で運動、スポーツを実施するこ

とを学習課題とする。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部(看護学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修

授業の方法 実習

担当教員 藤川 誠一 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基礎的な技能の習得とルールにそった試合をできるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。バドミントンの歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入
- 第4回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部と医学部(看護学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第6回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(3)
- 第7回 スポーツと環境、基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第8回 基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第9回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第10回 基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第11回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)
- 第12回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)

用したダブルスゲーム(2)

第13回 ゲーム (ルールの説明を含む) (1)

第14回 ゲーム (ルールの説明を含む) (2)

第15回 テスト

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題 (予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 1 **対象** 教育学部と医学部(看護学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修

授業の方法 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンドの練習
- 第3回 バックハンドの練習
- 第4回 スマッシュ・ブロックの練習
- 第5回 スポーツと運動強度、サービス・レープの練習と簡易ゲーム
- 第6回 変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部と医学部(看護学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(1)
- 第9回 スポーツと体調管理、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)
- 第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)
- 第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)
- 第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)
- 第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(7)
- 第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するに

あたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 1 対象 教育学部と医学部(看護学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修

授業の方法 実習

担当教員 片山 靖富 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第3回 課題解決：基本的なボールタッチ(キック、ドリブル、トラップ、リフティング)(1)
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ(キック、ドリブル、トラップ、リフティング)(2)
- 第5回 スポーツと運動強度、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的と

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部と医学部(看護学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

したミニゲーム(2)

第7回 スポーツとコミュニケーション、課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

第8回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理、課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)

第10回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)

第11回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(3)

第12回 まとめ1：現行ルールでのゲーム(フルコート)(1)

第13回 生活習慣調査（2回目）、まとめ1：現
行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フル
コート）(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関し
ては、テレビ等で試合観戦するなどしてルー
ルを理解しておくことと、傷害予防のために
ストレッチングを実践するなど、体調管理に
努めること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 5,6 単位 1 対象 教育学部（家庭、学教、特支、英語、幼教の各コース）、医学部看護学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 実習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 洋子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中（2回目）に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的

・運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。
・エアロビック・ダンス、リズム体操、Gボールを使ったバランス系、バウンド系の基礎的な運動を習得し、自分の心身に対する認知能力を高める。これらの正しい運動の方法を理解するとともに、体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを理解できるようになる。

学習の到達目標

・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
・エアロビック・ダンスやリズム体操、Gボールを使った運動の基本的な運動を習得し、自分にあった運動を構成できるようになる。正しい運動の方法を説明できるようになる。体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じられるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード エアロビクス、身体運動、健康

学習内容

第1回：ガイダンスおよび種目分け
第2回：メンタルヘルスに関する調査、目標心拍数の算出、エアロビック・ダンスの基礎
第3回：基礎的なステップ、ストレッチ、筋コンディショニング

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部A類（家政、学教、特支）、B類、C類（消費）、D類（人発）、医学部看護学科 毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に紹介する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度（積極性、協調性など）、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日12：00から13：00 保体（運動方法学II）研究室（後藤）

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第4回：基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ、筋コンディショニング
第5回：スポーツと運動強度、基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ
第6回：簡単なステップの組み合わせ、筋コンディショニング（体幹筋を中心に）
第7回：スポーツとコミュニケーション、ステップの組み合わせ、ストレッチ

第8回：各種ステップの組み合わせ、筋コンディショニング（上肢を中心に）

第9回：スポーツと体調管理、Gボールを使った運動（座位での弾みを中心に）

第10回：Gボールを使った運動（組み合わせプログラムを中心に）

第11回：Gボールを使った運動（ペア、グループの活動を中心に）

第12回：ソフトジムボールを使った運動

第13回：生活習慣調査（2回目）、多様なステップコンビネーション、ストレッチ

第14回：多様なステップコンビネーションと作品構成

第15回：運動、生活習慣の振り返り、自由なステップの組み合わせとまとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 藤川 誠一 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基礎的な技能の習得とルールにそった試合をできるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスと種目分け
- 第2回 体力測定および生活習慣調査(1回目)
- 第3回 スポーツと怪我の防止。バドミントンの歴史、用具の説明、ラケットの扱い方など。ゲームへの導入
- 第4回 基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
- 第5回 体力測定および生活習慣調査の結果フィードバック、基礎技能1(フォアハンド、バックハンド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
- 第6回 基礎技能1(フォアハンド、バックハン

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ド)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(3)
第7回 スポーツと環境、基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
第8回 基礎技能2(サーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
第9回 スポーツと運動強度、基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(1)
第10回 基礎技能3(レシーブ)とこれらの技能を活用したシングルスゲーム(2)
第11回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(1)
第12回 基礎技能4(戦術)とこれらの技能を活用したダブルスゲーム(2)
第13回 ゲーム(ルールの説明を含む)(1)

第14回 ゲーム（ルールの説明を含む）(2)

第15回 テスト

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 1 対象 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンドの練習
- 第3回 バックハンドの練習
- 第4回 スマッシュ・ブロックの練習
- 第5回 スポーツと運動強度、サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第6回 変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム
- 第8回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- (1)
 - 第9回 スポーツと体調管理、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)
 - 第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)
 - 第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)
 - 第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)
 - 第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(7)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 片山 靖富 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
第2回 メンタルヘルスに関する調査、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
第3回 課題解決：基本的なボールタッチ(キック、ドリブル、トラップ、リフティング)(1)
第4回 課題解決：基本的なボールタッチ(キック、ドリブル、トラップ、リフティング)(2)
第5回 スポーツと運動強度、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第7回 スポーツとコミュニケーション、課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

第8回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理、課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)

第10回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)

第11回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(3)

第12回 まとめ1：現行ルールでのゲーム(フルコート)(1)

第13回 生活習慣調査(2回目)、まとめ1：現行ルールでのゲーム(フルコート)(2)

第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関しては、テレビ等で試合観戦するなどしてルールを理解しておくことと、傷害予防のためにストレッチングを実践するなど、体調管理に努めること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 1 **対象** 教育学部 (国語、社会、数情、理科、音学、美術、保体、技も、人発、日語の各コース) **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 選択必修

授業の方法 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 後藤 洋子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中 (2回目) に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的

・運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。
・エアロビック・ダンス、リズム体操、Gボールを使ったバランス系、バウンド系の基礎的な運動を習得し、自分の心身に対する認知能力を高める。これらの正しい運動の方法を理解するとともに、体を動かすことの楽しさ、気持ちよさを理解できるようになる。

学習の到達目標

・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
・エアロビック・ダンスやリズム体操、Gボールを使った運動の基本的な運動を習得し、自分にあった運動を構成できるようになる。正しい運動の方法を説明できるようになる。体を動かすことの楽しさや気持ちよさを感じられるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学

授業計画・学習の内容

キーワード エアロビクス、身体運動、健康

学習内容

第1回：ガイダンスおよび種目分け
第2回：メンタルヘルスに関する調査、目標心拍数の算出、エアロビック・ダンスの基礎
第3回：基礎的なステップ、ストレッチ、筋コ

習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

・教育学部 (国語、社会、数情、理科、音楽、美術、保体、技も、人発、日語の各コース)
・毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

教科書 特に指定しない。必要に応じて授業時に紹介する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度 (積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00から13:00 保体 (運動方法学II) 研究室 (後藤)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

ンディショニング
第4回：基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ、筋コンディショニング
第5回：スポーツと運動強度、基本的なステップの組み合わせ、ストレッチ
第6回：簡単なステップの組み合わせ、筋コンディショニング (体幹筋を中心に)

第7回：スポーツとコミュニケーション、ステップの組み合わせ、ストレッチ

第8回：各種ステップの組み合わせ、筋コンディショニング（上肢を中心に）

第9回：スポーツと体調管理、Gボールを使った運動（座位での弾みを中心に）

第10回：Gボールを使った運動（組み合わせプログラムを中心に）

第11回：Gボールを使った運動（ペア、グルー

プの活動を中心に）

第12回：ソフトジムボールを使った運動

第13回：生活習慣調査（2回目）、多様なステップコンビネーション、ストレッチ

第14回：多様なステップコンビネーションと作品構成

第15回：運動、生活習慣の振り返り、自由なステップの組み合わせとまとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 細野 信幸 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第3回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)
- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ゲームを楽しむ(1)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第9回 スポーツと体調管理。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第10回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第11回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第12回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)。能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(4)

第14回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 船越 一彦 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バレーボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バレーボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(1)。個人の技能差に応じてソフトバレーボールやジュニア用のボールを使用する。
- 第3回 各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(2)
- 第4回 前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(1)。ゲームは男女混合のゲームを原則とするが、受講生の技能向上と経験の度合いの状況のみを適

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 宜チーム編成をしなおす。
- 第5回 スポーツと運動強度。前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(2)
 - 第6回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(1)。各自の個別課題、とくに各種パスの長所や短所について確認する。
 - 第7回 スポーツとコミュニケーション。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(2)
 - 第8回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(3)
 - 第9回 スポーツと体調管理。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(4)
 - 第10回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既

定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(1)

第11回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(2)

第12回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(3)

第13回 生活習慣調査(2回目)。審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。

また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(4)

第14回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 脇田裕久 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンド・ストローク(ロング)
- 第3回 バックハンド・ストローク(ショート)
- 第4回 サービスとレシーブ・ルールの解説および簡易ゲーム
- 第5回 スポーツと運動強度、ドライブ・スピナーサーブとゲーム(1)
- 第6回 ドライブ・スピナーサーブとゲーム(2)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、アンダー・スピナーサーブとゲーム(1)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 アンダー・スピナーサーブとゲーム(2)
 - 第9回 スポーツと体調管理、サイド・スピナーサーブ(時計回り)とゲーム
 - 第10回 サイド・スピナーサーブ(反時計回り)とゲーム
 - 第11回 ロビングとスマッシュとゲーム
 - 第12回 これまでの技能の習熟をはかりゲームを楽しむ(1)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、これまでの技能の習熟をはかりゲームを楽しむ(2)
 - 第14回 テスト
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修/必修 授業の方法 実習

担当教員 宮本ともみ (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
- 第3回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
- 第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
- 第5回 スポーツと運動強度、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
- 第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的と

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

したミニゲーム(2)

第7回 スポーツとコミュニケーション、課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)

第8回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理、課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)

第10回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)

第11回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(3)

第12回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(1)

第13回 生活習慣調査（2回目）、まとめ1：現
行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フル
コート）(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関し
ては、テレビ等で試合観戦するなどしてルー
ルを理解しておくことと、傷害予防のために
ストレッチングを実践するなど、体調管理に
努めること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 中西 義雄 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第3回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)
- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ゲームを楽しむ(1)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第9回 スポーツと体調管理。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第10回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第11回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第12回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)。能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(4)

第14回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 細野 信幸 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第3回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)
- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ゲームを楽しむ(1)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第9回 スポーツと体調管理。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第10回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)。能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(4)

第14回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 船越 一彦 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バレーボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バレーボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(1)。個人の技能差に応じてソフトバレーボールやジュニア用のボールを使用する。
- 第3回 各種パスを中心とした個人的なスキルの習得(2)
- 第4回 前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(1)。ゲームは男女混合のゲームを原則とするが、受講生の技能向上と経験の度合いの状況を見て適

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 宜チーム編成をしなおす。
- 第5回 スポーツと運動強度。前回の基礎スキルの習得を継続しながら初心者にはソフトバレーボールを、経験者には9人制、6人制のゲームを導入する(2)
 - 第6回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(1)。各自の個別課題、とくに各種パスの長所や短所について確認する。
 - 第7回 スポーツとコミュニケーション。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(2)
 - 第8回 リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(3)
 - 第9回 スポーツと体調管理。リーグ戦、対抗戦形式でゲームを楽しむ(4)
 - 第10回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既

定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(1)

第11回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(2)

第12回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(3)

第13回 生活習慣調査(2回目)。審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。

また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(4)

第14回 審判法やリーグ戦運営方法についてのレクチャーをする。また、バレーボールの既定ルールに拘らないで、独自のルールの導入を積極的に図る。またそれぞれが役割分担をしながら、リーグ戦運営方法を学習していく(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選択 必修 授業の方法 実習

担当教員 岡野 昇

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・主として、ボールゲームのレクリエーションスポーツを行うことによって、仲間とともにスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード レクリエーションスポーツ、ボールゲーム、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、コミュニケーションゲーム
- 第3回 キンボール①(行い方と試しのゲーム)
- 第4回 キンボール②(リーグ戦)
- 第5回 スポーツと運動強度、キンボール③(対抗戦)
- 第6回 ユニバーサルホッケー①(行い方と試しのゲーム)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、ユニ

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- バーサルホッケー②(リーグ戦)
 - 第8回 ユニバーサルホッケー③(対抗戦)
 - 第9回 スポーツと体調管理、アルティメット①(行い方と試しのゲーム)
 - 第10回 アルティメット②(リーグ戦)
 - 第11回 アルティメット③(対抗戦)
 - 第12回 フットサル①(行い方と試しのゲーム)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、フットサル②(リーグ戦)
 - 第14回 フットサル③(対抗戦)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 宮本ともみ (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術が身につき、自らがサッカーを楽しくできるようになる。体力や身体運動の意義を理解し、今後の生活に役立てるようになる。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
第2回 メンタルヘルスに関する調査、課題発見：基本ルールの確認、チーム編成、試しのゲーム
第3回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(1)
第4回 課題解決：基本的なボールタッチ（キック、ドリブル、トラップ、リフティング）(2)
第5回 スポーツと運動強度、課題解決：ドリブル技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
第6回 課題解決：ドリブル技術の向上を目的と

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- したミニゲーム(2)
第7回 スポーツとコミュニケーション、課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(1)
第8回 課題解決：パス技術の向上を目的としたミニゲーム(2)
第9回 スポーツと体調管理、課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(1)
第10回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(2)
第11回 課題解決：コンビネーション、状況判断の向上を目的としたミニゲーム(3)
第12回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フルコート）(1)

第13回 生活習慣調査（2回目）、まとめ1：現
行ルールでのゲーム（フルコート）(2)

第14回 まとめ1：現行ルールでのゲーム（フル
コート）(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 予習・復習に関し
ては、テレビ等で試合観戦するなどしてルー
ルを理解しておくことと、傷害予防のために
ストレッチングを実践するなど、体調管理に
努めること。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 1 対象 生物資源学部と医学部(医学科)のうち、指定されたコースのみが受講可能。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選修 必修 授業の方法 実習

担当教員 中西 義雄 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(1)
- 第3回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(2)
- 第4回 試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。試合を通じルールを知り、お互いのチームの特徴を知りながらゲームを楽しむ(4)
- 第6回 自分たちのチームの力を試しながら、

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

生物資源学部と医学部(医学科)。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- ゲームを楽しむ(1)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(2)
- 第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(3)
- 第9回 スポーツと体調管理。自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ(4)
- 第10回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(1)
- 第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(2)
- 第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(3)
- 第13回 生活習慣調査(2回目)。能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(4)

第14回 能力に合わせて試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ(5)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ2：振り返り

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 中西義雄

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第3回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第4回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 スポーツと運動強度。ボレー 基本的なフォームの習得
- 第6回 サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。応用練習 試合の進め方と試合での作戦の習得
- 第8回 ダブルスのフォーメーションの習得

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第9回 スポーツと体調管理。ダブルスの試合(1)
 - 第10回 ダブルスの試合(2)
 - 第11回 ダブルスの試合(3)
 - 第12回 シングルの試合(1)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)。シングルの試合(2)
 - 第14回 シングルの試合(3)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月 5, 6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必修** 必修 **授業の方法** 実習

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 加納 岳拓 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ソフトボールの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード ソフトボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、試合を通じルールを知り、チームの特徴を知りながらゲームを楽しむ①
- 第3回 試合を通じルールを知り、チームの特徴を知りながらゲームを楽しむ②
- 第4回 試合を通じルールを知り、チームの特徴を知りながらゲームを楽しむ③
- 第5回 スポーツと運動強度、試合を通じルールを知り、チームの特徴を知りながらゲームを楽しむ④

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること。

「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

成績評価方法と基準

自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00～13:00 場所 保健体育科教育学研究室III

授業改善への工夫

FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他

第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第6回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ①

第7回 スポーツとコミュニケーション、自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ②

第8回 自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ③

第9回 スポーツと体調管理、自分たちのチームの力を試しながら、ゲームを楽しむ④

第10回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ①

第11回 能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ②

第12回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ③

第13回 生活習慣調査（2回目）、
能力に合わせ試合ごとにチームを替えてゲームを楽しむ④

第14回 能力に合わせ試合ごとにチームを替え

てゲームを楽しむ⑤

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンドの練習
- 第3回 バックハンドの練習
- 第4回 スマッシュ・ブロックの練習
- 第5回 スポーツと運動強度、サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第6回 変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム
- 第8回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- (1) 第9回 スポーツと体調管理、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)
 - 第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)
 - 第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)
 - 第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)
 - 第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(7)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 1 対象 工学部 (分子・電気・物理) 年次 学部(学士課程): 1
年次 選必 必修 授業の方法 実習
担当教員 大隈節子 (教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームを行うことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、スポーツ活動(1) バドミントンのルール説明ならびに試しのゲーム
- 第3回 スポーツ活動(2) 基本の打ち方
- 第4回 スポーツ活動(3) サービス
- 第5回 スポーツと運動強度、スポーツ活動(4) クリア
- 第6回 スポーツ活動(5) ドロップ
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、スポーツ活動(6) ドライブ

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

毎年の健康診断を受診すること。
「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 水曜日 12:15~12:45

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第8回 スポーツ活動(7) スマッシュ
- 第9回 スポーツと体調管理、スポーツ活動(8) プッシュ
- 第10回 スポーツ活動(9) ダブルスのリーグ戦第1回
- 第11回 スポーツ活動(10) ダブルスのリーグ戦第2回
- 第12回 スポーツ活動(11) シングルススのリーグ戦第1回
- 第13回 生活習慣調査(2回目)、スポーツ活動(12) シングルススのリーグ戦第2回
- 第14回 スポーツ活動(13) シングルススのリーグ戦第3回
- 第15回 運動、生活習慣の振り返り
- 第16回 まとめ

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 小木曾一之 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ゲームを中心とした中で、バスケットボールの基本技術の習得及びルールを理解し、スポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バスケットボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(1)
- 第3回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(2)
- 第4回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(4)
- 第6回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(5)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第7回 スポーツとコミュニケーション。チームで作戦を考えながらのゲーム(1)

第8回 チームで作戦を考えながらのゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理。チームで作戦を考えながらのゲーム(3)

第10回 チームで作戦を考えながらのゲーム(4)

第11回 チームで作戦を考えながらのゲーム(5)

第12回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(1)

第13回 生活習慣調査(2回目)。自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(2)

第14回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月5,6 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習

担当教員 高木 良明 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術を身につけ、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしてのサッカーに必要な体力を養う。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認、リフティングの学習
- 第3回 基本的技術の習得(キックの方法とパスワーク)
- 第4回 基本的技術の習得(ドリブル)
- 第5回 スポーツと運動強度、基本的技術の習得(シュート)
- 第6回 基本的技術の習得(コンビネーションプレー)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、簡易ルールの説明とミニゲーム
- 第8回 総合的な学習とミニゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと体調管理、パスでのコンビネーションとゲーム

第10回 1対1での突破方法とゲーム

第11回 ディフェンス方法とゲーム

第12回 戦術に対する理解とゲーム

第13回 生活習慣調査(2回目)、作戦の立案とゲーム

第14回 現行ルールの説明及び審判法の理解とゲーム

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 中西義雄

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・テニスの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード テニス、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。ミニテニスの構え方、グリップを指導し、ボールとラケットに慣れる
- 第3回 フォアハンド 基本的なフォームの習得
- 第4回 バックハンド 基本的なフォームの習得
- 第5回 スポーツと運動強度。ボレー 基本的なフォームの習得
- 第6回 サービスとスマッシュ 基本的なフォームの習得
- 第7回 スポーツとコミュニケーション。応用練習 試合の進め方と試合での作戦の習得
- 第8回 ダブルスのフォーメーションの習得

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第9回 スポーツと体調管理。ダブルスの試合(1)
 - 第10回 ダブルスの試合(2)
 - 第11回 ダブルスの試合(3)
 - 第12回 シングルの試合(1)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)。シングルの試合(2)
 - 第14回 シングルの試合(3)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 1 対象 工学部(機械M、建築A、情報J) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL
担当教員 重松良祐(教育学部)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的

健康づくりや生涯スポーツのために、以下のことができるようになる。

- ・バドミントンにおけるさまざまなショットを打つことができる。
- ・バドミントンの試合ができるようになる。

学習の到達目標 バドミントンの基本技術の習得及びルールを理解し、ゲームをおこなうことによってスポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した

授業計画・学習の内容

キーワード バドミントン、身体活動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回目 ガイダンス
- 第2回目 体力アップやストレッチ
- 第3回目 知る■歴史とルール、用具
- 第4回目 助言する■チームメイト
- 第5回目 つなぐ■ラリー
- 第6回目 差し出す■サーブ
- 第7回目 ねらう■コントロール
- 第8回目 勝負する■試合Ⅰ(学びの自己評価: 中間)

力

受講要件 工学部 毎年の健康診断を受診すること。および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

予め履修が望ましい科目 スポーツ健康科学a

発展科目 スポーツ健康科学概論

参考書 バドミントン教本 日本バドミントン協会編 ベースボール・マガジン社

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の4観点から評価する。

オフィスアワー 適宜対応する。あらかじめメールにて連絡すること(rshige@edu.mie-u.ac.jp)。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- 第9回目 連携する■試合Ⅱ(チームメイトの動き)
 - 第10回目 観察する■試合Ⅲ(対戦相手の動き)
 - 第11回目 把握する■試合Ⅳ(プレイヤーと環境条件)
 - 第12回目 交わる■試合Ⅴ(交流試合)
 - 第13回目 まとめ■交流戦Ⅰ
 - 第14回目 まとめ■交流戦Ⅱ
 - 第15回目 まとめ■交流戦Ⅲ(学びの自己評価: 最終)
- 適宜、半面のゲームやパターン練習などを加

えながらダブルゲームをおこない、生涯スポーツとして楽しめるだけの技術、知識を身につける。

学習課題（予習・復習）

学習課題は授業中に指示する。

予習・復習に関しては、ルールを十分に理解しておくことと、障害予防のためのストレッチングを日々実践しておくことが望まれる。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 1 対象 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 松崎敏祐 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・卓球の基本的技術の習得及び基礎的なルールを学び、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしての卓球について理解を深める。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード 卓球、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、フォアハンドの練習
- 第3回 バックハンドの練習
- 第4回 スマッシュ・ブロックの練習
- 第5回 スポーツと運動強度、サービス・レシーブの練習と簡易ゲーム
- 第6回 変化サービス(アンダースピン)と簡易ゲーム
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、変化サービス(サイドスピン)と簡易ゲーム
- 第8回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。
毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

- (1)
 - 第9回 スポーツと体調管理、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(2)
 - 第10回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(3)
 - 第11回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(4)
 - 第12回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(5)
 - 第13回 生活習慣調査(2回目)、ルールの理解を深め、ゲームを実践する(6)
 - 第14回 ルールの理解を深め、ゲームを実践する(7)
 - 第15回 運動、生活習慣の振り返り
 - 第16回 まとめ
- *学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 **開講時間** 月7,8 **単位** 1 **対象** 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。
年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 実習
担当教員 小木曾一之 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・ゲームを中心とした中で、バスケットボールの基本技術の習得及びルールを理解し、スポーツの楽しさを体験できるようにする。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード バスケットボール、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査。3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(1)
- 第3回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(2)
- 第4回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(3)
- 第5回 スポーツと運動強度。3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(4)
- 第6回 3on3ゲーム(より多くの運動量とボールに触れる機会を作る)(5)

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第7回 スポーツとコミュニケーション。チームで作戦を考えながらのゲーム(1)

第8回 チームで作戦を考えながらのゲーム(2)

第9回 スポーツと体調管理。チームで作戦を考えながらのゲーム(3)

第10回 チームで作戦を考えながらのゲーム(4)

第11回 チームで作戦を考えながらのゲーム(5)

第12回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(1)

第13回 生活習慣調査(2回目)。自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(2)

第14回 自分たちの力を試しながらの総当り型のゲーム(3)

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題（予習・復習） 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 1 対象 工学部のうち、指定されたコースのみが受講可能。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 実習

担当教員 高木 良明 (非常勤講師)

授業の概要 スポーツ活動を実施するとともに、自己への気づきを促すために、授業中(2回目)に心理・社会的側面に関する調査を実施する。さらにスポーツ健康科学aで学習した内容をもとに授業を通して心身の変化を体験し、運動と健康の関係およびスポーツ活動の必要性、意義を理解する。また、2回目の生活習慣調査を実施し、前期と比較することで健康的な生活の自己管理能力を涵養する。

学習の目的 運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義やその文化的背景を学ぶ。また、学びの中で技術力を高めスポーツを楽しむ力を涵養する。

学習の到達目標

- ・健康、体力、運動について、特に心理・社会的側面の概要を理解する。
- ・サッカーの基本的技術を身につけ、実際にゲームを行なうことで生涯スポーツとしてのサッカーに必要な体力を養う。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業計画・学習の内容

キーワード サッカー、身体運動、健康、スポーツ

学習内容

- 第1回 ガイダンスおよび種目分け
- 第2回 メンタルヘルスに関する調査、チーム編成と安全への確認、リフティングの学習
- 第3回 基本的技術の習得(キックの方法とパスワーク)
- 第4回 基本的技術の習得(ドリブル)
- 第5回 スポーツと運動強度、基本的技術の習得(シュート)
- 第6回 基本的技術の習得(コンビネーションプレー)
- 第7回 スポーツとコミュニケーション、簡易ルールの説明とミニゲーム
- 第8回 総合的な学習とミニゲーム

意識、幅広い教養、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

工学部。

毎年の健康診断を受診すること、および「学生教育研究災害傷害保険」、「学生教育研究賠償責任保険」に加入すること。

発展科目 スポーツ健康科学概論

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要であるので、出席を重視する。評価にあたっては、出席状況に加えて、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他 第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

第9回 スポーツと体調管理、パスでのコンビネーションとゲーム

第10回 1対1での突破方法とゲーム

第11回 ディフェンス方法とゲーム

第12回 戦術に対する理解とゲーム

第13回 生活習慣調査(2回目)、作戦の立案とゲーム

第14回 現行ルールの説明及び審判法の理解とゲーム

第15回 運動、生活習慣の振り返り

第16回 まとめ

*学習内容の変更はあり得る

学習課題(予習・復習) 授業を受講するにあたって、最低限のルールをルールブック等を利用して把握しておくこと。その他については授業を通じて随時指導する。

スポーツ健康科学b(アダプテッド スポーツ)

Practice of Sport and Health b

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 1 対象 本コース受講を希望するもの 年次 学部(学士課程): 1
年次, 2年次 選/必 必修 授業の方法 実習
担当教員 山本 俊彦 (教育学部)

授業の概要 我々の活動力に影響する健康や体力の維持増進は、急激な社会生活の変化の中で極めて重要なことである。本授業は、人間の生命や健康に関する科学に立脚して、健康の保持増進を図り、生活を豊かにし、進んで将来の社会生活を充実させようとするのがねらいである。

学習の目的 個人にあった健康、体力に関する認識を深め、個々人にあった日常生活での運動実践の方法を学びつつ、実践する能力を養う。

学習の到達目標 学生生活の中で運動実践を継続すること。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 通常のスポーツ健康学実習の履修が困難な学生を対象とする。そのため、医師

の診断書などを参考にする。

発展科目 スポーツ健康学概論

教科書 必要な資料は、授業時に提示する。

成績評価方法と基準 自ら主体的に運動実践することが重要である。評価にあたっては、課題習熟度、授業態度(積極性、協調性など)、レポート等の観点から評価する。

オフィスアワー 火曜日9.10限

授業改善への工夫 個人毎の態度、行動など授業中、最終授業時などで、レポートなど通して対応する。

その他 身体運動、スポーツの実践を通して「感じる力」「考える力」「生きる力」「コミュニケーション力」の4つの力を涵養する授業内容である。第1回目の授業時のガイダンスにおいて、種目決定および履修上の手続き、諸注意を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード 健康、体力、運動、

学習内容

第1回:ガイダンス

第2回~14回:各個人の症状に応じて個別に対応していく。

第15~16回:まとめ

学習課題(予習・復習) 疾病・外傷などによって、通常の授業履修が困難な学生を対象とするため、その個人の症状などを考慮し、個人にあった課題を提示し、復習や予習に役立てるように進める。

スポーツ健康科学概論

Lecture of Sport and Health

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 その他 授業の方法 講義
授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 〇後藤洋子 (教育学部)、岡野昇 (教育学部)、重松良祐 (教育学部)

授業の概要 「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求する。また、健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようにするとともに、スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようにする。

学習の目的 「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求できるようになる。また、健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになるとともに、スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようになる。

学習の到達目標

- ・スポーツをとりまく諸問題について、探求できるようになる(後藤担当)
- ・自己や他者のからだに起こっていることに広く深く注意をめぐらせ、身体のあり方について探求できるようになる(岡野担当)
- ・健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになる(重松担当)

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 教育学部

授業計画・学習の内容

キーワード スポーツをとりまく諸問題、「からだ気づき(ワークショップ)」と身体、健康・運動・身体活動

学習内容

- 第1回 ガイダンス(本授業のねらい、授業計画、受講上の諸注意等)
第2~5回(後藤担当)
第2回 スポーツの指導について
第3回 スポーツと男女差について

予め履修が望ましい科目 特に無し(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学a, スポーツ健康科学b

教科書 特に指定しない。授業時に資料を配布する。

成績評価方法と基準 出席状況と授業態度に加え、個人レポートを含めて総合的に評価する。

オフィスアワー

- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(運動方法学II)研究室(後藤)
- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(保健体育科教育学II)研究室(岡野)
- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(健康管理学II)研究室(重松)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善に資する。

その他

- ・第1回授業時に受講人数が均等になるように調整することがある。
- ・岡野担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で第一体育館に集合する。
- ・重松担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で屋内運動場に集合する。晴天の場合は、屋外で活動することもある。

第4回 スポーツと親子について

第5回 スポーツと健康・体力について

第6~9回(岡野担当)

第6回〈触れる〉ということ／主体一客体関係(第一体育館)

第7回〈委ねる〉ということ／相互依存(第一体育館)

第8回〈察する〉ということ／非言語的・身体的コミュニケーション(第一体育館)

第9回 〈合わせる〉ということ／運動リズム
(第一体育館)

第10～13回 (重松担当)

第10回 健康・運動と体組成

第11回 健康・運動と運動量

第12回 健康・運動と食事

第13回 健康・運動に関するアップデート

第14回 振り返り

第15回 総括

学習課題(予習・復習) ・講義を通して、
各担当者から随時提出する。

スポーツ健康科学概論

Lecture of Sport and Health

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 その他 授業の方法 講義
担当教員 岡野昇(教育学部), 重松良祐(教育学部), 後藤洋子(教育学部)

授業の概要 「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求する。また、健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようにするとともに、スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようにする。

学習の目的 「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求できるようになる。また、健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになるとともに、スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようになる。

学習の到達目標

- ・自己や他者のからだに起こっていることに広く深く注意をめぐらせ、身体のあり方について探求できるようになる(岡野担当)
- ・健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになる(重松担当)
- ・スポーツをとりまく諸問題について、探求できるようになる(後藤担当)

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 教育学部

授業計画・学習の内容

キーワード 「からだ気づき(ワークショップ)」と身体、スポーツをとりまく諸問題、健康・運動・身体活動

学習内容

- 第1回 ガイダンス(本授業のねらい、授業計画、受講上の諸注意等)
第2~5回(岡野担当)
第2回 〈触れる〉ということ/主体-客体関係(第一体育館)
第3回 〈委ねる〉ということ/相互依存(第

予め履修が望ましい科目 特に無し(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学a, スポーツ健康科学b

教科書 特に指定しない。授業時に資料を配布する。

成績評価方法と基準 出席状況と授業態度に加え、個人レポートを含めて総合的に評価する。

オフィスアワー

- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(保健体育科教育学II)研究室(岡野)
- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(健康管理学II)研究室(重松)
- ・毎週水曜日12:00~13:00, 保体(運動方法学II)研究室(後藤)

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善に資する。

その他

- ・第1回授業時に受講人数が均等になるように調整することがある。
- ・岡野担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で第一体育館に集合する。
- ・重松担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で屋内運動場に集合する。晴天の場合は、屋外で活動することもある。

- 一体育館)
第4回 〈察する〉ということ/非言語的・身体的コミュニケーション(第一体育館)
第5回 〈合わせる〉ということ/運動リズム(第一体育館)
第6~9回(重松担当)
第6回 健康・運動と体組成
第7回 健康・運動と運動量
第8回 健康・運動と食事
第9回 健康・運動に関するアップデート

第10～13回（後藤担当）

第10回 スポーツの指導について

第11回 スポーツと男女差について

第12回 スポーツと親子について

第13回 スポーツと健康・体力について

第14回 振り返り

第15回 総括

第16回 試験

学習課題（予習・復習） ・講義を通して、
各担当者から随時提出する。

スポーツ健康科学概論

Lecture of Sport and Health

学期 前期 開講時間 金1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 実習

担当教員 重松良祐、後藤洋子、岡野昇

授業の概要 現代社会におけるスポーツ活動の意義と諸問題について考える。また、「からだ気づき(ワークショップ)」を体験しながら身体のあり方について探求するとともに、健康・体力・身体活動に関する諸問題に対して探求する。

学習の目的 現代社会におけるスポーツ活動の意義や諸問題について考えることができるようになる。また、身体のあり方についての探求能力や、健康・体力・身体活動に対する認識を深めることができるようになる。

学習の到達目標

- ・健康・運動・身体活動に関する基礎的な事項を理解できるようになる。(重松担当)
- ・自己や他者のからだに起こっていることに広く深く注意をめぐらせ、身体のあり方について探求できるようになる。(岡野担当)
- ・スポーツを取り巻く諸問題について、探求できるようになる。(後藤担当)

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 「からだ気づき(ワークショップ)」と身体、スポーツをとりまく諸問題、身体活動と健康

学習内容

- 第1回 ガイダンス(本授業のねらい、授業計画、受講上の諸注意等)
- 第2～5回(重松担当)
- 第2回 健康・運動と体組成
- 第3回 健康・運動と運動量
- 第4回 健康・運動と食事
- 第5回 健康・運動に関するアップデート
- 第6～9回(後藤担当)
- 第6回目 スポーツの指導について
- 第7回目 スポーツと男女差について
- 第8回目 スポーツと親子について

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 教育学部

予め履修が望ましい科目 特に無し(履修案内参照)

発展科目 スポーツ健康科学a、スポーツ健康科学b

教科書 随時資料を配付する。

成績評価方法と基準 出席状況と授業態度に加え、個人レポートを含めて総合的に評価する。

授業改善への工夫 FDおよび学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、次年度の授業改善を図る。

その他

- ・第1回授業時に受講人数が均等になるように調整することがある。
- ・重松担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で屋内運動場に集合する。晴天の場合は、屋外で活動することもある。
- ・岡野担当の授業時は、筆記用具持参の上、活動しやすい服装で第一体育館に集合する。

- 第9回目 スポーツと健康・体力について
- 第10～13回(岡野担当)
- 第10回 〈触れる〉ということ／主体一客体関係(第一体育館)
- 第11回 〈委ねる〉ということ／相互依存(第一体育館)
- 第12回 〈察する〉ということ／非言語的・身体的コミュニケーション(第一体育館)
- 第13回 〈合わせる〉ということ／運動リズム(第一体育館)
- 第14回 振り返り
- 第15回 総括1
- 第16回 総括2

学習課題(予習・復習) ・講義を通して、各担当者から随時提出する。

情報科学基礎

An Introduction to Information Literacy

学期 前期 **開講時間** 金 1, 2 **単位** 2 **対象** 人文学部文化学科1年生が対象です。 **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 川口敦子 (人文学部)

薄井尚樹 (人文学部)

伊藤厚貴 (非常勤講師)

授業の概要 大学における研究を進めるうえで必要となるコンピュータの基本的知識及び操作を身につけます。

学習の目的

[1] パソコン利用の社会的ルールを身につけます。

[2] レポート・論文作成にとって必要となるパソコンの基本的操作方法を身につけます。

[3] レポート・論文作成にとって必要となる情報の検索と利用の方法を身につけます。

学習の到達目標

[1] 情報リテラシーおよび情報倫理に関する基本的知識を得ることができます。

[2] Word・Excel・Powerpointの基本的操作方法が理解できるようになります。

[3] インターネットを利用してWEB情報を収集する方法が理解できるようになります。

本学教育目標との関連 課題探求力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピューターによる情報利用の基礎

Key Word(s) Computer and information skill

学習内容

第1-2回 ネットワーク, 情報セキュリティ, 情報倫理

第3-5回 文書作成 (WORD)

第6-7回 プレゼンテーションソフト (POWER-POINT)

第8-10回 表計算 (EXCEL)

教科書 「Microsoft Office2013を使った情報リテラシーの基礎」 (近代科学社)

成績評価方法と基準

授業内での課題 (40%)、演習提出課題 (40%)、最終レポート (20%) の計100% 60%以上で単位が与えられます。

オフィスアワー 各担当教員から説明があります。

その他

1年生は、学籍番号によるクラス分けが行われます。必ず指定されたクラスにて受講してください。

再履修の学生は、希望するクラスの初回の授業に必ず出席し、担当教員と相談の上、許可を得てください。教室の関係上、各クラスで受け入れることのできる再履修生の数には上限があります。

第11-12回 WWW・文献情報データベース検索

第13-15回 レポート作成・その他

詳細に関しては、授業において、各担当教員より説明があります。

学習課題 (予習・復習)

予習: 各回、教科書の読んでおくべき部分を指定します。必ず読んでおくようにしてください。

復習: 各回、授業で練習・学習したことを確認するための課題を提示します。決められた期日までに、Moodleにて提出してください。

情報科学基礎

Introduction to Information Science

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 対象 国語教育コース、日本語教育コース、社会科教育コース
年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 Moodle
担当教員 丹保 健一 (教育学部)

授業の概要

*コンピュータを用いた実習形式の情報リテラシー

情報倫理

パソコンの基本操作

Wordによる文書の作成、

Excelによる表計算とグラフの作成、

Power Pointによるプレゼンテーション資料の作成

インターネットによる情報検索 (書籍・論文情報など)

* Word、Excel、Power Point等の実習を行い、今後の大学での学びが必要となるであろう基礎的なコンピュータ技術を習得する。

学習の目的

情報倫理を知る。

パソコンの基本操作ができる。

Wordによる文書の作成ができる、

Excelによる表計算とグラフの作成ができる。

Power Pointによるプレゼンテーション資料の作成ができる。

インターネットによる情報検索 (書籍・論文情報など) ができる。

学習の到達目標

情報倫理を知る。

パソコンの基本操作ができる。

Wordによる文書の作成ができる、

Excelによる表計算とグラフの作成ができる。

Power Pointによるプレゼンテーション資料の作成ができる。

インターネットによる情報検索 (書籍・論文情報など) ができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

教科書

使用予定の教科書の改訂が未定なので現時点ではお知らせできません。

決定次第、お知らせします。

成績評価方法と基準 提出物・発表等 10～30%、期末テスト 90～70%

オフィスアワー 火曜：13:00～14:30

授業改善への工夫 情報に関しては、個人差が激しいので丁寧に進めていく。

その他

休むと理解できなくなるので休まないこと。

扱うソフトはバージョンによって異なるので注意すること。

授業計画・学習の内容

キーワード パソコン、情報倫理、ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット

学習内容

第一回 ガイダンス、情報リテラシー (総合情報センター)

第二回 情報倫理 (総合情報センター)

第三回 図書館情報検索 (1) (図書館担当)

第四回 図書館情報検索 (2) (図書館担当)

第五回 ワープロ・Word入門 (1)

第六回 ワープロ・Word入門 (2)

第七回 表計算・Excel入門 (1)

第八回 表計算・Excel入門 (2)

第九回 グラフ・Excel入門

第十回 WordとExcelの連携

第十一回 エクセル関数による統計処理 (1)

第十二回 エクセル関数による統計処理 (2)

第十三回 パワーポイント入門 (1)

第十四回 パワーポイント入門 (2)

第十五回 大量言語データの処理

学習課題 (予習・復習) 当日達成できなかったことは、自習により補っておくこと。

情報科学基礎

Introduction to Information Science

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 対象 教育学部の数学教育・情報教育コース1年生 年次 学部(学士課程): 1年次 選択/必修 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 丁 亜希 (教育学部)

露峰 茂明 (教育学部)

授業の概要 コンピュータを用いた実習の付随した授業である。

学習の目的 データ収集能力・データ加工能力・データ作成能力・情報発信力の基礎を実践的に習得する。

学習の到達目標 レポート・指導案作成等に必要ワード・エクセル・パワーポイントのソフトウェアを使いこなせるようにする。著作権やプライバシーの保護等についても理解を深める。またTeXによる文書作成の基本的な部分を理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力、

授業計画・学習の内容

キーワード 今後の学生・社会生活に必要なとなるコンピューターの基礎を押さえる。

学習内容

第1回 お絵かき (丁担当)

第2回 文書作成 (丁担当)

第3回 表計算 (丁担当)

第4回 プレゼンテーション (丁担当)

第5回 コンピュータとネットワークのしくみ (丁担当)

第6回 TeX入門 (露峰担当)

第7回 TeXでの文書作成 (露峰担当)

コミュニケーション力を総合した力

教科書 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』第2版 技術評論社

成績評価方法と基準 レポート・試験(50%)、授業に対する積極的な姿勢(50%)

オフィスアワー

丁：水曜日10:30～12:00 (教育学部専門校舎2号館4階情報教育教員室)

露峰：水曜日12:00～13:30(教育学部・代数学第2研究室)

授業改善への工夫 受講者各自の到達度別に対応できるよう、努めたい。

第8回 数式(露峰担当)

第9回 数式の交じった文書(露峰担当)

第10回 表作成(露峰担当)

第11回 表と数式(露峰担当)

第16回 試験

なお、何回目かは未定であるが以下の授業が計4回行われる。

ガイドダンス・情報リテラシー(総情センター担当)

情報倫理(総情センター担当)

図書館での情報検索(1)(図書館担当)

図書館での情報検索(2)(図書館担当)

情報科学基礎

Introduction to Information Science

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 丁 亜希 (教育学部)

授業の概要 三重大で生活するために必要な学生用パソコンやメール, eラーニングシステムなどの使い方と, 社会に出ても通用する情報の基礎知識を学ぶ

学習の目的 データ収集能力・データ加工能力・データ作成能力・情報発信力の基礎を実践的に習得する。

学習の到達目標 レポート・指導案作成等に必要ワード・エクセル・パワーポイントのソフトウェアを使いこなせるようにする。著作権やプライバシーの保護等についても理解を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件 クラス指定 (理科・英語・特別支援)

教科書 教科書: 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』第2版 技術評論社

成績評価方法と基準 レポート・試験(50%)、出席および授業に対する積極的な姿勢(50%)

オフィスアワー 水曜日10:30~12:00 (教育学部専門校舎2号館4階情報教育教員室)

授業改善への工夫 受講者各自の到達度別に対応できるよう、努めたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 情報リテラシー

学習内容

まず最初に

テキスト作成

ネットの利用 (Web閲覧+メール)

お絵かき

文書作成 (×3)

表計算 (×2)

プレゼンテーション

Webによる情報発信

情報の検索と整理

コンピュータとネットワークのしくみ

情報とセキュリティ

情報と社会

学習課題 (予習・復習) 教科書を参照すること

情報科学基礎

Information Science

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 対象 教育学部 音楽、美術、学校、幼児、人間発達 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義, 実技 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 疋田 真也 (非常勤講師)

授業の概要 大学での学習や研究、社会に出てからも必要性の高い情報機器の活用技術 (Word、Excel、PowerPoint、インターネット) に関する基本的な操作を学習する。このことで、情報を主体的に選択、収集、活用、編集、発信する能力を習得すると共に、情報機器を使って論理的に考える能力の育成に取り組む。

学習の目的 情報化社会での基礎的な情報リテラシーを身につけるために、社会に出て必要とされるOfficeソフトとインターネットの基本的な知識と操作技術を理解する。このことで、情報機器を活用してレポート作成や情報発信を行いうと伴に、IT機器を問題解決ツールとして用い論理的に考える能力を身につける。

学習の到達目標 Word、Excel、PowerPoint、Internetに関するの基本的な操作方法を習得し、自ら試行錯誤を繰り返しながら、目的とする文章、集計、情報発信を行い、パソコン活用方法について自ら一人で学び、習熟していくことができる能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力,

授業計画・学習の内容

キーワード Word Excel PowerPoint LAN インターネット パソコン Windows

Key Word(s) Word Excel PowerPoint LAN Internet PC Windows

学習内容

- 第1回 情報リテラシー講座 (学内におけるパソコン、ネットワークの使用方法)
- 第2回 情報倫理講座 (情報とセキュリティ)
- 第3回 図書館講習会 (付属図書館関連システムの使い方)
- 第4回 パソコンの基礎 (コンピュータの基本・タッチタイピング)

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部
音楽、美術、学校、幼児、人間発達

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 奥村晴彦『基礎からわかる情報リテラシー』第2版 技術評論社

参考書 関連する参考書は、適時授業中に示す。

成績評価方法と基準 出席20%、課題40%、期末試験40%、計100% (合計が60%以上で合格)

授業改善への工夫

実践的な課題にもとづく、操作演習を繰り返していく。
複数回の小テストにより理解度ををはかる。
Moodeを活用し、情報交換を行う。

その他 自宅、学内においてパソコン、インターネットの操作演習ができることが望ましい。

- 第5回 ファイル操作 (お絵かきソフト・ファイル操作の基本)
- 第6回 文章作成-1 (Wordの基本)
- 第7回 文章作成-2 (レポート作成)
- 第8回 文章作成-3 (ビジネス文書の作成)
- 第9回 表計算ソフト-1 (Excelの基本)
- 第10回 表計算ソフト-2 (表の集計方法)
- 第11回 表計算ソフト-3 (グラフ作成とWordとの連携)
- 第12回 プレゼンテーションソフト-1 (PowerPointの基本)
- 第13回 プレゼンテーションソフト-2 (プレゼンテーションの作成)

第14回 プレゼンテーションソフトー3（プレゼンテーションの実践）

第15回 Webによる情報発信（Webページの基本）

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） Word、Excel、PowerPoint、インターネットの操作方法を学習するが、習熟のためには、大学・自宅で自らパソコンに向かい操作演習を繰り返し、行うことが求められる。

情報科学基礎

Introduction to ICT

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 魚住明生 (教育学部技術・ものづくり教育講座)

授業の概要

学生生活を快適に送るためには、Web上に開講されるe-Learning授業の活用や音響映像を統合し双方向性を持たせたマルチメディア活用技術など、情報活用、情報処理および情報通信に関する基本的な技術を習得することが不可欠である。

さらに、インターネットに接続して、いつでもどこからでも自由かつ安全に使えるような情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT) を習得するとともに、高度情報社会を生きていくための情報倫理とルール、マナーを身に付けていくことが求められている。

この授業では、これらの情報通信技術 ICT, 即ち、各自の専門分野において有用な道具として使いこなす実践的技術を、「Practice makes perfect! (習うより慣れる!)」方式で身に付けることを目的としている。

学習の目的 授業概要を参照

学習の到達目標

この授業の具体的な目標は、以下に示す実践的技術と情報倫理を身に付けることである。

- 1) レポートや論文を書くための文書作成・編集技術
- 2) 実験データの分析やグラフ化のための表計算及びグラフ作成技術
- 3) 電子メールや電子掲示板BBSなどを使用するコミュニケーション技術
- 4) World Wide Webによる情報検索・収集などをするインターネット活用技術
- 5) 自分の考えを上手に人に伝える図解表現、プレゼンテーション技術
- 6) デジタル情報を統合的に扱うマルチメ

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータ, ネットワーク, Web, e-Learning, 情報通信技術 (Information and Communication Technology : ICT), 情報倫理, 情報リテラシー

ディア活用技術

- 7) e-Learningシステムや電子教材を使用する教育システム利用技術
- 8) ネットワーク利用に関するルールやマナー, 著作権法などを遵守し, 情報倫理観を身に付け, あらゆる脅威から安全を確保する技術

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書

富山大学情報教育研究会 編: 2015年版大学生の情報リテラシー 大学生のICT活用標準テキスト, 富山大学出版会

その他, 必要な書籍は適宜紹介すると共に, 資料を配布する。

成績評価方法と基準

出席状況: 遅刻, 早退は2回で1回の欠席, 無断欠席1回では3回の欠席とみなす。

評価基準

- A: 課題を全部達成し, 授業に全て出席して, レポートやプレゼンテーション等が優れている者
B: 課題を全部達成し, 授業に全て出席した者
C: 課題を全部達成した者
D: A, B, Cに該当しない者

なお, 受講態度に問題がある者は, 課題達成の如何に関わらず, 評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日の12:00~13:00, 場所: 技術棟2階 技術科教育学研究室

授業改善への工夫 実習時, 並びにMoodle上での質疑, 要望に応じて, 授業を改善する。

学習内容

第1回: オリエンテーション

- ・情報科学基礎の目的と達成目標の把握
- ・PC及びネットワークの基本操作

・e-Learningシステムへの登録，課題の提出方法の習得

- ・日本語入力の方法MS-IME
- ・タイピング練習Type Trainer
- ・Windowsファイル・システム

【課題1】メモ帳による自己紹介文の作成
第2回：総合情報処理センター講師による授業

（その1）情報リテラシー
・統一アカウントや総情センターが提供しているサービスに関する説明

第3回：総合情報処理センター講師による授業
（その2）情報倫理

・インターネットを利用する上で遵守すべき法規やマナーに関する講義

第4回：日本語入力ソフトウェアの活用法
（1）基本操作

○MS Word2013による基本操作の習得

【課題2】エディタ課題のMoodleでの提出
第5回：日本語入力ソフトウェアの活用法
（2）編集操作

○MS Word2013による編集操作の習得

【課題3】編集課題のMoodleでの提出
第6回：表計算ソフトウェアの活用法（1）基本操作

○MS Excel 2013による成績データ処理演習による基本操作の習得

【課題4】Excel練習課題のMoodleでの提出
第7回：実学としての情報リテラシー講習会：
附属図書館講師による授業（その1）

・情報検索入門レポートの書き方
第8回：実学としての情報リテラシー講習会：
附属図書館講師による授業（その2）

・情報検索入門レポートの書き方
第9回：表計算ソフトウェアの活用法（2）応用操作とグラフ作成

○MS Excel 2013によるグラフ作成方法の習得

【課題5】Excel練習課題のMoodleでの提出
第10回：表計算ソフトウェアの活用法（3）総合演習

○MS Excel 2013によるデータの参照，テンプレートなど拡張機能の習得

【課題6】Excel練習課題のMoodleでの提出
第11回：プレゼンテーションの技法（1）基本操作

○MS PowerPoint 2013による基本操作，アニメーション効果の習得

【課題7】PowerPoint練習課題のMoodleでの提出
第12回：プレゼンテーションの技法（2）マルチメディアと図解表現

○MS PowerPoint 2013による図の作成と画像，音響，映像の組込み方法の習得と3分間プレゼンテーションの作成

【課題8】PowerPoint練習課題と演習用プレゼンテーションのMoodleでの提出

第13回・第14回・第15回：プレゼンテーションの実際3分間プレゼン教室変更（後日連絡する。）

【課題9】プレゼンテーションの演習

【課題10】プレゼン評価

学習課題（予習・復習）

○授業の進め方

原則として，テキストによる自学自習で進める。

具体的には，

- 1) まず，テキストをよく読み，テキストの指示に沿って演習する。
- 2) 分からない箇所は，もう一度テキストをよく読む。
- 3) それでも分からない箇所は，近くの分かる学生に聞く。
- 4) それでも分からない時は，TAまたは担当教員に聞く。

○レポートの提出方法

レポートの提出期限は，原則としてその週の金曜日17:00までとする。

提出はMoodleで行う。その際，提出する添付ファイル名についてはテキストを参照すること。

また，紙面で提出するレポートについては，次週の授業前に提出する。

情報科学基礎

Information Literacy

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **対象** 医学科学籍番号が奇数、看護学科：学籍番号が前半
年次 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高田孝広 (医学部)、坂本良太 (医学部)、新貝庄吾 (医学部)

授業の概要 医学生・看護学生として必要な情報技術・データ分析の基礎的知識・能力を習得します。演習主体の授業であり、講義・演習は医学科・看護学科合同で行います。

学習の目的 医学・看護学を学ぶ上で必要となるIT (情報技術) の基礎的な知識・技術・倫理を習得する。

学習の到達目標

各授業で用意された課題 (文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーション等) を作成できる。
発展課題として、プレゼンテーションを講義最終日に発表できる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 情報端末を利用するため、配布された自分専用の統一アカウント (水色の用紙) を持参すること。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 医学部における専門教育科目

授業計画・学習の内容

キーワード 医学・看護学における情報リテラシーの必要性

学習内容

第1回 情報リテラシー

第2回 情報倫理

第3回 ガイダンス・メール利用方法

第4回 文献検索入門

第5回 レポートの書き方入門

第6回 Word入門と少し高度な使い方

第7回 Excelによる表とグラフの作成

第8回 Excelによるデータ整理

第9回 統計とデータ解析入門

教科書 テキストは特に指定なし。参考書は、情報リテラシーに関するもので後日示します。

成績評価方法と基準

随時レポート70%、成果発表会30%、提出されたレポートの総合評価により、単位習得試験を免除します。
※レポートの提出は必須です。

オフィスアワー

高田：火曜日 10:00～12:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

坂本：水曜日 11:00～13:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

新貝：火、木曜日 10:00～12:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

授業改善への工夫 能力・到達度に応じて、サポートします。

その他

授業はすべて総合情報処理センター第4教育端末室 (教育実践総合センター建物1F) で実施します。

統一アカウント (水色の用紙) を忘れないようにしてください。

情報端末室内での飲食厳禁。

第10回 プレゼンテーションの機能を学ぶ

第11回 画像処理

第12回 プレゼン用ファイル作成

第13回 自習、プレゼン用ファイル作成・提出

第14回 発表会

第15回 復習

*受講生との協議などによって、学習内容を変更することもあります。

学習課題 (予習・復習)

学生は、それぞれの情報リテラシーの能力・到達度に応じて段階的に提示されていく課題に対して随時レポートを提出し、教官は、質

問や提出するレポートに対して、サポートを
します。

連絡事項をメールで伝えることがありますの
で、随時メールをチェックするようにして下

さい。

この授業用ホームページでも重要な内容を掲
載しますので、時々見る習慣をつけておいて
下さい。

情報科学基礎

Information Literacy

学期 前期 **開講時間** 月 9, 10 **単位** 2 **対象** 医学科学籍番号が偶数、看護学科：学籍番号が後半
年次 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 高田孝広 (医学部)、坂本良太 (医学部)、新貝庄吾 (医学部)

授業の概要 医学生・看護学生として必要な情報技術・データ分析の基礎的知識・能力を習得します。演習主体の授業であり、講義・演習は医学科・看護学科合同で行います。

学習の目的 医学・看護学を学ぶ上で必要となるIT (情報技術) の基礎的な知識・技術・倫理を習得する。

学習の到達目標

各授業で用意された課題 (文書作成、表計算、統計処理、プレゼンテーション等) を作成できる。
発展課題として、プレゼンテーションを講義最終日に発表できる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 情報端末を利用するため、配布された自分専用の統一アカウント (水色の用紙) を持参すること。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 医学部における専門教育科目

授業計画・学習の内容

キーワード 医学・看護学における情報リテラシーの必要性

学習内容

第1回 情報リテラシー
第2回 情報倫理
第3回 ガイダンス・メール利用方法
第4回 文献検索入門
第5回 レポートの書き方入門
第6回 Word入門と少し高度な使い方
第7回 Excelによる表とグラフの作成
第8回 Excelによるデータ整理
第9回 統計とデータ解析入門

教科書 テキストは特に指定なし。参考書は、情報リテラシーに関するもので後日示します。

成績評価方法と基準

随時レポート70%、成果発表会30%、提出されたレポートの総合評価により、単位習得試験を免除します。
※レポートの提出は必須です。

オフィスアワー

高田：火曜日 10:00～12:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)
坂本：水曜日 11:00～13:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)
新貝：火、木曜日 10:00～12:00 (探索医学研究棟2階 IT広報センター)

授業改善への工夫 能力・到達度に応じて、サポートします。

その他

授業はすべて総合情報処理センター第4教育端末室 (教育実践総合センター建物1F) で実施します。
統一アカウント (水色の用紙) を忘れないようにしてください。
情報端末室内での飲食厳禁。

第10回 プレゼンテーションの機能を学ぶ

第11回 画像処理

第12回 プレゼン用ファイル作成

第13回 自習、プレゼン用ファイル作成・提出

第14回 発表会

第15回 復習

*受講生との協議などによって、学習内容を変更することもあります。

学習課題 (予習・復習)

学生は、それぞれの情報リテラシーの能力・到達度に応じて段階的に提示されていく課題に対して随時レポートを提出し、教官は、質

問や提出するレポートに対して、サポートを
します。

連絡事項をメールで伝えることがありますの
で、随時メールをチェックするようにして下

さい。

この授業用ホームページでも重要な内容を掲
載しますので、時々見る習慣をつけておいて
下さい。

情報科学基礎

Introduction to Information Science

学期 前期 開講時間 水1,2 単位 2 対象 工学部分子素材工学科1年および工学部分子素材工学科
再履修者 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を
加えた授業

担当教員 ○大西 拓 (工学部) , 三谷 昌輝 (工学部)

授業の概要 大学での学習や社会生活で必要となるコンピュータ・アプリケーションソフト・インターネットの基本的な操作法を学ぶ。ネットワーク社会における情報倫理と情報リテラシの基礎的な知識を学ぶ。インターネットを利用した情報検索とレポート作成の基礎的な知識を学ぶ。アプリケーションソフトについて、広く普及しているMS Officeの操作法を実習形式で説明する。情報倫理と情報リテラシについて、総合情報処理センター講習会を実施する。情報検索とレポート作成について、図書館講習会を実施する。

学習の目的 大学での学習や社会生活で必要となるコンピュータ・アプリケーションソフト・インターネットについて学び、MS Officeの基本的な操作法を修得する。ネットワーク社会における情報倫理と情報リテラシについて学び、情報セキュリティと統一アカウントで利用できる学内システムの基礎的な知識を修得する。インターネットを利用した情報検索とレポート作成について学び、データベースとレポートの書き方の基礎的な知識を修得する。

学習の到達目標 アプリケーションソフトのWord・Excel・Power Pointを利用して、文章作成・表計算とグラフ作成・プレゼンテーション作成の基本操作ができるようにする。情報セキュリティ対策とトラブル対策について、具体的な事例と関連する法令を参照して、ユーザIDとパスワード・プライバシー保護・社会的責任・情報の信ぴょう性・電子メールやインターネットによる被害・売買トラブル・著作権侵害等に関する理解を深める。情報リテラシについて、統一アカウントと総合情報処理センター教育用システム・学生用メールシステム・学務情報システム・TOEIC英語自習システム・モバイルLAN・教育用LAN・三重大学Moodle等に関する知識を得

る。インターネット経由でデータベースを利用して、情報検索と図書検索の基本操作ができるようにする。レポート作成について、レポートを書く手順と参考文献の書き方等に関する知識を得る。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

クラス指定

工学部分子素材工学科1年および工学部分子素材工学科再履修者

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 MicrosoftOffice2013を使った情報リテラシーの基礎

参考書 総合情報処理センター講習会および図書館講習会では、それぞれ資料が配布される。

成績評価方法と基準 出席50%・レポートおよび課題(講習会を含む)50%とし、総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00
および随時, 工学部第2合同棟6階6609室・6606室

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果等を参考にして、適宜、授業内容および課題内容を修正・改善していく。

その他 授業は教育実践総合センター1階の第4教育端末室で行うので、間違えないように集合する。コンピュータを利用する際に必要となるので、事前に配布される統一アカウントを必ず持参する。

授業計画・学習の内容

キーワード 情報リテラシ（コンピュータによる情報利用の基礎）・情報倫理・情報セキュリティ・情報検索

Key Word(s) information literacy, Information ethics, information security, information retrieval

学習内容

第1回オリエンテーション

第2回情報倫理（総合情報処理センター講習会）

第3回情報リテラシ（総合情報処理センター講習会）

第4回Windowsとアプリケーションソフトの基本操作

第5回Word（文章作成）

第6回Word（罫線と作表）

第7回Word（図形作成）

第8回Excel（表計算）

第9回Excel（関数）

第10回Excel（グラフ作成）

第11回Power Point（基本操作）

第12回Power Point（編集とスライドショー）

第13回Webによる情報検索と図書検索1（図書館講習会）

第14回Webによる情報検索と図書検索2（図書館講習会）

第15回総合実習（課題作成）

学習課題（予習・復習） 教科書の予習・復習および配布資料の復習を行うとともに、コンピュータ・アプリケーションソフト・インターネットの基本的な操作法を、実際のコンピュータ操作を通して修得する。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 ○内迫 貴幸(生物資源学部), 長屋 祐一(生物資源学部)

授業の概要 Windows系OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学び、専門課程で必要な情報検索や情報処理の基本技術(情報リテラシーの習得、情報収集・加工・発信能力の習得、情報認識・評価・意思伝達能力の習得、ネットワークコミュニケーションと対面コミュニケーションの特徴と利用)を習得する。

学習の目的 専門教育で必要となる情報リテラシー技術(情報の入手・検索、情報の取り扱い・取りまとめ、レポート・プレゼンテーションによる発表方法)の基本を習得する。

学習の到達目標

- 1: ノートPCの安定運用, セキュリティ対策を身に付ける。
- 2: 大学のモバイルLANを利用できる。
- 3: 大学の提供するサービス(メール, 情報検索, WWW等, IT講習会, e-learningシステムなど)を適切に利用できる
- 4: ワープロ, 表計算, パワーポイントなどのアプリケーションを利用して, 文書作成やデータ解析, プレゼンテーションの基本操作ができる。
- 5: 情報リテラシーと情報倫理を身に付ける。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード WindowsOS、インターネット、ウィルス対策、情報倫理、セキュリティー、情報検索、データ整理、プレゼンテーション

Key Word(s) WindowsOS, Internet, anti-virus, information ethics, security, information retrieval, data reduction, presentation

学習内容

受講要件

- ・ 第1回目の授業から「ノートパソコン」と「ACアダプタ」を必ず持参すること。
- ・ Microsoft社のOfficeを設定するためのメディアも持参すること。学部推奨パソコンには同封されている。
- ・ 学部推奨ではないパソコンで、Microsoft Officeが搭載されていない場合は、必ず三重大学生用Officeを大学生協(翠陵会館側)で購入しておいてください。
- ・ 講義に必要なパソコンの性能は、入学時に配布した資料「講義用ノート型パソコン必携のお願いとお知らせ」に説明されているので、自分でパソコンを購入する場合はよく確認すること。

発展科目 文献検索やデータをまとめレポート作成が必要な演習・実験・実習、発表を伴う授業等、卒業研究等

教科書 教材・資料は適宜配布

成績評価方法と基準 4回以上欠席の場合は再受講。課題に対する評価あり。

オフィスアワー

この授業は2名の教員が担当しますので、いずれの教員でも対応できます。

時間帯: 毎週金曜日12:10~13:10, 16:20~17:20

場所: 長屋(360室)・内迫(603室)

授業改善への工夫 学生の習熟度にあわせて授業内容を検討する。

1. ガイダンス・パソコンの基本設定1(無線LANによる学内ネットワークへの接続など)
2. パソコンの基本設定2(オフィスソフトのインストールと設定およびマイクロソフトアップデートなど)
3. 電子メールとMoodleの使い方(ネットワーク利用上のマナーとセキュリティー)
4. 情報倫理と情報セキュリティー(総合情報処

理センター教員による講述)

5. Webページの閲覧とWebによる情報検索 (附属図書館スタッフによる講述)

6. 蔵書や文献の検索 (附属図書館スタッフによる講述)

7. ワードプロソフト Wordの基本操作

8. 表計算ソフト1 Excelの基本操作一行・列・セル・作表

9. 表計算ソフト2 Excelによる数値の計算方法と関数の利用

10. 表計算ソフト3 Excelによるデータ操作

11. 表計算ソフト4 Excelによるグラフの作成

12. プレゼンテーションソフト1 PowerPointの概要と基本操作

13. プレゼンテーションソフト2 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と各種ソフトウェアとの連携

14. プレゼンテーションソフト3 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と表現テクニックの習得

15. 聴衆の前でプレゼンテーション

16. 定期試験

学習課題 (予習・復習)

[予習]

コンピュータ入門

ネットワーク利用による情報の発信と利用

ネチケット、セキュリティー

情報検索

レポート作成法

表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用

の内容について、あらかじめ情報検索・収集を行う。

また、PCのセキュリティ対策を常に行う。

[復習]

授業レベルはそれほど高くないが、時間が限られるので消化不良の箇所は各自の復習が必要。情報スキルを身に付けるためには、平素から時間を使って自ら訓練する姿勢が望まれる。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 ○長屋 祐一(生物資源学部), 内迫 貴幸(生物資源学部)

授業の概要 Windows系OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学び、専門課程で必要な情報検索や情報処理の基本技術(情報リテラシーの習得、情報収集・加工・発信能力の習得、情報認識・評価・意思伝達能力の習得、ネットワークコミュニケーションと対面コミュニケーションの特徴と利用)を習得する。

学習の目的 専門教育で必要となる情報リテラシー技術(情報の入手・検索、情報の取り扱い・取りまとめ、レポート・プレゼンテーションによる発表方法)の基本を習得する。

学習の到達目標

- 1: ノートPCの安定運用, セキュリティ対策を身に付ける。
- 2: 大学のモバイルLANを利用できる。
- 3: 大学の提供するサービス(メール, 情報検索, WWW等, IT講習会, e-learningシステムなど)を適切に利用できる
- 4: ワープロ, 表計算, パワーポイントなどのアプリケーションを利用して, 文書作成やデータ解析, プレゼンテーションの基本操作ができる。
- 5: 情報リテラシーと情報倫理を身に付ける。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード WindowsOS、インターネット、ウィルス対策、情報倫理、セキュリティー、情報検索、データ整理、プレゼンテーション

Key Word(s) WindowsOS, Internet, anti-virus, information ethics, security, information retrieval, data reduction, presentation

学習内容

受講要件

- ・ 第1回目の授業から「ノートパソコン」と「ACアダプタ」を必ず持参すること。
- ・ Microsoft社のOfficeを設定するためのメディアも持参すること。学部推奨パソコンには同封されている。
- ・ 学部推奨ではないパソコンで、Microsoft Officeが搭載されていない場合は、必ず三重大学生用Officeを大学生協(翠陵会館側)で購入しておいてください。
- ・ 講義に必要なパソコンの性能は、入学時に配布した資料「講義用ノート型パソコン必携のお願いとお知らせ」に説明されているので、自分でパソコンを購入する場合はよく確認すること。

発展科目 文献検索やデータをまとめレポート作成が必要な演習・実験・実習、発表を伴う授業等、卒業研究等

教科書 教材・資料は適宜配布

成績評価方法と基準 4回以上欠席の場合は再受講。課題に対する評価あり。

オフィスアワー

この授業は2名の教員が担当しますので、いずれの教員でも対応できます。

時間帯: 毎週金曜日12:10~13:10, 16:20~17:20

場所: 長屋(360室)・内迫(603室)

授業改善への工夫 学生の習熟度にあわせて授業内容を検討する。

1. ガイダンス・パソコンの基本設定1(無線LANによる学内ネットワークへの接続など)
2. パソコンの基本設定2(オフィスソフトのインストールと設定およびマイクロソフトアップデートなど)
3. 電子メールとMoodleの使い方(ネットワーク利用上のマナーとセキュリティー)
4. 情報倫理と情報セキュリティー(総合情報処

理センター教員による講述)

5.Webページの閲覧とWebによる情報検索 (附属図書館スタッフによる講述)

6.蔵書や文献の検索 (附属図書館スタッフによる講述)

7.ワープロソフト Wordの基本操作

8.表計算ソフト1 Excelの基本操作一行・列・セル・作表

9.表計算ソフト2 Excelによる数値の計算方法と関数の利用

10.表計算ソフト3 Excelによるデータ操作

11.表計算ソフト4 Excelによるグラフの作成

12.プレゼンテーションソフト1 PowerPointの概要と基本操作

13.プレゼンテーションソフト2 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と各種ソフトウェアとの連携

14.プレゼンテーションソフト3 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と表現テクニックの習得

15.聴衆の前でプレゼンテーション

16. 定期試験

学習課題 (予習・復習)

[予習]

コンピュータ入門

ネットワーク利用による情報の発信と利用

ネチケット、セキュリティー

情報検索

レポート作成法

表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用

の内容について、あらかじめ情報検索・収集を行う。

また、PCのセキュリティ対策を常に行う。

[復習]

授業レベルはそれほど高くないが、時間が限られるので消化不良の箇所は各自の復習が必要。情報スキルを身に付けるためには、平素から時間を使って自ら訓練する姿勢が望まれる。

情報科学基礎 (1C)

Basic Information Science (1C)

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 生物資源学部共生環境学科Cクラス 年次 学部(学士課程):1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 伊藤 良栄(生物資源学部)

授業の概要

これからの大学生活および卒業後の社会において必要とされるITスキルを習得することを目的とする。具体的には、

- 1) 学内LANやインターネットに接続するための基礎知識とセキュリティ意識の向上
- 2) 情報検索等を利用した情報の「収集・整理・共有・分析」
- 3) 学術的文書や技術レポートのための文書作成に関する基礎知識とスキル
- 4) 数値データの処理とグラフ化
- 5) 図解を活用したプレゼンテーション等について課題を通じて身につけてもらう。

学習の目的

- 1) 無線LANのセキュリティや認証について理解することにより、安全かつ確実に学内LANを利用できるようになる。
- 2) レポート提出や関連資料のダウンロードなどMoodleの機能を学ぶことにより、他の授業でもMoodleを有効に活用できるようになる。
- 3) ネットワークやセキュリティなどネットワーク利用に関する基礎知識が身につく。
- 4) 三重大学学生用メールシステムが利用でき、電子メールを正しく利用できるようになる。
- 5) ワープロの機能を使いこなすことにより、学会や国際会議などで指定された書式で文章を作成できるようになる。
- 6) 表計算や塚ソフトを使いこなすことにより、指定された方法で数値データを整理できるようになる。
- 7) プレゼン用ソフトを使いこなすことにより、自らのアイデアをプレゼンテーションするスキルが身につく。
- 8) 情報倫理の概念をを理解し、セキュリティレベルの高いPC利用ができるようになる。
- 9) インターネットから収集した情報を、図解を用いて整理する知識が身につく。

学習の到達目標

- 1) 無線LANを使って学内LANを利用できる。
- 2) 三重大学が提供している学習管理システムであるMoodleを利用できる。
- 3) インターネット等のネットワークに関する基礎知識が身につく。
- 4) 三重大学学生用メールシステムが利用でき、電子メールを正しく利用できる。
- 5) 指定された書式で文章を作成できる。
- 6) 指定された方法で数値データを整理できるようになる。
- 7) 自らのアイデアをプレゼンテーションするスキルを身につける。
- 8) 情報倫理の概念をを理解し、セキュリティレベルの高いPC利用ができる。
- 9) インターネットから収集した情報を、図解を用いて整理する知識を得る。

本学教育目標との関連 倫理観,モチベーション,主体的学習力,専門知識・技術,論理的思考力,問題解決力,情報受発信力,討論・対話力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎回,ノートパソコンを使用する。第1回目の授業には、1) ノートパソコン, 2) ACアダプタの2つを必ず持参すること。なお、講義に必要なパソコンの性能は、入学手続き時に配布した資料「講義用ノート型パソコン必携のお願いとお知らせ」に説明されているので、よく確認しておくこと。

発展科目 環境情報学(1年生後期, 共生環境学科・コース必修科目)

教科書 教科書: PPTやプリントを配布する。

参考書 切田節子, 他3名共著, 「Microsoft Office2013を使った情報リテラシーの基礎」, 近代科学社, 978-4764904484

成績評価方法と基準 各種課題レポートで評価する。4回以上欠席した場合は再受講。なお、詳しい評価基準は、第1回目の授業の際に説明する。

オフィスアワー

毎週水曜日12:00～13:00, 18:00～19:00

Cクラス 伊藤良栄 (303室)

授業改善への工夫 アンケート調査を行うなど、学生の習熟度に合わせて毎回の授業内容を

を検討する。

その他 生物資源学部共生環境学科の地域環境デザイン学教育コースの農業土木学プログラムのJABEE科目に指定されている。

授業計画・学習の内容

キーワード 情報の「収集・整理・共有・分析・表現」力、セキュリティに対する意識、文書作成、数値データ整理、図解を利用したプレゼンテーション、情報倫理、情報検索

Key Word(s) Collection, arrangement, sharing, analysis and presentation of information, Security consciousness, Document writing, Arrangement of numeric data, Graphic presentation, Information ethics, Information retrieval

学習内容

- 1)授業概要、到達目標、成績評価等について説明を受けた後、パソコンの基本設定、学内無線LANへの接続（統一アカウントの配布）、ウィルス対策ソフトの設定およびMoodleへの登録を行う。
- 2)情報リテラシ講座（電子メール、大学提供サービスの説明など）（担当：情報処理センター）
- 3)電子メールを使う。電子メールを利用する場合に、注意すべき項目を学び、電子メールソフトをインストールして三重大学学生用メールシステムを利用してメールの送受信ができるようにする。セキュリティおよび電子メールに関するオンラインテスト。
- 4)情報セキュリティ・倫理教育講座（担当：総合情報処理センター）
- 5)図書館を利用するための情報検索講習会に参加する（図書館情報検索講習会）
- 6)インターネットを使って情報を検索する。指定された課題に対して適切なキーワードを選択し、複数のサイトから情報を検索する。
- 7)検索し収集した情報を整理し、プレゼンテ

ションソフトを使って図解をする。

8)整理した情報や自分のアイデアを、聴衆にプレゼンテーションする。

9)ワープロを使って指定された書式で、文書を作成する。

10)与えられた数値データを、指定された方法で加工する。

11)与えられた数値データから、指定されたグラフを作成する。

12)関数を使って複雑な処理を行う。

13)数値データに合わせて目的に適したグラフを選択することを知る。

14)作成した表やグラフを貼り付けてワープロと連携する。

15)レポートの書き方（図書館講習会）

16)社会で求められている情報スキルを知る。総括。

注意:順序が入れ替わる場合がある。

学習課題（予習・復習）

(前半7回)

パソコン(ACアダプタも)の準備。

大学ネットワーク統一アカウントの利用。大学無線LANの活用。

MS Office製品、ウィルス対策ソフト、電子メールソフトのインストール。

情報検索とプレゼンテーション課題。

タイピング練習課題。

情報倫理を理解し、意識する。

(後半7回)

大学無線LANの活用。

Word, Excel課題を通して、文章作成訓練。

情報検索とプレゼンテーション課題。

タイピング練習課題。

情報倫理を理解し、意識する。

情報科学基礎 (1D)

Basic Information Science (1D)

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○森尾 吉成(生物資源学部)

授業の概要 本授業では、学生は、数多くの課題を通して基本的なITスキル（インターネット活用、情報倫理、パソコン保守、ファイル管理、タイピング、文書作成、表計算、発表原稿作り、クラウド活用）を習得するとともに、週次課題である1分間プレゼンテーションを通してプレゼンテーション力を向上させる。さらに、問題設定力ならびに問題解決力が必要とされる課題を通して、情報収集・分析・整理力、新しいアイデアの発想やアイデアを実践するために必要なデザイン力についても訓練する。eポートフォリオなどを活用して自分の活動を記録し、振り返る習慣を身につける。

学習の目的

- ・ノートをとる力が身につく。
- ・インターネットを活用する力が身につく。
- ・情報倫理が身につく。
- ・パソコンの簡単な設定・保守・管理作業が行える。
- ・基本的なファイル管理が行える。
- ・タイピング力が向上する。
- ・ワープロソフトを使って学術的なスタイルが要求される文書を作成できる。
- ・表計算ソフトを使って学術的なデータ処理が行える。
- ・図解を使ってプレゼンテーション用の発表原稿を作成できる。
- ・クラウドサービスを活用できる。
- ・プレゼンテーション力が向上する。
- ・問題設定力と問題解決力が訓練される。
- ・ある課題に対して目的意識を持って一週間やり切る習慣が身につく。
- ・eポートフォリオなどを使って自分の活動を振り返る習慣が身につく。

学習の到達目標

- ・自分流のノートの取り方を見つける。
- ・大学内ネットワークが利用でき、学外の有用なインターネット上のサイトを日常的に活用する習慣が身づく。
- ・ウィルス対策、情報漏洩対策、誹謗中傷な

ど、課外防止、被害防止、被害回復に求められる知識、技能、態度を意識できる。

- ・パソコンの初期設定、無線LANへの接続、プログラムの強制終了など、初歩的な設定・保守・管理作業が行える。
- ・フォルダ、ファイル、ファイルパス、拡張子の概念を理解し、ファイル管理が行える。
- ・タッチタイピングに近い速度でタイピングができる。
- ・指定されたページレイアウト（余白、段組、1行の文字数、ページ番号、ヘッダー、フッター）、文字フォント、段落スタイルをもつ文書を作成できる。
- ・与えられた学術データを処理し、グラフが作成できる。
- ・少なくとも一つのクラウドサービスは使用できる。
- ・全員10回近くプレゼンテーションをする。
- ・毎週8時間以上取り組むべき課題を自ら設定する。
- ・毎週8時間以上取り組まなければならない課題をやり切る。
- ・自分の活動を少なくとも1週間に1回は振り返る習慣が身につく。

本学教育目標との関連 倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・第1回目の授業には、「ノートパソコン」と「ACアダプタ」を必ず持参すること。
- ・Microsoft社のOfficeを設定するためのメディアも持参すること。学部推奨パソコンには同封されている。
- ・学部推奨ではないパソコンで、Microsoft Officeが搭載されていない場合は、必ず三重大学生用Officeを大学生協（翠陵会館側）で購入しておいてください。
- ・講義に必要なパソコンの性能は、入学時

に配布した資料「講義用ノート型パソコン必携のお願いとお知らせ」に説明されているので、自分でパソコンを購入する場合はよく確認すること。

・不明な点は、授業当日までに担当教員に相談すること。

発展科目 環境情報学(1年生後期、共生環境学科・コース必修科目)

成績評価方法と基準 各種課題レポート70%、プレゼンテーションピア評価10%、期末試験20%の計100%で評価する。ただし、4回以上欠席した場合は再受講とする。なお、詳

しい評価基準は、第1回目の授業の際に説明を行う。

オフィスアワー

時間帯：毎週火曜日12:00～13:00, 18:00～19:00

場所：森尾(415室)

授業改善への工夫 毎回授業アンケート調査を行い、学生の習熟度に合わせて授業内容を改善する。

その他 生物資源学部共生環境学科の地域保全工学講座のJABEE科目に指定されている。

授業計画・学習の内容

キーワード ノートとり、インターネット、タイピング、情報倫理、パソコン設定・保守・管理、ファイル管理、ワープロ、表計算、クラウド、プレゼンテーション、問題設定力と問題解決力、やり切る習慣、eポートフォリオ

Key Word(s) Note taking, IT, typing, information ethics, PC setup and maintenance, file management, Word, Excel, Cloud, presentation, problem solving, goal setting competency, persevere, e-portfolio.

学習内容

- 1)授業概要、到達目標、成績評価、課題レポートについて説明を受けた後、パソコンの基本設定、無線LANを使ってキャンパスLANへの接続、インターネットへの接続、ウィルス対策、Microsoft Officeのインストールを行う。キャンパスLANを利用するための統一アカウントを受け取り、統一アカウントで利用可能な提供サービスを知る。
- 2)三重大の学習管理システムであるMoodleにログインし、教材の閲覧方法、教材のダウンロード、課題レポートの提出方法、の操作方法を習得する。
- 3)三重大の学生用メールシステムの利用方法を習得するとともに、電子メールクライアントソフトをインストールして、学生用メールアドレスを利用する方法を習得する。
- 4)電子メールを利用する際、相手に合わせてメッセージを作成する方法、正しく宛先を指定する方法、相手に合わせてファイルをメー

ルに添付する方法、を習得する。

5)セキュリティやモラル、パソコンOSの脆弱性に関する説明を受け、インターネット利用時に注意すべき点を知るとともに、倫理上問題なく安全にパソコンを使用する方法を習得する。

6)与えられた課題に対して、適切なキーワードを選択して複数のサイトから情報を検索する方法、収集した情報を効果的に整理する方法、整理・分析した結果を図解するスキルを訓練する。

7)与えられた課題に対して、自分らしい視点から情報を収集・整理・分析し、さらにとりまとめた内容をプレゼンテーションするために、PowerPointを使って発表原稿を魅力的に作成するスキルを訓練する。

8)プレゼンテーション時に、自分のメッセージを聴衆に効果的に伝えるためのスキルを訓練する。

9)大学図書館を有効活用する方法について知る。

10)与えられた課題レポートに対して、Wordを使って指定された書式やレイアウトをもつ学術的な文書を作成するスキルを訓練する。さらに、相手に合わせて適切なファイル名を付ける流儀についても身に付ける。

11)与えられた数値データを、Excelを使って指定された条件に合う形に加工するスキルを訓練する。

12)与えられた数値データを、Excelを使って加工し、さらにデータの性質に合わせてグラフ化するスキルを訓練する。

13)与えられた課題レポートに対して、学術的文書としてふさわしい書式、文章、グラフ、表、数式、図表タイトル、所属氏名、ページ番号、表紙を作成するための流儀を身に付ける。

14)情報を取り扱う上で意識しなければならない知的財産権やプライバシーやモラルに関する情報倫理について、社会で発生している事例を調査する。

15)大学ではなく、社会で必要とされている情報スキルについて調査することにより、今の自分を成長させるための振り返りを日々行う習慣を身に付ける。

16)eポートフォリオを活用しながら、毎回、学習成果を振り返るメタ認知とともに、習熟度テストによって到達レベルを確認し、次の行動につなげる学習サイクルを回す習慣を身に付ける。

注意:順序が入れ替わる場合がある。

学習課題（予習・復習）

1)ノートパソコン、ACアダプタを忘れずに持参する。知識のない人は授業までに電源を投入しないように。

2)授業開始までに統一アカウントを使ってキャンパスLANに接続し、Moodleにログインすること。

3)学生用メールアカウントを使って電子メールが送受信できるようになること。

4)電子メールを隣に座る人に合わせて正しく

作成し、送信して相手からの感想を受け取ること。

5)Windowsパソコンの脆弱性を解消するWindowsUpdate、セキュリティ対策ソフトの更新作業を実施してくる。

6)与えられた課題について徹底して情報を検索し、図解にまとめてくる。

7)プレゼンテーションを行うための魅力的な発表原稿作る。

8)魅力的なプレゼンテーションができるように原稿を見ず、ジェスチャーを交えた発表方法を訓練してくる。

9)大学図書館でどんな情報が提供されているか調べてくる。

10)Wordを使って必ず指定された書式をもつ課題レポートを作成してくる。

11)Excelを使って数値データを指定された形に加工してくる。

12)Excelを使って指定された書式を持つグラフを作成してくる。

13)学術的な文書を作成するための流儀について、いろいろな学会の論文投稿規定を調べてくる。

14)情報倫理に関して社会で問題が起こっている事例を調べてくる。

15)社会で必要とされている情報スキルについて調べてくる。

16) 毎週必ず、学習成果の振り返りと予習を行う課題が出る。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 対象 生物圏生命科学科E1クラス 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL
担当教員 末原憲一郎(生物資源学部)

授業の概要 Windows系OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学び、専門課程に必要な情報検索や情報処理の基本技術(情報リテラシーの習得、情報収集・加工・発信能力の習得、情報認識・評価・意思伝達能力の習得、ネットワークコミュニケーションと対面コミュニケーションの特徴と利用)を習得する。

学習の到達目標 専門課程で出されるレポートに関する情報を、インターネットなどで安全に検索かつ信頼性の高い情報を取捨選択し、課題を電子ファイルで作成・提出可能なスキルの修得を目指す。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、課題探求力、問題解決力、情報受発信力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータの基本操作の習熟

学習内容

- コンピューター入門
- 1. コンピュータハードウェアの基本構造としくみ
- 2. オペレーティングシステム(Windows系OS)の概要と基本操作
- ワープロソフト(WORD)による文書作成
- 3. 文字入力・変換方法などの仕組みと基本操作
- 4. 文書体裁の変更と図表を含んだ文書の作成
- ネットワーク利用による情報の発信と利用
- 5. ネットワーク利用上のマナー(ネチケット)とセキュリティ
- 6. 学内LANの使い方とWWWブラウザの操作方法(学生用ラン、統一アカウント、三重大学moodleの利用手引き)
- 7. インターネットを利用した情報検索・収集
- 8. 電子メールによるメッセージ交換
- 表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

受講要件 E1クラス、毎回ノートパソコンを使用する

教科書 基礎からわかる情報リテラシー (改定第2版)、奥村晴彦著、技術評論社

成績評価方法と基準 授業中に出題する課題レポートで評価する。欠席4回以上で再受講となる。

オフィスアワー 毎週月曜日12:10~12:50、末原(生物資源棟651室)

授業改善への工夫 学生のコンピュータの習熟度にあわせて授業内容を検討する。

その他 総合情報処理センター教員による情報倫理教育を1回、図書館職員による文献検索講習を1回行う予定

- 9. 行・列・セルの基本操作と表
- 10. 数値計算方法と組込み関数の取り扱い
- 11. 並び替えやオートフォーマット等のデータ操作
- 12. グラフ作成およびWORDとの連係
- プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用
- 13. プレゼンテーションソフトの概要と基本操作方法
- 14-15. 各種ソフトウェアの連係によるプレゼンテーションの作成と表現テクニック
(順番などは随時入れ替わることがある)

学習課題(予習・復習)

教科書の例題などから、課題レポートを科す。
課題レポートを科す頻度については授業の進行を加味して決めるが、3週に1回~毎週ぐらゐの頻度にする。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 田口 和典 (生物資源学部)

授業の概要 Windows系OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学び、専門課程に必要な情報検索や情報処理の基本技術(情報リテラシーの習得、情報収集・加工・発信能力の習得、情報認識・評価・意思伝達能力の習得、ネットワークコミュニケーションと対面コミュニケーションの特徴と利用)を習得する。

学習の目的 パソコンが効率よく利用できる実例を示すことで、将来的な目的に合わせて各自が必要な道具として応用できるようになる。

学習の到達目標 専門課程で出されるレポートに関する情報を、インターネットなどで安全に検索かつ信頼性の高い情報を取捨選択し、課題を電子ファイルで作成・提出可能なスキルの修得を目指す。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力,

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータの基本操作の習熟

Key Word(s) familiarization of basic operation by a personal computer

学習内容

○コンピューター入門

1. コンピュータハードウェアの基本構造としくみ

2. オペレーティングシステム(Windows系OS)の概要と基本操作

○ワープロソフト(WORD)による文書作成

3. 文字入力・変換方法などの仕組みと基本操作

4. 文書体裁の変更と図表を含んだ文書の作成

○ネットワーク利用による情報の発信と利用

5. ネットワーク利用上のマナー(ネチケット)とセキュリティ

6. 学内LANの使い方とWWWブラウザの操作方法(学生用ラン、

情報受発信力

受講要件 E2クラス。毎回ノートパソコンを使用する。

教科書 基礎からわかる情報リテラシー (改定第2版)、奥村晴彦著、技術評論社

成績評価方法と基準 授業中に出題する課題レポートで評価する。欠席4回以上で再受講となる。

オフィスアワー

毎週水曜日 12:10~12:50、田口 (生物資源棟 639室)

毎週月曜日 12:10~12:50、末原 (生物資源棟 651室)

授業改善への工夫 学生のコンピュータの習熟度に合わせて授業内容を検討する。

その他 総合情報処理センター教員による情報倫理教育を1回、図書館職員による文献検索講習を1回行う予定

統一アカウント、三重大学moodleの利用手続き)

7. インターネットを利用した情報検索・収集

8. 電子メールによるメッセージ交換

○表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

9. 行・列・セルの基本操作と作表

10. 数値計算方法と組込み関数の取り扱い

11. 並び替えやオートフォーマット等のデータ操作

12. グラフ作成およびWORDとの関係

○プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用

13. プレゼンテーションソフトの概要と基本操作方法

14-15. 各種ソフトウェアの関係によるプレゼンテーションの作成と

表現テクニック

(順番などは随時入れ替わることがある)

学習課題（予習・復習）

教科書の例題などから、課題レポートを科す。

課題レポートを科す頻度については授業の進行を加味して決めるが、3週に1回～毎週ぐらいの頻度にする。

情報科学基礎

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 ○勝川 俊雄(生物資源学部), 森川 由隆(生物資源学部)

授業の概要 OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学ぶ。

学習の到達目標 専門教育に必要な文献等の情報検索、調査及び実験データの解析処理、プレゼンテーションなどの基本技術を習得する。

受講要件 Gクラス

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 データをまとめレポート作成が必要な各種の物理学・化学・生物学関連の実

験・実習、発表を伴う授業等、卒業研究等

教科書 教材・資料は適宜配布、参考書として「基礎からわかる情報リテラシー」を推薦する。

成績評価方法と基準

4回以上欠席の場合は再受講。

課題に対する評価あり。(プレゼンテーションの評価を重視する)

オフィスアワー 随時、生物資源学部の校舎の教員室

授業改善への工夫 パソコン使用環境の改善、学生の能力向上に即した授業内容の改善

授業計画・学習の内容

キーワード Windows、インターネット、ウィルス対策、情報倫理、セキュリティ、情報検索、データ整理、プレゼンテーション

Key Word(s) Windows, network, information literacy, information security, information retrieval, presentation

学習内容

- 1.ガイダンス、パソコンの基本設定(1)(ウィルス対策ソフトのインストールと無線LANの設定)
- 2.パソコンの基本設定(2)(MS Officeのインストールとマイクロソフトアップデート)
- 3.電子メールの使い方とMoodleの使い方
- 4.Webページの閲覧とWebによる情報検索(附属図書館スタッフ)
- 5.情報倫理と情報セキュリティ(総合情報処理センター教員)
- 6.蔵書や文献の検索(附属図書館スタッフ)
- 7.ワープロソフト(Word)の基本操作
- 8.表計算ソフト(Excel)の基本操作一行・列・セル・作表
- 9.表計算ソフト(Excel)による数値の計算方法と関数の利用
- 10.表計算ソフト(Excel)によるデータ操作
- 11.表計算ソフト(Excel)によるグラフの作成
- 12.プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の

概要と基本操作

13.プレゼンテーションソフト(PowerPoint)によるプレゼンテーション資料の作成
各種ソフトウェアとの連携

14.プレゼンテーションソフト(PowerPoint)によるプレゼンテーション資料の作成
プレゼンテーションによる表現テクニックの習得

15.聴衆の前でプレゼンテーション

学習課題(予習・復習)

[学習課題]

コンピュータ入門

ネチケット、セキュリティ

ネットワーク利用による情報の発信と利用
情報検索

レポート作成法

表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の活用

[予習]

セキュリティ対策を常に行う

[復習]

授業レベルはそれほど高くないが、時間が限られるので消化不良の箇所は各自の復習が必要。情報スキルを身に付けるためには、平素から時間を使って自ら訓練する姿勢が望まれる。

情報科学基礎 F2クラス

Basic Information Science

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義 授業の特徴

Moodle

担当教員 勝川 俊雄(生物資源学部), ○森川 由隆(生物資源学部)

授業の概要 OSの基本操作を習熟するとともに、ワープロ、表計算、プレゼンテーション、インターネット(電子メール、WWW等)の利用方法を学ぶ。

学習の目的 専門教育で必要となる情報リテラシー技術の基本を習得する。

学習の到達目標 専門教育に必要な文献などの情報検索、調査および実験データの解析処理、プレゼンテーションなど基本技術を習得する。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード Windows、インターネット、ウィルス対策、情報倫理、セキュリティー、情報検索、データ整理、プレゼンテーション

Key Word(s) Windows, network, information literacy, information security, information retrieval, presentation

学習内容

1. ガイダンス・パソコンの基本設定1(無線LANによる学内ネットワークへの接続など)
2. 電子メールとMoodleの使い方(ネットワーク利用上のマナーとセキュリティー)
3. 情報セキュリティー(総合情報処理センター教員による講述)
4. 情報倫理(総合情報処理センター教員による講述)
5. Webページの閲覧とWebによる情報検索(附属図書館スタッフによる講述)
6. 蔵書や文献の検索(附属図書館スタッフによる講述)
7. ワープロソフト Wordの基本操作
8. 表計算ソフト1 Excelの基本操作 一行・列・セル・作表

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 データをまとめレポート作成が必要な各種の物理・化学・生物関連の実験・実習、発表を伴う授業等、卒業研究等

教科書 教材・資料は適宜配布

成績評価方法と基準 4回以上欠席の場合は再受講。課題に対する評価あり。

オフィスアワー 随時、生物資源学部校舎各教員室

授業改善への工夫 パソコン使用環境の改善、学生の能力向上に即した授業内容の改善

9. 表計算ソフト2 Excelによる数値の計算方法と関数の利用

10. 表計算ソフト3 Excelによるデータ操作

11. 表計算ソフト4 Excelによるグラフの作成

12. プレゼンテーションソフト1 PowerPointの概要と基本操作

13. プレゼンテーションソフト2 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と各種ソフトウエアとの連携

14. プレゼンテーションソフト3 PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成と表現テクニックの習得

15. 聴衆の前でプレゼンテーション1

16. 聴衆の前でプレゼンテーション2

学習課題(予習・復習)

[学習課題]

コンピュータ入門

ネットワーク利用による情報の発信と利用

ネチケット、セキュリティー

情報検索

レポート作成法

表計算ソフト(EXCEL)によるデータ解析

プレゼンテーションソフト(POWER POINT)の
活用

[予習]

セキュリティ対策を常に行う

[復習]

授業レベルはそれほど高くないが、時間が限られるので消化不良の箇所は各自の復習が必要。情報スキルを身に付けるためには、平素から時間を使って自ら訓練する姿勢が望まれる。

情報科学基礎B

Introduction to Information Literacy (advanced)

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** 人文学部法律経済学科の学生のみ受講できる

選/必 選択 **授業の方法** 講義, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 朝日 幸代 (人文学部)

授業の概要 法律経済学科学生の学習・研究活動にとって必要な情報処理の知識や技能を習得する。

学習の目的 さまざまな統計データやアンケート調査結果等をMicrosoft Excelを用いて集計・分析し、その結果をMicrosoft PowerPointを用いて効果的にプレゼンテーションできるようにする。

学習の到達目標 Microsoft Excelの応用的な操作(グラフ、関数の活用やデータベースを用いた集計分析等)とMicrosoft PowerPointの基本的な操作ができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピューターによる情報利用の応用編

学習内容

1. ガイダンス
2. Excelの機能と活用方法
- 3-4. Excelの基本操作1 (セルへの入力、加減乗除、セル、行、列の挿入・削除と結合)
- 5-7. データ分析 (並べ替え、フィルタ処理、統計関数・論理関数)
8. 総合問題 (前半)
- 9-11. データ分析 (グラフの作成、ピボット

受講要件 本講義はパソコンの基礎的な操作から各種ソフトウェアの基礎的な利用方法について習得している学生を対象としている。事前アンケートにおいて基礎編の履修が望ましいと考えられる学生においては、本講義の履修が認められない場合もある。

教科書 特になし。

参考書 適宜、指示する。

成績評価方法と基準 出席20%、課題80%。

その他 前期の情報科学基礎Ⅱ(応用編)と同一内容となっている。また、情報科学基礎Ⅰ、Ⅱの2つ(合計4単位)を履修しても卒業要件として認められる単位は2単位までである点に留意されたい。

- テーブルの活用)
12. 図形描画と文章への挿入
 - 13-14. プレゼンテーションへの応用 (Word, Power Pointへの展開)
 15. 総合問題 (後半)

学習課題(予習・復習)

基本的な操作方法についてテキスト等で予習復習を行うこと。
各回の課題について講義時間内に提出ができない場合には次回までに完成させること。

計算機基礎 I 及び演習

Introduction to Computer Engineering I and Exercise

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 1.5 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習, 実習 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 鶴岡 信治 (工学部 電気電子工学科)

授業の概要 コンピュータリテラシー（ワープロによるレポート作成、パワーポイントによるプレゼンテーション用スライド作成）、コンピュータの基礎（ハードウェア、ソフトウェア、インターネット）について、学生がグループで能動学習（調査、テーマの立案、構成、図表の作成、スライドの作成、発表）し、プレゼンテーションとレポート作成を体験する授業科目です。前半は通常の講義とコンピュータ実習ですが、後半はグループ討論を含む教材作成型プロジェクトベース学習（Project Based Learning）です。

学習の目的

(1) ワードプロソフト (Word)を使用して各自で調査した内容を、図表を使用し、レポートとしてまとめ、論理的な表現ができるようになる。

(2) パワーポイントを使用して、図表を使用し、ストーリー性を持ったプレゼンテーション資料を作成できるようになる。

(3) コンピュータの入門知識を自己学習とグループ討論により獲得し、他人に説明できるようになる。

学習の到達目標

(1) ワードプロソフト (Word)を使用してレポートを作成できるようになる。

(2) パワーポイントを使用して、プレゼンテーション資料を作成できるようになる。

(3) コンピュータの入門知識を自己学習とグループ討論により獲得した結果を発表会で説

明する。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 電気電子工学科の専門教育科目すべて

教科書

(1) 高橋麻奈、やさしい基本情報技術者講座、ソフトバンククリエイティブ株式会社

(2) 三重大学共通教育センター、大学生のためのレポート作成ハンドブック

成績評価方法と基準 レポート30%、グループ発表に関する学生全員による評価30%、グループ内メンバーによる学習活動評価20%、期末試験20%の合計が60%以上で合格

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00, その他の時間はメールにより、連絡して下さい。

授業改善への工夫 学生が能動学習の習慣を身に付ける。

その他 グループのメンバーに迷惑がかかるので、欠席しないようにして下さい。

授業計画・学習の内容

キーワード

- 1.統一アカウント, TOEIC自習システム, ウェブシラバス, ユニパ, モバ情, 飲食厳禁, 学習目的のみでの利用
- 2.OPAC, 三重大OPAC, WebcatPlus, NACSIC-Webcat
- 3.序論, 本論, 結論, アウトライン, 出典, 参

考文献

- 4.情報の表現方法, 情報倫理
- 5.ハードウェア, ソフトウェア, 2進数
- 6.URL, HTML, HTTP, World Wide Web, Web, WWW, TCP/IP, サーバアンドクライアント
- 7.余白, センタリング, フォント, 箇条書き,

文体、出典

- 8.起承転結、図表の作成方法
- 9.文字のフォント・サイズ・色、表の作成、図の作成、画像、レイアウト
- 10.ストーリー、統一デザイン、統一用語
- 11.スライドの構成、ストーリー性、統一表記
- 12.発表態度、発声、アイコンタクト、礼儀
- 13.発表態度、発声、アイコンタクト、礼儀
- 14.発表態度、発声、アイコンタクト、礼儀
- 15.時間内に全問解答して下さい。
- 16.論理的な展開、理解しやすい表現

学習内容

- 1.総合情報処理センターの利用方法、Moodleの利用方法: ●総合情報処理センターの利用するときの注意事項・禁止事項
●統一アカウント、Moodle (eラーニングシステム)、TOEIC自習システム(英語IプレTOEICで自習を義務付け)、ユニバ(Univarsl Passport, 履修申告)の説明
- 2.情報検索講習会(附属図書館): ●情報検索の基本知識・注意事項の説明および演習
●蔵書検索システム(三重大OPAC, Webcat-Plus, など)の使い方の説明および演習
- 3.レポートの書き方入門講習会(附属図書館): ●レポートの構造
●出典の書き方
- 4.情報の表現方法(10進数と2進数、文字コード)、情報倫理の理解: ◇コンピュータのしくみ(プログラミングを学ぶときに必要なデータの表現方法)を理解する。
◇コンピュータリテラシ(および情報フルエンシー)に関する調査報告の課題を通じての情報収集・資料作成能力、ワープロによる文書作成の能力を身につける。
●情報倫理
- 5.コンピュータでの計算のしくみとグループ学習の課題の説明: ●計算する機械としての計算機
●身の回りで使われている計算機技術
●計算機の原理(2進数による計算)
- 6.インターネットのしくみ: ●インターネット(Internet)概念の説明
●URL(Universl Resource Locator)インターネットで用いるアドレス
●World Wide Web(Web, WWW)概念の説明
●HTML(Hyper-Text Markup Language) Web

ページの記述言語

- 7.ワープロを使用した演習と清書課題の説明:
●ワープロ文書の清書わざと書式を見だしたワープロ文書を清書することを通じてワープロの機能の使い方、および、ビジネス文書としての適切な書式を学びます。
- 8.ワープロを使用した報告書初版の作成と編集: ●コンピュータに関する調査報告のまとめとして報告書を作成します。
- 9.パワーポイントの資料の作成方法の演習: パワーポイントの資料の作成
- 10.グループでパワーポイントの資料を討論し、発表用スライド(初版8枚)の作成: グループでパワーポイントの資料を討論し、発表用スライド(初版8枚)の作成
- 11.グループでパワーポイントの資料を討論し、発表用スライドの作成(2回目): グループでパワーポイントの資料を討論し、発表用スライド(修正版8枚)の作成
- 12.グループで作成したスライドの発表会(1回目): グループでの発表会(1回目): 発表態度、評価、省察
- 13.グループで作成したスライドの発表会(2回目): グループでの発表会(2回目): 発表態度、評価、省察
- 14.グループで作成したスライドの発表会(3回目): グループでの発表会(3回目): 発表態度、評価、省察
- 15.期末試験(学習内容の発見とスライドでの表現方法): 期末試験問題に取り組み、解答を記入して下さい。
- 16.完成版レポートの作成: 完成版レポートの作成

学習課題(予習・復習)

- 1.●この科目では半期にわたって、コンピュータ(計算機)に関する調査報告の課題を実施します。課題の詳細については授業のとき、および、Moodleを使って連絡します。いくつかの作業はグループを作って実施します。報告書は各自が作成します。
- 2.各自でOPACを使用し、複数人の三重大大学の教員の論文や書籍を検索し、検索した感想を100文字から200文字にまとめ、Moodleに提出して下さい。
- 3.学習した内容の要約を200文字から300文字にまとめ、Moodleに提出して下さい。
- 4.●「INFOSS情報倫理」のテキストの内容に

関する小テストを何回かに分けて実施します。授業実施時に公開する小テストのスケジュールに従って「INFOSS情報倫理」のテキストを自習してください。

●計算機科学・情報科学の分野ではカタカナ語や略語が多く用いられます。カタカナ語の英語表記、略語のフルネーム（英語表記）をこの機会に覚えてください。

5.●計算機科学・情報科学の分野ではカタカナ語や略語が多く用いられます。カタカナ語の英語表記、略語のフルネーム（英語表記）をこの機会に覚えてください。

6.●計算機科学・情報科学の分野ではカタカナ語や略語が多く用いられます。カタカナ語の英語表記、略語のフルネーム（英語表記）をこの機会に覚えてください。

7.●この演習までに十分に教科書のグループでの担当箇所に関して自主的に調査・考察および班活動を行い、調査した内容をレポートの

下書きとして作成し、Moodleに提出して下さい。

8.図表を各自で作成し、レポートに追加し、Moodleに提出して下さい。

9.各自でパワーポイントのスライドを、起承転結に従って4枚作成し、Moodleに提出して下さい。

10.グループでパワーポイントの発表用スライドを作成し、Moodleに提出して下さい。

11.発表用スライド（修正版8枚）の作成し、Moodleに提出して下さい。

12.発表用スライド（完成版8枚）の作成し、Moodleに提出して下さい。

13.発表練習

14.予習：発表練習

15.

16.完成版レポートを作成し、Moodle2に提出して下さい。

計算機基礎 II 及び演習

Introduction to Computer Engineering II and Exercise

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 1.5 対象 工学部電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 2年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 森 香津夫 (工学研究科電気電子工学専攻)

授業の概要 コンピュータのしくみをハードウェア面から理解するための論理代数・論理回路について学習する。また、情報科学の基礎知識としての情報数学を学ぶ。これにより、計算機及び情報処理に関する内容の理解を深め、今後この分野を学習していくための基礎的な素養をつくる。

学習の目的 コンピュータのハードウェア的な基礎知識と、論理代数・論理回路の基礎知識を得ることを目的とする。

学習の到達目標 論理代数・論理回路の基礎知識を修得して、簡単な組合せ論理回路と順序回路を設計できるようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

予め履修が望ましい科目 計算機基礎 I 及び演習

発展科目 計算機工学 I・II, アルゴリズムとデータ構造, プログラミング演習 II

教科書 論理回路入門 第2版 (浜辺隆二著, 森北出版)

参考書 図解コンピュータ概論-ハードウェア (橋本洋志ほか著, オーム社), 論理回路の基礎 (田丸啓吉, 工学図書), 論理設計・

スイッチング回路理論 (笹尾勤, 近代科学社), 論理回路とオートマトン (稲垣康善編, オーム社), 工学のための離散数学 (黒澤馨, 数理工学社)

成績評価方法と基準

出席は必要条件であり、8割以上の講義に出席した者を単位授与の対象者とする。

評価は、課題・演習(30点)、期末試験(70点)の合計100点で行い、合計点数/10を四捨五入して最終成績とし、最終成績6以上を合格とする。

ただし、課題・演習が未提出の場合はその回数に応じて減点する。

オフィスアワー

毎週金曜 17:00 - 18:00、場所：第一合同棟3階 7306号室

可能であれば事前に下記電子メールに質問事項等を連絡してください。

電子メールアドレス：kmori@elec.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 課題・演習により、きめ細かなチェックとフィードバックを行って、理解程度の把握と向上に努める。また、Moodleにより授業資料を公開し、学生の自主的勉強の便宜を図る。

その他 課題・演習のためのノートを1冊、受講者で用意すること。

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータのしくみ, 情報数学, 論理回路

Key Word(s) Computer architecture, information mathematics, logic circuits

学習内容

第1回(講義) 序論：アナログとデジタル, 数体系

第2回(講義) 論理関数(1): 基本論理演算

第3回(講義) 論理関数(2): 論理関数の標準形と

真理値表

第4回(演習) 第1～3回までの演習(数体系, 論理関数) [終了後提出]

第5回(講義) 論理関数の単化(1): カルノー図による単化

第6回(講義) 論理関数の単化(2): QM法による単化

第7回(演習) 第5, 6回までの演習(論理関数の単化) [終了後提出]

第8回(講義) 組み合わせ回路(1): 組み合わせ回

路の構成

第9回(講義) 組み合わせ回路(2): 組み合わせ回路の実例

第10回(講義) 組み合わせ回路(3): 組み合わせ回路の設計

第11回(演習) 第8～11回までの演習(組み合わせ回路) [終了後提出]

第12回(講義) 順序回路(1): 順序回路の構成, 状態遷移

第13回(講義) 順序回路(2): フリップフロップ(FF)

第14回(講義) 順序回路(3): 順序回路の設計

第15回(演習) 第12～15回までの演習(順序回路) [終了後提出]

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習)

第1回: (予習)教科書1章の事前学習, (復習)教科書1章の演習問題[次週に提出]

第2回: (予習)教科書2.1章の事前学習, (復習)教科書2章の演習問題[次週に提出]

第3回: (予習)教科書2.2章の事前学習, (復習)教科書2章の演習問題[次週に提出]

第4回: (予習)教科書1, 2章の復習, (復習)演習

課題

第5回: (予習)教科書3.1～3.4章の事前学習, (復習)教科書3章の演習問題[次週に提出]

第6回: (予習)教科書3.5, 3.6章の事前学習, (復習)教科書3章の演習問題[次週に提出]

第7回: (予習)教科書3章の復習, (復習)演習課題

第8回: (予習)教科書4.1～4.2章の事前学習, (復習)教科書4章の演習問題[次週に提出]

第9回: (予習)教科書4.3章の事前学習, (復習)教科書4章の演習問題[次週に提出]

第10回: (予習)教科書4.4～4.7章の事前学習, (復習)教科書4章の演習問題[次週に提出]

第11回: (予習)教科書4章の復習, (復習)演習課題

第12回: (予習)教科書5.1, 5.2章の事前学習, (復習)教科書5章の演習問題[次週に提出]

第13回: (予習)教科書5.3章の事前学習, (復習)教科書5章の演習問題[次週に提出]

第14回: (予習)教科書5.4章の事前学習, (復習)教科書5章の演習問題[次週に提出]

第15回: (予習)教科書5章の復習, (復習)演習課題

建築情報処理基礎

Fundamental Computer Science for Architecture

学期 後期 開講時間 火1,2 単位 2 対象 工学部建築学科 年次 学部(学士課程): 1年次

授業の方法 講義

担当教員 大月淳(工学部), ○松浦 健治郎(工学部), 毛利志保(工学部)

授業の概要 模型制作やCADの操作方法の理解により, 専門教育科目の受講に際して必要とされる建築物の立体構成の把握や建築図面の作成のための情報処理技術の習得を目指す。

学習の目的 建築設計の模型制作技能を習得すること, CADによる図面作成のための情報機器の操作方法を理解し, 問題解決の場面で適切に利用できるようになることを目的とする

学習の到達目標 情報機器を用いて, 建築図面の作成及び3次元モデリングができることを到達目標とする。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 建築図学

発展科目 建築設計製図I、建築設計製図II、建築設計製図III、建築設計製図IV、建築企画設計

教科書 講義中にプリントを配布する

成績評価方法と基準 授業中に課す課題によって評価する。100点を満点として点数/10を切り上げて最終成績とし、最終成績6以上を合格とする。

オフィスアワー メールにて随時、受け付ける(otsuki, matsuura, mouriの後に@arch.mie-u.ac.jp)。

授業改善への工夫

- ・TAの有効活用
- ・学生の理解度の応じた講義内容の変更

その他 入学時に配布された統一アカウント(ID, パスワード)が必要です

授業計画・学習の内容

キーワード 情報処理、模型制作、CAD

学習内容

1. 模型制作(1)課題説明
2. 同(2)エスキスその1
3. 同(3)エスキスその2
4. 同(4)講評
5. CADによる建築図面の作成(1) CADの操作に慣れる, 簡単な図形の作図
6. 同(2)簡単な建築図の作図その1
7. 同(3)簡単な建築図の作図その2
8. 同(4)簡単な建築図の作図その3
9. 同(5)簡単な立体形の3次元モデリングその1
10. 同(6)簡単な立体形の3次元モデリングその2
11. 同(7)小さな建築物の3次元モデリングその1

12. 同(8)小さな建築物の3次元モデリングその2
13. 同(9)小さな建築物の3次元モデリングその3
14. 同(10)プレゼンテーション・デザインの技法
15. 同(11)全体講評

学習課題(予習・復習)

講義中に以下の演習課題を課す。

1. 模型制作では、住宅スケールの小さな建築物の模型をS=1/50等で制作する。
2. CADによる建築図面の作成では、1)簡単な図形の作図、2)簡単な建築図の作図、3)簡単な立体形の作図、4)小さな建築物の3次元モデリングの制作、を行う。

情報科学基礎及び初級プログラミング演習

Computer Programming Fundamentals and Exercise

学期 前期 開講時間 水 1, 2, 3, 4 単位 3 対象 工学部情報工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 若林 哲史, 西野 隆典, ○大山 航, 森 純一 (工学部情報工学科)

授業の概要

1. C言語によるプログラミングの実践を通して、プログラムの基本、プログラミング技法、計算機プログラミングにおける基本的かつ重要なアルゴリズムを学ぶ。
2. 情報工学科で学ぶ上で必要な計算機の使い方を学ぶ。UNIXシステム上のコマンド操作になれる。
3. 三重大学の提供する情報サービスの使い方を理解する。

学習の目的

1. 今後、情報工学科で学ぶ専門教科、演習や実験、卒業研究のための基礎となるプログラミングに関する知識と基本的な技術を身につける。
2. プログラミングで用いる基本的なデータ構造とアルゴリズムについて理解する。
3. 三重大学が提供する情報ネットワークサービスについて正しく利用できる。

学習の到達目標

1. C言語を用いて簡単なプログラムを自作できる。
3. 情報工学科電算演習室で用いるUNIXシステムで、主に、
 - A. コマンドによるファイル操作
 - B. エディタやコンパイラなど、プログラム開発に必要なソフトウェアの活用
 - C. ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの操作・活用 (自習による)をできるようになる。
3. 電算演習室で電子メールやWebブラウジングなどのインターネット活用ができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

受講要件 第1回目の授業では、成績評価と単位認定に関する重要なガイダンスを実施するので、再履修生を含め全ての受講生が必ず出席すること。

発展科目

中級プログラミング及び演習,
上級プログラミング演習I,
上級プログラミング演習II,
計算機言語論

教科書

1. 『ゼロからわかる UNIX 基礎講座～はじめてでも安心して学べる』, 中井 獏 著, 技術評論社, ISBN 978-4-7741-3980-7, 2009
2. 『新版 明解C言語 入門編』, 柴田 望洋 著, ソフトバンクパブリッシング, ISBN 4797327928, 2004.

成績評価方法と基準

1. 全体成績
全体成績は試験成績 (50点満点) と演習成績 (50点満点) との和を評点換算 (10点満点) したものとす。
2. 試験成績
中間試験 (6月) と期末試験 (7月) との素点合計。50点満点とする。
講義の欠席が4回以上の受講生には、期末試験の受験を認めない。
講義の遅刻 (出席確認時に不在だった場合)、途中退席は0.5回の欠席とする。
期末試験の得点率 (期末試験の得点/期末試験の満点) が0.2未満となった場合は試験成績は0点とする。
3. 演習成績
演習成績は以下の基準により算出する
演習成績 = 演習素点 - 欠席ポイント
演習素点は、
毎週の確認テストの点数 (10点×10回) の和 S
第3週目以降の基本課題の点数 (10点×10回) の和 K
第4週目以降の応用課題の点数 (5点×8回) の和 A
「自由演習」の成績の和 α
とし、以下の式で算出する。
演習素点 = $0.1 \times S + 0.3 \times K + 0.375 \times A + \alpha$

すなわち演習素点中の配点は、確認テスト10点、基本課題30点、応用課題15点である。欠席ポイントは以下の通りとする。ここでの「欠席」とは、演習開講時限（水曜2-3限または水曜1-4限）に、電算演習室の計算機にログインしていた時間が開講時間の9割（90分演習の場合には80分、180分演習の場合は160分）に満たない場合をいう（第1回演習は除く）。図書館と総合情報処理センター提供のセミナー（6月）もそれぞれ90分演習として扱う。5月、6月に複数回の開催が予定されている情報工学科ホームルームへの出席を、本科目の演習1回（7月21日1-2限）の出席として認定す

る（1年生のみ）。演習の欠席ポイント
0回 0
1回 5
2回 15
3回 30
4回 50
5回以上 10ずつ増加
演習成績の上限値、下限値はそれぞれ50点、0点とする。

オフィスアワー 毎週火曜日10:30～12:00、場所6501号室（工学部第2合同棟）

授業計画・学習の内容

キーワード 計算機リテラシ、C言語プログラミング、UNIXの使い方

Key Word(s) Computer literacy, Programming language C, UNIX operating

学習内容

計算機の構造、プログラムのコンパイルと実行などを説明した後、C言語の仕様の各部分を順を追って講義する。また、演習を通して、UNIXの基本操作、メール、C言語の記号や記述の仕方に慣れる。

第1回 ログイン/ログアウト、ファイルの基本操作

第2回 ファイルの編集、メールの送受信

第3回 計算機の構成要素/基本動作

第4回 演算と型

第5回 プログラムの流れの分岐

第6回 プログラムの流れの繰返し

第7回 配列

第8回 情報検索講習会（図書館） 中間試験

第9回 レポートの書き方講習会（図書館） 情報倫理（総情センター）

第10回 関数（その1）

第11回 関数（その2）

第12回 ポインタ

第13回 構造体

第14回 ファイル入出力

第15回 自由演習課題

第16回 定期試験

詳細は第1回の講義時に説明する。

計算機基礎

Introduction to Computer

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 理工学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 小林 正(工学部)

授業の概要 様々なアプリケーションソフトを通じて、パソコンでどのようなことができるのかを知る。また、パソコンのハードの仕組みを理解し、データのバックアップの方法を知る。さらに、情報倫理についても学ぶ。最後に、情報における省資源・省エネルギーについて考える。

学習の目的 パソコンを使わないと不可能な情報処理ができるようになる。数式処理ソフトを使って、科学的な分析ができるようになる。パソコンの故障に対応できるようになる。また、情報倫理を身に付けることができる。

学習の到達目標 パソコンを使ってレポートや卒業論文を書くことができるようになる。数式処理ソフトを使って、テイラー展開やフーリエ級数などの概念を視覚的に理解することができるようになる。パソコンをハード的、ソフト的に安全に使えるようになる。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション

授業計画・学習の内容

キーワード パソコンのソフトとハードの基礎と応用

学習内容

1. 情報リテラシー
2. 基本操作, 文字の種類と入力, 電子メールの使い方(1)
3. 電子メールの使い方(2)
4. 書籍検索の方法
5. 数式処理ソフト(1)
6. 数式処理ソフト(2)
7. 数式処理ソフト(3)
8. 数式処理ソフト(4)
9. 数式処理ソフト(5)
10. レポート・論文の表, グラフの作り方
11. レポート・論文の図の作り方
12. ワードプロソフトを使ったレポート・論文の書き方
13. ハードの仕組みとデータのバックアップ

ン, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 計算機言語(専門教育科目)

教科書 なし

参考書 なし

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 毎週火曜日16:10~17:30, 場所 第2合同棟(理工学科棟)3階6304室。電子メールによる質問も可能です。E-mail: kobayasi(アットマーク)phen.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 学習課題レポートを課します。

その他 出席の代筆が見つかったら、単位の取得が難しくなる。

14. 情報倫理
15. 情報における省資源・省エネルギー
16. 定期試験

学習課題(予習・復習)

- ・課題: 授業で学習した内容を使って、何か作品を作ってください。Mathematicaを使った計算, Excelを使った計算等, 何でもいいです。コンピューターを利用することに意味がある作品にしてください。すなわち, コンピューターを使わないとできないような, あるいは困難な作品にしてください。
- ・条件: 総合情報処理センターのパソコン, すなわち計算機基礎の授業で使っていますパソコンで, 作品を見ることができると。
- ・提出方法, 締切については, 授業で説明します。

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 火 7, 8 単位 2 対象 教育学部、数学・情報 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 露峰 茂明 (教育学部)

授業の概要 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

課題探求力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

受講要件 クラス指定。教育学部数学教育・情報教育コース

学習の到達目標 線形代数は数学のあらゆる分野に現れて重要な役を務めるが、そのときに対応できる力を身につける。

教科書 授業開始前に指定する。

成績評価方法と基準 期末試験

本学教育目標との関連 感性, 論理的思考力,

オフィスアワー 水曜日 12:00 ~ 13:00 教育学部4階代数学代二研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列, 行列式, ベクトル, 線形空間, 線形写像

学習内容

- 1.行列の定義と基本演算 (第1回~第2回)
- 2.行列の基本変形と, 基本行列 (第3回~第4回)

- 3.行列の階数 (第5回~第7回)
- 4.掃きだし法による逆行列の計算 (第8回~第10回)
- 5.行列式の定義とその性質 (第11回~第14回)
- 6.定期試験 (第15回)

基礎線形代数学I

Linear algebra I

学期 前期 **開講時間** 月3, 4, 7, 8 **単位** 2 **対象** 工学部電気電子 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義
担当教員 新田貴士 (教育学部)

授業の概要 行列と行列式につき学習する。

線形代数(改訂改題) 著者: 矢野健太郎、石原繁: 裳華房
問題集線形代数 著者: 矢野健太郎、石原繁: 裳華房

学習の目的 行列と行列式につき理論、応用ができること。

学習の到達目標 行列と行列式につき理論、応用ができること。

成績評価方法と基準 レポート、試験で総合的に判断する。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

オフィスアワー 月曜日12:00-13:00、教育学部1号館・新田研究室

教科書

授業改善への工夫 予習、復習の内容をを各回到に指示する。

授業計画・学習の内容

キーワード 行列、基本変形、連立1次方程式、逆行列

5回~8回 連立1次方程式、逆行列
9回~15回 置換、行列式、応用

学習内容
1回~4回 行列、基本変形

学習課題(予習・復習) 各回の講義で通知する。

基礎線形代数学 II

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工1C (1~50) 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 大貫 洋介 (非常勤講師)

授業の概要

線形代数学の基礎である行列の取り扱い方について学ぶ。

また、線形空間、基底、線形写像などの抽象的な概念について学ぶ。

学習の目的

固有値・固有ベクトル、行列の対角化などの行列に関する性質を理解すること。

また、それらの関連を理解し、行列や二次形式などの問題解決に応用する力を身に付ける。

学習の到達目標 固有値・固有ベクトル、行列の対角化を理解し、これらを応用できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解

決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「クラス指定」工1C(1~50)

教科書 「線形代数学入門」 培風館 山形邦夫・和田俱幸 共著 (定価1, 800円+税)

参考書 「線形代数キャンパス・ゼミ」 マゼマ出版 馬場敬之、高杉豊 共著 (定価2, 310円)

成績評価方法と基準 中間試験・期末試験 80%、小テスト 10%、授業において課す課題 10%

授業改善への工夫 毎回、出席の代わりに課す課題プリントにおいて授業の理解度を確認しながら講義を進める。

授業計画・学習の内容

キーワード 線形空間、一次独立、一次従属、固有値、固有ベクトル、行列の対角化、二次形式

学習内容

- 1回 線形空間の基底
- 2回 線形写像と表現行列
- 3回 標準基底に関する表現行列
- 4回 固有値、固有ベクトル
- 5回 行列の対角化
- 6回 行列の対角化に関する応用 (行列のべきへの応用)
- 7回 行列の対角化に関する応用 (漸化式、微分方程式への応用)

- 8回 中間試験
- 9回 内積と内積空間
- 10回 正規直交基底とグラム・シュミットの直交化法
- 11回 線形空間における基底の取り換え
- 12回 直交変換と直交行列
- 13回 実対称行列の対角化
- 14回 二次形式とその標準形
- 15回 二次関数と実対称行列の対角化の応用
- 16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 授業時間内に十分な演習時間を確保することは困難なので、各自十分な復習の時間をとること。

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 工学部・分子素材工学科1年(51-) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 森山 貴之 (教育学部)

授業の概要

行列を階数の観点から解説する。その応用として、一般の連立1次方程式の解法や行列の正則性の判定を解説する。

つぎに行列式を解説する。その応用として、行列の正則性の判定を行なう。つまり行列の階数と行列式の解説、およびそれらの活用がこの講義の概要である。

学習の目的

行列の階数の求め方を学び、その応用として一般の連立1次方程式を解けるようになる。さらに行列の正則性を判定できるようになる。つぎに行列式を学び、その応用として行列の正則性を判定できるようになる。つまり階数と行列式を学び、そして活用できるようになることが受講生の学習の目的になる。

学習の到達目標 行列の階数を正しく求めることが出来るようになり、その応用として、一般の連立1次方程式を正しく解いたり、行列の正則性を正しく判定したりすることができ

るようになることが学習の到達目標になる。また行列式の性質を正しく理解し、その値を求めることができるようになることも学習の到達目標になる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 工学部 分子素材工学科1年生(51-)クラス指定

発展科目 基礎線形代数学 II

教科書 「入門 線形代数」(三宅 敏恒著、培風館)

成績評価方法と基準 期末試験の結果のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00~13:00, 教育学部一号棟4階 研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列、連立一次方程式、行列式

Key Word(s) Matrix, system of linear equations, determinant

学習内容

1. 行列の定義と演算 (第1回~第2回)
2. 行列の基本変形と階数 (第3回~第5回)
3. 正則行列と逆行列 (第6回~第7回)
4. 連立一次方程式 (第8回~第10回)

5. 行列式の定義とその性質 (第11回~第15回)

6. 定期試験 (第16回)

ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

学習課題 (予習・復習)

十分に予習、復習をしてから受講すること。教科書の練習問題を解いて理解を確かめること。

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 鈴木 秀智(工学部)

授業の概要 線形代数の基礎であるベクトル, 行列および行列式の取り扱い方を学び, さらに, ベクトル空間の概念について学習する.

学習の目的 線形代数学に関する基礎的な事項を習得し, 専門教育科目などの内容理解や問題解決に応用できる知識を身に付ける.

学習の到達目標 線形代数学において基本となるベクトル, 行列および行列式の意味を理解し, 連立一次方程式の計算などに応用できるようにする. また, ベクトル空間, 基底, 線形写像などについて説明できるようにする. さらに, 専門教育科目などの理解に利用できるようにする.

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 基礎線形代数学 II

教科書

教科書:

『テキスト線形代数』小寺平治著 共立出版

参考書

参考書: (購入は任意)

『すぐわかる線形代数』石村園子 東京図書

『線形代数学』川久保勝夫 日本評論社

『工科のための数理2 工科のための線形代数』

吉村善一 数理工学社

『線形代数入門』齋藤正彦 東京大学出版会

成績評価方法と基準 講義に10回以上出席したとき, 期末試験の受験資格を与える. 演習など20%, 期末試験80% (合計100%) を10点満点で評価し, 6点以上を合格とする. 最初の授業で詳細を説明する.

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00, 情報工学科棟5308室.

授業改善への工夫 レポートの課題達成度などを元に, 講義方法や問題演習量などを改善する.

その他 情報工学科の学生の履修申告者数が90名を超えた場合には, 受講者は情報工学科の学生だけとする.

授業計画・学習の内容

キーワード ベクトル, 行列, 行列式, 連立一次方程式, ベクトル空間, 基底, 線形写像

Key Word(s) vector, matrix, determinant, simultaneous linear equations, vector space, basis, linear mapping

学習内容

1. 行列とその演算(第1回~第3回)

ベクトル, 行列, 行列の乗法・除法

2. 行列の基本変形(第4回~第7回)

基本変形, ベクトルの一次独立性, 階数, 連立一次方程式, 逆行列

3. 行列式(第8回~第11回)

面積・体積と行列式, 行列式の基本性質, 積の行列式, 逆行列の公式, クラメル公式

4. ベクトル空間と線形写像 (第12回~第15回)

ベクトル空間, 基底と次元, 線形写像

5. 定期試験(第16回)

後期開講の「基礎線形代数学II」と連続しているので, 受講者の習熟度などによって, 学習内容を多少変更する場合がある.

学習課題 (予習・復習) 授業の前に教科書を読んでおくこと. 各章末の演習問題を各自で解くこと. 授業後, Moodleなどで復習事項を提示するので, 各自で実施すること.

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 対象 工学部物理工学科1年生クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 川向 洋之 (教育学部)

授業の概要 線形代数学の基礎理論の習得.

学習の目的 線形代数学を通じて, 思考力, 計算力, 応用力のレベルをあげる.

学習の到達目標 線形代数学を通じて, 思考力, 計算力, 応用力のレベルをあげる.

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

教科書 教科書: 後日指定する.

成績評価方法と基準 (基本的に) 期末試験で判断する. なお, いつも遅刻や欠席をしたり, レポートを出さなかったり, 授業中に関係のないこと (例えばスマートフォンの操作や, 睡眠) などをしている場合, テストが良くても単位を出さないことがある.

オフィスアワー 水曜日 12:00~13:00 教育学部4階解析学第3研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 線形代数学の基礎

学習内容

1. 行列の定義と基本演算 (第1回~第2回)
2. 行列の基本変形と, 基本行列 (第3回~第4回)

3. 行列の階数 (第5回~第7回)
4. 掃きだし法による逆行列の計算 (第8回~第10回)
5. 行列式の定義とその性質 (第11回~第15回)
6. 定期試験 (第16回)

基礎線形代数学 II

Linear Algebra II

学期 前期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** この科目を再履修する学生のみ、受講できる。 **年次**

学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義

担当教員 大貫 洋介 (非常勤講師)

授業の概要 線形代数学の線形空間、固有値、固有ベクトルとその応用を説明する。

受講要件 この科目を再履修する学生のみ、受講できる。

学習の目的 線形空間、固有値、固有ベクトルとその応用を理解する。

教科書 追って指示する

学習の到達目標 線形空間、固有値、固有ベクトルを理解し、応用することが出来る。

成績評価方法と基準 中間試験・期末試験 70%、小テスト 10%、授業において課す課題 20%

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 討論・対話力

その他 開講学期は、前期です。注意してください。

授業計画・学習の内容

キーワード 線形空間、一次独立、一次従属、固有値、固有ベクトル、行列の対角化、二次形式

第6回～第8回 線形写像とその表現行列
第9回～第11回 固有値と固有ベクトル、行列の対角化

学習内容

第1回～第3回 線形空間、ベクトルの一次独立と一次従属

第13回～第15回 内積、正規直交化と直交行列、対称行列の対角化とその応用

第4回～第5回 1次独立なベクトルの最大個数、線形空間の基と次元

第16回 期末試験

ただし、これは予定であり、受講生の状況などにより多少の変更を行なうことがある。

基礎線形代数学 II

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 火 7, 8 単位 2 対象 教育学部、数学・情報 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 露峰 茂明 (教育学部)

授業の概要 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

学習の目的 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

学習の到達目標 線形代数は数学のあらゆる分野に現れて重要な役を務めるが、そのときに対応できる力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 専門知識・技術,

論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 クラス指定. 教育学部数学教育・情報教育コース

予め履修が望ましい科目 基礎線形代数学 I

成績評価方法と基準 期末試験

オフィスアワー 水曜日 12:00 ~ 13:00 教育学部4階代数学代二研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列, 行列式, ベクトル, 線形空間, 線形写像, 線形変換

学習内容

1. 行列の定義と基本演算 (第1回~第2回)
2. 行列の基本変形と, 基本行列 (第3回~第4回)

3. 行列の階数 (第5回~第7回)
4. 掃きだし法による逆行列の計算 (第8回~第10回)
5. 行列式の定義とその性質 (第11回~第14回)
6. 定期試験 (第15回)

基礎線形代数学II

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 月 3, 4, 7, 8 単位 2 対象 工学部電気電子 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 新田貴士 (教育学部)

授業の概要 線形空間と対角化につき学習する。

学習の目的 線形空間と対角化につき理論、応用ができること。

学習の到達目標 線形空間と対角化につき理論、応用ができること。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

教科書

線形代数(改訂改題) 著者: 矢野健太郎、石原繁: 裳華房

問題集線形代数 著者: 矢野健太郎、石原繁: 裳華房

成績評価方法と基準 レポート、試験で総合的に判断する。

オフィスアワー 月曜日12:00-13:00、教育学部1号館・新田研究室

授業改善への工夫 予習、復習の内容をを各回に指示する。

授業計画・学習の内容

キーワード 線形空間、対角化

13回から15回、いろいろな応用

学習内容

1回から7回、線形空間
8回から12回、対角化

学習課題(予習・復習) 各回の講義で通知する。

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工1C (1~50) 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 大貫 洋介 (非常勤講師)

授業の概要

線形代数学の基礎である行列の取り扱い方について学ぶ。

また、線形空間、ベクトルの一次独立・一次従属の抽象的な概念について学ぶ。

学習の目的

行列式や行列の基本変形などの行列に関する性質を理解すること。

また、それらの関連を理解し、様々な問題解決に応用する力を身に付ける。

学習の到達目標 行列式、行列の基本変形に関する基礎的な知識が身に付き、これらを利用し問題を解決できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解

決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「クラス指定」工1C(1~50)

教科書 「線形代数学入門」 培風館 山形邦夫・和田俱幸 共著 (定価1, 800円+税)

参考書 「線形代数キャンパス・ゼミ」 マゼマ出版 馬場敬之、高杉豊 共著 (定価2, 310円)

成績評価方法と基準 中間試験・期末試験 80%、小テスト 10%、授業において課す課題 10%

授業改善への工夫 毎回、出席の代わりに課す課題プリントにおいて授業の理解度を確認しながら講義を進める。

授業計画・学習の内容

キーワード ベクトル、行列、行列式、行列の掃き出し法

学習内容

- 1回 ベクトルと行列の演算
- 2回 行列の基本変形と連立一次方程式
- 3回 連立一次方程式の解の自由度
- 4回 階数と連立一次方程式の解
- 5回 行列の基本変形と逆行列
- 6回 置換とその積、偶置換と奇置換
- 7回 行列式の定義とサラスの公式
- 8回 中間試験
- 9回 行列式の性質とこれを用いた計算

- 10回 様々な行列に関する行列式の計算
- 11回 余因子と余因子展開
- 12回 余因子の応用 (逆行列の公式とクラメル
の公式)
- 13回 ベクトルの内積・外積
- 14回 線形空間
- 15回 一次独立・一次従属
- 16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 授業時間内に十分な演習時間を確保することは困難なので、各自十分な復習の時間をとること。

基礎線形代数Ⅱ

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 工学部・分子素材工学科1年(51-) 年次 学部(学士課程):
1年次 選^必必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 森山 貴之 (教育学部)

授業の概要 「基礎線形代数I」に続き、線形代数の基礎的概念に触れ、数学的考え方を身につける。

学習の目的

1次独立性の観点に重点をおいてベクトルの性質をくわしく学ぶ。関連して、ベクトル空間の次元を理解することが学習目的の一つになる。

さらに行列式の応用として行列の固有値を求めることが出来るようになり、ベクトル空間の次元の応用として行列が対角化可能か判定できるようになることも学習目標になる。

学習の到達目標 ベクトル空間の次元を求めることが出来るようになり、さらに行列を対角化できるようになることが到達目標になる。

授業計画・学習の内容

キーワード ベクトル空間、固有値、対角化

Key Word(s) Vector spaces, eigen values, diagonalization

学習内容

- 1.ベクトル空間の定義 (第1回)
- 2.ベクトルの線形独立性、基底、次元 (第2回～第6回)

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・工学部 分子素材工学科1年生(51-)クラス指定
- ・基礎線形代数Iを履修済みであること

教科書 「入門 線形代数」(三宅 敏恒著、培風館)

成績評価方法と基準 期末試験の結果のほか、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00～13:00, 教育学部一号棟4階 研究室

- 3.内積と正規直交化 (第7回～第8回)
- 4.固有値と固有ベクトル (第9回～第12回)
- 5.行列の対角化 (第13回～第15回)
- 6.定期試験 (第16回)

ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

学習課題(予習・復習) 各回毎に教科書の練習問題を解いて理解を確かめること。

基礎線形代数学II

Linear Algebra II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 工学部情報工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 成瀬 央(工学部)

授業の概要

基礎線形代数学IIは、情報工学科で学ぶさまざまな専門科目の内容を理解したり、卒業研究や大学院で高度な研究を進める上で重要な役割を果たしたりします。また、将来、研究や開発などの仕事に就いた場合にも必要となってきます。

後期の基礎線形代数学IIは、前期の基礎線形代数学Iに比べ内容は抽象的かつ高度になるので、理解しにくい部分が多くあります。そのため、講義前には必ず予習をしておいてください。講義では基本的な考え方を説明する時間しかありませんので、問題解決の道具として使いこなせるようにするためには、問題演習を各自で行うなどしてください。

学習の目的 学習の目的は、線形空間、線形写像、内積空間、固有値、固有ベクトル、行列の対角化、指数行列、線形微分方程式について学ぶことにより、これらのことについての基礎的な考え方を理解するとともに計算力を身につけることです。

学習の到達目標

線形代数学における以下の内容について理解し計算などができるようになるとともに、それに基づいて専門科目を深く理解できるようになることを目的としています。

- ・線形空間、線形写像
- ・内積空間
- ・固有値、固有ベクトル
- ・行列の対角化
- ・指数行列、線形微分方程式

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、感じる力、考える力、コ

授業計画・学習の内容

キーワード 線形空間、線形写像、内積空間、固有値、固有ベクトル、行列の対角化、2次形式、指数行列、線形微分方程式

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 受講要件は、基礎線形代数学Iを履修済みであることです。

発展科目 電磁気学、情報理論、数値解析、制御工学、情報通信工学などをはじめが、多くの科目が本講義の発展科目となります。

教科書 『テキスト線形代数』小寺平治著 共立出版

参考書

- 『すぐわかる線形代数』石村園子 東京図書
- 『線形代数学』川久保勝夫 日本評論社
- 『工科のための数理2 工科のための線形代数』吉村善一 数理工学社
- 『線形代数入門』齋藤正彦 東京大学出版会

成績評価方法と基準 成績は、中間試験、定期試験の結果、さらにレポートなどの提出物で総合的に評価します。

オフィスアワー 毎週火曜日14:00~15:00、情報工学科棟5302室（事前に連絡をお願いします）

授業改善への工夫 授業での質問、授業評価アンケートを参考に改善を図っています。

その他

- ・履修申告者数が70名を超えた場合には、受講者は情報工学科の学生に限らせていただきます。
- ・情報工学科以外で受講する場合には、必ず事前に連絡し、受講可能か否かを確認してください。
- ・基礎線形代数学Iに比べて内容が抽象的になり理解が難しくなるので、毎週予習、復習を2~3時間してください。

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ベクトル空間・基底と次元（基礎線形代

数学Ⅰの復習)

第3回 線形写像 (基礎線形代数学Ⅰの復習)

第4回 第1回中間試験 (基礎線形代数学Ⅰの内容)

第5回 線形写像の表現行列

第6回 内積と外積

第7回 固有値と固有ベクトル

第8回 行列の対角化 (1)

第9回 行列の対角化 (2)

第10回 2次形式

第11回 第2回中間試験

第12回 微分方程式

第13回 ベクトル・行列の微分、微分方程式のベクトル・行列による表現、指数行列

第14回 線形微分方程式 (1)

第15回 線形微分方程式 (2)

第16回 定期試験

講義の進捗によって上記内容やスケジュールは適宜変更します。

学習課題 (予習・復習) 基本概念は講義で説明しますが、これまでの講義から、予習なしでは理解がたいへんなようです。特に、高校での学習内容や基礎線形代数学Ⅰの学習内容に対する知識、理解が十分出ない場合には、いっそう困難になっているようです。その場合にはそれらの復習をしておいてください。

基礎線形代数学 II

Linear algebra II

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 対象 工学部物理工学科1年生クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 川向 洋之 (教育学部)

授業の概要 線形代数学の基礎理論の習得.

学習の目的 線形代数学を通じて, 思考力, 計算力, 応用力のレベルをあげる.

学習の到達目標 線形代数学を通じて, 思考力, 計算力, 応用力のレベルをあげる.

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

教科書 教科書: 後日指定する.

成績評価方法と基準 (基本的に) 期末試験で判断する. なお, いつも遅刻や欠席をしたり, レポートを出さなかったり, 授業中に関係のないこと(例えばスマートフォンの操作や, 睡眠)などをしている場合, テストが良くても単位を出さないことがある.

オフィスアワー 水曜日 12:00~13:00 教育学部 4階解析学第3研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 線形代数学の基礎

学習内容

1. 余因子による逆行列の計算 (第1回~第2回)
2. クラメル公式と掃きだし法による連立一次方程式の解法 (第3回~第4回)
3. ベクトル空間の定義 (第5回)

4. ベクトルの一次独立と, 一次従属 (第6回~第8回)
5. ベクトル空間の基底 (第8回~第9回)
6. 固有値と固有ベクトル (第10回~第11回)
7. 行列の対角化 (第12回~第15回)
8. 定期試験 (第16回)

基礎線形代数学 I

Linear Algebra I

学期 後期 **開講時間** 木 7, 8 **単位** 2 **対象** この科目を再履修する学生のみ、受講できる。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必修** 必修 **授業の方法** 講義 **担当教員** 大貫 洋介 (非常勤講師)

授業の概要 線形代数学に現れる行列と行列式の基本的性質を説明する。

学習の目的 行列と行列式に関する基本的性質を理解する。

学習の到達目標 行列と行列式を理解し、応用することが出来る。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 討論・対話力

受講要件 この科目を再履修する学生のみ、受講できる。

教科書 追って指示する。

成績評価方法と基準 中間試験・期末試験 70%、小テスト 10%、授業において課す課題 20%

その他 開講学期は、後期です。注意してください。

授業計画・学習の内容

キーワード ベクトル、行列、行列式、行列の掃き出し法

学習内容

第1回～第3回 行列と数ベクトル、行列の演算、行列と連立1次方程式

第4回～第7回 基本変形とランク、連立1次方程式を解く、逆行列を求める

第8回～第11回 置換と行列式の定義、行列式の性質

第12回～第15回 行列式の余因子展開、余因子行列と逆行列、クラメル公式

第16回 期末試験

ただし、これは予定であり、受講生の状況などにより多少の変更を行なうことがある。

基礎線形代数学

Fundamental Linear Algebra

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 小竹 茂夫 (工学部機械工学科)

授業の概要 線形代数の基礎である行列の取り扱いを学ぶと共にベクトル空間・双対空間・線形変換・固有値の概念とその応用について学ぶ。高校や入門数学で学んだ2行2列の理解を一般の n 次元線形空間に広げる。

学習の目的

ベクトルを利用した空間概念が養われます。行列のベクトル空間での働きが分かります。工学部に必須となる線形空間の概念が養われます。ベクトルや行列を使った計算に慣れることができます。

学習の到達目標

ベクトルや行列の演算を通して、その図形的意味や線形空間の概念を学ぶ。特に線形独立性や行列の階数、固有値とその応用を通して、線形空間の取り扱いに慣れる

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、ベクトルや 2×2 行列の演算について既知であることが望ましい。それらの知識は、機械工学科の学生は「入門数学」の授業で学べる。

予め履修が望ましい科目 特に必修ではないが、工学部機械工学科の学生であれば、入門数学(工学部機械工学科1年前期開講科目)を、他の学生はそれに相当する授業を履修していることが望ましい。しかし、必ずしも必要ではない。

発展科目 量子力学、工業数学1、工業数学2および演習、工業数学3、工業数学4、工業数学5、振動工学、材料力学

教科書 「パワーアップ 線形代数」 大月卓郎, 竹内康博著 共立出版

成績評価方法と基準

Moodleの小テスト(10点満点)を p 点、授業のレポート(10点満点)を q 点、期末試験(80点満点)を r 点とし、 $100 \cdot (p+q+r)/(p+q+80)$ 点を評価点とする。

ただし、出席等の状況も考慮し、総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週月曜日12:20~14:30、場所 工学部機械工学科棟2F 2211号室

授業改善への工夫

毎週、レジュメを配り、授業の参考にしてもらう

メール等により、質問等を受け付ける。

小テストによる正誤問題を始める。

Moodleによる連絡と小テスト、レジュメ、演習問題の解答の配布を始める。

その他

- 授業の連絡はMoodleを通じてメールで配信しますので、Moodleへの登録をお願いします。

- 毎週、レジュメを配ります。なくした人はMoodleに置いてありますのでdownloadしてください。

- 毎週、Moodleの小テストを課しますので、次の授業までに受講ください。

- 数回ごとにレポートを課しますが、その連絡はレジュメに載せてありますので、毎回チェックしてください。

- 他学科の過年度生は、レジュメでの連絡に注意してください。

- 宿題で使用する「DME(Drill for Mechanical Engineers)」の問題もMoodleにありますので、downloadして使用ください。

授業計画・学習の内容

キーワード

JABEE基本キーワード：応用数学の基礎

JABEE個別キーワード：線形代数とその応用

学科キーワード：ベクトル、行列、線形空間

学習内容

- 1.ベクトルの成分表示と演算
- 2.ベクトルの線形独立性・従属性、座標系と数ベクトル
- 3.ベクトルの内積とノルム、ベクトル間の角度
- 4.行列とその演算
- 5.行列の階数と基本変形
- 6.掃き出し法で求める逆行列と連立一次方程式の解
- 7.行列の線形変換と連立一次方程式
- 8.行列式と外積
- 9.行列式の一般化

10.逆行列と双対空間

11.特性方程式と行列の固有値と固有ベクトル

12.行列の対角化と対称行列、直交行列

13.行列のべき乗と行列のスベクトル分解

14.行列の対角化の応用

15.全体のまとめと演習

16.定期試験

学習課題（予習・復習）

独自の演習課題を3～4回に分けて出題する。

提出日は、毎回配る講義録（レジュメ）にて知らせる。

毎授業後にMoodleの小テストを受講してもらう。

質問等は、科目のMoodle内の質問コーナーにお願いしたい。

基礎線形代数学

Linear Algebra

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 対象 工1A 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 堀江 太郎 (非常勤講師)

授業の概要 線形代数に関する基礎的な知識を身につける。

学習の目的 工学および自然科学における様々な現象は、行列を用いて簡潔に記述できることがある。ここでは、行列、行列式、掃き出し法、行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化について学習し、その基礎的な知識と計算力・応用力を身につけることを目標にする。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要

になる線形代数に関する基礎的な知識を得る。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力

受講要件 「クラス指定」工1A

教科書 未定 (開講時まで指示する)

成績評価方法と基準 毎回行う小テスト 30%, 中間・期末試験70% 計100%

授業計画・学習の内容

キーワード 行列、行列式、ベクトル空間、線形写像、行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化

学習内容

(基礎線形代数学)

1-3回: 行列と連立1次方程式

4-7回: 行列式とその応用

8回: 中間試験 (予定)

9-11回: ベクトル空間と線形写像

12-15回: 行列の固有値・固有ベクトル、行列の対角化

16回: 期末試験

基礎線形代数学

Linear Algebra

学期 前期 **開講時間** 月 7, 8 **単位** 2 **対象** 「基礎線形代数学」を再履修する学生のみ受講できる。「基礎線形代数学I、II」とは別の科目なので混同しないこと。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義
担当教員 古関 春隆 (教養教育機構)

授業の概要 「線形代数学」を再履修する学生のために、基本的な事項を解説して演習を行う。

学習の目的 線形代数学の基礎を理解し、具体的な計算問題を解く。

学習の到達目標 行列や連立1次方程式や行列式の計算ができるようになること。

本学教育目標との関連モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力

受講要件 「基礎線形代数学」を再履修する学生であること。

教科書 三宅敏恒、「入門線形代数」、培風館

成績評価方法と基準 授業への出席、演習への取り組み、定期試験の成績等を総合的に評価する。

オフィスアワー 月曜16:30~18:00、教育学部1号館4階古関研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列、連立1次方程式、置換、行列式

Key Word(s) matrix, system of linear equations, substitution, determinant

学習内容

項目ごとにまとめた講義を行い、続いて学生が演習問題を解く。

第1回~第4回 行列計算と基本変形

第5回~第8回 連立1次方程式

第9回~第15回 行列式

第16回 試験

基礎微分積分学I

Calculus I

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 教育学部、数学・情報 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 新田 貴士 (教育学部)

授業の概要 微分、積分の基礎を講義、演習する。

微分積分 キャンパスゼミ 馬場敬之 マセマ出版社

学習の目的 微分、積分の基礎を講義、演習する。

演習微分積分 キャンパスゼミ 馬場敬之 高杉豊
マセマ出版社

学習の到達目標 微分、積分の基礎が理解できる。

微分積分学 矢野健太郎 石原繁 裳華房

成績評価方法と基準 出席、宿題、試験による。講義15回、レポート15回が課せられる。

発展科目 微分積分学II

オフィスアワー 月曜日 12:00-13:00、水曜日 12:00-13:00、新田研究室。

教科書

授業計画・学習の内容

キーワード 連続、微分、積分

学習課題（予習・復習）

学習内容

予習は各自おこなうこと。

1～4回 極限

復習は毎回宿題が出るのでそれをすること。

5～7回 連続

一回の講義に3時間から5時間の自習が課される。

8～11回 微分

12～15回 積分

基礎微分積分学 I

Basic Caclulus I

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 市原 潔(非常勤講師)

授業の概要

一変数の微積分の計算技法を習得し、理論的側面を理解する。

多変数の微積分の計算技法の基礎を習得する。

学習の目的 機械工学に現れる、微積分の演算子を含む主要な数式の意味を理解できるようにするために、教科書の例題レベルの問題を自力で解けるようになることを目的とする。

学習の到達目標

教科書の例題に掲載されている解法を少なくとも理解できるレベルの学力をつけることを目標とする。

教科書の例題に類似の問題を自力で解けるよ

うになることを目標とする。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 日本の高校で学ぶ数学を理解しており、三重大学の微積分に係る入試問題が解けるレベルであることが望ましい。

教科書 江川博康: 弱点克服 大学生の微積分、東京図書

参考書 (最初の授業で示す。)

成績評価方法と基準 欠席が4回以下であることを前提に、レポート20%、期末テスト80%の割合で評価する。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分、積分、実数、逆関数、逆三角関数、極限、数列、Taylor展開、de L'Hospitalの定理、極大、極小、最大、最小、陰関数

学習内容

第1回 極限

第2回 三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数の微分法

第3回 テーラー展開、マクローリン展開

第4回 置換積分、部分積分、広義積分

第5回 面積、媒介変数、極座標

第6回 回転体の体積

第7回 偏導関数

第8回 多変数関数の極値問題

第9回 陰関数、多変数関数の条件付き極値問題

第10回 二重積分の基礎

第11回 二重積分の応用

第12回 名古屋大学等の編入学試験に現れる微積分問題の一例

第13回 名古屋大学大学院等の入学試験に現れる微積分問題の一例

第14回 東京大学大学院等の入学試験に現れる微積分問題の一例

第15回 総復習と補足

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習）

あらかじめ教科書に記載の問題を自力で解くことを試みて欲しい。

自力で解けなかった問題は、授業中に理解し、再度自力で解けるかどうか確認して欲しい。

最初の授業で第12～15回で取り上げる問題のプリントを配布するので、これも自力で解くことを試みて欲しい。

基礎微分積分学 I

Introduction to Differential and Integral Calculus I

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 松井龍之介 (工学部)

授業の概要 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の基礎的な考え方を講義すると共に、応用力および計算力を養う。

学習の目的 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の基礎的な考え方を習得すると共に、応用力および計算力を身につける。

学習の到達目標 工学部電気電子工学科で開講されている専門教育科目の内容を理解する程度の微分積分学の実力を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 クラス指定 (電気電子工学科1年1-40)

予め履修が望ましい科目 高等学校での数学III、数学Cを履修していることが望ましい。

発展科目 基礎科目の数学分野の科目、電気電子工学科の専門教育科目

教科書 『微分積分』和達三樹著、岩波書店

成績評価方法と基準 中間試験2回各25%、期末試験50%、計100%。60%以上を合格とする。

オフィスアワー 日時：毎週金曜日12:00～13:00、場所：電子情報棟3階1320室

授業改善への工夫 講義ノートをMoodleにアップし、受講生が自由にダウンロードできるようにしている。

その他 JABEE関連項目：学習・教育目標との関連 (達成度点検シートの重み)：多面的思考能力 (0.3)、基礎・専門知識 (0.7)

授業計画・学習の内容

キーワード 関数の極限、連続と不連続、微分法、導関数、テイラーの定理、積分法、不定積分、定積分

Key Word(s) limit of a function, continuity and discontinuity, derivative, Taylor expansion, integral, indefinite integral, definite integral

学習内容

第1回 数列と極限、収束の定義

第2回 変数と関数

第3回 関数の極限

第4回 連続と不連続

第5回 微分係数と導関数

第6回 合成関数の微分法、高次導関数

第7回 関数の性質

第8回 基本的な種々の定理、テイラーの定理

第9回 テイラー展開とマクローリン展開

第10回 中間試験

第11回 不定積分

第12回 定積分

第13回 定積分と不定積分

第14回 定積分の拡張、応用

第15回 問題演習

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 学習内容は教科書の各章節の見出しに従っており、予習としては教科書の該当する箇所を時間をかけて読み、疑問な点を明確にしておくこと。

基礎微分積分学 I

Introduction to Differential and Integral Calculus I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 松井龍之介 (工学部)

授業の概要 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の基礎的な考え方を講義すると共に、応用力および計算力を養う。

学習の目的 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の基礎的な考え方を習得すると共に、応用力および計算力を身につける。

学習の到達目標 工学部電気電子工学科で開講されている専門教育科目の内容を理解する程度の微分積分学の実力を身につける。

受講要件 クラス指定 (電気電子工学科1年41-)

予め履修が望ましい科目 高等学校での数学III、数学Cを履修していることが望ましい。

発展科目 基礎科目の数学分野の科目、電気

電子工学科の専門教育科目

教科書 『微分積分』和達三樹著、岩波書店

成績評価方法と基準 中間試験2回各25%、期末試験50%、計100%。60%以上を合格とする。

オフィスアワー 日時: 毎週金曜日12:00~13:00、場所: 電子情報棟3階1320室

授業改善への工夫 講義ノートをMoodleにアップし、受講生が自由にダウンロードできるようにしている。

その他 JABEE関連項目: 学習・教育目標との関連 (達成度点検シートの重み): 多面的思考能力 (0.3)、基礎・専門知識 (0.7)

授業計画・学習の内容

キーワード 関数の極限、連続と不連続、微分法、導関数、テイラーの定理、積分法、不定積分、定積分

Key Word(s) limit of a function, continuity and discontinuity, derivative, Taylor expansion, integral, indefinite integral, definite integral

学習内容

第1回 数列と極限、収束の定義

第2回 変数と関数

第3回 関数の極限

第4回 連続と不連続

第5回 微分係数と導関数

第6回 合成関数の微分法、高次導関数

第7回 関数の性質

第8回 基本的な種々の定理、テイラーの定理

第9回 テイラー展開とマクローリン展開

第10回 中間試験

第11回 不定積分

第12回 定積分

第13回 定積分と不定積分

第14回 定積分の拡張、応用

第15回 問題演習

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 学習内容は教科書の各章節の見出しに従っており、予習としては教科書の該当する箇所を時間をかけて読み、疑問な点を明確にしておくこと。

基礎微分積分学 I

Calculus I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 工学部分子素材工学科(1-50) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 肥田野万里子 (担当窓口は教育学部、玉城正和)

授業の概要 1変数関数及び多変数関数の連続性およびそれらの導関数、テイラー展開。

学習の目的 微分の計算、テイラー展開などを道具として使いこなせるようになること。またそれらを一段高い立場から見られるようになること。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要になる1変数・多変数関数に関する微分・積分学の基礎的な知識が身につくこと。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「クラス指定」工学部分子素材工学科(51-)

教科書 開講時に紹介する。

成績評価方法と基準 小テスト10%、中間・期末試験90%

授業計画・学習の内容

キーワード 極限、微分、偏微分

学習内容

第1回 微分法、導関数

第2-3回 多項式、無理関数のテイラー展開

第4-5回 指数関数、三角関数のテイラー展開

第6-7回 逆三角関数のテイラー展開

第8-9回 関数値の近似値の求め方

第10-11回 多変数関数の連続、極限

第12-15回 偏導関数、2変数関数の極大・極小
テイラー展開

第16回 定期試験

基礎微分積分学 I

Calculus I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工学部分子素材工学科クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle 担当教員 玉城政和

授業の概要 1変数関数の微分と積分の基礎をまなぶ

広義積分について理解し、計算できるようになる。

学習の目的

関数の極限・連続性が理解できるようになる。

導関数およびその応用について理解できるようになる。

原始関数・不定積分・定積分について理解できるようになる。

広義積分について理解できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 微分積分学入門-改訂版-, 岩谷・河合・田中 共著, 学術図書出版社, ISBN978-4-7806-0222-7

学習の到達目標

関数の極限および連続性を理解し、計算・判定ができるようになる。

導関数を理解し、計算できるようになる。

曲線の外形を描き、テーラー展開を理解・計算できるようになる。

原始関数・不定積分・定積分を理解し、計算できるようになる。

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00, 解析学第1研究室 (教育学部4F)

授業改善への工夫 授業中の質問, 授業評価アンケートを参考に適宜対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 導関数, 平均値の定理, テーラー展開, マクローリン展開, ロピタルの定理, 原始関数, 不定積分, 定積分, 広義積分

学習内容

1. 関数の極限と連続性
2. 導関数
3. 三角関数・逆三角関数
4. 対数微分法
5. 関数の増減とグラフ
6. 高次導関数

7. テーラーの定理
8. ロピタルの定理
9. 原始関数
10. 部分積分と置換積分
11. 有理関数
12. 面積
13. 体積, 曲線の長さ
14. 広義積分
15. ガンマ関数とベータ関数

学習課題 (予習・復習) 毎回提示する

基礎微積分学 I

Calculus I

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 対象 工1A 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 堀江 太郎 (非常勤講師)

授業の概要 高校までの知識を受けて、微分・積分 (1変数, 多変数) に関する基礎的な知識を完成させる。

学習の目的 微積分学は自然科学や工学の学習の基礎となる必須の学問である。1変数の微分法については、関数の展開など (高階) 微分の様々な応用について学ぶ。さらに、工学にとって重要な多変数の微積分法の基礎的な知識と計算力を身につけることを主な目標とする。

学習の到達目標 今後の工学の学習, 実験等

で必要になる微積分学に関する基礎的な知識を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力

受講要件 「クラス指定」工1A

教科書 未定 (開講時まで指示する)

成績評価方法と基準 毎回行う小テスト 30%、中間・期末試験70%計100%

授業計画・学習の内容

キーワード 極限 微分法 偏微分 2重積分

学習内容

(基礎微積分学)

1-2回 多変数関数 偏導関数

3-5回 関数の近似 Taylor 展開

6-8回 偏微分 全微分 2変数関数の極大・極小

9回 中間試験

10-11回 2変数関数の極大・極小 (続)

12-15回 2重積分とその応用

16回 期末試験

基礎微分積分学 I

Calculus I

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 工学部情報工学科クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必修 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle 担当教員 玉城政和

授業の概要 1変数関数の微分と積分の基礎をまなぶ

広義積分について理解し、計算できるようになる。

学習の目的

関数の極限・連続性が理解できるようになる。

導関数およびその応用について理解できるようになる。

原始関数・不定積分・定積分について理解できるようになる。

広義積分について理解できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 微分積分学入門-改訂版-, 岩谷・河合・田中 共著, 学術図書出版社, ISBN978-4-7806-0222-7

学習の到達目標

関数の極限および連続性を理解し、計算・判定ができるようになる。

導関数を理解し、計算できるようになる。

曲線の外形を描き、テラー展開を理解・計算できるようになる。

原始関数・不定積分・定積分を理解し、計算できるようになる。

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00, 解析学第1研究室 (教育学部4F)

授業改善への工夫 授業中の質問, 授業評価アンケートを参考に適宜対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 導関数, 平均値の定理, ティラー展開, マクローリン展開, ロピタルの定理, 原始関数, 不定積分, 定積分, 広義積分

学習内容

1. 関数の極限と連続性
2. 導関数
3. 三角関数・逆三角関数
4. 対数微分法
5. 関数の増減とグラフ
6. 高次導関数

7. ティラーの定理
8. ロピタルの定理
9. 原始関数
10. 部分積分と置換積分
11. 有理関数
12. 面積
13. 体積, 曲線の長さ
14. 広義積分
15. ガンマ関数とベータ関数

学習課題 (予習・復習) 毎回提示する

基礎微積分学I

Calculus I

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 工学部物理工学科1年生クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 川向 洋之

授業の概要 基礎的な微積分学を学習すること

教科書 開講時に紹介する

学習の目的 1変数の微積分学の基礎についての理解と、それに伴う応用を行う力を身につける

成績評価方法と基準 (基本的に) 期末試験で判断する。なお、いつも遅刻や欠席をしたり、レポートを出さなかったり、授業中に関係のないこと(例えばスマートフォンの操作や、睡眠)などをしている場合、テストが良くても単位を出さないことがある。

学習の到達目標 微積分学の基礎を身につけ、それに伴う応用を行う力をつけること

オフィスアワー 水曜日の 12:00 - 13:00

授業計画・学習の内容

キーワード 極限, 連続, 微分, 積分, テーラー展開

[授業計画]

学習内容

微積分学について、基本事項を、応用面も考慮しながら概説する。

1. 数列、関数、極限、連続関数 (第1-4回)
2. 1変数関数の微分法 (第5-9回)
3. 1変数関数の積分法 (第10-14回)
4. 試験 (第15回)

基礎微分積分学 I

Calculus I

学期 後期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **対象** 再履修者を対象とします。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義
担当教員 堀江 太郎 (非常勤講師)

授業の概要 微分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につける。

論理的思考力, 問題解決力

学習の目的 微分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につけ、計算力を高める。

受講要件 再履修者を対象とする。

教科書 追って指示する。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要になる1変数・多変数関数に関する微分・積分学の基礎的な知識が身につく。

成績評価方法と基準 レポート・小テスト 30%、中間・期末試験70%計100%

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

その他 開講学期は後期です。注意してください。

授業計画・学習の内容

キーワード 極限 微分 偏微分

9回：中間試験 (予定)

学習内容

1-2回：連続 極限

10-11回：多変数関数の連続 極限

3-8回：微分法 導関数 テーラー展開

12-15回：偏導関数 2変数関数の極大・極小

16回：期末試験

基礎微分積分学II

Calculus II

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 教育学部、数学・情報 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 新田 貴士 (教育学部)

授業の概要 多変数微分、多変数積分を講義する。

学習の目的 多変数微分、多変数積分を講義する。

学習の到達目標 多変数微分、多変数積分ができるようになる。

予め履修が望ましい科目 微分積分学I

教科書 微分積分学 矢野健太郎 石原繁 裳華房

成績評価方法と基準 出席、宿題、試験による。講義15回、レポート15回が課せられる。

オフィスアワー 月曜日 12:00-13:00、水曜日 12:00-13:00、新田研究室。

授業計画・学習の内容

キーワード 多変数微分、多変数積分。

学習内容

1～7回 多変数微分

8～15回 多変数積分

学習課題（予習・復習）

予習は各自すること。

毎回の宿題をすることを復習とする。

毎回の講義に自習時間が必要となる。

基礎微分積分学 II

Calculus II

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 工学部機械工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 ○松井博和(工学研究科), 加藤典彦(工学研究科)

授業の概要 多くの自然現象は微分方程式であらわされ、積分により解析される。エンジニアの使命は自然現象を利用し、技術によってよりよい社会を築き上げることである。本授業では、技術を構築するために必須となる微分・積分を自由・自在に扱えるようにすることが目的である。

学習の目的 例えば、材料力学、機械力学、流体力学、量子力学などの機械工学における基盤専門科目でつまづかないために、微分・積分に習熟し、自然に使いこなせるようになることを目的とする。

学習の到達目標

微分・積分における基礎的な計算能力を習得し、応用的な積分計算に発揮できるようになることを目標とする。

微分・積分法の基本的概念（イメージ）をつかむことで、記憶だけに依存しない計算能力や応用力を身につける。専門科目や工学的技術との関連を意識した上で、基礎関数の微分・積分計算に慣れる。さらに基礎関数の計算技術をもとに、専門科目の基礎となる積分法の応用計算を使いこなせるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分・積分

Key Word(s) differential and integral calculus

学習内容

- 第1回 微分編(1)微分の定義を学び、演習する。
- 第2回 微分編(2)指数関数・対数関数の微分を学び、演習する。
- 第3回 微分編(3)積の微分、合成関数の微分法を学び、演習する。
- 第4回 微分編(4)三角関数の組み合わせの微分を学び、演習する。
- 第5回 マクローリン展開や、テイラー展開を学び演習する。
- 第6回 オイラー公式を学び演習する。

講義直後の演習問題で自分の理解度と計算能力を深めていく。

本学教育目標との関連 論理的思考力

予め履修が望ましい科目 基礎微分積分学

発展科目 機械工学科のすべての科目について、本授業内容が基礎として発展される。

参考書 Drill for Mechanical Engineering Volume 2 (Mie University Press)

成績評価方法と基準 毎週出題される演習問題の解答の提出および期末試験。

オフィスアワー

毎週火曜日17:00-18:00, 工学部機械工学科松井教員室

(あるいはメール相談随時:hmatsui@mach.mie-u.ac.jp)

授業改善への工夫 将来的な応用例（工学～産業技術）の実例を提示すると共に、各回の学習目標を明確にして学生諸君の学習意欲を高める努力をしている。各回の内容についてイメージを提示しながら講義することで視覚的に理解しやすいように努めている。

第7回 偏微分法に関し学習し、演習を行う。

第8回 微分編の復習をし、演習する。

第9回 積分編(1)基礎的概念を学び、演習する。

第10回 積分編(2)三角関数の組み合わせの積分を学び、演習する。

第11回 積分編(3)部分分数分解による積分などの特殊な積分を学び、演習する。

第12回 積分編(4)単純な面積や体積の計算法を学び、演習する。

第13回 積分編(5)区分求積にもとづく特性値の総和を求める方法を学び、演習する。

第14回 積分編(6)複雑な形状の面積、体積の計算法を学び、演習する。

第15回 積分編の復習をし、演習する。

定期試験。

学習課題（予習・復習）

各回の講義終了後，授業時間内に演習問題を解答して毎回提出してもらいます。

なお，復習として，各回ごとに自力で解答できなかった演習問題を再学習してください。

基礎微分積分学II

Introduction to Differential and Integral Calculus II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 畑 浩一 (工学部)

授業の概要 基礎微分積分学Iで学んだ内容を基に、多変数関数に拡張された微分積分学について講義する。理工系学生にとって必要不可欠な応用力と計算力を養う。

学習の目的 多変数関数に拡張された微分積分学の基礎を学ぶとともに、意味を理解しその応用に必要な知識を身に付けるさらに、複素関数論、フーリエ級数、微分方程式等工学において重要な位置を占める概念につながる無限級数について基礎を学ぶとともに意味を理解し応用に必要な知識を習得する。

学習の到達目標 工学部電気電子工学科で開講される専門教育科目の内容を理解できるに足る微分積分学の実力を身に付ける。

受講要件 基礎微分積分学Iを履修済みである

授業計画・学習の内容

キーワード 多変数関数の極限と微分積分学

Key Word(s) Function with Many Variables, Differential and Integral Calculus, Limits

学習内容

第1回 2変数関数, 偏微分

第2回 全微分, 平均値の定理

第3回 Taylorの定理

第4回 偏導関数の応用, 演習

第5回 多重積分の定義, 累次積分

第6回 積分変数の変換

第7回 多重積分の応用

第8回 線積分

第9回 Greenの定理, 演習

事。

予め履修が望ましい科目 基礎微分積分学I

発展科目 常微分方程式及び演習, フーリエ解析と偏微分方程式及び演習, 複素関数論及び演習, ベクトル解析及び演習, 確率・統計

教科書 「微分積分」 和田三樹 著 岩波書店

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50% 中間試験, 期末試験の合計点が120点以上を合格とする。

オフィスアワー 工学部電気電子工学科棟 畑研究室

授業改善への工夫 シラバスに沿った授業進行

第10回 中間試験

第11回 無限級数, 有界な単調数列

第12回 正項級数, 交項級数

第13回 絶対収束級数

第14回 べき級数

第15回 一様収束する関数級数

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習)

学習内容は教科書の各節の見出しに従っており, 予習として, 教科書の該当節を読んでおく。

復習として, 該当節の練習問題を解き, レポートとして提出する。

基礎微分積分学II

Introduction to Differential and Integral Calculus II

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 畑 浩一 (工学部)

授業の概要 基礎微分積分学Iで学んだ内容を基に、多変数関数に拡張された微分積分学について講義する。理工系学生にとって必要不可欠な応用力と計算力を養う。

学習の目的 多変数関数に拡張された微分積分学の基礎を学ぶとともに、意味を理解しその応用に必要な知識を身に付けるさらに、複素関数論、フーリエ級数、微分方程式等工学において重要な位置を占める概念につながる無限級数について基礎を学ぶとともに意味を理解し応用に必要な知識を習得する。

学習の到達目標 工学部電気電子工学科で開講される専門教育科目の内容を理解できるに足る微分積分学の実力を身に付ける。

受講要件 基礎微分積分学Iを履修済みである

授業計画・学習の内容

キーワード 多変数関数の極限と微分積分学

Key Word(s) Function with Many Variables, Differential and Integral Calculus, Limits

学習内容

第1回 2変数関数, 偏微分

第2回 全微分, 平均値の定理

第3回 Taylorの定理

第4回 偏導関数の応用, 演習

第5回 多重積分の定義, 累次積分

第6回 積分変数の変換

第7回 多重積分の応用

第8回 線積分

第9回 Greenの定理, 演習

事。

予め履修が望ましい科目 基礎微分積分学I

発展科目 常微分方程式及び演習, フーリエ解析と偏微分方程式及び演習, 複素関数論及び演習, ベクトル解析及び演習, 確率・統計

教科書 「微分積分」 和田三樹 著 岩波書店

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50% 中間試験, 期末試験の合計点が120点以上を合格とする。

オフィスアワー 工学部電気電子工学科棟 畑研究室

授業改善への工夫 シラバスに沿った授業進行

第10回 中間試験

第11回 無限級数, 有界な単調数列

第12回 正項級数, 交項級数

第13回 絶対収束級数

第14回 べき級数

第15回 一様収束する関数級数

第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習)

学習内容は教科書の各節の見出しに従っており, 予習として, 教科書の該当節を読んでおく。

復習として, 該当節の練習問題を解き, レポートとして提出する。

基礎微分積分学 II

Calculus II

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 工学部分子素材工学科(1-50) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 肥田野万里子 (担当窓口は教育学部、玉城正和)

授業の概要 積分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につける

学習の目的 積分、重積分などを道具として使いこなせるようになること。またそれらを一段高い立場から見られるようになること。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要になる1変数・多変数関数に関する微分・積分学の基礎的な知識が身につけること。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「クラス指定」工1C(51-)

教科書 開講時に紹介する。

成績評価方法と基準 レポート10%、中間・期末試験90%

授業計画・学習の内容

キーワード 定積分、不定積分、重積分

学習内容

第1回 原始関数、不定積分

第2-3回 有理関数の積分

第4-6回 無理関数の積分

第7-8回 面積、回転体の体積、重心

第9-10回 重積分

第11-13回 重積分の計算

第14-15回 重積分とその応用

第16回 定期試験

基礎微積分学 II

Calculus II

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工学部分子素材工学科クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle 担当教員 玉城政和

授業の概要 多変数関数の微積分学の基礎をまなぶ

学習の目的

偏微分を理解し, 応用できるようになる.
重積分を理解し, 応用できるようになる.

学習の到達目標

偏微分を理解し, 計算できるようになる.
陰関数定理を理解し, 極値問題を解決できるようになる.
重積分を理解し, 計算できるようになる.
体積を計算できるようになる.

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論

理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 微積分学入門-改訂版-, 岩谷・河合・田中共著, 学術図書出版社, ISBN978-4-7806-0222-7

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00, 解析学第1研究室(教育学部4F)

授業改善への工夫 授業中の質問, 授業評価アンケートを参考に適宜対応する.

授業計画・学習の内容

キーワード 偏微分, 陰関数定理, 重積分, 累次積分

学習内容

1. 偏導関数の計算
2. 合成関数の偏導関数
3. 陰関数の微分

4. 重積分の計算
5. 積分順序の交換
6. 置換積分
7. 曲面積

学習課題(予習・復習) 毎回提示する

基礎微積分学 II

Calculus II

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 工学部情報工学科クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 玉城政和

授業の概要 多変数関数の微積分学の基礎をまなぶ

学習の目的

偏微分を理解し、応用できるようになる。
重積分を理解し、応用できるようになる。

学習の到達目標

偏微分を理解し、計算できるようになる。
陰関数定理を理解し、極値問題を解決できるようになる。
重積分を理解し、計算できるようになる。
体積を計算できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論

理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 微積分学入門 -改訂版-, 岩谷・河合・田中共著, 学術図書出版社, ISBN978-4-7806-0222-7

成績評価方法と基準 中間試験50%, 期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00, 解析学第1研究室 (教育学部4F)

授業改善への工夫 授業中の質問, 授業評価アンケートを参考に適宜対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 偏微分, 陰関数定理, 重積分, 累次積分

学習内容

1. 偏導関数の計算
2. 合成関数の偏導関数
3. 陰関数の微分

4. 重積分の計算
5. 積分順序の交換
6. 置換積分
7. 曲面積

学習課題 (予習・復習) 毎回提示する

基礎微分積分学II

Calculus II

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 工学部物理工学科1年生クラス指定 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 川向 洋之

授業の概要 多変数の微積分の概説を行う

教科書 開講時に紹介する

学習の目的 多変数の微分積分学の基礎についての理解と、それに伴う応用を行う力を身につける

成績評価方法と基準 (基本的に) 期末試験で判断する。なお、いつも遅刻や欠席をしたり、レポートを出さなかったり、授業中に関係のないこと(例えばスマートフォンの操作や、睡眠)などをしている場合、テストが良くても単位を出さないことがある。

学習の到達目標 微積分学の基礎を身につけ、それに伴う応用を行う力をつけること

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

オフィスアワー 水曜日 12:00~13:00 教育学部4階解析学第3研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 偏微分, 全微分, 重責分, 級数

- 1変数の微積分学の復習 (第1-4回)
2. テーラー展開 (第5-8回)
3. 多変数関数の微分法 (第9-11回)
4. 多変数関数の積分法 (第12-14回)
5. 試験 (第15回)

学習内容

微分積分学の基本事項を、応用面も考慮し概説する。

[授業計画]

基礎微分積分学 II

Calculus II

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **対象** 再履修者を対象とします。 **年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 必修 **授業の方法** 講義
担当教員 堀江 太郎 (非常勤講師)

授業の概要 積分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につける。

論理的思考力, 問題解決力

学習の目的 積分 (1変数、多変数) に関する基礎的な知識を身につけ、計算力を高める。

受講要件 再履修者を対象とする。

教科書 追って指示する。

学習の到達目標 今後の学習、実験等で必要になる1変数・多変数関数に関する微分・積分学の基礎的な知識が身につく。

成績評価方法と基準 レポート・小テスト 30%、中間・期末試験70%計100%

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

その他 開講学期は前期です。注意してください。

授業計画・学習の内容

キーワード 定積分 不定積分 重積分

5-8回: 定積分とその応用

9回: 中間試験 (予定)

学習内容

1-4回: 原始関数 不定積分

10-15回: 重積分とその応用

16回: 期末試験

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 葛葉泰久(生物資源学部)

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復習をしておくことが望ましい。

教科書

(1)大学1・2年生のためのすぐわかる数学(江川博康著 東京図書株式会社)

(2)微分積分 (和達著; 岩波書店; ISBN4-00-007771-6)

成績評価方法と基準 出席状況と演習、定期試験を総合評価

オフィスアワー 月曜日 12:30-16:00 ただし、出張等で確実に在室とは限らないので、事前に必ずメールでアポイントメントを取ること。メールアドレスは、講義時に示す。

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める。

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。数学基礎(上級、中級クラス)の不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。また、基礎クラスの不合格者は専門課程の入門数学演習(補習クラス)を受け次年度基礎クラスを再受験するのが基本であるが、場合によっては数学基礎の再履修クラスへ編入することもある。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 偏微分 重積分

Key Word(s) differentiation, integral, partial differentiation, multiple integral

学習内容

- 第1回 三角関数、逆三角関数
- 第2回 指数関数、対数関数
- 第3回 小テスト (1)、1変数関数の微分
- 第4回 対数微分法、n次導関数
- 第5回 テイラーの定理
- 第6回 マクローリン展開
- 第7回 小テスト (2)、不定積分

- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 定積分
- 第11回 小テスト (3)、偏微分法
- 第12回 偏導関数、高次偏導関数
- 第13回 全微分、合成関数の微分
- 第14回 累次積分
- 第15回 重積分
- 第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 各授業日程にあわせて教科書の演習問題を各自解いておくこと

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 生物資源学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 取出伸夫(生物資源学部)

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復習をしておく

とがのぞましい

教科書 やさしく学べる微分積分 石村園子 共立出版

成績評価方法と基準 出席状況と演習、定期試験を総合評価

オフィスアワー 随時受け付け。部屋番号574

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める。

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 偏微分 重積分

Key Word(s) differentiation, integral, partial differentiation, multiple integral

学習内容

- 第1回 三角関数、逆三角関数
- 第2回 指数関数、対数関数
- 第3回 小テスト (1)、1変数関数の微分
- 第4回 対数微分法、 n 次導関数
- 第5回 テイラーの定理
- 第6回 マクローリン展開
- 第7回 小テスト (2)、不定積分

- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 定積分
- 第11回 小テスト (3)、偏微分法
- 第12回 偏導関数、高次偏導関数
- 第13回 全微分、合成関数の微分
- 第14回 累次積分
- 第15回 重積分
- 第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 各回の授業の予習、復習を教科書により行うこと。

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 渡辺晋生(生物資源学部)

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復習をしておくことがのぞましい

教科書 やさしく学べる微分積分 (石村園子 著 共立出版株式会社)

授業計画・学習の内容

キーワード 指数、対数、微分、積分、偏微分、微分方程式

学習内容

- 第1回 三角関数、逆三角関数
- 第2回 指数関数、対数関数
- 第3回 小テスト (1)、1変数関数の微分
- 第4回 対数微分法、 n 次導関数
- 第5回 テイラーの定理
- 第6回 マクローリン展開
- 第7回 小テスト (2)、不定積分
- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 定積分
- 第11回 小テスト (3)、偏微分法
- 第12回 偏導関数、高次偏導関数
- 第13回 全微分、合成関数の微分
- 第14回 累次積分
- 第15回 重積分
- 第16回 定期試験

成績評価方法と基準 出席状況と宿題、演習、定期試験を総合評価

オフィスアワー 随時教員の居室にて対応。数学なんでも相談室も積極的に活用してください。

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める。

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。数学基礎 (上級、中級クラス) の不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。また、基礎クラス的不合格者は専門課程の入門数学演習 (補習クラス) を受け次年度基礎クラスを再受験するのが基本であるが、場合によっては数学基礎の再履修クラスへ編入することもある。

学習課題 (予習・復習)

- 第2回学習内容に関する宿題と予復習
- 第3回学習内容に関する宿題と予復習
- 第4回学習内容に関する宿題と予復習
- 第5回関数の作図
- 第6回学習内容に関する宿題と予復習
- 第7回学習内容に関する宿題と予復習
- 第8回学習内容に関する宿題と予復習
- 第9回学習内容に関する宿題と予復習
- 第10回学習内容に関する宿題と予復習
- 第11回学習内容に関する宿題と予復習
- 第12回学習内容に関する宿題と予復習
- 第13回学習内容に関する宿題と予復習
- 第14回学習内容に関する宿題と予復習
- 第15回学習内容に関する宿題と予復習

(各回の講義終了時に課題を配布します。日曜の朝、Moodleで解答例を提示しますので、各自採点・確認の上、月曜の講義終了時に提出すること)

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 生物資源学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 山田 二久次

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力、専門知識・技術、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復習をしておくことがのぞましい

教科書 やさしく学べる微分積分（石村園子 著 共立出版株式会社）

参考書 出席状況と演習、定期試験を総合評価

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める。

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。数学基礎（上級、中級クラス）の不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。また、基礎クラスの不合格者は専門課程の入門数学演習（補習クラス）を受け次年度基礎クラスを再受験するのが基本であるが、場合によっては数学基礎の再履修クラスへ編入することもある。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 偏微分 重積分

Key Word(s) differentiation, integral, partial differentiation, multiple integral

学習内容

第1回 三角関数、逆三角関数

第2回 指数関数、対数関数

第3回 小テスト（1）、1変数関数の微分

第4回 対数微分法、 n 次導関数

第5回 テイラーの定理

第6回 マクローリン展開

第7回 小テスト（2）、不定積分

第8回 置換積分

第9回 部分積分

第10回 定積分

第11回 小テスト（3）、偏微分法

第12回 偏導関数、高次偏導関数

第13回 全微分、合成関数の微分

第14回 累次積分

第15回 重積分

第16回 定期試験

数学基礎

Basic Mathematics

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 対象 生物資源学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 鈴木 直之(教養教育機構)

授業の概要 微積分学の基礎。理工系学生を対象とした数学基礎教育で、専門科目への応用力を養うことを目標とする。

学習の目的 専門科目に対処できる能力を習得させる

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分などの基礎問題を解けるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の三角関数、指数関数、対数関数などの復讐をしておくことが望ましい

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 重積分 偏微分

Key Word(s)

differentiation, integral, partial differentiation, multiple integra

学習内容

- 第1回 三角関数、逆三角関数
- 第2回 指数関数、対数関数
- 第3回 小テスト (1)、1変数関数の微分
- 第4回 対数微分法、n次導関数
- 第5回 テイラーの定理
- 第6回 マクローリン展開
- 第7回 小テスト (2)、不定積分

教科書 やさしく学べる微分積分 (石村園子 著 共立出版株式会社)

成績評価方法と基準 出席状況と演習、定期試験を総合評価

オフィスアワー 毎週火曜日12時~13時

授業改善への工夫 習熟度にあわせた授業を行い、効率よく理解度を高める

その他 未習歴などを参考にクラス編成をおこなう。数学基礎 (上級、中級クラス) の不合格者は後期の再履修クラスで授業を受け単位の修得を目指す。また、基礎クラスの不合格者は専門課程の入門数学演習 (補習クラス) を受け次年度基礎クラスを再受験するのが基本であるが、場合によっては数学基礎の再履修クラスへ編入することもある。

- 第8回 置換積分
- 第9回 部分積分
- 第10回 定積分
- 第11回 小テスト (3)、偏微分法
- 第12回 偏導関数、高次偏導関数
- 第13回 全微分、合成関数の微分
- 第14回 累次積分
- 第15回 重積分
- 第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 各授業日程にあわせて教科書の演習問題を各自解いておくこと

数学基礎（再履修）

Basic Mathematics (repeating a course)

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 鈴木 直之

授業の概要 前期に行われた数学基礎の不合格者を対象に開講される授業科目であり、受講生各自が数学基礎の復習を行い、さらに場合によっては、高校数学に戻って、演習形式で数学の知識を身につけるようにさせる。

学習の目的 微分および積分の知識を身につけ、後の専門教科に役立たせることを目的とする。

学習の到達目標 微分、積分、偏微分、重積分の基礎を習得し、一般的なこれらの問題が解けるようになるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 問題解

決力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 数学基礎の再履修学生であること

教科書 前期の数学基礎で使用した教科書を使用するが、適宜プリントを配布する。

成績評価方法と基準 小テストおよび期末テストを総合して評価する。

オフィスアワー 月～金の昼休み12:15～12:50

授業改善への工夫 毎時間小テストを課し、理解度を深めさせる。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分 積分 偏微分 重積分

Key Word(s) differentiation, integral, partial differentiation, multiple integral

学習内容

演習：数学基礎の範囲（微分、積分、偏微分、重積分）の復習

第1回～第5回 微分の復習（第2回～第5回 小テストあり）

第6回～第10回 積分の復習（第7回～第10回 小テストあり）

第11回～第14回 偏微分の復習（第12回～第14回 小テストあり）

第15回 重積分

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 各自授業の復習と毎時間行う小テストの準備をすること

基礎数学演習 I

Exercises in Mathematics I

学期 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 1 **対象** 教育学部数学教育・情報教育コース1年 なお、基礎線形代数学 I, 基礎微積分学 I を受講している学生は可能な限り受け入れる **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 森山 貴之 (教育学部)

授業の概要 基礎線形代数学I、基礎微積分学Iの理解に必要な、計算問題及び証明問題等の演習を行う。

学習の目的 実際に問題を解くことにより、線形代数と微積分学力を養うこと。

学習の到達目標 線形代数の、行列の掃き出し、一次方程式の解法の計算、行列式の計算などが出来るようになること。解析分野の、連続性の理解、および極限の具体的な計算が出来るようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

教育学部数学教育・情報教育コース1年
その他、基礎線形代数学I, 基礎微積分学Iを受講している学生は可能な限り受け入れる。

予め履修が望ましい科目 基礎線形代数学I、基礎微積分学Iを並行して受講すること。

発展科目 基礎数学演習 II

教科書 特に指定はしないが、基礎線形代数学I、基礎微積分学Iの教科書を持参すること。

成績評価方法と基準 期末試験の結果と講義での発表のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 水曜日12:00~13:00, 教育学部一号楼4階 研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 行列の階数、連立1次方程式、行列式、連続性、極限、関数、微分

Key Word(s) Rank of matrix, system of linear equations, determinant, continuity, limit, differentiation

学習内容

1. 行列の演算 (第1回~第3回)

2. 連続性、極限 (第4回~第6回)
 3. 連立1次方程式の解法 (第7回~第9回)
 4. 微分の応用 (第10回~第12回)
 5. 行列式の計算、簡単な積分の計算 (第13回~第15回)
 6. 定期試験 (第16回)
- ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

基礎数学演習 I

Exercise in Fundamental Mathematics I

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 1 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 山村直紀 (工学部電気電子工学科), 川中普晴 (工学部電気電子工学科)

授業の概要 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の演習問題を数多くこなし、応用力および計算力を養う。

学習の目的 数と極限, 変数と関数, 微分法の基礎, 積分法の基礎について学習する。

学習の到達目標

学習・教育目標: 「多面的思考能力」および「基礎知識と専門知識」に関する能力を向上させる。

工学部電気電子工学科で開講されている専門教育科目の内容を理解する程度の微分積分学の実力を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

受講要件 基礎微分積分学 I を履修していること

発展科目 基礎科目の数学分野の科目, 電気電子工学科の専門教育科目

教科書 『微分積分演習』和達三樹, 十河清著, 岩波書店

成績評価方法と基準 「小テスト (20点満点全14回) の合計168点以上」を合格とする。

オフィスアワー

山村直紀: 講義終了後
川中普晴: 毎週火曜日 12:00~13:00, 場所: 電子情報棟4階 1412室

授業改善への工夫 小テストの解答解説など

授業計画・学習の内容

キーワード 実数、複素数、関数の極限、連続と不連続、微分法、導関数、テイラーの定理、積分法、不定積分、定積分

学習内容

第1回 ガイダンス, 【演習】数のいろいろ, 漸化式

第2回 【演習・小テスト】数列と極限

第3回 【演習・小テスト】収束・発散の条件

第4回 【演習・小テスト】いろいろな関数

第5回 【演習・小テスト】関数の極限

第6回 【演習・小テスト】連続関数

第7回 【演習・小テスト】導関数とその計算

第8回 【演習・小テスト】微分法

第9回 【演習・小テスト】関数の性質

第10回 【演習・小テスト】微分法の諸定理

第11回 【演習・小テスト】不定積分とその計算

第12回 【演習・小テスト】定積分とその計算

第13回 【演習・小テスト】広義積分

第14回 【演習・小テスト】よく現れる関数たち

第15回 【演習・小テスト】積分の応用

学習課題 (予習・復習) 2週目以降は演習後に小テストを行い、その合計で成績を評価するので、よく予習しておくこと。

基礎数学演習 II

Exercises in Mathematics II

学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 1 **対象** 教育学部数学教育・情報教育コース1年 なお、基礎線形代数学 II, 基礎微積分学 II を受講している学生は可能な限り受け入れる **年次** 学部(学士課程): 1年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 森山 貴之 (教育学部)

授業の概要 基礎線形代数学 II、基礎微積分学 II の理解に必要な、計算問題及び証明問題等の演習を行う。

学習の目的 実際に問題を解くことにより、線形代数と微積分学の力を養うこと。

学習の到達目標 逆行列、ベクトル空間、固有値、固有空間が計算できるようになること。また、テイラー展開、偏微分、様々な関数の積分が出来るようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード 逆行列、ベクトル空間、固有空間、テイラー展開、偏微分、積分

Key Word(s) Inverse matrix, vector spaces, eigen spaces, Taylor's expansion, partial differentiation, integration

学習内容

1. 余因子展開と余因子行列の演算 (第1回～第3回)

教育学部数学教育・情報教育コース1年
その他、基礎線形代数学 II, 基礎微積分学 II を受講している学生は可能な限り受け入れる。

予め履修が望ましい科目 基礎線形代数学 II、基礎微積分学 II を並行して受講すること。

教科書 特に指定はしないが、基礎線形代数学 II、基礎微積分学 II の教科書を持参すること。

成績評価方法と基準 期末試験の結果と講義での発表のほかに、出席状況、レポート提出状況、受講態度等を加味して総合的に評価する。

オフィスアワー 水曜日 12:00～13:00, 教育学部一号棟4階 研究室

2. 様々な関数のテイラー展開 (第4回～第6回)
 3. 逆行列とその応用 (第7回～第9回)
 4. 偏微分の計算 (第10回～第12回)
 5. 固有空間、積分の応用 (第13回～第15回)
 6. 定期試験 (第16回)
- ただしこれは計画であり、受講生の状況等に合わせて多少の変更を行うことがある。

基礎数学演習 II

Exercise in Fundamental Mathematics II

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 1 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 演習

担当教員 松井 龍之介 (工学部) , 永井 洸一 (工学部)

授業の概要 理工系学生にとって必要不可欠な微分積分学の演習問題を数多くこなし、応用力および計算力を養う。

学習の目的 多変数関数の微分積分法と無限級数について学習する。

学習の到達目標

学習・教育目標: 「多面的思考能力」および「基礎知識と専門知識」に関する能力を向上させる。

工学部電気電子工学科で開講されている専門教育科目の内容を理解するのに必要不可欠な微分積分学の実力を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 「基礎微分積分学 I」、「基礎数学演習 I」を修得しておくこと

とが望ましい。

発展科目 基礎科目の数学分野の科目、電気電子工学科の専門教育科目

教科書 微分積分演習 (理工系の数学入門コース/演習 (1))、和達三樹、十河清 著、岩波書店

成績評価方法と基準 前期復習テスト (50点満点: 初回実施) と小テスト (20点満点: 全15回) の合計210点以上を合格とする。ただし、欠席5回以上は対象外とする。

オフィスアワー

松井: 毎週金曜日 12:00~13:00, 場所: 電子情報棟3階1320室、電子メール: matsui@elec.mie-u.ac.jp

永井: 毎週金曜日 12:00~13:00, 場所: 電子情報棟4階1401室、電子メール:nagai@elec.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 小テストの解答解説など。

授業計画・学習の内容

キーワード 微分法、積分法、偏微分、全微分、平均値の定理、多重積分、線積分、無限級数、正項級数、絶対収束級数、べき級数、一様収束

Key Word(s) differential calculus, integral calculus, partial derivative, total derivative, law of the mean, multiple integral, line integral, infinite series, positive series, absolutely convergent series, power series, uniform convergence

学習内容

- 第1回 ガイダンス、前期の復習
- 第2回 偏微分とその計算
- 第3回 全微分と変数変換
- 第4回 全微分と変数変換
- 第5回 平均値の定理、陰関数の微分

- 第6回 平均値の定理、陰関数の微分
- 第7回 偏導関数の応用
- 第8回 多重積分
- 第9回 積分変数の変換
- 第10回 積分変数の変換
- 第11回 多重積分の応用
- 第12回 線積分
- 第13回 無限級数とその収束・発散
- 第14回 無限級数とその収束・発散
- 第15回 べき級数
- 第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 1週目は「微分積分学 I」に関する復習テスト、2週目以降は前の週の内容に関する小テストを行い、その合計で成績を評価する。毎回宿題を課し、その内容を次回小テストの出題範囲とするので、よく復習しておくこと。

基礎数理統計学

Mathematical Statistics

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 必修

授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 玉城 政和

授業の概要 確率論と統計学がテーマであり、数理統計学の基礎的考え方を学ぶ。

学習の目的 数理統計学の基礎的考え方を身につけ、データを整理し分析する数理的方法や、確率変数の意味・意義を理解できるようにする。時間があれば、推定および検定の基本的考え方や方法も学び応用を目指す。

学習の到達目標

データの平均、分散、標準偏差および相関係数といった量について理解し、計算できるようになる。

確率変数、正規分布、中心極限定理（および推定・検定の概要）を理解し、活用できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 工学部建築学科2年生以上

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 確率・統計学

授業計画・学習の内容

キーワード ベイズの定理、平均、分散、標準偏差、相関係数、確率変数、正規分布、大数の法則、中心極限定理、区間推定

学習内容

- データの処理(第1回～第3回)
平均、分散、標準偏差、相関係数、回帰直線
- 確率の考え方と計算(第4回～第7回)
標本空間、事象、確率、条件付き確率、ベイズの定理

教科書 新基礎コース 確率・統計（浅倉、竹居 共著、学術図書出版社、ISBN978-4-7806-0405-4）

参考書

統計学の基礎（栗栖、濱田、稲垣 共著、裳華房、ISBN978-4-7853-1525-2）

確率統計の数理（石井、塩出、新森 共著、裳華房、ISBN978-4-7853-1090-5）

新訂・確率統計（大日本図書、ISBN4-477-01875-4）

はじめての数理統計学（古島・市橋・坂西、近代科学社、ISBN978-4-7649-1048-5）

入門統計学（橋本智雄、共立出版、ISBN4-320-01508-8）

理工系の確率・統計入門（服部哲也、ISBN: 978-4-7806-0207-4）

成績評価方法と基準 中間試験50%、期末試験50%

オフィスアワー 毎週水曜日12:00～13:30、解析学第1研究室（教育学部4F）

授業改善への工夫 授業中の質問、授業評価アンケートを参考に適宜対応する。

3. 確率変数と確率分布(第8回～第11回)

確率変数、確率分布、期待値、分散

4. 2項分布と正規分布(第12回～第15回)

2項分布、2項分布から正規分布へ、正規分布の計算、中心極限定理、推定と検定

学習課題（予習・復習） 毎回、復習は欠かさず行なうこと。具体的には授業中に指示する。

基礎物理学A

Introductory Physics I (Classical Mechanics)

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義

授業の特徴 Moodle

担当教員 國仲 寛人 (教育学部)

授業の概要 自然界の現象を理解する上でもっとも基本となる物体(質点)の運動についての基礎を学ぶ

学習の目的 運動の法則についての理解とその運用能力の修得

学習の到達目標 身のまわりの力学現象について、解析的に考えることができるようになること。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力

予め履修が望ましい科目 基礎微積分学I、基礎線形代数学Iをあわせて受講することが望ましい。

発展科目 物理学講義I (質点系と剛体の力学)

教科書 原康夫 著 「第4版 物理学基礎」 学術図書

参考書

ファインマン、レイトン、サンズ: 『ファインマン物理学I 力学』 岩波書店

松下貢: 『物理学講義 力学』 裳華房

和達三樹: 『物理入門コース 物理のための数学』 岩波書店

成績評価方法と基準 小テスト50%, 定期試験50%, 計100%

オフィスアワー 在室時随時 (研究室、教育学部1号館2F)

授業改善への工夫

- ・ 毎回演習問題を用意し、授業内容の理解を深める。

- ・ 講義のページ (Moodle) を作成し、講義資料等にアクセス可能にする。

授業計画・学習の内容

キーワード 力と物体の運動 (教職を目指す人たちのための基礎物理学)

学習内容

第1回: 序論 (物理量の表し方)

第2, 3, 4回: 運動 (座標, ベクトル, 微分, 積分, 位置, 速度, 加速度, 等速円運動)

第5, 6回: 運動の法則と力の法則 (慣性の法則, 運動の法則, 作用反作用の法則)

第7, 8, 9回: 力と運動 (微分方程式と積分, 放物運動, 雨滴の落下, 摩擦力, 運動量と力

積)

第10, 11回: 振動 (単振動と単振り子, 減衰振動, 強制振動と共振)

第12, 13, 14, 15回: エネルギー (仕事, 位置エネルギー, 運動エネルギー, 保存力, 力学的エネルギー保存の法則)

第16回: 定期試験

学習課題 (予習・復習) 復習として毎回の講義内容に関連する演習問題を解いてもらう。

基礎物理学 I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 牧 清二郎 (工学部)

授業の概要

物理学のうち力学の分野を中心に講義する。教養としての力学を学び、力学に基づく思考力を養うことを目標とする。

★工学部電気電子工学科JABEE関連項目: 学習・教育目標: 基礎・専門知識(0.7)、多面的思考能力(0.3)に関する能力を向上させる。

学習の目的 物体の運動と力の関係について、高校で習った範囲より一歩進め、より理解を深める。

学習の到達目標 基本的な力学問題が解ける。特に、物体(質点および剛体)の運動に関しては、運動を微分方程式の形で記述し、与えられた初期条件のもとで解き、時間の関数として表現できるようになる。

本学教育目標との関連 論理的思考力

受講要件 特にないが、高校物理を履修していることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 力学、数学などに関わる高度な科

目

教科書 「入門 工系の力学」、田中、西浦著、共立出版

成績評価方法と基準 期末試験(100点)により評価し、合計60点以上を合格とする。ただし、出席70%以上を期末試験受験可能条件とする。

オフィスアワー

随時(場所: 工学部機械工学科棟3階2306室)。不在のときは下記アドレスへ連絡して下さい。

maki@mach.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 授業中に演習問題を課したり、復習のために宿題を課し、理解の向上に努める。

その他 授業の内容に関連して宿題を課すことがある。宿題は評価の対象になっていないが、次の授業の折に解答を示すので、まじめに取り組み、自分自身の理解の向上に役立ててほしい。

授業計画・学習の内容

キーワード 力学の基礎

学習内容

主として質点系の運動について講義する。剛体の運動学、弾性体の力学などについてもふれる。

[講義計画]

第1回 授業を始めるにあたって、位置と位置ベクトル・絶対単位・重力単位

第2回 速度と加速度

第3回 Newtonの運動の法則

第4回 運動量と角運動量

第5回 運動方程式・自由落下・放物運動

第6回 単振動・減衰振動・強制振動

第7回 仕事と運動エネルギー

第8回 力学的エネルギー保存則

第9回 質点系の運動・内力と外力

第10回 質点系の運動量と角運動量

第11回 剛体のつり合いと運動

第12回 慣性モーメント

第13回 剛体の平面運動

第14回 弾性体の力学

第15回 総まとめ

第16回 期末試験

学習課題(予習・復習) 毎回、講義に関係した演習問題をレポートとして課す。

基礎物理学 I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 対象 工学部電気電子工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 社河内 敏彦

授業の概要 力学の基礎(主に、動力学、質点系の力学、剛体の力学の一部)について学習(教科書を中心に、一部ノート授業をする)し、力学に基づく論理的な考察力、問題の解決能力の涵養に努める。なお、演習問題を多く取り入れ、理解の向上に努める。また、授業中、適宜、各自に演習問題(一部、英語教科書からの英文による演習問題を使用)を課し授業に参加させ考えさせる時間を設定する。

学習の目的 力学(ニュートン力学)に関する一般的な知識・考え方、及び論理的な考察力、問題の解決能力の涵養

学習の到達目標

論理的な考察力、問題の解決能力の涵養
学習・教育目標: 基礎・専門知識(0.7)、多面的思考能力(0.3)に関する能力を向上させる。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,専門知識・技術,論理的思考力,課題探求力,問題解決力,批判的思考力,情報受発信力,討論・対話力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし(本授業は、学生「1年生」にとって初めての授業である)

予め履修が望ましい科目 特になし(本授業は、学生「1年生」にとって初めての授業で

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎物理学、基礎力学、質点系の力学、剛体の力学

Key Word(s) Fundamental physics, Basic mechanics, Statics, Dynamics, Newtonian mechanics

学習内容

I 力と運動

第1回 力学のためのベクトル演算

第2回 力の作用、働き

ある)

発履科目 力学、数学などに関わる高度な科目

教科書

以下の教科書を使用するので用意・購入すること。

教科書: 「基礎と演習、理工系の力学」、高橋正雄著、共立出版

参考書 "Vector Mechanics of Engineering Dynamics", by F.P.Beer and E.R.Johnstone_Jr. McGraw-Hill

成績評価方法と基準 期末試験の評価で判断する。なお、授業への出席、及び授業で課されるレポートの提出などは必須である。

オフィスアワー

随時(場所: 総合研究棟 I、1F、社河内教室、tel., fax.059-231-9384, e-mail: shako@mach.mie-u.ac.jp)

授業改善への工夫 演習問題(一部、英語教科書からの英文による演習問題を使用)を多く取り入れ、理解の向上に努める。また、授業中、適宜、各自に演習問題を課し授業に参加させ考えさせる時間を設定する。

その他 授業への出席、及び授業で課されるレポートの提出などは必須である。

第3回 運動の表し方(等速度運動と等加速度運動)

第4回 運動の表し方(速度・加速度と微積分)

第5回 運動の法則(ニュートン力学の体系、運動方程式)

II エネルギーと運動量

第6回 仕事とエネルギー

第7回 力学的エネルギー保存則

第8回 運動量保存則(運動量と力積)

第9回 運動量保存則(衝突とエネルギー)

III 振動と円運動

第10回 単振動・単振り子

第11回 等速円運動

第12回 万有引力・角運動量

第13回 慣性力（見かけの力、慣性力、遠心力、コリオリ力）

IV 剛体の力学

第14回 剛体剛体に働く力、回転運動の方程式

第15回 剛体の運動

V まとめ

第16回 総まとめ、試験

学習課題（予習・復習） 毎回、演習問題を中心に復習、予習をすること。

基礎物理学I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 分子素材工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 藤原 裕司

授業の概要 これまでの高校における物理学, 数学と将来の工学部専門科目への橋渡しとして, 基本的な学問である力学を対象に, 手段としての数学の自然科学への応用について学ぶ. 具体的には, 基礎方程式である運動方程式に基づいて, 力による物体の位置の時間変化を演繹的に導く.

学習の目的 力学の基礎である運動方程式を通して, 力による物体の運動の変化, エネルギーの考え方を学ぶとともに, 数学による実際の現象へのアプローチを理解する.

学習の到達目標 質点, 質点系, 剛体へと至る力学の体系を理解することで, 運動方程式に基づいてさまざまな現象へ応用する方法および科学において必要な演繹的な思考方法を醸成する.

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 微分, 積分の基礎を修得していることが望ましい.

予め履修が望ましい科目 微分, 積分に関する数学科目

発展科目 基礎物理学II

教科書 物理入門コース1 力学: 戸田盛和著 (岩波書店)

参考書 物理学講義 力学: 松下貢 (裳華房)

成績評価方法と基準 レポート50%, 定期試験50%

オフィスアワー 随時対応します. 電子メールで予約してもらえると確実です.

授業改善への工夫

授業時間内に演習の時間を確保し, 個別の質問に答えます.

Moodleを利用して, 演習問題, 略解を提示し, 質問にも回答します.

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 運動, エネルギー

Key Word(s) Classical mechanics

学習内容

第1回 単位と次元

第2回 位置, 速度, 加速度

第3回 運動の法則

第4回 運動量と力積

第5回 質点の簡単な運動I

第6回 質点の簡単な運動II

第7回 仕事と運動エネルギー

第8回 力のポテンシャルとエネルギー保存則

第9回 中心力

第10回 角運動量

第11回 質点系の運動量と運動エネルギー

第12回 質点系の角運動量

第13回 剛体の運動方程式

第14回 剛体の簡単な運動

第15回 コマの歳差運動

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) シラバスに基づき予習してください. 可能ならMoodle上の演習問題を事前に解答しておいてください.

基礎物理学 I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 対象 分子素材工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 宮西 基明

授業の概要

速度と加速度など瞬間の変化の求め方と運動の法則を理解し、運動方程式の記述と解法より物体の

運動を求める方法を習得する。また、運動量やエネルギー保存則などの物理の基本法則を導く。

エネルギー、運動量など物理の基礎となる量について学んでいく。

学習の目的 力学を通して物理の基礎と科学的な考え方を学ぶ。

学習の到達目標

力を式で表し運動方程式を記述することができる。

基礎的な力について運動方程式の一般解と特別解を求めることができる。

求めた解を図示しすることができ、また描かれた図の意味を読み取ることができる。

運動方程式の解法より物体の運動や保存則を導くことができる。

ポテンシャル、保存力などの概念を理解す

る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

予め履修が望ましい科目 数学。特に三角関数、ベクトルの内積・外積、微分・積分、偏微分などの基礎的事項

発展科目 電磁気学

参考書

「物理学」小出照一郎著 裳華房。「物理学I」大槻義彦著 学術図書出版社。
随時プリント等を配布する。

成績評価方法と基準 欠席は5回以内であること。演習30%、期末試験70%。

授業改善への工夫

随時演習の時間を設け巡回するので、このときを質問の時間にあてる。

演習はその都度提出とし、合格点未満の場合は再提出とする。演習の成績は平常点に加えていく。

授業計画・学習の内容

キーワード 力学 力と運動 運動の法則 科学的な考え方

Key Word(s) mechanics, force and motion, laws of motion, scientific attitude of mind

学習内容

第1回 瞬間の変化の求め方

第2回 速度と加速度

第3回 運動の法則、運動方程式

第4回 簡単な運動の求め方

第5回 放物運動

第6回 単振動、減衰振動

第7回 仕事と運動エネルギー

第8回 保存力とポテンシャル

第9回 力学的エネルギー保存則

第10回 力積と運動量

第11回 衝突と運動量保存則

第12回 力のモーメントと角運動量

第13回 質点系の力学：重心運動と相対運動

第14回 固定軸の回りの剛体の運動

第15回 慣性モーメント

第16回 期末試験

学習課題（予習・復習）

極限と微分、積分、ベクトルの内積と外積、偏微分
微分方程式の解法

基礎物理学 I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 対象 工学部建築学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 小竹 茂夫 (工学部 機械工学科)

授業の概要

力学は広い意味での物理学の根幹であり、細分化された各分野にもその痕跡を見ることが出来る。高校までの式を憶える物理学から、森羅万象は法則に支配された調和のある世界であることを理解し、自然観が改められることを期待する。

高校までの学習を背景として古典力学を中心として講義するが、日常での現象との関わりや、現代物理との関連についても適宜述べる。

学習の目的

- ・運動方程式を微分方程式で書き下せる。
- ・運動方程式を微分・積分を使って解くことができる。
- ・剛体の運動が理解できる
- ・単振動が理解できる
- ・古典力学と量子力学、相対性理論との違いが理解できる

学習の到達目標

- ・高校までは公式の暗記に終わっていた力学だが、これを微分・積分を使った理解へと発展させる。
- ・剛体の運動方程式により、斜面を転がる剛体の運動を理解できる。
- ・単振動を運動方程式を解くことにより理解できる。
- ・量子力学、相対性理論がどういった考えかたであるかが理解できる。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 論理的思考力, 問題解決力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特にないが、高校までの力学を復習しておくこと

発履科目 科学史や力学史の統合教育科目を受講すると、別の視点から力学を見ることが出来る。

教科書

- ・原康夫著 「物理学基礎」 学術図書出版社 (ISBN 978-4-7806-0217-3)
- ・原康夫, 右近修治著 「物理学演習問題集 力学編」 学術図書出版社 (ISBN 978-4-7806-0170-1)

参考書 副島雄児 杉山忠男, 「力学」 講談社基礎物理学シリーズ, 講談社 (ISBN 9784061572010)

成績評価方法と基準

Moodleの小テスト (10点満点) をp点, 授業のレポート (10点満点) をq点, 期末試験 (80点満点) をr点とし、 $100 \cdot (p+q+r)/(p+q+80)$ 点を評価点とする。

ただし、出席等の状況も考慮し、総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週月曜日12:20~14:30、場所 工学部機械棟2F 2211号室

授業改善への工夫

Moodleの小テストをおこなう。
小テストで正誤問題を解くことにより、力学の知識を定着させる。
毎回、授業のレジュメを配る。
レジュメをMoodleにて配布する。
微分方程式による力学の理解が難しいため、ここを丁寧に教えることとする。
逆に剛体の力学は入門的な理解にとどめ、初歩的な問題を解くだけとする。
振動現象は理解しにくいいため省き、量子力学や相対性理論等、現代物理との関係について講義する。

その他 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 力学，ニュートンの3法則，並進運動，力，運動量，エネルギー，仕事，重心，回転運動，剛体，力のモーメント，回転運動量

Key Word(s) mechanics, Newton's laws of motion, translational motion, force, momentum, energy, work, center of gravity, rotational motion, rigid body, moment of force, rotational momentum

学習内容

- 第1回 「科学とは何か？技術とは何か？」，「力学はどう発展してきたのか」
- 第2回 「ポテンシャル下での運動（位置，速度，加速度）：決定論的世界の軌道」
- 第3回 「ニュートンの運動方程式と運動の法則」，「等速直線運動，等加速運動」
- 第4回 「放物運動」
- 第5回 「粘性抵抗下の運動」
- 第6回 「機械的エネルギーの保存則」

第7回 「様々なエネルギー」

第8回 「慣性系と加速度系(非慣性系)」と「等価原理」

第9回 「重心」，「質点系における並進運動」

第10回 「質点の回転」

第11回 「力のモーメントと角運動量」

第12回 「固定軸周りの剛体の回転運動」と「剛体の慣性モーメント」

第13回 「中心対称性の良い剛体の平面運動」

第14回 「回転運動下での慣性系と加速度系(非慣性系)」

第15回 「古典力学と相対性理論」と「古典力学と量子力学」

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習）

毎回配るレジュメ（講義録）に演習課題を示すので、これを数回に分けてレポートとして提出してもらう。

毎回、Moodleの小テストを復習として受講してもらう。

基礎物理学 I

Elementary Physics I

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工学部情報工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 川上 博士(工学部)

授業の概要 様々な場面において、直面した事象に対する考察力が必要とされる。本講義では、日常生活において体験する自然現象の一つである色々な運動に関して、運動の法則に代表される物理法則および関連する数学的事項を学習する。これにより、運動現象に対する物理的な視点と数学的处理能力を養う。

学習の目的 各種座標系、質点系の運動（直線運動、振動、回転運動など）および剛体の運動に関する概念とその数学的記述の理解を目的とする。

学習の到達目標 力学問題に対する基本的理解および数学知識の活用

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 座標系、質点、剛体、直線運動、振動、回転運動

Key Word(s) Coordinate systems, Particle, Mass point, Rigid body, Linear Motion, Vibration, Rotational motion

学習内容

- 第1回 運動を特徴づける量
- 第2回 運動の法則 I
- 第3回 運動の法則 II
- 第4回 仕事とエネルギー I
- 第5回 仕事とエネルギー II
- 第6回 いろいろな振動 I

教科書 教科書：河辺哲次 スタンダード力学 (裳華房)

成績評価方法と基準 定期試験・宿題・出席日数により総合的に評価する

オフィスアワー

質問等は随時受付

まずは、下記アドレスへ連絡して下さい。

kawakami@mach.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 宿題レポートにより理解度を適宜把握し、以降の講義内容に反映させる。

その他

各テーマ学習後に簡単な宿題を提示するので、次回講義開始時に提出すること。

宿題レポートは単なる数学的手法による回答だけでなく、運動を表す図を示し、その問題に対する考え方を必ず添えること。

第7回 いろいろな振動 II

第8回 中心力を受ける質点の運動 I

第9回 中心力を受ける質点の運動 II

第10回 質点系の運動 I

第11回 質点系の運動 II

第12回 剛体の運動 I

第13回 剛体の運動 II

第14回 相対運動 I

第15回 相対運動 II

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 各章終了後に課された宿題を、次回授業前に提出すること。図を用い、解き方を明示すること。

基礎物理学I

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 木 5,6 単位 2 対象 理工工学科のみ 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 阿部純義 (工学部理工工学科)

授業の概要 物理学の出発点である質点と剛体の力学の初歩を学ぶ。Newtonの力学の法則とそれに基づく自然界にみられる簡単な力学の現象を数学的に記述し、その物理的性質を理解をする。

学習の目的 力学現象を数理的に解析し、その物理的性質を把握理解出来るようになることを目的とする。

学習の到達目標 質量、運動量、速度、加速度、角運動量、仕事、力学的エネルギー、Galileiの相対性原理、多体系、剛体などの基本的な概念を理解する。簡単な系の運動を記述するNewton方程式を立てて、その解を求め、現象を物理的に解釈出来るようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 同時に、微分積分学と線形代数学を勉強していること。

予め履修が望ましい科目 同時に、微分積分学と線形代数学を勉強していること。

発展科目 解析力学、統計力学、量子力学

教科書 戸田盛和著「物理入門コース1 力学」(岩波書店) <初級レベル>

参考書

(1) 戸田盛和著「力学」(物理入門コース1、岩波書店)

<初級レベル>

(2) ゴールドスタイン著「古典力学上・下」(吉岡書店) <上級レベル>

(3) ランダウ=リフシッツ著「力学」(東京図書) <上級レベル、研究者を目指す人向け>

(2)と(3)は解析力学の参考書としても推奨します。

成績評価方法と基準 定期試験：80%、数回のレポート：20%

オフィスアワー 随時、メール (sabe@phen.mie-u.ac.jp) で問い合わせ下さい。

授業改善への工夫 内容と水準の高さを保つ。

その他 講義のみに頼るのではなく、各自で教科書や参考書で勉強すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 質量、Newtonの運動の法則、運動量、角運動量、仕事、エネルギー、保存則、質点の運動、Keplerの法則、Galileiの相対性原理、多体系、剛体

Key Word(s) mass, Newtonian laws of motion, momentum, angular momentum, work, energy, conservation laws, motion of a particle, Kepler's laws, Galileian principle of relativity, many-body systems, rigid bodies

学習内容

第1回 運動の記述 (質点、座標系、ベクトルの内積と外積)

第2回 運動の法則 (Newtonの三法則、慣性質

量と重力質量)

第3回 円運動、放物体の運動

第4回 単振動

第5回 減衰振動

第6回 強制振動、共鳴

第7回 保存力、ポテンシャルエネルギー、力学的エネルギー保存則

第8回 中心力、角運動量保存則、惑星の運動 (その1)

第9回 惑星の運動 (その2)

第10回 慣性系、Galileiの相対性原理、非慣性系と慣性力

第11回 質点系、重心運動と相対運動 (その1)

第12回 質点系、重心運動と相対運動 (その2)

第13回 質点系、重心運動と相対運動（その3）、剛体の慣性モーメント

第14回 剛体の運動方程式、固定軸のまわりの剛体の回転（その1）

第15回 固定軸のまわりの剛体の回転（その2）

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） シラバスに基づき、毎回予習を求める。また、数回のレポート課題を与える。

基礎物理学 II

Basic Physics II

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 対象 工学部機械工学科 年次 学部(学士課程): 2年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 松島 武男

授業の概要 クーロンの法則から始め、マクスウエルの方程式までを学ぶ。

学習の目的 電磁気学の基礎を理解することを目的とする。

学習の到達目標 機械科の学生が対象であるがエレクトロニクスの基礎知識は今日必須であるのでマクスウエルの方程式までは是非理解して欲しいものである

本学教育目標との関連 論理的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 力学を習得していることが望ましい

教科書 教科書 小出昭一郎著『電磁気学』(物理学分冊版)裳華房

成績評価方法及び基準 期末試験100%

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果を参考にして授業改善を行っている。

その他 論理的に「考える力」=70% 自然現象に対する「感じる力」=30%

授業計画・学習の内容

キーワード 電磁気学の基本法則

Key Word(s) Fundamental laws of electromagnetism

学習内容

下記の順序で講義を行う。

- 1 静電場におけるクーロンの法則
- 2 ガウスの法則と電場の導入
- 3 静電ポテンシャルと電位
- 4 静電容量とキャパシター
- 5 誘電分極

- 6 電束密度
- 7 オームの法則
- 8 磁石と磁場
- 9 静磁場におけるクローンの法則
- 10 ビオ・サバールの法則
- 11 アンペールの法則
- 12 電磁誘導
- 13 電気振動
- 14 拡張されたアンペールの法則
- 15 マクスウエルの基礎方程式

基礎物理学 II

Basic Physics II

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 対象 機械工学科 年次 学部(学士課程): 2年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 松島 武男

授業の概要 クーロンの法則から始め、マクスウエルの方程式までを学ぶ。

学習の目的 電磁気学の基礎を理解することを目的とする。

学習の到達目標 機械科の学生が対象であるがエレクトロニクスの基礎知識は今日必須であるのでマクスウエルの方程式までは是非理解して欲しいものである

本学教育目標との関連 論理的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 力学を習得していることが望ましい

教科書 教科書 小出昭一郎著『電磁気学』(物理学分冊版)裳華房

成績評価方法及び基準 期末試験100%

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果を参考にして授業改善を行っている。

その他 論理的に「考える力」=70% 自然現象に対する「感じる力」=30%

授業計画・学習の内容

キーワード 電磁気学の基本法則

Key Word(s) Fundamental laws of electromagnetism

学習内容

下記の順序で講義を行う。

- 1 静電場におけるクーロンの法則
- 2 ガウスの法則と電場の導入
- 3 静電ポテンシャルと電位
- 4 静電容量とキャパシター
- 5 誘電分極

- 6 電束密度
- 7 オームの法則
- 8 磁石と磁場
- 9 静磁場におけるクローンの法則
- 10 ビオ・サバールの法則
- 11 アンペールの法則
- 12 電磁誘導
- 13 電気振動
- 14 拡張されたアンペールの法則
- 15 マクスウエルの基礎方程式

基礎物理学 II

Basic Physics II

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 分子素材工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 飯田 和生 (工学部)

授業の概要 力学と並び物理学の重要な柱となっている電磁気学の基礎を学習する。

学習の目的 電磁気学の学習を通じて電気現象がいかに私たちの日常生活と密接に関係しているかを理解する。

学習の到達目標 電磁気学の基本的な概念を理解し、電磁気学的な現象が物理の基本法則によって理解できるということを実感できるようにする。

本学教育目標との関連 共感, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校での物理

授業計画・学習の内容

キーワード 電磁気学

学習内容

授業内容

第1回 SI単位系

第2回 電荷、クーロンの法則

第3回 電界

第4回 ガウスの定理

第5回 電位

第6回 コンデンサー

第7回 静電誘導

第8回 直流回路、オームの法則

発展科目 電気工学通論、他の物理関連専門科目

教科書 高橋正雄「基礎と演習 理工系の電磁気学」(共立出版)

成績評価方法及び基準 期末試験100%

オフィスアワー

月曜 16:00-18:00 工学部電気電子棟1階1110室
メールによる質問も可 iida@elec.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 高校での物理 II 未履修者にも電磁気学の基本的な考え方を理解できるように授業を進める。

その他 質問等は疑問に思ったすぐが一番いいので、授業が終わった直後にできるだけして下さい。

第9回 キリヒホッフの法則

第10回 電流計・電圧計

第11回 電流がつくる磁界

第12回 電流が磁界から受ける力

第13回 電磁誘導

第14回 自己誘導・相互誘導

第15回 交流

第16回 試験

学習課題(予習・復習) 授業で学習した部分に対応した章末の演習問題を復習として解いておく。

基礎物理学 II

Basic Physics II

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 対象 工学部情報工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 仲本 朝基(非常勤講師)

授業の概要 力学と並んで工学の基礎となる電磁気学に関する基本事項を中心に講義する。

学習の目的 力学と並んで工学の基礎となる電磁気学に関する基本的事項を習得する。

学習の到達目標 基本的な電磁気学に関する問題の解法ができる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 高校レベルの数学についてはマスターしていること。

教科書 科学者と技術者のための物理学III 電

磁気学 Raymond A.Serway著 松村博之訳 学術図書出版社

参考書

基礎物理学演習 後藤憲一、小早川恵三、國友正和共編 共立出版株式会社

基礎物理学演習 II 永田一清編 サイエンス社

成績評価方法と基準 中間試験50%, 定期試験50%

オフィスアワー 質問があれば、毎回の講義終了直後に受け付けます。

授業改善への工夫 中間試験実施後に実施する授業アンケートを参考に、必要に応じて適宜改善

授業計画・学習の内容

キーワード 電磁気学の基礎

Key Word(s) Fundamentals of Electromagnetics

学習内容

第1回 電荷、導体と絶縁体、クーロンの法則

第2回 電場、ガウスの法則

第3回 電位、等電位面、孤立した帯電導体

第4回 電気容量

第5回 誘電体

第6回 キルヒホッフの法則、RC回路

第7回 電流と抵抗

第8回 中間試験

第9回 磁場、磁気双極子モーメント

第10回 電流がつくる磁場

第11回 ファラデーの電磁誘導の法則

第12回 自己誘導と相互誘導、インダクタンス

第13回 電磁振動と交流

第14回 マクスウェル方程式、電磁波

第15回 まとめ

第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 毎回、その日の講義内容に関連した問題演習プリントを配布するので、次回までに考えておくこと。

基礎物理学IIIA

Basic PhysicsIIIA

学期 前期 **開講時間** 木3,4 **単位** 2 **対象** 本講義は、電気電子工学科2年生を対象とした講義である。他学科の学生の受講は、原則として認めない。 **年次** 学部(学士課程): 2年次 **選/必** 必修

授業の方法 講義

担当教員 平松 和政(工学部), ○元垣内 敦司(工学部)

授業の概要 熱力学(熱平衡、温度、エントロピーなど)、統計力学(平衡状態、状態数、エントロピー、自由エネルギーなど)の基礎について理解する。

学習の目的 熱力学、統計力学に関する知識を得る。

学習の到達目標

熱力学、統計力学の基礎について理解すると同時に、工学分野の専門教育科目を履修のための基礎とする。

★工学部電気電子工学科JABEE関連項目: 学習・教育目標: 基礎・専門知識(0.7)、多面的思考能力(0.3)に関する能力を向上させる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術

受講要件 1年次に受講する数学、物理学・化学の講義内容を十分に理解しておく。

予め履修が望ましい科目 基礎微分積分学Ⅰ・Ⅱ、確率・統計及び演習、基礎物理学Ⅰ、化学Ⅰ、化学Ⅱ

発展科目 電気電子工学応用実験、材料科学、固体電子工学、量子力学、半導体工学、電気電子材料、光エレクトロニクス、電子デバイス工学

教科書 和田純夫「グラフィック講義 熱・統計力学の基礎」(サイエンス社)

授業計画・学習の内容

キーワード 熱力学、統計力学、熱力学の第1法則、熱平衡、熱機関、熱力学の第2法則、確率分布、エントロピー、自由エネルギー、相転移、ボルツマン因子、正準分布

Key Word(s) thermodynamics, statistical physics, first law of thermodynamics, thermal equilibrium, heat engine, second law of thermodynamics, distribution of probability,

参考書

和田純夫「熱・統計力学のききどころ」(岩波書店、物理講義のききどころ4)

原康夫「物理学通論Ⅰ」(学術図書出版社)

戸田盛和「物理入門コース7 熱・統計力学」(岩波書店)

香取真理「統計力学」(昇華房)

沼居貴陽「固体物理学入門」(森北出版)

沼居貴陽「統計物理入門」(森北出版)

成績評価方法と基準 欠席4回以下を前提として定期試験の成績(100%)により評価する。

オフィスアワー

オフィスアワー: 木曜 9:00~10:00 平松教授室: 電気電子棟1階1120室

水曜 16:30~18:00 元垣内准教授室: 電気電子棟1階1118室

電子メールアドレス: hiramatu@elec.mie-u.ac.jp (平松), motogaito@elec.mie-u.ac.jp (元垣内) (訪問予定をE-mailによって尋ねてください)

授業改善への工夫 授業は、原則的にテキスト沿って行う。理解を助け、自然と実力が身に付くように、演習問題を適宜行う。演習はレポート以外に講義時間中に設け、学生自らが考えて問題を解くように工夫をしている。

その他 工学部電気電子工学科2年生向けに講義を行う。

entropy, free energy, phase transition, Boltzmann factor, canonical distribution

学習内容

<熱力学・統計力学>

第1回 第1章 内部エネルギー・熱・仕事

第2回 第1章 熱力学の第1法則

第3回 第2章 理想気体の状態方程式

第4回 第2章 熱機関・熱力学の第2法則

第5回 第3章 粒子の確率分布
第6回 第3章 エントロピー
第7回 第4章 自由エネルギー
第8回 第4章 系の平衡状態
第9回 演習 (第1章～4章の内容)
第10回 第5章 固相・液相・気相
第11回 第5章 相転移
第12回 第5章 溶液の性質
第13回 第7章 ボルツマン因子
第14回 第7章 正準分布
第15回 演習 (第5章と7章)

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習)

- ・熱力学・統計力学的な考え方の相違を理解する。
- ・エネルギー、熱、圧力、エントロピーなどの熱力学諸量を正確に理解する。
- ・演習を通して、仕事、熱、エントロピー、及び熱機関の計算に習熟する。
- ・平衡状態と状態数の関係を理解し、統計力学的な考え方を習得する。

基礎物理学III A

Basic Physics IIIA

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 対象 工学部物理工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 山下 護

授業の概要 熱力学は19C中葉にできあがった理論体系であって、原子の実体が明らかにされる前の現象論であるが、かえってそれゆえに理論的に見事な体系である。本講義では理学・工学に必須である熱力学を教授する。

学習の目的 熱力学は力学、電磁気学とともに物理学の体系の基礎をなしている。物理学や工学を志す学生にとって、これらを学び習得することは不可欠である。

学習の到達目標 熱現象についての基礎概念、2つの基本法則を理解すること。それを用いて熱的諸現象を実際に取り扱える力を身につけること、つまり初級、中級の演習問題を解けるようになること。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力、考え

る力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 工学部物理工学科

予め履修が望ましい科目 基礎物理学I(力学)

発展科目 統計力学、量子力学、固体物理学

教科書 熱・統計力学(物理学入門コース7、戸田盛和著、岩波書店)

成績評価方法と基準 定期試験80%、小テストなど20%

オフィスアワー 非常勤講師であるので、照会は学年担任、物理工学科量子工学の教員、あるいは事務室。

授業改善への工夫 開講時に講義方針、内容、講義の進め方など例年の経験に基づいて計画するが、学生の反応や要望に応じて適宜改善。

授業計画・学習の内容

キーワード 熱平衡、状態量、熱力学第1法則、熱力学第2法則、エントロピー

Key Word(s)

thermal equilibrium, state variable, first law of thermodynamics, second law of thermodynamics, entropy

学習内容

- 第1回 熱力学の歴史、温度概念、理想気体
- 第2回 実在の気体と相図
- 第3回 熱と仕事
- 第4回 熱力学第1法則
- 第5回 準静変化、完全微分

第6回 比熱と内部エネルギー

第7回 理想気体の断熱変化

第8回 熱機関と不可逆変化

第9回 熱力学第2法則

第10回 可逆機関の効率

第11回 エントロピー

第12回 エントロピー増大の法則

第13回 熱力学的関係式

第14回 安定性と変化の方向

第15回 演習

学習課題(予習・復習) 毎回次の学習範囲を示し、進捗に応じて演習問題を課す。

基礎物理学 III B

Basic Physics III B

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 対象 分子素材工学科 年次 学部(学士課程): 2年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 小海 文夫 (工学部分子素材工学)

授業の概要 化学反応の時間依存性に焦点をあて、速度式、速度定数などから反応速度論の基礎を学習する。原子・分子(ミクロ)と圧力や温度(マクロ)との関係を気体分子運動論で学習する。熱力学関数であるエンタルピー、エントロピー、自由エネルギー等が統計熱力学で如何に記述できるかを基礎から学習する。

学習の目的 反応速度式や定数、気体運動、統計熱力学を学習することから、化学反応の基本概念を理解できるようになる。

学習の到達目標 専門課程での講義を理解し、研究を進めていく上で必要な、化学反応論、統計熱力学、化学平衡論等に関する知識を習得する。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 反応速度、反応機構、気体分子運動論、熱力学関数、統計熱力学

学習内容

第1回熱力学の復習と反応速度論の序論

第2回速度式

第3回反応機構

第4回速度定数の解釈I

第5回速度定数の解釈II

第6回気体の状態方程式

第7回気体分子運動論

第8回中間試験

第9回統計熱力学とその組立

第10回分子エネルギー準位の分配の仕方

第11回Boltzmann分布

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 基礎物理学I-III、物理化学A等

発展科目 物理化学B、C等

教科書 教科書: 基礎物理化学II (山内淳著、サイエンス社)

成績評価方法と基準 中間試験30%、定期試験70%、計100%。

オフィスアワー 毎週月曜日9:00から10:00、場所総合研究棟2階小海教員室あるいは、講義終了後に予約して下さい。

授業改善への工夫 講義に対する学生の要望を随時受け付けるので、こうした事を参考にして授業の改善に対応したい。学生の授業評価アンケートの結果等は、次年度以降の参考になりたい。

第12回分子分配関数

第13回集合分布関数

第14回集合分布関数と熱力学関数との関係I

第15回集合分布関数と熱力学関数との関係II

第16回定期試験

学習課題(予習・復習)

物理化学Aで学習した熱力学の復習。

第1回から第8回までは物理化学Aで使用した教科書を使用するので、予習すること。

第9回以降は予めプリント等を配布するので予習すること。

適宜課題をあたえるので、課題を解いて復習すること。

物理学基礎 I

Basic Physics I

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義
担当教員 酒井 俊典 (生物資源学部)

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的 自然現象を数学のことで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現ができることが学習の目的です。

学習の到達目標 力学の基礎について、数学を用いて理解し、表現できることを学習の到達

目標とします。

本学教育目標との関連 感性、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 基礎数学など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 演習で理解する基礎物理学-力学-, 御法川幸雄・新居毅人, 共立出版

成績評価方法と基準 小テスト+レポート20%, 期末試験80%

オフィスアワー 木曜日14:40-16:10, 生物資源学部317室

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位, 位置, 速度, 加速度, 運動の法則, 摩擦, 仕事, エネルギー

Key Word(s) mechanics, unit, position, velocity, acceleration, laws of motion, friction, work, energy

学習内容

- 第1回 はじめに
- 第2回 単位系
- 第3回 1次元の運動
- 第4回 2次元の運動
- 第5回 2次元の運動
- 第6回 力のはたらき

- 第7回 力のつりあい
- 第8回 運動の法則
- 第9回 落下の運動
- 第10回 抵抗を受ける運動
- 第11回 等速円運動と単振動
- 第12回 仕事
- 第13回 運動とエネルギー
- 第14回 ポテンシャルエネルギー
- 第15回 力学的エネルギー
- 第16回 定期試験(期末試験)

学習課題 (予習・復習) 各回の予習と復習を行うこと

物理学基礎 I

Basic Physics 1

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 対象 生物資源学部 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 王 秀崙(生物資源学部)

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的

質点の運動やその表し方について説明することを目的とする。

自然現象の数式表現方法を理解し、これらの知識を用いて自然現象を説明したり解析したりすることができることを目的とする

学習の到達目標 自然現象を数学のことで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位系, 座標系, 質点の運動, 位置・速度・加速度, 運動の法則, 円運動, 摩擦力, 振動, 仕事とエネルギー

Key Word(s) Mechanics, units, vector, force, motion, law of gravitation, Newton's laws, energy

学習内容

- 第1回 運動の表し方, 物理量
- 第2回 位置, 速度, 加速度の関係
- 第3回 力と運動, ベクトル
- 第4回 最大静止摩擦力, 動摩擦力
- 第5回 運動の法則

本学教育目標との関連 感性, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 共生環境学科1年生

予め履修が望ましい科目 数学基礎など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 教科書 演習で理解する基礎物理学一力学一, 御法川幸雄, 新居毅人[著], 共立出版

成績評価方法と基準

3分の2以上出席した者を評価の対象とする。

評価点=レポート(20%)+期末試験(80%)

オフィスアワー 火曜日16:20~17:50

授業改善への工夫 レポートを用いて学生の理解度を分析し、次回の授業でその問題点を説明すると同時に授業の改善に努める。

- 第6回 落体の運動, 重力と万有引力, 放物運動
- 第7回 抵抗を受ける運動
- 第8回 等速円運動
- 第9回 単振動
- 第10回 仕事とエネルギー
- 第11回 力学的エネルギー保存則
- 第12回 運動量と運動量保存の法則
- 第13回 角運動量と回転運動の方程式
- 第14回 見かけの力, 慣性力
- 第15回 コリオリの力
- 第16回 定期試験(期末試験)

学習課題(予習・復習) 各回の予習と復習を行うこと

物理学基礎 I

Basic Physics I

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必修 授業の方法 講義
担当教員 大野 研 (教養教育機構)

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的 自然現象を数学のことで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現ができることが学習の目的です。

学習の到達目標 力学の基礎について、数学を用いて理解し、表現できることを学習の到達

目標とします。

本学教育目標との関連 感性、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 基礎数学など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 演習で理解する基礎物理学-力学-, 御法川幸雄・新居毅人, 共立出版

成績評価方法と基準 小テスト+レポート20%, 期末試験80%

オフィスアワー 木曜日14:40-16:10, 生物資源学部374室

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位, 位置, 速度, 加速度, 運動の法則, 摩擦, 仕事, エネルギー

Key Word(s) mechanics, unit, position, velocity, acceleration, laws of motion, friction, work, energy

学習内容

第1回 はじめに

第2回 単位系

第3回 1次元の運動

第4回 2次元の運動

第5回 2次元の運動

第6回 力のはたらき

第7回 力のつりあい

第8回 運動の法則

第9回 落下の運動

第10回 抵抗を受ける運動

第11回 等速円運動と単振動

第12回 仕事

第13回 運動とエネルギー

第14回 ポテンシャルエネルギー

第15回 力学的エネルギー

第16回 定期試験(期末試験)

学習課題 (予習・復習) 各回の予習と復習を行うこと

物理学基礎 I

Basic Physics I

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 松島 武男

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことばで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことばで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的 自然現象を数学のことばで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現ができることが学習の目的です。

学習の到達目標 力学の基礎について、数学を

用いて理解し、表現できることを学習の到達目標とします。

本学教育目標との関連 感性、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 基礎数学など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 演習で理解する基礎物理学-力学-, 御法川幸雄・新居殺人, 共立出版

成績評価方法と基準 小テスト+レポート 20%, 期末試験80%

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位, 位置, 速度, 加速度, 運動の法則, 摩擦, 仕事, エネルギー

Key Word(s) mechanics, unit, position, velocity, acceleration, laws of motion, friction, work, energy

学習内容

第1回 はじめに

第2回 単位系

第3回 1次元の運動

第4回 2次元の運動

第5回 2次元の運動

第6回 力のはたらき

第7回 力のつりあい

第8回 運動の法則

第9回 落下の運動

第10回 抵抗を受ける運動

第11回 等速円運動と単振動

第12回 仕事

第13回 運動とエネルギー

第14回 ポテンシャルエネルギー

第15回 力学的エネルギー

第16回 定期試験(期末試験)

学習課題(予習・復習) 各回の予習と復習を行うこと

物理学基礎Ⅰ（再履修）

Basic Physics I

学期 前期 開講時間 木1,2 単位 2 対象 再履修 年次 学部(学士課程): 2年次 選択 必修

授業の方法 講義

担当教員 大野 研（教養教育機構）

授業の概要 物理学は、実験や観測によって得られたデータを数学のことで表すことによって、自然現象の本質的な部分をできるだけ簡潔に表現しようとする学問です。講義では、自然現象を数学のことで表すための基本的な方法を学び、主に力学的な現象を例にとって、紙の上にかかれた数式がどのようにして多彩な自然現象を表現できるようになるかを学びます。

学習の目的 自然現象を数学のことで表すための基本的な方法の修得、力学的な現象の理解と数式による自然現象の表現ができることが学習の目的です。

学習の到達目標 力学の基礎について、数学を用いて理解し、表現できることを学習の到達

目標とします。

本学教育目標との関連 感性、問題解決力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません

予め履修が望ましい科目 基礎数学など

発展科目 専門学部における数物系の各科目

教科書 演習で理解する基礎物理学-力学-, 御法川幸雄・新居毅人, 共立出版

成績評価方法と基準 小テスト+レポート20%, 期末試験80%

オフィスアワー 木曜日14:40-16:10, 生物資源学部374室

授業計画・学習の内容

キーワード 力学, 単位, 位置, 速度, 加速度, 運動の法則, 摩擦, 仕事, エネルギー

Key Word(s) mechanics, unit, position, velocity, acceleration, laws of motion, friction, work, energy

学習内容

- 第1回 はじめに
- 第2回 単位系
- 第3回 1次元の運動
- 第4回 2次元の運動
- 第5回 2次元の運動
- 第6回 力のはたらき

- 第7回 力のつりあい
- 第8回 運動の法則
- 第9回 落下の運動
- 第10回 抵抗を受ける運動
- 第11回 等速円運動と単振動
- 第12回 仕事
- 第13回 運動とエネルギー
- 第14回 ポテンシャルエネルギー
- 第15回 力学的エネルギー
- 第16回 定期試験(期末試験)

学習課題（予習・復習） 各回の予習と復習を行うこと

物理学実験

Basic Physics Laboratory

学期 前期 開講時間 月 5, 6, 7 単位 1 対象 工・情報2年（再履修の学生は、学部・学科・学年に制限なく受講できる） 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 実験 授業の特徴 PBL

担当教員 ○鳥飼正志(工学部), 佐野和博(工学部), 秋山亨(工学部), 中村浩次(工学部), 内海裕洋(工学部), T.ニワット(工学部), 宮西基明(非常勤講師)

授業の概要 物理学の基礎的な実験をおこなう。

学習の目的 基礎的な実験を通して物理学の理解を深め、各種の実験機器の操作法やデータ処理法を学ぶことによって、多くの自然科学の分野に共通して必要となる知識を身につける。

学習の到達目標 基礎的な実験機器の操作手法とデータ処理法を習得する。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

受講要件

情報工学科:

原則として「基礎物理学I」または「基礎物理学II」のいずれか2単位を取得していること。他学科の学生の受講要件は、共通教育履修案内を参照。

予め履修が望ましい科目 特に指定しない。

発展科目 各学科での実験科目。

教科書

「物理学実験」(三重大学出版会)および「物理学実験レポート用紙」(三重大学共通教育物理学編)。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎的な物理学実験

Key Word(s) mechanics, thermodynamics, acoustics, optics, electronics

学習内容

第一回:(共通教育校舎4号館一階の物理学第3実験室に集合すること)

ともに最初の授業の数十分まえから実験室前で販売するので、早めに来て購入すること(合計2100円であるが、年度によって変更の可能性もあるので多めに準備する)。毎回、これら2つに加えて関数電卓と実験データ記録用紙5, 6枚を持参すること。実験データ記録用紙は市販の罫線入りレポート用紙、白紙、ルーズリーフなど(各実験ごとに提出するので、1枚ずつ切り離せる物)。

成績評価方法と基準

予習・レポート・実験ノートを80%、実験に取り組む姿勢を20%として評価する。原則として(体調不良などのやむを得ない場合を除いて)、欠席・遅刻・早退を一度もしないことが成績評価の最低基準である。

オフィスアワー 質問などは授業時間中に実験室にて随時受け付ける。

授業改善への工夫 学生からの要望や実験への取り組み方などを参考にし、改善をはかっていきたい。

その他

無断欠席・遅刻は厳禁。遅刻した場合は受講させない。無断欠席の場合は単位を与えないことがある。病気などの正当な理由による欠席でも事前に連絡して許可を得ること。特に初回に遅刻すると、開始前に実験室前で販売する教科書およびレポート用紙を購入できないので、絶対に遅刻しないこと。

1. 受講者の確定および共同実験者と実験計画の決定。
2. 実験の一般的説明および円柱の体積の測定実験。
第二回以降:(実験テーマによって実験室が異なる)
受講者は各週にひとつ、毎週ことなる実験を

する。実験中に各受講者の次週の実験のテーマを掲示するので、実験が終了して帰る前に確認すること。

テーマは以下のものからこちらが選び与える:

(a)重力加速度の測定、(b)Ewingの装置によるYoung率の測定、(c)ねじれ振子による慣性モーメント比の測定、(d)固体の比熱の測定、(e)気柱の共鳴による音速の測定、(f)Kundtの実験、(g)プリズムの屈折率の測定、(h)電流による熱の仕事当量の測定、(i)トランジスタの実験、(j)電気回路の基礎実験。

最終回:(共通教育校舎4号館一階の物理学第3実験室)

各自の実験の誤差処理。

補講:

許可を得て通常の授業を欠席した者は、未学習の実験について補講を受けることができる。

学習課題（予習・復習） どの実験も必ず予習をして実験に臨むこと。実験テーマによっては予習問題が与えられている。予習問題は必ず前もって解いてくること。

物理学実験

Basic Physics Laboratory

学期 前期 開講時間 木5,6,7 単位 1 対象 工・機械工学科2年(再履修の学生は、学部・学科・学年に制限なく受講できる) 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修 授業の方法 実験

授業の特徴 PBL

担当教員 〇松永 守(教養教育機構), 秋山亨(工学部), 内海裕洋(工学部), 松井博和(工学部), 河村 貴宏(工学部), 宮西基明(非常勤講師), 岩田達夫(非常勤講師)

授業の概要 物理学の基礎的な実験をおこなう。

学習の目的 基礎的な実験を通して物理学の理解を深め、各種の実験機器の操作法やデータ処理法を学ぶことによって、多くの自然科学の分野に共通して必要となる知識を身につける。

学習の到達目標 基礎的な実験機器の操作方法とデータ処理法を習得する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

受講要件

工・機械工学科: 「力学I」の2単位を取得していることあるいは「力学I」の担当教員から許可を得ていること。

他学科の学生の受講要件は、共通教育履修案内を参照。

予め履修が望ましい科目 特に指定しない。

発展科目 各学科での実験科目。

教科書

物理学実験(三重大学出版会)および「物理学実験レポート用紙」(三重大学共通教育物理編)。

ともに最初の授業の数十分まえから実験室

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎的な物理学実験

Key Word(s)

mechanics, thermodynamics, acoustics, optics, electronics

学習内容

第一回:(共通教育校舎4号館一階の物理学第3実

験室に集合するので、早めに来て購入すること(合計2100円であるが、年度によって変更の可能性もあるので多めに準備する)。

毎回、これら2つに加えて関数電卓と実験データ記録用紙5, 6枚を持参すること。

実験データ記録用紙は市販の罫線入りレポート用紙、白紙、ルーズリーフなど(各実験ごとに提出するので、1枚ずつ切り離せる物)。参考書

成績評価方法と基準

予習・レポート・実験ノートを80%、実験に取り組む姿勢を20%として評価する。

原則として(体調不良などのやむを得ない場合を除いて)、欠席・遅刻・早退を一度もしないことが成績評価の最低基準である。

オフィスアワー 質問などは授業時間中に実験室にて随時受け付ける。

授業改善への工夫 学生からの要望や実験への取り組み方などを参考にして、改善をはかっていきたい。

その他

無断欠席・遅刻は厳禁。遅刻した場合は受講させない。無断欠席の場合は単位を与えないことがある。病気などの正当な理由による欠席でも事前に連絡して許可を得ること。

特に初回に遅刻すると、開始前に実験室前で販売する教科書およびレポート用紙を購入できないので、絶対に遅刻しないこと。

験室に集合すること)

1.受講者の確定および共同実験者と実験計画の決定。

2.実験の一般的説明および円柱の体積の測定実験。

第二回以降:

受講者は各週にひとつ、毎週ことなる実験を

する。実験中に各受講者の次週の実験のテーマを掲示するので、実験が終了して帰る前に確認すること。

テーマは以下のものからこちらが選び与える:

(a)重力加速度の測定、(b)Ewingの装置によるYoung率の測定、(c)ねじれ振子による慣性モーメント比の測定、(d)固体の比熱の測定、(e)気柱の共鳴による音速の測定、(f)Kundtの実験、(g)プリズムの屈折率の測定、(h)電流による熱の仕事当量の測定、(i)トランジスタの実験、(j)電気回路の基礎実験。

最終回:

- 1.各自の実験の誤差処理。
- 2.半年のあいだ使用した実験ノートを提出して評価を受ける。

補講:

許可を得て通常の授業を欠席した者は、未学習の実験について補講を受けることができる。

学習課題（予習・復習） どの実験も必ず予習をして実験に臨むこと。実験テーマによっては予習問題が与えられている。予習問題は必ず前もって解いてくること。

物理学実験

Basic Physics Laboratory

学期 後期 開講時間 金 5, 6, 7 単位 1 対象 工・物理工学科2年/生物資源・環境情報システム2年 (再履修の学生は、学部・学科・学年に制限なく受講できる) 年次 学部(学士課程): 2年次

選択/必修 必修 授業の方法 実験 授業の特徴 PBL

担当教員 ○松永 守 (教養教育機構), 佐野和博 (工学部), 鬼頭孝治(生物資源学部), 山下光司(生物資源学部), 宮西基明(非常勤講師), 岩田達夫(非常勤講師)

授業の概要 物理学の基礎的な実験をおこなう。

学習の目的 基礎的な実験を通して物理学の理解を深め、各種の実験機器の操作法やデータ処理法を学ぶことによって、多くの自然科学の分野に共通して必要となる知識を身につける。

学習の到達目標 基礎的な実験機器の操作方法とデータ処理法を習得する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度

受講要件

工・物理工学科: 原則として「基礎物理学 I」または「基礎物理学 III」のいずれか2単位を取得していること。

生物資源学部: 原則として「基礎物理学 I」または「基礎物理学 II」のいずれか2単位を取得していること。

予め履修が望ましい科目 特に指定しない。

発展科目 各学科での実験科目。

教科書

物理学実験 (三重大学出版会) および「物理学実験レポート用紙」(三重大学共通教育物理編)。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎的な物理学実験

Key Word(s)

mechanics, thermodynamics, acoustics, optics, electronics

学習内容

ともに最初の授業の数十分まえから実験室前で販売するので、早めに来て購入すること (合計2100円であるが、年度によって変更の可能性もあるので多めに準備する)。毎回、これら2つに加えて関数電卓と実験データ記録用紙5, 6枚を持参すること。実験データ記録用紙は市販の罫線入りレポート用紙、白紙、ルーズリーフなど (各実験ごとに提出するので、1枚ずつ切り離せる物)。参考書

成績評価方法と基準

予習・レポート・実験ノートを80%、実験に取り組む姿勢を20%として評価する。原則として(体調不良などのやむを得ない場合を除いて)、欠席・遅刻・早退を一度もしないことが成績評価の最低基準である。

オフィスアワー 質問などは授業時間中に実験室にて随時受け付ける。

授業改善への工夫 学生からの要望や実験への取り組み方などを参考にして、改善をはかっていきたい。

その他

無断欠席・遅刻は厳禁。遅刻した場合は受講させない。無断欠席の場合は単位を与えないことがある。病気などの正当な理由による欠席でも事前に連絡して許可を得ること。特に初回に遅刻すると、開始前に実験室前で販売する教科書およびレポート用紙を購入できないので、絶対に遅刻しないこと。

第一回:(共通教育校舎4号館一階の物理学第3実験室に集合すること)

1. 受講者の確定および共同実験者と実験計画の決定。
2. 実験の一般的説明および円柱の体積の測定実験。

第二回以降:

受講者は各週にひとつ、毎週ことなる実験をする。実験中に各受講者の次週の実験のテーマを掲示するので、実験が終了して帰る前に確認すること。

テーマは以下のものからこちらが選び与える:

(a)重力加速度の測定、(b)Ewingの装置によるYoung率の測定、(c)ねじれ振子による慣性モーメント比の測定、(d)固体の比熱の測定、(e)気柱の共鳴による音速の測定、(f)Kundtの実験、(g)プリズムの屈折率の測定、(h)電流による熱の仕事当量の測定、(i)トランジスタの実験、(j)電気回路の基礎実験。

最終回:

- 1.各自の実験の誤差処理。
- 2.半年のあいだ使用した実験ノートを提出して評価を受ける。

補講:

許可を得て通常の授業を欠席した者は、未学習の実験について補講を受けることができる。

学習課題（予習・復習） どの実験も必ず予習をして実験に臨むこと。実験テーマによっては予習問題が与えられている。予習問題は必ず前もって解いてくること。

基礎化学A

Basic Chemistry A

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 新居淳二(教育学部)

授業の概要 物質の性質を化学的に理解するためのアプローチの一つである原子や分子などの性質を学び、続いてそれらの集合体としての物質の性質を学ぶ。

学習の目的 原子や分子などのミクロの世界を通して物質の性質を理解する。

学習の到達目標 原子や分子などのミクロの世界を通して物質の性質を理解できるようになる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 論理

的思考力

受講要件 教員免許の取得を目指す人

発展科目 化学講義Ⅱ (教育学部専門科目)

教科書 プリントを使用。参考書は随時紹介する。

成績評価方法と基準 中間テスト及び期末テストの成績を平均して評価する。

オフィスアワー 月曜日13時-17時、場所：研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 教職を目指す人のための基礎化学

学習内容

第1回 原子論・分子論の歴史

第2~3回 原子の構造

第4~5回 原子の性質

第6回 問題演習

第7回 中間テスト

第8回 イオン結合

第9~10回 共有結合

第11回 分子間に働く力

第12~13回 気体の性質

第14回 固体の性質

第15回 問題演習

第16回 期末テスト

学習課題 (予習・復習)

【予習】 プリントの次週の講義内容の部分を通読しておくこと。

【復習】 その週に学習した内容に対応した章末の練習問題を解いてみること。

基礎化学B

Basic Chemistry B

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 岡垣 壮(生物資源学部)

授業の概要 生物体を構成し、生命活動を担う基本分子である糖質、脂質、タンパク質、核酸、無機塩類等の構造と機能について解説する。専門基礎として必要な生物化学の全体像を広範に取り扱う。

学習の目的 専門科目の生化学を理解するための基礎知識を身につける。高等学校では「生物」と「化学」は別々の科目として教えているが、現在の細胞生物学の現場では、遺伝子やタンパク質等の成分の化学的な性質を理解しておくことが、必要不可欠になっている。そこで本科目は、高校と大学の専門教育の橋渡しをする科目として位置づける。

学習の到達目標 生体構成成分の構造と機能、エネルギーや遺伝情報の流れについて、細胞、生体と関連づけて考えることによって、分子レベルからみた生命活動について理解と関心を深める。受講生は、高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活、天然高分子化合物の構造と機能について、基本的事項を指導できる能力を修得することを目標とする。

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 生体構成成分、遺伝情報、細胞、脂質、糖質、タンパク質、核酸、天然高分子化合物

Key Word(s) biomolecule, gene, cell, lipid, saccharide, protein, nucleotide

学習内容

- 第1回：細胞の基本構造
- 第2回：生体成分と化学結合
- 第3回：アミノ酸
- 第4回：タンパク質
- 第5回：核酸
- 第6回：糖質
- 第7回：脂質
- 第8回：糖質代謝とエネルギー生産
- 第9回：細胞が食物からエネルギーを得る仕組み

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 Essential細胞生物学 第3版(B.Albertsら著, 南江堂)

参考書 基礎から学びたい人: ZEROからの生命科学改訂3版(木下勉, 小林秀明, 浅賀宏昭著), 南山堂。わかる! 身につく! 生物・生化学・分子生物学(田村隆明著)南山堂。さらに勉強したい人: ベーシックマスター生化学(大山隆監修, 西川一八, 清水光弘共編)オーム社。ヴォート基礎生化学第4版(田宮信雄, 村松正實, 八木達彦, 遠藤斗志也記)東京化学同人。

成績評価方法と基準 中間テスト50%, 期末テスト50%で評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日13:00~18:00、生物資源学部 722室

授業改善への工夫 学生からの質問や意見、授業評価アンケートの結果などを参考にして改善する

- み
- 第10回：タンパク質の構造と機能1:立体構造と性質
- 第11回：タンパク質の構造と機能2:タンパク質の働くしくみ
- 第12回：タンパク質の構造と機能3:酵素
- 第13回：DNA:核酸の構造, DNA複製・修復
- 第14回：DNAからタンパク質へ:遺伝情報の流れ
- 第15回：タンパク質、遺伝子等解析技術
定期試験

学習課題(予習・復習) 講義プリント資料を配付する。なお、教科書としての指定はないが、Essential細胞生物学 第3版(B.Albertsら著, 南江堂)に沿って講義するので、購入することを強く推奨する。

基礎化学C

Basic Chemistry C

学期 後期 開講時間 金 1, 2, 3, 4 単位 2 対象 医学科1年生 選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 樋廻博重

授業の概要 有機化合物の構造を立体的に捉え、その化合物の反応性を理解できるようになることを到達目標としている。

学習の目的 人体内でおこっている様々な化学反応を理解するための知識を得ることを目的としている。

学習の到達目標 医学部における専門教育科目である生化学、生理学および薬理学を理解

するのに必要な有機化学を修得させる。

教科書 「有機化合物の基礎」(東京化学同人)、「ガンにならない緑茶カテキンの驚異」(青春出版社)

成績評価方法と基準 小テストおよび期末テストの合計で評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12:00~13:00
樋廻教官室(4F)

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞生物学領域における有機化学の基礎

Key Word(s) Hydrogenation Iodine number phospholipid Glycolipid Sphingolipid Cholesterol Lecithin Cephalin Sphingomyelin Cerebroside Glycolipid Amine Pyrimidine Purine base Amino acid Peptide Protein

学習内容

第1回有機化合物の分類

第2回アルカン、アルケンの構造、命名法と性質

第3回ジエン、ポリエンの構造、命名法と性質

第4回アルコール、フェノールの構造、命名法と性質

第5回光学異性体の生物学的意義、不斉合成(ノーベル化学賞野依氏の業績)

第6回アルデヒド、ケトンの構造、命名法と性質

第7回エーテル、エポキシドの構造、命名法と性質

第8回カルボン酸の構造、命名法と性質

第9回炭水化物(糖質)の構造、命名法と性質

第10回油脂(脂質)の構造、命名法と性質

第11回アミノ酸の構造、命名法と性質

第12回タンパク質の構造と性質

第13回ポリフェノールの分類と性質

第14回有機化合物の構造決定(赤外線スペクトル、核磁気共鳴スペクトル、質量スペクトル)及びノーベル化学賞田中氏の業績

第15回クロスカップリング(ノーベル化学賞鈴木らの業績)

第16回定期試験

化学基礎I

Baisc Chemistry I

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 対象 資源循環学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 木村 哲哉 (生物資源学研究科)

授業の概要 資源循環に関わる現象やそれに関わる生物体やバイオマスなどを物質レベル・分子レベルで理解するのに必要な無機化学及び有機化学の基礎知識を身につけさせる。

学習の目的 生物資源学部では、タンパク質やDNAなどの分子レベル、微生物や動植物の細胞レベルや個体レベル、生物の集団レベルまで幅広い材料を扱って研究を行っている。それらを理解するための化学的基礎知識を身につけることが、学習の目的である。

学習の到達目標 生物資源に関わる現象やそれに関わる生物体や細胞などを物質レベル・分子レベルで理解するのに必要な学力を身につける。

授業計画・学習の内容

キーワード 分子軌道 化学結合 有機化学 生化学 pH

Key Word(s) organic chemistry, orbital, chemical bond, biochemistry, pH

学習内容

- 第1回 元素、原子、電子 (1)
- 第2回 元素、原子、電子 (2)
- 第3回 結合、電子、分子 (1)
- 第4回 結合、電子、分子 (2)
- 第5回 分子間相互作用
- 第6回 分子の数の表し方
- 第7回 炭素—生命体のもと

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

発展科目 共通教育、学部での化学関連科目

教科書 生命科学系のための基礎化学 東京化学同人 (Mitch Fry, Elizapeth Page著、林 利彦訳) ISBN978-4-8079-0703-8

参考書 大学への橋渡し 一般化学 (芝原寛泰・斉藤正治; 化学同人)

成績評価方法と基準 授業への取り組みと期末試験の結果を総合的に評価する。

オフィスアワー 月曜日 12:00~13:00、生物資源学研究科 761室

- 第8回 形だけが異なる同じ分子
- 第9回 水—生命の溶媒 その1
- 第10回 水—生命の溶媒 その2
- 第11回 反応する分子とエネルギー
- 第12回 反応中の分子と反応速度論
- 第13回 エネルギーと生命
- 第14回 生体反応の反応性
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 授業中にプリント等を配布するので、予習、復習に利用すること。

化学基礎 I

Basic Chemistry I

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 対象 生物資源学部 共生環境学科1年対象 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修 授業の方法 講義
担当教員 寺西 克倫(生物資源学部)

授業の概要 本講義は、化学に関して知っておくべき基礎知識を教授するとともに、理解に必要な基本的原理を専門的にならない範囲で解説し、化学専攻以外の学生が理解できるように解説する。

学習の目的 理系大学1年生が修得すべき化学の基礎の内容を理解する。知識の暗記ではなく、化学現象を論理的に思考し、理解することを目指す。

学習の到達目標 高等学校化学レベル、およびその延長にある理系大学の化学の基礎を理解、習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求

力, 問題解決力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 「理系のための基礎化学」増田芳男・澤田清 編著、化学同人

成績評価方法と基準 期末試験 100%

オフィスアワー 毎週月曜日12:00~13:00、生物資源学部校舎740

授業改善への工夫 FD、JABEE、学生の授業評価アンケートの結果などを参考にして、随時改善する。

その他 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 物質、化合物、分子、原子

Key Word(s) Material, Compound, Molecule, Atom

学習内容

第1回:講義の概要説明および化学の理解度チェック

第2回:物質・元素・原子の構成に関して

第3回:電子、原子核に関して

第4回:原子の電子配置に関して

第5回:原子のイオン化について

第6回:化学結合（イオン結合・共有結合）について

第7回:化学結合（イオン結合・共有結合）について

第8回:分子構造と電子軌道について

第9回:分子構造と電子軌道について

第10回:分子構造と電子軌道について

第11回:分子構造と電子軌道について

第12回:共有結合の極性について

第13回:物質の三態（固体・液体・気体）について

第14回:気体の熱力学的性質について

第15回:試験

第16回:総合的解説

学習課題（予習・復習） 毎回の講義の終わりに、次回の講義内容に対応する教科書のページを示すので、予習を行う。また、毎回の講義の終わりにまとめとしての課題を提示する。

化学基礎I

Basic chemistry I

学期 前期 開講時間 月1,2 単位 2 対象 生物資源学部 生物圏生命学科 年次 学部(学士課程): 1
年次 選/必 必修 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 岡垣 壮

授業の概要 専門教育に必要な生化学や細胞生物学の基礎知識を化学の観点から学習する。実際に多くの計算問題を通して、生体分子の濃度、化学平衡、自由エネルギー、反応性などについて定量的に理解する。

学習の目的 高等学校で教育する生物学は知識の羅列ですし、化学的なバックグラウンドがほとんど示されていません。実際の専門教育の生化学や細胞生物学では、化学の知識をもとに細胞内での反応性を考察する必要があります。従って種々の生命現象がどのような化学的な反応から成り立っているかを、理解する能力を身につけます。

学習の到達目標 自由エネルギー、生体分子の反応性、化学平衡に対する定量的な理解をする能力を得る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 心身の

授業計画・学習の内容

キーワード 化学結合、分子の相互作用、分子の濃度、化学平衡、自由エネルギー、酸化還元反応、反応速度論

Key Word(s) chemical bond, molecular interaction, molar concentration, equilibrium, free energy, oxidization, reduction, kinetics of chemical reaction

学習内容

1回目、元素、原子、電子（電子のエネルギー準位、炭素、窒素、酸素の電子配置）。発展：放射性同位元素と生物学（ ^{14}C による年代測定、ガンの放射線治療、 ^{13}C によるピロリ菌の検出、トレーサー実験）。

2回目、結合、電子、分子（共有結合、配位結合、電気陰性度、イオン結合）。発展：ペプチド結合の空間配置。

3回目、分子間相互作用（水素結合、静電相互作用、疎水性相互作用）。発展：生体分子の水への溶解度、極性。

4,5回目、分子数の表し方（モル、モル濃度、

健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 化学基礎II

教科書 Fry, Page著「生命科学系のための基礎化学」（東京化学同人）

成績評価方法と基準 中間テスト2回（40%）、期末テスト（60%）。両方を合計した総合点で評価する。

オフィスアワー 毎週月曜日13:00~18:00、生物資源学部722室

授業改善への工夫 学生からの質問や意見、授業評価アンケートの結果などを参考にして改善する。

パーセント濃度、希釈）。発展：生体分子のモル濃度、細胞内は生体分子の希薄溶液。6回目、炭素-生命体の素-（炭素の電子配置、 π 結合と電子の非局在化、芳香族性）。7回目、形だけが異なる同じ分子（光学異性体、立体異性体）。発展：生理作用の異なる立体異性体（サリドマイド、不斉合成）。8,9回目、水-生命の溶媒（水分子の結合、酸と塩基、酸性度とpH、水中での弱酸と弱塩基の解離、緩衝液、ヘンダーソン-ハッセルバルクの式。発展：生体の緩衝液（リン酸緩衝液、炭酸緩衝液）。10,11回目、反応する分子とエネルギー（熱力学の基礎用語、エントロピー、エンタルピー、ギブス自由エネルギー）。発展：自由エネルギーと代謝経路（ATPの加水分解、解糖系と糖新生）。12回目、反応中の分子と反応速度論（速度式、反応経路と反応機構、活性化エネルギー、平衡状態、自由エネルギーと平衡。発展：生体内は平衡状態とはかけ離れている。

13回目、エネルギーと生命（酸化と還元、自由エネルギーと酸化還元電位。発展：生体反応系における酸化還元電位、電子伝達系。

14回目、生体分子の反応性（付加反応、置換反応、脱離反応、官能基の連結（炭水化物、タンパク質、核酸を例として））。発展：酵素触媒における特異性は活性部位と基質の立体構造でできる。

15回目、演習（あるいは授業のまとめ）。

16回目、期末テスト。

学習課題（予習・復習） 授業期間中に教科書の演習問題（自己診断テスト）をもとに中間テストを2回おこないます。期末テストに備えて知識を整理して下さい。中間テストおよび期末テストは関数電卓持ち込み可能とします。

化学基礎I (再履修)

Baisc Chemistry I

学期 後期集中 単位 2 対象 生物圏生命科学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 粟冠 和郎 (生物圏生命科学専攻)

授業の概要 資源循環に関わる現象やそれに関わる生物体やバイオマスなどを物質レベル・分子レベルで理解するのに必要な無機化学及び有機化学の基礎知識を身につけさせる。

学習の目的 生物資源学部では、タンパク質やDNAなどの分子レベル、微生物や動植物の細胞レベルや個体レベル、生物の集団レベルまで幅広い材料を扱って研究を行っている。それらを理解するための化学的基礎知識を身につけることが、学習の目的である。

学習の到達目標 生物資源に関わる現象やそれに関わる生物体や細胞などを物質レベル・分子レベルで理解するのに必要な学力を身につける。

授業計画・学習の内容

キーワード 無機化学および有機化学の基礎

Key Word(s) organic chemistry, orbital, chemical bond, biochemistry, pH

学習内容

- 第1回 元素、原子、電子 (1)
- 第2回 元素、原子、電子 (2)
- 第3回 結合、電子、分子 (1)
- 第4回 結合、電子、分子 (2)
- 第5回 分子間相互作用
- 第6回 分子の数の表し方
- 第7回 炭素一生命体のもと

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

受講要件 再履修者のみ受講可能である。

発展科目 共通教育、学部での化学関連科目

教科書 生命科学系のための基礎化学 東京化学同人 (Mitch Fry, Elizapeth Page著、林利彦訳) ISBN978-4-8079-0703-8

参考書 大学への橋渡し 一般化学 (芝原寛泰・斉藤正治; 化学同人)

成績評価方法と基準 授業への取り組みと期末試験の結果を総合的に評価する。

オフィスアワー 月曜日 12:00~13:00、生物資源学研究科 758室

- 第8回 形だけが異なる同じ分子
- 第9回 水一生命の溶媒 その1
- 第10回 水一生命の溶媒 その2
- 第11回 反応する分子とエネルギー
- 第12回 反応中の分子と反応速度論
- 第13回 エネルギーと生命
- 第14回 生体反応の反応性
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 授業中にプリント等を配布するので、予習、復習に利用すること。

化学基礎 II

Basic Chemistry II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 生物資源学部(A, B, Cクラス) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 奥村 克純(生物資源学部・生物圏生命科学科)

授業の概要 生物体を構成し, 生命活動を担う基本分子である糖質, 脂質, タンパク質, 核酸, 無機塩類等の構造と機能について解説する。専門基礎として必要な生物化学の全体像を広範に取り扱う。高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活, 天然高分子化合物の構造と機能について指導するために必要な基本的事項について解説する。

学習の目的 生体構成成分の構造と機能, エネルギーや遺伝情報の流れについての知識を得る。

学習の到達目標 生体構成成分の構造と機能, エネルギーや遺伝情報の流れについて, 細胞, 生体と関連づけて考えることによって, 分子レベルからみた生命活動について理解と関心を深める。受講生は, 高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活, 天然高分子化合物の構造と機能について, 基本的事項を指導できる能力を修得することを目標とする。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 化学基礎 I, 生物学基礎 I

発展科目 細胞生物学, 生化学 I, 生化学 II

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 糖質, 脂質, タンパク質, 核酸, 無機塩類

Key Word(s) Cell, organelle, sugar, lipid, protein, nucleic acid, mineral

学習内容

- 1:細胞の基本構造
- 2:生体成分と化学結合
- 3:アミノ酸

教科書 講義プリント資料を配付する。なお, 教科書としての指定はしないが, Essential細胞生物学 第3版(B.Albertsら著, 南江堂)に沿って講義するので, 購入することを強く推奨する。

参考書 基礎から学びたい人: ZEROからの生命科学改訂3版(木下勉, 小林秀明, 浅賀宏昭著), 南山堂。わかる!身につく!生物・生化学・分子生物学(田村隆明著)南山堂。さらに勉強したい人: ベーシックマスター生化学(大山隆監修, 西川一八, 清水光弘共編)オーム社。ヴォート基礎生化学第4版(田宮信雄, 村松正實, 八木達彦, 遠藤斗志也訳)東京化学同人。

成績評価方法と基準 中間テスト50%, 期末テスト50%で評価する。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00, 716(加納)室, 755(奥村)室。および随時受け付けている。電話番号・メールアドレスは授業時に案内する。

授業改善への工夫 E-mailでの質問・要望等にもできる限り対応する。理解度確認用のキーワードリスト等も配付する。講義中に質問を行うことにより理解を深める。

その他

教員免許・各種資格取得に関連した科目(注:必ず入学年度の学習要項で確認してください)高等学校教諭一種免許状(理科)

4:タンパク質

5:核酸

6:糖質

7:脂質

8.糖質代謝とエネルギー生産

9.細胞が食物からエネルギーを得る仕組み

10.タンパク質の構造と機能1:立体構造と性質

11.タンパク質の構造と機能2:タンパク質の働くしくみ

- 12.タンパク質の構造と機能3:酵素
- 13.DNA:核酸の構造, DNA複製・修復
- 14.DNAからタンパク質へ:遺伝情報の流れ
- 15.タンパク質、遺伝子等解析技術
- 16.期末試験

学習課題（予習・復習） 参考図書等で毎回の講義内容を復習すること。特に、分子・細胞レベルの研究分野に進む予定のものは、十分に予習復習すること。また、高校での生物・化学未習者は、講義のペースが速いので十分に予習・復習をすること。

化学基礎 II

Basic Chemistry II

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 対象 生物資源学部(D, E, Fクラス) 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 加納 哲(生物資源学部・生物圏生命科学科)

授業の概要 生物体を構成し, 生命活動を担う基本分子である糖質, 脂質, タンパク質, 核酸, 無機塩類等の構造と機能について解説する。専門基礎として必要な生物化学の全体像を広範に取り扱う。高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活, 天然高分子化合物の構造と機能について指導するために必要な基本的事項について解説する。

学習の目的 生体構成成分の構造と機能, エネルギーや遺伝情報の流れについての知識を得る。

学習の到達目標 生体構成成分の構造と機能, エネルギーや遺伝情報の流れについて, 細胞, 生体と関連づけて考えることによって, 分子レベルからみた生命活動について理解と関心を深める。受講生は, 高等学校の教科「化学」の内容の有機化合物と人間生活, 天然高分子化合物の構造と機能について, 基本的事項を指導できる能力を修得することを目標とする。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 化学基礎 I, 生物学基礎 I

発展科目 細胞生物学, 生化学 I, 生化学 II

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 糖質, 脂質, タンパク質, 核酸, 無機塩類

Key Word(s) Cell, organelle, sugar, lipid, protein, nucleic acid, mineral

学習内容

- 1:細胞の基本構造
- 2:生体成分と化学結合
- 3:アミノ酸

教科書 教科書 講義プリント資料を配付する。なお, 教科書としての指定はしないが, Essential細胞生物学 第3版(B.Albertsら著, 南江堂)に沿って講義するので, 購入することを強く推奨する。

参考書 基礎から学びたい人: ZEROからの生命科学改訂3版(木下勉, 小林秀明, 浅賀宏昭著), 南山堂。わかる!身につく!生物・生化学・分子生物学(田村隆明著)南山堂。さらに勉強したい人: ベーシックマスター生化学(大山隆監修, 西川一八, 清水光弘共編)オーム社。ヴォート基礎生化学第4版(田宮信雄, 村松正實, 八木達彦, 遠藤斗志也訳)東京化学同人。

成績評価方法と基準 中間テスト50%, 期末テスト50%で評価する。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00, 716(加納)室, 755(奥村)室。および随時受け付けている。電話番号・メールアドレスは授業時に案内する。

授業改善への工夫 E-mailでの質問・要望等にもできる限り対応する。理解度確認用のキーワードリスト等も配付する。講義中に質問を行うことにより理解を深める。

その他

教員免許・各種資格取得に関連した科目(注:必ず入学年度の学習要項で確認してください) 高等学校教諭一種免許状(理科)

4:タンパク質

5:核酸

6:糖質

7:脂質

8.糖質代謝とエネルギー生産

9.細胞が食物からエネルギーを得る仕組み

10.タンパク質の構造と機能1:立体構造と性質

11.タンパク質の構造と機能2:タンパク質の働くしくみ

- 12.タンパク質の構造と機能3:酵素
- 13.DNA:核酸の構造, DNA複製・修復
- 14.DNAからタンパク質へ:遺伝情報の流れ
- 15.タンパク質、遺伝子等解析技術
- 16.期末試験

学習課題（予習・復習） 各回の講義の最後に次回の内容を伝え、その部分の教科書を

読んでくること。また、教科書等で毎回の講義内容を復習すること。学科全体の講義であるので、分子・細胞レベルの研究分野に進む予定のものは、十分に予習復習すること。また、高校での生物・化学未習者は、講義のペースが速いので十分に予習・復習をすること。

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 機械工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 金子 聡 (工学研究科)

授業の概要 文明の進歩に伴い、様々な化学物質が生み出され、利用されてきた。これらの物質は、我々の生活を利便にし、生活レベルを上げてきた。化学物質の性質と基礎化学理論を講義する。

学習の目的 化学物質の性質を理解するために、最新基礎化学理論と知識を習得することを目的とする。

学習の到達目標 化学の基礎を学習し、理工学系専門課程に進む学生に相応しい基礎素養を習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術

受講要件 クラス指定

予め履修が望ましい科目 高校の基礎化学, 化学

授業計画・学習の内容

キーワード 元素、化合物、原子、分子、電子配置、化学結合

Key Word(s) Element; Compound; Atom, Molecule

学習内容

- 第1回 第1章その1 化学の学習の前に (化学で学ぶこと、近代化学の誕生)
- 第2回 第1章その2 化学の学習の前に (原子・分子・イオン)
- 第3回 第1章その3 化学の学習の前に (国際標準 (SI) 単位)
- 第4回 第1章その4 化学の学習の前に (測定と有効数字)
- 第5回 第2章その1 物質の構造 (物質の構成要素1回目)
- 第6回 第2章その2 物質の構造 (物質の構成要素2回目)

発展科目 化学II

教科書 わかる理工系のための化学 (今西誠之、金子聡、小塩明、湊元幹太、八谷蔵編著、共立出版) ISBN: 4320044002

成績評価方法と基準 レポートと期末試験で判断する。ただし、出席率2/3を原則とする。

オフィスアワー 月曜日～金曜日 12:00～13:00、基本的にはこの時間帯ですが、質問などがある場合にはいつでも気軽に質問に来て下さい。分子素材工学棟 4F 3421室

授業改善への工夫 授業中に学生の反応 (理解度) を勘案しながら、授業後の学生の意見を参考にして、学生の授業評価アンケートの結果等も参考にし、授業の工夫、組み立て、説明を行う。さらに、授業に関する興味深い話題や知識を盛り込んで授業を進める。

- 第7回 第2章その3 物質の構造 (化学結合)
- 第8回 第2章その4 物質の構造 (化学量論)
- 第9回 第3章その1 物質の状態 (物質の状態変化と粒子の運動)
- 第10回 第3章その2 物質の状態 (気体)
- 第11回 第3章その3 物質の状態 (溶液、コロイド)
- 第12回 第4章その1 物質の変化 (化学反応と熱)
- 第13回 第4章その2 物質の変化 (酸と塩基の反応)
- 第14回 第4章その3 物質の変化 (酸化還元反応)
- 第15回 第4章その4 物質の変化 (化学反応の速さと化学平衡)

学習課題 (予習・復習) 講義を受講する前に、必ず教科書を読んでくること。受講後、説明された講義内容を復習しておくこと。

化学I

Chemistry

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 対象 理工工学科 年次 学部(学士課程):1年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義

担当教員 石原 篤 (工学部)、那須弘行 (工学部)、橋本忠範 (工学部)

授業の概要 原子の電子構造(原子内の電子の数、エネルギー及び分布)とその原子番号による周期的な変化を理解する。また、原子の組み合わせに応じて多様な化学結合が生じ、これが物質の構造と性質に密接に関係していることを代表的な無機化合物および有機化合物を例にとり学ぶ。

学習の目的 原子および分子レベルの認識を確かなものとし、技術者として、対象の本質を理解し、工学的課題を解決するための基礎となる能力を育成することを目的とする。

学習の到達目標 化学の基礎について修得する。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体

授業計画・学習の内容

キーワード 無機化学、有機化学、原子の電子構造、分子の構造、結合生成、イオン性固体、多原子陰イオン、配位化学、溶媒、溶液、酸、塩基、周期表

Key Word(s) Inorganic chemistry, Organic chemistry, Electronic structure of atom, Structure of molecule, Formation of chemical bond, Ionic solid, Polyatomic anion, Coordination chemistry, Solvent, Solution, Acid, Base, Periodic table

学習内容

【授業内容・スケジュールと履修のポイント】

第1講: 無機化学とは? 化学反応、状態変化に伴う熱の出入り。単位系。

第2講: 原子の電子構造。粒子性、波動性。水素原子のスペクトルとボーアモデル。原子軌道とは何か。そのいろいろな表示法と種類、形、エネルギー。

第3講: 多電子原子の電子配置(組み立ての原理、フントの規則、パウリの排他原理)

第4講: 電子配置の原子番号による周期的変化。各ブロック元素の特徴。イオン化エン

的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 高校の化学

発展科目 無機化学、有機化学、物理化学

教科書 コットン、ウイルキンソン、ガウス、「基礎無機化学」、培風館

成績評価方法と基準 中間試験40%、期末試験40%、宿題、演習、発表など20%、60%以上取得で合格

タルピー、電子付着エンタルピー、電気陰性度、原子半径、イオン半径。

第5講: 分子の構造と結合生成。ルイス構造、共鳴、混成、多重結合、原子価殻電子対反発モデル

第6講: 中間テスト

第7講: 中間テストの解答

履修のポイント: 原子の電子構造、原子軌道、分子の構造、軌道の重なりと結合性相互作用、反結合性相互作用など、高校ではほとんど触れられていない項目であるので、教科書をよく読み、言葉の定義をよく理解すること。物理化学と関連するので、あわせて勉強すること。

第8講: 軌道の重なりと結合性相互作用、反結合性相互作用。 σ 軌道、 π 軌道。

第9講: 等核二原子分子の分子軌道。結合次数、結合エネルギー、結合距離の関係。酸素の常磁性。多原子分子、電子不足分子。

第10講: イオン性固体。イオン性化合物の構造とエネルギー。

第11講: 多原子陰イオンの化学(構造、性質、反応)。

第12講: 配位化学。配位化合物の構造。

第13講: 異性体、命名法。溶媒、溶液、酸、塩基。

第14講: プロトン性溶媒、非プロトン性溶媒の性質（極性、解離、溶媒和）。酸、塩基の定義。

第15講: 期末テスト

第16: 解答

履修のポイント: 分子軌道、イオン性化合

物の化合物の構造とエネルギー、配位化学、酸、塩基の定義など、無機化学を理解するために不可欠な項目を含んでおり、教科書をよく読み、言葉の定義をよく理解すること。物理化学と関連するので、あわせて勉強すること。

学習課題（予習・復習） 予習のための宿題を与える。演習を行い、達成度を見る。

化学 II

Chemistry II

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修

授業の方法 講義

担当教員 伊藤 敬人 (工学部)

授業の概要 われわれが衣・食・住・通信・運輸などの現代生活のために多種多様な物質・材料の力学的・光学的・電気的などの性質を利用している。これらの性質は一見互いに無関係なようにおもえるが、基本的には共通の原理により理解できる。物質・材料の構造と性質の関係を中心に化学の基本を学ぶ。

学習の目的 化学系でない工学部系学生が化学を中心に物質・材料の構造と性質を理解出来るようになる。

学習の到達目標 物質の構造や機能性について化学的な観点で考える能力を取得する。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニ

授業計画・学習の内容

キーワード 化学構造、原子、分子、化学結合、物質・材料、性質

Key Word(s) Chemical structure, Atom, Molecule, Chemical Bond, Materials, Property

学習内容

- 第1回 物質・材料の性質と化学構造
- 第2回 原子・分子・化学結合
- 第3回 硬い物質と軟らかい物質
- 第4・5回 物質をつくる

ケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 高校の化学

発展科目 化学の話題から

教科書 井上祥平著「化学 物質と材料の基礎」化学同人

成績評価方法と基準 出席30%、期末試験70%。出席と期末試験の評価をもとに総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00-13:00、工学部分子素材工学科棟2階3216室

授業改善への工夫 授業アンケート結果を参照して授業改善に努める。

- 第6・7回 色のある物質・ない物質
- 第8・9回 電気を通す物質・通さない物質
- 第10・11回 エネルギーと物質
- 第12・13回 環境と技術
- 第14・15回 物質と生命
- 第16回 定期試験

学習課題（予習・復習） 毎回の講義の教科書の予習と復習を行い、理解を深めると共に達成度を見ること。

化学実験

Experimentation on Chemistry

学期 後期 開講時間 月 5, 6, 7 単位 1 対象 工学部2年生、医学部1年生、生物資源学部2年生

選/必 選択 授業の方法 実験 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 幹 渉 (生物資源学研究科)

授業の概要 身近にいる生物の成分について、その物性を調べ、生理的な機能を推定する。

学習の目的

化学実験の基礎的な知見と技術を得ることができる。

生体成分について、化学的な思考で見るができるようになる。

学習の到達目標

化学的なものの考え方ができるようになる。

天然物化学的な思考をすることができるようになる。

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 その都度、プリントを配布する。

参考書 特になし。

成績評価方法と基準 実験実技50%、レポート50%

オフィスアワー 月曜日、実験終了後、15：30～16：20、生物資源学部棟727号室

授業改善への工夫 一人で行う実験に加えて、グループで行う実験、あるいは結果についてのディスカッションタイムなどを設けることで、単なる実験授業で終わらせない試みを行おうと考えている。

授業計画・学習の内容

キーワード 光合成、活性酸素、酵素、色素、クロマトグラフィー

Key Word(s) Photosynthesis, Reactive Oxygen Species, Enzyme, Pigment, Chromatography

学習内容

- 1) ガイダンス
- 2) 化学実験の基礎
- 3) 光合成色素の抽出
- 4) クロマトグラフィー
- 5) 色素の分離
- 6) 色素の同定と生物種間における差異の検討
- 7) グループディスカッション

- 8) 脂溶性物質と水溶性物質
- 9) スキンケア素材の準備
- 10) 乳液を創る
- 11) 化粧水を創る
- 12) グループディスカッション
- 13) 抗菌性物質の抽出
- 14) 微生物の培養
- 15) 抗菌性試験
- 16) グループディスカッション

学習課題（予習・復習）

配布する予定のプリントをよく読むこと。
レポートを提出する時に、自らWEB等を活用して行った実験の意味を理解すること。

化学実験

Laboratory for General Chemistry

学期 前期 開講時間 月 5, 6, 7 単位 1 対象 電気電子工学科 (クラス指定) 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 必修

担当教員 ○那須弘行 (工学部分子素材工学科), 野村伸志 (工学部分子素材工学科), 山崎賢二 (非常勤講師), 奥村 都子 (非常勤講師)

授業の概要 工学部学生 (電気電子工学科) のための化学実験を通して、化学の方法と基礎理論を理解する。また、化学実験における基礎的な操作法・技術を学ぶ。

学習の目的 工学系に必要な基礎的・化学実験を安全にかつ計画的に行うことができる。

学習の到達目標

化学実験における基礎的な操作法、技術と安全について修得する。

化学物質の取り扱いについて理解する。

本学教育目標との関連 幅広い教養

受講要件 化学実験には危険が伴うので、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入する。実験室では実験着 (白衣) と保護眼鏡 (普通の眼鏡でよい) を着用し、運動靴などの動きやすくすべらない靴をはく。スリッパやサンダル、ハイヒールは不可。実験室での飲食と喫煙はしない。携帯音楽プレーヤや携帯電話は電源を切っておく。

授業計画・学習の内容

キーワード 化学実験

Key Word(s) Laboratory for General Chemistry

学習内容

つぎの実験を予定しています。

1. ガイダンス、器具の点検と洗浄
2. 実験の基本操作、試薬調製
3. ガラス細工
4. 測定と誤差
5. 中和熱の測定
6. 金属陽イオンの性質 (1)
7. 金属陽イオンの性質 (2)
8. 陽イオン混合試料からの系統分析
9. 陽イオン混合試料からの系統分析 (続き)

予め履修が望ましい科目 化学I, 化学II

教科書 これならわかる化学実験 第二版、田中晶善、三共出版

成績評価方法と基準 すべての実験を行い、レポートを提出することを前提する。実験の実施態度と結果、レポートの評価に基づいて、総合的に評価する。他人のレポートを写したレポートは、不可とします。

オフィスアワー 実験中および、開講時間の前後に質問してください。

その他 共通教育校舎の化学実験室を使用する予定であるが、履修者は時間割表で確認してください。第一回目には、ガイダンスと器具の洗浄等を行うので、白衣と保護眼鏡を用意してきてください。保護眼鏡は普通の眼鏡でよい。保護眼鏡を掛けないと実験できません。さらに、履修申告の確認と実験台の割り当てを行いますので、遅刻しないように実験室に集合する。

10. 陽イオン混合試料からの系統分析 (続き)
11. アセトアニリドの合成
12. 食酢中の酢酸の定量
13. 時計反応の反応速度
14. モル比熱の測定
15. 器具の点検と洗浄、実験室の清掃

学習課題 (予習・復習) 毎回、必ず教科書を読み、予習する。実験中には、実験ノートに実験操作と観察事項を記録する。実験後、実験ノートの記載に基づいて、実験項目ごとにレポートを作成し、期日までに提出する。実験の始めに、当日の実験に必要な注意と指示をするので、遅刻しない。

化学実験

Laboratory Chemistry

学期 前期 **開講時間** 水 5, 6, 7 **単位** 1 **対象** 資源循環学科2年生を優先とする。余裕があれば他の上級学年から優先的に受け入れる **年次** 学部(学士課程): 2年次 **授業の方法** 実験 **授業の特徴** Moodle

担当教員 磯野直人(生物資源学研究所), 水野隆文(生物資源学研究所), 近藤誠(生物資源学研究所), 木村哲哉(生物資源学研究所), 奥村都子(非常勤講師)

授業の概要 実験を通して化学の方法と基礎理論を理解する。

学習の目的

実験に取り組むための基本的な学習態度を習得する。

実験を通じて、授業で学習した内容を実際の化学現象として理解できるようになる。

共同実験を通じてお互いのコミュニケーションを図りながら共同研究できる素養を身につけられる。

レポートを作成することにより、科学論文を作成するための素養が身に付く。

学習の到達目標

化学実験における基礎的な操作方法・技術を習得する。

実験について、レポートの作成方法を習得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 原則基礎化学Ⅳの授業を受講していること。

予め履修が望ましい科目 基礎化学Ⅳ

授業計画・学習の内容

キーワード 無機化学、分析化学、有機化学

Key Word(s) inorganic chemistry, analytical chemistry, organic chemistry

学習内容

1. 実験概容の説明、器具の点検・洗浄
2. 実験の基本操作
3. ガラス細工
4. 測定とその誤差
5. 金属陽イオンの性質(1)
6. 金属陽イオンの性質(2)

発展科目 資源循環学科の2年次、3年次の学生実験

教科書 教科書: 「これならわかる化学実験」(三共出版)

成績評価方法と基準

取り組み50%、レポート50% 原則として病氣・忌引き等やむを得ない事情以外は欠席を認めない。

教育実習で欠席する場合はかならず最初の授業で連絡をすること。原則として教育実習以外の授業・実習による欠席は認めない。

オフィスアワー 火曜日12:00~13:00

授業改善への工夫 基本的な実験操作の習熟に留意して指導する。実験の安全についても注意をする。

その他 実験室の収容人数に限りがあるので、受講制限をする場合がある。(資源循環学科物質循環学講座、循環生物工学講座で化学実験が必修に準ずる受講生を除く。) この場合、以前に履修申告をして受講制限により受講できなかったことのある受講生や卒業年次の受講生を優先する。毎回必ず出席をし、レポートを提出するという意志を持ったひとのみ受講申請すること。

7. 金属陽イオンの系統分析(1)
8. 金属陽イオンの系統分析(2)
9. 金属陽イオンの系統分析(3)
10. アセトアニリドの合成
11. 中和熱の測定
12. 食酢中の酢酸の定量
13. 時計反応の反応速度測定
14. 金属のモル比熱の測定
15. 器具の点検・洗浄、実験室の清掃

学習課題 (予習・復習)

初回は重要な連絡を行うので、受講予定者は当該実験室に必ず集合すること。

毎回必ずテキストを読んで予習をし、実験の意味・操作の方法等を把握してくること。また毎回の実験についてレポートを提出する

必要があるので、実験後はデータや結果をまとめておくこと。

安全のため原則として実験中は実験着（白衣）を着用し、運動靴など運動しやすい靴をはくこと。

化学実験

Laboratory Chemistry

学期 前期 開講時間 水 5, 6, 7 単位 1 年次 学部(学士課程): 2年次 選/必 その他

授業の方法 実験 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 稲垣 稷, 田中晶善, 奥村克純, 寺西克倫, 勝崎裕隆, 緒方 進, 三宅英雄

授業の概要 無機化学, 有機化学, 物理化学に関連するテーマの実験

学習の目的 化学実験における基礎的な操作法・技術を習得する。実験と理論を結びつけて理解することができる。

学習の到達目標

化学実験のさまざまな操作を安全かつ合理的に行うことができる。

実験と理論を結びつけて理解することができる。

実験を行った経過, 結果, その解釈を形式に則して簡潔かつ適切にレポートしてまとめることができる。

実験廃液の適切な分類や廃棄など, 実験後の処理を事前に意識し, 適切に行うことができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 専門知識・技術

受講要件 学生教育研究災害傷害保険に必ず加入すること。

発展科目 学部別講義の, 物理化学, 有機化学, 分析化学, 無機化学, 生化学, 分子生物学, および, それらに関連した実験科目

授業計画・学習の内容

キーワード 化学実験, 実験器具, 分析, 計量, 操作, ろ過, 定性分析, 遠心分離, 化学反応, 物理化学, 熱力学, 中和滴定, 反応速度, 活性化自由エネルギー, 金属イオン, 分別沈殿

Key Word(s) chemical experiment, experimental apparatus, analysis, measuring, operation, filtration, quantitative analysis, centrifugation, chemical reaction, physical chemistry, thermodynamics, neutralization titration, reaction velocity, activation free energy, metal cation, fractional precipitation

教科書 教科書: 「これならわかる化学実験 第二版」 (三共出版)

成績評価方法と基準

レポート100%で評価する。

原則として欠席を認めない。やむを得ない事情であっても多数回の欠席は単位不認定とするが, 補講などで対応する場合があるので, 早めに担当教員に相談すること (下記「その他」参照)。

オフィスアワー 水曜日午後5~6時, 各担当教員室 (生物資源学部校舎)

授業改善への工夫 基本的な実験操作に習熟できるように指導する。

その他 実験室の収容人数に限りがあるので, 受講制限を行う場合がある (化学実験が必修か, 必修に準ずる受講生を優先する)。以前に履修申告をして受講制限により受講できなかったことのある受講生や, 卒業年次の受講生を優先する。教育実習などでやむを得ず欠席する場合は, 事前 (履修申告時) にその予定を担当教員と相談すること。2回までの欠席に限り, 補講などで対応する場合がある。

学習内容

第1回 実験概要の説明, 器具の点検・洗浄

第2回 実験の基本操作

第3回 ガラス細工

第4回 測定とその誤差

第5回 中和熱の測定

第6回 金属陽イオンの性質(1)

第7回 金属陽イオンの性質(2)

第8回 金属陽イオンの系統分析(1)

第9回 金属陽イオンの系統分析(2)

第10回 金属陽イオンの系統分析(3)

第11回 アセトアニリドの合成

第12回 食酢中の酢酸の定量

第13回 時計反応の反応速度の測定

第14回 金属のモル比熱の測定

第15回 器具の点検・洗浄，実験室の清掃

第1回目には，履修申告の確認や実験大の割り当てなどを行う。毎回実験の初めに，当日の実験に必要な連絡を指示するので，遅刻しない様に集合すること。

学習課題（予習・復習） 事前にテキストを

熟読し，当日の実験内容と操作の流れを把握してから実験に臨むこと。実験後は，実験項目毎にレポートを作成し，期限までに所定の場所に提出すること。レポート提出とその内容の合格をもって，当該実験項目の終了とする。レポート作成に当たっては，テキストを参照し，レポート作成の手引きを参考に，基本的な構成に則して記述すること。

基礎生物学 A

General Biology A

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 平山大輔 (教育学部理科教育講座)

授業の概要 環境や生態系に及ぼす人間活動の影響が大きい今日では、生物学に関する確かな教養をもつことはきわめて重要である。また、生物学は重要なだけでなく、未解明の現象に満ちた非常に面白い学問である。この講義では、生命の起源や生物多様性など、最近注目されている話題を中心に、生物学の基本事項を幅広く学ぶ。

学習の目的 生命の起源や生物多様性など、生物学において最近注目されている話題に関する知識を習得する。

学習の到達目標 生物や自然界に関する様々な現象を、科学的な見方で理解することができるようになる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 生命、生態、環境、生物多様性

学習内容

- 第1回 生物学の魅力と重要性
- 第2回 細胞の起源
- 第3回 細胞の特性
- 第4回 DNAと遺伝
- 第5回 分子生物学の応用
- 第6回 生態系のなりたち；生物の集団と環境
- 第7回 生物の地理的分布とその要因
- 第8回 時間と自然現象
- 第9回 気候環境の変動
- 第10回 個体数（人口）の変動
- 第11回 生物間の相互作用 1；競争と捕食-被食
- 第12回 生物間の相互作用 2；共生
- 第13回 生物の変遷
- 第14回 生物多様性と生態系機能
- 第15回 生物多様性の保全
- 第16回 期末試験

学習課題（予習・復習）

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 教科書は特に指定しない。スライドや配布資料を用いて講義を行う。参考となる書籍については講義中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 平常点50%、期末試験50%、合計100%で成績を評価する（合計が60%以上で合格）。ただし、出席状況や受講態度によっては評価の対象としない。

オフィスアワー 毎週月曜：12:00-13:00、場所：教育学部1号館2階 平山研究室

授業改善への工夫 学生の理解度を確認しながら講義を進め、学生が無理なく広い教養をもつことができるよう図る。

各回での主なテーマ（問いかけ）は以下の通り。配布資料や講義ノート等をもとに、下記の課題の理解に努めること。

- 第1回：なぜ生物学を学ぶのか？第2回：すべての細胞は細胞から。では地球上で最初の細胞はどこから来たのか？第3回：細胞は何をしているのか？第4回：生命の分子的基礎とは？第5回：分子生物学は医療や生活にどう応用されているのか？第6回：生態系の栄養段階はなぜたいてい3次や4次で終わるのか？第7回：何が生物の分布を決めるか？カンガルーはなぜオーストラリアにだけいるのか？第8回：気候は変動し、大陸は動く。時間でさえ不変ではない？第9回：生物をとりまく気候環境はどのように変動してきたか？第10回：生物の数に潜む法則とは？第11回：競争や捕食-被食は生物に何をもたらすか？第12回：共生とは何か？第13回：生物はどのように変遷してきたのか？第14回：生物多様性とは何か？第15回：なぜ生物多様性の保全が大切なのか？

基礎生物学B

Basic Biology B

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 対象 医学部医学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修

授業の方法 講義

担当教員 古丸 明 (生物資源学部)

授業の概要 生命の営みを理解するために必要な、細胞レベル、遺伝子レベルから、生物学の基礎を理解する。

学習の目的 生物進化の概略、発生生物学、細胞生物学について網羅的に生物学の基礎的な知識をみにつける。

学習の到達目標 生体を構成する細胞の構造

と機能を理解する。発生生物学、進化学の概略を理解する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術

参考書 essential 細胞生物学 (南江堂)

成績評価方法と基準 定期試験100% 67%以上の出席率無い場合は採点対象としない

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞生物学、自然選択説、遺伝子重複、分子進化、発生生物学

Key Word(s) cell biology, natural selection, gene duplication, molecular evolution, developmental biology

学習内容

1: ガイダンス

2-5: 細胞の構造と機能の概略

6-7: 自然選択説

8-9: 分子進化の概略(分子進化の中立説から)

10-11: 遺伝子重複による進化

12-15: 発生生物学の概略 受精、発生、形態形成遺伝子(ホメオティック遺伝子) について

16: 定期試験

学習課題 (予習・復習) 授業で指示します

基礎生物学C

Basic Biology

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 対象 医学部医学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 必修
授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 太城 康良 (教養教育機構、兼、医学部 医学・看護学教育センター)

授業の概要 生物学をベースに人体の正常構造と機能についての基礎的な知識を講義する。

学習の目的 生物学をベースに人体の正常構造と機能についての基礎的な知識を習得する。

学習の到達目標 専門分野の学習に必要なとなるレベルの人体の正常構造と機能に関する生物学的知識を身につける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

授業計画・学習の内容

キーワード 肉眼解剖学、解剖生理学

Key Word(s) anatomy, physiology

学習内容

1. 身体の区分、骨
2. 下肢の関節と筋
3. 上肢の関節と筋
4. 頭部・体幹の骨
5. 中枢神経系
6. 末梢神経系 (脳神経)
7. 末梢神経系 (脊髄神経)

予め履修が望ましい科目 分子生命体科学、入門生物学、基礎生物学B

発展科目 解剖学、生理学など専門課程の基礎医学科目

教科書 プリントを主体に講義を行う

参考書 イラスト解剖学 第8版、人体の正常構造と機能

成績評価方法と基準 筆記試験100%。

オフィスアワー 事前にメールでアポを取り、調整する。

授業改善への工夫 復習では無線送信器（クリッカー）を使い、双方性の授業を展開する。

8. 復習（無線送信器を使ったクイズ形式）
9. 呼吸器
10. 消化管
11. 肝・胆・膵・脾
12. 泌尿・生殖器
13. 心臓
14. 脈管系
15. 復習（無線送信器を使ったクイズ形式）

学習課題（予習・復習） 講義を契機に該当する図書を自力で読み、知識の修得・定着に努めること。

生物学基礎 I

Basic Biology I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 生物資源学部・全学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 ○掛田克行(生物資源学部), 平塚伸(生物資源学部), 松井宏樹(生物資源学部), 木佐貴博光(生物資源学部)

授業の概要 4つの主題「生命現象と物質」, 「植物という生き物」, 「動物という生き物」, 「生態と進化」に沿って生物学の基礎を学び, 生物の共通性と多様性に関する理解を深める。

学習の目的 生物資源学部の専門課程で学ぶ広範な学問領域すべてに関わる「生物」についての理解を深め, 「生物学」の基礎的知識を習得する。

学習の到達目標 高校で生物学を履修してこなかった学生においては, 学部の専門科目を修得するのに必要な生物学の基礎的理解に主眼におく。高校生物の既習学生においては, 生物学の基礎を固めた上で, さらに広範な生命科学に関する学問的興味を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 生物学基礎 II

教科書 ライフサイエンスのための生物学 (培風館, 2015年2月刊行予定)

成績評価方法と基準 小試験, レポートや期末試験により, 総合的に評価する。

授業改善への工夫 開講初年度のため, 受講生の反応を見ながら, 適宜改善対応する。

その他 クラス分けについては, 入学式前の学部ガイダンス時に通知します。第1回目の授業時に人数調整等を行うので, 必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 植物, 動物, 生態

Key Word(s) cell, plant, animal, ecology

学習内容

第1回: 講義の概要 (ガイダンス)

主題1. 生命現象と物質 (掛田)

主題2. 植物という生き物 (平塚)

主題3. 動物という生き物 (松井)

主題4. 生態と進化 (木佐貴)

第16回: 期末試験

*主題1~4の順序はクラスによって異なる(初回の講義でアナウンスします)。

学習課題 (予習・復習)

主題1. 生命現象と物質:

細胞と生体物質, 細胞分裂, 染色体と遺伝, 遺伝情報

主題2. 植物という生き物:

植物細胞の分化, 代謝, 植物ホルモン, 環境応答

主題3. 動物という生き物:

動物の組織・器官, 発生, 恒常性維持・内分泌, 生体防御

主題4. 生態と進化:

生物と環境, 生態系, 生物の系統, 進化

生物学基礎 I

Basic Biology I

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 対象 生物資源学部・全学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義

担当教員 ○松井宏樹(生物資源学部), 木佐貫博光(生物資源学部), 掛田克行(生物資源学部), 平塚伸(生物資源学部),

授業の概要 4つの主題「生命現象と物質」, 「植物という生き物」, 「動物という生き物」, 「生態と進化」に沿って生物学の基礎を学び, 生物の共通性と多様性に関する理解を深める。

学習の目的 生物資源学部の専門課程で学ぶ広範な学問領域すべてに関わる「生物」についての理解を深め, 「生物学」の基礎的知識を習得する。

学習の到達目標 高校で生物学を履修してこなかった学生においては, 学部の専門科目を修得するのに必要な生物学の基礎的理解に主眼におく。高校生物の既習学生においては, 生物学の基礎を固めた上で, さらに広範な生命科学に関する学問的興味を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 生物学基礎 II

教科書 ライフサイエンスのための生物学 (培風館, 2015年2月刊行予定)

成績評価方法と基準 小試験, レポートや期末試験により, 総合的に評価する。

授業改善への工夫 開講初年度のため, 受講生の反応を見ながら, 適宜改善対応する。

その他 クラス分けについては, 入学式前の学部ガイダンス時に通知します。第1回目の授業時に人数調整等を行うので, 必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 植物, 動物, 生態

Key Word(s) cell, plant, animal, ecology

学習内容

第1回: 講義の概要 (ガイダンス)

主題1. 生命現象と物質 (掛田)

主題2. 植物という生き物 (平塚)

主題3. 動物という生き物 (松井)

主題4. 生態と進化 (木佐貫)

第16回: 期末試験

*主題1~4の順序はクラスによって異なる(初回の講義でアナウンスします)。

学習課題 (予習・復習)

主題1. 生命現象と物質:

細胞と生体物質, 細胞分裂, 染色体と遺伝, 遺伝情報

主題2. 植物という生き物:

植物細胞の分化, 代謝, 植物ホルモン, 環境応答

主題3. 動物という生き物:

動物の組織・器官, 発生, 恒常性維持・内分泌, 生体防御

主題4. 生態と進化:

生物と環境, 生態系, 生物の系統, 進化

生物学基礎Ⅰ（再履修用）

Basic Biology I

学期 後期集中 単位 2 対象 生物資源学部・全学科 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 その他

授業の方法 講義

担当教員 ○掛田克行(生物資源学部), 平塚伸(生物資源学部), 松井宏樹(生物資源学部), 木佐貴博光(生物資源学部)

授業の概要 4つの主題「生命現象と物質」, 「植物という生き物」, 「動物という生き物」, 「生態と進化」に沿って生物学の基礎を学び, 生物の共通性と多様性に関する理解を深める。

学習の目的 生物資源学部の専門課程で学ぶ広範な学問領域すべてに関わる「生物」についての理解を深め, 「生物学」の基礎的知識を習得する。

学習の到達目標 高校で生物学を履修してこなかった学生においては, 学部の専門科目を修得するのに必要な生物学の基礎的理解に主眼におく。高校生物の既習学生においては, 生物学の基礎を固めた上で, さらに広範な生命科学に関する学問的興味を深める。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力,

幅広い教養, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 前期の授業(生物学基礎Ⅰ)を受講済みであること。再履修となった学生のみを対象とする。

発展科目 生物学基礎Ⅱ

教科書 ライフサイエンスのための生物学(培風館, 2015年2月刊行予定)

成績評価方法と基準 小試験, レポートや期末試験により, 総合的に評価する。

オフィスアワー Moodle等を通じて別途連絡する。

授業改善への工夫 開講初年度のため, 受講生の反応を見ながら, 適宜改善対応する。

授業計画・学習の内容

キーワード 細胞, 植物, 動物, 生態

Key Word(s) cell, plant, animal, ecology

学習内容

第1回: 講義の概要(ガイダンス)

主題1. 生命現象と物質(掛田)

主題2. 植物という生き物(平塚)

主題3. 動物という生き物(松井)

主題4. 生態と進化(木佐貴)

第16回: 期末試験

*主題1~4の順序や授業の進め方はMoodle等でアナウンスします。

学習課題(予習・復習)

主題1. 生命現象と物質:

細胞と生体物質, 細胞分裂, 染色体と遺伝, 遺伝情報

主題2. 植物という生き物:

植物細胞の分化, 代謝, 植物ホルモン, 環境応答

主題3. 動物という生き物:

動物の組織・器官, 発生, 恒常性維持・内分泌, 生体防御

主題4. 生態と進化:

生物と環境, 生態系, 生物の系統, 進化

生物学基礎 II

Basic Biology II

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択必修

授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 ○塚田 森生 (生物資源学部), 原田 泰志 (生物資源学部), 石川 輝 (生物資源学部), 松田 陽介 (生物資源学部), 淀 太我 (生物資源学部), 鳥丸 猛 (生物資源学部)

授業の概要

生物資源学部で身につけるべき生物学の基礎のうち、特に生態学分野について教授する。

これは、学部において生物と環境のかかわり等を学ぶための基礎となる科目である。

指定教科書に従って、「生態と環境」、「生物の進化と系統」に関連してこれまでに学界で得られている知見を教授する。分担者の専門に応じ、対象とする生物は適宜変更しうる。

学習の目的

生物と環境のかかわり、生物の集団の特性等に関する学問分野である生態学に関して専門的な学習をするための基礎知識を得る。

材料にこだわることなく、幅広い生物の生態を学ぶ中で生物の生態にかかる普遍的法則を理解する。

学習の到達目標 「生態と環境」、「生物の進化と系統」に関して専門的な学習をするた

めの基礎知識を得る。材料にこだわることなく、幅広い生物の生態を学ぶ中で生物の生態にかかる普遍的法則を理解し、身の回りの生物の集団としての性質を身につけるとともにさまざまな生物のふるまいの適応的意義を考えられるようになる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 生物学基礎I

教科書 生態学入門 第2版 日本生態学会編 東京化学同人 2012年

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 各担当教員から別途指示する。

その他 講義の順序は前後することがある。

授業計画・学習の内容

キーワード 各回ごとに設定 (学習内容を参照)

Key Word(s) Given for each lecture

学習内容

1 生態学とはどんな学問か? - 遺伝子から地球環境まで (担当: 石川輝)

キーワード: 遺伝子、個体群、生物群集、景観、地球環境

2 生物界の共通性と多様性 (担当: 石川輝)

キーワード: 細胞、DNA、地域、多様性、古環境

3 進化からみた生態 (担当: 塚田森生)

キーワード: 自然選択、種分化、適応放散

4 分子進化の特性 (担当: 鳥丸猛)

キーワード: 分子進化の中立説、分子時計

5 生活史の適応進化 (担当: 原田泰志)

キーワード: 生活史、適応戦略、繁殖のコス

ト、r-K選択説、表現型可塑性

6 進化とゲーム理論 (担当: 原田泰志)

キーワード: 有性生殖、ESS、性比の進化

7 植物の生理生態的特性の適応戦略 (担当: 松田陽介)

キーワード: 植物、光、競争、化石燃料、二酸化炭素

8 動物の生理生態的特性の適応戦略 (担当: 塚田森生)

キーワード: 動物、水分、温度、概日リズム

9 動物の行動と社会 (担当: 淀太我)

キーワード: 競争関係、なわばり、配偶行動、繁殖システム、性選択、血縁選択

10 個体間の相互作用 (担当: 原田泰志)

キーワード: 個体群、密度効果、生命表

11 同種・異種の個体群 (担当: 塚田森生)

キーワード: 競争、捕食、寄生、共生

12 生物群集の構造その分布 (担当: 松田陽

介)

キーワード：種間相互作用、生物群集、カスケード効果、ギルド内捕食、多種共存

13 生物群集の構造その分布 (担当: 鳥丸猛)

キーワード：植生遷移、バイオーム

14 生態系の構造と機能 (担当: 石川輝)

キーワード：多様性、生態系機能、IPCC、エネルギー流、生産力ピラミッド

15 生態系の保全と地球環境 (担当: 澁太我)

キーワード：生態系サービス、環境問題、レッドリスト、生物多様性の保全、気候変動

学習課題（予習・復習）

教科書や配布資料を用いて各自で予習・復習を行うこと。

また、担当教員によっては別途課題を与えることがある。

入門生物学

Introducton to Biology

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 対象 医学部1年次生 (生物未履修) 年次 学部(学士課程):
1年次 選/必 選択必修 授業の方法 講義
担当教員 ○神原 淳(生物資源学部), 宮崎 多恵子(生物資源学部)

授業の概要 生物学における基礎的な考え方(概念)や生物学の基礎的項目(生物の進化と分類, 呼吸と循環, 神経と感覚, 生物の遺伝情報と発現等)について解説します。

学習の目的 生物学の基礎について知り, そのおもしろさが理解できるようになる。

学習の到達目標 生物学の基礎的内容(進化, 分類, 呼吸, 循環, 神経感覚系, 遺伝等)について説明できる。

本学教育目標との関連 幅広い教養

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特に指定しません。

参考書 ケイン生物学(石川統監訳, 東京化学同人), レーヴン/ジョンソン生物学(上下)等. 各項目についての資料プリント等を配布します。

成績評価方法と基準 出席と小テストの成績をもって総合的に評価します。

オフィスアワー 随時(生物資源学部校舎, 神原:630室, 宮崎:628室), Eメールでも対応。

授業改善への工夫 板書, プリント, スライドなどを通じて, 内容を体系的に理解できるような工夫を心がけます。

その他 医1年A・B

授業計画・学習の内容

キーワード 生物学入門

Key Word(s) Introduction to Biology

学習内容

I.入門生物学の概要解説

II.生物の系統と分類

1.生物進化の歴史

2.生物の系統と生物分類の概念

3.生物分類

4.小テスト:I・IIの講義内容の理解度を問う。

III.呼吸と循環

1.内呼吸

2.外呼吸, 呼吸器官とその様式

3.循環系, 血液の酸素・二酸化炭素運搬

4.小テスト:IIIの講義内容の理解度を問う。

IV.神経と感覚

1.神経系の進化, 神経系の発達, 中枢神経系と末梢神経系

2.神経細胞の構造と働き, 外部刺激の受容と情報伝達のしくみ

3~4.感覚系(1)および(2):適刺激, 感覚器の種類と構造, 刺激受容機構

V.生物の遺伝情報と発現

1.遺伝の法則, 遺伝形質の発現と制御, 遺伝子の実体, 遺伝情報の発現過程

2.小テスト:IVとVの講義内容の理解度を問う。

学習課題(予習・復習) 各回に配布するプリントや講義での板書内容をよく復習してください。講義では生物学を学ぶ上での必須の専門用語が数多く出てくるので, これらを覚えることが必要です。

生物学実験

Biological Experiments

学期 後期 開講時間 金 5, 6, 7 単位 1 対象 生物資源学部, 2年生以上 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択 授業の方法 実験 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ○倉島彰(生物資源学部), 一色正(生物資源学部), 中島千晴(生物資源学部), 加納哲(生物資源学部), 勝川俊雄(生物資源学部), 石川輝(生物資源学部), 田口和典(生物資源学部), 塚田森生(生物資源学部), 伴智美(生物資源学部), 長屋祐一(生物資源学部), 名田和義(生物資源学部), 宮崎多恵子(生物資源学部), 河村功一(生物資源学部), 淀太我(生物資源学部), 森川由隆(生物資源学部)

授業の概要 多様な観点からの観察や実験・実習を通じ, 生物の生態・形態の特徴や遺伝子・細胞ならびに器官の特徴的な活動・機能について学ぶ。

学習の目的 生物の生態・形態の特徴や遺伝子・細胞ならびに器官の特徴的な活動・機能についての知識を得る。

学習の到達目標 生物について多様な観点から実験的に解析し, 考え, その結果を伝えることができるようになる。

本学教育目標との関連 専門知識・技術, 指導力・協調性

受講要件 クラス指定: 生物資源2年生以上。実験・調査には危険が伴うので, 学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。化学および生物学の基礎的知識をもっていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 生物圏生命科学科必修の生物化学, 細胞生物学, 生理学, 生態学を履修していることが望ましい。

授業計画・学習の内容

キーワード 生態, 個体, 形態, 生理, 生化学, 多様性

Key Word(s) ecology, individual, morphology, physiology, biochemistry, biodiversity

学習内容

- 1.生態に関する実験・実習
- 2.生態に関する実験・実習
- 3.生態に関する実験・実習
- 4.個体の観点からの実験・実習
- 5.個体の観点からの実験・実習
- 6.個体の観点からの実験・実習
- 7.形態に関する実験・実習
- 8.形態に関する実験・実習

発展科目 卒業研究

教科書 適宜プリントを配付

成績評価方法と基準 実験態度40%, 実験レポート60%

オフィスアワー 随時

授業改善への工夫 TAを使ったきめ細かい対応をする。

その他

教員免許・各種資格取得に関連した科目(注:必ず入学年度の学習要項で確認してください)。設備の関係から学部で受講者人数を調整することがある。この場合, 教員免許取得希望の受講生, 以前に履修申告をして受講制限により受講できなかったことのある受講生や卒業年次の受講生を優先する。

白衣, 解剖セットが必要となる。内容の一部を土曜日に集中形式で行う場合がある。

これらについては事前に掲示するので確認のうえ登録されたい。

- 9.形態に関する実験・実習
 - 10.生理に関する実験・実習
 - 11.生理に関する実験・実習
 - 12.生理に関する実験・実習
 - 13.生理に関する実験・実習
 - 14.生化学的観点からの実験・実習
 - 15.生化学的観点からの実験・実習
 - 16.生化学的観点からの実験・実習
- 実験材料の都合(生物のため)で必ずしもこの順に実験が行われるわけではない。また, 各内容の時間数は変更される可能性がある。

学習課題 (予習・復習)

- 1.生態に関する実験・実習

- 2.生態に関する実験・実習
- 3.生態に関する実験・実習
- 4.個体の観点からの実験・実習
- 5.個体の観点からの実験・実習
- 6.個体の観点からの実験・実習
- 7.形態に関する実験・実習
- 8.形態に関する実験・実習
- 9.形態に関する実験・実習
- 10.生理に関する実験・実習

- 11.生理に関する実験・実習
 - 12.生理に関する実験・実習
 - 13.生理に関する実験・実習
 - 14.生化学的観点からの実験・実習
 - 15.生化学的観点からの実験・実習
 - 16.生化学的観点からの実験・実習
- 各回の担当教員より指示される事前・事後課題に積極的に取り組むこと。

基礎地学A

Basic Astronomy A

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義 授業の特徴

Moodle

担当教員 伊藤 信成 (教育学部)

授業の概要 天文学は人類最古の学問の1つであるとともに、先端科学の1つでもある。近代天文学の基礎となる物理法則を学習するとともに、最新の宇宙観を俯瞰し、我々が存在する最も基本的な時空間である宇宙に対する理解を深める。

学習の目的

天文学の基盤となっている論理的、科学的な思考法について理解し、我々の住む世界の基盤である宇宙の基本構造を理解する。小中高校生に天文学を指導する際に重要となる概念について、取捨選択し、その重要性を説明することができる。

学習の到達目標

宇宙をロマンや神秘等の観点からでなく、自然科学の対象としてとらえることができる。現代天文学が解明してきた宇宙像について俯瞰することができる。天文学と社会とのかかわりについて自分なりに考察することができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 宇宙・天文学

Key Word(s) Astronomy, Space Science

学習内容

初回のアンケート内容や進度により、内容が前後したり変更する場合もあるが、概ね以下の内容を予定している。

第1～3回：地球および月に関連する現象

- ・自転, 公転
- ・日食, 月食

第4～7回：天体の運動・時刻系に関連する事柄

- ・黄道, 黄道12星座
- ・惑星の会合, 地球近接小惑星
- ・ケプラーの法則

本学教育目標との関連 モチベーション, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力

発展科目 地学講義I, II

教科書 教科書:特に指定しない

参考書

100億を翔ける宇宙, 加藤万里子, 恒星社厚生閣
天文学への招待, 岡村定矩(著), 朝倉書店
地学図表, 浜島書店

成績評価方法と基準 レポート 30%, 期末試験 70% 以上の評価を総合判断する。

オフィスアワー 毎週火曜:13:00-14:30 教育学部1号棟2F 地学第一研究室

授業改善への工夫 要望があれば適宜受け付ける

その他 高校で地学を履修していないことを前提に授業を進める

- ・時刻系
- 第8～10回：太陽および太陽系に関連する現象
 - ・太陽の諸量の推定
 - ・太陽の内部構造
 - ・太陽のエネルギー発生機構
- 第11～13回：星の構造と進化
 - ・星の明るさと色
 - ・星の質量と距離
 - ・星の誕生と終焉
- 第14～15回：銀河系と銀河, 宇宙の誕生と終焉
 - ・銀河系と銀河
 - ・宇宙の始まり, 宇宙の果て

学習課題 (予習・復習) 高校で学習した数学および物理 (履修者) の復習をしておくことを奨める。

地学基礎

Introduction to Earth Science

学期 前期集中 単位 2 対象 生物資源学部の教職員免許取得希望学生 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 授業の方法 講義
担当教員 岡島賢治 (生物資源学部)

授業の概要 本講義では、地学の基礎としての地球のすがた、地球の歴史、大気と海洋、宇宙の中の地球、地球環境について解説する。また、近年多発している自然災害、身近な地形、実物標本や映像情報を用いて、身近な事象から教材を探す能力を育成する。さらに、レポート課題、教材製作課題、小テストを行い知識の定着を図る。

学習の目的 高校理科で「地学」を教育するための基礎として、地球や宇宙の構造や形態、また、そこで起こっている現象等を理解するための基礎知識を習得する。

学習の到達目標 高校理科で「地学」を教育

するための、地学的探究心を身につけることを目標とする。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、モチベーション、幅広い教養、論理的思考力、情報受発信力、社会人としての態度

教科書 ニューステージ新訂「地学図表」(浜島書店)を必携すること。生協書籍部で販売予定。

成績評価方法と基準 レポート課題20%、小テスト50%、期末テスト30%で評価する。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 講義日の講義終了後

授業計画・学習の内容

キーワード 地学、地球科学、天文学、宇宙科学、大気、海洋、地球の歴史

Key Word(s) Geoscience, Earth science, Astronomy, Space science, Atmosphere, Ocean, Earth history

学習内容

- 第1回：地球のすがた：重力、地磁気、地殻構造、内部構造、地殻熱流量
- 第2回：大陸の移動：大陸移動説、海洋拡大説、プレートテクトニクス、地震
- 第3回：地球の活動：火山活動、火山災害、マグマ、火成岩
- 第4回：地表の変化：風化、河川の作用、海水の作用、堆積岩
- 第5回：地層の形成：堆積構造、地質構造、造山運動、変成作用
- 第6回：地層の観察：走向、傾斜、地質図
- 第7回：地球の歴史：地質年代、示準化石、示

- 相化石、日本列島の地質構造
 - 第8回：生物の歴史：先カンブリア時代、古生代、中生代、新生代
 - 第9回：大気圏と熱収支：大気圏、大気の組成、太陽放射、熱収支
 - 第10回：水の循環と状態変化：水蒸気、断熱変化、雲、雨
 - 第11回：大気循環：気圧、風、地衡風、地上風、大気大循環
 - 第12回：海洋の運動：海水、海洋の構造、波、海流
 - 第13回：太陽系：太陽系の天体、惑星現象、会合周期、ケプラーの法則
 - 第14回：恒星と銀河：恒星の進化、恒星の明るさ、銀河系、宇宙
 - 第15回：地球環境：温室効果、淡水資源、エネルギー資源
- 定期試験

電子計算機プログラミング及び演習

Computer Programming and Exercises

学期 後期 開講時間 水 2, 3, 4 単位 2.5 対象 工学部機械工学科 年次 学部(学士課程): 1年次

選/必 必修 授業の方法 講義, 演習

担当教員 前田 太佳夫(工学研究科), 村田 淳介(工学研究科)

授業の概要 機械工学における数値シミュレーション, データ解析, 制御等に必要なプログラミングの基礎を学習する. 授業ではプログラム言語および計算機援用の基礎を解説し, コンピュータを用いた計算やデータ整理の方法を修得するとともにプログラミングの実習を行いコンピュータに親しむ.

学習の目的 プログラム文法について知り, 基本的なプログラミングができるようになることを目的とする.

学習の到達目標 初めは, 例題として与えられたプログラムを模倣してプログラミングしバグ取りを通じてプログラム文法を実践的に理解する. 最終的には, 初歩的なプログラムを自力で創造できる能力を身につける.

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力

受講要件 とくになし

予め履修が望ましい科目 とくになし

発展科目 情報工学

教科書 自作のプリントを配布する

参考書 適宜紹介する

成績評価方法と基準

7割以上出席した者に対して単位を与える. 評価は, 調査型課題 (10点), 中間試験 (30点×2回), 定期試験 (30点) の総計100点で行い, 総計点数60点以上を合格とする.

オフィスアワー 毎週火曜日5時限, 場所: 機械創成棟4階前田教員室・村田教員室にて対応.

授業改善への工夫

諸君の要望に応じて言語をFORTRANからCへ変更した.

市販テキストは内容が多すぎてポイントが定まらないという諸君の声に応じて自作のプリントにした.

例題プログラムをトレースすることによってプログラミングへの導入を平易にし十分理解した時点で, 自力で問題を解くようにした.

その他

中間試験の日程に関しては, 機械創成棟2階掲示板にて通知するので, 掲示に注意すること.

中間試験, 定期試験, 調査型課題の点数について, 成績通知書配布前の問い合わせには応じない.

授業計画・学習の内容

キーワード 計算機利用の基礎, プログラム言語, 数値計算, 関数

Key Word(s) Basic Computer Utilization, Programing Language, Numerical Calculation, Function

学習内容

第1回 C++の基本操作, プログラム文法と標準関数の講義

第2回 変数と式の講義と実習(1変数, 複数変数の入力, 数学関数)

第3回 変数と式の講義と実習

第4回 変数と式の講義と実習

第5回 条件分岐の講義と実習 (if)

第6回 条件分岐の講義と実習 (if else)

第7回 繰り返し計算の講義と実習 (while)

第8回 繰り返し計算の講義と実習 (do while)

第9回 繰り返し計算の講義と実習 (for)

第10回 繰り返し計算の実習

第11回 配列の講義と実習

第12回 配列の講義と実習 (static float)

第13回 関数の講義と実習 (引数のない場合)

第14回 関数の講義と実習 (引数のある場合)

第15回 応用問題のプログラミング

第16回 定期試験

授業時間の一部を使って中間試験を2回行う。

学習課題（予習・復習）

第1回 プリントの文法と標準関数

第2回 プリントの変数と式

第3回 プリントの変数と式，自力問題

第4回 自力問題

第5回 プリントの条件分岐 (if)

第6回 プリントの条件分岐 (if else)

第7回 プリントの繰り返し計算 (while)

第8回 プリントの繰り返し計算 (do while)

第9回 プリントの繰り返し計算 (for) ，自力

問題

第10回 自力問題

第11回 プリントの配列，調査型課題

第12回 プリントの配列 (static float)

第13回 プリントの関数 (引数のない場合)

第14回 プリントの関数 (引数のある場合) ，自力問題

第15回 自力問題

第16回 定期試験

総合情報処理センターの空いている時間を利用して，配布したプリントや自力問題をプログラミングし文法を十分に理解しておくこと。

情報科学基礎A

An introduction to Information Literacy A

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 対象 人文学部法律経済学科の学生のみ受講できる 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 実習

授業の特徴 Moodle

担当教員 三重 遷一 (非常勤講師)

授業の概要 法律経済学科の学生における研究活動にとって必要な情報処理の知識や技能の基礎を修得する。

学習の目的 電子メールの送受信、Webページの閲覧、文書作成ソフト (Microsoft Word) による文章作成、表計算ソフト (Microsoft Excel) による簡単な統計処理等の基礎的操作方法を習得する。

学習の到達目標 Webページを閲覧して必要な情報を取得するとともに、文書作成ソフト (Microsoft Word) や表計算ソフト (Microsoft Excel) のグラフ機能等を利用して文書を作成し、それを電子メールで送受信できるようにする。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピューターによる情報利用の基礎編

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 電子メールの送受信 (ファイル添付等) 及びWebによる情報検索

第3～7回 Microsoft Wordによる文書作成

第8～12回 Microsoft Excelによる統計処理

受講要件

本講義では、パソコンの基礎的な操作から各種ソフトウェアの基礎的な利用方法を取り扱う予定である。

したがって、基礎的な操作・利用方法は習得しており、かつ統計データの分析等、より実践的な学習を希望する学生は、この科目ではなく情報科学基礎Bを受講することが望ましい。

発展科目 情報科学基礎B

教科書 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健『Microsoft Office 2010を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、2011年。

参考書 適宜講義中に紹介する。

成績評価方法と基準 出席 20%、課題提出 80%、計100%。(合計が60%以上で合格)

第13～16回 プレゼンテーション、レポート作成その他

学習課題 (予習・復習)

基本的な操作方法についてテキスト等で予習復習を行うこと。

各回の課題について講義時間内に提出ができない場合には、次回までに完成させること。

情報科学基礎B

An introduction to Information Literacy B

学期 前期 開講時間 水 7, 8 単位 2 対象 人文学部法律経済学科の学生のみ受講できる 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 実習

授業の特徴 Moodle

担当教員 三重 遷一 (非常勤講師)

授業の概要 法律経済学科の学生における研究活動にとって必要な情報処理の知識や技能を修得する。

学習の目的 様々な統計データやアンケート調査結果等をMicrosoft Excelを用いて集計し、分析し、その結果をMicrosoft Power Pointを用いて効果的にプレゼンテーションできるようになる。

学習の到達目標 Microsoft Excelの応用的な操作(グラフ、関数の活用やデータベースを用いたクロス集計分析等)とMicrosoft Power Pointの基本的な操作ができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード コンピューターによる情報利用の基礎編

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 電子メールの送受信(ファイル添付等)及びWebによる情報検索

第3~7回 Microsoft Wordによる文書作成

第8~12回 Microsoft Excelによる統計処理

受講要件 本講義では、パソコンの基礎的な操作から各種ソフトウェアの基礎的な利用方法を習得している学生を対象としている。

教科書 特に使用しない。

参考書 切田節子・三浦信宏・小林としえ・乙名健『Microsoft Office 2010を使った情報リテラシーの基礎』近代科学社、2011年。

成績評価方法と基準 出席20%、課題提出80%、計100%。(合計が60%以上で合格)

その他 後期の「情報科学基礎B」と同一内容となっている。また、「情報科学基礎A」「情報科学基礎B」の2つ(合計4単位)を履修しても卒業要件として認められる単位は2単位までである点に留意されたい。

第13~16回 プレゼンテーション、レポート作成その他

学習課題(予習・復習)

基本的な操作方法についてテキスト等で予習復習を行うこと。

各回の課題について講義時間内に提出ができない場合には、次回までに完成させること。

留学生支援実践 (留学生支援実践)

Foreign Student Support Training

学期 後期 開講時間 水 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要 三重大学の外国人留学生の実態やニーズを把握し、留学生支援のために学生が何ができるのかを素材にしたプロジェクト活動に携わることを通して、国際性とコミュニケーション力を育成する。

学習の目的

三重大学に在籍する学生の多様性を理解し、交流に臆すること無く挑戦し、様々な交流を体験することができる。

留学生支援に関するニーズを理解し、自分に何ができるかを考えて行動する姿勢を示すことができる。

学習の到達目標

三重大学に在籍する学生の多様性を理解できるようになる。

留学生と積極的に交流することができるようになる。

支援ニーズを理解し、自分に何ができるかを考えて行動する姿勢を示すことができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 留学生支援、交流、支援ニーズ

学習内容

授業を通して、以下を組み合わせで行う。

・三重大学にいる外国人留学生の実態とニーズを把握する。

・留学生支援のニーズに応じたプロジェクトに分かれて、企画を検討し実践する。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー、キャリアプランニング

発展科目 学習支援実践、こころのサポート、および各種キャリア教育科目

成績評価方法と基準 毎回のMoodle課題提出50%、グループ課題25%、活動への参加度25%により総合的に判断する。

授業改善への工夫 学生のコメントおよび授業アンケートをもとに改善に努めます。

その他 キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム初級の選択必修科目(キャリア実践科目)の一つです。2月に予定しているアカデミックフェアで成果を発表します。

・学びを発表することを通じて、学びのふりかえりと相互に刺激を与え合う。

1. オリエンテーション
- 2・3. 留学生ニーズの把握と理解
- 4~11. プロジェクト学習
- 12~: まとめと発表
15. ふりかえりと総括

障がい学生支援実践 (障がい学生支援実践)

Support for Students with Disabilities

学期 後期 **開講時間** 火3,4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択必修 **授業の方法** 講義, 演習, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 荒川哲郎 (教育学部), 大谷正人 (教育学部), 菊池紀彦 (教育学部), 郷右近歩 (教育学部), 栗田季佳 (教育学部), 後藤綾文 (学生総合支援センター), 生川友恒 (非常勤講師), 前川賢一 (非常勤講師), 稲垣智子 (非常勤講師), 横山慶 (非常勤講師), 倉野直紀 (非常勤講師)

授業の概要 今日、ノーマライゼーション (あらゆる活動にすべての人が平等に参加できる) 社会の実現が求められている。大学への進学も社会参加の一つと捉えた場合、障がいのある学生の修学について、その人の疾病や機能の問題だけでなく、教育支援や生活支援についても考える必要がある。この授業では、さまざまな障がいの実態について実習形式で学ぶとともに、事例検討を通して障がい学生支援が障がい学生のためだけの支援ではなく、すべての学生にとって教育的な価値があるということを理解することを目的とする。

学習の目的

- 1.障がいについての正しい理解ができるようになることを目的とする。
- 2.障がい学生の自立につながる支援について学ぶ。
- 3.三重大の資源や個性、歴史を活かした支援のあり方について考えることができるようになる。

学習の到達目標

- 1.さまざまな障がい (視覚・聴覚・肢体不自由等) について、講義や実習を通して理解できる。
- 2.障がい学生にとって必要とされる支援の内容

授業計画・学習の内容

キーワード 障がい学生、支援、福祉、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由

Key Word(s) Students with Disabilities, Support, Welfare, Visual Disturbance, Hearing Impairments, Physically Handicapped

学習内容

について理解できる。
3.三重大における障がい学生支援を充実するための方策について考えることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2015年度の「アカデミックフェア」(2016年2月頃に開催予定)に参加が可能であること。

教科書 授業のなかで適宜紹介します

参考書 授業のなかで適宜紹介します

成績評価方法と基準 出席 50%、レポート 50%で評価します (レポートは5回程度課します)。

オフィスアワー 毎週月曜日10:30~12:00, 教育学部2号館5階, 菊池研究室

その他 キャリア・ピアサポーター基礎資格を取得するためには、「4つのカスタートアップセミナー」で8以上の成績を収め、「キャリアプランニング」の単位を取得し、この授業を含む「実践科目」のうちの1科目の単位を取得することが要件となる。

- 1.オリエンテーション、ユニバーサルデザインについて
- 2.障がい者・高齢者体験
- 3.本学定業務センターキャンパス環境整備室との交流①
- 4.本学定業務センターキャンパス環境整備室との交流②

5.聴覚障がいについて（当事者からの話題提供）

6.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験①）

7.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験②）

8.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験③）

9.視覚障がいについて（視覚障害のある人の日常生活）

10.視覚障がいについて（アイマスク、白杖を用いた体験①）

11.視覚障がいについて（アイマスク、白杖を

用いた体験②）

12.発達障がいについて

13.アカデミックフェアに向けて①

14.アカデミックフェアに向けて②

15.アカデミックフェアに向けて③

16.授業のまとめ

学習課題（予習・復習）

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）における「障害学生修学支援情報」のホームページを閲覧し、情報収集に努めること。

URL: http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/index.html

ピアサポート実践 (ピアサポート実践)

Training for peer support

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 鈴木 英一郎 (学生総合支援センター)

授業の概要

・多様な環境と可能性を持つ者同士が相互に尊重し合うことが求められる今の社会において自己・他者を尊重する姿勢を学ぶことで社会人としての姿勢の獲得を目指す。

・さらに大学を一つの社会に見立て、学内に存在する多様な支援資源を最大限に活性化させ、相互に支援し合う取り組み(ピアサポート活動)を通して相互支援の姿勢を実践する。

学習の目的

・三重大学学生支援方針をもとに、相互尊重と他者支援の基本的な考え方を理解することができる。

・現在ある資源を活用し、相互に支援し合うシステムを構築する姿勢を身につけることができる。

・そのために必要な行動力、思考力、調整力を発揮することができる。

学習の到達目標

・三重大学学生支援方針をもとに、相互尊重と他者支援の基本的な考え方を説明することができる。

・学内に現在ある資源を活用し、相互に支援し合うシステムを構築する考えを提案することができる。

・三重大学学生支援方針の考え方を理解し、その視点から大学における学生支援活動として自分たちにできる取り組みを実践することができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 三重大学学生支援方針、相互支援、ピアサポート

学習内容

1. 大学コミュニティ全体を対象として、今ある資源を最大限に活用して相互に支援するとい

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、幅広い教養、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

平成26年度以前の入学者については、「スタートアップセミナー」および「キャリアプランニング」を履修済み、または履修中であること。

また受講学生は、今後継続的にピアサポーター学生委員会への参加を目指す者で、上級生を優先する(上限20名)。

予め履修が望ましい科目

- ・スタートアップセミナー
- ・キャリアプランニング
- ・AIポジティブ思考法

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書

教科書は使用しない。
参考文献は適宜紹介する。

参考書 参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席(30%)および期末レポート(70%)によって総合的に評価します。

オフィスアワー 金曜: 15:00~16:00

授業改善への工夫 受講生のコメントをもとに授業改善への対応を行います。

う考え方についての講義。

2.

受講生と同じ三重大生(仲間)の学生生活への適応や資質向上に寄与すると考えられる「ミニシンポジウム」企画をグループで検討・実施する。

3.

具体的には、「テーマの選定」「テーマに沿ったシンポジストの選出や依頼」「各話題提供やディスカッションの内容についての検討」「シンポジウム実施時の役割分担」「広報」等の作業を含む。

学習課題（予習・復習）

毎回の授業に積極的に参加すること。

また、授業ではグループワークが主となるため、グループのメンバーに迷惑をかけるような行為（遅刻、欠席、非協調的な態度など）は慎むこと。

ピアサポート実践 (ピアサポート実践)

Training for peer support

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤 綾文

授業の概要

・多様な環境と可能性を持つ者同士が相互に尊重し合うことが求められる今の社会において自己・他者を尊重する姿勢を学ぶことで社会人としての姿勢の獲得を目指す。

・さらに大学を一つの社会に見立て、学内に存在する多様な支援資源を最大限に活性化させ、相互に支援し合う取り組み(ピアサポート活動)を通して相互支援の姿勢を実践する。

学習の目的

・三重大学学生支援方針をもとに、相互尊重と他者支援の基本的な考え方を理解することができる。

・現在ある資源を活用し、相互に支援し合うシステムを構築する姿勢を身につけることができる。

・そのために必要な行動力、思考力、調整力を発揮することができる。

学習の到達目標

・三重大学学生支援方針をもとに、相互尊重と他者支援の基本的な考え方を説明することができる。

・学内に現在ある資源を活用し、相互に支援し合うシステムを構築する考えを提案することができる。

・三重大学学生支援方針の考え方を理解し、その視点から大学における学生支援活動として自分たちにできる取り組みを実践することができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 三重大学学生支援方針、相互支援、ピアサポート

学習内容

1. 大学コミュニティ全体を対象として、今ある資源を最大限に活用して相互に支援するとい

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、幅広い教養、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

平成26年度以前の入学者については、「スタートアップセミナー」および「キャリアプランニング」を履修済み、または履修中であること。

また受講学生は、今後継続的にピアサポーター学生委員会への参加を目指す者で、上級生を優先する(上限20名)。

予め履修が望ましい科目

- ・スタートアップセミナー
- ・キャリアプランニング
- ・AIポジティブ思考法

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書

教科書は使用しない。
参考文献は適宜紹介する。

参考書 参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席(30%)および期末レポート(70%)によって総合的に評価します。

オフィスアワー 金曜: 15:00~16:00

授業改善への工夫 受講生のコメントをもとに授業改善への対応を行います。

う考え方についての講義。

2.

受講生と同じ三重大生(仲間)の学生生活への適応や資質向上に寄与すると考えられる「ミニシンポジウム」企画をグループで検討・実施する。

3.

具体的には、「テーマの選定」「テーマに沿ったシンポジストの選出や依頼」「各話題提供やディスカッションの内容についての検討」「シンポジウム実施時の役割分担」「広報」等の作業を含む。

学習課題（予習・復習）

毎回の授業に積極的に参加すること。

また、授業ではグループワークが主となるため、グループのメンバーに迷惑をかけるような行為（遅刻、欠席、非協調的な態度など）は慎むこと。

学生生活支援実践 (学生生活支援活動実践) Training for Supporting Students

学期 後期 開講時間 水5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 鈴木 英一郎 (学生総合支援センター)

授業の概要 学生支援に求められる考え方を理解し、様々な背景を持つ学生がいかに充実した大学生活を送るか、そのために同じ学生として自分たちに貢献できることはなにか、についてグループで検討し、それに基づく実践を行なう。

学習の目的

・学生支援の考え方を理解し、その視点から大学コミュニティに対して自分たちが貢献できることは何かについて考えることができる。

・グループ毎に一つの学生支援企画を検討・実践する過程で、三重大の学生支援に関する課題を見つけ、その解決について考えることができる。

・グループ活動を通じて、社会人として求められる能力とは何かについて、考察することができる。

学習の到達目標 ・学内の様々な学生主体の活動に積極的に参加していく。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション

授業計画・学習の内容

キーワード 種々の学生支援活動に関する理解と実践

学習内容

以下のような内容を予定している。

1. 大学コミュニティ全体を対象とした「学生支援」という考え方についての講義。
2. 現在備えている「援助資源」を探するための全体ワーク。
3. グループワークによる、同じ学生の立場からできる学生支援企画の検討と実践。

力を総合した力

受講要件 2月に開催予定の「アカデミックフェア」に参加が可能であること。

予め履修が望ましい科目

- ・スタートアップセミナー
- ・キャリアプランニング

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席と期末レポートにより総合的に判断する。

オフィスアワー 水曜10:00~12:00 「学生なんでも相談室」

授業改善への工夫 授業の感想や授業評価アンケートの結果を参考にする。

その他 キャリア・ピアサポーター初級資格を取得するためには、「スタートアップセミナー」および「キャリアプランニング」の単位を取得し、この授業を含む「キャリア実践科目」のうちの1科目の単位を取得することが要件となる。

4. グループ単位での実践内容の振り返り(考察)。

5. 「実践報告会」におけるグループ発表。

学習課題(予習・復習)

毎回の授業に主体的に参加すること。

また、授業ではグループワークが主となるため、グループのメンバーに迷惑をかけるような行為(遅刻、欠席、非協調的な態度など)は慎むこと。

学習支援実践 (学習支援実践A)

Facilitator Training for Active Learning

学期 前期 **開講時間** 木7,8 **単位** 2 **対象** 「4つのカスタートアップセミナー」の単位を、8以上の成績で取得していること。「学習支援実践」の単位をすでに取得している者は、重複して受講することはできない。**年次** 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択

授業の方法 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 長濱文与・守山紗弥加・下村智子 (教養教育機構)

授業の概要 授業におけるファシリテーションの考え方や具体的な視点について学び、それらを基盤として「スタートアップセミナー」におけるファシリテーション実践を行う。「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」を総合した「生きる力」を自ら活用し、他者を支援する力を育成する。

学習の目的 「スタートアップセミナー」受講生の学習活動を効果的に支援できるようになる。

学習の到達目標

1. 「スタートアップセミナー」の目的を説明できる。
2. 授業におけるファシリテーションの考え方や具体的な視点について説明できる。
3. 2.を基盤とした初歩的なファシリテーションができる。
4. ファシリテーションに関する学習成果をまとめ、発表できる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション

授業計画・学習の内容

キーワード 4つの力、ファシリテーション、能動的学習

Key Word(s) Four Key Abilities, Facilitation, Active Learning

学習内容

第1回 オリエンテーション (「スタートアップセミナー」の説明と担当決め)

第2回～第13回 毎回、以下の内容を行う

- ①ファシリテーションの考え方、具体的な視点の学習
- ②実践の振り返り

シオン, 主体的学習力, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

「4つのカスタートアップセミナー」の単位を、8以上の成績で取得していること。

「学習支援実践」の単位をすでに取得している者は、重複して受講することはできない。

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、ファシリテーション実践40%、最終課題 (ファシリテーションについての発表) 30%

オフィスアワー 第1回授業で伝達する

授業改善への工夫 ・授業全体の計画を明確に示す

③次回のポイントの理解

第14回 ファシリテーションについての学習成果発表

第15回 ふり返り

学習課題 (予習・復習)

1. 配布する資料にしたがって、ファシリテーションのポイントや次回内容など、予習を行う。
2. 毎回の授業でファシリテーション実践についての振り返りを共有するので、意見をまとめておくこと。

学習支援実践 (学習支援実践B)

Learning Support Training

学期 前期 開講時間 水 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤 綾文

授業の概要 三重大大学に在籍する留学生の日常的な日本語コミュニケーションに関する状況を知る。留学生が日本語コミュニケーション力の習得するための支援に関して、講義・実践から学ぶ。

学習の目的 日本語を母語としない留学生が日本語を学習するための支援に関する姿勢、態度、知識を得る。ことばを教えることを考えるにあたって、母語に対する知識やコミュニケーションの原理についてより深く学ぶ。

学習の到達目標

- ・日本語を母語としない留学生に対して、日本語を学習するための支援に関して学ぶことで、「支援」について考えることができる。
- ・日本語の学習について考えていく中で、母語に対する知識やコミュニケーションの原理についてより深く学ぶ。
- ・三重大大学に在籍する学生の多様性に対して共感し、日本語と日本文化についてふりかえる。また相互交流を通して、国際性を高める。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本語、支援、留学生、チューター

学習内容

受講生のニーズ等を配慮しながら、主に以下の内容を扱う。

- ・留学生を「支援」すること、留学生の望む支援について考える
- ・実際に留学生に関わった経験についてふりかえる
- ・三重大大学に在籍する留学生の日本語コミュニケーション力と学習スキルを把握する

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 専門知識・技術, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー、留学生支援実践

発展科目 こころのサポート、および各種キャリア教育科目

教科書 授業の中で提示する。

成績評価方法と基準 出席25%、毎回のMoodle課題提出25%、グループ課題25%、活動への参加度25% 計100% (合計が60%以上で合格)

授業改善への工夫 授業の感想や授業評価アンケートの結果を参考にする。

その他 受講生の人数により授業の進め方を修正するため、最初の授業に必ず出席すること。

・国際交流センターで、留学生に対して行われている授業内容を知る

- ・留学生の日本語コミュニケーション力を向上させるための知識・支援方法を得る
- ・留学生に対する学習支援方法を探り、実践する。

学習課題 (予習・復習) 毎回授業の振り返り、およびMoodle上に課題を提出する。課題は、毎時間授業の中で提示されるので、欠席をしないように。

広報実践 (広報誌編集実践)

Training for Public Relations

学期 後期 開講時間 木7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 演習, 実習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 村上 克介(生物資源学部)

授業の概要

三重大学広報誌「MIU」は学生編集、大学発刊の情報誌として年1回刊行される。

編集組織は教員編集委員(委員長: 学生総合支援担当副学長と学生支援に係わる教員)および学生編集委員から成る。

本講義の受講者は、学生編集委員となり、学生として大学から広報誌を通じて発信したい情報を提案し、取材、執筆、編集、構成、査読、校正、印刷、出版、を担当教員、共通教育事務スタッフ、出版社、印刷所等の指導助言を経て完成に至るプロセスを実践する。

学習の目的 キャリア実践の実例として、出版物の概要とプロセスの理解ができる。

学習の到達目標 取材、執筆、編集、構成、査読、校正、印刷、出版の一連のプロセスを実践、経験し、出版物作成の基本を学ぶ。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 取材、執筆、編集、構成、査読、校正、印刷、出版、

学習内容

- 1.概要説明、スタッフ紹介、学生自己紹介
- 2.論文、著書なども包括した出版物の作成の全体プロセス
- 3.広報誌の歴史
- 4.次回広報誌MIUの構成計画
- 5.取材、執筆 (1)
- 6.取材、執筆 (2)
- 7.取材、執筆 (3)
- 8.中間編集委員会
- 9.取材、執筆 (4)
- 10.全体調整会議

受講要件 学外での取材等の活動があるため、学生教育研究災害傷害保険に加入していない学生の履修はできません。類似の保険は、加入の確認が学生サービスチームでできないため認めていません。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 主題「生きる力とキャリア形成」に属する科目

教科書 必要な資料は配布またはムードルに掲載する。

成績評価方法と基準 出席、実地での取り組み、成果物

オフィスアワー 毎週金曜日1200-1300、生物資源414または419号室

その他 キャリアピアサポーター初級資格取得のためには、実践科目のうち一科目を選択履修しなければならない。受講生は、学習成果を三重大学アカデミックフェアにおいて発表する、または、企画、運営への参加が要件となるので、その日を予定に入れておくこと

- 11.印刷所との打ち合わせ
- 12.校正作業
- 13.納品、仕分け、配布
- 14.15.三重大学アカデミックフェア参加・発表
- 16.評価会

学習課題 (予習・復習)

予習は必要としないが、各回に出た課題は次回までにこなし、次回に状況を報告する。毎回各自当日の作業報告を所定用紙で行う。12月初旬に、仮原稿を教員に提出し査読を受け、指摘事項を訂正して12月最終授業日には、仮入稿を完了する。1月は校正の実施と仕上げ期間となる。

広報実践 (大学紹介実践)

Public Relations & Communication

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要 学内の大学広報を扱う部署と連携し、その支援ニーズに応じた、かつ学生という立場から関わるができる大学広報活動について、グループワークにより実践する。

学習の目的

- ・学内で取り組まれている実際の業務に触れて、仕事の意味を考える。
- ・自分たちに求められているもの（ニーズ）と、それに対して学生という立場から提供できるもの（シーズ）とを良く理解する。
- ・グループワークによって一定の成果を上げるために必要な行動力、思考力、調整力を発揮することができる。

学習の到達目標

- ・大学広報に関連して、現在あるニーズを理解することができる。
- ・ニーズに応じて自分たちにできる取り組みを実践し、一定の成果を上げることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度,

授業計画・学習の内容

キーワード 大学広報、支援ニーズ

学習内容

1. 「連携・協働とはなにか」、「現在の本学の広報戦略」、等についての講義。
2. グループワークによる、ニーズに応じた大学広報活動の提案・検討と実践。
- 3.

感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 平成26年度以前の入学者については、「4つのカスタートアップセミナー」および「キャリアプランニング」を履修済み、または履修中であること。

予め履修が望ましい科目

- ・スタートアップセミナー
- ・キャリアプランニング
- ・AIポジティブ思考法
- ・こころのサポート

発展科目

- ・実践を含む科目
- ・各種キャリア教育科目

参考書 参考文献は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 毎回の授業後に出題する課題(30%)と最終レポート課題 (50%)、プロジェクトへの取組み (20%) によって総合的に評価する。

授業改善への工夫 受講生のコメントをもとに授業改善への対応を行います。

プロジェクトの進捗状況の確認のために、授業内において随時プレゼンテーションの機会を設ける。

学習課題（予習・復習）

毎回の授業に積極的に参加すること。
また、授業ではグループワークが主となるため、グループのメンバーに迷惑をかけるような行為（遅刻、欠席、非協調的な態度など）は慎むこと。

キャリアプランニング (キャリアプランニング)

Career Planning

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 長谷川 岳雄 (学生総合支援センター)

授業の概要 大学を卒業して、社会に出るといふ転機は、人生のなかでも大きな転換期のひとつです。その大きな節目のなかで、世の中、企業、働くということについて、深く考えるきっかけを提供します。また、「働き方」を取り巻く環境が大きく変化をしています。新たな時代においては、自分のキャリア形成を会社（組織）に委ねるのではなく、主体的にキャリア(職業人生)をデザインしていく必要があります。キャリアを「探す」・「選ぶ」のではなく、「創る」・「広げる」のです。この授業では、皆さんが社会に出て充実した職業人生を送るために、キャリアをデザインすることの重要性とその方法論を学びます。

学習の目的 この授業は、直接的に就活支援をするためのものではありません。皆さんが卒業後社会に出て充実した職業人生を送るために、また、貴重な大学生活を有意義に過ごすために、「働くということ」をテーマに、世の中と自分自身の人生について考え、実際に行動に移すきっかけを得ることを目的としています。

学習の到達目標

- ・キャリア開発に関する基本理論の概要を説明できる。
- ・節目におけるキャリアデザインの方法を説明できる。
- ・自分の強み、大切にしている価値観を自分の言葉で説明できる。
- ・自分のキャリアの方向性を認識し、その実

現に向け具体的に行動に移すことができる。

本学教育目標との関連 モチベーション、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発履科目 前期「キャリアインターンシップ1」、後期「仕事・社会を知る」、後期「キャリアイベント実践」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書

金井壽宏 (2002) , 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書, 842円
上記以外の参考図書は、授業で取り上げるテーマに関連して、適宜紹介します。興味を持ったらぜひ読んでみてください。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加（フィードバックシートの提出、授業中の態度・発言）40%
- ・中間課題（宿題）の提出 35%
- ・最終課題レポート（テッドライン以降の提出は認めない）25%

オフィスアワー 火曜日 16:30-17:30（アポイントを取れば、月～水随時）

授業改善への工夫 毎週受講生からフィードバックコメントを提出してもらい、次週に紹介し、それらに対する回答及び復習を行います。また、その内容により授業改善への対応を図ります。

授業計画・学習の内容

キーワード キャリア開発、キャリアデザイン、キャリア教育

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 企業から期待されている（求められてい

- る）能力・スキル
- 第3回 働くということ
- 第4回 キャリア開発理論の潮流
- 第5回 節目ごとのキャリア発達課題
- 第6回 節目でキャリアをデザインする方法
- 第7回 質問力をみがく

第8回 自分を知る①－自分の興味・関心を知る－

第9回 自分を知る②－自分の価値観を知る－

第10回 自分を知る③－自分の取扱説明書を知る－

第11回 世の中の変化と働き方の未来図

第12回 希望学－希望の作り方－

第13回 未来を構想する①－ビジョンを描く－

第14回 未来を構想する②－布石を打つ－

第15回 振り返り&課題レポート提出

キャリアプランニング (キャリアプランニング)

Career Planning

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 長谷川 岳雄 (学生総合支援センター)

授業の概要 大学を卒業して、社会に出るといふ転機は、人生のなかでも大きな転換期のひとつです。その大きな節目のなかで、世の中、企業、働くということについて、深く考えるきっかけを提供します。また、「働き方」を取り巻く環境が大きく変化をしています。新たな時代においては、自分のキャリア形成を会社（組織）に委ねるのではなく、主体的にキャリア(職業人生)をデザインしていく必要があります。キャリアを「探す」・「選ぶ」のではなく、「創る」・「広げる」のです。この授業では、皆さんが社会に出て充実した職業人生を送るために、キャリアをデザインすることの重要性とその方法論を学びます。

学習の目的 この授業は、直接的に就活支援をするためのものではありません。皆さんが卒業後社会に出て充実した職業人生を送るために、また、貴重な大学生活を有意義に過ごすために、「働くということ」をテーマに、世の中と自分自身の人生について考え、実際に行動に移すきっかけを得ることを目的としています。

学習の到達目標

- ・キャリア開発に関する基本理論の概要を説明できる。
- ・節目におけるキャリアデザインの方法を説明できる。
- ・自分の強み、大切にしている価値観を自分の言葉で説明できる。
- ・自分のキャリアの方向性を認識し、その実

現に向け具体的に行動に移すことができる。

本学教育目標との関連 モチベーション、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 前期「キャリアインターンシップ1」、後期「仕事・社会を知る」、後期「キャリアイベント実践」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書

金井壽宏 (2002) , 『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書, 842円
上記以外の参考図書は、授業で取り上げるテーマに関連して、適宜紹介します。興味を持ったらぜひ読んでみてください。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加（フィードバックシートの提出、授業中の態度・発言）40%
- ・中間課題（宿題）の提出 35%
- ・最終課題レポート（テッドライン以降の提出は認めない）25%

オフィスアワー 火曜日 16:30-17:30（アポイントを取れば、月～水随時）

授業改善への工夫 毎週受講生からフィードバックコメントを提出してもらい、次週に紹介し、それらに対する回答及び復習を行います。また、その内容により授業改善への対応を図ります。

授業計画・学習の内容

キーワード キャリア開発、キャリアデザイン、キャリア教育

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 企業から期待されている（求められてい

- る）能力・スキル
- 第3回 働くということ
- 第4回 キャリア開発理論の潮流
- 第5回 節目ごとのキャリア発達課題
- 第6回 節目でキャリアをデザインする方法
- 第7回 質問力をみがく

第8回 自分を知る①－自分の興味・関心を知る－

第9回 自分を知る②－自分の価値観を知る－

第10回 自分を知る③－自分の取扱説明書を知る－

第11回 世の中の変化と働き方の未来図

第12回 希望学－希望の作り方－

第13回 未来を構想する①－ビジョンを描く－

第14回 未来を構想する②－布石を打つ－

第15回 振り返り&課題レポート提出

キャリアプランニング (インターンシップ)

Career Internship

学期 前期集中 開講時間 水9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 長谷川 岳雄 (学生総合支援センター)

授業の概要

三重大学では、「感じる力」、「考える力」、「コミュニケーション力」、および総合力としての「生きる力」の育成を教育目標としています。本授業では、社会で「生きる力」の養成を目指し、大学と企業が連携をして、インターンシップ(就業体験)を提供します。

授業は、前期約8回の授業、夏休み期間中のインターンシップ(約2週間の就業体験)、および、受け入れ企業の社長や担当者を招いた最終報告会の3つのパートから成り立っています。

この授業は、投下する時間が多く、一見割の合わない授業に思われますが、昨年度の受講者を見てみると、大変得るものが多く、かつ、自分の成長を実感できる機会であると自信をもって言える内容となっています。

ぜひ、新たな挑戦をし、自らの可能性・枠を広げみてはどうでしょうか？

学習の目的

- ・インターンシップ(就業体験)を通じ、自己理解や取り組む課題を探索し、具体的な行動に移すきっかけを提供する。
- ・インターンシップ(就業体験)を通じ、社会で求められている能力・スキルを実感する。
- ・インターンシップ(就業体験)を通じ、働くことの実態、意義、面白みを体感する。
- ・授業を通して、社会人として必要なスキル・マナーを習得する。

学習の到達目標

- ・企業(社会)で何が求められているのかを

授業計画・学習の内容

キーワード インターンシップ、就業体験、社会人基礎力、社会人マナー

学習内容

前期授業は、原則隔週で実施します。

実感し、説明することができる。

- ・インターンシップで何を行い、何を学び、それをどう大学生活で生かしていくのかについて、プレゼンすることができる
- ・ビジネスメール、履歴書、お礼状の書き方を理解し、実践できる。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、課題探求力、問題解決力、情報発信力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・夏休み期間中(8月下旬から9月中旬)に、約2週間のインターンシップに参加します。その参加が必須条件です。
- ・学外実習に対応する保険加入が必要です。

予め履修が望ましい科目 前期・後期「キャリアプランニング」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書 授業で取り上げるテーマに関連して、適宜紹介します。興味を持ったらぜひ読んでみてください。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加(課題提出、授業中の態度・発言) 30%
- ・インターンシップ(受入企業からの評価等) 40%
- ・最終報告会(プレゼンテーション) 30%

オフィスアワー 火曜日16:30-17:30 (アポイントを取れば、月~水随時)

第1回 オリエンテーション

第2回 前期受講者の体験談

第3回 履歴書の書き方、メール・お礼状の書き方

第4回 ホームページから企業を読み解く

第5回 企業研究プレゼン

第6回 社会人マナー①

第7回 社会人マナー②&企業で成長する人の特徴

第8回 インターンシップの目標設定、実施前注意事項

8月下旬～9月中旬 インターンシップ (2週間)

9月下旬 最終報告会 (受入企業様来賓)

キャリアプランニング (キャリアイベント実践)

Training for Career Events Management

学期 後期 開講時間 水9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 実習 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 長谷川岳雄

授業の概要 実践的なキャリア教育に位置づけられる本授業では、三重大学における就職支援業務(就活イベント)を題材に、考える技術、伝える技術、問題を解決する技術、の育成を図ります。具体的には、就活イベント参加、アンケート分析、インタビュー調査等を行い、就活イベントの「報告書」と「企画書」を作成し、プレゼンテーションを行います。

学習の目的

- ・就活イベントの「報告書」「企画書」作成を通して、社会で必要とされる「考える技術」「伝える技術」「問題を解決する技術」を習得する。
- ・就職活動に対する知識を習得することを通して、就職活動に関する備えをする。
- ・就職支援チームとの連携を通じ、大学の就職支援業務を知るとともに、職員との交流を図る。

学習の到達目標

- ・「問題を解決する」プロセスを説明できる。
- ・「報告書」「企画書」に何を書けばよいのかを理解し、作成することができる。
- ・伝わりやすいプレゼンテーションの「型」

授業計画・学習の内容

キーワード 就職活動、ロジカル・シンキング、問題解決技法、プレゼンテーション

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 就活イベント参加
第3回 報告書の作り方&考える技術[基礎編]
第4回 図解の技術[実践編]
第5回 グループワーク
第6回 中間課題プレゼンテーション[報告書編]&振り返り

を理解し、実践できる。

- ・就職活動の流れとその内容を理解し、説明できる。

本学教育目標との関連 モチベーション、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、社会人としての態度

予め履修が望ましい科目 「キャリア形成・能力開発」を受講していることが望ましい

発展科目 キャリアピアサポーター資格教育プログラム関連科目。

教科書 必要に応じて必要な資料を授業で配布する。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加(課題提出、授業中の態度・発言) 40%、
- ・中間プレゼン[報告書編] 30%(グループ評価15%・個人評価15%)
- ・最終プレゼン[企画書編] 30%(グループ評価15%・個人評価15%)

オフィスアワー 火曜日 16:30-17:30 (アポイントをとれば、月～水随時)

授業改善への工夫 就職支援チームとの連携を強化

第7回 問題解決技法[基礎編]
第8回 問題解決技法[基礎編]
第9回 《ゲストスピーカー》(仮) 就活の実態と三重大学の就職支援
第10回 《ゲストスピーカー》(仮) Making of 就活イベント[企画の技術]
第11回 就活イベント参加
第12回 《ゲストスピーカー》(仮) 4年生に聞く「就活」の実態と課題
第13回 伝える技術[基礎編]
第14回 最終プレゼンテーション[リハ]

第15回 最終プレゼンテーション[企画書編]& 振り返り

学習課題（予習・復習） 三重大学の就活イベントの運営、アンケート分析、インタ

ビュー調査を通して、5名程度のグループで、「就活イベント」に関する企画プレゼンをしてもらいます。したがって、授業外でもグループワーク等を行う時間が必要となります。

キャリア形成 (キャリア形成)

Career Development

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 長谷川 岳雄(学生総合支援センター)

授業の概要 皆さんは、社会に出たらどのような能力・スキルを求められている(期待されている)と考えていますか? 経済産業省は、それらを「社会人基礎力」(「前に踏み出す力(アクション)」・「考え抜く力(シンキング)」・「チームで働く力(チームワーク)」)として提示しています。また、企業の採用選考で重視されている能力の筆頭は「コミュニケーション能力」です。この授業では、皆さんが社会に出て求められているコミュニケーション・スキルである「考える技術」・「伝える技術」の基本の「型」を学びます。

学習の目的 社会に出て求められる(期待されている)能力・スキルである「考える技術」・「伝える技術」の基本の「型」を習得し、大学生活で実践できるようにすることを目的としています。

学習の到達目標

- ・思考を整理する「型」を理解し、実践できる。
- ・相手に伝わりやすいメッセージを構築するための「型」を理解し、実践できる。
- ・相手に伝わりやすいプレゼンテーションの「型」を理解し、実践できる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 論理的思考力, 問題解決力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 一方的に聞くだけの講義ではな

授業計画・学習の内容

キーワード 考える技術、伝える技術、ロジカルシンキング、プレゼンテーション

学習内容

第1回 オリエンテーション

第2回 考える技術Ⅰー考えたり、伝えたりする前の作法ー

く、考える、対話する、発表する、を重視します。積極的に、楽しく授業に参加してください。ただし、グループで議論&プレゼンしてもらいますので、授業外でのグループ活動に参加し貢献することを受講要件とします。

発展科目 PBLセミナー「キャリア・イベント実践」、「キャリアインターンシップⅠ」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書

照屋華子・岡田恵子(2001), 『ロジカル・シンキング』東洋経済新報社, 2,310円
バーバラ・ミント(1999), 『考える技術・書く技術』ダイヤモンド社, 2,940円
ジーン・ゼラズニー(2004), 『マッキンゼー流プレゼンテーションの技術』東洋経済新報社, 2310円

成績評価方法と基準

- ・授業への参加(フィードバックシート提出、授業中の態度・発言) 35%、
- ・中間課題 30%、
- ・最終プレゼン&振り返りレポート 35%

オフィスアワー 火曜日16:30~17:30(アポイントをとれば、月~水随時)

授業改善への工夫 毎週受講生からフィードバックコメントを提出してもらい、次週に紹介し、それらに対する回答及び復習を行います。また、その内容により授業改善への対応を図ります。

第3回 考える技術Ⅱー思考を整理する4つの型①ー

第4回 考える技術Ⅲー思考を整理する4つの型②ー

第5回 考える技術Ⅳーわかる&つなげる①ー

第6回 考える技術Ⅴーわかる&つなげる②ー

第7回 考える技術VIーわかる&つなげる③ー
第8回 問題を解決する技術Ⅰー問題解決プロセスの基本型ー
第9回 問題を解決する技術Ⅱー問題解決プロセスの基本型ー
第10回 伝える技術Ⅰー構成のスキルー
第11回 伝える技術Ⅱー図解のスキルー
第12回 伝える技術Ⅲー伝達のスキルー
第13回 グループプレゼンテーション（課題発表）

第14回 グループプレゼンテーション（課題発表）

第15回 振り返り&振り返りレポート提出

学習課題（予習・復習） 授業で提供する「考える技術」・「伝える技術」の各スキルを活用し、「あるお題」に対して5名程度のグループで議論し、プレゼンテーションをしてもらいます。したがって、授業外でもグループワークを行う時間が必要となります。

キャリア形成 (仕事・社会を知る)

Work and Society

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 長谷川 岳雄(学生総合支援センター)

授業の概要 大学を卒業して、社会に出るといふ転機は、人生のなかでも大きな転換期のひとつです。その大きな節目のなかで、世の中、企業、働くということについて、考えるきっかけを提供します。この授業では、業界・企業研究、OBOG訪問をグループで行い、最終的にプレゼンテーションを行います。また、外部からゲストスピーカーを招き、実際に社会（会社）で働いている人から、取り組んできた仕事や一皮むけたターニングポイントの経験等を聞き、働き方・生き方に関して考える機会とします。

学習の目的 みなさんが多い就職活動を送るために、就職活動を先取りして、①業界・企業情報を収集・研究する、②OBOG訪問を行う、③ゲストスピーカー（ビジネスで活躍している人）との対話を通して、仕事・社会の一端を実感することを目的としています。

学習の到達目標

- ・業界・企業研究のやり方を理解し、実践できる。
- ・実際に社会で働く人の「一皮むけた経験」から、働くということの面白さを感じる。
- ・「働くこと」に関する法律の基礎知識を説明できる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 就職活動、業界・企業研究、OBOG訪問、プレゼンテーション

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 就活の実態と選考基準—就活、そして、人事部は何をみているのか—

受講要件 一方的に聞くだけの講義ではなく、考える、対話する、発表する、を重視します。積極的に、楽しく授業に参加してください。ただし、グループで議論&プレゼンしてもらいますので、授業外でのグループ活動に参加し貢献することを受講要件とします。

予め履修が望ましい科目 前期・後期「キャリアプランニング」

教科書 テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

参考書

授業で取り上げるテーマに関連して、適宜紹介します。興味を持ったらぜひ読んでみてください。

成績評価方法と基準

- ・授業への参加（フィードバックシート、授業中の態度・発言）40%
- ・中間課題 25%
- ・最終プレゼンテーション（全体・個人）& 振り返りシート 35%

オフィスアワー 火曜日16:30~17:30（アポイントをとれば、月~水のうち随時）

授業改善への工夫 毎週受講生からフィードバックコメントを提出してもらい、次週に紹介し、それらに対する回答及び復習を行います。また、その内容により授業改善への対応を図ります。

第3回 業界・企業・職種研究の仕方—ホームページから企業を読み解く—
第4回 自分の興味・関心を知る
第5回 業界・企業研究プレゼンテーション
第6回 企業が求めている人材・能力
第7回 労働法制の基礎知識 I & OBOG訪問企画会議

第8回 ゲストスピーカー（仮）「女性活躍推進とライフワークバランス」

第9回 ゲストスピーカー（仮）「三重大OBが語る“仕事・就活”」

第10回 労働法制の基礎知識Ⅱ & OBOG訪問企画会議

第11回 ゲストスピーカー（仮）「偶然を味方にする方法と自分グローバル化」

第12回 世の中の変化と働き方の未来図

第13回 プレゼンテーション準備

第14回 最終プレゼンテーション（企業研究 & OBOG訪問結果）

第15回 まとめ&振り返りシート提出

※ゲストスピーカーの都合により、日程・順番が変更になる場合があります。

学習課題（予習・復習） 5名程度のグループで、業界・企業研究及びOBOG訪問を実施し、最終的にプレゼンをしてもらいます。したがって、授業外でもグループワーク等を行う時間が必要となります。

アントレプレナー論 (起業マインドの醸成)

Introduction to Entrepreneurship

学期 前期 **開講時間** 金 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○山根栄次 (教育学部)、松岡守 (教育学部)、武田秀一 (非常勤講師)

授業の概要 起業のための基礎知識と方法を起業プランの作成を通じて実践的に獲得する。

学習の目的 社会をより良いものにしていくためには、与えられた仕事をただこなすのではなく、今のシステムのどこに問題があるのか気づくアンテナの繊細さ、そしてそれを発見したらどうすれば良いのかの企画力、そしてそれを形にする実践力が個々人に求められる。これは実際に起業をせずに一企業に所属する立場を継続する場合でも求められる姿である。このような一連の意識、知識、実践力を身に付けるのがこの授業の目的である。

学習の到達目標

- ・ 起業のための基礎知識を得る
- ・ 起業のための心構え、姿勢を獲得
- ・ 自ら課題を発見し解決する企画立案能力の

獲得

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

成績評価方法と基準 授業の中でのグループ討論、発表、レポートから評価する。

オフィスアワー 相談は武田 (dzq04343@nifty.ne.jp) まで電子メールで。直接相談が必要な場合は電子メールで日時等を設定の上、対応します。

その他 授業の進行上受講生は50名までとする。

授業計画・学習の内容

キーワード 起業マインドの醸成

学習内容

- 1 プログラム受講ガイダンス
- 2 アントレプレナーシップとは
- 3 起業の心構え
- 4 事業計画とは1
- 5 現役起業家 (ゲストスピーカー) による講義1
- 6 ビジネスアイデアの洗い出し

- 7 ビジネスプランの作成1
- 8 ビジネスプランの作成2
- 9 事業計画とは2
- 10 現役起業家 (ゲストスピーカー) による講義2
- 11 ビジネスプランの作成3
- 12 ビジネスプランの作成4
- 13 効果的なプレゼンテーションとは
- 14 プレゼンテーション資料作成
- 15 ビジネスプランの発表・総括

地域と仕事 (地域の仕事を考える)

Employment and Career Development

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 ○西村訓弘 (医学系研究科)、狩野幹人、八神寿徳、加藤貴也 (以上、社会連携研究センター)、矢野竹男、坂内正明 (以上、地域イノベーション学研究科)

授業の概要 日本社会は人口減少期に入り経済の停滞と閉塞感が漂っていると言われて久しい。しかしながら、地域社会を見渡すと三重県内には可能性が高く、活力に満ちた企業が数多く存在している。本授業では、ゲストスピーカーとして主に三重県を足場として日本国内に限らずグローバルに展開した企業経営を行っている経営者(社長クラス)を順次招聘し、経営者の立場から大学で学ぶ学生に期待することを語ってもらう。元気な経営者の生の声を聴き、自分の感覚で経営者の生きざまを感じ取ることで、就職を目指す学生諸君に、「働くことを通じた自己形成」について自ら考える機会を与える。

学習の目的 地域社会の中核人材として活躍する人材に必要な素養について理解できるようになる。

学習の到達目標 企業経営を行う人たちとの対話から、企業への就職など社会生活を通じた自己実現について熟慮できる能力を養成する。大学卒業後に社会人として生きるための基礎力を磨く。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、問題解決力、討論・対

話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 「働くことを通じて自己実現をはかる」ことを考えている学生であることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 第一回目の講義で招聘する企業名の一覧を提示するので、各企業の事業内容等についてホームページ等で事前に調べておくこと。

発展科目 特になし。

教科書 講義において各講師からの資料を配布する予定。

成績評価方法と基準 出席票(各講義についての感想を記述)50%、レポート(50%)によって評価する。

オフィスアワー

医学系研究科トランスレーショナル医科学(059-231-5405)まで問い合わせのこと。
担当: 田口、加藤

授業改善への工夫 毎回の講義において感想文を学生から提出させ、その内容を考慮した改善を行うことを計画している。

授業計画・学習の内容

キーワード 経営者との対話から就職を考える

Key Word(s) Committing for community and works

学習内容

本講義では、三重県内など地域社会の現場での活躍している経営者などをゲスト・スピーカーとして招聘し、ゲスト・スピーカーの活動内容、考え方を生の声として語っていただく。その後、教員が解説しながら地域社会で活躍するための考え方を学生との質疑を通して指導する。

第1回 就職を通じたキャリア形成について(担当: 西村)

第2回～第14回 地域の経営者に聞く(担当: ゲストスピーカーとして招聘する地域の企業経営者など)

三重県内など地域社会の現場での活躍している経営者などをゲスト・スピーカーとして招聘し、ゲスト・スピーカーの活動内容、考え方を生の声として語っていただく。

第15回 就職とキャリア形成のまとめ(担当: 西村)

授業終了時に提出するレポートでは、授業における習熟度を把握するために、全てのゲス

トスピーカーのお話を受けて自身が感じ取った「社会で働くこと」についての考えを自分の言葉としてまとめ、提出する。その際には、講義シリーズで心に残った講師を3名挙げ、なぜその講師の話聞いて心に残ったかについての説明とその結果として自分がどのように仕事に取り組みたいと思ったかについてを問うことを予定している。

学習課題（予習・復習）

第1回目の授業にて、本授業科目でお話を聞くゲストスピーカーの一覧表を提示するので、ゲストスピーカーの方々について、インターネットなどを利用して事前に背景を理解しておくことが望ましい。

各授業では、出席確認のための用紙を配布するので、この用紙にゲストスピーカーのお話を聞いたことに対する感想を各授業の終了時までに入力して、退出時に提出すること。その提出をもって各授業への出席とする。

社会連携型実践 (社会連携型実践A)

Social cooperation practice

学期 後期 **開講時間** 月7,8 **単位** 2 **対象** 最大50名程度が望ましい **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習, 実習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 ○西村訓弘 (医学系研究科・社会連携研究センター)、加藤貴也、八神寿徳、狩野幹人 (以上、社会連携研究センター)、矢野竹男、坂内正明 (以上、地域イノベーション学研究科)

授業の概要 地域社会が抱える現実の問題を理解し、その解決方法について考察する授業として実施する。本事業では、ゲストスピーカーとして招へいする地域社会で活躍する方々の生の声を聴き、その生きざまを感じ取った後、地域社会が抱える具体的な課題を題材にグループ討議を行い、解決策をまとめさせる。参考として、平成26年度には、鈴鹿サーキット、速水林業からゲストスピーカーを招聘し、現場見学とグループディスカッションを行うことで、これらの企業が抱える問題を解決するための提言を行った。

学習の目的 地域社会の課題を理解し、その解決に向けた考察を行うための基礎力を修得させるとともに、自身のキャリア形成に対する意識づけを行う。

学習の到達目標 自らのキャリア形成を考え行動するようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コ

ミュニケーション力を総合した力

受講要件 「働くことを通して自己実現をはかる」ことを考えている学生であることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 地域の仕事を知る

教科書 特になし。講義において印刷物を配布する予定。

参考書 地域社会の問題と解決に関する書籍、日本経済新聞など。

成績評価方法と基準 出席票 (各講義についての感想を記述) 50%、レポート (50%) によって評価する。

オフィスアワー

医学系研究科トランスレーショナル医科学 (059-231-5405) まで問い合わせのこと。
担当: 加藤、田口

授業改善への工夫 毎回の講義において感想文を学生から提出させ、その内容を考慮した改善を行うことを計画している。

授業計画・学習の内容

キーワード 地域社会、社会連携、キャリア形成、プロジェクト・マネジメント

Key Word(s) Community, Social cooperation, Carrier formation, Project management

学習内容

- 1週: 授業ガイダンスとグループ分け
- 2週: 地域社会の課題①について当事者からの話を聞く
- 3週: 地域社会の課題①に関する現地実習
- 4週: グループディスカッション: 方法の説明と実施
- 5週: グループディスカッション: 自由討議

- 6週: グループディスカッション: 発表資料の作成
- 7週: グループディスカッション・発表
- 8週: 地域社会の課題②について当事者からの話を聞く
- 9週: 地域社会の課題②に関する現地実習
- 10週: グループディスカッション: 方法の説明と実施
- 11週: グループディスカッション: 自由討議
- 12週: グループディスカッション: 発表資料の作成
- 13週: グループディスカッション・発表
- 14週: 授業の振り返りと全体議論

15週：授業の振り返りと全体議論の結果発表

学習課題（予習・復習） グループワークで発表を行ってもらうため、講義時間以外でも

グループで集まり討論する必要があります。
また、学外実習を2回行う予定であり、それが可能であることが望ましい。

知財学 (発明・知財学入門)

Intellectual Property Study

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○松岡 守 (教育学部)、狩野 幹人 (社会連携研究センター)、八神 寿徳 (社会連携研究センター)、世良 清 (非常勤講師)

授業の概要

- ・知財制度 (特許, 商標, 著作権等) のあらましと関係する実践を理解する
- ・創造性を引き出し, 生まれたアイデアを基に特許申請書の作成実践をする
- ・以上の知識と実践を通じて知財を尊重する意識を涵養する

学習の目的

- ・知財制度を理解し, 適切に対応できるようにする
- ・自らの創造性に自信を持ち, 豊かな社会の構築に貢献できる素養を獲得する

学習の到達目標

- ・知財制度と知財に対する正しい意識を持つ
- ・豊かな社会の構築につながる創造性, 生まれたアイデアを活用できるスキルを持つ

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合

した力

参考書

- 知的財産イノベーション研究の展望ー明日を創造する知財学ー
- 日本知財学会知財学ゼミナール編集委員会 (編)
白桃書房
- 知財教育の実践と理論 小・中・高・大での知財教育の展開
- 日本知財学会知財教育分科会編集委員会 (編)
白桃書房
(教育学部生向け)

成績評価方法と基準 レポート 50%、プレゼンテーション 50%

オフィスアワー

毎週月曜日 12:00~13:00, 場所: 教育学部技術棟 2階松岡教員室
メール (matsuoka@edu.mie-u.ac.jp) でまずはご相談ください。

授業計画・学習の内容

キーワード 発明、特許、著作権、知的財産

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 アイデア発想1
- 第3回 産業財産権とは
- 第4回 アイデア発想2
- 第5回 IPDL検索
- 第6回 特許出願の手続き
- 第7回 明細書作成
- 第8回 諸外国の取り組み、後半レポート課題説明
- 第9回 中学校・高校での知財学習の事例

- 第10回 特許行政
- 第11回 著作権
- 第12回 知財紛争劇
- 第13回 三重大学の発明と特許
- 第14回 三重大学の商品開発と商標
- 第15回 学習成果発表会 (レポート発表・プレゼン)
(2月 アカデミックフェアでポスター発表)
*協同学習法によりアイデア出しを行い, そのアイデアに基づく発明について特許申請書類を作成する演習を行う。実際の特許として見込みのあるものは申請手続きをする補助まで行う。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 鈴木 英一郎 (学生総合支援センター)

授業の概要 心理的問題が形成される背景や状況について考え、そういった問題にどのように対応するのか、また相談者とのように解決を作り上げていくのか等の心理的援助の実際について、講義と各種ワークを通して理解する。

学習の目的 共感的な態度で人と接する市民・職業人となるために、人の心理や心理的サポートに関する基礎的な知識を持つ

学習の到達目標

- ・心理的援助について、「コミュニケーション」という観点から考え、「心理的な問題の捉え方」やそれに対する「解決の導き方」についての実際を理解することができる。
- ・心理的なサポートを実践する上で求められる態度や振る舞いについて理解し、過不足のない適切なサポートとは何かについて考えることができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技

術, 問題解決力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 心理学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 講義中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席とレポートにより総合的に判断する。

オフィスアワー 月曜10:00~12:00「学生なんでも相談室」

授業改善への工夫 授業の感想や授業評価アンケートの結果を参考にする。

その他 「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」の上級資格取得要件のうち「選択必修科目C: 心的援助科目」群に属する科目である。

授業計画・学習の内容

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

学習内容

- 1.オリエンテーション (講義の進め方・課題についての説明) :
- 2.「こころのサポート」とは?:
- 3.「学生生活サイクル」について考える:
- 4.カウンセラーの相談技法 (援助的コミュニケーション) :
- 5.行動療法によるアプローチ① (学習理論について) :
- 6.行動療法によるアプローチ② (行動療法の技法) :
- 7.認知行動療法によるアプローチ:
- 8.システム理論とコミュニケーション:
- 9.二重拘束 (ダブルバインド) 理論:
- 10.リフレーミング技法:
- 11.例外を利用した問題解決アプローチ:
- 12.「こころのサポート」演習①:

13. 「こころのサポート」演習②:
14. 「こころのサポート」演習③:
15. これまでのまとめ:

学習課題（予習・復習）

- 1.
 - 2.
 - 3.
 - 4.
 - 5.
- 6.
 - 7.
 - 8.
 - 9.
 - 10.
 - 11.
 - 12.
 - 13.
 - 14.
 - 15.

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要

心理的問題が形成される背景や状況について考え、そういった問題にどのように対応するのか、また相談者どどのように解決を作り上げていくのかについて、講義と各種ワークを通して理解する。

また、他者に対する相談行動や、仲間、部活・サークル集団、企業組織などの集団内で対人関係についても見識を深める。

学習の目的 共感的な態度で人と接する市民・職業人となるために、人の心理や心理的サポートに関しての基礎的な知識を持つ。

学習の到達目標 心理的な問題が形成される背景や状況について、個人の要因だけでなく個人を取り巻く環境の要因などにも注目し、「心理的な問題の捉え方」やそれに対する「解決の導き方」について、多面的な捉え方をすることができる。心理的なサポートを実践する上で求められる態度や振る舞いについて理解し、過不足のない適切なサポートは何かについて考えることができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 心理的問題の理解と解決、心理的サポートの実際

学習内容

受講生のニーズ等を考慮しながら、適宜以下のようなテーマを扱う。

1. 心理的な問題が形成される背景
2. 大学生の「悩み」に対するイメージ
3. 他者に相談することの難しさ・サポートされることへの抵抗
4. 個人を取り巻く環境、集団という観点か

本学教育目標との関連 共感、倫理観、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、問題解決力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 心理学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 講義中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 授業中に出すミニレポートと期末レポート課題により総合的に判断する。

授業改善への工夫 毎回の授業の感想・ミニレポートの内容を参考にする。

その他 「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。

ら、心理的な問題を捉える

5. カウンセラーの聴き方・話し方

6. 事例から心理的サポートの実際について学ぶ

学習課題(予習・復習) 基礎的な心理学の知識があることにより、講義内容についてより深い理解が出来るものと思われる。よって、「心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みの受講生は再度復習をしておくことも勧める。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** 望木 郁代 (医学部)

授業の概要 こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。

学習の目的 現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。スムーズな支援が展開され、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。

学習の到達目標 自己そして他者のこころとからだの状態に気づき、ソーシャル・サポートを担えるコミュニティの一員として機能できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

教科書 使用しない。

参考書 講義中、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 試験40%、毎回のレポート30%、授業参加30%で評価する。

オフィスアワー 火曜日 9:00～12:00 医学部 (探索医学研究棟1F 教員室2)

授業改善への工夫 レポート課題や授業アンケートの内容から、受講生の要望や理解度を把握し、授業改善を進める。

その他

「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。後期末曜日5, 6時限開講の同名授業とは同じ内容を扱うので、履修はどちらか一方のみとすること。

なお、本授業は平成21年度までの「心理的援助論」に当たる科目であり、「心理的援助論」を既に履修済みの学生は履修できない。受講者人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード こころとからだ、自他理解、健康、心理的サポート

Key Word(s) Psychological support, Mental health

学習内容

- 第1回 科学としての心理学
- 第2回 心理学の研究法
- 第3回 ヒトという存在
- 第4回 「こころ」と「からだ」の関係
- 第5回 ストレスと健康
- 第6回 感情と行動①

- 第7回 感情と行動②
- 第8回 パーソナリティ
- 第9回 自己理解・他者理解①
- 第10回 自己理解・他者理解②
- 第11回 原因帰属
- 第12回 心理療法①
- 第13回 心理療法②
- 第14回 カウンセリング体験①
- 第15回 カウンセリング体験②
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 毎週、授業の振り返りと来週の課題を、Moodleで提出する。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 後期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** 望木 郁代 (医学部)

授業の概要 こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。

学習の目的 現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。スムーズな支援が展開され、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。

学習の到達目標 自己そして他者のこころとからだの状態に気づき、ソーシャル・サポートを担えるコミュニティの一員として機能できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

授業計画・学習の内容

キーワード こころとからだ、自他理解、健康、心理的サポート

Key Word(s) Psychological support, Mental health

学習内容

- 第1回 科学としての心理学
- 第2回 心理学の研究法
- 第3回 ヒトという存在
- 第4回 「こころ」と「からだ」の関係
- 第5回 ストレスと健康
- 第6回 感情と行動①

教科書 使用しない。

参考書 講義中、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 試験40%、毎回のレポート30%、授業参加30%で評価する。

オフィスアワー 火曜日 9:00～12:00 医学部 (探索医学研究棟1F 教員室2)

授業改善への工夫 レポート課題や授業アンケートの内容から、受講生の要望や理解度を把握し、授業改善を進める。

その他

「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。前期末曜日5, 6時限開講の同名授業とは同じ内容を扱ので、履修はどちらか一方のみとすること。

なお、本授業は平成21年度までの「心理的援助論」に当たる科目であり、「心理的援助論」を既に履修済みの学生は履修できない。受講者人数制限あり。

- 第7回 感情と行動②
- 第8回 パーソナリティ
- 第9回 自己理解・他者理解①
- 第10回 自己理解・他者理解②
- 第11回 原因帰属
- 第12回 心理療法①
- 第13回 心理療法②
- 第14回 カウンセリング体験①
- 第15回 カウンセリング体験②
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 毎週、授業の振り返りと来週の課題を、Moodleで提出する。

A-Iポジティブ思考法 (AIポジティブ思考法)

Introduction to Appreciative Inquiry

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 川島 一晃 (非常勤講師)

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協働的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的 授業が終了した時点で、学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。

学習の到達目標

- ・自分と他人の良さを認めることができる。
- ・前向きな態度を持つことができる。
- ・他人の意見を尊重することができる。
- ・異なった意見を調整することができる。
- ・建設的な意見を出そうとする態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,問題解決力,討論・対話力,指導力・協調性,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ワークショップを行うために、40名を上限とする。受講者多数の場合には、選

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

アプリシエーティブ・インクワイアリーについての概説およびワークショップを行う。

1. アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- 2~3. 共感的に聞く方法と実践

定を最初の授業で行うので、欠席をしないように留意してください。

予め履修が望ましい科目 キャリアプランニングを履修していることが望ましい

発展科目 キャリアの要素を含む科目、実践を伴う科目の履修によって、本科目で得られた知見を応用できるでしょう。

教科書 ダイアナ・ホイットニー他著『ポジティブ・チェンジャー主体性と組織力を高めるAI』ヒューマンバリュー、2006年。

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、グループ活動40%、個人課題評価30%によって総合的に判断する。

オフィスアワー 金曜日：15：00～16：00

授業改善への工夫 授業アンケート等の学生の声を反映させ、改善する。

その他 アプリシエーティブ・インクワイアリーは、大学、学校、自治体、企業、NPO、福祉、医療現場、国際協力などの領域で、世界各地で用いられている手法です。この手法を教える授業は、日本の大学では初めてのものです。

4~6. 強みの発見

7~9. 夢を描く

10~12. デザインする

13~14. 実践する

15.まとめとふりかえり

学習課題 (予習・復習)

毎回課題を課します。

各自期限までにムードルにコメントをアップすること。

A-Iポジティブ思考法 (AIポジティブ思考法)

Introduction to Appreciative Inquiry

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 川島 一晃 (非常勤講師)

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協働的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的 授業が終了した時点で、学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。

学習の到達目標

- ・自分と他人の良さを認めることができる。
- ・前向きな態度を持つことができる。
- ・他人の意見を尊重することができる。
- ・異なった意見を調整することができる。
- ・建設的な意見を出そうとする態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ワークショップを行うために、40名を上限とする。受講者多数の場合には、選

定を最初の授業で行うので、欠席をしないように留意してください。

予め履修が望ましい科目 キャリアプランニングを履修していることが望ましい

発展科目 キャリアの要素を含む科目、実践を伴う科目の履修によって、本科目で得られた知見を応用できるでしょう。

教科書 ダイアナ・ホイットニー他著『ポジティブ・チェンジャー主体性と組織力を高めるAI』ヒューマンバリュー、2006年。

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、グループ活動40%、個人課題評価30%によって総合的に判断する。

オフィスアワー 金曜日：15：00～16：00

授業改善への工夫 授業アンケート等の学生の声を反映させ、改善する。

その他 アプリシエーティブ・インクワイアリーは、大学、学校、自治体、企業、NPO、福祉、医療現場、国際協力などの領域で、世界各地で用いられている手法です。この手法を教える授業は、日本の大学では初めてのものです。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

アプリシエーティブ・インクワイアリーについての概説およびワークショップを行う。

1. アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- 2～3. 共感的に聞く方法と実践

4～6. 強みの発見

7～9. 夢を描く

10～12. デザインする

13～14. 実践する

15. まとめとふりかえり

学習課題 (予習・復習)

毎回課題を課します。

各自期限までにムードルにコメントをアップすること。

A-Iポジティブ思考法 (AIポジティブ思考法)

Introduction to Appreciative Inquiry

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協同的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的

学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。グループ活動では、お互いにさまざまな考え方をもち他者と認めあい、議論しあい、課題に取り組む姿勢を得ることができる。

学習の到達目標

アプリシエーティブ・インクワイアリーの考え方を理解し、その視点から物事を捉えることができる。物事のポジティブな側面にきづくことができ、より発展していくためのアイデア、さらに自分ができることについても考えることができる。グループ活動を通して、お互いの意見を尊重

し、調整し、一つにまとめていくなどの社会人として求められる力を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、課題探求力、問題解決力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 グループで討議を行いますので、グループ活動に積極的に取り組むこと。

発展科目 主題Iにおけるキャリア実践科目

教科書 講義時に指示する。

参考書 講義時に適宜指示する。

成績評価方法と基準 課題コメント (25%)、グループ活動 (40%)、発表 (30%) による総合点により評価します。

オフィスアワー 水曜14:30-15:30

授業改善への工夫 毎週、受講生のコメントに対して次週にフィードバックの時間を設けます。回答により授業改善への対応を図りません。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

本授業は、アメリカを中心に実践されているアプリシエーティブ・インクワイアリーの教育方法を理解し、自分たち学生自身がいかに充実した大学教育を受けられるか、よりよい大学教育は何か、自分たちができることは何か、についてグループで検討を行う。「三重大学の教育をよりよくするには」という大きな課題に取り組む中で、問題解決をする一つ

の手段としてアプリシエーティブ・インクワイアリーの考え方を得て、グループ討論を通じて思考を深めていく。

第1回から第4回までの授業でアプリシエーティブ・インクワイアリーについて講義を行う。

- ・アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- ・共感的に聴く方法と実践

第5回からグループを編成する。学生は、アプリシエーティブ・インクワイアリーの教育方法に沿いながら、グループ毎に三重大学の強

み、よりよくするためのアイデア、そのアイデアを実践するための方法についてグループ討議を行う。

- ・強みの発見
- ・夢を描く
- ・デザインする
- ・実践する

第15回にまとめを行う。

学習課題（予習・復習）

授業ではグループワークなどの演習を行いますので遅刻は厳禁です。

身近な生活の中でアプリシエーティブ・インクワイアリーの考えを取り入れた課題に取り組み、その内容をMoodleに提出するという課題が出ます。

哲学A (「因果」とは何か)

Philosophy A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 ○遠山 敦 (人文学部)、片倉望 (人文学部)、藤田伸也 (人文学部)、秋元ひろと (教育学部)、馬原潤二 (教育学部)、森脇由美子 (人文学部)、久間泰賢 (人文学部)、田中綾乃 (人文学部)、薄井尚樹 (人文学部)、相澤康隆 (人文学部)、伊東祐之 (非常勤講師)、山岡悦郎 (非常勤講師)、小川真里子 (非常勤講師)、斎藤明 (非常勤講師)、桑原直己 (非常勤講師)

授業の概要 元来仏教の基本的な概念として日本に移入された「因果」は、現代においては論理の最も基本的な枠組みの一つとして科学的思考の基礎ともなっている。そうした「因果」概念について、それが西洋及び東洋においてどのように捉えられてきたかを、哲学、宗教、科学史、歴史、政治、芸術などをそれぞれの専門とする多彩な講師によるオムニバス形式の授業により、多角的な視点から明らかにする。

学習の目的 「因果」(原因と結果)を巡る東西の様々な思索を学ぶことを通じて、その現代的な意味について考える力を身につけることができるようになるとともに、「因果」を巡る諸問題に関して、その根源に立脚した思索を転回することができるようになる。

学習の到達目標 「因果」(原因と結果)が東西の諸思想においてどのような意味で捉

えられてきたかを知ることができる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 特に無し。

予め履修が望ましい科目 特に無し。

発展科目 哲学、倫理学、宗教学

教科書 秋元ひろと編『因果の探究』三重大学出版会

成績評価方法と基準 期末定期試験によって評価する。ただし5回以上欠席の場合は、評価の対象としない。

オフィスアワー 毎週金曜日 14:30～16:10 遠山研究室 (共通教育2号館2階)

その他 本講は、オムニバス形式で開講する。

授業計画・学習の内容

キーワード 因果

Key Word(s) causality

学習内容

第1回: 問題提起、日本における「因果」理解の特質

第2回: 「因果」の論理的把握

第3回: 科学史における「因果」関係把握

第4回: 歴史学と「因果」

第5回: 政治思想と「因果」

第6回: ギリシア哲学における「因果」

第7回: 西洋中世哲学における「因果」

第8回: 西洋近代哲学における「因果」①～デカルトを中心に～

第9回: 西洋近代哲学における「因果」②～

ヒュームを中心に～

第10回: 西洋近代哲学における「因果」③～カントを中心に～

第11回: 西洋現代哲学における「因果」

第12回: 仏教における「因果」①

第13回: 仏教における「因果」②

第14回: 中国古代哲学における「因果」

第15回: 東洋の美術と「因果」

※内容・順序等を変更する場合があります。詳しくは第1回ガイダンスにおいてお知らせします。

学習課題(予習・復習) 講義はテキストに即して進められる。予め該当箇所を熟読しておくこと。

倫理学A（「自然」について）

Ethics A

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 現在一般に使われている「自然」は、近代に入りnatureの訳語として次第に定着したものである。これに対して近代以前、「自然」は主に「ジネン」と読まれ、現在とは異なる意味を担うものであった。だがまた一方で、そうした「ジネン」は、natureの訳語としても妥当する意味内容を元来含み持つものであったともいえよう。本講では、仏教思想の理解の上に、こうした伝統的文脈における「自然」がどのようなものとして捉えられていたのかを考える。

学習の目的 伝統的な「自然」概念を、主として仏教の基本的思惟との関連から理解することを通じて、現代語「自然」の複合的な意味を理解することができるようになる。またそれによって、現代的なトピックである「自然」について、問題の根源から理解し考える力を身につけることができる。

学習の到達目標 現代社会においても注目すべき「自然」概念について、歴史的背景を学ぶことを通じて、その複合的な意味について理解し考える力を身につけることができる。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養,

専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特に無し。

予め履修が望ましい科目 特に無し。

発展科目 哲学、倫理学、宗教学

教科書 授業中にプリント資料を配付する。

参考書 柳父章『翻訳後成立事情』（岩波新書）

成績評価方法と基準 定期試験70%、中間レポート20%、質問票の内容10%

オフィスアワー 毎週火曜日10:20～12:00、遠山研究室（共通教育2号館2階）

授業改善への工夫 学生から提出された質問票やレポートについて授業中にコメントすることで、より主体的な学習へ導く。

その他 毎時間の終了時に、授業に関する簡単なコメントを求めると共に、疑問点を質問票に記入することを求める。

授業計画・学習の内容

キーワード 自然、仏教

Key Word(s)

nature, Buddhism

学習内容

- 第1回：導入～倫理とは～
- 第2回：問題提起～「自然」について～
- 第3回：大乘仏教の基本精神
- 第4回： //
- 第5回：『大乘起信論』の世界
- 第6回： //
- 第7回：天台本覚論について

- 第8回：文芸に見る本覚論の思惟
- 第9回：浄土教の「自然」理解（1）～源信～
- 第10回： //
- 第11回：浄土教の「自然」理解（2）～法然～
- 第12回： //
- 第13回：浄土教の「自然」理解（3）～親鸞～
- 第14回： //
- 第15回：まとめ

学習課題（予習・復習） 授業はプリント資料の読解を中心に進められる。予め配布された資料の読解、及び授業中指示した点に関してコメントの提出を求める。

倫理学B（「情」と「理」）

Ethics B

学期 後期 開講時間 火1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 遠山 敦 (人文学部)

授業の概要 日本近世の思想動向は、中国朱子学の「理」的世界観・人間把握の受容とそれに対する様々な変容や批判によって彩られている。本講では、そうした朱子学の理解の上に、伊藤仁斎や荻生徂徠といった古学派と、賀茂真淵や本居宣長らを中心とする国学の思想運動とに焦点を当て、彼らが人間の「情」的側面を「理」に対してどのように対置しようとしたのかを明らかにする。

学習の目的 儒教と国学について、基本的な理解を得るとともに、そこでは「情」が「理」との関係でどのように考えられていたのかを理解することができる。またそれを通じて、人間の道徳的な本性に関して、考える力を養うことができる。

学習の到達目標 儒教及び国学について基本的な知識をえることができる。また現代では「感性」という範疇で考えられる「情」について、それが倫理とどのような関わりを持つのかについて、理解し考える力を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思

考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特に無し。

予め履修が望ましい科目 特に無し。

発展科目 哲学、倫理学、宗教学

教科書 授業中にプリント資料を配付する。

参考書 フランソワ・ジュリアン『道徳を基礎づける』（講談社現代新書）

成績評価方法と基準 定期試験70%、中間レポート20%、質問票の内容10%

オフィスアワー 毎週金曜日14:30～16:10 遠山研究室（共通教育2号館2階）

授業改善への工夫 学生から提出されたりレポートや質問票の内容について授業中にコメントすることで、より主体的な学習へと導く。

その他 毎時間の終了時に、授業に関する簡単なコメントを求めるとともに、疑問点を質問票に記入することを求める。

授業計画・学習の内容

キーワード 儒教、国学、理、情

Key Word(s) Confucianism, Study of Japanese classical culture, reason, emotion

学習内容

第1回：導入～倫理とは～

第2回：問題提起～「良心」について～

第3回：朱子学の概要（1）

第4回：〃（2）

第5回：〃（3）

第6回：伊藤仁斎の古義学（1）

第7回：〃（2）

第8回：〃（3）

第9回：荻生徂徠の古文辞学（1）

第10回：〃（2）

第11回：賀茂真淵の国学思想

第12回：本居宣長の国学思想（1）

第13回：〃（2）

第14回：〃（3）

第15回：まとめ

学習課題（予習・復習） 授業はプリント資料の読解を中心に進められる。予め配られた資料の読解、及び授業中指示した点に関してコメントの提出を求める。

日本史A (日本古代史の諸問題)

Japanese History A

学期 前期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **対象** 日本史Ⅰ(2014年度)の単位修得者の受講は認めない。**年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文学部)

授業の概要 考古学・日本史における論争や近年の話題を取り上げて解説と分析をおこなう。

学習の目的 考古学や日本史の研究の現状と問題点を知り、それぞれの研究方法や根拠の相違について理解する。

学習の到達目標 見解が分かれる問題について、研究方法や根拠の相違を把握し、みずからも考える力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力

発展科目

日本史

日本考古学特講

参考書 適宜資料を配付する。

成績評価方法と基準 試験 60%、受講態度 40%

オフィスアワー 火曜日15:00~16:00

授業計画・学習の内容

キーワード 邪馬台国 卑弥呼 倭の五王

第2回~第9回 魏志倭人伝と邪馬台国・卑弥呼

第10回~第12回 倭の五王

第13回~第15回 古墳とその被葬者

第16回 試験

Key Word(s) Yamatai-koku, Queen Himiko, Five Kings of Wa

学習内容

第1回 講義方針の説明

学習課題(予習・復習) 講義時の配付資料をもとに復習すること。

日本史B (忍者の歴史)

Japanese HistoryB

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 市民開放授業
担当教員 山田雄司(人文学部)

授業の概要 忍者・忍術学

笠間書院、2014年

学習の目的 これまで日本史の研究からはまともにとりあげられてこなかった忍者について、どのような存在で、いかに変容してきたのか。具体的史料に基づき明らかにしていきます。

参考書

吉丸雄哉・山田雄司・尾西康充編『忍者芸芸研究読本』笠間書院、2014年

中島篤巳編『忍術伝書 正忍記』角川学芸出版、2014年

藤田西湖『當身殺活法明解』名著刊行会、2000年

藤田西湖『図解手裏剣術』名著刊行会、1999年

学習の到達目標 日本史上の諸問題について、新たな視点から考えていくヒントを得る。

成績評価方法と基準 レポート40%、期末テスト60%

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 伊賀忍者研究会編『忍者の教科書』

オフィスアワー 火曜日7・8限、場所山田研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 忍者・忍術学

第8回 立川文庫

Key Word(s) Ninja Ninjutsu

第9回 伊藤銀月の忍者研究

第10回 大正時代の忍者研究

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 忍者の概要

第3回 世界の忍者

第4回 「しのび」の実像

第5回 兵法から忍術へ

第6回 江戸の忍者

第7回 江戸時代の忍者

第11回 藤田西湖の忍者研究

第12回 奥瀬平七郎の忍者研究

第13回 忍者映画

第14回 忍者小説

第15回 現代の忍者

学習課題（予習・復習） 伊賀で講座を行っていますので、そちらにも積極的に参加して下さい。

日本史D (木簡から見た古代日本)

Japanese History D

学期 後期 **開講時間** 木3,4 **単位** 2 **対象** 日本史Ⅲ (2014年度以前)の単位修得者の受講は認めない。**年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 清水 みき(非常勤講師)

授業の概要 地中から発見された文字資料である木簡を主な素材として、従来の文献史料や考古学の成果と併せて比較考察し、具体的な歴史の事象を理解する。古代の木簡は日本律令国家の成立と支配組織について新しい知見を齎すばかりでなく、文化や庶民の日常生活までも考察できる貴重な歴史資料である。また世界の木簡事情も適宜紹介する。

学習の目的 国家の成立と支配の仕組みについて概観し、さらに古代の政治・税制・文化・地方の暮らしについて一次資料である木簡を素材として考察する。

学習の到達目標 従来は教科書や歴史書から日本の歴史を学んできたと思うが、土中から

甦った木簡を読み解くことで、《歴史を発見する》喜びを知ってほしい。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養

教科書 必要な資料をプリントして配付する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 授業への参加度20%、小文・レポート20%、期末試験60%

オフィスアワー 申し出があれば、別途時間を指示する。

授業改善への工夫 質疑応答時間を増やし、また実技の時間を通じて理解の助けとする。

授業計画・学習の内容

キーワード 木簡を通して見る古代の日本

Key Word(s) Ancient Japan, Wooden Tablets

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 木簡の種類と機能

第3回 国家成立期の文字—記紀と金石文と木簡—

第4~5回 律令国家の支配の仕組みと木簡

第6~7回 古代宮都の木簡

第8~10回 古代の税制と木簡

第11回 暮らしと木簡

第12回 木簡の保存法

第13回 歌の短籍の伝統—新年を歌おう!

第14回 木簡を作ってみよう!

第15回 まとめ

第16回 試験

学習課題(予習・復習) 毎回資料を配付するので、関連した参考書とともに予習、復習することが望ましい。

日本考古学A (考古学の最新情報)

Japanese Archaeology A

学期 前期 **開講時間** 水 5, 6 **単位** 2 **対象** 日本史Ⅲ (2014年度以前) の単位修得者の受講は認めない。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業 **担当教員** 山中 章(非常勤講師)

授業の概要 日本考古学に関する最新情報を概説する。

教科書 必要な資料をプリントして配付する。

学習の目的 考古学とは何かを様々な最新情報を通して理解する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

学習の到達目標 従来の教科書や歴史書から学んだ歴史学とは異なり、土中から甦った遺構や遺物を通して、新しい歴史像に触れる。

成績評価方法と基準 日常レポート50%、期末試験50%

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

オフィスアワー 申し出があれば、別途時間を指示する。

授業改善への工夫 質疑応答時間を増やし、また実技の時間を通じて理解の助けとする。

授業計画・学習の内容

キーワード 遺跡、遺物、考古学、比較史学

第7回 風呂の考古学

Key Word(s) Archaeology, Archaeological Sites and Relics

第8回～第14回 2015年度上半期の最新情報から

第15回 まとめ
第16回 試験

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第5回 2014年度末の最新情報から

第6回 トイレの考古学

学習課題 (予習・復習) 毎回資料を配付するので、関連した参考書とともに予習、復習することが望ましい。

日本考古学B (遺跡と博物館を考える)

Japanese Archaeology B

学期 後期 **開講時間** 水3,4 **単位** 2 **対象** 受講人数は30名までとする。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 演習, 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 小澤 毅(人文学部)

授業の概要 遺跡や博物館の展示に関する事例を収集し、資料公開のありかたを探る。

学習の目的 遺跡や博物館の展示に関する事例収集とその分析をつうじて、望ましい資料公開の方法を考える。

学習の到達目標 遺跡や博物館の展示について、現状とその長所・短所を把握し、資料公開のありかたを判断する材料を得る。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目

日本考古学特講
博物館学関連科目

成績評価方法と基準 受講態度60%、研究発表40%

オフィスアワー 火曜日15:00~16:00

授業改善への工夫 実地見学

その他

休日などに遺跡や博物館の見学を予定している。交通費や入館料などは個人負担。受講人数制限あり

授業計画・学習の内容

キーワード 考古学 遺跡 博物館

Key Word(s) Archaeology, Archaeological Sites and Museums

学習内容

第1回 主旨説明と具体的計画の立案

第2回~第16回 遺跡や博物館の展示に関する事例収集と研究発表・討論

学習課題(予習・復習) 見学・収集した遺跡や博物館の展示について、それぞれの長所・短所を研究発表までに整理し、パワーポイントで説明できるよう準備しておくこと。

日本文化論A (絵巻物を読む)

Japanese CultureA

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習

担当教員 山田雄司(人文学部)

授業の概要 絵巻物『石山寺縁起絵巻』を用いてくずし字の基本を学ぶとともに、絵の読み取りを行っていきます。

学習の目的 絵巻物を用いて、中世の人々の考え方に触れます。

学習の到達目標 初歩的くずし字が読めるようになることを目標とします。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 伊地知鐵男『仮名変体集』新典社、1975年

参考書

山本博文『戦国大名の古文書 西日本編』柏書

房、2013年

佐藤 孝之・天野清文『新版古文書用語辞典』新人物往来社、2011年

森岡隆『図説かなの成り立ち事典』教育出版、2006年

石山寺文化財総合調査団『石山寺資料叢書 史料篇〈第3〉』法蔵館、2010年

成績評価方法と基準 試験100%

オフィスアワー 金曜日13時30分～14時30分

授業改善への工夫 毎回指名して字を読んでもらいます。

その他

史料はこちらで用意します。

受講人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード 絵巻物を読む

Key Word(s) Picture scroll

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 『平治物語絵巻』について

第3回～5回 くずし字の基礎

第6回～8回 古文書の様式

第9回～11回 解読の実践

第12回～15回 内容を理解する

学習課題(予習・復習) 伊地知鐵男『仮名変体集』(新典社、1975年)は購入してください。児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1993年)などを利用して、毎回配る古文書の解読を事前しておくことを望みます。

日本文化論B (日本の海女文化)

Japanese Culture

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 ○塚本明 (人文学部)、石原義剛、川口祐二、吉村利男 (以上、博学連携推進室・客員教授)、菅原洋一 (工学研究科)、原田泰志、常清秀 (以上、生物資源研究科)

授業の概要 世界的に女性の素潜り漁は、日本と韓国済州島にしか存在せず、近年、この海女漁の文化的価値が注目されてきている。日本における海女漁の中心地は三重県鳥羽志摩地方であるが、全国各地の事例を含めて、海女の歴史、民俗、生業の形態を幅広く紹介し、その魅力を伝えていく。

学習の目的 日本の海女文化の歴史と現状を、様々な角度から考える。

学習の到達目標 日本の海女文化の歴史と現状を認識し、様々な角度から考えられるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 海の博物館編『目で見える鳥羽・志摩の海女』(授業中に紹介・販売)

成績評価方法と基準 出席時のコメントカード40% (4回以上の欠席は不可)、試験60%

オフィスアワー 木曜日14:40~16:00 塚本明 予約要 (メールにて連絡下さい)

授業計画・学習の内容

キーワード 日本の海女文化を探る

Key Word(s) Culture of the Japanese Woman Diver

学習内容

- 1、オリエンテーション【塚本】(4/13)
- 2、日本の海女と志摩の海女【石原】(4/20)
- 3、海女さんの現在(現役海女さんとの対談)【石原】(4/27)
- 4、海女文化の歴史【塚本】(5/11)
- 5、観光海女の歴史と現在【塚本】(5/18)
- 6、近代統計資料に見る海女【吉村】(5/25)
- 7、近代期の海女の出稼ぎ【吉村】(6/1)
- 8、全国の漁村で出会った海女さんたちⅠ(東日本)【川口】(6/8)
- 9、全国の漁村で出会った海女さんたちⅡ(西

- 日本)【川口】(6/15)
- 10、海女の祭り【石原】(6/22)
- 11、歴史上の海女と食文化【塚本】(6/29)
- 12、海女漁と資源管理【原田】(7/6)
- 13、海女の漁獲物と流通【常】(7/13)
- 14、済州島海女と韓国の海女研究【菅原】(7/23)
- 15、海女の現在と未来ー【全講師によるシンポジウム】(7/27)
- 16、試験(8/3)

学習課題(予習・復習)

各回ごとの講義内容の整理・理解。
随時紹介される参考文献を読む。
鳥羽市にある「海の博物館」の展示見学など。

PBL日本史（地域・日本）Ⅰ・Ⅱ（博物館の歴史展示案）

PBL Japanese History Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 開講時間 水 1, 2, 9, 10 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 塚本 明

授業の概要

博物館の歴史展示案を設計する。各自が関心を持つ博物館を見学し、興味のあるテーマを選択する。

関連する資料情報を集め、空間配置等の展示計画を立て、説明文（キャプション）や年表を作成する。

テーマに即したグループ毎で意思の疎通を図りながら成果をまとめる。

学習の目的

博物館の歴史展示の読み解き方を習得する。展示設計案への取り組みを通して、テーマに基づく歴史情報の収集・整理・表現の仕方を習得する。

企画の発表の仕方を習得する。

学習の到達目標

博物館の歴史展示が読み解けるようになる。展示設計案作成に取り組むことで、テーマに基づく歴史情報の収集・整理・表現ができるようになる。

企画の発表ができるようになる。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,

主体的学習力,幅広い教養,専門知識・技術,論理的思考力,課題探求力,問題解決力,批判的思考力,情報受発信力,討論・対話力,指導力・協調性,社会人としての態度,感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 授業時間外の休日等を利用して、博物館へ積極的に見学に行くことが求められる。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 日本の歴史、日本歴史演習（人文学部専門科目）

参考書 授業中に随時指定する。

成績評価方法と基準 日常的な課題への取り組み（50%）と最終レポートの「展示企画案」（50%）

オフィスアワー 木曜日7・8限（メールで確認のこと）

授業改善への工夫 随時受講生からの要望を把握する。

その他 受講人数制限あり

授業計画・学習の内容

キーワード 博物館、歴史、展示

Key Word(s) Museum History Display

学習内容

1～3：オリエンテーション、博物館の展示論概説。資料情報の集め方の解説。

4～6：テーマの選定、調整（グループ分け）。各グループ毎に課題提供、助言。

7～9：第1回目構想発表。大枠の方向性を示す。

10～11：展示企画案の事例紹介

12～14：第2回目報告

15：最終発表会

学習課題（予習・復習）

課題は毎回指示する。

博物館への見学、各自（各グループ）ごとの課題に即した情報の収集、年表や企画案の作成など。

授業時間外の休日等を利用して、博物館へ積極的に見学に行くことが求められる。

日本文学B (原典で読む江戸文学)

Japanese Literature B

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 実習

担当教員 吉丸雄哉

授業の概要 くずし字の影印(写真で撮ったもの)をテキストに江戸時代の文学を知る。文学ジャンルの特性、作家の素性、作品の特徴を知るだけでなく、くずし字の習得を目的とする。また、和本(日本の伝統的な書籍)について、書誌調査を行いその特性を学ぶ。くずし字は一見難しいが意外と簡単に読めるようになるものである。

学習の目的 1、くずし字の習得。2、近世文学史を覚える。3、日本の古典籍に関する基礎知識を得る。4、日本古典籍に関して基礎的な調査能力を身につける。

学習の到達目標 1、仮名までのくずし字が読めるようになる。2、日本古典籍の調査能力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

受講要件 辞書・教科書を購入のこと。当然ながら出席は毎回必要である。

発展科目

書誌学ならびにくずし字の知識は日本古典文学研究の基礎であり、日本古典文学研究を将

来専攻するつもりの方にとってこの種の授業は必修である。

また将来的に司書や学芸員の資格を取得する者にも強く履修を勧める。また書道の草書に興味がある者にも向いている。

教科書 テキストはプリントを配布。書誌学の教科書として堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版)も購入のこと。くずし字の辞書として児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』を購入すること(同等のものを持っている人はそれでも可)。

参考書 参考書は適宜授業内で指示する。

成績評価方法と基準 成績は期末試験を重視する。書誌学の知識を問うほか(4割)、くずし字を翻字してもら(6割)。最終的にくずし字が読めなければ、単位の取得はできないと思っていて欲しい。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長時間の相談が必要な場合はメールで事前予約のこと。

授業改善への工夫 日々、日本古典籍に関心をもち、不断の収集に努めている。

授業計画・学習の内容

キーワード 書誌学とくずし字と日本近世文学

学習内容

第一回が概説である。二回目以降、解説ののち、ある作品の影印を読み、くずし字と江戸時代文芸の特徴を学習していく。読解作品は諸君らの関心を元に決める(一昨年は『雨月

物語』。昨年は『更科紀行』)。教科書を用いて書誌学の授業をうち四回行う。人数によるが、実際に和本を手に取り、書誌調査を行うことを考えている。

学習課題(予習・復習) 書誌調査期間は、くずし字の到達度確認のための宿題が出る(3回)。

日本文学B (原典で読む江戸文学)

Japanese Literature B

学期 前期 開講時間 金 7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 実習

担当教員 吉丸雄哉

授業の概要 くずし字の影印(写真で撮ったもの)をテキストに江戸時代の文学を知る。文学ジャンルの特性、作家の素性、作品の特徴を知るだけでなく、くずし字の習得を目的とする。また、和本(日本の伝統的な書籍)について、書誌調査を行いその特性を学ぶ。くずし字は一見難しいが意外と簡単に読めるようになるものである。

学習の目的 1、くずし字の習得。2、近世文学史を覚える。3、日本の古典籍に関する基礎知識を得る。4、日本古典籍に関して基礎的な調査能力を身につける。

学習の到達目標 1、仮名までのくずし字が読めるようになる。2、日本古典籍の調査能力を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

受講要件 辞書・教科書を購入のこと。当然ながら出席は毎回必要である。

発展科目

書誌学ならびにくずし字の知識は日本古典文学研究の基礎であり、日本古典文学研究を将

来専攻するつもりの方にとってこの種の授業は必修である。

また将来的に司書や学芸員の資格を取得する者にも強く履修を勧める。また書道の草書に興味がある者にも向いている。

教科書 テキストはプリントを配布。書誌学の教科書として堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版)も購入のこと。くずし字の辞書として児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』を購入すること(同等のものを持っている人はそれでも可)。

参考書 参考書は適宜授業内で指示する。

成績評価方法と基準 成績は期末試験を重視する。書誌学の知識を問うほか(4割)、くずし字を翻字してもらおう(6割)。最終的にくずし字が読めなければ、単位の取得はできないと考えていて欲しい。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長時間の相談が必要な場合はメールで事前予約のこと。

授業改善への工夫 日々、日本古典籍に関心をもち、不断の収集に努めている。

授業計画・学習の内容

キーワード 書誌学とくずし字と日本近世文学

学習内容

第一回が概説である。二回目以降、解説ののうち、ある作品の影印を読み、くずし字と江戸時代文芸の特徴を学習していく。読解作品は諸君らの関心を元に決める(一昨年は『雨月

物語』。昨年は『更科紀行』)。教科書を用いて書誌学の授業をうち四回行う。人数によるが、実際に和本を手に取り、書誌調査を行うことを考えている。

学習課題(予習・復習) 書誌調査期間は、くずし字の到達度確認のための宿題が出る(3回)。

日本文学B (連句入門)

Japanese Literature B

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習

担当教員 吉丸雄哉 (人文学部)

授業の概要 連句という文芸を学ぶ。連句とは、簡単にいえば俳句をつなげていく遊びである。5・7・5の句に7・7の句をつけ、さらに5・7・5の句をつけ、さらに7・7の句をつけ...というのを一定数まで続ける。授業では付句の作成がすべての参加者にとって、毎回の宿題であり、授業時間に各人による推薦により、付句を決める。実作以外では、持ち回りで、連句の注釈してもらおう。また、連句の評論を読み、その要約を作ってもらおう。

学習の目的 1.連句の制作により、連句という文芸の面白さを知る。2.連句の正確な注釈ができるようになる。連句の式目を学ぶ。

学習の到達目標 1.連句を通じて、日本の伝統的な季節感に鋭敏になる。2.連句の式目にそって、一座で連句を巻くことができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 連句は座の文芸といって、集団の

授業計画・学習の内容

キーワード 連句を読む。連句の実作を行う。

学習内容

[授業計画]

一回 俳諧ならびに連句の解説。
二回 以降、連句の付句の選定。連句の解釈の発表。連句評論の要約の発表を順に行う。
以後、十五回まで続く。

まとまりを大切に。初回の授業に遅刻・欠席した者は受講を認めない。

発展科目 人文学部日本文学M (近世韻文)

教科書 注釈の対象となる連句のプリントは配布する。俳句の評論は青空文庫にあるテキストを各自でダウンロードしてもらおう。連句実作のため『連句・俳句季語辞典 十七季』(三省堂)の購入が絶対に必要である。

参考書 東明雅『連句入門』(中公新書)。『連句一学びから遊びへ』(おうふう、平成20)、『連句一理解・鑑賞・実作』(おうふう、平成11)、『連句一そこが知りたい』(おうふう、平成15)、深沢真二『連句の教室: ことばを付けて遊ぶ』(平凡社新書、平成25)。その他の参考図書は授業で一覧を配布する。

成績評価方法と基準 連句の注釈・評論の要約で二割、付句実作の評価で八割の評価をする。

オフィスアワー 火曜日の昼休み。長時間の相談が必要な場合、事前に連絡のこと。

連句の実作は毎回の宿題のほか、授業時間で即吟してもらおうことがある。選句にあたっては、各人に選句の理由を話してもらおう。半歌仙(18句)まで作成の予定。

学習課題(予習・復習)

句の解釈や評論の要約など、必要なレジュメを作成してもらおう。
宿題として付句を考えてもらおう。

演劇入門 (演劇の基礎知識と実践)

Introduction to the drama

学期 前期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **対象** 高大連携授業のため高校生が受講することがある。

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義, 実習, 実技

授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ○吉丸雄哉 (人文学部), 田中綾乃 (人文学部), 大月淳 (工学部), 吉野さつき (愛知大学文学部), 油田晃 (NPO法人パフォーミングアーツネットワークみえ代表理事), 鳴海康平 (第七劇場主宰), 松浦茂之 (三重県文化会館事業推進グループリーダー)

授業の概要

数ある芸術文化の中でも、演劇という舞台芸術を取り上げる。

講義と並ぶ、本授業のもうひとつの柱に演劇ワークショップがある。完成度の高い芝居を作ることよりも、コミュニケーション能力や自己表現力を高めるのが目的である。今後の大学生活、対話に必要な学習、就職活動はもとより、広く社会に出ても役立つ能力を鍛えることをめざす。

演劇を観る習慣のある人生のほうが、ない人生よりも豊かである。演劇の面白さを発見し、劇場へ足を運ぶことが習慣化できればよい。

本年度は「音・音楽」をテーマに講義を行う予定である。

学習の目的

古今東西の演劇の様式とその特徴を学ぶ。現代における演劇制作の現場について知る。

ワークショップに参加することで自己表現力やコミュニケーション能力を高める。実際に劇場に足を運ぶことで、演劇を肌で体感する。

学習の到達目標

演劇の歴史的・社会的意義を理解する。

演劇ワークショップを通じてコミュニケーション力・自己表現力を高める。

観劇の習慣を身につけることで、本講義の終了後も、演劇を通じて、自分の人生を豊かにする。

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

最低二回は実際の観劇体験を要求する。引率して劇場に足を運ぶ機会は設けるが、それに

参加できない場合、自分の行ける演劇を観に行くこと。

期間中、一、二回ほど、土曜日に振り替えて、劇場で授業を行う予定である(前年は二回。三重県文と国立文楽劇場。前々年は一回)。この行事に参加できないからといって、単位取得ができないわけではないが(単に授業の欠席とみなす)、参加できることが望ましい。

参考書 金原瑞人『古典芸能』(プチグラパブリッシング、2007)、鈴木忠志『演劇とは何か』(岩波新書、1988)、平田オリザ『演劇入門』(講談社新書、1998)、米屋尚子『演劇は仕事になるのか?』(彩流社、2011)、中野民夫『ワークショップ:新しい学びと創造の場』(岩波新書、2001)、『ワークショップと学び』1・2・3(東京大学出版会、2012)。想田和弘『演劇1・2』(DVD、紀伊國屋書店、2013)、鴻上尚史『あなたの思いを伝える表現力のレッスン』(講談社、2012)、平田オリザ『わかりあえないことからコミュニケーション能力とは何か』(講談社現代新書、2012)

成績評価方法と基準 3分の2以上の出席が必要。学びの振り返り(三割)、ワークショップ(三割)、期末レポート2本(四割)で評価する。また、期間のうち二回の観劇体験を要求するが、これが満たされない場合、単位は与えない。レポートは観劇の感想を求める。一本につき2000字程度が必要。

オフィスアワー 本科目の取りまとめ役の教員(吉丸雄哉)の連絡については火曜日昼休みか木曜日午後。共通教育校舎二号館五階。それぞれの講師の先生への取り次ぎも行う。できればメール等で事前の連絡のこと。

その他 ワークショップは講義に比べて、時間通りに終わることが難しい。ワークショップ

プが行われる一ヶ月間は、授業が10～15分程度延長する場合があることを理解しておいて

欲しい。

授業計画・学習の内容

キーワード 演劇、伝統芸能、歌舞伎、文楽、現代劇、新劇、小劇場、劇場、公共ホール、ワークショップ。

Key Word(s) Drama, Traditional arts, Kabuki, Bunraku, Modern drama, New Theater”Shingeki”, Small theater”Syougekijyo”, Theater, Public theater, Workshop

学習内容

- (1) イントロダクション「演劇」とは何か (担当：田中) 4/16
- (2) 「劇場」とは何か (担当：大月) 4/23
- (3) 演劇鑑賞会 (担当吉丸) 4/30 (振替予定分)
- (4) 日本の音楽劇一宝塚・ミュージカル (担当：田中) 5/7
- (5) 小劇場と音 (担当：田中) 5/14
- (6) 西洋の音楽劇一オペラ (担当：大月) 5/21
- (7) 日本の伝統芸能と音楽一文楽 (担当：吉丸) 5/28
- (8) 演劇ワークショップとは何か (担当：吉野) 6/4
- (9) 演劇ワークショップ (1) (担当：油田) 6/11
- (10) 演劇的ワークショップ (2) (担当：油田) 6/18
- (11) 演劇ワークショップ (3) (担当：鳴海) 6/25

(12) 劇場の現場から (担当：松浦) 7/4 (土)

(13) 日本の伝統芸能と音楽一歌舞伎 (担当：吉丸) 7/9

(14) 落語と音 (担当：吉丸) 7/16

(15) まとめ (担当：吉丸) 7/30

＊4月30日の授業は他日 (6月中予定) の演劇鑑賞に振替。7月2日分は7月4日 (土) 三重県文化会館の授業に振替。7月23日は月曜日の授業。

本年度は「音・音楽」をテーマに授業を行う。

講師や劇場の都合でスケジュールが入れ替わることがある。

講義に関しては、毎回の講義でひとつの芸能、ひとつの種類の演劇を扱うのではなく、通史的に芸能・演劇全般の特性をみて、その特徴を語る予定。

ワークショップでは簡単ながら実際に身体を動かさなくてはならない。

学習課題 (予習・復習) 図書館所蔵のDVDやNHK『にっぽんの芸能』の視聴を求める場合がある。ワークショップでは簡単ながら実際に身体を動かさなくてはならない。実際の観劇体験を重視する。この近辺での公演予定を教えるので、積極的に観に行くこと。また個々の講師から指示があるので、それにもとづき復習を行うこと。

日本語学A (日本語学概説)

Japanese Linguistics A

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 川口敦子 (人文学部)

授業の概要 日本語の歴史的背景を踏まえつつ、音韻・語彙・文法・表記などの諸問題について概観し、日本語への理解を深める。

学習の目的

日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、知識を身につける。

得た知識を基に、日常生活の日本語と関連させて、自ら考察し、理解する。

日本語のみならず、言語に対する幅広い理解と関心を深めることを目的とする。

学習の到達目標

日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、基礎的な知識（専門用語や概念の理解）を身につける。

教科書の事例以外に、日常の日本語の諸問題と関連させて考察し、それを説明することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力

発展科目 日本語学B

教科書 伊坂淳一著『ここからはじまる日本語学』ひつじ書房

参考書

『日本国語大辞典』（小学館）
『角川古語大辞典』（角川書店）
『時代別国語大辞典』（三省堂）
『国語学大辞典』（東京堂出版）
『日本語学研究事典』（明治書院）
沖森卓也『図解日本語』（三省堂）

成績評価方法と基準 毎回の小課題（20%）と期末試験（80%）で総合的に評価する。

オフィスアワー 随時（必ず事前にメール等でアポイントメントを取る）

授業改善への工夫 授業の終了前に用紙を配布して、授業に対する感想や質問・意見を書いてもらい、次の授業で（可能な範囲で）回答する。

その他

毎回の課題については提出締め切りを厳守すること。

提出用紙（授業中に配布）の書式は勝手に変更しないこと。汚損や紛失などやむを得ない場合に限り、同一サイズの紙に同じ書式で記入し、理由を添付して提出しても受け付ける。

引用・参考にした資料（書籍、サイト）は必ず出典を明記すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本語学入門

Key Word(s) Introduction to Japanese Linguistics

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 日本語学とは何か

第3回 音声・音韻 (1)

第4回 音声・音韻 (2)

第5回 音声・音韻 (3)

第6回 語彙 (1)

第7回 語彙 (2)

第8回 語彙 (3)

第9回 文法 (1)

第10回 文法 (2)

第11回 文法 (3)

第12回 表記 (1)

第13回 表記 (2)

第14回 表記 (3)

第15回 日本語の位置・他

第16回 試験

学習課題（予習・復習）

テキストに沿った小課題を毎回提示するので、これを復習として取り組むこと（毎回提出）。

次回取り扱うテーマについて、教科書の該当箇所を読み、自分なりに考えておくこと。

日本語学A (日本語学概説)

Japanese Linguistics A

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 川口敦子 (人文学部)

授業の概要

17世紀初頭にヨーロッパ陣によって作られた日本語の文典の内容から、日本語の音韻、表記、文法、方言など、日本語の諸テーマと歴史について考える。

自ら問題を発見して課題を設定し、解決する過程で、日本語学の基礎を身につける。

学習の目的

日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、知識を身につける。

得た知識を基に、日常生活の日本語と関連させて、自ら考察し、理解する。

日本語のみならず、言語に対する幅広い理解と関心を深めることを目的とする。

学習の到達目標

日本語の音韻・語彙・文法・表記などの事項について、基礎的な知識（専門用語や概念の理解）を身につける。

提示された事例以外に、日常の日本語の諸問題と関連させて考察し、それを説明することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 現代日本語だけでなく、日本語の歴史（古語）や言語一般に対する興味がある

授業計画・学習の内容

キーワード セミナー形式による日本語学概説

Key Word(s) Elementary Seminar in Japanese Linguistics

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回 使用テキストに関する基本的事項

第3回 発表の取り組み方、テキストの解読法

り、意欲的に取り組める者。

発展科目 日本語学B

教科書

初回の授業で指示するので、確認してから対応すること。

ロドリゲス『日本語小文典』（岩波書店）

ジョアン・ロドリゲス著、土井忠生訳『日本大文典』（三省堂）

※ともに絶版もしくは入手困難のため、図書館の蔵書等で対応する。

参考書

『日本国語大辞典』（小学館）

『角川古語大辞典』（角川書店）

『時代別国語大辞典』（三省堂）

『国語学大辞典』（東京堂出版）

『日本語学研究事典』（明治書院）

沖森卓也他『図解日本語』（三省堂）

佐藤武義編著『概説日本語の歴史』（朝倉書店）

北原保雄編著『概説日本語』（朝倉書店）

成績評価方法と基準 発表内容とレポート（70%）、授業への貢献度（30%）で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時（必ず事前にメール等でアポイントメントを取る）

授業改善への工夫 資料の読解および発表に関する相談には随時応じる。

第4～14回 資料の読解と検討

受講生は以下の作業を行い、授業中に発表する。

・テキストの読解（語釈を含む）

・問題の発見と考察

第15回 まとめ

学習課題（予習・復習）

受講生の人数によってはグループ発表形式で行う。

受講者は全員、適切な辞書や参考文献を用いて予習し、発表資料を作成して、担当回に発表すること。

日本語学B (日本語史)

Japanese Linguistics B

学期 後期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 川口敦子 (人文学部)

授業の概要 中世口語資料のうち、狂言とキリシタン資料を題材に、資料から読み取れる言語現象について取り上げ、現代語にもつながる日本語の諸問題について理解を深める。

学習の目的

狂言(台本及び映像)とキリシタン資料を通して、音韻や表記(ローマ字)等、特に中世日本語の諸問題に関する知識を得る。得た知識を基に、現代語に至る日本語について考察し、理解を深める。

学習の到達目標 古語と現代語を含む日本語の様々な様相について、理解を深め、授業で取り上げたそれぞれの言語事象について、具体的に自分の言葉で説明することが出来る。狂言及びキリシタン資料それぞれについて、知識と理解を深め、具体的に説明することが出来る。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 中世日本語資料の世界

Key Word(s) Japanese language in 16-17th centuries

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 狂言概要
- 第3回 狂言の言葉: 被覆形と露出形
- 第4回 同: 方言周囲論
- 第5回 同: 連声
- 第6回 同: オノマトペ
- 第7回 同: 待遇表現
- 第8回 同: デフォルメされた外国語
- 第9回 キリシタン資料概要

教科書 基本的にプリントと映像教材を使用する。

参考書

- 小林責監修・油谷光雄編『狂言ハンドブック』(三省堂2000)
- 茂山宗彦・茂山逸平『茂山宗彦・茂山逸平と狂言へ行こう』(旬報社2001)
- H. チースリク監修・太田淑子編『日本史小百科キリシタン』(東京堂出版1999)
- 海老沢有道『キリシタン南蛮文学入門』(教文館1991)
- 豊島正之編『キリシタンと出版』(八木書店2013)

成績評価方法と基準 期末試験(80%)、提出物と受講態度(20%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取る)

授業改善への工夫 毎時間、授業のまとめを提出して貰うが、質問・意見欄を設け、回答する。

- 第10回 活版印刷技術とキリシタン版
- 第11回 キリシタン版の言葉: ローマ字
- 第12回 同: 文学書の翻訳、辞書
- 第13回 同: 文語と口語
- 第14回 同: 宗教書の翻訳
- 第15回 同: 方言
- 第16回 試験

学習課題(予習・復習)

狂言台本およびキリシタン資料の使用テキストを配布する。
狂言については、授業中にビデオやDVDで鑑賞するが、機会があればぜひテレビや生の舞台を見て欲しい。

日本語学B (日本語史)

Japanese Linguistics B

学期 後期 開講時間 水1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 川口敦子 (人文学部)

授業の概要 中世口語資料のうち、狂言とキリシタン資料を題材に、資料から読み取れる言語現象について取り上げ、現代語にもつながる日本語の諸問題について理解を深める。

学習の目的

狂言(台本及び映像)とキリシタン資料を通して、音韻や表記(ローマ字)等、特に中世日本語の諸問題に関する知識を得る。得た知識を基に、現代語に至る日本語について考察し、理解を深める。

学習の到達目標

古語と現代語を含む日本語の様々な様相について、理解を深め、授業で取り上げたそれぞれの言語事象について、具体的に自分の言葉で説明することが出来る。狂言及びキリシタン資料それぞれについて、知識と理解を深め、具体的に説明することが出来る。

本学教育目標との関連

主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、課題探求力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 基本的にプリントと映像教材を使用する。

参考書

小林責監修・油谷光雄編『狂言ハンドブック』(三省堂2000)
茂山宗彦・茂山逸平『茂山宗彦・茂山逸平と狂言へ行こう』(旬報社2001)
H. チースリク監修・太田淑子編『日本史小百科キリシタン』(東京堂出版1999)
海老沢有道『キリシタン南蛮文学入門』(教文館1991)
豊島正之編『キリシタンと出版』(八木書店2013)

成績評価方法と基準 期末試験(80%)、提出物と受講態度(20%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 随時(必ず事前にメール等でアポイントメントを取る)

授業改善への工夫 毎時間、授業のまとめを提出して貰うが、質問・意見欄を設け、回答する。

授業計画・学習の内容

キーワード 中世日本語資料の世界

Key Word(s) Japanese language in 16-17th centuries

学習内容

第1回 ガイダンス
第2回 狂言概要
第3回 狂言の言葉: 被覆形と露出形
第4回 同: 方言周囲論
第5回 同: 連声
第6回 同: オノマトペ
第7回 同: 待遇表現
第8回 同: デフォルメされた外国語
第9回 キリシタン資料概要

第10回 活版印刷技術とキリシタン版
第11回 キリシタン版の言葉: ローマ字
第12回 同: 文学書の翻訳、辞書
第13回 同: 文語と口語
第14回 同: 宗教書の翻訳
第15回 同: 方言
第16回 試験

学習課題(予習・復習)

狂言台本およびキリシタン資料の使用テキストを配布する。
狂言については、授業中にビデオやDVDで鑑賞するが、機会があればぜひテレビや生の舞台を見て欲しい。

日本国憲法 (憲法と自己)

Constitutional Law

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 内野 広大 (人文学部)

授業の概要 なぜ人は生きるのが息苦しいと感じたり、不安にとりつかれたりするのだろうか。それから逃れることのできる術はないのだろうか。古人は、まさにこうした痛切な問いに突き動かされつつ思索を深め、「自己を知る」という営みこそほんとうの意味での安心を得る途であると説いたのだった。けれども、自己を知るという営みは、絶えず「我」からだけではなく「他者」からも水を差され、道半ばにして挫折してしまいがちである。それでは我と他者との関係を国家全体の見地から規律する憲法は、自己を知るための条件を保障してくれるのだろうか。本講義では、憲法が自己を知るための条件をどのように整備するものかという観点から憲法の世界を垣間見ることにしたい。

学習の目的

- ①憲法上の諸権利が「自己を知る」という営みとどのような関係に立つものなのかを知る。
- ②憲法上の問題を「他人」の問題としてではなく「自己」の問題として受け取るための素地を身につける。
- ③日本国の憲法の全体像を知り、それが実はあなたにとって身近なものであると感じ取ることができるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード 憲法 当事者としての自己 法の支配 違憲審査制

Key Word(s) Constitutional Law, Self, Rule of Law, Judicial review

学習内容

- 1 開講にあたって——憲法上の問題概観
- 第1部 憲法上の権利論の観点から
- 2 裁判所による権利保障——法の支配・司法権・付随的違憲審査制
- 3 幸福追求権——諸権利・自由の源
- 4 思想・良心の自由
- 5 信教の自由

学習の到達目標

- ①憲法上の諸権利が定められ手厚く保障されているのはなぜであるのかを自省することができるようになる。
- ②法的な概念を用いた思考に慣れ親しみ、法学の基本的素養が身につくとともに、具体的な生身をもった他者に対して言葉を使って説得力のある理由を提示する習慣が身につくようになる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力

発展科目 憲法・憲法制度論 (人文学部法律経済学科専門科目)

教科書 『目で見える憲法〔第4版〕』(有斐閣、2011年)

参考書 講義開始時に紹介します。

成績評価方法と基準 期末試験100%

オフィスアワー 毎週月曜日14:30~16:00 (人文学部内野研究室) です。その他質問時間の指定に応じることもできます。

授業改善への工夫 時期を特定せず、講義アンケートを複数回実施し、それをもとに改善いたします。

- 6 表現の自由
- 7 教育を受ける権利
- 8 職業選択の自由
- 9 生存権
- 10 憲法的保障の限界
- 第2部 統治機構論の観点から
- 11 国会の地位と構成
- 12 内閣の権能
- 13 有権者団の権能 (国民主権含む)
- 14 国会の性格
- 15 内閣の性格と地位

学習課題 (予習・復習) なぜ大学の教室に

毎朝足を運んで勉強に心身を削る思いをし ぎ合ってください。
なければならぬのかという問いに真摯に向

日本国憲法 (事例で学ぶ日本国憲法)

The Constitution of Japan

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義

担当教員 岩崎 恭彦 (人文学部法律経済学科)

授業の概要 日本国憲法の全体像を明らかにし、それを貫く基本的な考え方についての理解を得る。ただし、単なる入門的な講義にはならぬよう心がけたい。そこで、日本国憲法にまつわる実際の事件やできごとにもふれることによって、国家と私たちの具体的・現実的なかかわり合いのあり方について検討することとする。

学習の目的 日本国憲法についての基礎的な理解をめざす。更に、国家と私たちとのかかわり合いのあり方について、日本国憲法を通じて考える。

学習の到達目標

- ・日本国憲法の基本的なしくみについて、説明できるようになる。
- ・私たちの権利の保障において、日本国憲法がどのような働きをしているか、そのしくみにはどのような問題や課題があるかということ、講義で扱った事例を基にして評価できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理

授業計画・学習の内容

キーワード 事例で学ぶ日本国憲法

学習内容

おおむね次の項目について取り扱う予定である。

1. 総論 (第1回～第2回)
「憲法」の意味と意義、日本国憲法の制定
2. 日本国憲法の基本原理 (第3回)
国民主権、平和主義、基本的人権の尊重
3. 三権分立と違憲審査制 (第4回)
日本における権力分立、違憲立法審査
4. 人権保障のあり方 (第5回～第12回)
人権保障・総論、幸福追求権、法の下での平等、

的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書

教科書は特に用いない。毎回、レジュメ(「講義案」)を配布する。
なお、六法を必携のこと。

参考書 講義の中で適時紹介する。

成績評価方法と基準 筆記試験をもとに評価する。

オフィスアワー

月曜日13:00～14:30

なお、その他の時間においても質問等は常時受け付けるので、研究室を訪ねてほしい。

授業改善への工夫 受講学生や同僚教員との意見交換等を通じて、よりよい授業となるよう努めていきたい。

内心の自由、表現の自由、経済的自由、人身の自由、社会権

5. 国家のしくみ (第13回～第14回)
- 立法権と国会、行政権と内閣
6. まとめ (第15回)

学習課題(予習・復習) 各回ごとにテーマを設定して、それぞれに関して受講者に考えてほしい「問題」を提起するので、講義で学んだことをもとにして、また、講義中に紹介する参考文献に自ら当たるなどして、その「問題」について「自分はどう考えるか」を検討してしてほしい。

日本国憲法 (基本的人権の発展史)

The Constitution of Japan

学期 前期 開講時間 水1,2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 講義

担当教員 前田 定孝 (人文学部)

授業の概要 日本という国は、決して「長い歴史と伝統」のなかで自然に生まれたものではない。私たちの先人が、さまざまな反省のもとに、日本国憲法というものの制定を通じて創設した、人為的なものである。それでは、日本国憲法制定当時である1946年に、その当時の人民はどのような理念を託してこの国をつくり出したのであろうか。そこで示された理念は、その後の60年に上にわたる経済的、政治的、社会的諸関係のもとで、とりわけ、経済発展やその裏面(ダークサイド)としての外交・安全保障、公害・環境問題、および雇用・労働などの諸問題のなかで、どのように影響を受けてきたのであろうか。本講義では、これまでおよびこれからの、日本の〈この国のかたち〉について、経済的社会的諸条件の歴史的展開過程を踏まえつつ、その上部構造に位置する、国家および国家権力のあり方を、法規範の側面から分析する。これらの作業を通じて、次世代がこの日本と地球を担うにあたっての最低限のルールのあり方考える機会にしたい。

学習の目的 日本国憲法制定の経緯、そこで盛り込まれた理念、その後の運用などを社会科学的に検証し、今後社会のあり方をみずからの頭で読み解き、その方向性を見通す能力をみずから形成するにあたってのその基礎的知識を身に付ける。

学習の到達目標 戦後の日本社会が進んできた道筋を、日本国憲法における人権論とそれを運用する統治機構のあり方という観点から、歴史的事実を踏まえつつ判例・学説等に

おける憲法解釈を通じて、検証してみる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 榎透・永山茂樹・三宅裕一郎『判例ナビゲーション憲法』(日本評論社、2014年)

成績評価方法と基準 中間レポートおよび期末レポートにもとづいて評価する。

オフィスアワー

火曜日13:00~14:30

なお、その他の時間においても随時受け付ける。

メールアドレス: maeda@human.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 受講生のみなさんの質問や意見、問題関心を反映させて、講義を作り上げたい。

その他 手に入れやすい本でいいので、読書量を格段に拡大すること。推薦図書は授業でも紹介するが、それにかぎらず、乱読、熟読その他できるだけ多くの社会科学文献に触れる努力をしてほしい。

授業計画・学習の内容

キーワード 基本的人権の弁証法的発展

学習内容

【第1部】「憲法」というものの考え方

1 基本的人権と「政府を取り結ぶこと」

2 日本における〈憲法〉というものの考え方

【第2部】資本主義と基本的人権の弁証法

3 近代市民革命と立憲主義の形成

4 〈国家〉というものと国家安全保障

5 人権制約のプロトタイプとしての〈人身の自由〉

6 財産権絶対の法理と〈営業の自由〉制限の法理

7 資本主義的矛盾の蓄積と国家の役割の増大、

社会権的な救済の必然性

8 資本主義のグローバル化と国家の役割の変容
【第3部】総論「基本的人権」と国家

9 基本的人権の2大原理としての〈国家からの自由〉と〈平等原則〉

10 「政府を取り結ぶこと」と政教分離原則

11 「政府を取り結ぶこと」と政治的言論の自由

12 公教育——国民の教育の自由と国家による教化の狭間

13 〈人民〉と国家の関係、その展開過程と現段階

【第4部】「国家」に対する人民の民主主義的統制

14 立憲主義と権力分立——国レベルの権力統制と権力分立

15 〈住民に身近な行政〉と地方自治——国と地方の関係

学習課題（予習・復習）

社会科学はあくまでも現実世界に起こっている事柄を対象とする学問分野である。つねに社会に目を向けること。

さしあたり、文献を例として紹介するとすれば、以下のとおりである。いずれも批判的に読んでほしい。

〔全体〕

伊藤真『憲法問題』（PHP新書、2013年）

樋口陽一『いま、「憲法改正」をどう考えるか』（岩波書店、2013年）

辻村みよ子『比較のなかの改憲論 日本国憲法の位置』（岩波新書、2014年）

青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013年）

古関彰一『日本国憲法の誕生』（岩波現代文庫、2009年）

小西豊治『憲法「押しつけ」論の幻』（講談社現代新書、2006年）

田村理『国家は僕らをまもらない』（朝日新書、2007年）

ナオミ・クライン『ショック・ドクトリン 惨事便乗型資本主義の正体を暴く上下』（岩波書店、2011年）

〔国家からの自由〕

三木義一『給与明細は謎だらけ』（光文社新書、2009年）

斎藤貴男『消費税のカラクリ』（講談社現代新書、2010年）

〔平等原則〕

辻村みよ子『ポジティブアクション』（岩波新書、2011年）

〔表現の自由〕

長岡義幸『マンガはなぜ規制されるのか』（平凡社新書、2010年）

西山太吉『機密を開示せよ』（岩波書店、2010年）

山崎豊子『運命の人』全4巻（文春文庫、2011年）

〔政教分離〕

島藺進『国家神道と日本人』（岩波新書、2010年7月）

〔教育〕

兼子仁『国民の教育権』（岩波新書、1971年）

小川正人『教育改革のゆくえ』（ちくま新書、2010年）

尾木直樹『子ども格差』（角川Oneテーマ21、2010年）

橋木俊詔『日本の教育格差』（岩波新書、2010年）

世取山洋介・福祉国家構想研究会編『公教育の無償制を実現する』（大月書店、2012年）

奨学金問題対策全国会議編『日本の奨学金はこれでいいのか！』（あけび書房、2013年）

〔生存権〕

伊藤周平『後期高齢者医療制度』（平凡社新書、2008年）

伊藤周平『雇用崩壊と社会保障』（平凡社新書、2010年）

〔勤労権〕

笹山尚人『人が壊れていく職場』（光文社新書、2008年）

湯浅誠『反貧困』（岩波新書、2008年）

森岡孝二『貧困化するホワイトカラー』（ちくま新書、2009年）

森岡孝二『過労死は何を告発しているか』（岩波現代文庫、2013年）

〔安全保障〕

布川玲子・新原昭治『砂川事件と田中最高裁長官』（日本評論者、2013年）

阪田雅裕『政府の憲法解釈』（有斐閣、2013年）

〔地方自治〕

白藤博行『新しい時代の地方自治像の探求』（自治体研究社、2013年）

*その他読んで参考になる文献は、その都度紹介する。

日本国憲法 (憲法入門)

Japanese Constitution

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 柴田 堯史

授業の概要 特定秘密保護法、集团的自衛権の容認に向けた閣議決定など、昨今、日本国憲法にかかわる問題が社会的・政治的な議論となった。その際、憲法に対する考え方の違いのみが問題となり、憲法が法律の一部であることがあまり認識されていない。この講義では、憲法に対する政治的な賛否ではなく、「学問」として憲法を取り扱い、憲法の各条文がどのような意義をもっているのか、を検討する。

学習の目的

日本国憲法がどのような原理に立脚し、どのような内容もち、法に携わる者によってどのように解釈されているのか、を理解できるようになること。具体的には、憲法の原理、憲法の条文、現実の問題の観点から憲法を検討できるようになること。憲法にかかわる現実の問題の意味を理解できるようになること。

学習の到達目標 現実起きる現象について、憲法から観れば、そこにどのような問題があり、その問題について説明できるようになること。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 憲法、憲法制度論、行政法総論、

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：オリエンテーション(講義の進め方、学習の仕方、試験・単位)
- 第1部：憲法総論(カッコは教科書の該当箇所)
- 第1回：憲法の意義(第1章)
- 第2回：憲法史(第2章、第3章)
- 第3回：憲法の法源と解釈(第4章、第10章)

行政法各論、法哲学(すべて人文学部)

教科書

- 伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』(有斐閣、2007年)
- 野中俊彦・江橋崇(編著)『憲法判例集〔第10版〕』(有斐閣、2010年)
- 日本国憲法の条文(各自持参、インターネット上のものを印刷するか、小学館、講談社などの文庫もある)

参考書

- 伊藤正己『憲法〔第3版〕』(弘文堂、1995年)
- 初宿正典・戸松秀典(編著)『憲法判例〔第7版〕』(有斐閣、2014年)

成績評価方法と基準

期末試験100%
(講義で数回出席をとることがあるが、それは試験の点数が及第点に少し及ばない学生の救済のための判断材料としてであって、平常点ではない)

オフィスアワー 講義の前後

授業改善への工夫 学生からの質問、批判、および要求から改善する

その他

講義中の質問は歓迎するが、私語は歓迎しない
私語が続くような場合、学生証を点検の上、途中退出を含め、徹底した態度をとる
ただ出席し、能動的に聞くだけでなく、主体性をもつこと

- 第2部：憲法原理と統治機構
- 第4回：憲法原理、とくに国民主権(第5章1)と権力分立
- 第5回-第7回：選挙(第5章2)、国会(第8章1)
- 第8回：内閣(第8章2)
- 第9回-第10回：裁判所と違憲審査制(第8章3、第9章)

第3部：基本的人権

第11回-第12回：人権総論(第7章1-2)

第13回-第14回：自由権(第7章3)

第15回：社会権(第7章4)、まとめ

第16回：定期試験

学習課題（予習・復習）

予習：教科書を一読し、内容の理解、理解できなかつた箇所と疑問を明確にすること

復習：レジュメの最後にある「学習の目標」をもとに、講義の内容を再検討すること
興味を持った学生は、参考文献や参考資料にも挑戦してみることに

日本国憲法 (憲法入門)

Japanese Constitution

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 柴田 堯史

授業の概要 特定秘密保護法、集团的自衛権の容認に向けた閣議決定など、昨今、日本国憲法にかかわる問題が社会的・政治的な議論となった。その際、憲法に対する考え方の違いのみが問題となり、憲法が法律の一部であることがあまり認識されていない。この講義では、憲法に対する政治的な賛否ではなく、「学問」として憲法を取り扱い、憲法の各条文がどのような意義をもっているのか、を検討する。

学習の目的

日本国憲法がどのような原理に立脚し、どのような内容もち、法に携わる者によってどのように解釈されているのか、を理解できるようになること。具体的には、憲法の原理、憲法の条文、現実の問題の観点から憲法を検討できるようになること。憲法にかかわる現実の問題の意味を理解できるようになること。

学習の到達目標 現実起きる現象について、憲法から観れば、そこにどのような問題があり、その問題について説明できるようになること。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 憲法、憲法制度論、行政法総論、

行政法各論、法哲学(すべて人文学部)

教科書

伊藤正己『憲法入門〔第4版補訂版〕』(有斐閣、2007年)
野中俊彦・江橋崇(編著)『憲法判例集〔第10版〕』(有斐閣、2010年)
日本国憲法の条文(各自持参、インターネット上のものを印刷するか、小学館、講談社などの文庫もある)

参考書

伊藤正己『憲法〔第3版〕』(弘文堂、1995年)
初宿正典・戸松秀典(編著)『憲法判例〔第7版〕』(有斐閣、2014年)

成績評価方法と基準

期末試験100%
(講義で数回出席をとることがあるが、それは試験の点数が及第点に少し及ばない学生の救済のための判断材料としてであって、平常点ではない)

オフィスアワー 講義の前後

授業改善への工夫 学生からの質問、批判、および要求から改善する

その他

講義中の質問は歓迎するが、私語は歓迎しない
私語が続くような場合、学生証を点検の上、途中退出を含め、徹底した態度をとる
ただ出席し、能動的に聞くだけでなく、主体性をもつこと

授業計画・学習の内容

学習内容

第1回：オリエンテーション(講義の進め方、学習の仕方、試験・単位)
第1部：憲法総論(カッコは教科書の該当箇所)
第1回：憲法の意義(第1章)
第2回：憲法史(第2章、第3章)
第3回：憲法の法源と解釈(第4章、第10章)

第2部：憲法原理と統治機構
第4回：憲法原理、とくに国民主権(第5章1)と権力分立
第5回-第7回：選挙(第5章2)、国会(第8章1)
第8回：内閣(第8章2)
第9回-第10回：裁判所と違憲審査制(第8章3、第9章)

第3部：基本的人権

第11回-第12回：人権総論(第7章1-2)

第13回-第14回：自由権(第7章3)

第15回：社会権(第7章4)、まとめ

第16回：定期試験

学習課題（予習・復習）

予習：教科書を一読し、内容の理解、理解できなかつた箇所と疑問を明確にすること

復習：レジュメの最後にある「学習の目標」をもとに、講義の内容を再検討すること
興味を持った学生は、参考文献や参考資料にも挑戦してみることに

日本国憲法 (憲法から世の中を見る)

The Constitution of Japan

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 宮坂 果麻理

授業の概要 憲法は国の「最高法規」であり、憲法を理解することは、日本という国のかたちを理解することに繋がります。授業では、憲法に規定されている人権や国家機構の概念等について解説します。合わせて、事例を通じ、人権の構造を理解するとともに、具体的な問題につき、自身の見解を示せるような知識を修得します。

学習の目的

主権者として、憲法の必要性を認識し、条文で示されている内容を理解できる能力を身につけます。

憲法の意義を実感として理解するために、判例を素材に、憲法上の論点は何か、どのような憲法解釈が可能であり、妥当であるかを学び、考えることにより、自らの見解を示すことができます。

学習の到達目標 憲法問題を含む社会問題について、論点を明確にし、私見を述べることができます。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 憲法を通して世の中を見る

学習内容

- 第1回 ガイダンス -憲法を学ぶにあたって-
- 第2回 憲法史・憲法の基本概念
- 第3回 人権総論
- 第4回 家庭と人権
- 第5回 学校と人権
- 第6回 医療と人権
- 第7回 生命と人権
- 第8回 福祉と人権

受講要件

日頃から新聞等で時局問題に関心を持つように心がけてください。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 古橋エツ子『新・初めての人権』(2012年・法律文化社)

参考書

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ〔第6版〕』(2013年・有斐閣)

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅱ〔第6版〕』(2013年・有斐閣)

成績評価方法と基準 定期試験70% 小レポート30%

オフィスアワー 質問等は、授業(金曜日)の前後でお願いします。

授業改善への工夫 毎回、授業次に出席カードを配布し、授業に対する感想・意見を記入してもらいます。それを基に、常に授業改善に努めてまいります。

その他 受講マナーの徹底にご協力ください。

第9回 職場と人権

第10回 報道と人権

第11回 死刑制度の是非<<ビデオ>>

第12回 死刑制度をめぐる諸問題

第13回 統治機構 (1) -国会

第14回 統治機構 (2) -内閣

第15回 統治機構 (2) -裁判所

第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 教科書を熟読してください。

日本国憲法 (憲法から世の中を見る)

The Constitution of Japan

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 宮坂 果麻理

授業の概要 憲法は国の「最高法規」であり、憲法を理解することは、日本という国のかたちを理解することに繋がります。授業では、憲法に規定されている人権や国家機構の概念等について解説します。合わせて、事例を通じ、人権の構造を理解するとともに、具体的な問題につき、自身の見解を示せるような知識を修得します。

学習の目的

主権者として、憲法の必要性を認識し、条文で示されている内容を理解できる能力を身につけます。

憲法の意義を実感として理解するために、判例を素材に、憲法上の論点は何か、どのような憲法解釈が可能であり、妥当であるかを学び、考えることにより、自らの見解を示すことができます。

学習の到達目標 憲法問題を含む社会問題について、論点を明確にし、私見を述べることができます。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 憲法を通して世の中を見る

学習内容

- 第1回 ガイダンス -憲法を学ぶにあたって-
- 第2回 憲法史・憲法の基本概念
- 第3回 人権総論
- 第4回 家庭と人権
- 第5回 学校と人権
- 第6回 医療と人権
- 第7回 生命と人権
- 第8回 福祉と人権

受講要件 日頃から新聞等で時局問題に関心を持つように心がけてください。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 古橋エツ子『新・初めての人権』(2012年・法律文化社)

参考書

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ〔第6版〕』(2013年・有斐閣)

長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅱ〔第6版〕』(2013年・有斐閣)

成績評価方法と基準 定期試験70% 小レポート30%

オフィスアワー 質問等は、授業(金曜日)の前後でお願いします。

授業改善への工夫 毎回、授業次に出席カードを配布し、授業に対する感想・意見を記入してもらいます。それを基に、常に授業改善に努めてまいります。

その他 受講マナーの徹底にご協力ください。

第9回 職場と人権

第10回 報道と人権

第11回 死刑制度の是非<<ビデオ>>

第12回 死刑制度をめぐる諸問題

第13回 統治機構 (1) -国会

第14回 統治機構 (2) -内閣

第15回 統治機構 (2) -裁判所

第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 教科書を熟読してください。

法学A (法律学への案内)

Introduction to Legal Studies A

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 選/必 選択 授業の方法 講義

授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○洪 恵子 (人文学部), 高橋秀治 (人文学部), 内野広大 (人文学部), 岩崎恭彦 (人文学部), 前田定孝 (人文学部), 上井長十 (人文学部), 稲垣朋子 (人文学部), 藤本真理 (人文学部), 名島利喜 (人文学部)

授業の概要 しばしば「法律家だけしかわからない」と揶揄される法律の条文について、具体的な事例を交えて検討することによって、「難解で抽象的」な法律の「本当の姿」を理解する。

学習の目的 1回につき、一つの法分野、条文を題材としながら、その条文の成立過程、内容、学説の対立、判例を学ぶ。このようにして現代社会を法的思考力を持って生きていく力を身に着ける。

学習の到達目標 六法を使いこなしながら条文を読むことができ、判例にもアクセスして必要な情報を入手できるようになる。これらの技能を前提にして、かつ各回の授業で学んだ法的知識をもとにして、現代的な法的問題について、自分の考えをまとめられる。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 条文 法律学 条約 国際法 六法 裁判所 判例 学説

Key Word(s) legal provisions, legal studies, treaties, international law, basic laws, courts, jurisprudence, doctrines

学習内容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 憲法
- 第3回 行政法1
- 第4回 行政法2
- 第5回 国際法
- 第6回 国際組織法

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 法律を扱う教養教育の科目。

教科書 教科書は指定しないが、六法（コンバクトなもの）は必ず持参すること。詳細は第1回のガイダンスの際に指示する。

参考書 授業で指示する。

成績評価方法と基準 出席状況と期末定期試験（筆記）によって成績を評価する。筆記試験の問題は授業で提示するなかから出題される。詳しくは第一回目のガイダンスにおいて説明する。なお特段の理由なく4回以上欠席した時点で、定期試験の受験資格を失う。

オフィスアワー 毎週火曜日14:40-16:10 洪 恵子研究室（人文学部棟4階）

授業改善への工夫 担当教員相互間で綿密に連携を取り、常に改良を心掛けている。

その他 授業計画については、取り扱う法分野やその順番を変更する可能性がある。詳細は第1回目のガイダンスで説明する。

- 第7回 刑法総論
- 第8回 刑事訴訟法
- 第9回 前半のまとめ
- 第10回 民法1
- 第11回 民法2
- 第12回 家族法
- 第13回 労働法
- 第14回 法哲学
- 第15回 後半のまとめ

学習課題（予習・復習）

プリントなどを配付するとともに、授業の中で発展的な学習のための補助教材、文献などを適宜紹介する。

法学B (法におけるジェンダー)

Law B

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 田中亜紀子 (人文学部)

授業の概要 社会における法的諸問題について、特に女性に関する問題の中から「性差別の歴史」「教育」「家族」「労働」「社会保障」「犯罪」などにおけるジェンダー問題を取り上げて検討することを通じて、基礎的な法的知識と法的考え方を身につける。

学習の目的 社会における法的諸問題について、特に女性に関する問題を取り上げて検討することを通じて、基礎的な法的知識と法的考え方を身につける。

学習の到達目標 ジェンダーと法分野における諸問題について基礎的な知識を得る。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 女性をめぐる法律について考える

Key Word(s) gender, an outline of law

学習内容

- 第1回 法学概論でまなぶこと (ガイダンス)
- 第2回 主要な法律について
- 第3-4回 日本と諸外国における性差別
- 第5-6回 教育や家族におけるジェンダー問題
- 第7-8回 契約や労働、社会保障におけるジェンダー問題
- 第9-10回 性犯罪およびその周辺

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 「日本国憲法」をはじめとする法律科目

教科書 『レクチャー ジェンダー法』 (法律文化社、2012年)

成績評価方法と基準 レポート 80%、出席カードを用いたコメント 20% 計 100%

オフィスアワー 毎週火曜日 14:40-16:10 田中(亜)研究室

授業改善への工夫 法律に初めて触れる学生を対象とするため、事例を紹介しつつ適度なスピードで講義を進める予定。また、出席票を通じて学生との対話を図る。

- 第11回 女性の自己決定 (リプロダクティブライツを中心に)
- 第12-13回 司法・行政におけるジェンダー問題
- 第14回 男性にとってのジェンダー問題
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 初めて法律科目に触れる受講者が多いと思われるので、用語などの確認のため、テキストの該当ページには予め目を通した上で参加していただきたい。また、復習としては、配布レジュメを読み返すことを期待する。

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 伊藤 睦 (人文学部)

授業の概要

死刑制度をめぐる問題や裁判員制度、少年法の厳罰化等、主として刑事法（少年法等も含む）の領域にかかわるテーマの中から毎回1つを取り上げます。

担当者による報告の後、受講者全員で討論を行います。

学習の目的

法をめぐる議論やその背景にある社会のしくみ、問題点等についての理解が深まる。

様々な社会問題について、自分なりの問題意識をもちながら主体的に考える習慣が身につく。

学習の到達目標

与えられたテーマについて資料を調べ、そこで得た知識について、他の人に対してわかりやすく説明し、自分の意見を述べるができるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード 様々な社会問題と法のかかわり

学習内容

第1回 オリエンテーション

授業で取り上げるテーマの選定

報告順序等の決定

第2回 模擬裁判

第3回～15回 担当者による報告とそれに基づく討論

授業で取り上げるテーマは、第1回の授業で教員側から提示しますが、受講者からもテーマを募集します。

基本的には刑事法に関するもの（死刑問題、

他者の報告した内容について、自分自身の意見を持ち、討論に積極的に参加できるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 教科書は特に用いない。

参考書 授業の際に適宜指示する。

成績評価方法と基準 授業への取り組み（報告および討論への参加）と出席状況を総合的に評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日5・6時限（前期のみ）伊藤研究室（人文学部棟4階）

裁判員制度、犯罪被害者など、犯罪や少年非行をめぐるテーマ）を考えていますが、受講者の希望があれば、それ以外の法（憲法や民法等）にかかわるテーマも取り上げます。

学習課題（予習・復習）

・報告の担当者は、テーマに関わる本や資料を調べ、学んだこと、考えたことについてわかりやすくレジュメにまとめて下さい。

・報告者以外の受講生も、討論に積極的に参加するために、テーマに関する本を読むなどの予習をしておくことが必要です。

政治学A (現代日本の政治)

PoliticsA

学期 前期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 岡田宏太郎

授業の概要 日本の政治についての入門的講義。最初の二回は映像資料を使用し、その後の理解の助けにする。かつての自民党が長期政権を維持した時代、いわゆる「五五年体制」の時代(1955年～93年)から現在までを扱い、日本政治の歴史的経過の概略、基本的構造について、キーワードを確認しつつ解説し、あわせて政治学的に考えるとどのようなことか、また、政治的現象をとらえるとはどのようなことなのか示していく。

学習の目的

「五五年体制」期の日本の政治の仕組みとその問題点、そして、そこから提起された改革の課題(「政治改革」、小泉「構造改革」、民主党の「マニフェスト」)等を取りあげ、今日の日本政治の基本的構造と動態、変容について理解する。

最終的に、現在の日本政治の状況を、歴史的、大局的文脈に位置づけ、かつての長期政権時代の自民党と、現在の自民党政権の性格の違いをおさえ、日本政治の現局面の特質を理解することをめざす。

学習の到達目標

- 1 日本政治の理解のための基本的用語、概念を理解し、説明できる。
- 2 「五五年体制」期の自民党政権の基本的特質、政党の機能を理解し、説明できる。

授業計画・学習の内容

キーワード 自民党、民主党、選挙制度、構造改革 政権交代

学習内容

- ①映像によるイントロダクション (1)
- ②映像によるイントロダクション (2)
- ③「五五年体制」=自民党一党優位の成立
- ④自民党支配の構造と選挙制度
- ⑤「族議員」と政官業の「鉄の三角形」
- ⑥日米安保と保守本流路線
- ⑦自民党政権の行き詰まり
- ⑧政党とはなにか

30年代の「政治改革」と「五五年体制」の転換について理解し、説明できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、日頃から政治に関心を持っていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 後期の政治学B(岡田担当)

教科書 教科書は使用しない。

参考書 授業中に適宜指示していく。

成績評価方法と基準 期末試験による。

オフィスアワー 非常勤講師なので、質問は基本的に授業の前後にお願いします。

授業改善への工夫 なるべく、その時々での政治の動きに顧慮しつつ講義をすすめていきたい。

その他 この科目は、各講義が相互に関連しあい、全体として一つのまとまりをなしている。継続的に出席することが大切である。

⑨国会運営と「国対政治」

⑩国家財政の危機

⑪「政治改革」と連立政権の時代

⑫官僚制の諸問題

⑬「構造改革」と郵政民営化、特殊法人、特別会計問題

⑭民主党政権と自民党の政権奪還

⑮まとめ——日本政治の現局面

学習課題(予習・復習) 期末試験に向けて、各回の授業でのキーワード、重要事項のまとめを確認していくこと。さらに、授業中

に紹介した参考文献で関心をひくものを、自主的に読み進めていくこと。

政治学A (現代日本政治史)

Political Science A

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は現代日本政治の歴史的経緯を理解することを目的とする。具体的には、1945年のポツダム宣言受諾から2013年の第二次安倍内閣成立までの日本政治のダイナミズムを首相のリーダーシップを中心にして解き明かしていく。

学習の目的 現代日本政治に関する基礎知識を習得し、歴史を通じて日本政治を理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 テキストで予習・復習をし、関連する新聞記事を読むなど、能動的に学習すること。本講義を通じて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を身に付け、独りよがりではない、他者と対話のできる力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

受講要件 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 政権交代、政治改革、自民党、55年体制

Key Word(s) Political Reform, Power change, Liberal Democratic Party, The 1955 System

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本政治の見取り図
- 第3回 第二次安倍政権の誕生と政権運営
- 第4回 民主党政権の誕生と混乱
- 第5回 民主党の成立
- 第6回 小泉改革

予め履修が望ましい科目 なし

発履科目 戦後日本外交史

教科書

北岡伸一『自民党』中央公論新社、2008年
葉師寺克行『現代日本政治史』有斐閣、2014年

参考書 講義中に指示する。

成績評価方法と基準 小テスト50%、期末試験50%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。

現在から過去に遡ることで、現代日本政治史に対して興味を持てるように工夫している。

- 第7回 自民党政権の復活
- 第8回 細川連立政権の誕生
- 第9回 政治改革の波―竹下・宇野・海部・宮澤
- 第10回 中曽根政権と「戦後日本の総決算」
- 第11回 経済大国の政治指導
- 第12回 田中角栄の功罪
- 第13回 高度経済成長と日本政治
- 第14回 1955年体制の成立
- 第15回 占領期と吉田茂
- 第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 教科書・参考書・新聞をよく読むこと

政治学A (現代日本政治史)

Political Science A

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は現代日本政治の歴史的経緯を理解することを目的とする。具体的には、1945年のポツダム宣言受諾から2013年の第二次安倍内閣成立までの日本政治のダイナミズムを首相のリーダーシップを中心にして解き明かしていく。

学習の目的 現代日本政治に関する基礎知識を習得し、歴史を通じて日本政治を理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 テキストで予習・復習をし、関連する新聞記事を読むなど、能動的に学習すること。本講義を通じて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を身に付け、独りよがりではない、他者と対話のできる力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

受講要件 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 政権交代、政治改革、自民党、55年体制

Key Word(s) Political Reform, Power change, Liberal Democratic Party, The 1955 System

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 日本政治の見取り図
- 第3回 第二次安倍政権の誕生と政権運営
- 第4回 民主党政権の誕生と混迷
- 第5回 民主党の成立
- 第6回 小泉改革

予め履修が望ましい科目 なし

発履科目 戦後日本外交史

教科書

北岡伸一『自民党』中央公論新社、2008年
葉師寺克行『現代日本政治史』有斐閣、2014年

参考書 講義中に指示する。

成績評価方法と基準 小テスト50%、期末試験50%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。

現在から過去に遡ることで、現代日本政治史に対して興味を持てるように工夫している。

- 第7回 自民党政権の復活
- 第8回 細川連立政権の誕生
- 第9回 政治改革の波―竹下・宇野・海部・宮澤
- 第10回 中曽根政権と「戦後日本の総決算」
- 第11回 経済大国の政治指導
- 第12回 田中角栄の功罪
- 第13回 高度経済成長と日本政治
- 第14回 1955年体制の成立
- 第15回 占領期と吉田茂
- 第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 教科書・参考書・新聞をよく読むこと

政治学A (日本政治論)

Political Science A

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は、現代日本政治の諸相を身近なテーマから理解することを目的とする。

学習の目的 現代日本政治に関する基礎知識を習得し、新聞の読解や、参加型の授業（学生同士のグループディスカッション等）を通じて、自らの力で政治と社会の関わりを理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 本講義は参加型の授業形式をとるため、①テキストで予習をし、関連する新聞記事の要約・コメントを作成すること②授業中のプレゼン、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること、以上の2点が求められる。本講義を通じて、新聞を読む習慣を身に付けて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 政党、選挙、内閣と国会、政治家

Key Word(s) Political Party, Election, Cabinet and Parliament, Politician

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治とは何か
- 第3回 国会議員の仕事①
- 第4回 国会議員の仕事②
- 第5回 国会議員の仕事③
- 第6回 組織された集団一鉄の三角同盟
- 第7回 官と民の関係

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 現代日本政治史、戦後日本外交史

教科書

北山俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学第3版』有斐閣、2013年
林芳正、津村啓介『国会議員の仕事 職業としての政治』中央公論新社、2011年

参考書 講義中に指示する

成績評価方法と基準 毎回の新聞要約提出60%、グループディスカッション・プレゼンに対する評価40%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。
グループディスカッションを取り入れ、能動的な学習の場を提供する。

その他 このクラスには30名の履修制限があります。

- 第8回 大企業と政治
- 第9回 選挙と政治
- 第10回 地方分権
- 第11回 マスメディアと政治
- 第12回 国会
- 第13回 内閣と総理大臣
- 第14回 官僚
- 第15回 外交
- 第16回 期末試験

学習課題（予習・復習） テキストで予習し、授業テーマに沿った新聞記事を探し、その要約およびコメントを提出すること

政治学A (日本政治論)

Political Science A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は、現代日本政治の諸相を身近なテーマから理解することを目的とする。

学習の目的 現代日本政治に関する基礎知識を習得し、新聞の読解や、参加型の授業（学生同士のグループディスカッション等）を通じて、自らの力で政治と社会の関わりを理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 本講義は参加型の授業形式をとるため、①テキストで予習をし、関連する新聞記事の要約・コメントを作成すること②授業中のプレゼン、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること、以上の2点が求められる。本講義を通じて、新聞を読む習慣を身に付けて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 政党、選挙、内閣と国会、政治家

Key Word(s) Political Party, Election, Cabinet and Parliament, Politician

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 政治とは何か
- 第3回 国会議員の仕事①
- 第4回 国会議員の仕事②
- 第5回 国会議員の仕事③
- 第6回 組織された集団―鉄の三角同盟
- 第7回 官と民の関係

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 現代日本政治史、戦後日本外交史

教科書

北山俊哉・久米郁男・真淵勝『はじめて出会う政治学第3版』有斐閣、2013年
林芳正、津村啓介『国会議員の仕事 職業としての政治』中央公論新社、2011年

参考書 講義中に指示する

成績評価方法と基準 毎回の新聞要約提出60%、グループディスカッション・プレゼンに対する評価40%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。
グループディスカッションを取り入れ、能動的な学習の場を提供する。

- 第8回 大企業と政治
- 第9回 選挙と政治
- 第10回 地方分権
- 第11回 マスメディアと政治
- 第12回 国会
- 第13回 内閣と総理大臣
- 第14回 官僚
- 第15回 外交
- 第16回 期末試験

学習課題（予習・復習） テキストで予習し、授業テーマに沿った新聞記事を探し、その要約およびコメントを提出すること

政治学B (地方政治を考える)

Politics

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 樹神 成

授業の概要 政治を地方の現場から考える。人々の生活のありようは、国際経済や国内政治が決めています。しかし、人々が住むそれぞれの市町や都道府県の政治は、人々の生活にどのような意味をもつか、あるいは、国際経済や国内政治にどのように影響を受け、また与えるかを考えます。

学習の目的 地方の政治の特徴と課題を、三重県や自分が住んでいる市町を例に考えることができるようになる

学習の到達目標 三重県や自分が住んでいる市町の政治の特徴と課題について、必要な資

料に基づいて、意見を述べるができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 課題探求力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 授業のときに指示する

参考書 授業のときに指示する

成績評価方法と基準 レポート 50 パーセント、試験50パーセント

オフィスアワー 毎週12時30分 - 13時 人文校舎3階樹神研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 地方政治、地方分権、グローバル化

Key Word(s) Local Politics, Decentralization, Globalism,

学習内容

- 1.地方政治論とは？ -
- 2.制度（地方自治法等）と実態（経済力・財政力・人口等）
- 3.1990年代の分権改革・自治体運営改革

4.地方政治の課題と実際（大都市、地方都市、過疎の市町）

学習課題（予習・復習）

地方自治体については、インターネットに多くの統計資料が公表されているので、これを自分で見る訓練をします。

制度と実態、1990年代の分権改革・自治体運営改革、地方政治の課題と実際のそれぞれについて、参考文献を指示します。

政治学B (日本の政治と世界)

Politics B

学期 後期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 岡田宏太郎

授業の概要 「主権国家」、「国民国家」をはじめとする、現代政治の理解に必須の概念、観点をおさえた上で、主として第二次大戦後の日本とアメリカの政治経済の動きを追っていく。その際、単にそれぞれの国を見るのではなく、両者の相互関係に注意し、また、他国との比較をまじえていく。最終的には、発展途上国の政治経済の状況も概観した上で、いわゆるグローバル化の時代の国家と政治の本質的性格、課題について考察したい。

学習の目的

まず、グローバル化の時代の政治の理解に必須の重要概念、基本的観点を理解していく。これを前提として、時期を追って、第二次大戦前から戦後への転換、高度経済成長期とその後の危機、いわゆる「新自由主義」の台頭と「冷戦」の終結、さらに、今日の転換期にある日本とアメリカの政治経済の特徴を理解していく。その際、日米の政治の動きのみならず、その動きが作り出されていく基本的仕組み、メカニズムを含めた理解をめざす。これに加え、発展途上国の政治経済の抱える困難、開発独裁体制の特徴を、同様の観点から整理し、理解していく。

学習の到達目標

- 1 政治学の最も基本的な用語、概念を理解し、説明できる。
- 2 現代の政治経済の動きを作り出していく基本

授業計画・学習の内容

キーワード 国民国家、日米関係、冷戦、大きな政府/小さな政府 グローバル化

学習内容

- 1 イントロダクションー授業で使う基本用語等の解説
- 2 第二次大戦前から戦後への転換
- 3 アメリカによる戦後体制の構築ー日本の民主化と「逆コース」
- 4 アメリカによる戦後体制の構築ー自由貿易

的要素、仕組みを理解し、説明できる。

31、2の理解により、戦後の日米の政治の基本的特徴と動態を説明できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、日頃から政治に関心をもっていることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 政治、経済にかかわるその他の科目全般。

教科書 教科書は使用しない。

参考書 授業中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 期末試験による。

オフィスアワー 非常勤講師なので、質問は基本的に授業の前後にお願いします。

授業改善への工夫 なるべく、その時々政治の動きを顧慮しつつ講義をすすめていきたい。

その他 この科目は、各講義が相互に関連しあい、全体として一つのまとまりをなしているため、継続的に出席することが大切である。

体制

5 現代政治の理解のための基本的視点

6 「冷戦」と日本ー「冷戦」の諸様相

7 「冷戦」と日本ー高度経済成長の時代

8 1970年代の政治的経済的危機とアメリカの衰退

9 社会主義体制の崩壊

10 米レーガン政権と日本

11 90年代のアメリカと日本

- 12 動揺するアメリカの覇権と日本
- 13 グローバル化と各国の政治体制の歴史的展開
- 14 先進国と発展途上国
- 15 グローバル化の中の政治
- 16 期末試験

学習課題（予習・復習） 期末試験に向けて、各回の授業でのキーワード、重要事項のまとめを確認していくこと。さらに、授業中に紹介した参考文献で関心をひくものを、自主的に読み進めていくこと。

政治学B (戦後日本外交史)

Political Science B

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は戦後日本外交の歴史的経緯を理解することを目的とする。具体的には、1945年の終戦から2013年の第二次安倍内閣成立までの日本外交のダイナミズムを首相のリーダーシップを中心にして解き明かしていく。

学習の目的 現代日本外交に関する基礎知識を習得し、外交史を通じて日本と世界の関わりを理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 テキストで予習・復習をし、関連する新聞記事を読むなど、能動的に学習すること。本講義を通じて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を身に付け、独りよがりではない、他者と対話のできる力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

授業計画・学習の内容

キーワード 吉田路線、日米関係、アジア外交、国連外交

Key Word(s) The Yoshida Doctrine, Japan-U.S.Relationship, Japana's Asia Diplomacy, Japan's UN Diplomacy

学習内容

第1回 イントロダクション
第2回 現代国際政治の変容と「吉田路線」
第3回 安倍政権の外交
第4回 民主党政権の外交
第5回 小泉政権と対テロ戦争
第6回 橋本・小淵政権と「競争的協調外交」の

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 現代日本政治史、日本政治論

教科書 五百旗頭真『戦後日本外交史 第3版補訂版』有斐閣、2014年

参考書 添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』筑摩書房、2005年

成績評価方法と基準 小テスト50%、期末試験50%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。

現在から過去に遡ることで、日本外交史に対して興味を持てるように工夫している。

時代
第7回 日米同盟の「漂流」
第8回 湾岸戦争と日本外交
第9回 「国際国家」の使命と苦悩
第10回 自立的協調の模索
第11回 日中国交回復
第12回 沖縄返還
第13回 日米安保条約の改定
第14回 日ソ国交回復
第15回 吉田路線の成立
第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 教科書・参考書・新聞をよく読むこと

政治学B (戦後日本外交史)

Political Science B

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 村上友章

授業の概要 本講義は戦後日本外交の歴史的経緯を理解することを目的とする。具体的には、1945年の終戦から2013年の第二次安倍内閣成立までの日本外交のダイナミズムを首相のリーダーシップを中心にして解き明かしていく。

学習の目的 現代日本外交に関する基礎知識を習得し、外交史を通じて日本と世界の関わりを理解する力を養うことを目的とする。

学習の到達目標 テキストで予習・復習をし、関連する新聞記事を読むなど、能動的に学習すること。本講義を通じて、複眼的に現代政治を論じ得る能力を身に付け、独りよがりではない、他者と対話のできる力を養いたい。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 情報受発信力

授業計画・学習の内容

キーワード 吉田路線、日米関係、アジア外交、国連外交

Key Word(s) The Yoshida Doctrine, Japan-U.S.Relationship, Japana's Asia Diplomacy, Japan's UN Diplomacy

学習内容

第1回 イントロダクション
第2回 現代国際政治の変容と「吉田路線」
第3回 安倍政権の外交
第4回 民主党政権の外交
第5回 小泉政権と対テロ戦争
第6回 橋本・小淵政権と「競争的協調外交」の

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 現代日本政治史、日本政治論

教科書 五百旗頭真『戦後日本外交史 第3版補訂版』有斐閣、2014年

参考書 添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』筑摩書房、2005年

成績評価方法と基準 小テスト50%、期末試験50%

オフィスアワー 質問等は、授業の前後およびメールにて受け付ける。

授業改善への工夫

ビデオ教材等も使用し、分かり易い授業を行う。

現在から過去に遡ることで、日本外交史に対して興味を持てるように工夫している。

時代
第7回 日米同盟の「漂流」
第8回 湾岸戦争と日本外交
第9回 「国際国家」の使命と苦悩
第10回 自立的協調の模索
第11回 日中国交回復
第12回 沖縄返還
第13回 日米安保条約の改定
第14回 日ソ国交回復
第15回 吉田路線の成立
第16回 期末試験

学習課題 (予習・復習) 教科書・参考書・新聞をよく読むこと

経済学A (経済現象の科学)

Economics A

学期 後期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 堀内 義隆

授業の概要 現在私たちが暮らしている資本主義社会のしくみを理解するために、様々な経済現象を素材として取り上げながら、経済学の基本的な考え方と資本主義社会の歴史を解説する。これから経済学を学ぼうとする人のための入門的講義であると同時に、一般教養として誰もが知っておくべき基本的な事項が習得できるような授業を目指す。

学習の目的 現代の資本主義社会のしくみと歴史を理解することを通じて、自分自身が社会においてどのように生きるべきかということについて考察を深めること。

学習の到達目標 現代の資本主義社会がどのように動いているのかを理解し、資本主義社

会の歴史に関する基礎的な知識を得ること。

教科書 初回の授業で指示する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 小テスト40%、期末試験60%、計100%。

オフィスアワー 金曜日13:00~14:00、場所：人文学部棟5階堀内研究室。

授業改善への工夫 質問・意見用紙により、理解の向上・問題意識の醸成を図る。

その他 私語・電話など他の受講生の学習を妨げる行為は厳禁する。

授業計画・学習の内容

キーワード 市場経済、資本主義、経済の再生産

Key Word(s) market economy, capitalism, reproduction of economy

学習内容

第1回 イントロダクション

第2回 商品の売り買い

第3回 雇用と賃金

第4回 金利

第5回 インフレーションとデフレーション

第6回 円高と円安

第7回 企業活動と金融 (1)

第8回 企業活動と金融 (2)

第9回 経済成長

第10回 恐慌、小テスト

第11回 独占的競争

第12回 社会保障

第13回 税金と国債

第14回 環境問題

第15回 バブル経済

学習課題 (予習・復習) 授業中に指示した文献を期間中に読むこと。

経済学A (社会保障を考える)

EconomicsA

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 和田 康紀 (人文学部)

授業の概要 日本の社会保障を取り巻く諸課題について、グループで解決すべき課題(テーマ)を設定し、解決策についての仮説に基づき現状等を調査し、仮説の妥当性について整理、発表、討議を行います。

学習の目的

- ・グループの一員として、お互い助け合いながら、課題の解決に向けた自分たちの仮説の正しさをわかりやすく論証するとともに、他の学生が積極的に討論に参加できるように促し、他の学生の意見に対し、しっかりと耳を傾けながら、より高度なレベルの解決策を導き出せるようになること
- ・一連の討議への参加を通じて、日本の社会保障を取り巻く諸問題についての認識を深め、今後の社会保障をめぐる制度改革の動きに対して、自分なりの問題意識を持って意見表明ができるようになること

学習の到達目標

- ・各自が、グループの一員として、同じグループ内の学生と協力しながら、仮説に基づき、調査、検証を行い、その成果をわかりやすく発表し、他の学生や教員との討議の中から、ひとつの方向性を導き出せるようになること
- ・他のグループの発表した内容について、自分自身の意見を持って、討議に積極的に参加

授業計画・学習の内容

キーワード 社会保障を考える

Key Word(s) Social Security

学習内容

第1回 ガイダンス

第2回～第4回 ゼミ形式による講義

第5回以降 グループ分け、課題の設定、発表に

できるようになること

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありませんが、日本の社会保障を取り巻く諸問題に関心を持ち、主体的に課題に取り組むことを希望します。

予め履修が望ましい科目 特にありません

発展科目 特にありません

教科書 こちらでレジュメを用意します。

参考書 学生が扱うテーマに応じて、適宜紹介します。

成績評価方法と基準 課題発表50%、討議への参加50% (出席状況を含む)

オフィスアワー 毎週月曜日13:00～14:30

授業改善への工夫 毎回、コミュニケーションペーパー(授業での気づき、授業の改善策)を提出していただきます。

その他 受講人数制限(30名まで)を実施します。

に向けた準備、発表

(履修者の人数に応じて、柔軟に進め方を考えていく予定です)

学習課題(予習・復習) 日々の社会保障をめぐる新聞報道や雑誌等の記事の内容に関心をもっていただきたいと思います。

経済学A (資本主義の変化と現代)

EconomicsA

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 西淳 (非常勤講師)

授業の概要 この授業では資本主義という経済体制とはなにかを考え、また資本主義における制度の変化を考えることによってわれわれが生活している現代資本主義とはどのような経済なのかを考える。

学習の目的 人間の経済や経済活動には、歴史的に不変的な部分と特殊な部分が存在します。そして現代の資本主義を理解することは、その両面の関係を理解することでもあるのです。たとえば、人間ははるか昔から生産・分配・消費・蓄積という活動をおこなってきました。その意味では同じことを繰り返しているのですが、それがいかになされるのか、という点でそれぞれの時代の性格が分かれてきます。この授業では、これらの点に留意しつつ、われわれがどっぷりとつかり、またそのなかでさまざまなことを自明の前提として生きている資本主義という経済システムのメカニズムを理解してもらうことが目的です。

学習の到達目標 自分の生きている社会を理解するということは、歴史におけるみずからの位置を理解するということでもあるわけで

す。よって社会を理解するという通じて自己の歴史における位置を理解し、それを通じて自己理解につなげていってもらえば、学習の到達目標は達成されたことになるかと思えます。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、社会人としての態度

受講要件 特にありません。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

教科書 特に指定しません(毎回、資料・プリントを配布しておこないます)。

参考書 授業の中で適宜指示します。

成績評価方法と基準 平常点と定期試験の点でおこないます。

授業改善への工夫 授業期間中に何回か感想を書いてもらい、それを参考にしておこなおうと考えている。

その他 私語は厳禁です。

授業計画・学習の内容

キーワード 資本主義、生産、消費、蓄積、会社と株主、労働者、経営者の関係、政府と市場

Key Word(s) capitalism, production, consumption, accumulation, company and shareholders, workers, manager's relation, government and market

学習内容

第一回：はじめに(授業の流れの説明)
第二回：社会制度の変遷と経済(資本主義の特殊性、経済と制度との関連)
第三回：制度変化と経済の調整(家計と企業分離、労働と所有の分離、経営と所有の分離)
第四回：初期産業資本主義における経済(経済

主体、市場のあり方、経済倫理)
第五回：中期産業資本主義における経済(経済主体、市場の変容、経済倫理)
第六回：後期産業資本主義の時代・その初期段階(上)(工業化の進展、経営形態の変化)
第七回：後期産業資本主義の時代・その初期段階(下)(会社と株主、経営者、労働者の関係の変化)
第八回：ケインズ以前の経済学とはどのようなものであったか(上)(競争原理、価格メカニズム、自己責任論)
第九回：ケインズ以前の経済学とはどのようなものであったか(下)(小さな政府論、失業観)
第十回：ケインズによる経済学・経済思想の転換(上)(有効需要の原理、経済倫理の転換)

第十一回：ケインズによる経済学・経済思想の転換(中)(失業観の転換、不況観の転換)

第十二回：ケインズによる経済学・経済思想の転換(下)(政府についての考え方の転換)

第十三回：ケインズから現代へ(ケインズ以降の世界の変化)

第十四回：小さな政府論の復権(大きな政府か小さな政府か)

第十五回：まとめ(全体のまとめ)

学習課題（予習・復習） 普段から歴史に興味をもち、また現実の経済問題に注意をはらってください。

経済学A (日本の流通システム)

Economics A

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 常 清秀 (生物資源学部)

授業の概要 流通機構、流通経路、取引費用などの流通論に関する基本的概念を学習しながら、日本の流通システムの仕組みについて経済学の観点から例を示しながら解説する。

学習の目的 日本の流通システムについて理解する。

学習の到達目標 具体的には、第1段階においては、まず、流通システムの基本的枠組みや各流通過程における機構、主体、組織の役割と機能などを把握すること。第2段階では、学習した知識に基づき、現存の流通システムに存在している諸課題を独自の観点から、一定の論理性に基づいて或る程度説明できるようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 流通機構、流通経路、流通革命、レギュラーチェーン、卸売市場、自動補充発注システム (EOS)、委託販売、小売の輪の理論、小売業、公正取引委員会

Key Word(s) Distribution Structure, Distribution Chanel, Distribution Revolution, Regular Chain, Wholesale Market, Electronic Order System, Selling on Consignment Basis, Wheel of Retailing, Retailer, Fair Trade Commission

学習内容

第1回目 ガイダンス (受講生の当該授業科目関連知識の確認を含む)

第2回目 流通の仕組みと流通の社会的役割

第3回目 流通経路の形成

受講要件 特にない

参考書

- ・有賀健編著『日本の流通の経済学—参入・規制メカニズムの解明—』日本経済新聞社。
- ・矢作敏行著『現代流通—理論とケースで学ぶ』有斐閣アルマ
- ・ブルース・マリオン編著 有松晃訳 (財) 食料・農業政策研究センター監修『アメリカの食品流通』社団法人 農山漁村文化協会

成績評価方法と基準 期末試験による。なお、出席率が7割以下の場合は、評価の対象外になる (期末試験を受ける資格がなくなる)。要注意!

オフィスアワー 341室・常 (時間は初回授業時に連絡する)

授業改善への工夫 授業アンケートを通じて、学生のニーズと評価を把握し、授業改善に努める。

第4回目 商流

第5回目 物流

第6回目 情報流

第7回目 流通システム形成のメカニズム

第8回目 小売流通

第9回目 卸売流通

第10回目 メーカー流通

第11回目 流通系列化の理論

第12回目 多元的流通システムの展開

第13回目 流通政策

第14回目 日本の流通システムの特徴

第15回目 期末試験

学習課題 (予習・復習) ケーススタディの題材は学生に調べてもらいます。

経済学B (観光と環境)

EconomicsB

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 朝日幸代

授業の概要

観光は経済活動の1つであることから、観光と環境の関係は環境経済学を理解することが重要になる。そのため、本授業は環境経済学の考え方を中心に取り扱う。

観光資源は、自然環境を基盤とした自然資本、長い歴史を含む文化によって人間がつくりだした文化資本、近年の社会的ニーズによって作りだされた民間資本などがあり、様々な形成過程や特徴がある。これら資本に対する経済学理論による捉え方を講義する。さらに自然環境および環境問題の保全政策や環境評価、観光資源となる文化資本の価値を理解する内容を提示した上で、日本国内および海外の観光資源として環境政策や環境への取り組みを利用した事例を紹介する。また、観光と環境に関する世界遺産等の映像によって、様々な観光資源を見る機会を増やす予定である。講義は講義ノートのプリントと資料によってすすめる。

学習の目的 経済学の外部性の観点で環境を捉え、観光政策の重要性を理解すること、さらに環境政策の観光への適用を学ぶことにより、観光資源を多様な側面理解する。

学習の到達目標

外部性を理解し、環境問題を説明する知識を得る。また、文化資源や自然環境資源を理解する。環境政策の観光への適用事例を説明できるようになる。環境問題の解決策や観光政策で必要とされる要素について自分の意見を述べるができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 経済学、環境経済学、外部性、環境政策、公共財

学習内容

<第1週> 経済活動と資源 経済と環境の関係
<第2週> 資本の定義と役割 観光資源と環境資源
<第3週> 外部性の考え方 (1)

日常生活の環境問題や環境政策、さらに現在の観光の状況、環境政策に関心をもつことができる。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 配布資料を用いる

参考書

観光マーケティング理論と実際一, 長谷政弘, 同文館, 1998年
都市再生を考える, 植田和弘他, 岩波書店, 2004年
公共経済学入門, 西垣泰幸 編著, 八千代出版, 2003年
文化経済学入門, デイビット・スロスピー, 日本経済新聞社, 2003年

成績評価方法と基準 出席点30%、小テスト・講義内でのレポート20%、期末試験50%、計100%

オフィスアワー

日時: 毎週火曜日7.8時限
場所: 人文学部棟5F朝日研究室

その他 積極的な講義の参加を期待しています。尚、講義に出席せずに、試験およびレポートの提出は、講義で理解したことを評価することができません。本講義の単位をとるには出席が不可欠です。この点を理解した上で、受講して下さい。

<第4週> 外部性の考え方 (2)

<第5週> 環境と経済の持続可能性

<第6週> 環境政策の考え方 (1) 直接規制

<第7週> 環境政策の考え方 (2) 四日市公害の事例紹介

<第8週> 環境再生における新たな発展 水俣公害の負の遺産をプラスにする戦略

<第9週> エコツーリズム ドイツのフライブルクの事例、オーストラリア環境研修

<第10週> 観光デザインの要素

新しい観光のコンセプト 環境保全型の観光

<第11週> 環境評価方法

<第12週> 観光の便益と費用 (1)

<第13週> 観光の便益と費用 (2)

<第14週> 文化資本と持続可能性
文化遺産の経済的側面

<第15週> 文化的な財・サービスの経済的評価
s 美術館の事例

学習課題（予習・復習） 学習内容のトピックスに関連する箇所について、講義時に指示する課題等に取り組むこと。

人文地理学A (都市地理学入門)

Human Geography

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 安食 和宏(人文学部)

授業の概要 地域の科学としての地理学の視点を用いて、現代社会を分析的に理解するために、日本の都市の特徴について学習する。できるだけ身近な具体例を取り上げて、授業を進める。

学習の目的 都市地理学の基本知識と理論を身につける。そして、現実の都市構造や都市問題について、適切なデータを用いて具体的に説明できるようになる。

学習の到達目標 都市地理学的なものの方を学び、身近な都市の仕組みについて論理的に考えることができる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

受講要件 野外実習を行うので、歩くのが苦

授業計画・学習の内容

キーワード 都市地理学入門、日本の都市を理解する

学習内容

授業計画は以下の通り。「」は授業で取り上げるトピックスの一例を示す。

第1回 授業のガイダンス

第2回 都市の範囲、都市の分布 「なぜ、名古屋－四日市、名古屋－岐阜、名古屋－岡崎、岡崎－豊橋の距離が大体同じなのか?」

第3回 都市の順位・規模、都市機能 「なぜ、県庁のある津よりも四日市の方が大都市なのか?」「なぜ、桑名・四日市・鈴鹿・津・松阪・伊勢が共存できるのか?」

第4回－5回 都市の内部構造 「名古屋の中でステイタスの高い(低い)人々はどこに住んでいるのか?」「なぜ、阪急・阪神・南海・京阪沿線地域でそれぞれ性格が違うのか?」

にならない学生、路上観察が好きな学生の受講が望ましい。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 教科書は用いない。授業の時に資料を配付する。

参考書 参考文献は、授業時間内に適宜指示する。

成績評価方法と基準 平常点(20%)とレポート(20%)と試験(60%)の総合評価。

オフィスアワー 質問は随時受け付ける。

その他 授業の一部として、休日を利用した津市内実習(日帰り、徒歩)を行う。特別の理由がない限り、これへの参加は必修である。

第6回 商店街の構造 「なぜ、津市の商店街には活気がないのか?なぜ、スーパーがよく廃業するのか?」「なぜ、名古屋の繁華街は魅力に欠けるといわれるのか?」

第7回 津市の歴史と現状 (講義の順番が入れ替わる可能性あり)

第8回－9回 都市の階層 「なぜ、名古屋は大阪に匹敵できないのか?」「なぜ、奈良・大津・福井・富山市(県庁所在都市)の人口規模が大体同じなのか?」

第10回 都市システム 「三重は名古屋圏か?大阪圏か?」

第11回 頭の中の都市(イメージ)

第12回 日本とアジアの都市

第13回－15回 (津市内実習で代替する)

学習課題(予習・復習) 市内実習ではレポート提出が求められる

人文地理学B (文化地理学入門)

Human Geography B

学期 後期 **開講時間** 金 7, 8 **単位** 2 **対象** 人文学部専門授業の開放科目なので、人文学部学生は教養教育科目として受講することはできない。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 中川正

授業の概要 文化地理学的視点とその視点の現実生活への適用を概説する。

学習の目的 学生は、身近な現象の中から、地域的、環境的、景観的側面を浮かび上げさせ、そのパターンの発見、要因の説明、意味の解釈し、応用をする思考習慣を得るようになる。

学習の到達目標 本授業を受講することにより、学生は、身近な現象に地理的な側面から光を当てる感受性、発見した現象を説明・解釈する思考力、試行の結果を応用する実践力、を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、情報受発信力

受講要件 人文学部学生は、教養教育科目としてこの授業を受講することはできない。教養教育として受講する学生は、専門授業の

開放科目として、毎回リーディングの感想をMoodleへ投稿する等の課題を遂行し、グループディスカッションに積極的に参加する覚悟をもって受講すること。教養教育履修者の上限は30名であり、履修登録者が上限を超える場合には、最初の授業で選考するので、欠席しないこと。

教科書 中川正・森正人・神田孝治『文化地理学ガイダンス』ナカニシヤ出版、2006年。

成績評価方法と基準 毎回Moodle上に提出するリーディングと振り返り等の課題提出の評価で100%。したがって、課題提出の期限が遅れた場合、欠席の場合には減点となる。

オフィスアワー 金16:30～17:30

授業改善への工夫 人文学部専門授業の共通教育開放科目とし、異なった学部の学生間の議論ができるようにした。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化地理学、地域、環境、景観、発見、説明、解釈、応用

Key Word(s) Cultural Geography, Region, Environment, Landscape, Discovery, Explanation, Interpretation, Application

学習内容

身近な生活の中から、地理学的な地域、環境、景観という視点から光を当てて課題を浮かび上げさせて、パターンを発見し、要因を説明し、意味を解釈し、応用する方法を学ぶ

1. 文化地理学の視点
2. 文化地理学研究の手順
3. 視点としての地域
4. 視点としての環境

5. 視点としての景観
6. 言語の文化地理
7. 政治の文化地理
8. 都市の文化地理
9. 宗教の文化地理
10. 民俗の文化地理
11. 生業の文化地理
12. 観光の文化地理
13. ジェンダーの文化地理
14. 文化地理学の応用
15. 振り返り

学習課題(予習・復習) 毎回、教科書1章ずつ読んで感想を授業前日までにMoodleに投稿すること、および振り返り等の課題の投稿が課せられる。

人文地理学C (三重県の地誌を読む)

Human Geography

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 安食 和宏 (人文学部)

授業の概要 三重県の地誌(地理的特徴)を学習する。1970年代に出版された「日本地誌」シリーズ(二宮書店)、および2000年代に出版された「日本の地誌」シリーズ(朝倉書店)の中から三重県部分を取り上げて、その内容に即して学ぶ。三重県の自然環境、産業構造、住民の生活と文化、都市と農村などの特徴について、かつその特徴がどのように変化したかを学習する。

学習の目的 私たちが生活している(三重大学が立地する)三重県の地理的な特徴を理解する。それをもとにして、三重県の抱える課題と今後の方向性を説明することができるようになる。そして、地誌の記載の方法を身につける。

学習の到達目標 身近な地域の地理的特徴を理解して、その仕組みについて論理的に考えることができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い

教養, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 以下の2冊を主なテキストにして読み進める。必要部分はコピーを配布する。

1. 日本地誌研究所編(1976): 「日本地誌13. 近畿地方総論・三重県・滋賀県・奈良県」(二宮書店)。2. 藤田佳久・田林明編(2007): 「日本の地誌7. 中部圏」(朝倉書店)。

参考書 参考文献については、授業時間内に説明する。

成績評価方法と基準 平常点20%、授業における発表内容40%、レポート40%

オフィスアワー 質問は随時受け付ける。

授業計画・学習の内容

キーワード 三重県の地誌を読む

学習内容

第1回 授業概要の説明

第2回~3回 三重県の地理的特性について(講義)

第4回~13回 「日本地誌13」(1976年)と「日本の地誌7」(2007年)の内容紹介と討

論

(できるところまで読み進める予定)

第14回~15回 レポート発表会

学習課題(予習・復習) 文献の担当部分を読み、発表要旨を準備してくる。最終的には、三重県の興味あるテーマについて、レポートにまとめて発表する。

PBL地理学（地域・日本）Ⅰ・Ⅱ（ドキュメンタリー撮影）

PBL Seminar: Making documentary films Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 **開講時間** 火 9, 10; 水 9, 10 **単位** 4 **対象** 基本的に一年次生の受講とする。グループでのディスカッションや調査を積極的に行なうことが要される。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 演習, 実習 **授業の特徴** PBL, Moodle

担当教員 森 正人

授業の概要 フィールド調査をとおして、社会に対する視点を育成するとともに、企画化、表現の仕方等についても学ぶ。

学習の目的 受講生は調査対象を決定し、調査のスケジュールを立て、ドキュメンタリーを撮影し、編集することをとおして、大学外の社会に対してどのような研究方法が可能かを学ぶ

学習の到達目標 社会の理解に対する複数のアプローチおよび企画化、表現化。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える

力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 調査には危険が伴うので、学生教育研究災害保険に必ず加入すること。学外での調査への参加が可能であること。交通費、昼食代等は自己負担。

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー

成績評価方法と基準 授業への参加状況を勘案して総合的に評価する。

オフィスアワー 木曜13時～14時（ただしアポイントメントが必要）

その他 受講人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード フィールド調査と表現方法の習得

学習内容

1～2. ガイダンス

3～4. 学内の調査

5～6. 成果発表

7～8. 大門商店街の調査計画

9～12. 大門商店街の調査

13～14. 調査結果発表

15. 企画の発表と立案

16～18. 下見、企画の計画提出

19～23. 撮影

21～24. 編集

25～28. 第一次発表

29～30. 全体発表

日本学 (メディア・リテラシー)

Japanology

学期 前期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 受講制限 (100名) がある。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 平野 易子(非常勤講師)

授業の概要

- 1:伝統や文化など”過去の日本”については学ばない。
- 2:グローバル・スタンダード、言い換えればアメリカン・スタンダードの影響下にある”現在の日本”について、アメリカにおける支配文化とサブ・カルチャーの関係を参考に、メディア・リテラシーの視点から考える。
- 3:日本学というよりは「映画で学ぶジャパノロジー(Japan+ology)」

学習の目的

- 1)人種、民族的に同質性が高いと言われる日本人は、とかく視点がウチ向きになりがち。ジェンダーやエスニシティ等グローバル社会共通のキーワードを学ぶことによりソト向きの視点を持つこと。
- 2)本や新聞でなくネット上の情報を過信する若者たち。SNS等ソーシャルメディアへの依存に伴い思考内容もまた偏向する危険性があることを知ること。
- 3)現代は情報化社会でもあるが、情報を流すメディアの劣化は著しい。視聴率や発行部数等商業ベースに支えられたメディアに情報操作されることなく、メディアを疑い、批判する力「メディアリテラシー」を身につけること。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード サブカルチャー、ジェンダー、エスニシティ、メディア・リテラシーなど

学習内容

- 1:オリエンテーション
- 2:異文化コミュニケーション 「米映画:ロスト・イン・トランスレーションその1」
- 3:コミュニケーションの仕方 「米映画:ロスト・イン・トランスレーションその2」
- 4:日本的なコミュニケーション 「日米映画:シャル・ウィー・ダンス?の抜粋」
- 5:アメリカにおける黒人運動や女性運動などサ

- 1:”同質性の高い”日本で育ち、とかく「ウチ」に向きがちな学生の感性を「ソト」へも向けるようにする。
- 2:知識を得ると言うよりは、日々変化する日本を取りまくグローバルな情報への「知的好奇心」と「メディア・リテラシー」を身につける。

本学教育目標との関連 感性、論理的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 講義2回目以降の受講登録は困難。受講希望者はかならず初回に教室にやってきて登録のこと。

教科書 授業時間中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 期末の試験成績で100%評価する。

授業改善への工夫 毎回授業後の質問や要望について、必要に応じて対応する。

その他

毎回授業の出席者のみにプリントを配布する。いかなる理由があっても後での配布はしないので、欠席者は友人、知人にコピーを依頼すること。
受講制限 (100名) がある。

ブ・カルチャーの変化

「米映画:ステップフォードの妻たちオリジナル版その1」

6:セックスとジェンダー 「米映画:ステップフォードの妻たちオリジナル版その2」

7:セクシズム(性差別)からレイシズム(人種差別)へ

「米映画:ステップフォードの妻たちリメイク版抜粋」

8:人種とエスニシティ 「米映画:ミシシッピ・バーニングその1」

- 9:グローバル化に伴う人種・民族の等質化「米
映画:ミシシッピ・バーニングその2」
10:メディアとは何か?「米映画:クイズ・
ショーその1」
11:情報操作とは何か?「米映画:クイズ・
ショーその2」
12:日本のメディアの現状「米映画:クイズ・
ショーその3」
13:インターネットとマス・メディア「米映画:
クイズ・ショーその4」
14:グローバル社会とメディア・リテラシー」
15:まとめ
16:定期試験
*映画の内容は変更あり

日本学 (メディア・リテラシー)

Japanology

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 対象 受講制限 (100名) がある。 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 平野 易子(非常勤講師)

授業の概要

- 1:伝統や文化など”過去の日本”については学ばない。
- 2:グローバル・スタンダード、言い換えればアメリカン・スタンダードの影響下にある”現在の日本”について、アメリカにおける支配文化とサブ・カルチャーの関係を参考に、メディア・リテラシーの視点から考える。
- 3:日本学というよりは「映画で学ぶジャパノロジー(Japan+ology)」

学習の目的

- 1)人種、民族的に同質性が高いと言われる日本人は、とかく視点がウチ向きになりがち。ジェンダーやエスニシティ等グローバル社会共通のキーワードを学ぶことによりソト向きの視点を持つこと。
- 2)本や新聞でなくネット上の情報を過信する若者たち。SNS等ソーシャルメディアへの依存に伴い思考内容もまた偏向する危険性があることを知ること。
- 3)現代は情報化社会でもあるが、情報を流すメディアの劣化は著しい。視聴率や発行部数等商業ベースに支えられたメディアに情報操作されることなく、メディアを疑い、批判する力「メディアリテラシー」を身につけること。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード サブカルチャー、ジェンダー、エスニシティ、メディア・リテラシーなど

学習内容

- 1:オリエンテーション
- 2:異文化コミュニケーション 「米映画:ロスト・イン・トランスレーションその1」
- 3:コミュニケーションの仕方 「米映画:ロスト・イン・トランスレーションその2」
- 4:日本的なコミュニケーション 「日米映画:シャル・ウィー・ダンス?の抜粋」
- 5:アメリカにおける黒人運動や女性運動などサ

1:”同質性の高い”日本で育ち、とかく「ウチ」に向きがちな学生の感性を「ソト」へも向けるようにする。

2:知識を得ると言うよりは、日々変化する日本を取りまくグローバルな情報への「知的好奇心」と「メディア・リテラシー」を身につける。

本学教育目標との関連 感性、論理的思考力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 講義2回目以降の受講登録は困難。受講希望者はかならず初回到教室にやってくることで登録のこと。

教科書 授業時間中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 期末の試験成績で100%評価する。

授業改善への工夫 毎回授業後の質問や要望について、必要に応じて対応する。

その他

毎回授業の出席者のみにプリントを配布する。いかなる理由があっても後での配布はしないので、欠席者は友人、知人にコピーを依頼すること。
受講制限 (100名) がある。

ブ・カルチャーの変化

「米映画:ステップフォードの妻たちオリジナル版その1」

6:セックスとジェンダー 「米映画:ステップフォードの妻たちオリジナル版その2」

7:セクシズム(性差別)からレイシズム(人種差別)へ

「米映画:ステップフォードの妻たちリメイク版抜粋」

8:人種とエスニシティ 「米映画:ミシシッピ・バーニングその1」

- 9:グローバル化に伴う人種・民族の等質化「米映画:ミシシッピ・バーニングその2」
- 10:メディアとは何か?「米映画:クイズ・ショーその1」
- 11:情報操作とは何か?「米映画:クイズ・ショーその2」
- 12:日本のメディアの現状「米映画:クイズ・ショーその3」
- 13:インターネットとマス・メディア「米映画:クイズ・ショーその4」
- 14:グローバル社会とメディア・リテラシー」
- 15:まとめ
- 16:定期試験
- *映画の内容は変更あり

三重学（「四日市学」の確立）

MIE Studies

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○朴 恵淑(人文学部教授), 谷口智雅(人文学部特任教授), 岩崎恭彦(人文学部准教授), 宮岡邦任(教育学部教授), 水木千春(地域圏防災・減災研究センター 特任助教), 牛田芳克(非常勤講師), 山田享司(非常勤講師), 西浦尚夫(非常勤講師), 加藤忠哉(非常勤講師), 加藤征三(非常勤講師), 香川雄一(非常勤講師), 樋口知行(非常勤講師)

授業の概要 三重県の環境問題、特に四日市公害問題から環境先進県としての過去、現在、未来像を探るため、オムニバス形式で、人文社会科学及び自然科学、医学などを横断的に繋ぐ学際的・総合環境学的アプローチの講義を行う。そして、単に四日市にとどまらず、人間学・持続可能な社会学・環境教育学・アジア学として、自然環境と人々の営みの関わり合いについても、言及する。

学習の目的 様々な分野からのアプローチの講義を通じて、幅広い視野で地域の捉え方・見方ができるようになる。

学習の到達目標 過去の負の遺産としての四日市公害の教訓を活かし、三重県唯一の総合大学の三重大学が世界一の環境先進大学として位置付けられるための、環境マインドの高い学生となるべく考える力や実践力の向上をはかる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 四日市学、四日市公害、四日市コンビナート、人間学、持続可能な社会学、環境教育学、アジア学

学習内容

- 第1回 「四日市学」が目指すもの
- 第2回 四日市公害について
- 第3回 伊勢湾・四日市の水文環境
- 第4回 伊勢湾・英虞湾の海洋生態系の変遷
- 第5回 四日市公害と環境未来館
- 第6回 四日市公害と生物多様性

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 三重ブランドの創出

参考書

〔参考書〕；朴 恵淑編、四日市公害の過去・現在・未来を問う「四日市学」の挑戦、2012年、風媒社

〔参考書〕；国際環境シンポジウム報告書「四日市学」

〔参考書〕；朴 恵淑編、「四日市学講義」、2007年、風媒社

〔参考書〕；朴 恵淑・上野達彦・妹尾允史・山本真吾著「四日市学—未来をひらく環境学へ」、2005年、風媒社

成績評価方法と基準 最終レポート(50%)、授業態度(30%)、シンポジウムおよびエコ移動教室の参加状況(20%)で総合評価する。

その他 最終授業として、日本のみならずアジア・太平洋の海外の環境問題についても学習できる場として、国際環境シンポジウム「四日市学」を開催予定。また、週末の1日を利用してエコ移動教室を行い、四日市コンビナートや環境学習情報センター内の四日市公害資料室を見学を実施する予定。

- 第7回 四日市公害と地場産業
 - 第8回 四日市公害と環境政策
 - 第9回 四日市公害と環境法
 - 第10回 四日市公害と自然災害
 - 第11回 四日市公害とメディア
 - 第12回 四日市公害と環境教育
 - 第13回 四日市公害とエネルギー問題
 - 第14回 四日市公害と地球環境問題との接点
 - 第15回 国際環境シンポジウム「四日市学」
- ※講義内容の順番の変更あり

三重学 (三重ブランドの創出)

MIE Studies

学期 後期 開講時間 水5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 〇朴 恵淑 (人文学部教授)、谷口智雅(人文学部特任教授)、速水 亨 (非常勤講師)、川喜田 久 (非常勤講師)、宮武新次郎 (非常勤講師)、先浦宏紀 (非常勤講師)、松月清朗 (非常勤講師)、渡邊 昇 (非常勤講師)、木村 修(非常勤講師)、西浦尚夫(非常勤講師)

授業の概要 三重県内の産業について、オムニバス形式で講義を行う。三重県の産業の中には、国内ばかりでなく世界的なブランドとして知られている地場産業が数多くある。例えば、ミキモト真珠は世界ではじめて養殖に成功した以来、「ミキモト真珠」という世界的なブランドとして君臨している。また、日本初のFSC認証を取得した速水林業のヒノキは日本屈指の三重ブランドである。世界的なブランドとして成長できた背景には何が必要であったのか、戦略的に優れたものは何だったのかを探ることは、新たな三重ブランドを創出するために大変重要な意味を持つ。また、四日市公害で苦しんだ経験を生かした「環境に配慮した商品」の開発は産業と環境との両立をはかる新たな三重ブランド創出の大きなチャンスとなる。単に特産品やその概要を学ぶのではなく、地域と物の捉え方、考え方についても講義を行う。

学習の目的 地域の特徴的な産業を理解することかできる。

学習の到達目標 三重ブランドを創出するために必要とする諸要件を探り、応用し、発表

授業計画・学習の内容

キーワード 三重ブランド、ビジネス、環境

学習内容

- 第1回 三重ブランド、「三重」とは
- 第2回 三重ブランド、「ブランド」とは
- 第3回 三重ブランドと地場産業
- 第4回 三重ブランド創出に必要な自然環境
- 第5回 三重ブランド創出に必要な人文社会的環境
- 第6回 三重ブランドの事例Ⅰ (ミキモト真珠)
- 第7回 三重ブランドの事例Ⅱ (速水林業のヒノキ)
- 第8回 三重ブランドの事例Ⅲ (三重トヨペットのエコカー)

できる、感じる力、考える力、コミュニケーション力の向上をはかる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 参考書；日興リサーチセンター編「環境ビジネス最前線」、1995年、工業調査会

成績評価方法と基準 最終レポート(80%)を主な評価の対象とし、授業態度(20%)も考慮して総合評価する。

授業改善への工夫 三重ブランドとして位置付けられる企業及び三重ブランド化戦略の専門家から直接講義を受ける。

第9回 三重ブランドの事例Ⅳ (モクモク手づくりファーム)

第10回 三重ブランドの事例Ⅴ (地場産業)

第11回 環境ビジネスの事例Ⅰ (三重銀行)

第12回 環境ビジネスの事例Ⅱ (アスト津)

第13回 環境ビジネスの事例Ⅲ (環境管理)

第14回 新たな三重ブランドの創出

第15回 まとめ

※講義順序は変更があるので、初回の授業で説明します。

学習課題 (予習・復習)

- ・事例研究対象に対する文献及び情報収集
- ・講師からの資料及び情報に基づく学習

・三重ブランドの可能性の高い事業所の情報 収集

医学医療C (現代社会と健康)

Medicine, Nursing

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 ○村端真由美 (医学部), 平松万由子 (医学部), 北川亜希子 (医学部), 山田奈央 (医学部), 犬丸杏里 (医学部), 辻川真弓 (医学部), 小森照久 (医学部), 竹内佐智恵 (医学部), 井倉一政 (医学部), 畑下博世 (医学部), 新小田春美 (医学部), 児玉豊彦 (医学部), 後藤姉奈, 本田直子, 田村裕子, 賤川葉子他

授業の概要 現代社会の変化、歪みなどに影響される健康課題に焦点を当て、その実態と対策についての理解を促し、健康支援やサポートシステムのあり方について考える力を育てる。

学習の到達目標

- 1) 現代社会における健康課題の実態や発生要因についての理解を深める。
- 2) 現代社会が抱える健康課題の発生メカニズムと実施されている対策について理解する。
- 3) 健康支援の方向性やサポートシステムのあり方、自分の担える役割について考える。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準

2/3以上の出席を条件に、各回ごとのレポート(100%)で評価をする

オフィスアワー 毎週木曜日17:50-18:20, 場所: 共通教育190番教室

授業計画・学習の内容

キーワード 現代社会、健康、生活

学習内容

- 1 平松万由子「老年期におけるこころと体の変化と健康」
- 2 北川亜希子「高齢者のケアシステム」
- 3 山田奈央「母子保健の現状～先進国と発展途上国の現状から～」
- 4 吉田和枝「お肌の健康」
- 5 犬丸杏里「がんをもって生きること」
- 6 小森照久「心と身体のネットワークと香りの応用」

- 7 辻川真弓「デス・エデュケーション」
- 8 服部由佳「環境と健康」
- 9 竹内佐智恵「手術を受ける病気になったら」
- 10 井倉一政「アルコールと健康」
- 11 畑下博世「在日外国人の健康課題」
- 12 新小田春美「睡眠の健康科学」
- 13 児玉豊彦「あなたは今、しあわせ？」(現代の若者のこころは病んでいるのか?)
- 14 村端真由美「子どもの療養環境」
- 15 総括 他
(＊授業担当者と内容、順序は変更、追加することがある)

医学医療D (暮らしと看護)

Medicine, Nursing

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 ○村端真由美(医学部), 井關敦子(医学部), 西出りつ子(医学部), 林智子(医学部), 坂口美和(医学部), 今井奈妙(医学部), 福録恵子(医学部), 磯和勅子(医学部), 種田ゆかり(医学部), 井村香積(医学部), 江藤由美(医学部), 吉田和枝, 井倉一政 他

授業の概要 日常生活で起こりやすい身近な健康課題についての理解を促し、具体的な対処方法と予防的観点からの「健康的な生活の過ごし方」について考える力を育てる。

学習の到達目標

- 1) 生活の中にある身近な健康課題について再確認し、その対処方法や予防方法のあり方について理解する。
- 2) 各健康課題の視点から自分の生活をみつめ直し、発主要因や具体的な対処方法について考える。
- 3) 身近な健康課題の予防に向け、生活習慣を改善する具体的方策について考える。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 2/3以上の出席を条件に、各回ごとのレポート(100%)で評価をする

オフィスアワー 毎週木曜日17:50-18:20, 場所: 共通教育190番教室

授業計画・学習の内容

キーワード 暮らし、健康、看護

学習内容

- 1 井關敦子「胎児・新生児の発育と健康」
- 2 西出りつ子「子どもと不慮の事故」
- 3 吉田和枝「成人看護学」
- 4 林智子「相手の立場になって考える」
- 5 坂口美和「死への準備教育」
- 6 今井奈妙「化学物質と健康」
- 7 福録恵子「骨の健康学」
- 8 磯和勅子「超高齢社会における防災対策 災

- 害看護の視点から」
9 種田ゆかり「むくみとリンパ」
10 井村香積「人間関係」
11 成田有吾「成年後見制度と暮らし」
12 江藤由美「身近な人が病気になったら」
13 村端真由美「子どもの健康と感染症の予防」
14 服部由佳「老年看護学」
15 井倉一政「地域看護学」
(※授業担当者と内容、順序を変更、追加することがある)

日本理解特殊講義 (日本語の文処理) Lecture Course in Understanding Japan

学期 前期 開講時間 水 3, 4; 金 3, 4, 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 菅原彩加

授業の概要 母語話者がどのように文を解釈して意味を組み立てているかについて、主に日本語話者に対して行われた実験を紹介していく。扱う内容は、絵を見ながら文を聞いた時に被験者がどこを見ているかを記録したものや、被験者に文を読ませて文節ごとのリーディングタイムを記録したものなどである。実験結果から日本語の構造についてどのような推論ができるかを議論する。また、必要に応じて日本語以外の自然言語との比較も行う。

学習の目的

「言語学」は「認知科学」の一分野であることを具体的な例を用いて科学的に他人に説明できる。

授業で紹介された文処理研究のさまざまな手法を理解し、実験結果が日本語の構造についてどのような意味を持つかを他人に説明できる。

学習の到達目標

「言語学」は「認知科学」の一分野であることを他人に説明できる。

授業で紹介された文処理研究のさまざまな手

法を理解し、実験結果を他人に説明できる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 教科書は指定しない。スライドを使い、適宜資料を配布する。

参考書 適宜紹介する。

成績評価方法と基準 授業参加 (リアクションペーパーへの記入) 25%、小テスト25%、期末試験50%で評価する。

オフィスアワー 随時 (メールでアポイントメントを取ること)

授業改善への工夫 パワーポイント、配布資料などによる講義と毎回のリアクションペーパーの提出を組み合わせ、授業内容の理解を深めてもらうと共に学生のニーズを把握できるようにする。講義では実験の具体例を提示し、より興味が持てるようにする。

授業計画・学習の内容

キーワード 文処理、事象関連電位、アイトラッキング、自己制御読文課題

Key Word(s) Sentence processing, ERP, eye-tracking, self-paced reading task

学習内容

第1回 ガイダンス：サイエンスの対象としての言語学

第2回 音の知覚：事象関連電位を使って

第3回 音の知覚：Eye-trackingを使って

第4回 音が持つシグナルと意味の関係

第5回 (#2~4の範囲の小テスト)、項構造の処理

第6回 言語獲得におけるブートストラップ理論

第7回 人工言語を使った研究

第8回 関係節の処理

第9回 関係節の処理2

第10回 (#5~9の範囲の小テスト)、疑問詞を使った文法的依存関係の処理

第11回 疑問詞を使った文法的依存関係の処理2

第12回 否定副詞を使った文法的依存関係の処理

第13回 (#10~12の範囲の小テスト)、含意計算の処理

第14回 含意計算の処理2

第15回 総まとめ

(試験)

学習課題 (予習・復習) 授業は付加的に進むので、スライドや授業でとったノートをもとに復習をし、前回の内容を理解したうえで授業に臨んでください。

日本理解特殊講義S (地域の仕事をを知る)

Employment and Career Development

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○西村訓弘 (医学系研究科)、狩野幹人、八神寿徳、加藤貴也 (以上、社会連携研究センター)、矢野竹男、坂内正明 (以上、地域イノベーション学研究科)

授業の概要 日本社会は人口減少期に入り経済の停滞と閉塞感が漂っていると言われて久しい。しかしながら、地域社会を見渡すと三重県内には可能性が高く、活力に満ちた企業が数多く存在している。本授業では、ゲストスピーカーとして主に三重県を足場として日本国内に限らずグローバルに展開した企業経営を行っている経営者(社長クラス)を順次招聘し、経営者の立場から大学で学ぶ学生に期待することを語ってもらう。元気な経営者の生の声を聴き、自分の感覚で経営者の生きざまを感じ取ること、就職を目指す学生諸君に、「働くことを通じた自己形成」について自ら考える機会を与える。

学習の目的 地域社会の中核人材として活躍する人材に必要な素養について理解できるようになる。

学習の到達目標 企業経営を行う人たちとの対話から、企業への就職など社会生活を通じた自己実現について熟慮できる能力を養成する。大学卒業後に社会人として生きるための基礎力を磨く。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、問題解決力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 経営者との対話から就職を考える

Key Word(s) Committing for community and works

学習内容

本講義では、三重県内など地域社会の現場での活躍している経営者などをゲスト・スピーカーとして招聘し、ゲスト・スピーカーの活動内容、考え方を生の声として語っていただ

受講要件 「働くことを通じて自己実現をはかる」ことを考えている学生であることが望ましい。

予め履修が望ましい科目 第一回目の講義で招聘する企業名の一覧を提示するので、各企業の事業内容等についてホームページ等で事前に調べておくこと。

発展科目 特になし。

教科書 講義において各講師からの資料を配布する予定。

成績評価方法と基準 出席票(各講義についての感想を記述)50%、レポート(50%)によって評価する。

オフィスアワー

医学系研究科トランスレーショナル医科学(059-231-5405)まで問い合わせのこと。

担当: 田口、加藤

授業改善への工夫 毎回の講義において感想文を学生から提出させ、その内容を考慮した改善を行うことを計画している。

その他 こちらは教育統合科目としての科目です。キャリア科目として履修する場合はこちらを履修して下さい。

く。その後、教員が解説しながら地域社会で活躍するための考え方を学生との質疑を通して指導する。

第1回 就職を通じたキャリア形成について(担当: 西村)

第2回~第14回 地域の経営者に聞く

(担当: ゲストスピーカーとして招聘する地域の企業経営者など)

三重県内など地域社会の現場での活躍している経営者などをゲスト・スピーカーとして招

聘し、ゲスト・スピーカーの活動内容、考え方を生の声として語っていただく。

第15回 就職とキャリア形成のまとめ（担当：西村）

授業終了時に提出するレポートでは、授業における習熟度を把握するために、全てのゲストスピーカーのお話を受けて自身が感じ取った「社会で働くこと」についての考えを自分の言葉としてまとめ、提出する。その際には、講義シリーズで心に残った講師を3名挙げ、なぜその講師の話聞いて心に残ったかについての説明とその結果として自分がどのように仕事に取り組みたいと思ったかについ

てを問うことを予定している。

学習課題（予習・復習）

第1回目の授業にて、本授業科目でお話を聞くゲストスピーカーの一覧表を提示するので、ゲストスピーカーの方々について、インターネットなどを利用して事前に背景を理解しておくことが望ましい。

各授業では、出席確認のための用紙を配布するので、この用紙にゲストスピーカーのお話を聞いたことに対する感想を各授業の終了時まで記入して、退出時に提出すること。その提出をもって各授業への出席とする。

日本理解特殊講義S (起業マインドの醸成)

Lecture Course in Understanding Japan S

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 市民開放授業

担当教員 ○山根栄次 (教育学部)、松岡守 (教育学部)、武田秀一 (非常勤講師)

授業の概要 起業のための基礎知識と方法を起業プランの作成を通じて実践的に獲得する。

学習の目的 社会をより良いものにしていくためには、与えられた仕事をただこなすのではなく、今のシステムのどこに問題があるのか気づくアンテナの繊細さ、そしてそれを発見したらどうすれば良いのかの企画力、そしてそれを形にする実践力が個々人に求められる。これは実際に起業をせずに一企業に所属する立場を継続する場合でも求められる姿である。このような一連の意識、知識、実践力を身に付けるのがこの授業の目的である。

学習の到達目標

- ・ 起業のための基礎知識を得る
- ・ 起業のための心構え、姿勢を獲得
- ・ 自ら課題を発見し解決する企画立案能力の

獲得

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

成績評価方法と基準 授業の中でのグループ討論、発表、レポートから評価する。

オフィスアワー 相談は武田 (dzq04343@nifty.ne.jp) まで電子メールで。直接相談が必要な場合は電子メールで日時等を設定の上、対応します。

その他 授業の進行上受講生は50名までとする。

授業計画・学習の内容

キーワード 起業マインドの醸成

学習内容

- 1 プログラム受講ガイダンス
- 2アントレプレナーシップとは
- 3 起業の心構え
- 4 事業計画とは1
- 5 現役起業家 (ゲストスピーカー) による講義1
- 6 ビジネスアイデアの洗い出し

- 7 ビジネスプランの作成1
- 8 ビジネスプランの作成2
- 9 事業計画とは2
- 10 現役起業家 (ゲストスピーカー) による講義2
- 11 ビジネスプランの作成3
- 12 ビジネスプランの作成4
- 13 効果的なプレゼンテーションとは
- 14 プレゼンテーション資料作成
- 15 ビジネスプランの発表・総括

日本学 (メディアと日本文化)

Japanology

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 栗田 聡子

授業の概要

”この授業では、日本人学生と留学生が、日本の社会や文化についてともに考え英語で討論します。メディアのコンテンツ・情報伝達の在り方は、その国の文化や社会について知る上で欠かせない材料です。新聞からテレビ、映画やインターネットなど様々な形態のメディアを通じて日本の文化や社会、日本人の心理的傾向などについて考えていきます。This course will offer both International students and Japanese students an opportunity to discuss Japanese society and culture in English. Media content and process of communication are a primary source for us to understand culture and society of a given country. In this course, students will get an insight into Japanese culture and society, as well as their psychological tendencies, through various forms of media, such as newspapers, television, film and the Internet.”

学習の目的

- 1) 日本のメディア事情から日本の文化と社会、日本人の心理的傾向について考え理解する、
 - 2) (自国のメディア事情や文化と比較して) 日本社会の特色や問題について考える、
 - 3) ディスカッションを通して国際交流を促進する、
 - 4) 英語能力を高める。
- 1) Increase understanding of the Japanese culture, society, and psychological tendencies through media, 2) consider characteristics of Japanese culture and social issues (by

comparing with these of student's own country), 3) enhance international communication through discussions, and 4) increase English competency.

学習の到達目標

メディアという材料を通して日本文化や社会状況などについて考え、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて英語で表現できるようにすること。
To think about and get an insight into Japanese culture and social climate through media, and to express own opinions in English through discussions and group presentations.

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 レポートと授業への参加の積極性

オフィスアワー 教員室に在室時に随時対応

授業改善への工夫 最新の情報を含め、様々なメディアを活用して教授する

授業計画・学習の内容

キーワード 文化、社会、メディア、新聞、テレビ、映画、インターネット

Key Word(s) Culture, Society Media, Newspaper, TV, Film, Internet

学習内容

第1回 イントロダクションーメディア概要：Introduction - Outline of Japanese Media

第2回 言論の自由：Journalism and freedom of expression

第3回 テレビから見える日本ー過去：Japanese culture and society on television in the past

第4回 テレビから見える日本ー近年：Japanese culture and society on television in recent years

第5回 雑誌から見える日本： Japanese culture and society in magazines

第6回 新聞から見える日本： Japanese culture and society in newspaper

第7回 映画から見える日本の文化： Japanese culture in films

第8回 映画から見える日本の社会： Japanese society in films

第9回 広告から見える日本の文化： Japanese culture in advertisements

第10回 広告から見える日本の社会： Japanese society in advertisements

第11回 インターネットの発展： Development of the Internet

第12回 インターネットの影響： Influence of

the Internet

第13回 メディアと流行： Media and popular culture in Japan

第14回 グループプレゼンテーション： Group presentations (subjects will be discussed)

第15回 プレゼンテーション評価と総括： Evaluation review

第16回 レポート提出 Report Submission

学習課題（予習・復習）

日頃から日本のメディアやニュースについて親しんでください。他の予習・復習については授業で説明します。

Please familiarize yourself with Japanese media and news in daily life. Other preparations and reviews will be explained in classes.

日本学 (メディアと日本文化)

Japanology

学期 後期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 栗田 聡子

授業の概要

この授業では、日本人学生と留学生が、日本の社会や文化についてともに考え英語で討論します。メディアのコンテンツ・情報伝達の在り方は、その国の文化や社会について知る上で欠かせない材料です。新聞からテレビ、映画やインターネットなど様々な形態のメディアを通じて日本の文化や社会、日本人の心理的傾向などについて考えていきます。This course will offer both International students and Japanese students an opportunity to discuss Japanese society and culture in English. Media content and process of communication are a primary source for us to understand culture and society of a given country. In this course, students will get an insight into Japanese culture and society, as well as their psychological tendencies, through various forms of media, such as newspapers, television, film and the Internet.

学習の目的

- 1) 日本のメディア事情から日本の文化と社会、日本人の心理的傾向について考え理解する、
 - 2) (自国のメディア事情や文化と比較して) 日本社会の特色や問題について考える、
 - 3) ディスカッションを通して国際交流を促進する、
 - 4) 英語能力を高める。
- 1) Increase understanding of the Japanese culture, society, and psychological tendencies through media, 2) consider characteristics of Japanese culture and social issues (by

comparing with these of student's own country), 3) enhance international communication through discussions, and 4) increase English competency.

学習の到達目標

メディアという材料を通して日本文化や社会状況などについて考え、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて英語で表現できるようにすること。
To think about and get an insight into Japanese culture and social climate through media, and to express own opinions in English through discussions and group presentations.

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 レポートと授業への参加の積極性

オフィスアワー 教員室に在室時に随時対応

授業改善への工夫 最新の情報を含め、様々なメディアを活用して教授する

授業計画・学習の内容

キーワード 文化、社会、メディア、新聞、テレビ、映画、インターネット

Key Word(s) Culture, Society Media, Newspaper, TV, Film, Internet

学習内容

第1回 イントロダクションーメディア概要：Introduction - Outline of Japanese Media

第2回 言論の自由：Journalism and freedom of expression

第3回 テレビから見える日本ー過去：Japanese culture and society on television in the past

第4回 テレビから見える日本ー近年：Japanese culture and society on television in recent years

第5回 雑誌から見える日本： Japanese culture and society in magazines

第6回 新聞から見える日本： Japanese culture and society in newspaper

第7回 映画から見える日本の文化： Japanese culture in films

第8回 映画から見える日本の社会： Japanese society in films

第9回 広告から見える日本の文化： Japanese culture in advertisements

第10回 広告から見える日本の社会： Japanese society in advertisements

第11回 インターネットの発展： Development of the Internet

第12回 インターネットの影響： Influence of

the Internet

第13回 メディアと流行： Media and popular culture in Japan

第14回 グループプレゼンテーション： Group presentations (subjects will be discussed)

第15回 プレゼンテーション評価と総括： Evaluation review

第16回 レポート提出 Report Submission

学習課題（予習・復習）

日頃から日本のメディアやニュースについて親しんでください。他の予習・復習については授業で説明します。

Please familiarize yourself with Japanese media and news in daily life. Other preparations and reviews will be explained in classes.

日本学 (メディアと日本文化)

Japanology

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 栗田 聡子

授業の概要 この授業は日本語上級クラスの留学生および日本人学生を対象とし、メディアを通して日本の社会や文化を理解するだけでなく、情報社会に生きる私たちの在り方について皆で考え討論します。言語は日本語を使用します。メディアはその国の文化・心理傾向について理解する上で欠かせない材料です。留学生にとっては自国における報道や娯楽番組の特色と比較することで、世界における日本社会の特性や位置について理解することができるだけでなく、日本以外の文化にも触れる機会があります。学期末にはグループプレゼンテーションを通じて情報を伝える側の技術も学びます。

学習の目的 1) 日本のメディア事情から日本の文化と社会、日本人の心理的傾向について考え理解する、2) (自国のメディア事情や文化と比較して) 日本社会の特色や問題について考える、3) ディスカッションを通して国際交流を促進する、4) プレゼンテーションを通じて情報を伝える技術を学ぶ。

学習の到達目標 メディアという材料を通して日本社会の問題や文化などについて日本語

で説明することができ、プレゼンテーションで情報を明確に伝える。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 レポートと授業への参加の積極性

オフィスアワー 教員室に在室時に随時対応

授業改善への工夫 日本の社会を象徴するようなメディアコンテンツを様々なフォーマットで紹介する。

その他 留学生は、学部正規生の場合でも、国際交流センターにて履修登録すること(国際交流センターの科目名:「日本事情2A」)。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化、社会、メディア、新聞、テレビ、映画、インターネット

Key Word(s) Culture, Society Media, Newspaper, TV, Film, Internet

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 社会を映す鏡ーメディア
第3回 テレビ番組編成から見る日本
第4回 娯楽番組から見える日本
第5回 映画から見える日本
第6回 報道から考える日本
第7回 日本が伝える世界・世界が伝える日本

第8回 グループプレゼンテーション準備: テーマ

第9回 広告・雑誌から見える日本

第10回 Jポップカルチャー

第11回 特別講義(新聞記者など)

第12回 グループプレゼンテーション

第13回 グループプレゼンテーション

第14回 グループプレゼンテーション

第15回 プレゼンテーション評価と総括

第16回 レポート提出

学習課題(予習・復習) 課題は随時説明します。

日本学 (メディアと日本文化)

Japanology

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 栗田 聡子

授業の概要 この授業は日本語上級クラスの留学生および日本人学生を対象とし、メディアを通して日本の社会や文化を理解するだけでなく、情報社会に生きる私たちの在り方について皆で考え討論します。言語は日本語を使用します。メディアはその国の文化・心理傾向について理解する上で欠かせない材料です。留学生にとっては自国における報道や娯楽番組の特色と比較することで、世界における日本社会の特性や位置について理解することができるだけでなく、日本以外の文化にも触れる機会があります。学期末にはグループプレゼンテーションを通じて情報を伝える側の技術も学びます。

学習の目的 1) 日本のメディア事情から日本の文化と社会、日本人の心理的傾向について考え理解する、2) (自国のメディア事情や文化と比較して) 日本社会の特色や問題について考える、3) ディスカッションを通して国際交流を促進する、4) プレゼンテーションを通じて情報を伝える技術を学ぶ。

学習の到達目標 メディアという材料を通して日本社会の問題や文化などについて日本語

で説明することができ、プレゼンテーションで情報を明確に伝える。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 レポートと授業への参加の積極性

オフィスアワー 教員室に在室時に随時対応

授業改善への工夫 日本の社会を象徴するようなメディアコンテンツを様々なフォーマットで紹介する。

その他 留学生は、学部正規生の場合でも、国際交流センターにて履修登録すること(国際交流センターの科目名:「日本事情2B」)。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化、社会、メディア、新聞、テレビ、映画、インターネット

Key Word(s) Culture, Society Media, Newspaper, TV, Film, Internet

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 社会を映す鏡ーメディア
- 第3回 テレビ番組編成から見る日本
- 第4回 娯楽番組から見える日本
- 第5回 映画から見える日本
- 第6回 報道から考える日本
- 第7回 日本が伝える世界・世界が伝える日本

第8回 グループプレゼンテーション準備: テーマ

第9回 広告・雑誌から見える日本

第10回 Jポップカルチャー

第11回 特別講義(新聞記者など)

第12回 グループプレゼンテーション

第13回 グループプレゼンテーション

第14回 グループプレゼンテーション

第15回 プレゼンテーション評価と総括

第16回 レポート提出

学習課題(予習・復習) 課題は随時説明します。

日本文学A (日本古典文学入門)

Japanese literature A

学期 前期 開講時間 火 1, 2, 5, 6; 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 高井 悠子

授業の概要 中古文学を味わう。中古文学の代表的な作品について、原文に触れながら、それぞれの作品世界と文学史的な位置づけを学ぶ。

学習の目的 『古今和歌集』や『和漢朗詠集』などの平安文学における基礎的な韻文作品の内容を把握した上で、『伊勢物語』、『源氏物語』など、後世の文学作品に大きな影響を与えたの王朝文学作品における世界観や表現の方法などを理解する。

学習の到達目標 講義を聞いて、取り上げた作品本文を理解し、学習した内容をまとめ、問題意識や関心を見つけることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考

授業計画・学習の内容

キーワード 日本古典文学入門

Key Word(s) Introduction to Japanese classical literature

学習内容

中古文学のいくつかの作品を取り上げ、原文を読みながら、それぞれの作品の特徴や文学史的な位置づけを解説する。受講者は授業で指示されるミニレポートや課題に取り組む。

第1回 イントロダクション

第2回 『古今和歌集』の世界

第3回 『和漢朗詠集』の世界

第4回 『古今和歌集』、『和漢朗詠集』の古注釈

第5回 歌物語 『伊勢物語』

力、課題探求力

教科書 プリントを配布する。

参考書 『平安文学研究ハンドブック』(田中登・山本登朗編、和泉書院)

成績評価方法と基準 授業中に課す課題、ミニレポート及び学期末レポート(80%)と受講態度(20%)で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

授業改善への工夫 授業中に課す課題やミニレポートにより、学生の興味関心や理解度を確認し、授業に反映する。

その他 第一回目の授業は、授業の内容や方針を説明するので、必ず出席すること。

第6回 歌物語 『大和物語』

第7回 長編物語への道 『竹取物語』

第8回 長編物語への道 『宇津保物語』

第9回 『源氏物語』①

第10回 『源氏物語』②

第11回 『源氏物語』③

第12回 『源氏物語』以後の文学 『狭衣物語』

第13回 『源氏物語』以後の文学 『浜松中納言物語』、『夜の寝覚』

第14回 中世王朝物語の世界

第15回 まとめ 物語と和歌

学習課題(予習・復習) 次の授業で読むテキストを、必ず前もって読んで予習をしておくこと。

日本文学A (日本古典文学入門)

Japanese literature A

学期 後期 開講時間 月 9, 10; 火 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 高井 悠子

授業の概要 中古文学を味わう。中古文学の代表的な作品について、原文に触れながら、それぞれの作品世界と文学史的な位置づけを学ぶ。

学習の目的 『古今和歌集』や『和漢朗詠集』などの平安文学における基礎的な韻文作品の内容を把握した上で、『伊勢物語』、『源氏物語』など、後世の文学作品に大きな影響を与えた王朝文学作品における世界観や表現の方法などを理解する。

学習の到達目標 講義を聞いて、取り上げた作品本文を理解し、学習した内容をまとめ、問題意識や関心を見つけることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考

授業計画・学習の内容

キーワード 日本古典文学入門

Key Word(s) Introduction to Japanese classical literature

学習内容

中古文学のいくつかの作品を取り上げ、原文を読みながら、それぞれの作品の特徴や文学史的な位置づけを解説する。受講者は授業で指示されるミニレポートや課題に取り組む。

第1回 イントロダクション

第2回 『古今和歌集』の世界

第3回 『和漢朗詠集』の世界

第4回 『古今和歌集』、『和漢朗詠集』の古注釈

第5回 歌物語『伊勢物語』

力、課題探求力

教科書 プリントを配布する。

参考書 『平安文学研究ハンドブック』（田中登・山本登朗編、和泉書院）

成績評価方法と基準 授業中に課す課題、ミニレポート及び学期末レポート（80%）と受講態度（20%）で総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週火曜日の昼休み

授業改善への工夫 授業中に課す課題やミニレポートにより、学生の興味関心や理解度を確認し、授業に反映する。

その他 第一回目の授業は、授業の内容や方針を説明するので、必ず出席すること。

第6回 歌物語『大和物語』

第7回 長編物語への道『竹取物語』

第8回 長編物語への道『宇津保物語』

第9回 『源氏物語』①

第10回 『源氏物語』②

第11回 『源氏物語』③

第12回 『源氏物語』以後の文学『狭衣物語』

第13回 『源氏物語』以後の文学『浜松中納言物語』、『夜の寝覚』

第14回 中世王朝物語の世界

第15回 まとめ 物語と和歌

学習課題（予習・復習） 次の授業で読むテキストを、必ず前もって読んで予習をしておくこと。

日本文学C (日本近代文学セミナー)

Japanese literature C

学期 前期 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択

授業の方法 講義

担当教員 坂 堅太

授業の概要 戦争を取扱った日本近代文学の作品を読解しながら、日本社会が戦争をどうイメージしてきたかを考察する。

学習の目的

日本近代文学の作品を読解する力を身につける。

作品の描かれた歴史的・社会的背景を知り、現代社会に対する批判的視座を構築する。

学習の到達目標

戦争文学を読解し、日本社会が戦争をどう描いてきたかを知る。

作品の描かれた歴史的・社会的背景を知り、現代社会に対する批判的視座を構築する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 日本文学史・日本史についての基礎的な知識（高校範囲）を有すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本の戦争文学の概説

Key Word(s) General theory of the Japanese war literature

学習内容

戦争を描いた作品をテーマごとに取り上げ、そこに描かれた戦争のイメージを分析する。

【授業計画】

第1回：イントロダクション

第2回：「兵営」を描く (1) 一野間宏『真空地帯』

第3回：「兵営」を描く (2) 一「俗情との結託」論争

第4回：「兵営」を描く (3) 一大西巨人『神聖喜劇』

第5回：「特攻」を描く (1) 一島尾敏雄の特攻三部作①

第6回：「特攻」を描く (2) 一島尾敏雄の特攻三部作②

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 適宜プリントを配付する。

参考書 別途指示する。

成績評価方法と基準 授業への意欲30%、期末レポート70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する

オフィスアワー 水曜日12～13時、場所：研究室

授業改善への工夫 授業中の私語は厳禁。リフレクションシートに寄せられた感想をもとに、講義内容を一部変更することがある。

その他 このクラスは開放科目なので、人文学部1年生は共通教育科目として履修できません。授業中に私語をして注意されると、その時点で単位は不可。

第7回：「原爆」を描く (1) 一林京子『ギヤマンビードロ』①

第8回：「原爆」を描く (2) 一林京子『ギヤマンビードロ』②

第9回：「引揚げ」を描く (1) 一藤原てい『流れる星は生きている』

第10回：「引揚げ」を描く (2) 一松本清張「赤いくじ」

第11回：「占領」を描く (1) 一小島信夫「アメリカン・スクール」①

第12回：「占領」を描く (2) 一小島信夫「アメリカン・スクール」②

第13回：「焼け跡」を描く (1) 一野坂昭如「火垂るの墓」①

第14回：「焼け跡」を描く (2) 一野坂昭如「火垂るの墓」②

第15回：まとめ

学習課題 (予習・復習) 授業で扱うテキストは必ず事前に読んでくること。

日本文学C (日本近代文学セミナー)

Japanese literature C

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 坂 堅太

授業の概要 戦争を取扱った日本近代文学の作品を読解しながら、日本社会が戦争をどうイメージしてきたかを考察する。

学習の目的

日本近代文学の作品を読解する力を身につける。

作品の描かれた歴史的・社会的背景を知り、現代社会に対する批判的視座を構築する。

学習の到達目標

戦争文学を読解し、日本社会が戦争をどう描いてきたかを知る。

作品の描かれた歴史的・社会的背景を知り、現代社会に対する批判的視座を構築する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 日本文学史・日本史についての基礎的な知識(高校範囲)を有すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本の戦争文学の概説

Key Word(s) General theory of the Japanese war literature

学習内容

戦争を描いた作品をテーマごとに取り上げ、そこに描かれた戦争のイメージを分析する。

【授業計画】

第1回: イントロダクション

第2回: 「兵営」を描く(1) 一野間宏『真空地帯』

第3回: 「兵営」を描く(2) 一「俗情との結託」論争

第4回: 「兵営」を描く(3) 一西巨人『神聖喜劇』

第5回: 「特攻」を描く(1) 一島尾敏雄の特攻三部作①

第6回: 「特攻」を描く(2) 一島尾敏雄の特攻三部作②

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

教科書 適宜プリントを配付する。

参考書 別途指示する。

成績評価方法と基準 授業への意欲30%、期末レポート70%。毎回リフレクションシートを配付し、授業の理解度を測定する

オフィスアワー 水曜日12~13時、場所: 研究室

授業改善への工夫 授業中の私語は厳禁。リフレクションシートに寄せられた感想をもとに、講義内容を一部変更することがある。

その他 このクラスは開放科目なので、人文学部1年生は共通教育科目として履修できません。授業中に私語をして注意されると、その時点で単位は不可。

第7回: 「原爆」を描く(1) 一林京子『ギヤマンビードロ』①

第8回: 「原爆」を描く(2) 一林京子『ギヤマンビードロ』②

第9回: 「引揚げ」を描く(1) 一藤原てい『流れる星は生きている』

第10回: 「引揚げ」を描く(2) 一松本清張「赤いくじ」

第11回: 「占領」を描く(1) 一小島信夫「アメリカン・スクール」①

第12回: 「占領」を描く(2) 一小島信夫「アメリカン・スクール」②

第13回: 「焼け跡」を描く(1) 一野坂昭如「火垂るの墓」①

第14回: 「焼け跡」を描く(2) 一野坂昭如「火垂るの墓」②

第15回: まとめ

学習課題(予習・復習) 授業で扱うテキストは必ず事前に読んでくること。

哲学F（「哲学」とは何か）

Philosophy F

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 田中 綾乃（人文学部）

授業の概要

「哲学」とは一体、どのような学問なのだろうか。

古代から近代までのヨーロッパの哲学者たちの思想を概観することで、哲学的思考法についてゼロから学ぶ。

学習の目的

哲学的思考法の基礎を身につけることを目的とする。

論理的に物事を考察することを目的とする。

学習の到達目標

授業で扱う哲学者の理論を理解することを目標とする。

現代における哲学的諸問題について考察を広げられることを目標とする。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

哲学の授業では、哲学者の理論を通して、様々な諸問題をじっくりとく自分自身で考え

る>ことが求められる。

それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。

発展科目 哲学・倫理学の科目

教科書

貫成人『哲学マップ』（ちくま新書）

その他、プリント配布。

参考書 参考書は適宜指示する。

成績評価方法と基準 平常点、小レポート（レスポンスペーパー）などから総合的に評価する。

オフィスアワー

木曜日12時～13時

事前にメールでアポイントをとること。

その他

毎回、授業の後にレスポンス・ペーパーを配布し、授業の内容や質問について書いてもらいます。

数回、哲学カフェ（対話型授業）の形式をとりいれます。

授業計画・学習の内容

キーワード 「哲学」とは何か？

学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 <哲学>とはなにか？

第三回 <哲学>的な思考法

第四回～第五回 古代ギリシャにおける哲学

第六回～第七回 中世における神学と哲学

第八回 デカルトのCogito ergo sum

第九回 ホッブスの哲学

第十回～第十二回 イギリス経験論

第十三回～第十四回 カント哲学

第十五回 まとめ

ただし、学生の理解度によって授業を進めるので、必ずしもシラバス通りに進むとは限らない。

学習課題（予習・復習） 身の回りにある日常や常識を疑い、哲学的に捉えなおしてみる。

哲学 F (哲学と現代的諸問題)

Philosophy F

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 田中 綾乃 (人文学部)

授業の概要

めまぐるしく時代が変容する現代において、
<哲学>はどのような意義を持つのだろうか。

哲学の基本問題からデジタル・テクノロジー、そして3.11の問題まで、幅広い視点で現代の哲学的諸問題を学ぶ。

学習の目的

哲学的思考法の基礎を身につけることを目的とする。

論理的に物事を考察することを目的とする。

学習の到達目標

現代のさまざまな諸問題をより深く考察することを目標とする。

授業で扱う哲学者の理論を理解することを目標とする。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

哲学の授業では、哲学者の理論を通して、様々な諸問題をじっくりとく自分自身で考え

る>ことが求められる。

それゆえ、受動的ではなく、能動的に授業に参加すること。

発展科目 哲学・倫理学の科目

教科書

黒崎政男『いまを生きるための「哲学的思考」』（日本実業出版社）

その他、プリント配布。

参考書 参考書は適宜指示する。

成績評価方法と基準 平常点、小レポート（レスポンスペーパー）などから総合的に評価する。

オフィスアワー

木曜日12時～13時

事前にメールでアポイントをとること。

その他

毎回、授業の後にレスポンス・ペーパーを配布し、授業の内容や質問について書いてもらいます。

数回、哲学カフェ（対話型の授業）の形式をとります。

授業計画・学習の内容

キーワード 哲学と現代的諸問題

学習内容

第一回 イントロダクション

第二回 <哲学>とはなにか

第三回 現代の諸問題と哲学の関係

第四回 近代的なものの見方

第五回 デカルトのCogito ergo sum

第六回 デジタルとは何か？

第七回～第九回 デジタル時代の哲学

第十回 リスボンとフクシマ

第十一回～第十四回 3.11後の世界を哲学的に考える

第十五回 まとめ

ただし、学生の理解度によって授業を進めるので、

必ずしもシラバス通りに進むとは限らない。

学習課題（予習・復習）

身の回りにある日常や常識を疑い、哲学的に捉えなおしてみる。

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要

自分は相手の考えていることを本当はなにも分かっていないのではないか。相手は自分のことを本当に理解してくれているのだろうか。ペットのポチはいま、なにを思っているのだろうか...こんな疑問や不安を抱くことは、ふだんの暮らしのなかでよくあることでしょう。

「心」というものは私たちのそばに当たり前存在するように思われるのに、よくよく考えてみると、手の届かないところへとスリリと逃げてしまいます。

哲学はこのヤッカイな「心」という存在をずっと考えてきました。この講義では、日常的なエピソードを考えることを通じて、「心」をめぐる哲学的議論を紹介します。

学習の目的 「心」という哲学の主要問題を考察することを通じて、現代に至るまでの哲学的立場の変遷を理解し、学問としての哲学の手法を身につける。

学習の到達目標

1. 哲学上の論争を考察することで、相手の主張を批判的に吟味できる。
2. 多様な哲学的立場を概観することで、複数の立場を系統立てて比較できる。
3. コンセプトマップを作成することで、自身の知識を整理・表現する方法を獲得する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

予め履修が望ましい科目 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

授業計画・学習の内容

キーワード 哲学入門、心の哲学、心身問題、他者の心の問題

Key Word(s) Introduction to philosophy; Philosophy of mind; Mind-body problem;

発展科目

(共通教育) 哲学、倫理学
(人文学部専門科目) アメリカの思想

教科書 レジュメを配布します。

参考書

金杉武司『心の哲学入門』、勁草書房、2009年。
それ以外のものについては、授業中に適宜、指示します。

成績評価方法と基準 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00
薄井研究室 (人文学部3階)

授業改善への工夫

- ・毎回の講義では、質問・要望欄を設けたレスポンスペーパーを配布する。学生からの質問には次回の講義の冒頭で回答し、指摘された要望を取り入れることで柔軟な内容改善を図る。
- ・パワーポイントにより視覚的にアピールすることで学生の理解度の向上に努めつつ、一方的な講義形態にならないように、板書を交えつつ学生との対話を図る。
- ・全講義を通じて数回コンセプトマップを学生に作成させる機会を設ける。それを通じて学生に知識の整理をおこなってもらい、同時に学生たちの理解状況を確認する。
- ・哲学には難解な語句や抽象的な概念が伴いがちだが、毎回の講義タイトルも含め、平易な言葉で講義をおこなう。

Problem of other minds

学習内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：心と身体 (1)

- 第3回：心と身体 (2)
 - 第4回：心と行動 (1)
 - 第5回：心と行動 (2)
 - 第6回：心と脳 (1)
 - 第7回：心と脳 (2)
 - 第8回：前半のまとめとコンセプトマップの作成
 - 第9回：コンピュータと心 (1)
 - 第10回：コンピュータと心 (2)
 - 第11回：コンピュータと心 (3)
 - 第12回：心の消去 (1)
 - 第13回：心の消去 (2)
 - 第14回：後半のまとめとコンセプトマップの作成
 - 第15回：講義全体のまとめ
- ※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

学習課題（予習・復習）

・「哲学」というと難解なイメージを持ってしまいかもしれませんが、哲学者たちが考え、悩んできたことは、私たちが日常的に直面する問題と変わりません。講義の予習のために資料を配布しますが、それを読むときには、言葉の難しさに惑わされず、自分がふだん思っていることにつなげて理解するように意識しましょう。

・ただレジメを読むだけでなく、講義中に自分で考えたことをレジメに書き込むようにしましょう。復習の際に読み返してみても疑問に思ったことは、レスポンスペーパーに記入して提出してください。

哲学G (心の哲学)

Philosophy G

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要

自分は相手の考えていることを本当はなにも分かっていないのではないか。相手は自分のことを本当に理解してくれているのだろうか。ペットのポチはいま、なにを思っているのだろうか...こんな疑問や不安を抱くことは、ふだんの暮らしのなかでよくあることでしょう。

「心」というものは私たちのそばに当たり前存在するように思われるのに、よくよく考えてみると、手の届かないところへとスリリと逃げてしまいます。

哲学はこのヤッカイな「心」という存在をずっと考えてきました。この講義では、日常的なエピソードを考えることを通じて、「心」をめぐる哲学的議論を紹介します。

学習の目的 「心」という哲学の主要問題を考察することを通じて、現代に至るまでの哲学的立場の変遷を理解し、学問としての哲学の手法を身につける。

学習の到達目標

1. 哲学上の論争を考察することで、相手の主張を批判的に吟味できる。
2. 多様な哲学的立場を概観することで、複数の立場を系統立てて比較できる。
3. コンセプトマップを作成することで、自身の知識を整理・表現する方法を獲得する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

予め履修が望ましい科目 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

授業計画・学習の内容

キーワード 哲学入門、心の哲学、心身問題、他者の心の問題

Key Word(s) Introduction to philosophy; Philosophy of mind; Mind-body problem;

発展科目

(共通教育) 哲学、倫理学
(人文学部専門科目) アメリカの思想

教科書 レジュメを配布します。

参考書

金杉武司『心の哲学入門』、勁草書房、2009年。
それ以外のものについては、授業中に適宜、指示します。

成績評価方法と基準 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00
薄井研究室 (人文学部3階)

授業改善への工夫

- ・毎回の講義では、質問・要望欄を設けたレスポンスペーパーを配布する。学生からの質問には次回の講義の冒頭で回答し、指摘された要望を取り入れることで柔軟な内容改善を図る。
- ・パワーポイントにより視覚的にアピールすることで学生の理解度の向上に努めつつ、一方的な講義形態にならないように、板書を交えつつ学生との対話を図る。
- ・全講義を通じて数回コンセプトマップを学生に作成させる機会を設ける。それを通じて学生に知識の整理をおこなってもらい、同時に学生たちの理解状況を確認する。
- ・哲学には難解な語句や抽象的な概念が伴いがちだが、毎回の講義タイトルも含め、平易な言葉で講義をおこなう。

Problem of other minds

学習内容

- 第1回：イントロダクション
第2回：心と身体 (1)

- 第3回：心と身体 (2)
 - 第4回：心と行動 (1)
 - 第5回：心と行動 (2)
 - 第6回：心と脳 (1)
 - 第7回：心と脳 (2)
 - 第8回：前半のまとめとコンセプトマップの作成
 - 第9回：コンピュータと心 (1)
 - 第10回：コンピュータと心 (2)
 - 第11回：コンピュータと心 (3)
 - 第12回：心の消去 (1)
 - 第13回：心の消去 (2)
 - 第14回：後半のまとめとコンセプトマップの作成
 - 第15回：講義全体のまとめ
- ※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

学習課題（予習・復習）

・「哲学」というと難解なイメージを持ってしまいかもしれませんが、哲学者たちが考え、悩んできたことは、私たちが日常的に直面する問題と変わりません。講義の予習のために資料を配布しますが、それを読むときには、言葉の難しさに惑わされず、自分がふだん思っていることにつなげて理解するように意識しましょう。

・ただレジメを読むだけでなく、講義中に自分で考えたことをレジメに書き込むようにしましょう。復習の際に読み返してみても疑問に思ったことは、レスポンスペーパーに記入して提出してください。

哲学G (思考実験と哲学)

Philosophy G

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 薄井 尚樹 (人文学部)

授業の概要

「哲学」と聞くと、なにか難しい言葉が出てきてよくわからない抽象的な議論をしている、というイメージを持つひとも多いかもしれません。もちろん、そのような側面も確かにあるのですが、同時に、そういった抽象的な議論をするときにはしばしば、誰もがイメージできるようなエピソードも挙げられてきました。

本人が望むとおりの経験を仮想的に与えてくれる、そんな機械につながれたひとは幸福なのだろうか。白黒の部屋でずっと育てられてきた天才科学者は、はじめて外に出たときになにを学ぶのだろうか。自分とまったく同じ物理的構造をしているのに意識を持たないゾンビというものは考えられるだろうか...

「心」「幸福」「知識」「自由」などの抽象的な考えを明らかにするために、想像力をはたらかせて現実から少し離れた事例を考えてみることを、しばしば「思考実験」と呼びます。この講義では、道徳哲学、認識論、心の哲学といった、さまざまな分野で営まれてきた思考実験を紹介し、それを通じて哲学がなにを問題としてきたのか、そしてそれにどう答えようとしてきたのかを学びます。

学習の目的 思考実験を考察することを通じて、哲学の主要問題についての知識を獲得する。

学習の到達目標

- 1.ある問題に対してとられる複数の立場をお互いに関係づけることができる。
- 2.意見の異なる相手と議論することで、自分の意見を明示的に述べるができる。
- 3.コンセプトマップを作成することで、自分の知識を整理・表現する方法を獲得する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

予め履修が望ましい科目 講義を受けるにあたって、予備知識は必要ありません。

発展科目

(共通教育) 哲学、倫理学

(人文学部専門科目) アメリカの思想

教科書 レジュメを配布します。

成績評価方法と基準 期末試験70%、レスポンスペーパー30%

オフィスアワー

毎週水曜日 12:00~13:00

薄井研究室 (人文学部3階)

授業改善への工夫

- ・毎回の講義では、質問・要望欄を設けたレスポンスペーパーを配布する。学生からの質問には次回の講義の冒頭で回答し、指摘された要望を取り入れることで柔軟な内容改善を図る。

- ・パワーポイントにより視覚的にアピールすることで学生の理解度の向上に努めつつ、一方的な講義形態にならないように、板書を交えつつ学生との対話を図る。

- ・全講義を通じて数回コンセプトマップを学生に作成させる機会を設ける。それを通じて学生に知識の整理をおこなってもらい、同時に学生たちの理解状況を確認する。

- ・哲学には難解な語句や抽象的な概念が伴いがちだが、毎回の講義タイトルも含め、平易な言葉で講義をおこなう。

授業計画・学習の内容

キーワード 哲学入門、思考実験、相対主義、道徳、自由意志、ひとの同一性

Key Word(s) Introduction to philosophy; Thought experiment; Relativism; Morality; Free will; Personal identity

学習内容

第1回：イントロダクション

第2回：「思考実験」ってなんだろう？

第3回：相対主義（1）－傷ついたウサギ

第4回：相対主義（2）－あらゆる文化を認めること

第5回：相対主義（3）－相対主義の苦境

第6回：道徳（1）－ストイックな快樂主義者

第7回：道徳（2）－「善意」の証言者

第8回：道徳（3）－経験機械

第9回：前半のまとめとコンセプトマップの作成

第10回：同一性（1）－改心したひと

第11回：同一性（2）－身体のスウィッチ

第12回：自由（1）－ラプラスの悪魔

第13回：自由（2）－運の問題？

第14回：後半のまとめとコンセプトマップの作成

第15回：講義全体のまとめ

※ただし受講者の関心や理解度に応じて内容を部分的に変更することがあります。

学習課題（予習・復習）

・「哲学」というと難解なイメージを持ってしまいかもしれませんが、哲学者たちが考え、悩んできたことは、私たちが日常的に直面する問題と変わりません。講義の予習のために資料を配布しますが、それを読むときには、言葉の難しさに惑わされず、自分がふだん思っていることにつなげて理解するように意識しましょう。

・ただレジュメを読むだけでなく、講義中に自分で考えたことをレジュメに書き込むようにしましょう。復習の際に読み返してみても疑問に思ったことは、レスポンスペーパーに記入して提出してください。

哲学H (論理的哲学の理解)

Philosophy H

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 山岡 悦郎 (非常勤講師)

授業の概要 論理的哲学

学習の目的 論理学の基礎知識、パラドックスならびに真理に内在する諸問題に関する論理的視点からの深い理解を得ることができる。

学習の到達目標 われわれが常識的に受け入れている事柄について、改めて論理的に思考する態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 論理的思考力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 使わない

参考書 適宜紹介

成績評価方法と基準 期末試験による

オフィスアワー 授業終了後

授業改善への工夫 授業評価を利用

授業計画・学習の内容

キーワード 論理、パラドックス、命題真理、トートロジー、真理

Key Word(s) logic, paradox, propositional logic, tautology, truth

学習内容

第1回：論理学の哲学について

第2回：パラドックスとは何か

第3回：ゼノンのパラドックス

第4回：うそつきのパラドックス

第5回：社会的パラドックス

第6回：命題論理1

第7回：命題論理2

第8回：トートロジー

第9回：トートロジーと推論

第10回：含意のパラドックス

第11回：論理の公理体系

第12回：ゲーデルの不完全性定理

第13回：真理の対応説

第14回：真理の整合説

第15回：プラグマティズム

哲学H (論理的哲学の理解)

Philosophy H

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 山岡 悦郎 (非常勤講師)

授業の概要 論理的哲学

受講要件 なし

学習の目的 論理学の基礎的知識、パラドックスならびに真理に内在する諸問題に関する論理的観点からの深い理解を得ることができる。

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 使わない

参考書 適宜紹介

学習の到達目標 われわれが常識的に受け入れている事柄について、改めて論理的に思考する態度を身につけることができる。

成績評価方法と基準 期末試験による。

オフィスアワー 授業終了後

本学教育目標との関連 論理的思考力

授業改善への工夫 授業評価を利用

授業計画・学習の内容

キーワード 論理、パラドックス、命題真理、トートロジー、真理

Key Word(s) logic, paradox, propositional logic, tautology, truth

学習内容

第1回：論理学の哲学について

第2回：パラドックスとは何か

第3回：ゼノンのパラドックス

第4回：うそつきのパラドックス

第5回：社会的パラドックス

第6回：命題論理1

第7回：命題論理2

第8回：トートロジー

第9回：トートロジーと推論

第10回：含意のパラドックス

第11回：論理の公理体系

第12回：ゲーデルの不完全性定理

第13回：真理の対応説

第14回：真理の整合説

第15回：プラグマティズム

哲学Ⅰ (科学史・科学論)

Philosophy I

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 鈴木秀憲

授業の概要 科学史、科学哲学、科学技術社会論の基礎的内容について講義する。

学習の目的

- ・科学の歴史についての基礎知識を習得する
- ・科学技術に関してどのような議論がなされてきたかを理解する
- ・科学をめぐるさまざまな問題について自ら批判的に考える力を養う

学習の到達目標

現代の科学技術の在り方について、学術的知識に基づき、自らの観点を持ち議論を組み立てることができるようにする。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じ

る力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 なし

参考書

『はじめて学ぶ科学史』 山中康資 共立出版、2014年
『科学哲学の冒険—サイエンスの目的と方法をさぐる』 戸田山和久 日本放送出版協会、2005年
他、授業内で随時紹介する

成績評価方法と基準

授業時間に記載するコメント用紙40%、期末テスト60%
60%以上で合格

オフィスアワー 授業の前後、必要に応じて

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：古代における「科学」とその時代背景
- 第3回：中世における「科学」とその時代背景
- 第4回：近代科学の形成と科学革命1
- 第5回：近代科学の形成と科学革命2
- 第6回：18世紀以降の科学の展開1
- 第7回：18世紀以降の科学の展開2
- 第8回：科学についての諸研究
- 第9回：科学哲学の議論（クーン）
- 第10回：科学哲学の議論（科学的実在論論

争)

- 第11回：科学哲学の議論（科学と疑似科学）
- 第12回：科学技術と社会（技術倫理）
- 第13回：科学技術と社会（ジェンダー）
- 第14回：科学技術と社会（現代科学の制度的問題）
- 第15回：まとめ
受講者の理解・関心に依じて適宜調整する

学習課題（予習・復習） 授業中に疑問に思った点、興味を持った人物などについてその都度調べておくこと。

哲学Ⅰ (科学史・科学論)

Philosophy I

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 鈴木秀憲

授業の概要 科学史、科学哲学、科学技術社会論の基礎的内容について講義する。

る力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

学習の目的

- ・科学の歴史についての基礎知識を習得する
- ・科学技術に関してどのような議論がなされてきたかを理解する
- ・科学をめぐるさまざまな問題について自ら批判的に考える力を養う

教科書 なし

参考書

『はじめて学ぶ科学史』山中康資 共立出版、2014年
『科学哲学の冒険—サイエンスの目的と方法をさぐる』戸田山和久 日本放送出版協会、2005年
他、授業内で随時紹介する

学習の到達目標

現代の科学技術の在り方について、学術的知識に基づき、自らの観点を持ち議論を組み立てることができるようにする。

成績評価方法と基準

授業時間に記載するコメント用紙40%、期末テスト60%
60%以上で合格

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じ

オフィスアワー 授業の前後、必要に応じて

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：古代における「科学」とその時代背景
- 第3回：中世における「科学」とその時代背景
- 第4回：近代科学の形成と科学革命1
- 第5回：近代科学の形成と科学革命2
- 第6回：18世紀以降の科学の展開1
- 第7回：18世紀以降の科学の展開2
- 第8回：科学についての諸研究
- 第9回：科学哲学の議論（クーン）
- 第10回：科学哲学の議論（科学的実在論論

争)

- 第11回：科学哲学の議論（科学と疑似科学）
- 第12回：科学技術と社会（技術倫理）
- 第13回：科学技術と社会（ジェンダー）
- 第14回：科学技術と社会（現代科学の制度的問題）
- 第15回：まとめ
受講者の理解・関心に依じて適宜調整する

学習課題（予習・復習） 授業中に疑問に思った点、興味を持った人物などについてその都度調べておくこと。

哲学I (自然理解の哲学)

Philosophy I

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 小川 眞里子(人文学部)

授業の概要 博物学の科学史的考察を通して、科学の基礎と考えられている観察の本性を考える。同時に、科学も社会的、文化的所産であると考えざるを得ない面を有することを学ぶ。

学習の目的 科学と言えば、一般的に客観的で普遍的とされるが、歴史的な事例を通して文化的社会的影響があることを学ぶ。

学習の到達目標 日々の科学に関係するニュースについても、一歩さがってその客観性や妥当性について考えてみる事が出来るようにしたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 自然、観察、科学、ジェンダー、分類

学習内容

観察するということの哲学的意味を考えながら、具体的な博物学の事例を通して検討する。植物にも性が存在することを知った人々が、花の性生活を考え、生殖器官に基づいて分類を行ったこと、乳房に注目した哺乳類という分類名が、ある社会的背景の下に誕生したことなど、自然認識と西洋文化のインターフェイスを扱う。また自然認識に関する比較文化論的考察も交える。

第1回 講義の進め方と講義の目的について説明
第2回と第3回 観察するとはいかなることであるかを考える

第4回と第5回 植物にも性があることに気づい

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 講義のはじめにテキストや参考書について指示する。

成績評価方法と基準 出席および授業態度 50% 期末試験 50%

オフィスアワー

水曜日 11時半から12時半 金曜日 13時から14時

不在のこともあるので、あらかじめメールでアポイントメントをとることが望ましい。

た人々は？

第6回と第7回 哺乳類はなぜ哺乳類と名づけられたのか？

第8回 前半のまとめ 哲学と科学はいかに繋がっているか？

第9回 類人猿はどのように観察されるようになったのか？

第10回 類人猿研究に反映する人間の価値観

第11回 人種の分類は何を根拠に、どのように行われたのだろうか？

第12回 白い文明の真実 DVDの視聴

第13回 科学の起源は黒人か白人か？ 科学は誰のために？

第14回 白人男性中心に成立した科学を見直す

第15回 全体のまとめ (授業の回数により調整)

第16回 試験

倫理学 F (現代の倫理的諸問題)

Ethics F

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 現代の倫理的諸問題を解決するためには、どのようなアプローチが有効なのだろうか。本講義では、ピーター・シンガーの著作に依拠しつつ、動物の解放・妊娠中絶・安楽死・飢餓救済などのテーマを概説し、それらのテーマに関連する倫理的諸問題の解決策を紹介する。

学習の目的

- ・現代の倫理的諸問題についての知識を身につける。
- ・倫理的諸問題に対する哲学者たちのアプローチを学ぶ。

学習の到達目標 動物の解放・妊娠中絶・安楽死・飢餓救済などのテーマに関連するさまざまな問題とは何かを知り、それらの問題を解決するための考え方を理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 本講義は2014年度の倫理学VIと同内容であるため、倫理学VIの単位取得者は本講義を受講してはならない。

授業計画・学習の内容

キーワード 応用倫理学

Key Word(s) applied ethics

学習内容

第1回: ガイダンス
第2回: 倫理学について
第3回: 平等の意味
第4回: 動物に平等を(1)
第5回: 動物に平等を(2)
第6回: 殺すことはなぜ不正なのか
第7回: 動物を殺すことについて
第8回: 胎児を殺すことについて(1)
第9回: 胎児を殺すことについて(2)

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 哲学、倫理学

教科書 なし。プリントを配布する。

参考書

(1) ピーター・シンガー 『実践の倫理 [新版]』 昭和三十九年。
(2) ピーター・シンガー 『あなたが救える命』 勁草書房、2014年。
(3) 児玉聡 『功利主義入門: はじめての倫理学』 ちくま新書、2012年。
*その他の参考書は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 期末試験(持ち込みなし)で評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時~13時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 リアクションペーパーの内容を踏まえて、講義の難易度を調節する。

その他 授業中の私語・常習的遅刻・途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

第10回: 自発的安楽死の正当化
第11回: 積極的安楽死と消極的安楽死
第12回: 飢餓救済(1)
第13回: 飢餓救済(2)
第14回: 飢餓救済(3)
第15回: まとめ
・受講生の理解度などを考慮して、予定を変更する場合もある。

学習課題 (予習・復習)

- ・配布プリントの内容を復習すること。
- ・講義の中で紹介する参考文献を何冊か読むこと。

倫理学 F (現代の倫理的諸問題)

Ethics F

学期 後期 開講時間 月7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 現代の倫理的諸問題を解決するためには、どのようなアプローチが有効なのだろうか。本講義では、ピーター・シンガーの著作に依拠しつつ、動物の解放・妊娠中絶・安楽死・飢餓救済などのテーマを概説し、それらのテーマに関連する倫理的諸問題の解決策を紹介する。

学習の目的

- ・現代の倫理的諸問題についての知識を身につける。
- ・倫理的諸問題に対する哲学者たちのアプローチを学ぶ。

学習の到達目標 動物の解放・妊娠中絶・安楽死・飢餓救済などのテーマに関連するさまざまな問題とは何かを知り、それらの問題を解決するための考え方を理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 本講義は2014年度の倫理学VIと同内容であるため、倫理学VIの単位取得者は本講義を受講してはならない。

授業計画・学習の内容

キーワード 応用倫理学

Key Word(s) applied ethics

学習内容

第1回：ガイダンス
第2回：倫理学について
第3回：平等の意味
第4回：動物に平等を(1)
第5回：動物に平等を(2)
第6回：殺すことはなぜ不正なのか
第7回：動物を殺すことについて
第8回：胎児を殺すことについて(1)
第9回：胎児を殺すことについて(2)

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 哲学、倫理学

教科書 なし。プリントを配布する。

参考書

(1) ピーター・シンガー 『実践の倫理 [新版]』 昭和堂、1999年。
(2) ピーター・シンガー 『あなたが救える命』 勁草書房、2014年。
(3) 児玉聡 『功利主義入門：はじめての倫理学』 ちくま新書、2012年。
*その他の参考書は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 期末試験(持ち込みなし)で評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時~13時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 リアクションペーパーの内容を踏まえて、講義の難易度を調節する。

その他 授業中の私語・常習的遅刻・途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

第10回：自発的安楽死の正当化
第11回：積極的安楽死と消極的安楽死
第12回：飢餓救済(1)
第13回：飢餓救済(2)
第14回：飢餓救済(3)
第15回：まとめ
・受講生の理解度などを考慮して、予定を変更する場合もある。

学習課題 (予習・復習)

- ・配布プリントの内容を復習すること。
- ・講義の中で紹介する参考文献を何冊か読むこと。

倫理学 G (倫理学の基礎)

Ethics G

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 相澤 康隆 (人文学部)

授業の概要 倫理学とはどのような学問なのだろうか。本講義では、倫理的利己主義、功利主義、義務論、徳倫理学など、倫理学上のさまざまな理論を概説する。

学習の目的

- ・倫理学 (道徳哲学) の基礎知識を身につける。
- ・哲学的に考えるとはどういうことを学ぶ。

学習の到達目標 倫理学にはどのような理論があるのか、また、それらの理論は具体的な倫理的問題を解決する際にどう役立つのかを理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力

受講要件 本講義は2014年度の倫理学Vと同内容であるため、倫理学Vの単位取得者は本講義を受講してはならない。

授業計画・学習の内容

キーワード 倫理学の基礎

Key Word(s) Introduction to Ethics

学習内容

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: 倫理学における主観主義
- 第3回: 心理的利己主義(1)
- 第4回: 心理的利己主義(2)
- 第5回: 倫理的利己主義
- 第6回: 功利主義(1)
- 第7回: 功利主義(2)
- 第8回: 快楽と幸福
- 第9回: 義務論(1)

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 哲学、倫理学

教科書 なし。プリントを配布する。

参考書

ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学: 安楽死からフェミニズムまで』晃洋書房、2003年。
*その他の参考書は適宜紹介する。

成績評価方法と基準 期末試験 (持ち込みなし) で評価する。

オフィスアワー 毎週金曜日12時~13時 相澤研究室 (人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 リアクションペーパーの内容を踏まえて、講義の難易度を調節する。

その他 授業中の私語・常習的遅刻・途中退出などの迷惑行為は厳禁。迷惑行為を繰り返す学生には単位を与えない。

第10回: 義務論(2)

第11回: 徳倫理学(1)

第12回: 徳倫理学(2)

第13回: 徳倫理学(3)

第14回: 徳倫理学(4)

第15回: まとめ

・受講生の理解度などを考慮して、予定を変更する場合もある。

学習課題 (予習・復習)

- ・配布プリントの内容を復習すること。
- ・講義の中で紹介する参考文献を何冊か読むこと。

倫理学H (東洋の倫理思想)

Ethics H

学期 前期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 片倉 望(人文学部)

授業の概要

儒家・墨家・道家・法家の順に、その倫理思想の構造と歴史的展開とを考察する。

祖先神としての色彩の強い「帝」がその土俗性を捨象して「天」という概念に抽象化される時、その「天」から生まれたとされる人間の内部には何らかの神性が宿ると構想されることになる。孔子の時代、このような考えは、極めて素朴な信仰にすぎなかったが、やがて、この考えは統治の根拠としての本性論として展開され、体系性を備えた「性善説」や「性悪説」として光彩を放つこととなる。直接的には本性論を展開しなかった墨家や法家にあっても、この性善や性悪の枠組みが、その思想構造に反映していることを論証しつつ、漢代の董仲舒にいたる本性論の展開を見ていくことにしたい。

学習の目的 偽善の人間を見破れるようになる。

る。

学習の到達目標 良識のある人間になれる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 適宜プリントにて配布, 『中国思想史』 武内義雄著(岩波全書)

成績評価方法と基準 原則とし毎回の講義での質疑応答40%, 試験60%

オフィスアワー 授業の後

授業改善への工夫 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 東洋の倫理思想 中国古代の倫理思想が、いかなる理由で誕生し、どのように展開したのかを、心身論を中心に見ていく。

学習内容

授業計画

第1回授業の進め方について

第2回中国古代の神観念(1)

第3回中国古代の神観念(2)

第4回儒家の心身観(1)孔子

第5回儒家の心身観(2)孟子

第6回儒家の心身観(3)荀子

第7回墨家の心身観(1)

第8回墨家の心身観(2)

第9回道家の心身観(1)老子

第10回道家の心身観(2)荘子

第11回道家の心身観(3)管子

第12回法家の心身観(1)申到

第13回法家の心身観(2)韓非子

第14回先秦諸子の心身観のまとめ(1)

第15回先秦諸子の心身観のまとめ(2)

学習課題(予習・復習) 毎回講義をよく聴くこと。

宗教学A (仏教とは何か)

Religious Studies A

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 片倉 望 (人文学部)

授業の概要

1. 仏教流入以前の中国の心身観、死生観はどのようなものだったのか。知識人のレベルと一般人のレベルに分けて考える。
2. 范縝の「神滅論」は、何故、仏教者にとって強烈なインパクトを与えたのか。仏教思想の構造との関係から考察する。

学習の目的 仏教とは何か、と聞かれて説明できるようにする。

学習の到達目標 いかかわしいカルト宗教な

どに騙されないような知性を持つ。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

教科書 適宜プリントにて配布する。

参考書 講義のなかで紹介する。

成績評価方法と基準 原則として毎回の質疑(40%)と学期末試験(60%)の評価、普段の学習態度を総合して判断します。

授業計画・学習の内容

キーワード 仏教とは何か?

学習内容

漢代から六朝時代に至るまで、中国の心身観、死生観がどのように変化したのかを、仏教思想の流入との関係を軸として概観する。

第1回先秦諸子の心身観・死生観

第2回漢代の心身観・死生観

第3回薄葬論の心身観・死生観

第4回一般人の心身観・死生観

第5回六朝時代の神滅・不滅論争

第6回神不滅側の論理(1)袁宏

第7回神不滅側の論理(2)慧遠

第8回神不滅側の論理(3)郗超「奉法要」

第9回神不滅側の論理(4)宗炳「明仏論」

第10回神滅側の論理(1)庾闡・謝瞻

第11回神滅側の論理(2)范縝「神滅論」

第12回「神滅論」の思想構造(1)

第13回「神滅論」の思想構造(2)

第14回梁の武帝と「神滅論」

第15回沈約「神不滅論」

学習課題(予習・復習) 学習課題については、各授業で指示します。

宗教学B (インド諸宗教の修行論)

Religious Study B

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 久間 泰賢(人文学部)

授業の概要 インドにおいて発達した諸宗教について学習する

学習の目的 インド諸宗教学派の修行論を概観する

学習の到達目標 修行論という視点を通じて、インド諸宗教学派についての基本的な知識を習得する

本学教育目標との関連 専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 必要に応じてプリントを配布する

参考書 参考書は講義の中で適宜紹介する

成績評価方法と基準 期末試験(100%)

授業計画・学習の内容

キーワード インド諸宗教の修行論

Key Word(s) Various Practices in Indian Religions

学習内容

インドにその起源をたどることができるヨーガ、瞑想などの修行形態は、現代社会の諸宗教に対して多大な影響を及ぼしている。その意味において、宗教的実践の問題について考察する際、インド諸宗教における修行論を決して看過することはできない。本講義では、インドにおける多様な宗教的実践の発生と展開について概説を加え、それを通じて宗教と実践との問題について考えてゆきたい。

第1回 導入:インドの宗教観と修行論

第2回 インダス文明期における宗教と実践

第3回 ヴェーダ期の修行論

第4回 ウパニシャッド期の修行論

第5回 六派哲学という考え方について

第6回 サーンキヤ学派の修行論

第7回 ヨーガ学派の修行論

第8回 ニヤーヤ学派の修行論

第9回 ヴァイシェーシカ学派の修行論

第10回 ミーマンサー学派の修行論

第11回 ヴェーダーンタ学派の修行論(1)

第12回 ヴェーダーンタ学派の修行論(2)

第13回 初期仏教における修行論(1)

第14回 初期仏教における修行論(2)

第15回 ジャイナ教における修行論

宗教学B (インド諸宗教の修行論)

Religious Study B

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 久間 泰賢(人文学部)

授業の概要 インドにおいて発達した諸宗教について学習する

学習の目的 インド諸宗教学派の修行論を概観する

学習の到達目標 修行論という視点を通じて、インド諸宗教学派についての基本的な知識を習得する

本学教育目標との関連 専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 必要に応じてプリントを配布する

参考書 参考書は講義の中で適宜紹介する

成績評価方法と基準 期末試験(100%)

授業計画・学習の内容

キーワード インド諸宗教の修行論

Key Word(s) Various Practices in Indian Religions

学習内容

インドにその起源をたどることができるヨーガ、瞑想などの修行形態は、現代社会の諸宗教に対して多大な影響を及ぼしている。その意味において、宗教的実践の問題について考察する際、インド諸宗教における修行論を決して看過することはできない。本講義では、インドにおける多様な宗教的実践の発生と展開について概説を加え、それを通じて宗教と実践との問題について考えてゆきたい。

第1回 導入:インドの宗教観と修行論

第2回 インダス文明期における宗教と実践

第3回 ヴェーダ期の修行論

第4回 ウパニシャッド期の修行論

第5回 六派哲学という考え方について

第6回 サーンキヤ学派の修行論

第7回 ヨーガ学派の修行論

第8回 ニヤーヤ学派の修行論

第9回 ヴァイシェーシカ学派の修行論

第10回 ミーマンサー学派の修行論

第11回 ヴェーダーンタ学派の修行論(1)

第12回 ヴェーダーンタ学派の修行論(2)

第13回 初期仏教における修行論(1)

第14回 初期仏教における修行論(2)

第15回 ジャイナ教における修行論

宗教学C (新宗教について考える)

Religious Study C

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習

担当教員 久間 泰賢(人文学部)

授業の概要 分類基準という観点から日本の新宗教を概観する

学習の目的 いくつかの主要な宗教類型論を批判的に用いつつ、現代日本の新宗教に対する視座を獲得することを試みる

学習の到達目標 現代日本の新宗教に対する知見と理解を深める

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 感じる力、考える力、

コミュニケーション力を総合した力

受講要件 受講者数制限あり (30名以下) .

教科書 授業において適宜指示する

参考書 授業において適宜指示する

成績評価方法と基準 レポート発表・討論への参加度(100%)

オフィスアワー

毎週木曜日13:00-14:30

共通教育2号館2階久間教官室

授業計画・学習の内容

キーワード 新宗教, 新新宗教, 類型論

Key Word(s) Modern & Postmodern Religions in Japan, Typology

学習内容

現代日本においては、実に多種多様な新宗教(あるいは新新宗教)が存在するため、それらのすべてを体系的に把握することは決して容易ではない。このセミナーでは、まず考察の手がかりとして、何人かの宗教学者たちによって提出されている類型論について学習す

る。そしてその後、果たしてそれらが現代日本の新宗教にも適用可能であるかどうか検討することを通じて、多様な新宗教に対する理解を深めていきたい。

第1回 授業の内容・進め方の説明

第2～3回 宗教類型論の説明

第4～6回 宗教類型論に関するレポート発表

第7～8回 日本の新宗教の時代区分・内容分類の説明

第9～14回 日本の新宗教に関するレポート発表

第15回 総括

東洋史A (中国女性史)

Oriental History A

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 前近代中国には悪女と評された女性たちがいるが、なぜ悪女といわれるのであろうか。この授業では、当時の状況および女性観を概観したのち、悪女に対する新たな視点を提示する。また、さまざまな女性のあり方も紹介する。

学習の目的

異なる時代・地域には異なる文化が存在することを理解する。
当時の時代背景を理解したうえで、通説に対して自らの意見を述べるができるようになる。

学習の到達目標 前近代中国の女性について、各時代の女性観を理解したうえで、具体例を挙げて説明することができる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い

教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

教科書 教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 小テスト2回30%、定期試験50%、リアクションペーパー20%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(共通教育4号館5階)

授業改善への工夫 毎回授業に対する感想・要望などを聞く。

授業計画・学習の内容

キーワード 前近代中国の女性、漢、魏晋南北朝、唐

Key Word(s) Women in Imperial China, Han, Wei, Jin, Southern and Northern Dynasties, Tang

学習内容

- 第1回 現在の中国の女性
- 第2~3回 前近代中国の女性
- 第4~5回 漢高祖の妻呂后
- 第6~7回 劉向『列女伝』と班昭『女誡』

- 第8~9回 後漢時代の臨朝称制
- 第10~11回 魏晋南北朝時代の嫉妬する妻
- 第12~13回 則天武后
- 第14回 宋代以降の女性
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 毎回、次回の授業で使用するレジュメを配布するので、予習する。また前回の授業内容を復習したうえで次回の授業を受ける。

東洋史A (中国女性史)

Oriental History A

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 前近代中国には悪女と評された女性たちがいるが、なぜ悪女といわれるのであろうか。この授業では、当時の状況および女性観を概観したのち、悪女に対する新たな視点を提示する。また、さまざまな女性のあり方も紹介する。

学習の目的

異なる時代・地域には異なる文化が存在することを理解する。
当時の時代背景を理解したうえで、通説に対して自らの意見を述べるができるようになる。

学習の到達目標 前近代中国の女性について、各時代の女性観を理解したうえで、具体例を挙げて説明することができる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い

教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

教科書 教科書は使用せず、毎回プリントを配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 小テスト2回30%、定期試験50%、リアクションペーパー20%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室(共通教育4号館5階)

授業改善への工夫 毎回授業に対する感想・要望などを聞く。

授業計画・学習の内容

キーワード 前近代中国の女性、唐、宋、明、清

Key Word(s) Women in Imperial China, Tang, Song, Ming, Qing

学習内容

- 第1回 現在の中国の女性
- 第2~3回 前近代中国の女性
- 第4回 唐代以前の女性
- 第5~6回 則天武后と楊貴妃

- 第7~9回 『名公書判清明集』にみられる女性
- 第10~11回 明太祖の妻馬皇后
- 第12~13回 西太后
- 第14回 婦女解放運動
- 第15回 まとめ
- 第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 毎回、次回の授業で使用するレジュメを配布するので、予習する。また前回の授業内容を復習したうえで次回の授業を受ける。

東洋史A (中国の君主独裁制)

Oriental History A

学期 後期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 酒井 恵子 (人文学部)

授業の概要 中国では紀元前から皇帝による支配が始まり、宋代には君主独裁制が成立した。この君主独裁制について、明朝の洪武帝・永楽帝、清朝の康熙帝・雍正帝に関する伝記や論文を読むことを通じて考える。

学習の目的 現在、共産党による一党独裁体制をとっている隣の大国中国への理解を深め、中国に関するさまざまな情報を吟味し、自分の考えを述べられるようになる。

学習の到達目標 明清時代に実施された政策をひとつ取り上げ、当時の状況を説明したうえで評価することができる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 情報

受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

教科書 教科書は使用せず、資料を配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

成績評価方法と基準 小レポート4回60%、最終レポート40%、計100%。(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 月曜日13:00~14:00、木曜日10:00~11:00、酒井研究室 (共通教育4号館5階)

授業改善への工夫 随時要望を受け付ける。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国の皇帝、明、清

Key Word(s) Chinese Emperor, Ming and Qing Dynasties

学習内容

第1回 中国の皇帝

第2~3回 内藤湖南「概括的唐宋時代観」を読む

第4~6回 明朝洪武帝

第7~9回 明朝永楽帝

第10~11回 清朝康熙帝

第12~14回 清朝雍正帝

第15回 まとめ

第16回 最終レポート提出

学習課題 (予習・復習) 授業で取り上げる皇帝ごとに課題を出し、小レポートを提出してもらう。このレポートをもとに授業を展開するので、必ず期日までに提出すること。

東洋史B (中国古代史)

Oriental History

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 飯田 祥子 (非常勤講師)

授業の概要 中国はなぜあのように巨大なのか。文明のはじまりまでさかのぼり、国家が形成され、巨大化し、滅亡する過程を概観する。また技術や文化などのテーマを取り上げる。

学習の目的 われわれが生きる現代社会を客観的にとらえるため、中国古代史という異文化について理解する。

学習の到達目標

中国古代史に関する基礎的な事項を適切な表現によって説明できる。

中国古代史に関連するテーマをみずから選択

し、適切な論拠にもとづいて表現できる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力

教科書 なし

参考書 講義中に随時紹介する。

成績評価方法と基準 平常点30% (小テスト等を含む)、レポート70%、計100%

オフィスアワー 授業終了後

授業計画・学習の内容

キーワード 中国史、古代史

学習内容

第1回：はじめに

第2回：新石器時代

第3回：殷

第4回：周

第5回：戦国時代

第6回：秦①

第7回：秦②

第8回：前漢①

第9回：前漢②

第10回：王莽

第11回：後漢①

第12回：後漢②

第13回：三国時代①

第14回：三国時代②

第15回：まとめ

学習課題（予習・復習） 授業終了時に、次回までの課題（下調べ・復習等）を提示する。また小テスト等を数回課す。

東洋文化史 (中国美術史)

Oriental Cultural History

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤田伸也(人文学部)

授業の概要 中国の古美術品と故宮博物院について理解を深める。書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色と歴史を大局的に把握し、名品に親しむことに努める。

学習の目的

中国の古美術品と故宮博物院について基礎知識を得る。

中国の書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色の概要について説明できる。

中国美術の代表的名品を示すことができる。

学習の到達目標

中国の美術を通して中国文化を認識する。

中国の書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色と故宮博物院の歴史について総合的に説明できる。

中国美術の名品を示し、その芸術的価値について評価することができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考

える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

予め履修が望ましい科目 なし。

教科書 授業の最初に示す。

参考書 適宜授業中に示す。

成績評価方法と基準 期末等の試験およびレポート60%、コメント40%。コメントは毎回授業の終わりに用紙を配布し書かせる。受講生の授業理解度・関心の程度を採点し、出席チェックを兼ねる。また授業態度不良(遅刻・早退・私語・居眠など)の場合は大きく減点し、場合によっては受講資格を失う。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00~14:30、火曜日10:30~12:30、藤田研究室(共通教育2号館2階)

授業改善への工夫

授業ではDVD映像、PC画像を多用する。

学生の興味に応じて、対象とする美術の分野および作品を選んでいきたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国美術史入門 - 故宮博物院と中国美術 -

Key Word(s)

Chinese Art History, Palace Museum

学習内容

[授業計画]

第1回 中国美術の特質

第2回 故宮博物院(紫禁城と最後の皇帝溥儀)

第3回 故宮博物院(博物館)

第4回 玉器(新石器時代~周)

第5回 玉器(漢~清)

第6回 青銅器(用途・器形・製法)

第7回 青銅器(殷周~漢)

第8回 秦始皇帝と兵馬俑(始皇帝と陵墓)

第9回 秦始皇帝と兵馬俑(兵馬俑)

第10回 陶磁器(青磁と白磁)

第11回 陶磁器(青花と五彩)

第12回 鼻煙壺と宮廷美術

第13回 書(書聖王羲之)

第14回 絵画(故宮の名品)

第15回 絵画(日本所在の名品)

試験

学習課題(予習・復習)

授業中に示された参考図書によって、講義で紹介された美術作品の図版・解説を確認すること。

指示された展覧会は見に行くこと。

東洋文化史 (中国美術史)

Oriental Cultural History

学期 後期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 藤田伸也(人文学部)

授業の概要 中国の古美術品と故宮博物院について理解を深める。書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色と歴史を大局的に把握し、名品に親しむことに努める。

学習の目的

中国の古美術品と故宮博物院について基礎知識を得る。

中国の書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色の概要について説明できる。

中国美術の代表的名品を示すことができる。

学習の到達目標

中国の美術を通して中国文化を認識する。

中国の書画・陶磁器・青銅器・玉器などの諸分野の美術品の芸術的特色と故宮博物院の歴史について総合的に説明できる。

中国美術の名品を示し、その芸術的価値について評価することができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考

える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし。

予め履修が望ましい科目 なし。

教科書 授業の最初に示す。

参考書 適宜授業中に示す。

成績評価方法と基準 期末等の試験およびレポート60%、コメント40%。コメントは毎回授業の終わりに用紙を配布し書かせる。受講生の授業理解度・関心の程度を採点し、出席チェックを兼ねる。また授業態度不良(遅刻・早退・私語・居眠など)の場合は大きく減点し、場合によっては受講資格を失う。

オフィスアワー 毎週月曜日12:00~14:30、火曜日10:30~12:30、藤田研究室(共通教育2号館2階)

授業改善への工夫

授業ではDVD映像、PC画像を多用する。

学生の興味に応じて、対象とする美術の分野および作品を選んでいきたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国美術史入門 - 故宮博物院と中国美術 -

Key Word(s) Chinese Art History, Palace Museum

学習内容

[授業計画]

第1回 中国美術の特質

第2回 故宮博物院(紫禁城と最後の皇帝溥儀)

第3回 故宮博物院(博物館)

第4回 玉器(新石器時代~周)

第5回 玉器(漢~清)

第6回 青銅器(用途・器形・製法)

第7回 青銅器(殷周~漢)

第8回 秦始皇帝と兵馬俑(始皇帝と陵墓)

第9回 秦始皇帝と兵馬俑(兵馬俑)

第10回 陶磁器(青磁と白磁)

第11回 陶磁器(青花と五彩)

第12回 鼻煙壺と宮廷美術

第13回 書(書聖王羲之)

第14回 絵画(故宮の名品)

第15回 絵画(日本所在の名品)

試験

学習課題(予習・復習)

授業中に示された参考図書によって、講義で紹介された美術作品の図版・解説を確認すること。

指示された展覧会は見に行くこと。

西洋史A (西洋古代史入門)

European History A

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 西村 昌洋

授業の概要 西洋古代ギリシア・ローマの歴史・文化の特徴および世界史上の意義について学ぶ。

学習の目的 古代ギリシア・ローマはヨーロッパ文明のルーツとして位置付けられるとともに、独特の個性を持っている。古代ギリシア・ローマという独特の世界について学習するとともに、それが後のヨーロッパ世界にどのような影響を与えたのかを考え、西洋の歴史についての理解を深める。同時に、日本や東洋の歴史との相違点や類似点について考えることで比較という視点を養い、それをもとに現代社会についても考えることを目指す。

学習の到達目標

古代ギリシア・ローマ史の主要な年代的知識を得る。

古代ギリシア・ローマに関わる基礎的な事柄、テーマ、特徴を、ひとつ、あるいはそれ以上、説明できるようになる。

西洋の古代と日本や東洋の歴史との共通点・相違点について考え、関心を抱く。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ギリシア人と「野蛮人」
- 第3回 世界で最初の民主主義
- 第4回 裁判大国？古代アテネ
- 第5～6回 民主主義をめぐる論争
- 第7回 古代人は性におおらかなのか？
- 第8回 戦争国家ローマ：共和政から帝国へ
- 第9回 見栄っ張りな支配者たち

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力

教科書 特に指定しない。

参考書 講義中に紹介する。

成績評価方法と基準

小レポート等の平常点 (40%) + 期末レポート (60%)

文献を読んで学習し、得た知識と自分の考えとを的確かつ論理的に記述・説明できているかどうか。

期末レポートを提出するためには、平常点評価の課題をすべてこなしていなければならない。

その他 高校世界史の内容を覚えていることが望ましい。不安な者は教科書や参考書を探して読んでおくように。ただ単に教室に来て座っているだけでは理解が深まることはない。授業時間外にも自分で文献を探して読み、考えることで、読書体験を蓄積するようにしてください。

第10回 ローマ人の人生と生活

第11回 キリスト教とローマ帝国

第12回 キリスト教は古代世界を変えたのか

第13回 「ローマはなぜ滅んだか」

第14回 古代の終わりりと中世の始まり

第15回 西洋古代の個性と特徴とは何か

第16回 まとめ

学習課題（予習・復習） 授業の進行にあわせて適宜指示する。

西洋史A (西洋古代史入門)

European History A

学期 後期 開講時間 水 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 西村 昌洋

授業の概要 西洋古代ギリシア・ローマの歴史・文化の特徴および世界史上の意義について学ぶ。

学習の目的 古代ギリシア・ローマはヨーロッパ文明のルーツとして位置付けられるとともに、独特の個性を持っている。古代ギリシア・ローマという独特の世界について学習するとともに、それが後のヨーロッパ世界にどのような影響を与えたのかを考え、西洋の歴史についての理解を深める。同時に、日本や東洋の歴史との相違点や類似点について考えることで比較という視点を養い、それをもとに現代社会についても考えることを目指す。

学習の到達目標

古代ギリシア・ローマ史の主要な年代的知識を得る。

古代ギリシア・ローマに関わる基礎的な事柄、テーマ、特徴を、ひとつ、あるいはそれ以上、説明できるようになる。

西洋の古代と日本や東洋の歴史との共通点・相違点について考え、関心を抱く。

授業計画・学習の内容

学習内容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ギリシア人と「野蛮人」
- 第3回 世界で最初の民主主義
- 第4回 裁判大国？古代アテネ
- 第5～6回 民主主義をめぐる論争
- 第7回 古代人は性におおらかなのか？
- 第8回 戦争国家ローマ：共和政から帝国へ
- 第9回 見栄っ張りな支配者たち

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力

教科書 特に指定しない。

参考書 講義中に紹介する。

成績評価方法と基準

小レポート等の平常点 (40%) + 期末レポート (60%)

文献を読んで学習し、得た知識と自分の考えとを的確かつ論理的に記述・説明できているかどうか。

期末レポートを提出するためには、平常点評価の課題をすべてこなしていなければならない。

その他 高校世界史の内容を覚えていることが望ましい。不安な者は教科書や参考書を探して読んでおくように。ただ単に教室に来て座っているだけでは理解が深まることはない。授業時間外にも自分で文献を探して読み、考えることで、読書体験を蓄積するようにしてください。

第10回 ローマ人の人生と生活

第11回 キリスト教とローマ帝国

第12回 キリスト教は古代世界を変えたのか

第13回 「ローマはなぜ滅んだか」

第14回 古代の終わりりと中世の始まり

第15回 西洋古代の個性と特徴とは何か

第16回 まとめ

学習課題（予習・復習） 授業の進行にあわせて適宜指示する。

西洋史B (西洋近現代史)

Western History B

学期 前期 開講時間 火 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 植民地時代から19世紀中葉まで、アメリカ史における主要なテーマを取り上げながら、アメリカ社会の変化や多様性を把握する。

学習の目的 アメリカの歴史を通して、現代とは異なる人々の暮らしや考え方を認識するとともに、現在の私たちの社会や文化に対して批判的な考察が行えるようになる。

学習の到達目標 アメリカの歴史と社会について、基礎的な知識をうることができる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

授業計画・学習の内容

キーワード 西洋史、アメリカ社会、近代史

学習内容

アメリカという「歴史のない国」というイメージを持つ人が多いだろう。しかし現代の国際社会においては、好むと好まざるとにかかわらず、アメリカという国の影響から逃れることは難しい。この絶大な影響力を持つアメリカは様々な顔を持っており、それを理解するためには歴史的にとることが重要となる。授業は通史という形をとらず、いくつかのトピックスを取り上げ、アメリカの歴史を概観する。その際、3～4回程度ビデオを利用する予定である。

第1回 はじめに

第2～3回 アメリカの特質

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）

参考書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 平常点20%、レポート(数回) 80%

オフィスアワー 火曜日15:00～16:00

授業改善への工夫 毎回、授業内容への質問・意見を求める。

第4～7回 植民地としての出発
旧世界と新世界の出会い、植民地の建設、植民地社会の形成と発展
第8回 ビデオ (1)
第9～12回 奴隷制
大西洋世界と奴隷、奴隷貿易、奴隷制、奴隷制反対運動
第13回 ビデオ (2)
第14～15回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

ビデオを見る前に、それぞれ数回の授業で取り上げたテーマについて復習をすること。ビデオ視聴後、レポートを作成し提出すること。

西洋史B (西洋近現代史)

Western History B

学期 後期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 森脇由美子 (人文学部)

授業の概要 植民地時代から19世紀中葉まで、アメリカ史における主要なテーマを取り上げながら、アメリカ社会の変化や多様性を把握する。

学習の目的 アメリカの歴史を通して、現代とは異なる人々の暮らしや考え方などを認識するとともに、現在の私たちの社会や文化に対して批判的な考察が行えるようになる。

学習の到達目標 アメリカの歴史と社会について、基礎的な知識をうることができる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

授業計画・学習の内容

キーワード 西洋史、アメリカ社会、近代史

学習内容

アメリカという「歴史のない国」というイメージを持つ人が多いだろう。一方、現代においては、好むと好まざるとにかかわらず、アメリカという国の影響から逃れることは難しい。この絶大な影響力を持つアメリカは様々な顔を持っており、それを理解するためには歴史的にとることが重要となる。授業は通史という形をとらず、いくつかのトピックスを取り上げ、アメリカの歴史を概観する。その際、3~4回程度ビデオを利用する予定である。

第1回 はじめに

第2~3回 アメリカの特徴

アメリカについての基本知識

アメリカの地理的条件と歴史

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

教科書 和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）

参考書 授業中に指示する。

成績評価方法と基準 平常点20%、レポート(数回) 80%

オフィスアワー 火曜日15:00~16:00

授業改善への工夫 毎回、授業内容への質問・意見を求める。

第4~7回 先住民とアメリカ社会
西漸運動

強制移住政策

保護区と同化政策

第8回 ビデオ (1)

第9~12回 現代アメリカと戦争

パックス・アメリカーナの時代

第二次世界大戦後の国際関係

ヴェトナム戦争

第13回 ビデオ (2)

第14~15回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

ビデオを見る前に、それぞれ数回の授業で取り上げたテーマについて復習をすること。

ビデオ視聴後、レポートを作成し提出すること。

西洋史C (20世紀、欧州)

European History C

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一(人文学部)

授業の概要 主としてヨーロッパを対象に、受講者自身が主体的に授業を作り上げるような形式で、二十世紀の歴史について参加者全員で考える。

学習の目的 高等学校で学ぶ近現代史の知識はしばしば断片的であるが、それをまとまりのある、活用可能な体系へと変化させる。

学習の到達目標

研究を基礎に歴史が書かれていることを体得する。

今の時代と少し前の時代の共通点と相違点を把握する。

歴史を学ぶには様々な関連分野の知識が必要であることを知る。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件

- ①高等学校「世界史」で学んだ知識を盲信しない学習態度。
- ②高等学校「世界史」教科書レベルのヨーロッパ近現代史分野に関する基礎的知識を有していない場合は、必要な努力を惜しまないこと。
- ③初回の授業に必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 欧州、20世紀、世界大戦、総力戦

Key Word(s) Europe, 20th Century, World War, Total War

学習内容

第1回 オリエンテーション（授業の運営方針を説明する）、受講者認定

受講を希望する者が多数で授業運営を困難にすると想定される場合、小レポートや抽選等の手段で選抜を行う。それゆえ初回授業に

発展科目 歴史学、社会学、哲学、政治学、法学、経済学関係の諸科目。

教科書

テキストの候補は次の通り。

木村靖二、他『世界の歴史26 世界大戦と現代文化の開幕』中央公論新社

山室信一、他『現代の起点 第一次世界大戦』全4巻、岩波書店

木村靖二『第一次世界大戦』ちくま新書

フォルカー・R・ベルクハーン『第一次世界大戦』東海大学出版部

篠原初枝『国際連盟』中公新書

亀井高孝、他（編）『世界史年表・地図』吉川弘文館

望田幸男（編）『西洋の歴史 基本用語集 近現代編』ミネルヴァ書房

指定したテキストは必ず入手し、授業に持参すること。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション点6割、発言点4割

授業改善への工夫 参加者の学習状況(基礎知識の水準、知的志向など)に配慮すると共に、できる限り要望を取り込んでいきたい。

その他 いわゆる平常点に拠って成績評価を行うので、毎回の予習と復習が不可欠である。

必ず出席すること。受講認定を受けていないと、履修登録しても単位認定の対象とはならない。

第2回 基礎知識等、受講者の諸状況を確認。第3回以降回数分の報告担当者と質問者を決定。第3回～第15回 主に20世紀前半の国内政治、国際政治、経済、社会、文化等について、受講者によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進行する。

テーマに関するキーワードの例：ナショナリズム、大衆デモクラシー、総力戦、共産主

義、国際機構、全体主義

毎回報告者と質問者を各1名以上指名する。指定された文献等について、報告者は板書やレジュメを配布するなどしてその要旨を発表し、質問者は問題点、疑問点を報告者に提示する。質問者に対し報告者が応答した後、担当教員の司会の下、参加者全員のディスカッションを中心とした授業を行う。

学習課題（予習・復習）

1.毎回の報告担当者はテキストを入念に読むこ

とはもちろん、関連文献等も参照して、質問や議論に対応できるよう十分な準備をすること。

2.質問者は報告者同様テキストを入念に読み、不明な点や疑問点などをメモする等の準備をしておくこと。

3.報告者・質問者以外の参加者も指定された文献を必ず予習して問題点や疑問点を確認し、議論で何を発言するかあらかじめ用意しておくこと。

西洋史C (20世紀、欧州)

European History C

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一(人文学部)

授業の概要 主としてヨーロッパを対象に、受講者自身が主体的に授業を作り上げるような形式で、二十世紀の歴史について参加者全員で考える。

学習の目的 高等学校で学ぶ近現代史の知識はしばしば断片的であるが、それをまとまりのある、活用可能な体系へと変化させる。

学習の到達目標

研究を基礎に歴史が書かれていることを体得する。

今の時代と少し前の時代の共通点と相違点を把握する。

歴史を学ぶには様々な関連分野の知識が必要であることを知る。

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

受講要件

①高等学校「世界史」で学んだ知識を盲信しない学習態度。

②高等学校「世界史」教科書レベルのヨーロッパ近現代史分野に関する基礎的知識を有していない場合は、必要な努力を惜しまないこと。

③初回の授業に必ず出席すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 欧州、20世紀、世界大戦、総力戦

Key Word(s) Europe, 20th Century, World War, Total War

学習内容

第1回 オリエンテーション（授業の運営方針を説明する）、受講者認定

受講を希望する者が多数で授業運営を困難にすると想定される場合、小レポートや抽選等の手段で選抜を行う。それゆえ初回授業に

発展科目 歴史学、社会学、哲学、政治学、法学、経済学関係の諸科目。

教科書

テキストの候補は次の通り。

木村靖二、他『世界の歴史26 世界大戦と現代文化の開幕』中央公論新社

山室信一、他『現代の起点 第一次世界大戦』全4巻、岩波書店

木村靖二『第一次世界大戦』ちくま新書

フォルカー・R・ベルクハーン『第一次世界大戦』東海大学出版部

篠原初枝『国際連盟』中公新書

亀井高孝、他（編）『世界史年表・地図』吉川弘文館

望田幸男（編）『西洋の歴史 基本用語集 近現代編』ミネルヴァ書房

指定したテキストは必ず入手し、授業に持参すること。

成績評価方法と基準 プレゼンテーション点6割、発言点4割

授業改善への工夫 参加者の学習状況(基礎知識の水準、知的志向など)に配慮すると共に、できる限り要望を取り込んでいきたい。

その他 いわゆる平常点に拠って成績評価を行うので、毎回の予習と復習が不可欠である。

必ず出席すること。受講認定を受けていないと、履修登録しても単位認定の対象とはならない。

第2回 基礎知識等、受講者の諸状況を確認。第3回以降回数分の報告担当者と質問者を決定。

第3回～第15回 主に20世紀前半の国内政治、国際政治、経済、社会、文化等について、受講者によるプレゼンテーションとディスカッションを中心に授業を進行する。

テーマに関するキーワードの例：ナショナリズム、大衆デモクラシー、総力戦、共産主

義、国際機構、全体主義

毎回報告者と質問者を各1名以上指名する。指定された文献等について、報告者は板書やレジュメを配布するなどしてその要旨を発表し、質問者は問題点、疑問点を報告者に提示する。質問者に対し報告者が応答した後、担当教員の司会の下、参加者全員のディスカッションを中心とした授業を行う。

学習課題（予習・復習）

1.毎回の報告担当者はテキストを入念に読むこ

とはもちろん、関連文献等も参照して、質問や議論に対応できるよう十分な準備をすること。

2.質問者は報告者同様テキストを入念に読み、不明な点や疑問点などをメモする等の準備をしておくこと。

3.報告者・質問者以外の参加者も指定された文献を必ず予習して問題点や疑問点を確認し、議論で何を発言するかあらかじめ用意しておくこと。

比較政治文化 (政治文化を比較する)

Comparative Political Culture

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 市民開放授業
担当教員 グットマン・ティエリー(人文学部)

授業の概要 現代日本政治の現象として次のようなものが挙げられる。「世襲議員の多さ」、「宣伝カーによる選挙運動」、「総理大臣の任期の短さ」、「皇室と政治の関係」、「靖国神社問題」、「領土問題とナショナリズム」、「政治に対する若者の無関心」等。それらの現象の原因は日本文化にあるのだろうか。それとも政治制度にあるのだろうか。この授業においては、各現象の原因を正しく把握するために、国民性・文化からの影響と政治制度・仕組からの影響を分けて考える姿勢をとる。また、一見日本政治に独特と思われるような現象も、その存在自体は普遍的に観察できる場合が多く、国毎の相違点は程度問題あるいは表層的な相違にとどまる場合が多いという点についても説明を加える。

学習の目的 固定観念にとらわれず海外の実情を知りながら自国の政治文化に対する認識を改めることを学習の目的とする。

学習の到達目標 自国の政治文化について海外の事情を比較しながら小論文を書けるようになる。

授業計画・学習の内容

キーワード 欧米 日本 政治文化 比較

Key Word(s) western world, Japan, political culture, comparison

学習内容

- 第1回: 講義の問題意識 (政治文化、政治現象、政治制度の区別)
- 第2回: 講義の問題意識(続)
- 第3回: 政治制度の国際比較 (政治機関)
- 第4回: 政治制度の国際比較 (選挙法)
- 第5回: アメリカ、フランス、日本における政治と宗教の関係
- 第6回: アメリカ、フランス、日本における政治と宗教の関係 (続)
- 第7回: 宗教と政治の関係という現象の普遍性

になる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 PBL比較文化論

参考書 授業の過程でその都度参考書を指摘する。なお、教材としてはビデオを頻繁に利用する。

成績評価方法と基準 期末試験(小論文)80%、平常点(授業への積極的な参加が求められる)20%、計100%。

オフィスアワー 毎週の木曜日14:40~16:10、GUTHMANN研究室(人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 FD(Faculty Development)プログラム、学生の授業評価アンケートの結果を参考にし、常に改善に努めている。

- 第8回: 日仏米の政治象徴比較論
- 第9回: ナショナリズムの国際比較
- 第10回: ナショナリズムの国際比較 (続)
- 第11回: 政治参加の日仏比較 (選挙)
- 第12回: 政治参加の日仏比較 (日常生活の中で)
- 第13回: 政治と女性スキャンダルの日仏米比較
- 第14回: 総合まとめ (政治文化の相違点と政治現象の普遍性)
- 第15回: 総合まとめ (学生の質問に答えながら)

学習課題 (予習・復習) 国内、国外政治一般、また各回のテーマに関する、新聞記事・ニュース等に常日頃関心を持つようにすること。

PBL比較文化論（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（政治文化を比較する）

PBL Comparative culture Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 開講時間 月 3, 4; 水 9, 10 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 グットマンティエリー（人文学部）

授業の概要 現代日本政治において様々な現象が見受けられる。例えば、「世襲議員の多さ」、「宣伝カーによる選挙運動」、「総理大臣の任期の短さ」、「皇室と政治の関係」、「靖国神社問題」、「領土問題とナショナリズム」、「政治に対する若者の無関心」等。受講生は日本政治におけるこれらの現象の分析を行った上で関連する海外の実態や文化的な特徴を調べ、日本政治の諸現象の再評価を行い、半期の授業を通し一貫して政治への文化の影響について考察する。

学習の目的 著書、新聞、インターネット等にある情報を収集し、グループで話し合いながらそれらを整理し考察を加え、その分析の結果をレジュメや発表を通じて他人に巧みに伝える能力を磨くこと。

学習の到達目標 海外の事情を参考にした上で自国の政治文化について数十人の前で迫力のある口頭発表をできるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力,

指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 比較政治文化

参考書 学生の関心に応じて指摘する。

成績評価方法と基準 最終発表の評価30%、中間発表の評価20%、報告の評価20%、平常点(ゼミへの積極的な参加が求められる)30%、計100%。

オフィスアワー 毎週の木曜日14:40~16:10、GUTHMANN研究室(人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 FD(Faculty Development)プログラム、学生の授業評価アンケートの結果、学生の報告・発表内容を参考にし、常に改善に努めている。

その他

自己学習タイムを水曜日9, 10時限とする。PBL比較政治論も併せて履修すること。

授業計画・学習の内容

キーワード 日本政治文化 国際比較

Key Word(s) Japanese political culture, international comparison

学習内容

第1回：セミナーのテーマ・進み方について教官から概要説明。『バラク・オバマ大統領への軌跡』というドキュメンタリー映画を上映。自己学習グループの形成。

第2回~6回：文化と関係のありそうな日本政治における特徴・現象について学生の各グループによる発表

第7回~12回：各グループが扱っている特徴・

現象に関連する他の民主主義国家の実態や文化的な特徴を調べた結果の発表

第13回~15回：各グループが公開発表に向けて調べた海外の例を参考にしながら日本政治の特徴・現象の再評価を発表する
第16回：公開発表

学習課題（予習・復習）

第2回~11回：発表の準備あるいは研究の進行に関する報告の作成

第12回~15回：公開発表の準備
(要旨の作成、パワーポイント・プレゼンテーションの作成、発表の予行演習)

心理学A (人間の社会的行動)

Psychology A

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 松浦 均 (教育学部)

授業の概要 人間がその社会の一人前のメンバーに成長し育っていく過程では、社会での様々な様式を学習しながら生き方を身につけていく。ただし人間として共通の成長発達の過程があり、知覚や学習、身体発達などはある程度の個人差の幅を持ちつつ一定の法則性がある。これらのことを心理学の観点から概説する

学習の到達目標 もし心理学のイメージとして何かステレオタイプのものを持っているとしたら、それを壊すように幅広い心理学の領域を概説し、新たに心理学とはこんな学問であったのかと知ってもらいたいと考えている。学生諸君には、柔軟な考え方で、幅広い視点と考え方を養ってもらいたい

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識

識・技術、論理的思考力、情報受信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

参考書 「わたしそしてわれわれ」北大路書房

成績評価方法と基準 試験(中間テストと期末テスト各35%) 70% 出席30%, 合計100%(合計が60%以上で合格)

オフィスアワー 水曜日7/8限(ただし会議のある週を除く) 教育学部1号館2階, 社会心理学研究室

授業改善への工夫

単元を明確にして、コンパクトにわかりやすい解説を心がける。

中間テストを実施して(テストは返却する)理解の定着を図る。

授業計画・学習の内容

キーワード 心理学, 認知, 学習, 発達, パーソナリティ

学習内容

1. オリエンテーション(第1週) 前期半年間の授業の進め方の説明。学習方法や学習目標を説明し、授業方法、成績評価方法なども説明する。
2. 感覚と知覚のプロセス(第2週～4週) いわゆる五感重要なセンサーとして人間行動の基本的な部分をコントロールしている。これらは単なるセンサーではなく意識が介在することによって積極的に情報を取り込むチャンネルとなっている。とくに視覚を例に置いて「知覚すること」の意味を説明し、その仕組みや特徴を解説する。具体的には視覚における知覚の体制化や錯視、パターン認識などについて解説する。
3. 学習と記憶(第5週～6週) 心理学における記憶の過程、学習の過程を解説する。記憶の仕組みと種類、学習の基本的家庭である条件付けとそのメカニズム、その他の学習の過

程について解説する。

4. 成長と発達(第7週～10週) 人間が生まれてから死ぬまでの身体的精神的变化の過程、つまり発達の概念について解説する。発達の法則性や、遺伝や環境との関連について、発達の具体的な過程について、諸理論を踏まえて説明し、また発達の考え方や個人差の問題について、発達研究の手法なども解説する。
5. パーソナリティ(第11週～12週) 人間の成長発達の過程で、個々人の特徴を示す「その人らしさ」という概念がある。つまり「パーソナリティ・個人差」である。性格や人格といったパーソナリティは、その人の行動傾向を顕在化させ、自己と他者の関係のあり方なども規定する。パーソナリティについての諸理論を踏まえて、その意味について解説する。また、種々のパーソナリティ・テストを紹介し、その解釈とテストそのものの意味についても解説する。
6. 自己概念(第13週～15週) 社会の中の個人の問題について、自己概念の在り方、他者

との比較における自己の確認，他者に対する
自己の表出などについて解説する．

なお，第8週に中間テストを，最終16週に期末

テストを実施する

学習課題（予習・復習）
はよく理解しておくこと

各回での授業内容

心理学A (適応と対人関係)

PsychologyA

学期 後期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 瀬戸美奈子

授業の概要 自己および他者の行動を理解するための知識と、人間関係を円滑にし適応していくための基本的知識を学ぶ。

学習の目的

人間の行動を心理学の視点から理解できる。適応と精神的健康についての理論を理解できる。

学習の到達目標 人間の行動について心理学的な視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築き、精神的な健康を保つための方法や理論を理解できるようになる。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 毎回の授業に出席し、他の受講生の学習の妨げにならないこと。

教科書 適宜文献を紹介、資料を配布する。

参考書 適宜文献を紹介、資料を配布する。

成績評価方法と基準 毎回の授業ごとの小レポート (30%)、試験 (70%) によって総合的に評価する。

授業改善への工夫 毎時の小レポートから出てきた意見、疑問を講義に取り込む。講義中に能動的に思考したり、グループワークを行う機会を設ける。

その他 授業ではグループワークや簡単な実習を取り入れる予定である。他の受講生と積極的にコミュニケーションをはかり、討議をすることが求められる。

授業計画・学習の内容

キーワード 発達、適応、対人関係

学習内容

- 1 心の健康(1)発達障害
- 2 心の健康(2)精神障害
- 3 心の健康(3)ストレスマネジメント
- 4 発達(1)幼児期から児童期
- 5 発達(2)青年期
- 6 自己とは何か
- 7 対人関係
- 8 対人関係

- 9 対人関係
- 10 家族システムと発達
- 11 学習と動機づけ
- 12 社会的勢力
- 13 対人魅力
- 14 対人魅力
- 15 まとめ
- 16 テスト

学習課題 (予習・復習) 毎回授業内容に関して小レポートを提出する。

心理学A (心の理解に役立つ知識)

Psychology A

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 廣岡雅子 (非常勤講師)

授業の概要 心理学入門

予め履修が望ましい科目 なし

学習の目的 自己や他者、社会集団を心理学の視点から学ぶことによって、人間の行動と心のはたらきについての理解を深める

発展科目 心理学関係の授業

教科書 わたしそしてわれわれミレニアムバージョン 大坊郁夫編著 北大路書房

学習の到達目標 人間の多面性・多様性・関係性について心理学的視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築く態度を持つようになる。

参考書 講義時に適宜紹介する

成績評価方法と基準 出席状況20%、定期試験80%

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業改善への工夫 各授業の冒頭に前回授業のフィードバックを実施する。講義中に、能動的に思考活動する機会を設ける。学生から意見や要望を聴き、好ましい学習環境を確保する。

受講要件 好ましい受講マナーを発揮すること。

その他 授業中に、自分自身を知るための心理検査を数回実施する（自己採点するのみで、申告は不要）。

授業計画・学習の内容

キーワード 心の理解に役立つ知識

学習内容

1. ガイダンス、感情
2. 動機づけ
3. 成長と変化
4. 自己意識
5. 心の健康と適応
6. 心理検査
7. 心理療法
8. 対人認知
9. 対人関係の発展

10. 集団と人間1
11. 集団と人間2
12. 住みやすい社会、協調的社会
13. 社会的スキル/アサーション1
14. 社会的スキル/アサーション2
15. 広告と大衆
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 予習として、テキストと授業資料(Moodle) を読んでおくこと。授業後にノートを整理して復習すること。

心理学A (心の理解に役立つ知識)

Psychology A

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 廣岡雅子 (非常勤講師)

授業の概要 心理学入門

予め履修が望ましい科目 なし

学習の目的 自己や他者、社会集団を心理学の視点から学ぶことによって、人間の行動と心のはたらきについての理解を深める

発展科目 心理学関係の授業

教科書 わたしそしてわれわれミレニウムバージョン 大坊郁夫編著 北大路書房

学習の到達目標 人間の多面性・多様性・関係性について心理学的視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築く態度を持つようになる。

参考書 講義時に適宜紹介する

成績評価方法と基準 出席状況20%、定期試験80%

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業改善への工夫 各授業の冒頭に前授業のフィードバックを実施する。講義中に、能動的に思考活動する機会を設ける。学生から意見や要望を聴き、好ましい学習環境を確保する。

受講要件 好ましい受講マナーを発揮すること。

その他 授業中に、自分自身を知るための心理検査を数回実施する（自己採点するのみで、申告は不要）。

授業計画・学習の内容

キーワード 心の理解に役立つ知識

学習内容

1. ガイダンス、感情
2. 動機づけ
3. 成長と変化
4. 自己意識
5. 心の健康と適応
6. 心理検査
7. 心理療法
8. 対人認知
9. 対人関係の発展

10. 集団と人間1
11. 集団と人間2
12. 住みやすい社会、協調的社会
13. 社会的スキル/アサーション1
14. 社会的スキル/アサーション2
15. 広告と大衆
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 予習として、テキストと授業資料(Moodle) を読んでおくこと。授業後にノートを整理して復習すること。

心理学A (心の理解に役立つ知識)

Psychology A

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 廣岡雅子 (非常勤講師)

授業の概要 心理学入門

予め履修が望ましい科目 なし

学習の目的 自己や他者、社会集団を心理学の視点から学ぶことによって、人間の行動と心のはたらきについての理解を深める

発展科目 心理学関係の授業

教科書 わたしそしてわれわれミレニアムバージョン 大坊郁夫編著 北大路書房

学習の到達目標 人間の多面性・多様性・関係性について心理学的視点から理解できるようになる。人と良好な関係を築く態度を持つようになる。

参考書 講義時に適宜紹介する

成績評価方法と基準 出席状況20%、定期試験80%

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業改善への工夫 各授業の冒頭に前授業のフィードバックを実施する。講義中に、能動的に思考活動する機会を設ける。学生から意見や要望を聴き、好ましい学習環境を確保する。

受講要件 好ましい受講マナーを発揮すること。

その他 授業中に、自分自身を知るための心理検査を数回実施する（自己採点するのみで、申告は不要）。

授業計画・学習の内容

キーワード 心の理解に役立つ知識

学習内容

1. ガイダンス、感情
2. 動機づけ
3. 成長と変化
4. 自己意識
5. 心の健康と適応
6. 心理検査
7. 心理療法
8. 対人認知
9. 対人関係の発展

10. 集団と人間1
11. 集団と人間2
12. 住みやすい社会、協調的社会
13. 社会的スキル/アサーション1
14. 社会的スキル/アサーション2
15. 広告と大衆
16. 定期試験

学習課題（予習・復習） 予習として、テキストと授業資料(Moodle) を読んでおくこと。授業後にノートを整理して復習すること。

心理学S (AIポジティブ思考法)

Introduction of Psychology S

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 川島 一晃 (非常勤講師)

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協働的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的 授業が終了した時点で、学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。

学習の到達目標

- ・自分と他人の良さを認めることができる。
- ・前向きな態度を持つことができる。
- ・他人の意見を尊重することができる。
- ・異なった意見を調整することができる。
- ・建設的な意見を出そうとする態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ワークショップを行うために、40名を上限とする。受講者多数の場合には、選

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

アプリシエーティブ・インクワイアリーについての概説およびワークショップを行う。

1. アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- 2~3. 共感的に聞く方法と実践

定を最初の授業で行うので、欠席をしないように留意してください。

予め履修が望ましい科目 キャリアプランニングを履修していることが望ましい

発展科目 キャリアの要素を含む科目、実践を伴う科目の履修によって、本科目で得られた知見を応用できるでしょう。

教科書 ダイアナ・ホイットニー他著『ポジティブ・チェンジャー主体性と組織力を高めるAI』ヒューマンバリュー、2006年。

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、グループ活動40%、個人課題評価30%によって総合的に判断する。

オフィスアワー 金曜日：15：00～16：00

授業改善への工夫 授業アンケート等の学生の声を反映させ、改善する。

その他 アプリシエーティブ・インクワイアリーは、大学、学校、自治体、企業、NPO、福祉、医療現場、国際協力などの領域で、世界各地で用いられている手法です。この手法を教える授業は、日本の大学では初めてのものです。

4~6. 強みの発見

7~9. 夢を描く

10~12. デザインする

13~14. 実践する

15.まとめとふりかえり

学習課題（予習・復習）

毎回課題を課します。

各自期限までにムードルにコメントをアップすること。

心理学S (AIポジティブ思考法)

Introduction of Psychology S

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業 担当教員 川島 一晃 (非常勤講師)

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協働的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的 授業が終了した時点で、学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることができる。

学習の到達目標

- ・自分と他人の良さを認めることができる。
- ・前向きな態度を持つことができる。
- ・他人の意見を尊重することができる。
- ・異なった意見を調整することができる。
- ・建設的な意見を出そうとする態度を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 問題解決力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ワークショップを行うために、40名を上限とする。受講者多数の場合には、選

定を最初の授業で行うので、欠席をしないように留意してください。

予め履修が望ましい科目 キャリアプランニングを履修していることが望ましい

発展科目 キャリアの要素を含む科目、実践を伴う科目の履修によって、本科目で得られた知見を応用できるでしょう。

教科書 ダイアナ・ホイットニー他著『ポジティブ・チェンジャー主体性と組織力を高めるAI』ヒューマンバリュー、2006年。

成績評価方法と基準 毎回の課題30%、グループ活動40%、個人課題評価30%によって総合的に判断する。

オフィスアワー 金曜日：15：00～16：00

授業改善への工夫 授業アンケート等の学生の声を反映させ、改善する。

その他 アプリシエーティブ・インクワイアリーは、大学、学校、自治体、企業、NPO、福祉、医療現場、国際協力などの領域で、世界各地で用いられている手法です。この手法を教える授業は、日本の大学では初めてのものです。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

アプリシエーティブ・インクワイアリーについての概説およびワークショップを行う。

1. アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- 2～3. 共感的に聞く方法と実践

- 4～6. 強みの発見
- 7～9. 夢を描く
- 10～12. デザインする
- 13～14. 実践する
15. まとめとふりかえり

学習課題（予習・復習）

毎回課題を課します。各自期限までにムードルにコメントをアップすること。

心理学S (AIポジティブ思考法)

PsychologyS

学期 前期 **開講時間** 金 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 後藤 綾文

授業の概要 「問題」に目を向ける以上に「強み」に目を向けながら、自分と組織の可能性を見出し、夢を描き、デザインをし、協同的に夢を実現するアプリシエーティブ・インクワイアリーという手法を、グループワークを交えながら実践的に学ぶ。

学習の目的

学生は未来の可能性に目を向ける姿勢、他者に共感する態度、異なった意見を尊重する態度、意見の違いを調整しながらともに夢を実現する手法に関する態度を得ることが出来る。
グループ活動では、お互いにさまざまな考え方をもち他者と認めあい、議論しあい、課題に取り組む姿勢を得ることが出来る。

学習の到達目標

アプリシエーティブ・インクワイアリーの考え方を理解し、その視点から物事を捉えることができる。
物事のポジティブな側面にきづくことができ、より発展していくためのアイデア、さらに自分ができることについても考えることができる。
グループ活動を通して、お互いの意見を尊重

し、調整し、一つにまとめていくなどの社会人として求められる力を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 課題探求力, 問題解決力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 グループで討議を行いますので、グループ活動に積極的に取り組むこと。

発展科目 主題IIにおけるキャリア実践科目

教科書 講義時に指示する。

参考書 講義時に適宜指示する。

成績評価方法と基準 課題 コメント (25%)、グループ活動 (40%)、発表 (30%) による総合点により評価します。

オフィスアワー 水曜14:30-15:30

授業改善への工夫 毎週、受講生のコメントに対して次週にフィードバックの時間を設けます。回答により授業改善への対応を図りません。

授業計画・学習の内容

キーワード アプリシエーティブ・インクワイアリー、発見、夢、デザイン、実践、可能性

学習内容

本授業は、アメリカを中心に実践されているアプリシエーティブ・インクワイアリーの教育方法を理解し、自分たち学生自身がいかに充実した大学教育を受けられるか、よりよい大学教育は何か、自分たちが出来ることは何か、についてグループで検討を行う。「三重大学の教育をよりよくするには」という大きな課題に取り組む中で、問題解決をする一つの手段としてアプリシエーティブ・インクワ

イアリーの考え方を得て、グループ討論を通じて思考を深めていく。

第1回から第4回までの授業でアプリシエーティブ・インクワイアリーについて講義を行う。

- ・アプリシエーティブ・インクワイアリーとは何か
- ・共感的に聴く方法と実践

第5回からグループを編成する。学生は、アプリシエーティブ・インクワイアリーの教育方法に沿いながら、グループ毎に三重大学の強み、よりよくするためのアイデア、そのアイデアを実践するための方法についてグループ

討議を行う。

- ・強みの発見
- ・夢を描く
- ・デザインする
- ・実践する

第15回にまとめを行う。

学習課題（予習・復習）

授業ではグループワークなどの演習を行いますので遅刻は厳禁です。

身近な生活の中でアプリシエーティブ・インクワイアリーの考えを取り入れた課題に取り組み、その内容をMoodleに提出するという課題が出ます。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 鈴木 英一郎 (学生総合支援センター)

授業の概要 心理的問題が形成される背景や状況について考え、そういった問題にどのように対応するのか、また相談者とどのように解決を作り上げていくのか等の心理的援助の実際について、講義と各種ワークを通して理解する。

学習の目的 共感的な態度で人と接する市民・職業人となるために、人の心理や心理的サポートに関する基礎的な知識を持つ

学習の到達目標

- ・心理的援助について、「コミュニケーション」という観点から考え、「心理的な問題の捉え方」やそれに対する「解決の導き方」についての実際を理解することができる。
- ・心理的なサポートを実践する上で求められる態度や振る舞いについて理解し、過不足のない適切なサポートとは何かについて考えることができる。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技

術, 問題解決力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 心理学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 講義中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席とレポートにより総合的に判断する。

オフィスアワー 月曜10:00~12:00「学生なんでも相談室」

授業改善への工夫 授業の感想や授業評価アンケートの結果を参考にする。

その他 「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」の上級資格取得要件のうち「選択必修科目C: 心的援助科目」群に属する科目である。

授業計画・学習の内容

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

学習内容

- 1.オリエンテーション (講義の進め方・課題についての説明) :
- 2.「こころのサポート」とは?:
- 3.「学生生活サイクル」について考える:
- 4.カウンセラーの相談技法 (援助的コミュニケーション) :
- 5.行動療法によるアプローチ① (学習理論について) :
- 6.行動療法によるアプローチ② (行動療法の技法) :
- 7.認知行動療法によるアプローチ:
- 8.システム理論とコミュニケーション:
- 9.二重拘束 (ダブルバインド) 理論:
- 10.リフレーミング技法:
- 11.例外を利用した問題解決アプローチ:
- 12.「こころのサポート」演習①:

13. 「こころのサポート」演習②:
14. 「こころのサポート」演習③:
15. これまでのまとめ:

学習課題（予習・復習）

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 前期 **開講時間** 水 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤 綾文 (学生総合支援センター)

授業の概要

心理的問題が形成される背景や状況について考え、そういった問題にどのように対応するのか、また相談者とどのように解決を作り上げていくのかについて、講義と各種ワークを通して理解する。

また、他者に対する相談行動や、仲間・部活・サークル集団、企業組織などの集団内で対人関係についても見識を深める。

学習の目的 共感的な態度で人と接する市民・職業人となるために、人の心理や心理的サポートに関しての基礎的な知識を持つ。

学習の到達目標 心理的な問題が形成される背景や状況について、個人の要因だけでなく個人を取り巻く環境の要因などにも注目し、「心理的な問題の捉え方」やそれに対する「解決の導き方」について、多面的な捉え方をすることができる。心理的なサポートを実践する上で求められる態度や振る舞いについて理解し、過不足のない適切なサポートは何かについて考えることができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 心理的問題の理解と解決、心理的サポートの実際

学習内容

受講生のニーズ等を考慮しながら、適宜以下のようなテーマを扱う。

1. 心理的な問題が形成される背景
2. 大学生の「悩み」に対するイメージ
3. 他者に相談することの難しさ・サポートされることへの抵抗
4. 個人を取り巻く環境、集団という観点か

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 問題解決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 心理学Ⅰ・Ⅱ

発展科目 各種キャリア教育科目

教科書 教科書は使用しない。

参考書 講義中に適宜指示する。

成績評価方法と基準 授業中に出すミニレポートと期末レポート課題により総合的に判断する。

授業改善への工夫 毎回の授業の感想・ミニレポートの内容を参考にする。

その他 「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。

ら、心理的な問題を捉える

5. カウンセラーの聴き方・話し方

6. 事例から心理的サポートの実際について学ぶ

学習課題(予習・復習) 基礎的な心理学の知識があることにより、講義内容についてより深い理解が出来るものと思われる。よって、「心理学Ⅰ・Ⅱ」を履修済みの受講生は再度復習をしておくことも勧める。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 前期 **開講時間** 木 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 **担当教員** 望木 郁代 (医学部)

授業の概要 こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。

学習の目的 現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。スムーズな支援が展開され、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。

学習の到達目標 自己そして他者のこころとからだの状態に気づき、ソーシャル・サポートを担えるコミュニティの一員として機能できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

教科書 使用しない。

参考書 講義中、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 試験40%、毎回のレポート30%、授業参加30%で評価する。

オフィスアワー 火曜日 9:00～12:00 医学部 (探索医学研究棟1F 教員室2)

授業改善への工夫 レポート課題や授業アンケートの内容から、受講生の要望や理解度を把握し、授業改善を進める。

その他

「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。後期末曜日5, 6時限開講の同名授業とは同じ内容を扱ので、履修はどちらか一方のみとすること。

なお、本授業は平成21年度までの「心理的援助論」に当たる科目であり、「心理的援助論」を既に履修済みの学生は履修できない。受講者人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード こころとからだ、自他理解、健康、心理的サポート

Key Word(s) Psychological support, Mental health

学習内容

- 第1回 科学としての心理学
- 第2回 心理学の研究法
- 第3回 ヒトという存在
- 第4回 「こころ」と「からだ」の関係
- 第5回 ストレスと健康
- 第6回 感情と行動①

- 第7回 感情と行動②
- 第8回 パーソナリティ
- 第9回 自己理解・他者理解①
- 第10回 自己理解・他者理解②
- 第11回 原因帰属
- 第12回 心理療法①
- 第13回 心理療法②
- 第14回 カウンセリング体験①
- 第15回 カウンセリング体験②
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 毎週、授業の振り返りと来週の課題を、Moodleで提出する。

こころのサポート (こころのサポート)

Psychological Support

学期 後期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 望木 郁代 (医学部)

授業の概要 こころとからだのしくみを学ぶことは、人間理解へとつながる。講義やワークを通して、自他を理解し、お互いの存在を認め合う。

学習の目的 現代社会はこころの問題が多い。私たちがよりよく生きていくためには、メンバー間の相互支援が不可欠である。スムーズな支援が展開され、健康なこころとからだを保つための知識とスキルを身につける。

学習の到達目標 自己そして他者のこころとからだの状態に気づき、ソーシャル・サポートを担えるコミュニティの一員として機能できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 問題解決力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし。

授業計画・学習の内容

キーワード こころとからだ、自他理解、健康、心理的サポート

Key Word(s) Psychological support, Mental health

学習内容

- 第1回 科学としての心理学
- 第2回 心理学の研究法
- 第3回 ヒトという存在
- 第4回 「こころ」と「からだ」の関係
- 第5回 ストレスと健康
- 第6回 感情と行動①

教科書 使用しない。

参考書 講義中、適宜紹介する。

成績評価方法と基準 試験40%、毎回のレポート30%、授業参加30%で評価する。

オフィスアワー 火曜日 9:00～12:00 医学部 (探索医学研究棟1F 教員室2)

授業改善への工夫 レポート課題や授業アンケートの内容から、受講生の要望や理解度を把握し、授業改善を進める。

その他

「キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム」における上級必修科目にあたる。前期末曜日5, 6時限開講の同名授業とは同じ内容を扱ので、履修はどちらか一方のみとすること。

なお、本授業は平成21年度までの「心理的援助論」に当たる科目であり、「心理的援助論」を既に履修済みの学生は履修できない。受講者人数制限あり。

- 第7回 感情と行動②
- 第8回 パーソナリティ
- 第9回 自己理解・他者理解①
- 第10回 自己理解・他者理解②
- 第11回 原因帰属
- 第12回 心理療法①
- 第13回 心理療法②
- 第14回 カウンセリング体験①
- 第15回 カウンセリング体験②
- 第16回 試験

学習課題 (予習・復習) 毎週、授業の振り返りと来週の課題を、Moodleで提出する。

PBL心理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（学ぶこころの法則発見）

PBL Psychology Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 開講時間 月 5, 6; 水 9, 10 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選^必 選択 授業の特徴 PBL, Moodle 担当教員 中西 良文(教育学部)

授業の概要

人は生まれてからその生涯を閉じるまで、「学び続ける」存在であるといえるだろう。では、「学び」はどのような形で生じ、それをより良くするにはどうすればよいのだろうか？この授業では、実際に受講生が何かを「学ぶもの」（お手玉ぐらいのレベルのもの）を選び、それを学びながら、学びの様子を観察することで「学び」がどのように生じているのか、そして、より良く学ぶには何が必要かという「法則」を発見することを目指す。

なお、このような活動はグループで行う予定である。

学習の目的 「学び」についての理解・協調スキル・手続き的知識の獲得

学習の到達目標 まず、学びの法則を探究することにより、「学び」についての理解を深めることが1つの目標である。すなわち、これまで持ってきた「繰り返してやれば何となくよくなっていく」という認識を超えた、「学び」について科学的な説明ができるような理解を手に入れることがこの授業での最も高いレベルでの到達目標である。なおこれらは、人が学び続ける存在であるということを考えれば、これはその後十分に活かせるものになるだろう。また、人を観察する力を身につけるといっても、1つの目標になる。さらに、ただ観察して現象を解釈するだけでなく、そこから創造的に科学的な結論を導けるようになるという最も高いレベルの目標として設定したい。そして、本授業はグループ活動を行うため、グループでの協調スキルを身につけるといっても本授業での目標に含まれる。最後に、自ら選んだ「学ぶもの」が実際にできるようになって欲しい。例えば、「お手玉」を選んだ人は、上手に「お手玉」ができるようになってくれればと考えている（こ

れらは「ねがい」である）。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、グループでの活動を行うため、無断欠席を決してしないこと。理由もない無断欠席は厳格に成績（単位認定）に反映させます（1回あたり10点の減点）。

予め履修が望ましい科目 特にないが、スタートアップセミナーを同時に履修することが望ましい。また、統計解析に関する授業も受講していることが望ましい。

発展科目 心理学AならびにF心理統計法(教育学部)教育心理学(教育学部)学習心理学(教育学部)学習心理学実践技法(教育学部)コミュニケーション実習(教育学部)

教科書 授業内で連絡する。

成績評価方法と基準 授業での活動に対する関与の度合いと授業中での発表、最終レポートなどで総合的に評価する。欠席については、減点要因として重視する。

オフィスアワー 火曜日 9:00~10:30 教育学部 1号館2F 学習心理学研究室

授業改善への工夫 授業評価において「自学自習のための教材の提供」の評価が低かったため、このような情報について出来る限り提供をするようにしたい。

その他

授業内で、e-learningシステムであるMoodleを使うため、学内のコンピュータで構わないので、定期的にMoodleにアクセスするようにして欲しい。

受講人数制限あり

キーワード

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.仮説生成
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.仮説検証
- 11.
- 12.
- 13.ポートフォリオの作成。発表グループへのコメント送付。
- 14.
- 15.

学習内容

- 1.第1回 ガイダンス（これ以降PBLタイムの活動を示す。PBL心理学Iでは7回目まで、PBL心理学IIでは8回目以降の内容を扱う）：授業内容について概説する
- 2.第2回 アイスブレイキング: 授業に対してかたく構えることなく、力が発揮できるようアイスブレイキングを行う。またポートフォリオの使用法を説明する
- 3.第3回 グループ分け・過去ビデオ閲覧・研究計画作成: 授業を進めていくグループを構成する。そして、授業内容に入っていくため、まず過去に行われた授業でのビデオ閲覧し、研究計画作成に着手する。
- 4.第4回 データ収集1: まず、データ収集を行うに当たって、注意すべき点について説明した後、データ収集に着手する
- 5.第5回 データ収集2: 前回決定した方法によるデータ収集を進める。また、実際にデータを収集して気づいた点について、早い段階での修正を行う。
- 6.第6回 データ収集3・法則検討: データの収集を続けるとともに、次週の間接発表に向けて、現段階でどのような方向で分析するか、また、どんな法則が見えてきそうかについて検討する。
- 7.第7回 中間発表: これまでに収集したデータについてそれを分析した結果をクラス内に発表し、他のグループから意見を受ける。それをもとに、今後の活動の改善を目指す。

8.第8回 データ収集4: 前回の中間発表で受けた意見を参考にして、一部修正を加えた上でのデータ収集を行う。

9.第9回 データ収集5: データ収集の最終回となるため、通常のデータに加え、事後でとるべきデータを収集する。そして、次回以降のデータ分析に向けて、データの整理・加工を始める。

10.第10回 データ分析1: これまでに収集したデータの分析を始める。まず、データから何をみたいのか、そのためにどのような分析が必要なのかについて考える。また、データ分析の際に注意すべき事項について学習する。その上で、データ分析に取りかかる。

11.第11回 データ分析2・発表準備: データ分析の続きを行い、発表に備えて準備を行う

12.第12回 クラス内発表会1: クラス内で成果を発表し、グループで検討した法則について、議論を行う。

13.第13回 クラス内発表会2: クラス内で成果を発表し、グループで検討した法則について、議論を行う。なお、前回とあわせて2回の発表の中で、合同発表会で発表する代表を選抜する。

14.第14回 合同発表会: 合同発表会に参加し、発表グループだけではなく、全グループが、他のクラスでの発表・ディスカッションに参加し、議論を深める。

15.第15回 クロージング: これまでのグループでの歩みを振り返り、成果と課題について考える。また、グループ活動についてのクロージングを行う

学習課題（予習・復習）

- 1.Moodleへの登録
- 2.ポートフォリオを作成する
- 3.ポートフォリオの作成とデータ収集準備
- 4.ポートフォリオの作成。収集したデータの整理
- 5.ポートフォリオの作成。収集したデータの整理
- 6.ポートフォリオの作成。データ分析の分析と中間発表の準備
- 7.ポートフォリオの作成。データ収集についての再検討。
- 8.ポートフォリオの作成。データ整理
- 9.ポートフォリオ作成。データ整理
- 10.ポートフォリオの作成。データ分析・考察

- 11.ポートフォリオ作成・データ分析結果の考察と発表準備
- 12.ポートフォリオの作成。発表グループへのコメント送付
- 13.
- 14.他のクラスでの発表を聞いた上でポートフォリオ作成
- 15.これまでのポートフォリオを振り返りつつ、最終回にふさわしいポートフォリオを記載する

PBL心理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（人間の社会的行動）

PBL Seminar Psychology I・II

学期 前期 開講時間 月3,4;水9,10 単位 4 年次 学部(学士課程):1年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL,能動的要素を加えた授業,グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 松浦 均 (教育学部)

授業の概要

人間の社会的行動を観察し、そこから人間行動の法則性を発見していく。

人間は社会的動物であり、自分で意思決定することもあるが、その多くは実は他者からの影響を大きく受けている。その影響の受け方には、様々ありそうであるが、意外と単純なルールが働いている可能性がある。

観察という研究手法を用いて、人間は、どんなときに、どんな条件で、どのような行動をするのか、その答えを見つけていく。

学習の目的

これから大学で学問を修得し専門的な研究を行うにあたって、人間行動の観察を通して、基本的なモノの見方やその表し方、課題の設定の仕方や探求の仕方などを学ぶ。

グループ活動を基本形態として、議論の仕方や、協同的な課題遂行などのコミュニケーションの側面も強化したい。

学習の到達目標

人間の行動、とくにありのままの状態をよく見てみるができること

観察という研究手法を理解して、モノを見ることができるようになること

質的データの扱い方を理解し、結果データをうまく説明することができること

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門

授業計画・学習の内容

キーワード

人間の社会的行動

心理学研究法

観察法

データ分析

学習内容

初回 観察研究法のガイダンス。グループ分け。

知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

グループでの活動を行うので遅刻や無断欠席はしないこと。

フィールドでの作業の可能性があるため、学生教育研究災害傷害保険には必ず加入すること。

発展科目 心理学関連科目、社会心理学（教育学部）

教科書 心理学基礎演習Vol.3 観察法・調査的面接法の進め方 松浦均・西口利文編 ナカニシヤ出版

成績評価方法と基準 レポート課題（2種）70%、出席および活動状況30%（合計が60%以上で合格）ただしレポート課題のいずれかが提出されない場合や、活動への取り組み状況が積極的でない場合は、この限りではない。

オフィスアワー 水曜日3/4限 教育学部1号館 2F 社会心理学研究室

その他

PBL心理学IIと併せて履修すること。

受講人数制限あり

2回 心理学研究法の紹介

3回～5回 観察対象の検討および観察方法の検討

6回 中間テーマ検討会（各グループからのレジュメ提出により、実施に向けての建設的な議論を行う）

7回～9回 観察の実施（フィールドへ出る可能性有り）

10回～13回 観察データの取りまとめ、報告書

作成（報告書の様式を設定しておく）
14回～最終回 合同発表会

学習課題（予習・復習）

各グループともMoodleを積極的に活用して、

テーマ検討，観察方法の検討，データ分析等の情報交換を行うこと。

教員からの授業時間外での連絡もMoodleを利用するので、積極的に活用すること。

PBL心理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（適応とは何か）

PBL Psychology Ⅰ・Ⅱ

学期 前期 開講時間 月5,6;水9,10 単位 4 年次 学部(学士課程):1年次 授業の方法 演習

授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 瀬戸美奈子

授業の概要 「適応とは何か」というテーマに基づき、事例シナリオを提示する。学生は臨床心理学、発達心理学の理論や症例について自己学習を行い、その知見をもとにシナリオを分析し、適応と援助に関する課題を発見して考察していく。具体的には①発達障害、②精神障害、③幼児期から児童期の発達、④青年期の発達という4つの事例シナリオを扱う。

学習の目的

- ①臨床心理学、発達心理学の基礎的な知識を習得する。
- ②事例シナリオを通して、発達のプロセスや障害についての理解を深める。
- ③事例シナリオから適応と援助に関する課題を発見し、多角的な視野から考察する。

学習の到達目標

- ①児童期から青年期にかけての発達のプロセス、障害について理解できる。
- ②自己学習、グループディスカッション、グループでの発表を通して、知識の習得と課題解決能力を身につける。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 課題探求力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる

授業計画・学習の内容

キーワード 臨床、発達、事例分析、援助

学習内容

授業は事例シナリオの提示から始まる。提示された事例を各自が自己学習した知識に基づき分析し、次に各グループで課題を設定して、さらに考察をすすめていく。事例分析レポート、課題レポートの提出がそのつど要求される。授業中の発言はもちろん、事前の自己学習とレポート作成による事後の振り返りが多く求められる。

1 ガイダンス

力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 心理学を同時に受講していることががのぞましい。グループでの活動を行うため、無断欠席をけつしてしないこと。

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 心理学関連科目

教科書 なし

成績評価方法と基準 授業での活動や発表、Moodleに記録していく活動の記録、レポート、出席状況を総合的に評価する。

オフィスアワー 木3・4時限教育学部1号館2階発達臨床心理学研究室

授業改善への工夫 学生の授業への取り組み方、感想をもとに随時対応していく。

その他

積極的に話し合いながら事例を分析していくことが求められます。またMoodleを使うため、定期的にアクセスするようにしてください。PBL心理学Ⅱ（瀬戸担当）とあわせて受講してください。

受講人数制限あり

2～3

発達障害：事例の説明と事例シナリオ提示
事例の分析、グループでの課題設定とディスカッション

4 発達障害：グループディスカッションと振り返り

5～6

精神障害：事例の説明と事例シナリオ提示
事例の分析、グループでの課題設定とディスカッション

7 精神障害：グループディスカッションと振り返り

8～9

幼児期から児童期の発達：事例の説明と事例シナリオ提示

事例の分析、グループでの課題設定とディスカッション

10 幼児期から児童期の発達：グループディスカッションと振り返り

11～12

青年期の発達：事例の説明と事例シナリオ提示

事例の分析、グループでの課題設定とディスカッション

13 青年期の発達：グループディスカッションと振り返り

14 プレゼンテーション資料作成

15 プレゼンテーションとまとめ

学習課題（予習・復習） 発達障害、精神障害、幼児期から青年期の発達について、事例シナリオ提示前に自己学習しておく。

授業の概要 家族関係や雇用、科学技術など様々な現代の社会問題と、それに対応する法律の現状を取り上げます。それによって、法律(学)が専門家だけのものではなく誰にとっても身近な存在であることを理解し、困難を解決する姿勢と考え方を養います。

学習の目的 法律・法学が関わりうる分野を広く知ると同時に、初歩的な法学的な考え方を修得することが目的です。困難を法律によって解決する糸口を見つける力を養うことにつながります。

学習の到達目標 法的なアプローチで問題を解決するための道筋を判断する力と説得的に論理を組み立てる力を身につけることが学

習の目標です。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力

教科書 池田真朗他著『法の世界へ(第5版)』(有斐閣)

成績評価方法と基準 期末試験の成績で評価します。

オフィスアワー 第1回の授業の際に連絡します。

授業改善への工夫 質問票や自由課題の提出等、個々の理解度に合わせて学習の手助けをする機会を多く設けます。

授業計画・学習の内容

キーワード 契約、雇用、家族関係、紛争処理

Key Word(s) contract, employment, family, procedure and ADR

学習内容

全回講義形式で行いますが、質問票や自由課題の提出等を通じて、各人の理解が深まる手助けをします。

- (1) オリエンテーション、法とは何か
- (2) 約束と法：契約法の原則
- (3) 様々な契約とそのルール
- (4) 不法行為

(5) 家族と法

(6) ~ (7) 紛争の解決：訴訟の種類と手続

(8) さまざまな人権

(9) ~ (10) 労働と法

(11) ~ (12) 生活の「リスク」と法

(13) ~ (14) 家庭と社会と法

(15) まとめ

学習課題(予習・復習)

教科書は読んできてください。

復習については、毎回、授業内容に合わせて、より学習を深めるための文献等を配布し自由課題を設定します。

社会学A (社会と個人)

Sociology A

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 永谷 健 (人文学部)

授業の概要 著名な社会学の基礎理論を紹介・考察することを通じて、現代社会に生きる私たちが社会的な視点から学ぶうる点を考えていく。

学習の目的 社会学の基本的な考え方や「社会的な視点」を理解したうえで、現代社会の諸問題について考察する。

学習の到達目標 社会学独自の観察方法や説明方法が、理解できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 とくになし

授業計画・学習の内容

キーワード 社会的行動、逸脱、メディア

Key Word(s) social behavior, deviance, media

学習内容

授業内容

第1回 社会学の視点とは？〔第一部の概説〕

第2回 人間の「欲求」の独自性

第3回 欲望と現代社会

第4回 「意味」を求める存在としての人間

第5回 「意味」と現代社会

第6回 文化と価値

第7回 小テストと第二部の概説

第8回 逸脱行動の原因を説明する理論1

予め履修が望ましい科目 とくになし

発展科目 社会学概論 (人文学部)

教科書 教科書は特に指定しない。

参考書 参考書は授業のなかで適宜指示する。

成績評価方法と基準 小テストと期末テストによって評価する。(いずれかをレポート試験とする場合もある。)

オフィスアワー 月曜日16:20~17:20

授業改善への工夫 小テストや授業内レポートを通じて、受講者の疑問点や理解の程度を確認する。

その他 ビジュアル資料を活用する。

第9回 逸脱行動の原因を説明する理論2

第10回 逸脱の抑止と統制

第11回 情報メディアと社会〔第三部の概説〕

第12回 メディア研究概観1

第13回 メディア研究概観2

第14回 映像文化とメディアリテラシー

第15回 現代社会と人間 (試験に向けての総括)

学習課題(予習・復習) はじめて社会学という分野に触れる者が多いと思うので、授業内容を十分に理解するためにも、配布したプリント類をよく読んでおくこと。また、小テストを課す場合があるので留意すること。

社会学A (社会学の中心的テーマ)

Sociology

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上直樹(人文学部)

授業の概要 社会学がこれまで対象としてきたテーマの中で最も重要なものをいくつか取り上げ、社会学がそのテーマをどのように論じてきたのかを説明する。そのことを通して、社会学という学問がどのようなものであるのかを示したい。

学習の目的 受講した学生が、社会学の中心的テーマがどのようなものであるのか、またそれらが社会学者によってどのように論じられてきたのかを理解する。また、その理解の内容を他人に適切に説明することができる。そして、さらに、社会学という学問が提示している様々な見解に対して、自分の考えを持ち、それを他人に伝えることができる。

学習の到達目標 受講した学生が、社会学の中心的テーマがどのようなものであるのか、またそれらが社会学者によってどのように論じられてきたのかを理解する。また、その理解の内容を他人に適切に説明することができる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ①必ず第1回目から受講すること、第2回目からの受講は認められない。②教室での強い集中力を持っていること。

教科書 プリントを配布する。

参考書 プリントを配付する。

成績評価方法と基準 報告の出来具合30%、討議への参加度30%、最後に行う試験40%

オフィスアワー 火曜日と水曜日の午後(くわしい時間に関しては、開講時に連絡)

授業改善への工夫 学生から改善の要望があった場合には、できる限りすみやかに対応するようにします。

その他

本授業はセミナー形式の授業です。

第1回目の授業で、授業の進め方についてのくわしい説明を行うので、必ず第1回目から受講すること。第2回目からの受講は認められない。

授業計画・学習の内容

キーワード 階層、家族、国家、社会的行為、宗教、若者

Key Word(s)

class, family, state, action, religion, youth

学習内容

0. 講義の内容と進め方
1. 階層と社会移動—格差をめぐる議論
2. 国家と社会—国家とは何か
3. 家族の社会学—現代における家族と結婚の変容
4. 演劇論的 sociology—社会的行為を役割演技として見る
5. 身体社会学—現代社会における外見の意味
6. 少年と若者の社会学—少年犯罪、アイデ

ンティティの形成

7. 宗教の社会学—新々宗教と現代社会
なお、受講者の関心に応じた内容の部分的な変更はあり得る。

学習課題 (予習・復習)

1. 階層論、格差社会論の基本的視角を理解する (配付プリント (文献のコピーを含む) を読み、理解する)
2. 国家論の基本的視角を理解する (同上)
3. 家族社会学の基本的視角を理解する (同上)
4. 演劇論的 sociology の基本的視角を理解する (同上)
5. 身体と外見の社会学の基本的視角を理解する (同上)

6. 若者論の基本的視角を理解する（同上） 上）
7. 宗教社会学の基本的視角を理解する（同

社会学B (家族関係の社会学)

Sociology B

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 江成 幸

授業の概要 社会学の視点から、現代の家族について考察する。

学習の目的 戦後家族の変化、少子高齢社会、子育てと社会、多文化家族などについて、知識を得る。

学習の到達目標 家族に関する基礎知識をもとに、多様な家族のありかたを理解することができる。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 問題解決力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

参考書

湯沢雅彦 『データで読む平成期の家族問題 四半世紀で昭和とどう変わったか』朝日選書、2014年。

千田有紀 『日本型近代家族』勁草書房、2011年。

渡邊秀樹・竹ノ下弘久 『越境する家族社会学』学文社、2014年。

成績評価方法と基準 授業中のコメントペーパーおよび出席30%、小レポート20%、期末課題50%、計100%

オフィスアワー 木曜日 15:00～16:00, 共通教育棟4号館3F研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 家族、ジェンダー、子育て、移住

Key Word(s) family, gender, parenting, immigration

学習内容

第1回 社会学による家族研究

第2, 3回 日本の近代家族

第4, 5回 家族とジェンダー

第6, 7回 現代の子育て

第8, 9回 高齢世帯の人間関係

第10, 11回 国境を越える家族

第12, 13回 アメリカの家族

第14, 15回 家族の多様性

第15回 期末課題

学習課題（予習・復習） 配付資料、参考書、新聞記事などを予習復習に活用し、家族に関するデータを読み取る。

社会学B (現代社会を考える)

Sociology B

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 児玉克哉 (人文学部) 他

授業の概要 地域社会について講義していく。様々な社会の問題に取り組み、それらについての考察力をつけるようにする。地域社会を中心にしながら国際社会にも幅広くアプローチする。

学習の目的 地域社会について講義していく。様々な社会の問題に取り組み、それらについての考察力をつけることを目的とする。

学習の到達目標 学生が、社会的な問題に対する関心を持ち、理解を深めるとともに、その問題に対して対応する力を持つようにしたい。社会問題への対応力を鍛える。

本学教育目標との関連 感性、共感、幅広い教養、専門知識・技術、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予備履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 「はじめて出会う平和学」有斐閣

参考書 特になし

成績評価方法と基準

出席 30%

期末試験 70%

オフィスアワー

毎週月曜16:30-18:00 場所: 児玉研究室または総合研究棟2の2階児玉共同研究室の部屋
メールをしてくると確実。kkodama@human.mie-u.ac.jp

授業改善への工夫 ビデオやパワーポイントを活用し、ビジュアル的にもアピールする。

その他 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 地域社会、国際、平和、まちづくり

学習内容

1. ガイダンス
2. 広島・長崎の被爆
3. 広島・長崎の被爆
4. 広島・長崎の被爆
5. アウシュビッツの悲劇
6. 平和学の概要
7. 難民問題
8. 外国人問題

9. 環境破壊
10. 環境破壊
11. アジアの平和
12. 日本の防衛問題
13. 国際NGO
14. 平和への行動
15. まちづくりについて

学習課題 (予習・復習) 新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどから情報を収集するように努力する。いつも国際問題、社会問題に関心を持つことが重要。

社会学B (社会と差異化の構図)

Sociology B

学期 前期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 人が、ある対象を明確に定義づけようとするとき、その対象をそれ以外のものから区別しなければならぬ。この区別によって初めて、ある対象をAと認識できるようになるのである。つまり人の認識は、分類という作業を経ることによって可能となる。例えば赤色は、橙色や黄色から分類されることによってはじめて認識可能となるのだ。このように我々は、さまざまなものを名付け、分類し、差異化を行うことで周囲の世界を認識していると言える。本授業では、我々の生活中にある「男/女」、「神聖なもの/穢れたもの」、「正常/異常」、「白人/黒人」、「西洋/東洋」、「近代/伝統」といったさまざまな区別を、フーコーやサイードといった学者たちの著作を読解しながら考察し、私たちが日頃どのように世界を認識しているのかを批判的に学んでいく。

学習の目的

- ・われわれの生活中に潜んでいる二項対立図式を批判的に考察できる思考力を養うことができる。
- ・差異化による単純な二分法に惑わされることなく、現代社会の複雑な構造を、より明確に捉える力を養うことができる。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード 分類、差異化、社会の構造、二項対立

Key Word(s) classification, differentiation, social structure, binary opposition

学習内容

講義と演習

第1回 講義：授業の概要や重要な概念について講義形式で行う

第2回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む1

- ・何かと何かを分類することが差異化の構造を生み出すことを理解する。
- ・「当たり前」と思っていたことが、意図的な差異化によって生み出されてものであることを知る。
- ・既存の社会構造を疑う目を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は強く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日の11:00-12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば授業で取り扱う著作を変更し、柔軟に対処していく。

第3回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む2

第4回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む1

第5回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む2

第6回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む3

第7回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む1

第8回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む2

イードの『オリエンタリズム』を読む2

第9回 演習：「西洋／東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む3

第10回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む1

第11回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む2

第12回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む3

第13回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差

異の政治学』を読む1

第14回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差異の政治学』を読む2

第15回 講義：全体のまとめを講義形式で行う

学習課題（予習・復習）

・毎回の授業で、必要と思われる参考文献を提示するので、次の授業までに読んでくることが望ましい。

・授業中にとったノートを帰宅後復習すること。

社会学B (社会と差異化の構図)

Sociology B

学期 前期 開講時間 水9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 人が、ある対象を明確に定義づけようとするとき、その対象をそれ以外のものから区別しなければならぬ。この区別によって初めて、ある対象をAと認識できるようになるのである。つまり人の認識は、分類という作業を経ることによって可能となる。例えば赤色は、橙色や黄色から分類されることによってはじめて認識可能となるのだ。このように我々は、さまざまなものを名付け、分類し、差異化を行うことで周囲の世界を認識していると言える。本授業では、我々の生活中にある「男/女」、「神聖なもの/穢れたもの」、「正常/異常」、「白人/黒人」、「西洋/東洋」、「近代/伝統」といったさまざまな区別を、フーコーやサイドといった学者たちの著作を読解しながら考察し、私たちが日頃どのように世界を認識しているのかを批判的に学んでいく。

学習の目的

・われわれの生活中に潜んでいる二項対立図式を批判的に考察できる思考力を養うことができる。
・差異化による単純な二分法に惑わされることなく、現代社会の複雑な構造を、より明確に捉える力を養うことができる。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード 分類、差異化、社会の構造、二項対立

Key Word(s) classification, differentiation, social structure, binary opposition

学習内容

講義と演習

第1回 講義：授業の概要や重要な概念について講義形式で行う

第2回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む1

・何かと何かを分類することが差異化の構造を生み出すことを理解する。
・「当たり前」と思っていたことが、意図的な差異化によって生み出されてものであることを知る。
・既存の社会構造を疑う目を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は堅く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日の11:00-12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば授業で取り扱う著作を変更し、柔軟に対処していく。

第3回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む2

第4回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む1

第5回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む2

第6回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む3

第7回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイドの『オリエンタリズム』を読む1

第8回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サ

イードの『オリエンタリズム』を読む2

第9回 演習：「西洋／東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む3

第10回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む1

第11回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む2

第12回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む3

第13回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差

異の政治学』を読む1

第14回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差異の政治学』を読む2

第15回 講義：全体のまとめを講義形式で行う

学習課題（予習・復習）

・毎回の授業で、必要と思われる参考文献を提示するので、次の授業までに読んでくることが望ましい。

・授業中にとったノートを帰宅後復習すること。

社会学B (社会と差異化の構図)

Sociology B

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 人が、ある対象を明確に定義づけようとするとき、その対象をそれ以外のものから区別しなければならぬ。この区別によって初めて、ある対象をAと認識できるようになるのである。つまり人の認識は、分類という作業を経ることによって可能となる。例えば赤色は、橙色や黄色から分類されることによってはじめて認識可能となるのだ。このように我々は、さまざまなものを名付け、分類し、差異化を行うことで周囲の世界を認識していると言える。本授業では、我々の生活中にある「男/女」、「神聖なもの/穢れたもの」、「正常/異常」、「白人/黒人」、「西洋/東洋」、「近代/伝統」といったさまざまな区別を、フーコーやサイドといった学者たちの著作を読解しながら考察し、私たちが日頃どのように世界を認識しているのかを批判的に学んでいく。

学習の目的

・われわれの生活中に潜んでいる二項対立図式を批判的に考察できる思考力を養うことができる。
・差異化による単純な二分法に惑わされることなく、現代社会の複雑な構造を、より明確に捉える力を養うことができる。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード 分類、差異化、社会の構造、二項対立

Key Word(s) classification, differentiation, social structure, binary opposition

学習内容

講義と演習

第1回 講義：授業の概要や重要な概念について講義形式で行う

第2回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む1

・何かと何かを分類することが差異化の構造を生み出すことを理解する。
・「当たり前」と思っていたことが、意図的な差異化によって生み出されてものであることを知る。
・既存の社会構造を疑う目を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は堅く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日の11:00-12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば授業で取り扱う著作を変更し、柔軟に対処していく。

第3回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む2

第4回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む1

第5回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む2

第6回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む3

第7回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイドの『オリエンタリズム』を読む1

第8回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サ

イードの『オリエンタリズム』を読む2

第9回 演習：「西洋／東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む3

第10回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む1

第11回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む2

第12回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む3

第13回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差

異の政治学』を読む1

第14回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差異の政治学』を読む2

第15回 講義：全体のまとめを講義形式で行う

学習課題（予習・復習）

・毎回の授業で、必要と思われる参考文献を提示するので、次の授業までに読んでくることが望ましい。

・授業中にとったノートを帰宅後復習すること。

社会学B (社会と差異化の構図)

Sociology B

学期 後期 開講時間 水9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 人が、ある対象を明確に定義づけようとするとき、その対象をそれ以外のものから区別しなければならぬ。この区別によって初めて、ある対象をAと認識できるようになるのである。つまり人の認識は、分類という作業を経ることによって可能となる。例えば赤色は、橙色や黄色から分類されることによってはじめて認識可能となるのだ。このように我々は、さまざまなものを名付け、分類し、差異化を行うことで周囲の世界を認識していると言える。本授業では、我々の生活中にある「男/女」、「神聖なもの/穢れたもの」、「正常/異常」、「白人/黒人」、「西洋/東洋」、「近代/伝統」といったさまざまな区別を、フーコーやサイードといった学者たちの著作を読解しながら考察し、私たちが日頃どのように世界を認識しているのかを批判的に学んでいく。

学習の目的

・われわれの生活中に潜んでいる二項対立図式を批判的に考察できる思考力を養うことができる。
・差異化による単純な二分法に惑わされることなく、現代社会の複雑な構造を、より明確に捉える力を養うことができる。

学習の到達目標

授業計画・学習の内容

キーワード 分類、差異化、社会の構造、二項対立

Key Word(s) classification, differentiation, social structure, binary opposition

学習内容

講義と演習

第1回 講義：授業の概要や重要な概念について講義形式で行う

第2回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む1

・何かと何かを分類することが差異化の構造を生み出すことを理解する。
・「当たり前」と思っていたことが、意図的な差異化によって生み出されてものであることを知る。
・既存の社会構造を疑う目を養うことができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は堅く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日の11:00-12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば授業で取り扱う著作を変更し、柔軟に対処していく。

第3回 演習：「神聖なもの/穢れたもの」：リーチの『文化とコミュニケーション』を読む2

第4回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む1

第5回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む2

第6回 演習：「正常/異常」：ミッシェル・フーコーの『狂気の歴史』を読む3

第7回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む1

第8回 演習：「西洋/東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む2

イードの『オリエンタリズム』を読む2

第9回 演習：「西洋／東洋」：エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を読む3

第10回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む1

第11回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む2

第12回 演習：「白人／黒人」：藤川隆男の『白人とは何か？』を読む3

第13回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差

異の政治学』を読む1

第14回 演習：「女／男」：上野千鶴子の『差異の政治学』を読む2

第15回 講義：全体のまとめを講義形式で行う

学習課題（予習・復習）

・毎回の授業で、必要と思われる参考文献を提示するので、次の授業までに読んでくることが望ましい。

・授業中にとったノートを帰宅後復習すること。

文化人類学A (人類学の基礎と理論)

Cultural Anthropology A

学期 前期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁(人文学部)

授業の概要 文化の多様性と普遍性に関する人類学の成果を紹介し、文化相対主義に対する理解を培う

学習の目的

- ・数少ないが、世界の民族にほぼ共通してみられる文化的現象の理解を深められる。
- ・それと同時に世界の文化の多様性が理解できる。

学習の到達目標

- ・文化相対主義の長所と短所について深い理解ができる。
- ・人類学の基礎と呼べる部分のおおよそが理

解できる。

本学教育目標との関連 感性, 倫理観, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 文化人類学概論 (専門、人文学部)

参考書 授業中に紹介。

成績評価方法と基準 レポートあるいはテストの成績のみ。

オフィスアワー 木曜日の講義後。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化の普遍性と多様性、文化相対主義

学習内容

講義は以下の予定で実施する。

本講義では、特定の地域に限定せず、以下にあげるトピックごとに文化人類学の知見を幅広く、またわれわれの日常生活のレベルにできるだけそった形で理解することをねらいとしている。

第1回:オリエンテーション

第2回:文化人類学という学問分野の説明

第3回:フィールドワーク

第4-15回:異文化との接触、贈答と交換、汚れとタブー、社会構造、宗教と世界観、法、政治、暗黙知など (この期間内に、レポートかテストを課します)

学習課題 (予習・復習) 自分以外のいわゆる「他者」に対する情報 (本、テレビの番組) を取り込み、関心をもつこと。また、そういった「他者」に対する自身の偏見をもう一度疑ってみること。

文化人類学A (人類学の基礎と理論)

Cultural Anthropology A

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義

担当教員 立川 陽仁(人文学部)

授業の概要 文化の多様性と普遍性に関する人類学の成果を紹介し、文化相対主義に対する理解を培う

学習の目的

- ・数少ないが、世界の民族にほぼ共通してみられる文化的現象の理解を深められる。
- ・それと同時に世界の文化の多様性が理解できる。

学習の到達目標

- ・文化相対主義の長所と短所について深い理解ができる。

- ・人類学の基礎と呼べる部分のおおよそが理解できる。

本学教育目標との関連 倫理観, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 文化人類学(人文学部、専門)

参考書 授業中に紹介。

成績評価方法と基準 期末テストの成績。

オフィスアワー 木曜日の講義後。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化の普遍性と多様性、文化相対主義

学習内容

講義は以下の予定で実施する。

本講義では、特定の地域に限定せず、以下にあげるトピックごとに文化人類学の知見を幅広く、またわれわれの日常生活のレベルにできるだけそった形で理解することをねらいとしている。

第1回:オリエンテーション

第2回:文化人類学という学問分野の説明

第3回:フィールドワーク

第4-15回:異文化との接触、贈答と交換、汚れとタブー、社会構造、宗教と世界観、法、政治、暗黙知など(この期間内にレポートかテストを課します)

学習課題(予習・復習) 自分以外のいわゆる「他者」に対する情報(本、テレビの番組)を取り込み、関心をもつこと。また、そういった「他者」に対する自身の偏見をもう一度疑ってみること。

文化人類学B (民族誌学)

Cultural Anthropology

学期 前期 開講時間 月9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 河邊 真次(非常勤講師)

授業の概要

異文化理解に様々な形で取り組んできた文化人類学の視点から世界の諸文化を紹介し、人間にとって「文化とは何か？」という根源的な問題にアプローチする。

学習の目的

ラテンアメリカにおける文化現象を事例として多く取り上げ、その社会文化的状況を把握し、理解を深めるとともに、異文化へのまなざしを養う。

学習の到達目標 異文化理解のための新しい視野を獲得し、近年の多文化共生をめぐる諸問題への関心が高まる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力

受講要件 本科目では、世界のさまざまな文化現象を紹介するため、受講者は講義内で紹介する推薦図書を積極的に読むことに加え、新聞やインターネットなどを活用し、異

文化への関心をもって講義に臨むことを期待する。

教科書 テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。

参考書

綾部恒雄・桑山敬己(編)『よくわかる文化人類学(やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ)』、ミネルヴァ書房、2006年。
浜本 満・浜本まり子(共編)『文化人類学のコモンセンスー文化人類学入門』、学術図書出版社、1994年。

成績評価方法と基準 学期中に数回実施する小レポートと期末試験によって評価する。

オフィスアワー 授業の前後に講師控室にて受けつける。

授業改善への工夫 異文化に対する受講者の関心を高めるため、学期中に数回ビデオ上映を実施する。

授業計画・学習の内容

キーワード 文化人類学、ラテンアメリカ文化、異文化理解、多文化共生

学習内容

1. オリエンテーションー文化人類学への招待ー
2. 概論ー文化とは何か？ー
3. 人類と言語
4. 文化と経済
5. 性・生殖・婚姻
6. ジェンダーとセクシュアリティ
7. 人種・民族・国家

8. 政治と権力
9. 宗教と世界観
10. 人間の一生ー時間と儀礼ー
11. 医療と文化
12. 開発と文化
13. 観光と文化
14. 方法論としてのフィールドワーク
15. まとめ

学習課題(予習・復習) 毎回の講義で学んだことがらを、自文化と比較して考える習慣を身につけていただきたい。

政治学F (性の多様性・複合差別)

Politics F

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 ○岩本美砂子 (人文学部), 稲垣朋子 (人文学部) 江成幸 (人文学部), 朴恵淑 (人文学部), 菅利恵 (人文学部) 中島美幸, 日高庸晴 (宝塚大学), 風間孝 (中京大学), 山崎鈴子 (部落解放同盟) 近藤由香 (QWRC), 安間優希 (Queers), 吉田みち (自立生活センター三田), 関口久志 (京都教育大学)

授業の概要

①セクシャル・マイノリティー—レズビアン、ゲイ、トランスジェンダー、性分化障害 (インターセックス) —の当事者に、自分の置かれた立場について話してもらい、学生の理解を深める。HIV問題や性と生殖の分離と重なりといった実践的な講義も提供する。

②ジェンダーについて、法律、文学といった切り口で考える。

③ジェンダーについて、マイノリティ女性の立場からの考察を行う。

国内でも得難い講師陣によって、日本で「性」の問題を考える際の先端的な糸口を提供する。

学習の目的 ジェンダーとセクシュアリティという「性」に関する問題で、自分の頭・自分の言葉で考えられるようになること。セクシャル・マイノリティやマイノリティ女性の受けている複合差別を理解できること。

学習の到達目標 ジェンダーとセクシュアリティについて基本的知識をもって、自分や自分の周りの人々について考えられるようになること。セクシュアル・マイノリティ、マイノリティ女性の状況に関して、社会の構造と関連づけて考えられるようになること。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ステレオタイプ (型にはまった画一的なものの見方) を「うのみ」にしない姿勢

参考書

橋本秀雄・花立都世司・島津威雄『性を再考する：性の多様性概論』青弓社、2003

日本女性学会ジェンダー研究会『男女共同参画／ジェンダーフリーバッシング』明石書店、2006

以上の他、初回に一覧表で示すが、講義ごとに提示するものもある

成績評価方法と基準 出席30% レポート2回合計70%

オフィスアワー 月曜5-6限岩本研究室 (人文)

授業改善への工夫 Moodleの利用を、より充実させる。

その他 レポートは2回ともMoodleで提出、1回目はコメントを付けて返す。

授業計画・学習の内容

キーワード ジェンダーセクシュアリティ 性差別 セクシュアル・マイノリティマイノリティ女性 同性愛 トランスジェンダー

Key Word(s) gender, sexuality, sexual discrimination, sexual minority, minority women, homosexuality, transgender

学習内容

①オリエンテーション、②ゲイ・ムーブメン

ト、③トランスジェンダー、④レズビアン・フェミニズム、⑤家族法とジェンダー⑥HIV・エイズと性的行動、⑦性と生殖の基礎知識⑧部落出身の女性⑨障害のある女性、⑩ジェンダーと日本文学、⑪ドメスティック・バイオレンス、⑫環境とジェンダー、⑬日本における外国人女性、⑭ジェンダーとヨーロッパ近代、⑮男性のジェンダー、⑯まとめ、—順番は、講師との調整で変動する—

第1回レポートにコメントを付けて返し、第2回レポートに生かす形でフィードバックする。

学習課題（予習・復習）

レポート（2000字以上）2回

講師の話に関連して、ジェンダー・セクシュアリティ・マイノリティをテーマにしたレポート（参考文献や参考URLを明記する）。マイノ

リティをテーマにするときにも、ジェンダーかセクシュアリティに言及すること。

1回は、「自分のセクシュアリティ」をテーマにしたレポートでもよい。

ワードファイルで提出すること。注は脚注機能を使わず、文中に(1)(2)などと記し、文末に

(1) ～～。 (2) ～～～。とまとめること。

（コピー防ソフトが脚注に対応していないため）

政治学G (正義を考える)

Politics

学期 前期 開講時間 火5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 麻野雅子(人文学部)

授業の概要 授業では、正義に関する基本的な文献を講読します。受講者は、授業前に、あらかじめ指定された文献を熟読し、その内容を理解してくることを必須とします。受講生は、授業のうち数回担当者となり、文献の内容をレジュメにまとめ、他の受講生に講読文献の内容を説明します。(担当者でない場合でも、指定された文献は必ず事前に熟読して、内容を理解してきてください。) 受講者数が6名を超える場合は、グループに分けて議論をします。

学習の目的 正義に関する理論の基礎を理解するとともに、文献の内容を正しく理解したうえで、その要旨を簡潔にまとめ、分かりやすく報告する能力を身につけることが学習の目的です。

学習の到達目標 正義に関する理論について理解を得たうえで、現代の政治状況を分析する力を持てるようになることが、学習の到達目標です。

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。ただし1回目の授

授業計画・学習の内容

キーワード 正義論

Key Word(s) theory of justice

学習内容

第1回 講義概要、文献の紹介、報告の仕方、評価係方針、学習方法などについて説明します。

第2～16回 指定された文献を講読していきます。

業には必ず出席してください。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

発展科目 特にありません。

教科書 取りあげる文献は、マイケル・サンデル著『これからの「正義」の話をしようーいまを生き延びるための哲学』(ハヤカワ・ノンフィクション文庫)、マイケル・サンデル著『それをお金で買いますー市場主義の限界』(早川書房)、小川仁志著『はじめての政治哲学ー「正しさ」をめぐる23の問い』(講談社現代新書)などを予定していますが、受講者と相談の上、変更することもあります。

参考書 参考書は授業内容や受講生の関心に応じて適宜指示します。

成績評価方法と基準 出席点20%(原則毎回出席してください。ただし病気等でどうしても欠席せざるをえない場合は必ず事前に連絡してください。)、報告の内容ならびに授業時間内での発言等の態度80%、計100%です。

オフィスアワー 火曜日12:00～13:00、場所は人文学部棟5階麻野研究室です。

授業改善への工夫 グループ分けを行い報告の回数を増やすとともに受講生相互のコミュニケーションを高めていくよう工夫します。

す。担当者を決めて、文献の要旨を報告してもらったのち、その内容について全員で、あるいは各グループで議論します。

学習課題(予習・復習) 受講生の毎回の出席とともに、積極的な発言を期待します。学習の方法については授業時間中に詳しく説明します。

PBL政治学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（現代東アジア国際政治）

PBL Politics I, II

学期 前期 開講時間 月9, 10; 水9, 10 単位 4 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL

担当教員 古瀬 啓之(人文学部)

授業の概要 東アジア地域における国際問題を、最新の新聞記事からピックアップして、その問題の構造や歴史的経緯、さらに原因等を考えていく。受講生は、おもに次の中から取り組む問題を選択する。「1. 地球環境問題、2. 食料、貿易問題と生活への影響、3. 文化交流、4. 歴史認識問題」（もし、受講生から申し出があればその他のテーマでも可）

学習の目的 東アジアにおける国際問題の歴史的背景を知ることができる。また、グループ内での議論を通して、多様な意見を知ることにより、物事を複眼的に見られるようになる。

学習の到達目標 セミナーに主体的に関わり、また、根拠に基づき、結論を導きだす。他者に自分の見解を明確に伝える。

本学教育目標との関連 感性、モチベーション、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・

協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 授業中の議論の展開によって、その都度示す。

参考書 授業中の議論の展開によって、その都度示す。

成績評価方法と基準 出席20点＋研究発表50点＋レポート30点、計100点

オフィスアワー 毎週 月曜日、木曜日の昼休み（12：00～13：00）

授業改善への工夫 受講生が討論を行うにあたり自由に発言できる雰囲気を作り出していきたい。また、受講生の設定した課題に適した文献を積極的に提示していく。

授業計画・学習の内容

キーワード 現代東アジア国際政治

Key Word(s) International relations in East Asia

学習内容

授業計画

1～3 グループ分け、自己紹介、討論のデモンストレーション

4～5 東アジアをめぐる国際問題：教員による講義（新聞記事等の紹介）。講義の後、意見交換。グループ毎にグループワークのテーマ設定

6 グループごとに取り組むテーマを発表。そして次週までの目標決定する

7～9 グループディスカッション（グループ内個々人の学習成果に基づく議論）

10 成果の中間発表（全員の前で）、今後の目標の設定

11～13 グループディスカッション（グループ内個々人の学習成果に基づく議論）

14 成果の最終発表（全員の前で）

15 授業を振り返って（感想を話し合う）

※現在、中国の目覚ましい発展などもあって、東アジアに国際的な関心が集まっています。日本は、中国、朝鮮半島とともにこの地域を構成する主要なアクターであり、この地域の国際関係の行方は、我々自身の生活などに少なからぬ影響を与えています。たとえばそれは、環境問題、政治外交問題、食料問題、経済問題などに関することです。本授業ではこうした問題に対し、その原因や歴史的背景などを考察し、これからどうすべきかをみなさんの自由な議論を通して一緒に考えていきたいと思っております。

学習課題（予習・復習）

受講者のグループ分けを行った後に、教員側

から複数のテーマを提示する。受講生はグループ毎にその中からテーマを一つ選択して（あるいは教員が提示したものではないテーマを自分たちで用意してもらってもよい）、最終グループ発表に向けて、課題に取り組

む。それにあたって主体的に行っていくことが重要である。

教員側からは、参考文献等を適宜提示していくが、そうした文献の読解を積極的に行っていくことが望ましい。

経済学F (経済学入門)

Economics F

学期 前期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 本講義では、グローバル化、金融化、日本経済の現状という3つの角度から、現代の社会経済を分析するうえで糸口となるようなテーマをとりあげます。

学習の目的 現代の社会経済の多様な論点を多角的な角度から分析する視座を身につける。

学習の到達目標 現代の社会経済をみずからの言葉で分析し、評価できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

発展科目 とくになし。

教科書 柴田努ほか編『図説 経済の論点』旬報社、2014年。

参考書 別途、授業内で指定することがあります。

成績評価方法と基準 定期試験および平常点によって評価する。

オフィスアワー 随時。メールで予約してください。

授業改善への工夫 毎講義ごとに質問用紙を配布し、次回講義の冒頭で一件ずつ丁寧に回答する。

その他 私語をはじめとして、ほかの受講者に迷惑をかける行為は厳禁とします。また、この講義ではMoodleの利用が必須となりますから、あらかじめ使用方法に習熟しておいてください。

授業計画・学習の内容

キーワード 経済学入門

学習内容

第1回 イントロダクション
第1部 グローバル化する現代経済
第2回 企業の国際生産と通商体制
第3回 マーケティングの国際化と金融グローバル化
第4回 グローバル化の一国経済への影響——地域経済・技術基盤・税制
第5回 新興国の台頭とグローバルな貧困問題
第6回 対外援助は有効に機能しているか
第11部 金融化する現代経済
第7回 経済の金融化とはなにか
第8回 投機取引とデリバティブ
第9回 金融自由化と「規制の民営化」

第10回 金融機関のビジネスモデルとその変容
第11回 「異次元緩和」が増幅する国債市場のリスク
第11部 日本経済の現在
第12回 日本経済の構造変化
第13回 労働・雇用・賃金の変容
第14回 財政・金融政策の現在
第15回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

第1部 グローバル化の経済過程への影響を理解すること
第11部 金融依存の背景を理解すること
第11部 日本経済の現状を企業活動とマクロ政策の2つの面から理解すること

経済学F (経済学入門)

Economics F

学期 後期 開講時間 火7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle
担当教員 森原 康仁 (人文学部)

授業の概要 本講義では、グローバル化、金融化、日本経済の現状という3つの角度から、現代の社会経済を分析するうえで糸口となるようなテーマをとりあげます。

学習の目的 現代の社会経済の多様な論点を多角的な角度から分析する視座を身につける。

学習の到達目標 現代の社会経済をみずからの言葉で分析し、評価できるようになる。

本学教育目標との関連 感性, 主体的学習力, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 とくになし。

予め履修が望ましい科目 とくになし。

発展科目 とくになし。

教科書 柴田努ほか編『図説 経済の論点』旬報社、2014年。

参考書 別途、授業内で指定することがあります。

成績評価方法と基準 定期試験および平常点によって評価する。

オフィスアワー 随時。メールで予約してください。

授業改善への工夫 毎講義ごとに質問用紙を配布し、次回講義の冒頭で一件ずつ丁寧に回答する。

その他 私語をはじめとして、ほかの受講者に迷惑をかける行為は厳禁とします。また、この講義ではMoodleの利用が必須となりますから、あらかじめ使用方法に習熟しておいてください。

授業計画・学習の内容

キーワード 経済学入門

学習内容

第1回 イントロダクション
第1部 グローバル化する現代経済
第2回 企業の国際生産と通商体制
第3回 マーケティングの国際化と金融グローバル化
第4回 グローバル化の一国経済への影響——地域経済・技術基盤・税制
第5回 新興国の台頭とグローバルな貧困問題
第6回 対外援助は有効に機能しているか
第11部 金融化する現代経済
第7回 経済の金融化とはなにか
第8回 投機取引とデリバティブ
第9回 金融自由化と「規制の民営化」

第10回 金融機関のビジネスモデルとその変容
第11回 「異次元緩和」が増幅する国債市場のリスク
第11部 日本経済の現在
第12回 日本経済の構造変化
第13回 労働・雇用・賃金の変容
第14回 財政・金融政策の現在
第15回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

第1部 グローバル化の経済過程への影響を理解すること
第11部 金融依存の背景を理解すること
第11部 日本経済の現状を企業活動とマクロ政策の2つの面から理解すること

経済学G (ミクロ経済学入門)

Economics G

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 担当教員 嶋恵一

授業の概要

経済学は自由な取引が保障された社会において人々がどのような行動をとりうるか、またどのような取引が望ましいのかについて分析する学問になります。

市場経済の下で、個人や企業は需要と供給を通じて交換取引を行います。対価を支払うことで、需要と供給の間の交換取引は成立します。市場とは需要と供給とが出合い、双方が暗黙のうちに交渉し、交換の成立へと導く場と考えることができます。交換を成立させる上で、価格(対価)は重要な役割を果たします。この授業では価格のメカニズムを考察し、交換経済の基礎を学習します。

学習の目的 経済学とはどのような学問かを紹介し、その使命、役割について理解してもらうことが目的になります。

学習の到達目標 市場経済の意義、その中で需要と供給を行う経済主体の合理的行動を理解し、需要と供給のメカニズムを理論的に説明できるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

キーワード 需要、供給、最適化行動、価格メカニズム、完全競争、不完全競争

Key Word(s) demand, supply, rational behavior, price mechanism, (im)perfect competition

学習内容

- 第1回 講義の解説：需要と供給
- 第2回 需要理論：消費選択の最適化
- 第3回 需要理論：効用関数、無差別曲線、予算制約
- 第4回 需要理論：効用最大化、需要関数
- 第5回 異時点の間最適化：消費のライフサイクルモデル

本学教育目標との関連 幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力

受講要件 ありません。

予め履修が望ましい科目 ありません。

発展科目 ミクロ経済学

教科書 用いません。

参考書 講義中に適宜示します。

成績評価方法と基準 中間テスト(配点50)と期末テスト(配点50)の合計(満点100)により単位評価します。60点以上が合格になります。

オフィスアワー 木曜日講義後、講義室または研究室にて質問を受けます。

授業改善への工夫 適宜例題を解き、受講生の理解度を確認しつつ授業を進めます。中間テストは採点后返却し、解説を加えます。

その他 全てパワーポイントによる講義になります。

- 第6回 供給理論：生産の最適化
- 第7回 供給理論：生産関数、費用関数
- 第8回 中間テスト
- 第9回 供給理論：利益最大化、供給関数
- 第10回 市場競争：完全競争均衡
- 第11回 市場競争：価格支配力と独占均衡
- 第12回 市場競争：競争と余剰の問題
- 第13回 不完全競争：寡占均衡
- 第14回 不完全競争：クールノー均衡
- 第15回 不完全競争：スタックルバーグ均衡
- 第16回 期末テスト

学習課題(予習・復習) 講義で示した計算問題は、独力で解けるようになるまでよく復習することを願います。

文化と空間A (空間・政治・文化)

Culture and Space A

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 北川 真也 (人文学部)

授業の概要 授業は、不均等な世界の諸地域で生じている様々な現代のかつ時事的な政治的諸現象・諸問題を、グローバル化という観点から、さらにはそれをめぐる批判的理論の観点から考察することを目的とする。

学習の目的 グローバル化という言葉が様々なところで用いられ、世界が小さくなったような感覚があるかもしれません。しかし、私たちの世界への想像力はほんとうにグローバルなものでしょうか。世界の他の場所(近くても遠くても)で生じている社会的・政治的・文化的・経済的出来事に、私たちの共感・応答できるでしょうか。グローバル化の時代だからこそ、世界の広さ、深さへの想像力が試されています。学習の目的は、世界の諸地域(いくぶんはヨーロッパが多くなるかもしれませんが)で生じる様々な現代の・時事的な出来事について知識を得、それらをグローバル化とそれについての諸理論を用いて思考できるようになることです。

学習の到達目標 学習の到達目標もまた、世界の諸地域で生じる様々な現代の・時事的な出来事について知識を得、それらをグローバル化とそれについての諸理論を用いて思考することですが、さらにはそれを自らが生きる社会の問いとしてもまた引き受けられるよう

な知と想像力を育み、その成果を的確かつ論理的に文章化することです。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性

教科書 特にはありません。

参考書

たとえば、
アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート(水嶋一憲・酒井隆史・浜 邦彦・吉田俊美)『〈帝国〉——グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』以文社、2003。
アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート(水嶋一憲・清水知子)『叛逆——マルチチュードの民主主義宣言』NHK出版、2013。
など。

成績評価方法と基準 レポート(50%)×2回=100%(予定)

オフィスアワー 木曜日 12~13時(事前に連絡することが望ましい)

授業改善への工夫 学生の要望に応じて、柔軟に対応します。

その他 授業中に自分なりのメモを積極的に作成することが受講の前提となります。

授業計画・学習の内容

キーワード グローバル化、国民国家、グローバル/ローカル、資本主義、蜂起、民主主義

Key Word(s) globalization, nation-state, global/local, capitalism, insurrection, democracy

学習内容

- 第1回 はじめに
- 第2回 グローバル化とその理論・実践
- 第3回 グローバル化とその理論・実践
- 第4回 グローバル化とその理論・実践

- 第5回 ローカルな実践とグローバル化：具体例1
- 第6回 ローカルな実践とグローバル化：具体例2
- 第7回 ローカルな実践とグローバル化：具体例3
- 第8回 ローカルな実践とグローバル化：具体例4
- 第9回 ローカルな実践とグローバル化：具体例5
- 第10回 ローカルな実践とグローバル化：具体例6

第11回 ローカルな実践とグローバル化：具体例7

第12回 ローカルな実践とグローバル化：具体例8

第13回 グローバル化とその理論・実践の再考

第14回 グローバル化とその理論・実践の再考

第15回 まとめ

学習課題（予習・復習） 予習については、授業内容についての簡単な文献を提示するので、予めそれを読書してくる。予習をすれば、内容への理解度がまったく異なります。復習についても同様です。

文化と空間B (世界諸地域の生活環境)

Human Geography E

学期 前期 開講時間 火 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 原 眞一(非常勤講師)

授業の概要 主に世界の諸地域の多様な生活環境を国際理解(異文化理解)の視点を加味して取りあげていく。風土と景観を中心として、環境と人々の生活の姿を見つめ、その理解を深める。さらに演習として受講生の関心や身近な生活環境を記録(描く)し、その意義を考える。

学習の到達目標 世界の諸地域について、風土・景観を中心として掘り下げ、自ら豊かな地域像(世界像)の育成を培う。そのためにも地域認識と地域を見る眼を深める。

教科書 原 眞一 『写真地理を考える』ナカニシヤ出版(2012)。

参考書 高校レベルの地図帳を準備することが望ましい。例えば、帝国書院編集部『地図帳標準高等地図―地図でよむ現代社会―』など。

成績評価方法と基準 試験が約50%、課題(フィールドワーク)、出席状況、学習意欲などが約50%として総合的に評価する。

授業改善への工夫 主に世界諸地域の生活環境をより多面的に追究していきたい。受講生の興味・関心を高めるために現地での見聞などを織り交ぜて、写真・地図などの教材を多用して動的に取り組んでいきたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 世界諸地域の生活環境

学習内容

第1回 空間と文化を学ぶガイダンス

第2回 空間・地域・景観・風土・文化を考える

第3回 世界の諸地域の生活環境① タイ―東南アジアの縮図

第4回 ② モンゴルー草原国の歴史と今

第5回 ③ イギリス―スコットランドとイングランド

第6回 ④ カナダ―多様な自然景観と文化景観

第7回 ⑤ モロッコ―アトラス山脈の北と南、ハワイ島の西と東―対照的な生活環境

第8回 ⑥ フィジー諸島共和国―伝統的的生活文

化と観光・リゾート

第9回 ⑦ イスタンプル(トルコ)とメキシコシティ(メキシコ)―巨大都市の変遷と都市景観

第10回 ⑧ 名古屋と神戸の都市空間と歴史の変遷

第11回 ⑨ 伊勢湾と三河湾の離島の生活環境と暮らし

第12回 世界の諸地域の自然景観・文化景観

第13回 日本の諸地域の自然景観・文化景観

第14回 生活環境のフィールドワークのまとめと報告(Ⅰ)

第15回 生活環境のフィールドワークのまとめと報告(Ⅱ)

第16回 定期試験

PBL地理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（社会の法則を探る）

PBL Geography I, II

学期 前期 開講時間 水 9, 10; 金 7, 8 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年

次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 中川 正

授業の概要 日常生活に潜む法則を発見し、学問的アプローチを用いて説明・解釈し、結果をどのように応用できるかを考える方法を実践的に学び、その成果を発表する。

学習の目的 学生は、身近な現象から法則性を発見し、説明解釈し、応用し、さらにそれを公開の場で発表することができるようになる。

学習の到達目標 本授業を受講することにより、学生は、日常生活から法則を発見する感受性、発見した現象を説明・解釈する思考力、試行の結果を応用する実践力、および、それを公開の場で発表し、議論するためのコミュニケーション力を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 効果的なグループワークを行うために、受講生を30名に制限する。受講希望者が超過した場合には、最初の授業で選考を行うので、欠席をしないこと。

発展科目 人文地理学B

教科書 法則研究プラザ編『法則探検に出かけよう』三重大学出版会、2007年。授業の中で販売する。

成績評価方法と基準 毎回の課題50%、ディスカッションへの参加20%、最終報告30%

オフィスアワー 水曜12:00～13:00

授業計画・学習の内容

キーワード 法則探検、発見、説明解釈、応用、プレゼンテーション

Key Word(s) Social Laws, Discovery, Explanation, Application, Presentation

学習内容

日常生活に潜む法則の発見、説明・解釈、応用の一連の作業を、小グループで行い、法則カフェと呼ばれる社会公開の場でプレゼンテーションを行う。

前期

1. 社会法則探検の方法（1～3週）
2. 空間的・時間的・集団的パターンの発見（4～6週）
3. 説明と解釈（7～8週）
4. 応用（9週）
5. プレゼンテーション準備（10～13週）
6. 発表（14～15週）

学習課題（予習・復習） グループで法則発見と説明・解釈・応用を行い、パワーポイントで報告させるので、Moodleを通したホームワークがある。

PBL地理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ（時事問題の検討）

PBL Geography I, II

学期 前期 開講時間 水9, 10; 木5, 6 単位 4 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 演習 授業の特徴 PBL
担当教員 北川真也（人文学部）

授業の概要 時事問題についてのPBLです。時事問題についての常識的・支配的な見方は異なったマイナーな見方を発見すること、それについて思考・議論・発表するPBLです。基礎的な教材としては、日本語の新聞記事、外国語の新聞記事を用います。

学習の目的

私たちの時事的な社会問題・国際問題へのものの見方は、常に限られたもの、「偏った」ものです。目的は、自らの観点の「かたより」を検討し、既存の社会のなかで周辺的な位置に置かれている人々の「マイナー」な見方を見出すこと、そしてそのような観点から既存の時事問題について思考できるようになることです。

時事問題、特に国境をまたぐような国際的な問題を、日本語の様々な種類の新聞記事、そして外国語の新聞記事の読解を通して行います。

学習の到達目標

到達目標は、次の通りです。いずれもがグループでの作業が基本となります。

①自らの時事問題への見方の「かたより」を検討し、「マイナー」な見方を見つけ出すこと、そこから時事問題について思考すること。

と。

②それを様々な日本語の新聞記事、また外国語の新聞記事、そして関連文献の読解を通して実行すること。

③上述の内容について、パワーポイントを用いて明瞭にプレゼンテーションを行うこと、また論文執筆などを通して的確に文章化すること。

④グループワークを通して、上記の①、②、③を行うこと。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

教科書 特にありません。

参考書 適宜、提示します。

成績評価方法と基準 グループワークの発表・議論 60%、グループワークによる論文など 40%

オフィスアワー 木曜日12:00~13:00

その他

受講生の能動的・積極的な取り組みが、授業の前提となります。
受講人数制限あり。

授業計画・学習の内容

キーワード 時事問題 マイナー性 グループワーク

Key Word(s) current topics, minority, group work

学習内容

第1回 木5.6-授業目的の説明、おおまかなテーマ設定、グループ分け

水9.10-グループ・ディスカッションにおいて詳細なテーマ設定

第2回 木5.6-グループごとにテーマの報告、テーマ設定の妥当性について討論、資料収集

の方法の説明

水9.10-グループごとに資料収集、発表に向けた準備、資料収集と発表方法について

第3回 木5.6-日本語の新聞記事を用いた発表とディスカッション

水9.10-発表したグループは振り返り、次回発表グループは準備

第4回 木5.6-日本語の新聞記事を用いた発表とディスカッション発表

水9.10-すべてのグループが次へ向けての振り返り

第5回 木5.6-どのようにして次に問題意識を

深めるか、より深く調査するかについて各グループの報告

水9.10ー新聞記事以外の関連文献の収集

第6回 木5.6ー外国語の新聞記事の収集方法の説明、グループでどの言語の新聞記事を読むのかをディスカッション

水9.10ー外国語の新聞時期の収集・読解

第7回 木5.6ー外国語の新聞記事内容の簡単な報告

水9.10ー外国語の新聞記事の収集・読解、日本語の新聞記事と関連文献のさらなる収集・読解

第8回 木5.6ーグループごとに資料収集と発表に向けた準備の簡単な状況報告

水9.10ーグループごとに資料収集、発表に向けた準備

第9回 木5.6ー外国語の新聞記事を含めて、すべての資料を用いた発表とディスカッション

水9.10ー発表したグループは振り返り、次回発表グループは準備

第10回 木5.6ー外国語の新聞記事を含めて、すべての資料を用いた発表とディスカッション

水9.10ーすべてのグループが次へ向けての振り返り

第11回 木5.6ー前回の発表の振り返りの内容報告、論文執筆方法の説明

水9.10ーグループでの論文執筆

第12回 木5.6ー論文執筆の進展報告

水9.10ーグループでの論文執筆

第13回 木5.6ーグループの論文についてディスカッション

水9.10ー論文発表したグループは論文修正、次回発表グループは論文作成

第14回 木5.6ーグループの論文についてディスカッション

水9.10ーすべてのグループが論文の修正、そして完成・提出へ

第15回 木5.6ー全員で振り返り

水9.10ー学生で振り返り

学習課題（予習・復習） 新聞資料を、事前に収集・読解・比較検討すること。また関心を持った主題については、ディスカッションを有意義にできるように、関連する書誌などを読み理解を深めておくことが望ましい。

言語学 (日本語の構造と獲得)

Linguistics

学期 前期 開講時間 火 5, 6, 7, 8; 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle
担当教員 菅原彩加

授業の概要 科学的な手法を用いて客観的に日本語の構造をひもとく。取り扱う分野は大きく分けて音、文法、意味の組み立て、となる。それぞれの分野について、子供の母語獲得の現象も扱い、実験と理論がどのように結びつけられるかについて議論する。また、必要に応じて日本語以外の自然言語との比較も行う。

学習の目的

「言語学」は「認知科学」の一分野であることを具体的な例を用いて科学的に他人に説明できる。
音・文法・意味の各分野において授業内容を理解し他人に説明できる。
各分野の母語獲得における最新の話題が理解できる。

学習の到達目標

「言語学」は「認知科学」の一分野であることを他人に説明できる。
音・文法・意味の各分野において基礎的な事項を理解する。
各分野の母語獲得における基礎的な事項を理解する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信

授業計画・学習の内容

キーワード 日本語学・言語学入門、音韻論、統語論、意味論

Key Word(s) Introduction to Japanese linguistics, phonology, syntax, semantics

学習内容

第1回 ガイダンス：サイエンスの対象としての言語学
第2回 形態論・日本語のフィールドワーク：「友達」が「友」の複数を表すとしたら「友達たち」とは？
第3回 音韻論：省略語・外来語のアクセント規則

力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 教科書は特に指定しない。スライドを使い、適宜資料を配布する。

参考書

興味があれば以下の本を読むことを薦める。
スティーブン・ピンカー「言語を生み出す本能」
酒井邦嘉「言語の脳科学 脳はどのようにことばを生み出すか」

成績評価方法と基準 授業参加（リアクションペーパーへの記入）25%、小テスト25%、期末試験50%で評価する。

オフィスアワー 随時（メールでアポイントメントを取ること）

授業改善への工夫 パワーポイント、配布資料などによる講義と毎回のリアクションペーパーの提出を組み合わせ、授業内容の理解を深めてもらうと共に学生のニーズを把握できるようにする。講義では子どもの発話の具体例を多く提示し、より興味が持てるようにする。

第4回 音韻論：外来語・複合語の音の変化規則
第5回 形態論と音韻論における母語獲得
第6回 (#2～5の範囲の小テスト)、統語論：単語の集まりからどのように文を作るか
第7回 統語論：日本語と多言語の比較
第8回 統語論：日本語の構造
第9回 統語論：移動現象（受動文、疑問文）
第10回 統語現象における母語獲得
第11回 (#6～10の範囲の小テスト)、英語話者のブローカ失語症、特異的言語発達障害、ウィリアムズ症候群における受動文の獲得（試験範囲外）
第12回 意味論：量子子のスコープの計算

第13回 意味論＋語用論：会話における含意の
計算

第14回 意味論・語用論の母語獲得

第15回 総まとめ

(試験)

学習課題（予習・復習） 授業は付加的に進むので、スライドや授業でとったノートをもとに復習をし、前回の内容を理解したうえで授業に臨んでください。

言語学 (言語学入門 I)

Intro.to Linguistics I

学期 前期 **開講時間** 木 3, 4 **単位** 2 **対象** Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。 **授業の方法** 講義, 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

You will learn the basics of the following core areas of linguistics: phonetics and phonology, morphology, and syntax.

言語学の中心的な分野として音声学と音韻論、形態論、統合論の基本を学ぶ。

学習の目的

- Acquire skills to analyze the forms of language
- Deepen your understanding of the structure of English as well as languages in general
- 言語の形式を分析するスキルを習得する
- 英語及び一般的に言語の構造の知識を深める

学習の到達目標

- Apply critical thinking to solve language problems
- Improve your ability to learn foreign languages
- Improve your understanding and accuracy in the production of language
- 批判的思考を応用して言語の問題を解決する
- 外国語を学ぶ能力を進める
- 言語の理解や産出の精度を進める

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

Students with a score of 600 or higher on the

TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

発展科目

- Special Seminar in International Studies: Intro.to the Science and the Meaning of Words II
- Intro.to Linguistics II
- 国際理解特殊講義：言葉と科学入門 II
- 言語学入門 II

教科書

Plag, Ingo, Sabine Lappe, Maria Braun, and Mareile Schramm.2009.Introduction to English Linguistics (2nd Edition).De Gruyter, Walter, Inc.

ISBN: 3110214083

ISBN-13: 978-3110214086

成績評価方法と基準

Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and an in-class final exam.

成績評価は、講義準備 (宿題等)、講義中の態度 (グループ活動への取り組み姿勢等) と最終試験による。

オフィスアワー

By appointment.

予約を取ること。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、言語語学、分析、音声学、音韻論、形態論、統合論

Key Word(s) English, linguistics, analysis, phonetics, phonology, morphology, syntax

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Phonetics - Producing sounds

Session 3: Phonetics - Classifying sounds: consonants

Session 4: Phonetics - Classifying sounds: vowels

Session 5: Phonology - Phonemes, minimal pairs, and allophones

Session 6: Phonology - Specifics of English

Session 7: Phonology - Syllable structure

Session 8: Morphology - Morphemes

Session 9: Morphology - Allomorphs

Session 10: Morphology - Inflection and derivation

Session 11: Morphology - Word formation

Session 12: Syntax - Layering of structures

Session 13: Syntax - Types of phrases

Session 14: Syntax - Mapping from form to function

Session 15: Final Test

The above schedule is subject to change dependent upon students' needs.

第一回：紹介

第二回：音声学 音の作成

第三回：音声学 音の区別：子音

第四回：音声学 音の区別：母音

第五回：音韻論 音素、最小対語、異音

第六回：音韻論 英語の特徴

第七回：音韻論 音節の構造

第八回：形態論 形態

第九回：形態論 異形態

第十回：形態論 活用、導出

第十一回：形態論 言葉の作成

第十二回：統合論 構造と階層

第十三回：統合論 句、節の種類

第十四回：統合論 形式から機能へ

第十五回：最終試験

学生のニーズによって計画が変わる可能性がある。

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する。

言語学 (言語学入門 II)

Intro.to Linguistics II

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 ボッフマイア ジャスティン

授業の概要

You will learn the basics of the following core areas of linguistics: semantics and pragmatics. You will also learn the basics of the following cross-disciplinary areas of linguistics: sociolinguistics, historical linguistics, psycholinguistics, semiotics, and linguistic anthropology/anthropological linguistics.

言語学の中心的な分野として意味論、語用論の基本を学ぶ。それに、言語学の学際的な分野として社会学、歴史言語学、心理学、記号論、言語人類学／人類言語学の基本も学ぶ。

学習の目的

- Acquire skills to analyze the functions of language
- Deepen your understanding of the use and meaning of English as well as languages in general
- 言語の形状を分析するスキルを習得する
- 英語及び一般的に言語の意味、使い方の知識を深める

学習の到達目標

- Apply critical thinking to solve language problems
- Improve your ability to learn foreign languages
- Improve your understanding and accuracy in the use of language
- Deepen your understanding of the relations between language, society, and culture
- 批判的思考を応用して言語の問題を解決する
- 外国語を学ぶ能力を進める
- 言語の理解や応用の精度を進める
- 言語、社会、文化の関係や繋がりの理解を深める

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

教科書

Plag, Ingo, Sabine Lappe, Maria Braun, and Mareile Schramm. 2009. Introduction to English Linguistics (2nd Edition). De Gruyter, Walter, Inc.

ISBN: 3110214083

ISBN-13: 978-3110214086

成績評価方法と基準

Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and an in-class final exam.

成績評価は、講義準備（宿題等）、講義中の態度（グループ活動への取り組み姿勢等）と最終試験による。

オフィスアワー

By appointment.
予約を取ること。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.
読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、言語学、分析、意味論、語用論、社会学、歴史言語学、心理学、記号論、人類学

Key Word(s) English, linguistics, analysis, semantics, pragmatics, sociology, historical linguistics, psychology of language, semiotics, anthropology

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: Semantics - What is meaning?

Session 3: Semantics - Meaning and composition

Session 4: Semantics - Meaning relations

Session 5: Pragmatics - Context

Session 6: Pragmatics - Speech Acts

Session 7: Pragmatics - Gricean implicature

Session 8: Pragmatics - Politeness I

Session 9: Pragmatics - Politeness II

Session 10: Sociolinguistics

Session 11: Historical Linguistics

Session 12: Psycholinguistics

Session 13: Semiotics: Language and signs

Session 14: Linguistic Anthropology and Anthropological Linguistics

Session 15: Final Test

The above schedule is subject to change dependent upon students' needs.

第一回：紹介

第二回：意味論 意味って何？

第三回：意味論 意味と成分

第四回：意味論 意味と繋がり、関係

第五回：語用論 状況

第六回：語用論 発話行為

第七回：語用論 グライスの含意

第八回：語用論 ポライトネス I

第九回：語用論 ポライトネス II

第十回：社会言語学

第十一回：歴史言語学

第十二回：心理言語学

第十三回：記号論

第十四回：言語人類学、人類言語学

第十五回：最終試験

学生のニーズによって計画が変わる可能性がある。

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する。

地域学 (海外体験実習ベトナム)

Area Studies

学期 前期集中 **単位** 2 **対象** 応募者多数の場合は、「国際協力入門」の受講者で参加要件を満たす学生を優先的に選考する **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○国際協力センター長

・長縄 真吾 (国際交流センター 特任准教授)

授業の概要 新興国の一つとして発展著しいベトナムを9月上旬に約2週間訪問し、交流校学生との合同フィールドリサーチ・ディスカッション、JICAやNGO等が実施する開発援助プロジェクトの視察学習、ベトナム人家庭へのホームステイ、現地日本人駐在員との交流等の活動・学習を行う。7~8月に事前勉強会を5回以上実施し、各自が選定したテーマにそってベトナムの開発問題や訪問先についての事前学習を行う。プログラムのアレンジも担当教員の指導の下、学生自身が行う。

学習の目的 新興国の一つとして発展著しいベトナムにおいて、ベトナム人学生との合同フィールドリサーチ、開発現場視察、日系企業駐在員との交流等の活動を、学生自身が事前アレンジも含めて主体的に取り組むことにより、グローバル人材に求められる3要素を総合的に向上させ、グローバルな視野を持ちながら主体的・積極的に行動できる人材となることを目指す。

学習の到達目標

- ・日本とは異なる環境におけるフィールドワーク等を通じ、不測の事態等にも対応できる能力を高める
- ・ベトナム人学生との合同調査・ディスカッションやホームステイ先家族との交流等を通じ、総合的なコミュニケーション能力を高める
- ・日系企業訪問、現地で活躍する日本人駐在員等との交流を通じ、自身の将来のキャリアや目指すべき人材像を明確化する
- ・開発現場の視察等を通じ貧困・環境・平和構築等のグローバルイシューに対して理解を深め、自分自身の意見を持つ
- ・プログラムのアレンジ (訪問先との連絡調整、車両・ホテル手配、資料準備) 等を担当教員の指導のもとで、学生自身が主体的に行

うことにより、社会人としての基礎的な素養を身につける

- ・帰国後参加学生が自身の経験を他の学生や一般市民に伝え、学内や社会の国際化に寄与する

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

- ・「国際協力入門」を受講済であることが望ましい (応募者多数の場合は受講済学生を優先する)
- ・参加費用 (10~12万円程度) を負担できること
- ・事前勉強会にすべて出席可能なこと

予め履修が望ましい科目 ・国際協力入門

発展科目 ・Tri-U Joint Seminar & Symposium (Tri-U国際シンポ)

成績評価方法と基準 事前勉強会におけるプレゼンテーション、事前準備における主体性、協調性、現地フィールドスタディ期間中の振り返り、帰国後の報告書等を総合的に勘案して評価を行う

オフィスアワー

国際交流センター 長縄 真吾

(月~金 10:00 - 17:30、総合研究棟I12F国際交流チーム)

原則として事前にメール等で連絡のこと

その他

5月上旬: 掲示板等を通じて応募方法について

周知

5月下旬：説明会

6月上旬：応募締切

6月下旬：参加者選考・通知

7月～9月：事前勉強会

授業計画・学習の内容

キーワード ベトナム、ODA、NGO、グローバル化、日系企業の海外展開、貧困、環境、紛争と平和、異文化理解

Key Word(s) Vietnam, ODA, NGO, Globalization, Overseas Advance of Japanese Enterprises, Poverty, Environment, Conflict and Peace, Cross-cultural Understanding,

学習内容

1. 事前勉強会（計20時間）

- ・ベトナムの概況・歴史
- ・ベトナムに対する日本のODAの現況
- ・訪問予定のテーマ別に担当を決め、事前学習・発表を行う
- ・現地フィールドリサーチのテーマ設定・事前準備
- ・各訪問先との日程調整・訪問準備
- ・渡航前オリエンテーション、事前準備等

・ベトナム語基礎講座

2. フィールドスタディ期間中（計13日間（正味5時間×10日＝50時間）

- ・ホーチミン市師範大学学生との合同フィールドリサーチ（街頭インタビュー、発表資料作成、プレゼンテーション）
- ・現地大学生との英語によるディスカッション・交流
- ・JICA・NGO等が実施する開発援助プロジェクトの現場視察
- ・ベトナム進出企業訪問・現地日本人駐在員との懇親会（毎晩参加者と担当教員による振り返りミーティングを行い、各自の気づきを共有する）

3. 帰国後

- ・報告書作成
- ・報告会の実施

医学医療E (国際保健と地域医療)

Medicine, Nursing

学期 後期 **開講時間** 木 9, 10 **単位** 2 **対象** 医学科以外の学生の受講については年次を問わない

年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義

担当教員 医学部教員他によるオムニバス形式

授業の概要 医療と保健の課題を「国際」と「地域」のふたつの観点から考える授業である。地域医療の原点がある開発途上国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保険医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。

学習の目的 医療と保健の課題を「国際」と「地域」のふたつの観点から考える授業である。地域医療の原点がある開発途上国の医療現場の理解を通して、戦後、急速に発展した日本の保険医療の発展過程や近年、大きな問題となっている地域医療の崩壊について考える機会を提供する。

学習の到達目標

- ・日本の国際協力を理解する。

授業計画・学習の内容

キーワード 国際医療協力、公衆衛生、外国の医療、地域医療、へき地医療

学習内容

- ・日本の地域医療の課題を理解する。

受講要件 医学科専門科目を兼ねるので医学科学生は共通教育単位としては取得できない。開放科目であるため看護学科学生および医学部以外の学生は取得できる。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 公衆衛生学、地域医療実習、医学臨床実習

教科書 必要がある場合、授業毎に提示。

成績評価方法と基準

- ・成績評価は出席および試験による。
- ・出席管理システムで出席の確認を行うため必ず学生証を持参すること。学生証の忘れは欠席扱いとする。

講義予定や講義室は変更がありうるので掲示板に注意のこと。

講義テーマと講義日程については、初回講義で配布する。

医学医療E (病気のサインと健康)

Symptoms in disease and health

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 丸山一男 (医学系研究科)

授業の概要 英語で症状の説明ができる to be able to explain the symptom in English

学習の到達目標 病名や症状の英語による表現を知る Student learn the English expressions of disease and their symptom.

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 討論・

対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

成績評価方法と基準 report and final examination レポートと期末試験

オフィスアワー make appointment at ext. 6401 (内線6401で約束を取り付ける)

授業計画・学習の内容

キーワード 健康 health, 病気 disease, 症状 symptom

学習内容

The following subjects will be held through the course

以下の内容について、期間を通じて学習する。

外来にて at outpatient clinic

腹痛 abdominal pain

胸痛 chest pain

発熱 fever

心停止 cardiac arrest

心肺蘇生 cardiopulmonary resuscitation

AED automated external defibrillator

意識障害 loss of consciousness

小児の救急 pediatric emergency (Dr.H. Sawada, pediatrician, will talk)

ロールプレイを英語で行い、海外旅行などで、急病になった時に、症状を表現できるようにする。

また、相手医師看護師などの質問を理解できるようにする。

Students will play roles as patients and medical staff to learn the English expressions.

学習課題 (予習・復習)

Memorize short English expressions which were presented in the previous class.

(前回の短い英語表現を記憶する)

環境学A (食料生産と環境保全)

Environmental Studies A

学期 前期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 梅崎輝尚(生物資源学部)

授業の概要 人口増加によって引き起こされる環境破壊について現状を認識し、人類の生存に必要な不可欠な食料の生産と環境保全に関する知識を身につけるとともにプレゼンテーションの方法を学ぶ。

学習の目的 各自が設定した食料生産と環境保全に関するテーマについての問題点や解決方法を発表・討議を通して理解するとともに自ら考える能力を身につける。

学習の到達目標

1. 食料生産と環境問題についてのテーマを各自の興味・視点で自ら設定・選択することができる。
2. 多くの資料の中から客観的な情報を選択することができる。
3. 自ら設定したテーマについての背景、現状の把握、問題点、解決方法を簡潔かつ的確にまとめることができる。
4. 自ら設定したテーマを分かりやすく簡潔に発表することができる。
5. 協調的あるいは批判的にそれぞれのテーマを捉え、討議・討論することができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 環境、環境保全、食料、食料生産、食料安全保障、人口増加

Key Word(s) Environment, Environmental protection, Food, Food production, Food security, Population explosion

学習内容

第1回 ガイダンス(発表テーマの決定)

本学教育目標との関連 感性、共感、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 講義の中で必要に応じて指示する。

成績評価方法と基準 研究報告の内容と方法(70%)ならびに討議への参加程度(30%)で評価する。

オフィスアワー 月曜日(12:15~13:00)、生物資源学部棟3階358室

授業改善への工夫 学生が興味を持ったテーマについて発表してもらう際に、他の学生の理解を助けるようなアドバイスを行う。

その他 ゼミナール形式のため、最低1回の研究報告と全体討議への積極的な参加を求める。受講人数制限 (30名)

第2回 講義「食料生産の実情と人口の動向」
第3~15回 学生によるテーマ別研究報告と討議
第16回 学生によるテーマ別研究報告と討議と総括

学習課題(予習・復習) 担当する研究報告の課題を選定し、資料収集・整理を行い、プレゼンテーションの準備をする。必要があれば報告後、追加資料を作成する。

環境学A (環境問題と地球A)

Environmental Studies A

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 ブライアン・ジェームス・マホニー(非常勤講師)

授業の概要 To study and evaluate various environmental issues relating to global warming, biodiversity, our planet earth and to begin to recognize the impact these pose to life and sustainability.

学習の目的 For students to develop a greater awareness of the environment and global issues relating to it. To understand differing views that help shape the dynamics of the movements for global change. And for students to learn the basics of the language used to discuss these topics on the global stage.

学習の到達目標 For students to develop a greater awareness and appreciation for the environment. To gain a better understanding of the vital roles that systems of ecology play in our lives. To reconnect with nature in ways that benefit our planet Earth.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 This is an English content class and therefore a strong background in English writing, reading and communication is necessary. For Japanese students an above average score of at least 600 on the TOEIC test or similar test(s) is necessary. Overseas study and/or international exchange experience is also a plus.

発展科目 With a committed effort, students will gain a better understanding of the language used and the key and controversial issues relating to the global environment. Students will have opportunities for group discussion. Essay and slide show presentations will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English.

教科書 (Details will be given in our class introduction). English dictionary/thesaurus is required. A4 size notebook is also necessary for note taking. Additional materials will be provided by the instructor.

参考書 Environmental Documentary and Film: Several titles throughout the course will be presented in order to provide additional support to subject matter. These films will be shown in English/Japanese with English/Japanese subtitles. Titles to be shown include, "At The Edge of the World," "The Cove," "The Mountain Patrol," amongst others.

成績評価方法と基準 Participation/Reflection Papers 50%, Homework Assignment 25%, Final Work Assignment 25%. Interested students please note-Class begins on Day One.

オフィスアワー Friday after class: 12:00 ~12:30.

その他 Please note that a short essay may be required prior to official acceptance into this class.

授業計画・学習の内容

キーワード 環境問題、私たちの地球、生物多様性、エコシステム、伝統と文化

Key Word(s) Environmental Issues, Our Planet Earth, Biodiversity, Eco-Systems, Tradition & Culture

学習内容

Class 1: Class introduction/Topic for Discussion.

Class 2~7: Topics for discussion. Reading assignments/homework.

Class 8: Environmental topic essay introduction.

Class 9~13: Topics for discussion. Reading as-

signments/homework.
Environmental essay development.

Class 14-15: Small group presentations/
slideshow.

音楽文化論 (西洋音楽の流れ)

Music civilization

学期 前期 開講時間 金 5,6 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 三浦健一

授業の概要 古代社会から中世、近世へ至る西洋の歴史の流れの中で、人間と音楽がどのように関わり、音楽をどのように捉えてきたかを講義する。

学習の到達目標 西洋古代から近世にかけて音楽の思想、作曲様式などの展開の過程を理解する

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養

教科書 特にないが各テーマごとに講義の中で指摘する

成績評価方法と基準 定期テスト50%、レポート40%、出欠席10% 定期テスト、レポート及び出欠席で総合判定

授業計画・学習の内容

キーワード 西洋音楽の流れ

学習内容

授業内容

第1回 ガイダンス

第2回～第5回 音楽起源説を出発点に古代社会にみられる呪術的、魔術的音楽観について

第6回～第8回 古代ギリシャにおける様々な音楽の実践と理論、音楽思想について

第9回～第12回 西洋中世前期の学問としての音楽の在り方とキリスト教音楽思想そしてグレゴリオ聖歌について

第13回～第16回 西洋中世後期の感性的、感覚的な音楽の把握、そして近世に向けての芸術、技術としての音楽の在り方について

以上が本講義の主な内容であるが、プリント資料、CD、テープを活用しながら授業を進めていきたい。

音楽文化論 (西洋音楽の流れ)

Music civilization

学期 後期 開講時間 金 5, 6 単位 2 授業の方法 講義

担当教員 三浦健一

授業の概要 古代社会から中世、近世へ至る西洋の歴史の流れの中で、人間と音楽がどのように関わり、音楽をどのように捉えてきたかを講義する。

学習の到達目標 西洋古代から近世にかけて音楽の思想、作曲様式などの展開の過程を理解する

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養

教科書 特にないが各テーマごとに講義の中で指摘する

成績評価方法と基準 定期テスト50%、レポート40%、出欠席10% 定期テスト、レポート及び出欠席で総合判定

授業計画・学習の内容

キーワード 西洋音楽の流れ

学習内容

授業内容

第1回 ガイダンス

第2回～第5回 音楽起源説を出発点に古代社会にみられる呪術的、魔術的音楽観について

第6回～第8回 古代ギリシャにおける様々な音楽の実践と理論、音楽思想について

第9回～第12回 西洋中世前期の学問としての音楽の在り方とキリスト教音楽思想そしてグレゴリオ聖歌について

第13回～第16回 西洋中世後期の感性的、感覚的な音楽の把握、そして近世に向けての芸術、技術としての音楽の在り方について
以上が本講義の主な内容であるが、プリント資料、CD、テープを活用しながら授業を進めていきたい。

国際理解特殊講義 (立憲君主制)

Special course for international understanding

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 野村 耕一

授業の概要

血統原理や世襲原理に基づく君主を戴く国家は、わが国をはじめとして実は少なくない。君主が有する権能は歴史上、また国によって様々である。

この授業では二十世紀以降の立憲君主制を主たる対象として、その諸相に近年の研究成果に拠って迫りたい。

学習の目的 高等学校レベルのしばしば断片的な世界史、日本史、政治経済等の知識を、まとまりある活用可能なものに発展させる。

学習の到達目標

研究に基づいて歴史が書かれていることを知る。

研究の発展が歴史観を変えることを、先端的な研究を通じて体得する。

一つの事柄になぜ複数の解釈や見方があるのかを知る。

歴史上の出来事や人物について、世間には誤ったイメージが流布していることに気付く。

歴史というものは残念なことに、イデオロギーや政治的意図によって歪曲されることもあることを認識する。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件

①本授業のテーマに関心を抱いていること。

授業計画・学習の内容

キーワード 君主制、立憲主義

学習内容

第1回 セミナーの運営方針等についての説明、受講者認定

②高等学校における日本史、世界史、政治経済、現代社会等の社会科関係科目に関する総合的知識の有無が受講の難易を左右することが多いかもしれない。この点で不安のある学生は必要な努力を惜しまないこと。

③初回の授業に出席すること。

発展科目 歴史学や社会科学系(政治学、法学、経済学など)の諸科目。

教科書

テキストの候補を以下に挙げておく。

Kaiser Wilhelm II .New Interpretations, 2005

Vernon Bogdanor, The Monarchy and the Constitution, 1995

伊藤之雄『明治天皇』ミネルヴァ書房

原武史『大正天皇』朝日新聞社

古川隆久『大正天皇』吉川弘文館

牧原憲夫『民権と憲法』岩波新書

古川隆久『昭和天皇』中公新書

伊藤之雄『昭和天皇伝』文藝春秋

加藤陽子『昭和天皇と戦争の世紀』講談社、など。

成績評価方法と基準

発表点6割、発言点4割。

発表の水準が十分でない場合にはレポート提出等を追加的に課す。

授業改善への工夫 セミナー参加者の学習状況(基礎知識の水準、知的志向など)に配慮すると共に、できる限り要望を取り込んでいきたい。

その他 指定したテキスト等は必ず入手すること。

人数が多数の場合は小レポート・抽選等の手段で選抜するので、受講を希望する者は必ず出席すること。受講認定を受けていない場合、履修登録をしても単位を付与する対象とはならない。

第2回 セミナーのテーマ、及び文献について紹介。参加者の関心等も顧慮しつつ、研究テーマの分担を行うとともに、第3回以降数回分について研究報告の担当者を決定する。

第3回～第15回 指定した文献を題材として担当者が報告を行い、それに基づいて参加者全員で議論する。

学習課題（予習・復習）

1.各グループまたは個人は研究テーマに関する文献・資料等を入念に調べるなどして、質問や議論に対応できるよう、報告のための十分な準備をすること。

2.報告の際には必ずレジюме(報告内容に関する要約)を作成して参加者に配布すること。

3.報告担当者以外の受講者は、必ず予習をした上で議論に参加しなければならない。

国際理解特殊講義 (文化の意義を考え直す)

Special course for international understanding

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 ○グットマンティエリー (人文学部)、江成 幸 (人文学部)、吉田 悦子 (人文学部)、グットマン 佳子、生田 ゆき (三重県立美術館)、小澤 毅 (人文学部)、北川 真也 (人文学部)、相澤 康隆 (人文学部)、古瀬 啓之 (人文学部)、岩本 美砂子 (人文学部)、吉野 由起 (人文学部)、深井 英喜 (人文学部)、藤田 伸也 (人文学部)

授業の概要 「法律」、「政治」、「経済」等と比べて「文化」という概念は非常に漠然としたものである。なぜなら「文化」としてみなされるモノは人によって様々であるからだ。この授業のために次の最小定義をしておこう。文化というのは、人間が集団で作り上げてきた生活方式、システム、価値体系、信仰、芸術である。そして、「文化の意義」を考える、つまり、「人間はなぜ文化を形成するのか」という素朴な疑問がこの授業の各講義の共通の出発点である。様々な分野の観点から数多くの世界中の具体例を通じてそれぞれに特有の文化の意義を考え直す作業を行う。

学習の目的 文化の様々な形に気づき、文化の意義を改めて認識することを目標にする。

学習の到達目標 文化の意義についてレポート等を書けるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、幅広い教養、情報発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

授業計画・学習の内容

キーワード 比較文化 文化の意義

Key Word(s) comparative culture, the meaning of culture

学習内容

1. 「美術における日本的とは何か」藤田伸也
2. 「おとぎ話の「発見」：ロマン派期イギリスにおける民話の位置」吉野 由起
3. 「日本文化とジェンダー」岩本美砂子

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 教科書はありません。

参考書 必要に応じて担当者がプリント等を配布します。

成績評価方法と基準

レポート60% (30%×2)、平常点40%

○受講者は特に興味を持った講義2つを選び、レポートを作成する。レポートのテーマ、書式等については、各担当講師が講義の際に指示します。担当者からレポートの分量の指示がない場合は、2000字程度とします。

○この授業では様々な講師を招き、いろいろな分野の講義を聴いて、学生諸君の視野を広げてもらうことを目標にしています。ですから成績は平常点を重視します。

オフィスアワー 毎週の木曜日14:40～16:10、GUTHMANN研究室(人文学部校舎3階)

授業改善への工夫 FD(Faculty Development)プログラム、学生の授業評価アンケートの結果を参考にし、常に改善に努めている。

4. 「考古遺物が語る文化交流」小澤 毅
5. 「もうひとつのジャポニスム 型紙とモダンデザイン」生田ゆき
6. 「結婚、文化の結合あるいは衝突」グットマン 佳子
7. 「文化交流と国家間関係」古瀬 啓之
8. 「地中海の「歓待」文化？—イタリアの境界地帯における移民の受入／排除」北川真也
9. 「文化相対主義の思想」相澤 康隆
10. 「アメリカの越境文化—メキシコ系移民

による芸術表現」江成 幸

11. 「職場のディスコースから探る異文化間コミュニケーションの課題」吉田 悦子

12. 「福祉国家レジームと文化」深井英喜

13. 「日本人論における比較文化：集団アイデンティティの形成」

グットマン・ティエリー

国際理解特殊講義 (植民地主義について)

Special Studies on International Understanding

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 植民地主義の問題を幅広い射程から捉えるため、イギリス、オーストラリア、フランスといった地域を中心に植民地政策のあり方を考察し、植民地主義の全体像について把握していく。特に本授業では、西洋諸国の介入を受けた被抑圧者側の視点に注目していきたい。例えばオーストラリアの植民地主義について考察していく場合、宗主国であるイギリス政府の植民地主義政策を概観しつつも、オーストラリアの先住民であるアボリジナルの人々に注目し、彼らの目線からみた植民地主義について考えていく。加えて、フランツ・ファノン、チャールズ・ディケンズ、ジョゼフ・コンラッドなど植民地の経験を書き残した人々の著作活動にも触れ、個々人が植民地主義をどのように経験していったのかに注目していきたい。

学習の目的

- ・現代のグローバル社会で起きている国家間や民族間の争いが、植民地主義時代に端を発するものも少なくないことを理解できる。
- ・西洋の植民地主義に介入を受けた非西洋諸国の人々が、未だに植民地主義時代に構造化された西洋中心の支配体制に影響を受けていることを学ぶことで、過去と現在の連続的な歴史背景を学ぶ。

授業計画・学習の内容

キーワード 植民地主義、抑圧者と被抑圧者、植民地主義下における被抑圧者たちの経験と記憶

Key Word(s) Colonialism, Coloniser and Colonised, local experiences and memories to be governed by the Western Other

学習内容

講義と演習

第1回 講義：植民地主義についての概説を講義形式でおこなう

第2回 演習：イギリスの植民地主義政策につい

学習の到達目標

- ・地域によって様々に異なる植民地主義政策ではあるが、幾つかの共通点があることを理解する。
- ・異文化の他者を従属させてきた西洋諸国の支配の仕組みを批判的に分析することができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は強く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日 11:00~12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば演習中に読む著作を変更するなど柔軟に対処していきたい。

て関連資料を読む

第3回 演習：イギリスの植民地主義政策について関連資料を読む

第4回 演習：ジョゼフ・コンラッドの『闇の奥』を読む

第5回 演習：関連映像資料をみる（映画『ガンジー』）

第6回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』などを読む1

第7回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』な

どを読む2

第8回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』などを読む3

第9回 演習：チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』を読む

第10回 演習：関連映像資料をみる（『裸足の1500マイル』）

第11回 演習：平野千果子の『フランス植民地主義の歴史』を読む

第12回 演習：フランツ・ファノンの『黒い皮膚・白い仮面』を読む

第13回 演習：今福龍太の『クレオール主義』を読む

第14回 演習：関連映像資料をみる（『遠い夜明け』）

第15回 講義：全体のまとめを講義形式でおこなう

学習課題（予習・復習）

- ・授業中に書き取ったノートを帰宅後に復習すること。
- ・次の授業で読む本を自宅で熟読してこること。

国際理解特殊講義 (植民地主義について)

Special Studies on International Understanding

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 前川 真裕子 (人文学部)

授業の概要 植民地主義の問題を幅広い射程から捉えるため、イギリス、オーストラリア、フランスといった地域を中心に植民地政策のあり方を考察し、植民地主義の全体像について把握していく。特に本授業では、西洋諸国の介入を受けた被抑圧者側の視点に注目していきたい。例えばオーストラリアの植民地主義について考察していく場合、宗主国であるイギリス政府の植民地主義政策を概観しつつも、オーストラリアの先住民であるアボリジナルの人々に注目し、彼らの目線からみた植民地主義について考えていく。加えて、フランツ・ファノン、チャールズ・ディケンズ、ジョゼフ・コンラッドなど植民地の経験を書き残した人々の著作活動にも触れ、個々人が植民地主義をどのように経験していったのかに注目していきたい。

学習の目的

- ・現代のグローバル社会で起きている国家間や民族間の争いが、植民地主義時代に端を発するものも少なくないことを理解できる。
- ・西洋の植民地主義に介入を受けた非西洋諸国の人々が、未だに植民地主義時代に構造化された西洋中心の支配体制に影響を受けていることを学ぶことで、過去と現在の連続的な歴史背景を学ぶ。

授業計画・学習の内容

キーワード 植民地主義、抑圧者と被抑圧者、植民地主義下における被抑圧者たちの経験と記憶

Key Word(s) Colonialism, Coloniser and Colonised, local experiences and memories to be governed by the Western Other

学習内容

講義と演習

第1回 講義：植民地主義についての概説を講義形式でおこなう

第2回 演習：イギリスの植民地主義政策について

学習の到達目標

- ・地域によって様々に異なる植民地主義政策ではあるが、幾つかの共通点があることを理解する。
- ・異文化の他者を従属させてきた西洋諸国の支配の仕組みを批判的に分析することができる。

本学教育目標との関連 感性、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 私語は強く禁ずる

教科書 毎回の授業で指示する

参考書 毎回の授業で指示する

成績評価方法と基準

期末レポート100%

オフィスアワー

毎週水曜日 11:00~12:00

場所：初回授業で指示する

授業改善への工夫 学生たちの積極的な参加を期待したいので、彼らの希望があれば演習中に読む著作を変更するなど柔軟に対処していきたい。

て関連資料を読む

第3回 演習：イギリスの植民地主義政策について関連資料を読む

第4回 演習：ジョゼフ・コンラッドの『闇の奥』を読む

第5回 演習：関連映像資料をみる（映画『ガンジー』）

第6回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』などを読む1

第7回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』な

どを読む2

第8回 演習：豪州の植民地主義について青山晴美の『アボリジニで読むオーストラリア』などを読む3

第9回 演習：チャールズ・ディケンズの『大いなる遺産』を読む

第10回 演習：関連映像資料をみる（『裸足の1500マイル』）

第11回 演習：平野千果子の『フランス植民地主義の歴史』を読む

第12回 演習：フランツ・ファノンの『黒い皮膚・白い仮面』を読む

第13回 演習：今福龍太の『クレオール主義』を読む

第14回 演習：関連映像資料をみる（『遠い夜明け』）

第15回 講義：全体のまとめを講義形式でおこなう

学習課題（予習・復習）

- ・授業中に書き取ったノートを帰宅後に復習すること。
- ・次の授業で読む本を自宅で熟読してこること。

国際理解特殊講義 (異文化理解A)

Lecture Course in International Understanding

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山根 裕子 (非常勤講師)

授業の概要

異文化間コミュニケーションの理解を深めながら、国際性を高め、各々の分野で社会貢献していく為の基礎作りをサポートします。
(定員15名)

While increasing the understanding of cross-cultural communication, the class will provide the foundation for international perspective and social contribution. (Maximum 15 students)

学習の目的

- 1) 異文化間コミュニケーションの理解を深める
- 2) ディスカッションを通して国際的な視野を広げる
- 3) 英語能力を高める
- 4) 国際交流や異文化理解を促進する。

- 1) increase the understanding of cross-cultural communication
- 2) broaden international perspective
- 3) increase English competency
- 4) increase international relationship and cross-cultural understanding.

学習の到達目標

- 1) 異文化間コミュニケーションの理解が深まる
- 2) ディスカッションを通して国際的な視野が広がる
- 3) 英語能力が高まる
- 4) 国際交流や異文化理解が高まる。

- 1) The understanding of cross-cultural communication will be increased
- 2) international perspective will be broadened
- 3) English competency will be increased
- 4) International relationship and cross-cultural understanding will be increased.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

基本的な英語能力, または予習・復習などを通して学習する意欲

Basic English competency or intention to study through preparation and review

予め履修が望ましい科目

英語授業

English language courses

教科書

教科書はとくに指定しない。ビデオ、各種配布資料を活用する。

No textbook. Videos and handouts are used.

参考書

異文化コミュニケーションに関する参考資料
Information and handouts related to cross-cultural communication

成績評価方法と基準

口頭発表50%、積極的参加50%

Evaluation: Oral Presentation 50%; Active Participation 50%

授業改善への工夫

英語での授業がスムーズにいくように、学生の英語能力のサポートを心がけ、ビデオやスライドなども使って、学生のトピックに関する興味と学習意欲を高める工夫をする。

Instructor will make an effort to improve students' English competency and increase their interests and learning through use of video and slides.

授業計画・学習の内容

キーワード

異文化間コミュニケーション, 異文化理解、国際感覚, 社会貢献

Cross-cultural communication, Cross-cultural understanding, International perspective, Social contribution

学習内容

第1回 世界における言語集団の分布とその文化：Distribution of linguistic family and culture in the world

第2回 アマゾンの森にすむヤノマミ族に関する映像鑑賞：Video of Yanomami people who are living in deep forest of Amazon

第3回 日本あるいは日本人とは何か？日本史の略史：What is Japan or Japanese? Brief history of Japan

第4回 タンザニアの山地農業と文化1：Agriculture and Culture of the Mountainous region of Tanzania1

第5回 タンザニアの山地農業と文化2：Agriculture and Culture of the Mountainous region in Tanzania2

第6回 世界のフードシステムの現状：Current situation food system in the world

第7回 ケニアの牧畜民の文化：Culture of the pastoralist in Kenya

第8回 東南アジアの歴史と生活：History and livinghood of South east asia

第9回 北アメリカに関する映像鑑賞：Video of North America

第10回 南米の歴史と生活（インカ文明を中心に）：History and livinghood of South America (Mainly Inca civilization)

第11回 市場経済と金融経済のグローバル化：Globalization of capitalism and financial economy

第12回 文明崩壊—過去の社会—：Collapse of Society -Ancient society-

第13回 文明崩壊—現在の社会—：Collapse of Society -Modern society-

第14回 世界史の構造：Structure of world history

第15回 平等とは何か？：What is Equality?

第16回 レポート執筆：Report writing

国際理解特殊講義 (異文化理解B)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習

担当教員 山根 裕子 (非常勤講師)

授業の概要

異文化間コミュニケーションの理解を深めながら、国際性を高め、各々の分野で社会貢献していく為の基礎作りをサポートします。(定員15名)

While increasing the understanding of cross-cultural communication, the class will provide the foundation for international perspective and social contribution.(Maximum 15 students)

学習の目的

- 1) 異文化間コミュニケーションの理解を深める
- 2) ディスカッションを通して国際的な視野を広げる
- 3) 英語能力を高める
- 4) 国際交流や異文化理解を促進する。

- 1) increase the understanding of cross-cultural communication
- 2) broaden international perspective
- 3) increase English competency
- 4) increase international relationship and cross-cultural understanding.

学習の到達目標

- 1) 異文化間コミュニケーションの理解が深まる
- 2) ディスカッションを通して国際的な視野が広がる
- 3) 英語能力が高まる
- 4) 国際交流や異文化理解が高まる。

- 1) The understanding of cross-cultural communication will be increased
- 2) international perspective will be broadened
- 3) English competency will be increased
- 4) International relationship and cross-cultural understanding will be increased.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モ

チベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

基本的な英語能力, または予習・復習などを通して学習する意欲

Basic English competency or intention to study through preparation and review

予め履修が望ましい科目

英語授業
English language courses

教科書

教科書はとくに指定しない。ビデオ、各種配布資料を活用する。

No textbook. Videos and handouts are used.

参考書

異文化間コミュニケーションにかんする参考資料

Information and handouts related to cross-cultural communication

成績評価方法と基準

口頭発表50%、積極的参加50%

Evaluation: Oral Presentation 50%; Active Participation 50%

授業改善への工夫

英語での授業がスムーズにいくように、学生の英語能力のサポートを心がけ、ビデオやスライドなども使って、学生のトピックに関する興味と学習意欲を高める工夫をする。

Instructor will make an effort to improve students' English competency and increase their interests and learning through use of video and slides

授業計画・学習の内容

キーワード

異文化間コミュニケーション, 異文化理解、国際感覚, 社会貢献

Cross-cultural communication, Cross-cultural understanding, International perspective, Social contribution

学習内容

第1回 世界における言語集団の分布とその文化：Distribution of linguistic family and culture in the world

第2回 アマゾンの森にすむヤノマミ族に関する映像鑑賞：Video of Yanomami people who are living in deep forest of Amazon

第3回 日本あるいは日本人とは何か？日本史の略史：What is Japan or Japanese? Brief history of Japan

第4回 タンザニアの山地農業と文化1：Agriculture and Culture of the Mountainous region of Tanzania1

第5回 タンザニアの山地農業と文化2：Agriculture and Culture of the Mountainous region in Tanzania2

第6回 世界のフードシステムの現状：Current situation food system in the world

第7回 ケニアの牧畜民の文化：Culture of the pastoralist in Kenya

第8回 東南アジアの歴史と生活：History and livinghood of South east asia

第9回 北アメリカに関する映像鑑賞：Video of North America

第10回 南米の歴史と生活（インカ文明を中心に）：History and livinghood of South America (Mainly Inca civilization)

第11回 市場経済と金融経済のグローバル化：Globalization of capitalism and financial economy

第12回 文明崩壊—過去の社会—：Collapse of Society -Ancient society-

第13回 文明崩壊—現在の社会—：Collapse of Society -Modern society-

第14回 世界史の構造：Structure of world history

第15回 平等とは何か？：What is Equality?

第16回 レポート執筆：Report writing

国際理解特殊講義 (世界遺産と私たちA)

Lecture Course in International Understanding

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 ブライアン・ジェームス・マホニー

授業の概要 To introduce, explore and reflect upon the many Wonders, both natural and made-made, that exist around our world.

学習の目的 This course will introduce the student to several amazing wonders, some natural, some man-made, around our world and focus on understanding key points of interest associated with each of these wonders. The importance of these wonders in our world and also the threats that these wonders face will be examined and discussed at length.

学習の到達目標 For students to develop a greater awareness and appreciation for each of these World Wonders. To gain a better understanding of the vital roles that each has played throughout our histories, and to appreciate their importance in our present lives.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 This is an English content class and therefore a strong background in English writing, reading and communication is necessary. For Japanese students an above average score of at least 600 on the TOEIC test or similar test(s) is necessary. Overseas study and/or international exchange experience is also a plus.

発展科目 With a committed effort, students will gain a better understanding of many key

natural and man-made wonders around our world. Reflecting on the past and present circumstances surrounding these various wonders, students will be encouraged to explore global issues in relation to the wonders in our world. Extensive reading, film and documentary, oral presentation and written essay will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English.

教科書 (Details will be given in our class introduction). English dictionary/thesaurus is required. A4 size notebook is also necessary for note taking. Additional materials will be provided by the instructor.

参考書 Documentary and Film: Several titles throughout the course will be presented in order to provide additional support to subject matter. These films will be shown in English/Japanese with English/Japanese subtitles. Titles to be shown include, "River at Risk: Grand Canyon Adventure", "Antonio Gaudi", amongst others.

成績評価方法と基準 Participation/Final Work Assignment 50%. Two Homework Assignments 25% each. Interested students please note-Class begins on Day One.

オフィスアワー Friday after class: 12:00 ~12:30.

その他 Please note that a short essay may be required prior to official acceptance into this class.

授業計画・学習の内容

キーワード 世界遺産、保存、修復、芸術、神話

Key Word(s) World Heritage, Preservation, Restoration, Art and Myth

学習内容

Week 1, 2, 3 - Class Introduction: "Grand Canyon Adventure." River at risk. The Grand Canyon and Colorado River. Arizona State, the United States.

Week 4, 5 – “Petra- city of pink stone.” Forgotten for over a thousand years. Jordan, Middle East.

Week 6, 7, 8 – “The Serengeti Migration.” Dangerous journey. Kenya & Tanzania, East Africa.

Week 9, 10, 11 – “Angkor Wat.” Rainforest tem-

ple. Cambodia, Southeast Asia.

Week 12, 13, 14 – “The Iguazu Falls.” Heavenly waterfalls. Brazil & Argentina, South America.

Week 15, 16– “Chichen Itza.” Sunset snake. Southern Mexico. Central America.

国際理解特殊講義 (世界遺産と私たちB)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 ブライアン・ジェームス・マホニー

授業の概要 To introduce, explore and reflect upon the many Wonders, both natural and made-made, that exist around our world.

学習の目的 This course will introduce the student to several amazing wonders, some natural, some man-made, around our world and focus on understanding key points of interest associated with each of these wonders. The importance of these wonders in our world and also the threats that these wonders face will be examined and discussed at length.

学習の到達目標 For students to develop a greater awareness and appreciation for each of these World Wonders. To gain a better understanding of the vital roles that each has played throughout our histories, and to appreciate their importance in our present lives.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 This is an English content class and therefore a strong background in English writing, reading and communication is necessary. For Japanese students an above average score of at least 600 on the TOEIC test or similar test(s) is necessary. Overseas study and/or international exchange experience is also a plus.

発展科目 With a committed effort, students will gain a better understanding of many key

natural and man-made wonders around our world. Reflecting on the past and present circumstances surrounding these various wonders, students will be encouraged to explore global issues in relation to the wonders in our world. Extensive reading, film and documentary, oral presentation and written essay will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English.

教科書 (Details will be given in our class introduction). English dictionary/thesaurus is required. A4 size notebook is also necessary for note taking. Additional materials will be provided by the instructor.

参考書 Documentary and Film: Several titles throughout the course will be presented in order to provide additional support to subject matter. These films will be shown in English/Japanese with English/Japanese subtitles. Titles to be shown include, "River at Risk: Grand Canyon Adventure", "Antonio Gaudi", amongst others.

成績評価方法と基準 Participation/Final Work Assignment 50%. Two Homework Assignments 25% each. Interested students please note-Class begins on Day One.

オフィスアワー Friday after class: 12:00 ~12:30.

その他 Please note that a short essay may be required prior to official acceptance into this class.

授業計画・学習の内容

キーワード 世界遺産、保存、修復、芸術、神話

Key Word(s) World Heritage, Preservation, Restoration, Art and Myth

学習内容

Week 1, 2, 3 - Class Introduction: "Grand Canyon Adventure." River at risk. The Grand Canyon and Colorado River. Arizona State, the United States.

Week 4, 5 –“The Alhambra.” Court of Lions.
Granada, Spain.

Week 6, 7, 8 –“The Lights of the Aurora.” North-
ern and Southern lights.Northern and South-
ern Hemisphere.

Week 9, 10, 11 – “Kyoto, Japan.” Moss gardens

& wooden temples.Kyoto & Nara, Japan.

Week 12, 13, 14 – “The Great Barrier Reef.”
Coral reef islands.Australia.

Week 15, 16– “Qin’s Last Army.” Secrets under-
ground.China.

国際理解特殊講義 (国際協力入門)

Lecture Course in International Understanding

学期 前期 **開講時間** 水 7, 8 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○・国際交流センター長, 長縄真吾(国際交流センター特任准教授), JICA職員他の招聘講師 (オムニバス形式)

授業の概要 JICA (独立行政法人国際協力機構) との連携講座。国際協力の現場に様々な立場で関わる実務者や教員によりオムニバス形式で講義を行う。国際協力の最前線での活動・体験談を通して、開発途上国の開発問題についてグローバルな視野を得るとともに、自身のキャリア形成への気づきを得ることを目的とする。

学習の目的

- ・貧困、環境、感染症、平和構築等のグローバル 이슈と途上国の開発問題について基本的な知識を得る。
- ・日本および国際社会の様々なアクター (政府、市民社会、民間企業、国際機関、NGO 等) による国際協力の取り組みについて理解する。
- ・国際協力の最前線で取り組む実務者による体験談を通して、国際協力や国際ボランティアに取り組むためのきっかけを得る。

学習の到達目標 ・上記「学習の目的」を通じて、国際協力をめぐるイシューについて、自分自身の意見を持ち、グローバル社会の一

員としての見識と行動力を持つ。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、幅広い教養、課題探求力、批判的思考力、情報受信能力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 地域学：海外体験実習ベトナム

参考書 国際協力 (新版) ～その新しい潮流 (下村恭民他、著)

成績評価方法と基準 レポート50%、振り返りシート30%、授業での発言等参加姿勢20%

オフィスアワー 長縄 真吾 月～金 10:00～18:00 場所：総合研究棟II 2F 国際交流チーム事務室内 (事前の連絡が望ましい)

授業改善への工夫 質疑応答や学生同士のディスカッションの機会を複数回設け、能動的な授業を行います。

授業計画・学習の内容

キーワード 国際協力、ODA、NGO、国際ボランティア、開発途上国、地球規模課題

Key Word(s) International Cooperation, ODA(Official Development Assistance)、NGO (Non-Governmental Organization)、Overseas Volunteer, Developing Countries, Global Issues

学習内容

JICA、NGO、青年海外協力隊、民間企業、大学教員等さまざまな立場で国際協力に関わってきた専門家・実務者を招いてオムニバス形式による授業を行う。

- 1.国際協力概論、三重大学による国際協力の取り組み
- 2.国際保健医療
- 3.貧困問題、ジェンダーとミレニアム開発目標
- 4.①国際協力の仕事とキャリア形成、②南スーダンでの国造り
- 5.インドネシアにおける日本のODA
- 6.①ODAと民間企業、②対中国ODA～環境分野を事例に
- 7.防災分野における国際協力
- 8.中間グループディスカッション
- 9.民間企業による国際協力～コロンビアの森林環境保全

- 10.NGOによる国際協力～ウガンダ北部の元子供兵社会復帰支援支援
- 11.世にもユニークな国・ブータン～幸せの国に学ぶ
- 12.多文化共生と在住外国人
- 13.コミュニティ開発・参加型開発
- 14.JICA青年海外協力隊参加者による体験談

- 15.演習・ディスカッション
(上記の他、希望者のみJICA中部なごや地球ひろば（於：名古屋市）への訪問を6月10日（土）に予定)

学習課題（予習・復習） 必要に応じ、各講義の前週に事前に読むべき資料を配布予定。

国際理解特殊講義 (英語論文作成演習A)

Lecture Course in International Understanding

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 フロイド・マクダニエル (非常勤講師)

授業の概要 The goal is to write a research and/or thesis paper suitable for submission at a foreign university or international seminar.

学習の目的 I aim to teach students more than just creating a paper written in English, but rather one written in a style suitable for an American or other English speaking university. We will incorporate the format, style, logic, research, opinion v. fact, and other elements necessary, and which may be different from traditional Japanese research papers.

学習の到達目標 Upon completing the course, students should (a) grasp understand one method for writing and revising a research paper appropriate in English, and (b) have a completed research paper which may become part of the student's portfolio or writing samples.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2010 was the first year that this class was offered. Since then, I have taught the topic at least 9 times. I have become comfortable teaching it and I will now vary the speed and contents of the course to better suit the average level of student in the immediate semester. However, this is always a high level English course and will be taught AND discussed in English only.

予め履修が望ましい科目 I do not know of

any course at Mie University which is similar to this one. Therefore, let me say this again: students MUST have a VERY high level of English listening and writing ability before even considering this class. It is taught 100% in English, at American university level and speed.

教科書 "Basic Steps to Writing Research Papers" by: David E. Kluge and Matthew A. Taylor, CENGAGE Learning ISBN 978-4-902902-89-1

参考書 Any other materials which I use will be distributed during class. Students will be responsible for their own research outside the textbook and other classroom materials.

成績評価方法と基準 Grading will be based primarily on the finished paper and the effort put forth by the student during the semester. Students are EXPECTED to attend every class. If the student must miss class, they will need to get the day's notes and assignment from another student.

オフィスアワー As I am a part-time instructor at Mie University, I do not maintain any office hours. However, I can be contacted readily through electronic media. The appropriate means will be discussed in class.

その他 We will begin working on writing research papers on WEEK ONE. Therefore, any student who wishes to join this class must begin on WEEK ONE, not week two or week three. Students should be in this class prepared to work *immediately*. If you do, you can learn and accomplish a lot. If you do not intend to work, please do NOT take this class.

授業計画・学習の内容

学习内容

Week 1 - Deciding general topics, differences between "laboratory research papers" and "library research papers"

Week 2 - Narrowing your topic, defining what a good topic is, as well as a topic narrow enough to cover in the paper

Week 3 - Writing a thesis statement and beginning a working outline

Week 4 - Revising thesis statement and outline

Week 5 - Essay spelling, typing and formatting. Appropriate word choices for research papers.

Week 6 - First series of individual meetings with the teacher

Week 7 - Introducing "the first draft" and writing an introduction.

Week 8 - Revising the introduction

Week 9 - Writing the body. Using solid support, accuracy and logic.

Week 10 - Revising the body - transitions and grammar.

Week 11 - Writing the conclusion

Week 12 - Second meeting with the teacher, first detailed peer review of first draft

Week 13 - Review of completed first draft with the teacher, initial peer review and feedback from students.

Week 14 - Checking for plagiarism, writing the bibliography.

Week 15 - Final meetings with teacher and final peer reviews.

Week 16 - Submission of the final draft to the teacher.

(This schedule will always change slightly depending upon the number of students in class, their abilities, and the variety of subjects being written about. Please view this syllabus as a general outline. There will be variations.)

国際理解特殊講義 (英語論文作成演習B)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 フロイド・マクダニエル (非常勤講師)

授業の概要 The goal is to write a research and/or thesis paper suitable for submission at a foreign university or international seminar.

学習の目的 I aim to teach students more than just creating a paper written in English, but rather one written in a style suitable for an American or other English speaking university. We will incorporate the format, style, logic, research, opinion v. fact, and other elements necessary, and which may be different from traditional Japanese research papers.

学習の到達目標 Upon completing the course, students should (a) grasp understand one method for writing and revising a research paper appropriate in English, and (b) have a completed research paper which may become part of the student's portfolio or writing samples.

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2010 was the first year that this class was offered. Since then, I have taught the topic at least 9 times. I have become comfortable teaching it and I will now vary the speed and contents of the course to better suit the average level of student in the immediate semester. However, this is always a high level English course and will be taught AND discussed in English only.

予め履修が望ましい科目 I do not know of

any course at Mie University which is similar to this one. Therefore, let me say this again: students MUST have a VERY high level of English listening and writing ability before even considering this class. It is taught 100% in English, and the English is American university level and speed.

教科書 "Basic Steps to Writing Research Papers" by: David E. Kluge and Matthew A. Taylor, CENGAGE Learning ISBN 978-4-902902-89-1

参考書 Any other materials which I use will be distributed during class. Students will be responsible for their own research outside the textbook and other classroom materials.

成績評価方法と基準 Grading will be based primarily on the finished paper and the effort put forth by the student during the semester. Students are EXPECTED to attend every class. If the student must miss class, they will need to get the day's notes and assignment from another student.

オフィスアワー As I am a part-time instructor at Mie University, I do not maintain any office hours. However, I can be contacted readily through electronic media. The appropriate means will be discussed in class.

その他 We will begin working on writing research papers on WEEK ONE. Therefore, any student who wishes to join this class must begin on WEEK ONE, not week two or week three. Students should be in this class prepared to work *immediately*. If you do, you can learn and accomplish a lot. If you do not intend to work, please do NOT take this class.

授業計画・学習の内容

学习内容

Week 1 - Deciding general topics, differences between "laboratory research papers" and "library research papers"

Week 2 - Narrowing your topic, defining what a good topic is, as well as a topic narrow enough to cover in the paper

Week 3 - Writing a thesis statement and beginning a working outline

Week 4 - Revising thesis statement and outline

Week 5 - Essay spelling, typing and formatting. Appropriate word choices for research papers.

Week 6 - First series of individual meetings with the teacher

Week 7 - Introducing "the first draft" and writing an introduction.

Week 8 - Revising the introduction

Week 9 - Writing the body. Using solid support, accuracy and logic.

Week 10 - Revising the body - transitions and grammar.

Week 11 - Writing the conclusion

Week 12 - Second meeting with the teacher, first detailed peer review of first draft

Week 13 - Review of completed first draft with the teacher, initial peer review and feedback from students.

Week 14 - Checking for plagiarism, writing the bibliography.

Week 15 - Final meetings with teacher and final peer reviews.

Week 16 - Submission of the final draft to the teacher.

(This schedule will always change slightly depending upon the number of students in class, their abilities, and the variety of subjects being written about. Please view this syllabus as a general outline. There will be variations.)

国際理解特殊講義 (言葉と科学入門 I)

Special Seminar in International Studies: Intro.to Science and the Meaning of Words I

学期 前期 **開講時間** 木 1, 2 **単位** 2 **対象** Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。 **授業の方法** 講義, 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 ポッフマイア ジャスティン

授業の概要

You will learn to analyze English vocabulary into component parts based on the structure of the words themselves, and to understand the basic meaning of new vocabulary without the need of a dictionary. You will also learn why English words are spelled the way they are.

英語の語彙をそれぞれの構造によって部分に分析し、辞書要らずに新しい語彙の基本的な意味を理解することを学ぶ。その上、英語の言葉のスペルの故も学ぶ。

学習の目的

- ・ Acquire skills to analyze words into separate affixes and stems
- ・ Know the meanings of various affixes and stems
- ・ Understand the linguistic processes that synthesize affixes and stems into words
- ・ Gain insight into the historical and socio-political circumstances that influence language and orthography
- ・ 言葉を接辞と語幹に分析するスキルを習得する
- ・ 様々な接辞と語幹の意味を習う
- ・ 言葉に接辞と語幹を統合する言語の __ を理解する
- ・ 言語と字方を影響する歴史的で社会的な情勢に眼力を達成する

学習の到達目標

- ・ Understand new (scientific) words without needing a dictionary
- ・ Deepen your understanding of the meanings of words
- ・ Improve your English spelling
- ・ Learn how to make new terms
- ・ 辞書要らずに新しい(科学的な)語彙の意味を理解する
- ・ 言葉の意味を深める

- ・ 英語のスペル能力を磨く
- ・ 新しい(専門)単語の作り方を学ぶ

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

発展科目

- ・ Special Seminar in International Studies: Intro.to the Science and the Meaning of Words II
- ・ Intro.to Linguistics II
- ・ 国際理解特殊講義：言葉と科学入門 II
- ・ 言語学入門 II

教科書

Denning, Keith and Brett Kessler.2007.English Vocabulary Elements.Oxford University Press. ISBN: 0195168038 ISBN-13: 978-0195168037

成績評価方法と基準

Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and an in-class final exam.

成績評価は、講義準備 (宿題等)、講義中の態度 (グループ活動への取り組み姿勢等) と最終試験による。

オフィスアワー

By appointment.
予約を取ること。

その他

All readings and classroom instruction are con-

ducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、言語語学、分析、形態論、音韻論、医学語彙、科学語彙、言葉の歴史

Key Word(s) English, linguistics, analysis, morphology, phonology, medical terminology, scientific terminology, history of words

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2: The Wealth of English

Session 3-4: History of English and Sources of English Vocabulary

Session 5-7: Morphology

Session 8-10: Phonetics

Session 11-12: Phonology and Allomorphy

Session 13-14: Regular Allomorphy

Session 15: Final Test

The above schedule is subject to change dependent upon students' needs.

第一回：紹介

第二回：英語の

第三～四回：英語の歴史と英語語彙の原因

第五～七回：形態論

第八～十回：音声学

第十一～十二回：音韻論と異形態

第十一～十二回：正規異形態

第十五回：最終試験

学生のニーズによって計画が変わる可能性がある。

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する。

国際理解特殊講義 (言葉と科学入門II)

Special Seminar in International Studies: Intro.to Science and the Meaning of Words II

学期 後期 **開講時間** 火7,8 **単位** 2 **対象** Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。 **授業の方法** 講義, 演習

授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 ポッフマイア ジャスティン

授業の概要

You will learn to analyze English vocabulary into component parts based on the structure of the words themselves, and to understand the basic meaning of new vocabulary without the need of a dictionary. You will also learn why English words are spelled the way they are.

英語の語彙をそれぞれの構造によって部分に分析し、辞書要らずに新しい語彙の基本的な意味を理解することを学ぶ。その上、英語の言葉のスペルの故も学ぶ。

学習の目的

- ・ Acquire skills to analyze words into separate affixes and stems
- ・ Know the meanings of various affixes and stems
- ・ Understand the linguistic processes that synthesize affixes and stems into words
- ・ Gain insight into the historical and socio-political circumstances that influence language and orthography
- ・ 言葉を接辞と語幹に分析するスキルを習得する
- ・ 様々な接辞と語幹の意味を習う
- ・ 言葉に接辞と語幹を統合する言語の__を理解する
- ・ 言語と字方を影響する歴史的で社会的な情勢に眼力を達成する

学習の到達目標

- ・ Understand new (scientific) words without needing a dictionary
- ・ Deepen your understanding of the meanings of words
- ・ Improve your English spelling
- ・ Learn how to make new terms
- ・ 辞書要らずに新しい(科学的な)語彙の意味を理解する

- ・ 言葉の意味を深める
- ・ 英語のスペル能力を磨く
- ・ 新しい(専門)単語の作り方を学ぶ

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

Students with a score of 600 or higher on the TOEIC are preferred, though it is possible for students with less than 600 to also attend. TOEIC600点以上の学生が望ましい。但し、600点以下の学生も受講する可能性がある。

教科書

Denning, Keith and Brett Kessler.2007.English Vocabulary Elements.Oxford University Press. ISBN: 0195168038 ISBN-13: 978-0195168037

成績評価方法と基準

Evaluation is by class preparation (homework, etc.), in-class participation (active participation in group work, etc.), and an in-class final exam.

成績評価は、講義準備(宿題等)、講義中の態度(グループ活動への取り組み姿勢等)と最終試験による。

オフィスアワー

By appointment.
予約を取ること。

その他

All readings and classroom instruction are conducted in English.

読み物や講義中の活動は英語のみ。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語、言語語学、分析、形態論、音韻論、医学語彙、科学語彙、言葉の歴史

Key Word(s) English, linguistics, analysis, morphology, phonology, medical terminology, scientific terminology, history of words

学習内容

Session 1: Orientation

Session 2-4: Polysemy and Semantic Change

Session 5-7: Usage and Variation

Session 8-10: Latin and Greek Morphology

Session 11-12: Historical Linguistics of English and Indo-European

Session 13-14: Later Changes of English: Latin -> French -> English

Session 15: Final Test

The above schedule is subject to change dependent upon students' needs.

第一回：紹介

第二～四回：多意味と意味的な変化

第五～七回：使い方と変形

第八～十回：ラテン語、ギリシャ語の形態論

第十一～十二回：英語と印欧語族の歴史言語学

第十三～十四回：英語の後日談の変化：ラテン語→フランス語→英語

第十五回：最終試験

学生のニーズによって計画が変わる可能性がある。

学習課題（予習・復習）

Each session, homework due the following session will be assigned.

毎回、次回授業に向けての課題を設定する。

国際理解実践 (中国語・中国文化) Seminar in International Understanding

学期 後期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 実習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業

担当教員 宮地信弘 (教育学部)

授業の概要

天津師範大学 (中国天津市) において、2週間の語学学習と文化学習を実施します。

午前はレベル別に分かれた少人数クラスでの中国語授業に参加して中国語の運用能力の向上を目指します。

午後は中国の歴史・風土・文化に触れ、また、多くの中国人学生との交流を通して異文化に対する理解を深め、広い視野の獲得を目指します。

※天津師範大学での研修前の1月～2月に中国語基礎講座を行います。参加は必須です。

学習の目的 中国語と中国文化を共感的に理解する態度を修得し、広い国際的視野を獲得する。

学習の到達目標

日常の生活場面で中国語が使えるようになる。

中国での生活を通して中国の習慣・文化・考え方についての経験的知識を得る。

授業計画・学習の内容

キーワード 中国語・中国文化・異文化理解

Key Word(s) Chinese language, Chinese culture, Cross-cultural understanding

学習内容

研修前: 基礎中国語講座8時間程度

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 研修にかかわる諸費用の負担

予め履修が望ましい科目 中国語

成績評価方法と基準 事前の基礎講座を含めた出席、天津における中国語学習の成績、事後のレポートにより総合的に評価する。

オフィスアワー

担当予定教員のオフィスアワー

水曜日3-4限 (教育学部1号館: 宮地信弘研究室)

授業改善への工夫 研修実施後、受講生へのアンケート等により、適宜改善を加える。

その他 研修参加者が極端に少ない場合は中止になることもあります。

研修: 2016年3月中旬の2週間 (中国語および中国文化に関する研修)

研修後: レポート作成

※詳細は10月中旬に公示およびオリエンテーションで知らせます

国際理解実践 (海外英語研修A)

Seminar in International Understanding

学期 前期集中 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 2年次, 3年次, 4年次
授業の方法 講義, 演習 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業
担当教員 ○国際交流センター長、長縄 真吾 (国際交流センター特任准教授)

授業の概要

本授業は英語力の向上と海外滞在経験による国際的視野の醸成を目的とする海外語学研修である。豪州メルボルンのモナシュ大学にて4週間実施される。

This course aims to upgrade students' English competency and broaden their view on the global community. The training will be held for four weeks at Monash University, Melbourne, Australia.

学習の目的

本授業は英語力の向上と海外滞在経験による国際的視野の醸成を目的とする。

This course aims to upgrade students' English competency and broaden their views on the global community.

学習の到達目標

アカデミックスキルの習得、英語力の向上(特に会話とディスカッション)、国際的視野、異文化適応能力

Participants will acquire academic skills, improve communication skills in English (esp. conversation and discussion), broaden their views on the global community, and acquire ability to adopt themselves to different cultures.

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード オーストラリア、英語研修、アカデミックスキル、国際交流、ホームステイ

Key Word(s) Australia, English Training, Aca-

研修にかかる諸費用を負担すること(約50~60万円)

7~8月に実施する事前オリエンテーションにすべて出席が可能なこと。

予め履修が望ましい科目 英語

発展科目 長期留学、Tri-U国際シンポ

教科書

研修先にて支給される。

Text will be prepared by Monash Univ.

成績評価方法と基準

モナシュ大学による評価システムに基づき評価を行う。

Evaluation will be conducted based on the evaluation system of Monash University.

オフィスアワー 長縄真吾 平日10:00-18:00 場所: 総合研究棟II 国際交流チーム

その他

1. 募集方法および事前オリエンテーション

・4月に掲示板およびユニパにて全学生に応募方法を通知予定。

・5/8(金) 12:15-13:00: 募集説明会

・5/18(月) 申込締切

・7/17(金) 18:00 - 第1回オリエンテーション

・8月上旬 第2回オリエンテーション

2. 成績通知

・前期集中科目だが、モナシュ大学からの成績通知が10月中旬になるため、成績評価結果の通知は後期の成績通知とあわせて行われる。

3. その他

・現地滞在中の宿泊はホームステイとなる。

demic Skills, International Exchange, Homestay

学習内容

1. 事前準備

- ・募集説明会：5/8(金)
- ・第1回オリエンテーション（7/17(金)）：異文化理解・危機管理ワークショップ
- ・第2回オリエンテーション（8月上旬）：Placement Testおよび出発前オリエンテーション

2. 現地でのプログラム

計4週間。第1週目は、三重大学生向けの特別クラスを受講し、第2～4週はモナシュ大学が用意するレベル別クラス（6段階）での授業を受講する。

【第1週（特別クラス）】

- ・毎日15分間のディスカッション（滞在中の出来事・日本とは違う点など）
- ・文法・語彙の勉強
- ・オーストラリアの歴史・文化・教育について

- ・5日目にフィールドトリップを予定

【第2～4週（レベル別クラス）】

・週20時間の授業（月～金まで1日4時間）のうち、12時間は一般英語（English Skills）を学び、残り8時間は論文作成等のAcademic Skillを学ぶ。これに加えて自習として5時間分の学習を行う。

- ・基礎から英語4技能（読む・書く・聞く・話す）と授業で使う英語を学習する
- ・授業外の時間において、大学が提供する各種のActivityに参加する。

3. 帰国後

振り返りワークショップを実施。

学習課題（予習・復習） 事前オリエンテーションにて提供される資料に基づき、現地事情等を事前に学習する。また授業外で行う現地での活動の計画を出発前に学生自身で行う。

国際理解実践 (国際環境インターン) Seminar in International Understanding

学期 後期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 朴 恵淑 (人文学部教授)

授業の概要 国連機関、海外企業、国際NPOにおける環境実務を通して、環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を取得する。

学習の目的 環境分野で仕事をする意義について、理解できるようになる。

学習の到達目標

実務経験を通じての理解・実務の場で必要な責任感、誠実さを養える。
プレゼンテーション能力の向上できる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 環境実務、実地体験、国連機関、企業、NPO、世宗大学校 (韓国)

学習内容

第1回ガイダンス 履修登録 *掲示板に注意

受講要件 事前のガイダンス (7月にガイダンスを実施するので、履修を希望する学生は掲示板に注意し、かならず受講すること) と事後指導を受講すること。かつ国際環境インターンシップ (12月~2月を予定) に参加することを条件とする。海外渡航費は自己負担で、滞在費は受け入れ先が負担する場合がある。学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険へ加入すること。

成績評価方法と基準 国際環境インターンシップ受け入れ先の評価と担当教員の評価に基づき、総合的に判断する。

オフィスアワー 空いている時間はいつでも可能。

第2回ガイダンス 事前指導、派遣先への人選決定

インターンシップ 2週間研修

第3回 事後指導

国際理解実践S (留学生支援実践)

Foreign Student Support Training

学期 後期 **開講時間** 水 9, 10 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択 **授業の方法** 講義, 演習 **授業の特徴** PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 後藤綾文 (学生総合支援センター)

授業の概要 三重大学の外国人留学生の実態やニーズを把握し、留学生支援のために学生が何ができるのかを素材にしたプロジェクト活動に携わることを通して、国際性とコミュニケーション力を育成する。

学習の目的

三重大学に在籍する学生の多様性を理解し、交流に臆すること無く挑戦し、様々な交流を体験することができる。

留学生支援に関するニーズを理解し、自分に何ができるかを考えて行動する姿勢を示すことができる。

学習の到達目標

三重大学に在籍する学生の多様性を理解できるようになる。

留学生と積極的に交流することができるようになる。

支援ニーズを理解し、自分に何ができるかを考えて行動する姿勢を示すことができる。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 討

授業計画・学習の内容

キーワード 留学生支援、交流、支援ニーズ

学習内容

授業を通して、以下を組み合わせで行う。

・三重大学にいる外国人留学生の実態とニーズを把握する。

・留学生支援のニーズに応じたプロジェクトに分かれて、企画を検討し実践する。

論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

予め履修が望ましい科目 スタートアップセミナー

発展科目 学習支援実践、こころのサポート、および各種キャリア教育科目

成績評価方法と基準 Moodle課題提出15%、グループ課題55%、活動への参加度30%により総合的に判断する。

オフィスアワー 水曜15:00~16:00

授業改善への工夫 学生のコメントおよび授業アンケートをもとに改善に努めます。

その他

キャリア・ピアサポーター資格教育プログラム初級の選択必修科目(キャリア実践科目)の一つです。2月に予定しているアカデミックフェアで成果を発表します。

※教育統合科目として履修する場合は、キャリア科目としての認定はできません。

・学びを発表することを通じて、学びのふりかえりと相互に刺激を与え合う。

1. オリエンテーション

2・3. 留学生ニーズの把握と理解

4~11. プロジェクト学習

12~: まとめと発表

15. ふりかえりと総括

現代社会理解特殊講義 (現代社会の人間観)

Understanding Contemporary Society

学期 後期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 村上 直樹(人文学部)

授業の概要 現代社会において強い影響力を持つ2つの人間観——「心身二元論的人間観」と「脳中心主義の人間機械論」——がどのようなものであるのかを説明する。また、それらがどのような問題点を持っているのかを示す。そして、この2つに代わるものとして提唱されている新しい人間観にはどのようなものがあるのかを示す。

学習の目的

受講した学生が、「心身二元論的人間観」と「脳中心主義の人間機械論」がどのようなものであるのかを、そしてそれらがどのような問題点を持っているのかを理解する。また、その理解の内容を適切に他人に伝えることができる。その上で、現代における新しい人間観の探究がどのようなものであるのかを理解し、それに対する自分の考えを持つことができる。

学習の到達目標 受講した学生が、「心身二元論的人間観」と「脳中心主義の人間機械論」がどのようなものであるのかを、そしてそれらがどのような問題点を持っているのかを理解する。また、その理解の内容を適切に他人に伝えることができる。

授業計画・学習の内容

キーワード 心、脳、行動、思考、知覚、アフォーダンス、ハイデガー

Key Word(s) mind, brain, behavior, thinking, perception, affordance, Heidegger

学習内容

イントロダクション：現代社会における2つの人間観

1. 心身二元論的人間観とその問題点

1. 心=機械の中の幽霊

2. 知覚する心

3. 考える心

4. 身体を操縦する心

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 ①必ず第1回目から受講すること、第2回目からの受講は認められない②教室での集中力と強い好奇心を持っていること

教科書 プリントを配布する。

参考書 プリントを配付する。

成績評価方法と基準 報告30%、討議への参加度30%、最後に行う試験40%

オフィスアワー 火曜日と水曜日の午後(くわしい時間に関しては、開講時に連絡)

授業改善への工夫 学生から改善の要望があった場合には、できる限りすみやかに対応するようにします。

その他

本授業は、セミナー形式の授業です。

第1回目の授業で、授業の進め方についてのくわしい説明を行うので、必ず第1回目から受講すること。第2回目からの受講は認められない。

5. 人間=身体+心？

II. 脳中心主義の人間機械論とその問題点

1. 世界の像を生み出す脳——世界脳産教義

2. 考える脳——神経細胞の発火と「思い」

3. 身体の司令塔としての脳

4. 脳は本当に人間の主、主人なのか？

III. 現代における第3の人間観の探究

1. 〈私〉と世界の関係——ハイデガーの存在論

2. 脳に対する新しい見方——大森荘蔵による脳中心主義批判

3. 人間の行動と環境——アフォーダンス理論

4. 常に演じている人間——演劇論的社会学

学習課題（予習・復習）

1. 心身二元論的人間観の概要を理解する（配付プリント（文献のコピーを含む）を読み、理解する）
2. 現代における脳理解の概要を理解する（同上）
3. 人間機械論の歴史と概要を理解する（同上）
4. ハイデガーの存在論の概要を理解する（同上）
5. アフォーダンス理論の概要を理解する（同上）
6. 演劇論的社会学の概要を理解する（同上）
*詳細については、授業の各回において指示する。

現代社会理解特殊講義 (男女共同参画の基礎)

Promotion of Gender Equality: primer

学期 前期 **開講時間** 金 5, 6 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **担当教員** 朴 恵淑、森脇由美子、重松良祐、江藤みちる、井関敦子、門脇文子、小林正、宇野貴浩、常清秀、長濱文与、○小川真里子、○佐伯富樹、○西岡慶子、○石垣弘美、○伊藤久美子

授業の概要

男女共同参画について多方面から考え、活動できるように、社会のさまざまな分野における男女共同参画推進活動等について学ぶ。本学教員とともに企業経営者及び自治体職員等の非常勤講師を交えて指導する。

学習の目的 男女共同参画社会を実現するには何をすべきかを考えさせ、意識向上を図る。

学習の到達目標

男女共同参画社会について理解する。社会の様々な分野における男女共同参画に関する知識やノウハウを修得する。男女共同参画社会の実現に向けて主体的に活動できるようになる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、幅広い教養、課題探求力、問題解決力、情報受発信力、討論・対話力、社会人とし

での態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。

発展科目 男女共同参画実践

教科書 講義のはじめにテキストや参考書について提示する。

参考書 講義のはじめにテキストや参考書について提示する。

成績評価方法と基準 出席20%、レポート2回(80%)

オフィスアワー 本科目の取りまとめ役の教員(朴 恵淑)の連絡については、月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで可。それぞれの講師については、三重大学男女共同参画推進室へ、月曜日～金曜日の午前9時～午後4時まで可。

授業計画・学習の内容

キーワード 男女共同参画、女性活躍支援、次世代育成支援、ワーク・ライフ・バランス

Key Word(s) Gender Equality

学習内容

第1回 小川 真里子 「なぜ今理系分野の男女共同参画か」
第2回 朴 恵淑 「日本、三重大学の男女共同参画の現状と課題」
第3回 小林 正 「会社で働くということ」
第4回 石垣 弘美 「三重県の男女共同参画の現状と課題」
第5回 伊藤 久美子 「三重県男女共同参画基本計画～三重県、三重県庁、斎宮制度からみる男女共同参画～」
第6回 井関 敦子 「アンパイドワーク(家事・育児・介護)と男女共同参画」

第7回 西岡 慶子 「企業の男女共同参画への取組」
第8回 重松 良祐 「スポーツと男女共同参画」
第9回 森脇 由美子 「歴史のなかの男女共同参画ーアメリカの事例を中心にー」
第10回 佐伯 富樹 「女子差別撤廃条約をめぐる問題について」
第11回 門脇 文子 「大学病院における男女共同参画の推進」
第12回 江藤 みちる 「男女共同参画とワーク・ライフ・バランス」
第13回 宇野 貴浩 「工学研究科における男女共同参画の推進」
第14回 常 清秀 「アジア(中国)の男女共同参画の現状と課題」
第15回 長濱 文与 「男女共同参画社会」
第16回 朴 恵淑 「総括」

現代社会理解実践 (人間関係トレーニング) Better relationship and skills

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle
担当教員 望木 郁代 (医学部医学・看護学教育センター)
後藤 道子 (医学系研究科 地域医療学講座)

授業の概要 新しい環境になじめない。友達があまく作れない。悩みを打ち明けられる友人がいない。いずれ何でもなくなってしまうことが、若いときにはそれこそ人生の最重要課題であることもあります。もちろん若いときのみならず人間関係はこれからもずっとついて回ります。心も体も柔軟なこの時期に、一度自分のコミュニケーションの仕方を振り返り、未来に向かうより良い人間関係づくりのためのトレーニングを始めませんか。特に医療にかかわる学生には患者との関係を築いていく上で基盤となるコミュニケーション力を養成する機会となるはずです。身体を使って体験的に人間関係を学ぶ為のエクササイズを織り交ぜ、理論と体験を併せて学ぶことで、しっかりした人間関係を作れる自分になることを目指します。

学習の目的

- 1) 自身のコミュニケーションの仕方に気づく
- 2) 他者のコミュニケーションの仕方に気づく
- 3) 他者とのコミュニケーションを行う上で克服すべき課題とその方法を知る

学習の到達目標 学習したことを他者とのコミュニケーションに生かすことができるよう

授業計画・学習の内容

キーワード コミュニケーション

学習内容

- 「人間関係づくりトレーニング」
- 第1回 オリエンテーション エクササイズ「第一印象」
 - 第2回 講義 対人認知
 - 第3回 エクササイズ「好き嫌い 一価値観とは」 「思い込み」
 - 第4回 講義 自己と他者
 - 第5回 エクササイズ「わかちあう、こたえるーコミュニケーションってなんだろうー」

になる

本学教育目標との関連 感性, 共感, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

受講者人数制限有。
授業に積極的に参加することを条件とします。

成績評価方法と基準 3分の2以上の出席が必要です。テーマ毎の小レポート(50%)と期末試験(50%)で評価します。出席がない場合は、レポートの提出が出来ませんので、注意してください。

オフィスアワー 後藤 原則いつでも構いませんが、事前のアポが望ましいです。

その他

講義の回とエクササイズを行う回では教室が変わることがあります。
エクササイズの回ではグループで作業をすることがあります。
受講者に人数制限があります。

- 第6回 講義 カウンセリング
- 第7回 エクササイズ「話す、聞く」
- 第8回 講義 対人コミュニケーション
- 第9回 エクササイズ「非言語コミュニケーション」
- 第10回 講義 態度
- 第11回 エクササイズ「見る」
- 第12回 講義 感情のしくみ
- 第13回 エクササイズ「感情について知る」
- 第14回 講義 集団と個人
- 第15回 エクササイズ「葛藤と付き合う」
- 第16回 試験

現代社会理解実践 (環境実務・就業体験)

Lecture Course in Understanding Modern Society

学期 前期 開講時間 水9,10 単位 2 授業の方法 講義, 演習, 実習 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○平山大輔(教育学部), 守田庸一(教育学部), 朴恵淑(人文学部)

授業の概要 企業・NPOにおける環境実務への参加を通して、企業やNPOの行っている環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を習得することをねらいとする。本年度は、インターンシップ受入れ先として、(株)東芝(四日市工場)、ミキモト真珠島真珠博物館、亀山市環境保全対策室、三重県地球温暖化防止活動推進センター、伊勢商工会議所、NPO法人地域の未来・志援センター(エコデザイン市民社会フォーラムと合同)、伊賀の里モクモク手づくりファームを予定している。

学習の目的 企業・NPOにおける環境実務への参加を通して、企業やNPOの行っている環境活動に対する理解を深めると共に、実務に必要なスキル・態度を習得する。

学習の到達目標

環境分野で仕事をするということはどういうことなのかを実務経験を通じて理解できるようになる。

実務の場で必要な責任感・誠実さ・プレゼンテーション能力を身につける。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 討論・対話力, 社

会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 インターンシップ(夏季休業中2週間、計80時間)に参加することを条件とする。また水曜日の9・10限に事前のガイダンスを数回行うので、この時間に他の授業を取らないこと。初回ガイダンスの日程は、教養教育(共通教育)の掲示板で連絡するので、履修を希望する学生は掲示物に注意し、かならず受講すること。また事後指導も受講すること。学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究賠償責任保険へ加入すること。

教科書 指定しない

参考書 指定しない

成績評価方法と基準 インターンシップ受入れ先の評価に基づき、総合的に判断する

オフィスアワー 毎週木曜日 12:00~13:00、教育学部1号館2階 平山研究室

その他 各受入れ先は年度ごとに定員を設定するので、希望受入れ先でインターンシップを行えるとは限らない。またモクモクファームのインターンシップは2年生以上を対象としている。

授業計画・学習の内容

キーワード 環境実務、就業体験、企業、NPO、市役所

学習内容

環境インターンシップのスケジュール

①第1回ガイダンス(5月または6月); インターンシップ履修登録 ※4月から掲示物に注意しておくこと。

②第2回、第3回ガイダンス(6~7月中); 派遣先の決定、事前指導、誓約書の提出等。
※ガイダンスは他に必要が生じたときにも適宜行う。

③インターンシップ(8~9月中); 2週間(派遣先により変更あり)の就業体験 ※夏休みを利用。

④事後指導(10~12月)

現代社会理解実践 (環境教育実践)

Seminar in Understanding Modern Society

学期 前期 開講時間 木 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選/必** 選択

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 朴 恵淑(人文学部)、○山村直紀(工学部)、丸山 直樹(工学部)、石川 知明(生物資源学部)、梅崎 輝尚(生物資源学部)

授業の概要 持続発展教育(ESD)の基礎を学び、三重大学のESD実践方法の一つとして、MIEUポイントシステム(三重大学独自の環境活動に対するポイント付与システム)を理解する。さらに環境ISO学生委員会での活動を通じてMIEUポイント活動を実践し、その成果を分析し、システムの改善や拡張を考察する。

学習の目的

環境マインドを向上させることができる。将来環境に関わった仕事に着きたいと考える学生にとって役立つ知識・意識と行動力を育む。

学習の到達目標

- ・MIEUポイントシステムの基礎概念が理解できる。
- ・MIEUポイントを実践することでその効果を検証することができる。
- ・持続可能な世界のために行動する環境意識を高める。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード MIEUポイント 持続発展教育 環境 ISO

Key Word(s) ESD, Practice on Environmental Education, MIEU Point

学習内容

- 1 講義の内容と進め方のガイダンス
 - 2 MIEUポイントの概要
 - 3~13 受講生各自による環境ISO学生委員会での活動・報告書の作成
- 途中以下の講義・実習を含む

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 環境に関連する授業科目、その他講義の中で適宜紹介する

教科書 教科書の使用はしない。資料等は担当教員が適宜配布する

成績評価方法と基準 MIEUポイント実践記録(50%)、中間・最終レポート(50%)

オフィスアワー 講義終了後

授業改善への工夫 毎回の実践報告によって学生意識と理解を確認し、適宜、講義内容を改善していく。

その他 前期と後期は同一の講義内容である。本科目での修得単位は、「持続発展教育プログラム」の修了要件に含めることができる。また、2011年度までの「環境資格支援教育プログラム」の修了要件においては、「環境資格支援ガイダンス」の修得単位として振り替えることができる。なお、実践には、教員より紹介される環境関連のシンポジウム等への参加もMIEUポイントとして含めることも出来る。

- ・三重大学スマートキャンパスの見学会
- ・関連講義
- ・関連講義

14 最終報告発表会

15 総括

上記の内容は予定であり、授業進度に合わせて適宜変更される。

予定の詳細は初回のガイダンスにて解説する。

学習課題(予習・復習)

以下の課題が与えられる

- ・活動についての実施報告の作成
 - ・活動の実施報告まとめとその効果検証に関する考察報告の作成
- (パワーポイント書類としてとりまとめ、中間および最終報告に使用する。)

現代社会理解実践 (環境教育実践)

Seminar in Understanding Modern Society

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 朴恵淑 (人文学部)、○山村直紀(工学部)、丸山直樹 (工学部)、石川知明 (生物資源学部)、梅崎輝尚 (生物資源学部)

授業の概要 持続発展教育 (ESD) の基礎を学び、三重大学のESD実践方法の一つとして、MIEUポイントシステム (三重大学独自の環境活動に対するポイント付与システム) を理解する。さらに環境ISO学生委員会での活動を通じてMIEUポイント活動を実践し、その成果を分析し、システムの改善や拡張を考察する。

学習の目的 環境マインドを向上させることができる。将来環境に関わった仕事に着きたいと考える学生にとって役立つ知識・意識と行動力を育む。

学習の到達目標

- ・ MIEUポイントシステムの基礎概念が理解できる。
- ・ MIEUポイントを実践することでその効果を検証することができる。
- ・ 持続可能な世界のために行動する環境意識を高める。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード MIEUポイント 持続発展教育 環境 ISO

Key Word(s) ESD, Practice on Environmental Education, MIEU Point

学習内容

- 1 講義の内容と進め方のガイダンス
 - 2 MIEUポイントの概要
 - 3~13 受講生各自による環境ISO学生委員会での活動・報告書の作成
- 途中以下の講義・実習を含む
- ・ 三重大学スマートキャンパスの見学会

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 環境に関連する授業科目、その他講義の中で適宜紹介する。

教科書 教科書の使用はしない。資料等は担当教員が適宜配布する

成績評価方法と基準 MIEUポイント実践記録 (50%)、中間・最終レポート (50%)

オフィスアワー 講義終了後

授業改善への工夫 毎回の実践報告によって学生意識と理解を確認し、適宜、講義内容を改善していく。

その他 前期と後期は同一の講義内容である。本科目での修得単位は、「持続発展教育プログラム」の修了要件に含めることができる。また、2011年度までの「環境資格支援教育プログラム」の修了要件においては、「環境資格支援ガイダンス」の修得単位として振り替えることができる。なお、実践には、教員より紹介される環境関連のシンポジウム等への参加もMIEUポイントとして含めることも出来る。

・ 関連講義

・ 関連講義

14 最終報告発表会

15 総括

上記の内容は予定であり、授業進度に合わせて適宜変更される。

予定の詳細は初回のガイダンスにて解説する。

学習課題 (予習・復習)

以下の課題が与えられる

- ・ 活動についての実施報告の作成
- ・ 活動の実施報告まとめとその効果検証に関

する考察報告の作成

間および最終報告に使用する。)

(パワーポイント書類としてとりまとめ、中

現代社会理解実践 (環境内部監査員養成)

Seminar in Understanding Modern Society

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ○間島 順哉(非常勤講師)

授業の概要 環境先進大学 三重大学として取り組んでいる環境マネジメントシステム (ISO14001) の知識と監査技術の取得をする。最終的に学内環資格の認定を受け、実際の三重大学環境内部監査に携わる。

学習の目的 環境内部監査員として三重大学の環境内部監査に携わることが出来る。

学習の到達目標 三重大学が取り組む環境マネジメントシステムを理解し、環境取り組みを監査する力量を身に付ける。最終目標は学内環資格「三重大学環境内部監査員」の認定を受け大学の環境内部監査に貢献する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 環境資格支援ガイダンス、ISO環境管理学、環境法入門、四日市公害から学ぶ四日市環境学、PBLセミナー (ISO学)

授業計画・学習の内容

キーワード 学内環境資格の「三重大学環境内部監査員」を修得する

Key Word(s) Environmental internal audit, ISO14001

学習内容

- 1 授業概要の説明
- 2 ISO 14001の適用範囲と定義とISO 14001の要求事項①
- 3 ISO 14001の適用範囲と定義とISO 14001の要求事項②
- 4 ISO 19011:2002「環境マネジメントシステム監査のための指針」要求事項
- 5 環境内部監査の取組についての解説と討論
- 6 環境パフォーマンス評価 (ISO14032) とその他評価手法の解説と討論①

発展科目 特になし

教科書 講義資料は授業中に配布する。

参考書 参考書は講義中に紹介する。

成績評価方法と基準

グループ作業、グループ間の「相互監査」実習などで協調性を持った学習姿勢 (40%)、着眼力、提案力、論理的な報告書の作成力、等レポート評価 (60%) を総合点評価します。

オフィスアワー 講義終了後

授業改善への工夫 セミナー内で実施するグループ作業の進捗度と理解度を確認し、適宜、講義及び実習内容を改善していきます。

その他 セミナー単位取得により、三重大学環資格の「三重大学内部監査員」の認定を受け登録することができる。講義内容が前後することもあります。前期と後期は同一の内容です。

7 環境パフォーマンス評価 (ISO14032) とその他評価手法の解説と討論②

8 ケース・スタディ 1 (環境影響の調査)

9 ケース・スタディ 1 (環境目的の検討)

10 ケース・スタディ 1 (内部監査チェック表)

11 ケース・ステディ 1の評価

12 ケース・スタディ 2 (内部監査の演習、内部監査体験①)

13 ケース・スタディ 2 (内部監査の演習、内部監査体験②)

14 ケース・ステディ 2の評価

15 内部監査報告書の作成、環境法規制の解説と討議

16 レポート発表と総括

学習課題（予習・復習）

- ・三重大学環境報告書等、授業資料によるグループ討議を行う。
- ・ケーススタディ実習を行う。

現代社会理解実践 (環境内部監査員養成)

Seminar in Understanding Modern Society

学期 後期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ○間島 順哉(非常勤講師)

授業の概要 環境先進大学 三重大学として取り組んでいる環境マネジメントシステム (ISO14001) の知識と監査技術の取得をする。最終的に学内環資格の認定を受け、実際の三重大学環境内部監査に携わる。

学習の目的 環境内部監査員として三重大学の環境内部監査に携わることが出来る。

学習の到達目標 三重大学が取り組む環境マネジメントシステムを理解し、環境取り組みを監査する力量を身に付ける。最終目標は学内環資格「三重大学環境内部監査員」の認定を受け大学の環境内部監査に貢献する。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 情報受発信力, 討論・対話力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 環境資格支援ガイダンス、ISO環境管理学、環境法入門、四日市公害から学ぶ四日市環境学、PBLセミナー (ISO学)

授業計画・学習の内容

キーワード 学内環境資格の「三重大学環境内部監査員」を修得する

Key Word(s) Environmental internal audit ISO14001

学習内容

- 1 授業概要の説明
- 2 ISO 14001の適用範囲と定義とISO 14001の要求事項①
- 3 ISO 14001の適用範囲と定義とISO 14001の要求事項②
- 4 ISO 19011:2002「環境マネジメントシステム監査のための指針」要求事項
- 5 環境内部監査の取組についての解説と討論
- 6 環境パフォーマンス評価 (ISO14032) とその他評価手法の解説と討論①

発展科目 特になし

教科書 講義資料は授業時間中に配布する。

参考書 参考書物は授業時間に紹介する。

成績評価方法と基準

グループ作業、グループ間の「相互監査」実習などで協調性を持った学習姿勢 (40%)、着眼力、提案力、論理的な報告書の作成力、等レポート評価 (60%) を総合点評価します。

オフィスアワー 講義終了後

授業改善への工夫 セミナー内で実施するグループ作業の進捗度と理解度を確認し、適宜、講義及び実習内容を改善していきます。

その他 単位取得により、三重大学環資格の「三重大学内部監査員」の認定を受け登録することができる。講義内容が前後することもあります。前期と後期は同一の講義内容で開講されます。

7 環境パフォーマンス評価 (ISO14032) とその他評価手法の解説と討論②

8 ケース・スタディ 1 (環境影響の調査)

9 ケース・スタディ 1 (環境目的の検討)

10 ケース・スタディ 1 (内部監査チェック表)

11 ケース・ステディ 1の評価

12 ケース・スタディ 2 (内部監査の演習、内部監査体験①)

13 ケース・スタディ 2 (内部監査の演習、内部監査体験②)

14 ケース・ステディ 2の評価

15 内部監査報告書の作成、環境法規制の解説と討議

16 レポート発表と総括

学習課題（予習・復習）

- ・三重大学環境報告書等、授業資料によるグループ討議を行う。
- ・ケーススタディ実習を行う。

現代社会理解実践S (障がい学生支援実践)

Support for Students in Contemporary Society

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

選/必 選択必修 授業の方法 講義, 演習, 実習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 荒川哲郎 (教育学部), 大谷正人 (教育学部), 菊池紀彦 (教育学部), 郷右近歩 (教育学部), 栗田季佳 (教育学部), 生川友恒 (非常勤講師), 前川賢一 (非常勤講師), 稲垣智子 (非常勤講師), 横山慶 (非常勤講師), 倉野直紀 (非常勤講師)

授業の概要 今日、ノーマライゼーション (あらゆる活動にすべての人が平等に参加できる) 社会の実現が求められている。大学への進学も社会参加の一つと捉えた場合、障がいのある学生の修学について、その人の疾病や機能の問題だけでなく、教育支援や生活支援についても考える必要がある。この授業では、さまざまな障がいの実態について実習形式で学ぶとともに、事例検討を通して障がい学生支援が障がい学生のためだけの支援ではなく、すべての学生にとって教育的な価値があるということを理解することを目的とする。

学習の目的

- 1.障がいについての正しい理解ができるようになることを目的とする。
- 2.障がい学生の自立につながる支援について学ぶ。
- 3.三重大学の資源や個性、歴史を活かした支援のあり方について考えることができるようになる。

学習の到達目標

- 1.さまざまな障がい (視覚・聴覚・肢体不自由等) について、講義や実習を通して理解できる。
- 2.障がい学生にとって必要とされる支援の内容について理解できる。
- 3.三重大学における障がい学生支援を充実する

授業計画・学習の内容

キーワード 障がい学生、支援、福祉、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由

Key Word(s) Students with Disabilities, Support, Welfare, Visual Disturbance, Hearing Impairments, Physically Handicapped

ための方策について考えることができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 問題解決力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 2015年度の「アカデミックフェア」(2016年2月頃に開催予定)に参加が可能であること。

教科書 授業のなかで適宜紹介します

参考書 授業のなかで適宜紹介します

成績評価方法と基準 出席 50%、レポート 50%で評価します (レポートは5回程度課します)。

オフィスアワー 毎週月曜日10:30~12:00, 教育学部2号館5階, 菊池研究室

その他

キャリア・ピアサポーター基礎資格を取得するためには、「4つのカスタートアップセミナー」で8以上の成績を収め、「キャリアプランニング」の単位を取得し、この授業を含む「実践科目」のうちの1科目の単位を取得することが要件となる。

※教育統合科目として履修する場合は、キャリア科目としての認定はできません。

学習内容

- 1.オリエンテーション、ユニバーサルデザインについて
- 2.障がい者・高齢者体験
- 3.本学定型業務センターキャンパス環境整備室との交流①

- 4.本学定型業務センターキャンパス環境整備室との交流②
- 5.聴覚障がいについて（当事者からの話題提供）
- 6.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験①）
- 7.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験②）
- 8.聴覚障がいについて（パソコンテイク体験③）
- 9.視覚障がいについて（視覚障害のある人の日常生活）
- 10.視覚障がいについて（アイマスク、白杖を用いた体験①）

- 11.視覚障がいについて（アイマスク、白杖を用いた体験②）
- 12.発達障がいについて
- 13.アカデミックフェアに向けて①
- 14.アカデミックフェアに向けて②
- 15.アカデミックフェアに向けて③
- 16.授業のまとめ

学習課題（予習・復習）

独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）における「障害学生修学支援情報」のホームページを閲覧し、情報収集に努めること。

URL: http://www.jasso.go.jp/tokubetsu_shien/index.html

経済学G (ミクロ経済学)

ECON

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義
担当教員 渡辺 茂 (非常勤講師, 元大阪府立大学教授)

授業の概要 ミクロ経済の学習によって、経済学的な考え方を理解させる。

学習の目的 クリエイティブかつ経済的に考えることができるようになる。

学習の到達目標 日本経済をミクロ経済学的立場から理解する初歩的能力

本学教育目標との関連 感性, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にないが、簡単な微分の知識は必要とされる。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 マクロ経済学 経済政策論

教科書 教科書は使用しない。参考書は講義中に指示する。プリントを配布する。

成績評価方法と基準 期末テスト50パーセント、平常点50パーセント

オフィスアワー 連絡窓口 落合 隆 (人文学部)

授業改善への工夫 理解の程度を確認しながら、対話と質問を大切にしながら講義をする

その他 出席は不可欠でかつ熱心な学生を希望する

授業計画・学習の内容

キーワード ミクロ経済学の入門

学習内容

- 1はじめに (ミクロ経済学とはなにか)
ミクロ経済学の学び方の習得を課題とする
- 2需要と供給 需要曲線 供給曲線
弾力性について理解する
- 3消費の理論 効用関数 無差別曲線
消費と貯蓄の選択などの理解
- 4企業と費用 企業の目的 生産関数
費用関数などの理解
- 5市場と均衡 完全競争
市場価格の調整メカニズムについて学ぶ
- 6要素価格と所得分配
要素価格の決定などについて学ぶ
- 7独占 独占企業の行動
独占と市場について学ぶ
- 8寡占
寡占企業の行動について学習する
- 9外部性 市場の失敗 コースの定理
公共財について学ぶ
- 10不完全情報
情報の非対称性などについて学ぶ
- 11ゲームの理論 ゲームの構造
ナッシュ均衡などについて学ぶ
- 12厚生経済

- パレート最適などについて学ぶ
13投入産出分析
産業連関表の初歩的理解
14国際貿易
貿易の利益について学ぶ
15まとめ
ミクロ経済学の立場から現代日本経済を理解する

学習課題 (予習・復習)

- 配布する資料を来週までにまとめる
練習問題を復習する
重要語をまとめる
練習問題を解く
資料をまとめるとともに問題を解く
重要語をまとめる
練習問題を解く
配布する資料をまとめる
練習問題を解く
重要語をまとめる
練習問題を解く
資料をまとめる
練習問題を解く
資料をまとめる
重要語と資料をまとめる

環境学A (環境問題と地球B)

Environmental Studies A

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業 担当教員 ブライアン・ジェームス・マホニー(非常勤講師)

授業の概要 To study and evaluate various environmental issues relating to global warming, biodiversity, our planet earth and to begin to recognize the impact these pose to life and sustainability.

学習の目的 For students to develop a greater awareness of the environment and global issues relating to it. To understand differing views that help shape the dynamics of the movements for global change. And for students to learn the basics of the language used to discuss these topics on the global stage.

学習の到達目標 For students to develop a greater awareness and appreciation for the environment. To gain a better understanding of the vital roles that systems of ecology play in our lives. To reconnect with nature in ways that benefit our planet Earth.

本学教育目標との関連 感性, 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 実践外国語力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 This is an English content class and therefore a strong background in English writing, reading and communication is necessary. For Japanese students an above average score of at least 600 on the TOEIC test or similar test(s) is necessary. Overseas study and/or international exchange experience is also a plus.

発展科目 With a committed effort, students will gain a better understanding of the language used and the key and controversial issues relating to the global environment. Students will have opportunities for group discussion. Essay and slide show presentations will also give students the opportunity to express facts, viewpoints and opinions in English.

教科書 (Details will be given in our class introduction). English dictionary/thesaurus is required. A4 size notebook is also necessary for note taking. Additional materials will be provided by the instructor.

参考書 Environmental Documentary and Film: Several titles throughout the course will be presented in order to provide additional support to subject matter. These films will be shown in English/Japanese with English/Japanese subtitles. Titles to be shown include, "At The Edge of the World," "The Cove," "The Mountain Patrol," amongst others.

成績評価方法と基準 Participation/Reflection Papers 50%, Homework Assignment 25%, Final Work Assignment 25%. Interested students please note-Class begins on Day One.

オフィスアワー Friday after class: 12:00 ~12:30.

その他 Please note that a short essay may be required prior to official acceptance into this class.

授業計画・学習の内容

キーワード 環境問題、私たちの地球、生物多様性、エコシステム、伝統と文化

Key Word(s) Environmental Issues, Our Planet Earth, Biodiversity, Eco-Systems, Tradition & Culture

学習内容

Class 1: Class introduction/Topic for Discussion.

Class 2~7: Topics for discussion. Reading assignments/homework.

Class 8: Environmental topic essay introduction.

Class 9~13: Topics for discussion. Reading as-

signments/homework.
Environmental essay development.

Class 14-15: Small group presentations/
slideshow.

社会学B (現代社会のトピックス)

Sociology B

学期 後期 開講時間 木3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次

授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業,

Moodle

担当教員 江成 幸 (人文学部)

授業の概要

・日本における格差の現状を理解し、社会学の立場から家族や地域との関わりを探る。
・大学 (higher learning) の入門科目として、身のまわりの事柄に一つの答えを求めめるのではなく、物事の複雑な背景を理解しながら、社会現象を分析する力を身につける。

学習の目的

・社会的格差が家族や教育に及ぼす影響を研究するための分析枠組みや概念を知る。
・信頼性の高い資料およびデータにもとづいて、適切に分析を行うことができる。
・学習上の必要に応じ、関係機関での資料収集や聞き取りを行う。

学習の到達目標

・文献講読を通じて社会問題を分析し、関心のあるテーマについてレジュメを作成して報告する。
・内容理解と考察を深めて期末レポートをまとめる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニ

ケーション力を総合した力

受講要件 校外調査をする場合に備え、学生教育研究災害傷害保険に加入すること。

予め履修が望ましい科目 とくに指定しないが、社会学、文化人類学など、本セミナーの基礎となる科目を積極的に履修すること。

教科書 本田由紀『社会を結びなおす—教育・仕事・家族の連携へ—』岩波ブックレット、2014年。

参考書

阿部彩『弱者の居場所がない社会』講談社新書、2011年

赤石知恵子『ひとり親家庭』岩波新書、2014年

橋本 俊詔『格差社会』(福祉+α) ミネルヴァ書房、2012年

高崎経済大学附属地域政策研究センター編『社会的排除と格差問題』勁草書房、2010年

成績評価方法と基準 授業への参加30%、資料の収集と整理20%、研究成果50%、計100%

オフィスアワー 毎週木曜日14:40~16:10、場所：共通教育棟4号館3F江成研究室

授業計画・学習の内容

キーワード 格差社会の課題

Key Word(s) social disparities

学習内容

第1回

授業の説明・参考文献の紹介・履修者の自己紹介

第2回

参考文献講読のためのレジュメ作成について、文献講読の分担決め

第3回

研究対象の選定について、文献検索と資料収集について

第4回

学生のレジュメを用いた講読

第5回

学生のレジュメを用いた講読

第6回

基本的な知識・概念の整理

第7回

社会学の研究方法について

第8回

研究テーマと参考文献について

第9回

学生の間報告

第10回

学生の間報告

第11回

社会的格差の影響に関する討論

第12回

レポート作成について、研究報告の準備

第13回

学生の研究報告

第14回

学生の研究報告

第15回

まとめ、学生アンケート

最終試験

レポート課題提出

学習課題（予習・復習）

学生による参考文献の講読と、能動的な授業参加を前提として授業を進める。

学生との連絡等にMoodleを活用する。

経済学F (経済学の歴史と経済学)

EconomicsF

学期 前期 開講時間 火9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 西淳 (非常勤講師)

授業の概要 この授業では、経済学の基本的な考え方を過去の経済学者たちの学説を通じて考えてみたいと思います。現代において論じられている経済についての考え方は歴史的なプロセスを通じて形成されてきたものですので、そのプロセスを学ぶことは経済学の基礎的なロジックを身につけるのに役にたちます。過去の学説の紹介に終るのではなく、現代の経済をみる力を身につけるのが目的です。

学習の目的 過去の経済学者のさまざまな考え方を学習することによって、現代の経済をみる力を養うのが目的です。このような方法は一見、経済を学ぶためには遠回りのように思えますが、実はもっとも効率的な方法だと思われまます。スミスやリカードが考えた問題を深く考えることによって、市場や競争、貿易の意義、格差の問題、政府というものの存在意義、などについて理解を深めることが求められます。

授業計画・学習の内容

キーワード 市場、分業、貿易、利潤、成長、平等性と効率性

Key Word(s) market, division of labor, trade, profit, growth, equality and efficiency

学習内容

第一回：はじめに(授業の流れの説明、など)

第二回：経済学の成立過程(1)(経済学の成立について、資本主義とはなにか)

第三回：経済学の成立過程(2)(さまざまな学派の存在、学説の対立をどう見るか)

第四回：A・スミスの経済学(1)：(豊かさとはなにか、市場の機能について)

第五回：A・スミスの経済学(2)(分業と市場との関係、貯蓄は美徳か消費は美徳か)

第六回：D・リカードの経済学(1)(財の価値はどう決まるか、労働量が希少性か)

第七回：D・リカードの経済学(2)(土地のせまい国の経済の成長法則、比較優位とはなにか)

学習の到達目標 あくまで現実の経済問題を考える基礎的な力を養うことが目的です。

本学教育目標との関連 倫理観、モチベーション、論理的思考力、問題解決力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にありません。経済現象に対する興味があればよいと思います。

予め履修が望ましい科目 特にありません。

教科書 特に指定しません(毎回、資料・プリントを配布することによって行います)。

参考書 授業のなかで適宜指示します。

成績評価方法と基準 平常点と定期試験の点によって評価します。

授業改善への工夫 学生のみなさんに、授業期間中に何度か感想を書いてもらい、それを参考にして行おうと思っております。

その他 授業中は私語厳禁です。

第八回：D・リカードの経済学(3)(一般的過剰生産はあるか、供給化需要か)

第九回：K・マルクスの経済学(1)(利潤はどこから生まれるのか)

第十回：K・マルクスの経済学(2)(再生産について、資本主義と社会主義、平等性が効率性か)

第十一回：ケインズ以前の経済学(競争原理、価格メカニズム、失業観、小さな政府)

第十二回：J・M・ケインズの経済学(1)(有効需要の原理、失業観)

第十三回：J・M・ケインズの経済学(2)(不況とはなにか、合成の誤謬について)

第十四回：J・M・ケインズの経済学(3)(政府の役割について)

第十五回：まとめ(全体のまとめ)

学習課題(予習・復習) 普段から経済問題に対する関心をもってください。

国際理解実践 (Tri-U国際シンポ) Seminar in International Understanding

学期 後期集中 **単位** 2 **対象** 夏期集中講義と他に秋季にTri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムへの参加を要する。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次; 大学院(修士課程・博士前期課程): 1年次, 2年次; 大学院(博士課程・博士後期課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **選必** 選択 **授業の方法** 演習

担当教員 国際交流センター 栗田聡子 (2014年4月着任予定)

授業の概要 人口、食料、エネルギー、環境などの問題に関する英語論文の作成とパワーポイントを用いた発表技法について演習形式で学び、三重大学が海外の協定大学とともに輪番で開催するTri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム (Tri-U International Joint Seminar & Symposium) に参加して研究発表を行なう。

学習の目的 英語論文の構成、記述、プレゼンテーションマテリアルの作成、効果的な発表の仕方を学ぶとともに、英語によるコミュニケーション能力を養う。

学習の到達目標 自身の研究における背景を十分に理解し、研究成果を英語論文としてとりまとめ、国際シンポジウムで発表し、様々な国々からの参加者とともにディスカッションすることにより、感じる力、考える力とコ

ミュニケーション力を高める。

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、論理的思考力、課題探求力、情報受発信力、討論・対話力、社会人としての態度、実践外国語力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 配布資料

成績評価方法と基準 授業参加への積極性と英語論文およびプレゼンテーションマテリアルの作成 50%、国際ジョイントセミナー&シンポジウムへの参加と研究発表 50%として総合的に評価する。

オフィスアワー 集中講義期間 12:00 - 13:00

その他 応募方法および参加者募集説明会の日程について4月以降に掲示板等にて通知予定。

授業計画・学習の内容

キーワード 英語論文、パワーポイント、口頭発表、人口、食料、エネルギー、環境、国際交流

Key Word(s) Research paper in English, Powerpoint, Oral presentation, Population, Food, Energy, Environment, International Exchange

学習内容

夏期集中講義 (8月)

1日目: 英語論文の構成

英語による研究内容の表現

2日目: 緒言、研究方法、結果の記述

3日目: 考察と結論の記述

英語論文の提出

4日目: 口頭発表のためのパワーポイントファイルの作成

ハンドアウトの作成

5日目: 効果的なプレゼンテーション

プレゼンテーションマテリアルの提出

秋季国際ジョイントセミナー&シンポジウム (10~12月頃)

1日目: 特別講演の聴講

2日目: 研究発表

3日目: グループディスカッション

学習課題 (予習・復習) 各講義日に復習と予習の課題を与える。

国際理解特殊講義 (大学の国際化)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 奥田久春

授業の概要 国際理解とは何をどのように理解することだろうか。またなぜ理解しないといけないのだろうか。大学において専門的な学問分野を学ぶためには、逆に幅広い考え方を理解する能力や態度が重要となる。本授業では、学生にとって身近な大学をテーマに取り上げ、社会の変化とともに国際化している現状を理解し、今後の大学生活や学問研究、社会生活において遭遇するであろう様々な国際交流の場面に積極的に参加したり、多様な価値観や考え方を理解したりすることのできる素地を養う。

学習の目的

本授業を通じて、受講学生が国際理解の基本となる多様な価値観や考え方を理解するために、

国際化・グローバル化する社会と大学の現状を理解する上で必要な知識を獲得する。

国際社会の多様性を理解し考察する上で必要な知識を身につける。

国際理解の目的や方法、意義、課題を考察する。

国際交流の状況で相手の考えを理解し、自らの考えを伝えるスキルを身につける。

大学での国際交流の場面に積極的に参加する方法を知る。

学習の到達目標

国際化・グローバル化する社会と大学について具体的な事例を挙げ、その状況や要因を論理的に説明することができる。

国際社会の多様性について、その意味と課題を考察し、説明することができる。

国際理解の何を、どのように、なぜ理解する

ことが求められるのかを考察し、議論することができる。

国際交流の場面で相手の考えを理解し、自らの考えを伝えることができる。

大学や社会での国際交流の場面に積極的に参加する意欲を示すことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 国際理解実践

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書 授業において適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席 (30%)、小レポート (30%)、期末レポート (40%)

オフィスアワー 平日 月曜日～金曜日 9:00～17:00 (授業時間、昼休みを除く)。但し不在のこともあるので、予約することが望ましい。

授業改善への工夫 一方的な講義スタイルにせず、学生との対話によって授業を進めていく。

その他 講義形式だが、学生同士の対話の場面も設け、多様な意見を期待するため、できるだけ多様な学生に受講してもらいたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 大学の国際化、グローバル化、地域性、留学生、社会・文化や価値観の多様性

Key Word(s) Internationalization, Globalization, Locality, International Students in the University, Diversity of Societies, Cultures, and

Values

学習内容

第1回：ガイダンス：国際理解とは何を理解するのか？

第2回：変わりゆく社会と大学1（グローバル化社会と大学）

第3回：変わりゆく社会と大学2（知識基盤社会・情報化社会と大学）

第4回：変わりゆく社会と大学3（地域に根ざした大学と国際的な影響）

第5回：国際化に取り組む大学

第6回：留学生の増加

第7回：グループディスカッション（1）

第8回：多文化と多様な社会、多様な価値観

第9回：多様な国際理解（日本と海外の国際理解教育）

第10回：国際理解とアイデンティティ

第11回：国際化の諸問題

第12回：グループディスカッション（2）

第13回：国際交流に参加しよう

第14回：海外留学のススメ

第15回：グローバル人材とは？

第16回：まとめ

学習課題（予習・復習） 必要に応じて事前に資料を配付し、予習を指示する。また小レポート（6回）を課す。

国際理解特殊講義 (大学の国際化)

Lecture Course in International Understanding

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, グループ学習の要素を加えた授業, Moodle

担当教員 奥田久春

授業の概要 国際理解とは何をどのように理解することだろうか。またなぜ理解しないといけないのだろうか。大学において専門的な学問分野を学ぶためには、逆に幅広い考え方を理解する能力や態度が重要となる。本授業では、学生にとって身近な大学をテーマに取り上げ、社会の変化とともに国際化している現状を理解し、今後の大学生活や学問研究、社会生活において遭遇するであろう様々な国際交流の場面に積極的に参加したり、多様な価値観や考え方を理解したりすることのできる素地を養う。

学習の目的

本授業を通じて、受講学生が国際理解の基本となる多様な価値観や考え方を理解するために、

国際化・グローバル化する社会と大学の現状を理解する上で必要な知識を獲得する。

国際社会の多様性を理解し考察する上で必要な知識を身につける。

国際理解の目的や方法、意義、課題を考察する。

国際交流の状況で相手の考えを理解し、自らの考えを伝えるスキルを身につける。

大学での国際交流の場面に積極的に参加する方法を知る。

学習の到達目標

国際化・グローバル化する社会と大学について具体的な事例を挙げ、その状況や要因を論理的に説明することができる。

国際社会の多様性について、その意味と課題を考察し、説明することができる。

国際理解の何を、どのように、なぜ理解する

ことが求められるのかを考察し、議論することができる。

国際交流の場面で相手の考えを理解し、自らの考えを伝えることができる。

大学や社会での国際交流の場面に積極的に参加する意欲を示すことができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 国際理解実践

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書 授業において適宜指示する。

成績評価方法と基準 出席 (30%)、小レポート (30%)、期末レポート (40%)

オフィスアワー 平日 月曜日～金曜日 9:00～17:00 (授業時間、昼休みを除く)。但し不在のこともあるので、予約することが望ましい。

授業改善への工夫 一方的な講義スタイルにせず、学生との対話によって授業を進めていく。

その他 講義形式だが、学生同士の対話の場面も設け、多様な意見を期待するため、できるだけ多様な学生に受講してもらいたい。

授業計画・学習の内容

キーワード 大学の国際化、グローバル化、地域性、留学生、社会・文化や価値観の多様性

Key Word(s) Internationalization, Globalization, Locality, International Students in the University, Diversity of Societies, Cultures, and

Values

学習内容

第1回：ガイダンス：国際理解とは何を理解するのか？

第2回：変わりゆく社会と大学1（グローバル化社会と大学）

第3回：変わりゆく社会と大学2（知識基盤社会・情報化社会と大学）

第4回：変わりゆく社会と大学3（地域に根ざした大学と国際的な影響）

第5回：国際化に取り組む大学

第6回：留学生の増加

第7回：グループディスカッション（1）

第8回：多文化と多様な社会、多様な価値観

第9回：多様な国際理解（日本と海外の国際理解教育）

第10回：国際理解とアイデンティティ

第11回：国際化の諸問題

第12回：グループディスカッション（2）

第13回：国際交流に参加しよう

第14回：海外留学のススメ

第15回：グローバル人材とは？

第16回：まとめ

学習課題（予習・復習） 必要に応じて事前に資料を配付し、予習を指示する。また小レポート（6回）を課す。

地域学 (オセアニアの教育事情)

Area Studies

学期 後期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 奥田久春

授業の概要 地域学は、ある地域の社会、文化、教育、政治、環境など諸問題の特徴について学際的に明らかにしていく学問だが、こうした研究アプローチは地域の固有性とその要因を分析するなど、多様な学問分野に役立つものである。本授業ではオセアニア地域の学校教育をテーマに取り上げ、各国や地域の教育に関する文献、画像・映像等を分析し、記述、整理、比較といった作業を進め、当該地域の学校教育の特徴と課題を考察する。

学習の目的

受講学生が地域学の学び方を学び、それぞれの専門分野に応用するために、当該地域を学ぶにあたって必要な知識とは何かを理解する。テーマとなる事柄の歴史的、社会的、地理的など諸要因について、様々な情報を収集し、考察する。それらに共通する地域の特徴を抽出できるように情報を記述し、整理する。地域内の比較、他地域との比較を行い、地域の特徴を分析、考察する。

学習の到達目標

オセアニア諸国の学校教育の基礎知識（義務教育制度、学校階梯、カリキュラム、試験制度、学校文化など）について説明することができる。それら学校教育の歴史的、社会的、地理的な諸要因について考察し、説明することができる。それらに共通する地域の特徴を抽出できるように情報を記述し、整理することができる。地域内諸国間の学校教育の比較、他地域との比較を行い、地域の特徴を分析し、考察した

授業計画・学習の内容

キーワード 地域研究、オセアニア、教育制度、比較研究

Key Word(s) Regional Study, Oceania, Educational System, Comparative Study

ことを説明することができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書

石附実・笹森健編「オーストラリア・ニュージーランドの教育」東信堂
二宮皓編著「新版世界の学校」学事出版、など授業において適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席（30%）、小レポート（30%）、期末レポート（40%）

オフィスアワー 平日 月曜日～金曜日 9：00～17：00（授業時間、昼休みを除く）。但し不在のこともあるので、予約することが望ましい。

授業改善への工夫 地域学の醍醐味は単に知識を得ることではなく、自らの観察によって得られたデータを自らの観点で分析していくことにあるため、小レポートなどでそうした実践を含めるようにする。またそうした能力をそれぞれの学問分野に応用することを意識づける。

その他 特になし

学習内容

第1回：ガイダンス（地域学の概要）
第2回：オセアニアの概況
第3回：オーストラリアの教育（1）

第4回：オーストラリアの教育（2）
第5回：オーストラリアの教育（3）
第6回：ニュージーランドの教育（1）
第7回：ニュージーランドの教育（2）
第8回：ポリネシア島嶼国の教育（サモア1）
第9回：ポリネシア島嶼国の教育（サモア2）
第10回：ポリネシア島嶼国の教育（ツバル、トンガ）
第11回：メラネシア島嶼国の教育（フィジー、パプアニューギニア、バヌアツ）

第12回：ミクロネシア島嶼国の教育（マーシャル、パラオ）
第13回：教育の地域連携
第14回：地域内での比較
第15回：他の地域との比較
第16回：オセアニア諸国の教育の特徴と課題

学習課題（予習・復習） 適宜、事前に資料を配付し、予習を指示する。また小レポート（6回）を課す。

地域学 (オセアニアの教育事情)

Area Studies

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 奥田久春

授業の概要 地域学は、ある地域の社会、文化、教育、政治、環境など諸問題の特徴について学際的に明らかにしていく学問だが、こうした研究アプローチは地域の固有性とその要因を分析するなど、多様な学問分野に役立つものである。本授業ではオセアニア地域の学校教育をテーマに取り上げ、各国や地域の教育に関する文献、画像・映像等を分析し、記述、整理、比較といった作業を進め、当該地域の学校教育の特徴と課題を考察する。

学習の目的

受講学生が地域学の学び方を学び、それぞれの専門分野に応用するために、当該地域を学ぶにあたって必要な知識とは何かを理解する。テーマとなる事柄の歴史的、社会的、地理的など諸要因について、様々な情報を収集し、考察する。それらに共通する地域の特徴を抽出できるように情報を記述し、整理する。地域内の比較、他地域との比較を行い、地域の特徴を分析、考察する。

学習の到達目標

オセアニア諸国の学校教育の基礎知識（義務教育制度、学校階梯、カリキュラム、試験制度、学校文化など）について説明することができる。それら学校教育の歴史的、社会的、地理的な諸要因について考察し、説明することができる。それらに共通する地域の特徴を抽出できるように情報を記述し、整理することができる。地域内諸国間の学校教育の比較、他地域との比較を行い、地域の特徴を分析し、考察した

授業計画・学習の内容

キーワード 地域研究、オセアニア、教育制度、比較研究

Key Word(s) Regional Study, Oceania, Educational System, Comparative Study

ことを説明することができる。

本学教育目標との関連 感性、共感、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、課題探求力、批判的思考力、情報受発信力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 適宜プリントを配布する。

参考書

石附実・笹森健編「オーストラリア・ニュージーランドの教育」東信堂
二宮皓編著「新版世界の学校」学事出版、など授業において適宜紹介する。

成績評価方法と基準 出席（30%）、小レポート（30%）、期末レポート（40%）

オフィスアワー 平日 月曜日～金曜日 9：00～17：00（授業時間、昼休みを除く）。但し不在のこともあるので、予約することが望ましい。

授業改善への工夫 地域学の醍醐味は単に知識を得ることではなく、自らの観察によって得られたデータを自らの観点で分析していくことにあるため、小レポートなどでそうした実践を含めるようにする。またそうした能力をそれぞれの学問分野に応用することを意識づける。

その他 特になし

学習内容

第1回：ガイダンス（地域学の概要）
第2回：オセアニアの概況
第3回：オーストラリアの教育（1）

第4回：オーストラリアの教育（2）
第5回：オーストラリアの教育（3）
第6回：ニュージーランドの教育（1）
第7回：ニュージーランドの教育（2）
第8回：ポリネシア島嶼国の教育（サモア1）
第9回：ポリネシア島嶼国の教育（サモア2）
第10回：ポリネシア島嶼国の教育（ツバル、トンガ）
第11回：メラネシア島嶼国の教育（フィジー、パプアニューギニア、バヌアツ）

第12回：ミクロネシア島嶼国の教育（マーシャル、パラオ）
第13回：教育の地域連携
第14回：地域内での比較
第15回：他の地域との比較
第16回：オセアニア諸国の教育の特徴と課題

学習課題（予習・復習） 適宜、事前に資料を配付し、予習を指示する。また小レポート（6回）を課す。

心理学F (心のくせを見つめ直す)

Psychology F

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 対象 学部1年生を想定して授業をおこないます。

授業の方法 講義

担当教員 南学(教育学部)

授業の概要 心理学は、人の「こころ」を研究対象とし、それを客観的に明らかにしていく学問領域です。人はみなそれぞれ自分の「こころ」をもっていますが、それを客観的に見るというのはそう簡単ではありません。本授業では、「こころのしくみ」や「こころのくせ」について述べます。

学習の到達目標 「こころ」を対象化し、客観的にとらえることができる。「こころのしくみ」や「こころのくせ」について正確な理解と知識をえる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード こころのくせを見つめ直す

学習内容

- 1 心理学とは
- 2 知覚と脳
- 3 学習・記憶
- 4 知識・信念

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 参考書:『不思議現象なぜ信じるのか-こころの科学入門-』 菊池聡ほか 北大路書房

成績評価方法と基準 小レポートを課した場合は30%、残りを定期試験の配点とする。

オフィスアワー 金曜7, 8限目

授業改善への工夫 時間の許す限り毎回ミニッツペーパーにより授業のコメントを求め、対応していく。

その他

この授業に関するWEBページ
<http://www.minamis.net/kougi.html>

学習課題（予習・復習）

復習としてノートを整理したり、振り返ることを求める。求める理解のレベルは、授業を受けていない人に、心理学的概念を具体例を挙げながら説明できることです。紹介する参考文献をどれか1冊以上読むこと。

心理学F (心のくせを見つめ直す)

Psychology F

学期 後期 開講時間 木1,2 単位 2 対象 学部1年生を想定して授業をおこないます。

授業の方法 講義

担当教員 南学(教育学部)

授業の概要 心理学は、人の「こころ」を研究対象とし、それを客観的に明らかにしていく学問領域です。人はみなそれぞれ自分の「こころ」をもっていますが、それを客観的に見るというのはそう簡単ではありません。本授業では、「こころのしくみ」や「こころのくせ」について述べます。

学習の到達目標 「こころ」を対象化し、客観的にとらえることができる。「こころのしくみ」や「こころのくせ」について正確な理解と知識をえる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード こころのくせを見つめ直す

学習内容

- 1 心理学とは
- 2 知覚と脳
- 3 学習・記憶
- 4 知識・信念

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 参考書:『不思議現象なぜ信じるのかこころの科学入門-』 菊池聡ほか 北大路書房

成績評価方法と基準 小レポートを課した場合は30%、残りを定期試験の配点とする。

オフィスアワー 金曜7,8限目

授業改善への工夫 時間の許す限り毎回ミニッツペーパーにより授業のコメントを求め、対応していく。

その他

この授業に関するWEBページ
<http://www.minamis.net/kougi.html>

学習課題（予習・復習）

復習としてノートを整理したり、振り返ることを求める。求める理解のレベルは、授業を受けていない人に、心理学的概念を具体例を挙げながら説明できることです。紹介する参考文献をどれか1冊以上読むこと。

心理学 F (心の総合的理解)

Psychology F

学期 前期 開講時間 月 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle 担当教員 中西 良文(教育学部)

授業の概要

日々の生活の中で、人は何らかの形で「こころ」を働かせている。そのため、「こころ」の働きについて理解することが、より良い生活に役に立つ場合もある。本講義では「こころ」の働きに関する様々なトピックを紹介し、「こころ」の働きを統合的に理解することを目指す。

なお、授業は共同での活動を行うため、積極的に他者と関わる姿勢を持って授業に臨んでほしい。

学習の目的 心についての関心を深める。また、心の理解を通して、科学的なものの見方を身につける。

学習の到達目標 ここでは最高レベルの到達目標を挙げておきたい。まず、心理学という学問が「人の気持ちが分かる」といった感覚的なものではなく、実証的な性格を有する学問であるということ認識し、心理学的なものの見方、考え方を使って、日常的な事象について考えられることを挙げたい。続いて、心理学という学問が実際にどのような領域があるのかについて、その関係性と応用のあり方について説明できることが挙げられる。そして、授業で取り上げたトピックについて、日常的な具体例を伴うことができるというもの

授業計画・学習の内容

キーワード 「こころの働きの統合的理解」

Key Word(s) 知覚・認知・学習・記憶・言語・思考・動機づけ・感情

学習内容

- 1.心理学とはどのような学問か?
- 2.心理学の領域とその応用
- 3.情報の処理を行う人間
- 4.人の知覚の特徴
- 5.記憶のプロセスの理解
- 6.熟達化の過程
- 7.スキーマの理解 (知識・言語・理解について

が最後に挙げられるものである。

本学教育目標との関連 共感, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 他の受講生の受講を妨害する者(たとえば、私語を行う者や共同学習に参加しない者)は受講を認めない。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 教育心理学(教育学部) 学習心理学(教育学部) 心理学II 共通PBLセミナー

教科書 適宜講義時に紹介する。

成績評価方法と基準 レポート、試験、および授業内で行う活動(主にMoodleへの書き込み)を総合的に評価する

オフィスアワー 月曜日 14:40~16:10 教育学部1号館2F 学習心理学研究室

授業改善への工夫 毎回行う受講生によるレポート活動から、受講生の理解度を把握し、理解度を高めるよう授業改善を続ける。

- 考える)
- 8.社会的認知(1)
- 9.社会的認知(2)
- 10.グループダイナミクス
- 11.社会的ジレンマ
- 12.「やる気」の心理を探る(1): 外的報酬の影響
- 13.「やる気」の心理を探る(2): 感情が行動にもたらす影響
- 14.「やる気」の心理を探る(3): テスト結果をどう考えるか
- 15.「やる気」の心理を探る(4): 社会的動機づ

け
16.テスト

学習課題（予習・復習） 授業で行ったこと
に関しては、各自で再度復習を行い、「理

解」の作業を行うことを求める。また、授業
に関連する文献等を読み、知識の絶対量を増
やすことも必要である。授業ではMoodleを使
うため、定期的にネットワークにつながった
PCの前に座るようにして欲しい。

情報科学A (プログラミングの初歩)

Mathematical Science A

学期 前期 開講時間 月 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle 担当教員 武本 行正 (非常勤講師)

授業の概要 テーマはコンピュータの初歩, プログラミングの初歩を学ぶということで, 総合情報処理センターのパソコンで, Excelを用いていろいろな計算をします。また, この結果をグラフ化します。最後の方で, Excelに内蔵されているVBA (visual BASIC) を用いて簡単なプログラミングも実施します。

学習の目的 コンピュータは連続的な量を扱えず, 離散的な量しか扱えません。しかし実際の計算の対象は連続的な量であるのが普通です。そこで連続的な量をどのようにして離散的に扱うかが大きな問題です。Excelを用いているいろいろなケースで学習しましょう。

学習の到達目標 コンピュータでWORDとExcelは使いこなせるようになりましょう。また, 情報の基礎として2進数についての演算と減算の補数加算等の学習をします。最後に少しはプログラムが書けるようになりましょう。ITパスポートや基本情報技術者の受験の最初の一歩にはなると思います。

授業計画・学習の内容

キーワード

Excelの操作、数式の入力、関数を使用して計算

度数分布、統計関数を利用した計算、各種関数のグラフ

データの回帰直線や補間の方法 (Lagangeの補間など)

距離を求めよう (常微分をルンゲクッタ公式で数値解法)

面積を求めよう (Simpsonの積分公式をVBAで)

VBAマクロについての練習

学習内容

第1講 Excelの操作、数式の入力、関数を使用して計算

第2講 .txtと.csvの保存の仕方、ASCIIコード表

第3講 バイトとビット、2の補数計算、2進と

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にない。

予め履修が望ましい科目 特にないが, 高校程度の数学

発展科目 コンピュータ関連の応用科目

教科書 プリント配布、特に教科書は定めない。

参考書 各自のレベルに合った初歩のExcelとかExcel入門など。

成績評価方法と基準 毎回の小テストやレポートは20~40%、期末の試験は60%程度。

オフィスアワー 特にないが, 授業時に質問歓迎。

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果等を参考にして改善する。

16進

第4講 Excelでの演算子 (^はべき乗)、優先順位とカッコ

第5講 度数分布、漸化式、階乗、数学関数EXPやSINでグラフ

第6講 統計関数を利用した成績表の作成

第7講 数列、ベキ関数、三角関数のグラフ

第8講 指数関数、対数関数とそのグラフ

第9講 方程式の解をExcelのグラフを使用して見つけよう

第10講 データの回帰直線を求める (Excelのグラフから自動的に)

第11講 データの補間の方法 (Lagangeの補間公式を打ち込む)

第12講 距離を求めよう、ルンゲクッタの式をVBAマクロで

第13講 面積を求めよう、Simpsonの積分公式

をVBAで

第14講 VBAマクロについての練習問題

第15講 ExcelやVBAマクロの総まとめ

第16項 試験

学習課題（予習・復習） 授業の都度、関連項目を指示する。

情報科学A (プログラミングの初歩)

Mathematical Science A

学期 後期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle 担当教員 武本 行正 (非常勤講師)

授業の概要 テーマはコンピュータの初歩、プログラミングの初歩を学ぶということで、情報処理センターのパソコンで、Excelを用いていろいろな計算をします。また、この結果をグラフ化します。最後の方で、Excelに内蔵されているVBA (visual BASIC) を用いて簡単なプログラミングも実施します。

学習の目的 コンピュータは連続的な量を扱えず、離散的な量しか扱えません。しかし実際の計算の対象は連続的な量であるのが普通です。そこで連続的な量をどのようにして離散的に扱うかが大きな問題です。Excelを用いているいろいろなケースで学習しましょう。

学習の到達目標 コンピュータでWORDとExcelは使いこなせるようになりましょう。また、情報の基礎として2進数についての演算と減算の補数加算等の学習をします。最後に少しはプログラムが書けるようになりましょう。ITパスポートや基本情報技術者の受験の最初の一歩にはなると思います。

授業計画・学習の内容

キーワード

Excelの操作、数式の入力、関数を使用して計算
度数分布、統計関数を利用した計算、各種関数のグラフ
データの回帰直線や補間の方法 (Lagangeの補間など)
距離を求めよう (常微分をルンゲクッタ公式で数値解法)
面積を求めよう (Simpsonの積分公式をVBAで)
VBAマクロについての練習

学習内容

第1講 Excelの操作、数式の入力、関数を使用して計算
第2講 .txtと.csvの保存の仕方、ASCIIコード表
第3講 バイトとビット、2の補数計算、2進と

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特にない。

予め履修が望ましい科目 特にないが、高校程度の数学

発展科目 コンピュータ関連の応用科目

教科書 プリント配布、特に教科書は定めない。

参考書 各自のレベルに合った初歩のExcelとかExcel入門など。

成績評価方法と基準 毎回の小テストやレポートは20~40%、期末の試験は60%程度。

オフィスアワー 特にないが、授業時に質問歓迎。

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果等を参考にして改善する。

16進

第4講 Excelでの演算子 (^ はべき乗)、優先順位とカッコ
第5講 度数分布、漸化式、階乗、数学関数EXPやSINでグラフ
第6講 統計関数を利用した成績表の作成
第7講 数列、ベキ関数、三角関数のグラフ
第8講 指数関数、対数関数とそのグラフ
第9講 方程式の解をExcelのグラフを使用して見つけよう
第10講 データの回帰直線を求める (Excelのグラフから自動的に)
第11講 データの補間の方法 (Lagangeの補間公式を打ち込む)
第12講 距離を求めよう、ルンゲクッタの式をVBAマクロで
第13講 面積を求めよう、Simpsonの積分公式

をVBAで

第14講 VBAマクロについての練習問題

第15講 ExcelやVBAマクロの総まとめ

第16項 試験

学習課題（予習・復習） 授業の都度、関連項目を指示する。

情報科学A (JavaScript)

Computer Science A

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle

担当教員 山守一徳 (教育学部)

授業の概要 JavaScriptを用いて、プログラミングの基礎を身に付ける。

学習の目的 簡単なプログラムによって表示されるものが変わる楽しさを知り、本格的なプログラミングの経験のない学生でも、プログラミングへの意欲を得ることができる。

学習の到達目標 JavaScriptによって作ることができるものを知り、静的なホームページから動的なホームページへ改良をすることができるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知

識・技術, 情報受発信力

教科書 高橋麻奈著、やさしいJavaScriptのきほん、SBクリエイティブ発行

参考書 クジラ飛行機・土井毅著、基本から学ぶHTML5+ JavaScript、SBクリエイティブ発行

成績評価方法と基準 毎回レポートの提出

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00、場所教育学部2号館1階第1研究室

その他 受講制限25名

授業計画・学習の内容

キーワード

コンピュータ
プログラミング
JavaScript

Key Word(s)

Computer
Programming
JavaScript

学習内容

1. 演習に向けた準備
2. JavaScriptをはじめてみよう
3. オブジェクトとは

4. 状況に応じた処理
5. 繰り返し処理
6. 配列データの活用
7. クリックで動かそう
8. スライドショーにしよう
9. 入力フォームを作ろう
10. 計算プログラムを完成させよう
11. グラフィックを描こう
12. アニメーションを作ろう
13. ペイントアプリを作ろう
14. マップを活用しよう
15. マーカーを表示しよう
16. まとめ

情報科学B (数値計算と統計処理)

Mathematical Science B

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 井岡 幹博 (非常勤講師)

授業の概要 Cプログラミングを通して、計算機におけるデータの内部表現、数値計算の初歩を実習する。

を作成できるようになる。

教科書 独習C (翔泳社)

学習の到達目標 簡単な数値計算プログラム

成績評価方法と基準 出席50%, 試験50%

授業計画・学習の内容

キーワード Cプログラミング, 数値計算, 統計処理

9. 1次元配列と文字列の扱い

10. 非線型方程式の解

11. 2分法, ニュートン方

12. 最大値, 最小値, 平均, 偏差, 分散を求める.

13. 補間

14. 連立1次方程式

15. 逆行列, 行列式

16. 試験

学習内容

1. プログラムの作成とコンパイル
2. プログラムに数値を入力する方法
3. 算術式
4. 制御文
5. 基数変換
6. 補数
7. 2進数の加減乗除
8. データ型修飾子と文字の表現

学習課題 (予習・復習) そのつど, 課題プリントを与える.

数理科学A (整数の話題から)

Mathematical Science A

学期 前期 開講時間 月 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 蟹江幸博 (非常勤講師)

授業の概要

整数の理論から興味深い数学の話題を取り上げ、講義する。

それらの数学の話題の歴史的・文化的な背景も紹介する。

学習の目的 整数と多項式に関する基本概念や原理・法則に対する理解を深め、事象を数理的に考察・表現・処理する能力を高める。

学習の到達目標

整数の理論を通して、その背景にある数学の基本概念や原理・法則が分かる。

事象を数学的論拠をもって考察・表現・処理を行う。

今後の研究や社会・日常生活に、積極的に数学を活用しようとする態度を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 討論・対話力

教科書 D.フックス, S.タバチニコフ「本格数学練習帳1ラマニユジャンの遺した関数」(岩波書店)

成績評価方法と基準 定期試験およびレポート、平常の学習態度など。

授業改善への工夫 講義中に行う演習の時間に、随時学生の要望を聞き対処する。

授業計画・学習の内容

キーワード 有理数近似, 2項係数, パスカルの三角形, 代数方程式, 方程式の根, 方程式の幾何学

Key Word(s) Approximation by rational numbers, binomial coefficients, Pascal's triangle, algebraic equation, roots of equations, geometry of equations

学習内容

[授業計画]

第1~3回: 実数を有理数で近似する

第4~6回: 2項係数とパスカルの三角形

第7~8回: 3次と4次の方程式

第9~11回: 5次方程式

第12~13回: 多項式の根の数とデカルトの規則

第14~15回: 方程式の幾何学

第16回: 期末試験

数理科学B (幾何に関する話題)

Mathematical Science B

学期 後期 開講時間 月7,8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業 担当教員 蟹江幸博 (非常勤講師)

授業の概要 幾何の様々な話題を巡って、数学の議論の進め方、発想の展開の仕方に接する。

学習の目的 さまざまな幾何、特に曲面や、曲線を変形して、見えているものの背後にある法則性に触れる。また、カスプがいたるところにあるという、興味深い事実を学ぶ。

学習の到達目標 日頃目にする図形が、なぜそのように見えるのか、背後にある理論、構造などの深さを理解できるようになり、さら

に自分で探求を進められるようにする。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 討論・対話力

成績評価方法と基準 講義中に課される演習問題のレポートと、期末試験と授業態度を総合して評価する。

授業改善への工夫 講義中に行う演習の時間に、随時学生の要望を聞き対処する。

その他

授業計画・学習の内容

キーワード 4頂点定理, カスプ, 直線族, 平面曲線, 組み合わせ論的公式, メビウスの帯

学習内容

授業内容

[授業計画]

第1回-第3回 4頂点定理

第4回-第6回 領域を切り分ける直線族

第7回-第9回 平面曲線に関する組み合わせ論的公式

第10回-第12回 1枚の紙を折り曲げて作る曲面

第13回-第15回 メビウスの作った曲面

第16回 試験

学習課題 (予習・復習)

数理科学C (微分方程式の話題)

Mathematical Science C

学期 後期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 肥田野 久二男 (教育学部)

授業の概要 1変数関数の微分と2変数関数の偏微分を学習済みまたは学習中の学生を対象に、いろいろな微分方程式の導出とその解法に関して解説します。

学習の目的 自然現象から物理法則を経由して微分方程式は導かれます。微分方程式の解によって、その現象は記述されるともいえます。微分方程式を解くために、古くから数学者たちは方法を考案してきました。本講義では、いくつかの比較的単純な場合に、物理法則を経由して微分方程式が導かれる様子に触れてほしいと思います。そのあとで、求積法、定数変化法、フーリエの方法などを駆使して、微分方程式を実際に解いてみます。

学習の到達目標 微分方程式が物理法則から導かれることを理解して、微分方程式の解を求めるために考案された方法を実際に使えるようになることが学習の到達点になります。

本学教育目標との関連 感性, 幅広い教養, 専

授業計画・学習の内容

キーワード 微分方程式の導出とその解法

Key Word(s) Derivation of ordinary differential equations and partial differential equations. Methods for solving ordinary differential equations and partial differential equations.

学習内容

1. 物理現象のモデル化。常微分方程式の例とその解法 (第1回~7回)
2. 熱の伝導と波の伝播。熱方程式と波動方程

門知識・技術, 論理的思考力, 批判的思考力

受講要件 受講生は1変数関数の微分と2変数関数の偏微分を知っていることを前提として講義します。

予め履修が望ましい科目 「基礎微分積分学 I」は履修済みで、「基礎微分積分学 II」を履修中または履修済みであることが望まれます。

参考書

「数理物理の微分方程式」(望月清・I.トルシン共著、培風館)

「偏微分方程式入門」(神保秀一著、共立出版)

成績評価方法と基準 試験による。ただし、講義への出席状況や受講態度等も考慮して総合的に評価します。

その他 毎回、出席をとります。無断で欠席をすると、期末試験を受けられません。

式の導出。フーリエの方法による解法 (第8回~第15回)

3. 試験 (第16回)

なお、これは予定であり、受講生の状況等により変更する場合があります。

学習課題 (予習・復習) 理解を深めるために、簡単な練習問題を課すことがあります。十分な時間をかけて問題を解き、理解を深めることが求められます。

数理学D (グラフ理論)

Mathematical Science D

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 石谷 寛

授業の概要

有限グラフの理論から興味深い数学の話題を取り上げ、講義する。
それらの数学の話題の歴史的・文化的な背景・応用例も紹介する。

学習の目的 有限グラフの理論に関する基本概念や原理・法則に対する理解を深め、事象を数理的に考察・表現・処理する能力を高める。

学習の到達目標

有限グラフの理論を通して、その背景にある数学の基本概念や原理・法則が分かる。

、事象を数学的論拠をもって考察・表現・処理を行う。
今後の研究や社会・日常生活に、積極的に数学を活用しようとする態度を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

参考書 「やさしくくわしいグラフ理論入門」、オイステン・オア

成績評価方法と基準 定期試験およびレポート、平常の学習態度など。

授業計画・学習の内容

キーワード 有限グラフ、ケーニヒスベルグの橋、平面グラフ、電気回路、パズル、木、オイラーの定理

学習内容

[授業計画]

第1～3回：グラフとは何か、完全グラフ、同型グラフ、平面グラフ、区間グラフ

第4～6回：連結グラフ、連結成分、ケーニヒスベルグの橋、オイラーグラフ
第7～8回：木、木と林、サイクルと木、旅するセールスマン問題
第9～11回：マッチング
第12～13回：ゲームとパズル
第14～15回：平面的グラフ
第16回：期末試験

数理学D (グラフ理論)

Mathematical Science D

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle

担当教員 石谷 寛

授業の概要

有限グラフの理論から興味深い数学の話題を取り上げ、講義する。

それらの数学の話題の歴史的・文化的な背景・応用例も紹介する。

学習の目的 有限グラフの理論に関する基本概念や原理・法則に対する理解を深め、事象を数理的に考察・表現・処理する能力を高める。

学習の到達目標

有限グラフの理論を通して、その背景にある数学の基本概念や原理・法則が分かる。

、事象を数学的論拠をもって考察・表現・処理を行う。

今後の研究や社会・日常生活に、積極的に数学を活用しようとする態度を身につける。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力

参考書 「やさしくくわしいグラフ理論入門」、オイステン・オア

成績評価方法と基準 定期試験およびレポート、平常の学習態度など。

授業計画・学習の内容

キーワード 有限グラフ、ケーニヒスベルグの橋、平面グラフ、電気回路、パズル、木、オイラーの定理

学習内容

[授業計画]

第1～3回：グラフとは何か、完全グラフ、同型グラフ、平面グラフ、区間グラフ

第4～6回：連結グラフ、連結成分、ケーニヒスベルグの橋、オイラーグラフ

第7～8回：木、木と林、サイクルと木、旅するセールスマン問題

第9～11回：マッチング

第12～13回：ゲームとパズル

第14～15回：平面的グラフ

第16回：期末試験

数理科学G (数学書の輪読と発表)

Mathematical Science G

学期 前期 開講時間 月 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 演習 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 蟹江幸博 (非常勤講師)

授業の概要 整数や幾何の話題について、グループに分かれてテキストを読み、発表する。

学習の目的 整数や幾何の話題に関する数学に親しみ、その考え方を理解する。

学習の到達目標 整数や幾何の話題に関する数学の入門的部分の知識と、考え方を身に付ける。

本学教育目標との関連 モチベーション, 主体

的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

教科書 M.アイグナー, G.M.ツィーグラー「天書の証明」(丸善出版)

成績評価方法と基準 発表の準備、発表のまとめ方、熱意。

授業改善への工夫 講義中に行う演習の時間に、随時学生の要望を聞き対処する。

授業計画・学習の内容

キーワード 整数と幾何に関する数学

Key Word(s) Mathematics on Integers and Geometry

学習内容

グループに分かれて、テキストの分担部分の

内容(および自分たちで考えたこと)を発表する。

分担については、最初の講義の際に、教科書を読み合わせながら、希望の箇所を選択する。

数理科学H (やさしい統計学)

Mathematical Science H

学期 前期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **担当教員** 石谷 寛 (非常勤講師)

授業の概要 統計学入門としてのデータの整理、確率分布、標本分布、推定を講義し、更に理解を深めるため演習も補う。

学習の目的 統計学におけるデータ処理と分析の方法を理解し、修得する。

学習の到達目標 統計学の基礎的知識を修得し、世論調査や視聴率調査など各種調査の数値のあいまいさについて理解できるようになる。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

発展科目 確率・統計学

教科書 開講時に発表します。

成績評価方法と基準 レポートの内容と試験の結果を総合して評価する。

授業改善への工夫 授業についての意見・感想は適宜受け入れ、改善への工夫をする。

授業計画・学習の内容

キーワード 平均、分散、回帰直線、相関係数、確率分布、正規分布、標本分布、推定

学習内容

第1回 ガイダンス (統計学の概要)

第2回 データの整理

第3回 平均と分散

第4回 偏差値、チェビシェフの不等式

第5回 相関係数と回帰直線 (その1)

第6回 相関係数と回帰直線 (その2)

第7回 集合と事象、確率

第8回 確率変数と確率分布

第9回 2項分布

第10回 ポアソン分布等

第11回 正規分布

第12回 正規分布の応用

第13回 標本分布

第14回 推定の考え方、点推定

第15回 母平均の区間推定

第16回 まとめと試験

数理科学H (やさしい統計学)

Mathematical Science H

学期 後期 **開講時間** 水 3, 4 **単位** 2 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** 能動的要素を加えた授業, キャリア教育の要素を加えた授業 **担当教員** 石谷 寛 (非常勤講師)

授業の概要 統計学入門としてのデータの整理、確率分布、標本分布、推定を講義し、更に理解を深めるため演習も補う。

識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力

学習の目的 統計学におけるデータ処理と分析の方法を理解し、修得する。

発展科目 確率・統計学

学習の到達目標 統計学の基礎的知識を修得し、世論調査や視聴率調査など各種調査の数値のあいまいさについて理解できるようになる。

教科書 開講時に発表します。

成績評価方法と基準 レポートの内容と試験の結果を総合して評価する。

本学教育目標との関連 幅広い教養, 専門知

授業改善への工夫 授業についての意見・感想は適宜受け入れ、改善への工夫をする。

授業計画・学習の内容

キーワード 平均、分散、回帰直線、相関係数、確率分布、正規分布、標本分布、推定

学習内容

第1回 ガイダンス (統計学の概要)

第2回 データの整理

第3回 平均と分散

第4回 偏差値、チェビシェフの不等式

第5回 相関係数と回帰直線 (その1)

第6回 相関係数と回帰直線 (その2)

第7回 集合と事象、確率

第8回 確率変数と確率分布

第9回 2項分布

第10回 ポアソン分布等

第11回 正規分布

第12回 正規分布の応用

第13回 標本分布

第14回 推定の考え方、点推定

第15回 母平均の区間推定

第16回 まとめと試験

PBL数理科学（現代科学）Ⅰ・Ⅱ（数学の楽しみ） PBL seminar I、II

学期 前期 開講時間 月 5, 6; 水 9, 10 単位 4 授業の特徴 PBL, Moodle

担当教員 新田 貴士（教育学部）

授業の概要 高校数学を補充しながら、具体的数理モデルをPBLセミナー形式で学習する。

園子(著)共立出版)、その他は講義の際に紹介する。

学習の到達目標 高校数学を補充しながら、具体的数理モデルをPBLセミナー形式で学習する過程で、本学の基本方針の4つの力を身につける。

成績評価方法と基準 発表、出席、レポートによる。

教科書 やさしく学べる微分方程式、(石村

オフィスアワー 月曜日 12:00-13:00、水曜日 12:00-13:00、新田研究室。

授業計画・学習の内容

キーワード PBL、微分積分、微分方程式

進度に合わせて、内容は変更する。

学習内容 高校数学を補充しながら、微分積分モデルをPBLセミナー形式で学習する。学習

学習課題（予習・復習） 講義の際にPBL形式に合わせて提示する。

物理学 (自然観の発展)

Topics in Physics

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 松島 武男

授業の概要 物理の話題からの講義

受講要件 特になし

学習の目的 文系の学生も含めて物理学とはどういうものを理解してもらうことを目的とする。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 古典力学

学習の到達目標 古代ギリシャ時代からニュートン力学の形成までを歴史的に考察し、科学的認識とはどういうものを理解すること。

教科書 なし

成績評価方法と基準 期末試験100%

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

授業改善への工夫 学生の授業評価アンケートの結果を考慮して授業改善を行っている。

その他 自然に対する「感じる力」=50% 論理的に「考える力」=50%

授業計画・学習の内容

キーワード 自然観, 天文学, 力学, 原子・分子, 原子核, クォーク

5 コペルニクス, ケプラーの天体運動論

6 ガリレイの落体運動論

7 ニュートンによる力学の基礎の確立

8 ドルトンの原子仮説

学習内容
古代ギリシャ時代から現代に至るまで広く話題を取り上げて、人間の自然観がどのように変化発展してきたかを探る。

1 はじめに

2 古代ギリシャ時代の自然観

3 アリストタルコスの地動説

4 エラトステネスによる地球半径の測定

9 アヴォガドロの分子仮説

10 電子の発見

11 ラザフォード散乱と原子の構造

12 原子核反応

13 ゲルマンのクォーク模型

14 究極の粒子とは何か

15 まとめ

化学A (化学の特徴の理解)

Chemistry A

学期 前期 開講時間 木 9, 10 単位 2 選/必 選択 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 工学研究科分子素材工学専攻教員、○橋本 忠範 (工学研究科分子素材工学専攻)

授業の概要 化学に関するトピックスや最新の研究について、オムニバス形式の講義で学習する。また、その理解のために、基礎知識や化学的な見方について、学習する。

学習の目的 化学関連の事象や話題について、理解できる。さらに、化学の知識に基づいた解釈の仕方や見方を身につける。

学習の到達目標 常に、知的好奇心を持ち続け、最近の化学に関するトピックスについて理解できる。

本学教育目標との関連 幅広い教養

参考書 必要に応じて、講義中に紹介します。

成績評価方法と基準 欠席4回以下を前提とし、講義に関する学習状況と最終レポートに基づいて、総合的に評価します。

オフィスアワー 月曜日～金曜日12:00～12:50
工学研究科担当教員室

授業改善への工夫 講義だけではなく、報道ニュース等でわからないことがあれば、積極的に質問することを歓迎します。

その他 市民開放10人まで

授業計画・学習の内容

キーワード 化学・物質・原子・分子

Key Word(s) Chemistry, Substance, Atom, Molecule

学習内容

本講義は、工学研究科分子素材工学専攻の8分野(有機機能化学、レーザー光化学、分析環境化学、有機素材化学、無機素材化学、高分子設計化学、有機精密化学、エネルギー変換化学)の教員によって、化学のトピックスや最新の研究の概要を説明します。

第一回 有機素材化学の提供する話題

第二回 無機素材化学の提供する話題

第三回 高分子設計化学の提供する話題

第四回 有機精密化学の提供する話題

第五回 エネルギー変換化学の提供する話題

第六回 有機機能化学の提供する話題

第七回 レーザー光化学の提供する話題

第八回 分析環境化学の提供する話題

第九回 有機素材化学の提供する話題

第十回 無機素材化学の提供する話題

第十一回 高分子設計化学の提供する話題

第十二回 有機精密化学の提供する話題

第十三回 エネルギー変換化学の提供する話題

第十四回 有機機能化学の提供する話題

第十五回 レーザー光化学の提供する話題

これまでに講義で取り上げたトピックス:

太陽電池・シリコン結晶・プラズマ分解

ニューガラス・ガラスファイバー

鉱物・石英・人工水晶・蛍石・磁鉄鉱・イエローダイヤモンド・ブルーダイヤモンド・レアメタル

日本人のノーベル化学賞受賞研究・ポリアセチレン・パラジウム触媒

医薬品の有機合成・フッ素化学

フラーレン・カーボンナノチューブ

高分子化学・液晶・液晶ディスプレイ・有機ELディスプレイ

グリーンケミストリー・環境にやさしい生分解性プラスチック

放射線化学

学習課題(予習・復習) 各自が興味を持った内容に関して、さらに勉強し、最終レポートにまとめてください。

化学A (化学の基礎と話題)

Chemistry A

学期 後期 開講時間 水 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 野本建雄(三重大学名誉教授)

授業の概要 化学の基礎を学ぶと共に、身の回りの化学現象や化学の話題、化学と物質文明との関係などを学ぶ。

学習の目的 理系の人は化学の最小限の基礎を学び、文系の人でも大学教養としての化学的な見方、考え方を身に付け、文系理系の誰もが、化学の奥深さを垣間見ることで、その面白さを知り、身の回りの化学現象や、話題に興味を持ち、現代文明と化学の関係を理解できるようになること。

学習の到達目標 現代の科学観と化学的思考を学ぶことで、身の回りの化学現象を説明できるようになること。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 学部専門科目の物理化学、無機化学、有機化学、生化学など。

授業計画・学習の内容

キーワード 化学史、原子の構造、放射能、原子の電子配置、化学結合、分子間力、物質の状態、エンタルピー、エントロピー、有機化合物、高分子、アミノ酸、タンパク質、遺伝情報、環境問題

Key Word(s) Chemical history, Atomic structure, Radioactivity, Electronic structures of atoms, Chemical bonds, Intermolecular forces, States of matter, Enthalpy, Entropy, Organic compounds, Polymers, Amino acids, Proteins, Genetic code, Chemistry and Environment.

学習内容

参考書

- ・今西、金子、小塩、湊元、八谷 編著「わかる理工系のための化学」共立出版
- ・久保田真理 「興味が湧き出る化学結合論：基礎から論理的に理解して楽しく学ぶ」共立出版
- ・齋藤太郎 「化学の基本概念: 理系基礎化学」裳華房

成績評価方法と基準 期末試験(又はレポート)と受講態度。期末試験にするかレポートにするかは、学生数や受講態度等によって決め、最終回の授業までに連絡する。

オフィスアワー 初回に連絡する。

授業改善への工夫 可能であれば、ビデオを使って理解を深める。積極的な質問を歓迎し、またミニレポートを課すこともある。これらによって授業改善を図る。

その他 化学に関することであれば、どのような質問でも歓迎します。それにより、シラバス以外でも講義します。プリントを配布するなど、参考書なしでも理解できるようにします。文系の方でも充分理解できるように配慮しますので、文系の方も大いに歓迎します。

- (1)化学とは(化学史、原子と分子、単位、モル)
- (2)放射能(放射線と単位、生体への影響)
- (3) 元素の誕生(物質の階層構造と化学)
- (4)原子の構造
- (5)電子配置と周期表
- (6) 色について(物はなぜ見えるか))
- (7)化学結合と分子間力
- (8)物質の状態(三態、超臨界状態)
- (9)物質の変化(エンタルピーとエントロピー)
- (10)炭素の化学 (有機物、高分子)
- (11)アミノ酸とタンパク質
- (12)核酸と遺伝情報

(13)物質文明と環境問題。

これら全てを講義する時間は無いので、受講生の構成(学部、学科)を考慮して、この内の8割程度を選択講義する。これ以外でも要望が

あれば、それを取り上げて、講義する。

学習課題（予習・復習） 予習よりも、復習は必ず行い、不明な点は次回に質問すること。

化学B (遺伝子工学と抗体工学)

Chemistry B

学期 後期 開講時間 水 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 富田昌弘(工学部)

授業の概要

遺伝子工学の発展とその役割に関し、現在のトピックスを踏まえ講述する。

組換えDNA技術の基礎とその応用および社会における役割について理解する。

抗体の産生機構、モノクローナル抗体作製法などの抗体工学に関して講述する。

授業での基礎的事項に基づき、受講生によるセミナー形式の授業を行う。

学習の目的 遺伝子工学および抗体工学に関する基礎的事項を学習し、バイオテクノロジーに関する知識を修得する。

学習の到達目標 遺伝子工学および抗体工学の基礎を修得すると共に、セミナー発表による学習の向上、発表における質疑応答の重要性について学ぶ。

授業計画・学習の内容

キーワード 遺伝子工学および抗体工学の発展とその役割

学習内容

- 第1回 DNAおよびRNAの構造と機能
- 第2回 転写、翻訳
- 第3回 組換えDNA技術の概要および応用
- 第4回 遺伝子のクローニング
- 第5回 塩基配列決定方法
- 第6回 ポリメラーゼ連鎖反応 (PCR法)
- 第7回 抗体産生機構
- 第8回 モノクローナル抗体の作製方法
- 第9回 酵素免疫測定(ELISA)法
- 第10回 セミナー発表および質疑応答
- 第11回 セミナー発表および質疑応答
- 第12回 セミナー発表および質疑応答
- 第13回 セミナー発表および質疑応答

本学教育目標との関連 モチベーション、主体的学習力、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、批判的思考力、討論・対話力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 プリント配布および適宜紹介する。

成績評価方法と基準 セミナー発表50%、出席10%、レポート20%、質疑応答を含む授業態度20%

オフィスアワー 水曜日 12:00~13:00 第1合同棟4階 富田教室室7412

授業改善への工夫 授業に関する意見、感想に基づき柔軟に対応する。

- 第14回 セミナー発表および質疑応答
- 第15回 セミナー発表および質疑応答
- 第16回 まとめ

学習課題 (予習・復習)

- 第1回 予習:核酸について
- 第2回 予習:セントラルドグマについて
- 第3回 予習:制限酵素について
- 第4回 予習:プラスミドベクターについて
- 第5回 予習:サンガー法について
- 第6回 予習:DNA合成酵素について
- 第7回 予習:脊椎動物の免疫機構について
- 第8回 予習:ハイブリドーマ作製法について
- 第9回 予習:抗原抗体反応について
- 第10回~第15回 予習:各セミナー担当者の発表準備および発表原稿(A3サイズ、1枚)の作成
- 第16回 予習:特になし

化学 B (先端医療工学を学ぶ)

Chemistry B

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 選/必 選択

担当教員 ○堀内 孝 (工学部) , 宮本 啓一 (工学部)

授業の概要 豊かな未来社会は健全な社会の熟成のみならず個人の健康に負うところが大きい。健康を損ねた体を人工的に置換したり、再生を促進したりする医療技術の発展は驚くばかりである。この学際的領域を工学、医学、社会等多面的に捉え、将来の姿を受講者と共に考察する。

学習の到達目標 調査研究力とプレゼンテーション力を培う。

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 生体材料化学、生体材料物性学

教科書 「人工臓器はいま」 (日本人工臓器学会編、はる書房)

成績評価方法と基準 出席 (15%) 課題に対するプレゼンテーション (60%) 質疑応答 (15%) レポート (20%)

オフィスアワー 基本的には講義、出張以外の居室時。工学部・第一合同棟5F・生体材料化学ゼミ室

授業改善への工夫 教師から学生への一方的な講義形式ではなく、課題提示型の授業進行を行うことで授業改善に対処する。

授業計画・学習の内容

キーワード 先端医療工学

Key Word(s) advanced biomedical engineering

学習内容

教科書に記述してある内容に基づき、それぞれの人工臓器に対し教員側から幾つかの課題を課す。学生は、その具体的課題を調べプレゼンテーションを行い、それに基にディスカッション形式で授業を進める。

第1回オリエンテーション

第2回人工臓器アラカルト

第3回循環器系人工臓器 (1) ペースメーカー・人工弁

第4回循環器系人工臓器 (2) 補助循環・人工心臓

第5回循環器系人工臓器 (3) 人工心臓・人工肺

第6回代謝系人工臓器 (1) 人工臓器

第7回代謝系人工臓器 (2) 人工肝臓

第8回代謝系人工臓器 (3) 人工脾臓

第9回感覚系人工臓器 (1) 眼内レンズ

第10回感覚系人工臓器 (2) 人工内耳

第11回感覚系人工臓器 (3) 人工神経・視覚

第12回材料系人工臓器 (1) 人工関節

第13回材料系人工臓器 (2) 人工骨

第14回材料系人工臓器 (3) 人工皮膚

第15回次世代型人工臓器

生物学 (環境と生物)

Biology

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 鈴木 直之(教養教育機構)

授業の概要 地球環境問題について種々の見方があることを披露し、マスコミ報道等の情報を鵜呑みにするのではなく、それらについて自分自身で考えることにより、正確な情報を選別させる。また、木材をはじめとする森林資源は、その蓄積量、循環可能性、多様な用途から言って、21世紀の有望な資源として多方面から注目されている理由を理解させる。

学習の目的 木材をはじめとする各種資源の現状を把握するとともに、それらを有効利用し、地球環境への負荷を低減するために何をしなければならぬかを認識する

学習の到達目標 地球環境について現状を把握し、将来どのように行動すべきかを正しく選択できる能力を身につけさせる。

本学教育目標との関連 倫理観, 問題解決力,

社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 授業中に適宜示す。

成績評価方法と基準 原則として毎回行う小レポートによって行う。ただし、必要に応じて期末テストを行う場合がある(期末テストを行う場合は総点の30%とする)。

オフィスアワー 鈴木 金曜日12:10~13:00 605 室

授業改善への工夫 問題を提起しそれらについての受講生に意見を述べさせ授業内容の理解を深める。

授業計画・学習の内容

キーワード 森林 木材 地球環境問題 資源

Key Word(s) Forest, Wood, Global- environment, Resource

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 森林と海のつながり
- 第3回 地球環境問題
- 第4回 地球温暖化の真偽
- 第5回 エネルギーと環境
- 第6回 資源と環境 I
- 第7回 資源と環境 II

第8回 資源と環境 III

第9回 資源と環境 IV

第10回 環境と健康

第11回 木質資源のリサイクル

第12回 生物体としての木材

第13回 木材と居住環境

第14回 樹木の遺伝子工学研究の現状

第15回 教育と木材・総括

第16回 定期試験

学習課題 (予習・復習) 毎回問題意識をもって授業にのぞむこと。

生物学 (教養としての生物学)

Biology

学期 前期 開講時間 火 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 担当教員 浅原 正和

授業の概要 生物学全体について基本的な知識と考え方を学びます。高校で生物学を履修していない学生に対して配慮した構成としています。

学習の目的 現代の社会には再生医療の発展や環境問題、遺伝子組み換え作物の普及、バイオ燃料の利用など、生物学の基礎知識なくしては理解できない諸問題があふれています。そのような社会で活躍していく皆さんの基礎教養として、マクロからミクロまで、生物学全体の基本的な知識と考え方を学んでいこうと思います。

学習の到達目標 生物学全般について基本的な知識と考え方を身に付け、説明できるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎生物学

Key Word(s) Essential biology

学習内容

- 第1回 『生物学の考え方』 オリエンテーション
- 第2回 『生命とは』 生命とは何かを考えてみましょう
- 第3回 『体をつくり、エネルギーを生み出すしくみ』 生き物の代謝について学びます
- 第4回 『動植物のからだとそれを構成する物質』 生き物は何からできているかを考えます
- 第5回 『遺伝子とは』 遺伝子の仕組みについて考えます
- 第6回 『遺伝の法則』 さまざまな遺伝する形質について考えます
- 第7回 『生物の感覚』 生き物が外界を認識するしくみについて考えます
- 第8回 『生物の行動』 生き物の行動と、それ

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、生物学の考え方を理解することを重視してください。

- を制御するしくみについて考えます
- 第9回 『生き物の名前はどうか決められている?』 生物の分類学をその歴史を踏まえて概観します
- 第10回 『生物の進化1』 進化論の起こりと、生命の進化の歴史を概観します
- 第11回 『生物の進化2』 生命の進化の歴史とさまざまな進化の事例について考えます
- 第12回 『生物間の相互作用と自然環境保護』 生物の相互関係と、ヒトと自然の関係について考えます
- 第13回 『生物の地理的分布』 生き物はどうして限られたエリアに住むのか、その原因を考えます
- 第14回 『骨格と筋肉』 脊椎動物の体について、その進化をふまえて考えます
- 第15回 『まとめ』 全体をおさらいします (試験)

生物学 (教養としての生物学)

Biology

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 担当教員 浅原 正和

授業の概要 生物学全体について基本的な知識と考え方を学びます。高校で生物学を履修していない学生に対して配慮した構成としています。

学習の目的 現代の社会には再生医療の発展や環境問題、遺伝子組み換え作物の普及、バイオ燃料の利用など、生物学の基礎知識なくしては理解できない諸問題があふれています。そのような社会で活躍していく皆さんの基礎教養として、マクロからミクロまで、生物学全体の基本的な知識と考え方を学んでいこうと思います。

学習の到達目標 生物学全般について基本的な知識と考え方を身に付け、説明できるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎生物学

Key Word(s) Essential biology

学習内容

- 第1回 『生物学の考え方』 オリエンテーション
- 第2回 『生命とは』 生命とは何かを考えてみましょう
- 第3回 『体をつくり、エネルギーを生み出すしくみ』 生き物の代謝について学びます
- 第4回 『動植物のからだとそれを構成する物質』 生き物は何からできているかを考えます
- 第5回 『遺伝子とは』 遺伝子の仕組みについて考えます
- 第6回 『遺伝の法則』 さまざまな遺伝する形質について考えます
- 第7回 『生物の感覚』 生き物が外界を認識するしくみについて考えます
- 第8回 『生物の行動』 生き物の行動と、それ

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、生物学の考え方を理解することを重視してください。

を制御するしくみについて考えます

第9回 『生き物の名前はどうか決められている?』 生物の分類学をその歴史を踏まえて概観します

第10回 『生物の進化1』 進化論の起こりと、生命の進化の歴史を概観します

第11回 『生物の進化2』 生命の進化の歴史とさまざまな進化の事例について考えます

第12回 『生物間の相互作用と自然環境保護』 生物の相互関係と、ヒトと自然の関係について考えます

第13回 『生物の地理的分布』 生き物はどうして限られたエリアに住むのか、その原因を考えます

第14回 『骨格と筋肉』 脊椎動物の体について、その進化をふまえて考えます

第15回 『まとめ』 全体をおさらいします (試験)

生物学 (教養としての生物学)

Biology

学期 前期 開講時間 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義
担当教員 浅原 正和

授業の概要 生物学全体について基本的な知識と考え方を学びます。高校で生物学を履修していない学生に対して配慮した構成としています。

学習の目的 現代の社会には再生医療の発展や環境問題、遺伝子組み換え作物の普及、バイオ燃料の利用など、生物学の基礎知識なくしては理解できない諸問題があふれています。そのような社会で活躍していく皆さんの基礎教養として、マクロからミクロまで、生物学全体の基本的な知識と考え方を学んでいこうと思います。

学習の到達目標 生物学全般について基本的な知識と考え方を身に付け、説明できるようになることを目標とします。

授業計画・学習の内容

キーワード 基礎生物学

Key Word(s) Essential biology

学習内容

- 第1回 『生物学の考え方』 オリエンテーション
- 第2回 『生命とは』 生命とは何かを考えてみましょう
- 第3回 『体をつくり、エネルギーを生み出すしくみ』 生き物の代謝について学びます
- 第4回 『動植物のからだとそれを構成する物質』 生き物は何からできているかを考えます
- 第5回 『遺伝子とは』 遺伝子の仕組みについて考えます
- 第6回 『遺伝の法則』 さまざまな遺伝する形質について考えます
- 第7回 『生物の感覚』 生き物が外界を認識するしくみについて考えます
- 第8回 『生物の行動』 生き物の行動と、それ

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、生物学の考え方を理解することを重視してください。

を制御するしくみについて考えます

第9回 『生き物の名前は どう決められている?』 生物の分類学をその歴史を踏まえて概観します

第10回 『生物の進化1』 進化論の起こりと、生命の進化の歴史を概観します

第11回 『生物の進化2』 生命の進化の歴史とさまざまな進化の事例について考えます

第12回 『生物間の相互作用と自然環境保護』 生物の相互関係と、ヒトと自然の関係について考えます

第13回 『生物の地理的分布』 生き物はどうして限られたエリアに住むのか、その原因を考えます

第14回 『骨格と筋肉』 脊椎動物の体について、その進化をふまえて考えます

第15回 『まとめ』 全体をおさらいします
(試験)

自然科学概論 (森は生きている)

Lecture Course in Natural Science

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 演習

担当教員 沼本 晋也 (生物資源学部)

授業の概要 源流域の森林環境の成り立ちや仕組みを理解し、流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、附带施設演習林において2泊3日の実地演習・講義を実施する。

学習の目的 森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場で山地・森林・溪流の意義を理解する。

学習の到達目標 演習林内で2泊3日の学習をとおして、森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、モチベーション、心身の健康に対する意識、幅広い教養、課題探求力、批判的思考力、討論・対話力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 学生教育研究災害障害保険に加入すること。

教科書 必要に応じ資料等を配布する。

成績評価方法と基準 演習への取り組み態度(50%)、レポート(50%)。

オフィスアワー 集中講義期間中随時、後日Eメール対応も可。

授業改善への工夫 各自が多様な森林環境を観察できるよう野外(森林内)での見学学習に時間をとり、解説内容の改善を図る。

その他

山歩きができる服装・靴で参加して下さい。また、天候の急変に備え雨具・防寒も十分に考慮して下さい。警報発令時は大学の基準により対応します。

夏期休暇中に2泊3日で実施。受講人数制限(20名)

環境教育に関連した科目。

授業計画・学習の内容

キーワード テーマ：森は生きている。演習林、天然生林、人工林、源流域、環境保全

Key Word(s)

university forest, natural forest, man-made forest, headwater, environmental conservation

学習内容

1日目:

演習林の概要、宿舍利用に関する注意事項の説明

森林の多面的機能についての林内学習

2日目:

人工林の自然災害・溪流沿いの土砂災害調査
天然生林・二次林の林分構造と植生調査, 人工林保育現場の観察

映画「WOODJOB!」ロケ撮影と日本の森林・林業の課題解説

3日目

森林環境調査

レポート作成

学習課題 (予習・復習)

課題

- ・自然状態の森林の成り立ちや構造、人工林の目的や保育方法を理解する
- ・源流の森林が環境保全に果たす役割を理解する

- ・日本の森林と林業の現状と課題を理解する

予習・復習
森林・環境保全に関する話題や時事問題について調べておくこと。

※映画「WOODJOB!」のロケ地となった当演習林を見学します。

以下を見ておくことをお勧めします。

- 1) 三浦しん著「神去なあなあ日常」
- 2) 映画「WOODJOB!」, のDVDまたはBD。

自然科学概論 (食物の健康への影響)

Lecture Course in Natural Science

学期 前期 開講時間 月3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 ○奥村克純(生物資源学部), 田口 寛(非常勤講師), 高瀬 幸次郎(非常勤講師)

授業の概要 がんを始めとする厄介な生活習慣病は、若年からの食生活を中心とする生活習慣が悪いために発症するものが大部分であり、現在の日本における年間30兆円を越える医療費も、これらの病気によることが多い。そこで、このような病気の予防法や健康増進法などについて、特に食物との関係で詳細に解説する。

学習の目的 がんや生活習慣病の予防法や健康増進法についての知識を得る。また、健康食品などについて批判できる力を養う。

学習の到達目標 本授業を履修することによって、すでに大学生の頃から生活習慣病の予防に努力しないといけないことが理解でき、中高年になってからの生活習慣病の予防や健康増進に非常に役立つ。また、健康食品などについてある程度批判できるようになる。

本学教育目標との関連 倫理観, 心身の健康に

対する意識, 幅広い教養, 批判的思考力, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

発展科目 生化学, 予防医学, 各種生活習慣病に関係する科目など

教科書

<http://hiroshi-t.com/the-secret-to-healthy-long-life.pdf>

をダウンロード・プリントして持参のこと

成績評価方法と基準 レポート100%

オフィスアワー 毎週:月曜日12:00~13:00、生物資源学部755室

授業改善への工夫 各種プレゼンや板書を、より見やすくする。毎回、出席調査票を配布し、質問・意見・希望なども記入してもらうので、可能な限り、それに対応した改善を行う。

授業計画・学習の内容

キーワード 食物による生活習慣病の予防など

Key Word(s) life-style diseases, cancer

学習内容

第1週と第2週: 「食物と健康」のガイダンスと疾病予防・健康増進に関する全体的な概論
第3週: 発がんの分子メカニズムについて
第4週: さまざまな発がん要因について
第5週: 一般的ながん予防法について
第6週: ビタミンを中心とするがん予防法について

第7週と第8週: 個々の生活習慣病の実際の症例をスライドで呈示し、疾患の恐ろしさについて解説する

第9週: 臨床検査の意義について

第10週と11週: 各種の生活習慣病に対する食事療法について

第12週: 酒、煙草、コ-ヒ-などの嗜好品のメリット、デメリットについて、およびストレスと疾患の関係について

第13週: 食物と遺伝子と生活習慣病

第14週と第15週: 食物と健康について受講生諸君との討論と全体のまとめ

自然科学概論 (生物進化)

Lecture Course in Natural Science

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 Moodle
担当教員 高松 進(生物資源学部)

授業の概要 DNAは生命の誕生以来30億年以上にわたって生物に受け継がれており、DNAを解析することで生物進化の歴史を従来よりも格段に高い精度で明らかにすることができる。このような学問は分子系統進化学と呼ばれ、近年急速に発達しつつある新しい学問分野である。本講義の前半は、分子系統学の基本原理を講義し、後半はコンピュータを用いてDNAデータから系統樹を作る作業を実習する。

学習の目的 20世紀後半に発展した分子系統学的手法により、生物の進化や系統に関する理解、知識が大きく変化する事になった。本講義ではDNAの塩基配列やアミノ酸配列データを使ってなぜ生物進化が研究できるのかについて基礎的な知識を教授するとともに、コンピュータを用いて実際の塩基配列データから生物系統樹を導くための演習を行う。

学習の到達目標

- ・ダーウインの進化論と木村資生の中立説の違いを理解することができる。
- ・DNAデータを用いて生物系統樹を作成する方法および原理が理解できる。
- ・分子系統学によって明らかになりつつある生物進化に関する新しい知識を得ることができる。

本学教育目標との関連 感性,モチベーション,主体的学習力,幅広い教養,論理的思考力,批判的思考力,討論・対話力,感じる力,考える力,コミュニケーション力を総合した力

受講要件

授業計画・学習の内容

キーワード DNA 塩基配列 系統解析 生物進化

Key Word(s)

DNA , Nucleotide Sequence, Phylogenetic analysis , Evolution

学習内容

高校で生物IIを履修していること。
実習でコンピュータを使うので、無線LAN内蔵のコンピュータを持っていること。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 特になし。

参考書

「新しい分子進化学入門」宮田 隆著、岩波書店

「生物進化を考える」木村資生著、岩波新書

「DNAから見た日本人」斎藤成也著、ちくま新書

「DNA」James Watson著、講談社ブルーバックス

「ミトコンドリアはどこから来たかー生命40億年を遡る」黒岩常祥著、NHKブックス

「分子進化のほぼ中立説」太田朋子著、講談社ブルーバックス

成績評価方法と基準 中間試験30%、レポート40%、受講態度30%、計100%（合計が60%以上で合格）

オフィスアワー 毎週水曜日12時～13時、場所生物資源学部校舎562号室

授業改善への工夫 毎週質問用紙を配り、寄せられた質問に次回講義までに赤ペンで返事を書くことにより学生とのコミュニケーションを図る。

その他 レポートや試験を多く課すので、単位を取るのは大変です。本当に生物進化に興味があり、やる気のある人のみ受講可能。

- 1) 生物多様性とは
- 2) 自然選択説と中立説
- 3) 分子進化のしくみ
- 4) 分子時計
- 5) 中間テスト
- 6) 系統樹作成法の原理

- 7) 系統樹作成法 (DNAデータベースからの塩基配列の取得とFASTAファイルの作成)
- 8) 系統樹作成法 (多重アラインメント)
- 9) 系統樹作成法 (系統樹の作成)
- 10) 系統樹作成法 (系統樹の描画)
- 11) 系統樹作成法 (系統樹作成の実践1)
- 12) 系統樹作成法 (系統樹作成の実践2)
- 13) 系統樹作成法 (系統樹作成の実践3)
- 14) 生物の大分類
- 15) 進化は男の中で起こる
- 16) 共生と生物進化

学習課題 (予習・復習) 参考図書を読むことにより予習, 復習を行うこと.

自然科学概論 (科学技術の歴史)

Lecture Course in Natural Science

学期 前期 開講時間 水 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 和田 正法

授業の概要 科学・技術は、わたしたちの生活に様々な面で多大な影響を与えている。本授業では、19世紀以降、現代に至るまでの科学・技術がどのように発展してきたのか、その歴史的な進歩の過程を見る。とくに19世紀以降の科学と技術の歴史は、国家や産業界との関係が深く、急激に大規模化・高度化してきた。そのため、科学・技術が社会とどのような影響関係にあるのか幅広く探ることが重要である。本授業の受講を通して、現代の科学技術文明が、歴史の積み重ねによって成り立っていることを学んでほしい。また、本授業の後半では、日本における科学・技術の発展も扱う。日本の文化を学ぶ一つのきっかけとしてほしい。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・19世紀以降の科学と技術の歴史の概要を理解する(C評価)。
- ・科学技術と社会の関係性を歴史に基づいて論じることができる(B評価)。
- ・現代の科学技術の進展を見つめ、歴史的展開に基づいて今後の方向性を論じることができる(A評価)。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受信

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、歴史的事実を記憶すること(のみ)を目標としません。歴史的事項の検討を通じて、現代のわたしたちの生活にどのような影響があるのか考え、主体的に意見を表明することを目標とします。

成績評価はレポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

また、科学技術が発展する場としての大学の歴史、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 歴史、科学技術、産業革命以降の科学技術史

Key Word(s) History, Science and Technology, History of Science and Technology since the Industrial Revolution

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術の歴史を扱う意義について概略的に考える。

第2回 万国博覧会

科学技術の祭典の歴史を通して、国家間競争の進展を考える。

第3回 ドイツの化学技術

「化学」の歴史を通して、科学と技術の境目を考える。

第4回 フォードシステム

大量生産体制の登場と、社会への影響を考える。

第5回 戦争と科学技術

毒ガスの製造と使用の歴史を通して、科学技術のあり方を考える。

第6回 医療の科学技術史

X線の登場と医療への応用の歴史を概略的に振り返る。

第7回 アポロ計画

巨大計画の実現を中心に、国家による科学技術への支援体制を考える。

第8回 特許紛争

国を超える知的財産権の歴史を通して、模倣と創造の関係を考える。

第9回 ISO、JISの成立

標準化と規制の歴史を通して、企業の科学技術戦略を考える。

第10回 生殖科学技術史

人間を対象とする科学技術の利用と倫理の境目を考える。

第11回 日本の科学技術史1 人物誌

田中久重のからくりと東芝の誕生を知る。

第12回 日本の科学技術史2 開国と技術導入

反射炉から鉄鋼業の自立までを知る。

第13回 日本の科学技術史3 産業遺産

富岡製糸場を中心に、殖産興業政策を振り返る。

第14回 日本の科学技術史4 社会と科学技術

電気事業の展開（なぜ50Hzと60Hzがあるのかなど）を知る。

第15回 日本の技術史5 経済成長と科学技術

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代を振り返る。

自然科学概論 (科学技術の歴史)

Lecture Course in Natural Science

学期 前期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 和田 正法

授業の概要 科学・技術は、わたしたちの生活に様々な面で多大な影響を与えている。本授業では、19世紀以降、現代に至るまでの科学・技術がどのように発展してきたのか、その歴史的な進歩の過程を見る。とくに19世紀以降の科学と技術の歴史は、国家や産業界との関係が深く、急激に大規模化・高度化してきた。そのため、科学・技術が社会とどのような影響関係にあるのか幅広く探ることが重要である。本授業の受講を通して、現代の科学技術文明が、歴史の積み重ねによって成り立っていることを学んでほしい。また、本授業の後半では、日本における科学・技術の発展も扱う。日本の文化を学ぶ一つのきっかけとしてほしい。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけでなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・19世紀以降の科学と技術の歴史の概要を理解する(C評価)。
- ・科学技術と社会の関係性を歴史に基づいて論じることができる(B評価)。
- ・現代の科学技術の進展を見つめ、歴史的展開に基づいて今後の方向性を論じることができる(A評価)。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受信

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、歴史的事実を記憶すること(のみ)を目標としません。歴史的事項の検討を通じて、現代のわたしたちの生活にどのような影響があるのか考え、主体的に意見を表明することを目標とします。

成績評価はレポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

また、科学技術が発展する場としての大学の歴史、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 歴史、科学技術、産業革命以降の科学技術史

Key Word(s) History, Science and Technology, History of Science and Technology since the Industrial Revolution

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術の歴史を扱う意義について概略的に考える。

第2回 万国博覧会

科学技術の祭典の歴史を通して、国家間競争の進展を考える。

第3回 ドイツの化学技術

「化学」の歴史を通して、科学と技術の境目を考える。

第4回 フォードシステム

大量生産体制の登場と、社会への影響を考える。

第5回 戦争と科学技術

毒ガスの製造と使用の歴史を通して、科学技術のあり方を考える。

第6回 医療の科学技術史

X線の登場と医療への応用の歴史を概略的に振り返る。

第7回 アポロ計画

巨大計画の実現を中心に、国家による科学技術への支援体制を考える。

第8回 特許紛争

国を超える知的財産権の歴史を通して、模倣と創造の関係を考える。

第9回 ISO、JISの成立

標準化と規制の歴史を通して、企業の科学技術戦略を考える。

第10回 生殖科学技術史

人間を対象とする科学技術の利用と倫理の境目を考える。

第11回 日本の科学技術史1 人物誌

田中久重のからくりと東芝の誕生を知る。

第12回 日本の科学技術史2 開国と技術導入

反射炉から鉄鋼業の自立までを知る。

第13回 日本の科学技術史3 産業遺産

富岡製糸場を中心に、殖産興業政策を振り返る。

第14回 日本の科学技術史4 社会と科学技術

電気事業の展開（なぜ50Hzと60Hzがあるのかなど）を知る。

第15回 日本の技術史5 経済成長と科学技術

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代を振り返る。

自然科学概論 (科学技術の歴史)

Lecture Course in Natural Science

学期 後期 開講時間 金 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 和田 正法

授業の概要 科学・技術は、わたしたちの生活に様々な面で多大な影響を与えている。本授業では、19世紀以降、現代に至るまでの科学・技術がどのように発展してきたのか、その歴史的な進歩の過程を見る。とくに19世紀以降の科学と技術の歴史は、国家や産業界との関係が深く、急激に大規模化・高度化してきた。そのため、科学・技術が社会とどのような影響関係にあるのか幅広く探ることが重要である。本授業の受講を通して、現代の科学技術文明が、歴史の積み重ねによって成り立っていることを学んでほしい。また、本授業の後半では、日本における科学・技術の発展も扱う。日本の文化を学ぶ一つのきっかけとしてほしい。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・19世紀以降の科学と技術の歴史の概要を理解する(C評価)。
- ・科学技術と社会の関係性を歴史に基づいて論じることができる(B評価)。
- ・現代の科学技術の進展を見つめ、歴史的展開に基づいて今後の方向性を論じることができる(A評価)。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受信

力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、歴史的事実を記憶すること(のみ)を目標としません。歴史的事項の検討を通じて、現代のわたしたちの生活にどのような影響があるのか考え、主体的に意見を表明することを目標とします。

成績評価はレポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

また、科学技術が発展する場としての大学の歴史、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 歴史、科学技術、産業革命以降の科学技術史

Key Word(s) History, Science and Technology, History of Science and Technology since the Industrial Revolution

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術の歴史を扱う意義について概略的に考える。

第2回 万国博覧会

科学技術の祭典の歴史を通して、国家間競争の進展を考える。

第3回 ドイツの化学技術

「化学」の歴史を通して、科学と技術の境目を考える。

第4回 フォードシステム

大量生産体制の登場と、社会への影響を考える。

第5回 戦争と科学技術

毒ガスの製造と使用の歴史を通して、科学技術のあり方を考える。

第6回 医療の科学技術史

X線の登場と医療への応用の歴史を概略的に振り返る。

第7回 アポロ計画

巨大計画の実現を中心に、国家による科学技術への支援体制を考える。

第8回 特許紛争

国を超える知的財産権の歴史を通して、模倣と創造の関係を考える。

第9回 ISO、JISの成立

標準化と規制の歴史を通して、企業の科学技術戦略を考える。

第10回 生殖科学技術史

人間を対象とする科学技術の利用と倫理の境目を考える。

第11回 日本の科学技術史1 人物誌

田中久重のからくりと東芝の誕生を知る。

第12回 日本の科学技術史2 開国と技術導入

反射炉から鉄鋼業の自立までを知る。

第13回 日本の科学技術史3 産業遺産

富岡製糸場を中心に、殖産興業政策を振り返る。

第14回 日本の科学技術史4 社会と科学技術

電気事業の展開（なぜ50Hzと60Hzがあるのかなど）を知る。

第15回 日本の技術史5 経済成長と科学技術

「ジャパン・アズ・ナンバーワン」の時代を振り返る。

医学医療A (医学概論)

Introduction to Medicine

学期 前期 **開講時間** 月5,6 **単位** 2 **対象** ・医学科専門科目であるので、医学科学生は共通教育単位としては選択できない(看護学科学生は可)。・医学科以外の学生の受講については年次を問わない。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 **授業の方法** 講義 **授業の特徴** キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 ○後藤道子、森尾邦正、若林英樹、那谷雅之、小林茂樹、西川政勝、田島和雄、岩本彰太郎、松原貴子、緒方正人、安積良紀、白石泰三、石倉健、梅本正和(非常勤講師)、金丸恵子(非常勤講師)、鈴木中人(非常勤講師)

授業の概要 最新の医科学研究、医療の現状、医の倫理、学習姿勢などのついて幅広く講義する。

学習の目的 医学・医療に臨む者の基本姿勢や概念を修得する。

学習の到達目標

- ・医師・医学生に求められる姿勢を説明できる。
- ・最新の医科学研究の事例をあげ、内容を概説できる。
- ・医療現場や医療をとりまく社会の現状について概説できる。

本学教育目標との関連 感性, 共感, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 課題探求力, 批判的思考力, 社会人としての態度

受講要件 特になし。

予め履修が望ましい科目 特になし。

発展科目 医学の各専門科目。

教科書 指定なし

参考書 適宜紹介する

成績評価方法と基準

- ・成績評価は授業への取り組み(60%)、レ

ポート(40%)で評価する。出席やレポートの不正行為は不合格とする。病欠(要診断書)、忌引きなど、やむを得ず欠席する場合は医学科学務グループに連絡すること。

- ・出席管理システムで出席の確認を行うため必ず学生証を持参すること。学生証の忘れは欠席扱いとする。

- ・レポートは以下のⅠ. Ⅱ. を、三重大学Moodleを用いて提出すること【期限厳守】。
Ⅰ. 出席した回の感想【講義終了後、次回講義日の13時まで(最終回は8月3日(月)の13:00まで)】*ただし講義された先生が指定する課題があれば、感想ではなくそれに従う。

- Ⅱ. 最終レポート【8月6日(木)13:00まで】*15回の講義の内、最も興味深いテーマを自分なりに調べ、新たにデータを付け、考察を行ったものを「レポート作成ハンドブック」に従った形式で作成すること。最終レポートの提出は2/3以上の出席によって提出が可能とし、単位認定に必須としますので、提出がないものは不合格とする。

オフィスアワー メール (meduc@doc.medic.mie-u.ac.jp)でアポを取ること。

授業改善への工夫 Moodleを介して毎回の感想を教員にFeedbackし改善を促します。

授業計画・学習の内容

キーワード 生命科学、医療倫理、国際医療協力、治療・診断

Key Word(s) Lifescience, Medical ethics, International medical cooperation, Diagnosis

学習内容

前期の毎週月曜日午後13:00~14:30、医学部臨床講義棟第2講義室。

なお、講義予定や講義室は変更がありうるので掲示板に注意のこと。

講義テーマと講義日程については、初回講義で配布する。

学習課題(予習・復習) 各講義の感想(講義された先生が指定する課題があればそれに従う)をMoodleにて提出すること。

医学医療A (生命医学の課題)

Medicine, Nursing

学期 後期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次 授業の方法 講義

授業の特徴 能動的要素を加えた授業

担当教員 ○島岡要 (医学部), 油田正夫 (医学部), 野阪哲哉 (医学部), ガバザ・エステバン (医学部), 田中利男 (医学部), 緒方正人 (医学部), 吉田利通 (医学部), 成田正明 (医学部), 溝口明 (医学部), 那谷雅之 (医学部), 白石泰三 (医学部), 村田真理子 (医学部), 笹島茂 (医学部), 法貴葉子 (医学部), 山崎英俊 (医学部)

授業の概要 生命医学研究の最先端を講義より学ぶ。

学習の目的 生命医学研究の最先端を講義より学ぶ。

学習の到達目標 生命医学研究において、どのようなことが研究課題とされ、どのような方法で解決されるかを理解すると共に、生命医学と社会との関わりについて考察できるようにする。

本学教育目標との関連 感性, 共感, 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 論理的思考力, 課題探求力, 問題解決力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 実践外国語力

受講要件 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 生命医学

学習内容

大学院医学系研究科生命医学専攻の基礎医学系分野である薬理ゲノミクス、機能プロテオミクス、修復再生病理学、感染症制御医学・分子遺伝学、神経再生医学・細胞情報学、法医学科学、分子病態学、発生再生医学、免疫学、医動物・感染医学、腫瘍病理学、環境分子医学、公衆衛生・産業医学、システム神経科学、幹細胞発生学の教官が生命医学に関するトピックスをオムニバス形式で講義する。今年度の予定は以下の通り。

10/1 田中利男 (薬理ゲノミクス) オミックス創薬科学とシステムズ薬理学

10/8 緒方正人 (機能プロテオミクス) 発生工学と医学研究

10/22 吉田利通 (修復再生病理学) 細胞外マト

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 特に指定しない

参考書 特に指定しない

成績評価方法と基準

各講義毎に講義の概略と感想をA4用紙一枚程度にまとめ、医学部学務係へ、次回の講義日の17時までに提出して下さい。(提出先がバラバラになると混乱をきたしますので、講義担当教官のところではなく、必ず、とりまとめをお願いしている医学部学務係に提出をお願いします。)

学籍番号、学部、学科、学年、氏名を忘れずに明記して下さい。

授業改善への工夫 できる限り、わかりやすい講義をするよう心がけています。

リックスと組織構築

10/29 野阪哲哉 (感染症制御医学・分子遺伝学) インフルエンザウイルスの話

11/5 溝口明 (神経再生医学・細胞情報学) 神経の病気はどこまでわかったか?

11/12 那谷雅之 (法医学科学) 「法医学とは」「DNA鑑定」

11/19 Gabazza Esteban (免疫学) 生体防御機構の概要

11/26 成田正明 (発生再生医学) 神経伝達物質セロトニンと脳の発達

12/3 島岡要 (分子病態学) 細胞接着と病気

12/10 村田真理子 (環境分子医学) 環境と生活習慣病

12/17 白石泰三 (腫瘍病理学) がんを考える

1/7 油田正夫 (医動物・感染医学) マラリアと薬剤耐性

1/14 笹島茂 (公衆衛生・産業医学) 公衆衛生

における混合戦略の現状

1/21 法貴葉子（システム神経科学）Mozart効果と1/f—BachからJoplinまで—

1/28 山崎英俊（幹細胞発生学）幹細胞を用い

た再生医療

学習課題（予習・復習） 予習については、各教員の指示に従うこと。

医学医療A (医学文献抄読)

Seminar in life sciences and medicine

学期 後期 開講時間 月9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次 授業の方法 演習 授業の特徴
グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 緒方正人 (医学部 以下同じ)、大河原剛、油田正夫、戸田雅昭、広川佳史、山崎英俊、田中利男、那谷雅之、溝口明、法貴葉子、平工雄介、
笹島茂、島岡要、鶴留雅人、吉田利通

授業の概要 生命医学分野の学術雑誌や書籍に掲載されている学術論文を読み、その内容について積極的に発言、討論へ参加する。

学習の目的 文献抄読 (critical reading) により生命医学研究の基礎を修得する。

学習の到達目標 生命医学分野の文献を正しく批判的に読めるようになる。

本学教育目標との関連 モチベーション, 論理的思考力, 批判的思考力, 討論・対話力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

教科書 各担当教員の指定による。

参考書 各担当教員の指定による。

成績評価方法及び基準 各回の活動内容で評価します。

オフィスアワー

先端医学教育研究棟5階
医学系研究科 法医学科学分野 月曜日～金曜日：9:00～16:00(祝日を除く)

※事前に秘書(倉田)までご連絡願います。
foresci@doc.medic.mie-u.ac.jp

その他

受講者も前もって各回に指定された論文の抄読 (critical reading)を行い、内容について数名が発表し、参加者で討論します。

各回に次回のシラバスを配布し、また、次回の指定論文を配布、あるいは、その入手方法をお知らせします。

受講学生への注意：

- 1) 各回の授業の場所、論文、学習方法については配布したシラバスに従ってください。
- 2) 原則的に、各回のセミナーは受講者で主体的に運営してもらいます。教員はチューターとして、セミナーに参加します。
- 3) 受講者が3名に満たない場合は、開講を取りやめることがあります。
- 4) 問い合わせ先：

医学系研究科 先端医学教育研究棟5階法医学科学分野 電話：059-231-5014 (直通)、内線：6383

メール：foresci@doc.medic.mie-u.ac.jp

授業計画・学習の内容

キーワード 生命医学、文献抄読

学習内容

月/日 担当教員・所属
10/5 発生再生医学...大河原剛
10/15 医動物学...油田正夫
10/19 生体防御医学・免疫学...戸田雅昭
10/26 腫瘍病理学...広川佳史
11/2 幹細胞発生学...山崎英俊
11/9 薬理ゲノミクス...田中利男

11/16 法医学科学...那谷雅之
11/30 神経再生医学・細胞情報学...溝口明
12/7 機能プロテオミクス...緒方正人
12/14 システム神経科学...法貴葉子
12/21 環境分子医学...平工雄介
1/4 公衆衛生・産業医学...笹島茂
1/18 分子病態学...島岡要
1/25 感染症制御医学...鶴留雅人
2/1 修復再生病理学...吉田利通

医学医療A (教養人のための生理学)

Physiology for the well-educated people

学期 前期 開講時間 水 1, 2; 木 1, 2; 金 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業, Moodle
担当教員 玉利 健悟

授業の概要

人体の仕組みを理解することは、文系、理系と問わず、教養として備えておくべき知識である。本授業では、人体を器官系別に、全身にある臓器や組織がどの様に働くことで、生命を維持しているかを簡潔に解説する。

授業終盤ではグループでの試験を実施し、成績に反映する。

理系であれば、専門教育の基礎とし、文系であれば、身の回りの健康問題に対応する基礎知識を習得する。

学習の目的

現代科学における様々な問題には人体や健康に関するものが少なくない。それらはひとえに、人体に対する

知識の不足によるものが大きい。学生諸君がそのような身近な問題を解決する基礎的能力を養うことを目的

とし、専門教育を学ぶ際の、人体に関する応用力を身につける。

また、グループ試験を行う事で、理解した知識を話し合い、グループ内の答えを1つに集約する能力も身につける。

学習の到達目標

本講義を受講することで、全身の器官系（消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、生殖器系、

内分泌系、神経系、感覚器系、外皮系、骨筋系、免疫系など）を概説できる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力, 討論・対話力, 指導力・協調性, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 理系・文系問わない

予め履修が望ましい科目 生物学が履修されていると理解が早い

発展科目 「教養人の健康食品科学」では、健康食品に含まれる栄養素が人体の機能の中でどの様に扱われるかを、ホームページや文献から調べる授業を行うため、基礎知識の習得をこの授業でしておくが良い。

教科書 特になし 講義中に資料を配布

参考書 解剖生理学 (メディカ出版) 解剖生理学 (医学書院)

成績評価方法と基準 グループ試験50% 期末試験50%

オフィスアワー 火曜日から金曜日の12:00～13:00

授業改善への工夫

人体の仕組みの中でも、身近に感じる項目を中心に授業する。また、グループ試験を行うことで、理系・文系や学科間でも差の少ない成績評価を行う。

その他 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 生理学 医学 生命科学

Key Word(s) Physiology Medicine Life science

学習内容

第1回 オリエンテーション
第2回 消化器系

第3回 呼吸器系
第4回 循環器系
第5回 泌尿器系
第6回 生殖器系
第7回 内分泌系
第8回 神経系
第9回 中枢神経系

第10回 末梢神経系
第11回 感覚器系
第12回 外皮系
第13回 骨・筋系
第14回 免疫・血液系
第15回 まとめ
第16回 期末試験

学習課題（予習・復習）

予習：解剖生理学と名の付く教科書を予習すると良い。また、普段から健康、医学、医療に関わるメディアの情報を得る努力をしておくこと。
復習：一日の講義で行った知識をもう一度覚え直し、期末試験に対策すると良い。また、Moodleにて質問を受け付けるので、いつでも疑問に思うことがあれば解決して次の講義に臨むこと。

医学医療A (教養人の健康食品科学)

Health-food science for the well-educated people

学期 前期 開講時間 水 3, 4; 木 3, 4; 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, Moodle
担当教員 玉利 健悟

授業の概要

身近にある科学として、健康食品を題材に、批判的思考を学び、科学リテラシーの向上を図る。

グループ内で課題を解決していく形式で健康食品に含まれる栄養素のエビデンスを調査、班で発表する。

簡単な関連する人体の仕組みも講義する。

学習の目的

・主体的学習者としての自己認識、さまざまなコミュニティの構成員としての自己認識をもつ。

・身近な食品には機能があるのかといった、調べるための素養を身につけさせる。

・どのように調べればエビデンスを得られるかを学ぶことが出来る。

学習の到達目標

本授業による効果として、身近にあるものを、積極的に科学的調査し、評価、批判することが、将来、科学知識を得る学生の科学リテラシー教育だけでなく、一般には消費者としての科学リテラシーの向上にも繋がるだろう。また、身近なものを題材としているため、学生の社会貢献も期待される。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 批判的思考力, 討論・

授業計画・学習の内容

キーワード 健康食品 医学 生命科学

Key Word(s) Health food Medicine Life science

学習内容

- 第1回 科学と似非科学の違い (講義形式)
- 第2回 自然科学の証拠主義 (講義形式)
- 第3回 健康食品1 (グループワーク形式)
- 第4回 健康食品2 (グループワーク形式)
- 第5回 健康食品3 (グループワーク形式)

対話力, 指導力・協調性, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 理系・文系問わない

予め履修が望ましい科目 生物学が履修されていると理解が早い

発展科目

「教養人のための生理学」では、関連する人体の機能も講義を行うので、本授業で興味を持った

人体の仕組みについて、より広範的に学ぶ事が出来る。

教科書 特になし 講義中に資料を配布

参考書 解剖生理学 (メディカ出版) 解剖生理学 (医学書院)

成績評価方法と基準 個人の活動 (レポート) ・出席 50% グループの活動 (班での発表) 50%

オフィスアワー 火曜日から金曜日の12:00～13:00

授業改善への工夫 課題解決型授業、Moodleを活用し、授業を進めていく。

その他 特になし

- 第6回 健康食品4 (グループワーク形式)
- 第7回 健康食品5 (グループワーク形式)
- 第8回 健康食品6 (グループワーク形式)
- 第9回 健康食品7 (グループワーク形式)
- 第10回 健康食品8 (グループワーク形式)
- 第11回 健康食品9 (グループワーク形式)
- 第12回 健康食品10 (グループワーク形式)
- 第13回 健康食品の機能批判1 (ディベート形式)
- 第14回 健康食品の機能批判2 (ディベート形式)

式)

第15回 健康食品の機能批判3 (ディベート形式)

(試験) 最終レポート

学習課題 (予習・復習)

予習：医学に関連した教科書を予習すると良い。また、普段から健康、医学、医療に関わ

るメディアの

情報を得る努力をしておくこと。

復習：一日の講義で行った知識をもう一度覚え直し、Moodleにて質問を受け付けるので、いつでも

疑問に思うことがあれば解決姿勢を身に付けること。

医学医療B (癌の最新の診断と治療)

Medicine, Nursing

学期 後期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 受講者が200名を超えた場合は学年を指定する等の方法で受講数を制限することもあります。 **授業の方法** 講義

担当教員 ○白石 泰三 (医学部), 佐久間 肇(医学部), 中谷 中(医学部), 片山 直之(医学部), 中塚 豊真(医学部), 松原 年生(医学部), 田口 修(医学部), 高尾 仁二(医学部), 田畑 務(医学部), 毛利 靖彦 (医学部), 杉村 芳樹(医学部), 松峯 昭彦(医学部), 石永 一(医学部), 石井 建一郎(医学部)

授業の概要 体内に発生する様々な臓器における癌に対する最新の診断法や治療法を概説する。

意識, 幅広い教養, 専門知識・技術

学習の目的 癌の最新の診断法や治療法が他領域の技術進歩と深く関係していることが実感できる。

予め履修が望ましい科目 基礎生物学、基礎医学(特に解剖学、生理学、病理学など)

学習の到達目標 癌に対する最新の診断法と治療法を理解することにより現代医学の進歩を学ぶ。

発展科目 臨床医学各論

成績評価方法と基準 授業への取り組み (30%)、レポート (70%)

本学教育目標との関連 心身の健康に対する

授業改善への工夫 できるだけ画像や動画を取り入れ、医学部以外の学生にも十分に理解できるように工夫した。

授業計画・学習の内容

キーワード 癌、診断、治療

学習内容

- 第1回 癌の画像診断(10/6)
- 第2回 癌の遺伝子診断(10/13)
- 第3回 癌の内科的治療(10/20)
- 第4回 癌の新しい治療(10/27)
- 第5回 脳腫瘍(11/10)
- 第6回 肺癌内科的治療(11/17)
- 第7回 肺癌外科的治療(11/24)
- 第8回 癌生物学概論(12/1)
- 第9回 ヒトパピローマウイルスと子宮頸癌(12/8)

- 第10回 消化管の癌(12/15)
- 第11回 ヒトはなぜ、癌になるのか?(12/22)
- 第12回 骨軟部腫瘍(1/19)
- 第13回 癌に対する薬物治療(1/26)
- 第14回 頭頸部腫瘍(2/2)
- 第15回 泌尿器癌 (2/9)

学習課題 (予習・復習)

- 医学概論
- 小児がん
- 最新のCT、MRI、PET
- 最近の薬物治療

医学医療B (急病の観察と判断)

Physical examination and judgement in emergency cases

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 丸山一男

授業の概要 急病・事故に遭遇した際、いかに観察し、判断し、行動するか？医療従事者でなくとも、できることは多くあります。本講義では、「酸素を脳へ」というコンセプトもと、生命活動の根源に関わる酸素の運搬について解説します。救急蘇生、AEDの使用、ショック、外傷、意識障害、熱中症、溺水など、日常生活で起こりうる救急疾患についての概要と対処法を身につけることを目標とします。本講義が何かあったときのお役に立ててればと考えております。専門的というより、一般の方々の教養と実益になりますよう、「分かりやすく」をモットーに講義を進めて参ります。なお、医療系の学生諸君に

は、専門科目に入る前に聞いておいていただければ、将来の役にたつと思います。

学習の到達目標 緊急を要する、病気、けが、事故に遭遇した際の考え方と対処を身につけることができ、回りの人々のお役に立てることを目標にしております。

教科書 プリントを配布します。

成績評価方法と基準 2/3以上の出席を条件に、筆記試験(100%)で評価する。

オフィスアワー 随時、内線6401

授業改善への工夫 板書の字を読み易くするよう心がけております。

授業計画・学習の内容

キーワード 急病、けが、応急処置、心肺蘇生、救急疾患

学習内容

主な担当：丸山一男（医学科教授、麻酔科専門医、救急科専門医、集中治療専門医、ペインクリニック認定医）

1救急蘇生：酸素を脳へ

2救急蘇生・ショック・AED

3ショック

4血圧

5窒息

6意識障害の症状

7意識障害の原因

8脳梗塞・脳出血・脳内血腫

9トリアージ

10災害医療（医学部 溝口明教授の特別講義を予定しております）

11小児救急1(小児科専門医 澤田博文先生の講義を予定)

12外傷

13熱中症

14溺水

15小児救急2(小児科専門医 澤田博文先生の講義を予定)

16まとめ・テストなど

医学医療B (健康科学)

Medicine, Nursing

学期 後期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL, キャリア教育の要素を加えた授業
担当教員 ○岡野禎治(保健管理センター), 田口修(保健管理センター), 小林由直 (保健管理センター)、大谷正人(教育学部), 井上雄一朗(非常勤講師),

授業の概要 心と身体の健康に関連した講義を通して、心身の健康に対する自己管理能力の必要性を学ぶことを目標とする

学習の目的 キャンパスライフにおける疾病への対処行動と健康増進

学習の到達目標 実学を学び、心身の健康維持と危機管理能力を習得する。

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 専門知識・技術, 論理的思考力, 問題解決力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 配布資料を中心に講義を進める。

参考書 なし

成績評価方法と基準 2/3以上の出席受験資格ありとして、定期試験で総合点60%以上を合格とする

授業改善への工夫 授業アンケート調査を参照

授業計画・学習の内容

キーワード 大学生のためのセルフケア

Key Word(s) Self-Care for Students

学習内容

心身の健康に関連した事柄をさまざまな角度から捉えて講義する。講義では、適宜資料を配付する他、ビデオ教材等も利用する。

第1回 ガイダンス(ひきこもり)

第2回 キャンパスのメンタルヘルス

第3回 薬物の依存と乱用

第4回 異文化とメンタルヘルス

第5回 食事と心の病気

第6回 大学生と自殺

第7回 地域のメンタルヘルス

第8回 糖尿病について

第9回 大学生が知っておきたい感染症

第10回 大学生のための肝臓学

第11回 肥満について

第12回 タバコの害、喘息について

第13回 脂質異常症と高尿酸血症について

第15回 肺の感染症：結核とインフルエンザ

第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 予習や復習は必要としない。配布資料を中心に講義を進める。実践的な内容を理解して、今後の心身を含めた健康づくりに役立てる

環境地理学A (世界の気候と植生分布)

Environmental Geography A

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 柏木 良明(非常勤講師)

授業の概要 熱収支の観点からみた気候の成り立ちや様々な場所の気候の特徴、そこにみられる植生との関わりについて、環境地理学の視点からとらえる。

学習の到達目標 上記の視点と知識を習得する。

成績評価方法と基準 最終授業時における試験90%、平常点10%

授業計画・学習の内容

キーワード 世界の気候分布とその成因およびそれに関わる植生分布

学習内容

第1回 地理学と気候環境

第2回 大気候—季節風

第3回 中・小気候、熱収支の考え方

第4回 放射と気候 その1

第5回 放射と気候 その2

第6回 放射と気候 その3

第7回 放射と気候 その4

第8回 世界の気候分布 その1

第9回 世界の気候分布 その2

第10回 世界の植生分布 その1

第11回 世界の植生分布 その2

第12回 植生遷移と環境 その1

第13回 植生遷移と環境 その2

第14回 日本の季節

第15回 まとめ

環境科学 (海に親しむ)

Environmental Studies

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 実習 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 ○前川陽一 (生物資源学部)、中村亨 (生物資源学部)、岡田果林 (生物資源学部)

授業の概要 勢水丸に乗船し、表面海水測温や透明度測定といった基本的作業から、CTD オクトパスシステムを使用した断面観測といった本格的な海洋観測作業を行います。また、ベントスネットなどを用いた底生生物採集も行い、海洋環境と生態系との関わりについて体験的に学習します。

学習の目的 伊勢湾の海水、堆積物、気象・海象、生物に直接見て、触れて実感し、伊勢湾の現状や自然環境の保全について理解を深めます。

学習の到達目標 最新の機器を用いた海洋観測や生物採集調査により、その方法、準備、実践、処理などの知識を得ることにより、今後大学における各自の研究活動につなげていくことを目的としています。また、洋上という日常を離れた特殊な環境で寝食を共にしながら船内生活を行うことで集団活動での協調性を養います。

本学教育目標との関連 感性、共感、心身の健康に対する意識、幅広い教養、専門知識・技術、討論・対話力、指導力・協調性、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

授業計画・学習の内容

キーワード 練習船、海洋環境、海洋観測、生物採集、気象観測

Key Word(s)

research & training vessel, ocean environment, oceanographic observation, marine species sampling, meteorological observation

学習内容

受講要件 学生教育研究災害保険または生協の保険に加入して下さい。当年度内の健康診断にて欠格事由のない健康な者に限ります。

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 特になし

参考書 特になし

成績評価方法と基準 実習作業への取り組み (80%)、レポート (20%)

オフィスアワー

松阪港停泊中は電話及び訪船も可。(土日を除き08:30~12:00、Eメールも可)。詳細はガイダンス時に連絡します。

授業改善への工夫 航海期間中は気象・海象による船体動揺の軽減に努め効果的な実施に努めます。

その他 内容は天候によって変更されることがあります。動きやすく、汚れても良い服装で参加して下さい(出来れば長袖長ズボンが好ましい)。必ず運動靴で参加して下さい。受講人数制限 (24名)

1日目: 船内生活の案内、出港作業を見学、班単位で海洋・気象の各観測法演習

2日目: 断面観測線での観測実施、観測データの整理・処理・解析、レポートの作成(水温・塩分の断面図作成等)

3日目: 総括、入港作業見学、帰学。

学習課題(予習・復習) 航海前に実施する「実習ガイダンス」に必ず出席して下さい。

環境科学 (ISO環境管理学)

Environmental Studies

学期 前期 開講時間 月 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業, Moodle 担当教員 ○佐藤邦夫(生物資源学部), 奥山哲也(非常勤講師)

授業の概要 ISO環境マネジメントシステムの事例を学習し、実習的に三重大のEMSを仮想構築する。さらに、内部監査の実務について学習し、構築した仮想三重大EMSの内部監査を実習的に実施することにより、EMSについて総合的に理解する。

学習の目的 ISO14001の実際について理解し、内部監査に関するさらに進んだ学習に進めるようになる。

学習の到達目標 ISO14001環境マネジメントシステムについて総合的に理解する。

本学教育目標との関連 共感, 幅広い教養, 情報受発信力, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 環境問題の改善に興味があること

授業計画・学習の内容

キーワード ISO14001, 環境マネジメントシステム, EMS, 組織の社会的責任, CSR, USR

Key Word(s) ISO14001, Environmental Management System, EMS, Corporate Social Responsibility, CSR, USR

学習内容

1. 講義の内容と進め方
2. ISO環境マネジメントシステムの基礎知識1
3. ISO環境マネジメントシステムの基礎知識2
4. ISO環境マネジメントシステム事例学習1
5. ISO環境マネジメントシステム事例学習2
6. 三重大の環境側面およびその他の環境情報1
7. 三重大の環境側面およびその他の環境情報2
8. EMS導入手順
9. 三重大仮想EMS構築実務
10. 文書管理

予め履修が望ましい科目 特になし

教科書 よくわかる図解シリーズ『ISO14001が見えてくる』(第2版)(日刊工業新聞社)

成績評価方法と基準 レポート、期末試験の評価を総合判断する。

オフィスアワー 毎週月曜日10:30~12:00、生物資源学部棟425室

授業改善への工夫 コンピュータによる教材(Moodle)を用いて受講者の理解を促進する

その他

三重大『環境内部監査員資格』を取得するのに役立ち、また環境資格支援教育プログラムの単位として認定される。
受講人数制限 (65名)

11. 環境関連法および条例
12. 内部監査と審査
13. 仮想三重大EMS内部監査1
14. 仮想三重大EMS内部監査2
15. カーボンオフセットの基礎知識
16. 試験

学習課題 (予習・復習)

ISO環境マネジメントシステムの基礎知識復習
ISO環境マネジメントシステム事例調査
三重大の環境側面およびその他の環境情報調査
EMS導入手順復習
三重大仮想EMS構築実習
文書管理復習
環境関連法および条例復習
内部監査と審査復習
仮想三重大EMS内部監査実習
全体の復習

環境科学 (流域問題)

Environmental Studies

学期 後期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次
授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 春山成子(生物資源学部)

授業の概要 流域内の自然現象と人間活動の相互作用を理解するための講義。1. ガイダン(流域について), 2. 流域の定義, 3. 流域変化と災害への応答(雲出川), 4. 流域変貌と災害変化(宮川), 5. 流域変化で揺れる景観(宮川), 6. バゴ川の河川次数, 7. プケットの土地利用変化と災害変容, 8. 津波被災とリゾート化, 9. 2004年洪水と流域変化(円山川), 10. 2004年洪水と社会変化(足羽川), 11. 濃尾平野の地形と洪水, 12. 長良川の流域変化, 13. 長良川河口堰の建設前後, 14. 濃尾三川の河川管理と流域変化, 15. ダム建設と流域変化, 16. 試験

学習の目的 河川流域を理解する。河川流域の環境問題を解決するための知識を得る。

学習の到達目標 世界的視野で流域問題を考える力を養い、土地利用変化の中で流域が抱える問題を身近に感じ、考え、評価する姿勢を養う。

授業計画・学習の内容

キーワード 河川、流域、管理、土地利用変化

Key Word(s) river, basin, management, land use change

学習内容

1回目 授業全体の紹介を行う。全体を通して講義中心の授業であり、
2回目以降は河川および流域の概念規定、土地利用の概念規定、土地利用・土地被覆変化の概念規定、流域内の水関係災害、災害実例

本学教育目標との関連 幅広い教養, 論理的思考力

予め履修が望ましい科目 地理学

教科書 災害軽減と土地利用(古今書院)

参考書 水文化の憧憬(古今書院)

成績評価方法と基準 通常点を50%、期末試験50%、計100%。

オフィスアワー 水曜日12:00-13:00。生物資源学部3階 春山研究室

授業改善への工夫 受講生が満足可能な方法を模索する。

その他

受講生の適正規模の人数制限を行う(100名)。

と防災の歴史的变化、現在の河川管理手法、流域および河川管理のガバナンス、完新世の河川環境変化、環境劣化の概念規定、流域内の土地利用変化にともなう河川環境の連動変化、長良河口堰を以前と以後について、最終回の講義では全体のとりまとめ。定期試験。

学習課題(予習・復習) 講義前に指定した教科書を読み事前学習を行っておくこと。新聞記事などを通して社会問題を学習しておくこと。河川管理、河川工学などの書籍を図書館で読んでおくこと。

環境科学 (環境化学)

Environmental Studies

学期 前期 開講時間 木 1, 2 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義 授業の特徴 PBL

担当教員 広瀬 和久

授業の概要 環境問題について、化学の視点から水質汚染、大気汚染、土壌汚染、廃棄物処理技術、地球環境問題、放射能などを解説する。また三重県内での研究事例も紹介し、日常生活に関連する環境化学問題を基礎的、概論的に学習する。

学習の目的 環境化学に関連する基礎知識を身につけることにより、水質汚染、大気汚染、土壌汚染、廃棄物処理、地球環境、放射能等の問題、及びその解決法について理解できるようにすることを目的とする。

学習の到達目標 学んだ環境化学の基礎知識から、日常生活に関連した環境問題を説明することができ、また科学的な思考方法に基づいて考えることができる。

本学教育目標との関連 共感, 主体的学習力, 幅広い教養, 問題解決力, 情報発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

学生と対話しながらの講義のため、受講希望者が80人を超えた場合は第1回目の受講者及び文科系学生を優先とする。それ以上の場合は

抽選とする。

また講義中、試験中の座席は指定とする。

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 各学部の化学、環境汚染、環境測定技術などに関する科目。

教科書 教科書は使用しない。(毎回、授業概要資料を配布する。)

参考書 「環境化学」(斎藤、山崎著、東京化学同人)、「化学ってそういうこと」(日本化学会編、化学同人)、「放射能のウソ・ホント」(大谷浩樹、東京書店)

成績評価方法と基準 試験成績が100点満点で60点以上を合格とするが、受講態度も考慮し、総合的に判断する。

オフィスアワー 毎週木曜日; 8時~8時半 & 10時半~12時、教養教育校舎(非常勤講師控室)

授業改善への工夫 講義内容を分かりやすく解説し、聞き取りやすくスライドが見やすいように努力する。

その他 受講人数制限(80名)

授業計画・学習の内容

キーワード 環境汚染、環境化学物質、放射能、廃棄物処理、環境修復

Key Word(s) Environmental Pollution, Environmental Pollutant, Radioactivity, Waste Dispose, Environmental Remediation

学習内容

第1回 授業概要やスケジュールの説明、参考書紹介、評価方法の説明など

第2階 環境化学の基礎1

第3回 環境化学の基礎2

第4回 放射能と放射線1

第5回 放射能と放射線2

第6回 環境問題の歴史

第7回 水質汚染

第8回 中間試験

第9回 土壌汚染

第10回 大気汚染

第11回 地球温暖化問題

第12回 農薬、肥料と環境化学

第13回 廃棄物処理とリサイクル

第14回 環境修復とバイオ燃料

第15回 三重県での環境化学に関する研究事例

第16回 定期試験

学習課題(予習・復習) 毎回、授業概要プリントを配布するので、授業が終わった後で復習すること。理解できない箇所があれば、まず自ら調べる習慣をつけ、担当教員にも尋

ね、完全に理解できるように努力すること。 報に注意、関心を向けること。
また日常生活においても環境問題に関する情

生物資源学A (森と土壤)

Bioresource Science A

学期 後期 開講時間 月9,10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義

担当教員 ○船岡正光(生物資源学部), 野中 寛(生物資源学部), 水野 隆文(生物資源学部)

授業の概要 森林を構成するリグノセルロース系素材(樹木)は、自然界における蓄積量・多様な機能・リニューアブル性から、石油、石炭などの化石資源に替わる次世代の物質資源としてのポテンシャルを秘めている。本講義では、森林植物体の環境および材料資源としての機能を分子素材レベルで説明するとともに、その多面的な高度循環活用システム、さらには森林資源を形成する森林土壤等について解説し、森林資源の地球生態系における意義と重要性を理解させる。

学習の目的 森林資源の地球生態系における意義と重要性、化石資源に代替しうる資源としての可能性を理解する。

学習の到達目標 森林資源の地球生態系における意義と重要性、化石資源に代替しうる資源としての可能性を理解する。森林活用の話題に興味を感じ、その活用の仕方の是非につ

いて考える力を身につけることができる。

本学教育目標との関連 感性、倫理観、モチベーション、主体的学習力、幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

発展科目 特になし

教科書 自作テキストを使用する。

成績評価方法と基準 小テスト20%、期末試験80% 小テスト、期末試験の評価を総合判断する。

オフィスアワー 随時。来る前に事前にメールでアポイントメントをとってください(携帯、スマホからで構いません)。

授業計画・学習の内容

キーワード 森と土壤

Key Word(s) Forest and soil

学習内容

1. オリエンテーション
2. 森と地球
3. 樹木の仕組み
4. 樹木の構造と構成分子
5. 森林資源の利用
6. 地球温暖化
7. 化石資源の利用
8. 木質バイオマスの利用I
9. 木質バイオマスの利用II
10. 土壤とは/土壤の分類
11. 土壤の成り立ちと気候(成帯性土壤・成

帯内性土壤)

12. 森林土壤の特性
 13. 樹木の生育に寄与する土壤微生物(菌根菌・根粒菌・内生菌)
 14. 森林土壤と海
 15. 植物および土壤微生物による土壤浄化(ファイトレメディエーション・バイオレメディエーション)
 16. 試験
- 1~3: 船岡, 4~9: 野中, 10~15: 水野

学習課題(予習・復習) 前回授業ノートの復習をして授業に臨む。地球上における森林や土壤の重要性を意識して、普段から書籍、雑誌、新聞記事、テレビ番組などに関心をもつようにする。

生物資源学A (食と農)

Bioresource Science A

学期 前期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle, キャリア教育の要素を加えた授業

担当教員 波多野豪 (生物資源学部資源循環学科), 橋本力男 (非常勤), 野末光 (非常勤), 川口淳子 (非常勤), 小林富雄 (非常勤), 森田英治 (非常勤), 岩田康子 (非常勤), 岸川政之(非常勤), 吉澤俊昭(非常勤)

授業の概要 現代の食と農の乖離に起因する問題解決へのプロセスを地産地消運動や農から食、食から農へのアプローチ視点から学ぶ。

学習の目的 地産地消などの食と農をつなぐ取り組みに関して、研究者・生産者・社会事業家および行政担当者などを講師に、その現状と推進課題を明らかにする。

学習の到達目標 現在の食と農に関わる諸問題が両者の乖離に起因することを認識し、地元の生産物を地元で消費するという理念が生産現場や生活者にとってどのような意味を持つのか、地産地消という一つ概念が提示されることによって、地域住民が地域社会の再構築に取り組む現状を、多彩な現場からの声を通して理解する。

本学教育目標との関連 倫理観, 心身の健康に対する意識, 批判的思考力, 情報受発信力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 学外の講師を招くため、自分たちの受講態度が外部評価を受けていることを自覚して授業に臨む姿勢を有すること。

予め履修が望ましい科目 なし。

授業計画・学習の内容

キーワード 地産地消運動から現代の食と農の現実と課題を学ぶ

Key Word(s)

Local food
Eat local

学習内容

- 1回 食と農の現在 波多野豪(生物資源学部)
- 2回 高校生レストランとまちの宝創造 岸川政之 (多気町まちの宝創造特命監)
- 3回 ブルーベリーの実る丘から 岩田康子 (農

発展科目 インターンシップ (共通教育科目、各学部専門科目)。

教科書 使用しない。

参考書 参考書: 大江正章『地域の力ー食・農・ちいきづくり』岩波新書、2008.小泉武夫『いのちをはぐくむ食と農』岩波ジュニア新書、2008.神門善久『日本の食と農』NTT出版、2006.

成績評価方法と基準 授業において随時提出をを求めるコメントシート30%、定期試験70%。但し、コメントシートの記述内容と試験結果によって配分を変更することがある。

オフィスアワー

学外の講師に連絡をを求める場合は、科目担当代表者の波多野まで申し出ること。
波多野のオフィスアワーは毎週月曜日14:40～16:10、生物資源学部473号室。
上記の時間以外も事前のアポイントを取れば適宜対応する。

授業改善への工夫 現場からの生の声を伝えるためにビデオや写真などを活用する。

その他 学外からの講師の都合により、講義の順序は前後することがある。

- 業・レストラン経営)
- 4回 食べ残しから考える食と環境 小林富雄(ドギーバッグ普及委員会)
- 5回 食品循環資源の再資源化の現場 小林富雄(ドギーバッグ普及委員会)
- 6回 地域資源の利用と有機農業 橋本力男 (堆肥育土研究所主宰・有機農家)
- 7回 地産地消と循環型社会 波多野豪(生物資源学部)
- 8回 食育と食生活 川口淳子(管理栄養士)
- 9回 生活者視点からの地産地消 吉澤俊昭 (農

商工連携コーディネーター)

10回 農業問題と安全安心 野末光(三重県農業大学校)

11回 食を通じた生産者と消費者の関係 波多野豪 (生物資源学部)

12回 ブルーベリー農家のレストラン 岩田康子 (農業・レストラン経営)

13回 地域とつながる農業経営 森田英治(もりた農園経営)

14回 高校生と食農ビジネスの創造 岸川政之

(多気町まちの宝創造特命監)

15回 まとめ 波多野豪 (生物資源学部)

16回 試験 波多野豪 (生物資源学部)

非常勤講師の事情により、開講予定は変更する場合があります。

学習課題(予習・復習) 机上の予習は不要であるが、受講者の生活圏において、地産地消活動を発見すること、実際の産品や人・情報の流れに関して問題意識を持つことが復習の内実を形成するはずである。

生物資源学A (環境と動物の関わり)

Bioresource Science A

学期 後期 開講時間 木 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 能動的要素を加えた授業
担当教員 松井宏樹、山田佳廣、近藤誠、伴智美

授業の概要 生物と環境は相互に作用を及ぼし合っている。本講義では動物と環境の関わりについて概説し、資源の循環、自然環境、環境保全について考える。

学習の目的 環境が動物の進化、体内環境に及ぼす影響や動物が環境に及ぼす影響について理解を深め、環境と動物の関わりについての素養を涵養する。

学習の到達目標 動物や環境について科学的な視点で理解できるようになる。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 幅広い

教養, 情報受発信力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

教科書 特に指定しない

参考書 特になし

成績評価方法と基準 各担当毎に試験・課題提出を実施し、それぞれの評価点の平均点を成績評価とする。

オフィスアワー 月曜日12:00~13:00

授業計画・学習の内容

キーワード 進化、動物、家畜、飼料、生体調節機構、気候変動

Key Word(s) Evolution, Animal, Livestock, Feed, Regulatory Biology, Climate change

学習内容

1. 乳・肉生産に必要な飼料資源
2. 乳・肉生産と窒素負荷
3. 有機性廃棄物の飼料として再利用
4. 野生動物による獣害被害、家畜の生産現場と衛生、草地と家畜生産
5. ウシの食性と消化管
6. ウシの消化管に住む微生物
7. ウシと気候変動の関係

8. 消化管の微生物：研究手法と制御技術

9. 動物の生理と環境1

10. 動物の生理と環境2

11. 動物の生理と環境3

12. 進化(1)：ハーディ-ワインベルグの法則、自然選択、遺伝的浮動について概説する。

13. 進化(2)：変異の維持機構と共進化について概説する。

14. 性の生態学(1)：性の進化的意義と様々な状況下における最適性比について説明する。

15. 性の生態学(2)：性選択の結果起こる諸現象とそれを説明する仮説を概説する。

生物資源学A (土は生きています)

Bioresource Science A

学期 前期集中 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義, 演習, 実習

担当教員 ○奥田 均 (生物資源学部)、平塚 伸 (生物資源学部)、梅崎輝尚 (生物資源学部)、松井宏樹 (生物資源学部)、三島 隆 (生物資源学部)、長菅輝義 (生物資源学部)

授業の概要 土は、自然環境の構成要素としての側面と食糧生産の基盤としての側面を併せ持つ。水田、畑地、果樹園、茶園、畜舎ならびに農産物加工など現場体験を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。また、実習対象や加工材料に地域の特産物を利用することで、地域農業・社会との関わりに気づき、地産地消の精神を学ぶ。

学習の目的 土と食糧生産の関係について地域特産物を素材にし入門的かつ包括的知識を獲得するとともに今後の理解を深めるための技術的経験を積む。

学習の到達目標 講義や体験を通じて、土と食糧生産の関係、地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などに関する認識を高めることで、農や食を正しく理解する。

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、主体的学習力、心身の健康に対する意識、幅広い

教養、専門知識・技術、課題探求力、批判的思考力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

発展科目 生物、自然環境、農業生産に関する科目。

成績評価方法と基準 レポート70% 実習態度30%の評価を総合判断する。

オフィスアワー 2泊する集中セミナーなので、夕方あるいは夜の自由時間に適宜対応する。

授業改善への工夫 毎回セミナー最終回に実施するセミナーの総括の結果などを参考にし、適宜改善を図っている。

その他 本セミナーは、三重大学大学院生物資源学研究科附属紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンター附属施設の共同利用に供するため、他大学に開放するものである。受講人数制限(20名)

授業計画・学習の内容

キーワード 地域特産物 (伊勢茶、松阪牛、南紀ミカン)、農産物加工 (豆腐、うどん、茶)、食の安全・安心

Key Word(s) Special products of Mie prefecture (Ise-cha, Matsusaka Beef, Nanki Mikan), Processed agricultural products(Tofu, Udon noodles, green tea), Food safety and security

学習内容

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 地域特産農産物の概要
- 第3回 ダイズの栽培管理
- 第4回 世界と日本の食料事情 (ナイトセミ

- ナー)
- 第5回 イネの収穫
- 第6回 肉牛の肥育管理
- 第7回 豆腐作り
- 第8回 食の安全・安心と社会 (ナイトセミナー)
- 第9回 茶の加工
- 第10回 温州ミカンの栽培管理
- 第11回 うどん作り
- 第12回 授業の総括

学習課題 (予習・復習) 体験や実物教育に重点をおくので、積極的に5感を使って体感すること。

生物資源学B (食と農からみた世界)

Bioresource Science B

学期 後期 開講時間 月5,6 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 徳田 博美(生物資源学部)

授業の概要 食料の世界でも進展しているグローバル化とその中心にあるアグリビジネスの実態を解説し、極めて低い食料自給率の下にある日本の食料事情について考える。

学習の目的 人間が生きていく上で最も基礎的な物資である食料におけるグローバル化の実態を、明暗両面において理解し、世界的な視野から身近な食生活について考えられるようにする。

学習の到達目標 世界の食料需給動向や農産物貿易の概要やWTOなどによる農産物貿易などに関する国際ルールについて理解し、これからの世界の食料や農業のあり方について、日本の食料事情や世界の飢餓の実態も踏まえて、自らの考えを持てるようにする。

授業計画・学習の内容

キーワード アグリビジネス、グローバル化、飢餓と飽食、食文化、食の安全

Key Word(s) Agribusiness, Globalization, Hunger and Satiation, Food Culter, Food Safety

学習内容

1. ガイダンス～日本の食・農事情と食をとらえる視点～
2. フードビジネスと現代の食
3. 世界の食料事情と多国籍アグリビジネス
4. 食料貿易とWTO体制
5. 市場と政治の間で揺らぐ世界の穀物需給
6. 産物の生産・流通と食肉ビジネス
7. 果実・果汁と野菜のグローバル化
8. 食の簡便化と冷凍食品生産拠点のアジア展開
9. 発展途上国の貧困と熱帯産品貿易～コーヒーと紅茶～

本学教育目標との関連 感性、倫理観、主体的学習力、幅広い教養、論理的思考力、批判的思考力、社会人としての態度、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

参考書 大塚茂・松原豊彦編「現代の食とアグリビジネス」有斐閣選書

成績評価方法と基準 講義中のレポート30%、期末試験70%

オフィスアワー 毎週月曜日・火曜日12:00～13:00

授業改善への工夫 できるだけ身近な話題や注目されている話題を取り上げることで、学生が自分自身の問題として考えられるようにする。

10. 水産物市場のグローバル化と資源保護
11. 食料とエネルギーとの相克
12. 食の安全と表示をどうするか
13. 農業技術の高度化と食料・農業問題
14. グローバリゼーションとの対抗軸—国内編—
15. グローバリゼーションとの対抗軸—国際編—

学習課題（予習・復習）

予習・・次回扱うテーマについて、最近どのような問題が起きているのかマスコミ、インターネットなどで調べてみる。
復習・・授業で配布したプリントなどで復習するとともに、興味があるテーマについては授業で紹介した関連文献などで独習する。
授業で扱った話題などに関して各自調べたものを、3回程度レポートとして提出を求める。

生物資源学 B (森林と人間との関わり)

Bioresource Science B

学期 前期 開講時間 木 5, 6 単位 2 年次 学部(学生課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 授業の特徴 Moodle

担当教員 ○石川 知明(生物資源学部), 板谷 明美(生物資源学部)

授業の概要 森林は自然環境の保全や水資源のかん養、レクリエーションなど様々な役割を果たすとともに、木材・紙・エネルギーなどの「循環可能な資源」を生産する場でもある。これらの森林の役割について紹介しながら、森林と人間の付き合い方を考える。

学習の目的

- ・森林の持つ多面的機能が理解できる
- ・森林の持続的な利用方法が理解できる
- ・森林情報の活用と把握の方法が理解できる

学習の到達目標

- ・森林の持つ多面的機能が説明できる
- ・森林の持続的な利用方法が説明できる
- ・森林情報の活用と把握の方法が説明できる

本学教育目標との関連 倫理観, モチベーション, 主体的学習力, 幅広い教養, 課題探求力, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 特になし

予め履修が望ましい科目 特になし

授業計画・学習の内容

キーワード 森林 森林資源 持続的経営 環境 緑資源 森林情報 リモートセンシング 地理情報システム(GIS)

Key Word(s)

Forest , Forest Resources , Sustainable Forest Management , Environment , Green Resources , Forest Information , Remote Sensing
Geographic Information System

学習内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 森林の現状
- 第3回 森林の効用
- 第4回 林業・木材業の現状
- 第5回 森林を育てる

発展科目 特になし

教科書 授業の中で紹介する

参考書 授業の中で紹介する

成績評価方法と基準 基本的にレポート(50%)、定期試験(50%)とし、授業態度を考慮して総合的に判断する。

オフィスアワー

石川知明:木曜日13:00~14:30

板谷明美:木曜日13:00~14:30

授業改善への工夫 レポートの内容を確認し、理解が不十分と思われる箇所は次回の授業で再度解説する

その他

- ・Moodleなどを使用して自主的に予習、復習することを前提にした講義です。森林に興味を持ち、自主的に学習できる人の受講を強く望みます。
- ・初回の講義には必ず出席してください。受講希望者数によって、受講者数を調整することがあります。

第6回 からだにやさしい森の働き

第7回 木を使う

第8回 森林伐採と地球環境

第9回 森林伐採と水環境

第10回 森林が作りだす景観

第11回 中間まとめ

第12回 森林は動く

第13回 リモートセンシングと森林

第14回 地理情報システム (GIS) と森林

第15回 定期試験

第16回 振り返り

学習課題 (予習・復習)

毎回、Moodleなどに掲載した資料を予習していただくことが受講の条件である。また、毎回の講義内容を復習すること。予習、復習をしない者には、「0」の評価をつける。

小レポートの提出において、代筆などの不正行為があった場合、行為者、被行為者ともに、評価を「0」とし、不正行為として処理する。

初回の講義を欠席した者には、以降の受講を認めない。受講希望者数によって、受講者数を調整することがある。なお、調整方法は教員が決める。

防災論 (自然災害と防災・減災)

Disaster Prevention

学期 後期 開講時間 月9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 市民開放授業

担当教員 ○川口 淳(工学研究科), 畑中 重光(工学研究科), 花里 利一(工学研究科), 田端千夏子(工学研究科), 浅野聡(工学研究科), 浦山益郎(工学研究科), 林克巳(三重大学防災室), 三重県防災担当職員(非常勤講師)

授業の概要 最近, 事故や自然現象による災害が数多く報道されており, 一般市民の防災に対する意識は高まりつつある。三重県を含む東海地方では, 東海・東南海・南海地震の近い将来での発生が危惧されている。また, 近年, 三重県内では数多くの風水害・土砂災害も発生している。災害発生後は自助・公助・共助が必要であり, 特に, 学生を含めたボランティアは災害復興の大きな力となる。本講義では, 防災意識の向上を目標に, 建築・地域及び防災の専門の立場から, 災害・防災に関する講義を行う。

学習の目的 我が国における自然災害についての基礎基地式を身につけ, それに対する行政から, 市民までの様々な主体による, 防災・減災の対策を理解する。またあわせて, 受講者自身が災害対策(特に予防対策から緊急対応)をしっかりと実践できるようになること。

学習の到達目標 建物・都市の地震防災に関する知識を得るとともに, 防災意識の向上を目標とする

授業計画・学習の内容

キーワード 地震・津波災害, 地域防災, 建築防災, 三重県の地震・津波

Key Word(s) Earthquake and Tsunami disaster, Regional disaster prevention and Disaster in Mie pref.

学習内容

1. 地震・津波災害と過去の被害(ガイダンス)
2. 地震・津波対策
3. 地域における防災対策
4. 津波
5. 建物振動と耐震設計
6. 三重県の防災行政1

本学教育目標との関連 共感, 倫理観, 主体的学習力, 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術, 社会人としての態度, 感じる力, 考える力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件 なし

予め履修が望ましい科目 なし

発展科目 なし

教科書 各授業の担当教員がその都度案内する。

成績評価方法と基準 欠席4回以下を前提として, 途中レポート(80%)および出席(20%)により評価する。

オフィスアワー 毎週火曜日12:00~13:00, 工学部建築学科川口室。その他, 各授業の担当教員がその都度案内する。

授業改善への工夫 最終回に学生の授業評価アンケートを行い, その結果を参考にして, 改善方法を検討する。

その他 市民開放10人まで

7. 三重県の防災行政2
8. 災害と自衛隊の災害派遣活動および行政の災害対策本部の活動
9. 木造住宅の地震被害と耐震補強の必要性
10. 防災都市計画
11. 防災コミュニティづくり
12. 都市型水害の発生構造
13. 都市型水害への対策
14. 地震と液状化
15. 建築物の地震対策に関する最近の話題

学習課題(予習・復習) 予習・復習にあたっては, 地震・津波・自主防災・ライフラインなどについての書籍・資料・HPを参照すること。

防災論 (森林と洪水・山崩れ)

Disaster Prevention

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 選/必 選択 授業の方法 講義 担当教員 山田孝(生物資源学部)

授業の概要 森林の公益的機能と森林が流域の洪水、土地環境(森林土壌の侵食、流亡、土砂災害等)に果たす役割と限界について理解を深め、これからの森林保全・管理、減災のありかたについて考察する。

学習の目的 森林の公益的機能と森林が洪水、土地環境(森林土壌の侵食、流亡、土砂災害等)に果たす役割と限界について、実態、理論、基本的な防災の考え方を理解できるようにする。

学習の到達目標 森林の公益的機能と森林が洪水、土地環境(森林土壌の侵食、流亡、土砂災害等)に果たす役割と限界について、実態、

理論、基本的な防災の考え方を理解できるようにする。

本学教育目標との関連 モチベーション、論理的思考力、情報受発信力、感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

教科書 配布資料によって説明する。

参考書 参考書は適宜、授業時に示す。

成績評価方法と基準 毎回のレポートにより評価する(60点以上が合格)。

オフィスアワー 毎週金曜日12:00～13:00 生物資源学部504号室

授業計画・学習の内容

キーワード 森林、洪水、山崩れ、土砂災害

Key Word(s) forest, flood, slope failure, sediment-related disaster

学習内容

森林資源の特徴と現象、森林の公益的機能、森林保全・管理の歴史、森林の洪水に及ぼす影響、森林の土壌侵食、山崩れに及ぼす影響、今後の森林保全・管理、減災のありかた
授業計画

第1回 講義の目的とエッセンス

第2回 森林資源の特徴と現象

第3回 森林の公益的機能、森林保全・管理の歴

史

第4回 森林の洪水に及ぼす影響

第5回 //

第6回 //

第7回 //

第8回 //

第10回 森林の土壌侵食、山崩れに及ぼす影響

第11回 //

第12回 //

第13回 //

第14回 //

第15回 今後の森林保全・管理、減災のありかた

現代科学理解特殊講義 (カモノハシと博物学史)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

次 授業の方法 講義

担当教員 浅原 正和

授業の概要 オーストラリアにカモノハシという卵を産む不思議な哺乳類がいます。その不思議な動物の進化の歴史と、人類による発見と研究の歴史を軸に、哺乳類の進化と多様性、博物学(自然史学)の歴史と手法、そして科学と社会との関係を学んでいきたいと思います。

学習の目的 特定の動物を挙げていますが、特定の動物を学ぶという講義ではありません。生物進化のメカニズムと生物多様性の形成・維持機構について理解するとともに、それらの知識をもたらしてきた科学の歴史について理解することを目標とします。そして、それら科学研究と社会とが互いに影響し合っていることを理解し、説明できるようになることを目標とします。

学習の到達目標

- ・博物学が発展した社会的要因を説明できる
- ・生き物の名前の付け方とそのルールを説明できる
- ・生物進化の仕組みを説明できる

授業計画・学習の内容

キーワード 博物学、自然史、科学史、哺乳類の進化、研究方法

Key Word(s) Natural History, History of science, Mammalian evolution, research method

学習内容

- 第1回 『なぜカモノハシか?』 極限を知ると普遍がわかる・比較という研究方法
- 第2回 『カモノハシ発見の歴史1』 博物学の発展とその社会的背景・分類学の考え方
- 第3回 『カモノハシ発見の歴史2』 植民地主義と博物学・19世紀のカモノハシ研究
- 第4回 『哺乳類の進化1』 進化とは・四足動物～単弓類の進化・恐竜の時代と哺乳類の黎明
- 第5回 『哺乳類の進化2』 過去の動物の生態を知るには?・大陸移動と哺乳類の進化

- ・生物進化にかかった時間をイメージできる
- ・科学研究や学術分野の発展にかかった時間をイメージできる
- ・他の生き物や科学の歴史から教訓を学び取り、説明できる

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、博物学や生物学の考え方を理解することを重視してください。

第6回 『哺乳類の多様性と収斂進化』 哺乳類の多様化と異なる系統から似た形が進化する理由

第7回 『カモノハシの一年』 カモノハシの一年を辿りながら動物の周期性について考えてみます

第8回 『カモノハシの生態』 カモノハシの持つ不思議な感覚器や毒腺について考えてみます

第9回 『カモノハシのからだ』 脊椎動物における運動(ロコモーション)とその進化

第10回 『地理的変異と自然保護』 地域個体群を守る意義・カモノハシ保護活動の事例

第11回 『戦争と動物学者』 戦火の中、激動の時代に生きた科学者たち

第12回 『現代社会と動物学』 現代社会の中で

の社会と科学との関わりあいを考えます

第13回 『カモノハシはどうして歯を失った？』 持っているものを失う進化について考えます

第14回 『進化と絶滅』 どうしてある生き物は

生き延び、ある生き物は滅びたのでしょうか

第15回 『カモノハシが私たちに教えてくれること』 全体のまとめと考察

(試験)

現代科学理解特殊講義 (カモノハシと博物学史)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義

担当教員 浅原 正和

授業の概要 オーストラリアにカモノハシという卵を産む不思議な哺乳類がいます。その不思議な動物の進化の歴史と、人類による発見と研究の歴史を軸に、哺乳類の進化と多様性、博物学(自然史学)の歴史と手法、そして科学と社会との関係を学んでいきたいと思います。

学習の目的 特定の動物を挙げていますが、特定の動物を学ぶという講義ではありません。生物進化のメカニズムと生物多様性の形成・維持機構について理解するとともに、それらの知識をもたらしてきた科学の歴史について理解することを目標とします。そして、それら科学研究と社会とが互いに影響し合っていることを理解し、説明できるようになることを目標とします。

学習の到達目標

- ・博物学が発展した社会的要因を説明できる
- ・生き物の名前の付け方とそのルールを説明できる
- ・生物進化の仕組みを説明できる

授業計画・学習の内容

キーワード 博物学、自然史、科学史、哺乳類の進化、研究方法

Key Word(s) Natural History, History of science, Mammalian evolution, research method

学習内容

- 第1回 『なぜカモノハシか?』 極限を知ると普遍がわかる・比較という研究方法
- 第2回 『カモノハシ発見の歴史1』 博物学の発展とその社会的背景・分類学の考え方
- 第3回 『カモノハシ発見の歴史2』 植民地主義と博物学・19世紀のカモノハシ研究
- 第4回 『哺乳類の進化1』 進化とは・四足動物～単弓類の進化・恐竜の時代と哺乳類の黎明
- 第5回 『哺乳類の進化2』 過去の動物の生態を知るには?・大陸移動と哺乳類の進化

- ・生物進化にかかった時間をイメージできる
- ・科学研究や学術分野の発展にかかった時間をイメージできる
- ・他の生き物や科学の歴史から教訓を学び取り、説明できる

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、博物学や生物学の考え方を理解することを重視してください。

第6回 『哺乳類の多様性と収斂進化』 哺乳類の多様化と異なる系統から似た形が進化する理由

第7回 『カモノハシの一年』 カモノハシの一年を辿りながら動物の周期性について考えてみます

第8回 『カモノハシの生態』 カモノハシの持つ不思議な感覚器や毒腺について考えてみます

第9回 『カモノハシのからだ』 脊椎動物における運動(ロコモーション)とその進化

第10回 『地理的変異と自然保護』 地域個体群を守る意義・カモノハシ保護活動の事例

第11回 『戦争と動物学者』 戦火の中、激動の時代に生きた科学者たち

第12回 『現代社会と動物学』 現代社会の中で

の社会と科学との関わりあいを考えます

第13回 『カモノハシはどうして歯を失った？』 持っているものを失う進化について考えます

第14回 『進化と絶滅』 どうしてある生き物は

生き延び、ある生き物は滅びたのでしょうか

第15回 『カモノハシが私たちに教えてくれること』 全体のまとめと考察

(試験)

現代科学理解特殊講義 (カモノハシと博物学史)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 金 3, 4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

次 授業の方法 講義

担当教員 浅原 正和

授業の概要 オーストラリアにカモノハシという卵を産む不思議な哺乳類がいます。その不思議な動物の進化の歴史と、人類による発見と研究の歴史を軸に、哺乳類の進化と多様性、博物学(自然史学)の歴史と手法、そして科学と社会との関係を学んでいきたいと思います。

学習の目的 特定の動物を挙げていますが、特定の動物を学ぶという講義ではありません。生物進化のメカニズムと生物多様性の形成・維持機構について理解するとともに、それらの知識をもたらしてきた科学の歴史について理解することを目標とします。そして、それら科学研究と社会とが互いに影響し合っていることを理解し、説明できるようになることを目標とします。

学習の到達目標

- ・博物学が発展した社会的要因を説明できる
- ・生き物の名前の付け方とそのルールを説明できる
- ・生物進化の仕組みを説明できる

授業計画・学習の内容

キーワード 博物学、自然史、科学史、哺乳類の進化、研究方法

Key Word(s) Natural History, History of science, Mammalian evolution, research method

学習内容

- 第1回 『なぜカモノハシか?』 極限を知ると普遍がわかる・比較という研究方法
- 第2回 『カモノハシ発見の歴史1』 博物学の発展とその社会的背景・分類学の考え方
- 第3回 『カモノハシ発見の歴史2』 植民地主義と博物学・19世紀のカモノハシ研究
- 第4回 『哺乳類の進化1』 進化とは・四足動物～単弓類の進化・恐竜の時代と哺乳類の黎明
- 第5回 『哺乳類の進化2』 過去の動物の生態を知るには?・大陸移動と哺乳類の進化

- ・生物進化にかかった時間をイメージできる
- ・科学研究や学術分野の発展にかかった時間をイメージできる
- ・他の生き物や科学の歴史から教訓を学び取り、説明できる

本学教育目標との関連 感性、共感、倫理観、幅広い教養、論理的思考力

教科書 教科書は指定しません。必要な図表は適宜プリントを配布します。

成績評価方法と基準 レポート15%、期末試験85%、計100%。(合計60%以上で合格)

授業改善への工夫 適宜講義時間中にミニレポートを課すことで授業の理解度をチェックするとともに、次回に理解度の低い部分の埋め合わせを行う予定です。

その他 とくに前提となる知識は求めませんが、講義の間集中し、理解することを心がけてください。知識を覚えるよりも、歴史の流れや、博物学や生物学の考え方を理解することを重視してください。

第6回 『哺乳類の多様性と収斂進化』 哺乳類の多様化と異なる系統から似た形が進化する理由

第7回 『カモノハシの一年』 カモノハシの一年を辿りながら動物の周期性について考えてみます

第8回 『カモノハシの生態』 カモノハシの持つ不思議な感覚器や毒腺について考えてみます

第9回 『カモノハシのからだ』 脊椎動物における運動(ロコモーション)とその進化

第10回 『地理的変異と自然保護』 地域個体群を守る意義・カモノハシ保護活動の事例

第11回 『戦争と動物学者』 戦火の中、激動の時代に生きた科学者たち

第12回 『現代社会と動物学』 現代社会の中で

の社会と科学との関わりあいを考えます

第13回 『カモノハシはどうして歯を失った？』 持っているものを失う進化について考えます

第14回 『進化と絶滅』 どうしてある生き物は

生き延び、ある生き物は滅びたのでしょうか

第15回 『カモノハシが私たちに教えてくれること』 全体のまとめと考察

(試験)

現代科学理解特殊講義 (科学技術と社会)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 木 7, 8 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 和田 正法

授業の概要 現代の科学・技術は、科学者や技術者だけの問題ではなく、一般の社会と密接に関係している。科学・技術の成果は、われわれの暮らしに恩恵を与える一方で、ときに問題を生み出すことがある。しかし、現代の科学・技術は急激な進展をみせており、専門家ですえ個人が把握できるのは、科学・技術全体のほんの一部分にすぎない。こうした科学・技術をわれわれはどのように捉え、問題に対処していけばよいのか。各回の授業では、現代の科学・技術が社会と関わりをもつ際に生じる問題を取りあげ、それらを分析する視点を提供する。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・科学技術が社会の中で生じる問題があることを理解する(C評定)。
- ・多面的な視点から科学技術の進展を理解し、論じることができる(B評定)。
- ・科学技術と社会の問題に関して、自らの考えを表明し、論理的に説明することができる(A評定)。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える

力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、レポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

授業中に、受講者に現代科学技術の内容に関してマイクで意見を求めることがあります。初めのうちは発言することに戸惑うことがあるかもしれませんが、自らの意見を表明することに慣れてください。

また、科学技術が発展する場としての大学の役割とは何か、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 科学技術、科学論、科学技術社会論、社会の中の科学技術

Key Word(s) Science and Technology, Science Studies, STS (Science and Technology Studies), Science and Technology in Society

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術とは何かについて考える。

第2回 研究者と社会

論文捏造など研究者の不正事件を例に、研究現場の最先端と社会の関わりを考える。

第3回 「科学」、「技術」、「科学技術」

産業革命やイノベーションを例に、「科学」、「技術」、「科学技術」について考える。

第4回 公害問題

水俣病を中心に、公害と科学技術の関係について考える。

第5回 地球環境問題

地球温暖化について、エネルギー、持続可能性、不確実性を考える。

第6回 戦争と科学技術

科学技術が兵器開発とどう関わってきたかを考える。

第7回 事故と科学技術

スペースシャトル・チャレンジャー号の事故を中心に、科学技術の失敗例を考える。

第8回 科学技術と安全

化学物質などを例に、科学技術の安全面を考える。

第9回 科学技術とリスク

遺伝子組み換え作物、不妊治療、出生前診断などの最新科学技術に潜むリスクを考える。

第10回 科学技術と国家

日本や各国の科学技術政策を中心に、国家と科学技術の関係を考える。

第11回 科学・技術と知的財産権

青色LED特許訴訟やWinny事件を中心に、科学技術の進歩とその商業化や普及の過程を考える。

第12回 巨大科学技術システムと社会

原子力発電を例に、巨大システムと社会の関連を考える。

第13回 先端の科学技術と社会

再生医療などを例に、最先端の科学技術が社会に及ぼす影響を考える。

第14回 専門家と市民の関係

専門家と非専門家の関係をとりあげ、科学技術は誰のためにあるのかを考える。

第15回 まとめ

これまで取りあげた事例を振り返り、科学技術と社会の関連を問い直す。

現代科学理解特殊講義 (科学技術と社会)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 前期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 和田 正法

授業の概要 現代の科学・技術は、科学者や技術者だけの問題ではなく、一般の社会と密接に関係している。科学・技術の成果は、われわれの暮らしに恩恵を与える一方で、ときに問題を生み出すことがある。しかし、現代の科学・技術は急激な進展をみせており、専門家でさえ個人が把握できるのは、科学・技術全体のほんの一部分にすぎない。こうした科学・技術をわれわれはどのように捉え、問題に対処していけばよいのか。各回の授業では、現代の科学・技術が社会と関わりをもつ際に生じる問題を取りあげ、それらを分析する視点を提供する。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・科学技術が社会の中で生じる問題があることを理解する(C評定)。
- ・多面的な視点から科学技術の進展を理解し、論じることができる(B評定)。
- ・科学技術と社会の問題に関して、自らの考えを表明し、論理的に説明することができる(A評定)。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える

力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、レポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

授業中に、受講者に現代科学技術の内容に関してマイクで意見を求めることがあります。初めのうちは発言することに戸惑うことがあるかもしれませんが、自らの意見を表明することに慣れてください。

また、科学技術が発展する場としての大学の役割とは何か、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 科学技術、科学論、科学技術社会論、社会の中の科学技術

Key Word(s) Science and Technology, Science Studies, STS (Science and Technology Studies), Science and Technology in Society

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術とは何かについて考える。

第2回 研究者と社会

論文捏造など研究者の不正事件を例に、研究現場の最先端と社会の関わりを考える。

第3回 「科学」、「技術」、「科学技術」

産業革命やイノベーションを例に、「科学」、「技術」、「科学技術」について考える。

第4回 公害問題

水俣病を中心に、公害と科学技術の関係について考える。

第5回 地球環境問題

地球温暖化について、エネルギー、持続可能性、不確実性を考える。

第6回 戦争と科学技術

科学技術が兵器開発とどう関わってきたかを考える。

第7回 事故と科学技術

スペースシャトル・チャレンジャー号の事故を中心に、科学技術の失敗例を考える。

第8回 科学技術と安全

化学物質などを例に、科学技術の安全面を考える。

第9回 科学技術とリスク

遺伝子組み換え作物、不妊治療、出生前診断などの最新科学技術に潜むリスクを考える。

第10回 科学技術と国家

日本や各国の科学技術政策を中心に、国家と科学技術の関係を考える。

第11回 科学・技術と知的財産権

青色LED特許訴訟やWinny事件を中心に、科学技術の進歩とその商業化や普及の過程を考える。

第12回 巨大科学技術システムと社会

原子力発電を例に、巨大システムと社会の関連を考える。

第13回 先端の科学技術と社会

再生医療などを例に、最先端の科学技術が社会に及ぼす影響を考える。

第14回 専門家と市民の関係

専門家と非専門家の関係をとりあげ、科学技術は誰のためにあるのかを考える。

第15回 まとめ

これまで取りあげた事例を振り返り、科学技術と社会の関連を問い直す。

現代科学理解特殊講義 (科学技術と社会)

Lecture Course in Understanding Modern Sciences

学期 後期 開講時間 金 9, 10 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次

授業の方法 講義 授業の特徴 グループ学習の要素を加えた授業

担当教員 和田 正法

授業の概要 現代の科学・技術は、科学者や技術者だけの問題ではなく、一般の社会と密接に関係している。科学・技術の成果は、われわれの暮らしに恩恵を与える一方で、ときに問題を生み出すことがある。しかし、現代の科学・技術は急激な進展をみせており、専門家ですえ個人が把握できるのは、科学・技術全体のほんの一部分にすぎない。こうした科学・技術をわれわれはどのように捉え、問題に対処していけばよいのか。各回の授業では、現代の科学・技術が社会と関わりをもつ際に生じる問題を取りあげ、それらを分析する視点を提供する。

学習の目的

一般に「文系」と「理系」と呼ばれる諸分野を融合することを大きな目標とする。毎回の受講と、複数回のレポート執筆を通して、リベラル(教養)教育で最も重要な批判的能力(統合・分析・表現)を発展させる。上記「授業の概要」に示したような授業で提供する事例を単に知識として得るということにとどまらず、多面的な視点からものごとを見つめる洞察力を養うとともに、自らの意見を表明する素養を身に付ける。こうした作業を通し、科学・技術を単に批判的に捉えるだけではなく、それらを社会に生かす方法を考える。

学習の到達目標

- ・科学技術が社会の中で生じる問題があることを理解する(C評定)。
- ・多面的な視点から科学技術の進展を理解し、論じることができる(B評定)。
- ・科学技術と社会の問題に関して、自らの考えを表明し、論理的に説明することができる(A評定)。

本学教育目標との関連 倫理観, 主体的学習力, 幅広い教養, 論理的思考力, 批判的思考力, 情報受発信力, 討論・対話力, 感じる力, 考える

力, コミュニケーション力を総合した力

受講要件

誰でも受講することができます。学部、学年を問いません。

予め履修が望ましい科目 予め履修しておく必要がある科目はありません。

教科書 指定なし。

参考書

井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000年。

この他、必要に応じて授業内で示す。

成績評価方法と基準 小レポート(複数回)、最終レポートによって行う。基準は、授業内に明示する。

オフィスアワー 初回の授業で伝えます。

授業改善への工夫

本授業は、レポートのみの採点になりますが、文章の得意・不得意はほとんど関係ありません。本授業を真面目に受講すれば、誰でも必ずレポートの書き方を習得できるようになります。レポートの詳細な評価基準は、授業中に伝えます。

授業中に、受講者に現代科学技術の内容に関してマイクで意見を求めることがあります。初めのうちは発言することに戸惑うことがあるかもしれませんが、自らの意見を表明することに慣れてください。

また、科学技術が発展する場としての大学の役割とは何か、そして大学で学ぶことはどのような意義があるのかといった問いについても触れることで、自らのいる場所を相対的に捉えられるようになることを目指します。

本授業で得た視点や、ここで受けた訓練は、他の授業や、卒業後の社会生活においても必ず役に立つでしょう。

授業計画・学習の内容

キーワード 科学技術、科学論、科学技術社会論、社会の中の科学技術

Key Word(s) Science and Technology, Science Studies, STS (Science and Technology Studies), Science and Technology in Society

学習内容

第1回 ガイダンス

授業の方針、成績評価方法を伝える。科学技術とは何かについて考える。

第2回 研究者と社会

論文捏造など研究者の不正事件を例に、研究現場の最先端と社会の関わりを考える。

第3回 「科学」、「技術」、「科学技術」

産業革命やイノベーションを例に、「科学」、「技術」、「科学技術」について考える。

第4回 公害問題

水俣病を中心に、公害と科学技術の関係について考える。

第5回 地球環境問題

地球温暖化について、エネルギー、持続可能性、不確実性を考える。

第6回 戦争と科学技術

科学技術が兵器開発とどう関わってきたかを考える。

第7回 事故と科学技術

スペースシャトル・チャレンジャー号の事故を中心に、科学技術の失敗例を考える。

第8回 科学技術と安全

化学物質などを例に、科学技術の安全面を考える。

第9回 科学技術とリスク

遺伝子組み換え作物、不妊治療、出生前診断などの最新科学技術に潜むリスクを考える。

第10回 科学技術と国家

日本や各国の科学技術政策を中心に、国家と科学技術の関係を考える。

第11回 科学・技術と知的財産権

青色LED特許訴訟やWinny事件を中心に、科学技術の進歩とその商業化や普及の過程を考える。

第12回 巨大科学技術システムと社会

原子力発電を例に、巨大システムと社会の関連を考える。

第13回 先端の科学技術と社会

再生医療などを例に、最先端の科学技術が社会に及ぼす影響を考える。

第14回 専門家と市民の関係

専門家と非専門家の関係をとりあげ、科学技術は誰のためにあるのかを考える。

第15回 まとめ

これまで取りあげた事例を振り返り、科学技術と社会の関連を問い直す。

医学医療B (臨床医学の最近の話題)

Medicine, Nursing

学期 前期 **開講時間** 火 9, 10 **単位** 2 **対象** 受講者が200名を超えた場合は学年を指定する等の方法で受講数を制限することもあります。 **年次** 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 **授業の方法** 講義

担当教員 ○白石 泰三 (医学部), 佐久間 肇(医学部), 長谷川 正裕 (医学部), 土肥 薫(医学部), 水谷 仁(医学部), 岡田 元宏(医学部), 新井 直也(医学部), 豊田 秀実(医学部), 北村 大(医学部), 冨本 秀和 (医学部), 今井 寛 (医学部), 近藤 峰生(医学部), 石井 建一郎(医学部)

授業の概要 最新の臨床医学の進歩を各分野ごとに分かりやすく解説する。

予め履修が望ましい科目 基礎生物学、基礎医学(特に解剖学、生理学、病理学など)

学習の目的 自分自身の健康に対する関心が高まる。また、最新の医学が他領域の技術進歩と密接に関係していることが実感できる。

発展科目 臨床医学各論

学習の到達目標 臨床医学の最前線を学び、現代医学の動向や将来展望を理解する。

成績評価方法と基準 授業への取り組み (30%)、レポート (70%)

本学教育目標との関連 心身の健康に対する意識, 幅広い教養, 専門知識・技術

授業改善への工夫 画像や動画をできるだけ取り入れ、他学部の学生にも分かりやすく解説するように工夫した。

授業計画・学習の内容

キーワード 臨床医学、診断、治療、予防医学

第14回 薬の個別化医療 (7/21)

第15回 留学のすすめ (7/28)

第16回 予備日 (8/4)

学習内容

第1回 画像診断の話 (4/14)

第2回 人工関節の話 (4/21)

第3回 薬理学概論 (4/28)

第4回 心臓の話 (5/12)

第5回 アトピー性皮膚炎の話 (5/19)

第6回 薬の効く仕組み (5/26)

第7回 脳とこころの科学 (6/2)

第8回 口の五大機能の話 (6/9)

第9回 こどもの病気 (6/16)

第10回 癌に対する薬物治療 (6/23)

第11回 患者中心の医療の話 (6/30)

第12回 救急医療の話 (7/7)

第13回 脳の話 (7/14)

学習課題 (予習・復習)

医学概論

神経内科学

循環器病学

心臓外科学

口腔外科学

アトピー性皮膚炎、アレルギー、鼻炎、免疫反応

子どもの病気、小児がん、感染症

ストレスと病気

最新のCT、MRI、PET

最近の薬物治療

情報科学C (続・数値計算統計処理)

Mathematical Science C

学期 後期 開講時間 火3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 5年次, 6年次 授業の方法 講義

担当教員 井岡 幹博 (非常勤講師)

授業の概要 Cプログラミングを通して、計算機におけるデータの内部表現、数値計算の初歩を実習する。

を作成できるようになる。

教科書 独習C (翔泳社)

学習の到達目標 簡単な数値計算プログラム

成績評価方法と基準 出席50%, 試験50%

授業計画・学習の内容

キーワード Cプログラミング, 数値計算, 統計処理

11~12. 数値積分

13~14. 最大値, 最小値, 平均, 分散, 共分散, 相関係数

学習内容

1~2. 非線型方程式の解

3~4. 2分方, ニュートン法

5~6. 補間

7~8. 連立1次方程式

9~10. 逆行列, 行列式

15. 正規分布

16. 試験

学習課題 (予習・復習) そのつど, 課題プリントを与える。

情報科学A (プログラミング入門)

Computer Science A

学期 前期 開講時間 水3,4 単位 2 年次 学部(学士課程): 1年次, 2年次, 3年次, 4年次 選/必 選択

授業の方法 講義, 演習 授業の特徴 PBL, 能動的要素を加えた授業

担当教員 露峰 茂明 (教育学部)

授業の概要 数式処理ソフトMathematicaを用いて、数学の問題解法を試みる。

学習の目的 コンピュータを用いて数学の問題を解く。数式処理ソフトMathematicaの基本的な使い方を学んだ後、様々な具体的な問題を解いていく。

学習の到達目標 数学の問題を解くときに、コンピュータをどう役立てるかを学ぶ。高校以下の初等的な問題も扱うが、基礎微分積分学、基礎線形代数学の問題を解くのに役立つので、それらを受講していることが望まし

い。

本学教育目標との関連 主体的学習力, 専門知識・技術

教科書 特になし

成績評価方法と基準 定期試験の成績により評価する。

オフィスアワー 毎週水曜日12:00~13:00、場所：教育学部4階代数学第二研究室

その他 受講制限25名。

授業計画・学習の内容

キーワード コンピュータ、Mathematica、プログラミング

学習内容

1. Mathematicaの基本的な操作法 (第1回)
2. 高性能電卓としての使い方 (第2-3回)
3. 連立一次方程式、高次方程式 (第4-5回)
4. 記号計算 (第6-7回)

5. 微分、級数展開 (第8-9回)
6. 積分、定積分 (第10-11回)
7. 関数のグラフ (第12回)
8. 簡単なプログラミング (第13回)
9. プログラミングを用いての問題解法 (第14-15回)
10. 定期試験 (第16回)

Index

アントレプレナー論	453	異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語） a	70
		異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語） a	71
医学医療B	762	異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語） b	72
医学医療E	647	異文化理解Ⅰ基礎（ロシア語） a	64
医学医療E	646	異文化理解Ⅰ基礎（ロシア語） b	66
医学医療A	759	異文化理解Ⅱ演習（中国語）	118, 119
医学医療A	753, 754, 756, 757	異文化理解Ⅱ演習（中国語）	120, 121
医学医療C	532	異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）	104
医学医療D	533	異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語A）	105
医学医療B	761, 763, 792	異文化理解Ⅱ演習（ドイツ語B）	106, 107
異文化理解Ⅰ演習（スペイン語） a	90	異文化理解Ⅱ演習（フランス語）	112, 113
異文化理解Ⅰ演習（スペイン語） b	91	異文化理解Ⅱ総合（中国語）	116, 117
異文化理解Ⅰ演習（中国語） a	82	異文化理解Ⅱ総合（中国語）	114, 115
異文化理解Ⅰ演習（中国語） b	83	異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語A）	100, 101
異文化理解Ⅰ演習（朝鮮語） a	84	異文化理解Ⅱ総合（ドイツ語B）	102, 103
異文化理解Ⅰ演習（朝鮮語） b	85	異文化理解Ⅱ総合（フランス語）	108, 110
異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A） a	130	異文化理解Ⅲ応用（中国語A）	124, 125
異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A） b	131	異文化理解Ⅲ応用（中国語B）	126, 127
異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A） a	74	異文化理解Ⅲ応用（中国語C）	128, 129
異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語A） b	75	異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語A）	122
異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B） a	76	異文化理解Ⅲ応用（ドイツ語B）	123
異文化理解Ⅰ演習（ドイツ語B） b	77		
異文化理解Ⅰ演習（フランス語） a	78	英語Ⅱ発展Aa	23, 24
異文化理解Ⅰ演習（フランス語） b	80	英語Ⅱ発展Ab	26, 27
異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語） a	92, 95	英語Ⅰコミュニケーション	21, 22
異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語） a	94	英語Ⅰ大学基礎	19, 20
異文化理解Ⅰ演習（ポルトガル語） b	96, 98,	英語ⅠTOEIC	17, 18
99		英語Ⅱ発展E	50, 52
異文化理解Ⅰ演習（ロシア語） a	86	英語Ⅱ発展E	51, 53
異文化理解Ⅰ演習（ロシア語） b	88	英語Ⅱ発展B	36
異文化理解Ⅰ基礎（ポルトガル語） b	73	英語Ⅱ発展Aa	25
異文化理解Ⅰ基礎（スペイン語） a	68	英語Ⅱ発展Ab	28, 29
異文化理解Ⅰ基礎（スペイン語） b	69	英語Ⅱ発展C	42, 44
異文化理解Ⅰ基礎（中国語） a	60	英語Ⅱ発展D	46
異文化理解Ⅰ基礎（中国語） b	61	英語Ⅱ発展B	32, 34, 38, 40
異文化理解Ⅰ基礎（朝鮮語） a	62	英語Ⅱ発展D	48
異文化理解Ⅰ基礎（朝鮮語） b	63	英語Ⅱ発展B	30
異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A） a	54, 132	A-Iポジティブ思考法	464-466
異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A） b	55	演劇入門	482
異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語A） b	133		
異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B） a	56	音楽文化論	651, 652
異文化理解Ⅰ基礎（ドイツ語B） b	57		
異文化理解Ⅰ基礎（フランス語） a	58	化学B	737
異文化理解Ⅰ基礎（フランス語） b	59	化学Ⅰ	402, 403

化学A	734, 735	基礎微分積分学Ⅱ	340, 348
化学基礎Ⅱ	398, 400	基礎微分積分学Ⅱ	345, 346
化学基礎Ⅰ	394	基礎微分積分学Ⅰ	329, 337
化学基礎Ⅰ	393, 395	基礎微分積分学Ⅱ	339, 347
化学基礎Ⅰ(再履修)	397	基礎微分積分学Ⅰ	331, 332
化学実験	406-408, 410	基礎微分積分学Ⅱ	342, 343
化学Ⅱ	405	基礎物理学ⅢB	378
化学B	738	基礎物理学Ⅰ	361, 362
学習支援実践	437, 438	基礎物理学Ⅱ	371, 372
学生生活支援実践	436	基礎物理学Ⅰ	364, 369
環境科学	765-767	基礎物理学Ⅰ	365, 366, 368
環境科学	768	基礎物理学A	360
環境学A	648	基礎物理学ⅢA	375, 377
環境学A	649, 700	基礎物理学Ⅱ	373, 374
環境地理学A	764	キャリア形成	449, 451
基礎化学B	391	キャリアプランニング	441, 443, 445, 447
基礎化学A	390	教養ワークショップ	12
基礎化学C	392	教養ワークショップ「特別英語プログラム」	13, 15
基礎数学演習Ⅰ	355		
基礎数学演習Ⅱ	357	経済学B	519
基礎数学演習Ⅰ	356	経済学G	631
基礎数学演習Ⅱ	358	経済学G	699
基礎数理統計学	359	経済学A	514
基礎生物学B	413	経済学A	515, 516, 518
基礎生物学A	412	経済学F	629, 630, 704
基礎生物学C	414	計算機基礎	309
基礎線形代数学	325, 328	計算機基礎Ⅰ及び演習	301
基礎線形代数学Ⅰ	311	計算機基礎Ⅱ及び演習	304
基礎線形代数学Ⅱ	318	言語学	638, 640, 642
基礎線形代数学	327	現代科学理解特殊講義	786, 788, 790
基礎線形代数学Ⅱ	320	現代社会理解実践	687-689, 691, 693, 695
基礎線形代数学Ⅰ	310	現代社会理解実践S	697
基礎線形代数学Ⅰ	313	現代社会理解特殊講義	684, 686
基礎線形代数学Ⅱ	317	現代科学理解特殊講義	782, 784
基礎線形代数学Ⅰ	319	現代科学理解特殊講義	780
基礎線形代数学Ⅰ	314	建築情報処理基礎	306
基礎線形代数学Ⅰ	324		
基礎線形代数学Ⅱ	316	広報実践	439, 440
基礎線形代数学Ⅱ	312	国際理解実践	679, 680, 682, 705
基礎線形代数学Ⅰ	315	国際理解実践S	683
基礎線形代数学Ⅱ	323	国際理解特殊講義	653, 655, 657, 659, 661,
基礎地学A	423	663, 665, 667, 669, 671, 673, 675,	
基礎微分積分学Ⅰ	333	677, 706, 708	
基礎微分積分学Ⅱ	344	こころのサポート	459, 461-463, 595,
基礎微分積分学Ⅰ	334, 336	597-599	
基礎微分積分学Ⅰ	330, 335, 338	自然科学概論	743-745, 747, 749, 751

社会学A	608, 609	スポーツ健康科学a	135,
社会学B	611-613, 615, 617, 619, 702		141, 143, 147, 148, 150-152, 156-
社会連携型実践	456		158, 162, 164, 166, 167, 169, 171,
宗教学A	565		173, 175, 176, 178, 180, 181, 183,
宗教学C	568		186, 188-190, 192, 194, 196
宗教学B	566, 567	スポーツ健康科学a(アダプテッド スポーツ)	
障がい学生支援実践	430		197
情報科学A	722	スポーツ健康科学a	137, 145, 154, 185
情報科学A	718, 720	スポーツ健康科学概論	266, 268, 270
情報科学C	793	スポーツ健康科学b	198, 200, 202,
情報科学B	723		204, 206, 208, 212, 214, 216, 218,
情報科学A	794		220, 222, 224, 226, 228, 230, 232,
情報科学基礎	271-275, 277, 279, 281, 283,		234, 235, 237, 239, 241, 243, 244,
	285, 287, 294, 295, 297		246, 248, 249, 251, 253, 254, 256-
情報科学基礎 F2クラス	298		258, 260, 262, 264
情報科学基礎 (1C)	289	スポーツ健康科学b(アダプテッド スポーツ)	
情報科学基礎 (1D)	291		265
情報科学基礎A	427	政治学A	503
情報科学基礎及び初級プログラミング演習	307	政治学B	509, 510
情報科学基礎B	300, 428	政治学G	626
人文地理学A	521	政治学A	505-508
人文地理学C	523	政治学F	624
文化と空間B	634	政治学B	512, 513
人文地理学B	522	生物資源学B	775
心理学A	585	生物学	739-742
心理学F	716	生物学基礎Ⅱ	418
心理学A	587	生物学基礎Ⅰ	415, 416
心理学A	588-590	生物学基礎Ⅰ (再履修用)	417
心理学S	591, 592	生物学実験	421
心理学S	593	生物資源学A	774
心理学F	714, 715	生物資源学B	776
数学基礎	349-353	生物資源学A	770, 771, 773
数学基礎 (再履修)	354	西洋史B	577, 578
数理科学C	726	西洋史C	579, 581
数理科学A	724	西洋史A	575, 576
数理科学H	730, 731	基礎線形代数Ⅱ	321
数理科学G	729	地域学	644, 710, 712
数理科学D	727, 728	地域と仕事	454
数理科学B	725	地学基礎	424
スタートアップセミナー	1-3, 5, 7, 9	知財学	458
スタートアップセミナー 編入生・再履修生クラス	11	哲学Ⅰ	559
スポーツ健康科学a	139, 160	哲学F	548, 549
スポーツ健康科学b	210	哲学G	550, 552, 554
		哲学I	560
		哲学Ⅰ	558

哲学A	468	法学B	501
哲学H	556, 557	法学A	500
電子計算機プログラミング及び演習	425	法学F	607
		防災論	778, 779
東洋史A	569-571		
東洋史B	572	三重学	529, 530
東洋文化史	573, 574		
		留学生支援実践	429
日本学	525, 527, 538, 540, 542, 543	倫理学H	564
日本考古学A	474	倫理学 F	561, 562
日本考古学B	475	倫理学 G	563
日本語学A	484, 485	倫理学A	469
日本語学B	487, 488	倫理学B	470
日本国憲法	489, 491, 492, 494, 496, 498, 499		
日本史A	471		
日本史B	472		
日本史D	473		
日本文学B	479-481		
日本文学A	544, 545		
日本文学C	546, 547		
日本文化論A	476		
日本文化論B	477		
日本理解特殊講義	534		
日本理解特殊講義S	535		
日本理解特殊講義S	537		
入門生物学	420		
ピアサポート実践	432, 434		
PBL心理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ	600, 603, 605		
PBL数理科学（現代科学）Ⅰ・Ⅱ	732		
PBL政治学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ	627		
PBL日本史（地域・日本）Ⅰ・Ⅱ	478		
PBL比較文化論（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ	584		
PBL地理学（国際・現代）Ⅰ・Ⅱ	635, 636		
PBL地理学（地域・日本）Ⅰ・Ⅱ	524		
比較政治文化	583		
物理学	733		
物理学基礎Ⅰ	379, 381		
物理学基礎Ⅰ（再履修）	383		
物理学基礎Ⅰ	380, 382		
物理学実験	384, 386, 388		
文化人類学A	621, 622		
文化人類学B	623		
文化と空間A	632		
法学C	502		